

2019年度 公開科目 講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覽

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【A0065】 経済法Ⅰ [青柳 由香] 春学期授業/Spring	1
【A0066】 経済法Ⅱ [青柳 由香] 秋学期授業/Fall	1
【A0100】 教育法Ⅰ [村元 宏行] 春学期授業/Spring	2
【A0101】 教育法Ⅱ [村元 宏行] 春学期授業/Spring	2
【A0114】 法哲学Ⅰ [大野 達司] 春学期授業/Spring	3
【A0115】 法哲学Ⅱ [西村 清貴] 秋学期授業/Fall	4
【A0132】 法と遺伝学Ⅰ [上杉 奈々] 春学期授業/Spring	5
【A0133】 法と遺伝学Ⅱ [上杉 奈々] 秋学期授業/Fall	6
【A0235】 政治体制論Ⅰ [細井 保] 春学期授業/Spring	7
【A0236】 政治体制論Ⅱ [細井 保] 秋学期授業/Fall	7
【A0249】 ジェンダー論Ⅰ [衛藤 幹子] 春学期授業/Spring	8
【A0250】 ジェンダー論Ⅱ [衛藤 幹子] 秋学期授業/Fall	9
【A0341】 コミュニティ論Ⅰ [西谷内 博美] 春学期授業/Spring	10
【A0342】 コミュニティ論Ⅱ [西谷内 博美] 春学期授業/Spring	11
【A0354】 外国書講読(独語)Ⅰ [内田 俊一] 春学期授業/Spring	12
【A0355】 外国書講読(独語)Ⅱ [内田 俊一] 秋学期授業/Fall	12
【A0434】 ロシア政治史Ⅰ [油本 真理] 春学期授業/Spring	13
【A0435】 ロシア政治史Ⅱ [油本 真理] 秋学期授業/Fall	13
【A0447】 アメリカ政治外交史 [森 聡] 春学期授業/Spring	14
【A0448】 現代のアメリカと世界 [森 聡] 春学期授業/Spring	15
【A0456】 法律学特講(現代中国の法と社会Ⅰ) [牟 憲魁] 秋学期集中/Intensive(Fall)	16
【A0625】 Global Governance [弓削 昭子] 春学期授業/Spring	16
【A0644】 外交総合講座 [本多 美樹] 秋学期授業/Fall	17
【A0717】 国際協力論Ⅰ [志賀 裕朗] 春学期授業/Spring	18
【A0718】 国際協力論Ⅱ [志賀 裕朗] 秋学期授業/Fall	19
【A0733】 平和・軍事研究Ⅱ [権 鎬淵] 秋学期授業/Fall	20
【A0736】 オセアニアの政治と社会Ⅰ [長島 怜央] 春学期授業/Spring	21
【A0737】 オセアニアの政治と社会Ⅱ [長島 怜央] 秋学期授業/Fall	22
【A0750】 国際機構論Ⅱ [弓削 昭子] 秋学期授業/Fall	23
【A0771】 朝鮮半島の政治と社会Ⅰ [権 鎬淵] 春学期授業/Spring	24
【A0772】 朝鮮半島の政治と社会Ⅱ [権 鎬淵] 秋学期授業/Fall	24
【A0777】 平和・軍事研究Ⅰ [権 鎬淵] 春学期授業/Spring	25
【A0786】 現代政策学特講Ⅰ(千代田区) [杉崎 和久] オータムセッション/Autumn Session	26
【A0787】 現代政策学特講Ⅱ(沖縄) [明田川 融] スプリングセッション/Spring Session	27
【A0797】 法律学特講(現代中国の法と社会Ⅱ) [劉 士国] 秋学期集中/Intensive(Fall)	28
【A0828】 現代政治特講Ⅰ [松尾 隆佑] 春学期授業/Spring	28
【A0829】 現代政治特講Ⅱ [松尾 隆佑] 秋学期授業/Fall	29
【A0836】 外国書講読(独語)Ⅰ [細井 保] 春学期授業/Spring	30
【A0837】 外国書講読(独語)Ⅱ [細井 保] 秋学期授業/Fall	31
【A0838】 外国書講読(仏語)Ⅰ [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	32
【A0839】 外国書講読(仏語)Ⅱ [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	32
【A0846】 日本の政治と社会Ⅰ [平良 好利] 春学期授業/Spring	33
【A0847】 日本の政治と社会Ⅱ [平良 好利] 秋学期授業/Fall	33
【A0900】 協同組合論 [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall	34
【A2224】 哲学特講(7)-1 [君嶋 泰明] 春学期授業/Spring	35
【A2241】 科学哲学1 [木島 泰三] 春学期授業/Spring	36
【A2242】 科学哲学2 [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	37
【A2245】 現代思想2(フランスの思想)1 [大池 惣太郎] 春学期授業/Spring	38
【A2246】 現代思想2(フランスの思想)2 [大池 惣太郎] 秋学期授業/Fall	39
【A2251】 宗教学1(伝統宗教)1 [杉本 隆司] 春学期授業/Spring	40
【A2252】 宗教学1(伝統宗教)2 [杉本 隆司] 秋学期授業/Fall	41
【A2268】 ラテン語1 [金子 佳司] 春学期授業/Spring	42
【A2269】 ラテン語2 [金子 佳司] 秋学期授業/Fall	43

【A2270】	ギリシア語1 [白根 裕里枝] 春学期授業/Spring	44
【A2271】	ギリシア語2 [白根 裕里枝] 秋学期授業/Fall	45
【A2553】	日本文芸批評史A [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	46
【A2555】	日本文芸批評史B [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	47
【A2561】	中国文芸史A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring	48
【A2563】	中国文芸史B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	49
【A2569】	音楽芸能史特殊研究A [野川 美穂子] 春学期授業/Spring	50
【A2571】	音楽芸能史特殊研究B [野川 美穂子] 秋学期授業/Fall	51
【A2657】	日本文芸研究特講(1) 上代A [坂本 勝] 春学期授業/Spring	51
【A2658】	日本文芸研究特講(1) 上代B [坂本 勝] 秋学期授業/Fall	52
【A2661】	日本文芸研究特講(2) 中古A [栗山 元子] 春学期授業/Spring	52
【A2662】	日本文芸研究特講(2) 中古B [加藤 昌嘉] 秋学期授業/Fall	53
【A2665】	日本文芸研究特講(3) 中世A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	54
【A2666】	日本文芸研究特講(3) 中世B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	54
【A2667】	日本文芸研究特講(3) 中世C [小秋元 段] 春学期授業/Spring	55
【A2669】	日本文芸研究特講(4) 近世A [宮本 祐規子] 春学期授業/Spring	55
【A2670】	日本文芸研究特講(4) 近世B [小林 ふみ子] 秋学期授業/Fall	56
【A2677】	日本文芸研究特講(6) 現代A [藤木 直実] 春学期授業/Spring	57
【A2678】	日本文芸研究特講(6) 現代B [藤木 直実] 秋学期授業/Fall	58
【A2681】	日本文芸研究特講(7) 漢文A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring	59
【A2682】	日本文芸研究特講(7) 漢文B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall	60
【A2693】	日本文芸研究特講(11) 音楽芸能史A [スティーヴン・G・ネルソン] 春学期授業/Spring	61
【A2694】	日本文芸研究特講(11) 音楽芸能史B [スティーヴン・G・ネルソン] 秋学期授業/Fall	62
【A2703】	日本文芸研究特講(15) 国際日本学A [スティーヴン・G・ネルソン] 春学期授業/Spring	63
【A2704】	日本文芸研究特講(15) 国際日本学B [スティーヴン・G・ネルソン] 秋学期授業/Fall	64
【A2804】	英語学概論A [椎名 美智] 春学期授業/Spring	65
【A2805】	英語学概論B [大沢 ふよう] 秋学期授業/Fall	66
【A2806】	言語学概論A [石川 潔] 春学期授業/Spring	67
【A2807】	言語学概論B [石井 創] 秋学期授業/Fall	68
【A2808】	英語・言語学講義A [秋山 孝信] 秋学期授業/Fall	69
【A2809】	英語・言語学講義B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	70
【A2810】	社会言語学 [塩田 雄大] 秋学期授業/Fall	70
【A2811】	応用言語学 [川崎 貴子] 春学期授業/Spring	71
【A2824】	比較文学A [松枝 佳奈] 春学期授業/Spring	72
【A2825】	比較文学B [松枝 佳奈] 秋学期授業/Fall	73
【A2905】	米文学史A [宮川 雅] 春学期授業/Spring	74
【A2906】	米文学史B [宮川 雅] 秋学期授業/Fall	75
【A2907】	英米文学講義I A [宮川 雅] 春学期授業/Spring	76
【A2908】	英米文学講義I B [宮川 雅] 秋学期授業/Fall	76
【A2909】	英米文学講義II A [丹治 愛] 春学期授業/Spring	77
【A2910】	英米文学講義II B [丹治 愛] 秋学期授業/Fall	78
【A2911】	英語学講義A [大沢 ふよう] 春学期授業/Spring	79
【A2912】	英語学講義B [大沢 ふよう] 秋学期授業/Fall	80
【A2913,A2326,A2282】	言語学講義I A / 言語と論理1 (言語学講義I A) [石川 潔] 春学期授業/Spring	81
【A2914,A2327,A2282】	言語学講義I B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	81
【A2915】	言語学講義II A [伊藤 達也] 春学期授業/Spring	82
【A2916】	言語学講義II B [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	82
【A2923】	英語・言語学特殊講義A [石井 創] 春学期授業/Spring	83
【A2924】	英語・言語学特殊講義B [石井 創] 秋学期授業/Fall	84
【A2967】	英米文学特殊講義III [田中 裕希] 春学期授業/Spring	85
【A2968】	英米文学特殊講義IV [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	86
【A2981,A2821】	比較文化論(1) [小島 尚人] 秋学期授業/Fall	87
【A2982】	英米文化概論A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	88
【A2983】	英米文化概論B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	88
【A3113】	日本考古学 [小倉 淳一] 秋学期授業/Fall	89
【A3116】	日本近世史 [松本 剣志郎] 秋学期授業/Fall	89
【A3152】	考古学概論 [小倉 淳一] 春学期授業/Spring	90

【A3157】	日本史特講Ⅳ [中山 学] 秋学期授業/Fall	90
【A3164】	東洋史特講Ⅲ [芦沢 知絵] 秋学期授業/Fall	91
【A3171】	西洋史特講Ⅳ [高澤 紀恵] 春学期授業/Spring	92
【A3172】	西洋史特講Ⅴ [高澤 紀恵] 秋学期授業/Fall	92
【A3212】	日本史序説Ⅰ [川上 真理] 春学期授業/Spring	93
【A3213】	日本史序説Ⅱ [齋藤 智志] 秋学期授業/Fall	94
【A3214】	東洋史序説 [塩沢 裕仁] 春学期授業/Spring	95
【A3215】	西洋史序説 [志内 一興] 秋学期授業/Fall	96
【A3216】	日本史特講Ⅺ [石田 実洋] 秋学期授業/Fall	97
【A3217】	東洋史特講Ⅶ [水上 和則] 春学期授業/Spring	97
【A3218】	東洋史特講Ⅷ [小澤 一郎] 春学期授業/Spring	98
【A3219】	西洋史特講Ⅸ [大和久 悌一郎] 秋学期授業/Fall	99
【A3420】	生物・土壌地理学及び実験Ⅰ [小川 滋之] 春学期授業/Spring	100
【A3421】	生物・土壌地理学及び実験Ⅱ [小川 滋之] 秋学期授業/Fall	101
【A3422】	気候・気象学及び実験Ⅰ [山口 隆子] 春学期授業/Spring	102
【A3423】	気候・気象学及び実験Ⅱ [山口 隆子] 秋学期授業/Fall	102
【A3424】	海洋・陸水学及び実験Ⅰ [小寺 浩二] 春学期授業/Spring	103
【A3425】	海洋・陸水学及び実験Ⅱ [小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	104
【A3426】	社会経済地理学(1) [小原 文明] 秋学期授業/Fall	105
【A3427】	社会経済地理学(2) [伊藤 達也] 春学期授業/Spring	105
【A3428】	社会経済地理学(3) [片岡 義晴] 秋学期授業/Fall	106
【A3471】	地理情報システム(GIS)Ⅰ [中山 大地] 春学期授業/Spring	107
【A3472】	地理情報システム(GIS)Ⅱ [中山 大地] 秋学期授業/Fall	108
【A3481】	社会経済地理学(4)(エコツーリズム) [呉羽 正昭] 秋学期授業/Fall	109
【A3482】	文化地理学(1) [中俣 均] 春学期授業/Spring	110
【A3483】	文化地理学(2) [中俣 均] 秋学期授業/Fall	111
【A3622】	発達心理学 [渡辺 弥生] 春学期授業/Spring	111
【A3809】	民俗学Ⅰ [山本 志乃] 春学期授業/Spring	112
【A3810】	民俗学Ⅱ [山本 志乃] 秋学期授業/Fall	113
【A3811】	イスラム世界論Ⅰ [小澤 一郎] 春学期授業/Spring	113
【A3812】	イスラム世界論Ⅱ [小澤 一郎] 秋学期授業/Fall	114
【A3814】	現代のコモンセンス [福田 由紀、西塚 俊太、中沢 けい] 秋学期授業/Fall	115
【A3817,A3496,A2322,A2278】	環境と倫理(1) /環境倫理学(1)/人間学1(環境倫理学)A [相原 博] 春学期授業/Spring	116
【A3818,A3497,A2323,A2278】	環境と倫理(2) /環境倫理学(2)/人間学1(環境倫理学)B [相原 博] 秋学期授業/Fall	117
【A3819】	歴史地理学(1) [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	118
【A3820】	歴史地理学(2) [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	119
【A3855】	考古学概論(資格) [小倉 淳一] 春学期授業/Spring	120
【A3856】	日本考古学(資格) [小倉 淳一] 秋学期授業/Fall	121
【A3859】	民俗学Ⅰ(資格) [山本 志乃] 春学期授業/Spring	121
【A3860】	民俗学Ⅱ(資格) [山本 志乃] 秋学期授業/Fall	122
【A4032】	経営学総論Ⅰ(2016~2018年度入学者) [木村 純子] 春学期授業/Spring	123
【A4033】	経営学総論Ⅱ(2016~2018年度入学者) [木村 純子] 秋学期授業/Fall	125
【A4038】	ミクロ経済学入門Ⅰ(2016~2018年度入学者) [林 直嗣] 春学期授業/Spring	127
【A4039】	ミクロ経済学入門Ⅱ(2016~2018年度入学者) [林 直嗣] 秋学期授業/Fall	128
【A4407】	経営社会学Ⅰ [佐野 哲] 春学期授業/Spring	129
【A4408】	経営社会学Ⅱ [佐野 哲] 春学期授業/Spring	131
【A4409】	組織経済学Ⅰ [奥西 好夫] 秋学期授業/Fall	133
【A4501】	日本経営論Ⅰ [金 容度] 春学期授業/Spring	134
【A4502】	日本経営論Ⅱ [金 容度] 秋学期授業/Fall	136
【A4603】	検定会計Ⅰ [石山 宏] 春学期授業/Spring	138
【A4604】	検定会計Ⅱ [石山 宏] 秋学期授業/Fall	139
【A5401】	広告論 [小林 健一] オータムセッション/Autumn Session	140
【A5403】	戦略的マーケティング [岡本 慶子] 春学期授業/Spring	141
【A5404】	グローバル・ファッションビジネス [岡本 慶子] 秋学期授業/Fall	142
【A5405】	ものづくり経営論 [三澤 一文] 秋学期授業/Fall	143

【A5412】 寄附講座・資本主義の役割と証券投資 [山口 しのぶ] 秋学期授業/Fall	144
【A6300】 Topics in Contemporary Art [Akiko Mizoguchi] 秋学期授業/Fall	145
【A9010/A9046】 スポーツ方法論/スポーツ方法論Ⅰ [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	146
【A9021】 スポーツビジネス論Ⅰ [岩村 聡] 春学期授業/Spring	147
【A9022】 スポーツビジネス論Ⅱ [岩村 聡] 秋学期授業/Fall	148
【A9026】 スポーツメディア論 [海老名 徳雪] 春学期授業/Spring	148
【A9037】 アスリートキャリア論 [笠井 淳] 春学期授業/Spring	149
【A9050】 オリンピック・パラリンピックを考える [鈴木 良則] 春学期授業/Spring	150
【A9207/A9258】 スポーツ方法論/スポーツ方法論Ⅰ [佐藤 祐輔] 春学期授業/Spring	151
【A9214】 リーダーシップ論Ⅰ [浅井 玲子] 春学期授業/Spring	152
【A9215】 リーダーシップ論Ⅱ [浅井 玲子] 秋学期授業/Fall	153
【A9220】 アスリートキャリア論 [成田 道彦] 春学期授業/Spring	154
【A9221】 スポーツメディア論 [海老名 徳雪] 秋学期授業/Fall	155
【B1050】 財務会計(2018年度以前入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	157
【B1050】 財務会計(2018年度以前入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	158
【B1050】 財務会計(2018年度以前入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	159
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	160
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	161
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	162
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1053】 エコノミクス [多部田 直樹] 春学期授 業/Spring	164
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1053】 エコノミクス [多部田 直樹] 春学期授業/Spring	166
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1053】 エコノミクス [多部田 直樹] 春学期授業/Spring	168
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B2008】 現代企業論(2019年度以降入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	169
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B2008】 現代企業論(2019年度以降入学生) [境 新一] 春学期授業/Spring	170
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B2008】 現代企業論(2019年度以降入学生) [境 新一] 春学期 授業/Spring	171
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3001】 サステイナブルデザイン [出口 清孝] 秋学期後半/Fall(2nd half)	172
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3001】 サステイナブルデザイン [出口 清孝] 秋学期後半/Fall(2nd half)	173
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3001】 サステイナブルデザイン [出口 清孝] 秋学期後半/Fall(2nd half)	174
建築学科_専門科目_展開科目 【B3011】 建築フォーラム [渡邊 眞理、下吹越 武人、赤松 佳珠子、北山 恒] 秋 学期授業/Fall	175
【C0231】 言語文化概論 [衣笠 正晃] 秋学期授業/Fall	176
【C0233】 ジェンダー論 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	177
【C0242】 国際文化協力 [松本 悟] 春学期授業/Spring	178
【C0243】 平和学 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	179
【C0244】 宗教と社会 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	180
【C0531】 英語アプリケーションⅡ [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	181
【C0532】 英語アプリケーションⅢ [ウォルター カズマー] 春学期授業/Spring	182
【C0533】 英語アプリケーションⅣ [ウォルター カズマー] 春学期授業/Spring	184
【C0534】 英語アプリケーションⅤ [ジョナサン・エーブル] 春学期授業/Spring	186
【C0536】 英語アプリケーションⅦ [アンドリュウ・ジョーンズ] 秋学期授業/Fall	188
【C0537】 英語アプリケーションⅧ [リービ 英雄] 秋学期授業/Fall	189
【C0539】 英語アプリケーションⅩ [ラスカイル・ハウザー] 秋学期授業/Fall	190
【C0595】 ドイツ語アプリケーション [林 志津江] 春学期授業/Spring	191
【C0596】 ドイツ語アプリケーション [辻 朋季] 春学期授業/Spring	192
【C0597】 ドイツ語アプリケーション [ウテ・シュミット] 秋学期授業/Fall	193
【C0625】 フランス語アプリケーション [ジョルディ・フィリップ] 春学期授業/Spring	194
【C0626】 フランス語アプリケーション [ジョルディ・フィリップ] 秋学期授業/Fall	195
【C0627】 フランス語アプリケーション [コンルール ジョルジュ] 春学期授業/Spring	196
【C0628】 フランス語アプリケーション [ジョルディ・フィリップ] 秋学期授業/Fall	197
【C0655】 ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	198
【C0656】 ロシア語アプリケーション [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	199
【C0685】 中国語アプリケーションⅠ [曾 士才] 秋学期授業/Fall	200

【C0686】	中国語アプリケーションⅣ [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	201
【C0687】	中国語アプリケーションⅢ [周 重雷] 春学期授業/Spring	202
【C0688】	中国語アプリケーションⅡ [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	203
【C0755】	朝鮮語アプリケーション [梁 禮先] 春学期授業/Spring	204
【C0756】	朝鮮語アプリケーション [梁 禮先] 秋学期授業/Fall	205
【C0854】	現代美術論 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	206
【C0872】	映像と文学 [林 志津江] 秋学期授業/Fall	207
【C0901】	世界の中の日本語 [リービ 英雄] 秋学期授業/Fall	209
【C0910】	中国の文化Ⅰ (現代中国社会) [曾 士才] 春学期授業/Spring	210
【C0912】	中国の文化Ⅲ (日中文化交流史) [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	211
【C0913】	中国の文化Ⅳ (中国語の構造) [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	213
【C0915】	中国の文化Ⅵ (古典思想・文学) [野村 英登] 春学期授業/Spring	214
【C0916】	中国の文化Ⅶ (近代文学) [張 文菁] 春学期授業/Spring	215
【C0917】	中国の文化Ⅷ (現代文学) [張 文菁] 秋学期授業/Fall	216
【C0918】	中国の文化Ⅸ (中国俗文学) [鈴木 靖] 春学期授業/Spring	217
【C0919】	中国の文化Ⅹ (歴史) [張 玉萍] 秋学期授業/Fall	218
【C0920】	朝鮮語圏の文化Ⅰ (朝鮮半島の文化史) [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	219
【C0921】	朝鮮語圏の文化Ⅱ (朝鮮語の構造) [内山 政春] 秋学期授業/Fall	220
【C0930】	アフロ・アジアの文化 [江村 裕文] 春学期授業/Spring	221
【C0932】	ロシア・東欧の文化 [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	222
【C0941】	ドイツ語圏の文化Ⅱ [林 志津江] 春学期授業/Spring	223
【C0942】	フランス語圏の文化Ⅰ (思想) [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	224
【C0946】	スペイン語圏の文化Ⅱ [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	226
【C0947】	北米文化論 (ケベック講座) [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	227
【C0950】	カタルーニャの文化Ⅰ (言語 A) [ヴィラ・ラケル] 春学期授業/Spring	228
【C0951】	カタルーニャの文化Ⅱ (言語 B) [ヴィラ・ラケル] 秋学期授業/Fall	229
【C0952】	カタルーニャの文化Ⅲ (歴史・社会 A) [ヴィラ・ラケル] 春学期授業/Spring	230
【C0953】	カタルーニャの文化Ⅳ (歴史・社会 B) [ヴィラ・ラケル] 秋学期授業/Fall	231
【C0962】	英語圏の文化Ⅲ (現代事情) [栗飯原 文子] 春学期授業/Spring	232
【C0963】	英語圏の文化Ⅳ (文学と社会 A) [須藤 祐二] 秋学期授業/Fall	233
【C0965】	英語圏の文化Ⅵ (文学と社会 C) [中和 彩子] 春学期授業/Spring	234
【C0966】	英語圏の文化Ⅶ (英語の構造) [輿石 哲哉] 春学期授業/Spring	235
【C0967】	英語圏の文化Ⅷ (英語の歴史) [輿石 哲哉] 秋学期授業/Fall	237
【C1000】	比較表象文化論 [竹内 晶子] 秋学期授業/Fall	238
【C1020】	間文化性研究翻訳論 [熊田 泰章] 春学期授業/Spring	239
【C1021】	日英翻訳論 [リービ 英雄] 春学期授業/Spring	240
【C1040】	国際関係研究Ⅰ (アクターに着目した理論の捉え方) [松本 悟] 春学期授業/Spring	241
【C1041】	国際関係研究Ⅱ (メコン流域国の開発と環境 (社会と自然)) [松本 悟] 秋学期授業/Fall	242
【C1043】	人の移動と国際関係Ⅰ (華僑・華人社会) [曾 士才] 秋学期授業/Fall	243
【C1046】	地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	244
【C1047】	国際関係研究Ⅲ (地域紛争とエスニシティ) [中島 成久] 秋学期授業/Fall	245
【C1048】	実践国際協力 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	246
【C1052】	実践社会調査法 [松本 悟] 春学期授業/Spring	247
【C2004】	国際法Ⅰ [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	248
【C2005】	国際法Ⅱ [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	248
【C2013】	環境法Ⅰ [横内 恵] 春学期授業/Spring	249
【C2014】	環境法Ⅱ [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall	249
【C2015】	環境法Ⅲ [横内 恵] 秋学期授業/Fall	250
【C2017】	国際環境法 [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	251
【C2026】	地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	251
【C2120】	途上国経済論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	252
【C2311】	環境哲学基礎論 [吉永 明弘] 春学期授業/Spring	253
【C2314】	ヨーロッパ環境史論Ⅰ [辻 英史] 春学期授業/Spring	254
【C2315】	ヨーロッパ環境史論Ⅱ [辻 英史] 秋学期授業/Fall	255
【C2416】	環境科学Ⅰ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	256
【C2417】	環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	257
【C2418】	環境科学Ⅲ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	258

【C2500】 公害防止管理論Ⅰ [大岡 健三] 春学期授業/Spring	259
【C2501】 公害防止管理論Ⅱ [大野 香代] 秋学期授業/Fall	260
【C2503】 環境教育論 [野田 恵] 春学期授業/Spring	261
【C2508】 スポーツビジネス論Ⅰ [岩村 聡] 春学期授業/Spring	262
【C2509】 スポーツビジネス論Ⅱ [岩村 聡] 秋学期授業/Fall	263
基幹科目_選択 【C7083】 職業選択論Ⅰ [上西 充子] 春学期授業/Spring	263
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育 【C7195】 学習の社会史A [山口 真里] 秋学期授業/Fall	264
展開科目_選択必修(領域別)_発達・教育 【C7196】 学習の社会史B [寺崎 里水] 春学期授業/Spring	265
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス 【C7254】 職業選択論Ⅱ [上西 充子] 秋学期授業/Fall	266
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス 【C7270】 アントレプレナーシップ論Ⅰ 【2014年度以降入学者用】 [松本 真尚、田口 香織、市川 大樹] 春学期授業/Spring	267
展開科目_選択必修(体験型) 【C7270】 アントレプレナーシップ論Ⅰ 【2013年度以前入学者用】 [松本 真尚、田口 香織、市川 大樹] 春学期授業/Spring	268
展開科目_選択必修(体験型) 【C7271】 アントレプレナーシップ論Ⅱ 【2013年度以前入学者用】 [松本 真尚、田口 香織、市川 大樹] 秋学期授業/Fall	269
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス 【C7271】 アントレプレナーシップ論Ⅱ 【2014年度以降入学者用】 [松本 真尚、田口 香織、市川 大樹] 秋学期授業/Fall	270
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス 【C7274】 シティズンシップ論 [濱口 博史] 春学期授業/Spring	271
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C7304】 コミュニティ社会論Ⅰ [佐藤 恵] 春学期授業/Spring	272
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C7305】 コミュニティ社会論Ⅱ [佐藤 恵] 秋学期授業/Fall	273
展開科目_選択必修(領域別)_ライフ 【C7315】 アート・マネジメント論 [荒川 裕子] 春学期授業/Spring	274
展開科目_総合 【C7350】 就業機会とキャリア [酒井 理] 秋学期授業/Fall	275
関連科目 【C7710】 就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合- [上西 充子、武石 恵美子] 秋学期授業/Fall	276
関連科目 【C7711】 就業応用力養成Ⅰ [鈴木 美伸] 春学期授業/Spring	277
関連科目 【C7712】 就業応用力養成Ⅱ [鈴木 美伸] 秋学期授業/Fall	279
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6046】 社会経済学応用A [原 伸子] 春学期授業/Spring	280
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6047】 社会経済学応用A [原 伸子] 春学期授業/Spring	281
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6048】 社会経済学応用B [原 伸子] 秋学期授業/Fall	282
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6049】 社会経済学応用B [原 伸子] 秋学期授業/Fall	283
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6054】 日本経済論A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	284
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6055】 日本経済論A [牧野 文夫] 春学期授業/Spring	285
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6056】 日本経済論B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	286
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6057】 日本経済論B [牧野 文夫] 秋学期授業/Fall	287
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6058】 国際経済論A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	287
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6059】 国際経済論A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	288
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6060】 国際経済論B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	289
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6061】 国際経済論B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	290
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6062】 財政学A [天利 浩] 春学期授業/Spring	290
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6063】 財政学A [天利 浩] 春学期授業/Spring	291
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6064】 財政学B [天利 浩] 秋学期授業/Fall	291
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6065】 財政学B [天利 浩] 秋学期授業/Fall	292

専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6066】 金融論A [武田 浩一] 春学期 授業/Spring	292
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6067】 金融論A [高橋 秀朋] 春学期 授業/Spring	293
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6068】 金融論B [武田 浩一] 秋学期 授業/Fall	293
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6069】 金融論B [鈴木 誠] 秋学期授 業/Fall	294
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6094】 計量経済学A [宮崎 憲治] 春 学期授業/Spring	295
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6095】 計量経済学B [宮崎 憲治] 秋 学期授業/Fall	295
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6102】 企業と経済・応用A [檜野 智 子] 春学期授業/Spring	296
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6103】 企業と経済・応用B [檜野 智 子] 秋学期授業/Fall	296
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6108】 現代ファイナンス入門A [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	297
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6109】 現代ファイナンス入門B [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	297
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6122】 経済データ分析A [明城 聡] 春学期授業/Spring	298
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6123】 経済データ分析B [明城 聡] 秋学期授業/Fall	299
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6124】 経済地理 [近藤 章夫] 春学期 授業/Spring	300
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6125】 産業集積論 [近藤 章夫] 秋学 期授業/Fall	300
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6128】 コーポレートガバナンス論A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	301
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6129】 コーポレートガバナンス論B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	302
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6140】 企業実務研究A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	303
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6141】 企業実務研究B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	304
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6150】 国際関係論A [富永 靖敬] 春 学期授業/Spring	305
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6151】 国際関係論B [富永 靖敬] 秋 学期授業/Fall	306
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6152】 経済人類学A [山本 真鳥] 春 学期授業/Spring	307
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6153】 経済人類学B [山本 真鳥] 秋 学期授業/Fall	307
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6154】 環境経済論A [松波 淳也] 春 学期授業/Spring	308
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6155】 環境経済論A [松波 淳也] 春 学期授業/Spring	309
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6156】 環境経済論B [松波 淳也] 秋 学期授業/Fall	309
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6157】 環境経済論B [松波 淳也] 秋 学期授業/Fall	310
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6160】 経済地理A [近藤 章夫] 春学 期授業/Spring	311
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6161】 経済地理B [近藤 章夫] 秋学 期授業/Fall	312

専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6162】 アメリカ経済論A [河村 哲二] 春学期授業/Spring	312
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6163】 アメリカ経済論B [河村 哲二] 秋学期授業/Fall	313
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6164】 ヨーロッパ経済論A [進藤 理香子] 春学期授業/Spring	314
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6165】 ヨーロッパ経済論B [進藤 理香子] 秋学期授業/Fall	315
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6166】 現代アジア経済論A [馬場 敏幸] 春学期授業/Spring	316
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6167】 現代アジア経済論B [馬場 敏幸] 秋学期授業/Fall	317
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6168】 中国経済論A [菊池 道樹] 春学期授業/Spring	318
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6169】 中国経済論B [菊池 道樹] 秋学期授業/Fall	319
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6180】 ドイツ語セミナーA [新田 誠吾] 春学期授業/Spring	320
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6181】 ドイツ語セミナーB [新田 誠吾] 秋学期授業/Fall	321
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6182】 フランス語セミナーB [橋本 到] 秋学期授業/Fall	322
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6183】 フランス語セミナーA [橋本 到] 春学期授業/Spring	323
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6184】 ロシア語セミナーA [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	324
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6185】 ロシア語セミナーB [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	325
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6186】 中国語セミナーA [石 碩] 春学期授業/Spring	327
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6187】 中国語セミナーB [石 碩] 秋学期授業/Fall	327
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6188】 スペイン語セミナーA [芝田 幸一郎] 春学期授業/Spring	328
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6189】 スペイン語セミナーB [芝田 幸一郎] 秋学期授業/Fall	329
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6203】 開発経済入門A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	330
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6204】 開発経済入門B [池上 宗信] 秋学期授業/Fall	330
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6209】 環境科学A [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	331
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6210】 環境科学B [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	331
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6223】 環境政策論A [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	332
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6224】 環境政策論B [西澤 栄一郎] 秋学期授業/Fall	333
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6227】 社会経済思想史A [後藤 浩子] 春学期授業/Spring	333
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6228】 社会経済思想史B [後藤 浩子] 秋学期授業/Fall	334
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6229】 経済政策論A [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	335
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通 【K6230】 経済政策論B [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	336

専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6233】社会政策論A [菅原 琢磨] 春学期授業/Spring	337
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6234】社会政策論B [菅原 琢磨] 秋学期授業/Fall	338
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6235】労働経済論A [深井 大洋] 春学期授業/Spring	339
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6236】労働経済論B [深井 大洋] 秋学期授業/Fall	339
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6243】社会保障論A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	340
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6244】社会保障論B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	340
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6259】国際ビジネス論A [山本 功] 春学期授業/Spring	341
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6260】国際ビジネス論B [山本 功] 秋学期授業/Fall	341
専門教育科目_2010~2015年度, 2016年度以降共通【K6314】地球環境論A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	342
専門教育科目_2010~2015年度, 2016年度以降共通【K6315】地球環境論B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	343
専門教育科目_2010~2015年度, 2016年度以降共通【K6337】マクロ経済学A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	344
専門教育科目_2010~2015年度, 2016年度以降共通【K6338】マクロ経済学B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	344
専門教育科目_2010~2015年度, 2016年度以降共通【K6339】ミクロ経済学A [篠原 隆介] 春学期授業/Spring	345
専門教育科目_2010~2015年度, 2016年度以降共通【K6340】ミクロ経済学B [篠原 隆介] 秋学期授業/Fall	346
専門教育科目_2010~2015年度, 2016年度以降共通【K6343】マクロ経済学A [森田 裕史] 春学期授業/Spring	347
専門教育科目_2010~2015年度, 2016年度以降共通【K6344】マクロ経済学B [森田 裕史] 秋学期授業/Fall	347
専門教育科目_2010~2015年度, 2016年度以降共通【K6345】ミクロ経済学A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	348
専門教育科目_2010~2015年度, 2016年度以降共通【K6346】ミクロ経済学B [平井 俊行] 秋学期授業/Fall	349
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6501】特別講義 (寄付講座 証券市場論) [大和証券株式会社] 春学期授業/Spring	350
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6559】特別講義 (Basic Economics A) [KALENGA NGOY JOHN] 春学期授業/Spring	351
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6560】特別講義 (Basic Economics B) [KALENGA NGOY JOHN] 秋学期授業/Fall	351
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6561】特別講義 (現代中国の経済政策) [Oliylyk Oleh] 春学期授業/Spring	352
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6562】特別講義 (中国とアメリカの戦略比較分析) [Oliylyk Oleh] 秋学期授業/Fall	353
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6563】特別講義 (映画とドラマの中の経済学) [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	354
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6564】特別講義 (ハワイの歴史と文化) [山本 真鳥] 春学期授業/Spring	355
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6565】特別講義 (Mathematics in Games A) [ROBERT M SINCLAIR] 春学期授業/Spring	356
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6566】特別講義 (Mathematics in Games B) [ROBERT M SINCLAIR] 秋学期授業/Fall	356
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6567】特別講義 (Big Data A) [ROBERT M SINCLAIR] 春学期授業/Spring	357
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6568】特別講義 (Big Data B) [ROBERT M SINCLAIR] 秋学期授業/Fall	357
専門教育科目_2016年度以降入学者【K6705】日本国憲法A [榎 透] 春学期授業/Spring	358
専門教育科目_2016年度以降入学者【K6706】日本国憲法B [榎 透] 春学期授業/Spring	359
専門教育科目_2016年度以降入学者【K6707】民法一部A [菅 富美枝] 春学期授業/Spring	360
専門教育科目_2016年度以降入学者【K6708】民法一部B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall	360
専門教育科目_2016年度以降入学者【K6711】商法一部A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	361
専門教育科目_2016年度以降入学者【K6712】商法一部B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	362
専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6729】簿記ⅡA [岸 牧人] 春学期授業/Spring	363

専門教育科目_2009年度以前, 2010~2015年度共通, 2016年度以降共通【K6730】簿記ⅡB [岸 牧人] 秋学期 授業/Fall	363
専門教育科目_2016年度以降入学者【K6733】Academic Research Seminar A [飯野 厚] 春学期授業/Spring ..	364
専門教育科目_2016年度以降入学者【K6734】Academic Research Seminar B [飯野 厚] 秋学期授業/Fall	365
専門教育科目_2016年度以降入学者【K6739】Academic Research Seminar A [山崎 達朗] 春学期授業/Spring	366
専門教育科目_2016年度以降入学者【K6740】Academic Research Seminar B [山崎 達朗] 秋学期授業/Fall ..	367
専門教育科目_2016年度以降入学者【K6749】原価計算A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	368
専門教育科目_2016年度以降入学者【K6750】原価計算B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	368
専門教育科目_2016年度以降入学者【K6751】会計学入門A [石田 惣平] 春学期授業/Spring	369
専門教育科目_2016年度以降入学者【K6752】会計学入門B [石田 惣平] 秋学期授業/Fall	369
講義・実習科目【L0609】社会計画論Ⅰ [湯浅 陽一] 春学期授業/Spring	370
講義・実習科目【L0610】社会計画論Ⅱ [湯浅 陽一] 秋学期授業/Fall	371
講義・実習科目【L0613】環境倫理 [島田 昭仁] 春学期授業/Spring	371
講義・実習科目【L0614】環境法 [井上 秀典] 秋学期授業/Fall	372
講義・実習科目【LA107】産業社会学Ⅰ [上林 千恵子] 春学期授業/Spring	373
講義・実習科目【LA108】産業社会学Ⅱ [上林 千恵子] 秋学期授業/Fall	374
講義・実習科目【LA112】金融システム論 [小川 健] 春学期授業/Spring	374
講義・実習科目【LA202】環境経済学Ⅰ [島本 美保子] 春学期授業/Spring	376
講義・実習科目【LA203】環境経済学Ⅱ [島本 美保子] 秋学期授業/Fall	377
講義・実習科目【LA204】環境政策論 [田中 充] 春学期授業/Spring	378
講義・実習科目【LA205】環境自治体論 [田中 充] 秋学期授業/Fall	379
講義・実習科目【LA210】社会保障法Ⅰ [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	380
講義・実習科目【LA211】社会保障法Ⅱ [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	380
講義・実習科目【LA308】国際協力論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	381
講義・実習科目【LA309】イスラム社会論 [岡野内 正] 春学期授業/Spring	382
講義・実習科目【LB410】地域研究 (中国) [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	383
講義・実習科目【LD303】社会ネットワーク論Ⅰ [宇野 齊] 春学期授業/Spring	383
講義・実習科目【LD304】社会ネットワーク論Ⅱ [宇野 齊] 秋学期授業/Fall	384
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目 (人文系)【N0061】ホスピタリティ論 [野口 洋平] 春学期授 業/Spring	385
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目 (人文系)【N0062】日本人の心理特性と文化 [長山 恵一] 秋学 期授業/Fall	386
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目 (人文系)【N0063】教育学 [藤本 典裕] 春学期授業/Spring ..	387
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目 (社会系)【N0119】社会学特講 [左古 輝人] 秋学期授業/Fall ..	388
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目 (社会系)【N0122】経営学 [山藤 竜太郎] 秋学期授業/Fall ..	388
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目 (社会系)【N0123】老年学 [新名 正弥] 春学期授業/Spring ..	389
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_視野形成科目 (自然・スポーツ系)【N0158】ヘルスプロモーション [熊坂 隆 行] 秋学期授業/Fall	390
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1058】福祉国家論 [金 美珍] 秋学期授業/Fall	390
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1105】地域文化政策論 [須田 英一] 春学期授業/Spring ..	391
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1108】都市住宅政策論 [水野 雅男] 春学期授業/Spring ..	392
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1113】国際協力論 [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	393
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1114】福祉の思想と歴史 [白川 耕一] 春学期授業/Spring ..	393
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1115】環境政策論 [藤澤 浩子] 春学期授業/Spring	394
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1201】コミュニティアート [吉野 裕之] 秋学期授業/Fall ..	395
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1207】地域遺産マネジメント論 [須田 英一] 春学期授業/Spring	396
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1208】地域経営論 [松本 昭] 春学期授業/Spring	397
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1209】地域ツーリズム [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	398
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1213】文化環境創造論 [須田 英一] 秋学期授業/Fall	399
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1214】ソーシャルイノベーション論 [土肥 将教] 春学期授 業/Spring	400
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1216】ソーシャルマネジメント論 [樋口 邦史] 秋学期授業/Fall	401
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1217】ソーシャルファイナンス論 [徳永 洋子] 春学期授 業/Spring	402
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1221】NPO論 [渡真利 紘一] 秋学期授業/Fall	403
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1222】居住福祉論 [大原 一興] 春学期授業/Spring	404
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1309】異文化心理学 [奥山 今日子] 秋学期授業/Fall	405

2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6003】 文章論－文章表現の実践 [藤村 耕治] 春学期 授業/Spring	406
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6005】 文芸創作講座 [岩川 ありさ] 春学期授業/Spring	407
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6007】 日本芸能史論 [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	408
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6009】 身体表現論 (バレエの世界) [深谷 公宣] 春 学期授業/Spring	409
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6011】 美術論 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	410
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6013】 芸術と人間 [石原 陽一郎] 春学期授業/Spring	411
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6017】 行為の理論 [山口 誠一] 春学期授業/Spring	411
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6019】 人間存在論 [森村 修] 春学期授業/Spring	412
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6023】 ギリシヤの文化と社会 [中村 純] 春学期授 業/Spring	413
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6025】 古代日本・中国の法と社会 [岡野 浩二] 春学 期授業/Spring	414
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6027】 アジア・太平洋国際関係史 [柳沢 遊] 春学期 授業/Spring	415
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6029】 在日朝鮮人の歴史 [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	416
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6035】 キリスト教思想論 [酒井 健] 春学期授業/Spring	417
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6039】 異文化コミュニケーション論 [山本 そのこ] 春学期授業/Spring	418
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6045】 現代政治学の基礎 [木村 正俊] 春学期授業/Spring	419
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6051】 人文地理学セミナー [米家 志乃布] 春学期授 業/Spring	419
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6053】 文化人類学方法論 [中島 成久] 春学期授業/Spring	420
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6057】 人間行動学 [海部 紀行] 春学期授業/Spring	420
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6059】 人間発達学 [浅川 希洋志] 春学期授業/Spring	421
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6063】 自然環境のしくみとその変貌 [加藤 美雄] 春 学期授業/Spring	422
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6067】 論理って何だ? [安東 祐希] 春学期授業/Spring	423
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6069】 コンピュータの裏側 [倉田 俊彦] 春学期授 業/Spring	424
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6071】 確率・統計 [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	425
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6077】 現代の錬金術 [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	426
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6079】 原子核と素粒子－ミクロの世界－ [吉田 智] 春学期授業/Spring	427
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6089】 バイオイメージングの世界 [木原 章] 春学期 授業/Spring	428
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6095】 光と色の科学 [中島 弘一] 春学期授業/Spring	429
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6097】 物質科学 [中田 和秀] 春学期授業/Spring	430
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6105】 総合講座～沖縄を考える～ [中俣 均] 春学期 授業/Spring	431
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6106】 中国の民族と文化 [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	432
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6107】 仏教思想論 [計良 隆世] 春学期授業/Spring	432
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6108】 I T リテラシー [児玉 靖司] 春学期授業/Spring	433
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6109】 現代科学の新しい目 [石川 壮一] 春学期授 業/Spring	434
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6111】 法哲学 [内藤 淳] 春学期授業/Spring	435
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6113】 アラブの言語と文化 [江村 裕文] 春学期授 業/Spring	436
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6117】 自然史 [島野 智之] 春学期授業/Spring	437
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6121】 グローバル社会の地域研究 [片岡 義晴] 春学 期授業/Spring	438
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6123】 人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	439
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6125】 イオンの科学 [向井 知大] 春学期授業/Spring	440
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6127】 グローバル経済論 [水野 和夫] 春学期授業/Spring	440
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6129】 政治思想 [大井 赤亥] 春学期授業/Spring	441
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6201】 スポーツ科学 I [西村 一帆] 春学期授業/Spring	442

2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6202】 スポーツ科学Ⅱ [西村 一帆] 秋学期授業/Fal	443
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6205】 スポーツ科学Ⅰ [落合 久夫] 春学期授業/Spring	444
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6206】 スポーツ科学Ⅱ [落合 久夫] 秋学期授業/Fal	445
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6207】 スポーツ科学Ⅰ [磯部 薫] 春学期授業/Spring	446
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6208】 スポーツ科学Ⅱ [磯部 薫] 秋学期授業/Fall	447
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6210】 スポーツ科学Ⅱ [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fal	448
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6211】 スポーツ科学Ⅰ [落合 久夫] 春学期授業/Spring	449
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6212】 スポーツ科学Ⅱ [落合 久夫] 秋学期授業/Fal	450
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6213】 スポーツ科学Ⅰ [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	451
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6214】 スポーツ科学Ⅱ [吉田 康伸] 秋学期授業/Fal	452
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6215】 スポーツ科学Ⅰ [小谷 究] 春学期授業/Spring	453
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6216】 スポーツ科学Ⅱ [小谷 究] 秋学期授業/Fall	454
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6217】 スポーツ科学Ⅰ [中澤 史] 春学期授業/Spring	455
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6218】 スポーツ科学Ⅱ [中澤 史] 秋学期授業/Fall	456
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6219】 スポーツ科学Ⅰ [笠井 淳] 春学期授業/Spring	457
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6220】 スポーツ科学Ⅱ [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	458
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6221】 スポーツ科学Ⅰ [笠井 淳] 春学期授業/Spring	459
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6222】 スポーツ科学Ⅱ [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	460
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6223】 スポーツ科学Ⅰ [伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	461
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6224】 スポーツ科学Ⅱ [伊藤 マモル] 秋学期授業/Fal	463
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6225】 スポーツ科学Ⅰ [伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	464
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6226】 スポーツ科学Ⅱ [伊藤 マモル] 秋学期授業/Fal	465
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6227】 スポーツ科学Ⅰ [伊藤 マモル] 春学期授業/Spring	466
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6228】 スポーツ科学Ⅱ [伊藤 マモル] 秋学期授業/Fal	468
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6601】 ドイツ語初級Ⅰ [笠原 賢介] 春学期授業/Spring	469
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6602】 ドイツ語初級Ⅱ [笠原 賢介] 秋学期授業/Fal	470
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6603】 ドイツ語コミュニケーションⅢ [アネット・	
グルーバー] 春学期授業/Spring	471
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6604】 ドイツ語コミュニケーションⅣ [アネット・	
グルーバー] 秋学期授業/Fall	472
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6605】 ドイツ語講読Ⅰ [山下 敦] 春学期授業/Spring	473
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6606】 ドイツ語講読Ⅱ [山下 敦] 秋学期授業/Fall	474
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6609】 フランス語初級Ⅰ [廣松 勲] 春学期授業/Spring	475
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6610】 フランス語初級Ⅱ [廣松 勲] 秋学期授業/Fal	476
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6611】 フランス語中級Ⅰ [ニコラ・ガイヤール] 春	
学期授業/Spring	477
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6612】 フランス語中級Ⅱ [ニコラ・ガイヤール] 秋	
学期授業/Fall	477
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6613】 フランス語コミュニケーションⅢ [ジョルディ・	
フィリップ] 春学期授業/Spring	478
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6614】 フランス語コミュニケーションⅣ [ジョルディ・	
フィリップ] 秋学期授業/Fall	479
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6615】 フランス語表現法Ⅰ [ヴァリエンス コリン	
ヌ] 春学期授業/Spring	480
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6616】 フランス語表現法Ⅱ [ヴァリエンス コリン	
ヌ] 秋学期授業/Fall	481
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6619】 ロシア語初級Ⅰ [木部 敬] 春学期授業/Spring	482
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6620】 ロシア語初級Ⅱ [木部 敬] 秋学期授業/Fall	482
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6621】 ロシア語中級Ⅰ [三神 エレーナ] 春学期授	
業/Spring	483
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6622】 ロシア語中級Ⅱ [三神 エレーナ] 秋学期授	
業/Fall	483
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6623】 ロシア語コミュニケーションⅠ [三神 エレー	
ナ] 春学期授業/Spring	484
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6624】 ロシア語コミュニケーションⅡ [三神 エレー	
ナ] 秋学期授業/Fall	484
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6625】 ロシア語講読Ⅰ [土岐 康子] 春学期授業/Spring	485

2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6626】ロシア語講読Ⅱ [土岐 康子] 秋学期授業/Fall	485
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6627】時事ロシア語Ⅰ [油本 真理] 春学期授業/Spring	486
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6628】時事ロシア語Ⅱ [油本 真理] 秋学期授業/Fall	486
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6629】中国語初級Ⅰ [廣野 行雄] 春学期授業/Spring	487
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6630】中国語初級Ⅱ [廣野 行雄] 秋学期授業/Fall	488
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6631】中国語コミュニケーションⅢ [周 重雷] 春学期授業/Spring	488
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6632】中国語コミュニケーションⅣ [周 重雷] 秋学期授業/Fall	489
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6635】検定中国語Ⅲ [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	489
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6636】検定中国語Ⅳ [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	490
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6637】スペイン語初級Ⅰ [杉下 由紀子] 春学期授業/Spring	491
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6638】スペイン語初級Ⅱ [杉下 由紀子] 秋学期授業/Fall	492
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6641】スペイン語コミュニケーションⅢ [瓜谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	492
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6642】スペイン語コミュニケーションⅣ [瓜谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall	493
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6644】朝鮮語初級Ⅱ [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	494
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6645】朝鮮語中級Ⅰ [梁 禮先] 春学期授業/Spring	495
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6653】ドイツの思想Ⅰ [笠原 賢介] 春学期授業/Spring	495
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6654】ドイツの思想Ⅱ [笠原 賢介] 秋学期授業/Fall	496
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6655】ドイツの文学Ⅰ [林 志津江] 春学期授業/Spring	497
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6656】ドイツの文学Ⅱ [林 志津江] 秋学期授業/Fall	498
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6657】比較文化Ⅰ [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	499
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6658】比較文化Ⅱ [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	500
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6673】スペイン語上級Ⅰ [佐々木 直美] 春学期授業/Spring	500
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6674】スペイン語上級Ⅱ [佐々木 直美] 秋学期授業/Fall	501
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6675】ドイツの芸術Ⅰ [林 志津江] 春学期授業/Spring	502
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6676】ドイツの芸術Ⅱ [林 志津江] 秋学期授業/Fall	503
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6677】留学ドイツ語Ⅰ [平松 英人] 春学期授業/Spring	504
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6678】留学ドイツ語Ⅱ [平松 英人] 秋学期授業/Fall	505
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6679】中国語講読Ⅰ [岩田 和子] 春学期授業/Spring	505
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6680】中国語講読Ⅱ [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	506
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6683】中国語コミュニケーションⅢ [薬 進] 春学期授業/Spring	506
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6684】中国語コミュニケーションⅣ [薬 進] 秋学期授業/Fall	507
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6685】中国語表現法Ⅲ [高田 裕子] 春学期授業/Spring	507
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6686】中国語表現法Ⅳ [高田 裕子] 秋学期授業/Fall	508
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6687】検定中国語Ⅲ [康 鴻音] 春学期授業/Spring	509
2016年度以前入学者_市ヶ谷基礎科目・総合科目_総合科目	【P6688】検定中国語Ⅳ [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	510
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6002】第三外国語としての朝鮮語B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	510
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6003】第三外国語としての朝鮮語中級 [梁 禮先] 春学期授業/Spring	511
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6051】日本語コミュニケーションA [江村 裕文] 春学期授業/Spring	511
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6052】日本語コミュニケーションB [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	512
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目	【Q6101】漢字・漢文学A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	513

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6102】 漢字・漢文学B [加納 留美子] 秋学期授業/Fall	514
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6103】 教養ゼミⅠ [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	515
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6104】 教養ゼミⅡ [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	516
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6105】 文芸創作講座A [岩川 ありさ] 春学期授業/Spring	517
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6106】 文芸創作講座B [岩川 ありさ] 秋学期授業/Fall	518
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6107】 日本芸能論A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	520
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6108】 日本芸能論B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	521
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6109】 身体表現論A [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	522
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6110】 身体表現論B [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	523
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6111】 美術論A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	524
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6112】 美術論B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	525
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6113】 芸術と人間A [石原 陽一郎] 春学期授業/Spring	526
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6114】 芸術と人間B [石原 陽一郎] 秋学期授業/Fall	526
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6115】 仏教思想論A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	527
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6116】 仏教思想論B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	528
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6117】 行為の理論A [山口 誠一] 春学期授業/Spring	529
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6118】 行為の理論B [山口 誠一] 秋学期授業/Fall	529
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6119】 教養ゼミⅠ [森村 修] 春学期授業/Spring	530
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6120】 教養ゼミⅡ [森村 修] 秋学期授業/Fall	531
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6121】 中国の民族と文化A [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	532
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6122】 中国の民族と文化B [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	533
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6123】 ギリシヤの文化と社会A [中村 純] 春学期授業/Spring	533
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6124】 ギリシヤの文化と社会B [中村 純] 秋学期授業/Fall	534
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6125】 古代日本・中国の法と社会A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	535
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6126】 古代日本・中国の法と社会B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	536
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6127】 アジア・太平洋島嶼国際関係史A [柳沢 遊] 春学期授業/Spring	537
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6128】 アジア・太平洋島嶼国際関係史B [柳沢 遊] 秋学期授業/Fall	538
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6129】 教養ゼミⅠ [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	539
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6130】 教養ゼミⅡ [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	540
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6131】 クエア・スタディーズA [岩川 ありさ] 春学期授業/Spring	541
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6132】 クエア・スタディーズB [岩川 ありさ] 秋学期授業/Fall	542
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6133】 キリスト教思想史A [酒井 健] 春学期授業/Spring	543
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6134】 キリスト教思想史B [酒井 健] 秋学期授業/Fall	544
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6135】 教養ゼミⅠ [江村 裕文] 春学期授業/Spring	545
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6136】 教養ゼミⅡ [江村 裕文] 秋学期授業/Fall	546
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6137】 異文化コミュニケーション論A [山本 所のこ] 春学期授業/Spring	547
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6138】 異文化コミュニケーション論B [山本 所のこ] 秋学期授業/Fall	548
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6141】 教養ゼミⅠ [川鍋 義一] 春学期授業/Spring	549
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6142】 教養ゼミⅡ [川鍋 義一] 秋学期授業/Fall	550

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6201】法哲学A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	550
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6202】法哲学B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	551
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6203】教養ゼミⅠ [木村 正俊] 春学期授業/Spring	552
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6204】教養ゼミⅡ [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	553
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6205】教養ゼミⅠ [水野 和夫] 春学期授業/Spring	553
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6206】教養ゼミⅡ [水野 和夫] 秋学期授業/Fall	554
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6208】福祉社会論B [菅野 摂子] 秋学期授業/Fall	555
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6209】人文地理学セミナーA [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	556
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6210】人文地理学セミナーB [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	556
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6211】文化人類学方法論A [中島 成久] 春学期授業/Spring	557
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6212】文化人類学方法論B [中島 成久] 秋学期授業/Fall	557
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6213】教養ゼミⅠ [大井 赤亥] 春学期授業/Spring	558
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6214】教養ゼミⅡ [大井 赤亥] 秋学期授業/Fall	559
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6215】人間行動学A [海部 紀行] 春学期授業/Spring	560
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6216】人間行動学B [海部 紀行] 秋学期授業/Fall	561
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6217】教養ゼミⅠ [浅川 希洋志] 春学期授業/Spring	562
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6218】教養ゼミⅡ [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall	563
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6219】沖縄を考えるA [中俣 均] 春学期授業/Spring	564
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6220】沖縄を考えるB [中俣 均] 秋学期授業/Fall	565
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6221】グローバル社会の地域研究A [片岡 義晴] 春学期授業/Spring	566
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6222】グローバル社会の地域研究B [片岡 義晴] 秋学期授業/Fall	566
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6301】自然環境のしくみとその変貌A [加藤 美雄] 春学期授業/Spring	567
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6302】自然環境のしくみとその変貌B [加藤 美雄] 秋学期授業/Fall	568
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6303】数理論理学A [安東 祐希] 春学期授業/Spring	569
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6304】数理論理学B [安東 祐希] 秋学期授業/Fall	570
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6305】計算と言語のしくみ [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	571
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6306】コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	572
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6307】確率の世界A [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	573
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6308】確率の世界B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	573
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6313】現代の錬金術A [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	574
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6314】現代の錬金術B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	575
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6315】原子核と素粒子A [吉田 智] 春学期授業/Spring	576
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6316】原子核と素粒子B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	577
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6317】教養ゼミⅠ [島野 智之] 春学期授業/Spring	578
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6318】教養ゼミⅡ [島野 智之] 秋学期授業/Fall	579
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6321】教養ゼミⅠ [木原 章] 春学期授業/Spring	580
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6322】教養ゼミⅡ [木原 章] 秋学期授業/Fall	581
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6323】イオンの科学A [向井 知大] 春学期授業/Spring	582
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6324】イオンの科学B [向井 知大] 秋学期授業/Fall	582
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6325】光と色の科学A [中島 弘一] 春学期授業/Spring	583
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6326】光と色の科学B [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	584
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6327】物質の科学A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	585

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6328】物質の科学B [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	586
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6329】ITリテラシー [児玉 靖司] 春学期授業/Spring	587
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6330】コンピュータ科学 [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall	588
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6331】現代科学の新しい目A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	589
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6332】現代科学の新しい目B [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	590
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6335】人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	591
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6336】Natural Science A [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	592
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6336】Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	593
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6421】第三外国語としてのドイツ語A [笠原 賢介] 春学期授業/Spring	594
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6422】第三外国語としてのドイツ語B [笠原 賢介] 秋学期授業/Fall	595
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6423】ドイツ語コミュニケーション中級A [アネッテ・グルーバー] 春学期授業/Spring	596
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6424】ドイツ語コミュニケーション中級B [アネッテ・グルーバー] 秋学期授業/Fall	597
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_教養ゼミ【Q6425】教養ゼミI [山下 敦] 春学期授業/Spring	598
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_教養ゼミ【Q6426】教養ゼミII [山下 敦] 秋学期授業/Fall	599
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6427】ドイツの思想A [笠原 賢介] 春学期授業/Spring	600
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6428】ドイツの思想B [笠原 賢介] 秋学期授業/Fall	601
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6429】ドイツ語圏の文学A [林 志津江] 春学期授業/Spring	602
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6430】ドイツ語圏の文学B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	603
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6431】比較文化A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	604
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6432】比較文化B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	604
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6433】ドイツ語圏の芸術A [林 志津江] 春学期授業/Spring	605
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6434】ドイツ語圏の芸術B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	606
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6435】留学ドイツ語A [平松 英人] 春学期授業/Spring	607
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6436】留学ドイツ語B [平松 英人] 秋学期授業/Fall	607
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6501】スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	608
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6502】スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	609
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6505】スポーツ科学A [落合 久夫] 春学期授業/Spring	610
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6506】スポーツ科学B [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	611
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6507】スポーツ科学A [磯部 薫] 春学期授業/Spring	612
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6508】スポーツ科学B [磯部 薫] 秋学期授業/Fall	613
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6510】スポーツ科学B [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	614
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6511】スポーツ科学A [落合 久夫] 春学期授業/Spring	615
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6512】スポーツ科学B [落合 久夫] 秋学期授業/Fall	616
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台総合科目_総合科目【Q6513】スポーツ科学A [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	617

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6514】	スポーツ科学B [吉田 康伸]	秋学期授業/Fall	618
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6515】	スポーツ科学A [小谷 究]	春学期授業/Spring	619
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6516】	スポーツ科学B [小谷 究]	秋学期授業/Fall	620
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6517】	スポーツ科学A [中澤 史]	春学期授業/Spring	621
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6518】	スポーツ科学B [中澤 史]	秋学期授業/Fall	622
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6519】	スポーツ科学A [笠井 淳]	春学期授業/Spring	623
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6520】	スポーツ科学B [笠井 淳]	秋学期授業/Fall	624
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6521】	スポーツ科学A [笠井 淳]	春学期授業/Spring	625
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6522】	スポーツ科学B [笠井 淳]	秋学期授業/Fall	626
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6523】	教養ゼミⅠ [伊藤 マモル]	春学期授業/Spring	627
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6524】	教養ゼミⅡ [伊藤 マモル]	秋学期授業/Fall	628
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6525】	スポーツ科学A [伊藤 マモル]	春学期授業/Spring	630
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6526】	スポーツ科学B [伊藤 マモル]	秋学期授業/Fall	631
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6527】	教養ゼミⅠ [伊藤 マモル]	春学期授業/Spring	632
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6528】	教養ゼミⅡ [伊藤 マモル]	秋学期授業/Fall	634
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6601】	第三外国語としてのフランス語A [廣松 勲]	春学期授業/Spring	635
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6602】	第三外国語としてのフランス語B [廣松 勲]	秋学期授業/Fall	636
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6603】	上級フランス語A [ニコラ・ガイヤール]	春学期授業/Spring	637
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6604】	上級フランス語B [ニコラ・ガイヤール]	秋学期授業/Fall	638
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6605】	教養ゼミⅠ [大中 一彌]	春学期授業/Spring	639
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6606】	教養ゼミⅡ [大中 一彌]	秋学期授業/Fall	640
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6607】	教養ゼミⅠ [ジョルディ・フィリップ]	春学期授業/Spring	641
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ	【Q6608】	教養ゼミⅡ [ジョルディ・フィリップ]	秋学期授業/Fall	642
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6609】	フランス語コミュニケーション(中・上級)A [ジョルディ・フィリップ]	春学期授業/Spring	643
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6610】	フランス語コミュニケーション(中・上級)B [ジョルディ・フィリップ]	秋学期授業/Fall	644
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6611】	フランス語表現法A [ヴァリエンス コリンヌ]	春学期授業/Spring	645
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6612】	フランス語表現法B [ヴァリエンス コリンヌ]	秋学期授業/Fall	646
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6701】	第三外国語としてのロシア語A [木部 敬]	春学期授業/Spring	647
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6702】	第三外国語としてのロシア語B [木部 敬]	秋学期授業/Fall	647
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6703】	第三外国語としてのロシア語中級A [三神 エレーナ]	春学期授業/Spring	648
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6704】	第三外国語としてのロシア語中級B [三神 エレーナ]	秋学期授業/Fall	649
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6705】	実用ロシア語A [三神 エレーナ]	春学期授業/Spring	649
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6706】	実用ロシア語B [三神 エレーナ]	秋学期授業/Fall	650
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6707】	ロシア語講読A [土岐 康子]	春学期授業/Spring	651
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6708】	ロシア語講読B [土岐 康子]	秋学期授業/Fall	651
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6709】	時事ロシア語A [油本 真理]	春学期授業/Spring	652
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目	【Q6710】	時事ロシア語B [油本 真理]	秋学期授業/Fall	652

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6801】第三外国語としての中国語A [廣野 行雄] 春学期授業/Spring	653
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6802】第三外国語としての中国語B [廣野 行雄] 秋学期授業/Fall	654
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6805】中国語視聴覚中級A [劉 湯水] 春学期授 業/Spring	654
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6806】中国語視聴覚中級B [劉 湯水] 秋学期授 業/Fall	655
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6809】中国語コミュニケーション中級A [周 重 雷] 春学期授業/Spring	655
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6810】中国語コミュニケーション中級B [周 重 雷] 秋学期授業/Fall	656
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6811】中国語翻訳・通訳A [葉 進] 春学期授 業/Spring	656
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6812】中国語翻訳・通訳B [葉 進] 秋学期授業/Fall	657
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6813】中国語翻訳・通訳C [高田 裕子] 春学期 授業/Spring	657
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6814】中国語翻訳・通訳D [高田 裕子] 秋学期 授業/Fall	658
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6815】中国語講読A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	659
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6816】中国語講読B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	660
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6819】資格中国語中級A [渡辺 昭太] 春学期授 業/Spring	660
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6820】資格中国語中級B [渡辺 昭太] 秋学期授 業/Fall	661
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6821】資格中国語上級A [康 鴻音] 春学期授 業/Spring	662
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6822】資格中国語上級B [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	663
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6823】教養ゼミⅠ [岩田 和子] 春学期授業/Spring	664
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6824】教養ゼミⅡ [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	664
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6901】第三外国語としてのスペイン語A [杉下 由紀子] 春学期授業/Spring	665
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6902】第三外国語としてのスペイン語B [杉下 由紀子] 秋学期授業/Fall	665
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6905】スペイン語上級A [佐々木 直美] 春学期 授業/Spring	666
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6906】スペイン語上級B [佐々木 直美] 秋学期 授業/Fall	667
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6907】スペイン語コミュニケーション中級A [瓜 谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	668
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6908】スペイン語コミュニケーション中級B [瓜 谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall	669
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6909】教養ゼミⅠ [大西 亮] 春学期授業/Spring	670
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6910】教養ゼミⅡ [大西 亮] 秋学期授業/Fall	671
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6911】スペイン語講読A [大西 亮] 春学期授 業/Spring	672
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6912】スペイン語講読B [大西 亮] 秋学期授業/Fall	672
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R5293】フランス生活文化 論L A [内村 理奈] オータムセッション/Autumn Session	673
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R5294】フランス生活文化 論L B [内村 理奈] 秋学期授業/Fall	673
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R5295】フランス生活文化 論L A [ヴァリエンス コリンヌ] 春学期授業/Spring	674
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野)【R5296】フランス生活文化 論L B [ヴァリエンス コリンヌ] 秋学期授業/Fall	674

LAW200AB

経済法Ⅰ

青柳 由香

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

すべてのコースと関連を有するコース共通科目である。講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を学習し、事業活動における「公正な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について理解する。

【到達目標】

独占禁止法の基本概念を習得している。
事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。
事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済法Ⅰおよび経済法Ⅱでは、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。

独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。

経済法Ⅰでは、独占禁止法による規制のうち「不当な取引制限」及び「私的独占」について学習する。講義ではルールの概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	総論 (1)	独占禁止法の目的および体系
第 2 回	独占禁止法の沿革 (1)	戦前の経済体制や戦後の独占禁止法の導入
第 3 回	独占禁止法の沿革 (2)	独禁法導入にかかる理論的説明、導入後の運用の状況
第 4 回	独占禁止法のエンフォースメント (1)	組織・行政手続き
第 5 回	独占禁止法のエンフォースメント (2)	行政上の効果（排除措置命令・課徴金・リニエーション制度）
第 6 回	独占禁止法のエンフォースメント (3)	民事・刑事上の効果
第 7 回	不当な取引制限 (1)	概観、事業者概念
第 8 回	不当な取引制限 (2)	行為要件、競争の実質的制限
第 9 回	不当な取引制限 (3)	事例 (1) 価格カルテルの事例を扱う。
第 10 回	不当な取引制限 (4)	事例 (2) 入札談合の事例を扱う。
第 11 回	不当な取引制限 (5)	事例 (3) その他の事例を扱う。
第 12 回	私的独占 (1)	概観、行為要件
第 13 回	私的独占 (2)	事例 (1) 支配型私的独占の事例を扱う。
第 14 回	私的独占 (3)	事例 (2) 排除型私的独占の事例を扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を「授業支援システム」においてネット配信するので、各自印刷したうえで講義に出席すること。また、講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。

【テキスト（教科書）】

土田和博他『条文から学ぶ独占禁止法』（有斐閣、第 2 版、2019 年）※ 3 月以降に第 2 版が出版予定。

【参考書】

金井貴嗣ほか「経済法判例・審決百選（第 2 版）」（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（10％）と定期試験（90％）による。学生の要望があればミニレポートを実施する（平常点に参入する）。授業中の小テストは実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

LAW200AB

経済法Ⅱ

青柳 由香

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

すべてのコースと関連を有するコース共通科目である。講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を学習し、事業活動における「公正な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争の実現の必要性について理解する。

【到達目標】

独占禁止法の基本概念を習得している。
事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。
事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済法Ⅰおよび経済法Ⅱでは、独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。

独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。

経済法Ⅰでは、独占禁止法による規制のうち「不当な取引制限」及び「私的独占」について学習する。講義ではルールの概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	不公正な取引方法 (1)	概要、不公正な取引方法の位置づけ
第 2 回	不公正な取引方法 (2)	公正競争阻害性
第 3 回	不公正な取引方法 (3)	取引拒絶
第 4 回	不公正な取引方法 (4)	差別対価
第 5 回	不公正な取引方法 (5)	抱き合わせ
第 6 回	不公正な取引方法 (6)	再販売価格維持行為
第 7 回	不公正な取引方法 (7)	拘束条件付き取引
第 8 回	不公正な取引方法 (8)	優越的地位の濫用
第 9 回	不公正な取引方法 (8)	取引妨害
第 10 回	企業結合 (1)	概観
第 11 回	企業結合 (2)	事例 (1)
第 12 回	知的財産権と独占禁止法 (1)	概観、事例 (1)
第 13 回	知的財産権と独占禁止法 (2)	事例 (2)
第 14 回	知的財産権と独占禁止法 (3)	事例 (3)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を「授業支援システム」においてネット配信するので、各自印刷したうえで講義に出席すること。また、講義後にテキスト（教科書）・参考書や講義資料を用いて復習すること。新聞等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。

【テキスト（教科書）】

土田和博他『条文から学ぶ独占禁止法』（有斐閣、第 2 版、2019 年）※ 3 月以降に第 2 版が出版予定。

【参考書】

金井貴嗣ほか「経済法判例・審決百選（第 2 版）」（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（10％）と定期試験（90％）による。学生の要望があればミニレポートを実施する（平常点に参入する）。授業中の小テストは実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

LAW200AB

教育法Ⅰ

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法（労働法中心）コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法 26 条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法Ⅰでは教育法の基本原理から、国家による教育統制に関わる問題についてまでを取り上げることとします。

【到達目標】

教育法制についての基礎的理解を深める。国家の教育統制とその限界、教育の自由との関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、適宜授業に取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第 2 回	教育法の基本原理	教育法の歴史、教育法の法源など
第 3 回	戦前教育の特色	戦前教育法制について
第 4 回	戦後教育改革	憲法・教育基本法制の生成過程について
第 5 回	戦後教育政策の展開	国家の教育統制の歴史的流れについて
第 6 回	新・教育基本法制（旧法）	旧教育基本法について
第 7 回	新・教育基本法制（新法）	新教育基本法について
第 8 回	教育三法改正ほか	教育基本法改正後の主要法律の改正について
第 9 回	教育権—学習指導要領（沿革、学説）	学習指導要領の法的拘束力について沿革、学説を通じて考察する。
第 10 回	教育権—学習指導要領（判例）	学習指導要領の法的拘束力について判例・裁判例を通じて考察する。
第 11 回	教育権—教科書検定（沿革、学説）	家永教科書訴訟について沿革、学説を通じて考察する。
第 12 回	教育権—教科書検定（判例）	家永教科書訴訟について判例・裁判例を通じて考察する。
第 13 回	教育権—学力テスト事件（沿革、学説）	旭川学力テスト事件について沿革、学説を通じて考察する。
第 14 回	教育権—学力テスト事件（判例）	旭川学力テスト事件最高裁判決について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。

【テキスト（教科書）】

『解説教育六法 2019 年版』（三省堂）

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.

LAW200AB

教育法Ⅱ

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育法は、「裁判と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法 26 条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法Ⅱでは、子どもの人権保障の動向と、学校教育における子どもの人権、そして近年の教育政策の動向について取りあげることとします。

【到達目標】

子どもの人権保障の国際的動向や国内の課題について理解を深める。学校内部での子どもの人権保障について、人権侵害事件を具体的に学んで理解を深める。

近年の教育政策の動向と課題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、適宜授業に取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	子どもの人権保障の国際的動向	子どもの権利条約に至るまでの国際的動向について
第 2 回	子どもの権利条約の理念	子どもの権利条約の基本原則について
第 3 回	国内における子どもの権利保障の動向	子どもの権利条約を踏まえた国内での子どもの権利保障について
第 4 回	学校における子どもの人権：校則（沿革、学説）	校則をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 5 回	学校における子どもの人権：校則（判例）	校則をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 6 回	学校における子どもの人権：体罰（沿革、学説）	体罰をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 7 回	学校における子どもの人権：体罰（判例）	体罰をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 8 回	学校における子どもの人権：いじめ（沿革、学説）	いじめをめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第 9 回	学校における子どもの人権：いじめ（判例）	いじめをめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第 10 回	学校における子どもの人権：その他学校災害	その他の学校事故、学校災害の救済法制について
第 11 回	最近の教育政策の動向（教育政策の形成過程）	教育政策の形成過程と問題点について
第 12 回	最近の教育政策の動向（最近の教育政策）	最近の教育政策の特色と課題について
第 13 回	教育改革と学校参加（現状）	子ども・親・住民の学校参加についての現状
第 14 回	教育改革と学校参加（今後の課題）	子ども・親・住民の学校参加についての今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。

【テキスト（教科書）】

『解説教育六法 2019 年版』（三省堂）

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』（三省堂、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

LAW200AB

法哲学 I

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見ることができるようになることを本講義の目標とする。

本科目は、法律学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】

法哲学は大きく分けて、法が追求すべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とからなる。法哲学 I では、前者の正義論の基本を理解する。具体的には、社会が追求すべき正義とはなにか、客観的な価値は存在するのか、自由や平等という価値はどのようなものであるのかという諸問題を代表的な法哲学者の議論を通じて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者が、教科書における指定箇所を読んできていることを前提として講義を行う。基本的には教科書を踏まえて講義するが、教科書では取り上げられていないが担当者が重要と考える法哲学に関するトピックも取り上げる。随時リアクションペーパーを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要 正義論の前提：古典とその批判（価値相対主義）
第 2 回	功利主義 1	正義とは諸個人の快の総和であると する功利主義について見る
第 3 回	功利主義 2	功利主義の問題点
第 4 回	ロールズと『正義論』	現代正義論において最も主要な論者である ジョン・ロールズの議論について見る
第 5 回	ロールズ批判（共同体主義）	ロールズ批判を共同体主義の観点から 見る
第 6 回	ロールズ批判（リバタリアニズム）	ロールズ批判をリバタリアニズムの観 点から見る
第 7 回	自由	自由をめぐる議論を見る
第 8 回	平等	平等をめぐる議論を見る
第 9 回	権利	法における基本的概念である権利につ いて見る
第 10 回	人権	権利という概念をとりわけ人権という 視点から見る
第 11 回	正義論の発展的問題 1	グローバル正義論、世代間正義論につ いて見る
第 12 回	正義論の発展的問題 2	生命倫理とフェミニズムについて見る
第 13 回	討議と民主主義	民主主義という理念について見る
第 14 回	民主主義の限界と遵法義務	民主主義や正義の不完全さとその実現 に必要な事柄について見る（法哲学 2 への橋渡し）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所と、授業支援システムで提供された資料を事前に読む。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014 年）、2,800 円＋税

【参考書】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2018 年）
平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』（有斐閣、2002 年）
深田三徳/濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記試験）により評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

"Philosophy of Law" is a discipline, which considers fundamental legal ideas and backgrounds of positive laws. The aim of this lecture is that students can understand basic concepts or principles, and get various viewpoints for laws.

LAW200AB

法哲学Ⅱ

西村 清貴

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【Outline and objectives】

Philosophy of law is an academic discipline that learns the fundamental and background ideas and theories of the positive law. This lecture aims to acquire basic concepts in Philosophy of law and to be able to see the law from various viewpoints.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学は、実定法の基礎・背景となる思想や理論を学ぶ学問である。受講者が法哲学における基本的諸概念の習得を通じて、法を多様な観点から見るができるようになることを本講義の目的とする。

本科目は、法律学科科目の中で主として「文化・社会と法コース」の分野に属するほか、他のすべてのコースとも関係する科目である。

【到達目標】

法哲学は大きく分けて、法が追求すべき目的を取り扱う正義論と、法とはなにかという問題を取り扱う法概念論とから成る。本講義では、後者の法概念論を講義する。具体的には、法を用いるという活動はどのような活動なのか、法と道徳や慣習はどのような相違点を持つのか、裁判官に代表される法律家の営みはどのように理解されるべきかといった諸問題に関する代表的な法哲学者の議論を理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者が、教科書における指定箇所を読んできていることを前提として講義を行う。基本的には教科書を踏まえて講義するが、教科書では取り上げられていないが担当者が重要と考える法哲学に関するトピックも取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第2回	自然法論と法実証主義	法哲学における二大潮流である自然法論と法実証主義について見る
第3回	純粋法学	ハンス・ケルゼンの純粋法学を見る
第4回	法とルール (1)	H・L・A・ハートにおける内的視点と外的視点の区別に関する議論を見る
第5回	法とルール (2)	ハートにおける一次的ルールと二次的ルールに関する議論を見る
第6回	法と道徳	ハートが関わった、法と道徳に関する二つの論争について見る
第7回	ここまでのまとめと小テスト	ここまでのまとめと小テストを行う
第8回	法と解釈 (1)	ロナルド・ドゥオーキンの『権利論』を中心としてルールと原理の相違について見る
第9回	法と解釈 (2)	ロナルド・ドゥオーキンの『法の帝国』を中心として法解釈という営みについて見る
第10回	ハートの反論	ドゥオーキンに対するハートの反論を見る
第11回	法と権威	ジョセフ・ラズを中心として現代の法実証主義について見る
第12回	二つの法実証主義	排他的法実証主義と包含的法実証主義の区別を見る
第13回	権利	ホーフェルドの議論を中心として権利という概念の分析を行う
第14回	全体のまとめ	全体のまとめと質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所を事前に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英/宇佐美誠/大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）、2,800円＋税

【参考書】

平野仁彦/亀本洋/服部高宏『法哲学』（有斐閣、2002年）
深田三徳/濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）

小テスト（20％）

【学生の意見等からの気づき】

板書についてわかりやすく工夫したい

LAW300AB

法と遺伝学 I

上杉 奈々

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この授業は「他学部公開科目」です！ また、法律学科のコース制との関係では「文化・社会と法コース」に属しています。

現代の医療・医学の中で避けては通れなくなっている領域として、遺伝医療・遺伝医学があります。細胞の中の小さな小さな物質が、今となっては私たちの生活に大きな影響を及ぼす身近なものとなっています。

たとえば…

・妊娠したので健康な赤ちゃんが欲しいから、出生前検査を受けようかしら？
・将来、病気になる可能性を知りたいから、方法は簡単だし遺伝子検査を受けちゃおうかな？

このような医療の選択肢が、既に私たちの生活の中にある状況となっています。しかし、このような遺伝子にかかわる医療介入や検査（場合によっては医療機関が関わらないサービスも含む）は、普段病院や診療所で受ける一般的な検査（レントゲン検査や血液検査）とは何が同じで、何が違うのでしょうか。違うとすれば、それはどのような特性によるのでしょうか。

このような身近な医療技術となったものへの素朴な疑問から、本講のテーマである遺伝学・遺伝医療について法や倫理の視点から考えます。

これまで新しい医療技術は、新しい法的・倫理的・社会的問題をわれわれ一般市民に問うてきました。「法と遺伝学 I」では、医療技術によって既に社会にインパクトが起きている事象を主たるテーマに取り上げながら、遺伝学・遺伝医療について、その法的・倫理的・社会的議論としてどのようなことが考えられるか、その医療技術に

恩恵があるとするれば、それをわれわれが適切に享受するためにはどのような法的・政策的な解決法が考えられるのか、といったことを「あでもない、こうでもない」といような視点や価値観に触れながら考えることで、新たな社会事象に対する法的思考能力を身につけることを目的とします。

唯一無二の正解はありません。「あでもない、こうでもない」と思索の旅に出てみましょう。

【到達目標】

(1) 遺伝学・遺伝医療の発展とその実情を学び、そのことにつき様々な立場の人の視点や価値観に触れたり想像したりしながら、新たな法的・倫理的課題を発見することができる。

(2) その課題を解決するための法的・政策的な解決法につき、自由に自分の考えを形成することすることができる。

(3) その自分の考えについて、様々な価値観を踏まえうえて批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

●基本的には講義形式としますが、質問等、学生のみなさんの積極的な発言を歓迎します。

●毎回、リアクションペーパーを配布します。そこで講義の中で自分が考えたことなどを記載してください。それをまとめたもの（匿名）を次の時間に配布し、受講生全員で他の受講生が考えたことや価値観を共有します。

●DVD、新聞記事などを多用する予定です。

●「法と遺伝学 II」（秋学期）の内容も含め、何か興味のわトピックのあった学生さんは、どなたでも大歓迎です。医学的な内容にも踏み込みますが、どのテーマも平易な言葉での説明と展開を心掛けますので、安心して受講してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・法と遺伝学 I 入門	法と遺伝学とは？
第 2 回	児と遺伝学	社会における出生前診断
第 3 回	児と遺伝学	医療における出生前診断
第 4 回	児と遺伝学	出生前診断の可能性と社会的課題
第 5 回	児と遺伝学	着床前診断・スクリーニングとは？
第 6 回	児と遺伝学	社会における着床前診断
第 7 回	児と遺伝学	着床前診断の可能性と社会的課題
第 8 回	児と遺伝学	生殖補助医療がもたらす家族と社会の変容
第 9 回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング	遺伝学と人間
第 10 回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング	遺伝性疾患と当事者
第 11 回	遺伝学・遺伝性疾患・遺伝カウンセリング	遺伝性疾患と家族

第 12 回 遺伝学・遺伝性疾患・遺 遺伝性疾患と社会

伝カウンセリング

第 13 回 遺伝学・遺伝性疾患・遺 遺伝カウンセリングの役割

伝カウンセリング

第 14 回 総括 現代社会が直面する法的・倫理的・社会的課題と解決策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に必ず予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。予習をしそびれた者は、授業で扱った箇所を必ず復習すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
毎回レジメを配布する。

【参考書】

和田幹彦編・著『法と遺伝学』（法政大学出版局・2005 年刊）

山中美智子・玉井真理子・板井律子編著「出生前診断 受ける受けない誰が決めるの？」（生活書院・2017 年・2,200 円＋税）

★ そのほか、テーマに応じて適宜講義時に論文や書籍を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験による評価（80%）＋平常点：リアクションペーパーの提出による講義への貢献（20%）

【学生の意見等からの気づき】

●学生さんの理解度・関心を確認しながら進めます。

●ビデオや DVD 教材を多用する予定です。

【Outline and objectives】

“Law and Genetics I” try to think on genetics in medicine (such as prenatal / preimplantation genetic diagnosis, genetic tests) that we've faced with ELSI (Ethical Legal Social Issues) problems. And there is no “one and only” answer to these problems. Your goal is to improve your legal mind and logical thinking ability with your classmates.

LAW300AB

法と遺伝学Ⅱ

上杉 奈々

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★この授業は「他学部公開科目」です！また、法律学科のコース制との関係では「文化・社会と法コース」に属しています。
 「法と遺伝学Ⅰ」では、医療技術によって既に社会にインパクトが起きている事象を主たるテーマに取り上げましたが、本講では、社会へのインパクトが未知数な医療技術・科学技術をテーマに取り上げます。
 遺伝学・遺伝医療について、その法的・倫理的・社会的議論としてどのようなことが考えられるか、その医療技術に恩恵があるとするれば、それをわれわれが適切に享受するためにはどのような法的・政策的な解決法が考えられるのか、といったことを既に経験している社会的な事象から推論しながら、「ああでもない、こうでもない」とい
 ろんな視点や価値観に触れながら考えることで、新たな社会事象に対する法的思考能力を身につけることを目的とします。
 唯一無二の正解はありません。「ああでもない、こうでもない」と思索の旅に出てみましょう。

【到達目標】

- (1) 遺伝学・遺伝医療の発展とその実情を学び、そのことにつき様々な立場の人の視点や価値観に触れたり想像したりしながら、新たな法的・倫理的課題を発見することができる。
- (2) 既に社会が経験している事象からの学びをもとに、新たな技術により生じうる法的・倫理的課題を推論し検討することができる。
- (3) その課題を解決するための法的・政策的解決法につき、自由に自分の考えを形成することができる。
- (4) その自分の考えについて、様々な価値観を踏まえたうえで批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 基本的には講義形式としますが、質問等、学生のみなさんの積極的な発言を歓迎します。
- 毎回、リアクションペーパーを配布します。そこで講義の中で自分が考えたことなどを記載してください。それをまとめたもの（匿名）を次の時間に配布し、受講生全員で他の受講生が考えたことや価値観を共有します。
- DVD、新聞記事などを多用する予定です。
- 「法と遺伝学Ⅰ」（春学期）の内容も含め、何か興味のわくトピックのあった学生さんは、どなたでも大歓迎です。医学的な内容にも踏み込みますが、どのテーマも平易な言葉での説明と展開を心掛けますので、安心して受講してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・法と遺伝学Ⅱ 入門	法と遺伝学とは？
第2回	遺伝子解析と研究	何がどこまで分かる？
第3回	遺伝子解析と研究	遺伝情報は誰のもの？
第4回	遺伝子解析と研究	incidental findings って何？
第5回	iPS細胞研究と遺伝子	再生医療の現在
第6回	iPS細胞研究と遺伝子	再生医療の未来
第7回	ミトコンドリア DNA とその可能性	どんな性質があるの？
第8回	ミトコンドリア DNA とその可能性	家族形成はどこまで可能？
第9回	ミトコンドリア DNA とその可能性	遺伝子工学の発展に伴う家族と法における課題
第10回	ゲノム編集技術とヒト・社会	ゲノム編集技術とは
第11回	ゲノム編集技術とヒト・社会	ゲノム編集と社会
第12回	ゲノム編集技術とヒト・社会	ゲノム編集と人間
第13回	ゲノム編集技術とヒト・社会	ゲノム編集と種・環境
第14回	総括	遺伝学領域の先端医療技術と人間の欲望…法的・倫理的・社会的課題と解決

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に必ず予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
 予習をしそびれた者は、授業で扱った箇所を必ず復習すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。
 毎回レジメを配布する。

【参考書】

和田幹彦編・著『法と遺伝学』（法政大学出版局・2005年刊）
 そのほか、テーマに応じて適宜講義時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験による評価（80%）＋平常点：リアクションペーパーの提出による講義への貢献（20%）

【学生の意見等からの気づき】

- 学生さんの理解度・関心を確認しながら進めます。
- ビデオや DVD 教材を多用する予定です。

【Outline and objectives】

“Law and Genetics II” try to think on genetics in medicine and genetic engineering that we are going to face with ELSI (Ethical Legal Social Issues) problems. There is no “one and only” answer to these problems. Your goal is to improve your legal mind and logical thinking ability with your classmates.

POL100AC

政治体制論 I

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、政治における基本制度を、それが前提とし、実現しようとする理念と合わせて論ずる。したがってサブタイトルをつけるとすれば「政治における制度とその理念」となる。

【到達目標】

政治を制度とその理念の両側面から同時に考察することによって、穏当な、少なくとも人間性に著しく反しない政治の在り方への手がかりを見出したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この政治の「制度（構造）」と「精神（理念）」の複合的な把握を、下記授業計画に示したようなかたちで、広く政治体制一般を論じることによって試みる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方
第 2 回	序論	政治体制とは何か
第 3 回	民主体制	原理
第 4 回	自由民主主義体制	政府の構成方法による類型
第 5 回	自由民主主義体制	選挙制度による類型
第 6 回	自由民主主義体制	政治文化による類型
第 7 回	自由民主主義体制	ポピュリズムをいかに位置づけるか
第 8 回	振り返り	振り返り
第 9 回	非民主体制	原理
第 10 回	権威主義体制	事例 1
第 11 回	権威主義体制	事例 2
第 12 回	全体主義体制	事例 1
第 13 回	全体主義体制	事例 2
第 14 回	結び	結び

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を毎回まとめることが出来るように復習を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない予定です。

【参考書】

・"Comparing Political Regimes"
・"Staatsformen im 21.Jahrhundert - Politische Systeme und politische Theorie"

このほかにも参考文献は逐次、講義内であげてゆきます。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と期末試験で行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Diese Vorlesung ist ein Versuch, um ein Überblick über die Vergleichende politische Regime zu geben.

English Keyword: comparing political regimes

POL100AC

政治体制論 II

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、政治における基本制度を、それが前提とし、実現しようとする理念と合わせて論ずる。したがってサブタイトルをつけるとすれば「政治における制度とその理念」となる。

【到達目標】

政治を制度とその理念の両側面から同時に考察することによって、穏当な、少なくとも人間性に著しく反しない政治の在り方への手がかりを見出したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この政治の「制度（構造）」と「精神（理念）」の複合的な把握を、下記授業計画に示したようなかたちで、担当者が考える政治体制論を講じることによって試みる。その際、分節政治理論と全体主義の時代経験の理解に取り組む予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	分節政治理論と全体主義
第 2 回	分節政治理論	農村型社会と都市型社会
第 3 回	分節政治理論	近代化の過渡媒体国家
第 4 回	分節政治理論	大衆政治の問題性
第 5 回	分節政治理論	シビル・ミニマム
第 6 回	分節政治理論	多元・重層化
第 7 回	分節政治理論	官僚内閣制・国会内閣制
第 8 回	振り返り	振り返り
第 9 回	天皇制国家の支配原理	装置と生活共同態
第 10 回	全体主義の時代経験	戦争
第 11 回	全体主義の時代経験	政治
第 12 回	全体主義の時代経験	政治
第 13 回	全体主義の時代経験	生活
第 14 回	結び	結び

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を毎回まとめることが出来るように復習を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない予定です。

【参考書】

・松下圭一『現代政治の基礎理論』
・藤田省三『天皇制国家の支配原理』
・藤田省三『全体主義の時代経験』
このほかにも参考文献は逐次、講義内であげてゆきます。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と期末試験で行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Diese Vorlesung ist ein Versuch, um ein Überblick über die Vergleichende politische Regime zu geben.

English Keyword: comparing political regimes

POL200AC

ジェンダー論 I

衛藤 幹子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で「思想・歴史」の分野に属する科目で、反主流あるいは周縁の視点から政治学を読み解くものです。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既成の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論 I では、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。言わば、ジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代政治を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政治的なるものを、従来にはない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、政治学の既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。このような学びを通して、学生にはヒューリスティックにものごとを問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。本講義は、上辺の知識ではなく、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は大きく4つのテーマから構成されます。すなわち、身体、労働、自由、平等です。これらを切り口にジェンダーの基本的な考え方を学びます。授業で、図表、写真などスライドを随時使用します。授業では対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。授業中に、学生の意見をたびたび聞くことになります。一方、グループワークは、7～8人の小をつくり、グループ毎に授業で取り上げたテーマについて議論し、その結果を発表するという内容です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図 講義の全体像の理解	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
第2回	データからみるジェンダー格差 社会的現実の認識	様々なデータから政治、経済、社会的な男女格差をみる
第3回	「女性」という集団の差異化	女性を一つの「社会集団」と括することで見てくるもの
第4回	「存在」と「名づけ」：「名づけ」の重要性	我われが今ここに存在することの意味を「名前」から考察
第5回	フェミニスト・アプローチ	「横軸の革命」としてのフェミニズムについて検討し、フェミニストのアプローチについて議論
第6回	ジェンダー概念	セックスとジェンダー ジェンダー概念の広がり可能性
第7回	身体の支配：家父長制	女性の身体（性）の支配としての家父長制 家父長制とは何か、それはどのようにして生まれ、社会に浸透したのか
第8回	身体の支配：家父長制	か女性の労働からの疎外 ジェンダー分業イデオロギーはいかにつくられ、社会に流布していったの
第9回	労働の支配：ジェンダー役割	女性の労働からの疎外 ジェンダー分業イデオロギーはいかにつくられ、社会に流布していったの
第10回	自由：公私二元論、女性の領分	公的領域と私的領域との分断と女性の市民的自由からの隔離
第11回	自由：公私二元論、女性の領分	公私二元論が政治理論に埋め込まれた過程の検証
第12回	平等：普遍的平等の不平等	古典的自由主義と近代自由主義における平等の変化

第13回 平等：普遍的平等の不平等 近代自由主義が達成した普遍的平等を多面的に検証
第14回 授業内試験 持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献を読むことを薦めます。

【テキスト（教科書）】

衛藤幹子『政治学の批判的構想—ジェンダーからの接近—』（政大出版局、2017年）

【参考書】

三浦まり・衛藤幹子編著『ジェンダー・クォーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』（明石書店、2014年）

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。難しい内容もありますので、レジュメによる補完、丁寧な説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This lecture is part of the category of political theory and history. It aims to examine politics from viewpoints of socio-politically marginalized people. This viewpoints are rephrased as “gender perspectives”. Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens. This lecture will provide you for a fresh spectrum of politics, different from the mainstream of political studies or political science.

POL200AC

ジェンダー論Ⅱ

衛藤 幹子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で「思想・歴史」の分野に属する科目で、反主流あるいは周縁の視点から政治学を読み解くものです。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬化化した観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。ジェンダー論Ⅰが基礎編という位置づけであるのに対し、本講義のⅡはジェンダーの視点を実際に使って政治学の課題を読み解く応用編にあたります。従って、このⅡの受講生はⅠを履修していることが望まれます。本講義では、現代政治学の中心課題の一つである民主主義に焦点を当て、民主政治の「非」あるいは「反」民主性を議論します。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代政治を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政治的なるものを、従来になく新しい観点から再考することを目指します。すなわち、政治学の既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。このことをとおして、政治や社会の出来事を独自の視点で分析し、ヒューリスティックな解決方法を見つけ出す能力を養います。すなわち、本講義は受講生の自己開発的な知性を磨くことを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ジェンダー概念を用いて民主主義、代表制、選挙、政党、政治文化、市民社会といった政治のさまざまな局面を検討していく予定です。また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的 講義の見取り図 講義の全体像の理解	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
第2回	民主主義：多様性と現代民主制度	民主政治における政治的代表制の意義と限界
第3回	女性、少数派の政治代表	なぜ女性や少数派は過少代表に甘んじているのか、その要因の多面的考察
第4回	過少代表の要因（総論）	選挙制度、政党の姿勢、ジェンダー平等意識、福祉国家レジームから検証
第5回	各論（1）選挙制度	世界の選挙制度 少数派と選挙制度
第6回	各論（2）選挙制度	日本の選挙制度と女性、若者、社会的少数派
第7回	各論（3）政党	政党は候補者のゲートキーパー
第8回	各論（4）政党	日本の政党と社会的少数派
第9回	各論（5）政党	政党制度と選挙制度の相互抑制、あるいは相互促進
第10回	各論（6）政治と文化	世界価値調査からみる政治文化のトレンド
第11回	各論（7）政治と文化	日本の伝統的政治文化の影響
第12回	市民社会と民主主義	市民社会は民主主義実践の場として期待されることが多いが、果たして市民社会は平等で自由な場なのか。
第13回	市民社会と民主主義	市民社会をジェンダーの視点から批判的に検討
第14回	授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の下調べやノート整理、紹介文献を読むことなどを薦めます。

【テキスト（教科書）】

- ①衛藤幹子『政治学の批判的構想—ジェンダーからの接近』法政大学出版局（2017年）
- ②三浦まり・衛藤幹子編著『ジェンダー・クォーター世界の女性議員はなぜ増えたのか』明石書店（2014年）を教科書として使用します。
- ③講義内容の概要をレジュメ形式で記載したプリントや配布します。

【参考書】

必要に応じて、参考文献を紹介します。なお、紹介文献については、プリントに提示します。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（授業内、持ち込み不可）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。

【Outline and objectives】

This lecture is part of the category of political theory and history. It aims to examine politics from viewpoints of socio-politically marginalized people. This viewpoints are rephrased as “gender perspectives”. Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens. This lecture will provide you for a fresh spectrum of politics, different from the mainstream of political studies or political science.

POL200AC

コミュニティ論 I

西谷内 博美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「コミュニティ」を、漠然とした近所付き合いではなく、社会的機能を担うまとまりとして捉えることができるようになる。そのことで、自分がコミュニティとどのようにかかわるべきか、今後コミュニティはどうあるべきかなど、コミュニティについて主体的に考えることができるようになる。

授業の前半ではコミュニティについての一般的な理論や概念を学びます。後半ではコミュニティの「地域共同管理」に注目し、最終的には受講生の身近な地域共同管理実践について簡単な調査をし報告してもらいます。

【到達目標】

コミュニティの多様性を捉えるための、分析軸や概念を理解し活用することができる。

地域共同管理のあり様を、事例に即して捉え、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式ですが、think-pair-share やピアインストラクション等アクティブラーニングの手法を多く用います。

また予習として、毎回簡単な宿題を実施することで、授業内容についての思考準備をしてもらいます。授業内ではエクササイズやクイズを実施し、授業終了後にはアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と進め方を共有する。特に、アクティブラーニングの手法を実践し、当授業において要請される主体的な授業参加に対する自身の適合性を確認する。
第 2 回	近代化	近代国家の形成により、地域社会の役割やあり方が変容していったことを概観する。
第 3 回	都市化Ⅰ：都市の包容力	都市化による地域社会の変化を、異質性に対する包容力に注目して考察する。
第 4 回	都市化Ⅱ：都市の排他性	異質性を包容する都市コミュニティにおける、しかし同調圧力の側面について考察する。
第 5 回	コミュニティの多様性	「コミュニティとアソシエーション」「公共と共同」など、コミュニティの多様性を把握するための概念を習得する。
第 6 回	町内会論	日本の代表的な住民組織である自治会・町内会の、コミュニティとしての特徴を確認する。
第 7 回	中間テスト	コミュニティをめぐる分析軸や概念についての習得達成度を確認する。また、ピアインストラクションを通して、さらに理解を深め・定着させる。
第 8 回	日本の廃棄物管理	課題遂行に必要な背景知識を共有する。
第 9 回	地域的まとまり論Ⅰ	地域的まとまり論に依拠し、「地域的まとまり」「意思決定」「公共サービス」といった地域共同管理を捉えるための概念を理解し、使いこなせるように練習する。
第 10 回	地域的まとまり論Ⅱ	地域的まとまり論に依拠し、自治体とコミュニティの重層性、およびコミュニティの公的性質についての理解を深める。
第 11 回	課題内容の確認	コミュニティの多様性に即してそれぞれの地域共同管理の性質を分析することができるよう、課題項目の捉え方を再確認し練習する。
第 12 回	インドの地域共同管理	コミュニティについての、日本国内の多様性に加え、世界における多様性についての洞察を深める。
第 13 回	ふりかえりとレポート報告Ⅰ	授業内容をふりかえるとともに、その集大成としての課題レポートについて、いくつかの優秀作品が選抜され、当該受講生がクラス全体に報告する。また、講師がピアインストラクションのデモンストレーションを行う。

第 14 回 レポート報告Ⅱ

いくつかのグループを構成し、受講生全員がグループ内で課題レポートを報告する。また、ピアインストラクションを通して、課題項目の分析視点について、自身の達成度を確認するとともに、理解を深め・定着させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業準備として、毎回簡単な宿題を行う。

授業後は、レジュメに紹介する参考文献にあたり、講義内容についての理解を深めておく。

期末課題については、調査のうえレポート（報告レジュメ）を作成し、報告の練習をする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません

【参考書】

名和田是彦, 2009, 「現代コミュニティ制度論の視角」名和田是彦編『コミュニティの自治——自治体内分権と協働の国際比較』日本評論社, 1-14.
中田実・板倉達文・黒田由彦編, 1998, 『地域共同管理の現在』東信堂

【成績評価の方法と基準】

レポート 40 %、グループワーク 10 %、中間テスト 30 %、発言シート 10 %、リアクションペーパー（宿題・エクササイズを含む）10 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

This course introduces basic concepts of community and its daily practices. First, we will overview major terms and theories about community. Second, we will focus on a function of community, which is local management. We share some basic concepts about local management, and students themselves try to investigate actual practices based the perspectives we will have shared.

POL200AC

コミュニティ論II

西谷内 博美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティ論Iでは「コミュニティ」に焦点をあてるのに対し、コミュニティ論IIでは「コミュニティ政策」に焦点をあてます。コミュニティの機能を効果的に引き出しうる制度や政策について理解を深めることが目的です。前半では、コミュニティ政策の意義、変遷、事例等、基礎的な事項を概観します。最終的には、受講生の身近なコミュニティ政策について報告してもらうべく、後半ではコミュニティ政策の制度設計や事例に即した多様性等について理解を深めます。

【到達目標】

「コミュニティ」を地域的まとまりとして捉えることができる。
コミュニティ政策の特徴を、事例に即して捉え、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式ですが、think-pair-share やピアインストラクション等アクティブラーニングの手法を多く用います。また予習として、毎回簡単な宿題を実施することで、授業内容についての思考準備をしてもらいます。授業内ではエクササイズやクイズを実施し、授業終了後にはリアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と進め方を共有する。特に、アクティブラーニングの手法を実践し、当授業において要請される主体的な授業参加に対する自身の適合性を確認する。
第2回	コミュニティがなかったら…	コミュニティ（共同体感情による結合）の必要性を、自分事として、仮想事例に即して考える。
第3回	地域的まとまりとしてのコミュニティ	地域的まとまり論に依拠し、コミュニティ政策の対象が、バラバラの市民ではなく、コミュニティであることを理解する。
第4回	地域社会の変容	前近代の村落共同体から、近代化と都市化を経て現在の「コミュニティ」へ変容した、地域社会の変遷を概観する。
第5回	合併後の地域運営	市町村合併のあとに、身近な地域的まとまりの運営組織がいかに保障されるのか、その諸類型を概観する。
第6回	日本のコミュニティ政策の変遷	日本のコミュニティ政策の経緯を、合併後に「何もしなかった」ことから、1960年代にコミュニティ政策が要請され、以降展開していく経緯を概観する。
第7回	コミュニティ政策の事例（レポート報告I）	受講生による、任意のコミュニティ政策についての相互報告。公的な諸政策の中から、コミュニティ政策を特定できることを確認する。また多くの事例にふれることでコミュニティ政策への洞察を深める。
第8回	自治体とコミュニティ	コミュニティ政策の主要な実施主体となる基礎自治体と、政策の対象となるコミュニティとの関係について考察する。
第9回	コミュニティ政策の類型	分権型やプロジェクト型など、日本におけるコミュニティ政策の諸類型を概観する。
第10回	課題の確認I：制度設計	課題項目に即して、法律上の根拠や住民組織の権限など、コミュニティ政策の制度設計について考察する。
第11回	課題の確認II：細目	課題項目に即して、区割りや事務所等、コミュニティ政策を運用するしくみについて考察する。
第12回	インドのコミュニティ政策I 農村	課題のデモンストレーションとして、また世界の事情に触れる機会として、インドにおけるコミュニティ政策を2回に分けて考察する。1回目は農村部のコミュニティ政策について。

第13回 インドのコミュニティ政策II 都市

第14回 レポート報告II

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業準備として、毎回簡単な宿題を行う。
授業後は、レジュメに紹介する参考文献にあたり、講義内容についての理解を深めておく。
レポート課題は中間と期末の2回。それぞれ、調査のうえレポート（報告レジュメ）を作成し、報告の練習をする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません

【参考書】

名和田彦編『コミュニティの自治——自治体内分権と協働の国際比較』日本評論社。

【成績評価の方法と基準】

レポートI 20%、レポートII 40%、グループワーク 10% ×2、発言シート 10%、リアクションペーパー（宿題・エクササイズを含む）10%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

This course explores community policies. First we will overview basic ideas about community policy, why it is needed, how it is developed, how actual practices look like, and so on. Second, we will share basic analytical concepts about community policy so that students are able to go through the term project, in which they analyze the local community policy of their hometown.

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅰ

内田 俊一

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治に関わる思想・歴史や政策をさらに深く考え、グローバルな視点を身につけるために、ドイツ語の文献を読んで、ドイツ語読解力を鍛える。

【到達目標】

ドイツ語の新聞・雑誌や基礎的な文献を読みこなす能力を身につけることができる。同時にドイツ語圏の政治（社会や文化をも包含する広い意味での）についての知識を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の文献を読んで訳してもらい、適宜解説を加えます。とりあえず、ドイツの代表的週刊誌『シュピーゲル』のオンライン版の日本に関する記事を読み、受講者のドイツ語の力を確認したいと思います。これは、日本に関する記事ならば意味をとりやすいだろうと思うからですが、それだけではなく、ドイツ人の視点から日本の出来事を見れば、日本にいて同じ出来事を見ているのとは違う側面が浮かび上がってくるからです。これが本来の意味でのグローバルな見方を身につけるということだと思います。その後はさらに『シュピーゲル』オンライン版から、ドイツや世界各国の話題を取り上げようと思っておりますが、受講者の関心如何で、他の文献を取り上げることも考えられます。最初は丁寧に文法的説明をしながらゆっくり進み、徐々にスピードを上げていきたいと思っています。授業の進め方の細かい点については、参加者の人数や熱意の度合いに左右される面もありますから、最終的には受講する諸君との話し合いで決めたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	日本の政治に関する記事	講読
第 3 回	日本の社会に関する記事	講読
第 4 回	日本の文化に関する記事	講読
第 5 回	ドイツの政治に関する記事	講読
第 6 回	ドイツの社会に関する記事	講読
第 7 回	ドイツの文化に関する記事	講読
第 8 回	他の文化圏の政治に関する記事	講読
第 9 回	他の文化圏の社会に関する記事	講読
第 10 回	他の文化圏の文化に関する記事	講読
第 11 回	日本の政治に関する記事	講読
第 12 回	ドイツの政治に関する記事	講読
第 13 回	他の文化圏の政治に関する記事	講読
第 14 回	政治に関する総合的な記事	講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習を行う。

【テキスト（教科書）】

プリントして配布する予定です。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点による評価 100 %

【学生の意見等からの気づき】

履修者数が少ないので、授業改善アンケートは実施していません。

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅱ

内田 俊一

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治に関わる思想・歴史や政策をさらに深く考え、グローバルな視点を身につけるために、ドイツ語の文献を読んで、ドイツ語読解力を鍛える。

【到達目標】

ドイツ語の新聞・雑誌や基礎的な文献を読みこなす能力を身につけることができる。同時にドイツ語圏の政治（社会や文化をも包含する広い意味での）についての知識を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の文献を読んで訳してもらい、適宜解説を加えます。春学期と同様に『シュピーゲル』オンライン版の記事を読むつもりですが、秋学期は特に、世界各国の記事を対比しながら読むことに重点を置きたいと思っています。ただし、受講者の関心如何によっては、ほかの文献を取り上げることも考えられます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	日本の政治に関する記事	講読
第 3 回	ドイツの政治に関する記事	講読
第 4 回	他の文化圏の政治に関する記事	講読
第 5 回	日本の社会に関する記事	講読
第 6 回	ドイツの社会に関する記事	講読
第 7 回	他の文化圏の社会に関する記事	講読
第 8 回	日本の文化に関する記事	講読
第 9 回	ドイツの文化に関する記事	講読
第 10 回	他の文化圏の文化に関する記事	講読
第 11 回	政治に関する総合的な記事	講読
第 12 回	社会に関する総合的な記事	講読
第 13 回	文化に関する総合的な記事	講読
第 14 回	政治に関する総合的な記事	講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習を行う。

【テキスト（教科書）】

プリントして配布する予定です。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点による評価 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

受講者数が少ないので、授業改善アンケートは実施していません。

POL200AC

ロシア政治史 I

油本 真理

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシア政治史」では主に 20 世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史 I」では、帝政期からソ連期を経て現在に至るまでの通史を概観する。（本講義はテーマ別の検討を行う「ロシア政治史 II」に続く。「ロシア政治史 II」を受講予定の学生は本講義を先に受講することが望ましい。）

【到達目標】

(1) ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2) 政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、本講義の対象地域について
2	導入	ロシア国家の起源
3	帝政ロシア①	ピョートル 1 世以後のロシア帝国
4	帝政ロシア②	「大改革」とその後
5	ロシア革命	ロシア革命の経過
6	ソ連①	レーニンからスターリンへ
7	ソ連②	スターリン期・「大祖国戦争」
8	ソ連③	後期ソ連時代の体制と社会
9	ソ連④	「ペレストロイカ」の経過
10	体制転換	ソ連体制からの移行
11	現代ロシア①	移行後のロシア
12	現代ロシア②	プーチン大統領の登場
13	現代ロシア③	ロシアの現在と今後の展望
14	まとめ	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な資料は配布する。

【参考書】

栗生沢猛夫『図説ロシアの歴史増補新装版』河出書房新社、2014 年。
和田春樹編『ロシア史（新版 世界各国史）』山川出版社、2002 年。
川端香男里・佐藤経明編『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、期末試験（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【Outline and objectives】

This course will explore the history and politics of Russia. The first part of the course will be structured in a chronological order. The discussion topics will include causes and consequences of the Russian Revolution, characteristics of Soviet rule, collapse of the Soviet Union, regime change (including transition to market economy), and recent development of authoritarianism under Vladimir Putin. No prior knowledge of Russian history and politics is required.

POL200AC

ロシア政治史 II

油本 真理

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシア政治史」では主に 20 世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史 II」では、様々なテーマを取り上げ、ソ連・ロシアの事例を他国の経験とも比較しながら検討する。なお、本講義では時代を横断してテーマ別の検討を行うため、ロシア史についての前提知識がない場合は通史を概観する「ロシア政治史 I」を先に受講することが望ましい。

【到達目標】

(1) ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2) 政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の進め方、取り上げるテーマについて
2	政治体制①	指導者
3	政治体制②	体制と市民
4	国家と社会①	政党・社会運動
5	国家と社会②	宗教と政治
6	国家と社会③	家族・ジェンダー
7	政治と経済①	国家と市場
8	政治と経済②	福祉
9	政治と経済③	資源をめぐる政治
10	中央地方関係①	政治地理
11	中央地方関係②	統治構造
12	民族と政治①	民族と連邦制
13	民族と政治②	ナショナリズム
14	まとめ	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な資料は配布する。

【参考書】

松戸清裕・浅岡善治・池田嘉郎・宇山智彦・中嶋毅・松井康浩編『ロシア革命とソ連の世紀（全 5 巻）』岩波書店、2017 年。
川端香男里・佐藤経明編『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、期末試験（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【Outline and objectives】

This course will explore the history and politics of Russia. The second part of the course will be structured according to the relevant topics. The discussion topics will include political regime, state - society relationship, politics and economy, center - periphery relationships, and ethnicity and nationalism. In each class, we will try to focus on the continuity and discontinuity between the Soviet Union and present Russia. Students who have no prior knowledge of Russian history or politics are recommended to take the "Russian political history 1" course in advance.

POL300AD

アメリカ政治外交史

森 聡

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの建国から第二次世界大戦までの政治と外交の歴史について、国内政治上の変化が対外政策にいかなる変化を生じさせたのかを解説する。また、アメリカの対外関与が、いかなる国際的な要因の変化を受けながら射程を広げていったのかを説明する。さらに、資料を活用しながら、重要な歴史的局面における政策転換に作用した諸要因を明らかにする。

【到達目標】

次の到達目標を目指す。第一に、アメリカの政治制度の特徴と由来についての専門的な知識を習得する。第二に、アメリカ外交を国内政治と対外政策との相互連関という視点から理解できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。アウトラインを配布し、パワーポイントを使用しながら講義を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	合衆国憲法の政治制度	連邦制と三権分立。
2	大統領と連邦議会の外交権限	大統領の権限。連邦議会の権限。官僚機構の役割。
3	独立革命	植民地から合衆国憲法の制定まで。
4	フランス革命への対応と1812年の米英戦争	米国内における権力闘争と外交。
5	モンロー・ドクトリン	欧州諸国との駆け引き。
6	南北戦争と対外関係	南北戦争と米国の外交
7	領土拡張と門戸開放政策	西方への拡張。アジアへの関与。
8	革新主義と対アジア政策	ローズヴェルト、タフト、ウィルソンの時代の政治と外交。
9	第一次世界大戦とパリ講話会議	第一次世界大戦への参戦過程と戦後処理。
10	1920年代の共和党政権の内政と外交、中南米での善隣外交	戦間期の政治。ドル外交の展開。
11	大恐慌とニューディール	1930年代の政治。ニューディール連合の結成。
12	1930年代のアジアとヨーロッパ	台頭する日本とドイツへの対応。
13	第二次世界大戦をめぐる外交と戦略	レント・リース法の制定。戦争準備。日米交渉。
14	戦時体制と終戦外交	第二次世界大戦期の内政と外交。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業を復習し、主要な出来事の発生要因を整理しておくといよい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史（第二版）』、東京大学出版会、2012年。
斎藤真、久保文明編『アメリカ政治外交史教材・英文資料選（第二版）』、東京大学出版会、2008年。

【成績評価の方法と基準】

期末に筆記試験を実施し評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

前回の授業のポイントを、次回の講義の冒頭で確認のために解説する。

【現代アメリカ外交、国際政治学】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障
<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など
<主要研究業績>
・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," *Asia Pacific Review*, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.
・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018年7月。
・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第58号（2016年4月）、23-48頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016年、39-91頁。
・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968年』、東京大学出版会、2009年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。など

【Outline and objectives】

This is a lecture course on the history of American politics and diplomacy covering the period from the founding of the nation to the Second World War. It will shed light on how domestic political factors and international factors affected U.S. foreign engagement. Documents will be used from time to time to explain how historically significant decisions were influenced by various factors.

POL300AD

現代のアメリカと世界

森 聡

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次世界大戦以降のアメリカの対外関与に関する専門的な知識を身につけるとともに、対外政策過程をめぐる政治力学の機微についての理解を深め、意思の決定や実行に関する実践的な知識も習得する。

【到達目標】

・第二次世界大戦以降のアメリカの対外政策の歴史を踏まえて、現在のアメリカ外交を理解できるようになる。
・アメリカの対外政策の立案・決定・実行をめぐる政治力学の複雑さに関する理解を深め、米国内の多様なアクターによる駆け引きと、諸外国との相互作用の接点として対外政策を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式による授業とする。（なお、履修者数が少ない場合には、教員の判断でゼミに準じた形式を導入する可能性もある。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカの対外関与	アメリカの対外関与のパターン
第 2 回	アメリカの国際秩序観	一国主義とリベラル国際主義の起源と融合
第 3 回	冷戦の起源とアメリカ	アメリカによる戦後秩序構想
第 4 回	冷戦期の封じ込め戦略（その 1）	トルーマン政権の初期封じ込め戦略と NSC68
第 5 回	冷戦期の封じ込め戦略（その 2）	アイゼンハワー政権のニュールック戦略と、ケネディ・ジョンソン政権の柔軟反応戦略
第 6 回	冷戦期の封じ込め戦略（その 3）	ニクソン・フォード政権のデタント外交と、カーター政権の対外政策
第 7 回	冷戦期の封じ込め戦略（その 4）	レーガン政権の巻き返しと、ブッシュ I 政権の対外政策
第 8 回	ポスト冷戦期のアメリカの戦略（その 1）	クリントン政権の対外政策
第 9 回	ポスト冷戦期のアメリカの戦略（その 2）	ブッシュ II 政権の対外政策
第 10 回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その 1）	オバマ政権の対外政策
第 11 回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その 2）	オバマ政権の対アジア戦略
第 12 回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その 3）	トランプ政権登場の背景
第 13 回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その 4）	トランプ政権の対外政策
第 14 回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その 5）	トランプ外交の行方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義内容を復習されたい。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）により評価する。（履修者数が 20 名に満たない場合には、レポート課題に切り替える可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

授業冒頭で、前回の要点を振り返る。

【現代アメリカの外交・安全保障政策】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

<主要研究業績>

・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," *Asia Pacific Review*, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018 年 7 月。

・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、

『レヴァイアサン』第 58 号（2016 年 4 月）、23-48 頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016 年、39-91 頁。

・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968 年』、東京大学出版会、2009 年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。

など

【Outline and objectives】

The objective of this course is to provide class participants with specialized knowledge relating to U.S. foreign policy after the Second World War, and thereby enable them to deepen their understanding of the politics of foreign policy-making, and gain practical knowledge related to decision-making and implementation of U.S. foreign policy.

LAW200AB

法律学特講（現代中国の法と社会 I）

牟 憲魁

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期集中/Intensive(Fall)
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は裁判と法コース、行政・公共政策と法コース、国際社会と法コースおよび文化・社会と法コースの選択科目であり、公法を中心として現代中国の法と社会の特徴を解説する。授業の目的は、中国の政治、行政、裁判、文化などについての基礎的な知識を学ぶことである。

【到達目標】

到達目標は、中国の社会について法の側面から理解を深め、所属コースを履修するための基礎となる能力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

レジュメ・資料を配布する予定。質問応答と議論も交えながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基本的人権	人権の観念, 社会事情
第 2 回	憲法の解釈と適用	憲法解釈権、憲法と裁判
第 3 回	統治システム	国家構造、地方制度
第 4 回	全人代と国務院の関係	全人代、常務委員会、国務院
第 5 回	裁判制度	裁判所の構成、司法改革
第 6 回	監察制度	監察委員会の権限行使
第 7 回	法治行政	行政法の法源、行政立法
第 8 回	行政法の整備	行政に対する統制の働き
第 9 回	行政救済システム	行政不服審査、行政訴訟
第 10 回	都市化と法	不動産バブル、都市生活
第 11 回	教育と法	義務教育、大学教育、大学院、法曹養成
第 12 回	インターネットと法	個人による生放送、電子商取引
第 13 回	携帯電話と法	QQ、微信、支付宝
第 14 回	旅行と法	ホテル、各交通手段の利用上のルール

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

『現代中国法入門第 7 版』（高見澤磨・鈴木賢・宇田川幸則 有斐閣、2016 年）
『入門中国法』（田中信行編 弘文堂、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

レポート（1 回）40 % 及び平常点 60 % により行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This lecture introduces basic knowledge of Chinese law focusing on public law, and explains the law and society of modern China.

POL200AD

Global Governance

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The students will learn about the basic elements of global governance, including its meaning, key actors, and various types of global governance. They will learn how global governance has evolved over the years in this increasingly globalized world. The students will also study the dilemmas of global governance and challenges for the future.

【到達目標】

Through this course, the students will gain a deeper understanding of global governance that has evolved with the changing situation of the world. This includes the role of various actors and interaction among them in global governance, and how political, economic, social, and other factors affect the contents and forms of global governance. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」に強く関連。「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

Bearing in mind the threats and opportunities that the world is facing, the course will examine global governance in the following areas: international peace and security, economic and social development, human rights, environmental issues, and others. This course will examine the changes that are taking place in the role of nations, international organizations, and non-state actors including the private sector and civil society, as well as the evolving relationship among them in an increasingly globalized and interdependent world. The course will also discuss the gaps and dilemmas of global governance.

The course will be conducted in English. The students are expected to read the assigned materials, listen to the lectures, and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to global governance	What is global governance?
2	Actors in global governance	Actors and institutions in global governance
3	Challenges in global governance	Increasing need and process for global governance
4	Varieties of global governance	Various forms of global governance
5	Globalization and global governance	How globalization has affected global governance
6	Foundations of global governance	Foundations of pieces of global governance
7	United Nations (UN)	UN as centerpiece of global governance
8	Global conferences	Global and summit conferences
9	Non-state actors	Role of non-state actors in global governance
10	Networks and social movements	Non-state actors' networks and social movements
11	Role of states	Role of states in global governance
12	Evolution of global governance	Evolution of global governance and its effects
13	Dilemmas of global governance	Innovations in global governance in the twenty-first century
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must read the assigned advance reading materials for each class. Students are also encouraged to attend seminars and symposiums related to the topic of global governance (within the University or outside).

【テキスト（教科書）】

Margaret P. Karns and Karen A. Mingst, Kendall W. Stiles, International Organizations, the Politics and Processes of Global Governance, Third Edition, Lynne Rienner Publishers, 2015.

【参考書】

- ・ Thomas G. Weiss, Global Governance, Why? What? Whither?, Polity Press, 2013.
- ・ Thomas G. Weiss and Ramesh Thakur, Global Governance and the UN, An Unfinished Journey (United Nations Intellectual History Project Series), Indiana University Press, 2010.
- ・ United Nations Development Programme (UNDP), Human Development Report 2013: The Rise of the South, Human Progress in a Diverse World. New York: UNDP, 2013
- ・ 鈴木基史、『グローバル・ガバナンス論講義』、東京大学出版会、2017
- ・ 笹岡雄一、『新版グローバル・ガバナンスにおける開発と政治—文化、国家政治、グローバリゼーション』明石書店、2016年
- ・ 鈴木佑司・後藤一美（編著）『グローバリゼーションとグローバル・ガバナンス』（法政大学現代法研究所叢書 30）、法政大学出版局、2009年
- ・ 国連開発計画（UNDP）「人間開発報告書 2013：南の台頭—多様な世界における人間開発」、2013年

【成績評価の方法と基準】

Class participation (30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note

POL200AD

外交総合講座

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、日本と国際社会の主要なカウンターパートの外交関係の現状と課題を知るとともに、軍縮問題、移民問題、開発や環境問題といった国際社会が共に直面する越境的な諸問題について、日本の政府のみならず、企業や市民社会もどのように他国の多様なアクターと取り組んでいるのかについても理解を深めることにある。各回の授業に、実務家、ジャーナリスト、研究者、民間企業や NGO からの有識者に講義していただき、質疑応答も活発に行うことによって、政府間関係からでは知りえない広義の「外交」への理解を深める。

【到達目標】

- ・ 国際社会の主要なカウンターパートと日本の外交関係の現状と課題について基本的な知識を身に付ける。
- ・ 国際社会が直面する地球規模の諸問題に対して日本がどのような政策を取り、他の主体（アクター）とどのように協働して取り組んでいるのか、現状と課題を知る。
- ・ 日本の各分野の政策における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に強く関連。「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回の授業に、政府の実務家、ジャーナリスト、研究者、民間企業や NGO から有識者を招いて講義していただき、質疑応答の場も持つことによって、政府間関係だけではなく広義の「外交」の最前線への理解を促す。授業後には講義への理解度を確認するため、支援システムを通じて毎回課題の提出をしてもらう。（*ゲストスピーカーの予定と調整を行うため、授業の順序とトピックは多少変更する可能性あり。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方の説明
2	日本の対アジア外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
3	日本の対米外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
4	日本の対欧外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
5	日本の対アフリカ外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
6	日本の対 UN 外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
7	メディアから見た日本の外交①	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
8	メディアから見た日本の外交②	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
9	日本の民間外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
10	核軍縮と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
11	移民と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
12	人権と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
13	開発と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
14	環境問題と日本の政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義に関連する資料を事前に読んでから授業に臨むこと。授業後には支援システムを利用して課題の提出を必ず行うこと。詳しくは初回の授業で説明する。

【テキスト（教科書）】

特になし。関連資料は毎回事前に配布する。

【参考書】

関連資料は随時授業時に知らせる。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と課題の提出（50%）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

課題提出の締め切り時間に時間の余裕を持たせる。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

アジア太平洋地域の安全保障

<主要研究業績>

主な著書として、“Complex Emergencies and Humanitarian Response” (Union Press, 2018)、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して」『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか」（編著）（2012年、勁草書房）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索」（2013年、国際書院）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して」『グローバルゼーションとアジア地域統合』（2012年、勁草書房）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『人間の安全保障』に向けた東南アジアの現在と課題』（2016年、明石書店）、「The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874,” East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (2010, Japan Association for United Nations Studies) などがある。

[Outline and objectives]

This course provides students with the basic information and challenges of the Japan's policy toward her major counterparts including the United States, Asian nations, European nations, African nations and international institutions. The foreign policy will be analyzed from a wide variety of interdisciplinary perspectives – historical, political, economic, and security relations – and through diverse paradigmatic lenses. The course invites officials from Japanese ministries, journalists, political scientists, experts from businesses and NGOs. Through lectures by guest speakers and question-and-answer sessions, students are expected to gain a better understanding of the Japanese foreign policy from broader perspective and to form their own ideas towards it.

POL100AD

国際協力論 I

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講semester：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国をはじめとする新興国の台頭、米トランプ政権の誕生に象徴される「不寛容と不機嫌」な国内世論の醸成と拡散、地域紛争やテロの続発と難民問題の深刻化など、国際情勢の大きな変動に伴って、まだ誰も答えを見いだせていない人類の難問が次々に生まれている。いわゆる「開発途上国」において発生する様々な問題にどう対応すべきか、開発援助のあり方をどう変えていくべきかも、こうした難問の一つである。

こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたくうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。

次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義のみならず、ディスカッション、グループ・ワーク、ロールプレイング・ゲーム、事前・事後課題の提出を含むインタラクティブな講義とする。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：	講義の目的と概要、成績評価方法等の説明
2	途上国問題とは何か①	「途上国」とはどのような国々なのか、ここでは、何が、なぜ問題になっているのかを、「先進国」と対照しながら考える。
3	途上国問題とは何か②	「途上国」と総称される国々は非常に多様な存在である。途上国をいろいろな視点からカテゴリー分け（新興国や低所得国等の経済力による分類、地域による分類、紛争後からの復興を目指す諸国等の課題による分類等）しながら、途上国が直面する多様な課題を掘り下げて分析する。
4	途上国問題の歴史①	途上国問題はどのような歴史的展開を経てきたのかを、米ソ冷戦終結前までの国際政治経済史に位置づけながら考える。
5	途上国問題の歴史②	途上国問題はどのような歴史的展開を経てきたのかを、冷戦終結以降の国際政治経済史に位置づけながら考える。

6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO等）が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODAにはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本のODAの代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を旨とした技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	ロールプレイング・ゲーム：途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター（二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等）の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	授業内容の振り返りと総括	これまでに学習したことを振り返ったうえで、今後学習すべきことを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、ロールプレイングゲームの事前準備（交渉戦略の策定）や事後報告（交渉結果報告レポートの作成・提出）等を行う。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学：「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。
木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開：途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。
木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊：開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

授業中に提出を求める課題（40%）と最終試験（60%）で成績を評定する予定であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生参加の度合いを高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

POL100AD

国際協力論Ⅱ

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講semester：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国をはじめとする新興国の台頭、米トランプ政権の誕生に象徴される「不寛容と不機嫌」な国内世論の醸成と拡散、地域紛争やテロの続発と難民問題の深刻化など、国際政治経済情勢の大きな変動に伴って、まだ誰も答えを見いだせていない人類の難問が次々に生まれている。いわゆる「途上国」において発生する様々な問題にどう対応すべきか、開発援助のあり方をどう変えていくべきかも、こうした難問の一つである。

こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたくうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性がある（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの意見の発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に必要な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界のHIV-AIDS患者の7割が集中するとされ、特に南アフリカ共和国では30代前半の女性の罹患率が36%という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。
3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族は共存・和解させるにはどうすればよいか」を、1990年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。

- 5 途上国が直面する多様な課題④ 1970年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようににはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようににはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいまなのか？」という問いを検討する。
- 6 開発思想と援助手法① 「汚職腐敗がひどい独裁国家に対しては援助を行うべきではない」という主張の是非を検討する。
- 7 開発思想と援助手法② これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実 (post-truth) の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
- 8 近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序① 2015年に採択されたSDGs (持続可能な開発目標) を読み、2000年に策定されたMDGs (ミレニアム開発目標) と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
- 9 近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序② 「2000年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行 (AIIB) 等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。
- 10 近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③ 第二次大戦における敗北から10年も経っていない1954年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。
- 11 日本の政府開発援助 (ODA) の特徴① 日本のODAは借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。
- 12 日本の政府開発援助 (ODA) の特徴② 2015年に日本政府が発表した「開発協力大綱」を読み、日本がODAを通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA大綱 (1992年制定、2003年改訂)」と比較しながら読み解く。
- 13 日本の政府開発援助 (ODA) の特徴③ これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。
- 14 授業内容の振り返りと総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は、第2回から第13回までの講義で取り上げる問題 (シラバスに記載された議論のテーマ) について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー (A4サイズで2枚以内) を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学: 「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。
木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開: 途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。
木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊: 開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

授業で提出を求める課題 (70%) およびディスカッションへの積極的参加の度合い (30%) によって成績を評定する予定であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

POL300AD

平和・軍事研究Ⅱ

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の前半は、戦争を防止し平和管理を保障するために先人たちが考え出した様々な平和方策について綿密な検討を行う。授業の後半は、戦後日本の軍事政策の概要と歩みに関して分析を行ったうえ、日本をめぐる東アジアの軍事情勢の分析を行う。

これらを通じて、国際政治における戦争と平和に関する専門知識と東アジア地域の軍事情勢に関する知識を身につける。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎知識の習得、国際政治への性悪的なアプローチ、東アジア地域の情勢認識、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に教員の講義をもって授業を行うが、理解を助けるために各種の映像物を見せることもある。関係する展示会 (例えば、国際航空宇宙展など) や記念館への展覧や感想文を求めることもある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	平和とは何か	戦争がなければ平和なのか。
第2回	超大国による平和 勢力均衡による平和	過去に存在したり考案された平和構築方法の長短所と効力を検証
第3回	集団安保による平和 軍備競争による平和	過去に存在したり考案された平和構築方法の長短所と効力を検証
第4回	世界政府、国連による平和	過去に存在したり考案された平和構築方法の長短所と効力を検証
第5回	世界政府、国連による平和 地域統合、国際法による平和	過去に存在したり考案された平和構築方法の長短所と効力を検証
第6回	機能主義 (functionalism) による平和	過去に存在したり考案された平和構築方法の長短所と効力を検証
第7回	終戦の状況と戦後日本のスタート	平和憲法、自衛隊創設、サンフランシスコ講和条約
第8回	日本の軍事政策1	日米安保
第9回	日本の軍事政策2	核政策・防衛大綱
第10回	日本の軍事政策3	自衛隊とその装備
第11回	領土問題	個別の領土問題を概観
第12回	中国の軍事政策	中国の核戦力・通常戦力
第13回	北朝鮮の軍事政策	核とミサイル戦力 南の韓国に対する戦略
第14回	韓国の軍事政策	北に対する戦略 通常戦力、兵役制度

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参考文献を読み、感想文の提出を求められることもある。

【テキスト (教科書)】

開講時に提示する。

【参考書】

開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 (20%)、試験 (80%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The first half of this course introduces the ideas and measures to achieve international peace which many scholars and politicians have envisioned.

It explains its details of ideas and will check how and why it will work or not. The second part of this course introduces the history of post-war Japan's military policy and the military situation of East-Asia surrounding Japan.

The aim of this course is to help students understand the correlation of war and peace, and the knowledge of Japan's military policy and military situation surrounding Japan.

POL300AD

オセアニアの政治と社会 I

長島 怜央

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オセアニアにおける人類進出や植民地主義・グローバル化の展開を確認したあと、現代のオセアニアの人びとが経験しているさまざまな社会問題や社会現象を取り上げる。オセアニア（とくに太平洋の島々）は日本に暮らす私たちとは縁遠い地域であり、そこには私たちとかなり異なる生活や考え方をしている人びとがいると思われるかもしれない。そうした考えを完全に覆すことはできないが、ある程度は否定していくことが本科目の目的である。単に文化の違いとして片付けられがちなことを、歴史的な背景も踏まえて理解する。また、植民地主義やグローバル化のなかでオセアニアの人びとが抱えている諸問題を見ていくことを通して、私たち自身に関する理解を深める。

【到達目標】

- ・オセアニアの歴史に関する基本的知識を身につける。
- ・オセアニアに関する学習を通して、グローバル化や植民地主義に関する理解を深める。
- ・オセアニアにおける個々の社会問題や社会現象を歴史的背景から理解する。
- ・日本社会においてオセアニアの島々がどのように表象・認識されてきたかを批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で資料やレジュメを配布し、映像資料を活用しながら進める。参加者には毎回リアクションペーパーを提出してもらおう。授業への積極的な参加（発言等）を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オセアニアとは何か	植民地主義とグローバル化、海思想、文化復興運動について
2	オセアニアへの人類の進出と暮らし	人類はなぜ、どのようにして海に出て、拡がっていったのか。どのような社会や文化があったのか/あるのか
3	オセアニアとヨーロッパ	オセアニアはヨーロッパ人によって「発見」されたのか。海と島は誰のものか。マゼラン、クック、宣教師たち
4	近代世界システムのなかのオセアニア	ハワイはなぜアメリカになったのか。太平洋におけるプランテーションや捕鯨船を生き抜いた人びとについて考える
5	貧困、不平等	先住民と移住者にとっての植民地主義とレイシズム
6	健康、食文化	伝統的な暮らしと食文化・嗜好品と欧米からの影響について
7	先住民のアイデンティティと権利	人びとの意識がなぜ、どのように変わったのか。先住民の権利とは何か。それに対するバックラッシュをどう考えるか
8	言語	先住民言語の衰退と復興。なぜ衰退した言語を再び用いるのか
9	宗教	宣教師の布教活動によって多くの人びとがキリスト教に改宗していった。土着の信仰とキリスト教の関係はどのようなものか
10	踊りと歌	なぜフラを踊るのか。「伝統的」なダンスやチャント（詠唱）は本物か、偽物か。太平洋芸術祭も取り上げる
11	タトゥー、入れ墨	なぜタトゥーを彫るのか（入れるのか）。日本におけるタトゥー文化の受容についても考える
12	観光開発	なぜハワイやグアムは観光地として発展したのか。現地社会・住民へのさまざまな影響など、観光開発の諸問題についても考える
13	日本における表象	私たちはオセアニアの島々をどのように認識してきたか。おもに観光とメディアについて考える
14	まとめ	授業の総括を行うとともに、参加者の考えや理解を改めて共有する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や参考書を読んで、予習・復習する。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

- ・石原俊『（群島）の歴史社会学——小笠原諸島・硫黄島、日本・アメリカ、そして太平洋世界』（弘文堂、2013年）
 - ・井上昭洋『ハワイ人とキリスト教——文化の混淆とアイデンティティの再創造』（春風社、2014年）
 - ・小林泉ほか監修『[新版] オセアニアを知る事典』（平凡社、2010年）
 - ・中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための58章』（明石書店、2012年）
 - ・増田義郎『太平洋——開かれた海の歴史』（集英社、2004年）
 - ・矢口祐人『ハワイの歴史と文化——悲劇と埃のモザイクの中で』（中央公論新社、2002年）
 - ・山本真鳥編『オセアニア史』（山川出版社、2000年）
 - ・山本真鳥・山田亨編『ハワイを知るための60章』（明石書店、2013年）
 - ・山中速人『ハワイ』（岩波書店、1993年）
 - ・山中速人『ヨーロッパからみた太平洋』（山川出版社、2004年）
 - ・吉岡政徳監修『オセアニア学』（京都大学学術出版会、2009年）
 - ・吉岡政徳・石森大知編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための58章』（明石書店、2010年）
- ※その他のものは授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

This class will study the history of colonialism and globalization in Oceania and examine contemporary social problems and phenomena the people of Oceania have experienced. The major objective of this class is to develop an understanding of society, culture and politics in Oceania from the perspective of colonialism and globalization.

POL300AD

オセアニアの政治と社会Ⅱ

長島 怜央

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、オセアニアのなかでも、日本のすぐ南に広がるミクロネシアと呼ばれる地域をおもな対象とする。前半では、日本の植民地支配やアジア太平洋戦争の歴史を確認し、戦後日本社会におけるそれらの記憶の問題を取り上げる。後半では、戦後に軍事基地や核実験場となっていくオセアニア、とくに太平洋の「アメリカの湖」としての側面に注目する。アメリカの政治的・経済的な支配のもと、ミクロネシアは軍事的に重要な役割を担わされていく。ミクロネシアについて学ぶことは、日本との深い歴史的関係性や、アジア太平洋地域における安全保障や軍事に関する諸問題の理解を深める点から重要である。

【到達目標】

- ・ミクロネシアと日本の歴史的関係を深く知る。
- ・戦後日本社会における記憶の観点からミクロネシアを理解する。
- ・冷戦期・ポスト冷戦期におけるアメリカの安全保障政策のなかにミクロネシアを位置づけることができる。
- ・軍事基地・核実験場となった地域の人びとの経験を理解するように努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で資料やレジュメを配布し、映像資料を活用しながら進める。参加者には毎回リアクションペーパーを提出してもらおう。授業への積極的な参加（発言等）を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オセアニアのなかの「ミクロネシア」	ミクロネシアとはどのような地域か（歴史や日本との関わり）。どのような人びとが暮らしているか
2	日本にとっての南洋	日本人がミクロネシアの人びととどのように関わるようになったか
3	南洋群島統治	日本は太平洋の島々をどのように統治したか
4	南洋群島における暮らし	日本（おもに沖縄）からの数多くの移民が流入した。現地住民との関係はどのようなものだったか
5	日本によるグアム占領	アメリカとの開戦によって日本はグアムを占領した。とくに日本兵による住民の虐殺・虐待や戦後補償問題について考える
6	アジア・太平洋戦争のなかのミクロネシア	戦場となった島々における現地住民と日本人移住者の経験はどのようなものだったか。なぜ多くの犠牲者が生まれたのか
7	戦後日本社会におけるミクロネシア	戦後の人びとの南洋群島やグアムへの関心から、植民地支配や戦争の記憶の問題を考える
8	日本兵たちの経験	戦後、元兵士たちはどのように経験を語ったか。残留日本兵たちはどのような経験をしたか。元兵士たちは、現地社会や日本社会でどのように受け止められたか
9	「アメリカの湖」へ	国際連合の戦略的信託統治領となったあと、脱植民地化に向かっていくミクロネシアを見ていく。「アメリカの湖」となったオセアニアにおける植民地主義と軍事の関係について考える
10	軍事基地化	グアム、ハワイ、沖縄に見られるように、太平洋の島々では軍事基地化が進められてきた。社会の軍事化という観点から、軍事基地と人びとの暮らしについて考える。
11	核の海	第2次世界大戦後、オセアニアは欧米諸国の核実験場となり、多くの人びとが被害を受けてきた。核に関連した人種差別の問題（ニュークリア・レイシズム）についても考える

12	米軍の現在	21世紀に入って、米軍は太平洋における存在感をますます高めようとしている。沖縄からオセアニア各地への海兵隊移転などについて考える
13	平和と安全保障	脱植民地化と脱軍事化について考える
14	まとめ	授業の総括を行うとともに、参加者の考えや理解を改めて共有する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や参考書を読んで、予習・復習する。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

- ・印東道子編『ミクロネシアを知るための60章【第2版】』（明石書店、2015年）
 - ・中原聖乃・竹峰誠一郎『核時代のマーシャル諸島』（凱風社、2013年）
 - ・竹峰誠一郎『マーシャル諸島 終わらなき核被害を生きた』（新泉社、2015年）
 - ・長島怜央『アメリカとグアム——植民地主義、レイシズム、先住民』（有信堂高文社、2015年）
 - ・前田哲男『非核太平洋 被爆太平洋——新編 棄民の群島』（筑摩書房、1991年）
 - ・松島泰勝『ミクロネシア——小さな島々の自立への挑戦』（早稲田大学出版部、2007年）
 - ・キース・L. カマチョ『戦禍を記念する——グアム・サイパンの歴史と記憶』（岩波書店、2016年）
 - ・ジョン・W. ダワー／ガバン・マコーマック『転換期の日本へ——「バックス・アメリカーナ」か「バックス・アジア」か』（NHK出版、2014年）
 - ・チャルマーズ・ジョンソン『アメリカ帝国の悲劇』（文藝春秋、2004年）
 - ・デイヴィッド・ヴァイン『米軍基地がやってきたこと』（原書房、2016年）
- ※その他のものは授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

The main field of this class is a region called Micronesia in Oceania. In the first half we will study the history of Japanese colonial rule in Micronesia and the Asia-Pacific War, and examine memories of colonial rule and war in Micronesia. We will then look at how Oceania became military bases and nuclear test sites. The major objectives of this class are to develop a critical understanding of the relationship between Micronesia and Japan, and issues of security and military in the Asia-Pacific region.

POL300AD

国際機構論Ⅱ

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course “International Organizations II” (which follows “International Organizations I”), students will learn about the different roles and activities of various international organizations, notably the UN system and its agencies. They will learn how different UN agencies deal with key global issues, particularly those included in the 2030 Agenda on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs). The course will examine the evolving role of the UN and its partnerships with Member States, other international organizations, civil society, business community, and others. The students will also learn about the strengths and limitations of UN agencies as well as future challenges in addressing the evolving needs in the world.

【到達目標】

The students will deepen their understanding on the role and activities of the various UN agencies, including their strengths and limitations as well as challenges for the future. They will also enhance their understanding on how the UN system agencies collaborate with each other and with other partners in global partnerships to achieve the SDGs. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, notably the UN and its work. Students will examine the different roles and activities of UN agencies, including their strengths and limitations using examples of past and present. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by UN and other international organizations. Students are expected to read the assigned materials and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Role of international organizations (IO)	IO as global actors
2	Role of Member States	Relationship between Member States and UN
3	Role of civil society	Relationship between civil society and UN
4	Role of private sector	Relationship between the private sector and UN
5	Regional organizations	Relationship between regional organizations and UN
6	Sustainable development	2030 Agenda and SDGs
7	UN Secretariat	Role of UN Secretariat
8	Global governance	UN and global governance
9	Human security	Role of UN in human security
10	Peacebuilding	Role of UN in peacebuilding
11	UN and Japan	Japan's role in the UN
12	Multilateralism	Multilateralism and UN
13	UN reform	Progress and issues in UN reform
14	Summary and review	Review of course contents

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must read the assigned advance reading materials for each class. Students are also encouraged to attend seminar and symposiums related to the topic of UN and its activities (within the University and outside).

【テキスト（教科書）】

Besides those listed below, other materials will be assigned in class.

・ United Nations Department of Public Information, Basic Facts about the United Nations, 42nd Edition. United Nations Publication, New York, 2017.

・ 国際連合広報局『国際連合の基礎知識 第42版』、八森充（翻訳）関西学院大学総合政策学部、2018

【参考書】

・ Volker Rittberger, Bernhard Zangl, Andreas Kruck, International Organizations, Second Edition. Palgrave MacMillan, 2012.

・ 山田哲也『国際機構論入門』（東大出版会、2018）

・ 最上敏樹『国際機構論講義』（岩波書店、2016年）

・ 渡部茂己・望月康恵 編著『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）

・ 内田孟男 編著『国際機構論』（ミネルヴァ書房、2013年）

【成績評価の方法と基準】

Class participation (30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

POL300AD

朝鮮半島の政治と社会 I

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に 1945 年以後の朝鮮半島における政治史および政治システムを主なテーマとして取り上げ、韓国及び北朝鮮政治に関する基本知識を身につける。

【到達目標】

朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、南北分断の背景、朝鮮戦争の状況、冷戦構造の確立、南北それぞれの政治体制・経済体制・国際関係の成立過程、日韓関係の主要争点の概要と歴史を講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	戦後東アジアの始り	戦争の終戦状況：中国、ソ連、朝鮮半島
第 2 回	朝鮮半島の分断	38 度線の由来 分断の状況、分断の責任
第 3 回	南北権力の特徴	李承晩、金日成
第 4 回	朝鮮戦争	戦争の背景 戦争の展開過程と終わり方
第 5 回	東アジアの冷戦構造	朝鮮戦争の国際・国内政治構造
第 6 回	4・19 学生革命と 5・16 軍事クーデター	4・19 学生革命と 5・16 軍事クーデターを解説
第 7 回	朴正熙政権とその政策	朴正熙の経歴と政策内容
第 8 回	日韓外交正常化	その過程、内容と問題点
第 9 回	全斗煥政権	1979-88 年
第 10 回	民主化運動とその実現	1987 年新憲法成立
第 11 回	金泳三、盧泰愚政権	主な政策を中心に
第 12 回	金大中、盧武鉉政権	その政策を中心に
第 13 回	李明博、朴槿恵の保守政権と「ろうそく革命」で成立した文在寅政権	その政策を中心に
第 14 回	対日政策	日本との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画など）を見てくるように求めることがある。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

1. 木宮正史『国際政治のなかの韓国現代史』山川出版社、2012 年
2. ドン・オーバードーフアー、ロバート・カーリン『二つのコリア〔第三版〕—国際政治の中の朝鮮半島—』共同通信社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces the post-war political histories of Korean peninsula (South Korea and North Korea).

The aim of this course is to help students understand the political system and its situations of South Korea and North Korea, and the relations of them and Japan.

POL300AD

朝鮮半島の政治と社会 II

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に 1945 年以後の朝鮮半島の経済制度や社会文化システムを主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。韓国だけではなく、北朝鮮についても説明する。

【到達目標】

南北朝鮮の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、朝鮮半島の経済制度・社会システム・文化を分析する。主に講義による説明によって授業を行うが、映像（Youtube、映画など）や書物の感想文の提出や特定テーマに関する意見交換を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	韓国の対北政策	北風政策 vs 太陽政策
第 2 回	北朝鮮の対南政策	統一戦線戦略、「わが民族同士」
第 3 回	北朝鮮の核兵器や弾道ミサイル問題	核兵器、ミサイル能力
第 4 回	南北の兵役制度	徴兵制の詳細説明
第 5 回	大統領制度	選挙システム・権限・役割
第 6 回	国会、憲法裁判所、司法システム	機関の役割
第 7 回	韓国の経済制度 1	財閥、不動産
第 8 回	韓国の経済制度 2	税金、福祉、雇用
第 9 回	北朝鮮の経済システム	どこが問題か
第 10 回	教育制度	受験戦争、就職難
第 11 回	韓国の社会問題 1	地域対立、格差問題
第 12 回	韓国の社会問題 2	女性関連
第 13 回	日韓の主要争点	歴史認識の問題 領土問題、慰安婦問題 吸収合併論、急変事態論、漸進的統一論などを点検
第 14 回	統一の可能性について	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube など）を見てくるように求めることがある。

【テキスト（教科書）】

1. 木宮正史『国際政治のなかの韓国現代史』山川出版社、2012 年
2. ドン・オーバードーフアー、ロバート・カーリン『二つのコリア〔第三版〕—国際政治の中の朝鮮半島—』共同通信社、2015 年

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces the economic, social and culture system of post-war Korean peninsula (South Korea and North Korea).

The aim of this course to help students understand Korea's basic system and consider the more desirable relations with Japan and Korea.

POL300AD

平和・軍事研究 I

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えにくかった現象がより明確に理解できると同様に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えてくるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全たる軍事的な判断能力が求められる。

この科目は軍事というレンズで世界や国際秩序を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るため」の必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことを考えなければならぬ。平和を理想だけに求めず、武力万能論にも走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

世界の基本秩序は軍事力の力関係によって形づくられるが、その力関係の根本を作るのはやはり核兵器である。核兵器を語らずに世界秩序の基本を語ることはできない。武器というものは使われない時でも存在するだけで力を発揮しており、核兵器はなおさらである。

核爆経験のある日本ではこれまで正面で取り上げることがなかった、核兵器や核戦略のことを徹底的に分析する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	軍事という観点から世界を見る。	軍事はなぜ重要なのか
第 2 回	原子爆弾と水素爆弾の構造	作る方法と作らせない方法も
第 3 回	核戦略序論	両方とも核を保有している場合、どう戦うのか？
第 4 回	相互確証破壊戦略	奇抜な内容の戦略が世界を支配する
第 5 回	限定的な核使用戦略	核兵器を使いやすくする戦略
第 6 回	Middle Power の核戦略	イギリス、フランス、中国の核戦略の考え方。
第 7 回	冷戦終了後の核兵器状況	2019 年の時点で、世界に 1 万発の核兵器が現存
第 8 回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第 9 回	北朝鮮の核	なぜ、北朝鮮は核兵器に固執するのか。
第 10 回	日本の冷戦時代の戦略	「非核 3 原則」「専守防衛」は表面的なだけで、実態とは全然異なる。
第 11 回	日本の核能力	核燃料リサイクル政策と今後取りうる核戦略の選択肢を説明する。
第 12 回	中国の核戦力	中国の核戦略、核戦力の詳細
第 13 回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第 14 回	ミサイル防衛	「飛んでくる弾を弾で落とす」戦略は有効か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube など）を見てくるように求めることがある。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20%）、試験（80 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces the international political history, mainly based on arms race competition for supremacy in nuclear warfare between the United States, the Soviet Union, and their respective allies during the Cold War.

It introduces also contemporary big military issues, missile defense system and terror issues.

The aim of this course is to help students understand international political situations with basic knowledge of nuclear warfare systems.

POL300AC

現代政策学特講 I（千代田区）

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講は、「政策・都市・行政」分野に属し、実習を中心とする 2 単位科目である。法政大学市ヶ谷キャンパスが所在する千代田区における地域社会の政策課題をフィールドワーク（現地調査）を通じて沖縄大学（那覇市）・名城大学（名護市）の学生とともに発見し、考察する。

また、本講と「現代政策学特講 II（沖縄）」をあわせて受講することで、さらに多角的な視点を獲得し異なる地域の比較研究を目指す。

【到達目標】

現地調査に先立ち、講義を通じて公共政策・行政に関する基礎的な知識を身につける。

そのうえで、現地実習や課題解決型授業により、地域の特性や魅力を理解し、さらに課題を発見したうえでそれを解決する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は杉崎が全体の主担当となるほか、他の政治学科教員も加わり、講義や現地調査を行う。オータムセッションにおける現地調査が主となるが、それに先立ち、事前学習やレポートの提出等の課題を課す。現地調査のまとめとして、グループごとのプレゼンテーションを予定している。また、最終的に、それぞれが報告レポートを取りまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前学習	授業の進め方、目的を説明する。
第 2 回	事前学習	オンデマンド授業を活用し現地調査に必要な知識に関する講義
第 3 回	現地実習	・千代田区をフィールドとした現地調査 ・「公共政策の仕組み」「地域コミュニティと NPO」等の講義 ・千代田区の政策と取組みの講義 ・都市開発について、東京と沖縄の比較の講義
第 4 回	現地実習	・千代田区をフィールドとした現地調査 ・「公共政策の仕組み」「地域コミュニティと NPO」等の講義 ・千代田区の政策と取組みの講義 ・都市開発について、東京と沖縄の比較の講義
第 5 回	現地実習	・千代田区をフィールドとした現地調査 ・「公共政策の仕組み」「地域コミュニティと NPO」等の講義 ・千代田区の政策と取組みの講義 ・都市開発について、東京と沖縄の比較の講義
第 6 回	現地実習	・千代田区をフィールドとした現地調査 ・「公共政策の仕組み」「地域コミュニティと NPO」等の講義 ・千代田区の政策と取組みの講義 ・都市開発について、東京と沖縄の比較の講義
第 7 回	現地実習	・千代田区をフィールドとした現地調査 ・「公共政策の仕組み」「地域コミュニティと NPO」等の講義 ・千代田区の政策と取組みの講義 ・都市開発について、東京と沖縄の比較の講義
第 8 回	現地実習	・千代田区をフィールドとした現地調査 ・「公共政策の仕組み」「地域コミュニティと NPO」等の講義 ・千代田区の政策と取組みの講義 ・都市開発について、東京と沖縄の比較の講義

第 9 回 現地実習

・千代田区をフィールドとした現地調査
・「公共政策の仕組み」「地域コミュニティと NPO」等の講義
・千代田区の政策と取組みの講義
・都市開発について、東京と沖縄の比較の講義

第 10 回 現地実習

・千代田区をフィールドとした現地調査
・「公共政策の仕組み」「地域コミュニティと NPO」等の講義
・千代田区の政策と取組みの講義
・都市開発について、東京と沖縄の比較の講義

第 11 回 現地実習

・千代田区をフィールドとした現地調査
・「公共政策の仕組み」「地域コミュニティと NPO」等の講義
・千代田区の政策と取組みの講義
・都市開発について、東京と沖縄の比較の講義

第 12 回 グループワーク・プレゼンテーション

グループごとに、地域の課題解決や発展に関するプレゼンテーション

第 13 回 グループワーク・プレゼンテーション

グループごとに、地域の課題解決や発展に関するプレゼンテーション

第 14 回 事後学習

現地実習での経験や学びの報告レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地調査の成否は、事前準備に大きく左右されるため、情報収集を精力的に行うことが求められる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、現地調査の前に指示する。

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

事前課題、現地調査における積極性や、調査報告レポートの内容により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to discover and consider policy issues in the community through fieldwork in Chiyoda Ward.

POL300AC

現代政策学特講Ⅱ（沖縄）

明田川 融

授業形式：講義 | 開講セメスター：スプリングセッション/Spring Session

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講は、「政策・都市・行政」分野に属し、実習を中心とする 2 単位科目である。沖縄をフィールドに、固有の歴史・文化を理解し、地域社会の政策課題についてフィールドワーク（現地調査）を通じて沖縄大学（那覇市）・名城大学（名護市）の学生とともに発見し、考察する。

また、沖縄本島に加えて離島でも現地調査を行い、文化・産業の違いを実感し、本島と離島の比較研究を目指す。

本講と「現代政策学特講Ⅰ（千代田区）」をあわせて受講することで、多角的な視点を獲得し異なる地域の比較研究を目指す。

【到達目標】

現地調査に先立ち、講義を通じて公共政策・行政等に関する基礎的な知識を身につける。

そのうえで、現地実習や課題解決型授業により、地域の特性や魅力を理解し、さらに課題を発見したうえでそれを解決する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は明田川が全体の主担当となるほか、他の政治学科教員も加わり、講義や現地調査を行う。スプリングセッションにおける現地調査が主となるが、それに先立ち、事前学習やレポートの提出等の課題を課す。現地調査のまとめとして、グループごとのプレゼンテーションを予定している。また、最終的に、それぞれが報告レポートを取りまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	事前学習	授業の進め方、目的を説明する。
第 2 回	事前学習	オンデマンド授業や課題図書を活用し現地調査に必要な知識に関する講義及びレポート作成（予定）
第 3 回	現地実習	・「沖縄の文化・歴史・公共政策」に関する講義 ・「沖縄県の経済と産業振興」に関する講義 ・那覇周辺や戦跡をフィールドとした現地調査
第 4 回	現地実習	・「沖縄の文化・歴史・公共政策」に関する講義 ・「沖縄県の経済と産業振興」に関する講義 ・那覇周辺や戦跡をフィールドとした現地調査
第 5 回	現地実習	・「沖縄の文化・歴史・公共政策」に関する講義 ・「沖縄県の経済と産業振興」に関する講義 ・那覇周辺や戦跡をフィールドとした現地調査
第 6 回	現地実習	・県内の自治体をフィールドに、「歴史と政策」「商業・観光振興に関する課題と取組み」に関する講義、現地調査 ・県内の自治体の課題解決や産業振興に関するプレゼンテーション
第 7 回	現地実習	・県内の自治体をフィールドに、「歴史と政策」「商業・観光振興に関する課題と取組み」に関する講義、現地調査 ・県内の自治体の課題解決や産業振興に関するプレゼンテーション
第 8 回	現地実習	・県内の自治体をフィールドに、「歴史と政策」「商業・観光振興に関する課題と取組み」に関する講義、現地調査 ・県内の自治体の課題解決や産業振興に関するプレゼンテーション
第 9 回	現地実習	・離島（未定）をフィールドに、「本島との比較・離島の課題や取組み」に関する講義、現地調査
第 10 回	現地実習	・離島（未定）をフィールドに、「本島との比較・離島の課題や取組み」に関する講義、現地調査

第 11 回	現地実習	・離島（未定）をフィールドに、「本島との比較・離島の課題や取組み」に関する講義、現地調査
第 12 回	グループワーク・プレゼンテーション	グループごとに、沖縄の魅力創出や課題解決をテーマとするプレゼンテーション
第 13 回	グループワーク・プレゼンテーション	グループごとに、沖縄の魅力創出や課題解決をテーマとするプレゼンテーション
第 14 回	事後学習	現地実習での経験や学びの報告レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地調査の成否は、事前準備に大きく左右されるため、情報収集を精力的に行うことが求められる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、現地調査の前に指示する。

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

事前課題、現地調査における積極性や、調査報告レポートの内容により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to discover and consider policy issues in the community through fieldwork in Okinawa Prefecture.

LAW200AB

法律学特講（現代中国の法と社会Ⅱ）

劉 士国

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期集中/Intensive(Fall)
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は裁判と法コース、企業・経営と法コース（商法中心）、企業・経営と法コース（労働法中心）、国際社会と法コースおよび文化・社会と法コースの選択科目であり、私法を中心として現代中国の法と社会の特徴を解説する。授業の目的は、中国の裁判、企業、経営、文化などについての基礎的な知識を学び、民法典編纂と社会改革の動態を捉えることである。

【到達目標】

到達目標は、中国の社会について法の側面から理解を深め、所属コースを履修するための基礎となる能力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代中国法の入門講義であるが、できるだけ、社会事情や判例・事例も適宜に紹介し、質問応答と議論も交えながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	民法の歴史	市民社会の発展、民法典編纂の意義
第 2 回	民法典の体系	学説の対立、立法状況
第 3 回	物権法	土地制度、不動産開発
第 4 回	農地法	「三権分立」への農地改革
第 5 回	データ財産と法	インターネット社会の発展、データ財産の保護
第 6 回	不法行為法	権利侵害責任法の特徴、不法行為責任
第 7 回	不法行為法の諸問題	事例、判例
第 8 回	人格権法	民法典人格権編をめぐる論争
第 9 回	人格権の諸問題	事例、判例
第 10 回	医事法	医療の基本制度
第 11 回	医事法の諸問題	事例、判例
第 12 回	環境法	公害の法的対策
第 13 回	環境法の諸問題	事例、判例
第 14 回	自動運転と法	自動運転の法問題と制度設計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

『現代中国法入門第 7 版』（高見澤磨・鈴木賢・宇田川幸則 有斐閣、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

レポート（1 回）40 % 及び平常点 60 % により行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This lecture introduces basic knowledge of Chinese law focusing on private law, and explains the law and society of modern China.

POL300AC

現代政治特講Ⅰ

松尾 隆佑

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代政治は、民主化よりも「権威主義化」、あるいはリベラル・デモクラシーの「後退」や「脱定着」がしばしば語られる情勢にある。権威主義諸国の経済的繁栄や、リベラル・デモクラシーに飽き足らないポピュリズムの隆盛を目にすれば、そもそもリベラル・デモクラシーは望ましいのか、仮に望ましいとしても生き残れるのか、といった疑問に向き合うことの重要性は、確かなものとして現れてくるであろう。この授業では、現代政治を把握する一つの視座を獲得するため、リベラル・デモクラシーを批判する立場や、それを乗り越えようとする議論を探り上げながら、リベラル・デモクラシーの生存可能性（ないしは生存戦略）について多面的な検討を行なう。

【到達目標】

- 1) リベラル・デモクラシーが直面している諸課題を整理できるようになること。
- 2) リベラル・デモクラシーを批判したり乗り越えようとしたりする、いくつかの主要な立場を説明できるようになること。
- 3) 現代政治に伴う問題や、その問題を解決する方策を考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

下記の授業計画に従い、講義に受講者とのディスカッションを組み合わせた形式で行なう（ただし、受講者の理解度や研究の進展、政治情勢などを考慮し、計画は変更される場合がある）。授業にあたっては、必要に応じて配布資料および投影資料を用いる。受講者には、授業内のディスカッションや授業後のリアクション・ペーパーを通じて、講義内容への質問やコメントを行なうことが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	リベラル・デモクラシーは生き残れるか
第 2 回	独裁 (1)	ラディカル・デモクラシーとポピュリズム
第 3 回	独裁 (2)	ネオ・リベラリズムと権威主義
第 4 回	真理 (1)	ポスト真実と人工知能
第 5 回	真理 (2)	エビストクラシー（賢人支配）
第 6 回	善導 (1)	テクノクラシー（専門家支配）
第 7 回	善導 (2)	リパタリアン・パターナリズム（環境管理）
第 8 回	集計 (1)	政治工学とデモクラシー 2.0
第 9 回	集計 (2)	液状デモクラシーと分人デモクラシー
第 10 回	熟議 (1)	代表制と市民社会
第 11 回	熟議 (2)	熟議システムと言説代表
第 12 回	抽選 (1)	ミニ・パブリックスと市民代表
第 13 回	抽選 (2)	くじ引き民主主義とロトクラシー
第 14 回	結論	講義内容のまとめと全体討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前に読んでおくべき課題文献を授業支援システムに掲載するので、事前に目を通し、疑問点やコメントをまとめておくこと。課題文献以外にも各回の内容にかかわる多数の参考文献を紹介するので、関心に応じて読み進め、授業時間外の学習に役立てること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

各回の内容に応じた参考書を授業内で紹介する。講義全体にかかわる基本的な文献としては、以下がある。

・スティーブン・レビツキーほか『民主主義の死に方—二極化する政治が招く独裁への道』（濱野大道訳、新潮社、2018 年、原著 2018 年）
・齋藤純一ほか編『アクセス デモクラシー論』（日本経済評論社、2012 年）
・田村哲樹『熟議民主主義の困難—その乗り越え方の政治理論的考察』（ナカニシヤ出版、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内の姿勢・発言とリアクション・ペーパー）、中間レポート、期末レポートによる。それぞれ 30%、30%、40%の割合で、上記の到達目標の達成度合いを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline and objectives】

This course explores the life and times of liberal democracy from a variety of historical, normative, and institutional perspectives. We will investigate the value of democracy as an ideal, examine the diverse critical arguments that have developed around the term, and inquire into the different institutional mechanisms and practices that could realize the value of democracy. Students broaden their knowledge through assignments, lectures, and class discussions.

POL300AC

現代政治特講Ⅱ

松尾 隆佑

授業形式：講義 | 開講semester：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代政治を捉えるために欠かすことができない視点は、資本主義がデモクラシーと結び結ぶ関係である。高度に発達し、グローバルに拡大した市場経済は、主権国家によってコントロールできなくなったのではないか。今や政治システムを通じた決定よりも、一部の大企業による決定の方が重大な影響力を持っているのではないか。グローバル資本主義のもとで拡大する経済格差は、民主政治の社会基盤を崩しているのではないか。この授業では、現代政治を把握する一つの視座を獲得するため、上記のような一連の問いに向き合いながら、資本主義の民主化可能性について多面的な検討を行なう。

【到達目標】

- 1) 資本主義とデモクラシーの関係を整理できるようになること。
- 2) 資本主義を民主的にコントロールするために重要性を持つ、いくつかの主要な考え方や手段を説明できるようになること。
- 3) 現代政治に伴う問題や、その問題を解決する方策を考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

下記の授業計画に従い、講義に受講者とのディスカッションを組み合わせた形式で行なう（ただし、受講者の理解度や研究の進展、政治情勢などを考慮し、計画は変更される場合がある）。授業にあたっては、必要に応じて配布資料および投影資料を用いる。受講者には、授業内のディスカッションや授業後のリアクション・ペーパーを通じて、講義内容への質問やコメントを行なうことが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	資本主義は民主化できるか
第 2 回	政治と経済 (1)	国家と企業
第 3 回	政治と経済 (2)	共和主義と財産所有デモクラシー
第 4 回	政治と経済 (3)	人民資本主義と大衆資本主義
第 5 回	企業の権力 (1)	グローバル経済と不平等
第 6 回	企業の権力 (2)	ロビイングと政治資金
第 7 回	企業の権力 (3)	ガバナンスと私的権威
第 8 回	企業統治の変革 (1)	企業のなかの政治
第 9 回	企業統治の変革 (2)	職場デモクラシー
第 10 回	企業統治の変革 (3)	ステークホルダー・ガバナンス
第 11 回	市場を通じた制御 (1)	当初配分
第 12 回	市場を通じた制御 (2)	責任ある投資
第 13 回	市場を通じた制御 (3)	政治的消費
第 14 回	結論	講義内容のまとめと全体討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前に読んでおくべき課題文献を授業支援システムに掲載するので、事前に目を通し、疑問点やコメントをまとめておくこと。課題文献以外にも各回の内容にかかわる多数の参考文献を紹介するので、関心に応じて読み進め、授業時間外の学習に役立てること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

各回の内容に応じた参考書を授業内で紹介する。講義全体にかかわる基本的な文献としては、以下がある。

- ・コリン・クラウチ『ポスト・デモクラシー—格差拡大の政策を生む政治構造』（近藤隆文訳、山口二郎監修、青灯社、2007年、原著 2004年）
- ・R. A. ダール『経済デモクラシー序説』（内山秀夫訳、三嶺書房、1988年、原著 1985年）
- ・恒川恵市『企業と国家』（東京大学出版会、1996年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内の姿勢・発言とリアクション・ペーパー）、中間レポート、期末レポートによる。それぞれ 30%、30%、40%の割合で、上記の到達目標の達成度合いを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline and objectives】

The quest for democratic control of capitalism is most important objective pursued by people worldwide. This course explores a systematic framework for understanding the relationship of capitalist economy to democratic politics. Students broaden their knowledge through assignments, lectures, and class discussions.

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅰ

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、政治・社会・文化についてドイツ語で購読する。分野としてはサッカーと「政治・社会・文化」について書かれたドイツ語の新聞記事、雑誌記事を取り上げる予定である。担当教員は3月までオーストリアのウィーンに在外研究で滞っていたので、そこで得た知見を還元したいと考えている。たとえば2018年のロシアワールドカップを前に、ドイツ代表が直面した移民系の代表選手をめぐる緊張や、大会中にスイス代表として出場した同じく移民系の代表選手の挙動をめぐる論争などを、ドイツ語の記事を読みながら議論し、国民国家、同化、多文化主義との関連で考察していきたい。

【到達目標】

ドイツ語の文章をとおして政治・社会・文化事象についての情報を入手できるようにすること。ドイツ語圏の政治・社会・文化事象をめぐる知識の獲得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本科目の授業形態は演習である。すなわち授業内での発表などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。ドイツ語の難易度については、履修者のレベルに応じて決めるので、テーマとドイツ語に関心さえあれば、無理なく参加できるようにする方針である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	準備情報	導入
2	ドイツ語圏におけるローカル・アイデンティティーとサッカー	購読
3	ドイツ語圏におけるローカル・アイデンティティーとサッカー	購読
4	ドイツ語圏におけるローカル・アイデンティティーとサッカー	購読
5	ドイツ語圏におけるローカル・アイデンティティーとサッカー	購読
6	ドイツ語圏におけるローカル・アイデンティティーとサッカー	購読
7	ドイツ語圏におけるローカル・アイデンティティーとサッカー	購読
8	前半の内容	ふりかえり
9	ドイツ語圏におけるナショナル・アイデンティティーとサッカー	購読
10	ドイツ語圏におけるナショナル・アイデンティティーとサッカー	購読
11	ドイツ語圏におけるナショナル・アイデンティティーとサッカー	購読
12	ドイツ語圏におけるナショナル・アイデンティティーとサッカー	購読
13	ドイツ語圏におけるナショナル・アイデンティティーとサッカー	購読
14	後半の内容	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文章を事前に読み、読書ノートを作成。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In diesem Seminar werden wir deutsche Texte über Fußball, Kultur, Gesellschaft und Politik lesen.

English Keywords: German text, politics, society, culture, football

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅱ

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「歴史・思想・理論」の分野に属する科目であり、政治・社会・文化についてドイツ語で購読する。分野としてはサッカーと「政治・社会・文化」について書かれたドイツ語の新聞記事、雑誌記事を取り上げる予定である。担当教員は3月までオーストリアのウィーンに在外研究で滞在していたので、そこで得た知見を還元したいと考えている。たとえば2018年のロシアワールドカップを前に、ドイツ代表が直面した移民系の代表選手をめぐる緊張や、大会中にスイス代表として出場した同じく移民系の代表選手の拳動をめぐる論争などを、ドイツ語の記事を読みながら議論し、国民国家、同化、多文化主義との関連で考察していきたい。

【到達目標】

ドイツ語の文章をとおして政治・社会・文化事象についての情報を入手できるようにすること。ドイツ語圏の政治・社会・文化事象をめぐる知識の獲得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本科目の授業形態は演習である。すなわち授業内での発表などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。ドイツ語の難易度については、履修者のレベルに応じて決めるので、テーマとドイツ語に関心さえあれば、無理なく参加できるようにする方針である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	準備情報	導入
2	ドイツ語圏における移民社会とサッカー	購読
3	ドイツ語圏における移民社会とサッカー	購読
4	ドイツ語圏における移民社会とサッカー	購読
5	ドイツ語圏における移民社会とサッカー	購読
6	ドイツ語圏における移民社会とサッカー	購読
7	ドイツ語圏における移民社会とサッカー	購読
8	前半の内容	ふりかえり
9	ドイツ語圏における同化とサッカー	購読
10	ドイツ語圏における同化とサッカー	購読
11	ドイツ語圏における同化とサッカー	購読
12	ドイツ語圏における同化とサッカー	購読
13	ドイツ語圏における同化とサッカー	購読
14	後半の内容	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文章を事前に読み、読書ノートを作成。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In diesem Seminar werden wir deutsche Texte über Fußball, Kultur, Gesellschaft und Politik lesen.

English Keywords: German text, politics, society, culture, football

POL300AC

外国書講読（仏語）Ⅰ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やししながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。扱う文章のジャンルは物語と評論です。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

中～上級レベルのフランス語読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更されることもあります。

また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

一つのテーマのもとに選んだ物語文と評論文の訳読が中心となります。易しめの文章から始め、原書の文章を読んでいきます。初めは翻訳書を見ながらでも構いません。少しずつペースを上げ、最終的には日本語訳の出していない原書の訳読をします。

予定している授業内容は授業計画に掲げた通りですが、受講者のフランス語習熟度と関心も考慮して決定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	外国人学習者向けに易しく書きかえられた時事関連の文章	講読
3	外国人学習者向けに易しく書きかえられた時事関連の文章	講読
4	モーパッサンの短編の抜粋	講読
5	モーパッサンの短編の抜粋	講読
6	モーパッサンの短編の抜粋	講読
7	カミュの評論の抜粋	講読
8	カミュの評論の抜粋	講読
9	カミュの評論の抜粋	講読
10	カミュの評論の抜粋	講読
11	演説文の抜粋	講読
12	演説文の抜粋	講読
13	演説文の抜粋	講読
14	演説文の抜粋	講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の予習を行うこと。
・文章を音読する練習も行うこと。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

前年度は担当していないため、アンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

POL300AC

外国書講読（仏語）Ⅱ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やししながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。同時にフランスが日本の社会、歴史、文化をどのように捉えているのかを理解します。

【到達目標】

春学期と同様、中～上級レベルのフランス語読解力を身につけることが目標ですが、受講者のフランス語の習熟度に合わせて調整します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

日本について書かれたフランス語のエッセイ、評論、新聞記事の抜粋を訳読します。初めはゆっくりしたペースで進め、少しずつ読むペースを上げていきます。

予定している授業内容は授業計画に掲げた通りですが、受講者のフランス語習熟度と関心も考慮して決定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	エッセイ	講読
3	エッセイ	講読
4	エッセイ	講読
5	エッセイ	講読
6	説明文	講読
7	説明文	講読
8	説明文	講読
9	評論	講読
10	評論	講読
11	評論	講読
12	評論	講読
13	新聞記事	講読
14	新聞記事	講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の予習を行うこと。
・文章を音読する練習も行うこと。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %

【学生の意見等からの気づき】

前年度は担当していないため、アンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

POL300AD

日本の政治と社会 I

平良 好利

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、1940年代から1960年代までの日本の政治と社会を多角的に考察する。とりわけ、敗戦から復興、政党政治の始動、55年体制の成立、天皇制と日本社会、大衆運動の高揚、高度経済成長と日本社会の変容、アメリカ統治下の沖縄社会などを詳しく検討し、戦後システムの形成を考察する。

【到達目標】

1940年代から1960年代までの日本の政治と社会の大きな流れとその特質を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

レジュメに沿った講義形式であるが、適時、映像資料も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の全体的概要と授業の進め方等について説明する。
第2回	敗戦国日本の出発	敗戦を機に日本の政治と社会がどのように始動したのかを考察する。
第3回	天皇退位問題	天皇の退位問題から日本の政治と社会を考える。
第4回	日本国憲法の制定	日本国憲法の制定プロセスから日本政治を考える。
第5回	占領期の政治と社会	占領期の政治と社会を多角的に考察する。
第6回	講和と日本の独立	講和・安保両条約の締結と日本政治の展開について考察する。
第7回	保守合同	自由民主党の結成プロセスを考察する。
第8回	日本社会党の再統一	講和期に分裂した日本社会党の再統一プロセスを考察する。
第9回	1950年代の日本社会	1950年代の日本社会を多角的に考察する。
第10回	安保改定と政党政治	安保改定をめぐる自民党内派閥闘争を考察する。
第11回	60年安保闘争	安保闘争を多角的に考察する。
第12回	高度経済成長期の政治と社会	高度経済成長期の政治と社会を多角的に考察する。
第13回	米軍統治下の沖縄社会	米軍統治下の沖縄社会を考察する。
第14回	沖縄における日本復帰運動	1960年代に沖縄で展開された日本復帰運動を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1、指定された文献等を事前に読んでくること。2、授業が終わったら復習をすること。3、レポートの作成を求める（4000～5000字）。

【テキスト（教科書）】

テキストはなし。毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、レポート（30%）、期末試験（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の効果的活用。

【Outline and objectives】

In this class, we will consider Japanese politics and society between the 1940s and the 1960s from multiple viewpoints. In particular, we will examine in detail Japan's defeat and recovery, the start of politics with political parties, the establishment of the 1955 system, the emperor system and the Japanese society, the rise of mass movement, the high economic growth and the transformation of Japanese society, and the society of Okinawa under American rule, and examine the formation of Post-war System in Japan.

POL300AD

日本の政治と社会 II

平良 好利

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、1970年代から現在に至るまでの日本の政治と社会を多角的に考察する。とりわけ、55年体制の崩壊と日本政治の流動化、低成長時代の政治と社会、日本政治の保守化、自民党政権の持続と変容、3・11と日本社会、人口減少と日本社会、沖縄と本土の溝などを詳しく検討し、戦後システムのゆらぎを考察する。

【到達目標】

1970年代から現代までの政治と社会の大きな流れとその特質を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

レジュメに沿った講義形式であるが、適時、映像資料も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の全体的概要と授業の進め方等について説明する。
第2回	自民党政権の形成	自民党政権とは何かを多角的に考察する。
第3回	バブル期の政治と社会	バブル期の政治と社会を多角的に考察する。
第4回	日本復帰後の沖縄社会	日本復帰後の沖縄社会の展開を考察する。
第5回	55年体制の崩壊	55年体制の崩壊プロセスとその意味を考える。
第6回	自社連立政権	自社連立政権の成立とその意味を考察する。
第7回	1990年代の政治と社会	1990年代の政治と社会を多角的に考察する。
第8回	自民党政権の変容	小泉純一郎の政治行動に焦点をあてながら自民党政権の変容を考える。
第9回	政権交代と民主党政権	民主党政権を多角的に考察する。
第10回	3・11と日本社会	3・11とその後の日本の政治と社会を考察する。
第11回	日本政治の保守化	日本政治の保守化について多角的に考察する。
第12回	沖縄と本土の溝	米軍基地問題から沖縄と本土の関係を考察する。
第13回	人口減少時代の政治と社会	人口減少時代の政治と社会の諸課題を検討する。
第14回	戦後システムのゆらぎとポスト戦後システム	戦後システムのゆらぎとポスト戦後システムを検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1、指定された文献等を事前に読んでくること。2、授業が終わったら復習をすること。3、レポートの作成を求める（4000～5000字）。

【テキスト（教科書）】

テキストはなし。毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、レポート（30%）、期末試験（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の効果的活用。

【Outline and objectives】

In this class, we will examine Japanese politics and society from the 1970s to the present from multiple viewpoints. In particular, we will examine in detail the collapse of the 1955 system and the mobilization of Japanese politics, politics and society in the low growth era, conservative shift of Japanese politics, the continuation and transformation of the Liberal Democratic Party politics, the 2011 earthquake and tsunami and Japanese society, population decline and Japanese society, and the political gap between Okinawa and mainland Japan, and examine the swaying of Post-war System in Japan.

POL200AC

協同組合論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目である。

一人ひとりが尊重され、生き活きと暮らし続ける社会を実現していくため、協同組合や NPO 等の非営利市民事業による様々な取り組みが行なわれています。グローバル化が加速する中で、貧困根絶や仕事の創出等に関する協同組合の貢献は国際的に評価されており、国連は 2012 年を「国際協同組合年」とし、2013 年に社会的連帯経済タスクフォースを立ち上げました。一方、日本では人口が減少し、超高齢社会に突入し、働く者の数が減少する中、経済ばかりでなく社会システムの停滞・行き詰まりが表面化していますが、こうした問題に市場や行政だけでは十分に対応できない状況下においても、諸外国のように生協等の協同組合による実践の価値や可能性が広く認識されているとはいえません。なぜ今、「非営利・協同」の運動と事業に期待がよせられているのか。「もう一つの世界は可能か—協同組合と社会的連帯経済」この点を本講座の中心テーマとし、協同組合あるいは非営利市民事業の歴史的社会的背景、現状、そして今後の展望や可能性について、第一線の学者および実践者による講義を行ないます。

【到達目標】

- ① 世界における協同組合および社会的企業の歴史・沿革を踏まえ、日本における活動状況や今日的な意義や課題について知ること。
- ② 非営利市民事業及び協同組合が展開する事業・活動が、市民生活に及ぼす役割について知ること。
- ③ 協同組合をはじめ非営利市民事業の今後の展望や可能性等について考えることなどを通じて、生活者・市民が主体者である新しい公共政策の理論と実践について考える基礎力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

この講座では、①世界の協同組合をはじめとした非営利・協同セクターが切り開いてきた歴史を学ぶとともに、②生協を中心とした日本の協同組合や NPO 等の非営利市民事業の活動を広く検証し、③協同組合や NPO 等を中心とする非営利・協同セクターが今日の日本の地域の課題解決にどのような可能性を持っているか、④生活者・市民が主体者である公共政策をどのように実践し、担っていくのか、など協同組合・非営利市民事業の現代的意義について、テーマ毎にゲストスピーカーによる実践報告を交えながら検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 01 回	①開催あいさつ ②ガイダンス	①主催者の開催あいさつ ②本講座の主旨、狙い、講座概要、成績評価方法などを説明します。 ③世界の多様な協同組合、社会的連帯経済の実践例と生活クラブ運動に触れ、営利企業や行政が解決できぬ課題、公共政策への挑戦を学びます。
第 02 回	協同組合法制の変遷と今日的課題	1948 年に制定された生活協同組合法は 2008 年に大きな改正がされました。しかしその後も社会の変化は急速であり現行生協法にも様々な課題が生じています。生協法を中心に協同組合運動と事業における課題認識を現行法との関連で深めます。
第 03 回	食を取巻く課題と協同組合の役割	生活クラブ生協の事業と運動の取り組みを、具体的な食品問題（添加物、農業、放射能、BSE 等）を事例に紹介します。さらに、消費者、生産者の立場から、食の安全、農業保護などについてグローバル経済システムの視点を踏まえた問題提起を行います。
第 04 回	地域づくりを拓く協同組合	働く人たちがつくる協同組合であるワーカーズ・コレクティブ実践と協同組合地域協議会の連系を学びます。
第 05 回	地域福祉における非営利・協同の可能性	地域が主体的にまちづくりに取り組むこと目的とした、「市民版地域福祉計画」の策定を地域協議会に呼びかけ、必要なしくみづくりに自ら問題意識を持って取り組む主体を広げるために地域の活動を支援している活動を紹介します。

第 06 回 女性たちが担う新しい働き方の可能性—サブシステムズ・ワーカーとは—

労働組合でも NPO 法人でもアンパイドワークでもない、ワーカーズ・コレクティブとは何か。世界的にも、人間らしい働き方ディーセント・ワークが求められていて、いのちの維持をベースにおいて、労働の自由度をひろげながら生産と流通、そして地域の共生の関係を紡ぎ直す「サブシステムズ」の概念を踏まえ、その理論と意義を学びます。

第 07 回 食を中心とした生活提案とまちづくり

日本の協同組合が日本の食文化を守り伝えていくことに果たした役割は大きい。日本の風土に沿った食のあり方や添加物などの問題をとおした生活提案やまちづくりを学びます。

第 08 回 貧困とまちづくりへの挑戦—空き室調査から

貧困と福祉課題を背景とした空室調査とまちづくり課題を紹介し

第 09 回 市民によりエネルギー自給の可能性を探る—エネルギーの共同購入

生活クラブのエネルギー自給の取り組みの可能性を探る—エネルギーの共同購入

第 10 回 市民金融によるコミュニティ・エンパワーメント

お金に意志と意思をもたせるために市民がつくった市民のための非営利市民金融による、公正な暮らしや働き方、持続可能な社会づくりをすすめる取り組みを紹介し

第 11 回 協同組合と若者——韓国の事例から

韓国では、2012 年に「協同組合基本法」を施行し、また 2013 年度に「ソウル市特別協同組合活性化支援条例」が制定されて以来、3,000 に及ぶ協同組合が設立しています。特に若者の協同組合への参加に焦点をあてて、その現状を紹介し

第 12 回 市民の政治参加とインターネット選挙

生活クラブ・生活者ネットの政治運動の経験と実践、インターネット選挙の実験を学び

第 13 回 市民による公共政策実現のプロセス—食品安全条例の直接請求と制定過程

1 人の市民・生活者として石けん運動や地下水の保全運動を進めているなかで、生協活動の仲間によるボランティア選挙で都議に当選し、都議会で「食品安全条例」制定などを経験し、現在市民参加型の社会を創るための福祉、環境、自治の分野における調査研究活動に取り組むなど、生活者運動と政策実現に向けた政治参加の経験と実践を紹介し

第 14 回 全体まとめワークショップ

13 回の講座を踏まえ、協同組合のビジョンおよび問題提起を受け、非営利・協同セクターへの理解、見識を深めることを目的に、グループに分かれてワークショップを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予定されたテーマについて自分なりに調べてみてください。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜資料を配布します。

【参考書】

適宜、案内します。

【成績評価の方法と基準】

①ミニレポートによる評価：講座の感想、意見をもとにミニレポート（100 字～200 字程度）の作成を毎回、講座終了前に行い、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【Outline and objectives】

This lecture will learn about the history, current situation, future prospects and possibilities of cooperatives or nonprofit projects.

PHL300BB

哲学特講（7）－1

君嶋 泰明

授業コード：A2224 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋哲学史上最大の哲学者とは誰でしょうか。この問いにどう答えるかによって、その人が哲学に何を求めているかが見えてくるかもしれません。たとえばハイデガーは、カントをそのような哲学者の一人と考えていました。彼はある著作のなかで、カントの仕事が「革命的」と評し、自分自身をカントの「後継者」の一人と称しています。それでは、カントの何が「革命的」で、ハイデガーはどのような意味でカントの「後継者」といえるのでしょうか。この問いに答えるためには、少なくともアリストテレス、デカルト、ニュートンについて一定の理解をもっている必要があります。そこでこの授業では、アリストテレス哲学のいくつかの基本概念の確認から始めて、デカルト、ニュートン、そして（ハイデガーの理解する）カントを順に見ていきます。そのなかで、上の問いに答え、ハイデガーが哲学に何を求めているかを明らかにするのがこの授業の目的です。

【到達目標】

- (A) カントの思想が「革命的」とされるゆえんを、歴史を踏まえて理解する。
 (B) ハイデガーがどのような意味でカントの「後継者」といえるのかを理解する。
 (C) ハイデガーが哲学に何を求めているのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。適宜リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業の進め方と概要の説明
第2回	アリストテレス①	因果性について
第3回	アリストテレス②	運動について
第4回	アリストテレス③	形相と質料について
第5回	デカルト①	観念について
第6回	デカルト②	運動について
第7回	ニュートン①	空間と時間について
第8回	ニュートン②	運動について
第9回	カント①	空間と時間について
第10回	カント②	カントの判断論①
第11回	カント③	カントの判断論②
第12回	カント④	カントの判断論③
第13回	ハイデガー	カントの後継者としてのハイデガー
第14回	まとめ	哲学とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記のものも含め、授業中に指示される参考書によく目を通して授業に臨み、授業後は、配布資料やノートを使って授業内容をよく復習します。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】

- ・M. ハイデガー著・高山守・K. オビリーク訳、『物への問い——カントの超越論的原則論に向けて』、創文社、1989年。
- ・小林道夫、『デカルトの自然哲学』、岩波書店、1996年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が50%、期末レポートが50%です。前者はリアクションペーパーの内容や授業での積極的な質問や発言を評価の対象とします。後者では上記の到達目標がどれだけ達成されているかを見ます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より新任につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

Who are the most important philosophers in the history of western philosophy? An answer to this question might show what one looks for in philosophy. For example, Heidegger considers Kant as one of such philosophers. In his book, Heidegger calls Kant's work "revolutionary" and describes himself as one of the "descendants" of Kant. So then, what is so "revolutionary" about Kant and in what sense is Heidegger a "descendant" of Kant? To answer this question, we need to have some understanding of at least Aristotle, Descartes and Newton. Thus, in this course, we will start with some basic concepts of Aristotle's philosophy and move to Descartes, Newton and Kant (as understood by Heidegger). In doing so, we aim to answer the above question and thus to clarify what Heidegger looks for in philosophy.

PHL200BB

科学哲学 1

木島 泰三

授業コード：A2241 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ダーウィン進化論とその受容の思想史」をテーマに、ダーウィン進化論の歴史から、その受容を経て現代の進化論的人間観に至る思想史を、関連する哲学的問題と併せて学ぶ。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた歴史的事項や関連する哲学的問題について、概略的にではあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、ダーウィン進化論とその受容の歴史、および関連する哲学的問題に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける。また、最終回は授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに：なぜダーウィン進化論か？	自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など。
第 2 回	古代ギリシャの自然観	古代ギリシャにおける自然哲学の始まりからアリストテレスの自然哲学までを概観する。
第 3 回	科学革命と機械論的自然観	近代科学の始まりと、近代科学によるアリストテレスの自然観の批判について学ぶ。
第 4 回	イギリス自然神学の伝統とヒュームの自然神学批判	ダーウィンの思想の重要な前提となったイギリス自然神学の伝統とそれに対するヒュームの批判を、初期近代の生物研究の動向と共に学ぶ。
第 5 回	ダーウィン前夜の進化論争	ラマルクやチェンバースなどの、ダーウィン以前の進化論について学ぶ。
第 6 回	ダーウィン『種の起原』の出版とその衝撃	ダーウィンの学説の概要と、その学説に対する当時の反応や受容の状況について学ぶ。
第 7 回	二〇世紀初頭までの進化論の状況	ボウラーが「ダーウィニズムの失墜」や「非ダーウィンの進化論の時代」と特徴づけた時期の進化論やそれをめぐる論争について学ぶ。
第 8 回	ダーウィン進化論、および進化論一般の社会思想への影響	「社会ダーウィニズム」と呼ばれる社会思想をはじめとする、ダーウィン進化論や進化論一般が社会思想に与えた影響について学ぶ。
第 9 回	「総合説」の成立	20 世紀半ばの「進化の総合説」と呼ばれるダーウィン主義進化論の現代的復権の経過とその内容について学ぶ。
第 10 回	アメリカの反進化論運動	100 年近い歴史をもつ、政治・宗教運動としてのアメリカ「反進化論運動」について学び、考える。
第 11 回	ダーウィン進化論の浸透と社会生物学論争	「総合説」成立以降のダーウィン進化論の各分野への浸透と、その過程で生じた「社会生物学論争」について学ぶ。
第 12 回	日本における進化論の受容史	明治以降の日本での進化論受容とその特色について、国際的な動向とも関連づけて学ぶ。
第 13 回	現代の進化論とそれをめぐる文化的状況	現代のダーウィン進化論にもとづく人間観やそれをめぐる文化的な状況について学ぶ。
第 14 回	まとめとレポート提出	今期の内容を振り返り、そのあと授業内試験・レポート回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

各回に沿った参考書をその都度授業内で紹介する。全体への参考書として、ダーウィン進化論の歴史から 20 世紀後半の進化論の動向までを取り上げた有益な通史として、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）があるが、現在品切れである。ただ、ウェブ書店や（大学および自治体の）図書館での入手や閲覧は比較的容易のようである。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる、「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (80 %)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (10 %)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (10 %) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているため、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【その他の重要事項】

科学哲学 2 と関連した内容なので、併せて受講するのが望ましい。

【Outline and objectives】

The main objective is to learn about the history of Darwinism and its reception from scientific-historical, as well as scientific-philosophical viewpoint.

PHL200BB

科学哲学2

木島 泰三

授業コード：A2242 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ダーウィン進化論と進化論的人間観の哲学」をテーマとする。

【到達目標】

到達目標は次の2点である：

- (1) 講義で取り上げた哲学的問題について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、ダーウィン進化論および進化論的人間観をめぐる哲学的諸問題に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行う他、(はじめての試みとして)学期内に一度ディスカッションの回を設け、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける。また最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	はじめに：今期の概要など	自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など。
第2回	「進化論」と「ダーウィニズム」	「進化論」一般と「ダーウィニズム（ダーウィン説）」の違いなど、基本的な概念の整理を行う。
第3回	「適者生存」はトートロジーではないこと	「適者生存」という概念はトートロジー（同語反復）である」という主張を取り上げ、科学的な仮説の基準や自然淘汰説の基本的な考え方を学ぶ。
第4回	一段階淘汰と累積淘汰	ダーウィンの自然淘汰説について、物理学で言う「人間原理」との比較も交えながらより詳しく学ぶ。
第5回	本質主義と集団思考	ダーウィンの分岐進化、漸進説、および「集団思考」という考え方の新しさを、伝統的な「本質主義」との対比で学ぶ。
第6回	「進化の単位」の問題	「進化の単位」と言われる問題の概略と、この問題と進化生物学以外の分野との関わりなどについて学ぶ。
第7回	「適応主義」の問題	ゲールドラによる「パングロス・パラダイム批判」を取り上げ、その妥当性や背景について検討する。
第8回	ディスカッション：ダーウィン進化論と人間	これまでに学んだ知識をもとにしたディスカッションにより、この先の「進化論的人間観の問題」への足場がためを行う。
第9回	民衆文化の中の進化論	学術的な分野以外での進化論の影響やそのイメージの変遷などについて考察する。
第10回	文化の進化論	文化の進化に関する現代進化論の知見について学ぶ。
第11回	宗教の進化論	現代の進化心理学的な研究の典型としての、宗教のダーウィン進化論的な研究について学ぶ。
第12回	合理性と進化：進化心理学と二重過程理論	人間の「合理性」と進化生物学を関連づける現代の論争を取り上げて検討する。
第13回	倫理と進化	進化論的人間観が倫理学にもたらす影響などを考察する。
第14回	まとめとレポート提出	今期の内容を振り返り、そのあと授業内試験・レポート回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

各回に沿った参考書をその都度授業内で紹介する。全般的なガイドとなる本として、エリオット・ソーパー『進化論の射程』（春秋社）、ダニエル・デネット『ダーウィンの危険な思想』および『心の進化を解明する』（いずれも青土社）を挙げておく。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる、「到達目標」(2)の到達度の評価を中心とする(80%)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1)の到達度の評価(10%)、および、小レポートやディスカッションへの参加等を含む平常の授業への参加態度(10%)も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているため、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることが心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【その他の重要事項】

科学哲学1「ダーウィン進化論とその受容の思想史」で学んだ歴史的・理論的な知識を踏まえた講義になるので、同講義と併せて受講するのが望ましい。

【Outline and objectives】

The main objective is to learn about philosophical problems on Darwinian evolution and evolutionary views of human nature.

PHL200BB

現代思想2（フランスの思想） 1

大池 惣太郎

授業コード：A2245 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

春学期授業/Spring・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フランスを中心とした現代思想における〈動物〉というトポスについて学びます。

西欧の哲学的伝統において「動物」はしばしば、「人間」が持つと信じられた固有能力（理性や思惟、言語能力）を剥奪された存在として表象されてきました。この「人間-a」としての動物像は、人間の動物に対する優越性の信念や、動物の生命の産肉的な搾取を後押しすることにつながりました。

こうした人間中心主義的な動物観に対して、今日では多くの哲学者、思想家が異議を唱えています。それと同時に、動物たちを人間とは別の生や思考のかたちを生きる強い意味での他なる存在者として捉えつつ、共生の問題を考えようとする様々な新しい哲学的考察が増えてきました。授業では、そうした試みのいくつかを講読し、それを通じて、〈動物〉というトポスがポスト・ヒューマニズムをめぐる現代哲学において果たしている批評的意義について学びます。

【到達目標】

- (1)フランスを中心とした現代思想において〈動物〉というトポスが提起している論点、意義について、理解を深めること。
- (2)授業内での発表やディスカッションを通じて、自分の疑問点や発見を全体と共有しつつ考察を深める方法を学ぶこと。
- (3)レポート課題において、単に読んだ本の知識をそのままとめるのではなく、授業で学んだ視点や知見を参考に自ら論点を組み立て、自分の考察を含んだレポートを作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、授業のテーマに沿った課題文献が配布されるので、受講者はその文献をあらかじめよく読み、自分がそこから汲み取った論点や疑問点を整理したうえで授業に出席します。授業では、最初に論点と疑問点を相互に確認した上で文献を講読します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	フランス現代思想のなかの「動物」
第2回	動物は「世界」をもっているか(1)	ハイデガーによる人間と動物の違い
第3回	動物は「世界」をもっているか(2)	フォントネーによる批判
第4回	「人類学機械」批判(1)	アガンベンによるハイデガーの批判的読解
第5回	「人類学機械」批判(2)	「関」としての動物的生
第6回	動物は「考える」？	動物の「知性」に関する近年の記号論的捉え方について
第7回	動物であるかのように考えるとはどういうことか	ドゥルーズ+ガタリにおける「動物になること」について
第8回	動物的经验(1)	動物の視線という経験
第9回	動物的经验(2)	人間のゾーエーの経験
第10回	デリダと動物(1)	デリダ、L'animal que donc que je suis を読む（第1章）
第11回	デリダと動物(2)	デリダ、L'animal que donc que je suis を読む（第2章）
第12回	デリダと動物(3)	デリダ、L'animal que donc que je suis を読む（第3章）
第13回	デリダと動物(4)	デリダ、L'animal que donc que je suis を読む（第4章）
第14回	まとめ	全体の講義のまとめとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テーマに関連する課題テキストが配布されるので、それをよく読み、あらかじめ理解が及ばなかった点や疑問に思った点について整理した上で授業にのぞみます。

【テキスト（教科書）】

ジャン＝クリストフ バイ『思考する動物たち—人間と動物の共生をもとめて』（出版館ブック・クラブ、2013年）、エリザベート・フォントネー『野生の思考』（みすず書房）、ジョルジュ・アガンベン『開かれ—人間と動物』（平凡社ライブラリー、2011年）、ジョルジュ・バタイユ『宗教の理論』（ちくま学芸文庫、2002年）ジャック・デリダ『動物を追う、ゆえに私は〈動物〉である』（筑摩書房、2014年）

【参考書】

パトリック・ロレッド『ジャック・デリダ 動物性の政治と倫理』（勁草書房、2017年）、金森修『動物に魂はあるのか 生命を見つめる哲学』（中公新書、2012年）、串田純一『ハイデガーと生き物の問題』（法政大学出版局、2017年）、Dominique Lestel, L'Animal est l'avenir de l'homme (Fayard, 2010)

【成績評価の方法と基準】

授業での発表・参加（70%）と学期末のレポート（30%）で総合的に評価します。

評価は以下の基準で行います。

- (1)フランスを中心とした現代思想において〈動物〉というトポスが提起している論点、意義について、一定程度の水準で批評的な考察ができているか。
- (2)発表やディスカッションにおいて、自分の疑問点や発見を全体と共有しつつ、考察を深められているか。
- (3)レポートにおいて、単に読んだ本の要約をするだけでなく、授業で学んだ視点によって自分で問題を再構築し、批評的な考察ができているか。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This seminar aims to explore the theme of “animal” as a philosophical term topos in the contemporary French thoughts, especially from the philosophy of Derrida. As we discuss essential works about this subject, we will examine how “animals” constitute important issues in reality, particularly in terms of the post-human thoughts and the question of co-existence with other beings.

PHL200BB

現代思想2（フランスの思想）2

大池 惣太郎

授業コード：A2246 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスの精神分析医フランソワーズ・ドルト（1908-1988）の著書を中心に講読しながら、精神分析的な〈主体〉の概念について基礎的な考え方を学びます。

ドルトは同時代に活躍したジャック・ラカンとも協働しつつ、精神分析理論として特異なアプローチを多数提示しました。とくに、小児心理学・幼児教育の専門家として、フランス本国では一般にも高い認知を得ています。言語習得以前の子供をすでに独立した主体として考察する彼女の理論は、幼児教育の範疇を越えて、人間存在とは何かを捉え返すための豊かな視点を提供しています。ドルトの著作をいくつか講読しながら、精神分析的観点から見た人間と言語、幼年期、そしてそこにおける〈主体〉の問題について理解を深めることが、この授業の目的です。

【到達目標】

- (1)ドルトの精神分析理論から見た人間と言語、幼年期、主体といった主題について、一定程度の水準で批評的な考察ができるようになること。
- (2)授業内での発表やディスカッションを通じて、自分の疑問点や発見を全体と共有しつつ考察を深める方法を学ぶこと。
- (3)単に読んだ本の知識をそのままとめるのではなく、それを授業で学んだ視点によって組み立て、自分の考察を含んだレポートを作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に数回、精神分析の基礎的な考え方について学習したのち、ドルトの主要な著書数冊を講読します。毎回、ドルトの著書から選ばれた一定量のテキストが配布されるので、参加者はあらかじめその部分を精読し、論点や疑問点を整理したうえで授業にのぞみます。授業では、最初に論点と疑問点を相互に確認した上で文献を講読します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	精神分析と精神医学の違い
第2回	幼児と言語習得(1)	発達認知科学の観点から
第3回	幼児と言語習得(2)	精神分析的観点から
第4回	ドルトの精神分析の特徴	無意識と言語、身体の関係について
第5回	ドルトの精神分析の特徴	主体としての「子ども」という考え方について
第6回	「無意識的身体像」について(1)	「身体図式」と「身体像」の違い
第7回	「無意識的身体像」について(2)	象徴的去勢について
第8回	「無意識的身体像」について(3)	ドルトにおけるエディプスコンプレックスの考え方
第9回	「無意識的身体像」について(4)	言語習得前の「身体像」の問題
第10回	「無意識的身体像」について(5)	エディプス期以後の「身体像」の問題
第11回	言語習得と主体(1)	前言語的な主体
第12回	言語習得と主体(2)	言語以前にも欲望はあるのか
第13回	言語習得と主体(3)	「すべては言葉である」について
第14回	まとめ	フランス思想のなかの「インファンサ」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、ドルトの著作や関連文献から選んだテキストが配布されるので、それをよく読み、理解が及ばなかった点や疑問に思った点についてあらかじめ整理をした上で授業にのぞみます。

【テキスト（教科書）】

フランソワーズ・ドルト『無意識的身体像—子供の心の発達と病理』1・2（言叢社、1994）、メラニー・クライン『愛・罪・そして償い』（誠信書房、1983年）、Françoise Dolto, *Tout est langage* (Gallimard, 2002)

【参考書】

竹内健児著『ドルトの精神分析入門』（誠信書房、2004年）、フランソワーズ・ドルト『子どもの無意識』（青土社、1994）、『少女時代』（みすずライブラリー、1996年）、Élisabeth Roudinesco, *Histoire de la psychanalyse en France*, (Fayard, 2009)

【成績評価の方法と基準】

授業での発表（60%）と学期末のレポート（40%）で総合的に評価する。評価は以下の基準で行います。

- (1)ドルトの精神分析理論から見た人間と言語、幼年期、主体といった主題について、一定程度の水準で批評的な考察ができているか。
- (2)発表やディスカッションにおいて、自分の疑問点や発見を全体と共有しつつ、考察を深められているか。
- (3)レポートにおいて、単に読んだ本の要約をするだけでなく、授業で学んだ視点によって自分で問題を再構築し、批評的な考察ができているか。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this seminar we will explore the works of Françoise Dolto, French woman psychoanalyst (1908-1988), to attempt to seek basic elements and issues on the concept of "subject" in Psychoanalysis. Prominent for theory-building and praxis in the field of Child education, her distinctive point of view will provide rich thought-stimulating ingredients to examine what constitutes the "subject" in a human being. After a brief introduction of psychoanalytic theories, we will read her influential pieces, especially focusing on the conception of the "unconscious body image" (l'image inconsciente du corps).

PHL200BB

宗教学 1 (伝統宗教) 1

杉本 隆司

授業コード：A2251 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

21 世紀にはいり、西欧世界とイスラム世界に象徴されるように宗教間の摩擦や政治的な世俗化の問題に注目が集まっている。近年も世界各地で宗教的価値をめぐる暴力が現実のものとなり、私たちにも無関係な問題ではなくなりつつある。この授業では西欧における「他者の信仰」の歴史を学び、国際社会の宗教問題を広い視野から主体的に考察する知識を身につける。

【到達目標】

世界にはキリスト教、イスラム教、仏教といった世界三大宗教ははじめとして多様な宗教があります。しかしこれらをすべて「宗教」Religion という同じカテゴリーに含むような意識が西欧世界で認知されたのは、せいぜいここ 2 世紀のことにすぎません。この授業ではキリスト教の成立から新大陸の「発見」までを歴史的に概観し、「宗教」概念が決して普遍的なものではなく、歴史性や論争的な性格を抱えつつ成立してきた流れを具体的に理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

中世までもっぱらユダヤ・キリスト教だけが本当の「宗教」で、それ以外の信仰は「異教」扱いでした。「異教」概念は、それを規定する側がなにがしかの「真の宗教」を前提としている点で排除の論理が働きます。しかし近世以降この前提は「異教」との接触によりいくつかの点から揺らぎ始めます。1. 古代異教の復活 (ルネサンス)。2. カトリック=異教論の登場 (宗教改革)。3. 新大陸の異教との遭遇 (大航海時代)。おもに西洋が経験したこの 3 つのテーマを中心に排除の論理と「他者の信仰」との関係について、毎回資料を配りながら進めていく予定です (授業計画参照)。

なお、この授業は秋学期の「宗教学 1 (伝統宗教) 2」と連動しているの、秋学期授業の履修を考えている学生は本講義と合わせて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマの説明
第 2 回	「他者の信仰」と現代 (1)	宗教間摩擦の現在
第 3 回	「他者の信仰」と現代 (2)	世俗化論と「宗教」概念の再考
第 4 回	ユダヤ=キリスト教史 (1)	ユダヤ教と旧約聖書
第 5 回	ユダヤ=キリスト教史 (2)	民族宗教から世界宗教へ
第 6 回	古代・中世キリスト教 (1)	異教概念の成立
第 7 回	古代・中世キリスト教 (2)	教父の偶像崇拜批判
第 8 回	宗教改革と異教批判 (1)	宗教改革の歴史
第 9 回	宗教改革と異教批判 (2)	異教=教皇制批判
第 10 回	宗教改革と異教批判 (3)	ウェーバーの脱魔術化論
第 11 回	宗教改革と異教批判 (4)	悪魔学の盛衰
第 12 回	新大陸と魂の征服 (1)	大航海時代と野生宗教の遭遇
第 13 回	新大陸と魂の征服 (2)	キリスト教普遍史の揺らぎ
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回授業の参考文献・新聞記事を載せたレジュメを配布するので、自分の問題関心に沿う文献があれば、次回までに目を通しておくのが望ましい。また、中間の小テストや期末試験の形式は授業で習ったキーワードを予めお題として出すので、その予習が求められる。

【テキスト (教科書)】

なし。毎回プリント配布。

【参考書】

ジル・ケベル『宗教の復讐』晶文社、1992 年
 ハルバータル、マルガリート共著『偶像崇拜—その禁止のメカニズム』法政大学出版局、2007 年
 木崎喜代治『信仰の運命—フランス・プロテスタントの歴史』岩波書店、1997 年
 その他随時授業で指示

【成績評価の方法と基準】

出席票を配るので必ず出席すること。授業の半ばに中間小テストの実施も考えている。中間・期末試験では到達目標の理解度を見るために、授業中の質問や授業内容に加え、そこから自分の考えを展開できているかといった点も考慮する。2 つの試験 (目安は中間 30 %、期末 70 %) の結果と出席等を考慮して総合的な評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

板書の見易さや早口にならないよう気をつけたい。

【Outline and objectives】

In the 21st century, as symbolized by the Western world and the Islamic world, the issue of friction and secularization among religions is getting political attention. In recent years, violence over religious values has become visible around the world, and it is becoming not an issue unrelated to us either. This course introduces the history of "the beliefs of others" in Western Europe to students taking this course, and the aim of course is to help students acquire knowledge to consider the religious problems of the international community from a broad perspective.

PHL200BB

宗教学 1 (伝統宗教) 2

杉本 隆司

授業コード：A2252 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「宗教」批判の歴史的諸相の検討。春学期の授業に引き続き、「他者の信仰」や宗教寛容論等の現代的諸問題を異教問題として歴史的に考察する。秋学期では世俗権力と教会権力の政治力学も視野に入れながらルネサンスから啓蒙思想を経由して19世紀の宗教学の成立までを概観し、現代の政教分離の原則や近代国家と宗教の関係がどのように確立されたのかを学ぶ。

【到達目標】

宗教学の誕生は、19世紀のキリスト教神学から宗教学(科学)への転換によって特徴づけられる。これは、中世までのように「宗教」が自明なものではなく、近代社会のなかで解決すべき一つの「問題」(クリティックの対象)として現れたという認識の転換でもある。この授業ではおもに世俗的思想家たちの異教への視線や宗教観を通して、宗教学の成立と非宗教的な(ライックな)国民国家の形成をキリスト教(教会権力)の相対化という長期的な視点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の授業では宗教の基本知識とキリスト教の成立から大航海時代までを扱い、聖書に基づく教父や神学者の異教批判を見てきました。しかし17世紀以降、異教問題は世俗的思想家や哲学者の宗教(不)寛容論へとその文脈を移動し、「宗教」批判の諸相として西欧思想の中心テーマの一つになります。この授業では、「他者の信仰」の問題を主に近代思想史の文脈から読み直し、19世紀に成立する宗教学や社会学がいかなる思想的背景から誕生したのかを思想家のテキストを通じて具体的に検討します(授業計画参照)。

なお、この授業は春学期の「宗教学1(伝統宗教)1」と連動しているため、本授業の履修を考えている学生は春学期授業と合わせて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	秋学期授業への導入
第2回	ルネサンスとユマニスム	モアのユートピア宗教
第3回	ルネサンスとユマニスム	新プラトン主義と合理主義神学
第4回	理神論と自然宗教(1)	「異教徒の救い」とデカルト周辺
第5回	理神論と自然宗教(2)	スピノザの汎神論
第6回	理神論と自然宗教(3)	ロックの生得観念批判
第7回	啓蒙思想と宗教批判(1)	フランス啓蒙の自然宗教論
第8回	啓蒙思想と宗教批判(2)	ヒュームの理神論批判
第9回	啓蒙思想と宗教批判(3)	ド・プロスのフェティシズム論
第10回	仏革命とロマン主義(1)	革命宗教と非キリスト教化運動
第11回	仏革命とロマン主義(2)	ドイツ・ロマン主義の宗教感情論
第12回	実証主義と人間の宗教	フォイエルバッハの人間学とコントの社会学
第13回	実証主義と人間の宗教	デュルケムと宗教学の制度化
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回授業の参考文献を載せたレジュメを配布するので、自分の問題関心に沿う文献があれば、次回までに目を通しておくのが望ましい。また、中間の小テストや期末試験の形式は授業で習ったキーワードを予めお題として出すので、その予習が求められる。

【テキスト(教科書)】

なし。毎回プリント配布。

【参考書】

ハンス・キッペンベルク『宗教史の発見—宗教学と近代』岩波書店、2005年
伊達聖伸『ライシテ、道徳、宗教学』勁草書房、2010年
宇野重規ほか『共和国か宗教か、それとも』白水社、2015年
その他随時授業で指示

【成績評価の方法と基準】

出席票を配るので必ず出席すること。授業の半ばに中間小テストの実施も考えている。中間・期末試験では到達目標の理解度を見るために、授業中の質問や授業内容に加え、そこから自分の考えを展開できているかといった点も考慮する。2つの試験(目安は中間30%、期末70%)の結果と出席等を考慮して総合的な評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

板書の見易さや早口にならないよう気をつけたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical aspects of criticism of "religion". Continuing from the semester of the spring semester, this course deals with the historical issues such as "beliefs of others" and religious tolerance. In the autumn semester, while also considering the political dynamics between secular state and church authority, the goals of this course are to understand the current from the Renaissance through the enlightenment thought to the establishment of the science of religion of the 19th century, and to obtain basic knowledge about the principle of contemporary separation of church and state.

LIN200BB

ラテン語 1

金子 佳司

授業コード：A2268 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語1では、名詞、形容詞、代名詞、動詞の基本的な変化などを学びます。

古典ラテン語は紀元前1世紀から紀元後1世紀に使われた言語ですが、それ以降の西洋文化の根幹をなす言語でもありますから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語1では、古典ラテン語の名詞、形容詞、動詞の基本的な変化を覚え、辞書を使えば簡単なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2～3課分の文法を説明し、翌週それらの課の練習問題のラテン文の和訳を行ってまいります。教科書が少し進んだら、教科書以外の簡単な読み物を読んでみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	第1課・第2課の説明	文字と発音 音節とアクセント
第2回	練習問題 1,2 第3課～第5課の説明	動詞第一、第二活用 名詞第一活用 動詞第三、第四、第五活用
第3回	練習問題 3,5,7 引用句 1 第6課～第8課の説明	名詞第二活用 (1) 形容詞第一、第二活用 (1) 動詞未完了過去形
第4回	練習問題 9,11,13 引用句 2,3 第9課～第11課の説明	名詞第二活用 (2) 形容詞第一、第二活用 (2) 動詞未来形
第5回	練習問題 15,17,19 引用句 4,5 第12課～第14課の説明	前置詞、所格 (locative)、eo の変化 不定詞、sum, possum の変化 i 音幹名詞
第6回	練習問題 21,23,25 引用句 6,7 第15課～第17課の説明	i 音幹形容詞 動詞完了形、過去完了形、未来完了形
第7回	練習問題 27,29,31 引用句 8,9 第18課・第19課の説明	黙音幹名詞、混合幹名詞
第8回	練習問題 33,35 引用句 10 第20課・第21課の説明	動詞受動相（受動態） 流音幹鼻音幹名詞
第9回	練習問題 37,39 引用句 11,12 第22課・第23課の説明	s 音幹名詞 混合幹形容詞、子音幹形容詞
第10回	練習問題 41,43 引用句 13,14 第24課・第25課の説明	動詞完了、過去完了、未来完了受動相（受動態） 動詞の主要部分、volo nolo, malo の変化
第11回	練習問題 45,47 引用句 15 第26課・第27課の説明	名詞第四、第五活用 能動相（能動態）欠如動詞、fio, fero の変化
第12回	練習問題 49,51 引用句 16 第28課・第29課の説明	指示代名詞、限定代名詞 疑問代名詞、不定代名詞
第13回	練習問題 53,55 引用句 17,18 簡単な読み物	簡単なラテン語で書かれた文章を読んでみる。
第14回	理解度の確認	春学期に扱った練習問題、引用句、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳してくとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにしておくこと。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

基本的には、授業中に行ってもらう和訳（50%）と期末試験（50%）の結果で評価しますが、無断欠席は減点しますので、理由があって欠席するときには、必ず書面で報告すること。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

LIN200BB

ラテン語2

金子 佳司

授業コード：A2269 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を1年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語2では、接続法、命令法、条件文、比較文、不定詞、分詞、動名詞などを学びます。ラテン語2はラテン語1とは独立した科目ですが、ラテン語1で学んだ知識を前提としていますので、ラテン語2をとる場合は、できる限りラテン語1も受講してください。

古典ラテン語は西洋文化の根幹をなす言語ですから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】

ラテン語2では、ラテン語1で学んだ知識を踏まえた上で、さらに古典ラテン語の基本的な文法事項全体を身につけ、辞書を使えば標準的なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、教科書の2課分の文法を説明し、翌週これらの課の練習問題のラテン文の和訳を行ってまいります。教科書がすべて終わったら、教科書以外の短い読み物を読んでみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	春学期の授業の復習 第30課・第31課の説明	動詞接続法現在形、未完了過去形、目的節で使われる接続法 人称代名詞
第2回	練習問題 57,59 引用句 19,20 第32課・第33課の説明	所有形容詞、強意代名詞 動詞接続法完了形、過去完了過去形、 間接疑問文で使われる接続法
第3回	練習問題 61,63 引用句 21 第34課・第35課の説明	事実と反する仮定を表す条件文 仮想を表す条件文と予想を表す条件文
第4回	練習問題 65,67 引用句 22,23 第36課・第37課の説明	動詞完了不定詞、対格不定詞節 動詞未来不定詞
第5回	練習問題 67,69 引用句 24 第38課・第39課の説明	関係代名詞 非人称動詞
第6回	練習問題 73,75 第40課・第41課の説明	動詞現在分詞 動詞完了分詞、未来分詞、状況を表す分詞
第7回	練習問題 77,79 文例1 第42課・第43課の説明	バエドルスの寓話「人の欠点」を読む。 奪格の独立的用法 形容詞の比較級、最上級
第8回	練習問題 81,83 引用句 25,26 文例2 第44課・第45課の説明	バエドルスの寓話「狐と葡萄」を読む。 形容詞の不規則な比較級、最上級 数詞
第9回	練習問題 85,87 第46課・第47課の説明	動名詞 動形容詞
第10回	文例3 練習問題 89,91 引用句 27 第48課・第49課の説明	カエサル『ガリア戦記』を読む。 動名詞の代わりに用いられる動形容詞 動詞命令法
第11回	練習問題 93,95 文例4,5 第50課・第51課の説明	キケロ『善と悪の究極について』を読む。 デカルト『省察』を読む。 能動相（能動態）欠如動詞の命令法、 主文における接続法 目的分詞
第12回	練習問題 97,99 引用句 28,29 文例6	ユークリッド『幾何学原論』を読む。
第13回	読み物	ラテン語で書かれた読み物を読む。
第14回	理解度の確認	秋学期に扱った練習問題、引用句、文例、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳してくるとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにしておくこと。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。

【テキスト（教科書）】

田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】

入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典（改訂版）』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

基本的には、授業中に行ってもらう和訳（50%）と期末試験（50%）の結果で評価しますが、無断欠席は減点しますので、理由があって欠席するときは、必ず書面で報告すること。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

LIN200BB

ギリシア語 1

白根 裕里枝

授業コード：A2270 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的としています。古典ギリシア語は、主として B.C. 5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \pi \gamma \beta \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。

できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎週、練習問題を解いてきてもらい、授業で文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	古典ギリシア語の概要	文字の読み方
第 2 回	文字を知る	文字と発音
第 3 回	読み方の規則	発音と朗読
第 4 回	名詞・形容詞の変化 1	格変化の基礎
第 5 回	冠詞・形容詞の位置	練習問題 3
第 6 回	名詞・形容詞の変化 2	練習問題 4
第 7 回	動詞変化 1 現在・未来	練習問題 5
第 8 回	動詞変化 2 過去	練習問題 6
第 9 回	動詞変化 3 不定法	練習問題 6-2
第 10 回	動詞変化 4 アオリスト	練習問題 7
第 11 回	動詞変化の整理	練習問題 7-2
第 12 回	代名詞の用法	練習問題 8
第 13 回	動詞変化 5	練習問題 8-2
第 14 回	第 3 変化の名詞	練習問題 9

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。

【テキスト（教科書）】

『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著（岩波書店）

【参考書】

『ギリシア語入門』田中美知太郎著（岩波全書）

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席、練習問題の解答を重視します。毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席 30 %、ギリシア語の読み書きや暗証 30 %、毎回の解答 40 %）。教育実習等は考慮しますが、練習問題を訳せるように毎回準備して発表することを最後まで続けたい者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

LIN200BB

ギリシア語2

白根 裕里枝

授業コード：A2271 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的としています。古典ギリシア語は、主として B.C.5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の $\Sigma \pi \gamma \beta \theta \mu$ や、時計の Ω オメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメートル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】

授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようにすることを目的としています。

できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回「補助解説プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎週、練習問題を解いてきてもらい、授業で文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	春学期の復習	動詞変化の基礎
第2回	第3変化の名詞 2	練習問題 10-11
第3回	関係代名詞	練習問題 11
第4回	指示・強意代名詞	練習問題 12
第5回	比較級・約音動詞	練習問題 13-14
第6回	不規則な形容詞	練習問題 15-17
第7回	動詞変化 6	練習問題 18-19
第8回	分詞の用法	練習問題 20-21
第9回	接続法と条件文	練習問題 22
第10回	希求法と条件文	練習問題 23-24
第11回	中・受動相	練習問題 25-26
第12回	条件文（接続法・希求法）	練習問題 27-29
第13回	受動相・完了	練習問題 30-32
第14回	命令法・数詞	練習問題 33-36

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、次の練習問題の解答のための予習を必要とします。

【テキスト（教科書）】

『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著（岩波書店）

【参考書】

『ギリシア語入門』田中美知太郎著（岩波全書）

【成績評価の方法と基準】

平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席、練習問題の解答を重視します。毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席 30 %、ギリシア語の読み書きや暗証 30 %、毎回の解答 40 %）。教育実習等は考慮しますが、練習問題を訳せるように毎回準備して発表することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ギリシア語という未知の言語に触れることのできる数少ない機会で、難しいが、意外にも、声を出して暗唱したり、変化を唱えるのも楽しいらしい。教科書の最後までやりとおすために、なお一層、計画を立ててじっくり進めたい。

【その他の重要事項】

ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.

After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

LIT300BC

日本文芸批評史 A

川鍋 義一

授業コード：A2553 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

批評だの評論だのというものは、一体、なんでしょうか？ それは文学原論ともいべきものであり、表現理論であり、創作理論であり、読者の理論であり、作品論・作家論であり、場合によっては社会と人間のあり方を考察する政治論をも射程に入れます。

要するに鵬外の「小説といふものは何をどんな風に書いても好いものだ」をもじって、批評・評論というのは論理的な書き方をしてあれば何を書いてもよいものなのです。

ところが狭い意味での論理性などを無視した批評というものもあって、それが人の心を強く打つものだったりする。そうなるも批評ってなんだと考えると、もう訳がわかりませんね。困ったものだ。

ということでこの授業では、たとえば「論理性って文学に必要なのか？」ということをお林秀雄に聞いてみましょう。「文学って自分の体験したこともないことを描けるのか？」ということをお島武郎と一緒に考えてみましょう。「文学は現実を写すことができるのか？」、「文学って役に立つのか？」、「文学は現実とどのように切り結ぶべきなのか？」……といろんな批評に聞いてみましょう。

そういう難問に向き合った先輩たちの真摯な態度が批評する態度であり、その著作をヒントにして難問と向き合うわたしたち自身の態度が批評であると言えるかもしれません。授業のテーマはそれらの難問に明確な答えを出すのではなく、わたしたち自身が思考する上でのヒントを得ることです。

上記テーマを達成するためには、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことがらについての理解も必要になります。諸君はこれらの問題についても知識を身につけます。

【到達目標】

上記「授業の概要」の問題意識に沿って、文学とはなにか、表現とはなにかということ、論理的な側面から考えられるようにすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。

文学史上に残る著名な批評を1本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでいいですよ）。これを5講（6作品）で繰り返します。

以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。

また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。

春学期は『小説神髓』から大正末・昭和初期のいわゆる三派鼎立の状況（主に新感覚派）まで。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと予備知識	授業進行の説明と近代文学史理解のための予備知識
第2回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髓」(抄)：近代文学の言語
第3回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髓」(抄)：近代文学の内容
第4回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：時代背景
第5回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：読解
第6回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：発展的考察
第7回	自然主義	文学は現実を描き得るか 田山花袋「露骨なる描写」：リアリズムとはなにか
第8回	自然主義	文学は現実を描き得るか 田山花袋「露骨なる描写」：発展的考察
第9回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：文学史的背景

第10回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：有島の文学理論
第11回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：体験と文学
第12回	三派鼎立の状況 千葉亀雄「新感覚派の誕生」	文学史的背景
第13回	三派鼎立の状況 千葉亀雄「新感覚派の誕生」	横光利一作品読解および表現理論への発展的考察
第14回	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【明治・大正篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験（持ち込み不可）：90%

授業中に数回書いてもらうアクション：10%

【学生の意見等からの気づき】

近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。

【その他の重要事項】

春学期の明治～大正と、秋学期の昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire Japanese modern literary criticism concerned in novels, poems, politics, and so on.

LIT300BC

日本文芸批評史 B

川鍋 義一

授業コード：A2555 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「日本文芸批評史 A」と同様、先人たちの批評というたまたかいかから、わたしたち自身の考えるヒントを得ていきましょう。

秋学期は昭和初年から 1950 年代までの批評を読みます。

したがって、秋学期は春学期の問題意識に加え、もう一つ、戦争（第二次世界大戦）というテーマが加わります。戦争に突き進む時代に、文学者たちはどのように振る舞ったか。戦争中、権力とどのような距離をとったか。戦後、どのように新しい文学・思想を始めたか。

それらの時代に、文学者は流れに抵抗しようとしながらも、流れに棹さし、流れに飲み込まれ、密かに文学の孤塁を守り、あるいはとりかえしのつかないことをしてしまいました。

昨今単純で直線的で勇ましく、痛みを伴わない言説が幅を利かしています。わたしたちはそういう時流といかに向き合うか。そのヒントを得たいと考えます。

秋学期の授業では、諸君は「政治と文学」という、近現代文学の難問をいろいろな局面で自らの課題として考えることが要求されます。

【到達目標】

上記「授業の概要」の内容を達成することは、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことから理解することです。これらの問題について、知識を身につけることを諸君の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。

文学史上に残る著名な批評を 1 本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでいいですよ）。これを 4 講（8 作品）で繰り返します。

以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。

また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。

秋学期は三派鼎立のうちプロレタリア文学の理論と、その批判者であった小林秀雄から始めて、吉本隆明までを読みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 蔵原惟人「プロレタリアリズムへの道」	マルクス主義とはどういうものか
第 2 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 蔵原惟人「プロレタリアリズムへの道」	文学史的背景および蔵原文読解
第 3 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 小林秀雄「様々な意匠」	印象批評とはなにか
第 4 回	「様々な意匠」とプロレタリア文学 小林秀雄「様々な意匠」	小林文読解
第 5 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 武田泰淳「司馬遷伝」	戦中文学史概観・転向について
第 6 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 武田泰淳「司馬遷伝」	戦中文学史概観・転向について
第 7 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 坂口安吾「墮落論」	無頼派の戦中・戦後
第 8 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 坂口安吾「墮落論」	その文学史・思想上の意義

- 第 9 回 戦後左翼の分岐点 小田切 秀雄「文学における戦争責任の追求」 『新日本文学』について
- 第 10 回 戦後左翼の分岐点 平野謙 「政治と文学」 『近代文学』について
- 第 11 回 戦後左翼の分岐点 平野謙 「政治と文学」 論争 『政治と文学』
- 第 12 回 『近代文学』から吉本隆明へ 本多秋五「転向文学論」（抄）吉本隆明「転向論」
- 第 13 回 『近代文学』から吉本隆明へ 本多秋五「転向文学論」（抄）吉本隆明「転向論」
- 第 14 回 定期試験 定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【昭和篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験（持ち込み不可）：90%

授業中に数回書いてもらうアクション：10%

【学生の意見等からの気づき】

近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。

【その他の重要事項】

春学期の明治～大正と、秋学期の昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire Japanese modern literary criticism concerned in novels, poems, politics, and so on.

LIT200BC

中国文芸史 A

遠藤 星希

授業コード：A2561 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【先秦・漢・魏・晋・南北朝文芸史】

中国文芸史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白や杜甫、白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、その唐詩を生み出す源泉となった唐より前の時代の文芸がどのようなものであったのかを学ぶ。

【到達目標】

先秦時代から南北朝時代までの文芸史のアウトラインを理解すること。また、各時代の代表的な文学作品を読解することを通して、中国文芸の様々なジャンルについて広く学び、同時に作品の背景にある中国文化や民間習俗、日本文化との違いについても確認すること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。テーマは原則として時代順に設定されている。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中国古典文学についての概説
第 2 回	中国神話	中国の古代神話とその特徴について
第 3 回	詩経	中国最古の歌謡集である「詩経」の歌謡を読む
第 4 回	楚辞	戦国時代の楚の地方で発祥した韻文『楚辞』の諸篇を読む
第 5 回	諸子百家	戦国時代の諸子百家の思想書を読む
第 6 回	漢代の楽府	「楽府」と呼ばれる民間歌謡を読む
第 7 回	漢代の賦と『史記』	漢代に盛行した「賦」と呼ばれる文学ジャンルと司馬遷の『史記』から、漢代の人々の世界観をさぐる
第 8 回	漢代の古詩	漢代に発祥した五言詩を読む
第 9 回	西晋の文学（1）	西晋の代表的文人である潘岳の悼亡詩を読む
第 10 回	西晋の文学（2）	西晋の左思が自分の娘を詠んだ「嬌女の詩」を読む
第 11 回	六朝志怪小説（1）	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第 12 回	六朝志怪小説（2）	志怪小説中に見える異類婚姻譚を読む
第 13 回	陶淵明の詩賦と南朝の艶詩	東晋の陶淵明の作品と、南朝で流行した「艶詩」と呼ばれるジャンルの詩を読む
第 14 回	南朝の民歌	南朝の民間歌謡に見える恋の歌を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが授業支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975年）
・松原明・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100%学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

Amongst other periods in the history of Chinese literature, the lecture will be focused on the literature and the underlying social background of the most ancient periods from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) would arguably be one of the most familiar writings for Japanese, and we will learn how literature prior to the period of Tang dynasty, which formed the foundation for the creation of Tang poetry, looked like.

LIT200BC

中国文芸史 B

遠藤 星希

授業コード：A2563 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【唐代文芸史】

中国文芸史における時代区分のうち、日本文学への影響力がとりわけ強かった唐代の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白・杜甫・白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、唐代の文芸ジャンルは詩だけではなく、「伝奇」と呼ばれる小説や韓愈・柳宗元らの散文も文芸史上において重要な意義を持っている。本授業では、唐代各期の様々なジャンルの文学作品を講義することを通して、唐代に書かれた詩や小説・散文の多様性、現代にも通じるその芸術性及び現代では理解しがたい特殊性などについて、幅広い知識を習得する。

【到達目標】

唐代文芸史のアウトラインを理解すること。また、唐詩の形式的特徴（絶句・律詩など）や内容的特徴（辺塞詩・閨怨詩・送別詩など）及び唐代に書かれた小説や散文の特徴について、具体例に即して人に説明できるようになること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（1）	唐代文学についての概説
第2回	ガイダンス（2）	中国古典詩における諸々の規則についての概説
第3回	初唐の詩	初唐の代表的な詩人の作品を読む
第4回	辺塞詩	辺境地帯の風物や出征兵士の嘆きを詠じた「辺塞詩」というジャンルの詩について
第5回	閨怨詩	愛の喪失を嘆く女性の姿を詠じた「閨怨詩」というジャンルの詩について
第6回	盛唐の詩（1）	中国を代表する詩人であり、「詩仙」とも呼ばれる李白の詩を読む
第7回	盛唐の詩（2）	中国を代表する詩人であり、「詩聖」とも呼ばれる杜甫の詩を読む
第8回	唐代伝奇小説（1）	唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短編小説についての概説
第9回	唐代伝奇小説（2）	中国では散逸し、日本に渡って生き残った伝奇「遊仙窟」を読む
第10回	唐代伝奇小説（3）	中島敦「山月記」の粉本として知られる伝奇「李徴」を読む
第11回	唐代伝奇小説（4）	芥川龍之介による翻案で知られる伝奇「杜子春」を読む
第12回	中唐の詩	中唐の代表的な詩人である韓愈・柳宗元・李賀の詩を読む
第13回	唐代古文運動	中唐期に勃興した古文復興運動について概説し、あわせて韓愈と柳宗元の散文を読む
第14回	晩唐の詩	晩唐期の代表的な詩人である杜牧と李商隱の詩を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが授業支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975年）
・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005年）
・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100%学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

Amongst other periods in the history of Chinese literature, the lecture will be focused on the literature and the underlying social background during the Tang dynasty when there was a particularly strong influence on Japanese literature. As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) would arguably be one of the most familiar writings for Japanese. However poetry was not the only literary genre during the Tang, and novels called chuan-qi as well as prose of Han Yu and Liu Zongyuan are particularly noteworthy in the history of Chinese literature. In this lecture, through reading literary works of various genres from each period during the Tang, we will attain broad knowledge on the diversity of poetry, novels and prose written during the Tang dynasty, their artistry that can be appreciated today as well as peculiarities that are difficult to understand today.

ART300BC

音楽芸能史特殊研究 A

野川 美穂子

授業コード：A2569 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降に発展した芸能の魅力（三曲を中心に）

【到達目標】

音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに三曲）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容には関連します。

春学期には、お稽古事の対象として普及し、音楽のみで楽しめることの多い三曲（地歌・箏曲、尺八楽、胡弓楽）をとりあげます。まずは三曲に使われる楽器を紹介し、続いて、それらの音色を生かし、歌の魅力も引き出す多彩な作品を紹介していきます。知識としてではなく、目で耳で感じ取ることができるよう、多くの視聴覚教材を使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。 近世芸能の概観。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の特徴。
第 2 回	三曲とは何か。 三曲に使う楽器。	三曲の伝承者の特徴。三曲に使う楽器（箏、三味線、尺八、胡弓）の特徴。絹糸弦の製作方法。
第 3 回	三味線の伝来。	三味線伝来の経緯。伝承の基本となった三味線組歌と長歌物。
第 4 回	地歌の歴史と特徴①	叙情性に満ちた端歌物。
第 5 回	地歌の歴史と特徴②	音色の重なりと緩急の変化が楽しい手事物。
第 6 回	地歌の歴史と特徴④	芝居の一場面を歌う浄瑠璃物と滑稽な物語を歌う作物。
第 7 回	箏曲の歴史と特徴①	箏の製作方法。箏曲の誕生。
第 8 回	箏曲の歴史と特徴②	伝承の基本となった箏組歌。器楽曲・段物のルーツ。
第 9 回	箏曲の歴史と特徴③	段物の魅力。美しい響きの幕末新箏曲。
第 10 回	箏曲の歴史と特徴④	江戸で人気を得た山田流箏曲。
第 11 回	尺八楽の歴史と特徴①	尺八の歴史のなぞ。尺八本曲の魅力。
第 12 回	尺八楽の歴史と特徴②	尺八本曲の魅力。 胡弓の歴史のなぞと胡弓曲の魅力。
第 13 回	他の種目との関連。	文楽や歌舞伎に登場する地歌・箏曲。
第 14 回	明治時代の三曲。	明治時代の演奏会の特徴。明治新曲について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介される作品を、自身の感性を研ぎ澄まし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。そのため事前学習の必要はありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】

参考書は、授業時に随時紹介します。三曲の魅力を味わえる演奏会情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点 40 %、期末試験 60 %（配布資料とノートの持ち込み可）の比率で評価します。出席回数が授業総数の 3分の2 に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ具体的に、わかりやすく説明します。

【Outline and objectives】

Regarding Japanese performing arts developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, mainly with music. In the spring semester, we mainly target music of koto, shamisen, shakuhachi and kokyū.

ART300BC

音楽芸能史特殊研究 B

野川 美穂子

授業コード：A2571 | 曜日・時限：水 3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の音楽芸能の魅力（歌舞伎、文楽を中心に）

【到達目標】

音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（歌舞伎、文楽を中心に）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。

秋学期には、舞踊や演劇との関連が強い文楽や歌舞伎をとりあげます。また、大正時代以降の新しい状況を紹介し、音楽芸能の未来についても考えます。

多くの視聴覚教材を使って授業を進めます。教室内のプロジェクターによる鑑賞ではありますが、それぞれの芸能の魅力じっくりと味わってもらいたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。近世の芸能。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の分類。
第 2 回	劇場で使われる楽器。	文楽や歌舞伎で使われる楽器の特徴。
第 3 回	文楽の歴史と特徴①	義太夫節の歴史。三業一体とは何か。
第 4 回	文楽の歴史と特徴②	文楽の名作の魅力。
第 5 回	歌舞伎の歴史と特徴①	歌舞伎の歴史。歌舞伎における音楽の役割。
第 6 回	歌舞伎の歴史と特徴②	歌舞伎の名作の魅力。
第 7 回	文楽と歌舞伎の比較。	同じ題材の作品で、文楽と歌舞伎の演出を比較する。
第 8 回	豊後系浄瑠璃	歌舞伎舞踊を支える常磐津節と清元節の魅力。艶のある新内節の魅力。
第 9 回	他の種目との関連（1）	道成寺物の魅力。
第 10 回	長唄①	歌舞伎を支える長唄の魅力。
第 11 回	長唄②	長唄の多様性。
第 12 回	他の種目との関連（2）	石橋物の魅力。
第 13 回	近代・現代の三曲。	洋楽を取り入れた新日本音楽。多様性を見せる現代邦楽。
第 14 回	現代の歌舞伎。	現代劇の脚本家や演出家とのコラボレーションによる歌舞伎。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介する作品を、自身の感性を生かし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。そのため事前学習の必要はありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次の授業に備えます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて、授業時に随時紹介します。文楽や歌舞伎の上行情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点 40%、期末試験 60%（配布資料とノートの持ち込み可）の比率で評価します。出席回数が授業総数の3分の2に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの作品の特徴をできるだけ具体的に説明します。

【Outline and objectives】

Regarding Japanese performing arts developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, mainly with music. In Fall semester, we mainly focus on Bunraku and Kabuki.

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代 A

坂本 勝

授業コード：A2657 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代日本の神話世界について講義します。現代の私たちが見失った古代人のものの見方、感じ方、考え方を学びます。

【到達目標】

なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を確かめる。古代日本の神話世界を理解するための文献解読法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

古事記、日本書紀、風土記などの古代のテキストを通して、古代日本の神話世界について考えていきます。私たち人間の歴史や文学に対する想像は、かつては神話的な物語として産み出されました。もちろん、そこに流れているのは、私たち人間自身についての深い思いです。私たち人間はどのような存在なのか、なぜこの世に存在し、そこにどんな喜びや悲しみ、驚きや感動があるのか、人生のさまざまな問題が神話を産み出す原動力でした。授業では、そうした古代の人々の思考の跡を、追っていきます。日本の神話にターゲットを据えますが、日本の神話と同じような神話が、世界の各地にも残っています。そうした諸外国の神話なども紹介しながら講義を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	授業全体の概説
第 2 回	日本の《はじまり》物語	日本の創世記を紹介し
第 3 回	世界の《はじまり》物語	古事記、日本書紀、風土記の創生神話を学びます
第 4 回	最初の《喪失》体験	火の誕生と文化の始まりについて考えます
第 5 回	《生》と《死》の神話	神話を産み出す心のメカニズムを考えます
第 6 回	《黄泉の国》はどこにある	生と死の神話について考えます
第 7 回	《根の国》の話	大地と生命の神話について考えます。
第 8 回	ヨロチ退治の物語	英雄神話について考えます
第 9 回	《天》と《地》の神話	古代の宇宙観を学びます
第 10 回	《海》の神話	同前
第 11 回	神々と出会う《場所》	神話と祭りの関係について考えます
第 12 回	神々と出会う《人》	同前
第 13 回	神々と出会う《時》	同前
第 14 回	まとめとレポート提出	あらためて今、神話を学ぶ意味を考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

『はじめての日本神話 古事記を読みとく』ちくまプリマー新書、780円、坂本勝。ほかに、プリント教材を配布。

【参考書】

参考文献『古事記の読み方』岩波新書、坂本勝

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（1回72点）に平常点（28点、リアクションペーパーなど、授業へ参加態度）を加味して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べること、小さな世界から大きな世界に自分の思考を広げることの大切さ。

【Outline and objectives】

In this course, lectures on the mythological world of ancient Japan would be given. The worldview of ancient Japan, their way of feeling and thinking, those things what modern people lost would be examined.

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代B

坂本 勝

授業コード：A2658 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 秋学期授業/Fall・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

万葉集を通して古代日本の人間群像を考えます。

【到達目標】

上代文学の読解研究の基礎的方法を身に着ける。古典の面白さを味わい、ことばの重要性を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

万葉集が産み出された時代は、この列島が東アジアの辺境のクニ（国）から本格的な古代国家、当時の感覚では、急激な《近代》国家へと、大きな変貌を遂げた時代です。その時代の転換期に、人々はなにを感じ、なにを考え、どのような人生を生きたのでしょうか。《村》の暮らしから《都会》の暮らしに、自然の中に生きていた時代から、自然の外側で生きていくようになる時代へ、この時期の人々は、明治以降の近代の人々が経験したことと同じような劇的体験を重ねながら、その心の奇跡を多くの歌に刻みしました。この授業では、時代の転換期を生きた万葉の人々のさまざまな人間模様を考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義概要
第2回	初期万葉の大王たち	雄略天皇と舒明天皇
第3回	額田王	恋と言霊の姫王
第4回	有間皇子と大津皇子	悲劇の皇子たち
第5回	天武天皇と持統女帝	古代と近代の狭間
第6回	柿本人麻呂	愛と死の歌人
第7回	同前	同前
第8回	高市黒人と長意吉麻呂	旅と笑いの歌人
第9回	山部赤人と笠金村	自然の発見と王権讃美
第10回	大伴旅人と山上憶良	人生を見つめる
第11回	後期万葉の女たち	坂上女郎ほか
第12回	防人歌と東国民衆の歌謡	東国の歌謡と抒情
第13回	大伴家持	倭歌の離陸
第14回	まとめとレポート提出	万葉集を学ぶ意義をあらためて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

プリント教材。

【参考書】

参考文献については授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（1回。72点）と平常点（28点、リアクションペーパーなど、授業への参加態度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で調べ考えることの大切さ。ひとつのことばに自然と人間の深い交流が刻まれていること、そういうことばの大切さを知ること。

【Outline and objectives】

We would explore humanity in ancient Japan, through the study of Manyoshu.

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古A

栗山 元子

授業コード：A2661 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではいわば『源氏物語』入門講座として、さまざまなテーマからこの物語の特性やその文学的達成について講義を行っていきます。またこの物語が後世にどのように読まれてきたかということについても、いくつかの享受作品—絵画資料や後世の文学作品など—を例として探り、その影響の大きさについても概観していきます。こうした作品の内と外という多角的な観点から見ていくことで、『源氏物語』が単なる〈好色な光源氏の恋愛遍歴物語〉に止まるものではないことを知り、その文学史における意義や価値についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

①『源氏物語』に関する基本的知識を深め、その物語世界を理解する。
 ②さまざまな角度から『源氏物語』について見ていくことで、その物語としての文学的達成や文学史における意義について理解する。
 以上の二点の達成を目標としますが、『源氏物語』をより深く知ることを通じて古典文学作品に親しむ姿勢を養い、「古典」とは何か、「古典」を読むべき理由とは何かということについて受講者それぞれが答えを見つけることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行いますが、適宜パワーポイントやDVDなど視聴覚教材も使用します。また毎回コメントシートを作成して提出してもらいます。これは理解度を確認するためでもあります。授業内容を振り返り、ポイントについて整理することで定着を図るためでもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	『源氏物語』の世界を理解するために1	平安時代の風俗について
第2回	『源氏物語』の世界を理解するために2	平安時代の身分制度や社会構造について
第3回	紫式部について	紫式部の人物像や伝説について
第4回	『源氏物語』の正篇の世界	幻巻までの正篇の世界を概説
第5回	『源氏物語』の主人公・光源氏について	光源氏像の造型について
第6回	『源氏物語』の続篇の世界	匂宮巻以下の続篇の世界を概説
第7回	『源氏物語』の補作について	『源氏物語』の補作の紹介
第8回	『源氏物語』における自然	自然の描かれ方
第9回	『源氏物語』における家族	親子関係・兄弟姉妹関係の描かれ方
第10回	『源氏物語』と宗教	仏教観や霊験の描かれ方
第11回	『源氏物語』と怪異	怪異の描かれ方
第12回	『源氏物語』の享受1	『源氏物語』を基にした絵画資料の紹介
第13回	『源氏物語』の享受2	六条御息所は後世どのように描かれたか
第14回	『源氏物語』の享受3	藤壺と光源氏の恋は後代どう読まれたか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わかりやすい授業を心がけたいと思いますが、登場人物についての詳細や大筋以外の細やかな物語内容については、授業時における説明では時間的な制約もあるため触れられないところが多々出てくるものと思われます。そうした点を授業前後における各自の自習に委ねたいと思います。幸い多くの入門書が出版されていますので、参考書に挙げていたもの以外でも、手に取りやすいもので結構ですから読んでください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず講師作成のプリントを配布します。

【参考書】

①物語を読むにあたって、さまざまな言葉や風俗・歴史等の理解をするための手引きとなるもの
 中野幸一編『新装版 常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院 2012）、秋山慶・小町谷照彦『源氏物語図典』（小学館 1997初版）、林田孝和他編集『源氏物語事典』（大和書房 2002）、山本淳子『源氏物語の時代——一条天皇と后たちのものがたり』（朝日選書 2007）など。

なお風俗博物館（京都）のサイトは、平安時代の風俗や年中行事を知る上で非常にわかりやすく参考になります。<http://www.iz2.or.jp/>

②物語の内容を知るための入門書の一例

中野幸一『源氏物語みちるべ』（小学館 1997）、秋山虔・三田村雅子『源氏物語を読み解く』（小学館 2003）、竹内正彦『2時間でおさらいできる源氏物語』（大和書房 2017）、清水好子『源氏の女君 増補版』（塙新書 1967初版）など。またさまざまな新書版での入門書や角川ソフィア文庫でのビギナーズクラシックスのものなどもあります。

③現代語訳の一例

中野幸一訳注『正訳源氏物語 本文対照』（勉誠出版 2015～2017）、角川ソフィア文庫・岩波文庫・小学館新編日本古典文学全集・新潮日本古典集成・岩波書店新日本古典文学大系など大手出版社の古典文学シリーズ中の『源氏物語』などがあります。また作家による現代語訳も多数あります。

※参考書については各テーマに沿ったものを授業内でも紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業最終時に行う筆記試験（50%）とコメントシートの内容評価による平常点（50%）を合算し評価を行います。なおコメントシート評価による平常点は、授業内容について深く理解し、到達目標①②をどの程度達成しているかを判断の基準とします。また試験による評価は、こうした授業内容を理解することに止まらず、自ら主体的に学び取った更に高いレベルでの理解に到達目標①②に沿って達しているかを見て判断します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度よりの担当のためアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to acquire the advanced knowledge for understanding about the world of "The Tale of Genji"; For example, what is the theme of this classic, how it described about the nature or family or religion, or who is the model of Genji, how it influenced on the progeny works and so on. After taking the class, you will get to know the achievement and the significant of the "The Tale of Genji" in the history of Japanese literature.

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古B

加藤 昌嘉

授業コード：A2662 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◆テーマは、『源氏物語』と現代の作家たちです。

◆現代の作家たちが、どのように『源氏物語』を分析し翻訳して来たのかを考えます。

【到達目標】

1. 『源氏物語』の問題点を理解する。
2. 作家たちの分析方法や翻訳方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

◆プリントを配布し、講義形式で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	角田光代ほか	『源氏物語 九つの変奏』
2	谷崎潤一郎	「恋愛及び色情」「にくまれ口」
3	折口信夫	色好み／貴種流離
4	丸谷才一	『光る源氏の物語』
5	円地文子	『源氏物語私見』
6	瀬戸内寂聴	『藤壺』
7	田辺聖子	『新源氏物語』
8	大塚ひかり	『本当はエロかった昔の日本』
9	林望	『古典文学の秘密』
10	橋本治	『窈窕源氏物語』
11	与謝野晶子	『紫式部新考』
12	ライザ・ダルビー	『紫式部物語』
13	授業内試験	小論文作成
14	秋学期総括	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆授業で取り上げられた本を、自分で読んでみる。

【テキスト（教科書）】

◆毎回、プリントを配布します。

【参考書】

◆以下の入門書を推薦します。

◎竹内正彦『図説 あらすじと地図で面白いほどわかる！ 源氏物語』（青春新書）

◎小泉吉宏『まろ、ん？ 一大掴源氏物語—』（幻冬舎）

【成績評価の方法と基準】

◆筆記試験の出来（74%）。授業で取り上げられた作品を熟読した上で、小論文を書いてもらいます。

◆リアクションペーパー（26%）。質問や意見を書いてもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

◆日本古典だけでなく、現代の文学や欧米の思想も積極的に取り上げます。

【Outline and objectives】

This course deals with "The Tale of Genji" and modern novelists and translators.

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世 A

阿部 真弓

授業コード：A2665 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立・配列の問題を勘案しながら、代表的和歌について講義します。編纂時には当該歌がどのように解釈されていたか、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。和歌の解釈にあたっては、テキストのほか、適宜、歌学書や古注などを参照しながら、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画の説明など
第 2 回	『百人一首』の謎	成立の問題について
第 3 回	『百人一首』の謎	配列の問題について
第 4 回	藤原定家について	関歴・事績について
第 5 回	藤原定家について	和歌史の流れ
第 6 回	『百人一首』講読	天皇の和歌について
第 7 回	『百人一首』講読	上皇の和歌について
第 8 回	『百人一首』講読	歌合での和歌について
第 9 回	『百人一首』講読	題詠について
第 10 回	『百人一首』講読	歌合について
第 11 回	『百人一首』講読	和歌説話について
第 12 回	『百人一首』解説	女流歌人の和歌について
第 13 回	『百人一首』解説	ジェンダーの問題
第 14 回	まとめ	授業の総括および試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、角川学芸出版、1999 年）。その他、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983 年）、角川ソフィア文庫『ピギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首（全）』（谷知子、角川学芸出版、2010 年）など。

その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）、平常点（30%）によって評価します。試験は【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収するリアクションペーパーによって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline and objectives】

This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets). The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of the Medieval Japanese Literature and waka poetry.

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世 B

阿部 真弓

授業コード：A2666 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立・配列の問題を勘案しながら、代表的和歌について講義します。編纂時には当該歌がどのように解釈されていたか、また、中世・近世で『百人一首』がどのように享受されていたかについて検討し、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。和歌の解釈にあたっては、テキストのほか、適宜、歌学書や古注などを参照しながら、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画の説明など
第 2 回	『百人一首』講読	平安初期・中期の和歌について
第 3 回	『百人一首』講読	院政期の和歌について
第 4 回	『百人一首』講読	六条家歌人の和歌について
第 5 回	『百人一首』講読	御子左家歌人の和歌について
第 6 回	『百人一首』解説	歌壇について
第 7 回	『百人一首』解説	中世の『百人一首』
第 8 回	『百人一首』解説	中世の古注について
第 9 回	『百人一首』解説	近世の古注について
第 10 回	『百人一首』解説	後世への影響について
第 11 回	『百人一首』解説	歌集としての位置づけ
第 12 回	『百人一首』解説	『百人一首』と絵画の関係について
第 13 回	『百人一首』解説	『百人一首』とカルタ
第 14 回	まとめ	授業の総括および試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、角川学芸出版、1999 年）。その他、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983 年）、角川ソフィア文庫『ピギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首（全）』（谷知子、角川学芸出版、2010 年）など。

その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）、平常点（30%）によって評価します。試験は【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回配布・回収するリアクションペーパーによって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline and objectives】

This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets). The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of the Medieval Japanese Literature and waka poetry.

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世C

小秋元 段

授業コード：A2667 | 曜日・時限：土 1/Sat.1
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世文学の歴史を中心にその前後の歴史の流れを描いた軍記物語が多数つくられました。この授業では、各作品に触れながら、その特徴や歴史的背景を学び、軍記物語の歴史的展開を学ぶこととします。

【到達目標】

中世文学の歴史を詳しく知りたい人のための授業です。授業の到達目標は、中世の軍記物語に具体的に触れ、その特色と展開を理解するところにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎時間、作品の解説（基本的な事項の説明）と本文の解釈を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方の説明。軍記物語の概説。
第2回	『保元物語』1	『保元物語』の解説・講読。
第3回	『保元物語』2	『保元物語』の講読。
第4回	『平治物語』1	『平治物語』の解説・講読。
第5回	『平治物語』2	『平治物語』の講読。
第6回	『平家物語』1	『平家物語』の解説・講読。
第7回	『平家物語』2	『平家物語』の講読。
第8回	『平家物語』3	『平家物語』の講読。
第9回	『平家物語』4	『平家物語』の講読。
第10回	『承久記』	『承久記』の解説・講読。
第11回	『太平記』1	『太平記』の解説・講読。
第12回	『太平記』2	『太平記』の講読。
第13回	『太平記』3	『太平記』の講読。
第14回	『曾我物語』	『曾我物語』の解説・講読。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高等学校の国語（古文）の授業で行われた文学史や古典文法の内容を理解していることを前提に講義を進める。その理解に自身のない学生は、個々に自習することを望む。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『日本古典文学大辞典』全6巻（岩波書店、1983～85年）
『日本古典文学大事典』（明治書院、1998年）
小山弘志『日本文学新史（中世）』（至文堂、1990年）
『平家物語大事典』（東京書籍、2010年）

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出してもらうコメントカード 40%
期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

コメントカードを利用した授業展開に支持が集まりました。毎回、授業の15～20分程度は、コメントカードに書かれた質問事項の解説にあてる予定です。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn the history of Japanese war tales.

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世A

宮本 祐規子

授業コード：A2669 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世前期小説の浮世草子を視座に、近世文学の多様さと面白さを知る。古典の知識、地方の特色、演劇・スキャンダルといった当代性の摂取、後世への影響など、色々な切り口で浮世草子を読む。

【到達目標】

①近世らしさが花開き始めた時期の、上方の文学・文化について知る。
②西鶴の浮世草子を中心に、近世文学の面白さと多様さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行うが、受講人数に合わせて調整する。授業時、小課題・リアクションペーパー・創作などを課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	近世前期という時代	江戸と上方
第2回	近世小説の特徴	実用書から小説まで
第3回	浮世草子と古典	最初の浮世草子－西鶴『好色一代男』
第4回	浮世草子の王道	西鶴の町人もの『日本永代蔵』
第5回	浮世草子の毒	西鶴の武家もの『武家義理物語』
第6回	浮世草子と挿絵	西鶴『新可笑記』のヨミ
第7回	浮世草子の怪異①	短編怪談集から『西鶴諸国はなし』
第8回	浮世草子の怪異②	読本の怪異一秋成『雨月物語』
第9回	浮世草子と近代文学	西鶴から太宰治『新釈諸国断』
第10回	浮世草子と西鶴以後	八文字屋本と江島其磧の気質もの
第11回	浮世草子と演劇	江島其磧の時代もの
第12回	浮世草子とスキャンダル－赤穂浪士もの①	実際の事件と実録・小説
第13回	浮世草子とスキャンダル－赤穂浪士もの②	演劇『仮名手本忠臣蔵』に至るまで
第14回	まとめ 最終試験	前期のまとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する資料に事前に目を通すことは必須。授業内だけでなく次週のリポート提出や、創作課題を課すことがある。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

『新編日本古典文学全集 西鶴集』（小学館）、『八文字屋本全集』（汲古書院）など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（小課題、リアクションペーパーなどを含める）
試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書の持ち込みを推奨します。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けないが、質問等は授業後に受け付ける。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire a literature of the Edo period. Ukiyo Zoshi is one of the major literary forms in the early Kinsei Bungaku.

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世B

小林 ふみ子

授業コード：A2670 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸っ子の笑いと機知を読み解く。

18世紀後半に成熟期を迎えた江戸で「江戸っ子」という言葉が生まれ、その独自の気風・美学からさまざまな文学が生み出される。その笑いと機知を読み解きながら、語彙や文体における近世文芸の表現の多様性を考える。

【到達目標】

1. 江戸戯作の各ジャンルの特質・表現について理解する。
2. うがち、ちゃかし、地口などの江戸文芸の笑いの技法に親しむ。
3. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

単元ごとに、概説ののち、グループで作品読解に取り組み、そのあとに全体で共有する形式で進める。戯作の創作方法を理解するために、創作にもチャレンジする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	導入 時代背景 短詩系文学①	江戸っ子の時代概説 川柳のうがちに触れる。
第2回	黄表紙の奇想①	子ども絵本の荒唐無稽さを逆手にとって戯れた黄表紙の概説。
第3回	黄表紙の奇想②	「かちかち山」の後日談『親敵討腹鼓』を読み解く。－上
第4回	黄表紙の奇想③	「かちかち山」の後日談『親敵討腹鼓』を読み解く。－下
第5回	見立絵本のしかけ①	見立ての概念と見立て絵本の概説。
第6回	見立絵本のしかけ②	妖怪見立て絵本『画本纂怪興』を読み解く。
第7回	ここまでのまとめ 中間試験	ここまでの振りかえった講義ののち、前半の理解を確認する試験を実施する。
第8回	試験の振り返り 短詩系文学②	技巧を凝らして笑う狂歌と漢詩型に俗語を盛り込んで笑う狂詩を知る。
第9回	滑稽本の表現力①	物真似のような口語体を駆使して笑いを追求した滑稽本の概説。
第10回	滑稽本の表現力②	「敦盛最期」を当世化して遊ぶ式亭三馬『大千世界楽屋探』の読解。
第11回	滑稽本の表現力まとめ 合巻の情緒①	前回のまとめと創作課題の発表ののち、黄表紙から筋立て重視に変化した合巻について概説。
第12回	合巻の情緒②	『源氏物語』の江戸時代版『修紫田舎田舎源氏』を読み解く。－上
第13回	合巻の情緒③	『源氏物語』の江戸時代版『修紫田舎田舎源氏』を読み解く。－下
第14回	まとめと最終試験	全体のまとめのあと、試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週に配る各回の予習資料にもとづいて事前に作品を読解し、ときに創作の課題にとりくみ作品を持ちよる。

中間と最終2回の試験で課す、事前課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

各回、資料を配付する。

【参考書】

小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル、2019）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 50%・最終試験 50%を基本とし、授業内で課す課題などのパフォーマンスで加点する。

【学生の意見等からの気づき】

口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの読解と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。人数が多い場合はグループづくりの効率化の方法を考えます。

【学生が準備すべき機器他】

作品読解のため『広辞苑』『精選版日本国語大辞典』など電子辞書やアプリ、または前田勇『江戸語の辞典』（講談社学術文庫、品切れのため古書のみ入手可）の持ち込みを推奨。

【その他の重要事項】

受講生の理解を確認し、質問をうけつけるためにリアクションペーパーは回収しますが、集計して成績に反映させることはしません。受講人数次第で最終試験を定期期間中の実施とします。

【Outline and objectives】

Reading and analyzing the comic works from the late 18th century Edo(now Tokyo) to know diversity of literary style, vocabulary and expressions in those works.

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代A

藤木 直実

授業コード：A2677 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

春学期授業/Spring・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外の戯曲・小説・随筆を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

森鷗外の明治末期から大正初期にかけての戯曲・小説・随筆について、その内容および周辺の知識を得る。20世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、文学との相関関係を知る。文学テキストを批評的に読解するための視点・技術・方法を修得する。現代社会におけるジェンダーやセクシュアリティをめぐる課題への鋭敏な感性を身につける。自身の卒業論文につながる研究上の示唆を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要、スケジュール、評価方法などをガイダンスする。
第2回	「団子坂」(1)	対話形式の小品「団子坂」を読む。音読や注釈的読解を行い、内容を把握する。
第3回	「団子坂」(2)	作中に引用された夏目漱石「三四郎」を踏まえ、「団子坂」をさらに精読する。
第4回	「影と形（煤煙の序に代ふる対話）」(1)	一幕物の戯曲「影と形」を読む。音読や注釈的読解を行い、内容を把握する。
第5回	「影と形（煤煙の序に代ふる対話）」(2)	作中に引用された森田草平「煤煙」を踏まえ、「影と形」をさらに精読する。
第6回	中間まとめ	ここまでの学修内容の定着をはかる。
第7回	「ノラ」解題」と「サフラン」(1)	「ノラ」（「人形の家」の翻案）についての解題を読む。
第8回	「ノラ」解題」と「サフラン」(2)	「日本のイプセン現象」や「新しい女」について学ぶ。
第9回	「杯」(1)	小品「杯」を読む。注釈的読解を行い、内容を把握する。
第10回	「杯」(2)	「杯」を精読し、自然主義文学への鷗外の態度表明を理解する。
第11回	「花子」(1)	ロダンのモデルをつとめた日本女性に取材した小説「花子」を読む。
第12回	「花子」(2)	「花子」の同時代受容と、日本のロダンブームを学ぶ。
第13回	「花子」(3)	明治期の日本絵画および小説における「裸体」論争について学ぶ。
第14回	まとめ	今期の学修内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、新宿区立漱石山房記念館を踏査する。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜プリント配布する。

【参考書】

- ・鷗外研究会『森鷗外『スバル』の時代』（双文社出版、1997年）
- ・金子幸代編・解説『鷗外 女性論集』（不二出版、2006年）
- ・『別冊太陽 森鷗外』（平凡社、2012年）
- ・『鷗外近代小説集』（全6巻、岩波書店、2012～2013年）
- ・鷗外研究会『森鷗外と美術』（双文社出版、2014年）

その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポートを最も重視し（80%）、平常点（20%：リアクションペーパーの内容および宿題の水準）を勘案して総合的に判断する。なお、出席が3分の2に満たない学生には単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日的トピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパー用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。レポートへの講評や、場合によっては添削を行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については各回の授業後およびリアクションペーパーで対応する。

【Outline and objectives】

We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

LIT200BC

日本文学研究特講（6）現代B

藤木 直実

授業コード：A2678 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外の戯曲・小説・随筆を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

森鷗外の明治末期から大正初期にかけての戯曲・小説・随筆について、その内容および周辺の知識を得る。20世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、文学との相関関係を知る。文学テキストを批評的に読解するための視点・技術・方法を修得する。現代社会におけるジェンダーやセクシュアリティをめぐり課題への鋭敏な感性を身につける。自身の卒業論文につながる研究上の示唆を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	春学期の振り返り、および、秋学期の講義概要、スケジュール、評価方法などをガイダンスする。
第2回	性欲概念紹介者としての鷗外(1)	明治20年代における鷗外の啓蒙的立場を理解する。
第3回	性欲概念紹介者としての鷗外(2)	明治30年代から40年代における鷗外の発言を、同時代言説との対照において捉える。
第4回	性欲概念紹介者としての鷗外(3)	大正期の鷗外の発言を知る。
第5回	「女がた」を読む(1)	通読し、全体の展開を理解する。
第6回	演劇の近代(1)	演劇の近代化の経緯について基本的事項を知る。
第7回	演劇の近代(2)	新劇の展開と女優の誕生、および自然主義文学との相関を把握する。
第8回	演劇の近代(3)	女形廃止論議について、背景としての変態性欲概念を踏まえて学ぶ。
第9回	中間まとめ	ここまでの学修内容を振り返り、定着につとめる。
第10回	「女がた」を読む(2)	演劇史と変態性欲概念を踏まえて「女がた」を精読する。
第11回	「女がた」を読む(3)	音読を行い、喜劇としての妙を体感する。
第12回	三島由紀夫「女方」を読む(1)	三島由紀夫による鷗外作品へのオマージュ、および、三島と歌舞伎とのかわりについて知る。
第13回	三島由紀夫「女方」を読む(2)	鷗外作品と対照し、それぞれの作家性を捉える。
第14回	全体のまとめ	今期の学修内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】1 森鷗外の作品やその周辺について調査する。2 各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。3 各作品についての自身の感想・印象を整理する。【復習】1 講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。2 紹介された文献を入手し、通読する。3 他の鷗外作品や同時代の小説を読む。【宿題】文京区立森鷗外記念館、新宿区立漱石山房記念館を踏査する。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜プリント配布する。

【参考書】

・鷗外研究会『森鷗外『スバル』の時代』（双文社出版、1997年）
 ・金子幸代編・解説『鷗外女性論集』（不二出版、2006年）
 ・『別冊太陽 森鷗外』（平凡社、2012年）
 ・『鷗外近代小説集』（全6巻、岩波書店、2012~2013年）

・鷗外研究会『森鷗外と美術』（双文社出版、2014年）

その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポートを最も重視し（80%）、平常点（20%:リアクションペーパーの内容および宿題の水準）を勘案して総合的に判断する。なお、出席が3分の2に満たない学生には単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパー用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。レポートへの講評や、場合によっては添削を行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム/ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については各回の授業後およびリアクションペーパーで対応する。

【Outline and objectives】

We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文A

遠藤 星希

授業コード：A2681 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【諸子百家の文を読む】

先秦時代の諸子百家の書から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。諸子百家の「諸子」とは、孔子・孟子・韓非子・老子・莊子・墨子・孫子などを代表とする諸々の思想家たちのこと、「百家」とは、儒家・法家・道家・墨家・兵家などを代表とする数多くの学派のことである。戦乱が恒常化した世の中で、学術・思想の自由競争社会を生き抜くため、春秋・戦国時代の思想家たちは様々な思索をめぐらせた。諸子百家の書を通じて彼らの思索を追体験することにより、現代社会をとらえ直す新たな視野を獲得することを目指し、同時に漢文を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 諸子の各学派の思想的特徴を把握する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	諸子百家の思想とその時代背景についての概説
第2回	儒家の思想（1）	『論語』を読む（1）：「為政篇」「公冶長篇」「先進篇」等より
第3回	儒家の思想（2）	『論語』を読む（2）：「雍也篇」「述而篇」「憲問篇」等より
第4回	儒家の思想（3）	『孟子』を読む（1）：「公孫丑上」「離婁上」等より
第5回	儒家の思想（4）	『孟子』を読む（2）：「梁惠王上」「尽心上」等より
第6回	儒家の思想（5）	『荀子』を読む：「勸学篇」「修身篇」等より
第7回	道家の思想（1）	『老子』を読む：「第一章」「第五章」等より
第8回	道家の思想（2）	『莊子』を読む（1）：「齊物論篇」「大宗師篇」等より
第9回	道家の思想（3）	『莊子』を読む（2）：「応帝王篇」「秋水篇」等より
第10回	道家の思想（4）	『列子』を読む：「天瑞篇」「周穆王篇」等より
第11回	法家の思想（1）	『韓非子』を読む（1）：「五蠹篇」等より
第12回	法家の思想（2）	『韓非子』を読む（2）：「外儲說篇」等より
第13回	墨家の思想	『墨子』を読む：「非攻篇上」等より
第14回	兵家の思想	『孫子』を読む：「謀攻篇」「軍争篇」等より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは1週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが授業支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015年）
- ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009年）
- ・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010年）
- ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011年）

・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100%学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

We will carefully select relatively famous passages from the writings of zhuzi baijia (the Hundred Schools of Thought) during the Pre-Qin period in China and closely read them in the original language. Zhuzi in zhuzi baijia refers to various thinkers including Confucius, Mencius, Han Fei, Laozi, Zhuangzi, Mozi, and Sunzi. Baijia refers to a variety of schools including Confucianism, Daoism, Mohism, and the School of the Military. Against the backdrop of continuous wars, thinkers during the Spring and Autumn period and the Warring States period pursued their thoughts in various forms in order to survive the free competition between schools of thought. Through the works of zhuzi baijia, we will relive their thoughts and in so doing we seek to attain a novel perspective from which to revisit the contemporary society, while at the same time developing basic skills for reading literary Chinese.

LIT200BC

日本文学研究特講（7）漢文B

遠藤 星希

授業コード：A2682 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【『戦国策』と『史記』を読む】

史書の『戦国策』と『史記』の中から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。『戦国策』は、戦国時代の遊説家の弁論や献策、逸話などを国別にまとめたもので、前漢末の劉向の編とされる。平安時代の日本にはすでに伝来しており、その後もわが国で広く読まれた。『史記』は前漢の司馬遷が著した史書であり、黄帝の時代から前漢中期に至る三千年にわたる通史である。『枕草子』に「ふみは、文集、文選、新賦、史記五帝本紀……」とあるように平安時代の貴族にとって最も馴染み深い漢籍の一つであり、『源氏物語』にもその影響が色濃く見えるのみならず、その後の日本文学にも影響力を持ち続けた。本授業では、『戦国策』と『史記』の文を精読することを通して、古代中国の社会・文化に対する理解を深め、そこに描かれた人々の英知を吸収すると同時に、漢文資料を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 『戦国策』と『史記』についての基礎的な知識を習得する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	『戦国策』ガイダンス	『戦国策』と中国の戦国時代についての概説
第2回	『戦国策』精読（1）	「斉策」より
第3回	『戦国策』精読（2）	「燕策」より
第4回	『戦国策』精読（3）	「楚策」より
第5回	『戦国策』精読（4）	「魏策」より
第6回	『史記』ガイダンス	『史記』と司馬遷についての概説
第7回	『史記』精読（1）	「廉頗藺相如列伝」より「完璧」
第8回	『史記』精読（2）	「廉頗藺相如列伝」より「渾池の会」
第9回	『史記』精読（3）	「呉太伯世家」より
第10回	『史記』精読（4）	「淮陰侯列伝」より
第11回	『史記』精読（5）	「管晏列伝」より
第12回	『史記』精読（6）	「伍子胥列伝」より
第13回	『史記』精読（7）	「孫子呉起列伝」より
第14回	『史記』精読（8）	「刺客列伝」より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは1週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが授業支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015年）
 - ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009年）
 - ・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010年）
 - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011年）
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100%学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容を一部変更する可能性がある。

【Outline and objectives】

We will carefully select and read relatively famous passages from Zhan Guo Ce (Strategies of the Warring States) and Shiji in the original language. Zhan Guo Ce is a compilation by dynasty of rhetoric, strategic suggestions and anecdotes of strategists during the Warring States period, compiled by Liu Xiang at the end of the former Han period. It had already been introduced to Japan by the Heian period, and was widely read since then. Shiji is a history book written by Sima Qian during the early Han period, and is one of the most familiar Chinese classic books that not only exerted strong influence on the Tale of Genji but also had enduring effects on the subsequent Japanese literature. In this course, through close reading of passages from Zhan Guo Ce and Shiji, we will deepen our understanding on ancient Chinese society and culture and absorb wisdom of people described therein, and develop basic skills for reading Chinese classical writings.

ART200BC

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史A

スティーヴン・G・ネルソン

授業コード：A2693 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
春学期授業/Spring・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：日本の古典音楽（1）古代から中世にかけて成立したジャンル。
日本の古典文学作品の中に、本来音楽と結び付いた作品が多く、そうでない場合でも音楽やその演奏場面を描写する文章がたくさん現れます。ところが、現代の私たちの多くにとって、日本の古典音楽との関わりは非常に限られたものであり、当時の有り様を類推したり、文学表現の豊かさを味わったりすることが困難になっています。その状況に対処することが本講義の目的です。

【到達目標】

本講義の主な目標は、多くの古典音楽・芸能とその特徴を知ってもらい、古典文学の読者として持つてほしい古典音楽・芸能の「常識」と、古典音楽の種目を聞き分けたり想像したりできる「耳」（聴覚）を養うことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期では序説のあと、古代から中世にかけて成立した諸種目を取り上げて、その歴史的背景と変遷、こんにち伝承されている形における音楽の特徴などをみていきます。但し、特殊な音楽専門知識や演奏体験を必要としません。基本的には講義形式で行います。毎回アクションペーパーを提出してもらいます。理解を助けるために、音楽の演奏場面などを描いた画像資料やビデオ、CDなどの視聴覚資料を多用します。また、多くの音楽を知ってもらうことが目標の一つなので、授業で取り上げる曲の入った自習用リスニングCD（1枚）を配付します。予習・復習に活用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	序説 日本において音楽とは	授業履修の意味を確認 自己紹介 アンケートなど 概念規定 時代区分など
第2回	日本の楽器	楽器の種類・分類法 文学作品の演奏場面 描かれた楽器
第3回	雅楽とは	諸種目と歴史の流れ
第4回	国風歌舞	神への奉納としての歌舞
第5回	舞楽	平安の年中行事 左舞と右舞
第6回	管絃	御遊とは何か 音楽と音楽説話
第7回	催馬楽	途絶えた音楽の復興
第8回	朗詠	「二の句が継げない」
第9回	声明とは	日本の仏教と音楽 法会と法要
第10回	声明の言語と音楽様式①	梵語と漢語の曲種
第11回	声明の言語と音楽様式②	漢文訓読体と和文の曲種
第12回	講式	「語る」声明の特徴
第13回	琵琶伴奏の音楽①	平家語り 歴史の流れ
第14回	琵琶伴奏の音楽②	平家語り 曲節構造

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習：

- 第1回 テキスト pp. 11-13 「分類用語」
第2回 テキスト 次の項目の図を中心に見ておくこと。pp. 33-35 「楽器」、pp. 41-44 「楽器」、pp. 51-54 「楽器」、pp. 64-66 「囃子」、pp. 88-95 「楽器」、pp. 119-121 「楽器」、pp. 133-136 「楽器」
第3回 テキスト p. 17 「舞楽」
第4回 テキスト pp. 21-24 「国風歌舞」～「大歌」
第5回 テキスト pp. 17-21 「概論」の内「舞楽」～「伎楽」
第6回 テキスト pp. 24-25 「管絃」、p.26 「御遊」
第7回 テキスト p. 24 「催馬楽」
第8回 テキスト p. 24 「朗詠」
第9回 テキスト pp. 36-37 「仏教音楽」「声明」、pp. 40-41 「法会」
第10回 テキスト p. 37 「梵唄」、p. 38 「唄」～「讃」
第11回 テキスト pp. 37-38 「論義（論議）」、「和讃」
第12回 テキスト p. 37 「講式」
第13回 テキスト pp. 45-46 「琵琶楽」、pp. 46-48 「雅楽」・「平家」、pp. 51-52 「琵琶」～「平家琵琶」

【テキスト（教科書）】

『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007年）。その他、必要に応じてプリントを配付します。

【参考書】

授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 35%、リスニングCDの内容を問う試験（持ち込み不可）40%、期末レポート（試験時に提出）25%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This is an undergraduate-level lecture on the traditional music and performing arts of Japan, dealing with genres surviving from the ancient to early medieval periods. Two introductory lectures deal with concepts and definitions, and a survey of Japanese music instruments. Genres are then surveyed in the following order: *gagaku* (music of the court and religious institutions, including *kuniburi-no-utamai* indigenous forms of accompanied song and dance, *bugaku* dance, *kangen* instrumental music, and *saibara* and *rôei* court song); *shômyô* (Buddhist vocal music, including repertoires with texts in Sanskrit, Chinese, and both 'hard' and 'soft' Japanese); and *heike-gatari* (sung narration of *The Tale of the Heike* with accompaniment on the lute *biwa*). Students are required to learn how to identify representative pieces, as well as write an essay on an example of the use of music in classical literature.

ART200BC

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史B

スティーヴン・G・ネルソン

授業コード：A2694 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：日本の古典音楽（2）中世から近世にかけて成立したジャンル。
日本の古典文学作品の中に、本来音楽と結び付いた作品が多く、そうでない場合でも音楽やその演奏場面を描写する文章がたくさん現れます。ところが、現代の私たちの多くにとって、日本の古典音楽との関わりは非常に限られたものであり、当時の有り様を類推したり、文学表現の豊かさを味わったりすることが困難になっています。その状況に対処することが本講義の目的です。

【到達目標】

本講義の主な目標は、多くの古典音楽・芸能とその特徴を知ってもらい、古典文学の読者として持つてほしい古典音楽・芸能の「常識」と、古典音楽の種目を聞き分けたり想像したりできる「耳」（聴覚）を養うことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期では春学期に続いて、中世から近世にかけて成立したジャンルを取り上げ、その歴史的背景と変遷、こんにち伝承されている形における音楽的特徴などをみていきます。但し、特殊な音楽専門知識や演奏体験を必要としません。基本的には講義形式で行います。毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。理解を助けるために、音楽の演奏場面などを描いた画像資料やビデオ、CDなどの視聴覚資料を多用します。また、多くの音楽を知ってもらうことが目標の一つなので、授業で取り上げる曲の入った自習用リスニングCD（1枚）を配付します。予習・復習に活用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	能とは	中世の歌舞劇の歴史と現状
第2回	能の音楽	小段構造、リズム法など
第3回	三味線音楽	江戸時代の歌と語りの伴奏楽器 種目のさまざま
第4回	浄瑠璃①	義太夫節と人形浄瑠璃（文楽）
第5回	浄瑠璃②	常磐津節と歌舞伎舞踊
第6回	浄瑠璃③	清元節と歌舞伎舞踊
第7回	長唄	江戸音曲の代表
第8回	箏曲	箏組歌、段物など
第9回	地歌	三味線組歌、端歌など
第10回	地歌箏曲	手事物、京風手事物
第11回	山田流箏曲	江戸で流行った流派 本曲と外曲
第12回	琵琶伴奏の音楽	薩摩琵琶・筑前琵琶
第13回	浪花節（浪曲）	近代日本大衆芸能の代表
第14回	国家と国歌	あの独特な響きは何かから生まれたか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習：

- 第1回 テキスト pp. 57-63 「能」～「能・狂言の役籍と流儀」
第2回 テキスト pp. 64-72 「音楽」
第3回 テキスト pp. 76-80 「三味線音楽」～「種類」、pp. 88-93 「三味線」
第4回 テキスト p. 78 「浄瑠璃」、pp. 80-81 「義太夫節」、pp. 102-106 「人形浄瑠璃」
第5回 テキスト pp. 78-79 「豊後系浄瑠璃」、pp. 82-83 「常磐津節」
第6回 テキスト p. 83 「清元節」、pp. 96-98 「楽曲構成用語」
第7回 テキスト p. 78 「うた」、pp. 84-85 「長唄」、pp. 79 「観賞用長唄」
第8回 テキスト pp. 119-126 「箏曲」～「箏組歌」・「段物」
第9回 テキスト pp. 114-118 「地歌」～「楽譜」
第10回 テキスト pp. 126-128 「地歌系箏曲」・「合奏」
第11回 テキスト p. 126 「山田流箏曲」、pp. 131-133 「尺八音楽」～「本曲」・「外曲」
第12回 テキスト pp. 49-51 「薩摩琵琶」・「筑前琵琶」、pp. 53-56 「薩摩琵琶」・「薩摩琵琶」（楽器）
第13回 テキスト p. 87 「説経節」・「浪曲」
第14回 特になし。正月の間、どんな古典音楽が、どこから聞こえたか、気に留めておきましょう。

【テキスト（教科書）】

『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007年）。その他、必要に応じてプリントを配付します。

【参考書】

授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 35%、リスニングCDの内容を問う試験（持ち込み不可）40%、期末レポート（試験時に提出）25%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

できるだけ同じ特講の春学期、音楽芸能史Aを合わせて履修してください。

【Outline and objectives】

This is an undergraduate-level lecture on the traditional music and performing arts of Japan, dealing with genres from the medieval to modern periods. Genres are surveyed in the following order: *nô* theater and its music; vocal music with accompaniment on the 3-stringed long-necked lute *shamisen*; genres of *jôruri* narrative chanting (*gidayû-bushi*, *tokiwazu-bushi*, and *kiyomoto-bushi*); Edo *nagauta* music; *jiuta-sôkyoku* (music for voice, *shamisen*, *koto* and *shakuhachi*); *yamada-school koto* music; solo *shakuhachi* music; *satsuma* and *chikuzen biwa*; and *rôkyoku* (*naniwa-bushi*). The final lecture examines the background to the distinctive sound world of *Kimigayo*, Japan's national anthem. Students are required to learn how to identify representative pieces, as well as write an essay on the relationship between the literary and musical structures of one of the pieces discussed in class.

LIT300BC

日本文学研究特講（15）国際日本学A

スティーヴン・G・ネルソン

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。

- ・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908）
- ・*Japan and the Japanese* [1894] の改訂版。
- ・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
- ・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。

文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】

- ・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
- ・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
- ・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・13回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回アクション・ペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート プレゼンテーション担当の調整
第2回	「(国際) 日本学」とは	世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第3回	日本意識の芽生えと発展	「中華思想」との接触 中世の日本意識 プレゼンテーションの準備(続)
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	キリスト教宣教師の見聞(ザビエルとフロイス) 長崎(出島) 歴代オランダ商館長らの研究 博物学と本草学
第5回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第6回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第7回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japan の設立と活動
第8回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第9回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第10回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第11回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の出世
第12回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イエイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第6回 テキスト pp. 10-17

第7回 テキスト pp. 18-23

第8回 テキスト pp. 64-69、70-77

第14回 テキスト pp. 104-111

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学部の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline and objectives】

This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Students give presentations (3 sessions in total) on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

LIT300BC

日本文学研究特講（15）国際日本学B

スティーヴン・G・ネルソン

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた *The Chrysanthemum and the Sword* (菊と刀, 1946) と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で20世紀前半の日本を捉えた *The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
 ・戦後、特に1960年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
 ・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・12回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第2回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第3回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第4回	『菊と刀』③	青木保（『日本文化論』の変容）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第5回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第5章“Debtor to the Ages and the World”と第6章“Repaying One-Ten-Thousandth”
第6回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー等の活躍
第7回	60～70年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー等
第8回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第9回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第7章“The Repayment Hardest to Bear”と第8章“Clearing One’s Name”
第10回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第11回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリオン）、ハルミ・ベフ、青木保 ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第12回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第10章“The Dilemma of Virtue”
第13回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化の恥」論
第14回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・12回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第2回 テキスト pp. 182-187

第6回 テキスト pp. 214-219、266-271

第7回 テキスト pp. 248-253

第11回 テキスト pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティ』（中央公論社、1990）中公文庫 533、1999

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

『菊と刀』の内容検討に当てる授業数を増やしました。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために取って英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学部の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline and objectives】

This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict’s *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict’s book, students give presentations (3 sessions in total) on Benedict’s discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 & 6), *giri* (Chapters 7 & 8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

LIN100BD

英語学概論 A

椎名 美智

授業コード：A2804 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

春学期授業/Spring・2 単位

・オフィスアワーについて、詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics. The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学の研究領域の全体を、2セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるようにします。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1年次に履修することが望ましいと思います。

【到達目標】

英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、PPTを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。

英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エクササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。

リアクションペーパーは毎時間、必ず提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	英語学研究の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第2回	世界の英語 (1)	世界語としての英語について
第3回	世界の英語 (2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第4回	形態論 (1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第5回	形態論 (2)	形態論と形態素
第6回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第7回	意味論 (1)	意味論の概説
第8回	意味論 (2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第9回	語用論 (1)	語用論の概説、言葉の意味について
第10回	語用論 (2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第11回	文体論 (1)	文体論の概説
第12回	文体論 (2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第13回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第14回	社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、配付されたハンドアウトは必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。

【テキスト（教科書）】

影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】

内容ごとに参考文献や資料を紹介し、ハンドアウト等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 70%、レポート 10%、平常点 20%で、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

進み方が早いようなので、毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックします。また、理解度をチェックする小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】

課題は、基本的にハードコピーで提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・パワーポイントの資料は、必要な場合は、授業後に授業支援システムにアップします。

LIN100BD

英語学概論 B

大沢 ふよう

授業コード：A2805 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、統語論では、言語習得や、伝統的文法から最新の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究所の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究所の基礎となるような内容が身につきます。

【到達目標】

この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第2言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最新の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも時々提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第2回	音を出す仕組み	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み
第3回	音声・音韻論(1)	音韻論の演習：母音の発音の実践
第4回	音声・音韻論(2)	音声学の概説：子音の仕組み
第5回	音声・音韻論(3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第6回	音声・音韻論(4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第7回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第8回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第9回	言語構造の解析(1)	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第10回	言語構造の解析(2)	句構造が全て基本的に同じ構造であること
第11回	言語習得(1)	言語習得の基礎的概念
第12回	言語習得(2)	言語習得を説明する主な理論
第13回	英語の歴史	言語の歴史について。英語史の概説
第14回	学期のまとめ	授業内容のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引ながらとらえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。

【テキスト（教科書）】

『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』

影山太郎、日比谷潤子、ブレント デ・シェン 著

くろしお出版

【参考書】

初回の授業で詳しい文献リストを配布する予定です。

また、指定した教科書以外からの文献も利用する場合があります。その場合は、該当箇所をこちらで用意して配布します。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に示した、その分野の基礎的知識が十分に理解できているかで評価します。試験は基本的に記述式で行います。選択肢から答えを選ぶような方式の試験は極力行わない方針です。

試験 80%

平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの展開の速度が速く、ノートが取りづらいと言う指摘があったので、その点を改善したいと思います。

【その他の重要事項】

できれば、1年次に春学期「英語学概論 A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論 A」と「英語学概論 B」を両方履修してはじめて得られます。また、授業の内容をまとめた資料などを配布しますが、それ以外に自分でもきちんとノートを取る習慣を身につけてください。話を聞きながら、あるいは画面を見ながら、重要だと思ったことを記録できる能力は一生役に立ちます。

授業の構成は順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合もあります。

出席は毎回とります。

【Outline and objectives】

This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language. Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.

LIN100BD

言語学概論 A

石川 潔

授業コード：A2806 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るといふより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向き判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明（講義およびディスカッション and/or リアクションペーパー）を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。

授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	この授業の紹介
第2回	「音素」その1（音声学・音韻論）	<i>water</i> はカタカナで「ワラ」？
第3回	「音素」その2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第4回	「音節」その1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第5回	「音節」その2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第6回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第7回	今日の文法理論その1（統語論）	「5文型」のアホさ
第8回	今日の文法理論その2（統語論）	統語論「研究」実体験
第9回	今日の文法理論その3（統語論）	理論的な道具、およびその「心理学的実在性」
第10回	今日の文法理論その4（統語論）	新たな（？）潮流
第11回	今日の文法理論その5（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第12回	今日の文法理論その6（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第13回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その1	「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第14回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その2	<i>Without her contributions failed to come in.</i> ってどういう意味？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてハンドアウトを配布します（教室での配布は致しません。）

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありせん）。

【学生の意見等からの気づき】

久しぶりの担当なので、N/A。

【学生が準備すべき機器他】

ハンドアウトは授業支援システムにて配布。

授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】

ハンドアウト類は授業支援システム上で配布します。教室での配布は一切しません。

私語は厳禁。

その他、<http://www.i.hosei.ac.jp/~kiyoshi/> を参照のこと。

なお、この授業は『言語学概論B』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】

An introduction to linguistic sciences for novice. You will take a look at how research in each of the fields is typically conducted so that you will be able to (partially) judge whether each would be the right field for you.

LIN100BD

言語学概論 B

石井 創

授業コード：A2807 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 言語的な事実の気付きに敏感になる、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対し、正しい認識をもつ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本として進めます。具体的な言語現象とそれに関わる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもつともらしさを自分で疑い直す姿勢を大切にしてください。質疑応答やリアクションペーパーを書く時間も設ける予定ですので、その姿勢によって得られた疑問点や不明点は積極的に発信してください。また、リアクションペーパーで得られた面白い質問・コメントについては、時間の許す限り次の授業内で紹介していくつもりです。

なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかかる授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	言語学ってどんな学問？
第2回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第3回	形態論1	語の内部構造と形態素
第4回	形態論2	語の作られ方
第5回	形態論3	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第6回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第7回	音声学1	音声産出と子音・母音の体系
第8回	音声学2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第9回	音韻論	音節とモーラ
第10回	統語論1	句構造と X-bar Theory
第11回	統語論2	句構造から文構造へ
第12回	統語論3	生成文法における「移動」と「痕跡」の概念
第13回	意味論1	意味の記述と語彙分解
第14回	意味論2	述語のアスペクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容を理解していることを前提に、その日の授業を進めていきます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業をしてください。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。適宜ハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験 100%
2. 授業外で学内教員の実施する実験に参加した場合、プラスアルファで加点をいたします（不参加の人が減点されるわけではありません）。

【学生の意見等からの気づき】

1. 「説明を聞き逃すと理解が追いつかなくなる」という意見があったため、昨年度以上に受講生の理解度をこまめに確認しながら説明を行う。
2. 受講生がより理解しやすくなるように、取り上げる内容とその順序に若干の変更を加える。

【学生が準備すべき機器他】

ハンドアウトは授業中に配布し、また配布済みのものは授業支援システムに順次アップロードしていきます。授業を欠席した学生は授業支援システムを確認し、その日に配布されたハンドアウトを自分で入手してください。そのため、普段使用するメールアドレスを授業支援システムに登録しておくことをお勧めします。

【その他の重要事項】

なし

【Outline and objectives】

This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics on these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

LIN200BD

英語・言語学講義 A

秋山 孝信

授業コード：A2808 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

認知言語学入門：「人間の一般的な認知能力が、言語使用の基盤となっている」という考え方について議論する。豊富な事例の観察をとおして、人間による世界の捉え方がことばの意味と不可分であることを確認する。

【到達目標】

本講義の主な到達目標は以下の通りである。
 ・認知言語学の基本概念を英語の事例を挙げながら説明できる。
 ・概念形成手段としてのメタファー・メトニミー・シネクドキシの諸特性を説明できる。
 ・英語の動詞・前置詞・副詞の中には、人間の外界における経験がその意味拡張を動機づけているものが多い。その意味拡張のメカニズムを説明できる。
 ・名詞の可算性・質量性を左右する意味的原理を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人間による事態把握の仕方が、ことばの形式・意味と密接な関係にあることを確認する。授業は毎回ハンドアウトを配付し、それに沿って講義を進める。基本的に講義形式で授業を行うが、随時ペアワークなどで演習問題を解き、理解を深めてもらう。抽象的な議論に留まることを避け、多くの事例を観察しながら実感を持って理解できるよう指導する。毎回の授業終了時には、リアクションペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	図と地の分化と言語分析	図と地という知覚分化の概念を言語分析に応用する。また、「プロファイル」と「ベース」、さらに「トラジェクター」と「ランドマーク」へと議論を進める。"? The bike and the house are near each other." という文が不自然に感じられる理由は？
第 2 回	トラジェクターとランドマークの応用：前置詞 in の分析	トラジェクターとランドマークを利用して、前置詞 in の意味体系を考える。"the water/flowers/crack in the vase"において、「内包」の解釈はどのように異なっているのか？
第 3 回	概念形成手段としてのメタファー	メタファーを単なる言葉の綾としてではなく、概念形成の手段として捉え、その特性について考察する。"They're over the moon about their trip to Japan."は、どのように解釈される？
第 4 回	メトニミーとシネクドキシの特性	メトニミーとシネクドキシを概念形成の手段として捉え、その種類と特性について議論する。"The Pentagon has been left with egg on its face."の表す意味は？
第 5 回	心的走査と主体化	ことばの多義性の要因となる「心的走査」と「主体化」について考える。"His forthcoming novel promises well."における promises の意味は？
第 6 回	類像性 (iconicity) とは	日常言語の形式のある側面は、これに対応する意味によって動機づけられているという考え方について検討する。"a (large/ mahogany/ oval/ lovely) table" を自然な語順に並べ替えるとうなるのか？ またその理由は？
第 7 回	前置詞 for の意味体系	「場所へ向かう意図性・目的性」を中核スキーマとする前置詞 for は、どのような意味ネットワークを形成しているのか。"He knew for a fact that they were innocent."における for の意味は？
第 8 回	前置詞 of の意味体系	「分離・帰属」を中核スキーマとする前置詞 of の多義性を分析する。"The city was deprived of its water supplies."における of の意味は？

第 9 回 副詞 out の意味体系

「外部性」を中核スキーマにもつ副詞 out の意味体系を考える。"fill in the form"と"fill out the form"という表現はそれぞれ、どのように事態を把握した結果であるのか？

第 10 回 動詞 have の意味体系

「所有」を中核スキーマにもつ動詞 have の意味体系を考える。現在完了相、使役を表すのに使われる have に、意味的な類似性はないのだろうか。英語名詞の加算性・質量性それぞれの特徴を洗い出し、可算・質量名詞の相違は、文脈に依存し、「人間のものの捉え方」を反映していることを確認する。"a lot of newspaper(s) in the box"において、newspaper に-s が付く/付かない場合とは、どのように意味が異なるのだろうか。

第 12 回 英語不定冠詞の機能と用法

英語不定冠詞の機能と用法について議論する。"My daughter wants to marry an American guy."における複数の解釈とは？

第 13 回 英語定冠詞の機能と用法

英語定冠詞の機能と用法について議論する。特に specificity と definiteness の相違について理解を深める。"When you read this, the Henry Jekyll you know will be dead."における定冠詞 the は、何を合図する？

第 14 回 到達度確認と解説

学修の到達度を確認し、解説を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は、授業内で示す参考文献を読むと共に、授業用ハンドアウトをよく読んでくること。

【テキスト (教科書)】

授業中に適宜、ハンドアウトを配付する。但し、毎回辞書を持参すること。

【参考書】

授業内で適宜紹介するが、特に平易なものを以下に挙げる。
 菅井三実 (2015) 『人はことばをどう学ぶかー 国語教師のための言語科学入門ー』くろしお出版
 瀬戸賢一、山添秀剛、小田希望 (2016) 『解いて学ぶ認知言語学の基礎』大修館書店
 初山洋介 (2010) 『認知言語学入門』研究社

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) 試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

ペアワーク、グループワークを入れつつ、講義内容を単に理解するだけではなく、理解した内容を説明できるようにしていきたいと思います。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to give a basic but solid understanding of important elements in cognitive linguistics with a primary focus on the polysemic networks of highly frequently used words in English. Students will gain both theoretical and practical knowledge of cognitive linguistics theory and realize that the general cognitive ability of humans is the basis of language use. The scope of the course covers major topics in the theory, such as construal, perspective, iconicity, schema, mental scanning, subjectification, profile and base, trajectory and landmark, conceptual metaphor, metonymy, and synecdoche. On completion of the course, students will be able to explain how the polysemic networks of words in English are motivated, using the knowledge gained through the course.

LIN200BD

英語・言語学講義 B

石川 潔

授業コード：A2809 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なネタを取り上げた講義、および、訳や作文の実習。
授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	巷の日本語論の嘘（その 1）	うなぎ文（その 1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第 2 回	巷の日本語論の嘘（その 2）	うなぎ文（その 2）：奥津説、菅井説
第 3 回	「訳」についての誤解（その 1）	代名詞と役割語
第 4 回	「訳」についての誤解（その 2）	意味と文法的手段
第 5 回	ハとガ、英語の冠詞（その 1）	情報の新旧説……英語の冠詞
第 6 回	ハとガ、英語の冠詞（その 2）	情報の新旧説……日本語の助詞、および英語の倒置構文
第 7 回	ハとガ、英語の冠詞（その 3）	ハとガは、本当はもっとややこしい……
第 8 回	「黒人」英語（その 1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第 9 回	「黒人」英語（その 2）	無意識の規則
第 10 回	「黒人」英語（その 3）	必要な（意味論的）概念の整備
第 11 回	「黒人」英語（その 4）	細かい意味的な区別
第 12 回	強形・弱形・再強勢形	do の 3 単現（その 1）
第 13 回	音節量	do の 3 単現（その 2）
第 14 回	外来語での音節量調整	do の 3 単現（その 3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えて（書いて）きてください。

また、授業で学んだ方法論を身近な他の問題に応用して考えてみてください。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粹加点であり、参加なしの人への減点はありませぬ）。

【学生の意見等からの気づき】

理解度確認のため、リアクションペーパーの頻度を大幅に上げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【Outline and objectives】

Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

LIN200BD

社会言語学

塩田 雄大

授業コード：A2810 | 曜日・時限：土 2/Sat.2
秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。後者が、当講義で扱う「社会言語学」と呼ばれる分野である。

社会言語学が取り扱うテーマは多岐にわたるが（言語の変化／ことばの乱れ／地域方言／コミュニケーション／アイデンティティー／言語どうしの接触／言語政策／…）、講義では日本語社会を対象にこれらを全般的に扱いつつ、「若者語・流行語」については多少重点的に取り上げる。毎回の課題準備とグループワークを通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】

社会言語学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講師による一方的な講義形式ではなく、毎回、簡単なグループワークの実施を検討している。また、スマホを用いたアンケートや意見聴取を講義中におこなうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全般の説明
第 2 回	ことばの分析①	だじゃれと言語学 ほか
第 3 回	ことばの分析②	「なので」と言っていないか？ ほか
第 4 回	談話の構造①	日本語話者の話題展開法 ほか
第 5 回	談話の構造②	「雨に降られた」は翻訳しにくい ほか
第 6 回	言語変化①	「アホ」と「バカ」の境界線 ほか
第 7 回	言語変化②	「書きたり」が「書いた」になった ほか
第 8 回	方言調査①	「せえへん」なんて言い方、しいひんな ほか
第 9 回	方言調査②	「もう終わったかね？」の言語学
第 10 回	変化の動因①	「ピンクなシャツ」と言うか ほか
第 11 回	変化の動因②	「何かを信じてこれたかなあ」はだめなのか ほか
第 12 回	配慮表現	「この講義では何を教えるつもりですか」は失礼か ほか
第 13 回	レポート検討	各自のレポートについて検討する。
第 14 回	まとめ	講義の総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の事前準備（テキスト該当箇所の要約および批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備には 1 回あたり 1～2 時間程度はかかるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト（教科書）】

『社会志向の言語学』（南雅彦著、くろしお出版、2017 年、1,800 円＋税）

http://www.9640.jp/book_view/?747

内容に比して安価であり、履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。

【参考書】

一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に二千元の投資をケチる人は、その後二千元以上の損をすることになる。

- 『新世代の言語学 ー社会・文化・言語をつなぐもの』（飯野公一ほか編著、くろしお出版、2003 年、1,800 円＋税）
- 『新版 日本語用論入門』（山岡政紀・牧原功・小野正樹、明治書院、2018 年、1,600 円＋税）
- 『朝倉日英対照言語学シリーズ [発展編] 1 社会言語学』（井上逸平編著、朝倉書店、2017 年、3,200 円＋税）
- 『その一言が余計です。』（山田敏弘、ちくま新書、2013 年、840 円＋税）
- 『辞書を編む』（飯間浩明、光文社、2013 年、800 円＋税）
- 『日本語の配慮表現の多様性』（野田尚史ほか、くろしお出版、2017 年、3,700 円＋税）

【成績評価の方法と基準】

毎回の事前準備課題 20 %
 グループワークでの議論活性化への寄与度 20 %
 最終レポート 60 %

全出席を求めるものではないが、毎回の講義に出席して自分なりに考える習慣をつけていかない限り、最終レポートが及第点に至ることはおそらくないと思われる。課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したのも、不可となる。また、学ぼうとする他の学生の意欲をそぐような行為（講義と関係のないスマホ操作や私語）があった場合、レポートを提出する権利を認めないので注意されたい。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は優秀な学生も多く、共に学ぶことができた。引き続き努力を怠らないようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

「ふだんよく見るメールアドレス」「word が使える環境」「配布資料を綴じるためのA4縦型二穴ファイル（紙ファイルでよい）」を準備しておくこと。連絡事項をメールで伝える場合があり、またレポート提出もメールを用いるため、（SNSアカウントではなく）添付ファイル送受信可能なメールアドレスを各自確定させ、講義期間中は受信メールを定期的に確認すること（「メールを見ていませんでした」ということのないように）。また、レポートの執筆は word を用いることを原則とする（添削を加えるため）。word 以外のワープロソフトを使用している学生は、事前に相談されたい。

【その他の重要事項】

質問・相談は、講義終了後、あるいはメールにて随時受け付ける。講師アドレスは初回講義時に周知する。

本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。留学生の受講も歓迎する。ただし毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。きちんと努力する者、なにかを真剣に知ろうとするものが集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline and objectives】

To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". The latter one is called "sociolinguistics" which will be dealt in this lecture.

The themes dealt on sociolinguistics are diverse (ex. language change / language disturbance / regional dialect / communication / identity / language contact / language policy / ...). In this lecture, these topics will be introduced generally, while the themes of "words of youngsters" "buzzwords" should be discussed with greater emphasis.

LIN200BD

応用言語学

川崎 貴子

授業コード：A2811 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】

こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の内容説明
第 2 回	言語知識	子供と大人の言語知識
第 3 回	第一言語習得 1	子供の言語習得
第 4 回	第一言語習得 2	入力の問題点・生得性
第 5 回	第一言語習得 3	臨界期仮説
第 6 回	第一言語習得 4	第一言語習得の研究
第 7 回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第 8 回	第二言語習得 1	第二言語習得における入力問題
第 9 回	第二言語習得 2	L1 と L2 の相違点
第 10 回	第二言語習得 3	言語差と難易度
第 11 回	SLA 研究	実験方法の変遷
第 12 回	SLA 理論 1	パラメタと有標性
第 13 回	SLA 理論 2	パラメタの習得
第 14 回	SLA 理論 3	SLA 理論の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。また宿題も課されます。指示された映像課題をノートを取りながらみること、宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく書いてまとめることが求められます。これらの宿題も試験の範囲に含まれます。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。PDF ファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

参考文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

言語習得研究の手法や研究の発展について学んでいただき、分野に興味を持っていただけたようによかったですと思います。

【Outline and objectives】

Among various fields of applied linguistics, this course mainly concentrated on theoretical aspects of first and second language acquisition.

LIT200BD

比較文学 A

松枝 佳奈

授業コード：A2824 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシアをめぐる比較文学」を主題に、近代から現代までの日本におけるロシア文学の影響・受容関係を多角的に学ぶ。それにより、近代日本文学の成立の過程や、その国際性、複雑な日露関係の歴史を理解し、さまざまな側面から日本の文学や文化を捉え、再考する観点を持つことを目的とする。

【到達目標】

- ・近代から現代までの日本でロシア文学がいかに受容されてきたか、理解し述べることができる。
- ・文学作品の読解方法や比較文学の基礎を学び、自ら日本語や英語で書かれた文学作品を読み、形式や文体、表現、技法を解釈して、その魅力を味わうことができる。
- ・自国の文学や文化を相対化して、柔軟に考える力を養う。
- ・ロシアの文学や文化、歴史、および日露関係に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

扱う資料・作品（日本語または英語）を事前に配布する。予習を前提に、講義形式で授業を行う。毎回、受講者がリアクション・ペーパーに書いた考察や感想、質問に対して、翌週の授業で教員からフィードバックがなされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義内容の概要と紹介
第 2 回	比較文学とは何か	比較文学の歴史／影響・受容研究、対比研究、クロス・ジャンル研究について
第 3 回	文章読解の方法（1）	文部省唱歌「故郷」と夏目漱石『永日小品』を例に
第 4 回	文章読解の方法（2）	作品の構造分析——俳句と英語詩を例に
第 5 回	二葉亭四迷とロシア文学（1）	『浮雲』に見るロシア文学の受容
第 6 回	二葉亭四迷とロシア文学（2）	「あひゞき」「めぐりあひ」の文体と音調——トゥルゲーネフ『獵人日記』の翻訳
第 7 回	二葉亭四迷とロシア文学（3）	二葉亭のロシア文学観／近代日本文学と言文一致の成立
第 8 回	中間試験	授業内中間試験のあと、ロシア映画鑑賞
第 9 回	内田魯庵とロシア文学（1）	二葉亭四迷との共同訳——ドストエフスキー『罪と罰』
第 10 回	内田魯庵とロシア文学（2）	「革命婦人」とオスカー・ワイルド『ヴェラ、実は虚無主義者たち』
第 11 回	チェーホフ短編小説の魅力	「大きな物語」の崩壊／コミュニケーションの不全
第 12 回	イギリスにおけるチェーホフ受容	コンスタンス・ガーネットの英訳版を中心に
第 13 回	近代日本におけるチェーホフ受容	チェーホフと日本文学／芥川龍之介に対するチェーホフの影響
第 14 回	現代日本におけるチェーホフ受容	チェーホフと村上春樹

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で扱う作品の抜粋（日本語または英語）を事前に配布するので、授業前日までに読む。気になった箇所や感想、疑問点などをメモしておき、能動的に授業に参加できるようにしておく。
- ・授業後、ノートを見返して、授業内で解説された事項を復習する。
- ・授業で学んだ作家の他の作品や、担当教員が紹介する参考文献、資料を積極的に読んだり、鑑賞したりする。

【テキスト（教科書）】

必要な教科書テキストはありません。

担当教員が作成した印刷物を授業内で配布します。

【参考書】

特に指定の参考書はありません。

必要があれば授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパー）：20%

中間試験：40%

学期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度のため該当しませんが、リアクション・ペーパー等を通じて、受講者の考察や感想、質問を適宜紹介してコメントする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of comparative literature, translation studies and the history of the reception of Russian literature in modern Japan. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of comparative literature and understanding the relationship between Japan and Russia from the viewpoint of the literary history from the 19th to the 21st centuries.

LIT200BD

比較文学B

松枝 佳奈

授業コード：A2825 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシアをめぐる比較文学から比較文化、比較芸術へ」を主題に、比較文学に隣接する比較文化や比較芸術に焦点を当てる。

特に近代日本におけるロシアの文化と芸術の影響・受容関係や、近代から現代までのロシア文学と他の文化・芸術分野との関係、ロシア芸術と他の文化領域との影響・受容関係を多角的に学ぶ。それにより、近現代のロシア文化や日本文化の多様性や、異文化理解、文化ジャンルの越境性を考察する観点を持つことを目的とする。

【到達目標】

- ・近代から現代までの日本でロシア文化・芸術がいかに受容されてきたか、理解し述べることができる。
- ・ロシアの文学や芸術と他の国や地域、文化領域との影響・受容関係を理解し、述べることができる。
- ・文化や芸術作品の解釈方法や比較文化と比較芸術の基礎を学び、自ら作品の形式や表現、技法を分析して、その魅力を味わうことができる。
- ・ロシアの文化、歴史、および日露関係に対する関心や理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

扱う資料・作品（日本語または英語）を事前に配布する。予習を前提に、講義形式で授業を行う。毎回、受講者がリアクション・ペーパーに書いた考察や感想、質問に対して、翌週の授業で教員からフィードバックがなされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容の概要と紹介
第2回	比較文学から比較文化、比較芸術へ	比較文化研究、比較芸術研究の概要—文学と芸術／芸術のクロス・エリア研究／芸術のクロス・ジャンル影響・受容研究
第3回	江戸時代の日本とロシアの文化交流	大黒屋光太夫と『北槎聞略』を中心に
第4回	ロシアの宗教絵画と日本	アンドレイ・ルブリョフと山下りんのイコンをめぐって
第5回	バレエに見るクロス・エリアの様相	バレエ・リュスと二十世紀のバレエの展開
第6回	ロシアとフランスの文化関係	ココ・シャネルとロシア人たちの関係から
第7回	ロシア・アヴァンギャルド芸術と日本（1）	1920年代～30年代のロシア（ソ連）と日本のポスター芸術の比較
第8回	中間試験	授業内中間試験のあと、ロシア映画鑑賞
第9回	ロシア・アヴァンギャルド芸術と日本（2）	ロシア人芸術家・プブノフと大正期新興芸術運動の関係から
第10回	白系ロシア人と日本文化（1）	谷崎潤一郎「アエ'・マリア」における白系ロシア人表象
第11回	白系ロシア人と日本文化（2）	ロシアの食文化と近代日本
第12回	バレエから見た明治～昭和期の日本とロシア文化	二人のバヴロフと日本バレエの発展
第13回	バレエにおける比較芸術	バレエ「白鳥の湖」の登場人物表象、ストーリー解釈の変遷／バレエとフィギュアスケートの関係
第14回	ロシア現代芸術のクロス・エリアとクロス・ジャンル	イリヤ・カバコフの挿絵・絵本・インスタレーション／カバコフと日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で扱う作品・文章の抜粋や資料（日本語または英語）を事前に配布するので、授業前日までに内容を十分に把握しておく。気になった箇所や感想、疑問点などをメモしておき、能動的に授業に参加できるようにしておく。
- ・授業後、ノートを見返して、授業内で解説された事項を復習する。
- ・授業で学んだ作家の他の作品や、担当教員が紹介する参考文献、資料を積極的に読んだり、鑑賞したりする。

【テキスト（教科書）】

特に指定の教科書はありません。

担当教員が作成した印刷物を授業内で配布します。

【参考書】

指定のものは特にありませんが、毎回の授業のテーマや取り上げた作品・作家に関する書籍や資料を読み、視聴することは関心と理解を深めます。適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパー）：20%

中間試験：40%

学期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

担当初年度のため該当しませんが、リアクション・ペーパー等を通じて、受講者の考察や感想、質問を適宜紹介してコメントする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of comparative culture, comparative arts and the history of the reception of Russian culture in modern Japan.

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of comparative culture and arts and understanding the relationship between Japan and Russia from the viewpoint of the cultural history from the 19th to the 21st centuries.

LIT200BD

米文学史 A

宮川 雅

授業コード：A2905 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

春学期Aは、植民地時代の文学から 19 世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティブ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。

目的は、

- (1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えること、
 - (2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
- により、アメリカ文学の歴史的なパースペクティブを得ることである。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語れる。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに関心されるのか、どんなふうに関心されるのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

前期のAでは 17 世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。講義。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。（前回のプリントの残りを毎度教室に持っていくとは限らないので、休んだ者は 601 研究室にもらいに来るなり、友人のをコピーさせてもらうの努力をしていただきたい。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	移民の国アメリカ	イントロダクション：アメリカという国の性格について。
第 2 回	植民地時代の文学 I	ピューリタニズムとタイポロジカルな想像力。
第 3 回	植民地時代の文学 II	エレジーと名前の重要性。
第 4 回	ベンジャミン・フランクリンの自伝	アメリカの宗教と理神論 (Deism) について。プロテスタンティズムと資本主義の精神。自伝とフィクション。
第 5 回	チャールズ・ブロックデン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	ノヴェル対ロマンス。ゴシック・ロマンス。
第 6 回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales"とウェスタンの英雄像。フロンティアと文学的想像力。
第 7 回	ワシントン・アーヴィング	ゴシックの変容とアメリカのユーモア。アメリカの短篇小説。
第 8 回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカのロマン主義と自己信頼。ソロとホイットマン。
第 9 回	エドガー・アラン・ポー	ロマン主義とゴシック。ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義。
第 10 回	ホーソンとロマンス	ホーソンの小説論。ノヴェル対ロマンス (2)。
第 11 回	メルヴィルの小説	小説の極限について。長篇・短篇・詩。
第 12 回	感傷小説の伝統	大衆小説、高級小説。プロット、ストーリー、キャラクター。女性読者・女性作家・男性作家。
第 13 回	ホイットマンとディキンソン	詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統。
第 14 回	南北戦争その他	19 世紀の文化と社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を必ず一冊読むこと（試験において確認する）。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。

【参考書】

現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）であろう。文学的洞察としてより（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社、2010）。英語で書かれたもので、すぐれたものは、やや古いのが、英国の学者による Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思う。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ている）。

さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。古典的研究書を 2 冊だけ前もってあげておくなら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソン学者 Randall Stewart の *American Literature and Christian Doctrine* (1958) (邦訳『アメリカ文学とキリスト教』)、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス=ノヴェルとした Richard Chase の *The American Novel and Its Tradition* (1958) (邦訳『アメリカ小説とその伝統』)。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー (20%)、(2) 3 作品を読んだレポート (40%)、(3) 期末試験 (40%)、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいけば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

こわくならないようにやさしく話すこと。むつかしくなりすぎないようにやさしく話すこと。

【その他の重要事項】

後期（秋学期）の「米文学史 B」との継続履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

LIT200BD

米文学史 B

宮川 雅

授業コード：A2906 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」（ナショナル・アイデンティティとかわるもの）とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

秋学期 B は、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後 20 世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて 1960 年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語る。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに関心されるのか、どんなふうに関心したいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体。
第 2 回	ルイーザ・メイ・オールドコットの家庭小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統。
第 3 回	サミュエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American vernacular について。
第 4 回	ヘンリー・ジェイムズと幽霊	視点（point of view）の問題。
第 5 回	フランク・ノリス、ステューヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学。
第 6 回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学。
第 7 回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学。
第 8 回	S F と探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題。
第 9 回	T・S・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩。
第 10 回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーク、ゲーリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学。
第 11 回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える。
第 12 回	トマス・ピンチオンとジョン・バース	ポスト=モダン意識とは何か。
第 13 回	アメリカン・ドラマ	演劇とミュージカル。
第 14 回	同時代作家たち	アメリカ文学の現在。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。

【参考書】

渡辺利雄『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）

平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）

Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books)

Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)

Jorge Luis Borges, *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974)

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20%）、(2) 作品 3 冊を読んだレポート（40%）、(3) 期末試験（40%）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

やさしさを心がける。

【その他の重要事項】

前期（春学期）の「米文学史 A」との継続履修が望ましい。

【Outline and objectives】

This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

LIT200BD

英米文学講義 I A

宮川 雅

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 英米文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。リアクション・ペーパーを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	英語文学とは何か	導入。地理と歴史、空間と時間。
第 2 回	英語史と英米文学	スタイルの変容。
第 3 回	映画と文学（1）	映画を観る。
第 4 回	映画と文学（2）	映画を読む。
第 5 回	小説とは何か	歴史的・構造的考察。
第 6 回	ノヴェルとロマンス	イギリスとアメリカの特性。
第 7 回	アメリカの短篇小説を読む（1）	19 世紀アメリカ短篇小説
第 8 回	話法について	とくに描出話法、中間話法、自由間接文体について。
第 9 回	視点と人物について	全知の視点と腹心の友。
第 10 回	イギリスの短篇小説を読む（1）	19 世紀イギリス短篇小説。
第 11 回	Voice について	「態」と声。
第 12 回	英語の辞書のはなし（1）	OED その他の標準辞典。
第 13 回	スタイルについて	style のいろいろな意味といろいろなスタイルについて。
第 14 回	本の蒐集について	本を買う、借りる、閲覧する、ダウンロードする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳でも読み進めてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布。

【参考書】

豊田昌倫『英語のスタイル』（研究社、1981）
豊田昌倫『英語のスタイル——教えるための文体論入門』（研究社、2017）
E. M. Forster, *The Aspects of the Novel* 『小説の諸相』（ダヴィッド社）
英米の文学史（教室でリストを配布する）
その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント

レポート 20 パーセント

期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を過大にしない。

【Outline and objectives】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

LIT200BD

英米文学講義 I B

宮川 雅

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 英米文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。（ときどき、なかば演習スタイルで）作品を読んでリサーチの方法・辞書の引き方を体感する。リアクション・ペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の辞書のはなし（2）	俗語、慣用句、方言、引用、その他。
第 2 回	キリスト教と英米文学	聖書、コンコルダンス。
第 3 回	シェークスピアと演劇	エリザベス朝の舞台から大衆演芸まで。
第 4 回	引用について	引用と盗用（剽窃）。引用的想像力。
第 5 回	アメリカの短篇小説を読む（2）	20 世紀アメリカの短篇小説。
第 6 回	注釈について	注釈について。
第 7 回	本文校訂とテキストの問題	textual criticism と "text" の多様な意味について。
第 8 回	アイルランドの短篇小説を読む	19 世紀アイルランド短篇小説を読む。
第 9 回	翻訳について	誤訳、直訳、意識。
第 10 回	英詩の構造	versification, rhyme, meter, foot.
第 11 回	オーストラリアの短篇小説を読む	20 世紀のオーストラリア短篇小説を読む。
第 12 回	キャラクターについて	round character と flat character.
第 13 回	イギリスの短篇小説を読む（2）	20 世紀のイギリス短篇小説を読む。
第 14 回	エンディング	作品の結末と終末。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳でも読み進めてもらいたい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント

レポート 20 パーセント

期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を余裕のあるものとする。

【Outline and objectives】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

LIT200BD

英米文学講義ⅡA

丹治 愛

授業コード：A2909 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、18世紀前半から中期ヴィクトリア朝までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、一人称的語りと三人称的語り、リアリズムとゴシックを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】

18世紀前半のダニエル・デフォーから中期ヴィクトリア朝（1870年以前）までのイギリス小説の流れを概観し、そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを理解する。作品の一部を英語で講読することをおして、英語読解能力の向上もめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（小説以前の物語）	小説というジャンルに影響をあたえた小説誕生以前の物語形式について学習する。
第2回	Defoe, <i>Robinson Crusoe</i> とビカレスク小説	<i>Robinson Crusoe</i> をテキストにして、ビカレスク小説について学習する。
第3回	Swift, <i>Gulliver's Travels</i> と風刺	<i>Gulliver's Travels</i> をテキストにして、風刺文学について学習する。
第4回	<i>Gulliver's Travels</i> （映画）	<i>Gulliver's Travels</i> の映画を見て、その内容を議論する。
第5回	Richardson, <i>Pamela</i> と書簡体小説	<i>Pamela</i> をテキストにして、書簡体小説について学習する。
第6回	Fielding, <i>Joseph Andrews</i> と三人称の語り	<i>Joseph Andrews</i> をテキストにして、一人称小説と三人称小説の違いについて学習する。
第7回	Sterne, <i>Tristram Shandy</i> とメタフィクション	<i>Tristram Shandy</i> をテキストにして、メタフィクションについて学習する。
第8回	Walpole, <i>The Castle of Otranto</i> とゴシック的伝統	<i>The Castle of Otranto</i> をテキストにしてゴシックについて学習する。
第9回	<i>The Castle of Otranto</i> （映画）と Radcliffe, <i>The Italian</i>	<i>The Castle of Otranto</i> の短編映画を見て、ゴシック小説の発展について学習する。
第10回	Austen, <i>Northanger Abbey</i> と自由間接話法	<i>Northanger Abbey</i> をテキストにして、自由間接話法について学習する。
第11回	<i>Northanger Abbey</i> （映画）	<i>Northanger Abbey</i> の映画を見て、その内容について議論する。
第12回	Brontë Sisters, <i>Jane Eyre & Wuthering Heights</i>	<i>Jane Eyre & Wuthering Heights</i> をテキストにして、女性の文学について学習する。
第13回	Dickens, <i>Oliver Twist</i> 以後の社会小説	<i>Oliver Twist</i> をテキストにして、社会小説について学習する。
第14回	期末試験とまとめ	授業全体のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むことと、指示された主題に関して中間レポートを書く

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料

授業であつかう作品のうち2つ

【参考書】

『講座英米文学史8 小説Ⅰ』『講座英米文学史9 小説Ⅱ』（大修館）

The Cambridge Companion to the Eighteenth-Century Novel (Cambridge UP)

The Cambridge Companion to the Victorian Novel (Cambridge UP)

【成績評価の方法と基準】

1. イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
 2. それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
- リアクションペーパーなどの平常点10%
中間レポート40%
期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】

While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the first half of the 18th century to the middle Victorian period, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of first person and third person narratives, and realism and Gothicism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

LIT200BD

英米文学講義ⅡB

丹治 愛

授業コード：A2910 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、19世紀末から21世紀初頭までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、リアリズムとゴシック、リアリズムとメタフィクション、モダニズムとポストモダニズムとを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】

19世紀末から21世紀初頭までのイギリス小説の流れを概観し、そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを理解する。作品の一部を英語で講読することとおして、英語読解能力の向上もめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（19世紀末までの小説の展開）	イントロダクションとして19世紀末までの小説の展開を概観する。
第2回	映画 <i>Bram Stoker's Dracula</i> を見てディスカッション	映画 <i>Bram Stoker's Dracula</i> を見て、その内容を議論する。
第3回	世紀末のゴシック（1） 恐怖小説とファンタジー — <i>Dr Jekyll and Mr Hyde, Dracula, The Princess and the Goblin</i>	<i>Dr Jekyll and Mr Hyde</i> などをテキストにして、恐怖小説とファンタジーについて学習する。
第4回	世紀末のゴシック（2） ミステリーとSF— <i>Sherlock Holmes</i> もの、 <i>The Time Machine</i>	<i>The Time Machine</i> などをテキストにして、ミステリーとSFについて学習する。
第5回	唯美主義— <i>The Picture of Dorian Gray</i>	<i>The Picture of Dorian Gray</i> をテキストにして、唯美主義について学習する。
第6回	主観的・内的リアリズム — <i>Heart of Darkness, The Secret Agent, Mrs Dalloway</i>	<i>Heart of Darkness</i> などをテキストにして、主観的・内的リアリズムについて学習する。
第7回	芸術家小説— <i>A Portrait of the Artist as a Young Man, Sons and Lovers, To the Lighthouse</i>	<i>To the Lighthouse</i> などをテキストにして、芸術家小説について学習する。
第8回	アンチユートピア— <i>Nineteen Eighty-Four</i>	<i>Nineteen Eighty-Four</i> をテキストにして、アンチユートピアについて学習する。
第9回	怒れる若者たち— "The Loneliness of the Long-Distance Runner"	"The Loneliness of the Long-Distance Runner" をテキストにして1950年代の小説について学習する。
第10回	ヒストリオグラフィカル・メタフィクション— <i>The French Lieutenant's Woman</i>	<i>The French Lieutenant's Woman</i> などをテキストにして、ヒストリオグラフィカル・メタフィクションについて学習する。
第11回	マジック・リアリズム— <i>Midnight's Children</i>	<i>Midnight's Children</i> などをテキストにして、マジック・リアリズムについて学習する。
第12回	映画 <i>Atonement</i> を見てディスカッション	映画 <i>Atonement</i> を見て、その内容について議論する。
第13回	ポストモダン・メタフィクション— <i>Atonement</i>	<i>Atonement</i> をテキストにして、ポストモダン・メタフィクションについて学習する。

第14回 期末試験とまとめ 全体の授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むことと、指示された主題に関して中間レポートを書くこと

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料 授業であつかう作品のうち2つ

【参考書】

『講座英米文学史9 小説Ⅱ』『講座英米文学史10 小説Ⅲ』（大修館）
The Cambridge Companion to the Victorian Novel (Cambridge UP)
The Cambridge Companion to the Twentieth-Century Novel (Cambridge UP)

【成績評価の方法と基準】

1. イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
2. それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
リアクションペーパーなどの平常点10%
中間レポート40%
期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】

While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the end of the 19th century to the beginning of the 21st century, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of realism and Gothicism, realism and metafiction, modernism and postmodernism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

LIN200BD

英語学講義 A

大沢 ふよう

授業コード：A2911 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。ただ、英語が読めるようになるだけではなく、何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。様々な分析方法についても紹介します。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語力も確実に向上しています。

また、英語・言語の分析法の代表的なものについて、ある程度の知識を持つことができるようになります。英語の専門学科の学生にふさわしい知識と力が備わるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義形式で行います。ができるだけ、実際の問題を解く機会を設けたいと思います。実際に問題が解けるかどうかで自分の実力の判断ができます。また、問題の解説も丁寧に行う予定です。解説を理解することによって、不足していた部分の力が身に付きます。授業にも、課題にも真剣に取り組んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第2回	英語について	実は知っているようで知らない英語の真実
第3回	品詞分類の基本	今までの知識を再確認しよう 一例として「助動詞って何？」と聞かれたらどう答えるか
第4回	実際の英語	実際に問題を解いてみよう。初歩的な英語が完璧に理解できているだろうか？
第5回	代表的な統語構造 (1)	英語の統語構造のうち代表的なものを取り上げて分析していく これまで学校で学んだことを思い出そう
第6回	代表的な統語構造 (2)	助動詞を使った構造
第7回	代表的な統語構造 (3)	助動詞の種類
第8回	助動詞に関わる概念	ムードとは？あの「ムード」と同じだろうか？
第9回	中間のまとめ	これまでの内容のまとめと理解度をチェック
第10回	機能範疇としての助動詞 (1)	本動詞との違い
第11回	機能範疇としての助動詞 (2)	操作語としての助動詞
第12回	助動詞というカテゴリー	否定文の形成について
第13回	理論を用いた分析	生成理論を用いた分析について
第14回	授業のまとめ	春学期の授業をまとめて理解度をチェックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくこと。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくと、授業の内容が理解しやすくなる。

【テキスト（教科書）】

1冊で内容を網羅したテキストはないので、その都度、論文・研究書からの抜粋をプリントして配布する予定です。

【参考書】

初回の授業に詳しい参考文献表を配布する予定です。
辞書は、以下のものが使い易いです。

Collins COBUILD Advanced Dictionary

Oxford Dictionary of English

Longman Dictionary of Contemporary English

『研究社新大英和辞典』

『ジーニアス大英和辞典』

【成績評価の方法と基準】

最終試験が60%

授業中に行う小テストなどの結果 30%

平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

板書の速度をゆっくりする。話す速度について配慮する。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていただきます。講義の順番や、内容は従って微修正もあります。

【Outline and objectives】

This course deals with the study of the characteristics of English syntax. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

LIN200BD

英語学講義 B

大沢 ふよう

授業コード：A2912 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位

【Outline and objectives】

This course deals with the study of the characteristics of English syntax. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。ただ、英語が読めるようになるだけではなく、何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。様々な分析方法についても紹介します。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語力の向上も目指します。「英語学講義 B」の授業では、受講することでさらに、英語の代表的な構文について、主要な理論を使った分析方法についての知識を持つようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、講義形式で行います。ができるだけ、実際の問題を解く機会を設けたいと思います。授業中に行う小テストは必ず受けてください。また、原則として解答は返却し、詳しい解説を行います。間違えていた場合はしっかりと理解してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容について
第 2 回	現代英語の初歩	幾つかの基本的事実の確認
第 3 回	現代英語の助動詞	実際に問題を解いてみよう。基本的な事実が完璧に理解できているだろうか？
第 4 回	助動詞の詳細 (1)	Be, Have という助動詞
第 5 回	助動詞の詳細 (2)	do-support という現象
第 6 回	助動詞の詳細 (3)	法助動詞と副詞の関係
第 7 回	助動詞と他の文法要素	助動詞と主語の関係
第 8 回	中間のまとめ	これまでの内容のまとめと理解度をチェック
第 9 回	歴史における助動詞 (1)	古英語に助動詞は存在していたか？
第 10 回	歴史における助動詞 (2)	古い時代の英語の否定文・疑問文
第 11 回	文法化現象	文法化として助動詞の出現
第 12 回	言語習得との関連性	第一言語習得の特徴と助動詞
第 13 回	法助動詞の発達	義務的意味から認知的意味へ
第 14 回	秋学期のまとめ	授業の総まとめと理解度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。

【テキスト（教科書）】

1冊で内容を網羅したテキストはないので、その都度、論文・研究書からの抜粋をプリントして配布する予定です。

【参考書】

初回の授業に詳しい参考文献表を配布する予定です。

辞書は、以下のものが使い易いです。

Collins COBUILD Advanced Dictionary

Oxford Dictionary of English

Longman Dictionary of Contemporary English

『研究社新大英和辞典』

『ジーニアス大英和辞典』

【成績評価の方法と基準】

最終試験が 60%

授業中に行う小テストなどの結果 30%

平常点 10%

【学生の意見等からの気づき】

解説を丁寧にする。話す速度を遅くする。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていただきます。講義の順番や、内容は従って微修正もありえます。

LIN200BD

言語学講義 I A / 言語と論理 1 (言語学講義 I A)

石川 潔

授業コード：A2913,A2326,A2282 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語と日本語を、理論研究や実験研究の観点から比較します。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式ですが、授業中に問題を解いてもらう機会も設けたいと思っています。リアクションペーパーの作成も求める予定です。

授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります (し、あるべきだと考えます)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業全体の説明
第 2 回	音声 1	子音で終わる場合の聞き取り
第 3 回	音声 2	母語話者の聞き取り方の特徴
第 4 回	音声 3	「音の文法」の影響
第 5 回	音声 4	日英間での「長短」の違い
第 6 回	音声 5	日英間での「長短」の共通性
第 7 回	音声 6	アクセントについての講義
第 8 回	音声 7	聞き取り実習
第 9 回	音声 8	英語発音法に役立つ実験結果の紹介
第 10 回	統語論 1	受動態
第 11 回	統語論 2	日本語の助詞に当たる英語表現って？
第 12 回	文法に関して注意しておくべきこと	「例外」と「文法用語」について
第 13 回	時制とアスペクト 1	状態と動作
第 14 回	まとめ	まとめ、秋学期に向けての指針

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で学んだ方法論を他の文法の問題にも応用して考えてみてください。

【テキスト (教科書)】

授業支援システムにてハンドアウト配布。

【参考書】

ハンドアウトに記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

難易度をさらに下げるといふ狙いも込めて、かなり内容を変えました。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにてハンドアウトを配布します。授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline and objectives】

Theoretical/experimental comparisons of English and Japanese.

LIN200BD

言語学講義 I B

石川 潔

授業コード：A2914,A2327,A2282 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語と日本語を、理論研究や実験研究の観点から比較します。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式ですが、授業中に問題を解いてもらう機会も設けたいと思っています。リアクションペーパーの作成も求める予定です。

授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります (し、あるべきだと考えます)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	春学期後半の復習と秋学期の指針
第 2 回	時制とアスペクト 2	英語の進行形の基本
第 3 回	時制とアスペクト 3	英語の進行形の応用
第 4 回	時制とアスペクト 4	英語の完了形
第 5 回	時制とアスペクト 5	日本語に「現在形・過去形」はない？
第 6 回	時制とアスペクト 6	日本語だって「現在形・過去形」だ！
第 7 回	時制とアスペクト 7	日英で共通の重要な概念
第 8 回	時制とアスペクト 8	従属節の日英比較
第 9 回	時制とアスペクト 9	この授業から生まれた共同論文の紹介
第 10 回	時制とアスペクト 10	「～している」の意味 (基本編)
第 11 回	時制とアスペクト 11	「～している」の意味 (応用編)
第 12 回	文理解 1	曖昧語の理解の仕方
第 13 回	文理解 2	曖昧文の理解の仕方
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で学んだ方法論を他の文法の問題にも応用して考えてみてください。

【テキスト (教科書)】

授業支援システムにてハンドアウト配布。

【参考書】

ハンドアウトに記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

難易度をさらに下げるといふ狙いも込めて、かなり内容を変えました。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにてハンドアウトを配布します。授業支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I A」と連続履修すること。

【Outline and objectives】

Theoretical/experimental comparisons of English and Japanese.

LIN200BD

言語学講義Ⅱ A

伊藤 達也

授業コード：A2915 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は言語学の入門コースです。言語は身近すぎて、日ごろ、深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。講義の後、その日の講義に関連してリアクションペーパーを書いてもらいます。提出されたリアクションペーパーを確認した後に、次回の講義を始めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	形態論 (1)	形態素の種類
第 3 回	形態論 (2)	派生と語の内部構造
第 4 回	形態論 (3)	造語
第 5 回	統語論 (1)	文の構成素分析
第 6 回	統語論 (2)	句構造規則で文を作る
第 7 回	統語論 (3)	変形規則で文を変える
第 8 回	第 2 回から第 7 回のまとめ	まとめ
第 9 回	意味論	さまざまな意味関係
第 10 回	語用論 (1)	協調の原理と会話の公理
第 11 回	語用論 (2)	発話行為、ボライトネス
第 12 回	社会言語学 (1)	地域や人種による言語の変異
第 13 回	社会言語学 (2)	ジェンダーと言語
第 14 回	第 9 回から第 13 回のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回扱う資料をあらかじめ配布しますので、それを読んできてください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ビー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

授業後のリアクションペーパー (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

板書・提示を書きとる時間を十分とるようにします。

【Outline and objectives】

This is a general introduction to linguistics. Students are introduced to a wide range of linguistic data. The goal of this course is to become able to think deeply about language.

LIN200BD

言語学講義Ⅱ B

伊藤 達也

授業コード：A2916 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は一般言語学のコースです。言語は身近すぎて、日ごろ、深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。講義の後、その日の講義に関連してリアクションペーパーを書いてもらいます。提出されたリアクションペーパーを確認した後に、次回の講義を始めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	音声学 (1)	子音
第 3 回	音声学 (2)	母音
第 4 回	音韻論 (1)	弁別素性
第 5 回	音韻論 (2)	音素と異音
第 6 回	音韻論 (3)	音韻規則
第 7 回	音韻論 (4)	強勢
第 8 回	第 2 回から第 7 回のまとめ	まとめ
第 9 回	心理言語学 (1)	子供の言語習得
第 10 回	心理言語学 (2)	言語解析
第 11 回	歴史言語学 (1)	イギリス史、語彙変化
第 12 回	歴史言語学 (2)	音声変化、統語変化、意味変化
第 13 回	歴史言語学 (3)	世界の語族
第 14 回	第 9 回から第 13 回のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回扱う資料をあらかじめ配布しますので、それを読んできてください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ビー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

授業後のリアクションペーパー (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

板書・提示を書きとる時間を十分とるようにします。

【Outline and objectives】

This is a general introduction to linguistics. Students are introduced to a wide range of linguistic data. The goal of this course is to become able to think deeply about language.

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 A

石井 創

授業コード：A2923 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語研究と一口に言っても、文法・産出・理解・習得など様々なトピックが存在しますが、その中のある種の謎を明らかにしようとするとき、心理学の手法に基づく実験により得られる量的なデータから仮説の妥当性を決めようとする方法論が有効であることがあります。この授業は、具体的な言語実験の例を通して、言語学の初学者にそのような方法論を学んでもらうための「言語の実験研究」入門になります。

授業で取り上げる実験は学生にとって身近な英語あるいは日本語を材料にしたもので、その実験における「仮説・予測の関係」と「結果からどのような結論が論理的に導かれるか」を正しく把握できるようになることに重点を置きます。そのため、例えば統計分析の詳細のように、実験の技術的に込み入った部分には基本的には立ち入りません。一方で、異なる分野における言語の謎と実験手法を複数紹介していきますので、卒業論文で実験を行う予定の学生はこの授業からネタ探しのための材料を得ることもできるでしょう。

【到達目標】

1. 言語実験の基礎的な方法論と手順を身に付ける。
2. 授業で紹介された研究の問いや仮説、実験手法を理解し、かつそれを他人に説明することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 基本は講義形式ですが、実験のイメージが掴みやすいように、可能なものについては実験のデモンストレーションも授業内で行うつもりです。
2. 授業2回分で1つのトピックを消化していくパターンを予定しています。1回目にその研究の理論的な背景や実験の問い・仮説の説明を行い、2回目に実験の具体的な中身を紹介します。ただし、受講者の理解度に応じ、説明にかける授業回数は柔軟に調整します（よって、以下の授業計画は参考例）。
3. 毎回の授業中にリアクションペーパーを配布しますので、教員の説明に対する疑問点や反論などは積極的に発信してください。また授業中に教員が出した課題の答えをリアクションペーパーに記入してもらい（あるいは宿題として次回の授業までに考えてきてもらう）機会も設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	導入	言語学における実験研究の意義と基本的な手続き
第2回	音声1	ネーミングにおける音象徴効果の測定実験
第3回	第二言語習得1(1)	L2学習におけるUGの働き
第4回	第二言語習得1(2)	L2の文法テストにおける学習効果の比較実験
第5回	音声2(1)	音素のカテゴリー知覚
第6回	音声2(2)	同定・弁別課題による音声知覚実験
第7回	統語処理1(1)	自動詞の非対格仮説
第8回	統語処理1(2)	cross-modal lexical primingによる反応時間の測定実験
第9回	第二言語習得2(1)	L2の使用時におけるL1の知識へのアクセス
第10回	第二言語習得2(2)	semantic primingによるERP測定実験
第11回	意味理解(1)	瞬間と繰り返しの述語アスペクト
第12回	意味理解(2)	self-paced reading, eye-trackingによる読み時間の測定実験
第13回	統語処理2(1)	ガーデンパス文の構造決定と非言語情報の利用
第14回	統語処理2(2)	visual world paradigmによるeye-movementの測定実験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日の授業で扱われるトピックが前回からの続きである場合は、ハンドアウトを見直すなどしてその内容を思い出す作業を行っておいてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。適宜ハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験 70%、リアクションペーパー等による平常点 30%

2. 授業外で学内教員の実施する実験に参加した場合、プラスアルファで加点をいたします（不参加の人が減点されるわけではありません）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

ハンドアウトは授業中に配布し、また配布済みのものは授業支援システムに順次アップロードしていきます。授業を欠席した学生は授業支援システムを確認し、その日に配布されたハンドアウトを自分で入手してください。そのため、普段使用するメールアドレスを授業支援システムに登録しておくことをお勧めします。

【その他の重要事項】

1. 講義内容が連続する「英語・言語学特殊講義B」と合わせて履修することをお勧めします。
2. 授業終了後にその日の内容に関する質問を受ける時間を設けますので、不明な点はそのままにせず気軽に質問しに来てください。

【Outline and objectives】

This course introduces the experimental study of language. The examples of studies which are illustrated are mainly about English and Japanese. Through these examples, students learn a wide range of research issues concerning language and how to test a linguistic hypothesis based on quantitative data from a controlled psychological experiment. In addition, for beginning students of theoretical linguistics, this course places emphasis on the relation between a hypothesis, its prediction, and what conclusion can logically be drawn from results when explaining an experiment. It therefore does not deal with technical parts of experiments (e.g., details of statistical analysis).

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 B

石井 創

授業コード：A2924 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期の「英語・言語学特殊講義 A」で紹介した言語実験の中から、PC を用意しさえすれば学部生でも容易に行えるものを取り上げ、その実施に必要な基礎知識と IT スキルを学びます。実験を実施した経験がまったくない学生、あるいは既に卒業論文のための実験準備を始めているけれどその実施に不安のある学生に、刺激作成、実験設計、結果分析等の一通りの実験作業についての解説・実習を通して、1人で言語実験を実施できるようになってもらうことが最終的な目標です。なお、実験結果の分析に必要な統計学の知識については、人文系の多くの学生が苦手意識をもっていることを考慮し、数学的な仕組みには極力触れない平易かつ直観的な説明を心掛け、「学生が実際に分析に使用できるようになる」ことを一番に目指します。いわば「英語・言語学特殊講義 A」の内容の裏側を覗く授業になるため、「特殊講義 A」との連続履修を強くお勧めします（ページ末の「その他の重要事項」も参照のこと）。

【到達目標】

1. 言語実験の設計～分析に至る基本手順を理解できるようになる。
2. 授業内で紹介された実験方法について、自分で設計・実施できるようになる。
3. 2の実験結果を分析するための統計処理の基本を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. PC 環境のある教室にて講義と実習を行います。実習は受講生 1 人に 1 台の PC を割り当て、フリーの実験用ソフトウェアと Excel を使った実験設計・分析の具体的なやり方を学んでもらい、その成果物を課題として提出してもらいます。
2. PC を使った実習という性質上、欠席すると内容に追いつくのが難しくなるので、毎回の出席を心掛けてください。また授業後には質問を受け付ける時間を長めに取るので、講義内容や実習課題について不明な点があれば、きちんと確認するようにしてください（リアクションペーパーやメールでの質問も可）。
3. 受講者の理解度や人数に応じて、取り上げる実験の種類を変更したり、数の増減を行う可能性があります。また、受講者の希望次第では、授業内で学生が実施している言語実験のプレゼンを聴いたり、その実験に被験者として参加してもらう機会を作ることも考えています（よって、下記の授業計画はあくまで予定）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	履修者の決定作業、授業の概要と進め方の説明、春学期の内容のおさらい
第 2 回	実験設計の基本	問いと仮説の作り方、「統制」の考え方、実験計画法
第 3 回	記述統計の基本概念	代表値、分散と標準偏差、確率分布
第 4 回	基礎的な IT スキル	教室の Windows PC の環境、Excel の基本操作
第 5 回	実験実習 1	読文実験の刺激文作成
第 6 回	実験実習 2	LinguaTools を用いた self-paced reading 実験の設計
第 7 回	推測統計入門 1	母集団と標本、区間推定と信頼区間
第 8 回	推測統計入門 2	t 検定
第 9 回	推測統計入門 3	分散分析
第 10 回	実験実習 3	読み時間データの処理と分析
第 11 回	実験実習 4	praat を用いた音声刺激の作成
第 12 回	実験実習 5	praat を用いた音声同定課題の実験設計
第 13 回	実験実習 6	音声同定課題実験の結果分析
第 14 回	予備日	授業内容への質問、提出課題の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以前の授業内容の理解を前提に授業を行いますので、配布資料などで復習をしてください。また、実習回で課された成果物を授業内に提出できなければそれが宿題となりますので、学内の情報カフェテリアや自宅の PC で完成させ提出してください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業用の資料を授業支援システム経由で適宜配布します。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 提出課題 60%、平常点 40%
2. 授業外で学内教員の実施する実験に参加した場合、プラスアルファで加点をいたします（不参加の人が減点されるわけではありません）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

1. 学内 PC にログインするためのユーザー ID とパスワード
2. 配布資料や提出課題を持ち帰るための USB メモリ（クラウドストレージをさせる人は必要なし）

【その他の重要事項】

1. この授業は PC 環境のある教室にて 1 人 1 台 PC を割り当てての実習を含むため、履修者数に上限があります（シラバス執筆時では 44 人の予定）。そのため、履修希望者数が上限を上回った場合、まず春学期の「英語・言語学特殊講義 A」と連続履修する学生を優先し、それでも上限を上回る場合はその中から抽選によって履修者を絞ります。この履修者の決定作業は初回授業で行いますので、履修希望者は必ず初回に出席するようにしてください。
2. Microsoft Windows および Excel に触った経験があると望ましいですが、ない場合でも内容についてこられるように授業内外で可能な限りのサポートを行います。

【Outline and objectives】

This course provides students with the fundamental knowledge and IT skills that are required for conducting linguistic experiments. Among the experiments illustrated in the course “*Current Issues in English Language/Linguistics A (Lecture)*”, we will pick up those which even undergraduate students can easily conduct using only a computer running an experimental software. Through lectures and hands-on exercises, we will review specific methodology, including their general designs, stimulus creation, and statistical analyses, so as to help students conduct experiments themselves.

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅲ

田中 裕希

授業コード：A2967 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀半ばまでの英米詩を読む。モダニズム詩と呼ばれる 20 世紀初頭に書かれた英米詩は、ヴィクトリア朝の詩とは意識的に違う、革新的なものだった。二つの世界大戦など歴史的背景をふまえながら、モダニズム以前・以後の詩をくらべ、どのような違いがあるかを考えながら読む。特にロマン派の伝統がモダニズムによって壊され、次世代の詩人によって修復されていく流れをたどる。日本語訳も活用しながら、毎週数編の詩を丁寧に読んでいく。

【到達目標】

20 世紀初頭に台頭したモダニズム文学を中心に読み、歴史的背景・文化的背景を学ぶ。作品の細部を主題に結びつけて論じる力を身につける。クラス全体でディスカッションし、スピーキング力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

歴史的背景に関する講義と詩のディスカッションを中心とする。リアクションペーパーで出た質問や意見も授業で言及する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	20 世紀初頭の時代背景など
第 2 回	Thomas Hardy	ヴィクトリア文学の名残
第 3 回	William Butler Yeats	ロマン派詩人から近代詩人へ
第 4 回	Imagism	モダニズム詩の胎動
第 5 回	T. S. Eliot	Dramatic Monologue とは
第 6 回	William Carlos Williams	ロマン派詩との比較
第 7 回	Wallace Stevens / Marianne Moore	抽象詩とは
第 8 回	Edwin Arlington Robinson	モダニズムではないアメリカ詩
第 9 回	Robert Frost	人間と自然との関係からみえてくるロマン派との違い
第 10 回	W. H. Auden	第二次世界大戦と詩
第 11 回	Dylan Thomas	新ロマン派とは
第 12 回	ビート・ジェネレーション	Allen Ginsberg の詩を読む
第 13 回	告白詩	60 年代のアメリカ詩
第 14 回	60 年代以降の英米詩	今どんな詩が書かれているのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週配布されるテキストを予習し、ディスカッションの準備をする。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

亀井俊介、川本 皓嗣(編集)『アメリカ名詩選』(岩波文庫)
 平井正穂(編集)『イギリス名詩選』(岩波文庫)
 阿部公彦『英詩のわかり方』(研究社)
 David Perkins, *A History of Modern Poetry* Vol.1 and 2 (Harvard University Press)

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 30%
 リアクションペーパー 30%
 期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業中のパソコンと携帯電話の使用は原則禁止。

【Outline and objectives】

This course covers the development and afterlife of modernist poetry, starting from the late nineteenth century to the mid-twentieth century. What we call modernist poetry was radically different from the poetry of previous generations. We will read it in various literary and historical contexts, including the two world wars. How is modernist poetry different from Romantic and Victorian poetry? How did later generations respond to the legacy of modernism? Each week, we will read a handful of poems closely alongside Japanese translations.

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅳ

田中 裕希

授業コード：A2968 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位

【Outline and objectives】

This class focuses on twentieth-century Irish literature. One characteristic of modern Irish literature is that it is extremely political. It is also international, having absorbed various literary influences including English and Japanese. We will think about what makes Irish literature distinct from other literatures by reading its major works in relation to key historical events such as Ireland's perpetual struggle with England, the Celtic Twilight, the Irish War of Independence, and the Civil War.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では 20 世紀アイルランド文学を読み解く。アイルランド文学には政治色の強い作品が多い。またもう一つ特徴として、イギリスやアメリカ、日本など、いろいろな国の文学の影響を受けている **International** な側面がある。イギリスとの対立に始まり、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて起こった文化復興運動、独立戦争や内戦など、歴史的背景・文化的背景を踏まえながら、アイルランド特有の文学とはなにかを考える。

【到達目標】

20 世紀アイルランド文学を読み、歴史的背景・文化的背景を学ぶ。作品の細部を主題に結びつけて論じる力を身につける。クラス全体でディスカッションし、スピーキング力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

歴史的背景に関する講義と作品のディスカッションを中心とする。リアクションペーパーで出てきた意見や質問にも言及する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アイルランドの歴史、文学の特徴
第 2 回	W.B. Yeats 前期の詩	文化復興運動 Celtic Twilight とは
第 3 回	James Joyce, "Araby"	Epiphany とは
第 4 回	Joyce, "The Dead"	アイルランドにおけるモダニズム
第 5 回	映画 <i>The Dead</i>	原作と映画を比較する
第 6 回	Yeats 中期の詩	Yeats とモダニズム - 日本文学の影響
第 7 回	映画 <i>Michael Collins</i> の前半を上映	独立戦争、内戦について学ぶ
第 8 回	映画の後半 Yeats 後期の詩	独立戦争、内戦を背景に Yeats を読む
第 9 回	Seamus Heaney, "Digging," "Punishment"	アイルランドにおける詩の伝統
第 10 回	映画 <i>Hunger</i> の前半	The Troubles とは - 北アイルランド問題について学ぶ
第 11 回	<i>Hunger</i> の後半	The Troubles を背景に Michael Longley の詩 "Ceasefire" を読む
第 12 回	Elizabeth Bowen, "Mysterious Kôr"	現代アイルランド文学の短編小説
第 13 回	Heaney, "Clearances"	ソネットの伝統とアメリカ文学の影響
第 14 回	アメリカにおけるアイルランド移民 - まとめ	映画 <i>Brooklyn</i> を一部鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週配布されるテキストを予習し、ディスカッションの準備をする。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

R. F. Foster, *Modern Ireland: 1600-1972* (Penguin Books)
Declan Kiberd, *Inventing Ireland: The Literature of a Modern Nation* (Vintage)

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度 30%
リアクションペーパー 30%
期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業中のパソコンと携帯電話の使用は原則禁止。

ARS200BD

比較文化論（1）

小島 尚人

授業コード：A2981,A2821 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国をはじめとした英語圏の国々における「日々の暮らしの中の伝統文化と現代文化」に着目し、日本文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問う視座を探る。

【到達目標】

- 1) 英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2) アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3) 英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5) 以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国と他の英語圏の国々の比較を念頭に置きながら、日常生活のレベルにおける様々な文化的事象を学ぶ。扱う題材は、食生活、民話、歌、年中行事、スポーツ、現代大衆文化など多岐にわたる。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。

授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよび授業の導入	人間の日々の生活の営みとしての文化
第2回	移民国家アメリカ	多文化社会を読み解くための歴史的考察
第3回	文化を「比較」することの意味	世界から見た日本文化（留学生を迎えるためのディスカッション①）
第4回	食生活	「英米の料理はまずい」は本当か
第5回	年中行事	ハロウィンとクリスマスの地域差、国ごとの差
第6回	民話とその起源	それぞれの伝統を知り教訓を学ぶ
第7回	アメリカ人の愛唱歌とその起源	歌詞の比較から見えてくる価値観とは
第8回	文化のグローバル化とアメリカ化	世界各国におけるアメリカ文化（留学生を迎えるためのディスカッション②）
第9回	ポップカルチャー進化論	異文化混交から生まれる新しさ
第10回	デジタル時代に生きる伝統文化	文化的越境の媒体としてのインターネット
第11回	学生によるグループ・プレゼンテーション	食生活、スポーツ、年中行事
第12回	学生によるグループ・プレゼンテーション	民話、音楽、インターネット文化
第13回	異文化交流のこれから	現状と課題を話し合う（留学生を迎えるためのディスカッション③）
第14回	異文化相互理解のために必要なこと	授業のまとめと授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。
- ・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考える。
- ・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

佐々木英明（編）『異文化への視線——新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996年）
アメリカ学会（編）『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018年）

ウェルズ恵子、リサ・ギャバート『多文化理解のためのアメリカ文化入門 社会・地域・伝承』（丸善出版、2017年）

【成績評価の方法と基準】

授業内での課題および授業への貢献度 30 %
グループ・プレゼンテーション 30 %
授業内期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

学生が発言をしやすい環境をつくりたいと思います。

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。
履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

ARS200BD

英米文化概論 A

田中 裕希

授業コード：A2982 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1960年代までのアメリカ映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強くのこるアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、アメリカ映画を代表する作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを体現するに至ったかも考える。

【到達目標】

歴史的な文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。映画批評を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義と映画鑑賞を中心に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史
第 2 回	<i>Citizen Kane</i>	アメリカン・ドリームの典型として映画を読み解く
第 3 回	<i>Citizen Kane</i>	文学におけるアメリカン・ドリーム
第 4 回	<i>Red River</i>	フロンティアの概念
第 5 回	<i>Red River</i>	西部劇とアメリカン・ドリーム
第 6 回	<i>Mr. Smith Goes to Washington</i>	民主主義の夢
第 7 回	<i>Mr. Smith Goes to Washington</i>	Everyman の概念
第 8 回	中間テスト	テストと前半のまとめ
第 9 回	<i>It's a Wonderful Life</i>	中流階級の夢
第 10 回	<i>It's a Wonderful Life</i>	宗教と夢
第 11 回	<i>Sunset Boulevard</i>	ハリウッドとアメリカン・ドリーム
第 12 回	<i>Easy Rider</i>	60年代のアメリカ
第 13 回	<i>Easy Rider</i>	ロードムービーというジャンル
第 14 回	期末テストとまとめ	これまで学んだことをまとめ、60年代以降のアメリカ・アメリカ映画について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。

【テキスト（教科書）】

なし（必要に応じて資料を配布する）

【参考書】

D・ボードウェル, K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）
Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %
中間テスト 30 %
期末テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

In this class, we will analyze the representation of the American Dream in films up to the 1960s. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres.

ARS200BD

英米文化概論 B

田中 裕希

授業コード：A2983 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前学期に引き続き、アメリカン・ドリームという概念を映画を読み解くことで考えていく。60年代以降のアメリカの政治的・経済的現実の中で、「夢」のモチーフがどのように変容したのか。また、アメリカン・ドリームを表現してきた西部劇・ロードムービーといった映画のジャンルはどのように変わっていったのか。学期の後半では、人種問題・移民問題といった観点から、現代のマイノリティーにとってアメリカン・ドリームとは何かを考える。

【到達目標】

歴史的な文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。映画批評を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義と映画鑑賞を中心に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史の復習
第 2 回	<i>Five Easy Pieces</i>	70年代のアメリカ
第 3 回	<i>Five Easy Pieces</i>	家族と夢
第 4 回	<i>Death of a Salesman</i>	アメリカン・ドリームの幻想
第 5 回	<i>Death of a Salesman</i>	Everyman の変容
第 6 回	<i>Paris, Texas</i>	フロンティアの崩壊
第 7 回	<i>Paris, Texas</i>	ロードムービーの変容
第 8 回	中間テスト	テストとこれまでのまとめ
第 9 回	<i>Gran Torino</i>	現代における西部劇
第 10 回	<i>Gran Torino</i>	銃による自治・移民のアメリカン・ドリーム
第 11 回	<i>Batman Begins</i>	スーパーヒーロー映画におけるアメリカの理想
第 12 回	<i>Moonlight</i>	教養小説としての <i>Moonlight</i> - 成長と夢
第 13 回	<i>Moonlight</i>	人種と夢 - 21世紀のアメリカン・ドリーム
第 14 回	期末テストとまとめ	アメリカン・ドリームの変遷をふりかえり、学期のまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。

【テキスト（教科書）】

なし（必要に応じて資料を配布する）

【参考書】

D・ボードウェル, K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）
Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %
中間テスト 30 %
期末テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Following up on the previous semester, we will continue our exploration of the idea of the American Dream through film. How has the motif of dream changed since the 1960s, as the country undergoes cultural shifts as well as new economic and political challenges? How have the film genres that used to embody the spirit of the American Dream changed? In the second half of the semester, we will analyze the concept of the American Dream in the context of race and immigration.

HIS200BE

日本考古学

小倉 淳一

授業コード：A3113 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の旧石器時代から古墳時代までの歴史展開を、物質文化にもとづいてアジア史の中に位置付けて講義する。

考古学資料にもとづく交流の歴史を学び、日本列島史に対する理解を深める。

【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の資料を、中国や朝鮮半島との交流を物語る資料として理解し、その歴史的展開や意義について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

日本の原始・古代をアジア史の中に位置づけるために、考古学資料にみられる中国大陸や朝鮮半島との関連に基づいた交流史をとりあげる。

各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義を行う予定。プリント等の資料も利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準 この授業で扱う時代概要の解説
第 2 回	旧石器時代のアジアと日本列島 (1)	文化交流基盤の形成
第 3 回	旧石器時代のアジアと日本列島 (2)	縄文文化形成への道程
第 4 回	旧石器・縄文時代の海洋利用	海を渡る丸木舟
第 5 回	弥生文化と対外交流 (1)	弥生文化の外来的要素・在来的要素
第 6 回	弥生文化と対外交流 (2)	稲作技術と集落遺跡
第 7 回	弥生文化と対外交流 (3)	倭人の対外交渉のはじまり
第 8 回	弥生文化と対外交流 (4)	『魏志』倭人伝の世界
第 9 回	弥生文化と対外交流 (5)	玉生産と対外交流
第 10 回	古墳文化と対外交流 (1)	前方後円墳と船載鏡
第 11 回	古墳文化と対外交流 (2)	ヤマト王権の対外交渉
第 12 回	古墳文化と対外交流 (3)	渡来系技術と遺物
第 13 回	古墳文化と対外交流 (4)	磐井の乱と朝鮮半島の墳墓
第 14 回	考古学からみた交流史	成果（レポート）提出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

考古学を学んでみたい人には、有斐閣選書『日本考古学を学ぶ』(1)～(3) (新版) 有斐閣、鈴木公雄 (1988) 『考古学入門』東京大学出版会、佐々木憲一ほか (2011) 『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、などが読みやすい。そのほかに勅使河原彰 (1995) 『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』(全 9 巻) などがより詳しい。旧石器時代から古墳時代までを通史的に読むには概説書として講談社『日本の歴史』第 01 巻～第 03 巻や吉川弘文館『日本の時代史』シリーズもある。

【成績評価の方法と基準】

成績の 70 % は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は 30 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

準備学習に力を入れてほしい。また、各回の内容はレポートを書くための重要なヒントになっている。成績の高い学生は出席率も高く、授業の理解度が好成績に結びついている。

また、資格課程の関連科目として開講している関係もあるため、史学科以外の受講者も一定数を占めているが、受講にあたっては基礎知識を深めておく必要がある。概説書等の購読を推奨する。

【その他の重要事項】

※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn the history of exchanges between the Japanese archipelago and other areas through archeological materials.

HIS200BE

日本近世史

松本 剣志郎

授業コード：A3116 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近世における都市化社会の形成と展開を広い視野に立って考え、城下町の達成と限界、新しい社会関係や社会意識の萌芽を理解し、これらを適切な表現のもとに説明できるようになることを目的とする。城下町は、身分制を体現した都市である。その社会構造を理解するためには、それぞれの身分および空間に即した検討が必要である。その際、イメージをもつことが重要であるから、図像史料を読み解きながら理解を深めていきたい。

【到達目標】

- ①城下町の特徴を説明できる。
- ②城下町江戸を構成した諸社会、諸要素について説明できる。
- ③図像史料を読み解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業である。図や表、活字史料のプリントを配布して授業を進める。ただし、ときに教師は問いを発し、学生の意見を徴し、それをもとに授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	都市を考えること
第 2 回	江戸前史	地層と地形
第 3 回	江戸城のなか	表・奥・大奥と殿中席
第 4 回	マチの支配	町奉行と町年寄
第 5 回	マチとチョウ	大江戸八百八町
第 6 回	町人の生活	家持・地借・店借・屋守と日用
第 7 回	寺社地の空間と社会	信仰と生業と娯楽
第 8 回	大名屋敷のなか	御殿空間と詰人空間
第 9 回	武家拝領屋敷の相対替	主従関係と内実売買
第 10 回	武家抱屋敷の売買	土地の売買と所持
第 11 回	役屋敷と近世官僚制	老中役屋敷の成立と都市社会
第 12 回	公共空間の支配	道奉行
第 13 回	公共負担の行方	道造組合と上水組合
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に参考書などを読むこと。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。

【テキスト（教科書）】

なし。プリントを配布する。

【参考書】

高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門』I～III（東京大学出版会）
 吉田伸之編『日本の近世』9（中央公論社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

【Outline and objectives】

This course introduces urban history of early modern Japan to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the urbanisation in the castle town.

HIS200BE

考古学概論

小倉 淳一

授業コード：A3152 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主に学史的観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。
授業方法は講義形式による。板書と解説を中心とするので、受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第2回	考古学とは何か	考古学の本質
第3回	古代日本における考古学的認識	考古学的営為を試みた先人たちの認識
第4回	近世日本における学術的展開	近代科学につながる学術的先駆者たち
第5回	ヨーロッパ考古学の展開	古典考古学と先史考古学
第6回	層位学と型式学	学術的方法の整備
第7回	近代科学として導入された考古学	外国人による近代の考古学的営為
第8回	人種・民族論争と記紀	近代考古学を担った日本人研究者たち
第9回	実証主義研究の展開	貝塚研究と編年学派
第10回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第11回	戦後考古学の光と影（1）	岩宿遺跡と登呂遺跡
第12回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第13回	現代と考古学（1）	関連諸科学と考古学
第14回	現代と考古学（2）	文化財保護行政と考古学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。参考書を参照すること。

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全9巻）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）（30%）、期末試験の成績（70%）によって判定する。

【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【その他の重要事項】

※本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

※【実務経験のある教員による授業】：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく考古学的研究方法の内容や成立過程について講義する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

HIS200BE

日本史特講Ⅳ

中山 学

授業コード：A3157 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業のテーマ：徳川吉宗と書物

8代将軍・徳川吉宗は、いわゆる享保改革の実施者として著名である。その歴史的評価は、周知のごとく、主に幕府の組織改革、行財政改革において定着した感がある。だが、とくに行財政面で実績をあげたと評価される当の本人が、徳川宗家相続のため江戸城へ入城して真っ先に着手したのは将軍家蔵書目録（リスト）の閲覧であった。この蔵書目録の閲覧以降、将軍家蔵書の保存・管理を使命とした書物方役人は激務を担い、吉宗の直接的指示のもと、20年以上にわたって古典をはじめとするあらゆる種類の書物の校合、校勘といった作業、またはその補助作業に追われ続けることになる。要するに、吉宗は各種書物の真正なテキストの作成、あるいは証本の作成を組織的かつ大規模的に実施したと考えられるのだが、彼はなぜそのような作業に熱中したのか。授業では如上の事実について理解を深めるところから、吉宗政権の歴史的意義について考える。

【到達目標】

権力が文字知識に拠る文化といかに関係しているかという観点から、いわゆる享保改革期の特徴、画期性について論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。文献資料の初歩的読解を併用し、配布プリントの解説を行う。また、学生の基礎知識の習得度を確認し、授業進行に活かすため、適宜、授業終了前に小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	徳川吉宗の人物像（1）	出自、生育環境、領主経歴、徳川宗家の相続（冒頭授業ガイダンスあり）
第2回	徳川吉宗の人物像（2）	享保改革
第3回	徳川吉宗の人物像（3）	徳川実紀が描きだす吉宗の人物像
第4回	徳川吉宗の人物像（4）	徳川実紀が描きだす吉宗の人物像
第5回	徳川将軍家の文庫（1）	『右文故事』にみる御文庫と蔵書の沿革
第6回	徳川将軍家の文庫（2）	『右文故事』にみる御文庫と蔵書の沿革
第7回	徳川吉宗と書物（1）	事のはじまり－蔵書目録の請求－
第8回	徳川吉宗と書物（2）	請求書目録の及んだ範囲、実際の閲覧者
第9回	徳川吉宗と書物（3）	特殊人材の採用
第10回	徳川吉宗と書物（4）	特殊人材の採用
第11回	徳川吉宗と書物（5）	校合、校勘、真正テキストの作成
第12回	徳川吉宗と書物（6）	校合、校勘、真正テキストの作成
第13回	徳川吉宗と書物（7）	御文庫御書物にたいする観念
第14回	徳川吉宗と書物（8）	真偽確定へのこだわり－権力依存の創出－

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・下記参考書（選択）にもとづく予習
・配布プリントをもとにした復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

辻達也『徳川吉宗』吉川弘文館（1985年）
塚本学『都会と田舎－日本文化外史』平凡社（1991年）
塚本学『生類をめぐる政治』平凡社（1993年）
大石学『徳川吉宗－日本社会の文明化を進めた将軍』山川出版社（2012年）
深井雅海『綱吉と吉宗』吉川弘文館（2012年）
藤本清二郎『紀州藩主徳川吉宗』吉川弘文館（2016年）
福井保『江戸幕府の参考図書館 紅葉山文庫』郷学舎（1980年）
小川剛生『日本史リブレット 78 中世の書物と学問』山川出版社（2013年3刷）
森潤三郎『決定版 紅葉山文庫と書物奉行』臨川書店（2017年）
松田泰代『徳川日本のナショナル・ライブラリー』臨川書店（2018年）

【成績評価の方法と基準】

出席 50%、期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

日本史特講Ⅰのテーマとも関連する。

【Outline and objectives】

Tokugawa Yoshimune used the books of Shogun Tokugawa to inspect many books including classical literature and made efforts to make those sentences and letters error free. It is the purpose of this lesson to think about what this historical fact means.

HIS200BE

東洋史特講Ⅲ

芦沢 知絵

授業コード：A3164 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多くであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第2回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第3回	清末の近代化①	開港と外国資本
第4回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第5回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第6回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第7回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第8回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第9回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第10回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第11回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第12回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第13回	改革開放と経済成長②	WTO加盟とグローバル化
第14回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013年。（第4・5章）

久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016年。

丸川知雄『現代中国経済』有斐閣、2013年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30%

毎回授業後のリアクションペーパーの提出を評価する。

② 期末レポート 70%

授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する場合がある。

【Outline and objectives】

This course introduces the history of the modern Chinese economy. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical process and problems of China's economic growth.

HIS200BE

西洋史特講Ⅳ

高澤 紀恵

授業コード：A3171 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世西ヨーロッパ社会の基底で起こった変化を、「生存の条件」「社会的結合関係」「文化変容」「緊張と排除」という4つの視点から検討する。対象とする時期は16世紀から18世紀とする。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

近世ヨーロッパ社会史をテーマとするこの授業は、2つの到達目標をもつ。ひとつは、16世紀以降のヨーロッパの歴史を基底でゆっくり変化する人々の生活・宗教・意識の変化から追ひ、近代ヨーロッパの理解を深めることである。二つ目は、日常性に着目する社会史の方法と成果を学ぶことを通して、私たちの生きる時代と社会を相対化し、その歴史的特質を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、学生による報告、ディスカッションを組み合わせたクラスである。リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会史とはなにか
第2回	映画『帰ってきたマルタン・ゲール』	次回、感想文を提出のこと
第3回	生存の条件	他者としての過去との出会い
第4回	社会的結合関係（1）	血縁的な結合
第5回	ディスカッション	婚姻と家をめぐって
第6回	社会的結合関係（2）	宗教的結合と職能的結合
第7回	社会的結合関係（3）	地縁的結合
第8回	文化変容（1）	宗教改革とカトリック改革
第9回	文化変容（2）	民衆文化と時間・空間意識
第10回	文化変容（3）	文字文化の浸透
第11回	緊張と排除（1）	魔女
第12回	緊張と排除（2）	放浪者・貧民
第13回	緊張と排除（3）	ユダヤ人
第14回	まとめ	啓蒙のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、テーマの一つを選び、報告（30分）を準備すること。ディスカッションに際しては、事前に配布された資料について課題に対する自分の考えをA4一枚程度のレポートにまとめて持参すること。レポートはディスカッション終了後に提出すること。

【テキスト（教科書）】

とくに定めず

【参考書】

ナタリー・ゼーモン・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール——16世紀フランスの偽亭主事件』平凡社ライブラリー、1993年ほか。
参考文献表を配布する。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40%）、エッセイ形式の期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

Social history is not a simply branch of history but a critical history in its own right. By grasping the society as a whole on the level of everyday experience, it illuminates almost any aspect of social life considered meaningful to each historian. In this course, participants are expected to make a presentation on a topic which is previously provided by the professor, and engage in discussion.

HIS200BE

西洋史特講Ⅴ

高澤 紀恵

授業コード：A3172 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市は、政治・社会・経済・宗教の変動の最先端にあり、新たな統治技術が生まれる場でもあった。2019年度においては、パリという具体的な都市の歴史に即して、そのトポグラフィックな特徴、ポリス（秩序維持）、信仰、労働の四点から中・近世における変化を分析する。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

中・近世都市の歴史をテーマとするこの授業は、二つの到達目標をもつ。ひとつは、「市民」、「公共性」、「代表」、「ポリス」といった概念が、どのような歴史的現実の中で生まれ、変容してきたかを理解することである。二つ目は、都市史研究の成果と方法を学び、自分の生活空間を学問的に検討する力を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

このコースは、講義を中心とするが、グループ・ディスカッションも行う。その場合は、事前に配布された資料をよく読み、A4一枚程度に考えをまとめてレポートを作成すること。このレポートをディスカッションに持参し、提出のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	福澤諭吉から考える都市
第2回	パリの3つの顔（1）	シテ島の中心性
第3回	パリの3つの顔（2）	右岸と市民
第4回	パリの3つの顔（3）	左岸と大学
第5回	都市のポリス（1）	多様なアクター
第6回	都市のポリス（2）	対立と改革
第7回	ディスカッション	空間の統治をめぐって
第8回	都市の信仰（1）	聖なる都市と暴力
第9回	都市の信仰（2）	信仰の内面化とグローバル化
第10回	都市の信仰（3）	葛藤と世俗化
第11回	都市の労働（1）	ギルド
第12回	都市の労働（2）	もぐりの職人
第13回	都市の労働（3）	排除・包摂・規律化
第14回	まとめ	都市を考える、都市から考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中心のクラスであるが、ディスカッションに際しては事前に配布された資料を熟読の上、課題に答えるA4一枚程度のレポートを用意し、これを基にディスカッションを行う。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

吉田伸之・伊藤毅（編）『伝統都市 全四巻』東京大学出版会、2010年。
高澤紀恵『近世パリに生きる——ソシアビリティと秩序』岩波書店、2008年。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40%）、エッセイ形式の期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline and objectives】

This course aims to understand the social and spatial transformation in early modern Paris, focusing on the following four topics; Topographie, police, religion, and labor. This course consists of lectures and discussions. Attendants are expected to read assignments in advance.

HIS100BE

日本史序説 I

川上 真理

授業コード：A3212 | 曜日・時限：月 1/Mon.1
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、歴史教科書では決して主要なテーマとしては書かれない、芸能と儀礼を取り上げて、日本の歴史を学びます。その理由は、教科書が歴史の事実の全てを示すものではなく、むしろ歴史は自分の視点を持って、掘り起こすものだと知るためです。

ここでは、芸能と儀礼の場に注目して、日本の歴史を東アジアとの関係性の中で理解します。それにより、歴史を多角的に見る目を養い、歴史を書く心構えを身につけます。

【到達目標】

日本史の流れを、文化の視点から理解できるようになる。
事実を検証する姿勢と手法が身につくようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業計画に基づいてプリントを配布して、その内容を説明しながら授業を行います。第2回～第13回は、授業の感想・意見・質問等を書くリアクションペーパーを提出してもらいます。その内容を次回の授業で紹介し、課題や関心を受講生の間で共有して進めていきます。また、適宜、史料の講読も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスを用いたガイダンス/入門 (1) 歴史を書く材料
第2回	入門 (2)	歴史を書く材料、読む作法
第3回	古代宮廷の芸能と儀礼	礼制/三国楽と雅楽
第4回	古代都市の芸能と儀礼	鎮魂/観客
第5回	中世社会の芸能と儀礼 (1)	職人歌合の世界/座の形成
第6回	中世社会の芸能と儀礼 (2)	町・村の暮らしと祭祀
第7回	中世朝廷の芸能と儀礼	天皇と音楽
第8回	近世民衆の芸能と儀礼 (1)	人倫訓蒙図彙の世界/身分制
第9回	近世朝廷の芸能と儀礼	和漢の学問
第10回	近世武家の芸能と儀礼	礼制/明清楽と雅楽
第11回	近世民衆の芸能と儀礼 (2)	教養と娯楽の広がり
第12回	国民国家の形成と芸能・儀礼	身分の解放、風俗の矯正
第13回	帝国主義の時代の芸能・儀礼	大正デモクラシー/太平洋戦争
第14回	まとめ (試験)	授業のまとめ/授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回の該当する時代の概要について参考書等を読んで予習する。
・授業のプリントを見直し、参考書・関連文献等やフィールドワーク（現地見学・博物館 見学等）によって得られた知見を補足する。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、授業計画に基づいたレジュメを配布します。

【参考書】

- 『岩波ジュニア新書 日本の歴史』全9巻、岩波書店、1999～2000年、¥780 + 税。
 - 朝尾直弘・上田正昭・上横手雅敬・山本四郎編『要説日本歴史』東京創元社、2000年、¥2,800+税
 - 佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論日本歴史』吉川弘文館、2000年、¥1,900+税
 - 尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書）岩波書店、2000年、¥700+税
 - 網野善彦『日本とは何か』（日本の歴史00）講談社、2000年、¥2,200+税
 - 大津透・桜井英治・藤井譲治・吉田裕・李成市編『岩波講座 日本歴史』全22巻、岩波書店、2013年～2016年、¥3,200+税
 - 佐藤信ほか編『詳説日本史研究（改訂版）』山川出版社、2017年。
- その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と試験（60%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各回の目的を明瞭に示します。

【その他の重要事項】

著しい遅刻は欠席とみなします。
質問は授業の前後に教室で受け付けます。

【Outline and objectives】

We learn the Japanese history by the performing art and ritual, on relationship with east Asia. So, we'll have new points of view, and we can get into a historical description.

HIS100BE

日本史序説Ⅱ

齋藤 智志

授業コード：A3213 | 曜日・時限：月 1/Mon.1

秋学期授業/Fall・2 単位

【その他の重要事項】

授業後に質問を受け付けます。

【Outline and objectives】

This course deals with a summary of Japanese history from the primitive period to the contemporary period. In doing so, we will take up historical materials (documents, paintings, etc.) and cultural heritage to understand the image of each period. In addition, we also consider how each period has been drawn. The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and ideas on Japanese history.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、原始から現代までの日本の歴史を概括的に学びます。その際に、文書や絵画などの史料、さまざまな文化遺産を取り上げて時代像をつかむとともに、各時代の特徴がどのような視点から描かれてきたかを考察します。これを通じて、日本の歴史に関する基本的な知識や考え方を身につけることを目的とします。

【到達目標】

日本の歴史の各時代の特徴と変遷を概括的に理解する。
史料をもとに歴史を考察する上での基本的な考え方や、歴史を多角的に捉える視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

プリント等を用いた講義を中心とし、適宜授業内で提示する課題に取り組みます。

毎回、リアクションペーパーに感想や意見、質問などを記入してもらい、次の授業で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと概論	授業方針 歴史と史料／歴史を学ぶ意味
第2回	文化の黎明と国家形成	日本列島における文化の黎明 古代国家の形成と東アジア
第3回	古代の国家と社会	律令国家の成立と変容 貴族社会と地方社会
第4回	中世社会の成立	院政から武家政権へ 中世の社会と文化
第5回	中世社会の諸相	室町・戦国時代の動乱 乱世を生きる人々
第6回	幕藩体制の成立	織豊政権から江戸幕府へ 国内外の秩序形成
第7回	幕藩体制の動揺	社会の変動と幕政改革 庶民の生活と文化
第8回	近代国家の形成	開国と明治維新 立憲国家の成立
第9回	近代国家の展開	日清・日露戦争と植民地 政党政治の進展と社会運動
第10回	近代の社会と文化	産業の発達・工業化 近代文化の特色
第11回	第二次世界大戦と日本	軍部の台頭と総力戦 戦時下の社会と文化
第12回	戦後日本の歩み	戦後改革と高度経済成長 現代の日本社会
第13回	歴史叙述の歴史と現在	歴史はどのように描かれてきたか
第14回	まとめと試験	授業全体のまとめ 授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるプリントは、原則として前の回の授業で配布するので、事前に内容を確認し、参考書の関連箇所を読んで予習する。
授業終了後はプリントを読み返して復習し、内容の理解を深める。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。配布するプリント等を用いて授業を行います。

【参考書】

佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000年
藤井謙司・伊藤之雄編著『日本の歴史 近世・近現代編』ミネルヴァ書房、2010年
『大学の日本史：教養から考える日本史へ』（全4巻）山川出版社、2016年
佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖編『詳説日本史研究』山川出版社、2017年

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、試験 60% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初年度のためありません。リアクションペーパーをもとに適宜授業に反映します。

HIS100BE

東洋史序説

塩沢 裕仁

授業コード：A3214 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

春学期授業/Spring・2 単位

【学生が準備すべき機器他】

【Outline and objectives】

On a survey of the Oriental identity and development from perspectives of the World History, we will be able to understand the various issues on the Chinese History, the Asian Peoples and Culture.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界史的な視点から東洋の独自性と人類社会の普遍的な営みを概観・考察することで、21世紀の世界において極めて重要な役割を果たすことになるアジアという地域の歴史、民族などに対する知識の拡大を図り当該地域に対する理解を促進することができます。

【到達目標】

アジアという地域の歴史に対して、これまでとは違ったものの見方、考え方、接し方、ひいては世界史上の新たな歴史認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ、時間的・空間的に地域相をとらえながら、世界史の流れの中にもみるアジア世界、特に東アジアの歴史とその問題点への理解を深めてもらいたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業のねらいと参考書などの紹介
第2回	文明発生論と新石器時代の文化	文明の一元・多元発生論、並びに新石器時代の諸問題
第3回	草創期の国家	夏・殷・周三代王朝の性格と研究の現状
第4回	春秋戦国時代の意義	封建制度の問題と文化変革期としての春秋戦国時代
第5回	統一王朝の成立	秦始皇帝の統一と崩壊、並びに漢帝国の成立と拡大
第6回	東アジアが経験した最初の民族問題	三国世界の崩壊、並びに五胡十六国、南北朝の盛衰と諸問題
第7回	東アジアの国際化	隋唐王朝の盛衰と大運河・シルクロードをめぐる流通問題
第8回	経済国家宋の登場	時代区分論における宋登場の意義と宋の経済・文化
第9回	北アジア遊牧民族Ⅰ	モンゴル帝国登場以前の草原遊牧騎馬民族の興亡
第10回	ベトナム王朝国家の成立	秦漢から唐までの中国支配とベトナム独立王朝の成立
第11回	中央アジアオアシス国家の興亡	タクラマカン砂漠におけるオアシス国家の興亡とその性格
第12回	朝鮮半島の諸王朝	朝鮮半島における王朝興亡史（渤海を含む）と現在の朝鮮半島
第13回	北アジア遊牧民族Ⅱ	モンゴル帝国の盛衰と北京
第14回	明・清と東アジアの近代社会	中国近代社会の様相と西洋世界との接触

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特定の教科書は使用しませんが、講談社『ビジュアル版世界史』シリーズの内、『5、中国文明の成立』『8、東アジアの世界帝国』『17、東アジアの近代』『12、東南アジア世界の形成』などには目を通しておいてもらいたいと思います。写真や図版が多用されており比較的理解しやすい参考書であると思いますので。

【テキスト（教科書）】

適宜教材としてプリントは配布します。

【参考書】

参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして講談社『ビジュアル版世界史』シリーズや『東アジア史入門』（布目潮風・山田信夫著、法律文化社、1995年改訂版）、『中国の歴史 上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・富谷至、昭和堂、2009年改訂版）を紹介しておきます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。欠席は理由の如何を問わず自己責任とします。欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

HIS100BE

西洋史序説

志内 一興

授業コード：A3215 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地中海・ヨーロッパ世界の歴史を、古代世界から近代まで概説的に取り扱っていきます。大学に入学し、様々な授業を履修して学習を進める際の下敷きとなるような、ヨーロッパ史に関する基礎的知識の習得を目指します。

高校までの「世界史」の授業において、ヨーロッパ史の理解が不十分であったり、あるいは今ひとつ興味が持てないと感じていた学生をおもな対象としながら授業を展開します。歴史の基本的な部分をふまえてもらったうえで、さらに深い内容へと踏み込んでいきます。そしてそれはどんな意味を持つのか、それをどう理解すればよいか、他の歴史事象とどう関わっているか、さらには「いま」とどう関連しているかを問いつつながら、教室で受講生の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

受講生がこの授業をつうじて興味・関心の幅をひろげ、大学で色々な勉強を主体的に進めていけるようになることを希望しています。

【到達目標】

歴史の事象に関する知識を単なる断片的な知識（年号や人名の羅列）とすることなく、それぞれの相互のつながりや意味を、受講生がしっかり理解できるようになることを目標とします。そのために授業では、地中海・ヨーロッパ世界の歴史が体系的に理解できるような、俯瞰的な視野からの説明を加えていくつもりです。

最終的には、過去のヨーロッパの歴史についての知識を「いま」のヨーロッパとつなげる大局的な視野が、受講生のそれぞれに備わることを目標とします。今後、受講生各自が社会に出て、さらには世界で活躍する時に、その大局的な視野を役立ててくれることを期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。

各回ごとに時代とテーマを設定して講義を進めていきます。また随時、それまで扱ってきた、あるいはこれから扱う時代の流れを大づかみで提示する回を設定し、扱われた内容が相互に有機的に結びつくように、講義を展開する予定です。毎回リアクションペーパーを配布しますので、質問やみずからの考えを記してください。その内容に応じ、授業内容が前後したり、変更されたりすることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	テーマ設定：「いま」のヨーロッパ世界
第2回	文字の歴史を通じた、各地の文化交流	オリエント文明から、地中海文明へ
第3回	ギリシア人の世界	「民主政」の原点を見る
第4回	ローマ国家の興隆	ローマ興隆の原因論と、その近代世界への影響
第5回	ローマの平和と、古代地中海文化圏の形成	ローマの「平和」と、キリスト教の誕生
第6回	古代から中世へ	ヨーロッパ史の時代区分と、「ビレンヌ・テーゼ」
第7回	ビザンツ文明圏の成立	もう一つのヨーロッパを知る
第8回	「ヨーロッパ」の誕生	「カールの戴冠」の歴史的意義を理解する
第9回	フランス・ドイツ国家の誕生と発展	中世盛期のヨーロッパ世界を理解する
第10回	文明の衝突と、中世シチリア王国	文明の共存の可能性を歴史のなかに見る
第11回	オスマン帝国とヨーロッパ	ヨーロッパとは何か、を外からの視線で理解する
第12回	ロシア世界の展開	ヨーロッパとロシアの関係を考える
第13回	16世紀：ハプスブルクの時代	中世から、近世・近代への転換
第14回	授業の総括	授業内容を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高等学校で使用した世界史教科書を用意し、あるいは世界史の参考書を手元に置き、授業前、および授業後に関係箇所を読むことで、記述内容に関する意味理解の深化に努めて下さい。

また効果的に授業を受講するため、理解できなかった内容に関し、積極的に質問する、あるいは毎回紹介する参考文献を自ら手に取るなど、主体的に授業に参加してくれることを希望します。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。

【参考書】

参考文献は、授業のなかで随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、授業への参加度（20%）、および学期末の筆記試験（80%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

高校での世界史学習が不十分な学生に、十分配慮した授業を展開したい。

【Outline and objectives】

This course introduces the general historical outline of classical Mediterranean world and European world, from the classical times, through the medieval times, to the modern times. The goal of this course is to get basic knowledges about the history of European world. I hope the students of this class will use these knowledges to widen their own interests and to challenge themselves to various subjects and specialties.

HIS200BE

日本史特講 XI

石田 実洋

授業コード：A3216 | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講は、日本古代の典籍について、基礎的な知識や調査方法などを習得することを目的とする。歴史学研究的の根幹ともいえるのが史料批判であり、それは大きくは、史料に記述された内容を正しく理解すること、それに、その史料がどのような立場から作成されたものであるかを把握することにあるといえる。前者では、まず正しい本文を復原する、という作業が含まれ、また後者には、その史料がどのように扱われて現在まで伝来してきたか、という伝来論も含まれる。以上のような史料批判の方法を習得することを目的として、具体的には日本史、特に古代史の研究対象となる典籍について学んでいく。

【到達目標】

日本史（特に古代史）の研究対象となる史料の概要を把握し、個別事例に基づき、史料批判の具体的な方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず史料批判の方法についての概論を学ぶ。その後、日本史、特に古代史の研究対象となる典籍について、史書、法制史料、儀式書などといったまとまり毎に、個々の史料について学んでいく。第3回以降で採り上げる書目は、強い要望が多ければ、変更を検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	史料批判の方法（1）	本講義の目的、古代史料研究の現状
第2回	史料批判の方法（2）	テキスト再建、テキスト批判などの方法
第3回	史書 六国史（1）	六国史総論、日本書紀（付、古事記）
第4回	史書 六国史（2）	続日本紀、日本後紀
第5回	史書 六国史（3）	続日本後紀、日本文徳天皇実録、日本三代実録
第6回	史書 六国史以後（1）	類聚国史、日本紀略など
第7回	史書 六国史以後（2）	本朝世紀、その他（古代の年代記）
第8回	法制史料（1）	律令（律・令義解・令集解ほか）
第9回	法制史料（2）	格式（三代の格・式について、類聚三代格、延喜式）
第10回	儀式書（1）	古代前期の儀式書（内裏式、内裏儀式、儀式など）
第11回	儀式書（2）	三大儀式書（西宮記、北山抄、江家次第）
第12回	古記録（1）	摂関期までの日記
第13回	古記録（2）	院政期の日記
第14回	おわりに	講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最後回、あるいは史書・法制史料・儀式書・古記録という典籍のまとまり毎に、講義を終えた段階でレポートを提出する（採り上げられなかった典籍の史料批判、あるいは同じ典籍に対し、講師とは異なった視角から史料批判を行ったもの）。

【テキスト（教科書）】特に指定しない

【参考書】

特に指定しない（随時挙例）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、およびレポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

実際に史料を読む機会をできるだけ増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

This course introduces the historical sources which become a basis of a Japanese ancient history study. The aim of this course is to learn a way of criticism of historical sources.

HIS200BE

東洋史特講 VII

水上 和則

授業コード：A3217 | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、中国陶磁史について行う。アジアの大国である中国は、芸術・文化が早くから栄え、周辺諸地域へ影響を与えつづけた。本講義では、土器や陶器・磁器のもつ様々な生産の歴史や造形美について学習する。個々の作品に美しさを感じ、各時代の陶磁器から誕生の背景をよみ、一貫してなされる中国のやきものの歴史を学んでゆく。

【到達目標】

私たちの暮らしに無くてはならない“やきもの”に長い歴史のあることを学び、よく理解し、そのうえで身近な器の持つ美しさを再発見する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回講義を中心に行い、後半で画像提示をして陶磁作品鑑賞や講義の詳細解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	中国やきものの曙	新石器時代陶器を生んだ風土とその材料である黄土は、どの様にしてできたのだろうか。
第2回	中国の土器	仰韶文化のやきものは、肌理の細かい粘土を用いること、回転台を使つての仕上げ作業を行ない、初めて窯を用いて焼成することが行われるようになる。
第3回	漢魏の明器	春秋・戦国時代には、大勢の殉葬者を出すことが現世権力の保持のためにマイナス要因であるため、人に似せた人形である俑を副葬したという。
第4回	越州窯のやきもの	越国では、全国に先立ち漢代に瓷器が生産された。生産された製品は全国にもたらされ、瓷器焼造の技法は近隣の諸国に伝えられ徐々に生産窯が現れた。
第5回	原料のはなし	“やきもの”の原料である粘土はどのように生まれ、地表のどこにあるのか。ここでは、やきもの原料について学んでゆく。
第6回	白瓷のはじまり	人々の白い焼物を望む声は強く、遠く殷時代にはすでに白陶として無釉の白い焼物が作られる。
第7回	定窯の白瓷	【定窯】は、唐代に始まり、宋代から金代に隆盛し、元代初期頃まで命脈を保つ、白瓷の焼造を専業とした中国を代表する名窯である。
第8回	天目茶碗	我が国茶の湯文化における天目茶碗は、中国点茶法導入期において重要な位置を占めている。天目と呼ばれる茶碗の形や釉色について学んで行く。
第9回	龍泉窯の青瓷	16世紀の大航海時代にあった世界中の港町からは、景德鎮の青花瓷と共に龍泉窯青瓷が例外なく出土するという。
第10回	景德鎮のやきもの	陶磁器に紋様を描くことが装飾の中心になると、景德鎮が世間で広く注目を浴び、以後景德鎮で創始された窯業技法が、全国の窯業生産に強い影響を与えることとなる。
第11回	大航海時代の青花（染付け）瓷器	景德鎮窯では、明代後期から清代初期に青花瓷や赤絵が作られた。貿易陶磁として日本や朝鮮・東南アジア諸国にもたらされた。
第12回	意匠と年代	先進文化と共に中国から輸入された陶磁器は、各国で常に倣製の対象となっていた。倣製から始まるやきもの文化の、なかでも意匠について学んでゆく。
第13回	鑑賞とたのしみ	美術館・博物館での見学等、やきもの鑑賞の楽しみの数々を紹介する
第14回	中国の陶磁器まとめ	この講義のまとめと学びの確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に印刷テキストを配布する。他に、逐次印刷物を配布するので、該当箇所を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

本講義用のプリントを配布する。

【参考書】

佐藤雅彦『中国陶磁史』平凡社 1978 年

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を実施する。
期末試験 (75%)、平常点・その他提出物 (25%) を合計し評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

考古学・中国陶磁史・陶芸に興味をもつ学生の受講を歓迎する。
本講義用ノートを準備して、細かく筆記することを求める。
「実務経験のある教員による授業」
陶磁成形・釉調合・窯技術など陶芸全般の実務経験がある。
学生各人の実技経験に応じ、やきものを身近に感じられるように指導を行う。

【Outline and objectives】

This lecture is about history of Chinese ceramics.
In China which was an Asian large country, art, culture prospered early.
And it was continued affecting the neighboring areas. We learn about the history and the molding beauty of various production of porcelain.

HIS200BE

東洋史特講Ⅲ

小澤 一郎

授業コード：A3218 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、近世以降のイラン史を扱います。イランについては、ペルセポリスに代表される古代遺跡や絨毯など、長い歴史と文化的伝統が注目を集める一方、メディアなどではイスラーム共和制という特異な政治体制や反米的外交姿勢が強調され、明確なイメージを描くのが難しい現状があります。この授業では、サファヴィー朝 (1500-1722) からイスラーム革命勃発に至るまでのイランの歴史を、主に近代にあたるガージャール朝 (1798-1925) に力点を置き、イランを語るうえで不可欠の要素であるイスラームにも目を配りながら学んでいきます。

【到達目標】

この授業によって、高校の世界史レベルでは断片的な情報しか得られないイランの歴史について、一つの明確な像を描けるようになることを目指します。これは現代のイランや中東地域を理解する助けになります。欧米中心の見方を取り越え、現地の視点からイランの歴史を見ることができるようになることを目指します。このことはイランだけでなく日本を含めた他地域の歴史を見直すうえでも大きな力となります。イランを語るうえで不可欠なイスラーム・シーア派に関する知識を深め、イスラームに関する理解を広げ、深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イランの自然・人文地理	授業の進め方を説明したのち、イラン高原を中心とする地域の自然・人文地理を概説する。
第 2 回	前提①シーア派の成立	イランで現在多数派となっているイスラームの宗派シーア派についてその成り立ちと特徴を抑える。
第 3 回	前提②トルコ・モンゴルの侵入と定着	近世以降のイランの歴史を形作る基礎となったトルコ・モンゴル系の人々の侵入と、王朝建設による定着を概説する。
第 4 回	サファヴィー朝①	サファヴィー朝の成立と、初期の国家体制に内在した問題点について扱う。
第 5 回	サファヴィー朝②	サファヴィー朝中期のアッバース 1 世による国家体制の改革とその意義・問題点を考える。
第 6 回	18 世紀のイラン	サファヴィー朝滅亡後、「地方の時代」とも評価される 18 世紀のイランについて扱う。
第 7 回	ガージャール朝①	ガージャール朝の前半期について、その国家体制の問題点、列強との関係などを扱う。
第 8 回	ガージャール朝②	ガージャール朝の後半期について、西欧型知識人の登場と国家体制改革の試みについて扱う。
第 9 回	ガージャール朝③	ガージャール朝におけるイスラームについて、イスラーム知識人のあり方や国家との関係などから学ぶ。
第 10 回	ガージャール朝④	ガージャール朝後半期におけるイギリス・ロシアのイランへの進出と、それに対する抵抗運動を扱う。
第 11 回	イラン立憲革命	イランの専制体制を終わらせ、憲法と議会をもたらした立憲革命について、その意義と問題点を考える。
第 12 回	20 世紀のイラン①	第 1 次大戦による混乱からパフラヴィー朝の前半期までの歴史的展開を概説する。
第 13 回	20 世紀のイラン②	パフラヴィー朝後半期からイスラーム革命勃発に至るまでの歴史的展開を概説する。
第 14 回	まとめ、試験	一連の授業を総括し、理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にプリントやノートを整理して論点をまとめ、疑問に思うところ、よく分からなかったところがあれば、次回の授業で質問できるようにまとめておいてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、パワーポイントと担当教員が作成したプリントを授業にて配布します。

【参考書】

永田雄三編『イラン・トルコ』（世界各国史 9・西アジア史 2）、山川出版社、2002。

吉村慎太郎『イラン現代史：従属と抵抗の 100 年』、有志舎、2011。
その他の参考書は授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出のリアクションペーパー（40%）、論述式試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to grasp the historical development of modern Iran. It covers the history of Iran since the Safavid era until the Islamic Revolution of 1979, with its focus on the Qajar era (1798-1925), making reference to such important topics as the modernization reforms attempted by the Qajar government, the Great Power's Iranian policies, and the role of the Twelver Shia Islam in the history. Students will not only learn deeply about the history of modern Iran but also develop their understanding about today's Iran based on historical knowledge.

HIS200BE

西洋史特講区

大和久 悌一郎

授業コード：A3219 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一次世界大戦期のイギリスを検討する。特に、前線のみでなく、銃後とされた国内の工場における動員について、社会史的観点から検討し、近代から現代への画期とされるこの時期の変化を、イギリス史の文脈に位置付けながら考察していきたい。史料としてはイギリス公文書館の政府関連資料および新聞や日記を利用する。

【到達目標】

イギリス近現代史の概説を把握することができる。また、第一次世界大戦についての知識を得るとともに、社会史、経済史、政治史、文化史それぞれのアプローチを整理することができる。またそれらを通して、現代における国家と社会との関係について、比較史的な議論を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回ごとにプリントを配布し、それに従って講義を進めていきます。また毎回ごとにリアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	イギリスの地理について
第 2 回	イギリス史概説①	産業と帝国
第 3 回	イギリス史概説②	二度の世界大戦と福祉国家
第 4 回	イギリス史概説③	サッチャー主義以後の政治とコモンスウェルス
第 5 回	第一次世界大戦概説	総力戦と銃後
第 6 回	イギリスにおける銃後の動員①	ロイド＝ジョージと経済政策
第 7 回	イギリスにおける銃後の動員②	大量生産と女性の労働
第 8 回	イギリスにおける銃後の動員③	賃金とストライキ
第 9 回	総力戦と社会①	労働と管理
第 10 回	総力戦と社会②	都市の変貌
第 11 回	総力戦と社会③	爆薬と医療
第 12 回	総力戦と社会④	家族とコミュニティの変容
第 13 回	まとめ	得たものと失ったもの
第 14 回	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にイギリス史の概説書を読んでおくこと。授業後はプリントの再読が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験40パーセント、平常点60パーセント。平常点には、リアクションペーパーの回答も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

Especially from 1960s, many historians try to analyze WWI in Britain, and one of topics is "home front", munitions factories and their workers and so on. And they discussed social change in Great War, or relationship between state intervention and social, economic, and political situation. So I will review and discuss these topics again, not only about social, economic, but also cultural aspects, with documents of the Ministry of Munitions and diaries, newspapers.

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験 I

小川 滋之

授業コード：A3420 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アジア、ヨーロッパ、オセアニアの寒帯から熱帯、乾燥帯など様々な地域の植生を取り上げ、その成因について気候や地質、地形などとの関係から考える。また植生分布は、その地域に見られる動物や人間などにも関わりがあるため、植生のみ話題ではなく、動物の形態や人間の生活や文化、習慣との関係についても扱う。

世界中には植物が見られない地域はほとんどなく、どの地域でも何かしらの植物が景観の一部に含まれる。ただ見ていけば“植物”で終わるが、それぞれ地域ごとに特徴がある。こうしたことから、たとえば旅行でどこかの地域を訪れた時に、どんな植物が分布するのか、なぜ、そこに分布しているのかを少しでも考えられるようになれば観光地など地域への理解も深まる。以上のように、植生地理学的な考え方を学ぶのがこの授業の目的である。

【到達目標】

- (1) 世界には様々な植生分布があることを理解すること。
- (2) その地域の気候、地質、地形などから植生分布を考えられるようになること、あるいは植生分布から気候、地質、地形などが考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

植生地理学を学ぶ上で重要な理論を、日本を含む各地域の植生分布の事例をもとに紹介する。授業は講義形式のみではなく、観察や実験を行う。必要に応じて意見を求めることやディスカッションを行う。毎回の授業の終わりには、内容に関連した課題の小レポートを作成してもらい、野外実習は、講義で紹介した植生分布を実際に観察し、現地でその成因についてディスカッションしてもらい、

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	植生地理学とはどのような分野なのか。
第 2 回	植生分布に影響を及ぼす要因	気候、地質、地形が植生分布に及ぼす要因を解説する。
第 3 回	アジアの植生① 極東ロシアと北海道の植生分布の関係	北海道の植生の成り立ちから北東アジアの植生分布について解説する。
第 4 回	アジアの植生② 朝鮮半島と本州の植生分布の関係	本州にみられる冷温帯林の特徴。世界的にも珍しいブナの純林が生まれた背景を解説する。
第 5 回	野外実習①	東京近郊の自然植生を野外で観察する。
第 6 回	野外実習②	植生分布を左右する要因を野外で観察する。
第 7 回	アジアの植生③ 屋久島	縄文杉の森林の成因を気候と花崗岩による地質から解説する。
第 8 回	アジアの植生④ 沖縄島	暖温帯と亜熱帯の常緑広葉樹林の違いと島嶼における植生分布の特徴を解説する。
第 9 回	アジアの植生⑤ 東南アジア	熱帯林の種類と特徴。フタバガキ科植物を中心に構成される森林の特徴を解説する。
第 10 回	ヨーロッパの植生① 北欧の植生	フィンランドとスコットランドの自然植生を事例に、北東アジアの植生分布との関係を解説する。
第 11 回	ヨーロッパの植生② 自然植生とガーデン文化の関係	イングリッシュガーデンを事例に、ガーデン文化が生まれた背景と構造的な特徴を解説する。
第 12 回	ヨーロッパの植生③ 西欧の植生	南フランス地中海沿岸地域の植生分布と観光地の景観を解説する。
第 13 回	ヨーロッパの植生④ 海洋島の植生	大西洋のガラパゴスといわれるスペイン領カナリア諸島の植生分布を解説する。
第 14 回	オセアニアの植生 ニュージーランド	脊梁山脈によって異なる植生景観と外来種問題。温帯多雨林と乾性低木林の特徴を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の最後に次回内容の予告をするため、その地域がどのような地域であるのか予習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用せず。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

地図帳があると役立つ。参考文献や資料は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + a（小レポートなど、50 点満点）で評価する。小レポートは、授業中にその回の内容に関わるテーマを出題して終了までに提出するという方法で行う。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業中に指示する。

【その他の重要事項】

オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。

野外実習①と②は、5 月中に 2 回連続で行う。

【Outline and objectives】

This class introduces basic thinking of vegetation geography. Objectives are to understand the following. (1) Factors affecting the distribution pattern of vegetation in polar, continental, temperate, tropical and dry climates of Asia, Europe and Oceania. (2) Relationship between vegetation, animal, human life and culture.

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験Ⅱ

小川 滋之

授業コード：A3421 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は土壌地理学に関わる内容を扱う。前半は土壌の性質や構造、生成という土壌の基礎を学び、世界中にみられる土壌の分布と成因について考える。後半は、野菜種子との関係、有機農業、アジアの伝統農業など、比較的身近な農業分野における土壌の特徴を事例に学ぶ。

土壌は、その地域の気候や地質、地形、植生などの影響を強く受けて成立したものであり、人間の生活や文化にも密接に関係しているといえる。しかし普段生活する中ではあまりなじみのない分野でもある。授業を通して、人間が生活する上で欠かせないものだとすることを理解できるようになることが目的である。

【到達目標】

- (1) 土壌の必要性について考えられるようになる
- (2) 土壌はすべて同じではなく様々な種類があることを理解する
- (3) 何気なく食する野菜が生まれた背景を土壌との関係から理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業の内容は、「土壌とは何か」、「土壌の分布」、「土壌と農業」、「野菜の地理学」の4部構成で解説する。

講義形式のみではなく、実際に観察や実験を行う。必要に応じて意見を求めることやディスカッションをしてもらう。野外実習は、授業で紹介した事例を実際に野外で観察や簡単な実験して、現地での要因について考えてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	土壌地理学とはどのような分野なのか。講義の内容と目標を紹介。
第2回	土壌とは何か①	土壌の性質と構造。
第3回	土壌とは何か②	土壌の生成。異なる生成段階の土壌を室内で観察。
第4回	土壌の分布①	世界にみられる土壌分布とその分類方法とは。
第5回	土壌の分布②	日本列島の高山帯から温帯地域にみられる土壌分布。
第6回	土壌の分布③	日本列島の亜熱帯地域にみられる土壌分布。
第7回	土壌と農業①	農地の土壌環境。土壌の状態を診断する方法とは。
第8回	土壌と農業②	土壌と野菜種子との関係。
第9回	土壌と農業③	土壌にやさしい有機農業とは。
第10回	野外実習①	土壌の性質と構成を野外で観察。
第11回	野外実習②	土壌の状態を野外で診断。
第12回	土壌と農業④	アジアの伝統農業とは。東南アジア山岳少数民族の事例から解説。
第13回	野菜の地理学①	野菜はどこから来たのか。野菜の伝播経路を探る方法とは。
第14回	野菜の地理学②	伝統野菜とはどのようにして生まれたのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業テーマに関連する項目や対象地域について調べておくこと。必要に応じて予習復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。毎回の授業で必要な資料を配布する。

【参考書】

適宜、授業中に参考文献や資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 点満点 + a（小レポート等、50 点満点）で評価する。小レポートは、毎回の内容に関わるテーマを講義中に出題して終了までに提出するという方法で行う。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題については次の授業で解説する。質問や要望については可能な限り対応する。

【学生が準備すべき機器他】

必要があれば授業内で指示する。

【その他の重要事項】

オフシアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する。
野外実習：11 月中旬に東京近郊で予定する。

【Outline and objectives】

This class introduces basic thinking of soil geography. Objectives are to understand the following. (1) Soil basics. (2) Soil distribution and factors influencing the soil pattern. (3) Relationship between agricultural soils and crops.

GEO200BF

気候・気象学及び実験 I

山口 隆子

授業コード：A3422 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習、小テストなどを適宜交えて講義を進行させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	気候学とは？	気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）
第 2 回	気候の表現方法	気候要素と気候因子について
第 3 回	気温	気温の日変化と地面の熱収支
第 4 回	気圧	気圧とは何か
第 5 回	風	風が吹く仕組み
第 6 回	雲と降水	雨が降る仕組み
第 7 回	日本の気候の特徴	4 つの気団と気圧配置（総観気候学）、気温、降水量、日照時間分布
第 8 回	日本の気候区分と気候誌	経験的気候区分と成因的気候区分
第 9 回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第 10 回	都市気候	ヒートアイランド現象
第 11 回	盆地の気候	盆地の気温と風
第 12 回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第 13 回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象
第 14 回	まとめ	春学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版、pp1 - 261。
 仁科淳司（2014）：『やさしい気候学 第3版』。古今書院、pp1 - 141。
 小倉義光（2016）：『一般気象学 第2版補訂版』。東京大学出版会、pp1 - 320。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験：70%、課題：30%

【学生の意見等からの気づき】

講義資料は講義後 1 週間、授業支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を授業支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を2年次で履修することが望ましい。なお、本科目「II」の受講にはその内容理解の点から、この「I」の履修を望む。さらに、本講義の受講生には予め1年生に開講されている「地学実験」（気候・気象）を履修していることが望ましい。なお、実験等があるため履修上限人数は64名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course.

GEO200BF

気候・気象学及び実験 II

山口 隆子

授業コード：A3423 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と世界の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気循環をはじめとした世界の気候を中心に学ぶことにより、地球温暖化などの今日的課題を理解出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習、小テストなどを適宜交えて講義を進行させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	大気大循環	大気大循環とは何か
第 2 回	世界の気圧分布と地上風系	大気大循環、偏西風
第 3 回	モンスーン	季節風
第 4 回	世界の海流	風成循環と熱塩循環
第 5 回	世界の気温分布	地球の放射収支から考える
第 6 回	世界の降水量分布	世界の水収支
第 7 回	世界の気候区分	ケッペンの気候区分
第 8 回	異常気象	エルニーニョとラニーニャを事例として
第 9 回	地球温暖化	地球温暖化の現状と今後
第 10 回	酸性雨	大気汚染
第 11 回	砂漠化	砂漠化の実態
第 12 回	気候変動	第四紀の気候変化
第 13 回	古気候	歴史時代以降の気候変化
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版、pp1 - 261。
 仁科淳司（2014）：『やさしい気候学 第3版』。古今書院、pp1 - 141。
 小倉義光（2016）：『一般気象学 第2版補訂版』。東京大学出版会、pp1 - 320。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験：70% 課題：30%

【学生の意見等からの気づき】

講義資料は講義後 1 週間、授業支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を授業支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を2年次で履修することが望ましい。本科目「I」を履修していることが望ましい。なお、実験等があるため履修上限人数は64名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course.

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験 I

小寺 浩二

授業コード：A3424 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

春学期授業/Spring・2単位

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline and objectives】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical basic knowledge about the ocean and inland water science" which is the important one field. I make domestic and abroad wide range the subject and acquire wide knowledge about a water problem in detail as an area problem.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な基礎知識の習得を目指す。地域・課題としては、国内外の広範囲を対象とし、具体的な水問題に関する幅広い知識を習得する。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識を身につけると同時に、水環境情報の検索・整理・解析の基礎能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎水文学としての水収支・水循環の視点から、水の性質がその場所の環境とどのように反応しその場所に則した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。また、水文地理学的視点に立った水環境情報の整理・解析・表現法についても指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の基礎	概要と授業計画 降水・浸透・流出・蒸発散の地域特性
第 2 回	河川の基礎	河川の水環境と調査法 水害・土砂災害と砂防・水資源の利用
第 3 回	湖沼の基礎	湖沼特性と集水域環境 湖沼の水収支・熱収支
第 4 回	地下水の基礎	水循環と地下水 地下水流動
第 5 回	雪氷の基礎	降雪・積雪・融雪現象
第 6 回	海洋の基礎	沿岸域・閉鎖性水域
第 7 回	研究・調査計画	具体的課題決定と準備
第 8 回	調査法の基礎と準備	現地調査準備
第 9 回	調査結果の整理と解析	調査記録簿・台帳・分布図
第 10 回	水質分析①	濾過・アルカリ度・COD
第 11 回	水質分析②	シリカ・主要溶存成分・TOC
第 12 回	分析結果の整理と解析	ヘキサ・トリリニアダイアグラム
第 13 回	様々な水質表現法	分布図の作成と解釈 土地利用変化と流出変化
第 14 回	調査結果の考察	GIS を用いた解析と考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。

【テキスト（教科書）】

・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』、東海大学出版会、211p、¥2,625。

・新井 正（1994）：『水環境調査の基礎』、古今書院、168p、¥2,625。

【参考書】

授業ごとに適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席・課題・試験の結果を総合して評価する。配点は、出席3割・課題4割・試験3割を原則とするが、授業中に実施する実験レポートや小テストを評価に加え、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

実験や実習に関する要望が多かったため、今年度は、適宜組み入れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。あわせて海洋陸水学および実験Ⅱ・自然地理学演習（2）・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験Ⅱ

小寺 浩二

授業コード：A3425 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、体系的な知識の習得と応用能力の育成を目指す。講義の対象としては、国内の具体的な課題を中心とする。

【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の研究課題の基礎的知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本分野における学習を深め、岩圏・水圏・気圏・生物圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水循環の過程における河川・湖沼などのあり方を、人間活動との関連を中心に、水収支・水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	海洋・陸水学の理論と応用	海洋・陸水学の基礎を踏まえて高度な理論と応用を理解する。
第2回	陸水学の理論と応用	陸水学全般の理論と応用を理解する
第3回	河川学の理論と応用	流域特性と流域 GIS 物質収支モデル
第4回	湖沼学の理論と応用	湖沼の分類・熱収支・集水域の物質収支
第5回	地下水学の理論と応用	水循環と地下水の挙動
第6回	雪氷学の理論と応用	降雪・積雪・融雪
第7回	海洋学の理論と応用	沿岸海域・閉鎖性水域
第8回	研究・調査計画	先行研究と地域特性
第9回	現地調査法	観測機材の補正・準備
第10回	現地調査結果整理解析	記録簿・台帳
第11回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度・EC・pH
第12回	水質分析②	メンブラン濾過・シリカ・TOC・全窒素・全燐
第13回	水質分析結果整理解析	シュティフダイアグラム・トリリニアダイアグラム
第14回	総合的な解析・考察	GISによる分布図と解析・考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。

【テキスト（教科書）】

・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』、東海大学出版会、211p、¥2,625

・新井 正（1994）：『水環境調査の基辞』、古今書院、168p、¥2,625。

【参考書】

授業ごとに、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の実験・課題・試験を総合して評価する。配点は、実験3割、課題4割、試験3割を原則とするが、各授業に関する実験レポートや小テストを行わない、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

地球規模や国外の事例よりも、国内の事例についての要望が強かったため、今年度は、国内の具体的な調査・研究事例を重点的に扱う。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。海洋陸水学および実験Ⅰの履修を前提とし、あわせて自然地理学演習（2）・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

1) 水循環に伴う物質循環

2) 人間活動に伴う水環境変化と保全

3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline and objectives】

When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical knowledge and upbringing of the application ability about the ocean and inland water science" which is the important one field. I do the domestic exercise in detail with the center as a target of a lecture.

HUG200BF

社会経済地理学（1）

小原 文明

授業コード：A3426 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は社会経済地理学の基礎的科目として開講するものです。本年度は都市における様々な問題を題材にして、都市の構造や変化、社会的側面などの諸相を考えていきます。具体的には、発生場所や時代、内容などの観点から多岐にわたる都市問題を分類し、その背景や要因を社会的・空間的観点から考えていきます。

【到達目標】

本講義を通じて、地理学の立場から都市に関わる基本的な概念を理解できるようにします。また、都市問題を考えることを通じて、都市に関わる様々な事象の関係性や因果関係を、地理的（＝空間的）な観点から捉える力を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。前述の通り、都市における様々な問題を題材にして、都市の構造や変化、社会的側面などの諸相を考えていきます。講義形式の授業であるため、担当者による話題提供が中心となりますが、講義内容に対して受講生自らの考えを表明することが大切であることから、授業中ならびに授業外でレポート課題を課すことがあります。授業外のレポート課題では、受講生自身が調べ、分析・考察することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／都市の概念・成り立ち①	講義の方針・内容について／都市の概念・定義
第2回	都市の概念・成り立ち②	集落の成立
第3回	都市の概念・成り立ち③	都市の構造
第4回	都市問題①	都市問題の種類、発生場所
第5回	都市問題②	途上国の都市問題①
第6回	都市問題③	途上国の都市問題②
第7回	都市問題④	都心部の都市問題①
第8回	都市問題⑤	都心部の都市問題②
第9回	都市問題⑥	インナーシティの都市問題①
第10回	都市問題⑦	インナーシティの都市問題②
第11回	都市問題⑧	都市緑辺部の都市問題①
第12回	都市問題⑨	都市緑辺部の都市問題②
第13回	都市問題⑩	都市問題の時代的変遷
第14回	総括	まとめ・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示するレポート課題（授業内課題・授業外課題）に取り組んでもらいます。授業外のレポート課題では、実際に調査を行ってもらい、その上で分析・考察することを求めます。また、講義中に紹介する参考文献を積極的に読むことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

本講義に関連する参考文献は講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート課題・授業外課題等）：30％、筆記試験（持ち込み不可）：70％。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容は、できるかぎり各回で完結するよう心掛けていますが、受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。

【Outline and objectives】

This course introduces the urban structures and the urban problems to students taking this course.

The goals of this course are to understand causes and influences of urban problems and the basic geographical concepts, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

HUG200BF

社会経済地理学（2）

伊藤 達也

授業コード：A3427 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題にはローカルな問題、グローバルな問題が存在します。本講義ではローカルな環境問題（地域環境問題）、具体的にはゴミ問題等を取り上げます。その上で政治・行政に求められる役割、市民運動の活性化、企業の社会貢献について考え、最後に地域環境政策に求められる課題を考えます。

【到達目標】

環境問題に横たわる政治・経済・社会的要因の理解と、実際に活動する上でのリアリティの確保をめざし、実践的課題への取り組みの第一歩を踏み出すことを目標とします。テーマは「環境問題を考えることのできる市民意識の育成」です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。テーマに関連したDVD、PPT等視聴覚教材を使用して問題に関する理解を深めます。授業内容の理解度を把握するために、毎回、授業の意見・感想用紙を提出してもらい、重要と思える意見・質問については次回の講義で紹介し、説明を加えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	講義内容の説明
第2回	ローカルな環境問題、グローバルな環境問題	ゴミの定義
第3回	ゴミ問題とはなにか（1）	ゴミ問題の内容（1）
第4回	ゴミ問題とはなにか（2）	ゴミの増加
第5回	ゴミ問題とはなにか（3）	ゴミ処理施設の立地問題
第6回	リサイクル活動の意義と限界（1）	リサイクルの意義
第7回	リサイクル活動の意義と限界（2）	リサイクル活動の問題点
第8回	リサイクル活動の意義と限界（3）	リサイクルの限界
第9回	PPTによる事例紹介	事例紹介
第10回	政治・行政の役割（1）	政策の展開
第11回	政治・行政の役割（2）	海外の政策との比較
第12回	市民運動の活性化	消費者とゴミ問題
第13回	企業の社会貢献	市場の境界と企業の役割
第14回	まとめ	改めて環境問題を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前の準備としては、より積極的に環境問題の文献を読み、授業内容に関する知識の深化に努める。授業後の行為としては、より実践的に現実問題に近づき、関わることによって、授業内容を机上の空論とせず、現実問題の中で考えることができるようにする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

外川健一（2017）『資源政策と環境政策』原書房
杉本裕明（2015）『ルポにつぼんのごみ』岩波新書
中藤康俊・松原 宏編（2012）『現代日本の資源問題』古今書院
杉本裕明・服部美佐子（2009）『ゴミ分別の異常な世界』幻冬舎新書
植田 敦（2005）『環境保護運動はどこが間違っているのか?』宝島社新書
加藤尚武（2005）『新・環境倫理学のすすめ』丸善
高月 紘（2004）『ゴミ問題とライフスタイル』日本評論社
鬼頭秀一（1996）『自然保護を問いなおす－環境倫理とネットワーク－』ちくま新書

【成績評価の方法と基準】

定期試験で100％評価を行います。試験では講義内容の理解の程度を問います。

【学生の意見等からの気づき】

よりテンポよくわかりやすい授業を目指します。学生には積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

半期の講義の中で1～2度、DVD・ビデオ・PPT等視聴覚教材を使用する予定です。

【Outline and objectives】

A local problem and a global problem exist in an environmental issue. I deal with a local environmental issue, specifically trash problems in this lecture. And I think about the role of the politics and the administration, civic movement and a community service of an enterprise and consider the problem asked from environmental policy in the end.

HUG200BF

社会経済地理学（3）

片岡 義晴

授業コード：A3428 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「山村」を対象にして、その問題点を多面的に学びます。

【到達目標】

山村の特色、山村政策・対策、集落の現在、山村の産業、地域づくり、などに焦点を当て、現段階の「山村」が抱える問題点について多面的に学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

かつて「過疎化」が進む代表的な場所として「山村」はとらえられてきました。一時期、過疎化は緩和されたと思われましたが、近年再び過疎化は進み、「限界集落」という用語も使われ、それに加えて「地方消滅」の議論すら登場するようになりました。過疎化の進展と近年の動向、産業（林業、農業）の動向、集落の機能と役割、地域づくりの展開等を検討することを通して、現代山村が抱える問題点について明らかにしていきます。「限界集落」「地方消滅」等の流行の用語についても検討を加えます。

【授業の方法】

講義形式で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本の山村の現局面(1)	「山村」の概念と山村問題の地域性
第2回	日本の山村の現局面(2)	山村問題の構造（都市資本・政策、山村内部の関連性）
第3回	過疎化の進展と山村振興策(1)	過疎化の進展過程 山村問題の構造（都市資本、政策、山村内部）
第4回	日本の山村の現局面(3) 過疎化の進展と山村振興策(2)	山村振興法、過疎法
第5回	限界集落・消滅集落(1)	限界集落のとらえ方、集落の機能
第6回	限界集落・消滅集落(2)	山村の「空洞化」と「限界集落」論の問題点
第7回	「平成の大合併」と山村	大合併の要因と山村の危機
第8回	山村の産業(1)	日本林業の動向
第9回	山村の産業(2)	環境問題への注目と林業振興策
第10回	山村の産業(3)	中山間地域農業の現状
第11回	山村の産業(4)	中山間地域等直接支払制度
第12回	地域づくり(1)	山村堰堤論（静岡県龍山村森林組合の事例）
第13回	地域づくり(2)	自分たちで命を守ろうとした村（岩手県旧沢内村の事例）
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「地方」に関する報道に注視して下さい。「地方」に関するニュースは、東京近郊に居住していると、新聞ではその「片隅」にしか見いだせません。また、報道されても極めて「牧歌的」に語られるか、あるいは危機窮まっているかのような極端なものが多いのも事実です。それらの真偽のほどは如何に、と考えながら情報収集して下さい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。プリントを配布します。

【参考書】

小田切徳美（2009）『農山村再生－「限界集落」問題を越えて－』岩波書店（岩波ブックレット）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述式試験）100%で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「山村問題」の解決策を提示することを、この授業ではめざしません。授業に対して「批判ばかりしている」という評価もしばしば受けます。しかし「客観的事実」を把握し、そのメカニズムを考えることから出発しない限り、真の意味での「解決策」にはなり得ないはず。 「安易」な解決策こそが、百害あって一利なしの、問題をより一層複雑化させている要因です。授業で「解決策」を示せるくらいなら、少なくとも日本からは、地域・社会問題など一掃されているはず。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline and objectives】

Rural Problems in Japan.

GEO300BF

地理情報システム（GIS）I

中山 大地

授業コード：A3471 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型 GIS である ArcGIS を用いて、GIS の基本的な操作方法を習得することを目標とする。本講義ではさまざまな GIS データを用いて、ベクタ型・ラスター型データの基本的な分析方法を学ぶ。

【到達目標】

GIS を用いてベースマップやコロプレスマップが作成できるようになることが本授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

20 分程度の説明と 70 分程度の実習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ArcGIS の基本的な操作 1	GIS の概念と構成、空間データの視覚化
第 2 回	ArcGIS の基本的な操作 2	地図と GIS、空間データの構造、地図の投影法、地形表現
第 3 回	属性テーブル入門 1	属性テーブルの概念、基本的な操作
第 4 回	属性テーブル入門 2	属性検索
第 5 回	属性テーブル入門 3	属性結合
第 6 回	ネット上のデータの利用 1	センサスデータのダウンロードとコロプレスマップの作成
第 7 回	ネット上のデータの利用 2	センサスデータのマージ
第 8 回	ネット上のデータの利用 3	国土数値情報を用いた地図の作製、座標系の変換
第 9 回	数値地図の利用 1	数値地図のインポート、座標系の変換
第 10 回	位置情報の取得と表示 1	経緯度座標からの XY データ作成
第 11 回	位置情報の取得と表示 2	アドレスマッチングによる XY データの作成
第 12 回	人口分布の推定 1	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 13 回	人口分布の推定 2	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 14 回	レポートの作成	レポートとして GIS 操作マニュアルを作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅で ArcGIS を用いるのは難しいが、興味のある学生はフリーの GIS である QuantumGIS を試してほしい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わないが、参考書に挙げる文献が役立つ。

【参考書】

野上ほか (2001) 『地理情報学入門』、古今書院。
 佐土原ほか (2005) 『図解!ArcGIS 一身近な事例で学ぼう』、古今書院。
 高橋ほか (2005) 『事例で学ぶ GIS と地域分析— ArcGIS を用いて』、古今書院。
 村井ほか (2005) 『GIS 実習マニュアル ArcGIS 版』、日本測量協会。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (80%)、平常点 (20%) で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率 70% 以下の学生に対しては成績をつけない。レポートは ArcGIS の操作マニュアルの作成である。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。

【その他の重要事項】

ArcGIS は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には選抜を行いグループで受講してもらう。受講を許可されたにもかかわらず授業に出てこない学生が毎年いる。他の学生に迷惑をかけないよう、選抜されたという意識を持って授業に臨むこと。遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけた授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn the principles and basic techniques of Geographic Information Systems (GIS) using ArcGIS.

GEO300BF

地理情報システム（GIS）Ⅱ

中山 大地

授業コード：A3472 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デスクトップ型 GIS である ArcGIS を用いて、GIS の応用的な分析手法を学ぶ。

【到達目標】

ArcGIS を用いた分析能力を習得し、課題を解決するために自らデータを収集・作成し、分析し、結論を導き出せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

数名でグループを作り、PBL (Problem Based Learning) を行う。グループごとにある地域の災害避難場所を仮定し、GIS を用いてその避難所の設置プランを評価することが課題である。3 回目の実習終了時にグループごとの計画書を提出する。それ以降は必要なテクニックを教授しながらグループワークを行う。グループワーク時には毎回作業報告を作成し、レポートとして最終報告書を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 1	加重コスト距離を用いた空間分割と避難圏の分析
第 2 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 2	ジオプロセッシングを持ちいた避難圏の人口推定
第 3 回	グループワーク計画書の作成	グループの作業方針を決定
第 4 回	グループワーク 1	災害弱者の定義、避難所選定方針の決定
第 5 回	グループワーク 2	必要なデータの入手 1（位置情報を取得することにより、避難所データを入力・作成する）
第 6 回	グループワーク 3	必要なデータの入手 2（属性結合による人口データの作成）
第 7 回	グループワーク 4	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 1（ベクトルデータからラスターデータへの変換、空間分割）
第 8 回	グループワーク 5	ジオプロセッシング・面積按分を用いた災害弱者数の推定
第 9 回	グループワーク 6	結果の検討 1（避難所・避難圏の評価）
第 10 回	グループワーク 7	キャッチアップ
第 11 回	グループワーク 8	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 2（別シナリオによる作業）
第 12 回	グループワーク 9	結果の検討 2（避難所・避難圏の再評価）
第 13 回	グループワーク 10	レポート作成 1（結果の地図化など）
第 14 回	グループワーク 11	レポート作成 2（結果の考察など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅で ArcGIS を用いるのは難しいが、興味のある学生はフリーの GIS である QuantumGIS を試してほしい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。適宜プリントを配付する。

【参考書】

参考書については地理情報システム (GIS)Ⅱを参照すること。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 1 回（最終報告書、100 点満点）で成績を決める。講義は出席するのが前提であるため、出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室を使用する。

【その他の重要事項】

ArcGIS は使用可能台数が限られているため、受講希望者が多数の場合には選抜を行いグループで受講してもらう。受講を許可されたにもかかわらず授業に出てこない学生が毎年いる。他の学生に迷惑をかけないよう、選抜されたという意識を持って授業に臨むこと。遅刻はグループのメンバーに迷惑をかける授業の進行に支障をきたすため厳禁である。10分以上の遅刻2回で欠席1回とするから注意すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn application of Geographic information Systems using active learning (PBL and group work) using ArcGIS.

HUG200BF

社会経済地理学（4）（エコツーリズム）

呉羽 正昭

授業コード：A3481 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光地理学を理解するために必要な諸概念（観光・ツーリズムの概念や構造など）、さまざまな地域スケールでツーリズムに関する特徴について詳説します。加えて、エコツーリズムやそれを包含する自然ツーリズムの時間的・地域的展開みられる諸特徴と問題点、将来の課題について、具体的な地域事例を示しながら解説します。

【到達目標】

この授業は、観光の概念および観光地理学の方法論を習得すること、自然環境と観光・ツーリズムとの関係について、新しいツーリズムの形態であるエコツーリズムについて、日本における自然ツーリズムの地域的特徴について理解することを目標とします。ツーリズムやさらにそれを取り巻く生活・文化に関する地域的特色の理解を通じて、広い視野で現代社会を主体的に考察する視点を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。準備学習のまとも使用するとともに、講義内容に関する意見・質問も記入してもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	観光の概念 —観光やツーリズムとは何か？	観光やツーリズムとは何かを解説します
第2回	観光・ツーリズムの構造 —観光・ツーリズムの要素と構造	観光の要素や構造を解説します
第3回	観光地理学の概念 —概念および方法論	観光地理学の概念および方法論を解説します
第4回	観光地域の変容プロセス —モデルの解説	モデルに基づいて観光地域の変容プロセスを解説します
第5回	観光・ツーリズムの変遷 —古代～マスツーリズム時代～新しいツーリズムの出現	ツーリズムの変遷について解説します
第6回	自然環境と観光・ツーリズム —自然環境と観光・ツーリズムとの関係とその変遷	自然環境と観光・ツーリズムとの関係について解説します
第7回	エコツーリズムの定義 —エコツーリズムとは何か？	エコツーリズムとは何かを解説します
第8回	エコツーリズムの発展 —エコツーリズムの発展プロセス	エコツーリズムの発展プロセスを解説します
第9回	エコツーリズムの特徴と展望 —西表島や屋久島などにおけるエコツーリズム	西表島や屋久島などの事例をもとにエコツーリズムの特徴や課題を解説します
第10回	ジオツーリズムの特徴と展望 —ヨーロッパアルプスのジオツーリズム	エコツーリズムに類似する点の多いジオツーリズムに関して、ヨーロッパアルプスの事例をもとに解説します
第11回	日本の自然ツーリズム (1) —避暑の地域的展開	避暑の地域的展開に関して解説します
第12回	日本の自然ツーリズム (2) —湯治・温泉ツーリズムの地域的展開	湯治・温泉ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第13回	日本の自然ツーリズム (3) —リゾートの地域的展開	リゾートの地域的展開に関して解説します
第14回	日本のルーラル・ツーリズム —ルーラル・ツーリズムの地域的展開	ルーラル・ツーリズムの地域的展開に関して解説します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に教員から示された次回講義のトピックに関する課題について、授業外に文献やインターネットなどで自ら調べます。その内容は次回講義の最初にリアクションペーパーにまとめます。講義後、リアクションペーパー記載内容が講義説明の中でどのように位置づけられるのかなどを自己確認します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】

岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣。
 溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房。
 (財)日本交通公社編 2004『観光読本第2版』東洋経済新報社。
 真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社。
 ビアス、D. 著、内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店。
 江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版。
 矢ヶ崎典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018『グローバリゼーション 縮小する世界』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを期末試験（全体の60%）で評価します。また、毎時間提出してもらうリアクションペーパーの記載内容を評価して平常点（同40%）とします。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

【Outline and objectives】

Instructor will explain various concepts necessary for understanding geography of tourism (concepts and structures of tourism and sightseeing, etc.) and features related to tourism on various regional scales. In addition, the instructor will explain various features, problems and future challenges of ecotourism and nature-based tourism that encompasses it, while showing specific regional examples.

HUG200BF

文化地理学（1）

中俣 均

授業コード：A3482 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

春学期授業/Spring・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(人文) 地理学の主流である文化地理学について、古典的・基本的な知識や概念、方法を、学説史の中に適切に位置付けながら、解説する。

【到達目標】

(人文) 地理学の主流である文化地理学について、古典的・基本的な知識や概念、方法を学ぶこと、とくに C.O.Sauer および Berkeley School の文化地理学の内容を理解することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

20世紀前半に隆盛をみた C.O.Sauer を学祖とするパークレイ学派の文化地理学を中心に講義し、併せて日本における文化地理学の発生やその伝統についても触れる。毎回、講義内容に関連する資料をプリント教材にして配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の全体像の提示
第2回	近代地理学の発生	文化地理学成立の背景
第3回	C.Sauer の文化景観論	文化景観形成モデルについて
第4回	C.Sauer の地理学—文化伝播について	農耕起源論など
第5回	文化地理学の五つのテーマ	文化地理学研究の手順
第6回	Sauer と Berkeley 学派	文化生態学の成立
第7回	文化生態学のモノグラフ	奄美諸島における「サトウキビ栽培と住民生活
第8回	照葉樹林文化論	日本版の文化生態学
第9回	日本列島の文化史(1)	先史時代の景観形成プロセス
第10回	日本列島の文化史(2)	水田稲作農耕の進展
第11回	日本列島の文化史(3)	米を基軸にした社会の展開と景観
第12回	日本列島の文化史(4)	高度成長期以降の社会変化と景観
第13回	Sauer の文化概念の問題点	素朴実証主義への批判
第14回	沖縄八重山のマラリア問題について	千葉徳爾の文化生態学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらにA-4サイズのペーパーファイルを1冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】

◎中俣均編著(2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥3980。
 ◎高橋伸夫編著(1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）¥2575。
 ◎中川正/森正人/神田孝治(2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）¥2520。
 また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】

原則として学期末の筆記試験（紙媒体なら持ち込み可能）の結果（100%）により成績を評価する。なお、ここ数年、出席率が必ずしも芳しくなく単位取得者は登録者のうち約70%（昨年までは80%と書いていたものだった！）にとどまっている。継続的に授業に出席しなければ単位取得は覚えないと心得てほしい。

【学生の意見等からの気づき】

1限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of classic Cultural Geography.

HUG200BF

文化地理学（2）

中俣 均

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金 1/Fri.1
 秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（人文）地理学の主流である文化地理学について、古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野の最新の知識や概念、方法を解説する。したがって、春学期の文化地理学（1）と内容的に深い関連をもつので、文化地理学（1）の履修を前提として講義を進める。

【到達目標】

（人文）地理学の主流である文化地理学について、古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野での最新の知識や概念、方法を学ぶことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の講義を踏まえながら、1980年代から顕著になってきた新しい「景観」概念と、いわゆる Cultural Turn(文化論的転回)を経た「新しい文化地理学」について紹介し、同時にそれらの具体的研究成果の意味なども探ってみたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	春学期の復習と補足
第2回	Berkeley 学派の文化概念とその批判	素朴実証主義への批判
第3回	景観概念の再考・拡張・変化	景観の客観性への懐疑
第4回	主観の地理学(1)	E.Relph と Yi-Fu.Tuan
第5回	主観の地理学(2)	人文主義地理学
第6回	風水論(1)	景観創造の主観の解説
第7回	風水論(2)	日本の古代宮都の立地原理
第8回	風水論(3)	現代に生きる風水
第9回	場所イメージ論	共同主観の形成過程
第10回	文化概念の再考	構築主義へ
第11回	競われる空間の意味	空間の意味の争奪戦
第12回	伝統文化の創造	Invented Tradition という考え方について
第13回	景観のイデオロギー性	民族・ジェンダー
第14回	新しい文化地理学	社会理論への接近

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらにA-4サイズのペーパーファイルを1冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】

◎中俣均編著(2011)：『空間の文化地理』(朝倉書店)¥3980。
 ◎高橋伸夫編著(1995)：『文化地理学入門』(東洋書林) ¥2575。
 ◎中川正/森正人/神田孝治(2006)：『文化地理学ガイダンス』(ナカニシヤ出版) ¥2520。
 また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】

原則として学期末の筆記試験（紙媒体なら持ち込み可能）の結果（100%）により成績を評価する。なお、ここ数年、出席率が必ずしも芳しくなく単位取得者は登録者のうち約70%（昨年度までは80%と書いていたものだった！）にとどまっている。継続的に授業に出席しなければ単位取得は覚束ないと心得てほしい。

【学生の意見等からの気づき】

1限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【その他の重要事項】

できるだけ文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of contemporary Cultural Geography.

PSY200BG

発達心理学

渡辺 弥生

授業コード：A3622 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質のおよび量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

【到達目標】

心の発達についておおまかにでも各時期における発達の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで討論したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実際に活かすことができるようになることを目標とする。

- (1) 人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
- (2) 人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
- (3) 生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるようにビデオやDVDなどの視聴覚教材を適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。アクティブラーニングをできるだけ取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	発達ということ	発達理論の枠組みの理解 「発達」が意味することや、研究方法、さらには、主要な理論の存在について認識する。
第2回	胎児の発達	お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期に起きている神秘ともいえる変化について理解する。
第3回	感覚・知覚の発達	見える世界、聞こえる世界の理解：感覚や知覚が年齢とともにどのように変化するのかを理解する。
第4回	感情の発達	泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？ ：当たり前と考えていたことが、実は明確でないことや、感情のメカニズムについて知る。
第5回	認知の発達	考えることの発達：考えるということの意味や、認知と感情、行動の関係について学ぶ。
第6回	言語の発達	ことばを覚える、ことばを使う：言葉の獲得や言葉の使用など、言葉の発達の様々な側面を理解する。
第7回	親子関係の発達	「ひとりでも泣かないよ」 乳幼児期の親子関係をを中心に、基本的な理論を習得する。
第8回	友人関係の発達	友人関係を築き維持すること：友人関係を築くこと、維持することなど、また、友人関係のトラブルへの対応などについて学ぶ。
第9回	知能の発達	頭が良いとはどういうこと？ 知能の概念や、それをどのように測定するかという点について理解する。
第10回	意欲・動機づけの発達	やる気メカニズム：勉強嫌いや、無気力になってしまう原因などを考え、意欲的に学習するためのメカニズムを知る。
第11回	自我の発達	一生継続「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。

発行日：2019/5/1

- 第12回 性役割の発達 ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物学的な違いなのか後天的な違いなのか、いくつかの研究から考えてみる。
- 第13回 道徳性の発達 善悪の判断はどのように育つ？：道徳的な人とそうでない人は、発達の違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。
- 第14回 発達障害の理解 発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確にしておく。わからないことは授業で質問するようにし、授業後は復習する。復習したことが理解されているかを確認するため、授業の最初に前の時間のレヴューや質問に答えるようにするが、専門用語などについてまとめるようにする。

【テキスト（教科書）】

『図で理解する発達－新しい発達心理学への招待』、川島一夫・渡辺弥生 編著（福村出版）

【参考書】

『子どもの「10歳の壁」とは何か？－乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（光文社）
『発達心理学（シリーズ 心理学と仕事）』二宮克美・渡辺弥生編著（北大路書房）
『まんがでわかる発達心理学（仮）』（5月刊行予定）渡辺弥生監修（講談社）

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーの内容（50%）、学期末の筆記試験（50%）。リアクションペーパーは出席の代わりでないで白紙や授業に関係のない記述は減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の予習および復習ができるような課題を考える。

【学生が準備すべき機器他】

テキストを持参すること。授業支援システムに入ること。

【その他の重要事項】

授業支援システムに登録すること。

【発達心理学】

<https://sites.google.com/site/emywata/Home>

【Outline and objectives】

From the viewpoint of lifelong development, including from infancy to elderly, we will attempt to understand the flow of research to date and research questions that have been previously clarified. We will aim to consider how to contribute to society by the researches.

CUA200BA

民俗学 I

山本 志乃

授業コード：A3809 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

春学期授業/Spring・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「民俗」とは、ある地域社会や民族社会のなかで、そこで生活する人々によって長く育まれ、伝承されてきた生活文化、思考様式のことである。民俗学は、そうした人々の記憶や行動の中に刻印された「文字化されにくい歴史」を、主にフィールドワークという手法を用いて掘り起こし、記録することを目的としている。日本の民俗社会は、とくに戦後の高度経済成長期を経て大きく変質し、かつて伝承されてきた習慣や風習なども変化を余儀なくされている。この授業では、日本人が培ってきた時間認識や空間認識、ことばと身体が織り成す豊かな伝承世界が民俗社会において果たしてきた役割などについて、自らの身近な生活や体験に照らし合わせながら、主体的に考え、発見することをめざす。

【到達目標】

この授業では、日本の民俗文化の特徴を、身近な具体例から実態的に理解することを目的とする。とくに高度経済成長期における生活文化の変遷に着目し、その背景となる社会変化をとらえる。また民俗学の主たる研究方法であるフィールドワークについて、その方法と意義を学ぶ。そして、日本文化の多様性を理解し、日本の地域社会の現状や国際社会との関係について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、必要に応じて受講者から意見を求める場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	民俗学への誘い①	「民俗学」の誕生と研究方法
第2回	民俗学への誘い②	先人の軌跡Ⅰ・南方熊楠と柳田国男
第3回	民俗学への誘い③	先人の軌跡Ⅱ・渋沢敬三と宮本常一
第4回	住まう	住居の地域性と空間認識の特徴
第5回	食べる	高度経済成長期以前の食生活
第6回	祭る	年中行事とその意味
第7回	祀る	社寺の成り立ちとその原点
第8回	祈る	身近な言い伝えと祈願
第9回	語る	口承文芸の役割
第10回	うたう	民間芸能の担い手たち
第11回	あそぶ	娯楽と遊びの変遷と意味
第12回	商う	行商人の生活誌
第13回	身近な生活の記録	民俗文化財と地域博物館
第14回	総括	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に1回、簡単なフィールドワークとそれについてのレポート提出を課すので、指定する期日までに必ず提出すること（未提出者は履修放棄とみなします）。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、必要に応じて資料を配布する

【参考書】

『現代民俗学入門』佐野賢治他編、吉川弘文館、1996年
『講座日本の民俗学』全11巻、雄山閣、1996年
『日本民俗文化大系』全14巻、小学館、1985年
このほか、授業内容にあわせて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、レポート（25%）、平常点（15%）、さらに受講態度を加味して判断する

【学生の意見等からの気づき】

授業開始後の教室への出入りは、やむを得ない場合を除き、極力控えること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the understanding of the history of the common Japanese according to folklore research. This course introduces the study of nonwritten cultural materials (folk customs, public entertainments and traditional skills) in Japan.

CUA200BA

民俗学Ⅱ

山本 志乃

授業コード：A3810 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「民俗」とは、ある地域社会や民族社会のなかで、そこで生活する人々によって長く育まれ、伝承されてきた生活文化、思考様式のことである。その民俗の生成基盤である自然環境に着目し、日本人が自然環境とどのように関わってきたのかを、生業と信仰の両面から考える。これらは、人が自然に向かい合い、技術を駆使し、ことばを練り上げて思想へと高めていく「生きていく方法」としての民俗であり、現代的な課題でもある地域文化の再生にいかに関与しうるのか、その可能性をあわせて考える。授業は「民俗学Ⅰ」を履修していることを前提に進める。受講者には学期内の前半にレポート提出を課し、後半は提出されたレポートをもとに発表形式を取り入れながら進める。各自が問題意識を持って主体的に取り組むことを期待する。

【到達目標】

この授業では、春学期でとらえた民俗社会の基本事象をふまえ、日本社会の地域性と多様性について、具体的な事例から理解を深めることを目的とする。まず地域ごとに異なる自然環境に適応した複合生業の具体像を理解し、そのうえで、地域社会で培われてきた伝説・伝承をとおして、地域文化の多様性を実態的に理解する。さらには、身近な生活の歴史を学ぶことの意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式だが、受講者には学期内の前半にレポート提出を課し、後半は提出されたレポートをもとに発表形式を取り入れながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	自然観の民俗	自然を知る
第2回	サトの暮らしと成り立ち①	稲作のムラ
第3回	サトの暮らしと成り立ち②	畑作のムラ
第4回	海付きのムラに生きる	百姓漁師と海女百姓
第5回	山に生きる	ヤマンドの世界
第6回	イチとマチ	物と人の交流
第7回	「聖地」の景観	神々の風景をよみとく
第8回	地域の伝説①	土地の成り立ち
第9回	地域の伝説②	旅する神々
第10回	地域の伝説③	川と水
第11回	地域の伝説④	語られる災害
第12回	地域の伝説⑤	怪異の世界
第13回	地域の伝説⑥	自然界の生き物
第14回	総括	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期内の前半に1回、レポートを提出する。レポート作成にあたっては、課題に従って各自で題材を設定し、参考文献を探して調べる（期限内にレポート未提出の場合は履修放棄とみなす）。作成したレポートに基づき、学期の後半で簡単な口頭発表をする場合がある。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、必要に応じて資料を配布する

【参考書】

『日本の民俗』全13巻、吉川弘文館、2008年
『講座日本の民俗学』全11巻、雄山閣、1996年
『神と自然の景観論』野本寛一、講談社学術文庫、2006年
このほか、授業内容にあわせて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、レポート（25%）、平常点（15%）、さらに受講態度を加味して判断する

【学生の意見等からの気づき】

授業開始後の教室への出入りは、やむを得ない場合を除いて極力控える。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the understanding of the history of the common Japanese according to folkloric research. This course introduces the study of nonwritten cultural materials (folk customs, public entertainments and traditional skills) in Japan.

HIS200BA

イスラム世界論Ⅰ

小澤 一郎

授業コード：A3811 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、世界のイスラムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、イスラムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラムという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。また、関連する時事問題についても解説を付していく。

【到達目標】

この授業は、イスラムという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラムという宗教、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせない、イスラム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラムの基礎的知識について、後半部では、そのイスラムが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて、政治史だけではなく、文化史にも焦点をあてながら解説する。授業は、パワーポイントと配布資料を用いた講義形式で行う。可能な限り画像資料を用い、「生の」イスラム世界を体感できる場としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「イスラム世界」とは何か？
第2回	聖典『クルアーン』の世界	『クルアーン』とアラビア語
第3回	イスラムの教義	六信五行など
第4回	イスラムの世界観	ユダヤ教、キリスト教、イスラムに共通する一神教的な世界観・宗教観
第5回	イスラムの伝播	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラム共同体の拡大
第6回	イスラム共同体の分裂	世襲王朝ウマイヤ朝成立の意義とイスラム共同体の変質
第7回	イスラム法の体系化	アッバース朝時代に確立した行政機構・法体系
第8回	イスラム神秘主義と聖者	イスラムの伝播に果たした神秘主義教団の役割
第9回	西方のイスラム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラム
第10回	イスラムとキリスト教世界	交易や十字軍を通しての接触
第11回	モンゴルとイスラム	アッバース朝の滅亡とその影響
第12回	20世紀のイスラム①	第1次世界大戦後の国際社会とイスラム
第13回	20世紀のイスラム②	第2次世界大戦後の国際社会とイスラム
第14回	総括	総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々出てきます。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介します）を参照しながら、各回の授業の復習に努めてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

佐藤次高『イスラム世界の興隆』中公文庫、2008
佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラム』講談社現代新書、1993
鈴木董編『バクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するコメントシート（40%）で評価する。試験は持ち込み可。イスラム世界に関する諸問題について、講義で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

イスラム世界の歴史だけでなく、社会や文化についても詳しく紹介する。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is three-fold: 1) to provide students with knowledge about the basics of Islam, such as the prophet Muhammad and Qur'an, the concept of God (Allah) in Islam, religious acts and law, etc.; 2) to learn the concise history of Islam, including Islam's rise and expansion, Islam in the pre-modern era and its relation with Europe, and Islam in the face of modern era; and 3) to understand Islam in the contemporary world, focusing such topics as the rise of Islamism, the activities of the "extremists," etc. Through this lecture, students will grasp various aspects of Islam, setting aside bias surrounding it.

HIS200BA

イスラム世界論Ⅱ

小澤 一郎

授業コード：A3812 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「イスラム世界論Ⅰ」では、イスラム世界の多様な在り方について解説するが、この授業では、イスラム世界の中でも特にイランを中心とする地域に焦点を当てる。1979年のイラン・イスラム革命以降、イスラム的価値観に基づく国家づくりを掲げ、国際的に孤立してきたイランであるが、その歴史や文化の実態についてはあまり知られていない。前近代において、イスラム文化は非アラブ圏においても、イラン地域を中心に独自の発展を遂げた。その影響は中央アジア、インド、トルコなど広範囲に及び、イスラムという宗教やその文化を考える上で看過できない重要な位置をしめる。この授業では、イスラム以前の在来文化と融合しながら発展してきたイラン地域固有のイスラムの在り方を提示し、アラブ世界に代表される一般的なイスラム認識を相対化することを目指す。その上で、現代のイランに関する諸問題を考えるための基礎的な知識を提供したい。

【到達目標】

この授業は、イランを中心とする地域の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラムという宗教、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、イランをはじめとする現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム諸国の中から、一般的なイスラム像ではなく、くくることのできない、イランの歴史を扱う。授業の前半部では、現代のイラン・イスラム共和国の社会と文化に関する基礎的知識について、後半部では、イランにおけるイスラムの受容から現代に至るまでの歴史について、政治史だけでなく、文化史にも焦点を当てながら解説する。授業は、パワーポイントと配布資料を用いた講義形式で行う。可能な限り画像資料を用い、「生の」イランという国やイラン人を体感できる場としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	イランに対するイメージ
第2回	イランとイラン人	イランにおける多様な民族と言語
第3回	シーア派とは何か？	イランの国教イスラム教シーア派
第4回	イランの暦と祝祭	イランに特有の暦と祝祭
第5回	ペルシア語とペルシア語文化圏	イランの国語ペルシア語
第6回	イラン高原のイスラム	イラン高原におけるイスラムの受容
第7回	イラン高原におけるトルコ人	トルコ系ムスリム諸王朝の支配
第8回	モンゴル帝国とイラン	モンゴル系イルハーン朝の支配
第9回	サファヴィー朝とイラン	シーア派の国教化
第10回	ガージャール朝	ガージャール朝時代のイラン社会と列強の進出
第11回	パフラヴィー朝	パフラヴィー朝時代のイラン社会と国際社会
第12回	イラン・イスラム革命	イラン革命が国際社会に与えたインパクト
第13回	現代のイラン	革命後のイランと国際社会
第14回	総括	総括、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジア・中央アジア地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々出てきます。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介します）を参照しながら、各回の授業の復習に努めてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

永田雄三編『西アジア史Ⅱ（イラン・トルコ）』山川出版社、2002
坂本勉・鈴木董編『イスラム復興はなるか』講談社現代新書、1993
その他、授業中に各テーマに適した参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するコメントシート（40%）で評価する。試験は持ち込み可。イランに関する諸問題について、授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

画像や映像を多用して、イランの社会や文化についても詳しく紹介する。

【その他の重要事項】

「イスラム世界論 II」は春学期に開講される「イスラム世界論 I」の内容を踏まえて解説するので、春学期と併せて受講することが望ましい。

【Outline and objectives】

This lecture deals with the culture, religion, and history of Iran, particularly focusing on the influences brought about, and the role played, by Islam. Students will understand the way how Islam and indigenous cultural and religious elements merged together to create the particular type of Islam in Iran, and relativize the ordinary image of Islam constructed based on the information from the Arab world. In addition, the biased image of Iran, with such labels as “theocracy” and “religious fanaticism,” will be revised based on adequate knowledge.

CAR200BA

現代のコモンセンス

福田 由紀、西塚 俊太、中沢 けい

授業コード：A3814 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会は日々ますます複雑化し、かつては考えられなかったような出来事や問題が頻繁に生じている。こうした中で、以前の常識や対処方法では通用しなくなっている事柄も数多い。この授業では、今まさに起こっている様々な事柄を取り上げ、そうした事柄をどのように判断・評価し、さらにどのようにそれに対処していくべきかについての指針を学ぶ。

この授業によって、受講生は、情報収集・選択力、資料批判力、状況判断・対応力、自己変革力、架橋・変革力、協同行動力など総じて就業力を身につけることとなる。

【到達目標】

- ①自分自身を顧み、改善できるようになる。
- ②対人関係を顧み、改善できるようになる。
- ③自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できるようになる。
- ④難しい行為選択について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑤社会の諸問題について考え、適切に対処できるようになる。
- ⑥国際化のなかで異文化について考え、適切に対処できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学内外から招いた講師による 60 分程度の講義・それに関する質疑・応答を行い、最後に課題テーマに関する小レポートを作成・提出する。学期末の授業時に全体のテーマに関する試験（レポート形式）を行う。なお、学外から招く講師の事情により、授業日程が変更される可能性がある。また、受講希望者数が過剰と判断された場合には選抜を行なうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当教員によるガイダンスと講義
第 2 回	対人問題（1）	KYと引きこもり
第 3 回	対人問題（2）	心の悩みとメンタルヘルス
第 4 回	社会と規範（1）	身近なハラスメントとDV問題
第 5 回	社会と規範（2）	職場と法令遵守
第 6 回	社会と規範（3）	職業モラルと社会人のマナー
第 7 回	実践と倫理（1）	医療と倫理的ジレンマ
第 8 回	実践と倫理（2）	正義と人権
第 9 回	実践と倫理（3）	メディアと倫理
第 10 回	社会と文化（1）	地域社会の現状と問題
第 11 回	社会と文化（2）	差別と社会
第 12 回	社会と文化（3）	異文化との共生
第 13 回	まとめ	議論の総括とディスカッション
第 14 回	授業内レポート	授業内レポートの執筆と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現代が抱えている様々な問題について考察・議論することになるので、新聞・雑誌・テレビ・インターネット等の各種メディアで報じられている社会事象のうち、各回のテーマに関わる事例に対して、これまで以上に注意を払う。また、その際に、単一のメディア情報に偏ることなく、複数のメディア情報から、一時的ではなく常々情報を収集し、評価・分析すると共に、冷静且つ客観的な判断を下す思考トレーニングを繰り返し行う。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①小レポート（10～15分程度でまとめるもの）（80%）
- ②学期末試験（レポート形式）（20%）

なお、4回以上授業に欠席した場合、あるいは授業に支障を生じると判断される言動等がある場合には、E評価とする。また、遅刻2回で1回欠席とする。

【学生の意見等からの気づき】

この授業を履修して良かった人の割合は76%でした。様々な専門分野からの話を「どう自分の生活や学習に役立てるのか？」そんな視点で授業を受けると、より得られるものが多いのではないのでしょうか。

【その他の重要事項】

- ①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。
 ②担当者が全授業に同席し、担当する。
 ③成績評価の仕方や授業進め方等について、初回の授業で説明をしますので、必ず初回の授業に出席してください。

【Outline and objectives】

コモンセンス

The purpose of this course is to learn various approaches trying to solve the problems our society faces today. A wide range of social issues will be covered, such as relationships with others, modern social norms, practical ethics, and multiple cultures. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding, by participating in group activities and by individual literature study.

PHL200BA

環境と倫理（1）／環境倫理学（1）／人間学1（環境倫理学）A

相原 博

授業コード：A3817,A3496,A2322,A2278 | 曜日・時限：金3/Fri.3

春学期授業/Spring・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、環境倫理学というテーマで行います。環境倫理学は、環境問題の発生にともない20世紀後半に成立した学問です。この環境倫理学は、人間による自然破壊および環境汚染をめぐる諸問題を扱います。この授業では、環境倫理学の諸理論の検討をとおして、私たちが21世紀にどのように生きるべきかについて学びます。環境倫理学は、人間が環境に対してどのように関係すべきか、この「あるべき」関係について研究する学問です。もともとこの学問は、人間の利益だけを考えて自然を支配する態度が環境問題を生み出したとして、人間を中心に据える自然利用のあり方を批判してきました。もっとも現在では、多種多様な環境問題の発生とともに、環境倫理学にも新たな展開がみられるようになってきました。春学期の授業では、家畜や実験動物への配慮、そして生物多様性の保護について議論する予定です。これらの議論をとおして、環境問題にかんする理解を深め、有限な地球環境にふさわしい人間の生き方について学びます。

【到達目標】

環境問題の現状を理解し、その問題を解決するためにどのように行為すればよいのか、判断できることを目標とします。また環境倫理学の諸理論を学び、倫理的な思考の基礎を身につけることも目標になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。またグループディスカッションを行うため、授業では自分自身で考え、発言することが必要です。さらに体験型の実習として自然観察会を行う予定です。受講希望者には、秋学期も引き続き受講することを勧めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介、倫理学の基礎	授業の概要と方法を説明する、倫理学とは何か
第2回	倫理学の基礎理論、功利主義および義務論	行為の善悪を決めるのは結果か、それとも動機か
第3回	環境倫理学の基礎	環境倫理学とは何か
第4回	環境倫理学の歴史	環境倫理学はどのような議論を展開してきたのか
第5回	グループディスカッション(1)	家畜や実験動物への配慮について、受講生と議論してみよう
第6回	グループディスカッション(1)のまとめ、動物解放論	人間は家畜や実験動物を配慮すべきか
第7回	動物の権利論	動物には権利があるのか
第8回	自然観察会（体験型実習）	都会の自然を観察する（詳細は初回の授業で説明）
第9回	動物解放論への批判、生命への畏敬	個々の動物を保護するだけでよいのか
第10回	自然への畏敬の念	人間が他の生物を殺して食べることをどう考えるか
第11回	グループディスカッション(2)	生物多様性の保護について、受講生と議論してみよう
第12回	グループディスカッション(2)のまとめ、土地倫理	なぜ生物多様性を保護しなければならないのか
第13回	ディーブ・エコロジー	地球環境と人間との関係をどのように考えるべきか
第14回	総括	授業の総括と残された課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に自ら関心を持ち、関連する参考書等を読んでおく必要があります。またグループディスカッションの前には、授業外で行うべき課題を指示します。なお課題を行っていない場合には、ディスカッションへの参加を認めません。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

環境倫理学の学習にとって、以下の書籍は重要です。
 加藤尚武編『環境と倫理 新版』、有斐閣アルマ、2005年

加藤尚武『環境倫理学のすすめ』、丸善ライブラリー、1991年
 加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善ライブラリー、2005年
 鬼頭秀一『自然保護を問いなおす』、ちくま新書、1996年
 なお個別のテーマについては、授業中に参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度および授業後のレポート 40 %、学期末試験 60 %を総合的に考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。

【Outline and objectives】

This course introduces you to environmental ethics. Environmental ethics is a discipline established in the second half of the 20th century along with occurrence of environmental issues. Environmental ethics deals with the problems of environmental pollution and destruction of nature by humans. In this course you will learn about how we should live on earth through examination of various theories of environmental ethics. In the 1970s, environmental philosophers recognized that control of nature by human beings had caused environmental problems, and criticized that humans had used nature considering only their interests. But now, related to various kinds of environmental problems, there are new arguments in environmental ethics. In this semester you will discuss with handling of livestock and experimental animals, with protection of biodiversity. Through discussions, you will understand environmental issues exactly and learn about human life adequate for a finite global environment.

PHL200BA

環境と倫理(2) / 環境倫理学(2) / 人間学1(環境倫理学) B

相原 博

授業コード：A3818,A3497,A2323,A2278 | 曜日・時限：金3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2単位

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

この授業は、環境倫理学というテーマで行います。環境倫理学は、環境問題の発生にともない20世紀後半に成立した学問です。この環境倫理学は、人間による自然破壊および環境汚染をめぐる諸問題を扱います。この授業では、環境倫理学の諸理論の検討をとおして、私たちが21世紀にどのように生きるべきかについて学びます。環境倫理学は、人間が環境に対してどのように関係すべきか、この「あるべき」関係について研究する学問です。もともとこの学問は、人間の利益だけを考慮して自然を支配する態度が環境問題を生み出したとして、人間を中心に据える自然利用のあり方を批判してきました。もっとも現在では、多種多様な環境問題の発生とともに、環境倫理学にも新たな展開がみられるようになってきました。秋学期の授業では、途上国への廃棄物の輸出、そして原子力発電の問題について議論する予定です。これらの議論をとおして、環境問題にかんする理解を深め、有限な地球環境にふさわしい人間の生き方について学びます。

【到達目標】

環境問題の現状を理解し、その問題を解決するためにどのように行為すればよいか、判断できることを目標とします。また環境倫理学の諸理論を学び、倫理的な思考の基礎を身につけることも目標になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。またグループディスカッションを行うため、授業では自分自身で考え、発言することが必要です。さらに体験型の実習として自然観察会を行う予定です。なお秋学期からの新規受講生については、レポートの提出を課題とします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介、環境倫理学の基礎	授業の概要と方法を説明する、環境倫理学とは何か
第2回	環境倫理学の展開	近年の環境倫理学はどのような議論をしているのか
第3回	環境プラグマティズム	環境倫理学は環境問題の解決に役立つのか
第4回	グループディスカッション(1)	廃棄物の輸出について、受講生と議論してみよう
第5回	グループディスカッション(1)のまとめ、環境正義論	廃棄物の輸出は正義にかなっているだろうか
第6回	里山の環境倫理	日本の自然をどう考えるべきか
第7回	自然観察会(体験型実習)	都会の自然を観察する(詳細は初回の授業で説明)
第8回	社会的リンク論	生活と生業の立場から環境問題を考えるとどうなるか
第9回	環境問題の原点としての公害	水俣病から何を学ぶべきか
第10回	グループディスカッション(2)	原子力発電の問題について、受講生と議論してみよう
第11回	グループディスカッション(2)のまとめ、未来世代への責任	未来の人間に対する責任をどう考えるべきか
第12回	現代社会と無痛文明論	大量消費社会のなかでよく生きるためにはどうすればよいか
第13回	環境倫理学における持続可能性	持続可能な開発をどう考えるべきか
第14回	総括	授業の総括と残された課題の説明

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

環境問題に自ら関心をもち、関連する参考書等を読んでおく必要があります。またグループディスカッションの前には、授業外で行うべき課題を指示します。なお課題を行っていない場合には、ディスカッションへの参加を認めません。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

環境倫理学の学習にとって、以下の書籍は重要です。

加藤尚武編『環境と倫理 新版』、有斐閣アルマ、2005年
 加藤尚武『環境倫理学のすすめ』、丸善ライブラリー、1991年
 加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善ライブラリー、2005年
 鬼頭秀一『自然保護を問いなおす』、ちくま新書、1996年
 なお個別のテーマについては、授業中に参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度および授業後のレポート 40 %、学期末試験 60 % を総合的に考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。

【Outline and objectives】

This course introduces you to environmental ethics. Environmental ethics is a discipline established in the second half of the 20th century along with occurrence of environmental issues. Environmental ethics deals with the problems of environmental pollution and destruction of nature by humans. In this course you will learn about how we should live on earth through examination of various theories of environmental ethics. In the 1970s, environmental philosophers recognized that control of nature by human beings had caused environmental problems, and criticized that humans had used nature considering only their interests. But now, related to various kinds of environmental problems, there are new arguments in environmental ethics. In this semester you will discuss with export of electronic waste to developing countries and problems of nuclear power generation. Through discussions, you will understand environmental issues exactly and learn about human life adequate for a finite global environment.

HUG200BA

歴史地理学（1）

米家 志乃布

授業コード：A3819 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理

本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史について概要を説明します。2. 日本・世界における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観覧もしますので、それについての感想文を書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方法など
第2回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第3回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第4回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第5回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第6回	奈良の歴史地理①	奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第7回	奈良の歴史地理②	飛鳥・吉野の歴史遺産、特に、古代～中世の宗教遺産について学ぶ
第8回	京都の歴史地理①	都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第9回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造、歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第10回	伏見の歴史地理①	豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ
第11回	伏見の歴史地理②	近代以降の酒造業の発展、現在のまちづくりについて学ぶ
第12回	大阪の歴史地理①	石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ
第13回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義、大阪のまちづくり
第14回	歴史観光都市・観光地の取り組み①	京都の祇園祭と現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に旅行して、地域と観光の在り方を体験してください。テレビの旅行番組や旅行記なども読んで、様々な国や地域の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。適宜、授業内でプリントを配布します。

【参考書】

適宜、必要に応じて、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 100%で評価します。授業内で配布したプリントは持ち込み不可ですが、あらかじめ、試験のテーマは予告します。欠席者には、最終授業日に今までの余ったプリントがあれば、まとめて配布します。

【学生の意見等からの気づき】

地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ビデオ使用。

【Outline and objectives】

This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.

HUG200BA

歴史地理学（2）

米家 志乃布

授業コード：A3820 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理

本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀～20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどのようなものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。

授業内で北方領土問題やアイヌ民族に関するビデオ観賞をしますので、それについての感想文を書いていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方法
第2回	地理的認識をめぐる歴史地理学	新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	NHK スペシャルのビデオ鑑賞を通して、北方領土問題を考える
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題の歴史を考える
第12回	千島列島（クリル諸島）の歴史地理	千島列島の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第13回	樺太（サハリン）の歴史地理	樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第14回	アイヌ民族の法的地位と研究資料	日本・ロシアにおける先住民族政策をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的資料の状況についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界の領土問題や先住民族に関する文献を自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

米家志乃布『近世日本と蝦夷地-古地図からみる北海道』2019年予定、法政大学出版局

【参考書】

適宜、必要に応じて、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ビデオ使用。

【Outline and objectives】

This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

HIS200BE

考古学概論（資格）

小倉 淳一

授業コード：A3855 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。

考古学的方法が発達する過程が理解できる。

考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主に学史の観点から考古学的方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。

授業方法は講義形式による。板書と解説を中心とするので、受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	考古学とは何か	考古学の本質
第 3 回	古代日本における考古学的認識	考古学的営為を試みた先人たち
第 4 回	近世日本における学術的展開	近代科学につながる学術的な先駆者たち
第 5 回	ヨーロッパ考古学の展開	古典考古学と先史考古学
第 6 回	層位学と型式学	学術的方法の整備
第 7 回	近代科学として導入された考古学	外国人による近代の考古学的営為
第 8 回	人種・民族論争と記紀	近代考古学を担った日本人研究者たち
第 9 回	実証主義研究の展開	貝塚研究と編年学派
第 10 回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第 11 回	戦後考古学の光と影（1）	岩宿遺跡と登呂遺跡
第 12 回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第 13 回	現代と考古学（1）	関連諸科学と考古学
第 14 回	現代と考古学（2）	文化財保護行政と考古学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。参考書を参照すること。

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）（30 %）、期末試験の成績（70 %）によって判定する。

【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【その他の重要事項】

※本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく考古学的研究方法の内容や成立過程について講義する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

HIS200BE

日本考古学（資格）

小倉 淳一

授業コード：A3856 | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の旧石器時代から古墳時代までの歴史展開を、物質文化にもとづいてアジア史の中に位置付けて講義する。

考古学資料にもとづく交流の歴史を学び、日本列島史に対する理解を深める。

【到達目標】

物質文化としてとりあげる各種の資料を、中国や朝鮮半島との交流を物語る資料として理解し、その歴史的展開や意義について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

日本の原始・古代をアジア史の中に位置づけるために、考古学資料にみられる中国大陸や朝鮮半島との関連に基づいた交流史をとりあげる。

各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義を行う予定。プリント等の資料も利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準 この授業で扱う時代概要の解説
第 2 回	旧石器時代のアジアと日本列島 (1)	文化交流基盤の形成
第 3 回	旧石器時代のアジアと日本列島 (2)	縄文文化形成への道程
第 4 回	旧石器・縄文時代の海洋利用	海を渡る丸木舟
第 5 回	弥生文化と対外交流 (1)	弥生文化の外来的要素・在来的要素
第 6 回	弥生文化と対外交流 (2)	稲作技術と集落遺跡
第 7 回	弥生文化と対外交流 (3)	倭人の対外交渉のはじまり
第 8 回	弥生文化と対外交流 (4)	『魏志』倭人伝の世界
第 9 回	弥生文化と対外交流 (5)	玉生産と対外交流
第 10 回	古墳文化と対外交流 (1)	前方後円墳と舶載鏡
第 11 回	古墳文化と対外交流 (2)	ヤマト王権の対外交渉
第 12 回	古墳文化と対外交流 (3)	渡来系技術と遺物
第 13 回	古墳文化と対外交流 (4)	磐井の乱と朝鮮半島の墳墓
第 14 回	考古学からみた交流史	成果（レポート）提出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

考古学を学んでみたい人には、有斐閣選書『日本考古学を学ぶ』(1)～(3) (新版) 有斐閣、鈴木公雄 (1988) 『考古学入門』東京大学出版会、佐々木憲一ほか (2011) 『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、などが読みやすい。そのほかに勅使河原彰 (1995) 『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』(全 9 巻) などがより詳しい。旧石器時代から古墳時代までを通史的に読むには概説書として講談社『日本の歴史』第 01 巻～第 03 巻や吉川弘文館『日本の時代史』シリーズもある。

【成績評価の方法と基準】

成績の 70 % は物質文化を扱うレポート評価とする。平常点は 30 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

準備学習に力を入れてほしい。また、各回の内容はレポートを書くための重要なヒントになっている。成績の高い学生は出席率も高く、授業の理解度が好成績に結びついている。

また、資格課程の関連科目として開講している関係もあるため、史学科以外の受講者も一定数を占めているが、受講にあたっては基礎知識を深めておく必要がある。概説書等の購読を推奨する。

【その他の重要事項】

※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn the history of exchanges between the Japanese archipelago and other areas through archeological materials.

CUA200BA

民俗学 I（資格）

山本 志乃

授業コード：A3859 | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 春学期授業/Spring・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「民俗」とは、ある地域社会や民族社会のなかで、そこで生活する人々によって長く育まれ、伝承されてきた生活文化、思考様式のことである。民俗学は、そうした人々の記憶や行動の中に刻印された「文字化されにくい歴史」を、主にフィールドワークという手法を用いて掘り起こし、記録することを目的としている。日本の民俗社会は、とくに戦後の高度経済成長期を経て大きく変質し、かつて伝承されてきた習慣や風習なども変化を余儀なくされている。この授業では、日本人が培ってきた時間認識や空間認識、ことばと身体が織り成す豊かな伝承世界が民俗社会において果たしてきた役割などについて、自らの身近な生活や体験に照らし合わせながら、主体的に考え、発見することをめざす。

【到達目標】

この授業では、日本の民俗文化の特徴を、身近な具体例から実態的に理解することを目的とする。とくに高度経済成長期における生活文化の変遷に着目し、その背景となる社会変化をとらえる。また民俗学の主たる研究方法であるフィールドワークについて、その方法と意義を学ぶ。そして、日本文化の多様性を理解し、日本の地域社会の現状や国際社会との関係について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、必要に応じて受講者から意見を求める場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	民俗学への誘い①	「民俗学」の誕生と研究方法
第 2 回	民俗学への誘い②	先人の軌跡Ⅰ・南方熊楠と柳田国男
第 3 回	民俗学への誘い③	先人の軌跡Ⅱ・渋沢敬三と宮本常一
第 4 回	住まう	住居の地域性と空間認識の特徴
第 5 回	食べる	高度経済成長期以前の食生活
第 6 回	祭る	年中行事とその意味
第 7 回	祀る	社寺の成り立ちとその原点
第 8 回	祈る	身近な言い伝えと祈願
第 9 回	語る	口承文芸の役割
第 10 回	うたう	民間芸能の担い手たち
第 11 回	あそぶ	娯楽と遊びの変遷と意味
第 12 回	商う	行商人の生活誌
第 13 回	身近な生活の記録	民俗文化財と地域博物館
第 14 回	総括	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に 1 回、簡単なフィールドワークとそれについてのレポート提出を課すので、指定する期日までに必ず提出すること（未提出者は履修放棄とみなします）。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、必要に応じて資料を配布する

【参考書】

『現代民俗学入門』佐野賢治他編、吉川弘文館、1996 年
 『講座日本の民俗学』全 11 巻、雄山閣、1996 年
 『日本民俗文化大系』全 14 巻、小学館、1985 年
 このほか、授業内容にあわせて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)、レポート (25 %)、平常点 (15 %)、さらに受講態度を加味して判断する

【学生の意見等からの気づき】

授業開始後の教室への出入りは、やむを得ない場合を除き、極力控えること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the understanding of the history of the common Japanese according to folklore research. This course introduces the study of nonwritten cultural materials (folk customs, public entertainments and traditional skills) in Japan.

CUA200BA

民俗学Ⅱ（資格）

山本 志乃

授業コード：A3860 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

秋学期授業/Fall・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「民俗」とは、ある地域社会や民族社会のなかで、そこで生活する人々によって長く育まれ、伝承されてきた生活文化、思考様式のことである。その民俗の生成基盤である自然環境に着目し、日本人が自然環境とどのようにかかわってきたのかを、生業と信仰の両面から考える。これらは、人が自然に向かい合い、技術を駆使し、ことばを練り上げて思想へと高めていく「生きていく方法」としての民俗であり、現代的な課題でもある地域文化の再生にいかに関与しうるのか、その可能性をあわせて考える。授業は「民俗学Ⅰ」を履修していることを前提に進める。受講者には学期内の前半にレポート提出を課し、後半は提出されたレポートをもとに発表形式を取り入れながら進める。各自が問題意識を持って主体的に取り組むことを期待する。

【到達目標】

この授業では、春学期でとらえた民俗社会の基本事象をふまえ、日本社会の地域性と多様性について、具体的な事例から理解を深めることを目的とする。まず地域ごとに異なる自然環境に適応した複合生業の具体像を理解し、そのうえで、地域社会で培われてきた伝説・伝承をとらえて、地域文化の多様性を実態的に理解する。さらには、身近な生活の歴史を学ぶことの意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式だが、受講者には学期内の前半にレポート提出を課し、後半は提出されたレポートをもとに発表形式を取り入れながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	自然観の民俗	自然を知る
第2回	サトの暮らしと成り立ち①	稲作のムラ
第3回	サトの暮らしと成り立ち②	畑作のムラ
第4回	海付きのムラに生きる	百姓漁師と海女百姓
第5回	山に生きる	ヤマンドの世界
第6回	イチとマチ	物と人の交流
第7回	「聖地」の景観	神々の風景をよみとく
第8回	地域の伝説①	土地の成り立ち
第9回	地域の伝説②	旅する神々
第10回	地域の伝説③	川と水
第11回	地域の伝説④	語られる災害
第12回	地域の伝説⑤	怪異の世界
第13回	地域の伝説⑥	自然界の生き物
第14回	総括	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期内の前半に1回、レポートを提出する。レポート作成にあたっては、課題に従って各自で題材を設定し、参考文献を探して調べる（期限内にレポート未提出の場合は履修放棄とみなす）。作成したレポートに基づき、学期の後半で簡単な口頭発表をする場合がある。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、必要に応じて資料を配布する

【参考書】

『日本の民俗』全13巻、吉川弘文館、2008年
『講座日本の民俗学』全11巻、雄山閣、1996年
『神と自然の景観論』野本寛一、講談社学術文庫、2006年
このほか、授業内容にあわせて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、レポート（25%）、平常点（15%）、さらに受講態度を加味して判断する

【学生の意見等からの気づき】

授業開始後の教室への出入りは、やむを得ない場合を除いて極力控える。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the understanding of the history of the common Japanese according to folkloric research. This course introduces the study of nonwritten cultural materials (folk customs, public entertainments and traditional skills) in Japan.

MAN100FA-A4032

経営学総論Ⅰ（2016～2018年度入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4033

経営学総論Ⅱ（2016～2018年度入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A4034

経営学総論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

1～4年次／4単位[年間授業/Yearly]

木村 純子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において最も重要な位置を占めている組織は、「企業（会社）」とよばれる組織です。商品・サービスを提供し、多くの人びとは生活の糧を企業から得ています。この講義では、この「企業（会社）」組織の運営に焦点を当てます。NTTドコモ、ソフトバンク、セブン-イレブン、トヨタ自動車、任天堂…といった大企業から、近所にある中堅・中小企業まで、世の中には大小さまざまな企業があります。企業経営にかかわるさまざまな授業（経営学総論、戦略論、組織論など）の入門となる授業です。

授業を通じて学生は経営学の基礎理論を体系的に習得します。

【到達目標】

経営学検定試験の初級レベルの合格を目標とします。
多彩なスタイルで構成される授業を通じて、学生は理論と現実をつなぎ、論理的な議論を展開し、他者に説得的に説明する力を身につけます。
秋学期は人を動かす仕組みに集中して、どうすれば部下のやる気を引き出せるのかを理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は3つのスタイルで行われます。
1 目はレクチャーです。学生は教員の講義によって経営学の理論を学びます。
2 目は授業内の課題活動です。学生は単に授業に出席するだけでなく課題に取り組みアウトプットとしてレポートを作成します。
3 目は講演です。一流企業のマネジャー・経営者として活躍する人々を招き実社会における経営の実際をお話いただきます。学生との活発なインタラクションを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第1回 教室①	オリエンテーション	授業の進め方 受講生の活動など
第2回 オンデマンド①	第1章：企業経営の全体像：『もしドラ』の「ドラ」とは？	企業経営とは？： 企業、企業と各市場、情動的経営資源①
第3回 教室②	第1章：企業経営の全体像	事例：産地偽装
第4回 オンデマンド②	第2章：経営学の全体像	経営学とは？： 広義・狭義の経営学、心理学などとの関係、面白さ・実践性
第5回 教室③	第2章：経営学の全体像	事例：ブロードリーチヘルスケア
第6回 オンデマンド③	第4章：企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり	会社とは？： 株式会社の基本的な仕組み
第7回 教室④	第4章：企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり	事例：松下電器産業
第8回 オンデマンド④	第5章：企業とアウトプット（製品・サービス）市場との関わり	経営戦略とは？： 製品サービス市場、経営戦略の定義・階層性
第9回 オンデマンド⑤	第6章：競争戦略のマネジメント(Part.1)：基本的な考え方	市場セグメンテーション、価値の創出、競争相手、5つの競争要因
第10回 教室⑤	第6章：競争戦略のマネジメント(Part.1)：基本的な考え方	SWOT分析、セグメンテーション
第11回 教室⑥	ゲストスピーカー	調整中
第12回 オンデマンド⑥	第7章：競争戦略のマネジメント(Part.2)	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略
第13回 教室⑦	第7章：競争戦略のマネジメント(Part.2)	事例：スターバックス

第14回 まとめ
教室⑧

春学期のまとめ

II 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「未来工業」①
第2回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「未来工業」②
第3回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「キリンビバレッジ」①
第4回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「キリンビバレッジ」②
第5回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「キリンビバレッジ」③
第6回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：理論枠組み①
第7回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「中学校英語教師」①
第8回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「中学校英語教師」②
第9回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「中学校英語教師」③
第10回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：理論枠組み②
第11回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「青梅慶友病院」①
第12回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「青梅慶友病院」②
第13回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「青梅慶友病院」③
第14回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は復習に重点を置いて勉強することが薦められます。講義を受講した後、教科書の指定範囲を読み復習するようにしてください。授業内では適宜課題を出します。

【テキスト（教科書）】

加護野忠男・吉村典久編著『1からの経営学（第2版）』（2012年、碩学舎・中央経済社刊）の一部。

【参考書】

適宜、紹介します。『日本経済新聞』や『日経ビジネス』など、企業経営にかかわる情報がある出版物の紹介もします。

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する新しいタイプの授業のためこれまでの授業からの意見はありませんが、インタラクティブな授業スタイルを取り入れる予定です。

【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施します。

詳細は、春学期・秋学期共に第1回授業の際に指示します。

履修者数、受講生の理解度、進行具合によってスケジュールと内容を変更する場合があります。

授業内レポートについては、以下の例外を除き後からの提出を認めません。1) 病気やケガ（病院の診断書をご提出ください）、2) お身内のご不幸、3) 部活の試合（書類をご提出ください）

関連科目：経営学、社会学、心理学の科目

プロジェクトに投影された資料をスマートフォン等を使って撮影することを禁止します。

MAN100FA-A4033

経営学総論Ⅱ（2016～2018年度入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

MAN100FA-A4032

経営学総論Ⅰ（2016～2018年度入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

MAN100FA-A4034

経営学総論Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

1～4年次／4単位[年間授業/Yearly]

木村 純子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において最も重要な位置を占めている組織は、「企業（会社）」とよばれる組織です。商品・サービスを提供し、多くの人びとは生活の糧を企業から得ています。この講義では、この「企業（会社）」組織の運営に焦点を当てます。NTTドコモ、ソフトバンク、セブン-イレブン、トヨタ自動車、任天堂…といった大企業から、近所にある中堅・中小企業まで、世の中には大小さまざまな企業があります。企業経営にかかわるさまざまな授業（経営学総論、戦略論、組織論など）の入門となる授業です。

授業を通じて学生は経営学の基礎理論を体系的に習得します。

【到達目標】

経営学検定試験の初級レベルの合格を目標とします。
多彩なスタイルで構成される授業を通じて、学生は理論と現実をつなぎ、論理的な議論を展開し、他者に説得的に説明する力を身につけます。
秋学期は人を動かす仕組みに集中して、どうすれば部下のやる気を引き出せるのかを理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は3つのスタイルで行われます。
1 目目はレクチャーです。学生は教員の講義によって経営学の理論を学びます。
2 目目は授業内の課題活動です。学生は単に授業に出席するだけでなく課題に取り組みアウトプットとしてレポートを作成します。
3 目目は講演です。一流企業のマネジャー・経営者として活躍する人々を招き実社会における経営の実際をお話いただきます。学生との活発なインタラクションを期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第1回 教室①	オリエンテーション	授業の進め方 受講生の活動など
第2回 オンデマンド①	第1章：企業経営の全体像：『もしドラ』の「ドラ」とは？	企業経営とは？： 企業、企業と各市場、情動的経営資源①
第3回 教室②	第1章：企業経営の全体像	事例：産地偽装
第4回 オンデマンド②	第2章：経営学の全体像	経営学とは？： 広義・狭義の経営学、心理学などとの関係、面白さ・実践性
第5回 教室③	第2章：経営学の全体像	事例：ブロードリーチヘルスケア
第6回 オンデマンド③	第4章：企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり	会社とは？： 株式会社の基本的な仕組み
第7回 教室④	第4章：企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり	事例：松下電器産業
第8回 オンデマンド④	第5章：企業とアウトプット（製品・サービス）市場との関わり	経営戦略とは？： 製品サービス市場、経営戦略の定義・階層性
第9回 オンデマンド⑤	第6章：競争戦略のマネジメント(Part.1)：基本的な考え方	市場セグメンテーション、価値の創出、競争相手、5つの競争要因
第10回 教室⑤	第6章：競争戦略のマネジメント(Part.1)：基本的な考え方	SWOT分析、セグメンテーション
第11回 教室⑥	ゲストスピーカー	調整中
第12回 オンデマンド⑥	第7章：競争戦略のマネジメント(Part.2)	コスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略
第13回 教室⑦	第7章：競争戦略のマネジメント(Part.2)	事例：スターバックス

第14回 まとめ
教室⑧

春学期のまとめ

II 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「未来工業」①
第2回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「未来工業」②
第3回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「キリンビバレッジ」①
第4回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「キリンビバレッジ」②
第5回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「キリンビバレッジ」③
第6回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：理論枠組み①
第7回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「中学校英語教師」①
第8回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「中学校英語教師」②
第9回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「中学校英語教師」③
第10回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：理論枠組み②
第11回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「青梅慶友病院」①
第12回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「青梅慶友病院」②
第13回	マイクロ組織のマネジメント	「人を動かす」とは？： マイクロ組織論、動機づけ、リーダーシップ、心理学：事例「青梅慶友病院」③
第14回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は復習に重点を置いて勉強することが薦められます。講義を受講した後、教科書の指定範囲を読み復習するようにしてください。授業内では適宜課題を出します。

【テキスト（教科書）】

加護野忠男・吉村典久編著『1からの経営学（第2版）』（2012年、碩学舎・中央経済社刊）の一部。

【参考書】

適宜、紹介します。『日本経済新聞』や『日経ビジネス』など、企業経営にかかわる情報がある出版物の紹介もします。

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する新しいタイプの授業のためこれまでの授業からの意見はありませんが、インタラクティブな授業スタイルを取り入れる予定です。

発行日：2019/5/1

【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施します。

詳細は、春学期・秋学期共に第1回授業の際に指示します。

履修者数、受講生の理解度、進行具合によってスケジュールと内容を変更する場合があります。

授業内レポートについては、以下の例外を除き後からの提出を認めません。1) 病気やケガ（病院の診断書をご提出ください）、2) お身内のご不幸、3) 部活の試合（書類をご提出ください）

関連科目：経営学、社会学、心理学の科目

プロジェクトに投影された資料をスマートフォン等を使って撮影することを禁止します。

ECN100FA-A4038

ミクロ経済学入門Ⅰ（2016～2018年度入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

ECN100FA-A4039

ミクロ経済学入門Ⅱ（2016～2018年度入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

ECN100FA-A4040

ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

1～4年次／4単位[年間授業/Yearly]

林 直嗣

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学は消費者や企業、政府など個別経済主体の経済行動を、価格や生産量などミクロの経済量をベースに分析する。消費者は何をどう需要するか、企業はどう生産計画を立てるか、市場価格はどうか決まるのか、独占はなぜ問題なのか、賃金や利潤などはどう分配されるのか、投資と資本蓄積はどんな基準で行われるのか、市場機構の限界と政府の役割とは何か、民主的意識決定機構はどうか可能となるのか、不確実性は経済活動にどう影響するのか、など私たちの身の回りの経済問題について分かり易く、体系的に講義する。

各個人の身の回りから企業や産業、日本経済や世界経済に至るさまざまな経済問題を、消費者や企業、政府などの個別経済主体の視点から理解することが、この授業の目的である。

【到達目標】

消費者や企業、政府の経済問題を分かり易く解説することを通じて、履修生がミクロ経済への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることを、授業の到達目標とする。単に理論を勉強するだけでなく、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実際の分析力を養うトレーニングも目標とする。単に講義だけでなく主体的に問題演習を解くことによって、公務員試験、公認会計士試験、国税専門官、ファイナンシャルプランナー試験などの各種資格試験や就職試験に役に立つ実践力を養うことができる。これらの試験には二次方程式や最大・最小などの数学Ⅰや微分などの数学Ⅱは必須であり、大学の入門授業は高校までの学習の上に行うべきものである。しかし高校によってはそれらをやらない場合もある。そこで数学Ⅱ迄の復習を易しく解説した上で、大学の入門授業を分かりやすく行う必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の方法はパワーポイントのスライドを活用した講義を主体とする。この授業ではインターネットによる先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を視聴して e ラーニングを行うので、予習や復習に役立てることができる。ミクロ経済学の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。また授業内では教員と学生との間で生き活きた双方向のクイズを Q&A 方式で行い、学生参加型のアクティブ・ラーニングの授業を行う。またレポート提出や小テストなどを行い、履修生の理解を着実に深めていく方法を採る。期末には必ず試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、経済とミクロ経済学 (1)	授業の概要説明。ミクロ経済学の基礎的な考え方を易しく解説
第2回	経済とミクロ経済学 (2)	ミクロ経済学の基礎的概念を説明
第3回	市場経済と貨幣 (1)	市場経済と貨幣について基礎的概念を解説
第4回	市場経済と貨幣 (2)	市場経済と貨幣について進んだ考え方を説明
第5回	消費者の行動 (1)	消費者行動の基礎概念を説明
第6回	消費者の行動 (2)	消費者行動の基礎理論を説明
第7回	消費者の行動 (3)	消費者理論の核心を解説
第8回	消費者の行動 (4)	消費者理論の進んだ考え方を説明
第9回	企業の行動 (1)	企業理論の基礎を説明
第10回	企業の行動 (2)	企業理論の核心を解説
第11回	企業の行動 (3)	企業理論の進んだ考え方を説明
第12回	市場均衡 (1)	市場均衡論のエッセンスを解説
第13回	市場均衡 (2)	一般均衡論の核心を解説
第14回	市場均衡 (3)	一般均衡論の進んだ問題を解説

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	独占市場 (1)	完全独占の基礎理論を解説
第16回	独占市場 (2)	独占の進んだ問題を解説
第17回	独占市場 (3)	寡占理論の核心を解説
第18回	独占市場 (4)	寡占理論の進んだ考え方を説明
第19回	所得分配 (1)	所得分配の基礎理論を説明
第20回	所得分配 (2)	所得分配の進んだ問題を解説

第21回	資本と利子 (1)	資本理論の核心を解説
第22回	資本と利子 (2)	資本理論の進んだ問題を説明
第23回	厚生経済学と社会的選択 (1)	厚生経済学のエッセンスを解説
第24回	厚生経済学と社会的選択 (2)	市場の失敗の諸問題を考える
第25回	厚生経済学と社会的選択 (3)	厚生経済学の進んだ問題を考える
第26回	情報と不確実性の経済学 (1)	情報と不確実性の基礎理論を説明
第27回	情報と不確実性の経済学 (2)	情報と不確実性の進んだ問題を分析
第28回	情報と不確実性の経済学 (3)	情報と不確実性の応用問題を考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、Web 授業を e ラーニングし、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか明確になるので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、理解を効果的に高めることができる。大学設置基準では、予習を 30 時間、授業を 30 時間、復習を 30 時間、合計 90 時間を学修して 2 単位と定めているので、予習 2 時間 ⇒ 授業 2 時間 ⇒ 復習 2 時間の基本スタイルで主体的に学修しましょう。授業はもちろん毎回の予習復習の学習教材としても、教科書や問題演習の指定は大学の規則上必要である。

【テキスト（教科書）】

林直嗣著『経済学入門』新世社（入門・初級の教科書）2013 年

林直嗣著『問題演習 ミクロ経済学 再訂版』（スタディ・ガイドと問題集）2010 年

【参考書】

林直嗣著『ミクロ経済学入門』世界書院（初級の教科書）1992 年

福岡正夫著『ゼミナール 経済学入門』第 4 版、2008 年、日本経済新聞社（初級の教科書）

【成績評価の方法と基準】

大学設置基準第 27 条に従って必ず定期試験を行った上で、授業への参加度（出席等）、授業内クイズ、レポート、小テストなどの合計点を基準として成績評価をする。また大学設置基準 25 条の 2 では、「客観的で厳格な（正確な）成績評価を行うことが法定されている。すなわち客観的な正規分布に正確に一致するように、成績評価をする必要があり、過度に辛かったり甘い絶対評価は、正規分布とならず、主観的で歪んだ評価となるので、設置基準に違反する。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

教室では、教科書や問題演習、ノートを持参し、情報検索のためにスマホや PC を活用しましょう。

先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を作成し、本学サイトから聴講できるようにしてあるので、学内の PC 端末から、あるいは学外からは VPN 接続をした PC 端末から、予習をしたりテスト前に復習をすることで効果的である。病気などで欠席した場合には、それを聴講して代用できる。

【その他の重要事項】

公務員試験や会計士試験、国税専門官、ファイナンシャルプランナーなどの資格試験や就職試験では、微分など数学Ⅱの問題が出題される傾向にあるので、数学Ⅱの復習の上に理論だけでなく問題演習もすることが望ましく、この授業をとることを特に勧める。

【関連科目】

マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ（ILAC 科目 2 群）を合わせて履修することが望ましい。この科目は経済学関係の基礎的科目なので、今後経済学関係の専門科目を履修する人は必ず履修登録することが望ましい。

【Outline and objectives】

Microeconomics analyzes economic behaviors of individual economic agents such as consumers, firms, and governments based on microeconomic quantities such as price and production volume. What and how does a consumer demand, how does a firm plan production, how is the market price decided, why is monopoly a problem, how are wages and profits distributed, how are investment and capital accumulation carried, what are the limits of the market mechanism and the role of a government, how can democratic decision-making mechanisms be made, how does uncertainty affect economic activities, etc. We explain these problems easily and systematically.

ECN100FA-A4039

ミクロ経済学入門Ⅱ（2016～2018年度入学者）

1～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

ECN100FA-A4038

ミクロ経済学入門Ⅰ（2016～2018年度入学者）

1～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

ECN100FA-A4040

ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

1～4年次／4単位[年間授業/Yearly]

林 直嗣

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学は消費者や企業、政府など個別経済主体の経済行動を、価格や生産量などミクロの経済量をベースに分析する。消費者は何をどう需要するか、企業はどう生産計画を立てるか、市場価格はどうか決まるのか、独占はなぜ問題なのか、賃金や利潤などはどう分配されるのか、投資と資本蓄積はどんな基準で行われるのか、市場機構の限界と政府の役割とは何か、民主的意識決定機構はどうか可能となるのか、不確実性は経済活動にどう影響するのか、など私たちの身の回りの経済問題について分かり易く、体系的に講義する。

各個人の身の回りから企業や産業、日本経済や世界経済に至るさまざまな経済問題を、消費者や企業、政府などの個別経済主体の視点から理解することが、この授業の目的である。

【到達目標】

消費者や企業、政府の経済問題を分かり易く解説することを通じて、履修生がミクロ経済への関心や理解を深めるとともに、日常生活や就職に活用できるようにすることを、授業の到達目標とする。単に理論を勉強するだけにとどまらず、章ごとに具体例を用いた問題演習を行い、実際の分析力を養うトレーニングも目標とする。単に講義だけでなく主体的に問題演習を解くことによって、公務員試験、公認会計士試験、国税専門官、ファイナンシャルプランナー試験などの各種資格試験や就職試験に役に立つ実践力を養うことができる。これらの試験には二次方程式や最大・最小などの数学Ⅰや微分などの数学Ⅱは必須であり、大学の入門授業は高校までの学習の上に行うべきものである。しかし高校によってはそれらをやらない場合もある。そこで数学Ⅱ迄の復習を易しく解説した上で、大学の入門授業を分かりやすく行う必要がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の方法はパワーポイントのスライドを活用した講義を主体とする。この授業ではインターネットによる先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を視聴して e ラーニングを行うので、予習や復習に役立てることができる。ミクロ経済学の基礎を易しく解説し、章末では問題演習を行う。また授業内では教員と学生との間で生き活きた双方向のクイズを Q&A 方式で行い、学生参加型のアクティブ・ラーニングの授業を行う。またレポート提出や小テストなどを行い、履修生の理解を着実に深めていく方法を採る。期末には必ず試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、経済とミクロ経済学 (1)	授業の概要説明。ミクロ経済学の基礎的な考え方を易しく解説
第2回	経済とミクロ経済学 (2)	ミクロ経済学の基礎的概念を説明
第3回	市場経済と貨幣 (1)	市場経済と貨幣について基礎的概念を解説
第4回	市場経済と貨幣 (2)	市場経済と貨幣について進んだ考え方を説明
第5回	消費者の行動 (1)	消費者行動の基礎概念を説明
第6回	消費者の行動 (2)	消費者行動の基礎理論を説明
第7回	消費者の行動 (3)	消費者理論の核心を解説
第8回	消費者の行動 (4)	消費者理論の進んだ考え方を説明
第9回	企業の行動 (1)	企業理論の基礎を説明
第10回	企業の行動 (2)	企業理論の核心を解説
第11回	企業の行動 (3)	企業理論の進んだ考え方を説明
第12回	市場均衡 (1)	市場均衡論のエッセンスを解説
第13回	市場均衡 (2)	一般均衡論の核心を解説
第14回	市場均衡 (3)	一般均衡論の進んだ問題を解説

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	独占市場 (1)	完全独占の基礎理論を解説
第16回	独占市場 (2)	独占の進んだ問題を解説
第17回	独占市場 (3)	寡占理論の核心を解説
第18回	独占市場 (4)	寡占理論の進んだ考え方を説明
第19回	所得分配 (1)	所得分配の基礎理論を説明
第20回	所得分配 (2)	所得分配の進んだ問題を解説

第21回 資本と利子 (1) 資本理論の核心を解説
 第22回 資本と利子 (2) 資本理論の進んだ問題を説明
 第23回 厚生経済学と社会的選択 (1) 厚生経済学のエッセンスを解説

第24回 厚生経済学と社会的選択 (2) 市場の失敗の諸問題を考える

第25回 厚生経済学と社会的選択 (3) 厚生経済学の進んだ問題を考える

第26回 情報と不確実性の経済学 (1) 情報と不確実性の基礎理論を説明

第27回 情報と不確実性の経済学 (2) 情報と不確実性の進んだ問題を分析

第28回 情報と不確実性の経済学 (3) 情報と不確実性の応用問題を考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は最も効果的な勉強法である。先ず自分で教科書を読み、Web 授業を e ラーニングし、問題集を解いてみよう。何が理解できて何がわからないか明確になるので、授業に臨む態度やモチベーションが高まり、理解を効果的に高めることができる。大学設置基準では、予習を 30 時間、授業を 30 時間、復習を 30 時間、合計 90 時間を学修して 2 単位と定めているので、予習 2 時間 ⇒ 授業 2 時間 ⇒ 復習 2 時間の基本スタイルで主体的に学修しましょう。授業はもちろん毎回の予習復習の学習教材としても、教科書や問題演習の指定は大学の規則上必要である。

【テキスト（教科書）】

林直嗣著『経済学入門』新世社（入門・初級の教科書）2013 年

林直嗣著『問題演習 ミクロ経済学 再訂版』（スタディ・ガイドと問題集）2010 年

【参考書】

林直嗣著『ミクロ経済学入門』世界書院（初級の教科書）1992 年

福岡正夫著『ゼミナール 経済学入門』第 4 版、2008 年、日本経済新聞社（初級の教科書）

【成績評価の方法と基準】

大学設置基準第 27 条に従って必ず定期試験を行った上で、授業への参加度（出席等）、授業内クイズ、レポート、小テストなどの合計点を基準として成績評価をする。また大学設置基準 25 条の 2 では、「客観的で厳格な（正確な）成績評価を行うことが法定されている。すなわち客観的な正規点分布に正確に一致するように、成績評価をする必要があり、過度に辛かったり甘い絶対評価は、正規分布とならず、主観的で歪んだ評価となるので、設置基準に違反する。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の要望にできるだけ応えられるように配慮して、授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

教室では、教科書や問題演習、ノートを持参し、情報検索のためにスマホや PC を活用しましょう。

先進的な Web 授業（マルチメディア教材）を作成し、本学サイトから聴講できるようにしてあるので、学内の PC 端末から、あるいは学外からは VPN 接続をした PC 端末から、予習をしたりテスト前に復習をすると効果的である。病気などで欠席した場合には、それを聴講して代用できる。

【その他の重要事項】

公務員試験や会計士試験、国税専門官、ファイナンシャルプランナーなどの資格試験や就職試験では、微分など数学Ⅱの問題が出題される傾向にあるので、数学Ⅱの復習の上に理論だけでなく問題演習もすることが望ましく、この授業をとることを特に勧める。

【関連科目】

マクロ経済学Ⅰ/Ⅱ（ILAC 科目 2 群）を合わせて履修することが望ましい。この科目は経済学関係の基礎的科目なので、今後経済学関係の専門科目を履修する人は必ず履修登録することが望ましい。

【Outline and objectives】

Microeconomics analyzes economic behaviors of individual economic agents such as consumers, firms, and governments based on microeconomic quantities such as price and production volume. What and how does a consumer demand, how does a firm plan production, how is the market price decided, why is monopoly a problem, how are wages and profits distributed, how are investment and capital accumulation carried, what are the limits of the market mechanism and the role of a government, how can democratic decision-making mechanisms be made, how does uncertainty affect economic activities, etc. We explain these problems easily and systematically.

SOC300FB-A4407

経営社会学Ⅰ

3～4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

SOC300FB-A4408

経営社会学Ⅱ

3～4年次 / 2単位 [春学期授業/Spring]

佐野 哲

※Ⅰ、Ⅱとも春学期に開講するので注意してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在進行形の「社会及び経済の時事問題」を、企業経営の視点を借りつつ、多角的・多面的に理解すること。これが、経営社会学講義の最終目標です。新聞の一面から政治面、経済面、国際面、社会面に渡る毎日の時事トピックスを、大学生が知っておくべき重要な類出キーワードからバランス良く分野ごとに体系化し、それぞれの問題の背景、経緯、法制度、論点、企業経営との関係などについて、経営学の戦略的思考法と社会学の理論的枠組みを織り交ぜながら解説していきます。時事問題に関する諸知識は、とりわけ就職活動の面接などにおいて求められる、現代の学生にとって不可欠なものです。問題のコア、賛否双方の論点、自らの立場が明確に整理できていないと、面接者からの問いにしっかり答えることができません。

また、本講義は経営学部が提供する他学部公開科目でもあります。取り上げるテーマは、例えば「政党政治」なら法学部、「メディア」なら社会学部、「新卒採用」ならキャリアデザイン学部など他学部講義での主要テーマとなるものですが、これら全てを「収益や市場」など経営的な視点で再分析することで、問題への理解を深めていくことができます。政治も報道も就活もいずれも、それらの成り立ちには必ずビジネスの側面が存在し、応じて「カネ」の問題が絡んでくるからです。

【到達目標】

経営社会学Ⅰでは、労働者が直面する社会的な時事問題を扱います。一般的には「労働社会学」などが取り上げるトピックスですが、これを企業経営者の目線から再分析していくことで、一方的な企業批判に陥りがちな労働問題の「現実的な解決策の落としどころ」を探ります。ここで狙っているのは、対立しがちな議論における「バランス感覚」の修得でもあります。

経営社会学Ⅱでは、経営者が直面する政治経済的な時事問題を扱います。同じくそれらは「政治経済学」などが取り上げるトピックスですが、これも企業経営者の目線から再整理していくことで、営利追求や社会的責任の観点などから「問題を主体的に単純化して捉える分析視覚」を明示します。ここで狙っているのは、拡散しがちな議論における「方向感覚」の修得でもあります。

本講義の最終的な到達目標は、これら多様かつ複雑な時事問題の背景にある大きな経営社会構造を自ら分析し、経済メディア（経済専門紙・専門誌）からの情報を取捨選択していく能力（情報リテラシー）の涵養にあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を取りますが原則毎回、講義最後の5～10分間を使って「リアクションペーパー」の記入・提出（出席調査票を使用し、そのコメント欄に100字程度の自由記入を基本とします）を求め、その都度、質問や意見を集約します。講義では、その質問への回答等を題材としつつ、教員と参加学生とのディスカッションを可能な限り取り入れるとともに、学生の興味・関心をふまえた可能な範囲で講義内容の変更を加えていきます。また、講義開始時には、各回の講義内容に関する予習の成果として「Web検索レポート」の提出（事前に提示される検索ワード3つについてインターネットで検索し、それぞれ300字、計1,000字程度にまとめた小レポート）を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
[1]	イントロダクション	経営社会学とはいかなる学問か？
[2]	新卒労働市場の社会学①	学生の「就活」と企業の新規学卒一括採用、その構造変化
[3]	新卒労働市場の社会学②	新卒採用のIT化とアウトソーシング
[4]	新卒労働市場の社会学③	グループワークとディスカッション
[5]	ビジネスキャリア開発の社会学①	大企業における大卒マネジャーの昇進構造
[6]	ビジネスキャリア開発の社会学②	転職や出向など「失業なき労働移動」の成功要因
[7]	ビジネスキャリア開発の社会学③	グループワークとディスカッション
[8]	非正規労働化と貧困問題①	社会成層の中の「非正規化と貧困」
[9]	非正規労働化と貧困問題②	「派遣」から考える日本の労働政策
[10]	非正規労働化と貧困問題③	グループワークとディスカッション
[11]	国際労働移動の社会学①	外国人労働者の諸類型
[12]	国際労働移動の社会学②	国際的な資本と労働の移動形態
[13]	国際労働移動の社会学③	グループワークとディスカッション

回	テーマ	内容
[1]	再導入グループワーク	「ポリティカル・コンパス」（あなた達の政治思想を類型化する）
[2]	政党政治と官僚支配の政策社会学①	政党政治の諸類型
[3]	政党政治と官僚支配の政策社会学②	政党政治プロセスの社会構造
[4]	政党政治と官僚支配の政策社会学③	グループワークとディスカッション
[5]	赤字財政が変える日本の政策と生活①	日本の財政構造とプライマリーバランス
[6]	赤字財政が変える日本の政策と生活②	増大する医療・社会保障費と増税政策
[7]	赤字財政が変える日本の政策と生活③	グループワークとディスカッション
[8]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学①	環境関連経済イベントの連鎖と混乱
[9]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学②	環境ポリティクスの多様化と多元化
[10]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学③	グループワークとディスカッション
[11]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学①	メディア資本の拡張と「業界」構造
[12]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学②	メディア産業の全体像と構造変化
[13]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学③	グループワークとディスカッション
[14]	授業内試験	授業内試験（論述形式）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記【授業の進め方と方法】の通り、毎回「Web検索レポート」の提出を求めます（これが毎回の「宿題」となります）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。毎回、トピックごとに主な講義内容を取りまとめたプリントを配布します。

【参考書】

社会的な見地と社会学の諸理論を理解するためには、『社会学・第五版』（アンソニー・ギデンズ著／而立書房）が有用です。また、各回個別のテーマに関する専門的文献（新書など）については、参加学生の興味・関心に応じてその都度紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

平常点を重視しつつ毎回のペーパー及びレポート提出出席点に読み替えます。ただし、指定記述量に満たないものや「単位の嘆願」のような講義内容と無関係な記述などは、減点対象もしくは無効とします。なお最終評定は以下の配点で素点を積み上げ、100点満点の合計点で評価します。

[1] Web検索レポート（各回事前提示される宿題：A4一枚）40%

[2] リアクションペーパー（各回終了後に提出：A5一枚）30%

[3] 定期テスト（論述問題一題：B4一枚）30%

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーから得られる受講者ニーズに合わせ、必要に応じて、講義内容の難易度及び進行スピードを調整します。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら（わからない概念等について）その都度ワード検索をかけると便利です。

【その他の重要事項】

1. 講義実施日の確認について

経営社会学Ⅰ（春学期土曜2限）及びⅡ（同3限）は、土曜午前から午後にかけて「一つのテーマを一日の連続講義で完結」させる形式で行われます（そのためⅠもしくはⅡのいずれかのみ履修することはできません。必ずⅠ及びⅡをセットで履修して下さい）。また、各テーマ講義後にグループワーク（アクティブラーニング）の時間が設けられており、実質的に土曜2～4限の集中講義（一日で講義3回消化）となります。したがって「3週分を2週で行う」かたちとなるため、3週に一度「講義のない週」があります。初回のイントロダクションで開講スケジュールを明示しますので、各自しっかり登校日を確認しておいて下さい。

2. 担当教員の実務経験について

発行日：2019/5/1

担当教員（佐野哲）は本学着任前、政府機関のシンクタンク（独立行政法人）で10年間、産業・労働分野の政策研究を行ってきました。政治家や学者、中央省庁の担当官僚やマスコミ関係者と連携しながら、政策課題を共有しつつ膨大な実態調査を幅広く行い、政策の策定や見直しに係る実務を経験してきています。授業計画にあるテーマの多くは、こうした経験に関連するものです。講義では可能な限り、様々な経験に基づくエピソード等を盛り込んで行きたいと考えています。

[Outline and objectives]

This course provides an applied sociological analysis of work and work experience in its social, organizational and political context in Japan. In this course, we examine the major trends shaping current and future work; work's organization into projects, firms and government.

This course consists of two parts, 1)“Work, Organization and Society” and 2)“Work, Environment and Government”. The first part, “Work, Organization and Society” presents a broad overview of central topics in Occupational system, the transformation of management, Job insecurity and ethnic diversity in Japan. The second part of the course covers topics in political and social change, the reform of the welfare state, risk and the environment and the global media and democracy.

SOC300FB-A4408

経営社会学Ⅱ

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

SOC300FB-A4407

経営社会学Ⅰ

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

佐野 哲

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在進行形の「社会及び経済の時事問題」を、企業経営の視点を借りつつ、多角的・多元的に理解すること。これが、経営社会学講義の最終目標です。新聞の一面から政治面、経済面、国際面、社会面に渡る毎日の時事トピックスを、大学生が知っておくべき重要な頻出キーワードからバランス良く分野ごとに体系化し、それぞれの問題の背景、経緯、法制度、論点、企業経営との関係などについて、経営学の戦略的思考法と社会学の理論的枠組みを織り交ぜながら解説していきます。時事問題に関する諸知識は、とりわけ就職活動の面接などにおいて求められる、現代の学生にとって不可欠なものです。問題のコア、賛否双方の論点、自らの立場が明確に整理できていないと、面接者からの問いにしっかり答えることができません。

また、本講義は経営学部が提供する他学部公開科目でもあります。取り上げるテーマは、例えば「政党政治」なら法学部、「メディア」なら社会学部、「新卒採用」ならキャリアデザイン学部など他学部講義での主要テーマとなるものですが、これら全てを「収益や市場」など経営的な視点で再分析することで、問題への理解を深めていくことができます。政治も報道も就職もいずれも、それらの成り立ちには必ずビジネスの側面が存在し、応じて「カネ」の問題が絡んでくるからです。

【到達目標】

経営社会学Ⅰでは、労働者が直面する社会的な時事問題を扱います。一般的には「労働社会学」などが取り上げるトピックスですが、これを企業経営者の目線から再分析していくことで、一方的な企業批判に陥りがちな労働問題の「現実的な解決策の落としどころ」を探ります。ここで狙っているのは、対立しがちな議論における「バランス感覚」の修得でもあります。

経営社会学Ⅱでは、経営者が直面する政治経済的な時事問題を扱います。同じくそれらは「政治経済学」などが取り上げるトピックスですが、これも企業経営者の目線から再整理していくことで、営利追求や社会的責任の観点などから「問題を主体的に単純化して捉える分析視覚」を明示します。ここで狙っているのは、拡散しがちな議論における「方向感覚」の修得でもあります。

本講義の最終的な到達目標は、これら多様かつ複雑な時事問題の背景にある大きな経営社会構造を自ら分析し、経済メディア（経済専門紙・専門誌）からの情報を取捨選択していく能力（情報リテラシー）の涵養にあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を取りますが原則毎回、講義最後の5～10分間を使って「リアクションペーパー」の記入・提出（出席調査票を使用し、そのコメント欄に100字程度の自由記入を基本とします）を求め、その都度、質問や意見を集約します。講義では、その質問への回答を題材としつつ、教員と参加学生とのディスカッションを可能な限り取り入れるとともに、学生の興味・関心をふまえて可能な範囲で講義内容の変更を加えていきます。また、講義開始時には、各回の講義内容に関する予習の成果として「Web検索レポート」の提出（事前に提示される検索ワード3つについてインターネットで検索し、それぞれ300字、計1,000字程度にまとめた小レポート）を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
[1]	イントロダクション	経営社会学とはいかなる学問か？
[2]	新卒労働市場の社会学①	学生の「就活」と企業の新規学卒一括採用、その構造変化
[3]	新卒労働市場の社会学②	新卒採用のIT化とアウトソーシング
[4]	新卒労働市場の社会学③	グループワークとディスカッション
[5]	ビジネスキャリア開発の社会学①	大企業における大卒マネージャーの昇進構造
[6]	ビジネスキャリア開発の社会学②	転職や出向など「失業なき労働移動」の成功要因
[7]	ビジネスキャリア開発の社会学③	グループワークとディスカッション
[8]	非正規労働化と貧困問題①	社会成層の中の「非正規化と貧困」
[9]	非正規労働化と貧困問題②	「派遣」から考える日本の労働政策
[10]	非正規労働化と貧困問題③	グループワークとディスカッション
[11]	国際労働移動の社会学①	外国人労働者の諸類型
[12]	国際労働移動の社会学②	国際的な資本と労働の移動形態
[13]	国際労働移動の社会学③	グループワークとディスカッション
[14]	授業内試験	授業内試験（論述形式）の実施

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
[1]	再導入グループワーク	「ポリティカル・コンパス」（あなた達の政治思想を類型化する）
[2]	政党政治と官僚支配の政策社会学①	政党政治の諸類型
[3]	政党政治と官僚支配の政策社会学②	政党政治プロセスの社会構造
[4]	政党政治と官僚支配の政策社会学③	グループワークとディスカッション
[5]	赤字財政が変える日本の政策と生活①	日本の財政構造とプライマリーバランス
[6]	赤字財政が変える日本の政策と生活②	増大する医療・社会保障費と増税政策
[7]	赤字財政が変える日本の政策と生活③	グループワークとディスカッション
[8]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学①	環境関連経済イベントの連鎖と混乱
[9]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学②	環境ポリティクスの多様化と多元化
[10]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学③	グループワークとディスカッション
[11]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学①	メディア資本の拡張と「業界」構造
[12]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学②	メディア産業の全体像と構造変化
[13]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学③	グループワークとディスカッション
[14]	授業内試験	授業内試験（論述形式）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記【授業の進め方と方法】の通り、毎回「Web検索レポート」の提出を求めます（これが毎回の「宿題」となります）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。毎回、トピックごとに主な講義内容を取りまとめたプリントを配布します。

【参考書】

社会学的な見地と社会学の諸理論を理解するためには、『社会学・第五版』（アンソニー・ギデンズ著／而立書房）が有用です。また、各回個別のテーマに関する専門的文献（新書など）については、参加学生の興味・関心に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点を重視しつつ毎回のペーパー及びレポート提出を出席点に読み替えます。ただし、指定記述量に満たないものや「単位の嘆願」のような講義内容と無関係な記述などは、減点対象もしくは無効とします。なお最終評定は以下の配点で素点を積み上げ、100点満点の合計点で評価します。

- [1] Web検索レポート（各回事前提示される宿題：A4一枚）40%
- [2] リアクションペーパー（各回終了後に提出：A5一枚）30%
- [3] 定期テスト（論述問題一題：B4一枚）30%

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーから得られる受講者ニーズに合わせ、必要に応じて、講義内容の難易度及び進行スピードを調整します。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら（わからない概念等について）その都度ワード検索をかけると便利です。

【その他の重要事項】

1. 講義実施日の確認について
経営社会学Ⅰ（春学期土曜2限）及びⅡ（同3限）は、土曜午前から午後にかけて「一つのテーマを一日の連続講義で完結」させる形式で行われます（そのためIもしくはIIのいずれかのみ履修することはできません。必ずI及びIIをセットで履修して下さい）。また、各テーマ講義後にグループワーク（アクティブラーニング）の時間が設けられており、実質的に土曜2～4限の集中講義（一日で講義3回消化）となります。したがって「3週分を2週で行う」かたちとなるため、3週に一度「講義のない週」があります。初回のイントロダクションで開講スケジュールを明示しますので、各自しっかり登校日を確認しておいて下さい。
2. 担当教員の実務経験について
担当教員（佐野哲）は本学着任前、政府機関のシンクタンク（独立行政法人）で10年間、産業・労働分野の政策研究を行ってきました。政治家や学者、中央省庁の担当官僚やマスコミ関係者と連携しながら、政策課題を共有しつつ膨大な実態調査を幅広く行い、政策の策定や見直しに係る実務を経験してきています。授業計画にあるテーマの多くは、こうした経験に関連するものです。講義では可能な限り、様々な経験に基づくエピソード等を盛り込んで行きたいと考えています。

[Outline and objectives]

This course provides an applied sociological analysis of work and work experience in its social, organizational and political context in Japan. In this course, we examine the major trends shaping current and future work; work's organization into projects, firms and government.

This course consists of two parts, 1)“Work, Organization and Society” and 2)“Work, Environment and Government”. The first part, “Work, Organization and Society” presents a broad overview of central topics in Occupational system, the transformation of management, Job insecurity and ethnic diversity in Japan. The second part of the course covers topics in political and social change, the reform of the welfare state, risk and the environment and the global media and democracy.

ECN300FB-A4409

組織経済学 I

3～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

奥西 好夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題など。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・担当教員による講義が主だが、授業中に適宜アンケートや小テスト、それらの解説や議論等を行う（授業中または自宅での予習・復習として、授業支援システムの利用を予定）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

II 秋学期

回	テーマ	内容
1.	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
2.	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
3.	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
4.	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
5.	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
6.	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
7.	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
8.	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の是非
9.	組織デザイン (1)	・組織構造
10.	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
11.	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
12.	インセンティブ問題 (1)	・インセンティブの強度 ・ナッジ
13.	インセンティブ問題 (2)	・人事制度への応用
14.	まとめ、復習	・講義全体の総括 ・講義の進捗や受講者数によっては授業内試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義レジュメや資料を事前に学内授業支援システムにアップするので、授業前に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小テストの回答を求めることもあるので誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業の間か、次回授業の冒頭までに行ってほしい。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業レジュメ、参考資料等を事前に学内授業支援システムを通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。組織経済学の包括的かつ基本的教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT出版、2005年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題のエッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した経済学のバイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したものである。

【成績評価の方法と基準】

・学期末に行う筆記試験（参照不可。マークシートと記述式を併用）の結果を80%、授業期間中の平常点（アンケートや小テストの回答状況）を20%のウェイトで足し合わせた総合点（100点が満点）の点数によって評価する。

・試験問題は、上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2015年度、2016年度の結果を総合すると（2017年度は休講）、内容の難易度は「適切」が過半だが、「やや難しい」もかなりある。内容の理解度は「およそ理解できた」が約半分で、残りは「どちらとも言えない」と「あまり理解できなかった」。自由記述のコメントを見ても、内容が興味深い、考える力がついたなどのコメントがある一方、内容が難しい、説明が分かりにくいといったコメントがあった。受講者の理解度を高めるために一層の工夫、努力が必要だと受け止めている。

・板書が読みにくいとのコメントも相変わらず散見されるが、是非、教員が黒板に書くことよりも、話すことをメモする訓練をしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業中に「授業支援システム」を利用する予定なので、スマホないしパソコンを用意してほしい。ただし、授業中に利用不可の場合は、授業外での利用もハンディとならないように配慮する。

【その他の重要事項】

・本科目はI、IIの通年開講授業だったが、2018年度以降、新カリキュラムに合わせてIのみの開講となる。このためIIの主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされる。ただし、それに該当する内容は、より詳細にGBP用のHRM I/II (Iは秋学期、IIは春学期)でカバーする。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非こちらも受講してほしい。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学入門I/II、組織行動論I/II、人的資源管理I/II等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline and objectives】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

MAN300FD-A4501

日本経営論Ⅰ

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

MAN300FD-A4502

日本経営論Ⅱ

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

金 容 度

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、学期ごとに1回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

春学期の日本経営論Ⅰでは、日本の企業システムの特徴を考察した上で、企業システムの国際比較を行う。また、それを踏まえて、日本の経営についての国内外の議論を検討、考察する。

秋学期の日本経営論Ⅱでは、市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視点から日本の企業間関係を考察する。具体的に、メインバンクシステム、企業間のもの取引（半導体、液晶部材、鉄鋼、自動車部品）が取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
2	日本の企業システムの特徴	戦後日本の企業システムの特徴を考察する。
3	企業システムの日米比較1(労使関係)	日本的経営の「3種の神器」といわれるのがすべて労使関係と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係の共通点を検討する。
4	企業システムの日米比較2(労使関係②)	日米の共通点に着目して、アメリカにおける労使関係の展開過程を検討する。
5	企業システムの日米比較3(米企業システムの歴史)	日米の共通点に着目して、米企業システムの歴史的特徴を考察する。
6	企業システムの日米比較4(1980年代以降の米企業システム①)	1980年代以降の米企業システムの変化と日本への示唆点を検討する。
7	企業システムの日米比較5(1980年代以降の米企業システム②)	1980年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
8	企業システムの日米比較6(1980年代以降の米企業システム③)	1980年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
9	海外での日本研究の流れの概観	日本についての海外での研究の全体的な流れを概観する。
10	日本の経営についての海外での議論1(特殊論)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、日本特殊性を強調する議論を考察する。
11	日本の経営についての海外での議論2(特殊論②)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、日本特殊性を強調する議論を考察する。
12	日本の経営についての海外での議論3(普遍論)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。
13	日本の経営についての海外での議論4(普遍論②)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。
14	日本の経営についての国内議論	日本の企業経営の普遍性を強調する議論を検討する。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	企業間関係をみる理由と視点、日本の企業間関係の特徴の概観	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義するとともに、日本の企業間関係の特徴を概観する。
2	企業間関係の国際比較について	国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
3	メインバンクシステム1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
4	メインバンクシステム2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
5	メインバンクシステム3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
6	メインバンクシステム4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
7	半導体の企業間関係	「産業の米」である半導体の共同開発をめぐる企業間関係を考察する。
8	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が高い液晶部材産業を取上げ、企業間取引を検討する。
9	鉄鋼の企業間関係	もう一つの「産業の米」といわれる鉄鋼の企業間取引について検討する。
10	鉄鋼の企業間関係2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が見られるかを考察する。
11	自動車部品の企業間取引1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
12	自動車部品の企業間取引2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1990年代～10年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
13	自動車部品の企業間取引3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920年代～40年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
14	自動車部品の企業間取引4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引を比較する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献は、適宜、「授業支援システム」にアップロードするので、毎週、提示される次週の参考文献を読んでから授業に参加すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。毎週レジメを授業中に配布する。なお、参考文献は、毎週の講義中で提示する。

【参考書】

<日本経営論Ⅰの参考文献>

①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斎藤直『現代日本経済第4版』有斐閣、2018年

②小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社、1991年（第1版）及び、2005年（第3版）

③ジェイムス・アベグレン『日本の経営』日本経済新聞社、2004年

④ウィリアム・オオウチ『セオリーZ』CBSソニー出版、1981年

⑤William Lazonick, Sustainable Prosperity in the New Economy, Upjohn Institute, 2009

⑥鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年

<日本経営論Ⅱの参考文献>

①Yongdo Kim, The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan, Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd., 2015

②金容度『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006年

③浅沼万里『日本の企業組織革新的適応のメカニズム: 長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社、1997年

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、期末試験（70%）、授業内小試験（30%）である。授業内小試験は学期ごとに3回行われる。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、リアクション・シート、授業中に作成する感想文（学期に1回）についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語は絶対禁ずる。

日本経営史Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ

[Outline and objectives]

The objective of this course, Japanese Management is to understand business management in Japan more deeply on the perspective of international comparisons. You will learn logical thinking and basic knowledge on Japanese management by lectures, discussion and Q&A.

MAN300FD-A4502

日本経営論Ⅱ

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

MAN300FD-A4501

日本経営論Ⅰ

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

金 容 度

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、学期ごとに1回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

春学期の日本経営論Ⅰでは、日本の企業システムの特徴を考察した上で、企業システムの国際比較を行う。また、それを踏まえて、日本の経営についての国内外の議論を検討、考察する。

秋学期の日本経営論Ⅱでは、市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視点から日本の企業間関係を考察する。具体的に、メインバンクシステム、企業間関係の取引（半導体、液晶部材、鉄鋼、自動車部品）が取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
2	日本の企業システムの特徴	戦後日本の企業システムの特徴を考察する。
3	企業システムの日米比較1(労使関係)	日本的経営の「3種の神器」といわれるのがすべて労使関係と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係の共通点を検討する。
4	企業システムの日米比較2(労使関係②)	日米の共通点に着目して、アメリカにおける労使関係の展開過程を検討する。
5	企業システムの日米比較3(米企業システムの歴史)	日米の共通点に着目して、米企業システムの歴史的特徴を考察する。
6	企業システムの日米比較4(1980年代以降の米企業システム①)	1980年代以降の米企業システムの変化と日本への示唆点を検討する。
7	企業システムの日米比較5(1980年代以降の米企業システム②)	1980年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
8	企業システムの日米比較6(1980年代以降の米企業システム③)	1980年代以降、米企業システムの変化要因を検討する。
9	海外での日本研究の流れの概観	日本についての海外での研究の全体的な流れを概観する。
10	日本の経営についての海外での議論1(特殊論)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、日本特殊性を強調する議論を考察する。
11	日本の経営についての海外での議論2(特殊論②)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、日本特殊性を強調する議論を考察する。
12	日本の経営についての海外での議論3(普遍論)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。
13	日本の経営についての海外での議論4(普遍論②)	日本の企業経営についての海外研究者の研究の中で、普遍性を強調する議論を検討する。
14	日本の経営についての国内議論	日本の企業経営の普遍性を強調する議論を検討する。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1	企業間関係をみる理由と視点、日本の企業間関係の特徴の概観	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義するとともに、日本の企業間関係の特徴を概観する。
2	企業間関係の国際比較について	国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
3	メインバンクシステム1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
4	メインバンクシステム2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
5	メインバンクシステム3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
6	メインバンクシステム4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
7	半導体の企業間関係	「産業の米」である半導体の共同開発をめぐる企業間関係を考察する。
8	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が高い液晶部材産業を取上げ、企業間取引を検討する。
9	鉄鋼の企業間関係	もう一つの「産業の米」といわれる鉄鋼の企業間取引について検討する。
10	鉄鋼の企業間関係2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が見られるかを考察する。
11	自動車部品の企業間取引1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
12	自動車部品の企業間取引2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1990年代～10年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
13	自動車部品の企業間取引3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920年代～40年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
14	自動車部品の企業間取引4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引を比較する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献は、適宜、「授業支援システム」にアップロードするので、毎週、提示される次週の参考文献を読んでから授業に参加すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。毎週レジメを授業中に配布する。なお、参考文献は、毎週の講義中で提示する。

【参考書】

<日本経営論Ⅰの参考文献>

①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斎藤直『現代日本経済第4版』有斐閣、2018年

②小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社、1991年(第1版)及び、2005年(第3版)

③ジェイムス・アベグレン『日本の経営』日本経済新聞社、2004年

④ウィリアム・オオウチ『セオリーZ』CBSソニー出版、1981年

⑤William Lazonick, Sustainable Prosperity in the New Economy, Upjohn Institute, 2009

⑥鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年

<日本経営論Ⅱの参考文献>

①Yongdo Kim, The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan, Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd., 2015

②金容度『日本IC産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会、2006年

③浅沼万里『日本の企業組織革新的適応のメカニズム:長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社、1997年

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、期末試験(70%)、授業内小試験(30%)である。授業内小試験は学期ごとに3回行われる。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、リアクションシート、授業中に作成する感想文(学期に1回)についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションシートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語は絶対禁ずる。

日本経営史Ⅰ/Ⅱ、戦略的意思決定論Ⅰ/Ⅱ、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、中小企業論Ⅰ/Ⅱ

[Outline and objectives]

The objective of this course, Japanese Management is to understand business management in Japan more deeply on the perspective of international comparisons. You will learn logical thinking and basic knowledge on Japanese management by lectures, discussion and Q&A.

MAN200FA-A4603

検定会計Ⅰ

2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA-A4604

検定会計Ⅱ

2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

石山 宏

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は日本商工会議所（日商）簿記検定試験 2 級商業簿記の出題範囲を主たる学習対象とし、株式会社の商業簿記を習得します。

【到達目標】

簿記の学習内容は、企業規模により、個人企業、非上場株式会社、上場株式会社に大別されます。このうち本授業では、非上場株式会社を前提とした商企業における簿記、いわゆる中級商業簿記を習得します。本授業の履修は、上記検定試験の受験準備に有用であるとともに、財務会計論の深い理解を得る上でもおおいに役立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式により進行しますが、授業内において可能な限り問題演習の時間も確保します。なお、毎回の授業冒頭に、前回の学習範囲を対象とする復習テスト（10 分程度）を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、簿記一巡の 手続と財務諸表	会計処理の習得
第 2 回	現金預金と売掛金	会計処理の習得
第 3 回	手形①	会計処理の習得
第 4 回	手形②、有価証券①	会計処理の習得
第 5 回	有価証券②	会計処理の習得
第 6 回	その他の債権・債務、商 品売買①	会計処理の習得
第 7 回	商品売買②	会計処理の習得
第 8 回	商品売買③	会計処理の習得
第 9 回	固定資産①	会計処理の習得
第 10 回	固定資産②	会計処理の習得
第 11 回	固定資産③、引当金①	会計処理の習得
第 12 回	引当金②	会計処理の習得
第 13 回	引当金③、収益と費用①	会計処理の習得
第 14 回	収益と費用②	会計処理の習得

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	株式会社の純資産（資本） ①	会計処理の習得
第 2 回	株式会社の純資産（資本） ②	会計処理の習得
第 3 回	株式会社の純資産（資本） ③	会計処理の習得
第 4 回	税金	会計処理の習得
第 5 回	リース会計	会計処理の習得
第 6 回	外貨建取引①	会計処理の習得
第 7 回	外貨建取引②、税効果会 計①	会計処理の習得
第 8 回	税効果会計②	会計処理の習得
第 9 回	決算①	会計処理の習得
第 10 回	決算②	会計処理の習得
第 11 回	決算③	会計処理の習得
第 12 回	決算④	会計処理の習得
第 13 回	本支店会計①	会計処理の習得
第 14 回	本支店会計②	会計処理の習得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、授業で学習した内容を、テキスト（『検定簿記講義/2 級商業簿記』）にしたがって確認します。その際、授業内未着手の問題を解きます。次いで、授業内で宿題として指定されたテキストに連動した問題集（『ワークブック/2 級商業簿記』）の問題を解きます。これらにより、次回授業で実施する復習テストに備えます。

【テキスト（教科書）】

テキスト：渡部裕亘=片山 覚=北村敬子編著『検定簿記講義/2 級商業簿記（2019 年度版）』中央経済社
問題集：渡部裕亘=片山 覚=北村敬子編著『ワークブック/2 級商業簿記（検定版第 5 版）』中央経済社

【参考書】

使用する講義資料は Web 配信されます。授業に先立って下記サイトにアクセスの上、講義資料をダウンロード、プリントアウトの上、教室に持参してください。

<http://www2.yamanashi-ken.ac.jp/~ishiyama/hosei.html>

【成績評価の方法と基準】

授業において毎回実施する復習テスト（30 %）

試験週間中に実施される期末テスト（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講学生間の簿記の基礎学力が様々であるためか、授業レベルにつき「易しすぎる」と感じる学生がいる一方、「難しすぎる」と感じる学生もおり、いかなるレベルに焦点を合わせるかにつき苦慮しました。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（できる限り 12 桁のものを用意してください。）

【その他の重要事項】

「検定会計Ⅰ」と「検定会計Ⅱ」は連続したカリキュラムで進行しますので、可能な限り両科目を連続して履修してください。

なお、日商簿記検定試験は 2016 年度からの 3 年間で、出題範囲を段階的に大幅変更しています。これにより、従来に比べ、相当程度の質的上昇と量的増大がなされ、所定の講義回数で全範囲を取り扱うことは極めて困難な状況にあります。そのため、連結会計は本授業の学習範囲から除外されています。連結会計の学習のためには、「連結会計」を履修することを強く推奨します。

【関連科目】

連結会計

【Outline and objectives】

In this class, we will learn the scope of commercial bookkeeping of The Japan Chamber of Commerce and Industry's bookkeeping examination level 2, and acquire the commercial bookkeeping of the corporation.

MAN200FA-A4604

検定会計Ⅱ

2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA-A4603

検定会計Ⅰ

2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

石山 宏

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は日本商工会議所（日商）簿記検定試験 2 級商業簿記の出題範囲を主たる学習対象とし、株式会社の商業簿記を習得します。

【到達目標】

簿記の学習内容は、企業規模により、個人企業、非上場株式会社、上場株式会社に大別されます。このうち本授業では、非上場株式会社を前提とした商企業における簿記、いわゆる中級商業簿記を習得します。本授業の履修は、上記検定試験の受験準備に有用であるとともに、財務会計論の深い理解を得る上でもおおいに役立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式により進行しますが、授業内において可能な限り問題演習の時間も確保します。なお、毎回の授業冒頭に、前回の学習範囲を対象とする復習テスト（10 分程度）を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、簿記一巡の 手続と財務諸表	会計処理の習得
第 2 回	現金預金と売掛金	会計処理の習得
第 3 回	手形①	会計処理の習得
第 4 回	手形②、有価証券①	会計処理の習得
第 5 回	有価証券②	会計処理の習得
第 6 回	その他の債権・債務、商 品売買①	会計処理の習得
第 7 回	商品売買②	会計処理の習得
第 8 回	商品売買③	会計処理の習得
第 9 回	固定資産①	会計処理の習得
第 10 回	固定資産②	会計処理の習得
第 11 回	固定資産③、引当金①	会計処理の習得
第 12 回	引当金②	会計処理の習得
第 13 回	引当金③、収益と費用①	会計処理の習得
第 14 回	収益と費用②	会計処理の習得

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	株式会社の純資産（資本） ①	会計処理の習得
第 2 回	株式会社の純資産（資本） ②	会計処理の習得
第 3 回	株式会社の純資産（資本） ③	会計処理の習得
第 4 回	税金	会計処理の習得
第 5 回	リース会計	会計処理の習得
第 6 回	外貨建取引①	会計処理の習得
第 7 回	外貨建取引②、税効果会 計①	会計処理の習得
第 8 回	税効果会計②	会計処理の習得
第 9 回	決算①	会計処理の習得
第 10 回	決算②	会計処理の習得
第 11 回	決算③	会計処理の習得
第 12 回	決算④	会計処理の習得
第 13 回	本支店会計①	会計処理の習得
第 14 回	本支店会計②	会計処理の習得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、授業で学習した内容を、テキスト（『検定簿記講義/2 級商業簿記』）にしたがって確認します。その際、授業内未着手の問題を解きます。次いで、授業内で宿題として指定されたテキストに連動した問題集（『ワークブック/2 級商業簿記』）の問題を解きます。これらにより、次回授業で実施する復習テストに備えます。

【テキスト（教科書）】

テキスト：渡部裕亘=片山 覚=北村敬子編著『検定簿記講義/2 級商業簿記（2019 年度版）』中央経済社
問題集：渡部裕亘=片山 覚=北村敬子編著『ワークブック/2 級商業簿記（検定版第 5 版）』中央経済社

【参考書】

使用する講義資料は Web 配信されます。授業に先立って下記サイトにアクセスの上、講義資料をダウンロード、プリントアウトの上、教室に持参してください。

<http://www2.yamanashi-ken.ac.jp/~ishiyama/hosei.html>

【成績評価の方法と基準】

授業において毎回実施する復習テスト（30 %）

試験週間中に実施される期末テスト（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講学生間の簿記の基礎学力が様々であるためか、授業レベルにつき「易しすぎる」と感じる学生がいる一方、「難しすぎる」と感じる学生もおり、いかなるレベルに焦点を合わせるかにつき苦慮しました。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（できる限り 12 桁のものを用意してください。）

【その他の重要事項】

「検定会計Ⅰ」と「検定会計Ⅱ」は連続したカリキュラムで進行しますので、可能な限り両科目を連続して履修してください。

なお、日商簿記検定試験は 2016 年度からの 3 年間で、出題範囲を段階的に大幅変更しています。これにより、従来に比べ、相当程度の質的上昇と量的増大がなされ、所定の講義回数で全範囲を取り扱うことは極めて困難な状況にあります。そのため、連結会計は本授業の学習範囲から除外されています。連結会計の学習のためには、「連結会計」を履修することを強く推奨します。

【関連科目】

連結会計

【Outline and objectives】

In this class, we will learn the scope of commercial bookkeeping of The Japan Chamber of Commerce and Industry's bookkeeping examination level 2, and acquire the commercial bookkeeping of the corporation.

広告論

小林 健一

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「マーケティングと広告」

「広告」は、「経営」「マーケティング」「マーケティングコミュニケーション」等と密接な関連を持ちながら、企業活動を支えています。

この講座では、「広告」の役割を明らかにした上で、特に「マーケティングコミュニケーション」の手段としての「広告」に焦点を絞り、その理論や実務上の知識を学ぶ事を目的とします。

【到達目標】

- ① 「経営」「マーケティング」と「広告」の関係を理解し、説明できる。
- ② 広告の機能/役割について理解し、説明できる。
- ③ 広告戦略/広告計画の立案手順を理解し、説明できる。
- ④ 広告ビジネスの構造や、関連企業の役割について理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 講義は、電通出身の教員が勤めます。
- 講義を中心に進めますが、理解を深めるために授業内課題を併用します。
- 将来広告の仕事に携わる受講生ばかりではないことを考え、授業内に「今週の広告」「今週の言葉」「仕事の力裏表」等のミニコーナーを設け、幅広い知識見識が身につくようにします。
- また、広告ビジネスの現状に関する理解を深めるために、事業会社、広告会社等からのゲストを招いてお話をうかがいます。
- ゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。（授業計画には、参考までに、昨年度のゲスト講師を記載してあります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 授業計画の説明 受講動機等に関するアンケート
第 2 回	広告の定義 経営における広告の機能と役割	広告の定義 経営に果たす広告の機能と役割 社会・経済に果たす広告の機能と役割
第 3 回	マーケティングにおける 広告の機能と役割	マーケティングにおける 広告の機能と役割とは？ マーケティングコミュニケーション とは？
第 4 回	広告ビジネス	広告業務の流れ 広告主、広告会社、媒体社、 その他の広告関連企業の機能と役割 広告会社の組織と機能
第 5 回	広告戦略/広告計画 1	広告計画立案の流れ 広告計画の意味と重要性 状況分析と広告目標の設定
第 6 回	（ゲスト講師）事業会社	事業会社における広告業務 （昨年度は 資生堂ジャパン株式会社 コミュニケーション統括部部長 小出 誠氏）
第 7 回	広告戦略/広告計画 2	戦略とは？ 広告戦略の基本
第 8 回	媒体計画	媒体計画とは？ 媒体計画の作成手順
第 9 回	（ゲスト講師）広告会社	実体験を核としたマーケティング・コミュニケーション （昨年度は（株）電通ライブ シニア・クリエイティブディレクター 原田 和明氏）
第 10 回	表現計画	広告表現とは？ 広告表現の類型化
第 11 回	（ゲスト講師）広告会社	広告表現制作の実際 （昨年度は （株）電通 エグゼクティブクリエイティブディレクター 佐藤 義浩氏）

第 12 回	広告効果過程	消費者の購買意思決定過程 広告効果過程のモデル
第 13 回	広告効果測定	広告調査の種類と方法 広告効果測定の新しい流れ
第 14 回	ブランドと広告	ブランドとは？ ブランドと広告の関係 授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、日常的に、新聞/テレビ/雑誌/ラジオ/インターネット等の広告に積極的な関心を持って接しながら、その背景にある企業の意図や戦略を読み取る習慣を身につけるよう努めること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、適宜以下の参考書に基づいて講義を行います。

【参考書】

「現代広告論 第 3 版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017。
「消費者・コミュニケーション戦略」田中洋/清水聡（編）有斐閣、2006。

【成績評価の方法と基準】

出席はとりません。

授業内課題 30 % 学期末試験 70 % の比率で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

・教員の実務経験についてもっと聞きたいという声があったので、適宜広告会社での経験についてもお話ししたいと思います。

・質問コーナーを設けてほしいという声があったので、できる限り学生の皆さんの質問に答える時間を作りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講義のアジェンダは授業開始前、講義に使用したスライドは、授業終了後授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】

教員は、（株）電通 IMC プランニングセンター長、（株）電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。過去の経験も交えながら、皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

【関連科目】

なし

【Outline and objectives】

Marketing and advertising

This course aims to clarify the role of "advertisement" at first and then focus on

"advertisement" as a means of "marketing communication", to learn the theory and practical knowledge.

MAN200FA-A5403

戦略的マーケティング

2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

岡本 慶子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

あなたが洋服や靴を購入する店のバックヤードに「商品が到着するまで」に「どんな人が、どうやって商品を作り、どうやって運ばれてきたか。費用はどのくらいかかっているのか。」その活動は経営学とどのようにかかわっているのか。日本のファッション業界を例にとり、企業がどのような戦略を立てているかを観察し、分析します。ショッピングをする時、新たな目線で商品を観察し、マーケティング戦略について思考できるようになることが目的です。

【到達目標】

日本のファッション業界はどのように始まり、今、どんな状況に置かれているか。ファッション業界を切り口として「商品の企画、見積、生産、貿易、流通、販売促進、法令、社会的責任、採用、業界の構図、歴史」など経営学とどんなつながりがあるかを学びます。その上で、今後の業界や企業の戦略について、学生自ら事実や情報を集め、グループワークを通して考えられるようになることが目標です。考えたことは理論的にまとめてレポートとして記載できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

トピックを分けて、講義、グループワーク、ディスカッション、個人ワークを行います。リアクションペーパー、プレゼンテーション、小レポートなどテーマに合わせて取り入れます。都合がつけば、実務家を招いて講演をお願いしたいと考えます。各回の内容は前後する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	コース概要 業界の構図
2	ファッションビジネス	日本のファッション業界。ユニクロ、しまむら、グローバルワーク、百貨店等
3	ファッション企業比較	店舗観察から商品の品揃えを比較する
4	繊維アパレル業界からファッション業界へ	昭和から平成へ、その後
5	変化した商社、問屋の役割	伊藤忠商事、三菱商事他 レポート記載
6	レポート1 紡績、繊維工場と縫製工場	日本と海外とのかかわり
7	商品の企画と生産	商品の企画と生産スケジュール ゲストの企業研究
8	ゲスト講演	実務家の講演
9	生産、流通、見積りと小売価格	生産地、流通経路の確定と見積
10	貿易、法律 グループプロジェクト	貿易協定、関税、関税割当、独占禁止法、景品表示法
11	レポートについて 生産管理、品質管理と品質基準 グループプロジェクト	グループプロジェクト計画 品質をどのように保持するか。 グループプロジェクト活動
12	参考文献について オンラインビジネス グループプロジェクト	E-コマース、アプリ グループプロジェクト活動
13	行動規範 レポート2	企業の社会的責任 レポート記載
14	グループプロジェクトまとめ	まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：文献を読む、ウェブサイト参照する。グループワークに関する準備等、宿題としてまとめを提出、等。
復習：プレゼンの準備、パワーポイント資料作成等。レポート準備、等。

【テキスト（教科書）】

必要な文献は前もって授業支援システムで配布します。ホームページ閲覧の企業も事前に連絡します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加とリアクションペーパー（ノート作成と授業のまとめ） - 40%
宿題（グループワークの準備、協力含む） - 35%
個人ワーク（授業内レポートなど） - 25%

全て記述式となります。

遅刻、欠席、宿題の未提出の多い方、及び提出物の要求基準に未達の方は点数が下がります。

評価基準について初回に詳しく説明します。履修を考えている方は初回の授業に必ず出席してください。

特別な理由なく初回欠席の方は、履修できなくなる場合がありますのでご了解ください。

【学生の意見等からの気づき】

「ファッションのマーケットリサーチのやり方、販売戦略の立て方など、小売り現場の戦略の授業かと思ったら違った。」この授業は、店舗や営業の次のステップとして本部商品部等で働く時に必要となる経営学やマーケティングに関連することをファッション業界を例にとり取扱います。

あなたの仕事にどんな戦略が必要か、答えはネットには書かれていません。自分で自分の仕事の戦略を立てるにはどうすれば良いか、授業を通して学んでほしいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にスマホまたはパソコンで情報収集することがあります。

グループプロジェクト時にパワーポイント。予習復習にパソコン。

授業支援システム使用 - 2 回目までに登録、及びメールアドレスのアップデートを行ってください。

授業の連絡事項は授業支援システム及びメールで行います。

【その他の重要事項】

履修人数によりグループプロジェクトの発表方法（プレゼン、レポート、または他の方法）を決定いたします。

【関連科目】

秋学期のグローバル・ファッションビジネス

【実務経験のある教員による授業】

国内外の繊維、アパレル、流通業界で専門職、総合職として勤務経験を持つ教員の授業です。

商品の開発からお客様の手に届くまで、日々様々な困難に直面します。問題点を明確にし、戦略を練り、解決し、売上につなげるためにはどうすればよいか。それを考える授業を行います。

【Outline and objectives】

Students will learn about current fashion businesses and textile/apparel companies in Japan by observing historical and geographical development of these industries. Students will also discuss strategies of these businesses. Moreover, by observing recent business trends, students will analyze the strategies of an individual company as a group project.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ファッションデザイナーが主役の時代は終わりました。誰もが毎日着ている衣服を扱うファッションビジネスは、どのような経緯で現在のファストファッションに代表される大きな1つのグローバルマーケットになったのでしょうか。日本でよく見かける海外ファッションブランドは、海外でどのようなビジネスを行っているのか。ヨーロッパのクチュールから、アメリカのカジュアルチェーン店まで、様々な業態とそのビジネスモデルがどのように発展し現在に至ったかを学びます。業界を問わず、バイヤー、マーチャンダイザー、マーケティングマネジャーなどを指す、「これからの時代を担う学生に必要な力とは何か」をファッションビジネスを通して学び、考えます。

【到達目標】

ヨーロッパ、アメリカ、日本やその周辺国がどのようにかわりあって現在のファッションビジネスが成り立っているのか。各国の現状やサプライチェーンの仕組み、貿易に影響を与える国の方針を理解し、今後、世界のビジネスを牽引していく企業戦略について学生自ら事実や情報を集め、グループワークを通して考えられるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

トピックを分けて、講義、グループワーク、ディスカッション、個人ワークを行います。リアクションペーパー、プレゼンテーション、小レポートなどテーマに合わせて取り入れます。都合がつけば、実務家を招いて講演をお願いしたいと考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

1 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	コース概要。 春学期の復習
2	アメリカのファッション業界	Levi's, Macy's, GAP
3	アメリカ繊維アパレル業界の脅威としての日本、憧れのヨーロッパ	アメリカの市場拡大
4	アメリカのファッション企業のマーケティング戦略	ドレス、カジュアル、スポーツ レポート記載
5	ヨーロッパファッション業界の歴史、戦略	高級ブランドの戦略 LVMH, Gucci & Prada 他
6	ヨーロッパブランドとのライセンス契約	ライセンス契約。特許。トレードマーク、知的財産権
7	ヨーロッパ、アメリカ、日本の比較	業界としての戦略の違い
8	グローバルビジネスの拡大 グローバルソーシングと販売	環境問題、企業の社会的責任 Abercrombie & Fitch, Victoria's Secret, 他
9	イスラムファッション生産国としての中国、東南アジア、東欧、アフリカ、南アメリカ他	なぜ海外調達するのか 各国指数比較
10	ファストファッショングループプロジェクトレポートについて	H&M, Inditex グループプロジェクト計画
11	Inditexグループプロジェクト	採用情報から見る職場、職種、グループプロジェクト活動
12	ファッションテックグループプロジェクト	スタートアップ企業 グループプロジェクト活動
13	参考文献について	グループプロジェクト活動
14	グループプロジェクトまとめ	レポート記載 まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：文献を読む、ウェブサイトを参照する。グループワークに関する準備等、宿題としてまとめを提出。
復習：プレゼンの準備、パワーポイント資料作成等。レポート準備。

【テキスト（教科書）】

必要な文献は前もって授業支援システムで配布します。ホームページ閲覧の企業も事前に連絡します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加とリアクションペーパー（ノート作成と授業のまとめ） - 40%
宿題（グループワークの準備、協力含む） - 35%
個人ワーク（授業内レポートなど） - 25%

全て記述式となります。

遅刻、欠席、宿題の未提出の多い方、及び提出物の要求基準に未達の方は点数が下がります。

評価基準について初回に詳しく説明します。履修を考えている方は初回の授業に必ず出席してください。

特別な理由なく初回欠席の方は、履修できなくなる場合がありますのでご了解ください。

【学生の意見等からの気づき】

「ファッションのマーケットリサーチのやり方、販売戦略の立て方など、小売り現場の戦略の授業かと思っただけだった。」この授業は、春学期に学んだ日本のファッションビジネスの次のステップとして世界に向けて働く時に必要となる経営学やマーケティングに関連することをファッション業界を例にとり取扱います。
あなたの仕事にどんな戦略が必要か、答えはネットには書かれていません。自分で自分の仕事の戦略を立てるにはどうすれば良いか、授業を通して学んでほしいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にスマホまたはパソコンで情報収集することがあります。（英語サイトも使用）

グループプロジェクト時にパワーポイント。予習復習にパソコン。

授業支援システム使用 - 2回目までに登録、及びメールアドレスのアップデートを行ってください。

授業の連絡事項は授業支援システム及びメールで行います。

【その他の重要事項】

履修人数によりグループプロジェクトの発表方法（プレゼン、レポート、またはほかの方法）を決定いたします。

【関連科目】

春学期の戦略的マーケティング

【実務経験のある教員による授業】

国内外の繊維、アパレル、流通業界で専門職、総合職として勤務経験を持つ教員の授業です。

商品の開発からお客様の手に届くまで、日々様々な困難に直面します。問題点を明確にし、戦略を練り、解決し、売上につなげるためにはどうすればよいか。それを考える授業を行います。

【Outline and objectives】

Fashion designers are not leading the industry any longer. Students will learn about current global fashion businesses and textile/apparel companies by observing historical and geographical development of these industries. Students will also discuss future possibilities of these businesses. Moreover, by observing recent business trends, students will analyze the strategies of an individual company as a group project.

MAN200FA-A5405

ものづくり経営論

2～4年次 / 2単位 [秋学期授業/Fall]

三澤 一文

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トヨタが考える理想の車は、孫悟空の「きんと雲」です。今日のトヨタ自動車を築いた豊田英二氏が、理想の車のイメージとして挙げた「きんと雲」は、ものすごいスピードで目的地に着きながら、環境を汚さない、究極の省エネ、そして安全な理想的な乗り物です。このような一般人の想像を絶する理想をめざすことが、日本の「ものづくり」の社会的使命のひとつです。一方、日々のビジネスの競争は、ますます、厳しくなっています。いずれの業界も、コスト競争、スピード競争は激烈です。とくに、日本企業にとって、かつての欧米企業へのキャッチアップ一辺倒の時代は終わり、新興国からの追い上げに負けないようにしなければいけないのが実情です。

本授業は、「きんと雲」のような「理想主義」と、企業の現場での「現実主義」の間での「ものづくり」の葛藤を適切にマネジメントする考え方や方法を習得することが目的です。

【到達目標】

企業の現場にとって、「価格競争に陥らないような独創的な製品を開発したい」「製品開発のスピードで他社より勝りたい」「コスト競争力をもっと上げたい」「高い品質で顧客に満足してもらいたい」といった現実の要望に応えられる考え方や方法論がたいへん重要です。しかし、無理に「ものづくり」のスピードを上げると品質が落ちてしまったり、また、製品の訴求力にこだわり過ぎるとコスト競争に勝てなくなったりします。現実「ものづくり」を成功させるには、相反、矛盾するこれら複数の要望のあいだでの微妙なバランスが欠かせません。本授業を受講することで、以上のような、企業のものづくりの現場で実際に起きている典型的な問題とその原因を理解し、さらにそれらの問題の解決方法を習得し、他の様々な問題解決に応用できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を主体としますが、適時、リアクションペーパー（①授業で興味をもった点、②疑問に思った点、③その他の感想や意見、などを記入し、授業後に提出）を活用し、担当教員と受講生との間の効率的、継続的な双方向コミュニケーションを図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

II 秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	なぜ、あの有名企業は「ものづくり」に失敗したのか？
2	なぜ「ものづくり」にマネジメントが必要なのか？	グローバルな経営潮流と新デジタル技術への取り組みの重要性
3	問題解決型「ものづくり」の重要性	独創性、スピード、コスト、品質のバランス追求
4	なぜ企業は不毛な値引き競争に陥るのか？	コモディティ化のわな、事例紹介、グループ演習
5	脱コモディティの戦略	ブラックボックス戦略、ニッチ戦略、などの事例紹介
6	なぜ企業は商品開発に失敗するのか？	スニーカーゲームの負け組企業の事例紹介など
7	ヒットする「ものづくり」の方法	商品・技術・製品の三つの開発プロセスの連携管理
8	なぜコストダウンは思うようにできないのか？	見えるコストと見えないコスト
9	コストは改善・改革・革新の三位一体で削減	企業事例紹介
10	日本企業はこれからも品質競争で勝てるのか？	そもそも品質の考え方や定義が従来と変わった
11	予期せぬ問題や不具合の発生を防ぐ方法	人間系とIT系の連携、事例紹介
12	「ものづくり」の二律背反問題とは？	企業事例紹介
13	これからの新しい「ものづくり」とは？	AI、IoT、3Dプリンティング、ロボット、拡張現実（AR）などの新技術の活用
14	授業内レポート	本授業で学んだ内容をベースに、気づいたことや、今後、自分なりに応用したいことなどを考察と私見を含めて、できるだけ具体的にレポートしてください。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トヨタでは「ものづくり」の根本は「人づくり」にある、と言われてます。単なる技術的な「モノづくり」は単発で一過性のヒット商品に終わる可能性が大ですが、トヨタのように、事務系、技術系を問わず、すべての人が共通の心がけと心構えで、日々問題解決に努めることができるようになれば、その仕事の進め方やスキルは将来のいかなる業界、業種でも活かされるはず。本授業でも、「ものづくり」と「人づくり」の両方の視点から講義をします。

【テキスト（教科書）】

毎回の講義資料を授業支援システムを通じて事前配布します。

【参考書】

三澤一文 『技術マネジメント入門』日本経済新聞出版社（2007年）、830円＋税

本書の巻末189頁の「より深く理解するためのブックガイド」も参考書として利用してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出含む）75点

授業内レポート 25点

【学生の意見等からの気づき】

AIやロボット、IoT、3Dプリンティングなどを活用する最新のものづくりの考え方をさらに講義内容に追加します。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントと板書を併用して行います。また、授業に必要な資料の配布や課題提出等には授業支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】

担当教員はアクセシビリティやベイン・アンド・カンパニーでのコンサルタント経験、外資系ソフトウェア会社でのマネジメント経験などを有していますので、実社会での多くの事例を講義で紹介いたします。毎回の授業中、授業後の質問を歓迎します。

【関連科目】

「問題解決技法入門」です。また、AIやロボット、IoTなど新技術の経営への応用に関する英語授業での関連科目は **Workshop II**（GBP科目）です。

山口 しのぶ

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】金融資本市場の役割及び証券投資における重要なテーマについて、野村証券社員として豊富な実務経験を重ねた講師陣が14回の講義を通じてリレー形式で解説を行う。

【授業の目的・意義】生きた経済や実践的な金融知識について学び、実生活において金融リテラシーを活用した行動がとれるようになる。

【到達目標】

- ・金融資本市場の役割や経済との関りを理解・習得できる。
- ・「株式」「債券」「投資信託」「外国為替」などの証券市場・投資における各特徴や、分散投資の効用などが理解できる。
- ・自身のライフプランニングや資産形成に必要な金融リテラシーが習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

野村グループの各講師による講義を主軸に進めていきます。適宜授業中に質問を行ったり、計算問題を解いて頂くなど双方向でのやりとりが発生することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	金融市場と私たちの生活がどのように密接に結びついているかを理解し、金融リテラシーを身に着けることの重要性、本講義で学習する意義を理解する。
第2回	経済情報の捉え方	我々の周りにある様々な経済情報を通じて、どのように経済というものが成り立っているかを理解する。企業・家計・国・海外と各項目に分け、関連性を確認する。
第3回	金融資本市場の役割とその変化	重要性が高まっている金融市場への理解を深める為、金融の仕組み、我が国の資金循環の状況、経済と関連した最近の構造的変化などを解説し、今後の展望を交えながら金融市場の役割を理解する。
第4回	証券投資のリスク・リターン	「投資とは」「リスクとは」「リターンとは」という基礎知識と、「リスク・リターン」の関係について学習した後、リスクコントロールの基本的な考え方である「長期投資」の考え方とその具体的手法を学ぶ。
第5回	ポートフォリオ・マネジメント	ポートフォリオ構築の際の重要な要因である「分散投資」の考え方と、その元となる「リスク・リターン」の関係について学習する。
第6回	外国為替相場とその変動要因について	「外国為替」の基本的な事柄を紹介し、外国為替レートの変動要因について確認する。また世界の外国為替の状況を知る。
第7回	債券市場の役割と投資の考え方	債券と預貯金の違い、利回りと単価の関係などの基礎知識を踏まえた上で、債券価格（＝金利）の変動と景気・政策・需給などとの関連について理解を深める。また、債券投資に伴う投資リスクについても学習する。
第8回	株式市場の役割と投資の考え方	株式の誕生からその意義、原則などの基礎知識と、株式投資の魅力や株式市場について解説した後、株価の分析、評価方法を踏まえた銘柄選択の考え方などについて理解を深める。
第9回	投資信託の役割とその仕組み	「貯蓄から投資へ」と資産の流れが強まる中、その先導役として期待される投資信託の理解を深める。投資信託という言葉の意味から、特徴、仕組みなどについて学習する。また、投資信託の選び方や最近注目されている投資信託についても、具体的に学ぶ。

第10回	グローバル化する世界と資本主義の果たす役割	野村ホールディングス名物講師である池上シニア・コミュニケーションズ・オフィサーより、「グローバル化とフラット化の進展による世界の変化と、この新たな時代に何が求められるのか」について学ぶ。
第11回	資本市場における投資家心理	証券投資を行なう際の心構えとして、私たちの投資判断に影響を与える様々な心理的バイアスについて理解するとともに、その具体例を通して対処法と投資行動への応用法を学習する。
第12回	産業展望と投資の考え方	成長産業とこれからの日本に期待される成長戦略について考える。具体的にどの産業がどのように変貌するのかを可能な限り具体的解りやすく解説する。なぜライフプランが必要なのか、ライフプランを踏まえた資産管理の重要性、そしてその方法を具体的に紹介する。特に、資産形成制度を詳しく取り上げ、いま話題の少額投資非課税制度（NISA、ニーサ）についても紹介する。ライフプランニングの実践にあたり、資産形成の基礎となる NISA 等の非課税制度に関して学ぶ。また、近年、制度の充実により加入者が拡大中の確定拠出年金に加え、国民年金や財形制度に関してもその概要を学ぶ。
第13回	ライフプランニングと資産形成	
第14回	資産形成と非課税制度	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義用資料による事後学習が望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、各回の講義資料を授業支援システムにて事前に配信予定。

【参考書】

「証券投資の基礎」野村証券投資情報部 編/丸善株式会社

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%、小レポート提出 20%（14回の講義のいずれかで2回実施。当日の講義内容のポイントを箇条書きで3点まとめて提出）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

講義の1週間前を目途に、授業支援システムにて講義資料を配布予定です。

【実務経験のある教員による授業】

全講義の講師が証券業界・あるいはアセットマネジメント業界において勤務しています。証券投資提案、ライフプランニング、トレーディング、M&A、アセットマネジメントなど各分野で活躍中の人材が最前線で起きている経済事象についての実例を交えながら講義を行います。

【Outline and objectives】

Role of the Capital Markets and the Securities Investment

ART300ZA

Topics in Contemporary Art

Akiko Mizoguchi

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
 Day/Period : 水 4/Wed.4

【Others】

Do not miss the first class as a selection process may occur.

【Prerequisite】

None.

【Outline and objectives】

Since the early 20th century we have witnessed a number of artistic movements: the birth of conceptual art, abstract expressionism, the rise of pop art and minimalism, the extension into earth, body, the movement toward performance, video, installation, and public art. Amidst all these transformations, how does contemporary art continue to make meanings, communicate, become significant to us? This course looks at various topics in contemporary art and closely examines how art functions in our society. Artistic practices in Europe, North America, Japan and other Asian countries are mainly examined.

【Goal】

Students will learn major movements, artists and terms in contemporary art.

Students will become active and discerning participants/viewers of contemporary art, equipped with basic analytical frameworks.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes combine lectures, video clips, discussions, and student presentations. In addition, students are required to attend at least one off-campus museum or gallery exhibition relevant to the class (determined by the instructor). Students will then make presentations and write their research papers. Students need to be aware that some works shown in class may address controversial issues such as homophobia, racial prejudice, and may include nudity.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course (A selection process may occur)
2	Is This Art?	(1) Group discussions on “The Way Things Go” (2) Modern to contemporary: challenges to perspective & duchamp
3	Art Movements:1960s-	Conceptual art, Fluxus, Minimalism
4	Art Movements: 1950s-	Abstract Expressionism, Action Painting, Postwar Figurative Art
5	Art Movements: 1960s-	Pop Art, Neo Pop, Simulationism
6	Art Movements: 1960s-	Video Art
7	Art Movements: 1960s-	Body Art & Performance
8	Art Movements: 1970s-	Feminism, gender as fiction
9	Art Movements: 1980s-	New Painting (Neo Expressionist Painting), Relational Art, Participatory Art
10	Art Movements: 1990-	Transbody (prosthetics, rubber suits, plastic surgery & sports)
11	Research Workshop 1	Student presentations 1
12	Research Workshop 2	Student presentations 2
13	Research Workshop 3	Student presentations 3
14	Summary	Summary and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students need to keep up with the readings and must be prepared for class discussions. As part of their research, students are required to make at least one visit to an art exhibition suggested by the instructor in order to prepare their presentations and research papers.

【Textbooks】

No textbook will be used. Readings will be made available on H'etudes or distributed as handouts.

【References】

References will be made available on H'etudes.

【Grading criteria】

Final grades are determined by contribution to class discussions (30%), a brief presentation (10%) and a project paper based on a field trip to an art exhibition and research (30%), and the final exam (image identification and essay questions) (30%).

【Changes following student comments】

More art movements have been added.

HSS203LB

スポーツ方法論/スポーツ方法論 I

笠井 淳

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フィジカルトレーニングの理論について、講義及び実践を通し、理解を深める

【到達目標】

- ・ トレーニングの理論について、理解を深める
- ・ 競技者としての活動に役立てるまで、理解を深める
- ・ 指導者としての活動に役立てるまで、理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

スポーツトレーニングにはテクニカルな面とフィジカルな面がある。この授業では後者のフィジカルトレーニングを取り上げ、トレーニング理論のより高い理解とその実践を内容とする。将来、指導をする際および競技パフォーマンス向上のために役立ててもらいたい。

講義中心であるが、テーマによってはディスカッションも取り入れる。また実技も行なう。毎授業、リアクションペーパーの提出を義務付ける。

招聘指導者講義を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業計画概要	授業内容について説明する
2	「POMS」法、心理テストの実施及び解説	心理テストを実施し、その評価について説明する
3	体力とは	体力について説明する
4	フィットネスの基礎及び発育発達とトレーニング	フィットネス及び発育発達とトレーニングについて説明する
5	トレーニングの理論	トレーニング理論の3原理5原則について説明する
6	トレーニング計画	「トレーニング計画の重要性」について説明する
7	筋力トレーニングの理論及び方法	筋力トレーニングの理論及びトレーニング方法について説明する
8	パワートレーニングの理論及び方法	パワーの理論及びトレーニング方法について説明する
9	パワートレーニングの実践	パワートレーニングの方法を実践する（外部講師）
10	スピードトレーニングの理論及び方法	スピードトレーニングの理論及びトレーニング方法について説明する
11	持久力トレーニングの理論及び方法	持久力の理論及びトレーニング方法について説明する
12	PDCA サイクル	PDCA 理論について説明する
13	ディスカッション	トレーニングについてのディスカッションを行う レポート課題
14	まとめ	授業内容をまとめる レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週のテーマについて準備すること
各自の毎日のトレーニングについて日誌をつける等トレーニング管理を行うこと

しっかりとした健康管理を行なうこと

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価は

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%
- 2) 課題・レポート・発表 40%

この配分とし総合評価する。

長期遠征や合宿等で欠席が多くなる受講者は個別に対応・評価する

【学生の意見等からの気づき】

学生のニーズにできるだけ沿った内容を準備する。

【その他の重要事項】

スポーツ・トレーニングに興味のある学生、将来指導者を目指す学生、個人の競技パフォーマンス向上を目指す学生など、男女を問わず多くの学生の参加を希望します。

授業の進捗状況により授業計画の変更もあります。

◀ 受講についての注意 ▶

2014年度以前入学者が履修する場合、「スポーツ方法論 I」となります。

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide students with better understanding of physical training theory through lectures and practical physical exercise.

HSS211LB

スポーツビジネス論 I

岩村 聡

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1980年代からスポーツビジネスは急速に発展した。今日のスポーツビジネスを動向を探るためにはスポーツマーケティングを理解しなければならない。本授業ではマーケティングの基礎理論をふまえ、スポーツマーケティング独自の理論と合わせ発展してきたスポーツビジネスにおいてその基礎理論等を理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義は、(1) マーケティングとスポーツマーケティングの関係、(2) 消費者行動論からみたスポーツ消費の特性、などを理解し、は、マーケティングの基礎的な理論をベースに、スポーツビジネス戦略を理解することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

スポーツビジネスでの成功や失敗の実際事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ（放送や、権利など）について、特に重点的な講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	スポーツビジネスの使命	スポーツビジネスの使命とは
第2回	スポーツの価値	なぜスポーツが注目されるか
第3回	スポーツマーケティングの特性	スポーツマーケティングの誕生、スポーツマーケティングの定義、等
第4回	スポーツ市場の理解	スポーツ産業の特性、スポーツ市場の構造と規模
第5回	マーケティングの基礎	スポーツマーケティングにおけるプロダクト論
第6回	スポーツビジネスにおける価格政策論	価格形成のメカニズム、価値感と消費者心理
第7回	スポーツビジネスにおけるプロモーション論	コミュニケーションの原理、スポーツ組織のプロモーションミックス
第8回	スポーツ消費者の理解	スポーツ消費者の特性、スポーツ消費者の意思決定過程
第9回	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの分類、スポーツ参加における心理的要因
第10回	観戦型スポーツの消費者	観戦型スポーツの分類、心理的連続モデル、スポーツ観戦動機、等
第11回	スポーツマーケティングにおけるSTP座	セグメンテーションの基礎、標的市場の設定と評価
第12回	スポーツマーケティングとマーケットリサーチ	マーケットリサーチの手順、調査の実施・分析・報告
第13回	スポーツ・スポンサーシップ	マーケティングの問題意識とスポーツの接点
第14回	スポーツ・ブランドのマーケティング	ブランドとブランディング、アスリート・ブランディング、等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講期間中はスポーツビジネスに関するニュースなどを読んだりし積極的に情報収集すること

【テキスト（教科書）】

仲澤眞・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【参考書】

仲澤眞他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 30%、小テスト 30%、学期末の課題 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年と同様に静粛な授業環境を保つよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this course isto understand basic theory etc in the sports business which has been developed together with sports marketing original theory.

HSS212LB

スポーツビジネス論Ⅱ

岩村 聡

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるか、を学ぶ。授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論Ⅰ」の履修者が望ましい（条件ではありません）。

【到達目標】

スポーツビジネスの諸問題について理解を深めること
スポーツビジネスの諸問題について解決策を提案できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークを中心に進めます。グループワークではそれぞれの役割がありますので、必ず毎回出席をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方などの説明
第2回	グループワークⅠ①	課題Ⅰの説明、グループ分け、情報収集
第3回	グループワークⅠ②	情報収集、ディスカッション
第4回	グループワークⅠ③	ディスカッション、発表準備
第5回	プレゼンテーションⅠ	グループごとに発表をおこなう
第6回	グループワークⅡ①	課題の説明Ⅱ、グループ分け、情報収集
第7回	グループワークⅡ②	情報収集、ディスカッション
第8回	グループワークⅡ③	ディスカッション、発表準備
第9回	プレゼンテーションⅡ	グループごとに発表をおこなう
第10回	グループワークⅢ①	課題の説明Ⅲ、グループ分け、情報検索
第11回	グループワークⅢ②	情報収集、ディスカッション
第12回	グループワークⅢ③	ディスカッション、発表準備
第13回	プレゼンテーションⅢ	グループごとに発表をおこなう
第14回	まとめ	本授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間以外にもグループメンバーで集まって、情報収集、ディスカッション、発表準備を進めてもらいます。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配布します。

【参考書】

仲澤真・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」ミネルヴァ書房
仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 20%、グループワークの参加状況 20%、学期末の課題 20%、プレゼンテーション 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが好評でした。今年度も活発な活動ができるよう努めます。

【その他の重要事項】

本講義はグループワークを行うため、スポーツビジネス論Ⅰを受講していない場合は、知識を補うための補講をする場合があります。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to deepen understanding through information gathering, discussion and presentation on set issues on various problems of modern sports business

HSS216LB

スポーツメディア論

海老名 徳雪

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東京五輪開催まで1年半。予想以上に多くの課題を抱えつつ、準備が進む。メディアはその動向を伝える機関として極めて存在感が大きく役割が重要視される。傍らメディアの側の変貌は急速だ。文字・映像を武器にメディアが五輪、スポーツを、また周辺の変容をどんな視点で捉えているか、「メディア」を知ることで社会の実相に迫ることが可能になる。

【到達目標】

新聞、放送の既存メディア、若者に圧倒的に支持されるニューメディア。手段こそ違え取材の理念は共通である筈だ、その理念と扱う情報の選択を詳細に検証することで、メディアの意図を理解できる。また、スポーツ報道に於けるメディアの成長の軌跡と現実を理解することで、今後著しい変化が予想されるメディア業界に対応出来る能力を磨く。さらにメディアの表現方法を吟味することで自らの表現力を高めることが可能になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

スポーツ界の幅広い知識を得る目的で講義を主体とする。五輪を中心に日々のスポーツ関連のニュース記事、テレビ番組も素材にする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることで、メディアの役割に対する理解が深まる。講義では「今、スポーツは」という日常の動きを敏感に感じ取って貰い、随時ミニレポートとして報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの組織	新聞、放送の既存メディア、そして急成長のニューメディア。その組織と活動から、ニュース報道の中でスポーツの占める位置は。
2	スポーツニュースはどう決まる	ニュースに定義はない。ニュースパリュウの基準はなにか。ニュースが受け手に伝わるまでの取材者の行動は。
3	ジャーナリストとしてのスポーツ記者	スポーツ記者は試合取材だけが仕事ではない。競技場を離れたスポーツ界の様々な問題で繰り広げられる激しい取材合戦でこそ真価が問われる。記者はどう動くのか。
4	ニュースの言葉とスポーツ選手の表現力	活字は一つの事象を重層的、多面的に表すことが可能である。新聞の一行の見出しから編集者の心情を読み取る。スター選手のマスコミ対応は特徴的で個性が出る。
5	活字メディアの歴史と影響力	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げて来た。一般紙とスポーツ紙、それぞれの報道スタンスの違いを見る。
6	電波メディアの歴史①	活字より後発組の電波メディアは急激に成長した。そして、なお発展途にある。放送の歴史を辿る。
7	電波メディアの影響②	放送はいまやスポーツそのものを動かす大きな力。競技ルールの変更もテレビを意識する。
8	ドキュメンタリーを見る	ドキュメンタリーはディレクターの腕の見せどころ。番組制作の裏を見る。対象番組は未定。
9	スポーツ中継は装置産業	スポーツ中継番組の制作は大掛かりなシステムを構築する点で装置産業に近い。年々新機軸が登場する中継の規模を知る。
10	放送権及びメディア主催イベント	放送権は五輪から国内のイベントまで及ぶ。メディアがイベントそのものを主催してきた歴史も長い。メディアの狙いは何か。

1 1	オリンピックとメディア	メディアは五輪を機に技術力を向上させ、演出面を磨いてきた。一方で、五輪は商業化、肥大化の弊害が明らか。その歴史を辿り、20年大会を考える。大量に発信されるメディアからの情報にファンはどう反応しているか。新聞、放送局に寄せられる諸々の意見からスポーツとメディアに対する世論が見える。
1 2	受け手の反応	メディアを巡る環境は激変。放送と通信の融合、紙媒体は電子版の普及に力を入れ、携帯その他のツールも多様化、マスメディア終焉の声もある。
1 3	ニューメディア①	誰でもが情報発信の時代。SNSの功罪は。不透明なメディアの将来とこれからのスポーツ界は。
1 4	ニューメディア②	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ、出版物、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続ける。その個々の報道に対し、個人の意見を常に持つ。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

「テレビ最終戦争」大原通郎 朝日新書
「メディア不信」林香里 岩波新書
「IOC・オリンピックを動かす巨大組織」猪谷千春 新潮社

【成績評価の方法と基準】

講義の理解度を見る授業後のミニレポート、期末のレポート（70%）と平常点（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「取材上の苦心」「メディアの裏側」等新しい発見があったという反応が多い。運動部の学生は「メディアの大切さを実感した」という声もあった。メディアの現実・現状をさらに理解しやすい授業を工夫したい。パワーポイントの工夫も考えている。

【その他の重要事項】

20年五輪がすぐそこに来た。スポーツイベントの枠を超えた国家的事業である。スポーツ以外の分野にも大きく影響する。その五輪・スポーツ界をメディアの報道を通して知ることの意義は大きい。

【Outline and objectives】

The mass media has been changing because of the spreads of social media.

The aim of this course is to acquire the knowledge of the mass media to study the Olympic reports from the past to the present.

HSS218LB

アスリートキャリア論

笠井 淳

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリート及び社会人としてのキャリア意識について理解を深める。

【到達目標】

アスリートとしてのキャリア形成及び、「社会人になる為のキャリア意識」を持つこと。大学入学後早い時期に「キャリア意識」を真剣に考え、ワークショップ等をも経験し、又社会人経験者の話も良く聞き、確信あるキャリア意識を確立する事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

「キャリア意識」醸成、方向、向上のために、実際に現在企業人として、アスリートとして、又アスリートを育成している指導者として、経営者等として活躍されている法政OB・OGの方々を中心に特別講師としてお招きし、講演、担当教員によるインタビュー等により

①在学中、何時頃人生における自分の生きる道、職業等を考えたか

②自分の道、職業を決定づけたものは何か

③学生時代に身につけた教養、専門知識、スポーツで培った人間性等を企業や社会でどう生かせるか

④社会人として仕事をしていて先輩として学生のキャリア形成に一番アドバイスしたいこと、言いたいこと等を聞きながら授業を進める。

⑤アスリートのキャリア育成についてアドバイスを頂く。又学生からの質問を受け付け、講師との質疑応答の時間も取りたい。第2回～14回は講師の事情によりテーマ、内容、順番等を変更せざるを得ない場合もあります。ご了解下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	到達目標、テーマ、概要、方法につき説明する。
第2回	特別講師/指導者とは	指導者の資質とは何か。経験の中から得られた教訓等について講義
第3回	特別講師/世界トップの現状	プロスポーツの世界の現状等について講義
第4回	特別講師/指導現場でのリーダーシップ	大学生の指導における必要な資質について講義
第5回	特別講師/トップアスリートからの助言	現役オリンピック選手から学生へのアドバイス
第6回	特別講師/トップアスリートから仕事へ	アスリートの経験をどのように仕事に生かすか
第7回	特別講師/スポーツクラブの必要性	地域スポーツクラブの現状と役割、スポーツ振興について講義
第8回	特別講師/日本スポーツ界の現状	日本体育協会の役割、国体の現状と今後の課題、指導者の役割について講義
第9回	特別講師/世界を目指す指導①	世界で活躍できる選手の育成と指導について講義
第10回	特別講師/大学クラブの指導	高校生及び大学生の指導におけるノウハウについて講義
第11回	特別講師/トレーナーとは①	トレーナーと選手の関り、仕事の内容について
第12回	特別講師/世界を目指す指導者	トップチームの世界への挑戦。選手育成と指導の厳しさについて
第13回	学生の考え（ディスカッション）	自分のキャリア形成についてディスカッションする レポート課題
第14回	授業のまとめ	授業の総括。レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講師につき受講する前に予め書物、インターネット等を活用し授業にのぞむ事が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは決めません。

【参考書】

随時必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参画状況・60%
- 2) 各回のレポート 20%
- 3) 課題レポート 20%

この配分とし、総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義における話のスピードが速や過ぎる傾向があるのでその辺を注意して講義を進めたい。

【その他の重要事項】

- ・各回の授業順序、テーマ、特別講師については講師の特別な事情により変更する場合もある。
- ・授業における遅刻はないように。
- ・忌引き、競技に於ける試合の為の欠席等については配慮する。

【Outline and objectives】

This course has been designed to enhance studentt awareness on career opportunities as athletes and members of society.

HSS145LB

オリンピック・パラリンピックを考える

鈴木 良則

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際オリンピック委員会はオリンピック競技大会を開催し、国際パラリンピック委員会はパラリンピック競技大会を開催しています。2020 年 7 月 24 日～8 月 9 日、東京で第 32 回オリンピック競技大会が開催されます。つづいて、2020 年 8 月 25 日～9 月 6 日に東京 2020 パラリンピック競技大会も開催されます。以下、2 つの大会をまとめて「東京 2020 大会」と呼びます。本学は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、組織委員会）と協定を締結し、連携してゆく方針を定めています。そこで、科学と文化としてのスポーツの理解を目指す SSI では、本科目を開講し、東京 2020 大会のビジョンと概要を学びます。そして、大会にどのように参画し（アクション）、大会をきっかけにしたアクションの成果をどうやって未来に継承するか（レガシー）について考えます。

アクション&レガシーの 5 本の柱とは、「スポーツ・健康」、「街づくり・持続可能性」、「文化・教育」、「経済・テクノロジー」、「復興・オールジャパン・世界への発信」です。

なお本科目は、公開科目（履修できる学年は所属学部によって異なる）にもなっています。そして、本学の 3 つの付属高生の聴講も認めています。

【到達目標】

1. 東京 2020 大会のビジョンを説明することができる。
2. 東京 2020 大会のアクション&レガシーについて理解し、説明することができる。
3. 東京 2020 大会と自らのキャリアとの関連について考え、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

本学教員をはじめとして、各回のテーマに最適の講師（ゲストスピーカー）が、授業を担当します。毎回の講師は、自身の専門とするテーマについて、東京 2020 大会と関連させながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の全体像や進め方を理解し、説明できるようになる。
第 2 回	東京 2020 大会の概要	東京 2020 大会の概要を理解して、説明できるようになる。
第 3 回	「スポーツ・健康」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 4 回	「文化・教育」(1)：オリンピックの平和運動	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 5 回	「文化・教育」(2)：オリンピックの文化プログラム	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 6 回	オリンピック・パラリンピックの歴史	オリンピック・パラリンピックの歴史を理解して、説明できるようになる。
第 7 回	「街づくり・持続可能性」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 8 回	「街づくり・持続可能性」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 9 回	「スポーツ・健康」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 10 回	「経済・テクノロジー」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 11 回	「経済・テクノロジー」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。

- 第12回 「復興・オールジャパン・世界への発信」(1) 講師(ゲストスピーカー)による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようにする。
- 第13回 「復興・オールジャパン・世界への発信」(2) 講師(ゲストスピーカー)による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようにする。
- 第14回 まとめ 到達目標に到達したことを認識することができる。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回のテーマについて事前に調べて、論点を考えた上で出席してください。各回の授業で学んだことについて、自分で調べることで、学びを深めてください。

東京2020大会に関連するイベントが学内外で開催される場合は、授業内で随時告知しますので、積極的に参加してください。

【テキスト(教科書)】

テキストは設定しません。必要に応じて、資料配付・文献紹介を行います。

【参考書】

授業時間内に、各回の講師から紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2/3の出席を成績評価の条件とした上で、「毎回の授業レポート50%」「期末レポート50%」で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度のため、ありません。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカーの都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。教室の収容人数の関係で、SSI生以外の学生の履修は制限される場合があります。受講者の選抜を行う可能性がありますので、初回の授業には、必ず出席してください。

この授業で学んだことと、学部での学びとの関連を模索することで、あなたにしかできない東京2020大会への関わり方を探して欲しいと思います。そのことが、「スポーツの文化的価値を発信できる人材の育成を目指す」というSSIのポリシーを体現することになると考えています。

【Outline and objectives】

Know the current situation of the Olympic and Paralympic
Learn what to do for the 2020 tournament.

Also, I would like you to think about sports culture widely.

HSS203LB

スポーツ方法論/スポーツ方法論 I

佐藤 祐輔

配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

スポーツにおいてより高いパフォーマンスを発揮するためには、アスリート自身がスポーツ障害・外傷への対応や身体コンディショニング方法を身につけることが重要である。本講義では、スポーツで好発する各関節の障害・外傷におけるリスク因子やメカニズムを学び、受傷直後から復帰までのコンディショニングやトレーニング方法および予防方法を身につける。つまり、アスリート自身が障害・外傷からの復帰過程や障害・外傷の発生を予防する過程を学習し、自己管理能力を養うことが本講義の目的である。

【到達目標】

- ・自らのスポーツにおいて好発する障害・外傷に関する理解を深める。
- ・急性期のスポーツ障害・外傷の対処法に関する理解を深める。
- ・スポーツ障害・外傷からの復帰または発生を予防するためのコンディショニングやトレーニング方法に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に授業は講義中心で行う。内容によっては講義の中に一部実技も取り入れる。

毎回、授業の終わりに、授業内で学んだ内容に関する簡易的な筆記テストを行い、筆記テストの解答用紙とリアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・授業計画概要	授業の全体像、進め方、到達目標等を説明する。
2	スポーツ障害・外傷の基礎知識と応急処置方法	スポーツ障害・外傷に関する基礎的な知識とスポーツ現場で行う応急処置方法について学習する。
3	頭部・顔面のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	頭部・顔面のスポーツ障害・外傷、特に脳震盪に関する基礎的な知識と対処法について学習する。
4	脊椎のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	脊椎のスポーツ障害・外傷、特に腰部障害に関する基礎的な知識と対処法について学習する。
5	肩のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	肩のスポーツ障害・外傷、特に投球障害肩・肩関節脱臼に関する基礎的な知識と対処法について学習する。
6	肘・手のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	肘・手のスポーツ障害・外傷、特に投球障害肘・テニス肘に関する基礎的な知識と対処法について学習する。
7	股関節・骨盤のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	股関節・骨盤のスポーツ障害・外傷、特にグロインペインに関する基礎的な知識と対処法について学習する。
8	膝のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	膝のスポーツ障害・外傷、特に前十字靭帯損傷・半月板損傷に関する基礎的な知識と対処法について学習する。
9	下腿・足のスポーツ障害・外傷の基礎知識と対処法	下腿・足のスポーツ障害・外傷、特に足関節捻挫・シンスプリントに関する基礎的な知識と対処法について学習する。
10	骨折・疲労骨折・肉離れの基礎知識と対処法	スポーツ障害・外傷に好発する骨折・疲労骨折・肉離れに関する基礎的な知識と対処法について学習する。
11	スポーツ復帰・予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法	スポーツ障害・外傷からの競技復帰や発生予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法について学習する。
12	腰部のスポーツ障害・外傷に対するコンディショニングおよびトレーニング方法	腰部のスポーツ障害・外傷、特に腰椎椎間板ヘルニア・腰椎分離症に関する競技復帰や発生予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法について学習する。

- 13 上肢のスポーツ障害・外傷に対するコンディショニングおよびトレーニング方法
上肢のスポーツ障害・外傷、特に投球障害肩・肩関節脱臼に関する競技復帰や発生予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法について学習する。
- 14 下肢のスポーツ障害・外傷に対するコンディショニングおよびトレーニング方法
下肢のスポーツ障害・外傷、特に前十字靭帯損傷・半月板損傷に関する競技復帰や発生予防のためのコンディショニングおよびトレーニング方法について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週のテーマについて参考書などを用いて事前に学習すること
しっかりとした健康管理を行なうこと

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

- ・スポーツ医学検定公式テキスト 2級・3級 東洋館出版社
- ・スポーツ医学検定公式テキスト 1級 東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業への参画状況：45% 2) 課題・期末レポートの内容：35% 3) 授業態度：20%

授業中の活動に対する参画状況について：授業中の活動には平常点およびリアクションペーパーへのコメントも含めます。常識的な態度、かつ積極的な授業への参加を期待します。

簡易テスト・期末レポートについて：毎授業の終わりに簡易的なテストを実施します。期末レポート提出は締切期限厳守の上、点数は非公開とします。なお、成績評価にあたり、期末レポートの提出は必須とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生の実施しているスポーツやニーズに、できるだけ沿った内容を準備する。

【学生が準備すべき機器他】

身体を動かす実習をする場合がある。その際には運動着および室内履きを用意して貰う。授業内で実習の日は指示をする。

【その他の重要事項】

スポーツ・トレーニングに興味のある学生、将来指導者を目指す学生、個人の競技パフォーマンス向上を目指す学生など、男女を問わず多くの学生の参加を希望します。

授業の進捗状況により授業計画の変更もあります。

<< 受講について >>

2014年度以前入学者が履修する場合、「スポーツ方法論Ⅰ」となります。

【Outline and objectives】

In order to show maximum performance in sports, it is important for athletes themselves to cope with sports injuries/trauma and to learn how to condition their bodies. In this lecture, you will learn the risk factors and mechanisms of injuries and trauma of each joint that are common in sports, and acquire prevention methods and conditioning, training method from immediately after an injury to returning. In other words, the purpose of this lecture is that athletes themselves learn the process of recovering from injuries/trauma, preventing injuries/trauma, and enhance self-management skills.

HSS209LB

リーダーシップ論Ⅰ

浅井 玲子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：リーダーシップに関わる理論を学び「リーダー」とはどのような存在かを考える

本授業ではスポーツに関わる視点を中心にリーダーシップに関する理論を学び、すぐれたリーダーシップを発揮するための持論構築に寄与することを目指します。リーダーとして身につけるべき知識の習得と合わせ、それぞれが「自分の持ち味を活かしたリーダーシップ」について考える礎となることを期待します。

リーダーシップについての概念を学び、それを踏まえて実際のモデルや理論を知るなかで、自分自身の理想のリーダーシップについての考えを深める機会とします。

【到達目標】

- ・リーダーシップを自分自身の問題として捉える
- ・リーダーシップに関する理論や背景となる知識を習得する
- ・自分自身がチームに及ぼす影響を知る
- ・自分らしいリーダーシップのスタイルについてのイメージを獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

講義形式の学習と合わせて、グループワーク形式の実習、自己分析などを通じて、「自分の影響力」や「自分なりのリーダーシップ」について振り返りを実施し、授業内での課題やリアクションペーパーの提出を行います。

テーマに応じて、実際に第一線で活躍するリーダーを招聘し、体験や持論を伺う機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・リーダーシップとは	・授業の概要説明、成績評価に関する説明、授業の進行と諸注意 ・リーダーシップとは
2	【リーダーシップの定義と学び方】 リーダーシップに関する様々な理論①	・コームスの理論 ・優れたリーダーの共通点 ・リーダーシップと人間観
3	【リーダーシップの定義と学び方】 リーダーシップに関する様々な理論②	・自己概念とは ・ジョハリの窓
4	【リーダーシップの定義と学び方】 リーダーシップに関する様々な理論③	・資質アプローチ ・行動アプローチ
5	【リーダーシップに関わる行動】 オハイオ州立大学の研究	・配慮と構造づくり
6	【リーダーシップに関わる行動】 リーダーシップと動機づけ	・動機づけとパフォーマンスの関係 ・動機づけを高めるリーダーシップとは
7	【特別講演】 リーダーシップのモデル	・スポーツ指導におけるリーダーシップの実際（外部講師招聘予定）
8	【リーダーシップと対象理解】 エリクソンの心理社会的発達論	・発達段階に関する理解 ・発達段階に応じたリーダーシップとは
9	【リーダーシップと対象理解】 対象理解のためのコミュニケーション①	・コミュニケーションに関する視点
10	【リーダーシップと対象理解】 対象理解のためのコミュニケーション②	・コミュニケーションにおける自己のスタイルの理解（グループワーク）

11	【リーダーシップとチームビルディング】 チームとは何か	・チームとは何か ・集団規範
12	【リーダーシップとチームビルディング】 チームとは何か	・「場の理論」 ・チームビルディング実習
13	まとめ	まとめ、リーダーシップ論Ⅱへ向けての展望
14	授業内試験	習熟度確認のための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備として、「リーダー」や「リーダーシップ」に関する時事事象を各自でチェックする習慣をつけてください。授業内で発言を求められることがありますので、「自分自身のモデル」となるリーダー像を持って授業に臨みましょう。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内評価 50 %
- ・期末試験 50 %

【授業内評価】

毎授業、自身の意見や感想などをリアクションペーパーに記述、提出し、その内容を評価対象として重視します。また、授業内で実施するグループワークとその振り返りについての成果も成績評価の対象とします。

【期末試験】

最終講義において論述形式の試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークや自己分析により気づきや学びを多く得たという意見を参考に、本年度も授業に積極的に参加できるような活動を取り入れる予定です。

【その他の重要事項】

外部講師招聘や授業内容の順序などについては、諸般の事情を考慮して変更となる場合があります。その際には事前告知を行い、なるべく早い段階での周知に努めます。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of theories on leadership, and also consider about ideal leadership in your team. The work of the course is done via lecture and group works.

The goals of this course are to

- ・ Obtain basic knowledge about the theories on leadership
- ・ Discover individual ideal leadership style

Your final grade will be calculated according to the following process:

- ・ Class attendance and attitude in class, contribution to group work: 50%
- ・ Term-end examination: 50%

This course will be taught in Japanese.

HSS210LB

リーダーシップ論Ⅱ

浅井 玲子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては、リーダーシップとは特別な資質や役割を与えられた者だけに存在するのではなく、あらゆる組織に属する成員すべてが互いに発揮し合うものだと考えます。

リーダーシップについて心理学的観点から理解を深め、「シェアードリーダーシップ」について、講義やグループワークなどの体験を通じて学びます。リーダーシップについての見識や自己理解を深め、「自分自身のリーダーシップ」の発見や確立を目指すことが本講義のテーマです。

【到達目標】

- ・リーダーシップに関する理論や背景となる知識についての理解を深める
- ・自分自身の持ち味を知り、「自分なりのリーダー像」を確立する
- ・所属する組織において、自身のリーダーシップを活かす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

リーダーシップ論Ⅰの内容を踏まえ、実際に自分自身がリーダーシップを発揮する際のイメージをより明確にすること、また自分自身のこれまでのリーダーシップ体験を振り返り、自己理解を深めることを目指します。

授業内では、講義によってリーダーシップについての見識を深めるとともに、自分自身のスタイルを確認するための測定や、それぞれの体験を分かち合うためのグループワーク（発表を含む）を多く予定しています。また、さまざまなスポーツの時事事象に関する考察や、ゲスト講師による特別講義も予定しています。

授業内での体験を通じて、気づいたことや学んだことをリアクションペーパーに記入し、毎回提出をします。授業内でチームで取り組む課題の成果と合わせて、最終授業において、論述形式の授業内試験を行い、評価に反映します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項
2	【リーダーシップに関する研究】	・リーダーシップとは ・組織が変わるためのリーダーの行動
3	【リーダーシップに関する研究】 ジョン・P・コッターの理論	・支配の類型 ・官僚制の特徴
4	【リーダーシップに関する研究】 PM リーダーシップ理論	・PM リーダーシップ理論とは ・P 行動と M 行動 ・グループワーク「課題解決と P/M 行動」
5	【リーダーシップに関する研究】 4つのリーダーシップ	・4つのリーダーシップスタイル ・実習「あなたのリーダーシップスタイルは？」
6	【リーダーシップとリーダー哲学】 価値観	・リーダー哲学とは ・リーダー哲学を支える価値観 ・グループワーク「価値観について」
7	【特別講義（予定）】 リーダーシップとリーダー哲学	スポーツの現場におけるリーダーシップとリーダー哲学 (外部講師招聘予定)
8	【リーダーシップに関するスキル】 リーダーシップとコミュニケーションスキル	・「聴く」スキル ・「伝える」スキル ・実習「聴くスキル・伝えるスキルのトレーニング」
9	【リーダーシップに関するスキル】 リーダーシップとコミュニケーションスキル	コミュニケーションスタイルの評価・診断
10	【リーダーシップと関係性】 影響力	グループワーク「あなたの影響力とは」

11	【リーダーシップに関する実践】	グループワーク「課題解決実習」
12	【リーダーシップへの視点】 交流分析	・構造分析 ・ライフボディション
13	まとめ	まとめ、リーダーシップⅡの整理
14	授業内試験	論述形式による試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内において、スポーツやリーダーシップに関わる様々な時事事象を取り扱う予定です。また、自分自身の理想とするリーダーシップのスタイルに関する見解が求められる場面が想定されます。そのことを踏まえ、授業外においても様々な情報を積極的に収集する姿勢を期待します。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しません。

【参考書】

特にありません。
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内での活動における達成度や参加姿勢として、授業内で行うグループ課題への取り組みを重視します（20%）。リアクションペーパーによるミニレポート（30%）、最終講義での論述形式の試験（50%）によって総合的に成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学年や部の単位をこえたグループによる活動を通じて、より交流や自己理解が深まったという感想を毎年受けています。また、自分自身のチームに持ち帰り、活用したいという意見が多かったことを受けて、より活用しやすい内容を目指します。
本年度も様々な履修生との交流を通じて学びあうことができる環境を整えるように努力します。

【その他の重要事項】

・各回の授業順序、特別講師は講師の特別の事情等により変更する場合もあります。その際には事前にお知らせします。
・忌引き、感染症、競技における試合の為に欠席等については、所定の用紙に必要事項を記入したものを担当教員に提出し指示を受けてください。
・リーダーシップ論Ⅰで扱う内容を習得後に履修することが望ましいですが、履修に関してこの点における制限はありません。

【Outline and objectives】

This course introduces the psychological theories on leadership, and also consider about shared leadership. The work of the course is done via lecture and group works.

The goals of this course are to

- ・ Obtain knowledge about leadership
- ・ Practice individual ideal leadership style in your team

Your final grade will be calculated according to the following process:

- ・ Contribution to group work: 20%
- ・ Short report in classes: 30%
- ・ Term-end examination: 50%

This course will be taught in Japanese.

HSS218LB

アスリートキャリア論

成田 道彦

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリート及び社会人としてのキャリア意識について

【到達目標】

アスリートとしてのキャリア形成及び、「社会人になる為のキャリア意識」を持つこと。大学入学後早い時期に「キャリア意識」を真剣に考え、ワークショップ等をも経験し、又社会人経験者の話も良く聞き、確信あるキャリア意識を確立する事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

「キャリア意識」醸成、方向、向上のために、実際に現在企業人として、アスリートとして、又アスリートを育成している指導者として、経営者等として活躍されている法政OB・OGの方々を中心に特別講師としてお招きし、講演、担当教員によるインタビュー等により

- ①在学中、何時頃人生における自分の生きる道、職業等を考えたか
- ②自分の道、職業を決定づけたものは何か
- ③学生時代に身につけた教養、専門知識、スポーツで培った人間性等を企業や社会でどう活かせるか
- ④社会人として仕事をしていて先輩として学生のキャリア形成に一番アドバイスしたいこと、言いたいこと等を聞きながら授業を進める。
- ⑤アスリートのキャリア育成についてアドバイスを頂く。又学生からの質問を受け付け、講師との質疑応答の時間も取りたい。第2回～13回は講師の事情によりテーマ、内容、順番等を変更せざるを得ない場合もあります。ご了解下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	到達目標、テーマ、概要、授業方法について説明する。
第2回	特別講師/法政大学のスポーツの現状	法政大学のスポーツに対する考え方・環境・取り組みについて
第3回	特別講師/世界を目指すには	オリンピック選手を育成した指導者から学生へのアドバイス
第4回	特別講師/オリンピックを経験して	オリンピック出場経験者から学生へのアドバイス
第5回	特別講師/世界を目指すには	元ラグビー日本代表コーチから世界を目指すためのアドバイス
第6回	指導者とは	指導者の役割と指導法について講義
第7回	特別講師/大学スポーツ指導者から 1	組織人としての生き方と役割について講義
第8回	特別講師/大学スポーツ指導者から 2	アスリートに必要な資質について講義
第9回	特別講師/企業が求めるアスリート	企業でアスリートを採用している立場から学生へのアドバイス
第10回	特別講師/企業が求めるアスリートキャリア	アスリートの経験をどのように仕事に活かすか
第11回	特別講師/スポーツクラブの必要性	地域スポーツクラブの現状と役割、スポーツ振興について講義
第12回	特別講師/心と体の栄養学	分子栄養医学管理士の立場から心と体のバランスについて講義
第13回	特別講師/日本スポーツ界の現状	日本体育協会の役割、国体の現状と今後の課題、指導者の役割について講義
第14回	まとめ	授業を総括する。自身のこれまでを振り返り将来を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講師につき受講する前に予め書物、インターネット等を活用し授業にのぞむ事が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは決めません。

【参考書】

随時必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参画状況・授業態度 60%
- 2) 各回のレポート 30%
- 3) 課題レポート 10%

この配分とし、総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実際に学生が活用できる情報を提供していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・各回の授業順序、テーマ、特別講師については講師の特別な事情により変更する場合もある。

・授業における遅刻はないように。

・忌引き、競技に於ける試合の為の欠席等については配慮する。

HSS216LB

スポーツメディア論

海老名 徳雪

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東京五輪開催まで1年半。予想以上に多くの課題を抱えつつ、準備が進む。メディアはその動向を伝える機関として極めて存在感が大きく役割が重要視される。傍らメディアの側の変貌は急速だ。文字・映像を武器にメディアが五輪、スポーツを、また周辺の変容をどんな視点で捉えているか、「メディア」を知ることで社会の実相に迫ることが可能になる。

【到達目標】

新聞、放送の既存メディア、若者に圧倒的に支持されるニューメディア。手短かそそぐ取材の理念は共通である筈だ、その理念と扱う情報の選択を詳細に検証することで、メディアの意図を理解できる。また、スポーツ報道に於けるメディアの成長の軌跡と現実を理解することで、今後著しい変化が予想されるメディア業界に対応出来る能力を磨く。さらにメディアの表現方法を吟味することで自らの表現力を高めることが可能になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

スポーツ界の幅広い知識を得る目的で講義を主体とする。五輪を中心に日々のスポーツ関連のニュース記事、テレビ番組も素材にする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることで、メディアの役割に対する理解が深まる。講義では「今、スポーツは」という日常の動きを敏感に感じ取って貰い、随時ミニレポートとして報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの組織	新聞、放送の既存メディア、そして急成長のニューメディア。その組織と活動から、ニュース報道の中でスポーツの占める位置は。
2	スポーツニュースはどう決まる	ニュースに定義はない。ニュースバリウの基準はなにか。ニュースが受け手に伝わるまでの取材者の行動は。
3	ジャーナリストとしてのスポーツ記者	スポーツ記者は試合取材だけが仕事ではない。競技場を離れたスポーツ界の様々な問題で繰り広げられる激しい取材合戦こそ真価が問われる。記者はどう動くのか。
4	ニュースの言葉とスポーツ選手の表現力	活字は一つの事象を重層的、多面的に表すことが可能である。新聞の一行の見出しから編集者の心情を読み取る。スター選手のマスコミ対応は特徴的で個性が出る。
5	活字メディアの歴史と影響力	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げて来た。一般紙とスポーツ紙、それぞれの報道スタンスの違いを見る。
6	電波メディアの歴史①	活字より後発組の電波メディアは急激に成長した。そして、なお発展途上にある。放送の歴史を辿る。
7	電波メディアの影響力②	放送はいまやスポーツそのものを動かす大きな力。競技ルールの変更もテレビを意識する。
8	ドキュメンタリーを見る	ドキュメンタリーはディレクターの腕の見せどころ。番組制作の裏を見る。対象番組は未定。
9	スポーツ中継は装置産業	スポーツ中継番組の制作は大掛かりなシステムを構築する点で装置産業に近い。年々新機軸が登場する中継の規模を知る。
10	放送権及びメディア主催イベント	放送権料は五輪から国内のイベントまで及ぶ。メディアがイベントそのものを主催してきた歴史も長い。メディアの狙いは何か。

発行日：2019/5/1

- | | | |
|-----|-------------|---|
| 1 1 | オリンピックとメディア | メディアは五輪を機に技術力を向上させ、演出面を磨いてきた。一方で、五輪は商業化、肥大化の弊害が明らか。その歴史を辿り、20年大会を考える。 |
| 1 2 | 受け手の反応 | 大量に発信されるメディアからの情報にファンはどう反応しているか。新聞、放送局に寄せられる諸々の意見からスポーツとメディアに対する世論が見える。 |
| 1 3 | ニューメディア① | メディアを巡る環境は激変。放送と通信の融合、紙媒体は電子版の普及に力を入れ、携帯その他のツールも多様化、マスメディア終焉の声もある。 |
| 1 4 | ニューメディア② | 誰でもが情報発信の時代。SNSの功罪は。不透明なメディアの業界とこれからのスポーツ界は。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビ、出版物、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続ける。その個々の報道に対し、個人の意見を常に持つ。

【テキスト（教科書）】

特に使いません。

【参考書】

「テレビ最終戦争」大原通郎 朝日新書

「メディア不信」林香里 岩波新書

「I O C・オリンピックを動かす巨大組織」猪谷千春 新潮社

【成績評価の方法と基準】

講義の理解度を見る授業後のミニレポート、期末のレポート（70%）と平常点（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「取材上の苦心」「メディアの裏側」等新しい発見があったという反応が多い。運動部の学生は「メディアの大切さを実感した」という声もあった。メディアの現実・現状をさらに理解しやすい授業を工夫したい。パワーポイントの工夫も考えている。

【その他の重要事項】

20年五輪が、すぐそこに来た。スポーツイベントの枠を超えた国家的事業である。スポーツ以外の産業・分野にも大きく影響する。その五輪・スポーツ界をメディアの報道を通して知ることの意義は大きい。

【Outline and objectives】

The mass media has been changing because of the spreads of social media.

The aim of this course is to acquire the knowledge of the mass media to study the Olympic reports from the past to the present.

MAN100NA

財務会計（2018年度以前入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介し、また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、事業の基盤となる商品やサービスの新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。実務家などをゲストスピーカーに交える場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	事業創造と事業計画	事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回	価値創造 事例1	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 事例2	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。

【テキスト（教科書）】

境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年

【参考書】

境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂、2018年

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20% レポート40% 期末試験（持込可）40%の総合評価とします。なお、レポートテーマは6月上旬に提示を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

財務会計（2018年度以前入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介し、また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、事業の基盤となる商品やサービスの新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。実務家などをゲストスピーカーに交える場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	事業創造と事業計画	事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回	価値創造 事例1	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 事例2	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。

【テキスト（教科書）】

境新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年

【参考書】

境新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂、2018年

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20% レポート40% 期末試験（持込可）40%の総合評価とします。なお、レポートテーマは6月上旬に提示を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA

財務会計（2018年度以前入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介し、また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、事業の基盤となる商品やサービスの新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。実務家などをゲストスピーカーに交える場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	事業創造と事業計画	事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回	価値創造 事例1	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 事例2	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。

【テキスト（教科書）】

境新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年

【参考書】

境新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂、2018年

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20% レポート40% 期末試験（持込可）40%の総合評価とします。なお、レポートテーマは6月上旬に提示を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。優れたマーケティングはチームで成されます。そのために、グループワーク（GW）により各自のコミュニケーションスキルを伸ばします。具体的には、①自身の考えを自身の言葉で発言する力 ②仲間の考えを聞く力 ③議論を展開させていく力-の養成を目指します。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
インカ



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、グループワーク（GW）、レポート、特別講義（ゲストによる講演）、事例紹介により授業を進めます。
*第3回、第5～7回、第12回はGWになります。
*グループ分けは第3回授業で行います。
*レポートは受講生の習得状況をふまえ適宜課します。
*なお、レポートの提出は授業支援システムで行います。
*授業計画の回は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。マーケティングの歴史を学ぶ。
2	マーケティングと企業	企業におけるマーケティングの重要性を学ぶ。
3	組織とマネジメント	企業活動を理解するために「組織」と「マネジメント」について学ぶ。（グループ分けとGW）
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）について学ぶ。
5	新製品・サービスの開発①	各人がアイデアを出し、どのような新製品・サービスを提案するか議論する。（GW）
6	新製品・サービスの開発②	前回議論したアイデアを具体化するために4Pを用いて考える。あわせて、プレゼンテーションの準備をする。（GW）
7	新製品・サービスのプレゼンテーション	新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。同時に、他グループのプレゼンテーションを評価する。（GW）
8	マーケティング・ミックスと情報	4Pとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性和収集・分析の留意事項について知る。
9	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。

10	ゲストによる講義	ゲスト講師を招いて実際の企業活動でのマーケティング事例を学ぶ。本講義までに学んだことがビジネスの場でどのように実践されているかを考える。
11	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
12	企業のプロモーション戦略	企業のプロモーション事例から製品・サービスを人々に伝える方法と内容を考える。（GW）
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、インターネットの情報をマーケティングの観点で読む努力をすること。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介しします。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P. F. ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

配点は、GW25%、レポート25%、試験50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク（GW）では、受講生から「価値観が違う人と話すことでアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「リーダーはみんなの意見を引き出すことが大切だと思った」「最初は不安だったが役割分担をして時間を無駄にしないようにした」などの感想が寄せられた。受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的にGWを授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの提出は、授業支援システムで行います。従って、授業支援システムでレポートが提出できる機器を持参してください。

【その他の重要事項】

<講師について>

金融機関系コンサルティング会社に経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

<レポート提出について>

*レポート提出は、授業支援システムを用い、指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などについては評価対象外になります。
*レポート提出は、レポートが課された授業時間内です。時間内に提出が完了するように時間管理・機器管理をしてください。
*なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。
*テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とは異なります。必ず、添付ファイルにて提出してください。
*レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

【Outline and objectives】

Do all products with outstanding technology or fresh ideas necessarily hit it big in the market? It's not unusual for products with novel ideas to be developed only to fail to win interest from the public and disappear. A marketing plan is essential for the development of any product that requires the support of many people. In today's age the ideas and knowledge of marketing have become widespread. For example, they are frequently cited in university laboratory discussions, conversations, job interviews, meetings etc. In addition, as the language of marketing is universal it is possible to discuss ideas through knowledge of marketing terms.

In this course students will gain fundamental knowledge through mainly industrial activities. In addition, the question of what makes good design in marketing will be discussed.

MAN100NA

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻りに用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。優れたマーケティングはチームで成されます。そのために、グループワーク（GW）により各自のコミュニケーションスキルを伸ばします。具体的には、①自身の考えを自身の言葉で発言する力 ②仲間の考えを聞く力 ③議論を展開させていく力-の養成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、グループワーク（GW）、レポート、特別講義（ゲストによる講演）、事例紹介により授業を進めます。

*第3回、第5～7回、第12回はGWになります。

*グループ分けは第3回授業で行います。

*レポートは受講生の習得状況をふまえ適宜課します。

*なお、レポートの提出は授業支援システムで行います。

*授業計画の回は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。マーケティングの歴史を学ぶ。
2	マーケティングと企業	企業におけるマーケティングの重要性を学ぶ。
3	組織とマネジメント	企業活動を理解するために「組織」と「マネジメント」について学ぶ。（グループ分けとGW）
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）について学ぶ。
5	新製品・サービスの開発①	各人がアイデアを出し、どのような新製品・サービスを提案するか議論する。（GW）
6	新製品・サービスの開発②	前回議論したアイデアを具体化するために4Pを用いて考える。あわせて、プレゼンテーションの準備をする。（GW）
7	新製品・サービスのプレゼンテーション	新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。同時に、他グループのプレゼンテーションを評価する。（GW）
8	マーケティング・ミックスと情報	4Pとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性和収集・分析の留意事項について知る。
9	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
10	ゲストによる講義	ゲスト講師を招いて実際の企業活動でのマーケティング事例を学ぶ。本講義までに学んだことがビジネスの場でのように実践されているかを考える。
11	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。

12	企業のプロモーション戦略	企業のプロモーション事例から製品・サービスを人々に伝える方法と内容を考える。（GW）
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、インターネットの情報をマーケティングの観点で読む努力をすること。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介しします。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P. F. ドラッカー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

配点は、GW25%、レポート25%、試験50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク（GW）では、受講生から「価値観が違う人と話すことでアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「リーダーはみんなの意見を引き出すことが大切だと思った」「最初は不安だったが役割分担をして時間を無駄にしないようにした」などの感想が寄せられた。受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後より効果的にGWを授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの提出は、授業支援システムで行います。従って、授業支援システムでレポートが提出できる機器を持参してください。

【その他の重要事項】

<講師について>

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

<レポート提出について>

*レポート提出は、授業支援システムを用い、指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などについては評価対象外になります。

*レポート提出は、レポートが課された授業時間内です。時間内に提出が完了するように時間管理・機器管理をしてください。

*なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。

*テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルにて提出してください。

*レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

【Outline and objectives】

Do all products with outstanding technology or fresh ideas necessarily hit it big in the market? It's not unusual for products with novel ideas to be developed only to fail to win interest from the public and disappear. A marketing plan is essential for the development of any product that requires the support of many people. In today's age the ideas and knowledge of marketing have become widespread. For example, they are frequently cited in university laboratory discussions, conversations, job interviews, meetings etc. In addition, as the language of marketing is universal it is possible to discuss ideas through knowledge of marketing terms.

In this course students will gain fundamental knowledge through mainly industrial activities. In addition, the question of what makes good design in marketing will be discussed.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。

授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報-を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。優れたマーケティングはチームで成されます。そのために、グループワーク（GW）により各自のコミュニケーションスキルを伸ばします。具体的には、①自身の考えを自身の言葉で発言する力 ②仲間の考えを聞く力 ③議論を展開させていく力-の養成を目指します。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力 25%
- (G) コミュニケーション能力 25%
- (H) 継続的学習能力 25%
- (I) 業務遂行能力 25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、グループワーク（GW）、レポート、特別講義（ゲストによる講演）、事例紹介により授業を進めます。

*第3回、第5～7回、第12回はGWになります。

*グループ分けは第3回授業で行います。

*レポートは受講生の習得状況をふまえて適宜課します。

*なお、レポートの提出は授業支援システムで行います。

*授業計画の回は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。マーケティングの歴史を学ぶ。
2	マーケティングと企業	企業におけるマーケティングの重要性を学ぶ。
3	組織とマネジメント	企業活動を理解するために「組織」と「マネジメント」について学ぶ。（グループ分けとGW）
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）について学ぶ。
5	新製品・サービスの開発①	各人がアイデアを出し、どのような新製品・サービスを提案するか議論する。（GW）
6	新製品・サービスの開発②	前回議論したアイデアを具体化するために4Pを用いて考える。あわせて、プレゼンテーションの準備をする。（GW）
7	新製品・サービスのプレゼンテーション	新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。同時に、他グループのプレゼンテーションを評価する。（GW）

8	マーケティング・ミックスと情報	4Pとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。
9	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
10	ゲストによる講義	ゲスト講師を招いて実際の企業活動でのマーケティング事例を学ぶ。本講義までに学んだことがビジネスの場でどのように実践されているかを考える。
11	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係を考える。
12	企業のプロモーション戦略	企業のプロモーション事例から製品・サービスを人々に伝える方法と内容を考える。（GW）
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、インターネットの情報をマーケティングの観点で読む努力をすること。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
 フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
 P. F. ドラッカー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
 そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

点は、GW25%、レポート25%、試験50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク（GW）では、受講生から「価値観が違う人と話すことでアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「リーダーはみんなの意見を引き出すことが大切だと思った」「最初は不安だったが役割分担をして時間を無駄にしないようにした」などの感想が寄せられた。受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的にGWを授業に組み入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの提出は、授業支援システムで行います。従って、授業支援システムでレポートが提出できる機器を持参してください。

【その他の重要事項】

<講師について>

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

<レポート提出について>

*レポート提出は、授業支援システムを用い、指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などについては評価対象外になります。

*レポート提出は、レポートが課された授業時間内です。時間内に提出が完了するように時間管理・機器管理をしてください。

*なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。

*テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルにて提出してください。

*レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

[Outline and objectives]

Do all products with outstanding technology or fresh ideas necessarily hit it big in the market? It's not unusual for products with novel ideas to be developed only to fail to win interest from the public and disappear. A marketing plan is essential for the development of any product that requires the support of many people. In today's age the ideas and knowledge of marketing have become widespread. For example, they are frequently cited in university laboratory discussions, conversations, job interviews, meetings etc. In addition, as the language of marketing is universal it is possible to discuss ideas through knowledge of marketing terms.

In this course students will gain fundamental knowledge through mainly industrial activities. In addition, the question of what makes good design in marketing will be discussed.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、『産業組織論』の中心課題にもあげられる「企業・組織の経済学」や「戦略の経済学」あるいは『都市経済学（交通経済学）』を考えると必要となるミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ。本講義の目標は、近代経済学の学習に不可欠な初歩的な代数、解析、簡単な統計処理方法などの分析ツールに親しんでもらうことで分析能力と思考能力を高めてもらうことにあります。従って、この講義では学説史的なアプローチやアイデアオロギーの議論は避け、「経済モデル」の理解と現実的ミクロ経済問題解決に向けての応用に力点が置かれる。講義レベルは、米国の標準的な大学で1～2年次に学習するミクロ経済学の内容とほぼ同等である。読み・書き・数学の基礎学力〔高校までの確実な数学力（文字式、連立方程式、二次方程式、一次関数、二次関数、微積分）〕の基礎が足りない者は、各自でその弱点を補うだけの自主的努力が要求される。理解力を高めるために、一方的な講義ではなく問題演習を課します。また、3～5回の英語による講義も行います。期末試験は、多岐選択・正誤問題は英文を読み答える形式、記述問題は、日本語で答える形式をとります。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の3点になります。
①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに 対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
②英語で経済・ビジネスの情報をえるための基礎的な用語や簡単な文献が読めるようになること。
③①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・应用能力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学（自著）と適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。また、時折、実証分析などの例をパソコンを用いて紹介します。講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。また、将来国際的な職に就こうとする学生や留学を考える学生のために、英語による講義も3～5回程度予定しています。英語の講義を通じて、留学の疑似体験や英語で学習するコツ（アカデミック・スキル）も会得してもらいます。具体的には、適時に配布する英文による経済の多岐選択問題（multiple choice）や正誤問題（True/False）のプリントを講義で解説します。期末試験では、これらの英文サンプル問題と類似したものが出題されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。経済学的に考えるとは何かを解説する。本講義を通じて、実証分析に向けて、仮説化と検証、理論構築のプロセスを知る。
2	経済学を使う数学（その1）	クラメールの公式、行列式について学ぶ。
3	経済学的に物事を考え、分析しよう（その1）	機会費用とは何か。費用・便益の観点から大学進学のは非を考えてみよう。費用・便益の推定法についても学ぶ。

4	経済学的に物事を考え、分析しよう（その2）	業界別に見た生涯所得の推定方法などを学び、経済学が身近な分析に役立つことを学ぶ。
5	社会現象を仮説化してみよう～統計学入門	これまでの講義のまとめとして、経済学や統計処理の初歩について学び仮説の設定の仕方を学ぶ。
6	市場における需要と供給について（その1）	完全競争市場における需要と供給を考える。
7	市場における需要と供給について（その2）	需要と供給の分析の応用例を学ぶ。
8	価格の弾力性と売上との関係について市場構造について	需要の価格弾力性と売上との関係について市場構造について
9	市場構造について	産業分析で重要な市場構造（完全競争、独占的競争、寡占、独占）の特徴とそれぞれの市場における企業の行動と成果について考える。
10	経済学に使う数学（その2）	微分の復習をしたあと、条件付き最大・最少を考えるため「ラグランジュの未定乗数法」について学ぶ
11	ミクロ経済理論の応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 1 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
12	ミクロ経済理論の応用（その2）	11 回目の講義の続きで Sample Question 1 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
13	マクロ経済理論の応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 2 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。
14	マクロ経済理論の応用（その2）	13 回目の講義の続きで Sample Question 2 の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習課題・レポートの提出（2 回程度）と英文によるミクロ経済学とマクロ経済学の問題の予習と復習が必要。授業内に配布する英文の Multiple choice, True/False の問題（Sample Question 1, Sample Question 2）に沿って復習をすることが重要となる。講義ノートや配布プリントを中心に進めるため講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習すること。なお、事前に配布されたプリント（資料）や英文の演習問題には目を通しておくことが予習の加太となる。

【テキスト（教科書）】

なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。

【参考書】

『ミクロ経済学 改定版』（成文堂）多部田直樹【2016 年 3 月】
適時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

○授業への取り組み・平常点・演習課題とレポートの提出：25－30%、◎
期末試験：70－75%

【学生の意見等からの気づき】

レポートの書き方、統計や数学の復習、アメリカの大学における勉強の仕方等、経済学を超えた盛りだくさんの解説で役立つとのコメントがありました。その一方で、内容が広範なため消化不良を起こす学生もいます。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。英文プリント配布時の予習を除き、講義内容の復習を中心に学習してください。また、配布する資料やプリントをWEBに掲載してほしいとの要望もありましたが、まずは、講義に出席して配布資料やプリントを受け取ってもらう方針を貫きます。

【学生が準備すべき機器他】

なし。（通常は、配布プリント教材の参照とホワイトボードの板書が中心です。）

[Outline and objectives]

This course on economics centers on theory of industrial organizations, considering aspects of industrial/organizational, strategic and city economics and fundamentally related micro and macro economics. The aim is to familiarize students with analysis tools for algebra and statistics essential to modern economics and to raise their analytical and critical thinking skills. With this in mind, the course avoids approaches via historical doctrine and ideology, and emphasizes applications of ideal economic models and real world solutions to economic problems. Lectures will be mostly equivalent to standard 1st/2nd year university microeconomics courses taught in the US. Students falling short of the fundamental skills in reading, writing and mathematics (up to high school equivalent; algebraic/simultaneous/quadratic equations, linear/quadratic functions, calculus) must be able to make up for these areas by self-study. To reinforce comprehension, classes will not be comprised completely of lectures but also encompass practice tutorials. In addition, 3 to 5 lectures in English will be given. In the final exam, multiple choice/true or false questions will be written in English, and essay questions answered in Japanese.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、『産業組織論』の中心課題にもあげられる「企業・組織の経済学」や「戦略の経済学」あるいは『都市経済学（交通経済学）』を考へる上で必要となるミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ。本講義の目標は、近代経済学の学習に不可欠な初歩的な代数、解析、簡単な統計処理方法などの分析ツールに親しんでもらうことで分析能力と思考能力を高めてもらうことにあります。従って、この講義では学説史的なアプローチやアイデアオロギーの議論は避け、「経済モデル」の理解と現実的ミクロ経済問題解決に向けての応用に力点が置かれる。講義レベルは、米国の標準的な大学で1～2年次に学習するミクロ経済学の内容とほぼ同等である。読み・書き・数学の基礎学力〔高校までの確実な数学力（文字式、連立方程式、二次方程式、一次関数、二次関数、微積分）〕の基礎が足りない者は、各自でその弱点を補うだけの自主的努力が要求される。理解力を高めるために、一方的な講義ではなく問題演習を課します。また、3～5回の英語による講義も行います。期末試験は、多岐選択・正誤問題は英文を読み答える形式、記述問題は、日本語で答える形式をとります。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の3点になります。
①経済学的に物事を考へるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
②英語で経済・ビジネスの情報をえるための基礎的な用語や簡単な文献が読めるようになること。
③①を行うための基礎的な数学（あるいは数学的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）
教養力：◎

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	○	○			◎	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学（自著）と適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。また、時折、実証分析などの例をパソコンを用いて紹介します。講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。また、将来国際的な職に就こうとする学生や留学を考へる学生のために、英語による講義も3～5回程度予定しています。英語の講義を通じて、留学の疑似体験や英語で学習するコツ（アカデミック・スキル）も会得してもらいます。具体的には、適時に配布する英文による経済の多岐選択問題（multiple choice）や正誤問題（True / False）のプリントを講義で解説します。期末試験では、これらの英文サンプル問題と類似したものが出題されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。経済学的に考へるとは何かを解説する。本講義を通じて、実証分析に向けて、仮説化と検証、理論構築のプロセスを知る。
2	経済学を使う数学（その1）	クラメールの公式、行列式について学ぶ。
3	経済学的物事を考へ、分析しよう（その1）	機会費用とは何か。費用・便益の観点から大学進学のは非を考へてみよう。費用・便益の推定法についても学ぶ。
4	経済学的に物事を考へ、分析しよう（その2）	業界別に見た生涯所得の推定方法を学び、経済学が身近な分析に役立つことを学ぶ。
5	社会現象を仮説化してみよう～統計学入門	これまでの講義のまとめとして、経済数学や統計処理の初歩について学び仮説の設定の仕方を学ぶ。

6	市場における需要と供給について（その1）	完全競争市場における需要と供給を考へる。
7	市場における需要と供給について（その2）	需要と供給の分析の応用例を学ぶ。
8	価格の弾力性と売上の関係について	需要の価格弾力性と売上の関係を学ぶ。
9	市場構造について	産業分析で重要な市場構造（完全競争、独占的競争、寡占、独占）の特徴とそれぞれの市場における企業の行動と成果について考へる。
10	経済学を使う数学（その2）	微分の復習をしたあと、条件付き最大・最少を考へるため「ラグランジュの未定乗数法」について学ぶ
11	ミクロ経済理論の応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 1の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
12	ミクロ経済理論の応用（その2）	11回目の講義の続きで Sample Question 1の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
13	マクロ経済理論の応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 2の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。
14	マクロ経済理論の応用（その2）	13回目の講義の続きで Sample Question 2の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習課題・レポートの提出（2回程度）と英文によるミクロ経済学とマクロ経済学の問題の予習と復習が必要。授業内に配布する英文の Multiple choice, True/False の問題（Sample Question 1, Sample Question 2）に沿って復習をすることが重要となる。講義ノートや配布プリントを中心に進めるため講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習すること。なお、事前に配布されたプリント（資料）や英文の演習問題には目を通しておくことが予習の加太となる。

【テキスト（教科書）】

なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。

【参考書】

『ミクロ経済学 改定版』（成文堂）多部田直樹 [2016年3月]
適時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

○授業への取り組み・平常点・演習課題とレポートの提出：25～30%、◎期末試験：70～75%

【学生の意見等からの気づき】

レポートの書き方、統計や数学の復習、アメリカの大学における勉強の仕方等、経済学を超えた盛りだくさんの解説で役立つとのコメントがありました。その一方で、内容が広範なため消化不良を起こす学生もいます。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。英文プリント配布時の予習を除き、講義内容の復習を中心に学習してください。また、配布する資料やプリントをWEBに掲載してほしいとの要望もありましたが、まずは、講義に出席して配布資料やプリントを受け取ってもらう方針を貫きます。

【学生が準備すべき機器他】

なし。（通常は、配布プリント教材の参照とホワイトボードの板書が中心です。）

[Outline and objectives]

This course on economics centers on theory of industrial organizations, considering aspects of industrial/organizational, strategic and city economics and fundamentally related micro and macro economics. The aim is to familiarize students with analysis tools for algebra and statistics essential to modern economics and to raise their analytical and critical thinking skills. With this in mind, the course avoids approaches via historical doctrine and ideology, and emphasizes applications of ideal economic models and real world solutions to economic problems. Lectures will be mostly equivalent to standard 1st/2nd year university microeconomics courses taught in the US. Students falling short of the fundamental skills in reading, writing and mathematics (up to high school equivalent; algebraic/simultaneous/quadratic equations, linear/quadratic functions, calculus) must be able to make up for these areas by self-study. To reinforce comprehension, classes will not be comprised completely of lectures but also encompass practice tutorials. In addition, 3 to 5 lectures in English will be given. In the final exam, multiple choice/true or false questions will be written in English, and essay questions answered in Japanese.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この『エコノミクス』では、『産業組織論』の中心課題にもあげられる「企業・組織の経済学」や「戦略の経済学」あるいは『都市経済学（交通経済学）』を考えると必要となるミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学ぶ。本講義の目標は、近代経済学の学習に不可欠な初歩的な代数、解析、簡単な統計処理方法などの分析ツールに親しんでもらうことで分析能力と思考能力を高めてもらうことにあります。従って、この講義では学説史的なアプローチやアイデアオロジーの議論は避け、「経済モデル」の理解と現実的ミクロ経済問題解決に向けての応用に力点が置かれる。講義レベルは、米国の標準的な大学で1～2年次に学習するミクロ経済学の内容とほぼ同等である。読み・書き・数学の基礎学力〔高校までの確実な数学力（文字式、連立方程式、二次方程式、一次関数、二次関数、微積分）〕の基礎が足りない者は、各自でその弱点を補うだけの自主的努力が要求される。理解力を高めるために、一方的な講義ではなく問題演習を課します。また、3～5回の英語による講義も行います。期末試験は、多岐選択・正誤問題は英文を読み答える形式、記述問題は、日本語で答える形式をとります。

【到達目標】

本講義履修者が真摯な学習を通じて獲得しうるスキルは以下の3点になります。

- ①経済学的に物事を考えるための経済理論の基礎を身につける。
そのためには、皆さんが行うこと、日頃から経済の諸問題などに対して、「なぜ、どうして」などの問題意識を持ち、仮説化し検証する習慣を身につけるための動機づけをおこなう。
- ②英語で経済・ビジネスの情報をえるための基礎的な用語や簡単な文献が読めるようになること。
- ③①を行うための基礎的な数学（あるいは統計的処理）方法や経済モデルを学ぶこと。

学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）

教養力：◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学（自著）と適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。また、時折、実証分析などの例をパソコンを用いて紹介します。講義全体を通じて、経済理論を実際の経済あるいは社会問題に応用することに主眼を置きます。また、将来国際的な職に就こうとする学生や留学を考える学生のために、英語による講義も3～5回程度予定しています。英語の講義を通じて、留学の疑似体験や英語で学習するコツ（アカデミック・スキル）も会得してもらいます。具体的には、適時に配布する英文による経済の多岐選択問題（multiple choice）や正誤問題（True/False）のプリントを講義で解説します。期末試験では、これらの英文サンプル問題と類似したものが出題されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済学とは何か	経済学とはどんな学問か。経済学的に考えるとは何かを解説する。本講義を通じて、実証分析に向けて、仮説化と検証、理論構築のプロセスを知る。
2	経済学に使う数学（その1）	クラメールの公式、行列式について学ぶ。
3	経済学的な物事を考え、分析しよう（その1）	機会費用とは何か。費用・便益の観点から大学進学のは非を考えてみよう。
4	経済学的に物事を考え、分析しよう（その2）	費用・便益の推定法についても学ぶ。業界別に見た生涯所得の推定方法などを学び、経済学が身近な分析に役立つことを学ぶ。
5	社会現象を仮説化してみよう～統計学入門	これまでの講義のまとめとして、経済数学や統計処理の初歩について学び仮説の設定の仕方を学ぶ。
6	市場における需要と供給について（その1）	完全競争市場における需要と供給を考える。
7	市場における需要と供給について（その2）	需要と供給の分析の応用例を学ぶ。

8	価格の弾力性と売上との関係について市場構造について	需要の価格弾力性と売上との関係を学ぶ。
9	市場構造について	産業分析で重要な市場構造（完全競争、独占的競争、寡占、独占）の特徴とそれぞれの市場における企業の行動と成果について考える。
10	経済学に使う数学（その2）	微分の復習をしたあと、「条件付き最大・最少を考えるための「ラグランジュの未定乗数法」について学ぶ
11	ミクロ経済理論の応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 1の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
12	ミクロ経済理論の応用（その2）	11回目の講義の続きで Sample Question 1の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてこれまでに学んだミクロ経済学理論の応用の仕方を習得する。
13	マクロ経済理論の応用（その1）	授業で配布する英文の問題、Sample Question 2の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。
14	マクロ経済理論の応用（その2）	13回目の講義の続きで Sample Question 2の問題を解きながら解説していく。この演習問題を通じてマクロ経済学理論の基礎を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習課題・レポートの提出（2回程度）と英文によるミクロ経済学とマクロ経済学の問題の予習と復習が必要。授業内に配布する英文の Multiple choice, True/False の問題（Sample Question 1, Sample Question 2）に沿って復習することが重要となる。講義ノートや配布プリントを中心に進めるため講義に出席し、講義内で習ったことの復習を中心に学習すること。なお、事前に配布されたプリント（資料）や英文の演習問題には目を通しておくことが予習の加太となる。

【テキスト（教科書）】

なし。講義ノートと適時に配布するプリント教材を中心に講義を進める。

【参考書】

『ミクロ経済学 改定版』（成文堂）多部田直樹 [2016年3月]
適時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

○授業への取り組み・平常点・演習課題とレポートの提出：25～30%、◎
期末試験：70～75%

【学生の意見等からの気づき】

レポートの書き方、統計や数学の復習、アメリカの大学における勉強の仕方等、経済学を超えた盛りだくさんの解説で役立つとのコメントがありました。その一方で、内容が広範なため消化不良を起こす学生もいます。消化不良を起こさないように、みなさんも講義の聞き流しではなく、学習したことを復習してください。英文プリント配布時の予習を除き、講義内容の復習を中心に学習してください。また、配布する資料やプリントをWEBに掲載してほしいとの要望もありましたが、まずは、講義に出席して配布資料やプリントを受け取ってもらう方針を貫きます。

【学生が準備すべき機器他】

なし。（通常は、配布プリント教材の参照とホワイトボードの板書が中心です。）

【Outline and objectives】

This course on economics centers on theory of industrial organizations, considering aspects of industrial/organizational, strategic and city economics and fundamentally related micro and macro economics. The aim is to familiarize students with analysis tools for algebra and statistics essential to modern economics and to raise their analytical and critical thinking skills. With this in mind, the course avoids approaches via historical doctrine and ideology, and emphasizes applications of ideal economic models and real world solutions to economic problems. Lectures will be mostly equivalent to standard 1st/2nd year university microeconomics courses taught in the US. Students falling short of the fundamental skills in reading, writing and mathematics (up to high school equivalent; algebraic/simultaneous/quadratic equations, linear/quadratic functions, calculus) must be able to make up for these areas by self-study. To reinforce comprehension, classes will not be comprised completely of lectures but also encompass practice tutorials. In addition, 3 to 5 lectures in English will be given. In the final exam, multiple choice/true or false questions will be written in English, and essay questions answered in Japanese.

MAN100NA

現代企業論（2019年度以降入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介いたします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、事業の基盤となる商品やサービスの新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。実務家などをゲストスピーカーに交える場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、現代企業の要件	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	事業創造と事業計画	事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回	価値創造 事例1	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 事例2	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。

【テキスト（教科書）】

境新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年

【参考書】

境新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂、2018年

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20% レポート40% 期末試験（持込可）40%の総合評価とします。なお、レポートテーマは6月上旬に提示を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

現代企業論（2019年度以降入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介いたします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、事業の基盤となる商品やサービスのよる新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。実務家などをゲストスピーカーに交える場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、現代企業の特徴	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	事業創造と事業計画	事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回	価値創造 事例1	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 事例2	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。

【テキスト（教科書）】

境新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年

【参考書】

境新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂、2018年

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20% レポート40% 期末試験（持込可）40%の総合評価とします。なお、レポートテーマは6月上旬に提示を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

MAN100NA

現代企業論（2019年度以降入学生）

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、企業（法人）を典型とする現代組織を対象とした経営の理論（基本概念）と事業の価値創造の技法について事例を通して検証します。まず、経営学の基礎理論について、周辺領域（経済学、社会学、法学など）との関係に言及し、企業・事業・経営の一体的な理解と今日の展開についてマクロの視点で整理します。次に、経営の個別テーマを経営資源（人、物、金、情報、技術など）別にミクロの視点から事例で紹介いたします。また、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえ、創造（プロデュース）と経営（マネジメント）を対比して、起業を前提とした事業計画書の作成、事業の基盤となる商品やサービスのよる新たな価値創造の技法についても考察します。

【到達目標】

本講義では、学生諸君が現代企業を総合的に理解し、経営者、起業家、クリエイター、職人などによる価値創造の技法を修得し、受講生自身の知の技法を育むことにより、思考力と実践力を獲得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、企業・事業・経営を一体的に理解するために、経営学を中心に経済学、社会学、法学との関係に言及します。次に、経営の個別テーマについて事例を加えながら講義します。その際、アートとビジネスが相互浸透する今日の状況を踏まえて、アート、ビジネスの世界における経営者、クリエイター、プロデューサー、デザイナー、アーティストなどの専門分野と技法、ネットワークと独創性・独自性をもって時代を創り、かつ、変えていく行為と作品、能力開発と後継者育成などを多角的に検証します。とりあげる主な事例として、先端の情報技術産業、人文・社会科学の複合領域、美術・音楽・演劇など芸術・アートの分野、生活産業やエンタテインメント産業、展覧会・ファッションショーなどイベント事業の仕組み、商品・サービスに関わるビジネスモデルの構築です。実務家などをゲストスピーカーに交える場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、現代企業の特徴	現代企業の役割、経営学と周辺領域、社会的責任／CSR・公益の実現、企業・事業・経営の一体的理解、プロデュース&マネジメントの役割、アートとデザインの関係、価値創造の技法
第2回	農工商連携、総合産業	農工商連携、6次産業化、総合産業、生活産業とエンタテインメント産業、世界貿易とTPP／EPA
第3回	企業・事業・経営	起業（会社設立）の手順、企業・事業・経営の一体理解、経営と理念、CSR、ビジョナリーカンパニー
第4回	PDCAとBSC	経営管理の方法：マネジメント・サイクル／PDCA、評価方法：バランス・スコアカード／BSC
第5回	経営と戦略、人材育成、マーケティング	経営戦略、人材育成、マーケティング／価値と価格／生産と流通／顧客創造／感動創造
第6回	経営と財務1	財務諸表の相互関係、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の特徴
第7回	経営と財務2	財務諸表の事例比較／製造業・非製造業・ベンチャー
第8回	経営と情報技術	情報技術によるイノベーション、IoT、ICT、AIの役割、ビッグ・データの活用
第9回	経営と法律、知財	ビジネス法務、知的財産、地域ブランドの創造
第10回	アートとデザイン	アートとデザイン／課題提起と課題解決、アート・デザイン・サイエンス・テクノロジーの関係、アート・プロデュース、デザイン思考、作品と商品
第11回	事業創造と事業計画	事業創造と事業計画、6W2Hの内容、社会ネットワークの活用、ビジネスモデル

第12回	価値創造 事例1	経営者、起業家による事業創造と経営創造
第13回	価値創造 事例2	クリエイター、プロデューサー、職人（匠）による商品・サービスの開発、アーティストによる創作
第14回	まとめ	企業および事業の価値、価値算定、EVA／MVA、リスクマネジメント、企業買収／M&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習とも教科書、資料を各自で十分に読み込んで下さい。実際に企業・事業・経営の一体理解、事業計画書について演習する場合があります。理論と事例を相互参照して理解していただきたい。

【テキスト（教科書）】

境 新一『アート・プロデュース概論－経営と芸術の融合』中央経済社、2017年

【参考書】

境 新一『現代企業論－経営と法律の視点（第5版）』文真堂、2018年

【成績評価の方法と基準】

講義に対する参加度20% レポート40% 期末試験（持込可）40%の総合評価とします。なお、レポートテーマは6月上旬に提示を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

講義内容はテキスト『現代企業論』と『アート・プロデュース概論』の両方を加味したものとし、各テーマに関連する資料を別途配布します。

【Outline and objectives】

This course examines management theory targeting corporate industry as a model for modern organizations and methods of business value creation through real-world examples. Beginning with fundamental theory of management, with reference to related fields (economics, sociology, law etc.) a unified understanding of industry, enterprise and management and current developments is reviewed through a macro point of view. Next, individual topics in resource management (human, physical, financial, data, technological etc.) will be introduced with real-world examples through a micro point of view. In addition, based on today's state of interpenetration between art and business, through comparisons of production and management, new methods of value creation related to start-up business planning, base products and services for business will be studied.

サステナブルデザイン

出口 清孝

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用し環境に低負荷な手法を学び、サステナブル（持続可能）な建築環境の創造に対する技術的な建築応用の習得を目的とする。気候風土に応じて発達してきたヴァナキユラー建築がいかに低負荷な住宅であるかを学習し、自然エネルギーを利用した建築の実際について原理や計画手法を習得する。

【到達目標】

環境を科学的にとらえる基礎的な理論を身につけ、自然エネルギーを利用した建築への応用手法を理解することを目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義と演習とを交互に交えて進める。講義は、様々な気候に応じたヴァナキユラー建築とその環境工学的特徴について、写真と図によって紹介するもので、演習は、その環境工学的手法に関する具体的な効果を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	地下に住まう	トルコ・カッパドキアの洞窟型住居、チュニジア・マトマタの穴居住宅などの地下住居の実例から、環境的特性を知る。
2回	地下塗上の恒温性能	土壌の恒温特性の一例について、定量化を演習する。
3回	風を取り入れて住まう	イラン・中央アナトリア地方ヤズドの「採風塔」のある住居、地下水路と貯水槽の採風塔による冷却など、通風による涼房特性を知る。
4回	温度差（浮力）による換気	温度差換気を利用した住居を演習する。
5回	厚い壁の中に住まう	日干し煉瓦、砂漠気候とオアシス、モロッコの要塞住居カスバなどを通し、断熱・熱容量の特性を知る。
6回	壁の断熱と熱容量	熱貫流・熱伝達・熱伝導を学習し、熱容量を生かした太陽熱利用の住居特性を演習する。
7回	高床や水上型住居	インドネシアとタイの高床式住居、ボルネオの水上住居から、その環境特性を知る。
8回	水による冷却の原理	加湿冷却の特性を演習により習得する。
9回	厳寒地に住まう・夏と冬の季節の調和	モンゴルの厳寒期の環境、カナダイヌイットの住居イグルー、韓国のオンドルなどの実例を通し、蒸暑と厳寒の気候に対応した住居環境を知る。
10回	蒸暑で厳寒気候に対応した住居	夏は蒸暑気候でかつ冬は厳寒気候に対応した住居形式を演習により習得する。
11回	歴史にみる住まう技術	各国の歴史的住居形式の変遷を通し、環境技術を知る。
12回	歴史的環境技術の変遷	環境技術の歴史の変遷を、演習を通して学習する。 ローマ時代のカラカラ浴場の設備的技術とエネルギー消費の特性を知る。
13回	設備技術の歴史と変化	設備の歴史の変遷と現代的技術の比較を、演習を通して習得する。
14回	総合復習	総合復習を通して、地球環境保全の特性を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、講義に関する資料を事前にWebにアップする。

【参考書】

『理科年表』（丸善）。他は必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習を20%、試験を80%程度として総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

遅刻する学生は履修する資格がないと思うこと。

【Outline and objectives】

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises using practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required at in their career and beyond.

ADE200NA

サステイナブルデザイン

出口 清孝

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然エネルギーを利用し環境に低負荷な手法を学び、サステイナブル（持続可能）な建築環境の創造に対する技術的な建築応用の習得を目的とする。気候風土に応じて発達してきたヴァナキユラー建築がいかに低負荷な住宅であるかを学習し、自然エネルギーを利用した建築の実際について原理や計画手法を習得する。

【到達目標】

環境を科学的にとらえる基礎的な理論を身につけ、自然エネルギーを利用した建築への応用手法を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義と演習とを交互に交えて進める。講義は、様々な気候に応じたヴァナキユラー建築とその環境工学的特徴について、写真と図によって紹介するので、演習は、その環境工学的手法に関する具体的な効果を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	地下に住まう	トルコ・カッパドキアの洞窟型住居、チュニジア・マトマタの穴居住宅などの地下住居の実例から、環境的特性を知る。
2回	地下途上の恒温性能	土壌の恒温特性の一例について、定量化を演習する。
3回	風を取り入れて住まう	イラン・中央アナトリア地方ヤズドの「採風塔」のある住居、地下水路と貯水槽の採風塔による冷却など、通風による涼房特性を知る。
4回	温度差（浮力）による換気	温度差換気を利用した住居を演習する。
5回	厚い壁の中に住まう	日干し煉瓦、砂漠気候とオアシス、モロッコの要塞住居カスバなどを通し、断熱・熱容量の特性を知る。
6回	壁の断熱と熱容量	熱貫流・熱伝達・熱伝導を学習し、熱容量を生かした太陽熱利用の住居特性を演習する。
7回	高床や水上型住居	インドネシアとタイの高床式住居、ボルネオの水上住居から、その環境特性を知る。
8回	水による冷却の原理	加湿冷却の特性を演習により習得する。
9回	厳寒地に住まう・夏と冬の季節の調和	モンゴルの厳寒期の環境、カナダスイットの住居イグルー、韓国のオンドルなどの実例を通し、蒸暑と厳寒の気候に対応した住居環境を知る。
10回	蒸暑で厳寒気候に対応した住居	夏は蒸暑気候でかつ冬は厳寒気候に対応した住居形式を演習により習得する。
11回	歴史にみる住まう技術	各国の歴史的住居形式の変遷を通し、環境技術を知る。
12回	歴史的環境技術の変遷	環境技術の歴史的変遷を、演習を通して学習する。
13回	設備技術の歴史と変化	ローマ時代のカラカラ浴場の設備的技術とエネルギー消費の特性を知る。設備の歴史的変遷と現代的技術の比較を、演習を通して習得する。
14回	総合復習	総合復習を通して、地球環境保全の特性を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、講義に関するプリントを毎回配布する

【参考書】

『理科年表』（丸善）。他は必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習を20%、試験を80%程度として総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

遅刻する学生は履修する資格がないと思うこと。

【Outline and objectives】

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises using practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required at in their career and beyond.

ADE200NA

サステナブルデザイン

出口 清孝

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候風土に応じて発達してきたヴァナキュラー建築がいかに低負荷な住宅であるかを学習し、自然エネルギーを利用した建築の実際について、原理や計画手法を習得する。

【到達目標】

- 1) 自然エネルギーを利用し環境に低負荷な手法の原理を理解する。
- 2) 自然エネルギー利用の手法をどのように応用するかを習得する。
- 3) これらを通して、様々な分野に応用できるサステナブル（持続可能）な技術の応用力を習得する。
以上を到達目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	○	◎				○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として、授業は講義と演習とを交互に交えて進める。講義は、様々な気候に応じたヴァナキュラー建築とその環境工学的特徴について、写真と図によって紹介するもので、演習は、その環境工学的手法に関する具体的な効果を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	地下に住まう	トルコ・カッパドキアの洞窟型住居、チュニジア・マトマタの穴居住宅などの地下住居の実例から、環境的特性を知る。
2回	地下途上の恒温性能	土壌の恒温特性の一例について、定量化を演習する。
3回	風を取り入れて住まう	イラン・中央アナトリア地方ヤズドの「採風塔」のある住居、地下水路と貯水槽の採風塔による冷却など、通風による涼房特性を知る。
4回	温度差（浮力）による換気	温度差換気を利用した住居を演習する。
5回	厚い壁の中に住まう	日干し煉瓦、砂漠気候とオアシス、モロッコの要塞住居カスバなどを通し、断熱・熱容量の特性を知る。
6回	壁の断熱と熱容量	熱貫流・熱伝達・熱伝導を学習し、熱容量を生かした太陽熱利用の住居特性を演習する。
7回	高床や水上型住居	インドネシアとタイの高床式住居、ボルネオの水上住居から、その環境特性を知る。
8回	水による冷却の原理	加湿冷却の特性を演習により習得する。
9回	厳寒地に住まう・夏と冬の季節の調和	モンゴルの厳寒期の環境、カナダイヌイットの住居イグルー、韓国のオンドルなどの実例を通し、蒸暑と厳寒の気候に対応した住居環境を知る。
10回	蒸暑と厳寒気候に対応した住居	夏は蒸暑気候でかつ冬は厳寒気候に対応した住居形式を演習により習得する。
11回	歴史にみる住まう技術	各国の歴史的住居形式の変遷を通し、環境技術を知る。
12回	歴史的環境技術の変遷	環境技術の歴史の変遷を、演習を通して学習する。
13回	設備技術の歴史と変化	ローマ時代のカラカラ浴場の設備的技術とエネルギー消費の特性を知る。設備の歴史の変遷と現代の技術の比較を、演習を通して習得する。
14回	総合復習	総合復習を通して、地球環境保全の特性を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の理論を復習すること。また、シラバスを読んで次の講義の内容を予習する。

【テキスト（教科書）】

原則として使用せず、必要に応じて講義に関するプリントを配布する

【参考書】

『理科年表』（丸善）。
村上周三著、『ヴァナキュラー建築の居住環境性能』（慶応技術大学出版会）、
木村健一（編著）『民家の自然エネルギー技術』（彰国社）、
磯田憲生ほか（編）『CDブック ハウスクリマ』（海青社）など

【成績評価の方法と基準】

授業内に実施する演習を20%、試験を80%程度として総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習は、今まで経験していない内容もあるが、想像力を発揮して課題に対し積極的に取り組むこと。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about sustainable systems harnessing vernacular buildings and low energy buildings.

ADE300NB

建築フォーラム

渡邊 眞理、下吹越 武人、赤松 佳珠子、北山 恒

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築という領域の中ではさまざまな実践がなされている。建築フォーラムでは毎回異なる講師に建築の最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルな建築を実感してもらうことが目標である。

構造分野の最先端の問題は何か？
世界の中で建築家という制度はどのように定められているのか？
ひとつの建築を完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？
住まいとその設計との間のギャップとは？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは建築という分野のパーソンタイプを形成するには貢献するだろうし、さらに重要なのは自分が共感できる分野にめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
 - 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
 - 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう
- 以上の技術を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○	○					◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

建築フォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。建築および関連分野の第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回性の講演の繰り返し特徴の建築フォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6回の講演に参加することで徐々に身につける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである（授業計画の項を参照のこと）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成 (1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成 (2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成 (3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。

9	レポート作成 (4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成 (5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成 (6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容をまとめ、レポートで授業支援システムに提出する。ワード文書の作成の基本をよく理解すること。レポートには適切な題名をつけること。引用であることを明示してあればレポート文中に他の文献などから引用することは無論 OK だが、ブログなどのインターネットからの不要な「コピペ」は盗用となり、単位不認定となる場合があるので注意すること。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

授業参加とレポート内容による。フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。6回のレポート（講演メモ+講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90%）となる。質問タイムへの参加は TA が記録し、授業参加評価（10%）として加点される。

【学生の意見等からの気づき】

建築フォーラムはオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、文化についての局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノートPCにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

建築学科所属の学生は授業レポートを授業支援システムのほか IAEサーバーに提出することで、個人の e ポートフォリオ作成および Slideshare への開示が可能となる。詳しくは以下の IAEサーバーの URL で確認のこと。
<https://iae.hosei.ac.jp/>
実務経験との関連：現役の建築家でもある複数の教員が建築をとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って7名の講師を選定し招聘している。

【Outline and objectives】

In the field of architecture many kinds of practices exist. This architecture forum each time invites different lecturers to report on the front-line of architecture, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What are the latest problems in structures?

How are architect organizations formed around the world?

How much effort is required to complete an entire building?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What gap exists between a house and its planning?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

LIT200GA

言語文化概論

衣笠 正晃

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20世紀以降さまざまな領域で展開された、言語（ことば）を手がかりとして文化や社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直そうとした学問的営み（理論・概念）について学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つめ、向き合うかを考えます。

【到達目標】

- 1) テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
- 2) 言語（ことば）と文化・社会との密接ななかかわりについて「意味」「身体」「権力」「テクノロジー」などといった観点から検討し、理解を深める。
- 3) 学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をめぐり、自らのことばで表現・伝達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回とも、出席者がテキストおよび事前配布資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。

授業形式は講義が中心となりますが、皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、毎回予習確認のためのクイズ（小テスト）を実施するとともに、リアクションペーパーのかたちで、感想や質問を提出してもらいます。またグループに分かれてのディスカッションや復習を兼ねたミニレポートの提出をおこなってもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説と履修意図の確認+ことばから文化・社会を捉える視点（テキスト第1章）
2	19世紀から20世紀への思想的転回	実証主義・歴史主義からの転換とその社会背景
3	言語学の再定義	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第2章）
4	ことば・無意識・主体	フロイトと精神分析（テキスト第4章）
5	ことばとしての文化(1)	ヤコブソン、レヴィ＝ストロースと構造主義革命（テキスト第5章）
6	ことばとしての文化(2)	バルトと一般記号学（テキスト第5章）
7	ことば・権力・規律	フーコーの「知の考古学」（テキスト第7章）
8	象徴支配と階級	ブルデューの文化社会学（テキスト第8章）
9	メディア・テクノロジーと文化産業(1)	マクルーハンと「グーテンベルク革命」（テキスト第9章）
10	メディア・テクノロジーと文化産業(2)	想像力の産業化と「象徴的貧困」（テキスト第10章）
11	国語とナショナリズム	国民国家と伝統の発明（テキスト第13章）
12	アイデンティティと世界の変革	ジェンダー、エスニシティ、差異と同一性（テキスト第14章）
13	まとめ	学期授業内容の確認・総括（テキスト第15章）
14	学期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも教員の指示に従ってテキストおよび事前配布資料を授業までに精読し、質問ポイントを考えておくこと（授業のなかで小テストなどによって予習状況を確認します）。また課題としてミニレポートが課された場合は、期日までにまとめ、授業内に提出すること。

【テキスト（教科書）】

・石田英敬『現代思想の教科書——世界を考える知の地平 15章』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2010年）

※上記テキスト以外にも随時プリントを配布・使用します。

【参考書】

・岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』（中央公論新社〈中公新書〉、2015年）

・小林康夫・大澤真幸『「知の技法」入門』（河出書房新社、2014年）

※その他、授業のなかで随時指示します。なお上記テキスト（教科書）末尾の「読書案内」も参照してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％：リアクションペーパー、小テストなどの提出物を含む）と学期末試験（50％）をあわせて評価します。

評価にあたっては以下の4点の達成度にもとづいて判断します。

- 1) テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
- 2) 思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
- 3) 授業にもとづき現代の文化・社会について自らの問題意識を具体的にもっているか。
- 4) 授業をつうじて学び・考えたことを、主体的・説得的に表現できているか。

【学生の意見等からの気づき】

・テキストや資料について具体的な事例をつうじた解説を心がけ、履修者による主体的な問題発見・取り組みにつながるようにしたい。

・リアクションペーパーでの質問や意見、感想をクラス全体に還元するだけでなく、クラス規模を考慮しながら、出席者による議論や意見交換の機会をできるだけ取り入れたい。

【その他の重要事項】

・クラス規模などに応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。

・配布資料として英語資料を用いることがあります。

・授業妨害行為（私語、携帯電話の使用、歩き回りなど）にはきわめて厳しく対処します。この点が理解できない人はこの授業を履修しないでください。

【Outline and objectives】

In this class, we will outline the development of cultural and social theories since the beginning of the 20th century, paying particular attention to the impact of the so-called “linguistic turn” on the humanities, and think about how to confront the issues of the contemporary world.

GDR200GA

ジェンダー論

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有り様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸と考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】

1. ジェンダー研究における基礎的な概念を理解できるようになる。
2. 言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・ジェンダー研究において重要な諸概念（母性・身体・家族・セクシュアリティ・恋愛・マスキュリティなど）を、歴史的な視点と現代日本の日常生活における視点の双方から検討していきます。
 ・一次資料の簡単な分析を行ってもらいます。そこから、概念・方法論の理解と実践方法を学んでいきます。
 ・毎回の授業の最後に出される問いに対する分析を、A4一枚のリアクションペーパーの形で提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダーと社会構築主義について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル（role model）」として考察する。 ②1980年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①<男らしさ>を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトウロジーならびにイブ・セジュウィックのホモソーシャルリティ）の概念から考察する。 ②ホモソーシャルリティ（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。
4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。
7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ボルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。

8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係性について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティ	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった3つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	試験（1）	第一回試験
14	試験（2）	第二回試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996年）
 伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2006年）
 千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）
 江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006年）
 木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 20%

試験（二回あるうち、必ず一回は受験すること） 80%

【学生の意見等からの気づき】

本年度も授業の中で受講生の皆さんに意見を述べてもらったり、また小さなディスカッションを行って頂く予定です。

【その他の重要事項】

・受講希望者が200名を越える場合は、選抜を行う可能性があります。
 ・授業の中で、受講者の皆さんに意見を述べてもらったり、小さなディスカッションを行ってもらうことがあります。

【Outline and objectives】

The course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It introduces various issues related to gender and sexuality so that students become better able to analyze their own culture as well as other cultures in a multifaceted way from the standpoint of gender.

HUM200GA

国際文化協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。1、2年生には、専攻科目や演習として更に深めたい学問領域やテーマにつなげる機会にして欲しい。

【到達目標】

- (1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につけること
- (2) 国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できること
- (3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できること
- (4) 関連する文献の趣旨を的確に読み取れること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義、映像、他の受講生とグループディスカッション、フィードバックシートの提出など様々な形態を組み合わせて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論
2	国際文化論とは	文化とか何か、国際文化論とはどのような学問かを考える
3	国際協力とは	グループ演習の形で国際協力について考える
4	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
5	開発コミュニケーション	進んだ技術の伝播をコミュニケーション理論とつなげて考える
6	文化の受容と抵抗	明治日本の近代化を支えたお雇い外国人を通して異文化への反応について考える
7	文化遺産保護	なぜ文化遺産を守るのか、明治日本とイスラム国（IS）を通して考える
8	博物館学	他国の文化財保護に協力するという発想がどのように誕生したのかを考える
9	国連と文化	文化面での国際協力を進める国連機関の役割について考える
10	政府開発援助（ODA）と文化影響	ODAの基礎を学ぶとともにそれが文化に与える影響を考える
11	文化外交	開発途上国への文化協力を通してパブリックディプロマシーについて考える
12	人権	人権とは何かを歴史的に考える
13	難民受け入れ	難民受け入れ制度について「集団的汚名」という視点を通して考える
14	統合と同化	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最初の授業で具体的に指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

最初の授業で提示した上で、毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（フィードバックシートで評価）20%、中間レポート40%、期末レポート40%

【学生の意見等からの気づき】

1年生にとってレポートが難しかったという意見があったので、レポートの書き方について丁寧に説明するなどの対応を講じ、適切なレベルでの達成度評価を行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに必ず事前登録して下さい。

【その他の重要事項】

・2018年度の代講教員から元の担当教員に変更になっていますので、先輩からアドバイスをもらう際には留意して下さい。この授業は国際社会コースの基幹科目ですので、特に1、2年生には将来どのような専門を学びたいか、SAで何を学んだらいいか、3年生からどのようなゼミに入ったらいいかを考える場としてこの授業を活かして欲しいと思います。

・長年開発協力の分野にNGOとして関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義する。

【Outline and objectives】

What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

POL200GA

平和学

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】

- (1) 消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って事例を説明できる。
- (2) 国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
- (3) 平和学で取り上げられる方法を理解し事例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義のほか、関連した問いを毎回提示し近くの学生と討議する時間を設ける。提示する問いには正解がないので、論理的に物事を考えると同時に、他者の考え方に触れる機会とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c 以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとする事について考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	2つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から 13 回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む習慣をつけ、平和に関わる記事を読んでおくこと。なお、新聞は紙媒体で読むこと。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の授業で配布するフィードバックシート）20%、中間レポート40%、期末レポート40%。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が多くても受講生の議論の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

- ・国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例を挙げながら講義する。
- ・受講生の関心や反応を見ながら、内容を多少変更することがある。

【Outline and objectives】

This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peaces in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

SOC200GA

宗教と社会

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：150名（超えた場合は、選抜の可能性あり）

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】

1. 宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようにする。
2. 宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・歴史学・人類学・社会学・政治学において、宗教がどのように分析されてきたかを概観するとともに、具体的な諸事例から、宗教と社会の関係性とその多元性について議論していきます。

・毎回、授業の最後に出される問いに対する分析を、A4一枚のリアクションペーパーの形にまとめて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。
4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連しているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教の持つ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・紛争の問題を、宗教儀礼（供犠）、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル（霊的なもの）と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。

10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロナリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	試験（1）	第一回試験
14	試験（2）	第二回試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回、レジュメと参考資料を配布します。

【参考書】

- 望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009年）
- 棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）
- 鳥崗進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）
- 田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）
- タルル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006年）
- ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007年）
- ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009年）
- 中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）
- 磯前順一、タルル・アサド編『宗教を語りなおす：近代的カテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）
- 『岩波講座 宗教（全10巻）』（岩波書店、2004年）
- 『諸宗教の倫理学（全5巻）』（九州大学出版会、1992～2006年）

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（20%）、期末試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメに記載した内容が、授業の進行と前後したことがあったご指摘を受け、レジュメと授業内容が前後しないようにします。

【その他の重要事項】

- ・150名を越える場合は、選抜を行う可能性があります。
- ・大教室の授業ですが、授業中に受講者の皆さんの意見を聞いたり、小規模なディスカッションを行ってもらうことがあります。

【Outline and objectives】

The course explores the relationship between religion and society by taking up issues ranging from gender, nationalism, nation-states, consumer culture, to war and conflicts. It will discuss the possibilities of mutual understanding and coexistence of different religious values and practices in an era of global competition and interdependence.

LANe300GA

英語アプリケーションⅡ

Kregg Johnston

サブタイトル：The Basics of Supply and Demand in Market Economics

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course aims to accomplish the following: 1. Develop the student's knowledge of key vocabulary and concepts of economic theory with particular emphasis on microeconomics. 2. Understand and be able to explain microeconomic models both verbally and graphically. 3. Analyze how changes in economic factors can affect individuals and entities within the economy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. Students read chapter in book
2. A teacher-led discussion on the material from each chapter
3. Student-led discussions in small groups of self-Check questions, review questions, critical thinking questions
4. End of chapter quizzes
5. Short writing assignments on topics covered in class (though not for every chapter).
6. Student presentations on topics covered in chapters (schedule and class size permitting).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Welcome to Economics: Why Economics is important/ Macroeconomics & Microeconomics	English reading and lecture and on why it is important for everyone to be able to understand Economics.
Week 3	Welcome to Economics: Economic Theories & Models/ Economic systems	English reading, discussion and written assignment on Economic systems.
Week 4	Choice in a world of scarcity: Choice & Budget constraints/ Production Possibilities Frontier	English reading and lecture on the concepts of scarcity and the choices people and companies must make because of limited budgets.
Week 5	Choice in a world of scarcity: Social Choices & Objections to the Economic approach	English reading, discussion and written assignment on Economic & Social Choices.
Week 6	Demand & Supply: Demand, Supply, & Equilibrium/ Changes to Equilibrium	English reading and lecture on the concepts of Supply and Demand
Week 7	Demand & Supply: Student Presentations	Students make presentations on real world experiences with Demand & Supply using vocabulary and concepts covered in previous lectures.

Week 8	Elasticity: Price elasticity of demand	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of demand.
Week 9	Elasticity: Price elasticity of supply	English reading and lecture on the concepts of the price elasticity of supply.
Week 10	Cost & Industry structure: Explicit & Implicit costs/ Accounting & Economic profit	English reading and lecture on the concepts of cost, revenue, and profit.
Week 11	Cost & Industry structure: The structure of costs in the short run & long run	English reading, discussion and written assignment on short & long run costs.
Week 12	Perfect Competition: Perfect Competition & Firm output decisions	English reading and lecture on the concepts of Market Competition.
Week 13	Perfect Competition: Entry & Exit decisions in the short run & long run	English reading, discussion and written assignment on why companies open or close.
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Read the assigned chapters in the book.
2. Complete the assigned self-check & review questions at the end of each chapter.
3. Prepare for regular quizzes after finishing each chapter.
4. Come to class ready to participate actively in each class by reading the material, completing the homework assignments, and ask questions or offer own opinions in English on topics covered in class.

【テキスト（教科書）】

OpenStax, Principles of Microeconomics. OpenStax. 19 March 2014. <<http://cnx.org/content/col11627/latest/>> .

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

- Quizzes 50%
- Participation 20%
- Homework 15%
- Written assignments 15%

【学生の意見等からの気づき】

More practice on using economic terminology and expressing own opinions on economic topics.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring a digital device to class, such as a computer or ipad so that they can view the material in the textbook, or print out each unit and bring it to class. The textbook should be downloaded so that it can be viewed or accessed easily during class.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 24 students. If the number of students exceeds the number of seats available, students will be screened based on the level check given in the first class. Students hoping to take the class must attend the first class in order to ensure that they can get a seat. Students who don't attend the 2nd class after attending the 1st will be assumed to have dropped the course. Regular attendance is required to pass the class!

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course is an introduction to the concepts and theories of Microeconomics for non-business majors meant to broaden and enhance students' worldviews and give them the English language tools necessary to deal with readings and conversations commonly found in the business world when English is used.

LANe300GA

英語アプリケーションⅢ

ウォルター カズマー

サブタイトル：Culture, why are there differences?

配当年次/単位：3~4年/2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to talk about their experiences abroad and make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Youth culture: Examining aspects of youth trends such as tattoos, piercings, selfies, Instagram, social media imprint, etc.	English lecture, and reading on trends in youth culture such as tattoos, piercings, selfies, and various type of social media. Followed by question and answer session, and small group discussions on these trends.
Week 3	Youth employment: where does the money go? Youth shopping trends for services and products	English lecture, and reading on youth trends in working styles, and new ways to shop and spend money. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 4	Elderly trends: Shopping for health, plastic surgery and Internet dating	English lecture, and reading on trends among older people including plastic surgery and internet dating. Followed by question and answer session, and small group discussions.
Week 5	Careers and employment: Working life: what is a career? Freelancing, temporary, and home business ownership Research habits: Conducting group research- different sharing tips	English lecture, reading and small group discussions on new trends in working and career styles. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.
Week 6	Alternative career tracks: Unusual fields for employment Outlining of presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions on alternative forms of employment. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.

Week 7 Medical advances: How medical technology is shaping our world of diseases & viruses Presentation tip — explanation of structure: Introduction/Body/Conclusion

English lecture, reading and group discussion on the effects of new medical technologies. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.

Week 8 Medical research — Big pharma: how medicine changes our reality Presentation tip — use of voice and posture: voice and body language dos and don'ts for English public speaking

English lecture, reading and small group discussions on the implications of large-scale for profit medical research. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do when making a presentation.

Week 9 Health issues: Diet considerations for life stages Presentation tip — use of slides: slide making dos and don'ts

English lecture, and group discussion on how people diets change at different times during a person's life. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.

Week 10 Mental Health considerations: Overworking, group and relationship stresses Presentation tip — Group work: Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together

English lecture, reading and group discussion on stresses caused by relationship at work. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentation.

Week 11 Technology in our blood: Technology changes: Uber/Lyft, Yelp/Square, Meet up, Presentation tip — Final slide editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit

English lecture, reading and small group discussions on new technologies creating the sharing society. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.

Week 12 Youth trend Presentations: Presentations and discussions of youth trend themes

Student Group presentations on youth trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.

Week 13 Elderly Presentations: Presentations and discussions of elderly trend themes

Student Group presentations on elderly trends incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.

Week 14 Course overview discussions — Discussion of life themes used in the semester

Recap lecture and group discussion of the social and technological themes cover in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, blog work, some presentation preparation.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)
25% Short Presentations

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work would be useful.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as make presentations on related cultural topics.

LANe300GA

英語アプリケーションⅣ

ウォルター カズマー

サブタイトル：Why culture matters?- truths and fallacies

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. Students will be able to examine cultural issues and gain a better understanding of how others see Japan. This course explores English related to contemporary social and cultural topics, and offers a forum for students to make contrasts and comparisons with life in Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and written assignment.
Week 2	Describing your life: Language activities centering around student life	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing student centered life experiences.
Week 3	Describing other lives: Language activities centering around family and acquaintance routines	English reading, pair work exercises, and small group discussions on describing the daily routines and life experiences of other people.
Week 4	Explaining customs in your country: holidays, national/regional habits	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on Japanese customs, holidays, and regional or national habits.
Week 5	Explaining customs in selected Asian countries: holidays, national/regional habits Research habits: Conducting group research — different sharing tips	English reading, pair work exercises, and small group discussions focusing on different Asian customs, holidays, and regional or national habits. Followed by instructor led discussion on how to conduct group research.
Week 6	Explaining customs in selected Western European countries: Holidays, national/regional habits Outlining of presentations: Cluster and formal outlining	English lecture, reading and small group discussions of some Western European holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on ways to outline a presentation.

Week 7	Discussion of Asian and Western national differences: National holidays, national/regional habits Presentation tip — explanation of structure: Introduction/Body/Conclusion	English lecture, reading and group discussion of difference between Asian and Western holidays and regional habits. Followed by instructor led discussion on standard presentation structure and a written assignment.
Week 8	Discussion of South American customs in selected countries: Discussing cultural difference Presentation tip — use of voice and posture: voice and body language dos and don'ts for English public speaking	English lecture, reading and small group discussions on some South American customs. Followed by instructor led discussion on the important things to remember and do and not do when making a presentation.
Week 9	Discussing food habits: Diet and how it affects customs Presentation tip — use of slides: slide making dos and don'ts	English lecture, and group discussion on how customs are affected by people's diets and food supplies. Followed by instructor led discussion on making presentation slides.
Week 10	Habits of selected parts of Africa: national holidays, national/regional habits Presentation tip — Group work: Making sure group members pull their weight and the presentation slides are together	English lecture, reading and group discussion on some African national holidays and habits. Followed by instructor led discussion on how to make sure all members of a group presentation work well together and a written assignment for group presentations.
Week 11	Examination of sports by continent- selected countries: Sports comparison by types, number of players Presentation tip — Final slide editing: Run through checklist of questions to ask on the final edit	English lecture, reading and small group discussions of sports in some countries and they can differ. Followed by instructor led discussion and advice on editing a presentation.
Week 12	African presentations with discussion of main themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs What would you do? — Culture clash examples	Student Group presentations on African cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 13	South American Presentations with discussion of main themes: Discussion of presentations' themes based on music, art, and traditional public customs What are the rules? — Relook at sports, but ones with unusual rules	Student Group presentations on South American cultural theme incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures followed by question and answer session, and group discussion.
Week 14	Course overview discussion of contrasting presentation themes — discussion of cultural contrasts from country to country and region to region	Recap lecture and group discussion of the cultural and regional themes covered in the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, blog work, some presentation preparation.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some course material via handouts, websites, and class blog.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

75% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Homework, etc.)

25% Short Presentations

【学生の意見等からの気づき】

More pre-discussion work.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing instrument, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact email

kasmersensei@gmail.com

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will discuss and examine various cultural issues as well as present on related cultural topics.

LANe300GA

英語アプリケーションV

ジョナサン・エーブル

サブタイトル：Instant Fluency

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The aim of this application course is to acquaint students with certain social/global topics and for the students to communicate their thoughts on the topics with their peers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

All classes will be student-centered and designed to maximize students' speaking opportunities. Through pairwork and group activities, students will learn to converse about such topics as world knowledge, personality traits and travel experiences. Each class period will be divided into five parts: (a) pairwork practice of a preassigned conversation (b) Fact Sheet questions and answers (c) a question-answer session on a specific weekly topic (d) a news item pairwork reading and listening and (e) a task-based pairwork activity. Students' progress in pairwork activities will be assessed by short weekly tests. Participation in all speaking exercises is compulsory. Students' attempts to use English to communicate will be regularly monitored in class. 20% of the students' final grade will be based on active class participation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Topic: 'Money & Shopping'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'What personality type are you?' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #1 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Money & Shopping' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #1
Week 3	Topic: 'Single Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Some artists are misunderstood.' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #2 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Single Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #2

Week 4	Topic: 'Age and Youth'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'History is my best subject!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #3 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Age and Youth' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #3
Week 5	Topic: 'What if ...?'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I'm against animal testing!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #4 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'What if ...?' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #4
Week 6	Topic: 'Children'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'I've finally given up smoking!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #5 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Children' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #5
Week 7	Topic: 'Cities'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'The 60s counterculture!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #6 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Cities' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #6
Week 8	Topic: 'University Life'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'After all, it's only a game!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #7 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'University Life' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #7
Week 9	Topic: 'Cellphones'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Test my knowledge of geography!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #8 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Cellphones' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #8
Week 10	Topic: 'Travel'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Does capital punishment work?' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #9 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Travel' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #9

Week 11	Topic: 'Teenagers'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'My Cat is Cool!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #10 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Teenagers' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #10
Week 12	Topic: 'Home'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'Staying Fit' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #11 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Home' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #11
Week 13	Topic: 'Time'	Part 1: Pair work Conversation Practice: 'No more cluttered bookshelves!' Part 2: Pair work Question & Answer Session - Fact Sheet: Week #12 Part 3: Small Group Question & Answer Discussion - Topic: 'Time' Part 4: English task-based vocabulary building pair work activity: Word-up Level 3: Set #12
Week 14	Examination/Comments	Examination/Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to practice all assigned conversations before class so they can be spoken fluently. All questions and answers from the Fact Sheet must be practiced similarly.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

Students are expected to consult grammar texts and dictionaries prior to the weekly conversation and the questions-and-answer session. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

- ・ Final Exam - 30%
- ・ Weekly conversation/Expression Sheet/Question-Answer tests - 40%
- ・ Class Participation - 20%
- ・ Word-up Tests - 10%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Through pair work and group activities, students will converse on such topics as world knowledge, personality traits, animal testing and gun control.

LANe300GA

英語アプリケーションⅦ

アンドリュー・ジョーンズ

サブタイトル：The Renaissance: Culture and Art

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Renaissance was a historical period that brought profound changes in literature, science, government, and social customs. It is, however, perhaps best remembered for its artistic developments. Starting in Italy in the early 1400s and continuing into the Netherlandish Renaissance of Northern Europe, we will look at specific artists that embody these periods, their broader artistic context, and discuss the social and cultural changes taking place that influenced their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students will select a topic relevant to the lecture theme, and will then research, prepare, and give a presentation on that topic.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	The Italian Renaissance - The Beginnings of the Italian Renaissance: Giotto, Masaccio	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	The Italian Renaissance - The High Renaissance: Michelangelo, Leonardo	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 4	Presentation style - Presentation structure, posture, eye contact, gestures	English reading, and class discussion on good presentation style.
Week 5	The Italian Renaissance - Research presentation topic, draft scripts	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 6	The Italian Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 7	The Italian Renaissance - Student presentations	Students make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 8	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: van Eyck, Bosch	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.

Week 9	The Netherlandish Renaissance - Netherlandish Renaissance: Historical context	English lecture, followed by class discussion and question and answer session.
Week 10	Presentation style - Creating effective visuals and presenting them effectively	English reading, and class discussion on effective presentation of visual aids.
Week 11	The Netherlandish Renaissance - Research presentation topic, draft script	English reading on potential research topics. Students write presentation scripts.
Week 12	The Netherlandish Renaissance - Edit scripts, presentation practice	Rewriting research presentation, and in class presentation practice.
Week 13	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	First half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.
Week 14	The Netherlandish Renaissance - Student presentations	Second half of the class make presentations on specific research topic incorporating vocabulary and concepts covered in previous lectures.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This class will be demanding in terms of time spent on individual out-of-class assignments. Preparing for presentations at home will be vital.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide course material.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

60% Presentations, students will give two presentations during the course (2 x 30%).

20% Course participation, enthusiasm and willingness to speak English in class.

20% Portfolio of notes taken during lectures.

【学生の意見等からの気づき】

After receiving feedback from students, more background information about biblical and mythological characters will be discussed in lectures.

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. This course will examine how the great changes happening from around 1400 to 1600 affected Renaissance art, and we will also observe how Renaissance art was a reflection of social and cultural change.

LANe300GA

英語アプリケーションⅧ

リービ 英雄

サブタイトル：Japanese Culture, World Culture

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse in a variety of communication modes related to the presentation and discussion of both Japanese and foreign cultural topics. Students will speak on selected topics after consultation with the professor. Following each class time presentation, the student presenter will field questions from the other students in a standard Q&A format.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this course is the mastery of the English necessary to adequately present and discuss cultural topics of interest to the students. During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

During each class meeting students will give short lectures related to cultural topics followed by classroom practice of various styles of English discourse.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
第 2 回	Introduction to How to Make Presentations on Culture in English	Introduction to Specialized Vocabulary, Presentation Methods
第 3 回	Traditional Culture: Everyday Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, Group Discussions, and Written Assignment
第 4 回	Traditional Culture: Pre-modern cityscapes	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 5 回	Traditional Culture: Festivals	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 6 回	Traditional Culture: Performing Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 7 回	Contemporary Culture: Student Life in Present-day Society	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions, and Written Assignment
第 8 回	Contemporary Culture: Sports as a Cultural Activity	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 9 回	Contemporary Culture: The Arts	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 10 回	Contemporary Culture: Language and Present-day Life	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions

第 11 回	Comparison of Cultures: Japan and Asia	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions, and Written Assignment
第 12 回	Comparison of Cultures: Japan and America	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 13 回	Comparison of Cultures: Japan and the World	Presentation, Lecture note taking, Questions & Answers, and Group Discussions
第 14 回	Comments/Conclusion	Comments/Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read about Japanese culture.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide some reference materials.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

50% Ongoing Evaluation (Participation, Discussions, Presentations, etc.)

50% Term Project.

【学生の意見等からの気づき】

日本だけでなく外国文化を課題にしてもいい、と分った。

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Students will practice English discourse in a variety of communication modes related to the presentation and discussion of both Japanese and foreign cultural topics. Students will speak on selected topics after consultation with the professor. Following each class time presentation, the student presenter will field questions from the other students in a standard Q&A format.

LANe300GA

英語アプリケーションX

ラスカイル・ハウザー

サブタイトル：Effective Business Presentation in a Multi-Cultural World

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し受講許可を得ること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The objective of this particular course is to: 1) teach students the difference between domestic Japanese business presentation practices, and international business presentation style, and 2) prepare students to function effectively in an international business environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

The course will employ lecture and practical exercises to build the skills in a variety of situations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: The Principles of International Presentation	Brief English lecture and reading on the differences between Japanese and International business presentation styles. Students take notes, followed by short class discussion and question and answer session.
Week 2	The differences between Japanese and International business presentation styles	Brief English lecture on the main ways a presenter can show professional confidence. Students take notes, followed by class discussion and question and answer session.
Week 3	Presenting with Yourself Confidence: The keys to presenting yourself as a confident professional	Brief English lecture, reading and question and answer session on the three questions a presenter needs to ask before beginning to prepare a presentation. Followed by small group discussions of topics and a written assignment.
Week 4	The Three Critical Questions: The three questions you have to answer BEFORE you do anything else.	Brief English lecture, reading and question and answer session on what every presenter needs to do: create a powerful and persuasive message. Followed by small group discussions of the main point for the audience and a written assignment.
Week 5	Creating a Powerful and Persuasive Message: Developing the one point you want your audience to hear and remember	Brief English lecture on effective presentation structure. Followed by small group discussions and a written assignment on outlining a presentation.
Week 6	The Structure of a Presentation: How to build an effective presentation	Students discuss and edit their presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 7	Mid-term Presentation Preparation: Students work on their mid-term presentations	Individual Student Presentations to the class
Week 8	Mid-term Presentations	

Week 8	The Principles of Effective Visual Presentation: How to present visually	Brief English lecture on the principles of making effective visual presentations. Students take notes, followed by class discussion, and question and answer session.
Week 9	Designing PowerPoint 1 - Working with the Software	Reading, question and answer session, and actual practice working with the standard business presentation software PowerPoint
Week 10	Designing PowerPoint 2 - Text, Color and Composition	Instructor lead discussion, and actual practice working with PowerPoint. Observing both the effective and ineffective use of text, color and composition
Week 11	Using Logic and Emotion to Persuade: The elements of persuading others	Brief English lecture on the concepts of using logic and emotion to persuade others. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 12	Group presentation skills	Brief English lecture on the keys to making effective group presentations. Students take notes, followed by class discussion, and written assignment.
Week 13	Developing Your Group Presentation	Students discuss and edit their group presentation drafts with the advice of the instructor.
Week 14	Final Group Presentations: Evaluation and Feedback	Group Student Presentations to the class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparation for student presentations

【テキスト（教科書）】

Course materials will be provided by the instructor.

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

20% Homework

20% In class work

30% Midterm Presentation

30% Final Presentation

【学生の意見等からの気づき】

The course is constantly being improved based on feedback from students. Based on feedback from past students, we will be studying more real-world examples of business presentations.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

English Application is an integrated 4-language skill communication course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. We will first view successful presenters. Next we will discuss how and what makes their presentations effective. Finally, students will practice and present in class using an internationally acceptable style.

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

林 志津江

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA ドイツ語圏の留学で伸ばしたドイツ語運用能力を維持し、さらに向上させるためのトレーニングを行います。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わいましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の生活、文化、社会など多様なテーマに関する理解を深め、それらを簡単なドイツ語で表現・説明することができる。抽象的なテーマについて、ドイツ語で自分の意見を述べ議論ができる。まとまった分量のドイツ語作文を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

各テーマに沿って議論する形式です。各回決められたテキストを前もって読んでおきます。授業ではペアワーク・グループワークも取り入れ、テキストの内容と重要な概念（語彙）を確認しながらできる限りドイツ語でアウトプット（作文）します。この作業を繰り返しながら、自分の言いたいことが適切なドイツ語の表現で、できるだけスムーズにドイツ語で言えるように練習します。テーマに関しては、ドイツ語圏それぞれ共通する話題、異なる話題のバリエーションを用意し、自分自身の体験と比較しながら、理解の内容を深めていくことができるよう配慮したいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方について、ドイツ語レベルの調整、ドイツ語で SA 滞在時の思い出を語ってみよう！
2	自宅と家族、住まいについて	家族、家庭内での光景、一日の営みについてドイツ語で説明しする練習
3	方言（1）－食文化	土地ごとに違う表現・同じ食べ物でも土地ごとで名前が違うこと
4	方言（2）－ドイツ語圏のさまざまな様相	あなたが見聞きしたものは？あるいは見聞きできなかったものは？
5	学校・大学生活（1）	学校・大学制度、学校生活のさまざまな光景を説明する
6	学校・大学生活（2）	大学生の過ごし方、大学が目指すもの－日本とドイツ語圏では何が違うのかな？
7	社会問題（1）－環境政策について	ドイツ語圏の脱原発政策について、自分の意見をドイツ語で言ってみよう
8	社会問題（2）－移民政策、難民の流入	移民政策・難民政策、メディアが発することと自分が思ったこと、自分の意見をドイツ語で言ってみよう
9	社会問題（3）－教育と大学制度	日本の大学生とスイス（ドイツ語圏）にいる大学生は何が違った？
10	社会問題（4）－日本の社会と教育制度	ドイツ語圏と比べて日本は？教育に関する語彙を整理してみよう
11	ドイツ語圏の歴史と政治（1）	ドイツ語圏の歴史で知っていることは？感じていることをドイツ語で言ってみよう
12	ドイツ語圏の歴史と政治（2）	自分の意見をドイツ語で確認してみよう
13	ドイツ語圏の歴史と政治（3）	SA 先の友人や Mitbewohner とは何を話しましたか？ドイツのメディアが報道する日本について
14	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・所定の予習・復習課題を出します。
- ・新聞（日刊紙）を読むといいです。国際政治を自分の身近な問題として引き受けるために必要なものについて考えられようになることは、単なる知識ではなく、「何を話すか」のブラッシュアップにも必要です。
- ・ドイツ語圏のメディアにはインターネット等で簡単にアクセスできます。SNS 等も効果的に利用して、日頃からそうしたメディアに接するクセをつけると良いでしょう。

【テキスト（教科書）】

適宜コピーを配布します

("Themen aktuell 1" (Hueber, 2003) ,"Dreimal Deutsch" (Klett, 2003) を持っている場合は持参)

【参考書】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver2.』(朝日出版社、2011年)(1,2年次使用教科書)

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』(白水社、2003年)

その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業への積極的な参加と貢献、プレゼンテーション、提出課題)60%、定期試験40%を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典は必携です。ただし議論の時は使ってはけません。

【その他の重要事項】

授業内容(テーマ)と順序は変更されることがあります。

【Outline and objectives】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German: Target groups are previous participants of the SA-Program of Faculty of Intercultural Communication (over 5. semester) as well as the Hosei University Study Abroad Program or students with experiences in any German speaking society. In the course, we combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

辻 朋季

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

留学を通して身に付けたドイツ語の運用能力をさらに高めるためのトレーニングを行います。ドイツ語検定試験の2級相当のレベルに到達することを一つの目標に、ドイツ語テキストの正確な読解に取り組みます。辞書なしで文意を捉えられるよう、速読の力を養うとともに、ドイツ語の構文を正しく理解して精緻に読み解く訓練もしていきます。また必要に応じて会話や聞き取りの練習も行います。

【到達目標】

ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。抽象的なテーマを扱ったドイツ語の文章を正確に読み解く（著者が何を言いたいのか、メッセージを読み解く）。辞書なしで文章の大意を把握できるようになる。ドイツ語のしくみや、ドイツ語圏の人々の考え方を学ぶ。独検2級に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半では、初見のテキストを辞書なしで読み、テキストの大まかな方向性を把握する練習をします。後半では、事前に配布した教材（ドイツ語圏の文化や歴史に関するテキストやニュース記事）などを精読します。文章の和訳をしながら、内容を正確に読み解くとともに、テキストが扱っているテーマについての議論も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての解説、受講者の自己紹介とドイツ語レベルの確認。
2	スイス留学を振り返る	2018年にスイスで起きたことについて、テキストを読む。自身の留学体験とも重ね合わせて、どんな年だったのかを振り返る。
3	ドイツ語圏を知る（1）ドイツについて	スイスの隣国ドイツのいまを知る。ドイツとスイスの社会や政治の制度の違いを知る。
4	ドイツ語圏を知る（2）オーストリアについて	史上最年少の首相が誕生したオーストリアの政局や移民政策、難民受け入れなどについて概観する。
5	ドイツ語圏を知る（3）スイスについて、改めて学ぶ	スイスの独自性や地域性について、ニュース記事などを訳しながら情報を得る。
6	ドイツ語圏を知る（4）スイスの直接民主制について	最低賃金 3000 円？ 国内法よりも国際法を優先？ 民間銀行の信用創造を禁止？ 世界が驚くスイスの斬新な国民投票発議について学ぶ。
7	スイスと多言語主義	4つの公用語を持つスイスの現状や、英語の普及がもたらす影響などについて学ぶ。
8	日本とスイスの交流史	1864年に修好条約が締結されて154年を迎える日本とスイスの両国の関係を学ぶ。
9	日本とドイツの交流史	1862年にプロイセンと日本の間で修好条約が結ばれて160年弱。日独間の交流の歴史を知る。
10	独検に挑戦（1）	ドイツ語検定2級で出題された文章を正確に読み解いていく。
11	独検に挑戦（2）	ドイツ語検定2級で出題された文法問題を解いて、初級・中級文法の定着を図る。
12	独検に挑戦（3）	ドイツ語検定の聞き取り試験を解きながら、リスニングの力を養っていく。
13	スイス、ドイツのいま（1）	ドイツ語圏のニュース記事をピックアップし、ドイツの最新の情勢を知る。
14	スイス、ドイツのいま（2）	ドイツ語圏のニュース記事をピックアップし、スイスの最新の情勢を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の後半で読むテキストは事前に配布しますので、辞書を用いて予習して授業に臨んで下さい。予習に際しては、ただ単語の意味を調べるだけではなく、著者がどのようなスタンスで何を述べようとしているのかを読み解く努力をしていきましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを毎回配布します。

【参考書】

中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三著：『ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003年）。ドイツ語の文法がコンパクトながら網羅的に解説されていて、ドイツ語学習者の「必携の書」と言えます。まだ持っていない学生は用意してください。また中級文法のトレーニングには、以下の参考書もおすすめします。辻朋季：『もやもやを解消！ ドイツ語文法ドリル』（三修社、2015年）

【成績評価の方法と基準】

授業での発言と参加 40%。課題への取り組み 40%。小テスト 20%。

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語で話す機会を増やしてほしいという意見があったので、授業で扱うテーマに関して、ドイツ語で議論する場を設けていく。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to make progress our German language skills acquired by staying and studying in Switzerland. The course is especially focused on reading German texts. On one hand we'll practice to read various types of texts rapidly without using dictionaries in order to be able to grasp the main points of the text. On the other hand we read them precisely by paying attention to the structures of sentences as well as cases (nominative, genitive, dative and accusative).

NOTA BENE: The course is mainly held in Japanese, partially in German. Students who are not proficient in these languages are requested to ask the course lecturer beforehand (q.v. also curriculum vitae in Japanese)

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

ウテ・シュミット

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Alltagskultur im deutschen Sprachraum ドイツ語圏の日常文化:日本と比較してみましょう

この授業では身近な事柄から時事問題までドイツ語圏のいろいろなトピックにスポットを当てたいと思います。受講者はそれを理解し、自分の周りの日常と比較しながら、自分の意見をドイツ語で発信し、ディスカッションをしていきたいと思っています。

【到達目標】

この授業では受講者がドイツ語による口頭および書面の表現力をつけることを目標としています。題材として、身近な事柄から時事問題までドイツ語圏の日常文化を扱います。学生はその実情を調べ、日本と比較しつつ、各テーマについて発表や意見交換をします。簡単なディスカッションも試みたいで。受講者は日本の文化や日本が抱える問題をドイツ語で発信するための能力を磨きます。批判的に問題を扱う姿勢、自己の生活文化を見つめ直す姿勢を育てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストブック、新聞や雑誌の記事、音楽、オーディオやビデオポッドキャストを

通じて、なるべく自然なドイツ語に触れる事によって読む・聞く・書く・話す技能を磨きます。口語表現力を重視しますので、ドイツ語圏の日常生活と時事問題について情報交換し、日本と比較しながら、自分の意見を述べる練習と簡単なディスカッションの試みもします。間違いを恐れずに楽しく発言をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	Einstufung
第 2 回	自己紹介	Selbstvorstellung
第 3 回	大学生生活	Studium und Studentenleben
第 4 回	日曜日の過ごし方	Der Sonntag heute und in der Vergangenheit
第 5 回	国と国民:典型的とは何か?	Was ist typisch?
第 6 回	国際文化とは	Interkulturelle Kommunikation: Zwischen den Kulturen
第 7 回	歴史と政治 1	Geschichte und Politik 1 Wie lernen wir Geschichte in der Schule?
第 8 回	歴史と政治 2	Geschichte und Politik 2 Interessieren Sie sich für Politik?
第 9 回	ドイツ映画 1	Deutschsprachige Filme
第 10 回	ドイツ映画 2	Einen Film sehen und eine Filmkritik schreiben
第 11 回	ドイツのニュースを読む	Nachrichten verstehen
第 12 回	ドイツのニュースを見る	Nachrichten im Fernsehen
第 13 回	健康と環境	Gesundheit und Umwelt
第 14 回	お祭り	Traditionelle Feste
第 15 回	クリスマスを知るクイズ	Weihnachtenquiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題が出ます。単語の復習は必須。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布します。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業での発言と参加 50%、宿題 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

In this class we will focus on different cultural or social topics in German speaking countries. The students will have to learn the related vocabulary to describe the situation in their own country and compare with the situation in Japan. They will learn how to express their own point of view in German and to take part in small discussions.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2 ou B1). Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1) comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ÉDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation du manuel - Organisation de la classe. Calendrier des leçons et des devoirs ou tests - Découverte de la méthode Édito et de l'unité 1
2	Unité 1 : Vivre ensemble (1)	pp.11-13 & p.15 : supermarché et alimentation
3	Unité 1 : Vivre ensemble (2)	p.14 & pp.16-17 : le subjonctif ; le logement
4	Unité 1 : Vivre ensemble (3)	pp.18-20 & p.23 : le voisinage ; conseiller
5	Unité 1 : Vivre ensemble (4)	p.22, p.24, p.26 : la négation et la restriction ; équilibrer son alimentation
6	Unité 2 : Le goût des nôtres (1)	pp.27-30 : famille et origines ; passé composé et imparfait
7	Unité 2 : Le goût des nôtres (2)	pp.31-35 : souvenirs familiaux, généalogie ; indicateurs de temps
8	Unité 2 : Le goût des nôtres (3)	pp.36-39 : rapports à l'autre ; verbes pronominaux TEST INTERMEDIAIRE
9	Unité 4 : Consommation (1)	pp.59-61: mode et vêtements ; image de la France
10	Unité 4 : Consommation (2)	pp.62-65 : être consommateur ; expression de l'opinion
11	Unité 4 : Consommation (3)	pp.66-68 & p.71 : économie de partage ; comparatif & superlatif
12	Unité 7 : Et si on partait ? (1)	pp.107-109 & p.111 : bien voyager ; le futur
13	Unité 7 : Et si on partait ? (2)	p.110 & pp.112-113 : préparer ses vacances
14	Unité 7 : Et si on partait ? (3)	p.114 & p.116 : et si ? ; condition & hypothèse TEST FINAL Suggestions pour le travail personnel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

La présence et la participation en classe sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. réviser le vocabulaire, structurer un devoir, préparer un exposé).

(14 回の出席・予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】

ÉDITO (2e édition), Niveau B1 ; Dufour & Mainguet ; Éditions Didier
ISBN : 978-2-278-08773-0

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 50%

Tests et devoirs : 50%

【学生の意見等からの気づき】

Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés, notamment pour préparer les examens DELF ou DAPF.

【学生が準備すべき機器他】

Salle LL

Internet, CD, DVD, VHS, OHC...

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants revenus de stages en France (ex: SA-France) ou qui visent le concours des étudiants d'échanges ("haken-ryûgaku").

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

This course is for intermediate students with a A2 or B1 level in french. Skills in oral or written communication will be worked to improve the student's level of communication and expression. Selected themes will also expand knowledge on french and francophone cultures.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours, suite du premier semestre, s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé. Les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur les cultures française et francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : amplification du vocabulaire, meilleures capacités de lecture et d'expression orale ou écrite. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe à B1) comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

EDITO B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage, en dehors des cours (révisions, compléments, vacances) grâce aux ressources internet et aux compléments du livre.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unité 5 : le français dans le monde (1)	pp.75-77 : diversité des cultures francophones
2	Unité 5 : le français dans le monde (2)	pp.78-80 : le plus-que-parfait ; relations interculturelles ; Océanie
3	Unité 5 : le français dans le monde (3)	pp.81-85 : "en" & "y"; le français dans le monde
4	Unité 5 : le français dans le monde (4)	pp.86-90 : indicateurs de temps ; la diversité ; le vocabulaire français
5	Unité 6 : Médias en masse (1)	pp.91-93 : les médias à l'ère du numérique
6	Unité 6 : Médias en masse (2)	pp.94-97 : les faits-divers ; nominalisation de la phrase verbale
7	Unité 6 : Médias en masse (3)	pp.98-100 & p.103 : le passif ; le bouleversement des médias TEST INTERMEDIAIRE
8	Unité 8 : La planète en héritage (1)	pp.123-125 & p.127 : le recyclage
9	Unité 8 : La planète en héritage (2)	p.126 & pp.128-129 : effet de serre ; verbes et adjectifs avec prépositions
10	Unité 8 : La planète en héritage (3)	pp.130-132 : la planète, demain ; le gérondif
11	Unité 8 : La planète en héritage (4)	pp.133-136 : vivre en respectant l'écologie ; l'ordre du discours
12	Unité 11 : du sport (1)	pp.171-173 & p.175 : la paresse et les loisirs
13	Unité 11 : du sport (2)	p.174 & pp.176-177 : au service de la santé ; les doubles pronoms
14	Unité 11 : du sport (3)	p.178 & p.186, pp.180-183 : quels sports choisir ? ; le futur antérieur TEST FINAL Suggestions pour le travail personnel

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

La présence et la participation en classe sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (ex. réviser le vocabulaire, structurer un devoir, préparer un exposé).

(14 回の出席・予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】

EDITO (2e édition), Niveau B1 ; Dufour & Mainguet ; Éditions Didier
ISBN : 978-2-278-08773-0

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

Participation en classe : 50%

Tests et devoirs : 50%

【学生の意見等からの気づき】

Une attention particulière sera portée à l'apprentissage du vocabulaire, à la structuration des devoirs et à la présentation des exposés, notamment pour préparer les examens DELF ou DAPP.

【学生が準備すべき機器他】

Salle LL

Internet, CD, DVD, VHS, OHC...

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants revenus de stages en France (ex: SA-France) ou qui visent le concours des étudiants d'échanges ("haken-ryūgaku").

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

This course is for intermediate students with a A2 or B1 level in french. Skills in oral or written communication will be worked to improve the student's level of communication and expression. Selected themes will also expand knowledge on french and francophone cultures.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

コンルール ジョルジュ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire. Les compétences de compréhension et de production à l'oral seront travaillées afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur la culture française.

【到達目標】

Ce cours s'adresse à des étudiants de niveau intermédiaire, motivés pour la poursuite de leur apprentissage : augmentation du vocabulaire, meilleure capacité d'expression orale (et même écrite), mise en place d'un véritable savoir-faire communicatif.

Il peut préparer aux examens du DELF "B1" comme des "kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

LA COMMUNICATION PROGRESSIVE DU FRANÇAIS est un manuel qui met l'accent sur la compréhension et la communication orales, à travers l'étude thématique d'actes de paroles mais sans sacrifier l'écrit. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance : dialogues, souvent humoristiques, et expressions en page de gauche, et en page de droite : exercices de difficulté croissante.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
①	- Prise de contact (questions et révisions générales). - Explications sur le programme du cours	Tour de classe pour établir le niveau de chaque étudiant et ses demandes particulières. Le programme du cours pourra s'en trouver modifié.
②	Demander des articles, des produits	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
③	Parler des quantités	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
④	Passer une commande	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑤	Réserver	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑥	Réserver (suite et fin)	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑦	Révision générale	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test intermédiaire
⑧	Parler d'argent	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑨	Échanger, se faire rembourser	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑩	Comparer	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑪	Localiser	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑫	Parler des lieux	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑬	Expliquer un vol ou un accident	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑭	- révisions - test final	Le test final pourra être constitué d'une partie écrite mais aussi orale

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

La participation en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours, pour le cours suivant (apprendre le vocabulaire et les expressions, préparer la liste d'exercices, être prêt à jouer un rôle à l'oral, etc.)

【テキスト（教科書）】

Communication Progressive Du Francais - 2eme Edition: Livre De Leleve + Cd-audio, Editions Clé International, Claire MIQUEL (ISBN 978-2090381634)

【参考書】

Dictionnaire français-français recommandé

【成績評価の方法と基準】

Préparation: 25%

Participation en classe: 25%

Tests et devoirs: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Un accent particulier sera mis sur la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】

CD

【その他の重要事項】

On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant <http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/bb51c54d7c63635313336363536383834343935.pdf>

【Outline and objectives】

The goal of this course is to teach the French Language basic structure using English according to the ability of the students.

LANF300GA

フランス語アプリケーション

ジョルディ・フィリップ

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours, d'un seul semestre, est destiné à des étudiants qui se préparent à la vie active et qui veulent communiquer en français, à l'oral comme à l'écrit, dans des situations professionnelles (「ビジネス・フランス語」). Il constitue une bonne initiation au vocabulaire de l'économie et du monde du travail.

【到達目標】

Ce cours prépare à la vie professionnelle en France ou dans un milieu professionnel francophone.

Il est également utile à la préparation des examens du DELF ou des "Kentei-shiken".

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

L'apprentissage sera progressif mais rapide, donc relativement intense. Exercices et activités développeront simultanément les 4 compétences (compréhension de l'oral, de l'écrit ; production orale et écrite). Voir le programme ci-dessous.

Chaque séance de cours sera conclue par quelques éléments de macro-économie et d'actualité économique (15 mn environ).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation Unité 1 (1) ("Une rentrée chargée", pp. 8-23)	Présentation du cours et de la méthode. Parties A et B de l'unité 1.
②	Unité 1 (2) ("Une rentrée chargée", pp. 8-23)	Parties C & D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
③	Unité 2 (1) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
④	Unité 2 (2) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑤	Unité 2 (3) ("Changement de vie", pp. 24-39)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑥	Unité 3 (1) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑦	Unité 3 (2) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑧	Unité 3 (3) ("Le nec plus ultra", pp. 40-55)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑨	Unité 4 (1) ("Vous avez dit 'écologie'?", pp. 56-71)	Parties A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑩	Unité 4 (2) ("Vous avez dit 'écologie'?", pp. 56-71)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑪	Unité 4 (3) ("Vous avez dit 'écologie'?", pp. 56-71)	Partie D + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑫	Unité 5 (1) ("En mission", pp. 72-87)	Partie A + éléments de macro-économie et d'actualité économique.
⑬	Unité 5 (2) ("En mission", pp. 72-87)	Parties B & C + éléments de macro-économie et d'actualité économique.

⑭ Unité 5 (3)
("En mission", pp. 72-87)

Partie D
+ éléments de macro-économie et d'actualité économique.
TEST FINAL

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

La présence active au cours et la préparation régulière des cours sont indispensables. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque séance, pour le cours suivant.

【テキスト（教科書）】

OBJECTIF EXPRESS 2 (A2/B1),
Anne-Lyse DUBOIS, Béatrice TAUZIN,
Chambre de Commerce et d'Industrie de Paris
(ISBN : 978-2-01-155509-0)

Un manuel pourra être prêté à chaque étudiant durant le semestre.

【参考書】

La possession d'un dictionnaire français-français est fortement recommandée (par exemple : le Robert Micro, ISBN : 978-2-84902-470-6)

【成績評価の方法と基準】

Participation active en classe : 40%
Test, textes et exposés : 60%

【学生の意見等からの気づき】

Quelques notions fondamentales d'économie et de finances seront rappelées.

【学生が準備すべき機器他】

Salle LL

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

This "business french" course (one semester only) is intended for students who want to communicate in professional situations (level A2-B1).

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA ロシアで培ったロシア語の文法と読解力を維持・向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めることが目的となります。ロシア語テキストの読解を通して、ロシアの文化や慣習をさらに深く知る楽しみも分かち合いたいと思います。

【到達目標】

ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ТРКИ）、あるいはロシア語能力検定試験の各自が目標とするレベルの合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

読解に重点をおきます。教材には、ТРКИやロシア語能力検定試験の練習問題、あるいはロシアの文化や慣習をテーマとしたテキストを教材として、限られた時間に情報を的確に把握し、設問に答える練習を積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方について。
第2回	ТРКИの読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第3回	ТРКИの読解問題と文法解説	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第4回	ТРКИの読解問題と文法解説	ТРКИのテキストに関するリスニングとテキスト内容の簡単な解説。
第5回	ТРКИの読解問題と文法解説	ТРКИのテキストに関するリスニングとテキスト内容の簡単な解説。
第6回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第7回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第8回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第9回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第10回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第11回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第12回	ロシア語能力検定試験の読解問題と文法解説。	ロシア文化に関するテキストの読解と解説。
第13回	ロシア映画鑑賞（1）	映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。
第14回	ロシア映画鑑賞（2）	映画作品を通して、ロシアの文化とロシア語の日常的表現を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ТРКИの練習問題やロシア語能力検定試験の過去問題を通して、本番に臨む準備を各人でも重ねていってください。

【テキスト（教科書）】

適宜、教場でコピーを配付します。

【参考書】

教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

予習を含む授業への取り組み（50%）、出席率（50%）

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語検定試験対策とロシア映画鑑賞への希望があったので、両者に広がるような授業を組みたいと思います。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to maintain and improve Russian grammar and reading comprehension in Russian. We would like to share the pleasure of learning more about Russian culture and customs through reading texts in Russian. The level of this course is B1 (CEFR).

LANr300GA

ロシア語アプリケーション

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期はロシア語の読解力に加え、リスニングの向上にも力を入れます。次年度のロシア語検定試験（ТРКИ）、およびロシア語能力検定試験の希望する級の合格を目標に掲げます。

【到達目標】

読解力と聴解力を向上させ、ロシア語学習に対するモチベーションをいっそう高めること、ロシアの文化をロシア語の文献から読みとる力をつけることが全体的な目標となります。ロシア連邦教育科学省が認定するロシア語検定試験（ТРКИ）、およびロシア語能力検定試験の各自が目標とするレベルの合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ロシア語検定試験（ТРКИ）、およびロシア語能力検定試験の読解問題やロシア語雑誌のコラム、ロシア文化に関する文献を教材としてリーディングの力を養います。また、ТРКИのリスニング問題を利用して聴解力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	みなさんの要望を訊くアンケートを実施。
第2回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИのリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第3回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИのリスニング解説。「ロシア社会での常識」について読む。
第4回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第5回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング解説。「ロシア社会での常識」について読む。
第6回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング。「ロシア社会での常識」について読む。
第7回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング解説。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第8回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第9回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング解説。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第10回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング。「ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第11回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング解説。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第12回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第13回	ТРКИのリスニングとロシア文化を知るテキスト読解。	ТРКИリスニング解説。ロシア人とのパートナーシップ」について読む。
第14回	映画鑑賞	ロシア映画を鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシアの文化、社会を知るために読むテキストの予習。

【テキスト（教科書）】

教場でテキストのコピーを配付します。

【参考書】

教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

予習を含む授業への取り組み（50%）と出席率（50%）に基づき判断します。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんの要望に基づき、これまでどおり、ТРКИおよびロシア語能力検定試験に向けた対策、およびロシア語のコラムの読解を続けていきます。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to maintain and improve reading comprehension and listening in Russian. We would like to share the pleasure of learning more about Russian culture and customs through reading and listening texts in Russian. The level of this course is B1 (CEFR).

LANc300GA

中国語アプリケーション I

曾 士才

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

We will mainly read the news or critique in Chinese newspapers or magazines.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。本授業では特に「読む」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は、これまで積み上げてきた中国語能力を基礎に、長文の読解力を身につけ、それを翻訳力にまで高めることをめざしている。具体的には、中国の報道記事や評論文を辞書を使いながら十分に読めるレベルを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

たとえば、『人民日報』『新民晩報』『南方周末』などの報道記事や『新華文摘』『新華月報』などの評論文を熟読し、和訳することによって中国語の読解力、翻訳力を高めるとともに、中国の政治、経済、社会、文化、歴史について理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、教材配布。
第 2 回	プリント 1 ①	政治関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 3 回	プリント 1 ②	翻訳と講読を続ける。
第 4 回	プリント 1 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 5 回	プリント 2 ①	経済関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 6 回	プリント 2 ②	翻訳と講読を続ける。
第 7 回	プリント 2 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 8 回	プリント 3 ①	社会関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 9 回	プリント 3 ②	翻訳と講読を続ける。
第 10 回	プリント 3 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 11 回	プリント 4 ①	文化関係の記事を読み、日本語に訳す。
第 12 回	プリント 4 ②	翻訳と講読を続ける。
第 13 回	プリント 4 ③	翻訳と講読を完成させ、全体を振り返る。
第 14 回	読解力テストと講評	テスト後の講評と関連語彙の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業はプリント教材を読み、翻訳することになる。受講者は事前に分担部分を読み込み、訳文を用意しておくこと。また、参考図書・三瀧正道『論説体中国語読解力養成講座』の第Ⅱ部論説体解析講座の練習問題を各自で翻訳する。

【テキスト（教科書）】

プリント教材。

【参考書】

三瀧正道『論説体中国語読解力養成講座－新聞・雑誌からインターネットまで』東方書店 2010 年

【成績評価の方法と基準】

授業時間外の学習（20％）と学期末に実施する読解力テスト（80％）で達成度を判定する。授業への出席は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

中国語そのものだけでなく、記事内容の背景についても十分に説明するよう心がけたい。

【Outline and objectives】

Chinese Application I~IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I~IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the reading skill.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅣ

鈴木 靖

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「聞く」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

中国のドラマは、インターネットでのオンデマンド配信などを通じて、多くの作品が鑑賞できるようになっている。この授業を通じて、中国語のドラマを鑑賞できる力を身につけるとともに、“中国語を”学ぶから“中国語で”学ぶあるいは楽しむという、教室学習から生涯学習への転換をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業時間を有効に利用するため、eラーニングによる予習と教室での学習を組み合わせたブレンド型学習を行う。

授業の具体的な進め方は、次のとおり。

【授業前の事前学習】

授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、ドラマのディクテーションを行う

【授業の進め方と方法】

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）
- ②単語・表現・語法の解説と作文練習
- ③ドラマのロールプレイ練習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方を説明した後、事前学習に使用する教材の利用方法を解説と実習を行う
第2回	「愛是一颗幸福的子弹」第1集	第1集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第3回	「愛是一颗幸福的子弹」第2集	第2集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第4回	「愛是一颗幸福的子弹」第3集	第3集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第5回	「愛是一颗幸福的子弹」第4集	第4集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第6回	「愛是一颗幸福的子弹」第5集	第5集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第7回	「愛是一颗幸福的子弹」第6集	第6集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第8回	「愛是一颗幸福的子弹」第7集	第7集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第9回	「愛是一颗幸福的子弹」第8集	第8集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第10回	「愛是一颗幸福的子弹」第9集	第9集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第11回	「愛是一颗幸福的子弹」第10集	第10集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第12回	「愛是一颗幸福的子弹」第11集	第11集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第13回	「愛是一颗幸福的子弹」第12集	第12集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ
第14回	「愛是一颗幸福的子弹」第13集	第13集の解説と作文練習、ドラマのロールプレイ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に下記の事前学習を行うこと。

- ①パソコンまたはスマートフォンを使い、ドラマのディクテーションを行う
- ②前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、ロールプレイができるよう準備する

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回各回のポイントをまとめたプリントを配布する。

【参考書】

・劉月華『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】

- ①授業のはじめに行う小テスト（60%）
- ②事前学習（ディクテーション）の実施状況（20%）
- ③ロールプレイの内容（20%）

【学生の意見等からの気づき】

授業内でのロールプレイによる練習時間を増やし、より実践的な表現力を身につけられるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

教材の利用には、インターネットの接続できるパソコンまたはスマートフォンが必要である。自宅でこれらの環境がない場合は、学内の情報カフェテリアなどを活用してほしい。

【Outline and objectives】

Chinese Application I-IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I-IV is to maintain and improve Chinese communication skills which were acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve listening skills through the use of e-Learning.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅢ

周 重雷

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベル中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞くと、話す」という四技能をバランス良く育成することが必要であるが、本授業では主に「話す」能力を重点的に育成する。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである：

- 1、正確な発音で中国語を話す。
- 2、日常会話を流暢に話す。
- 3、留学や就職などのために高度の会話能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 1、テーマを決めて、基本パターンをチェックする。
- 2、テーマに沿って、様々な会話パターンを作る。
- 3、受講者がそれぞれのパターンを使って授業内発表をする。
- 4、総括する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1、シラバスの配布 2、中国語による自己紹介
第2回	ピンイン・日常用語（1）	1、ピンインを復習する 2、簡単な日常会話を練習する
第3回	文章の朗読・日常用語（2）	1、短い文章を朗読し、発音をチェックする 2、言い回しを使って日常会話を練習する
第4回	会話パターン（1）	買い物する時の会話パターンをチェックする
第5回	授業内発表（1）	教師と一対一で会話する、もしくはグループでシミュレーションをする
第6回	会話パターン（2）	レストランでの会話パターンをチェックする
第7回	授業内発表（2）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで発表する
第8回	会話パターン（3）	ものの尋ね方をチェックする
第9回	授業内発表（3）	教師と一対一で会話する、もしくはグループで問答する
第10回	会話パターン（4）	留学や就職する時の面接試験を想定して練習する
第11回	授業内発表（4）	先生と一対一で面接のシミュレーションをする
第12回	スピーチ	スピーチやものを語る練習をする
第13回	授業内発表（5）	個人発表をする
第14回	試験・まとめ	試験および各会話パターンの復習と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各会話パターンをよく確認し、流暢に発表できるように準備する。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布。

【参考書】

劉月華 他『实用現代漢語語法（増訂版）』北京・商務印書館

【成績評価の方法と基準】

期末試験の点数（50点）と平常点（50点）の合計点で評価する。
平常点の場合は、学習態度のほか、最初には会話力の個人差があるため、どれほど進歩が見られるかも参考となる。

【学生の意見等からの気づき】

要望に応じて会話パターンの変更も可能。

また、会話以外の質問も受け付ける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験を推奨される。

【Outline and objectives】

Chinese Application I～IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA(Study Abroad) program.the aim of Chinese Application is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program.To achieve this aim,it is important to develop the four skills of listening,speaking,reading and writing. In the course, we will mainly improve to speaking skill.

LANc300GA

中国語アプリケーションⅡ

渡辺 昭太

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語アプリケーションは、SA (Study Abroad) プログラムによる留学を終え、中級レベルの中国語コミュニケーション能力を有する学生を主たる対象として、留学中に培った中国語コミュニケーション能力の維持及び向上を図ることを目的とした授業である。中国語コミュニケーション能力の維持、向上のためには、「読む、書く、聞く、話す」という四技能をバランスよく育成することが必要であるが、本授業では主に「書く」能力を重点的に育成する。具体的には、作文や翻訳を行う際に注意すべきことをルール化して編纂されたテキストを用い、そこに提示されたルールを講師が解説し、そのルールを応用した各種の練習問題に取り組むことで作文力の育成を図る。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) テキストに提示されている説明を精読し、中国語文法の特徴を深く理解する。
- (2) 日文中訳や並べ替え問題、自由作文等を通じて、難易度の高い中国語文を適切に作ることができる。
- (3) 中国語と日本語の表現方法の違いを把握し、適切な翻訳ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式と演習形式を組み合わせて行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバス及び授業概要の確認（本授業の意義と目的、授業概要、授業計画、成績評価方法など）
2	第1課、第2課	中国語作文をする際に必要となる基本的文法事項の確認
3	第3課、第4課	所在・存在の表現、程度副詞“很”の機能、“吗”の使用条件、日中両言語の勧誘表現、「何か／どこか／だれか」の訳し方
4	第5課、第6課	疑問詞＋名詞の用法、疑問詞呼応構文、動詞の省略可能性、適切な動詞を補う必要性
5	第7課、第8課	多用される“来”と“去”、「動日」構造の語の特徴、「思う」を表す語の種類、動詞の重ね型
6	第9課、第10課	文脈に隠れた代名詞、“这么／那么”が必要な場合、副詞“就”の用法、副詞“才”の用法
7	第11課、第12課	副詞“都”の用法、副詞“只”の用法、副詞“也”の用法、副詞“再／又／还”の用法、副詞“再”の用法
8	第13課、第14課	「…から」と“从…”の対応関係、「…まで」と“…到”の対応関係、動詞後の“…到”、日中両言語のコピュラ文、“是…的”構文
9	第15課、第16課	「で／に／から／と／まで」を表す中国語の介詞、介詞句を含む文の否定、「…について」の表し方、「ちょっと・少し」の表し方、形容詞の動詞化および命令化
10	第17課、第18課	量詞の出現情況、数量の位置、形容詞を用いた過去事態の表現法、結果状態を表す“了”、過去の習慣的動作と“了”補語の使用における動詞の重要性、日本語の観点からは訳出しにくい補語、“要”の使用条件、可能性を表す“会”、可能を表す“能”“会”“可以”
11	第19課、第20課	

- 12 第21課、第22課 “被”構文の諸特徴、日本語の受身表現と“被”構文の対応関係、日本語の自動詞受身文の中国語での表現法、“把”構文の使用条件、“把”構文の使用制限
- 13 第23課、第24課 授受表現の特徴、目的表現の後置、将然表現、主体表現としての“人”、道具・手段や原因を表す「で」、否定と肯定の入れ替え、逆転の発想
- 14 全体のまとめ 試験とその解説、学習内容の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業開始後は、テキストの予習／復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。

【テキスト（教科書）】

相原茂（著）2006『作文ルール 66 日中翻訳技法』朝日出版社（2,300円＋税）

【参考書】

- ・大石智良 他 2010『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東京：東方書店
- ・相原茂 他 2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
- ・木村英樹 2017『中国語はじめての一步 [新版]』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房
- ・三宅登之 2012『中級中国語 読みとく文法』東京：白水社
- ・守屋宏則 1995『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東京：東方書店
- ・劉月華 他 2001『实用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館

【成績評価の方法と基準】

期末試験を70%、平常点（問題演習への取り組み状況、発表・質疑応答の内容など）を30%として合計100点満点とし、60点以上の成績で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

Chinese Application I-IV are the Chinese courses for intermediate learners who have completed the SA (Study Abroad) program. The aim of Chinese Application I-IV is to maintain and improve the Chinese communication skills which are acquired in the SA program. To achieve this aim, it is important to develop the four skills of listening, speaking, reading and writing. In this course, we will mainly improve the writing skill. We use the textbook which shows various Japanese-Chinese translation rules and do a lot of composition exercises.

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション

梁 禮先

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既に持っている朝鮮語の知識を活用したり、もっと包括的に知識を吸収できることを目標にします。韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、テキストには出ない、自然な朝鮮語の使い方や、多様な表現と新造語を学んで自ら表現できることを目指します。授業はできるだけ朝鮮語で進めていきます。

【到達目標】

朝鮮語のニュースや韓国の番組を字幕なしで理解できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

韓国の新聞、雑誌、映像などを使って、現在の生きた朝鮮語の表現を学んでいきます。読む力・聞く力、また、ディスカッションを通した話す力を定着させていきます。

授業は、ほとんど朝鮮語で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の説明と復習	春学期の授業の進め方について説明します。
第2回	韓国語の随筆を読む	内容を読んで意見を話し合います。
第3回	韓国の新聞を読む	韓国の最新記事を読んで新しい単語を勉強します。
第4回	韓国のビデオを見る	韓国のビデオを見て、内容を把握します。
第5回	韓国語の随筆を読む	韓国の随筆を読みます。
第6回	韓国語の随筆を読む	内容について意見を話します
第7回	韓国新聞を読む	韓国の最新記事を読んで、韓国事情について把握。
第8回	韓国の映像を見る	韓国の話題のテレビを見て内容を把握します。
第9回	韓国語の情報番組を見る	内容について感想を書きます
第10回	韓国の映像を見る	韓国のテレビを見ます。
第11回	韓国語で発表する	発表内容を聞く。
第12回	韓国語で発表する	発表内容を話し合う。
第13回	韓国語で発表する	討論をする。
第14回	総合ディスカッション	春学期の話題からディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

韓国のテレビ、新聞、小説などを読むこと。

【テキスト（教科書）】

プリント、インターネット、ビデオなど。

【参考書】

韓国語の辞書など。

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を話したり、討論に参加することです。

発表・レポート・平常点を総合して (50%) 期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

DVD などの映像をもっと活用すべきことなど。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業の内容は少々変わることもあります。

【Outline and objectives】

We aim to utilize knowledge of Korean language that we already have and to absorb knowledge more comprehensively. Using Korea newspapers, magazines, and videos, we aim to be able to express ourselves by learning how to use natural Korean language, various expressions, and newly built language. This course will be mainly conducted in the Korean.

LANk300GA

朝鮮語アプリケーション**梁 禮先**

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一定のテーマを決めてディスカッションをやったり、韓国の文学作品を読んで、韓国の伝統・習慣・文学表現を習い、朝鮮語のレベルアップをはかります。朝鮮語の総合的能力の定着を目指すのがこの授業の目標であります。

【到達目標】

積極的に韓国語によるディスカッションに参加したり、韓国の文学作品も読めることを到達目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

色々なテーマに沿ったディスカッションをやったり、韓国の近代小説にもチャレンジして、韓国の近代文学の流れと、植民地時代の状況、人間の生き方、韓国の伝統と文化・歴史など、様々なことについて考えたり学ぶことができます。

映像などを使って自分の意見を発表したり、意見交換の場をもっと設定して、自由な韓国語の表現をより多く実践的に使えるようにしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と復習	授業の進め方についての説明をします。
第2回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第3回	話題のテーマについて	意見交換する
第4回	韓国の文学を読む	問題点や意見交換をする
第5回	韓国の伝統や日本の伝統の比較	日韓伝統の意見交換をする
第6回	韓国の映像を見る	ディスカッションをする
第7回	韓国の文学を読む	問題点や感想などを述べる
第8回	日韓伝統・習慣について	意見交換をする
第9回	韓国の映像を見る	映像を見て、自由討論
第10回	話題のテーマについて	ディスカッションをする
第11回	日韓伝統について	意見交換をする
第12回	韓国の文学を読む	感想と問題点
第13回	話題のテーマについて	討論をする
第14回	総合ディスカッション	授業の問題点や感想などの意見交換をしたり、討論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテーマの内容やそれぞれの文学作品を調べてくること。

【テキスト（教科書）】

授業内で説明します。

【参考書】

韓国の近代文学作品

湯浅克衛作品集『カンナニ』（インパクト出版会）

【成績評価の方法と基準】

積極的に意見を言ったり、討論に参加することです。

発表・レポート・平常点を総合して（50%）、期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

文学作品だけではなく、後期も映像を取り入れる授業の必要性について。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業内容は少々変わることがあります。

【Outline and objectives】

To improve your level of Korean language, we will choose a topic and discuss, read Korea literature works, and learn Korea traditions, customs, and literary expressions. The aim of this class is to build comprehensive Korean language skills.

ART300GA

現代美術論

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術（美術、建築、音楽、パフォーマンスアート、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。この講義では、現代美術に関する理論と実践について講義します。現代美術のコンテキストを、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】

講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイデアについての理解を深めます。

みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義とワークショップが中心となります。講義毎に授業内レポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について
第2回	現代美術の基礎知識 1	未来派・ダダ、シュルレアリズム
第3回	現代美術の基礎知識 2	アクション、ハプニング、ポップアート、
第4回	現代美術の基礎知識 3	コンセプチュアル・ミニマルアート
第5回	現代美術とパフォーマンス	アクション、ハプニング、パフォーマンスアート
第6回	舞台芸術とパフォーマンス	ダンス/コンテンポラリーダンス、舞踏
第7回	現代音楽とパフォーマンス	現代音楽/ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック
第8回	絵画・彫刻・ドローイング	プラクティスな実践としての芸術作品について
第9回	メディアとアート	写真・映像・インスタレーション
第10回	関係性の美術	パブリックアート・参加型プロジェクト・ワークショップ
第11回	ソーシャル・エンゲージドアート	ソーシャル・プラクティス
第12回	現代美術と言葉	現代詩/ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ
第13回	現代美術とコミュニケーション	ポップアート、インターネット、SNS
第14回	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術の展覧会や音楽コンサート、ダンスや演劇の公演などを多く観るようにしてください。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内容に関連した資料を配布します。

授業を通じて参考書や映像資料、おすすめの展覧会などを紹介します。

【参考書】

『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで 世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009 年

小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)

授業内レポート (25%)

試験 (25%)

【学生の意見等からの気づき】

芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますのでやりがいがあると思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する可能性がありますので、登録をしておいてください。

【その他の重要事項】

初回のガイダンスに必ず出席してください。

登録希望者が教室の収容人数を超えた場合、選抜することもあります。

【Outline and objectives】

This course is about contemporary art theory and practice.

Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.

The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.

ART300GA

映像と文学

林 志津江

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大好きな小説やマンガが映画化・ドラマ化されたので、観てみたら「納得いかない！私の知ってるアレとは全然違うんですけど！」と感じた経験はありますか。この授業では「映像化された文学作品」を例に、文学作品（文字テキスト）から映画（映像）へというメディア・ジャンル変換の過程を分析しながら、芸術とメディアの関わりや、文学と映画のそれぞれが表現しようものについて、考えを深めていきます。あなたのガツカリした気持ち、あるいは「まあまあ期待以上」という気持ちの正体に、いつもとは違う視点から迫ってみませんか。

【到達目標】

- 1) さまざまな文学作品や映画に触れることで、文学と映画それぞれの形式的特徴や両者の関連、差異について理解を深めること。
 - 2) 「映画制作において参照された原典がある」現象の分析を通じ、受容美学の基本を学ぶこと。この点は読む人、観る人としての自分を反省的に捉える訓練にもなります。
 - 3) 美的な形式（表象文化）の分析を通じ、古典的なメディア論（マクルーハンやキットラーなど）のテーゼの真意を理解すること。
 - 4) 「オリジナリティー」「模倣」「引用」「暗示」などの基本的な美学概念に触れ、芸術の社会的構築物としての側面を理解し、批判的思考の術を磨くこと。
 - 5) この授業の経験を、どんな分野であれ自分のゼミでの勉強や卒論執筆、その他のさまざまな場面に役立てられる自分になること。
- その上でこの授業が、皆さんのお気に入りの一作品が見つかる機会になれば嬉しいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

文学作品とその映像化（映画）、あるいは文学作品とそれに触発されて作られた翻案映画作品のいくつかの組み合わせを扱います。それぞれ特徴的な箇所・シーンを取り上げ、対照的に検討する作業を繰り返し行いながら、必要に応じて重要な理論・概念を参照し、文学・映像作品のそれぞれの形式や読み取れるものについて考察します。毎授業ごと、自分の考えをまとめ、小レポートとして記述し提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	メディアと技術革新が可能にしたものの、文学（物語テキスト）と映画（映像表現）に関する理論的導入
2	J. K. ローリング／C. コロンバス『ハリー・ポッターと賢者の石』（小説 1995年、映画 2001年）	ファンタジー小説 V.S. 映像テクノロジー、「空を飛ぶ人／魔法使い」の描写
3	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967年、映画 1983年、2006年）その1	モチーフとしてのタイムトラベル、時間芸術としての映画、商業映画のニーズ
4	筒井康隆／大林宣彦『時をかける少女』（小説 1967年、映画 1983年、2006年）その2	身体感覚の記憶を表現する、恋愛あるいは学校という大切なもの、科学と私たちの未来
5	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説 2006年、映画 2009年）その1	青春群像劇と教養小説（Bildungsroman）のリアル
6	万城目学／本木克彦『鴨川ホルモー』（小説 2006年、映画 2009年）その2	コンピューターゲームが映画／表象の形式に与えた影響
7	S. フィッツジェラルド／J. クレイトン『グレート・ギャツビー』（小説 1925年、映画 1974年）その1	悩める若者とその風俗を描く、小説の受容・解釈がその映画化に与える影響

8	S. フィッツジェラルド／B. ラーマン『グレート・ギャツビー』（小説 1925年、映画 2013年）その2	「時代を超えた真実」を受け止める方法、「時代の空気」を再現する方法とタイムラグの有効な置き換え（1）
9	R. ブラッドベリ『華氏 451度』／F. トリュフォー『華氏 451』（小説 1953年、映画 1966年）	書物の神話、映像の氾濫と古典的なメディア批判の真意、インターネットの時代に焚書の危機を考える
10	E. ケストナー／T. ヴィガント『飛ぶ教室』（小説 1933年、映画 2003年）	「政治に抵抗する文学」、「大人も子どもも楽しめる」の真意、タイムラグの有効な置き換え（2）
11	掘辰雄『風立ちぬ』（1937年）『菜穂子』（1941年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013年）その1	大胆な翻案と同名タイトルが連想させるもの、映画の着想源となったもの
12	掘辰雄『風立ちぬ』（1937年）『菜穂子』（1941年）など／宮崎駿『風立ちぬ』（2013年）その2	人間の自己実現と社会、個人の運命と戦争に翻弄される人間
13	L.v.d. ポスト／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説 1954/1968年、映画 1983年）その1	共有される言説と複数の真実、「私」が見たものと集合的記憶の齟齬、皇国史観と人間性に対する疑義
14	L.v.d. ポスト／大島渚『戦場のメリー・クリスマス』（小説 1954/1968年、映画 1983年）その2	敵と味方・西洋と東洋の対立、敵/他者を理解したいと思う気持ちの正体

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・文学作品については該当箇所をあらかじめ読んでおきます。
- ・毎授業ごと、1週間かけて小レポートを作成し提出します（提出方法は履修人数が確定した後に決定通知します）。

【テキスト（教科書）】

- ・授業で扱う作品について、文学作品についてはプリントで配布します。
- ・授業中に扱う映画の DVD 等はこちらで用意します（ただし最終レポート執筆時には自分でも用意してもらいます）。

【参考書】

- ・W・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995年/1996年所収）
- ・M・マクルーハン（栗原裕ほか訳）『メディア論』（みすず書房）1987年
- ・F・キットラー（石光泰夫・石光輝子訳）『グラモフォン・フィルム・タイプライター』（筑摩書房）1999年
- ・J・ヘーリッシュ（川島建太郎・津崎正行・林志津江訳）『メディアの歴史ービッグバンからインターネットまで』（法政大学出版局）2017年
- ・A・バザン（野崎敏ほか訳）『映画とは何か（上）（下）』（岩波文庫）2015年
- ・R・バルト（蓮實重彦ほか訳）『映像の修辞学』（ちくま学芸文庫）2005年
- ・蓮實重彦『映画 誘惑のエクリチュール』（ちくま学芸文庫）1990年
- ・杉野健太郎編著『映画学叢書』映画のなかの社会／社会のなかの映画』（ミネルヴァ書房）2011年
- ・杉野健太郎編著『映画学叢書』交錯する映画ーアニメ・映画・文学』（ミネルヴァ書房）2013年

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と毎授業ごとの課題（小レポート）65%、最終レポート課題 35%を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ペンや鉛筆等の筆記用具を準備してください。授業内でのスマホや PC 等の電子デバイスの使用は一切認めません（自宅での小レポート・学期末レポートの執筆には使用可）。
- ・なんらかの事情で授業中に電子デバイスの使用が不可欠だと言う場合は、あらかじめ申し出てください。

【その他の重要事項】

- ・扱う作品と上記の順序は変更されることがあります。
- ・授業に参加し考えたことを書くのが「小レポート」です。「出席していない授業内容についてレポートを提出する」ということは認められません。
- ・授業運営の性質上、欠席した授業の代替措置といったものは原則行いません。考えうるいくつかのケースを除けば、あなたが今何をするのか決めているのはあなた自身からです。
- ・部活動の公欠届や公共交通機関各社の遅延証明書の提出は不要です。担当者は遅刻や欠席を減点方式で評価する発想は持ち合わせず、欠席の理由に優劣があるとも思いません。担当者が重視するのは、どんな理由の遅刻や欠席があったとしても、それらをどうカバーしようとしたかという努力や試み、つまり授業受講時の態度とその成果の表現である提出課題です。
- ・教室内での携帯電話や PC 等の電子デバイスの使用は厳禁です。特に理由もないのに途中退室するような行動も容認しません。「映画を観て、文学作品を読み、授業担当者の話を聞く」という 100 分間の授業に集中できない履修者は、評価の対象外です。

[Outline and objectives]

Why are we sometimes disappointed in movies that are made from literature or would feel disappointed about film as derivative work? This course introduces the fundamentals of reception theory/reader response literary theory as well as the very basis of fundamental film studies. It includes theories of derivative work as a film-making concept. For that purposes, the course deals with several combinations of literary works and its filming examples that are made from original literary works.

LANj300GA

世界の中の日本語

リービ 英雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回授業を出席した受講希望者より200名を抽選

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学のいくつかの作品（主に近代・現代）に出てくる文章を英語に翻訳しながら「世界の中の日本語」と「日本語の中の世界」を考える。実際の日本語のテキストを学生たちが翻訳する。

その実習を通して、表現のことばとしての日本語の姿を浮きぼりにして、二十世紀にふさわしい日本文学論を展開する。

【到達目標】

実際の翻訳を通して、言葉のレベルで「日本と世界」を考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回、テキストを翻訳し、講じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	英訳を通して日本語について考える
第2回	ノーベル文学賞と「日本」	大江健三郎と「あいまいな日本の私」
第3回	ノーベル文学賞と「日本」	川端康成と「美しい日本の私」
第4回	戦後文学の英訳	キーンとサイデンステッカー等
第5回	安部公房の文学と英訳	「砂の女」について
第6回	英訳で見た三島由紀夫	「金閣寺」と日本語の美意識
第7回	宮沢賢治等	「雨ニモマケズ」と not defeated
第8回	夏目漱石と英訳	「我輩は猫である」は英語で言えるのか
第9回	現代詩と英訳	谷川俊太郎の詩
第10回	「在日」と日本語	日本のマイノリティ文学
第11回	越境時代の文学	ポストコロニアルと日本語
第12回	バイリンガルと日本文学	日本人バイリンガル作家、多和田葉子
第13回	日本語で「世界」を書く	リービ英雄「千々にくだけで」
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近代日本文学を自分で読む。

【テキスト（教科書）】

毎回、教員が提供する。

【参考書】

毎回、教員が提供する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

大変人気のある授業だと分りました。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to introduce the possibilities of Japanese as a language of literary expression through translations of short selections of Japanese literature into English. Following an introductory lecture by the professor, the students will translate a passage, followed by the professor's comments and conclusions, given in Japanese. The course will deal with passages from modern and contemporary literature.

ARSe200GA

中国の文化 I（現代中国社会）

曾 士才

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国は歴史的、文化的そして経済的にも日本と関係の一番深い国である。しかし、マスメディアを通して報道される中国はあまりにも政治経済に偏りすぎており、しかも表面的なものが多い。中国の一般庶民の日常生活や物の考え方についてどれだけ日本人は知っているのだろうか。この授業ではマスメディアとは異なった物差しで中国を紹介し、中国を実物大で理解できるようにすることを目指している。

【到達目標】

中国に関するリテラシーの力を高め、実物大の中国を知ることによって中国に対するステレオタイプな見方から自由になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では都市と農村、人の移動、家族と婚姻、信仰と習俗、日本と中国の5つのテーマに沿って、庶民生活の次元に立って、近代化や都市化による社会変容や価値観の変化、日中関係の現状を紹介する。授業の進め方は講義を主体とするが、必要に応じて映像資料による再確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	多様な風土	北と南の違い、水問題、南水北調
第 2 回	都市と農村 (1)	北と南の違い、水問題、南水北調
第 3 回	都市と農村 (2)	リテラシーの現状、学校教育、就職難
第 4 回	都市と農村 (3)	拡大する中産階級、人権意識
第 5 回	人の移動 (1)	経済特区、郷鎮企業、留守児童
第 6 回	人の移動 (2)	都市の出稼ぎ者、農民工政策の変遷、ポイント制度
第 7 回	家族と婚姻 (1)	伝統的家族制度、都市の家族
第 8 回	家族と婚姻 (2)	一人っ子政策、新人類の若者たち「80 後」「90 後」
第 9 回	家族と婚姻 (3)	高齢化社会、老人扶養
第 10 回	信仰と習俗 (1)	宗教事情、国家と宗教
第 11 回	信仰と習俗 (2)	風水思想と実践
第 12 回	日本と中国 (1)	日中協力
第 13 回	日本と中国 (2)	強制連行、戦争の記憶
第 14 回	日本と中国 (3)	反日の背景、中国人の日本観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業は参考書の内容と関連づけて講義をすることになるが、受講者は事前または事後に指示された参考書所収の論文を読み、授業への理解を深める。

【テキスト（教科書）】

プリント教材。

【参考書】

高井潔司・藤野彰・遊川和郎『現代中国を知るための 40 章【第 4 版】』明石書店 2012 年

藤野彰、曾根康雄『現代中国を知るための 44 章第 5 版（エリア・スタディーズ）』明石書店 2016 年

【成績評価の方法と基準】

授業支援システムを使ったクイズへの回答（10 %）と期末に課すレポート（90 %）で成績評価を行う。授業への出席とクイズへの回答は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

私語により周りの学生が迷惑を蒙らないよう、円滑な授業運営に努めたい。使用する映像資料は必要に応じて更新した。

【Outline and objectives】

This course deals with the changing lifestyle and values of Chinese people from viewpoints of city and countryside, migration, family and marriage, religion and custom, China and Japan. At the end of the course, participants are expected to understand real China without any prejudice.

HIS200GA

中国の文化Ⅲ（日中文化交流史）

鈴木 靖

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

二千年以上に及ぶ交流の中で、中国の人々は日本にどのようなイメージを持ってきたのか。各種文献や映像資料を通じて、古代から現在までの対日イメージの変遷を概観し、そこから何を学ぶことができるか考える。

【到達目標】

中国の人々の対日イメージがどのように変遷してきたのか、また、いかなる要因によって変化したかを歴史的に理解することにより、この隣国の人々とのようにつきあっていくべきかについて、適切な判断ができる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義と討論によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の目的と到達目標について
第2回	倭人の肖像	六世紀初めの倭人が描かれた絵巻物、南朝梁蕭繹「職貢図」を通じて、中国の人々の古代日本のイメージについて考える。 【キーワード】 ・南朝梁蕭繹「職貢図」
第3回	朝貢から外交へ	東海に浮かぶ一朝貢国に過ぎなかった倭は、隋がおよそ二百年ぶりに中国全土を統一したのを機に、使節を送り、対等な外交関係を求める。 【キーワード】 ・遣隋使 ・渡来人
第4回	遣唐使の時代	日本は中国の先進的な制度や文化を学ぶため、多くの優れた学生や学僧を中国に派遣する。彼らの勤勉で礼儀正しい行動は、中国の対日イメージを大きく変えていく。 【キーワード】 ・遣唐使 ・阿倍仲麻呂 ・鑑真
第5回	民間交流の時代	唐の衰退により遣唐使の派遣を停止した日本は、やがて独自の文化や技術を生み出していく。民間交流を通じて中国に輸出された日本の製品は、中国で高い評価を受ける。 【キーワード】 ・菅原道真 ・仮名文字 ・扇子
第6回	元寇	ユーラシア大陸を席卷したモンゴルは、やがてその矛先を中国と日本に向ける。 【キーワード】 ・征服王朝
第7回	倭寇	モンゴルの衰退後、倭寇と呼ばれる武装集団が、朝鮮半島や中国沿岸部を襲う。近年、発見された二枚の絵巻物を通じて、中国の対日イメージを大きく悪化させた倭寇について考える。 【キーワード】 ・「倭寇図巻」（東大史料編纂所蔵） ・「明人抗倭図巻」（中国国家博物館所蔵）

第8回 鄭成功

中国人の父と日本人の母を持ち、幼少時代を日本で過ごした鄭成功は、異民族王朝清によって明が滅ぼされた後も、台湾に拠点を移して抵抗を続けた。いまでも民族の英雄と称えられている鄭成功が対日イメージに与えた影響について考える。

第9回 藤野先生

中国の文豪・魯迅をして「私が師と仰ぐ人の中でもっとも私を感動させ、激励してくれた人」と言わしめた藤野厳九郎。魯迅が書いた自伝的エッセー「藤野先生」は、現在も中国の対日イメージに大きな影響を与えている。
【キーワード】
・藤野厳九郎
・魯迅

第10回 霧社事件

1930年、日本植民地下の台湾で、山地先住民による大規模な反乱事件が起こる。近年、台湾のドラマや映画などに取り上げられ、再び注目されるようになったこの事件を通じて、台湾の対日イメージについて考える。
【キーワード】
・ドラマ「風中緋桜」
・映画「セデック・バレ」

第11回 日中戦争

戦後、60年以上経ったいまでも日中関係を影を落とす日中戦争。日本人戦犯たちの証言を通じて、中国がもつ負の対日イメージの淵源について考える。
【キーワード】
・「認罪」教育

第12回 留用された日本人たち

終戦後、中国にいた日本の軍人や医療関係者、技術者の多くが、新中国建設のために「留用」された。留用された人々の証言を通じて、いまでも中国で高く評価される日本人の事績について考える。
【キーワード】
・「留用」された日本人

第13回 日中国交正常化

1972年の田中角栄首相の訪中によって、日中国交正常化が実現する。緊迫した交渉の中で、田中らはどのようにして国交正常化を実現したのか。いまでも中国で高く評価される田中らの交渉について考える。
【キーワード】
・田中角栄
・周恩来

第14回 今日の日中関係

歴史問題や領土問題など、日中間にはいまでも多くの課題が残されている。関係による靖国神社参拝問題と尖閣諸島（中国名・釣魚島）問題を取り上げ、その淵源と解決方法について考える。
【キーワード】
・靖国神社参拝問題
・尖閣諸島（中国名・釣魚島）問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の前に **fixi** を通じて PDF 資料を配布する。授業中、これをもとに意見交換を行うので、事前に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

毎回、授業の前に **fixi** を通じて PDF 資料を配布する。**fixi** へのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【参考書】

- ①王勇『中国史のなかの日本像』（農山漁村文化協会、2000年）
- ②王曉秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』（日本エディタースクール出版部、2000年）
- ③柳本通彦『台湾・霧社に生きる』（現代書館、1996年）
- ④服部龍二『日中国交正常化 - 田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』（中公新書、2011年）
- ⑤孫崎享『日本の国境問題』（ちくま新書、2012年）

【成績評価の方法と基準】

- 成績は以下の2つの基準をもとに評価する。
- ①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパーの内容（80%）
 - ②期末レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度はスライドのみを配布したが、今年度は資料のプリントも配布するようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

fixi を通じて資料の配布を行う。**fixi** へのアクセス方法は、第一回授業の中で説明する。

【Outline and objectives】

How does Japan's self image differ from the ideas and opinions held by the people of China and Taiwan throughout history?

What historical events, issues and persons of note helped to shape these ideas and opinions?

発行日：2019/5/1

Understanding the reasons for the difference between how Japan sees itself and how they are seen by China and Taiwan through the use of text and visual materials.

LANc300GA

中国の文化Ⅳ（中国語の構造）

渡辺 昭太

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語の学習を終えて、学ぶべき文法項目は一通り学んだにも関わらず、中国語文法の全体像や細かい点が明確に把握できていないと感じている人は多いだろう。本授業では、初級中国語の文法事項を復習しつつ、より発展的な内容を学び、中国語文法の体系的知識を身につけることを目標とする。尚、受講に当たっては、本シラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も確認しておくこと。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 初級中国語で学んだ文法項目を確実に定着させる。
- (2) 応用的・発展的な文法項目を学び、中国語文法を体系的に理解する。
- (3) 比較的難易度の高い中国語を適切に理解・表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式と演習形式を組み合わせで行う。また、受講生が発表を行う機会も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを確認し、本授業の意義と目的を確認するとともに、授業の進め方や成績評価方法などの説明を行う。また、受講生の中国語学習歴などを確認する。
2	中国語の基本文型	「中国語の基本文型」に関する概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
3	アスペクト表現 1	「完了相」、「変化相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
4	アスペクト表現 2	「経験相」、「将然相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
5	アスペクト表現 3	「進行相」、「持続相」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
6	補語 1	「程度補語」、「数量補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
7	補語 2	「結果補語」、「方向補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
8	補語 3	「方向補語の派生用法」、「可能補語」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
9	“把”構文と“被”構文	「“把”構文（処置文）」、「“被”構文（受身文）」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
10	使役文（兼語文）と連動文	「使役文（兼語文）」、「連動文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
11	比較文	「比較文」及び関連する諸表現の概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
12	その他の重要表現・構文 1	「存現文」、「“是…的”構文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
13	その他の重要表現・構文 2	「助動詞」、「複文」などの重要表現を取り上げて概説を行い、問題演習を通じて理解を深める。
14	まとめ	授業内容を振り返り、疑問点などを適宜確認・検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始後は、授業中に配布する資料を用いて復習を十分に行い、学習内容の定着を図ること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は講師が適宜準備する。

【参考書】

- ・大石智良 他 2010 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』 東京：東方書店
- ・相原茂 他 2016 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 東京：同人社
- ・木村英樹 2017 『中国語はじめての一步 [新版]』（ちくま学芸文庫） 東京：筑摩書房
- ・三宅登之 2012 『中級中国語 読みとく文法』 東京：白水社
- ・守屋宏則 1995 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』 東京：東方書店
- ・劉月華 他 2001 『实用現代漢語語法 (増訂本)』 北京：商務印書館
- ・朱德熙 (著)、杉村博文・木村英樹 (訳) 1995 『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』 東京：白帝社

【成績評価の方法と基準】

期末レポートを 50%、平常点（問題演習への取り組み状況、発表・質疑応答の内容など）を 50%として合計 100 点満点とし、60 点以上の成績で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

様々な背景を持つ受講生（SA 中国の学生、第二外国語として中国語を学んだ学生、中国語ネイティブの学生など）があり、中国語の理解度にも差があるため、難易度を適宜調節しつつ講義を行うよう心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC 等を利用する可能性があるが、講師が必要に応じて準備する。

【その他の重要事項】

- ・中国語の文法知識があること（最低 1 年以上の中国語学習歴があること）を前提に授業を行う。
- ・本授業は、中国語という言語を文法の観点から分析・考察しつつ、中級レベルの文法力の育成を行う授業である。そのため、会話等を学ぶいわゆる「語学の授業」とは性質が異なる。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

In this course, we will acquire enough systematic knowledge of Chinese grammar through reviewing the basic grammar and studying the advanced grammatical rules.

LIT300GA

中国の文化Ⅵ（古典思想・文学）

野村 英登

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、代表的な中国古典のうち『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』を取り上げて、その内容を学んでいきます。これら諸子百家の思想はしばしば独立ないし対立するものとして扱われますが、実際には古代社会の人々の精神文化の基層となるいくつかの論理を共有しています。実際に古典を読む解いていく中で、そうした中国文化の基層的な論理が、二千年以上の時を越えて現代社会においても機能している事例を発見できるようになります。

【到達目標】

*中国古典が現代まで読み継がれてきた経緯

*中国古典を現代語訳で読むときの注意点

*中国古典の背景となる当時の社会環境

以上の内容を学ぶことで、中国古典の基礎知識を身につけ、現代の日本社会をより深く理解するための比較対象として中国古典を活用できる力を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はテキストにもとづく講義形式ですが、漢文を声に出して読んだり、手を動かしてみたりと、古典に触れる機会を用意します。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、次の授業の冒頭でコメントを返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中国古典入門	授業で扱う『論語』『易経』『老子』『荘子』『孫子』の全体像を説明します。
2	『論語』と孔子	孔子の生涯をたどりながら、『論語』の思想がどのように形成されてきたかを学びます。
3	『論語』と学び	『論語』を通じて、古代の人々が何をどのように学んでいたかを学びます。
4	『論語』と儒教	孔子が後代どのように神格化されていったか、儒教史の概略とあわせて学びます。
5	『易経』の世界観	『易経』に託された古代中国の宇宙観を学びます。
6	『易経』で易占い	テキストを使って、実際に易占いを行います。
7	『老子』の哲学	老子の“道”（タオ）の思想を儒教の“天”の思想と対比して学びます。
8	『老子』と政治	老子の思想の具体的な展開として、法家の韓非子の思想を学びます。
9	『老子』と健康法	老子の思想の実践性を処世術や健康法の立場から学びます。
10	『荘子』と神話	荘子の神話的な奇想と実践的な哲学の結合を考えてみます。
11	『荘子』の哲学	荘子の“無為自然”の思想が老子とどう異なるか、また後代への影響を学びます。
12	『孫子』の兵法	孫子の兵法の概略を歴史的な受容を参照しつつ学びます。
13	『孫子』の哲学	孫子の兵法と老子の思想の関係を学びます。
14	試験とまとめ	論述試験を通して、これまでの授業内容を自分なりにまとめてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではテキストの要点に絞って講義をするので、授業時間外でテキスト全体を通読しましょう。

【テキスト（教科書）】

『論語』（加地伸行、角川ソフィア文庫、2004）。

『老子・荘子』（野村茂夫、角川ソフィア文庫、2004）。

『易経』（三浦國雄、角川ソフィア文庫、2010）。

『孫子・三十六計』（湯浅邦弘、角川ソフィア文庫、2008）。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）：40%

期末試験：60%

【学生の意見等からの気づき】

高校時代に漢文の授業を受けていない場合でも、内容についていけるよう、丁寧な解説を心がけます。

【Outline and objectives】

This course introduces the Chinese philosophy in major Chinese classics like Confucius, Tao Te Ching, Zhuanzi, and the Art of War to students taking this course.

LIT300GA

中国の文化Ⅶ（近代文学）

張 文菁

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀初頭に中国では、いわゆる近代文学が誕生する。これらはいかにそれ以前の文学と異なり、そして何を指したものであったのだろうか。近代文学として生まれた新文学がいかにその当時の社会と文化の重任を担われたか。中国の近代の歩みを文学の視点から考えることが本授業の核心である。授業は、近代中国文学の誕生から中華人民共和国建国前後までを範囲とする。

【到達目標】

中国の近代文学を素材として中国の文化と社会について考察する。中国の近代文学について基礎的な知識を得るとともに、その歴史的な背景について認識を深める。各学生の文学観、文学史観の形成をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の課題ごとに沿った作品をあらかじめ配布します。履修者は必ず作品を熟読したうえで授業に出席してください。議論するために下記の3点に注意しながら作品を読んでください。

- ・歴史（／社会背景）
- ・作者の意図
- ・各自の切り口（／論評）

以上の3点について、授業でコメントを求められることがあります。

授業後は、授業での議論と合わせて、リアクションペーパーに記入し提出することになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション/近代（文学）とは何か？	授業のねらい、進め方についての説明/ 梁啓超にとっての国民国家と文学
2	近代文学の胎動 1	胡適と陳独秀の言文一致運動
3	近代文学の胎動 2	鴛鴦蝴蝶派と翻訳文学
4	近代文学の誕生	魯迅
5	新世代の作家たち 1	文学研究会
6	新世代の作家たち 2	創造社
7	近代中国のモダニズム 1	新月社
8	近代中国のモダニズム 2	都会の新感覚派
9	革命文学	左翼作家聯盟
10	1930年代の長篇小説	老舎と沈從文
11	解放区の文学	趙樹理、丁玲と延安講話
12	淪陷区の文学 1	東北の作家たち
13	淪陷区の文学 2	張愛玲
14	国統区の文学	無名氏など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおく必要があります。

【テキスト（教科書）】

随時配布

【参考書】

『原典で読む：図説中国 20 世紀文学』（中国文芸研究会）ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】

レポート 40%

平常点 40%

授業態度 20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course introduces modern Chinese literatures through the development of society since the beginning of 20th century.

LIT300GA

中国の文化Ⅷ（現代文学）

張 文菁

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建国後の中国から現在までの文学を取り上げる。範囲は、中国大陸に限らず、中国語圏である香港や台湾などの文学を含む。

【到達目標】

中国の現代文学を素材として中国の文化と社会について考察する。中国の現代文学について基礎的な知識を得るとともに、その歴史的な背景について認識を深める。各学生の文学観、文学史観の形成をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の課題ごとに沿った作品をあらかじめ配布します。履修者は必ず作品を熟読したうえで授業に出席してください。議論するために下記の3点に注意しながら作品を読んでください。

- ・歴史（社会背景）
- ・作者の意図
- ・各自の切り口（論評）

以上の3点について、授業でコメントを求められることがあります。授業後は、授業での議論と合わせて、リアクションペーパーに記入し提出することになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中華人民共和国建国後の中国文学	胡風批判と百花時代
2	文化大革命	白毛女の表象
3	1970年代の傷痕文学	王蒙『蝴蝶』など
4	新时期文学	1980年以降の展開
5	先鋒文学	残雪と高行健
6	通俗文学	韓寒と郭敬明
7	香港の文学1	南来文人とその後の発展
8	香港の文学2	武侠小説と金庸
9	台湾の文学1：戦前の日本文学	楊逵と呂赫若、龍瑛宗
10	台湾の文学2：二・二八事件前後の文学	呉濁流と葉石涛
11	台湾の文学3：1950年代の政治と文学	反共と懷郷文学の流れ
12	台湾の文学4：現代主義	雑誌『現代文学』と白先勇
13	台湾の文学5：郷土写実主義	王禎和と黃春明
14	台湾の文学：多元化する台湾文学	女性とクィア、原住民

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ配布した作品を授業までに読んでおく必要があります。

【テキスト（教科書）】

随時配布

【参考書】

『原典で読む：図説中国 20世紀文学』（中国文芸研究会）ほか、授業でも随時配布。

【成績評価の方法と基準】

レポート 40%

平常点 40%

授業態度 20%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course introduces contemporary Chinese literatures. The range covers PRC, Hong Kong, and Taiwan.

LIT300GA

中国の文化区（中国俗文学）

鈴木 靖

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAを機会に日本文化について改めて考え直す機会を得た人も多いだろう。しかし、日本文化とは何かを考えるには、古来、日本文化に多大な影響を与えてきた中国文化への理解が不可欠である。

この授業の目的は巨視的・微視的という二つの視点から中国文化史を通観することにある。

巨視的な視点からいえば、中国文化が東アジアの諸民族に及ぼした影響は計り知れない。表意と表音という二つの機能を備えた漢字の発明は、言語を異にする東アジアの諸民族に漢語という共通言語（Lingua Franca）を与え、それを基盤とする文明圏の成立と高度な精神的交流を可能にした。漢代以降、中国の国教となった儒教は、東アジアに倫理観にもとづく国際秩序と社会秩序を与え、サンスクリット語仏典の漢語への翻訳は東アジアに仏教という世界宗教を成立させた。紙や印刷術の発明は東アジアのみならず、世界の文化の発展と普及に革命的な影響を及ぼした。

いっぽう微視的な視点からいえば、中国歴代の文学、とりわけ市井の人々の間で次々と生み出された俗文学は、東アジアに庶民の文学を生み出す契機を与えた。この授業でも取り上げる三国志演義や水滸伝などは、わが国の文学にも多大な影響を与えている。

【到達目標】

中国の古代から近世に至る文化史を理解し、東アジアという広い視野から自文化を考え、説明できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、準備学習と講義、リアクション・ペーパーによる質問・意見を組み合わせる。限られた授業時間を有効に使うため、毎回、授業の前に準備学習の資料を読み、講義への理解を深めるとともに、質問や意見がある場合には、リアクション・ペーパーを通じて積極的に発言してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の進め方と目的について概説する
第2回	殷代	文字の誕生
第3回	周代	采詩の官と詩経
第4回	春秋戦国時代	儒教経典が伝える民間伝承
第5回	秦代	亡国の民が伝えた物語
第6回	漢代	紙の誕生
第7回	魏晋南北朝時代	北朝と南朝の民間伝承に描かれた女性像
第8回	隋唐時代	敦煌変文の世界
第9回	五代十国時代	書籍出版のはじまり
第10回	北宋時代	三国志の誕生
第11回	南宋時代	水滸伝の誕生
第12回	元代	演劇の隆盛
第13回	明代	出版文化の隆盛
第14回	清代	民間芸能の隆盛

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習の資料を授業用の専用 web サイト fixi を通じて配布するので、授業前に読んでくること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しないが、準備学習の資料と授業で使用使用するスライドを PDF ファイルとして fixi にアップしていく。

【参考書】

各回の授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次のような基準で行う。

- ①毎回授業の後に提出するリアクション・ペーパー（80%）
- ②期末レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は代講をお願いしたため、特記事項なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントを使用し、映画やドキュメンタリービデオなどの映像資料を多用する。

【Outline and objectives】

Understanding how the Chinese culture influenced the development of the Japanese culture.

How Kanji, Chinese characters, developed and became a Lingua Franca amongst the Asian countries.

How Confucianism was founded and provided an ethical and philosophical doctrine regarding human relationships and social structures for the Asian countries.

How Buddhism was introduced to China and spread amongst the Asian countries.

When paper and printing were invented and how they changed the world.

How Chinese Popular literature was born and influenced the Japanese literature?

HIS300GA

中国の文化X（歴史）

張 玉萍

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語・儀礼・服装など日常生活と密接な関係を持つ事柄から始め、近現代中国の世界へと入っていく。日本人にとっては隣国でありながら遠く感じられている中国の存在が、より一層身近になるようにすることが本授業の目的である。中国文化の中から幾つかのトピックを取り上げて、その歴史的な背景・影響を紹介・解説する。

【到達目標】

現在、日中間は改善に向かいつつあるが、両国民間の信頼関係は十分とは言えない。その原因を追究するには、近現代の日中間史を避けて通ることはできない。19世紀末に日中両国の地位が逆転してから今日にいたる日中間が、現状とどのような因果関係にあるのかを、この授業で知ることができる。そのうえで日中間の相互信頼の醸成にいたる可能性を探り、異文化理解の方法を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義の形で進めていく。各課題の内容に関するディスカッションを行い、感想文を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	地域文化へのアプローチ
第2回	中国とは何か(1)	地理——東低西高、南船北馬
第3回	中国とは何か(2)	民族——56民族の由来と特徴、分布
第4回	中国とは何か(3)	言語——普通話と方言
第5回	儒教(1)	中国人の価値観の中核
第6回	儒教(2)	儒教の興隆、衰退、復活
第7回	満族(1)	“入主中原”
第8回	満族(2)	“満”と“漢”
第9回	旗袍(1)	下位文化から上位文化への上昇
第9回	旗袍(2)	上位文化から下位文化への転落および復活
第10回	清末留日学生(1)	史上初の留日ブーム
第11回	清末留日学生(2)	一師弟関係の逆転
第12回	日中間における人的交流(1)	革命の揺りかご——東京と中華民国の成立
第13回	日中間における人的交流(2)	政治家としての戴季陶と日本
第14回	全体総括	戴季陶の日本観およびその意義
第14回	全体総括	授業内容に関する理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各課題の内容に関するディスカッションを行い、感想文を課す。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

張玉萍『戴季陶と近代日本』法政大学出版社、2011年。

その他は授業中にそのつと紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終回に論述テストを行なう。授業で学んだ六つのテーマの中から興味を持ったものについて、自分でより深く調べてまとめておく。試験では自分で調べたテーマと教員が指定したテーマの計二問について論述する。資料や授業のレジュメの持込を認める。

期末テスト（70点）、平常点（授業態度やテーマごとに課された感想文の完成度など、20点）、授業中の討議への参画度（10点）により総合的に評価する。

・授業開始後20分以内の到着は遅刻とし、それ以降は欠席とする。

・3回の遅刻で1回の欠席とする。

・欠席数が全授業数の1/3を超えた場合試験を受ける資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Starting with things that have close relationships with daily living such as language, ceremonies and clothes, we will enter the world of modern China. It is the purpose of this lesson to ensure that China, which is often felt far away as a neighbor for the Japanese, becomes more familiar. Some topics taken from Chinese culture will be introduced and explained focusing on their historical background and influence.

HIS200GA

朝鮮語圏の文化 I (朝鮮半島の文化史)

神谷 丹路

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

朝鮮半島は日本にとって、地理的、歴史的にもっとも密接な関係をもつ地域のひとつです。したがって、この授業では、朝鮮半島全般に関し、中国とも日本とも異なる文化や歴史の独自性など、常識ともいべき基礎知識をひとつとおり身につけることを目的とします。

【到達目標】

朝鮮半島独特の文化や歴史に関する基礎知識を身につけることによって、日本など周辺国との類似性や差異性についての考察ができるようになり、また東アジア全体を見渡すことができる広い視野を獲得します。さらに興味のある分野について、自分から引き続き勉強を続けていけるような力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

朝鮮半島の地理、文化、歴史を概観し、その上で各項目についてみていきます。朝鮮半島と日本とのあいだの文化的影響や共通点に着目するとともに、あることならについて、日本と朝鮮半島とのとらえかたの相違点などにも注目して学びます。視覚資料をあわせてみながら、理解を深めます。なお、この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち、もっとも入門的なものの一つです。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入/朝鮮・韓国とは	・朝鮮半島の2つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・国のシンボル、言語、祝日 ・建国神話、昔話
2	民俗文化・伝統文化	・ユネスコ無形文化遺産 ・アリラン、パンソリ、ナムサダン、綱渡り、カンガンスルレ ・綱引き、農楽 ・キムチ
3	伝統行事と儒教文化	・正月、秋夕 ・葬送儀礼 ・儒教祭祀 ・現代社会と儒教 ・その他の宗教
4	古代から中世へ	・伽耶と倭 ・百済・高句麗と日本 ・新羅と日本 ・高麗と日本
5	中世から近世へ	・朝鮮王朝時代と日本 ・ハンクル創製 ・科学、学問の発達 ・国難：豊臣秀吉、李舜臣
6	朝鮮王宮と近代	・善隣友好外交、朝鮮通信使の訪日 ・景福宮 (王宮の再建から王妃虐殺事件まで) ・徳寿宮 (大韓帝国の近代) ・昌徳宮 (最後の国王、植物園、動物園)
7	日本の植民地時代	・韓国統監伊藤博文 ・在朝日本人 ・「土地調査事業」 ・三一独立運動 ・食糧「増産」と農民 ・戦時労働動員
8	解放から 1950 年代	・38 度線と東西冷戦 ・朝鮮戦争 ・南北分断の固定化 ・離散家族
9	1960 年代	・海外出稼ぎ ・日韓国交正常化 ・ベトナム戦争と韓国 ・財閥の形成

10	1970、80、90 年代	・社会の葛藤と民主化 ・民主化宣言 ・88 年オリンピック ・労働運動 ・済州島四三事件の真相究明 (歴史の再評価)
11	朝鮮沿岸漁業の百年	・朝鮮の漁業 ・20 世紀前半日本漁民の朝鮮出漁 ・李ラインと日本漁船 ・日韓漁業協定 ・領土問題 ・済州島の海女
12	歴史の和解とは	・日本の戦争責任問題 ・日韓の摩擦 ・市民の文化交流 ・サブカルチャー ・韓国の日本語学習、日本の韓国・朝鮮語学習
13	世界のコリアン・韓国の外国人	・外国人労働者 ・多文化家庭 ・海外留学 ・在外コリアン
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

朝鮮語の知識は必要ありません。朝鮮・韓国に関する報道に関心を持ち、関連する本を積極的に読んでください。

【テキスト (教科書)】

毎回プリントを作成して配布します。

【参考書】

参考文献はその都度指示します。

『新訂増補 韓国朝鮮を知る事典』(平凡社) 2014 年

『日韓でいっしょに読みたい韓国史』(明石書店) 2014 年

『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史 前近代編下』(青木書店) 2006 年

『学び、つながる日本と韓国の近現代史』(明石書店) 2013 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業時に課すミニレポート含む) 50 %、学期末試験 50 %による総合評価。言うまでもないことですが、やむをえない理由をのぞき、全回出席が原則です。

【学生の意見等からの気づき】

現在進行形の日本と朝鮮半島問題についても、随時、授業と関連付けて提示する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回プリントを配布するので、学期中の配布物をきちんとまとめてファイリングをすること。

【その他の重要事項】

S A 韓国2年生はかならず受講してください (韓国人に「こんなことも知らないの?」と驚かれないように)。他学部の学生の受講も歓迎します。なお順序と内容に若干の変更がある場合があります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help to acquire historical and cultural basic understanding of the Korean Peninsula. Since the Korean Peninsula is the nearest neighbor region for Japan, it is very important to firmly understand the Korean Peninsula for peaceful stability in East Asia.

LANk300GA

朝鮮語圏の文化Ⅱ（朝鮮語の構造）

内山 政春

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語を音声、文字、語彙、文法などさまざまな面から言語学的に観察することによって、朝鮮語の力を高めるのに（さらに言えば他の外国語を学ぶにあたって）役立つ知識を提供することを目的としています。

具体的には大学入試センター試験「韓国語」を解く一方で、必要に応じてプリントを配布しながら、上の内容について解説を進めていきます。それ以外に、日頃接する機会の少ない、北朝鮮の言語と、さらに方言と古語の「さわり」をやりたいと思っています。

【到達目標】

この授業は、実践的な語学力をある程度もつであろう受講生が、その裏にある文法や語彙などの「ルール」を理解することで、ブローケンではないきちんとした語学力を身につけるのに役立つことを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

みなさんには、少なくとも朝鮮語を2年（週2コマとして）学んだ程度の語学力が必要とされます。他学部学生（朝鮮語受講者）の受講も歓迎しますが、ついていくにはかなりの努力を要します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	資料配布とやり方の説明
2	つづりと発音	資料に基づいて問題を解く
3	漢字音	同上
4	用言の活用	同上
5	用言の語尾、助詞	同上
6	各種表現の和文朝訳1 (日本語との表現の違いなど)	同上
7	各種表現の和文朝訳2 (置き換え可能な表現など)	同上
8	各種表現の和文朝訳3 (慣用句など)	同上
9	会話文1（短文；語彙問題）	同上
10	会話文2（短文；文法問題）	同上
11	会話文3（長文）	同上
12	北朝鮮の朝鮮語	北朝鮮の文献資料を見ながら韓国の朝鮮語との違いについて解説する。
13	方言	主に韓国の方言資料を見ながら標準ごとの違いについて解説する。
14	古語	訓民正音を見ながら現代語との違いについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「この授業のため」というのではなく、授業外でも朝鮮語に積極的に触れることが大切です。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

授業中に必要に応じて説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）とレポート（20%）によります。あまりにも出席が少ない場合は評価の対象から外すこともあります。

【学生の意見等からの気づき】

この授業は朝鮮語の運用能力をある程度持つ学生を対象としているのは上に書いたとおりですが、にもかかわらず、シラバスも読まずにその前提条件を知らずに受講しようとする学生が毎回います。そういう非常識なことはやめてほしいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

SA後、朝鮮語に直接関連する授業は、この授業のほかに「朝鮮語アプリケーション」が通年1コマあるだけ、というのが残念ながら現状です。SA韓国の学生はこの授業を「アプリ」と合わせて履修することが望まれます。

【その他の重要事項】

履修者の状況によっては、授業を朝鮮語で行ないます。またおそらく少数の授業になると思いますので、受講者の希望があれば内容を一部変更することも考えられます。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire advanced skills and knowledge of the Korean languages by observing linguistically from various aspects such as sounds, letters, vocabulary and grammar.

ARSh300GA

アフロ・アジアの文化

江村 裕文

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人にとって意識の上で一番遠いと考えられるのが「アフロ・アジア」地域、つまり北アフリカから中近東にまたがる地域のことである。

本講では、「地理的」あるいは「歴史的」にこの地域にアプローチを試みるのではなく、主にユダヤ教・キリスト教・イスラームという精神的（宗教的）な面からのアプローチを試みる。これらの宗教を、可能な限り現在の我々日本人との関係に重点を置いて紹介したい。

【到達目標】

2011年の「アラブの春」以降、ガザ地区におけるハマスとイスラエルの戦闘、また先が見えないシリアのアサド支持派と反政府派との戦闘、さらにそのシリアおよびイラクのシーア派政権に対抗して勢力を拡大する「IS（イスラム国）」、シーア派のイランとスンナ派のサウジの対立など、この地域で起こったまた起こりつつある事態に対して、正確な知識を得て、この地域に関するメディア・リテラシーを高めることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

以下の「授業計画」で提示した各テーマについて、それぞれ原理的・理論的な解説、具体的な事例紹介、DVD視聴などを通して、多角的にこの地域について紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「アフロアジアとは何か」	オリエント・中東（中近東）・中東北アフリカ・アラブ・イスラーム地域の自然と国家
2	「宗教」について	「宗教」とは何か
3	「聖書」について	「聖書」の成り立ちと歴史、その内容
4	「ユダヤ教」について	i 「ユダヤ教」の成り立ち、歴史的背景
5	「ユダヤ教」について	ii 映画《十戒》鑑賞
6	「ユダヤ教」について	iii 「ユダヤ教」の特徴、経典と教義
7	「キリスト教」について	「キリスト教」の成り立ち、歴史的背景
8	「キリスト教」について	i 映画《受難》鑑賞
9	「キリスト教」について	ii 「キリスト教」の特徴、経典と教義
10	「イスラーム」について	iii 「イスラーム」の成り立ち、歴史的背景
11	「イスラーム」について	i 映画《メッセージ》鑑賞
12	「イスラーム」について	ii 「イスラーム」の特徴、経典と教義
13	「パレスチナ問題」	iii 「パレスチナ問題」の歴史的背景
14	「パレスチナ問題」	i 記録《エルサレム物語》鑑賞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「アラブの春」民主化運動や、ガザ地区を中心に起こったハマスとイスラエルの対立、ロシアのシリア介入、「イスラム国」等、流動的なこの地域に関するメディア等の報道に気を配り、関心を高める努力をしていくこと。授業では解説を試み、複雑に絡まっている現状の糸を解きほぐしていく。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない。参考文献のリストを紹介するので、各自の興味にしたがって、読書を進めてほしい。

【参考書】

配布する参考文献リストを参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点40点、試験60点、合計100点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

以下は受講した学生が書いてくれた感想の一部である。

以前から日本人は宗教に無縁だと思っていたが、実際はそうではないことを実感した。

イスラーム、アラブ、難民問題などは遠い世界のことだと思っていたが、S Aを通してテロを身近に感じるとともに、この世界の問題が日本の経済や社会に直接影響があるのだということがわかった。

【その他の重要事項】

授業予定はあくまでも予定である。「アフロアジア」地域で新たな展開があれば、臨機応変にそのつと取り上げたいと考えている。

【Outline and objectives】

The area thought to be the farthest for Japanese is "Afro-asiatic" area, namely middle east and north africa.

In this class, we try to approach to this area by religious way, Judaism, Christianity, and Islam.

To know the religions in this area is important to understand the civilization of the modern world and the future.

AR5b300GA

ロシア・東欧の文化

佐藤 千登勢

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアと東欧は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方が EU 加盟を果たした東欧諸国。今日、これらの国々に対しては、中欧、もしくは中東欧という呼称が定着しつつあります。東欧という位置づけは、ロシア・ソ連との関係性、そして地理的・歴史的要因といった多面的な観点から考察される必要があるでしょう。

この講義では、ロシアと東欧諸国、それぞれの民族的差異や特殊性を主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を確認すると同時に、ナショナリズムの問題を提起していきます。また、日本との交流のあり方も視野に含めつつ、話を進めていきます。テーマが大きいだけに、まとまった結論を提示することはしません。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の国家や民族が共生するとはどういうことなのか、学生のみなさんに考えてほしいと思います。

SA ロシアに向かう予定の2年生は事前準備の一環として、必ず履修してください。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をレビューシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

当講義で論じる「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及します）。これらの国々の史実や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、アニメーション、アートなど）の視聴覚資料を通して、東欧諸国とソ連・ロシアとの関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや社会体制の問題を提起していきます。私たちにとってもアクチュアルな問題として捉え、考えていくようにしたいものです。授業の最後には毎回、意見や疑問点をまとめたレビューシートをみなさんに提出してもらい、次の授業に活かしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ロシアと中東欧諸国の言語・宗教/日本と東欧の関係の一面について。
第2回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、汎ヨーロッパ・ビクニック事件の映像を鑑賞。
第3回	ハンガリー：街並みと風土/世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉施設を中心に解説、映像で紹介。
第4回	ハンガリー：音楽と映画とアートをめぐって	ジプシー楽団からリスト、バルトーク、コダーイの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、サボー・イシュトヴァーン、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ペーラらの独特な作風の映画を紹介。ハンガリー構成主義からグロテスク・デザインまでアーティストを紹介。
第5回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。
第6回	ポーランド：街並みと風土/世界遺産を中心に	ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容所の記録を映像を通して概説。

第7回	ポーランド：音楽と映画と政治をめぐって	伝統音楽からショパンの音楽を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。伝統的歌唱法ホワイトヴォイスや伝統的リズムを利用した現代のポピュラーミュージックも紹介。映画と政治の問題はワイド作品を鑑賞しながら検討。
第8回	ポーランド：映画と文学をめぐって	ボランスキー、ケシロフスキ、スコリモフスキの映画を一部鑑賞しつつ、ポーランド映画の美に触れる。シェンケヴィチ、シュルツ、ミウォシユ、シンボルスカ、レムラ作家や詩人を紹介。
第9回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『ブラハ！』に描かれるチェコ事件を紹介。
第10回	チェコ：街並みと風土/世界遺産を中心に	ブラハ、チェスキー・クルムロフ、テルチ、ホラショヴィツェの歴史地区の歴史と佇まいを映像を通して概説。
第11回	チェコ：文学と映画をめぐって	ブラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、チェコ・アヴァンギャルド、ブラハ言語学サークルについて、さらに、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて、映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コーリヤ、愛のブラハ』を紹介。
第12回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのバベトアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品、現代社会の個人の内的精神の問題を描くバヴァートヴァーのセルアニメを鑑賞し、チェコのアニメーション文化の多様性とイデオロギー的機能について考える。
第13回	ソ連・ロシア：歴史概観	被抑圧と抑圧、全体主義体制をキーワードに古代ロシアから現代までのロシア史を概観。
第14回	まとめ	これまでの授業を改めて確認できるような映像資料を鑑賞する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品の DVD は大学の AV ライブラリーにある場合も多く、文学作品は図書館で借りることができます。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。毎授業にて、教員が作成した資料を配付します。

【参考書】

特定の参考書はありませんが、適宜、参考文献を教員より教場で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レビューシート（50%）、期末レポート（50%）の基準により判断します。

【学生の意見等からの気づき】

大教室での授業となる可能性がありますが、静かな環境を保ちつつ講義を進められるよう、配慮します。同時に、何よりも皆さんの協力に期待します。

【Outline and objectives】

In this course, we will know about the history, culture and arts of Russia and East Europe: Hungary, Poland and Czech Republic. Through this process we will understand and evaluate the rule of satellite countries and the nationalism.

ARSA300GA

ドイツ語圏の文化Ⅱ

林 志津江

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語圏のうち、ドイツとその首都であるベルリンを主に取り上げます。19世紀後半から20世紀前半のベルリンとその周辺都市の文化現象や文学・芸術作品を例に、都市化を形成するさまざまな側面に着目しながら概観します。日本が明治維新に湧いた頃、ドイツもまた史上初の国家統一をなしとげ、近代国家としての一歩を踏み出しました。高校で学んだ世界史からもう一歩先の世界を、文化現象を通して探究します。

【到達目標】

- 1) 日本の近代化に決定的な影響を及ぼした19世紀～20世紀前半のベルリンとドイツ語圏（ドイツ帝国、ハプスブルク帝国）、及びヨーロッパ諸国と日本との関連を理解するとともに、文学や造形芸術などを批判的に読解・検討することができる
- 2) 自分の考えを他人に伝えるため、適切に言語で表現できる
- 3) 見知らぬ国・地域を見つめる作業が、自分自身と自身の背負う文化の反省に繋がっている現実を、知的に理解し受け止めることができる
- 4) 近代ヨーロッパに関する知識と理解が、文明社会を問直す方法、ひいては異文化間コミュニケーションの可能性の考察に繋がっていることを理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

時系列に沿って進みます。授業の各回では、最初に資料を用いてそれぞれのテーマを確認します。文学作品を扱う回は、該当箇所を輪読形式で読みます。映画や造形芸術を扱う回は、スクリーン上で作品を観てもらいます。そのあとは皆さんが気づいた点や疑問点を指摘し、意見を述べる時間です。授業終了後には小レポートを書き、自分の考えを言語化してまとめ提出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・前史	この授業について、「ドイツ語圏」ってどこ？ 何で「ドイツ」って言うの？
2	3月革命と普仏戦争：都市労働者とドイツ帝国の誕生	私ってドイツ人だったの？（グリム兄弟『子どもと家庭のためのメルヘン』、メンツェル『鉄圧延伸工場』など）
3	ビスマルクの時代（1）：フランスと「ドイツ」の境界線	「ドイツ」と「フランス」どっちか選ぶしかないの？（ドーデー『最後の授業』その1）
4	ビスマルクの時代（2）：私を分類したい欲望	「母語」と「母国語」って違うの？（ドーデー『最後の授業』その2）
5	ビスマルクの時代からヴィルヘルム帝政期へ：労働者のリアル	「貧乏」だから当たり前？（森鷗外『舞姫』『独逸日記』『衛生學大意』）
6	ヴィルヘルム帝政期のベルリン（1）：都市化の途上で	「清潔な水」って一体何？（森鷗外『独逸日記』、フォンターネ『迷誤あれば』）
7	ヴィルヘルム帝政期のベルリン（2）：階級意識と学校教育	スポーツと勝利は何のためにあるの？（映画『コッホ先生と僕らの革命』）
8	大都市を描く：表現主義と第一次世界大戦の勃発	自然より大都市の喧騒が魅力的？（キルヒナー『ボツダム広場』ほか）
9	ヴァイマル共和国の誕生：「アメリカ」を受け入れる	集団の中でしか生きられない？（ジークフェルト・フォーリーズ、ディックス『大都市』、シャート『ソーニャ』など）
10	ヴァイマル共和国の華やかさ：黄金の20年代	「男」も「女」もめんどくさい？（I・コイン『人工シルクの女の子』その1）
11	ヴァイマル共和国の光と影：政治の限界と個人の運命	法律と「女の子」の真実？（I・コイン『人工シルクの女の子』その2）
12	ナチスの文化政策（1）	私が本当に見たいのはどっち？（「大：芸術の画一化は社会の画一化」「退廃芸術展」）

- 13 ナチスの文化政策（2） 「オリンピック」って何だかワクワク
：映画とオリンピックのするよね！？（リーフェンシュタール
カタルシス 『意志の勝利』）
- 14 ナチスの文化政策（3） 「私は音楽をやりたいだけなので」？
：芸術家の良心（E=S・ランチ『帝国オーケストラ』）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業ごと、自分の考えのまとめ（小レポート）を作成・提出します。前回の資料を見直し、次回のテーマに関する資料（配布物）にも目を通してくこと。

【テキスト（教科書）】

こちらから資料を用意・配布します。

【参考書】

・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研）2017年
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化55のキーワード』（ミネルヴァ書房）2015年
・木村靖二（編著）『ドイツ史（新版 世界各国史）』（山川出版社）2001年
・石田勇次編著『図説 ドイツの歴史（ふくろうの本）』（河出書房新社）2007年
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加（議論、提出物、小レポート）60%
最終レポート課題40%
以上の合計で総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具を必ず用意してください
（携帯電話等をメモがわりに利用することは認めません）

【その他の重要事項】

取り扱う文学・芸術作品は変更される場合があります。
ドイツ語の知識は必須ではありません。

【Outline and objectives】

This course introduces cultural phenomena of german-speaking world, especially Germany and its capital Berlin in 19. and 20. century (from the German Empire/the unification of Germany in 1871 to the era of Nazi Germany). The course deals with some cultural scene exclusively fine art, literature and popular/sub culture. These analysis focus on conclusively urbanization as well as people's sense of values and attitudes that are urged to change drastically at that times.

PHL200GA

フランス語圏の文化 I (思想)

大中 一彌

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス史において「偉大な世紀」とされる17世紀の思想や文明を学ぶ。この世紀がどのような面で「偉大」とされてきたのかについて考察を深めることは、フランス人の文化面における自己イメージを理解する上で有効である。

【到達目標】

1. 各回のテキストの講読をつうじて、「偉大な世紀」の諸作品に関する概要をつかむ。
2. 各回のテキストに登場する人物や作品から主題を選び、その思想に関する理解を深める。
3. モラリストに代表される鋭い心理分析を学び、みずからの感情との距離の取り方を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者数にもよるが、基本的には演習に近い形式を想定している。語学の授業ではないため、フランス語の能力は求めない。期末のテストやレポートはない。授業中の活動への参加を重視する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方の説明 ※「内容/Contents」欄に書いてあるのは次の回で使うテキストです。	第2回で使うテキスト 石井洋二郎『フランス的思考』4-5頁 アンドレ・シーグフリート『西欧の精神』福永英二訳、第3章「フランス人の知性」46-75頁。 バラエティアートワークス『デカルト方法序説—まんがで読破—』第4章「形而上学の基礎」84-135頁。
第2回	「フランスの」思想?	第3回で使うテキスト ボワロー『詩法』解説(守屋駿二)20-40頁。 ヴィクトール・リュシアン・タピエ『バロック芸術』高階秀爾・坂本満訳、第二章「フランスのバロックと古典主義」88-105頁。 アラン・バラトン『庭師が語るヴェルサイユ』鳥取絹子訳、第7章「ル・ノートルと我われ庭師」115-146頁。
第3回	古典主義あるいはフランス式バロック	第4回で使うテキスト エルンスト・カッシーラー『デカルト、コルネイユ、スウェーデン女王クリスティナ』朝倉剛・羽賀賢二訳、第2章「悲劇概説」41-45頁。 高階秀爾『フランス絵画史』第2章「17世紀フランスの絵画」第3節「古典主義の成立」85-102頁。 コルネイユ『コルネイユ名作集』ル・シッド論争「論争概観」(皆吉郷平・橋本能)488-490頁。
第4回	「1636年の英雄たち」	第5回で使うテキスト セヴィニエ夫人『セヴィニエ夫人手紙抄』井上究一郎訳、23-29、138-150頁。 エリアス『宮廷社会』波田節夫・中楚芳之・吉田正勝訳、106-115、129-139頁。 モリエール『町人貴族』鈴木力衛訳、33-35、105、155-157頁。

第5回 習俗の純化

第6回で使うテキスト
ボシュエ「アンリエット・ダンクルテール追悼演説」
フィリップ・ド・シャンペーニュ「ヴァニタス」(アラン・タピエ&ニコラ・サント・フェール・ガルノ編『フィリップ・ド・シャンペーニュ政治と敬神の間』148-151頁)
高階秀爾『フランス絵画史』第2章「17世紀フランスの絵画」第2節「フランス精神の勝利」59-66頁。
パスカル『プロヴァンシアル(田舎人への手紙)』「第1の手紙」と「解説」、中村雄二郎訳、373-378、428-429頁。

第6回 ヴァニタスと神の恩寵

第7回で使うテキスト
フェスロン『テレマックの冒険』下、朝倉剛訳、巻10-11。
ガクソット『フランス人の歴史』第2巻、第19章「リシュリウとヴェストファーレン条約」451-469頁。
林田信一『ルイ14世とリシュリウ』26-39、46-55頁。

第7回 絶対王政と王国の基本法(リシュリウ、マザラン)

第8回で使うテキスト
ラ・フォンテーヌ『寓話』今野一雄訳「都会のネズミと田舎のネズミ」「王さまを欲しがるかエルたち」「ハゲタカと鳩」27-29、55-57、133-135頁。
ペロー『ペロー童話集』新倉朗子訳、「眠れる森の美女」「赤ずきんちゃん」「サンドリヨンまたは小さなガラスの靴」157-180、211-214頁。

第8回 テキストを分析する①寓話について

第9回で使うテキスト
ラ・ロシュフーコー『ラ・ロシュフーコー箴言集』二宮フサ訳、11-15、56-57、80-87、147-153頁。
田中仁彦『ラ・ロシュフーコーと箴言 太陽も死も直視できない』11-68頁

第9回 テキストを分析する②恋愛について

第10回で使うテキスト
パスカル「大貴族の身分に関する講話」(伊吹武彦・渡辺一夫・前田陽一『パスカル全集』I 161-168頁)
パスカル『パンセ』塩川徹也訳(上)71-75、80-89、92-93、105-117、124-127、238-259頁。
拙稿「パスカルにおける情念と政治」

第10回 テキストを分析する③力と正義について

第11回で使うテキスト
赤木昭三『フランス近代の反宗教思想—リベルタンと地下写本』第1部第5章「17世紀後半のリベルタン」、第2部第3章(1)「軍人哲学者」54-68、149-162頁。
モリエール『ドン・ジュアン』鈴木力衛訳、38-45、50-53、78-81頁。
フォントネル『世界の複数性についての対話』赤木昭三訳、第三夜「月世界の特徴および他の惑星にも人が住んでいること」78-102頁。

第11回 リベルタン

第12回で使うテキスト
モリエール『人間嫌い』内藤濯訳、第1幕第1場、第2幕第2場。
矢橋透『劇場としての世界—フランス古典主義演劇再考』第2章「仮面の劇—モリエール『人間嫌い』について—」41-72頁。
ジャン・ルーセ『フランスバロック期の文学』伊藤廣太・齋藤磯雄・齋藤正直他訳、第3章「変装とまやかし(悲喜劇)」、第8章「文学におけるバロック」67-108、270-311頁。

第12回 仮面

第13回で使うテキスト
「レ板機脚によるラ・ロシュフーコーの肖像」
ラ・ブリュイエール『人さまざま(カラクテル)』上・中、関根秀雄訳、第3章女について第11章人間について。
辻邦生「プッサンの遺言」

第13回 ボルトレ

第14回で使うテキスト
ラ・ロシュフーコー『箴言集』など、第1回から第12回までに使ったテキスト全部。

第14回 自画像を作ってみる。

モラリスト風の文章により自画像(オートボルトレ)を描く。授業支援システムを利用する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

1. 自分の担当する発表については、責任をもって準備して下さい。
2. 次回の授業で取り上げられるテキストの予習を求めます。

3. 国際文化学部の学部学生に関しては、この授業で扱っているテーマに関する国際文化情報学会での報告や発表を推奨します（義務ではないが、評価が上がる要因となりえます）。

【テキスト（教科書）】

授業計画の内容で毎回のテキストを指示してある。

【参考書】

参考となる映像作品：

- 第 1～2 回に関して、パトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994 年。
- 第 3～4 回に関して、ジェラルド・コルビオ監督『王は踊る』2000 年。
- 第 5～6 回に関して、エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969 年。
- 第 7～8 回に関して、リュック・ベッソン監督『狼（チャンネル No.5 の広告）』1998 年。
- 第 9～12 回に関して、ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973 年。

参考となる音楽作品：

夜の王のコンサート（夜の王のバレエに基づく）※原題"Le Ballet Royal de la Nuit"で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

- (ア) 期末試験：実施しない（0%）
- (イ) 期末レポート：実施しない（0%）
- (ウ) 授業での教科書講読への参加の質および量（20%）
- (エ）（ウ）に関する授業内での発表の質および量（20%）
- (オ) 「授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）」への取り組みの質および量（20%）
- (カ）（オ）に関する授業内での発表の質および量（30%）※必須です。発表できなかった場合、評価が大きく下がる要因となりえます。
- (キ) その他（運営協力や講師のミスの指摘）（10%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんが聞きやすい話し方を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

1. 教室内を含めて、タブレットやノート PC の持ち込みや活用を推奨します。
2. 授業支援システムを利用するので、自己登録を第 2 回授業までに行ってください。

【その他の重要事項】

・国際文化学部の学生は 1～4 年生、それ以外の法政大学の学部にも所属する学生は 2～4 年生であれば、学部やキャンパスに関係なく、この授業で単位履修できます。詳しくは所属学部の事務窓口までお問合せ下さい。

【Outline and objectives】

This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral presentations in Japanese will be required.

ARSd300GA

スペイン語圏の文化Ⅱ

久木 正雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：スペイン語圏の文化Ⅱ（ラテンアメリカの社会と文化）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数枠を30名とし、それを超えた場合は抽選とする

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、南北アメリカ大陸とカリブ海におけるスペイン語圏諸国・諸地域（アメリカ合衆国を含む）の、歴史・文化・社会の諸相について学ぶ。特にラテンアメリカ（イスパノアメリカ）と総称されるこれらの地域は、極めて広大かつ多様性（あるいは不均衡）に満ちているが、個々の地域またはトピックへの理解と関心を深めることを通じて、可能な限りの全体像を掴むことを目的とする。

【到達目標】

ラテンアメリカの歴史・文化・社会に関する基本的な理解を得て、各自の問題関心を深め、それらをプレゼンテーションやレポートに言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第4回までは、教員がラテンアメリカの歴史を概観する講義を行った上で、受講生との議論を行う。第5回以降は、受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションと議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	「ラテンアメリカ」とは何か？	「ラテンアメリカ」という呼称と概念について、その歴史とともに考える。
3	ラテンアメリカ史概説	ラテンアメリカの歴史を、先スペイン期に重点を置いて概観する。
4	イベリア史研究から見たラテンアメリカ	ラテンアメリカとイベリア世界（スペイン・ポルトガル）との接触について、イベリア史研究の立場から概観する。
5	ラテンアメリカの政治	近現代のラテンアメリカについて、政治の側面から学ぶ。
6	ラテンアメリカの経済	近現代のラテンアメリカについて、経済の側面から学ぶ。
7	ラテンアメリカの社会	近現代のラテンアメリカについて、社会の側面から学ぶ。
8	ラテンアメリカの文化	近現代のラテンアメリカについて、文化の側面から学ぶ。
9	メキシコ	メキシコの歴史・文化・社会について学ぶ。
10	中米地域	中米地域の歴史・文化・社会について学ぶ。
11	カリブ海地域	カリブ海地域の歴史・文化・社会について学ぶ。
12	アンデス諸国	アンデス諸国の歴史・文化・社会について学ぶ。
13	ラブラタ地域	ラブラタ地域の歴史・文化・社会について学ぶ。
14	アメリカ合衆国とヒスパニック	アメリカ合衆国に住まうスペイン語話者と、同国でのスペイン語の占める位置について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、事前に指示したテキストの範囲または配布した資料を読んでおくこと。
復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。

【テキスト（教科書）】

- 国本伊代・中川文雄（編著）『ラテンアメリカ研究への招待 [改訂新版]』新評論、2005年、本体価格 3,200 円、ISBN9784794806796。
- 清水透『ラテンアメリカ五〇〇年—歴史のトルソー』岩波現代文庫、2017年、本体価格 1,200 円、ISBN9784006003722。

【参考書】

- 大泉光一・牛島万（編著）『アメリカのヒスパニック＝ラティーノ社会を知るための55章』明石書店、2005年、本体価格 2,000 円、ISBN9784750322353。
- 清水透・横山和加子・大久保教宏（編著）『ラテンアメリカ 出会いのかたち』慶應義塾大学出版会、2010年、本体価格 3,500 円、ISBN9784766417234。
- 高橋均・網野徹哉『ラテンアメリカ文明の興亡』（世界の歴史、18）、中公文庫、2009年、本体価格 1,905 円、ISBN9784122052376。
- オリヴィエ・ダベース、フレデリック・ルオー（太田佐絵子訳）『地図で見るラテンアメリカハンドブック』原書房、2017年、本体価格 2,800 円、ISBN9784562054282。
その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

議論への参加度：30%、プレゼンテーション：30%、学期末レポート：40%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでプロジェクターを使用する場合には、接続用の PC は各自が用意すること。

【その他の重要事項】

この授業は春学期開講の「スペイン語圏の文化Ⅰ」からの直接の連続性はなく、秋学期だけで独立した内容を扱う。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with a basic understanding of several aspects of Latin America and the Caribbean: histories, societies and cultures.

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松 勲

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。

本授業は、北米大陸のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとし、オムニバス形式にて各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック州について学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説することを主たる目的とする。

なお、具体的な授業内容については初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることを理解いただきたい。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の通りである。

- ①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック州」に関する紹介・説明・分析を行う。

具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の2回ずつ（合計4回）は、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（10回分）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。

なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	・イントロダクション： フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について 説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて 概説
第2回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第3回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第4回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第5回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴史を当事者から学ぶ
第6回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第7回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第8回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第9回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第10回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第11回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。
第12回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。
第13回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。

第14回 総括

- ・本授業の全体のまとめ
- ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。
- ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の授業をより深く理解するためにも、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州に関する情報を集めて頂きたい。
- ・期末レポート執筆のためにも、配布資料についても熟読して頂きたい。

【テキスト（教科書）】

- ・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】

- ・各分野の参考書は、各授業において提示する。
- ・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための54章』エリアスタディーズ・72巻、明石書店、2009年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）：40%
②期末レポート：60%
・期末レポートでは、本授業で扱われたいづれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業内容について、より多様性が富んだものにする。
- ・質疑応答の時間を出来るだけ設けるようにする。

【その他の重要事項】

- ・初回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席すること。
- ・毎年度秋学期に開講予定の授業であるが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありうる。

【Outline and objectives】

This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each courses will be given by the specialists of each research domain.

LANs300GA

カタルーニャの文化 I (言語 A)

ヴィラ・ラケル

配当年次/単位：3~4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

カタルーニャの文化 I はカタルーニャ語についての授業です。
カタルーニャ語で自己紹介や周りの人を紹介できるようになります。

【到達目標】

簡単なカタルーニャ語会話ができるようになりましょう。
そして、ローマ帝国の言語であったラテン語から (スペイン語やフランス語同様に) どのようにしてカタルーニャ語ができあがっていったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はスペイン語を使ってカタルーニャ語について説明します。
スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。
逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介一人名前を伝える [カタルーニャ語とは?]	自己紹介 Em dic... Com et dius...? Sóc la... カタルーニャ語とは?
2	アルファベットと発音	アルファベットと発音 Com s'escriu? Lletrejar
3	数字 0-100 年齢、電話番号を伝える	数字 0-100 Quants anys tens? Tens telèfon? TENIR 動詞
4	自己紹介一出身を伝える	国の名前/国籍の形容詞 D'on ets? Sóc japonès. Sóc del Japó. Masc.-Fem. / Sing.-Pl.
5	世界の言葉 [カタルーニャ語の歴史]	言語 Quines / Quantes llengües parles? PARLAR 動詞 カタルーニャ語の歴史 [Historia de la llengua]
6	自己紹介一趣味の話をする	趣味に関する語彙 Què t'agrada fer en el temps lliure? AGRADAR 動詞
7	自己紹介一職業	職業 Professions De què fas? Sóc estudiant. FER 動詞
8	具体的に職業の話をする [現在のカタルーニャ語]	On treballes? Què estudies? 疑問詞のまとめ TREBALLAR/ESTUDIAR 動詞
9	自己紹介一お住まいの話をする	住所 On vius? Fa 10 anys que visc a Tòquio. VIURE 動詞
10	人を紹介する	人を紹介する Coneixes la Maria? És la meva professora. CONÈIXER 動詞
11	人の描写をする	人の描写 Com és? És rossa i prima.
12	時間を尋ねる	Quina hora és? 今何時ですか A quina hora ...? 何時に...
13	日常活動	日常生活の話 Activitats quotidianes. Què fas normalment? 普段は何をしていますか。

14

試験

期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必ず復習をすること。
カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにできるだけ触れるようにしてください。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

【参考書】

「ニューエクスプレス カタルーニャ語」(白水社)
「Veus 1」 Publicacions de l'Abadia de Montserrat
「Passos 1」 Octaedro Editorial
www.parla.cat

【成績評価の方法と基準】

授業参加 60%
宿題提出 10%
小テストと期末試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。
定期的に小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

内容が関連する秋学期の「カタルーニャの文化 II」の受講もお勧めです。
進行状況により、内容が変化されることがあります。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.
※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Catalan language. Introductory course.

LANs300GA

カタルーニャの文化Ⅱ（言語B）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャの文化Ⅱはカタルーニャ語についての授業です。カタルーニャ語で日常生活や自分の過去の話ができるようになります。カタルーニャ語の文法だけをやる、ということではありません。

【到達目標】

簡単な日常生活などのカタルーニャ語会話ができるようになります。また、ローマ帝国の言語であったラテン語から（スペイン語やフランス語同様に）どのようにしてカタルーニャ語ができあがっていったか、カタルーニャ語が今どのように使われているか、カタルーニャの人々はどのようにスペイン語とカタルーニャ語を使い分けて暮らしているのか、スペイン語とカタルーニャ語はどこが似ていて、どこが違うのかなども勉強します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はカタルーニャ語とスペイン語で行います。スペイン語を使ってカタルーニャ語について説明するわけです。スペイン SA を終えて帰ってきた皆さんに最適だと思います。逆に言うと、スペイン SA 以外の皆さんは、その程度のスペイン語力がないとちょっと苦しいかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日常活動の話をする	日常活動 Què fas normalment? Què fas al matí? 朝、昼、晩
2	頻度を伝える	頻度を表す表現 Quantes vegades a la setmana fas classe de català? Vas al cinema sovint?
3	物体	Porto les claus a la butxaca. 名詞の性、数
4	買い物	Què li regalaràs, a en Daniel? 買い物の会話
5	天気のお話	Demà plourà. 天気のお話 【未来形】
6	レストランで I	Què és això? カタルーニャ料理を紹介する
7	レストランで II	Què volen de primer? Em pot portar més pa? レストランで行う会話 PODER、VOLER 動詞 命令形
8	人を食事などに誘う	Vols sortir el cap de setmana? 義務を表す表現 HAVER DE その他の表現： Passa, passa. Seu, seu.
9	調子、感情を伝える I	Té mal de coll. 喉が痛い。
10	調子、感情を伝える II	Ha tingut un mal dia. 今日は嫌なことがあった。 現在完了形。
11	自分の過去の話をする	生年月日 数字 100～ 過去形 Vaig néixer l'any 1982.
12	先週末の話をするーその感想	AGRADAR / SEMBLAR / TROBAR 動詞の過去形 Vaig anar al cinema.La pel·lícula no em va agradar gens.
13	写真を説明する	進行形 Mira, en aquesta foto estic plorant.
14	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習をすること。

カタルーニャ文化に関心をもって関係のありそうな本やテレビ番組、映画などにてできるだけ触れるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

「ニューエクスプレス カタルーニャ語」（白水社）

「Veus 1」 Publicacions de l'Abadia de Montserrat

「Passos 1」 Octaedro Editorial

www.parla.cat

【成績評価の方法と基準】

授業参加 60%

宿題提出 10%

小テストと期末試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

学生のスペイン語を生かして、カタルーニャ語の能力を推進させます。

定期的小テストを行います。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期だけの受講も可能ですが、関連する春学期の「カタルーニャの文化Ⅰ」

と一緒に受講することを勧めます。

進行状況により、内容が変化されることがあります。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Catalan language. Introductory course.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅲ（歴史・社会 A）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャという何を思い浮かべますか？ ガウディ？ バルサ？ それももちろんカタルーニャ文化の一部ですが、それだけではありません。皆さんがスペイン文化だと思っているものの中にも実はカタルーニャ文化だ、というものが少なくありません。ダリもミロもカタルーニャ人。ピカソも重要な時期をバルセロナで過ごしました。音楽では、ホセ（ジュゼップ）・カレラスやムンセラ・カバリエ。スポーツで言えば、北京オリンピックの代表選手の80%がカタルーニャ人。テニスのナダルだってカタルーニャ語圏の出身です。このほか海と山に囲まれたカタルーニャには豊かな歴史と文化があります。食文化、ワインの文化、民族舞踊、民謡... カタルーニャ文化の魅力を語り始めたらきりがありません。この授業では、カタルーニャの地理や歴史と関連させて文化について勉強して行きたいと思えます。バルサやガウディを見る目が変わりますよ。きっと。

【到達目標】

カタルーニャ文化Ⅲでは、知っていなければいけない、基本的なカタルーニャの文化を学びます。カタルーニャ文化Ⅳでは、ニュースを読みながら現代のカタルーニャについて学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はスペイン語でやります。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使っていきます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができると思えます。皆さんの積極的な参加を求めて、スペイン語による簡単な発表をしてもらいたいと思えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに	授業の進め方等の説明をします。カタルーニャの文化について概論。
2.	カタルーニャの地理と歴史	古代の歴史
3.	カタルーニャの地理と歴史	中世の歴史
4.	カタルーニャの地理と歴史	現代の歴史
5.	食文化	カタルーニャの郷土料理
6.	食文化	カタルーニャのワインやカバ
7.	民族芸能	民族舞踊サルダナ
8.	民族芸能	民族芸能「人間の城」
9.	民族芸能、カタルーニャの芸術家	民族音楽、民謡; カタルーニャの音楽家の芸術家
10.	カタルーニャ歳時記	クリスマスやカーニバルなどの年中行事
11.	カタルーニャの芸術家	ダリ、ミロなどの画家
12.	カタルーニャの芸術家	ガウディとムダルニズマ建築
13.	カタルーニャの芸術家	カタルーニャの文学
14.	カタルーニャの芸術家	カタルーニャ映画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが付くものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。

【テキスト（教科書）】

田澤耕（著）2013年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）
プリントなどを授業中にも渡します。

【参考書】

田澤耕（著）2000年「物語 カタルーニャの歴史」（中公新書）
田澤耕（著）2013年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）
その他、発表のために参考できる本、Web など。

【成績評価の方法と基準】

発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。

授業参加 50%

発表 30%

宿題の提出 20%

【学生の意見等からの気づき】

発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

進行状況により、内容が変更されることがあります。

カタルーニャ文化ⅢかⅣどちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずですが。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Introduction to Catalan culture.

HIS300GA

カタルーニャの文化Ⅳ（歴史・社会 B）

ヴィラ・ラケル

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カタルーニャという地名は日本ではあまり知られていなかったにもかかわらず、独立問題で最近日本のニュースでも報じられています。ニュース報じられている現代カタルーニャの背景にある豊かな歴史と文化を発見しましょう。

【到達目標】

カタルーニャ文化Ⅳでは、ニュースを読みながら現代のカタルーニャ、そしてその背景にある歴史や文化について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はスペイン語で行います。もちろん、カタルーニャ文化ですから、カタルーニャ語も出てきますが、皆さんにわかるように解説しながら使っていきます。スペイン SA 終了程度のスペイン語力が必要です。スペイン SA に行った学生の皆さんは、カタルーニャ文化について学ぶだけでなく、スペイン語力を維持したり伸ばしたりすることができますと思います。皆さんの積極的な参加を求めて、簡単な発表をしてもらいたいと思います。もちろんスペイン語で。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	はじめに。	授業の進め方等の説明をします。カタルーニャのメディア。
2.	カタルーニャのニュース Noticias sobre Catalunya	カタルーニャの新聞 ニュースの読み方 Dónde encontrar noticias sobre Catalunya. Cómo leerlas.
3.	ニュースでの カタルーニャの社会 Catalunya en las noticias	現代のカタルーニャ 独立、アイデンティティなどについて Catalunya en las noticias: Independientismo e identidad.
4.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Arte en las noticias	芸術 - Pintura 発表
5.	ニュースでわかる カタルーニャの経済 Economía catalana en las noticias	経済 - Economía (Índices del paro, PIB, balanzas fiscales) 発表
6.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 La sociedad catalana (movilidad)	社会 - Sociedad (División territorial, transporte) 発表
7.	ニュースでわかる カタルーニャのスポーツ Deporte en Catalunya	Más allá del FC Barcelona. カタルーニャのスポーツ選手 発表
8.	ニュースでわかる カタルーニャの政治 Política en Catalunya	Partidos políticos, elecciones, independentismo. 発表
9.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 Sociedad: Escuela y lengua	カタルーニャの教育制度、カタルーニャ語 La escuela catalana. 発表
10.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Arquitectura en las noticias	カタルーニャの建築家 Arquitectura catalana 発表
11.	ニュースでわかる カタルーニャの社会 Tradiciones en la actualidad	カタルーニャの伝統的な祝祭 発表
12.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 El cine catalán hoy en día	Actualidad del cine catalán. 現在のカタルーニャのシネマ 発表
13.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Música	Festivales, conciertos, artistas. 発表

14.	ニュースでわかる カタルーニャの文化 Gastronomía	La actualidad en el mundo de la alta cocina. La cultura del vino. 発表
-----	--------------------------------------	--

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ともかくカタルーニャに興味を持ってください。カタルーニャ、バルセロナなどということばが付くものは、テレビ番組でも、映画でも、本でも、音楽でも、何でも手を伸ばしてください。

【テキスト（教科書）】

とくにありません。プリントなどを授業中に渡します。

【参考書】

田澤耕（著）2000 年「物語 カタルーニャの歴史」（中公新書）

田澤耕（著）2013 年「カタルーニャを知る辞典」（平凡社）

その他

【成績評価の方法と基準】

発表をしてもらったり、レポートを書いてもらったりしますが、積極的に授業に参加する態度を高く評価します。

授業参加 50%

発表 30%

宿題の提出 20%

【学生の意見等からの気づき】

発表のテーマなど積極的にガイダンスします。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【その他の重要事項】

進行状況により、内容が変更されることがあります。

カタルーニャ文化Ⅲ かⅣ どちらかだけを履修することもできますが、できれば両方履修してください。その方がずっと面白いはずです。

【助成機関】

Curs patrocinat per l'Institut Ramon Llull.

※本科目はカタルーニャ自治政府ラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline and objectives】

Introduction to Catalan culture, paying special attention to the latest news.

ARSK300GA

英語圏の文化Ⅲ（現代事情）

粟飯原 文子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：教室定員以上の受講希望者がいる場合には抽選します

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語圏世界とは、もちろんイギリスや北米だけではなく、世界中に広がるイギリスの統治地域や植民地（そしてアメリカの領土なども）を多く含みこむ。したがって、英語圏世界について学ぶこととは、多くの場合、旧植民地地域について学ぶことでもある。そのためにもこの授業では、かつて「第三世界」あるいは「南」と呼ばれた旧植民地地域の歴史的な軌跡を概観して、「世界史」を異なる視座から学び、ひいては「英語圏」という枠組を再考することを目的とする。

【到達目標】

- ・旧植民地地域について学び、現代の国際状況の理解につなげる。
- ・旧植民地地域の歴史を振り返り、その主体性を重んじながら、西洋の視点から語られる「世界史」に対する別様の視点を身につける。またそこから、多様な文化的背景をもつ人々および国々の相互交流とその意義や課題について複数の角度から理解する。
- ・東西の対立という観点から説明され、理解されがちな冷戦を、旧植民地地域の経験から再考する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式をとり、毎回プリントを配布する。
- ・なるべく時系列にそって進めていくが、地域・トピックにもとづいて時代が前後することもある。
- ・授業中に複数の映像資料を参照するほか、学期の後半には一度、映画の全編を觀賞して批評コメントを書いてもらう。
- ・授業の最後 10 分程度でリアクションペーパーを作成、提出してもらう。
- ・学期末の最後の授業で筆記試験を実施する。

授業中に配布したプリントやノートなどの持ち込みは許可するが、講義内容を把握していないと解答できないので、積極的に授業に参加して、しっかりメモをとってもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションー第三世界とはなにか	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。 英語圏、英語使用地域の歴史的な背景と現在の状況について考える。
第 2 回	第一次世界大戦後の世界ー民族自決	第一次世界大戦のとらえ方、1919 年の「民族自決」の世界的な動向について学ぶ。
第 3 回	反帝国主義連盟	植民地地域から多数の代表が集まった 1927 年のブリュッセル会議、その意義について学ぶ。
第 4 回	第二次世界大戦後の世界ー独立への道	第二次世界大戦前後の植民地地域の独立への動きを考える。
第 5 回	アジア・アフリカ会議	1955 年のアジア・アフリカ会議（バンドン会議）の重要性を再考する。
第 6 回	アフリカ諸国独立	1957 年のガーナ独立からアフリカ諸国独立の時代を振り返り、また、独立後の困難について考える。
第 7 回	非同盟諸国運動	1961 年にベオグラードで誕生した非同盟諸国運動というまとまりについて学ぶ。
第 8 回	キューバ革命と三大大陸人民会議	1959 年のキューバ革命の衝撃、革命後のキューバを中心にして発展した連帯運動、この時代を覆うアメリカの影について学ぶ。
第 9 回	第三世界から見る冷戦①	旧植民地において冷戦とは、決して「冷戦」などではなく、その影響下で激しい戦争が起こっていた。また、多くの場ではアメリカによる軍事介入を受けた。旧植民地地域における「冷戦」とはなんであったか、二度にわけて学ぶ。

第 10 回	第三世界から見る冷戦②	前回の続き。いくつかの地域と国の事例をもとに、旧植民地地域の「冷戦」の経験を学ぶ。
第 11 回	構造調整の時代ー第三世界の弱体化	旧植民地地域はどのようにして苦境に陥っていったのか。その背景をたどり、現在の文脈につなげて考える。
第 12 回	映画のなかの第三世界	映画の全編を鑑賞し、旧植民地が直面する現代的な問題を学ぶ。
第 13 回	現代の諸問題と全体の総括	現在の英語圏および旧植民地地域について概観し、これまでの総括をおこなう。
第 14 回	試験と解説	全体の復習として筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 10 %
- ・授業で提出する課題（リアクションペーパーなど） 30 %
- ・期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の思考をうながし、積極的に参加できるような講義を行うよう努力したい。

【その他の重要事項】

定員を超える受講希望者がいる場合には抽選をおこなう。

受講希望者は必ず 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

This course is designed to provide students with new insights into concepts and contours of the "English-speaking world" by focussing on the experiences of formerly colonised peoples and countries. Students will be expected to gain a comprehensive understanding of the historical trajectories of the "Third World" and thus a different perspective on World History.

LIT300GA

英語圏の文化Ⅳ（文学と社会 A）

須藤 祐二

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学をアメリカの社会や文化のさまざまな諸相と関連づけて考察する。各時代の文学作品に明示的に示されている問題意識を考察するだけでなく、なにげない描写に隠されたアメリカの社会や時代の特異性を検討する。また、文学作品が、時には時代を超えながら、アメリカの絵画、映画、音楽など、ほかの文化領域にどのような影響を及ぼしているのかを考えることで、アメリカ文学だけでなくアメリカ文化の奥深さを味わってもらいたい。

【到達目標】

受講生は、アメリカ文学についての基礎的な知識を身につける。また、代表的な作品の内容を知るとともに、そこで描かれているアメリカの社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

第 1 回授業でいくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマからアメリカの文学や文化がどのように関連づけられるのかを解説する。そのため、ある時代を切り取ってそれを考察する、というプロセスが、何度か繰り返されるだろう。時間的な制約から時系列に沿った、アメリカ史全体の説明はできない。受講生は、アメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマの設定	全体のテーマを設定する。
第 2 回	アメリカの神話創造	植民地建設時や独立戦争時の理念がアメリカ社会を支える神話としてどのように受け継がれているかを考える。
第 3 回	怖いものはなに	アメリカのゴシック小説の特異性をヨーロッパのゴシック小説との比較から考察し、前者における恐怖の描き方から、「アメリカ的な素材」をめぐりアメリカ人作家のジレンマを検討する。
第 4 回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説を紹介したうえで、この「アメリカ的な風景」がその後の絵画や映画などでどのように利用されてきたかを歴史的に考察する。
第 5 回	東や西へ	アメリカがフロンティア消滅以後の東部と西部にどのような価値が与え、19世紀から 20 世紀の文学がその価値をどのように活用してきたかを考察する。
第 6 回	海とアメリカ文学	アメリカを超えて海を舞台にしたアメリカ文学作品を紹介する。これらの作品がアメリカ的な価値観やエスニシティなどの問題意識をどのように受け継いでいるのかを考察する。
第 7 回	時間、都市、産業化	19 世紀後半以降のアメリカの都市化・産業化の結果、社会における時間表象や都市表象がどのように変化したのかを紹介し、モダニズムの作家がそうした変化をどのように文学作品に反映したのかを考察する。
第 8 回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様な移民が混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのように変容してきたのかを確認し、アメリカ文学でこの「白さ」がどのように表象されているのかを考察する。

第 9 回 「黒人」というステレオタイプ

白人作家によるアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。また、映画においてそうしたイメージがどの程度踏襲されているのか、また反対にどのように変容しているのかを、文学作品との比較から考える。

第 10 回 観念としての「黒人」は誰のものか

20 世紀前半のハーレム・ルネッサンスやそれ以降のアフリカ系アメリカ人の文学作品が自分たちの文化をどのように位置づけようとするかを考察する。時代背景の理解のため、ジャズがたどった受容の歴史の解説を加える。

第 11 回 メディアと消費文化の拡張

アメリカ文学が消費文化をどのように表現してきたかを紹介する。時代背景の理解のため、消費文化とメディアの関係の変容についての説明を加える。第 11 回で考察した消費文化の考察をアフリカ系アメリカ人に絞る。音楽を中心に「黒人」文化と消費文化の関係を考察し、その後、消費文化における「黒人」イメージから取り残された現実を、現代の黒人作家がどのように描いているかを検討する。

第 13 回 ジェンダー観の変容

アメリカにおける女性の権利拡大運動の推移を解説する。ジェンダー観の変化のなかで、20 世紀の女性作家が何を描き、何を描けなかったのかを考察する。併せて、彼女たちの作品と 20 世紀以降の映画などにおける女性表象を比較検討する。

第 14 回 まとめ

講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業、資料（英文）を配布するので、その資料を読み込むこと。また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。各回で必要になる資料は配布する。

【参考書】

有賀夏紀（編）油井大三郎（編）『アメリカの歴史——テーマで読む多文化社会の夢と現実』有斐閣アルマ、2003 年
 亀井俊介（編）『アメリカ文化史入門——植民地時代から現代まで』昭和堂、2006 年
 板橋好枝、高田賢一『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房、1991 年

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートを 70 %、中間レポートを 30 %とする。
 なお、両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度と同様、映像資料も用いる。
 例年、「静かに受講できた」という感想が聞かれるので、同様の授業になるように工夫をするつもりでいる。学生にもそのつもりで受講してもらいたい。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is designed for students to learn a brief history of American literature and, through it, to gain insight into various aspects of American culture and society. Not only will students be able to probe into the authors' critical minds clearly evident in their works, but also into the characteristics of American society during particular periods which are illustrated in the minor themes of their writings. It is expected that students' interest in American literature will grow by learning the impact American literary works, even those of different eras, have had on other cultural fields such as picture, film, and music.

LIT300GA

英語圏の文化Ⅵ（文学と社会 C）

中和 彩子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀から 20 世紀の変わり目に特有の「不安」——ダーウィニズムが生み出した先祖返りの不安、退化幻想、そして植民地から本国、野蛮から文明への逆侵略の恐怖——にとりつかれた、世紀末のイギリス小説を読むことを通じ、イギリス文学・文化・歴史への理解を深める。

【到達目標】

イギリス小説の代表的な作品を読み、テキスト（構造と細部）とその背景（文化・歴史）を理解する。

作品と作者の文学史における位置づけを理解する。

イギリス小説を原語でも読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

予習ワークシートに沿ってグループ・ディスカッションを行ったあと、講師がディスカッションの結果を整理するというのが、演習の基本的な進め方である。各作品につき 3 回の授業を充て、3 回目は主に講義とする。各授業の終わりにはリアクション・ペーパーを課し、理解の確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、イギリス文学・文化概説	授業に関する説明。受講希望者多数の場合は選抜。 18～20 世紀の小説を中心としたイギリス文学、およびその文化・社会的背景についての概説
2	ロバート・ルイス・ステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』（1886 年）小説前半	演習
3	『ジキル博士とハイド氏』（1886 年）小説後半	演習
4	『ジキル博士とハイド氏』全体	演習・講義
5	アーサー・コナン・ドイル『四つの署名』（1890 年）小説前半	演習
6	『四つの署名』小説後半	演習
7	『四つの署名』全体	演習・講義
8	H.G. ウェルズ『タイムマシン』（1895 年）小説前半	演習
9	『タイムマシン』小説後半	演習
10	『タイムマシン』全体	演習・講義
11	ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』（1902 年）小説前半	演習
12	『闇の奥』小説後半	演習
13	『闇の奥』全体	演習・講義
14	<世紀末の不安>まとめ	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、全員の準備学習を前提として授業を進める。

演習の回、講義の回ともに、指定のテキストや資料を読み、予習用ワークシートをやり、授業に持参する。

具体的な方法については、第一回授業で説明する。

【テキスト（教科書）】

(1) 長篇作品の邦訳は、以下の版を使用する予定。（絶版や新訳の出版等により変更する場合は、掲示等により連絡する）。

① 田内志文訳『ジキル博士とハイド氏』角川文庫、2017、
② 日暮雅通訳『四つの署名』新訳シャーロック・ホームズ全集、光文社文庫、2007。

③ 池 央歌訳『タイムマシン』光文社古典新訳文庫、2012。

④ 黒原敏行訳『闇の奥』光文社古典新訳文庫、2009。

(2) その他のテキスト（英語原文等）・資料については、抜粋を配布する。

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回提出するワークシート 30%、リアクションペーパー 10%、計 40%）と、試験の成績（60%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

“Culture and Society of the English Speaking World VI (Literature and Society C)” aims to introduce students to British literature in the context of British culture, society and history. Students will read some representative British literary works published around the turn of the 20th century analytically and critically, and also be introduced to their social and cultural contexts. They will thereby understand how these texts are obsessed with the Victorian fin-de-siècle anxieties.

LANe300GA

英語圏の文化Ⅶ（英語の構造）

興石 哲哉

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、学生が現代英語の構造について、様々な面から考察するを目標にするものです。良きにつけ悪しきにつけ国際語になっている英語は、どのような言語であるのか、学生は、担当者とともに、授業を通じて考察していきます。

【到達目標】

1. 学生が英語の音声面、文法面等の構造について、知識を得られること。
 2. 学生が英語の構造についての研究の仕方について、ある程度の知識を得られること。
 3. 学生が英語という言語に関しての様々な問に対して、答えるべき道筋をつけられること。
 4. 併せて、学生が英語・英語文化圏についての知識を深めること。
- なお、上記の1、2で述べた知識ですが、ヤマとなる点は以下の通りです。
- a) 音声器官、発音記号。
 - b) 音素の考え方（構造主義）。
 - c) 言語の知識を構成する各部門の考え方。
 - d) 記述上のさまざまな単位。
 - e) 統語範疇（品詞論）。
 - f) 直接構成要素分析、句構造。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

履修者の数、知識のレベルなど未知数が多いため、現時点で具体的なことをすべて決定することはできない状況にあります。現時点で考えていることは以下の2点です。

1. 講義形式の授業にせざるを得ませんが、可能な限り履修者との双方向的な授業を目指したいと思います。
2. 何をトピックにするか明確にし、履修者が問題意識を持って授業に臨めるようにしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語の学び方	これから半期にわたる授業のやり方、教材について説明します。後半は、英語という言語について、どこでどのように話されているかなどを見た上で、英語史について簡単に触れます。
2	英語の音声について（1）	英語の音声について、その特徴を学んでいきます。言語音声に関する初回になりますので、音声研究において必要な調音器官などの用語、発声の原理について学びます。
3	英語の音声について（2）	英語の音声について、その特徴を学んでいきます。今回は、英語を離れ、一般的に単音の記述について見た後、子音・母音の分類原理について学習します。
4	英語の音声について（3）	英語の音声について学ぶ3回目です。英語の母音について、その分類を学んだ後、各母音について見ていきます。
5	英語の音声について（4）	英語の音声について学ぶ4回目です。二重母音、弱母音等について触れ、その後、フォニックスについて学習します。
6	英語の音声について（5）	英語の音声について学ぶ5回目です。母音についてまとめ、英語の子音を見ていきます。
7	英語の音声について（6）	英語の音声について学ぶ6回目です。子音についてまとめた後、音節、音結合について触れます。最後に、かぶせ音素（アクセント、リズム、イントネーション等）について解説します。

- 8 英語の文法について（1） 英語の文法について学ぶ1回目です。初回ですので、文法という用語の伝統的な意味と、新しい意味、生成文法の考え方等について学びます。
- 9 英語の文法について（2） 英語の文法について学ぶ2回目です。日英の語順の相違について概観した後、形態素、語、語彙素といった基本的な用語について学びます。
- 10 英語の文法について（3） 英語の文法について学ぶ3回目です。統語範疇という概念について概観します。具体的に、形容詞を例にとって、いかに統語範疇が規定されるか、検討します。
- 11 英語の文法について（4） 英語の文法について学ぶ4回目です。形容詞についての話をまとめ、他の統語範疇と形容詞の関係について学びます。英語の辞書の記述についても、検討します。
- 12 英語の文法について（5） 英語の文法について学ぶ5回目です。構成素という概念（おおまかな説明：語がどのような原理に基づいてグルーピングしていくのか）について学びます。そして、不連続構成素をどのように扱うかについての話をします。
- 13 英語の文法について（6） 英語の文法について学ぶ最後の回です。この回は、SVO+不定詞という構文を例にとり、それがどのように分析されるか、検討します。
- 14 まとめ～今後につなげて これまでの授業を総括し、その上で今後の英語学習にどのようにつなげていくか、授業で学んでいきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、前回の内容を復習しながら、新しい内容に進みますので、学生は、基本的な用語を習得し、方法論を理解しながら、参考文献等を読んで授業に臨んでください。重要なのは、授業において、何らかの「引っかけ」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。

【テキスト（教科書）】

特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布、提供いたします。

【参考書】

- 授業中、随時指定いたしますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。
- ・加島祥造 (1976). 『英語の辞書の話』. 東京：講談社 [のちに講談社学術文庫に収載.]
 - ・加島祥造 (1983). 『新・英語の辞書の話』. 東京：講談社 [のちに講談社学術文庫に収載.]
 - ・竹林滋・斎藤弘子 (1998). 『改訂新版 英語音声学入門』. 東京：大修館書店.
 - ・中島文雄 (1991). 『英語学とは何か』. 東京：講談社 [講談社学術文庫].
 - ・田中菊雄 (1992). 『英語研究者のために』. 東京：講談社 [講談社学術文庫].
 - ・竹林滋 (1991). 『英語発音に強くなる』. 東京：岩波書店 [岩波ジュニア新書].

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。（やむを得ない場合に限り、欠席3で-10%（大体のところ評価にして1段階下がる）、欠席5で失格、というのを一応の目安とします。）

最終試験 50%、プロジェクト 30%、平常点 20%というのが、基本的な評価基準です。（プロジェクトについては、課さないこともありえます。その場合は、最終試験 60%、平常点 40%とします。）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は英語で行ったこともあり、難しいという印象が多かったようです。従って、教えるべき内容については再度見直し、減らす方向で考えたいと思います。しかし、到達目標に記したことは、ことばの学問の道筋として知っておいてほしいものですので、「授業支援システム」等で発信するフィードバックを元に、何とか学んでいってほしいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンはあると便利です。発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「授業支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。

【その他の重要事項】

1. 具体的なことは履修者の数、知識のレベルなどを加味して決めたいと考えています。
2. かなり早いペースで英語の構造についてお話ししますので、真面目な態度で出席しないと履修は困難です。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、言語文化コースの3,4年次以上対象の授業です。（科目の性質上、SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます。）英語の構造をひと通り駆け足で学び、言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です。半期ですので、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の構造について、基本的な知識は網羅するように心がけます。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to consider structural aspects of the English language, which has become the de facto 'global' language. Towards the end of the course, students will be able to:

1. To get a general idea about how English sounds and grammatical phenomena are described.
2. To obtain a certain level of knowledge about how various structural aspects of modern English SHOULD be described.
3. To obtain enough knowledge about modern English so as to answer various questions about the alleged 'mysteries' of the English language.
4. To study English in its general sense. (You see, you all finished your SA programmes, so you should keep that level of English until graduation.)

The following is the list of important notions (among others) to be covered in this course:

- a) articulatory organs and phonetic symbols,
- b) the notion of phoneme (introduction to structural linguistics),
- c) modular approach to linguistics,
- d) various units in linguistic description,
- e) syntactic categories (parts of speech),
- f) intermediate constituency, phrase structural analysis

LANe300GA

英語圏の文化Ⅷ（英語の歴史）

興石 哲哉

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の歴史は、ゲルマンの民族がブリテン島に侵入してから始まります。本授業では、担当者とともに、学生は、本来は大陸のゲルマンの部族の言語であった言語がブリテン島に入り英語になってから、どのような変化を遂げて、21世紀の今のような国際的な言語となっていったか学んでいきます。

【到達目標】

1. 学生が英語の歴史について、ひと通りの知識を得ること。
2. 学生が英語の歴史に興味を持ち、現代英語の様々な事象について、歴史的な説明を試みること。
3. 学生が言語の歴史研究について、その大まかな方法論を知ること。
4. 学生が英語の運用力をつけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業では、テキストを読みながら、演習方式で英語の歴史について学んでいきます。履修者は、必ずテキストを読んでください。授業では、教材の内容について皆さんに担当教員が質問したり、付加的な情報を加えたりして、履修者の参考になるべく努めます。その後、復習をして固めれば、理解力が高まります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、英語以前の歴史	- 授業の進め方等の解説 - 現代英語の状況、話者数、分布等。 - 英語史上の時代区分。
2	EARLY HISTORY 1	- Speech and Writing - The Continental Backgrounds - The Indo-European Languages
3	EARLY HISTORY 2	- The Position of Germanic in the Indo-European Group - Special Development in Germanic
4	OLD ENGLISH 1	- The Old English Dialects - The Conversion of the English to Christianity - Old English - Vowel Sounds - Consonant Sounds
5	OLD ENGLISH 2	- Consonant Sounds (続き) - Word Stress - Gender Not Based on Meaning - Case
6	OLD ENGLISH 3	- Case (続き) - The Development of the Personal Pronouns - The Development of the Demonstrative and Relative Pronouns - Adjectives and Adverbs
7	OLD ENGLISH 4	- Verbs - Word Order
8	OLD ENGLISH 5	- The Old English Word Stock: Native Words and Loan Words
9	MIDDLE ENGLISH 1	- Leveling of Unstressed Vowels - Spelling Practices - Changes in Stressed Vowels - The Blurring of Older Inflectional Distinctions
10	MIDDLE ENGLISH 2	- The Blurring of Older Inflectional Distinctions (続き) - Loan Words - French - Latin - Greek - Eastern Languages

11	MIDDLE ENGLISH 3	- Old and Middle English Compared
12	MODERN ENGLISH 1	- The Great Vowel Shift - Changes in the Verb and the Pronoun - Word Borrowing
13	MODERN ENGLISH 2	- Word Borrowing (続き) - The Rise of Prescriptive Grammar in the eighteenth Century
14	MODERN ENGLISH 3	- The Rise of Prescriptive Grammar in the eighteenth Century (続き) - Noah Webster's Influence on American English - Is English Deteriorating?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、まず、テキストを読んでくることから始めてください。この際、批判的に読むこと（書かれていることに疑問はないか、曖昧な記述はないか等問題意識を持って読むこと）、出てくる用語等を資料、ネット等を用いて調べること、意識的に行うことが重要です。授業後、復習をして固めれば、理解力が高まります。重要なのは、授業において、何らかの「引っかけ」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。

【テキスト（教科書）】

英文パイルズ『英語の歴史』（1973）。この本はずいぶん古い本ですが、英語で読めるものとしては、それなりにいい本であると思います。元来、米国の高校生向けの教科書であるため、発音表記が分かりにくかったり、最近の英語についての説明がなかったりするの欠点ですが、ModE までの説明はとてよまっています。

【参考書】

授業中、随時指定しますが、とりあえず日本語で読めるものとして以下のものを挙げておきます。

- ・北村達三（1980）。『英語を学ぶ人のための英語史』。東京：桐原書店。（内容として一番標準的ですが、最近の英語についての記述が少々足りません。）
- ・寺沢盾（2008）。『英語の歴史 過去から未来への物語』。東京：中央公論新社 [中公新書]。
- ・中尾俊夫、寺島由子（1988）。『図説 英語史入門』。東京：大修館書店。
- ・ブラッドリ、H. 寺澤芳男訳（1982）。『英語発達小史』。東京：岩波書店 [岩波文庫]。

【成績評価の方法と基準】

試験での成績を第一条件にして、平常点を加味します。言うまでもないことですが、出席することはすべての前提です。欠席は基本的に認めません。（やむを得ない場合に限り、欠席 3 で-10%（大体のところ評価にして1段階下がる）、欠席 5 で失格、というのを一応の目安とします。）

最終試験 50%、プロジェクト 30%、平常点 20%というのが、基本的な評価基準です。

【学生の意見等からの気づき】

教材をしっかり読まないで単履修につながりません。また、担当教員の話を聞き流すだけではダメで、やはり自分から勉強する態度が大切です。内容については、一見難しく思えるが、実際はそんなに難しいことは要求されていない、という意見もありました。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンがあると便利です。発音記号のフォント、樹形図の書き方等に慣れることが可能になります。さらに、いろいろ興味深いサイトもありますので、授業や「授業支援システム」等を通じて、幅広く勉強ができます。

【その他の重要事項】

1. 本科目はグローバル・オープン科目の History of English と内容が同一ですので、重複履修はできません。英語の歴史を英語で学びたい方は是非そちらの科目を履修してください。
2. 今年度はテキストを読んでいくことを中心にした授業構成に変えました。
3. 「英語史」と「英国史」とは異なります。ことばに焦点を当てる授業であるということ、理解した上で履修してください。
4. 初回授業に必ず参加してください。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、言語文化コースの 3,4 年次以上対象の授業です。（科目の性質上、SA 英語圏の履修者が多いことが予想されます。）英語の歴史をひと通り駆け足で学び、言語文化演習（あるいは卒業研究）へ結びつける科目です。半期のため、かなり駆け足で勉強することになりますが、英語の歴史の基本的な知識は網羅できると思います。履修者は、自分なりに興味があるトピックを見つけ、方法論についても自分なりに知ろうとすることが大切です。

【Outline and objectives】

Towards the end of this course, students will be able to:

1. to study the history of the English language, which, good or bad, has become an 'international language' in our modern world; and
2. to develop a general interest in the language itself through doing a lot of reading.

The following are the concrete goals of this course:

1. To get a general idea how the English language has evolved,
2. To try to explain various apparent 'mysteries' of English in historical terms,
3. To begin to develop a general theory of linguistic change,
4. To study English in its general sense. (You see, you must keep that level of English acquired through your SA experience!)

ART200GA

比較表象文化論

竹内 晶子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オリエンタリズムとジェンダー論、それぞれについて基本的な枠組みを学んだあと、オペラ、バレエ、映画、舞台などの具体的な作品に対して、理論を応用した分析を試みていきます。

【到達目標】

・作品分析のツールとして理論を使いこなす力をつけるとともに、様々な表象文化作品の比較分析に必要な、基本的な能力を身につける。
・作品をとりまく時代・社会・文化が作品にどのように反映されているのか、また、伝達手段（メディア）が作品の表現にどのような影響を与えているのか、という表象文化分析に必須の問題意識を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、比較の手法を取り入れた表象文化分析を、理論の勉強と応用を通じて学びます。具体的には学期前半でオリエンタリズムを、後半でジェンダー論をとりあげ、これらの理論を用いて、オペラ、バレエ、映画、舞台などの作品群（同一テーマを扱いつつも、時代・メディアを異にする作品群）を比較分析していきます。

従って、単に講義を聞くだけの授業ではありえません。課題テキストや前回の授業で鑑賞した作品を考察し、SQ（Study Questions）への答えを提出してから授業に出席することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、「理論」を自分のツールとして使いこなすことが可能になり、具体的な作品を分析していく力が身につくはずだからです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	オリエンタリズム I	オペラ『蝶々夫人』鑑賞
3	オリエンタリズム II	オペラ『蝶々夫人』台本分析
4	オリエンタリズム III	映画『サヨナラ』鑑賞
5	オリエンタリズム IV	映画『サヨナラ』分析
6	オリエンタリズム V	映画『M. バタフライ』鑑賞
7	オリエンタリズム VI	映画『M. バタフライ』分析
8	ジェンダー論 I	「シンデレラ」分析
9	ジェンダー論 II	バレエ『シンデレラ』鑑賞、分析
10	ジェンダー論 III	アニメ『シンデレラ』鑑賞
11	ジェンダー論 IV	アニメ『シンデレラ』分析
12	ジェンダー論 V	実写版映画『エバーアフター』鑑賞
13	ジェンダー論 VI	実写版映画『エバーアフター』分析
14	総論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、定められた期限までに授業支援システムに課題（SQ）へのレスポンスを提出すること。

【テキスト（教科書）】

適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】

『オリエンタリズム』（上）（下）、サイド、平凡社、1993年。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（積極的な授業参加）20パーセント
- ・課題（SQ）40パーセント
- ・定期試験 40パーセント

【学生の意見等からの気づき】

板書を多用します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに、普段チェックするメールアドレスを登録すること。

【その他の重要事項】

第一回目の授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The students will learn the basic theoretical frameworks of Orientalism and gender studies, and then apply them to the analysis of actual art works of various genres (ex. opera, ballet, film, theater).

LIN300GA

間文化性研究翻訳論

熊田 泰章

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳が自然言語間の転換作業であるにとどまらず、人間の意志表出のすべてを可能とする基本であることを学ぶ。

実例分析としては、文学作品の自然言語間における翻訳テキストを取り上げ、翻訳の基本概念を把握する。

サン・テグジュペリ：『星の王子さま』を使用する。できる限り多くの言語の翻訳を参照する。

星の王子さまは、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、中国語、朝鮮語、そのどれにおいても、私たちが子どもの時に読んだのと全く同じイメージなのだろうか。小生意気な小さい大人なのか、めめそめた幼児なのか、元氣一杯のわんぱくなのか、テキストに忠実に分析します。

日本語訳が新しく数冊出版されました。その比較検討も行ないます。

【到達目標】

翻訳についての基本的学術用語を理解する。

翻訳の原理と可能性・限界を知る。

私たちが日常的に行っている他言語テキストの翻訳について、学術的概念をあてはめて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

翻訳の基本概念を概説する。順次導入する概念、ターミノロジーを用いつつ、実例分析を行なう。日本語、英語以外のテキスト実例は、学生による分析に付する。学生による分析レポート提出、そのプレゼンテーションも随時行なう。

1 回目の授業でミニレポートを書いてもらいます。

その課題：「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「星の王子さま」という日本語タイトルは正しいか？
2	基本概念の説明とテキスト分析 ミニフィアン・シニフィエ ミニレポート1	基本概念の説明1： シニフィアン・シニフィエ
3	基本概念の説明とテキスト分析 恣意性 ミニレポート2	基本概念の説明2： 恣意性
4	基本概念の説明とテキスト分析 共時的・通時的 ミニレポート3	基本概念の説明3： 共時的・通時的
5	基本概念の説明とテキスト分析 間文化性 ミニレポート4	基本概念の説明4： 間文化性
6	基本概念の説明とテキスト分析 固有名詞と代名詞 ミニレポート5	基本概念の説明5： 固有名詞と代名詞
7	基本概念の説明とテキスト分析 オノマトペと慣用表現 ミニレポート6	基本概念の説明6： オノマトペと慣用表現
8	基本概念の説明とテキスト分析 社会制度と翻訳 ミニレポート7	基本概念の説明7： 社会制度と翻訳
9	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳と言語変容 ミニレポート8	基本概念の説明8： 翻訳と言語変容

10	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳と言語変容 ミニレポート9	基本概念の説明9： 翻訳と言語変容
11	基本概念の説明とテキスト分析 翻訳の双方向性 ミニレポート10	基本概念の説明10： 翻訳の双方向性
12	基本概念の説明とテキスト分析 解釈学的循環 ミニレポート11	基本概念の説明11： 解釈学的循環
13	基本概念の説明とテキスト分析 複合的テキスト ミニレポート12	基本概念の説明12： 複合的テキスト
14	基本概念の総括 最終レポート	この授業で学んだことのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『星の王子さま』の各言語翻訳版を読み比べる。
導入されたターミノロジーについて参考文献を用いて調べ、理解する。

【テキスト（教科書）】

『星の王子さま』の翻訳版を以下のように各自で購入・用意してください：

1 日本語訳がかなりの数出版されていますが、そのどれか1冊。

2 加えて、英語、フランス語などなどのどれか1冊。

（日本語以外のものは、大きな書店の洋書売り場などにあります）

毎回の授業に持参してください。

最終レポートでも参照する。

【参考書】

熊田泰章編『国際文化研究への道—共生と連帯を求めて—』彩流社、2013年

【成績評価の方法と基準】

毎回ミニレポートを課すので、必ず提出すること。

その上で、最後に最終レポートを書く。

ミニレポート・最終レポートでは、導入したターミノロジーを適切に使用して、翻訳に関する考察を論述できるようにする。

ミニレポート50%・最終レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

学生からの提案を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

概念語の確認のために、授業内でも電子辞書を用いることが必要です。

【Outline and objectives】

Translation is not only a transformation work between natural languages but also a fundamental principle that makes expression by languages possible.

In this lecture we will consider translation texts between natural languages and grasp the basic concept of translation.

We use Saint-Exupéry: Le Little Prince and refer to translations of as many languages as possible.

When we read this work now, is the image of the Little Prince the exact same image that we read as a little child? And when we read it in English, French, Spanish, German, Russian, Chinese, Korean and so on, do we understand it in the same way?

The purpose of this lecture is to learn the fundamentals of linguistics and understand the important Begriff "Interculturality".

LIT300GA

日英翻訳論

リービ 英雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回授業を出席した受講希望者より200名を抽選

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学の名作を英訳することによって、英作文をみがき、同時に翻訳という鏡に映った日本語の特徴を考える。英語と日本語の究極的な比較。

【到達目標】

日本語と英語の本質を実際の翻訳を通じて考える方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回、教授のレクチュアと、学生全員による英訳。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義
第2回	俳句の翻訳 「古池や」	発表 イメージを表す日本語
第3回	俳句の翻訳 「荒海や」	発表 イメージと英語のイメージズム
第4回	俳句の翻訳 「夏草や」	発表 短詩形の「戦争文学」
第5回	俳句の翻訳 「おくの細道」I	発表 移動と表現
第6回	俳句の翻訳 「おくの細道」II	発表 多義性と翻訳
第7回	俳句の翻訳 その他	発表 翻訳の技法
第8回	和歌の翻訳 万葉集	発表 「万葉集の世界」入門
第9回	和歌の翻訳 奈良の京	発表 文法と翻訳
第10回	和歌の翻訳 天の香具山	発表 枕詞の英訳
第11回	和歌の翻訳 富士山のイメージ	発表 イメージの極み、その英訳
第12回	和歌の翻訳 万葉仮名等	発表 文字の交流
第13回	和歌の翻訳 山上憶良等	発表 古代文学の国際性
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「おくの細道」「万葉集」などを読むこと。

【テキスト（教科書）】

毎回、教員が提供する。

【参考書】

毎回、教員が提供する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

大変人気がある授業だと分りました。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to introduce the possibilities of Japanese as a language of literary expression through translations of short selections of Japanese literature into English. Following an introductory lecture by the professor, the students will translate a passage, followed by the professor's comments and conclusions, given in Japanese. The course will center on haiku and tanka.

POL200GA

国際関係研究 I (アクターに着目した理論の捉え方)

松本 悟

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：国際関係研究 1

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業ではアクター（行為の主体）に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にNGOや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】

- (1) 授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
- (2) 「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
- (3) 関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義のほか、授業に関連した問いを提示し周囲の学生と小グループで討議する時間を設ける。問いには正解はなく、論理的な思考力の涵養と他者の考えから学ぶ姿勢を習得する。歴史への理解を深めるため映像を使う場合もある。英語の専門的な文献読解を自由課題レポートとして課す。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベラリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベラリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム (アプローチ) であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ4つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	NGOとは何か	NGOの定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としてのNGO	国際社会におけるNGOの役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	NGOは国家を補完しているのか、国家を「脱している」(trans)のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバメンタリティ	国家に操られずにNGOが国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中のNGO活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。
14	まとめ (プライベートレジャー)	「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞を読む習慣をつけ、国際関係に係る記事を毎日読むこと。その際紙媒体で読むようにすること。理論については授業で指示する文献を読むこと。

【テキスト (教科書)】

【レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編、2013、NGOから見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざま—、ミネルヴァ書房。

【参考書】

毛利聡子、2011、NGOから見る国際関係：グローバル市民社会への視座、法律文化社。

最上敏樹、2006、国際機構論第2版、東京大学出版会。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 (毎回のフィードバックシートで評価) 20%、中間レポート 40%、期末レポート 40% (レポートはいずれも知識を問うものではない)。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の議論の時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

- ・長年NGOとして国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づくNGOの現状を交えて講義する。
- ・「国際関係学概論」「平和学」を受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.

ARSF200GA

国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究2

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では東南アジア半島部のメコン河流域国という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を取り上げることで、社会科学と自然科学の融合的な視点を身につけることを目指す。

【到達目標】

- 「地域研究」の視点から国際関係を理解できるようになる。
- 「開発と社会・環境」に係る「国際関係」を分析する際に有用な学問的な理論や概念を理解し説明できる。
- 「地域研究」や東南アジア半島部の「開発と社会・環境」を論じた論文を適切に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

14回のうち約半分は演習形式で行う。事前に短い論文等を課題として出し、それをもとに担当者が論点を挙げグループ討議・発表を行う。授業のどこかで担当教員が関連する短い講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方、論点とは何かを説明する。事前に読む課題文献を提示する。
2	地域を学ぶ意義	メコン地域を概観した上で、国際関係の中で地域を学ぶことの意義について考える。
3	越境環境問題	「メコン地域」内で起きている越境的な問題を捉える分析視角を考える。
4	村から見た国際関係	1つの村の歴史を紐解きながら、ミクロとマクロの視点で国際関係について考える。
5	調査から見た国際関係	メコン地域の開発事業を事例に環境・社会影響評価調査の課題について考える。
6	資金源と国際関係	資源開発が引き起こした人権侵害を例に資金源の「目隠しの効果」を考える。
7	コモンスと財	カンボジアの漁業紛争を財の性質という視点から考える。
8	洪水と水害	ベトナムの洪水を事例に「多過ぎる水」の問題について考える。
9	国境を越える人	メコン地域の越境人身売買について考える。
10	資源の呪い	ビルマを例に、資源が結果的に人々を不幸にする実態について考える。
11	市場の失敗、政府の失敗	資源が枯渇する原因を囚人のジレンマなどの理論を使って考える。
12	国家間債務の機能	対ビルマODAの分析を事例に国家間債務が国際関係に及ぼす機能について考える。
13	メコン河開発の歴史	地域の歴史と重ね合わせて、開発の歴史を紐解くことで地域の視点で国際関係を捉える意義を考える。
14	まとめ	解釈学、承譜学、考古学の視点から授業で扱ったイシューを再度検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前課題文献を読んでくること。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（フィードバックシートで評価）20%、事前課題への理解度20%、事前課題に基づく授業内の発表30%、期末レポート30%。授業内の発表は2-3人1組で行い事前課題の内容の要約ではなくそこから導いた重要だと思う発見と論点を提示する。1人1回担当。事前課題文献は最初の授業で提示する。期末レポートでは国際関係と地域研究について論理的な思考を求める。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの課題が難しいという指摘がある。それによって、東南アジアの国際関係に関心のある学生が履修を躊躇するのは本意ではないので、今年度は事前課題とそれを用いた授業内討論を中心に行うことで理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

事前課題文献があるので、授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

- 事前課題文献についての発表を必ず1回担当するので、第1回の授業には必ず出席すること。
- 「国際関係学概論」「平和学」「国際関係研究1」を受講していることが望ましい。
- メコン河流域国で長年NGO活動していた教員が、その活動経験を事例に組み込みながら講義を行う。

【Outline and objectives】

What is "Area Studies"? How is it related to international studies? This course focuses on "Mekong countries" of the mainland Southeast Asia and covers "development" in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.

ARSk300GA

人の移動と国際関係Ⅰ（華僑・華人社会）

曾 士才

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：移民研究Ⅰ（華僑・華人社会）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人の移動」という観点から 19、20 世紀のアジアの歴史を見ると、中国系移民の動きを筆頭に挙げることができる。中国大陸から移住し、現地に定着した華僑（中国国籍保有者）、華人（現地国籍保有者）を合わせると 2 千万人から 3 千万人といわれており、これら中国系移民が現地社会に与えた影響は計り知れないものがある。この授業では、華僑の移住と定着、ネットワークとアソシエーション、生活・文化などについて基本的知識を得るとともに、「内なる異文化」である日本華僑の歴史と社会の特徴、人々の日常生活、日本社会との関係などを理解し、等身大の日本華僑像を持てるようにする。

【到達目標】

中国系移民に関する基本的な知識を得るとともに、日本における多文化共生について考える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半の授業では、東南アジアを中心に世界に広がる華僑・華人の歩みと現状について概観する。後半の授業では、日本における華僑華人の歴史と社会の特徴を具体的に紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～華僑の誕生	華僑・華人の見方、華僑の歴史
第 2 回	華僑の歴史	東南アジアへの移住と定着
第 3 回	華僑のネットワーク	任意加入団体、Chineseness、信用
第 4 回	シンガポールのチャイナタウン	チャイナタウンの形成と変貌
第 5 回	アメリカ大陸への移住	移住の歴史、ロサンゼルス、ニューヨークの新旧チャイナタウン
第 6 回	華僑から華人へ	エスニシティの変化、華人経済、中国との関係
第 7 回	日本華僑の歴史と社会（1）	江戸時代、長崎、唐人貿易、唐人屋敷、唐通事
第 8 回	日本華僑の歴史と社会（2）	明治から昭和へ、三把刀、中華会館
第 9 回	日本華僑の歴史と社会（3）	二つの大戦、戦後から現在まで、華僑総会、新移民
第 10 回	日本華僑の生活空間	中華街の実像、横浜中華街、神戸南京町
第 11 回	日本華僑の教育	華僑学校の特色、学校を取り巻く環境
第 12 回	日本華僑の信仰と習俗	普度勝会と中国人墓地
第 13 回	日本華僑の文化復興と共生	ランタンフェスティバル、地元との共生
第 14 回	新華僑の台頭	ネットワークと企業活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業は参考書の内容と関連づけて講義をすることになるが、受講者は事前に指示された参考書所収の論文を読み、毎回の授業に向けた準備を行う。

【テキスト（教科書）】

プリント教材

【参考書】

山下清海編『華人社会を知る』明石書店 2005 年
華僑華人の事典編集委員会編『華僑華人の事典』丸善出版 2017 年

【成績評価の方法と基準】

授業支援システムを使ったクイズへの回答（10%）と期末に課すレポート（90%）で成績評価を行う。なお、授業への出席とクイズへの回答は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course deals with the migration and settlement, network and association, custom and lifestyle of overseas Chinese in the world, especially focusing on overseas Chinese in Japan. At the end of the course, participants are expected to obtain basic knowledge about overseas Chinese, and also to be able to evaluate ethnic diversities in Japan.

ARSA400GA

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2018年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させていただきます。まず、法学部なら、第二次世界大戦後の統合をめぐる政治過程に焦点をあてるやり方があります（「EUの政治と社会」）。経済学部なら、同じく第二次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」）。また、生命科学部には、食糧需給の観点から共通農業政策（CAP）を扱う授業があります（「国際食糧需給論」）。グローバル教養学部（GIS）には、ウクライナ危機や難民問題のような現在進行中のトピックから出発し、英語を使用言語として実施されている授業もあります（「European Integration」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、上述のような実学的な切り口はとらず、高校までの世界史の知識を確かめながら、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき教養として、思想史や文化史に焦点をあてつつ、「ヨーロッパとは何か」について認識を深めることにあります。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパやイスラム世界を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンスを含むヒューマニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革後の諸戦争がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥ヨーロッパ各国における絶対主義および啓蒙専制主義のもとの商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業支援システムをつうじた小テスト（全員必須）やレポート（任意）の提出を行う。授業内における積極的発言、運営への協力を「ざぶとん点」として評価対象にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明 ※プリント「地域協力・統合 受講者への注意」を配布
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出

10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀初頭のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争（cf. 映画「最後の谷」）
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ベンラ 17世紀に芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行。主権者としての国民による「連邦主義」の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎週、この授業について90分程度、授業外で学習していただくことを目安とします。

・ほぼ毎週小テストを実施します。これは全員必須で、授業支援システム（インターネット）上で受験します。

・アクティブ・ラーニングに関係して、事前に資料や映像を見てくる宿題が出される場合があります。

【テキスト（教科書）】

遠藤乾編『原典 ヨーロッパ統合史 史料と解説』名古屋大学出版会、2008年。

【参考書】

金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史—人物を通して見たあゆみ』有斐閣、1996年。

ジェラルド・ノワリエル『フランスというつば』法政大学出版局、2015年。
エティエンヌ・バリバル『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』平凡社、2006年。
イワン・クラステフ『アフター・ヨーロッパ』庄司克宏監訳、岩波書店、2018年。

【成績評価の方法と基準】

・小テストの受験【全員必須。ただし多くは授業支援システム上で授業外実施】45%

・学生による発表、運営への協力【希望者のみ】10%

・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】10%

・レポート【希望者のみ】35%

【学生の意見等からの気づき】

高校や大学1年時の学習との橋渡しを意識し、NHKの高校講座世界史を参照するなどしている。

【学生が準備すべき機器他】

・パソコンかスマートフォンが必要。

・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。

・「授業支援システム」>「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることができる。

・連絡はメールをお願いします。メールアドレスは授業支援システムを見て下さい。

【その他の重要事項】

・シラバスを熟読してください。

【Outline and objectives】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. Starting with the geographical notion of Europe as a “continent”, students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity.

ARSI200GA

国際関係研究Ⅲ（地域紛争とエスニシティ）

中島 成久

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：地域紛争とエスニシティ

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【Outline and objectives】

The topic of this class is post colonialism in Indonesia. Territory and Violence are main issues of this class. Nation and Violence which represent the most important phenomenon of Modern Nation-State are discussed through examples from the data of the colonial state as well as the era of development.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「インドネシアのポストコロニアリズムというテーマで講義を行う。オランダ植民地時代にまでさかのぼる領土と暴力の問題を詳細な現地研究を元にした資料から考える。

現代国民国家が普遍的に抱える「国家と暴力」の問題を、植民地時代にまでさかのぼり検討することで、その本質を理解する。

【到達目標】

1966年登場したスハルト政権は「開発独裁」体制と呼ばれるが、その本質を理解するにはオランダ植民地時代だけではなく、日本軍政時代の影響を考慮する必要がある。

オランダ植民地体制の確立に伴う「民族」概念、抵抗、独立革命時代の国民意識の形成、そしてスハルト時代における開発と紛争の関係を理解し、現代国民国家に特有な「暴力」の起源の問題に迫る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。DVD、VHS、Youtubeなどの視聴覚教材を多用する。出席票へのコメントを次の回の授業中に行い、学生の理解を深められるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国家と暴力、成績評価説明、1965年の9月30日事件に関するジョシュア・オッペンハイマー監督のドキュメンタリー映画解説+成績評価説明「アクト・オブ・キリング」②
第2回	国家と暴力	オランダ東インド会社(VOC)
第3回	領土と起源①	オランダ領東インド(蘭印)
第4回	領土と起源②	アチェ戦争
第5回	領土と起源③	インドネシアの国民音楽
第6回	ナショナリズム①	日本軍政から独立へ
第7回	ナショナリズム②	アサハプロジェクト
第8回	開発の時代①	コトパンジャンダム裁判
第9回	開発の時代②	開発と先住民①オラン・リンバの現状
第10回	開発の時代③	開発と「先住民」②アブラヤシ開発
第11回	開発の時代④	違法入植の現状
第12回	開発の時代⑤	エコツーリズムの可能性
第13回	開発の時代⑥	授業内試験
第14回	成績評価	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 授業内で指示した参考文献をよく読むこと
- 2 図書館などで関連文献を調べ、さらに深めること

【テキスト（教科書）】

中島成久 『インドネシアの土地紛争——言挙げする農民たち』創成社新書、2011年

加納啓良（編）『インドネシアの検定』メコン、2010年

映画 ジョシュア・オッペンハイマー監督「アクト・オブ・キリング」

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験(70%) + 平常点(30%)

【学生の意見等からの気づき】

板書を丁寧に行うこと。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

SOS200GA

実践国際協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考える。1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】

- (1) 国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
- (2) 国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
- (3) グループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員による補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1 保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2 少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3 参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース4 緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。
13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	まとめと試験	13回の授業をまとめた上で試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。大学に向かう通学電車でざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。

【テキスト（教科書）】

山口しのぶ・毛利勝彦編『ケースで学ぶ国際開発』東信堂、2011年。
W. エレット『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社、2010年。

【参考書】

授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の参加度（フィードバックシートで評価）20%、グループ討議での積極性（互評）30%、期末試験50%（試験はケースに対する考察と、その結果の応用力を問うものとなる）。

【学生の意見等からの気づき】

遅刻や欠席によって固定したグループでの討議が困難になることがあるので、そうした問題が生じないような工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に授業支援システムを使う。

【その他の重要事項】

- ・国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。
- ・遅刻や欠席はグループワークを困難にし仲間に多大な迷惑をかけるので、第1回の授業には必ず出席し履修するかどうかを慎重に判断すること。

【Outline and objectives】

This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.

SOC300GA

実践社会調査法

松本 悟

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的社会調査の実践と量的社会調査の原則を学ぶことで卒業研究などで活かせるようになることを目指す。なお、量的社会調査については原則を学ぶに留め実践は行わない。

【到達目標】

- (1) 統計的な社会調査データの読み取りができる。
- (2) 質的調査（観察、ドキュメント分析、ライフストーリー調査）を実践できる。
- (3) 研究発表の方法を理解・実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

グループワークを中心とする実習形式の授業。宿題（文献講読、調査）、講義、討議、発表で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと課題	本授業の内容を説明し、人数が多い場合は選抜のための課題に取り組む
2	問いと社会調査	研究や調査の前提である問いについて考える
3	ライフストーリー	ライフストーリー調査について実例をもとに学ぶ
4	ライフストーリー構想1	調査協力者の候補とテーマなどを発表し、その妥当性を議論する。調査協力者とテーマを確定する。
5	観察とドキュメント	調査方法としての観察・ドキュメント分析の目的は何か、具体的なケースを考えながら議論する。
6	半構造化インタビュー	半構造化インタビューの実践練習をする。
7	ライフストーリー構想2	先行研究と予備的聞き取り調査をもとに構想を立てて発表・討議する。
8	量的調査のリテラシー	アンケート調査の問題点を事例を挙げながら講義する。
9	観察結果の発表	宿題として課した観察の結果を発表する。
10	ドキュメント分析結果の発表	宿題として課したドキュメント分析の結果を発表する
11	ライフストーリー初稿	宿題として課したライフストーリー調査の初稿をグループで討議する
12	量的調査のリテラシー（グループA）	宿題として課した量的調査の分析についてAグループのメンバーが個々に発表する
13	量的調査のリテラシー（グループB）	宿題として課した量的調査の分析についてBグループのメンバーが個々に発表する
14	国際文化学部生にとっての社会調査法	授業で学んだことをKJ法を用いて整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義授業としては宿題や課題が多い。しかし、その分まちがいがなく実践的な力が身につく。履修人数によって時間配分はシラバスと異なる可能性がある。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

大谷他、2005、社会調査へのアプローチ—論理と方法、ミネルヴァ書房。
その他適宜授業で提示する。

【成績評価の方法と基準】

「観察」か「ドキュメント分析」が20%、「量的調査のリテラシー」が20%、ライフストーリーが60%

【学生の意見等からの気づき】

国際社会コースを選択する2、3年生の卒業研究の一助とすることを目的とした授業であるが、宿題が多いため躊躇する学生が少なくない。負担の軽減を図る。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。発表の際にはレジュメを人数分用意し事前に配布すること。

【その他の重要事項】

1. この授業は演習形式で行うため、履修者の上限を24人とする。希望者は必ず初回の授業を受けること。初回の授業で上限を超える出席者がいた場合は、その場で選抜のための課題に取り組んでもらい、その結果をもとに履修許可者を決定する。履修許可者は最初の授業から4日以内にWebおよび学部掲示板で学生証番号を発表する。
2. この授業の位置づけは、卒業研究など実際の研究活動に必要な方法論を身につけることにある。
3. 事前に統計の知識がなくても履修に問題はない。
4. 選抜の基準は知識の有無や学力とは関係ない。
5. 課題は比較的多いが、その分学費も大きい。
6. 遅刻は授業の進行の大きな妨げとなるので始業時には教室に入っていること。

【Outline and objectives】

This course contains lecture / practice of qualitative research, and literacy of quantitative research, but not includes practice of quantitative research. It enable students to apply the qualitative research methodologies such as Life-Story Interview, Observation or document analysis, and to use quantitative data for their graduation dissertations in proper manners.

LAW200HA

国際法 I

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原理	国際法概念、近代国際法の特徴
第 3 回	法源 (1)	条約、国際慣習法
第 4 回	法源 (2)	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関 (1)	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関 (2)	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法 (1)	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第 10 回	国際組織法 (2)	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法 (1)	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法 (2)	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域 (1)	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域 (2)	領域権原の取得原因、日本の領域紛争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様のやり方で行います。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society. Students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

LAW200HA

国際法 II

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	海洋法 (1)	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第 3 回	海洋法 (2)	排他的経済水域、公海
第 4 回	海洋法 (3)	大陸棚、深海底
第 5 回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第 6 回	個人の管轄 (1)	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第 7 回	個人の管轄 (2)	国際犯罪、国際刑事裁判所
第 8 回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第 9 回	紛争の平和的解決 (1)	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第 10 回	紛争の平和的解決 (2)	非裁判的手続
第 11 回	紛争の平和的解決 (3)	裁判的手続
第 12 回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第 13 回	国際人道法 (1)	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第 14 回	国際人道法 (2)	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進めます。

【その他の重要事項】

履修者は国際法 I を履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.

LAW300HA

環境法Ⅰ

横内 恵

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法の制度や理論の発展の歴史を踏まえて、環境法の主要分野の現在の法制度やそれをめぐる訴訟の基本的な内容を解説します。

【到達目標】

本講義は、様々な環境問題に対する事前の防止や事後的な解決において法の果たす役割について、理論的かつ総合的に理解することを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメやスライドに沿って、教科書を参照しながら、講義形式で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境法とは何かについて、解説する
第2回	環境法の基本的な考え方	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第3回	環境法の手法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第4回	わが国の環境法の歴史	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第5回	環境基本法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第6回	大気汚染防止法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第7回	水質汚濁防止法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第8回	土壤汚染対策法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第9回	環境アセスメント	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第10回	循環基本法・リサイクル法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第11回	廃棄物処理法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第12回	自然公園法	教科書等を用いて、国立公園の法制度について開設する
第13回	高レベル放射性廃棄物処理	最終処分場の立地選定について解説する
第14回	期末試験	授業のまとめおよび期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業前に教科書の該当範囲を読んできてください。授業後は、レジュメとノートを読み返しなが教科書を熟読してください。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第4版〕』（弘文堂、2017年）。

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

「環境法Ⅲ」に先立って本講義を履修することを推奨します。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in environmental administrative law.

LAW300HA

環境法Ⅱ

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

【到達目標】

環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟を検証します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第2回	不法行為法(1)	意味、成立要件、種類
第3回	不法行為法(2)	損害、請求権者、損害賠償の調整
第4回	不法行為法(3)	時効、共同不法行為
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第6回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第7回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第8回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第9回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第11回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点
第14回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思っています。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture will give you civil liability for environmental damage, which is one of the legal fields for solving this environmental problem facing us.

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students special knowledge and skills within several environmental fields.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境アセスメント、産業廃棄物、高レベル放射性廃棄物、環境リスクの各分野につき、判例も検討対象に含めて、行政法理論との関係で理解を深めます。その際には、関連法令や判決文を実際に参照しながら、基礎的な調査能力を習得することをも目指します。

【到達目標】

本講義は、「環境法Ⅰ」の履修を前提として、個別の環境法制の検討を通して、環境法政策の実務的な課題をとらえるとともに、それをめぐる法的論点の理解を深めることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で、ときに教科書やスライドを利用しながら、授業を進めます。各分野につき設問を用意し、レポート課題や授業中の質疑応答を通して、受講生自ら調べて考えて表現することを求めることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・イントロダクション	本講義を受講するにあたっての注意事項等を説明する
第2回	環境アセスメント（1）	教科書を用いて当該テーマについて解説する
第3回	環境アセスメント（2）	教科書を用いて当該テーマについて解説する
第4回	環境アセスメント（3）	当該テーマに関する訴訟につき、判例を紹介しながら解説する
第5回	環境アセスメント（4）	SEA等、当該テーマの今後の課題について、諸外国と比較しながら解説する
第6回	廃棄物処理法（1）	教科書を用いて廃棄物処理法の概要を解説
第7回	廃棄物処理法（2）	産廃処理施設設置に際する環境アセスメントのあり方について解説する
第8回	廃棄物処理法（3）	産廃処理施設設置に際する地方自治体の事前協議と住民参加のあり方について解説する
第9回	高レベル放射性廃棄物（1）	高レベル放射性廃棄物処理について解説する
第10回	高レベル放射性廃棄物（2）	高レベル放射性廃棄物最終処分場の立地選定手続について解説する
第11回	高レベル放射性廃棄物（3）	高レベル放射性廃棄物最終処分場の立地選定手続についてドイツの手続と比較しながら課題を検討する
第12回	環境リスク制御法制（1）	環境リスク制御の法理論的問題について解説する
第13回	環境リスク制御法制（2）	環境リスク制御のあり方について、具体的な制度を題材として開設する
第14回	期末試験	授業のまとめおよび期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。準備学習については、講義中に指示します。授業後に、レジュメやノートをしっかりと読んで復習してください。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第4版〕』（弘文堂、2017年）。

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は、「環境法Ⅰ」履修済みの人を主な対象としています。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

LAW200HA

国際環境法

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。
法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ
第8回	国際環境法の性質 (3)	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第9回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第10回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第11回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第12回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第13回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第14回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
教科書の該当部分を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005年。
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.

ARSa400GA

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2018年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させていただきます。まず、法学部なら、第二次世界大戦後の統合をめぐる政治過程に焦点をあてるやり方があります（「EUの政治と社会」）。経済学部なら、同じく第二次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」）。また、生命科学部には、食糧需給の観点から共通農業政策（CAP）を扱う授業があります（「国際食糧需給論」）。グローバル教養学部（GIS）には、ウクライナ危機や難民問題のような現在進行中のトピックから出発し、英語を使用言語として実施されている授業もあります（「European Integration」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、上述のような実学的な切り口はとらず、高校までの世界史の知識を確かめながら、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき教養として、思想史や文化史に焦点をあてつつ、「ヨーロッパとは何か」について認識を深めることにあります。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパやイスラーム世界を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンスを含むヒューマニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革後の諸戦争がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥ヨーロッパ各国における絶対主義および啓蒙専制主義のもとでの商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業支援システムをつうじた小テスト（全員必須）やレポート（任意）の提出を行う。授業内における積極的発言、運営への協力を「ざぶとん点」として評価対象にしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明 ※プリント「地域協力・統合 受講者への注意」を配布
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世の秩序の形成

11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀初頭のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、チューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争（cf. 映画『最後の谷』）
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ペンラ 17世紀に芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行。主権者としての国民による「連邦主義」の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎週、この授業について 90 分程度、授業外で学習していただくことを目安とします。
- ・ほぼ毎週小テストを実施します。これは全員必須で、授業支援システム（インターネット）上で受験します。
- ・アクティブ・ラーニングに関係して、事前に資料や映像を見てくる宿題が出される場合があります。

【テキスト（教科書）】

遠藤乾編『原典 ヨーロッパ統合史 史料と解説』名古屋大学出版会、2008年。

【参考書】

- 金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史—人物を通して見たあゆみ』有斐閣、1996年。
- ジュラルール・ノワリエル『フランスというつば』法政大学出版局、2015年。
- エティエンヌ・バリバル『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』平凡社、2006年。
- イワン・クラステフ『アフター・ヨーロッパ』庄司克宏監訳、岩波書店、2018年。

【成績評価の方法と基準】

小テストの受験【**全員必須**。ただし多くは授業支援システム上で授業外実施】45%

- ・学生による発表、運営への協力【**希望者のみ**】10%
- ・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】10%
- ・レポート【**希望者のみ**】35%

【学生の意見等からの気づき】

高校や大学1年時の学習との橋渡しを意識し、NHKの高校講座世界史を参照するなどしている。

【学生が準備すべき機器他】

- ・パソコンかスマートフォンが必要。
- ・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。
- ・「授業支援システム」>「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることが出来る。
- ・連絡はメールでお願いします。メールアドレスは授業支援システムを見て下さい。

【その他の重要事項】

・シラバスを熟読してください。

【Outline and objectives】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. Starting with the geographical notion of Europe as a “continent”, students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity.

ECN300HA

途上国経済論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

【到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第2回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第3回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第4回	途上国社会・経済の概況(1)：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第5回	途上国社会・経済の概況(2)：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況(3)：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第7回	途上国社会・経済の概況(4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済(1)：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚しい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第9回	主要国／地域の社会と経済(2)：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚しい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。

- 第10回 主要国／地域の社会と経済(3)：香港およびシンガポール-小さな街の大きな経済
- 第11回 主要国／地域の社会と経済(4)：インドネシア-多様性の中の権威主義的開発体制
- 第12回 主要国／地域の社会と経済(5)：マレーシア-カリスマと経済成長
- 第13回 民主主義と経済成長
- 第14回 経済成長、進歩、貧困

アジア NIES の一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国(都市)の経済成長について考える

アセアン (Association of South East Asian Nations) の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長(経済発展)の関係について考える。

強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。

アジアの価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の撲滅を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困を撲滅できるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前/事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

【テキスト(教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

【参考書】

グラボウスキー他(2008年)『経済発展の政治経済学』(日本評論社)
渡辺利夫編(2007年)『アジア経済読本(第4版)』(東洋経済新報社)

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。リアクションペーパーについては、加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

過去数年休講であった。2015年度以前は学生からの意見に基づき講義内容にメリハリをつけることに留意していた。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののヤスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き(P100.「7コース制」)を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings.

PHL300HA

環境哲学基礎論

吉永 明弘

配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論を学ぶとともに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけれられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	なぜ環境を哲学するのか	「環境とは何か」となぜ問う必要があるのかを説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュルの環境論、市川浩の身体論、
3	人間主義地理学	ボルノウの空間論を紹介する トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論:和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論:ベルク	オギュスタン・ベルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二、桑子敏雄、亀山純生の議論を紹介する
7	都市論:ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する。
8	清溪川復元と美の条例	ソウル市の清溪川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
9	アメニティマップ概論	アメニティマップの作り方を説明し、過去のマップを紹介する
10	アメニティマップ製作	実際にアメニティマップをつくってみる
11	アメニティまとめ	作成したアメニティマップを用いて議論する
12	対話型講義	アメニティマップの有効な使い方について議論する
13	環境と観光	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
14	ローカルからグローバルへ	「地域環境保全」から「地球環境保全」への道筋をさぐる

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

【テキスト(教科書)】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

【参考書】

吉永明弘『フックカイト 環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

【成績評価の方法と基準】

試験(50%)、マップ製作(20%)、レポート(30%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き(P100.「7コース制」)を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You find answering the question "What is a good environmental?"

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論 I

辻 英史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパ各国の都市における生活世界と周囲の自然環境の変化を、空間利用、食糧供給、保養、衛生など、さまざまな角度から考察する。これにより、ヨーロッパの地理的歴史的な条件のなかでの人々の生活の展開や意識の成り立ちをさぐるとともに、人間社会と環境の共生がいかに達成されてきたのかを理解する。

【到達目標】

ヨーロッパの都市の歴史的発展を、そこに暮らす人々の生活世界がどのように時代によって変化してきたか、また人間と自然環境との関係はどのように変化してきたかを考察することで、ヨーロッパだけでなく日本を含む世界の他地域の都市社会の歴史や文化的独自性について考察を広げる視座を提供する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパの都市を対象として、都市の景観および都市内部での住民の生活世界、それを取り巻く自然環境との関係について、各地域で特徴のある事象をいくつか取りあげて解説していく。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品を取りあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：ヨーロッパ都市の環境史について	環境という観点からヨーロッパ都市の歴史を考える際に重要な概念・方法論を紹介する。
第 2 回	古代都市から中世都市へ	古代都市から中世都市への変化と、中世都市独特の景観について。
第 3 回	近世絶対主義のもとでの都市の造形	近世になると強大な権力を手にした君主は、都市空間の造形に取り組んだ。それが都市の生活にもたらした影響を分析する。
第 4 回	近代都市の出現と都市計画	近代都市の特徴と、各国でおこなわれた国家権力の主導する大規模な都市改造／拡大の事業について
第 5 回	都市の拡大と交通	道路、鉄道、河川交通など、都市の内部および都市と近郊を結ぶ交通の発展と都市の人口規模の増大
第 6 回	都市と食料供給	人口が密集する都市に食糧を供給するという問題はいかにして対処されたのか。ヨーロッパの食の歴史の中に位置づける。
第 7 回	都市における水と衛生問題	上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水との関わりと、衛生と清潔さの歴史。
第 8 回	都市と自然・災害	都市の外部に広がる自然のとらえ方は近世から近代にかけてどのように変化したか。災害への見方を例に考える。
第 9 回	都市と緑	都市内の公園・緑地の役割の変化を追う。住民の保養・休養から、教養と学習、政治活動の場まで。
第 10 回	20 世紀の都市問題	20 世紀前半から後半にかけて、都市社会の機能変化と、景観および生活空間の変化を関連づける。
第 11 回	田園都市と郊外の開発	20 世紀初頭から各国で都市郊外でのニュータウン建設の試みが始まった。その課題と問題点をあきらかにする。
第 12 回	20 世紀後半の都市改造	第二次世界大戦後の都市では、戦災からの復興や自動車化と消費社会化などの新しい傾向への対応として、どのような対策がおこなわれたのか。
第 13 回	現代における都市の再生	1980 年代ごろから、都市内部および郊外ニュータウンの衰退が問題となってきた。これに対する再生の試みを紹介する。
第 14 回	まとめ：日本とヨーロッパの都市社会と環境	ヨーロッパの都市社会の発展の過程と日本のそれとを比較検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（100 %）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるので、見やすい位置を選んで着席すること。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論 I）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

History of daily life and environment in European cities from the middle ages to the 20th century

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

辻 英史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「弱者」の包摂と排除の社会史

【到達目標】

社会のなかには、さまざまな人たちの「弱者」がいる。病気・貧困・高齢・障害・失業などの理由により、通常の生活を送ることができず、時には自力で生計を維持できなくなった人々である。社会的「弱者」は、往々にして社会の周縁に追いやられ、差別や迫害を受ける場合もある。しかし、同時に彼らに保護し救助の手をさしのべることは、時代と地域を問わず、つねに社会の大きな関心事であった。「弱者」とはどのような人たちで、なぜ排除されるのか、また誰がどのような手段で彼らを救助するのか、そのあり方は、それぞれの社会状況を反映して、時代とともに大きく変化してきた。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、ヨーロッパ社会において、こうした「弱者」の社会からの排除と、その救助を通じた包摂が、どのようにおこなわれてきたのか、中世のキリスト教会による慈善活動から現代の社会福祉制度にいたるまで検証してみたい。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれのトピックに関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入 「弱者」の社会史について。	いま、社会的な「弱者」を問題にすることの意義について。
第2回	キリスト教精神と道徳	キリスト教道徳が、慈善というかたちでいかに社会のなかでセイフティーネットの役割を果たしていたか。
第3回	中世における排除のあり方	乞食、ジプシー、「ライ病患者」、ユダヤ人など中世社会から排除された人々の姿を紹介する。
第4回	中近世の包摂の制度	救貧法や貧民救済制度を例に、救助と一体となった規律化の試みについて考える。
第5回	産業革命による社会の変化	18-19世紀の工業化は社会の秩序を揺るがし、それまでの排除と包摂のあり方を一変させた。
第6回	弱者の団結	新たに出現した工業労働者たちは、その弱い立場のゆえに団結し、やがてマルクス主義の影響下に自らを組織化していく。
第7回	近代市民社会と包摂の制度	都市内の弱者の包摂に、市民社会はどのような制度を持って取り組んだか。
第8回	社会福祉制度の始まりと発展	19世紀後半から国民国家の強化を背景に国家が主導して国民の生活を保障する制度が構築されていく。
第9回	総力戦と福祉国家	第1次世界大戦、世界大恐慌、第2次世界大戦とつづく非常事態は、各国の社会福祉制度の発展にどのような影響を与えたか。
第10回	福祉国家と黄金時代	1950年代後半から1960年代の高度経済成長下で、ヨーロッパ各国の社会福祉制度はその最盛期を迎える。
第11回	社会主義という可能性	ソ連など社会主義経済のもとでの社会保障のあり方を考える。
第12回	福祉国家の動揺と再編	1970年代以来、景気の停滞を受けて各国は産業構造の変化への対応と貧困の克服のための新しい取り組みを開始した。
第13回	新自由主義と「新しい中道」	1990年代半ばから2000年代に架けて試みられた社会民主主義の新展開を分析する。
第14回	多文化社会における排除と包摂	複雑な社会問題を生じさせている外国人移民とホスト社会の葛藤について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

【テキスト（教科書）】

レジュメを配布する。

【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100, 「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

History of social work and social welfare in Europe from the middle ages to the contemporary period

ENV300HA

環境科学 I

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学 I では比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学 II では地球規模や国境を超える問題について、環境科学 III では資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。I、II、IIIのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染（ばいじん、硫酸酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
- ・土壌汚染（原因、対策技術）
- ・廃棄物（法律上の定義と現状）
- ・リサイクル（意義と現状）
- ・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染・その 1（第 1 章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第 3 回	大気汚染・その 2（第 1 章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道（第 2 章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽（第 2 章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁（第 3 章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染（第 3 章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭（第 4 章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音（第 4 章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第 10 回	廃棄物・その 1（第 5 章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第 11 回	廃棄物・その 2（第 5 章）	産業廃棄物
第 12 回	リサイクル（第 5 章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第 13 回	有害物質とリスク、基準の決め方（第 6 章）	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？ 人間環境論集，第 16 巻，第 1 号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します（100%）。毎回、リアクションペーパーを記述して提出してもらいますが、評価とは関係しません。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7 コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきた。その当時の経験等を踏まえて講義を進める。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basic engineering knowledge regarding mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances.

ENV300HA

環境科学Ⅱ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・中国の資源と環境
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第6回	気候変動・その3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境汚染（第9章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント、プラスチックごみ
第10回	中国の環境と資源・その1（第11章）	人口、食料と水資源
第11回	中国の環境と資源・その2（第11章）	エネルギー、公害、政策
第12回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第13回	環境国際協力	事例研究
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します（100%）。毎回、リアクションペーパー記述・提出してもらいますが、評価には関係しません。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきた。その当時の経験等を踏まえて講義を進める。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource and environmental problems in China.

ENV300HA

環境科学Ⅲ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

【Outline and objectives】

Students will acquire basic knowledge about the meaning of resources, the scientific nature of resources and the prospect of utilization. Major items include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・ベースメタルとレアアース

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントとレジュメを用いて講義を行います。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第9回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第12回	遺伝資源	食料、医薬品
第13回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

毎回配布するレジュメを使って復習してください。

【テキスト（教科書）】

特ありません。

【参考書】

藤倉良(2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】

期末試験のみで評価します（100%）。講義時間中に質問事項などを記述・提出してもらうことがありますが、評価には関係しません。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】

特ありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100、「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に加わった。その経験等を踏まえて講義を進める。

ENV300HA

公害防止管理論 I

大岡 健三

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では水質汚濁防止のための基本的な手法を学ぶ。湖沼、河川、海などの地表水や地下水に関するさまざまな環境問題についても学び、メインの排水処理技術に加えて、環境法の知識も得る。企業経営や環境行政、国際活動などで環境の知識は不可欠であるが、社会で役立つ実務知識を本講座で習得することができる。公害防止管理者の国家資格を取得するのに役立つ基礎知識の解説もするが、国家試験を受験しない学生も興味深く学ぶことができる授業内容とする。講座終了時までに、工場排水を化学的および生物的に浄化するための主要スキルを習得し、企業や行政の環境担当（公害防止管理者など）によって使用される BOD / COD など技術用語や環境管理の概念を理解する。

【到達目標】

マスコミ報道でよく耳にする環境キーワードが十分理解でき、環境系学部卒にふさわしい水環境の原理原則をマスターする。環境汚染の実態および物理化学処理などの浄化処理技術を基礎から習得する。汚れた廃水が無色透明に浄化できるプロセスなど水質管理技術の理解に加え、米国の環境科学の知見や汚染事故、海外情報なども学び、国際レベルで環境問題を思考できるレベルを目指す。実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルの理解を深める。さらに、公害防止管理者国家試験の問題を解く訓練も時々行い、授業終了段階では環境の専門用語や基本概念を問う基本レベルの問題が解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回教材を配布してパワーポイントで説明する。必要に応じて映像を利用。各論では、講師が国内外で取材した産業公害や有名企業の汚水処理の実際、有害物質規制の概要、汚染メカニズム等を解説する。水質浄化技術の基礎を学ぶことによって水に関する環境保全手法を習得する。1回の授業でなるべく完結させるので、欠席しても次回授業がスムーズに理解できるようにする。難解かつ苦手なテーマは何度も説明して理解できるようにする。毎回学生のコメントや要望などを聞いて次回講義に反映する。なお成績評価は、授業内に行う簡単な小テストと平常点で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講座全体の概要 地球温暖化と水環境、廃棄物問題、ベトナム、マレーシア、ネパール、ブルネイ及び米国・欧州の環境事情など	当講座の概要と授業方法について説明。国内外取材の映像などを見て、環境汚染、浄化対策及び公害防止の側面から評価分析する。
第 2 回	環境基本法と法体系、水質環境基準	環境基本法の概要を中心に関連法の体系、水質環境基準について解説する。公害防止者管理法等の各論についても触れる。
第 3 回	水質汚濁防止法と排水基準	水質汚濁防止法に関する概説と排水基準など企業が実際に遵守すべき法令の具体的解説。
第 4 回	日本の水質汚濁の現状と原因 主因は工場排水ではない	水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を中心に研究。
第 5 回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染とは何か？	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水汚染の発生メカニズムを理解する。
第 6 回	物理化学的処理法 1 凝集沈殿	汚水処理計画及び工場排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法をわかりやすく解説。
第 7 回	物理化学的処理法 2 浮上分離、ろ過など	工場排水を浄化するための傾斜版、浮上分離、ろ過などの原理を学ぶ。マイクロバブル手法など最新技術にも触れる。
第 8 回	化学的処理法、酸化還元、膜分離の基礎	化学処理法を学ぶ。pH 調整、酸化還元の原理、膜分離などの基本知識及び逆浸透 RO 等最新技術も解説。
第 9 回	生物処理法 1 概要と基礎	排水を浄化するためのエアレーション、好気性微生物を利用する生物処理法の基礎を学ぶ。
第 10 回	生物処理法 2、好気嫌気処理及び汚泥の脱水技術	好気性微生物と嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説。各種処理法によって生じる余剰汚泥の脱水技術も学ぶ。

第 11 回	高度処理法、活性炭処理等	排水を浄化するための活性炭利用など高度な処理法および最新技術を応用した処理法について学ぶ。
第 12 回	処理装置の維持管理	物理化学的処理の維持管理。活性汚泥処理の維持管理など実務面の知識。
第 13 回	水質管理のパラメータと水質測定の基礎	BOD/COD,pH,DO 溶存酸素などの知識の整理。試料採取など水質測定の基礎。水質汚濁物質などの復習とまとめ。
第 14 回	環境法令など授業の復習と最終テスト	授業の要点復習および最終テスト実施（問題は簡単な選択問題）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

Web 公開されている公害防止管理者等国家試験の過去問を授業中に時々使用することがある。国家試験受験希望者は市販の書籍（産業環境管理協会など）またはインターネット検索により自主的に予習復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布

【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」

発行所 (一社) 産業環境管理協会

「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」

発行所 (一社) 産業環境管理協会

「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」

発行所 (一社) 産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

授業内で小テストを行い、平常点と合わせて総合点で判定する。配分は小テストが 80%、平常点 20%。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の質問や意見を適宜提供してもらい可能な限り次回授業に反映させる。物理化学の基礎知識がない受講者も十分理解できるように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回パワーポイントによる映像を利用

【その他の重要事項】

物理や化学などの専門教育を受けていない文系学生を対象に授業をする。過去に経済・経営など他学部の学生も多く受講している。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The course is designed to help you learn and understand the basic methods for water pollution control. You will also learn various environmental issues on surface water such as lakes, streams, and ocean as well as groundwater. In addition to wastewater treatment techniques (main subjects), lectures on environmental laws and regulations will be provided in this course.

You can learn practical environmental knowledge required for corporate management, environmental administration, international activities, etc. The class will also provide introductory-level knowledge useful for acquiring National qualifications of Pollution Control Manager. By the end of the course students will learn the principal skills to clean up the wastewater chemically and biologically. Also you will understand a number of technical terms and concepts including BOD/COD, that are used by pollution control managers etc.

ENV300HA

公害防止管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の健康や生活環境保全のためには、企業の公害防止管理が必要不可欠である。また、近年は地球温暖化防止の観点より、工場の生産活動に伴い排出される二酸化炭素等の温暖化物質を削減することも企業の重要な責務となっている。

我が国は1960年代の高度経済成長期に深刻な公害問題を抱え、また1970年代に二度のオイルショックを経験したことにより、汚染物質排出抑制技術や省エネ技術は国際的に高い技術を有している。本講座では、近年の大気環境状況や問題と課題、排ガス中の汚染物質の除去方法、省エネ技術、測定方法などの技術的事項を中心に学ぶ。

【到達目標】

大気環境状況や問題と課題、排ガス中の汚染物質の除去方法、省エネ技術、測定方法などの技術的事項の概要を学び、企業における環境管理の重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は大気汚染メカニズム、大気汚染防止法等の環境法規などの環境保全の知識を学び、後半は燃焼管理方法、排ガス処理技術、測定法等の排ガス管理・処理技術を学ぶ。温暖化問題や排ガス処理技術等について課題レポートを提出し、グループディスカッションで問題定義や課題解決の方法を学ぶ。定期試験ではなく、授業内を行う1回の試験と平常点で成績評価を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と現状	日本の公害問題の歴史と近年の大気環境問題について。
第2回	大気関係の法律	環境基本法や大気汚染防止法、管理者法について概要を学ぶ。
第3回	グループワーク① 課題 気候変動の緩和と適応	グローバルな課題である気候変動に対する企業が行える取り組みについて考える。
第4回	大気汚染のメカニズム、地球環境問題	大気汚染の発生メカニズムと地球環境問題の概要・大気汚染物質とその発生源、発生のプロセスについて。
第5回	燃焼管理技術	効率的な燃焼管理方法について。燃料の種類、燃焼装置、空気比の管理、燃焼管理のための各種測定技術。
第6回	硫酸酸化物の処理技術	排ガス中の硫酸酸化物の排出低減及び処理技術について。
第7回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物の排出低減方法及び処理技術について。
第8回	グループワーク② 課題 新規の排ガス処理方法	活性炭吸着処理による硫酸酸化物、窒素酸化物等の処理方法について調べ、発表する。
第9回	ばい塵の除去技術（Ⅰ）	ダストの処理計画、排出ガスに含まれる粒子（すす）の性質（粒径分布等）。
第10回	ばい塵の除去技術（Ⅱ）	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除く技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除く技術。
第11回	有害物質の除去技術	カドミウムや鉛、塩化水素等の有害物質の除去方法について。
第12回	排ガス中汚染物質の測定方法（Ⅰ）	ばい塵の測定方法
第13回	排ガス中汚染物質の測定方法（Ⅱ）	硫酸酸化物、窒素酸化物の測定方法、自動計測方法
第14回	グループワーク③ 企業の環境管理	企業の環境管理において何が重要であるか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
新・公害防止の技術と法規 大気編の関連箇所を事前に読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回の授業に補助資料を配付する。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規 大気編
発行所 （社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）・レポート課題（30%）・平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果が出ていないので、記述できない。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Pollution control in industrial factories is essential for prevention environment and human health. Companies should have social responsibility to commit to reduce greenhouse gases in their business activities.

Severe pollution issues occurred in 1960s in Japan in exchange for economic growth. In 1970s, we had oil shocks which is supply stringency of crude oil two times. Since we experienced these hard issues, environmental prevention technologies and reduce using energy were accumulated in factories in Japan.

In this class, you learn a recent air quality issues, treatment methods of emission, ways of reduction using energy and measurement methods of pollutants.

SEE300HA

環境教育論

野田 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育)について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的な実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なのか、自分自身の考えを深めていきましょう。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。また、環境教育実践へつながる関心や意欲をはぐくみ、自分なりにプログラムや教材を考える視点や基礎を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。授業では対話型および参加型の手法を用いる。毎回のテーマに即した資料を読み自主学習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と自分の環境教育の経験を振り返る。
第2回	環境教育の歴史（1）	環境教育の歴史や重要な点を概説する。
第3回	環境教育の歴史（2）	1990年代の日本の環境教育について映像資料とともに解説する。
第4回	環境教育の歴史（3）	2000年以降の環境教育およびESDについて講義する。
第5回	環境教育を体験する（1）	日本の環境教育のひとつである自然体験学習について学ぶ。
第6回	環境教育を体験する（2） （ワークショップのため教室変更予定）	環境教育の一つである公害教育の教材を体験する（教室変更）
第7回	公害教育	公害から学ぶとともに、日本の公害教育のルーツのひとつである公害教育について学ぶ。沼津三島の住民運動について触れる。
第8回	自然と関わる環境教育（1）	自然保護教育や自然学校など自然と関わる環境教育について解説する。
第9回	自然と関わる環境教育（2）	持続可能な地域づくりに貢献する自然系環境教育の実践について紹介する。
第10回	中間まとめ（ワークショップのため教室変更予定）	これまでの講義を振り返り、これまでに学んだことは何か、自分なりの考えをまとめる。また受講者同士のディスカッションを通じて考えを深める。
第11回	環境教育プログラムを考えてみよう	社会教育施設や学校における環境教育について学ぶとともに、環境教育プログラムを作成する。
第12回	これからの環境教育：SDG sと環境教育	環境教育・ESDとSDG sについて学ぶ。12回は特にSDG sについて解説し、参加型教材を用いて関心や考えを深める。
第13回	これからの環境教育：環境教育の可能性と課題	環境教育の可能性及び課題について解説する。
第14回	筆記試験	成績評価に関わる試験となります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに紹介する。参考資料を授業支援システムを通じて配布する。

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編
『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版
『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協

【成績評価の方法と基準】

期末試験 90%、授業内に指示された課題および授業への参加態度など平常点 10%

最終日に筆記試験を行います（授業内配布資料およびノートの持ち込み可）
筆記試験において、環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法についての説明を求め理解度を評価対象とします。また、持続可能な社会とは何かの説明とその社会を実現するために教育にはどのような役割や可能性があるのか、現状における課題は何かを説明します。

課題の例

- 1) 環境教育・ESDの事例を調べる（環境教育、ESDの事例を調べ授業で示した観点に沿って事例を評価、Web提出。1600文字程度）
- 2) 中間まとめの準備 そのほか

【学生の意見等からの気づき】

昨年度からの変更点▶基礎的な事項を理解しているのかを評価の対象とするため、筆記試験を行い、成績評価にすることにしました。

【学生が準備すべき機器他】

太い文字が書けるサインペン（黒以外でも可。黄色や蛍光色など見えにくい色は不可）を常備してください。初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。

【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。6回目と10回目は教室を変更して授業を行う予定です。詳細は、授業内でアナウンスをしますので留意してください。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this course, you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

HSS211LB

スポーツビジネス論 I

岩村 聡

配当年次／単位：3～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand basic theory etc in the sports business which has been developed together with sports marketing original theory.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1980年代からスポーツビジネスは急速に発展した。今日のスポーツビジネスを動向を探るためにはスポーツマーケティングを理解しなければならない。本授業ではマーケティングの基礎理論をふまえ、スポーツマーケティング独自の理論と合わせ発展してきたスポーツビジネスにおいてその基礎理論等を理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義は、(1) マーケティングとスポーツマーケティングの関係、(2) 消費者行動論からみたスポーツ消費の特性、などを理解し、は、マーケティングの基礎的な理論をベースに、スポーツビジネス戦略を理解することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツビジネスでの成功や失敗の実際事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ（放送や、権利など）について、特に重点的な講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	スポーツビジネスの使命	スポーツビジネスの使命とは
第2回	スポーツの価値	なぜスポーツが注目されるか
第3回	スポーツマーケティングの特性	スポーツマーケティングの誕生、スポーツマーケティングの定義、等
第4回	スポーツ市場の理解	スポーツ産業の特性、スポーツ市場の構造と規模
第5回	マーケティングの基礎	スポーツマーケティングにおけるプロダクト論
第6回	スポーツビジネスにおける価格政策論	価格形成のメカニズム、値頃感と消費者心理
第7回	スポーツビジネスにおけるプロモーション論	コミュニケーションの原理、スポーツ組織のプロモーションミックス
第8回	スポーツ消費者の理解	スポーツ消費者の特性、スポーツ消費者の意思決定過程
第9回	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの分類、スポーツ参加における心理的要因
第10回	観戦型スポーツの消費者	観戦型スポーツの分類、心理的連続モデル、スポーツ観戦動機、等
第11回	スポーツマーケティングにおけるSTP座	セグメンテーションの基礎、標的市場の設定と評価
第12回	スポーツマーケティングとマーケットリサーチ	マーケットリサーチの手順、調査の実施・分析・報告
第13回	スポーツ・スポンサーシップ	マーケティングの問題意識とスポーツの接点
第14回	スポーツ・ブランドのマーケティング	ブランドとブランディング、アスリート・ブランディング、等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講期間中はスポーツビジネスに関するニュースなどを读んだりし積極的に情報収集すること

【テキスト（教科書）】

仲澤真・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【参考書】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 30%、小テスト 30%、学期末の課題 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年と同様に静粛な授業環境を保つよう努めます。

HSS212LB

スポーツビジネス論Ⅱ

岩村 聡

配当年次／単位：3～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるか、を学ぶ。授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論Ⅰ」の履修者が望ましい（条件ではありません）。

【到達目標】

スポーツビジネスの諸問題について理解を深めること
スポーツビジネスの諸問題について解決策を提案できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークを中心に進めます。グループワークではそれぞれの役割がありますので、必ず毎回出席をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方などの説明
第2回	グループワークⅠ①	課題Ⅰの説明、グループ分け、情報収集
第3回	グループワークⅠ②	情報収集、ディスカッション
第4回	グループワークⅠ③	ディスカッション、発表準備
第5回	プレゼンテーションⅠ	グループごとに発表をおこなう
第6回	グループワークⅡ①	課題の説明Ⅱ、グループ分け、情報収集
第7回	グループワークⅡ②	情報収集、ディスカッション
第8回	グループワークⅡ③	ディスカッション、発表準備
第9回	プレゼンテーションⅡ	グループごとに発表をおこなう
第10回	グループワークⅢ①	課題の説明Ⅲ、グループ分け、情報検索
第11回	グループワークⅢ②	情報収集、ディスカッション
第12回	グループワークⅢ③	ディスカッション、発表準備
第13回	プレゼンテーションⅢ	グループごとに発表をおこなう
第14回	まとめ	本授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間以外にもグループメンバーで集まって、情報収集、ディスカッション、発表準備を進めてもらいます。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配布します。

【参考書】

仲澤真・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」ミネルヴァ書房
仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 20%、グループワークの参加状況 20%、学期末の課題 20%、プレゼンテーション 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが好評でした。今年度も活発な活動ができるよう努めます。

【その他の重要事項】

本講義はグループワークを行うため、スポーツビジネス論Ⅰを受講していない場合は、知識を補うための補講をする場合があります。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to deepen understanding through information gathering, discussion and presentation on set issues on various problems of modern sports business

CAR100MA

職業選択論Ⅰ

基幹科目

上西 充子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では働くこと・職に就くことを、アルバイト、就職活動、初期キャリアにわたって考えます。
なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか。企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのか。アルバイトの劣悪な処遇や、正社員の長時間労働が、なぜ起きてしまうのか、どう対処できるのか。そういった問題を考えていくことを通して、若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から理解し検討できるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

個人のキャリアの上でも大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意義と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを授業内外で書きます。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックし、多面的なものの見方を促すと共に理解を深めます。中間と期末、2回のレポート課題を出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス/各自の問題意識の論述	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介/各自の問題意識の論述
2	職業選択、就職と初期キャリア	就職と初期キャリアをめぐる各自の問題意識の共有
3	インターンシップを考える	インターンシップの目的・現状・課題
4	キャリア教育再考	キャリア教育における「やりたいこと」「夢」「目標」の位置づけと課題
5	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力の関係
6	アルバイトから働き方を考える	アルバイト就労の現状、アルバイトと労働法
7	職場の問題への向き合い	アルバイト職場の改善に向けて/労働組合とは
8	大卒労働市場の現状	卒業生の進路状況/新規採用と中途採用の違い/早期離職
9	ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	ジョブ型とメンバーシップ型、それぞれの特徴と課題
10	メンバーシップ型雇用とキャリア、生活	長時間労働、育児休業、転勤
11	若者「使い捨て」企業と「まともな働き方」	問題のある働き方とその改善に向けて
12	就職活動と労働条件	就職プロセスと就職支援会社の役割、労働条件への着目の必要性
13	就職活動における客観情報の活用	「就職四季報」の活用、職場実態情報の活用
14	内定・就職をめぐるトラブル	内定・就職をめぐるトラブルと関係法令、対処法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに掲載する各回のレジュメに事前に目を通してから授業に参加する。

授業の話題に関連した新聞記事などを日ごろから読み、最近の動向を知り、検討する。

課題レポート執筆に向けて、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行う。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時にレジュメを準備します。レジュメは事前に授業支援システムに掲載します。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。
・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/

・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就職トラブル Q & A』旬報社
 ・東洋経済新報社編『就職四半報 総合版』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で6回実施するミニ・レポート（配点40点）と中間レポート（配点20点）、期末レポート（配点40点）により評価します。なお、ミニ・レポートの提出が0～2回の学生や、ミニ・レポートまたは課題レポートの代筆・盗用が判明した学生には、単位を付与しません。詳しくは初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直すきっかけとなった、といった感想がみられます。今後もタイムリーな話題をとりあげていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメは授業支援システムに事前に掲載します。各自、プリントアウトの上、持参してください。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行いますので、必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide a basic understanding of the School-to-Work transition. Main topics are characteristics of Japanese School-to-Work transition, career decision, labor problems and labor laws.

HIS200MA

学習の社会史 A

展開科目

山口 真里

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもはいつの時代も存在するが、子どもへのまなざしや把握の仕方は、時代や社会により異なる。同じように、子どもにどのような学びが促され、それをどこでどう行うかも多様であり、例えば、西洋や日本において学校がその中心を担うようになるのは、近代になってからのことである。この授業では、西洋教育史をベースに、どのようなまなざしが子どもに向けられ、学びがどう遂行されてきたのか、また、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し、発展してきたかを検討する。そして、それらの歴史と私たちの社会で常態化している子ども観や教育、およびそれらが抱える問題との関わりへ考察をすすめる、各自がその意味を相対化し、未来を構想する視点を育てることを目指す。

【到達目標】

西洋における子ども観や学びのありかたの変化を、その背景にある歴史事象と共に説明できる。

授業で学んだことと関連付けて、現在の教育問題を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・指定教科書は使わないが、適宜提示する関連文献と配布資料をもとに講義する。

・必要に応じてグループディスカッション等も行う。

・テーマの終わりにはワークシートで知識の定着をはかる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第2回	近代以前の子育てと徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第3回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第4回	近代における子どもの発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざしの変化
第5回	近代教育思想の形成	コメニウス、ロックの教育思想 ルソー『エミール』の子ども観
第6回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第7回	家庭、主婦の誕生と子どもの教育	家庭における女性の位置づけ 女子の教育
第8回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第9回	近代学校の成立と子どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第10回	民衆学校の進展と義務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立
第11回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救済事業 権利主体としての子どもと「子どもの権利条約」
第12回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第13回	現代の子どもの学びと諸問題	多様化する家族と学校の抱える諸問題 子どもをとりまく諸問題と子ども観の変容
第14回	振り返りとまとめ、試験	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中で紹介する参考文献や配布プリントを読み、理解を深める。必要に応じて、ワークシートを宿題とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、適宜提示する。

【参考書】

特に指定しないが、適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献・平常点20%、ワークシート20%、筆記試験60%を基準に、総合的に評価する。なお、総授業回数の2/3以上の出席を単位取得の要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Views on child depend on time or region, and therefore what kind of learning is encouraged to children and how to do it is also diverse. For example, in the West and Japan, it is modern time that the school began to play a central role.

In this class, based on the history of Western education, we will examine childhood and the education of children, and how the school as a child's learning institution has been established and developed.

Then, we will consider the relations between these histories and childhood, the education and problems they have in our society.

And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

HIS200MA

学習の社会史 B

展開科目

寺崎 里水

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会を特徴づける要因のひとつとして学習、学歴、試験といった事柄に注目し、個人的なものと考えられている学習意欲が、学歴や試験、学校、学習集団といった社会的なものといかに関わっていったのかを考察する。日本史、日本教育史について、議論の土台となる基礎的な知識を共有するために、復習的に振り返る。

【到達目標】

授業中に学んだ概念、理論をいかし、歴史的事象を説明できる。
日本史、日本教育史の基礎的な知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

あらかじめ指定した文献をもとに講義を行う。学生の知識の定着を促すため、ワークシートや小テストを課すことがある。

また日本史、日本教育史の基礎的な事柄については、事前に配布した課題プリントをもとに、指定した回の授業冒頭に小テストを行い、知識の定着を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、評価の方法について説明する。社会史とはなにかについて学ぶ。
第 2 回	近代化の影響	日本の近代化を、個人と家族、地域共同体、国家の関係がどのように変質したのかという観点から学ぶ。
第 3 回	近代以前の社会と学習	古代、中世、近世における諸制度と教育機関について学ぶ。とりわけ、近世における経済の発展と庶民の学習に重点を置く。これらを通して近代以降の個人と学習の関係の理解を深める。
第 4 回	試験の社会史	近代日本社会において、試験というシステムがどのように浸透していったのかを考える。
第 5 回	学歴の社会史	学歴がなぜ重要視されるようになったのかについて、近代的職業の発達との関連から理解する。
第 6 回	競争と管理の学校史	学校という仕組みのなかに「競争」や「管理」がどのように浸透していったのかを学ぶ。
第 7 回	運動会、ブルマーの社会史	体育と近代の関係を考える。
第 8 回	家庭、主婦の誕生	女性と社会の関係について、家庭、主婦といったことばを手掛かりに考える。
第 9 回	教育家族の誕生	教育熱心な親の誕生、学校と親の関係の変化について考える。
第 10 回	近代化以降の社会の発展と学校教育制度の整備	明治維新後の学校教育制度の整備、発展について、これまで学んだことを制度的に跡付けるかたちでまとめる。とくに産業構造との関係に主眼を置く。
第 11 回	太平洋戦争後の制度改革と教育	戦後の制度改革から今日までの流れを概観しながら、教育制度の変化を学ぶ。
第 12 回	地方都市と教育	近代化以降広がる貧富の差、地方都市と大都市との格差などがどのように政策課題として扱われてきたのかを学ぶ。
第 13 回	大衆と教育	勤労青年と学歴エリートの差に注目しながら、働きながら学ぶ集団の誕生とその意義について学ぶ。
第 14 回	まとめと試験	我々はなぜ学ぶのかについて考え、全体の振り返りを行う。 授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定文献の精読、配布プリント課題を必須とする。日本史の知識が必須なので、各自高校までの内容を復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。必要に応じて指示する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の振り返りミニテスト 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の反応を大切にしながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This class aims for students to acquire advanced knowledge about Japanese history through keywords such as school, learning, examination, and family.

MAN200MA

職業選択論Ⅱ

展開科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多様な雇用形態の現状と課題、男女の働き方の現状と課題を考えます。これらは相互に関係しあっています。働き方の変化は、特に若い世代に大きな影響を与えます。20 代に直面するかもしれない労働問題への理解を深め、現実的な職業選択のあり方をみずから考えられるようになること、さらに、多様な働き方の改善に社会人として自らかかわっていけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

雇用形態の多様化および、それが若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。男女の働き方の現状と課題を理解する。＜まともな働き方＞を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業では現在の若年労働市場や働き方の現状と問題点の理解をより一層重視します。春学期と同様に、授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを授業内外で適宜書きます。雇用をめぐる現状を理解した上での考察であることを春学期以上に重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。定期試験では持ち込み不可の論述試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介、春学期の論点の整理
2	若年労働市場の現状	学歴別・男女別に見た若年者の就業状況
3	正規雇用と非正規雇用（1）	正規雇用と非正規雇用の違い／雇用契約と処遇
4	正規雇用と非正規雇用（2）	多様な働き方の現状と課題／雇用ポートフォリオ／有期雇用から無期雇用への転換の動き
5	派遣労働の特徴と問題点	間接雇用である派遣労働の特徴と問題点
6	派遣労働の歴史と現在	派遣労働の歴史的経緯／紹介予定派遣
7	長時間労働の現状と背景	長時間労働の現状と背景／労働時間規制の法制度
8	長時間労働の改善に向けた動き	事例から見る長時間労働と考えられる対策
9	長時間労働と組合の役割	法制度と労働組合の役割の関係
10	男女の働き方とワークライフバランス（1）：夫婦の生活時間と仕事時間	女性の就業継続をめぐる意識と現状、夫婦の生活時間と仕事時間
11	男女の働き方とワークライフバランス（2）：法制度と現状	男女雇用機会均等法、育児・介護休業法などの法制度と実態
12	男女の働き方とワークライフバランス（3）：企業の実情	コース別雇用管理、企業の就業継続支援策、就業継続をめぐる課題
13	離職・転職を考える	長期安定雇用と転職の現状
14	雇用の保障とキャリアの保障	キャリア権、仕事の限定と無限定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに掲載する各回のレジュメに事前に目を通してから授業に参加する。

授業の話題に関連した新聞記事などを日ごろから読み、最近の動向を知り、検討する。期末試験に向けて、授業内容を復習し、論述の準備を行う。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時にレジュメを準備します。レジュメは事前に授業支援システムに掲載します。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。
・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
・濱口桂一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書
・森岡孝二（2015）『雇用身分社会』岩波新書

・川人博（2014）『過労自殺 第二版』岩波新書
 ・久原穂（2018）『働き方改革』の嘘』集英社新書
 ・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
 ・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブル Q & A』旬報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で6回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と定期試験（配点 60 点）により評価します。なお、ミニ・レポートの提出が0～2回の学生や、ミニ・レポートの代筆が判明した学生、定期試験で不正行為が判明した学生には、単位を付与しません。詳しくは初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

身近な内容でありながらアカデミックな講義で充実した内容だったとのコメントをいただきました。

働き方をめぐる現在の変化は、皆さんの働き方にも直結してきます。その関係をより理解できるように、努めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメは授業支援システムに事前に掲載します。各自、プリントアウトの上、持参してください。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方、ミニ・レポートについて、定期試験について等の説明を行いますので、必ず出席してください。

「職業選択論Ⅰ」を受講した上での受講が望まれます。

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide a basic understanding of the changing labor market and work styles. Main topics are diversification of employment types, long hours of work, work-life-balance, and gender equality.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅰ 展開科目
 【2014年度以降入学者用】

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅰ 展開科目
 【2013年度以前入学者用】

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、創業家の経営者）の育成を目指している。新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】

- ①新規事業の創造に必要であるイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

前期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。

ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義では皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報も提供する。後半は新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義	日本における大企業の動向と、シリコンバレーを中心とした企業・起業家の状況
第 3 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ1
第 4 回	ワークショップ1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第 5 回	ワークショップ1	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 7 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ2
第 8 回	ワークショップ2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	ワークショップ2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 11 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ3
第 12 回	ワークショップ3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	ワークショップ3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社のHP、インタビュー記事、関連 Newsなどを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定する際に、フィールドワーク、ディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ 発表・レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

グループワークや、プレゼンテーションのために PC を利用する。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to train entrepreneurship. Understand the qualities required of entrepreneurs through the case of new business creation. Entrepreneurship is necessary regardless of whether you work in a big company or start a business. Learn what entrepreneurship is, how to create a new business, and cultivate a mind set by actually working on groups.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅰ 展開科目
【2013年度以前入学者用】

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅰ 展開科目
【2014年度以降入学者用】

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目指している。新規事業創出のケースを通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解する。大手企業へ就職、起業家を志す者いずれにも求められるアントレプレナーシップとは何か、新規事業がどのように創出されるのか、グループワークを通じて実際に取り組んでみることでマインドセットを養う。

【到達目標】

- ① 新規事業の創造に必要であるイノベーションを興すためのスキルセット及びマインドセットを理解する。
- ② 産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考え、キャリアの目標を立てる。
- ③ グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

前期授業は、ゲストスピーカーの講演及び講義、グループディスカッションにより構成される。

ゲストスピーカーにはベンチャー企業の経営者、企業の新規事業担当者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義では皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報も提供する。後半は新規事業創出のための課題発見ワークショップをグループで実践的に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義	日本における大企業の動向と、シリコンバレーを中心とした企業・起業家の状況
第 3 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ1
第 4 回	ワークショップ1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第 5 回	ワークショップ1	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 7 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ2
第 8 回	ワークショップ2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	ワークショップ2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 11 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ3
第 12 回	ワークショップ3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	ワークショップ3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 Newsなどを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定する際に、フィールドワーク、ディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ 発表・レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

グループワークや、プレゼンテーションのために PC を利用する。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to train entrepreneurship. Understand the qualities required of entrepreneurs through the case of new business creation. Entrepreneurship is necessary regardless of whether you work in a big company or start a business. Learn what entrepreneurship is, how to create a new business, and cultivate a mind set by actually working on groups.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅱ 展開科目
【2013年度以前入学者用】

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅱ 展開科目
【2014年度以降入学者用】

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、起業家的経営者）の育成を目的として、実践的な授業を行う。アントレプレナーとして求められる資質を体得し、新規事業創出・ベンチャー経営に必要な行動的スキル・認知的スキルを実践的なグループワークを通じて高める。

具体的には新規事業を生み出すフレームワークを理解し、グループでビジネスモデル構築と事業計画作成の策定、プレゼンテーションを行うことを通じて、アントレプレナーに必要なスキルを習得する。

【到達目標】

- ① 新規事業立案のための方法論・スキルについて、実践を通じて習得する。
- ② 事業がどのように創造されていくのか、そのプロセスを体感することができる。
- ③ 自分の言葉で見解を述べ、グループメンバーを巻き込み協働できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ゲストスピーカーの講演、講義、グループワークにより構成される。ゲストスピーカーには企業の新規事業担当者や様々なビジネスモデルで起業をした社会人を招く。皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、新しいビジネスモデル構築のためのアイデア、業界トレンド、考え方についての情報も提供する。同時に、実際にビジネスプランを検討しながら実践的なスキルを高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ1
第 4 回	ワークショップ1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第 5 回	ワークショップ1	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 7 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ2
第 8 回	ワークショップ2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	ワークショップ2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・考えを発表する
第 11 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ3
第 12 回	ワークショップ3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	ワークショップ3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・企画を発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
- ② ミニレポート 20 %
- ③ ビジネスプラン（発表・資料） 20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

グループワークや、プレゼンテーションのために PC を利用する。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to train entrepreneurship. Mainly focused on practical workshops. Through that workshops, we will raise new business creation and behavioral skills and cognitive skills necessary for venture management.

Learn the framework to create new business, business model and business plan in group. Through presentation, you will acquire the skills necessary for business creation.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅱ 展開科目
【2014年度以降入学用】

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅱ 展開科目
【2013年度以前入学用】

松本 真尚、田口 香織、市川 大樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナー（大企業などで新規事業の立ち上げを担う人材、起業家、創業家的経営者）の育成を目的として、実践的な授業を行う。アントレプレナーとして求められる資質を体得し、新規事業創出・ベンチャー経営に必要な行動的スキル・認知的スキルを実践的なグループワークを通じて高める。

具体的には新規事業を生み出すフレームワークを理解し、グループでビジネスモデル構築と事業計画作成の策定、プレゼンテーションを行うことを通じて、アントレプレナーに必要なスキルを習得する。

【到達目標】

- ①新規事業立案のための方法論・スキルについて、実践を通じて習得する。
- ②事業がどのように創造されていくのか、そのプロセスを体感することができる。
- ③自分の言葉で見解を述べ、グループメンバーを巻き込み協働できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ゲストスピーカーの講演、講義、グループワークにより構成される。ゲストスピーカーには企業の新規事業担当者や様々なビジネスモデルで起業をした社会人を招く。皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、新しいビジネスモデル構築のためのアイデア、業界トレンド、考え方についての情報も提供する。同時に、実際にビジネスプランを検討しながら実践的なスキルを高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・起業家のマインドセット・スキルセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー
第 3 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ1
第 4 回	ワークショップ1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第 5 回	ワークショップ1	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデアを発表する
第 7 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ2
第 8 回	ワークショップ2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	ワークショップ2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・考えを発表する
第 11 回	講義	社会人・起業家による講義・ディスカッションテーマ3
第 12 回	ワークショップ3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	ワークショップ3	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り	社会人・起業家に対してアイデア・企画を発表・アントレプレナーシップについての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループでビジネスプランを策定するために、フィールドワーク、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ① 出席と議論への参加状況 60 %
 ② ミニレポート 20 %
 ③ ビジネスプラン（発表・資料） 20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

グループワークや、プレゼンテーションのために PC を利用する。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。

起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員として関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

【Outline and objectives】

This class aims to train entrepreneurship. Mainly focused on practical workshops. Through that workshops, we will raise new business creation and behavioral skills and cognitive skills necessary for venture management.

Learn the framework to create new business, business model and business plan in group. Through presentation, you will acquire the skills necessary for business creation.

MAN200MA

シティズンシップ論

展開科目

濱口 博史

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自立・自律した個人からなるコミュニティのあり方、市民によるコミュニティの運営の重要性とその方法について学ぶ。

【到達目標】

市民、市民社会、シチズンシップについての基礎的知識をもつことができる。個人の社会における権利・義務や法原則についての基礎的知識をもつことができる。

市民によるコミュニティの運営の重要性を認識することができる。

地方自治の仕組みと運営について基礎的知識をもつことができる。

コミュニティ内で活動する共益又は公益を目的とする組織・法人（NPO 法人、一般法人、公益法人など）の仕組みや運営についての基礎的知識をもつことができる。

企業（社会的企業を含む。）の公益にかかわる活動について基礎となるイメージをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業前半を基礎知識についての講義とし、授業後半を演習及びその回のまとめとする。演習は、具体的な事例に沿って、事例における問題点、視点、留意点及び解決方法などについて検討を求め、教員との短い応答、学生同士のディスカッション、グループワークを行う内容である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	個人と市民について（1）	市民社会とは何か、市民とは何か、市民社会のありかた、個人の尊厳、幸福の追求、シチズンシップ、SDGs についての基礎知識を学ぶ。
第 2 回	個人と市民について（2）	自己決定権、子どもの人権、両性の平等、立憲民主主義について具体的な事例を検討する。
第 3 回	個人と市民について（3）	第 2 回の続き
第 4 回	個人、家族とコミュニティについて（1）	ボランティア、法意識、社会福祉の法、インクルージョン、ダイバーシティ、共生、互助・共助・公助についての基礎知識を学ぶ。
第 5 回	個人、家族とコミュニティについて（2）	町内会、マンション管理組合、地縁団体などの仕組みと運営方法についての基礎知識、これらにかかわるときの視点、留意点について具体的事例を通して学ぶ。
第 6 回	個人・市民と民間組織について	ボランティア組織、NPO 法人、一般法人、公益法人などの仕組みと運営方法についての基礎知識、これらにかかわるときの視点、留意点を具体的事例を通して学ぶ。
第 7 回	個人・市民、コミュニティと民間組織、地方公共団体について	地方自治の本旨、住民自治と団体自治、地方公共団体の仕組みと運営、公民連携、PFI、指定管理者などについての基礎知識、地方公共団体にかかわるときの視点、留意点を具体的事例を通して学ぶ。
第 8 回	民間組織を通じた市民の活動について（1）	民間非営利組織の活動、ガバナンス、寄付・社会的責任投資・休眠預金の活用等の資源調達・資金循環、コレクティブ・インパクト、ソーシャルイノベーションなどの基礎知識、これらにかかわるときの視点、留意点について具体的事例を通して学ぶ。
第 9 回	民間組織を通じた市民の活動について（2）	企業の非財務活動、CSR、ESG、CSV、社会的企業、ガバナンスコード、ステewardシップコードなどについての基礎知識を具体的事例を通して学ぶ。
第 10 回	具体的テーマ（1）	まちづくり・地域の発展に関する原理原則、法的問題点、視点、留意点、市民としての姿勢などを事例を通して学ぶ。
第 11 回	具体的テーマ（2）	第 10 回の続き

第12回	具体的テーマ（3）	子どもの貧困問題のコミュニティレベルでの課題解決について、原理原則、法的問題点、視点、留意点、市民としての姿勢などを事例を通じて学ぶ。
第13回	具体的テーマ（4）	第12回の続き及びこれまでの講義の振り返り（個人・市民としてコミュニティにかかわるときの原理原則、視点、留意点、市民としての姿勢について学ぶ。）
第14回	試験・まとめ	第1回から第13回までの授業授業内容の理解度をはかる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布される資料を次回までに読み、授業後半に行う演習に参加できるようにする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

名和田是彦著「コミュニティの法理論」（創文社・1998年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での学習状況及び演習への参加度）40%、授業内試験60%

【学生の意見等からの気づき】

抽象的な命題を、理解しやすいように具体的な事案に基づいて説明をし、かつ、理解を共通にするため、双方向の議論を大切にする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム等を利用することがある。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は選抜をする。

【Outline and objectives】

This course introduces the review of the status of the community formed by independent and autonomous individuals and the importance and methods of the self-governance of communities.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅰ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通した異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】

(1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。

(2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業です。

1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業の最後にリアクションペーパー（講義内容に関する簡単なコメント）を書いてもらい、次回以降の授業に反映させていきたいと考えています。

正当な理由のない遅刻・欠席、授業中の私語・居眠り、授業と関係のない作業（たとえば他の科目の勉強、読書、携帯電話や音楽プレーヤーの操作）、必要以上の教室の出入り、授業の最後に来てリアクションペーパーだけを提出する等の行為は厳禁です。真面目に取り組む意欲のない人は受講しないで下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法 播／生計をともにする者=家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第2回	前近代・近代・現代における結婚と<子ども>の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、<子ども>へのまなごしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第3回	性別役割分業の歴史的変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第4回	宗教から見た西欧の歴史的変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第5回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第6回	19世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第7回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第8回	官僚制の歴史的変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第9回	地理的世界の拡大とネットワーク化の変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第10回	時代の変化と少年犯罪のまなごし方の変化	第3回の<子ども>の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する
第11回	歴史と社会を見る目（1）	コミュニティの健全性に関するデュルケムの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
第12回	歴史と社会を見る目（2）	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する

- 第13回 歴史と社会を見る目(3) ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
- 第14回 まとめ・総括 歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに活用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（70%）、平常点（30%）。
欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline and objectives】

Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅱ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業です。

1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業の最後にリアクションペーパー（講義内容に関する簡単なコメント）を書いてもらい、次回以降の授業に反映させていきたいと考えています。

正当な理由のない遅刻・欠席、授業中の私語・居眠り、授業と関係のない作業（たとえば他の科目の勉強、読書、携帯電話や音楽プレイヤーの操作）、必要以上の教室の出入り、授業の最後に来てリアクションペーパーだけを提出する等の行為は厳禁です。真面目に取り組む意欲のない人は受講しないで下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは〇〇が問題だ」というまなざし方（社会病理的見方）の歴史を把握する
第2回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第3回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第4回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第5回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第4回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第6回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第7回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第6回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第8回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第9回	社会史的視点(1)	19世紀末から20世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第10回	社会史的視点(2)	20世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第11回	社会史的視点(3)	戦後の流行歌を取り上げ、大衆の生活の様相について理解する
第12回	社会史的視点(4)	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる

- 第13回 歴史と社会の再生産 第12回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第5回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する
- 第14回 まとめ・総括 比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のペースをつくることです。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（70%）、平常点（30%）。
欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思えます。

【Outline and objectives】

How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison.

SOC200MA

アート・マネジメント論 展開科目

荒川 裕子

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2~4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え方や働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアートの要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】

わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら、アートとはなにか、わたしたちの生活や仕事にどのように活かしていくことができるのか、といったことを探ります。受け身の講義に終始せず、学生自身のアイデアや体験に基づくプレゼンテーションの機会を設け、ディスカッションを通じて理解と考察を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明する。
第2回	学問領域としてのアート	アートに関する研究領域について概観する。
第3回	「美」とは何か①	古来、人々が「美」をめぐるどのような探究を行ってきたのかを概観する。
第4回	「美」とは何か②	近代以降の「美」の概念の変化について論じる。
第5回	「アート」の誕生	西洋近代にアート（芸術）という領域が成立した背景を探る。
第6回	「アート」の制度化	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第7回	「アート」の伝播	明治以降の日本にアートという概念が導入された経緯をたどる。
第8回	「アート」の変容①	1960年代頃を境にアートの表現が大きく変化していった経緯をたどる。
第9回	「アート」の変容②	20世紀の末以来、アートという領域が著しく拡大した背景を探る。
第10回	生活のなかのアート	わたしたちの暮らしにアートがどのように関わっているのかを考える。
第11回	地域とアート	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第12回	企業とアート	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第13回	アートを支える多様な人材	社会とアートを結びつけるつなぎ手について考える。
第14回	まとめと試験	現代社会におけるアートの役割について、半期の授業を通して得られた知見を検証する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場に実際に足を運び、現代の日本におけるアートの諸様相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりプレゼンテーションを行うことが求められます（フィールド活動の際に、入場料などの費用が若干かかる可能性があります）。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定ませんが、授業中にほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】

徳丸吉彦・利光功『芸術文化政策Ⅰ 社会における人間と芸術』日本放送出版協会
川崎賢一・佐々木雅幸・河島伸子『アーツ・マネジメント』日本放送出版協会

※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（課題の成果、ディスカッションへの参加など）：50 %
 期末試験（論述式）：50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生によるプレゼンテーション／ディスカッションの時間を十分確保するよう心がけたいと思います。

【Outline and objectives】

Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

CAR200MA

就業機会とキャリア

展開科目

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな仕事について考えるとともに、現代社会における産業や企業のあるり方について学びます。

企業に求められる人材、組織で働くこと、社会人として何が期待されているのかについてゲストスピーカーのお話から考えます。日々変化する企業の最新情報にふれることで、自らのキャリアをデザインする力を身につけるとともに、就業機会におけるキャリア選択を考えるきっかけを提供します。

【到達目標】

①様々な働き方、仕事に興味をもつこと、②いろいろな企業やそこでの働き方を理解すること、③自らのキャリア形成に前向きに取り組む姿勢を身につけること、を到達目標に授業を実施します。

様々な業界や企業、キャリアに対する偏見や先入観をなくして、しっかりと自分自身の力で業界や企業を分析し理解できる力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回、多様な企業からさまざまな職種、役職の方をお招きして、その業界の最新動向について語っていただくとともに、仕事の内容、キャリアパスの実際、組織での働き方などについてお話をうかがいます。各回の授業は講義 80 分、質疑応答 10 分、レポート作成が 10 分の時間配分で実施します。毎回の講義時間配分が変更になることがあります。また、講師の方の都合により業種などが変更になることもあります。講義日が祝日にあつた場合には、ゲストを呼ぶことは困難ですので、中間レポートの作成にあてる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、受講の心構え、授業形式、成績評価の方法などの説明を行います。
2	人材派遣業界	人材業界の仕事学びます。企業の採用活動、学生の就職活動についても情報を提供していただきます。
3	流通産業	我々にとって大変身近な業界である流通産業における働き方を学びます
4	IT 産業	社会基盤を担う IT 産業での働き方や生き方を学びます。
5	ソフトウェア産業	ソフトウェア業界とそこでの働き方を学びます。
6	政府系企業	国と密接に関係しつつも公務員でもない機関について、その仕事を紹介いただきます。
7	エンターテインメント産業	サービス経済化がすすむ我が国において成長が期待できるエンターテインメント産業での働き方を学びます。
8	教育産業	これからの成長が期待できる分野である教育産業を取り上げて、そこでの働き方を学びます。
9	医薬品産業	高齢化社会を見据えて重要な産業である医薬品業界での働き方について学びます。
10	アパレル産業	日常的に接する事が多い衣料品分野を取り上げます。アパレル産業での働き方について学びます。
11	ベンチャー	組織で働く、雇用者として働く以外の選択肢である起業について、ベンチャー起業の経営者の実体験を語っていただきます。
12	生き方、働き方①	グローバル化がすすむなかで、どのような働き方が求められているのか、社会人に求められることはどのようなことか、お話をいただきます。
13	生き方、働き方②	働くとはどういう事か、社会人に求められることはどのようなことか、お話をいただきます。
14	まとめ	ゲストの話を経括して、これからのキャリアについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特段の準備を求めることはしませんが、事前にインターネットや新聞などで情報をとって一つ、二つ質問できる程度の用意はしてください。人との出会いは一期一会です。二度とチャンスは巡ってはきませんので、せっかくの機会を無駄にしないようにしてください。

【テキスト（教科書）】

全体を通じてのテキストはありません。

資料、レジュメ等は必要であれば各回に配布します。どのような企業の方をお呼びするかは最初の授業でお知らせします。

【参考書】

たとえば『会社四季報業界地図 2018 年度版』東洋経済新報社、2019 年。など

【成績評価の方法と基準】

各回の授業内レポートの評価 5 0 %、授業に参加する姿勢 5 0 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

1. レポートを書く時間を確保します。
2. 幅広い業界からゲストを招聘し、授業をアレンジします。

【その他の重要事項】

学生の皆さんには知られていない業種も含めて、幅広い企業の方から直接話をうかがう貴重な機会です。幅広く関心を持って講義に臨んでください。また、遅刻、途中退出、私語を慎んで礼節をもって授業を受けてください。

昨年度は、リクルートキャリア、博報堂、ソニーミュージックエンターテイメント、日本銀行、日本公文教育研究会、マツモトキヨシホールディングス、ラムリサーチ（半導体製造装置メーカー）、DHL サプライチェーン、オービックビジネスコンサルタント、ワールド、キョーリン製薬ホールディングス、日本政策金融公庫、富士通、マクアケ（サイバーエージェント）の企業の方々にご協力いただきました。継続してお願いしている企業様もありますが、入れ替わりもあります。

また、お話しただく企業の方のご都合もありますので、シラバスに示した順番は変わります。

【Outline and objectives】

In this lesson, we will consider various tasks and learn about industries and companies in modern society.

From the lecture of the guest speaker, we think about what kind of persons are required in society, working on organization.

By acquiring up-to-date information on companies and societies that change everyday, we will acquire the ability to design our own careers. Also, through this lesson, you will have the opportunity to think career selection.

CAR200MA

就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-

上西 充子、武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍する労働組合関係者をゲスト講師としてお招きし、労働組合の活動について事例を交えながら講義してもらいます。働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、企業情報や業界情報を交えながら講義してもらいます。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者の話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場の最新情報を開けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師と調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、初回授業で予定を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から「労働組合とは何か」を説明します。
2	【開講の辞】	連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと
3	【課題提起】	連合に寄せられる労働相談事例をもとに、若者が抱える悩みとそれらへの対応を説明してもらう。
4	【ケーススタディ①】	長時間労働の是正、労働時間短縮に向けた取り組みを説明してもらう。
5	【ケーススタディ②】	賃金をはじめとする労働諸条件の改善に向けた取り組みを説明してもらう。
6	【ケーススタディ③】	ワーク・ライフ・バランス、両立支援、男女平等参画などの取り組みを説明してもらう。
7	【ケーススタディ④】	賃金制度、昇進昇格など、人事処遇制度をめぐる課題や取り組みを説明してもらう。
8	【ケーススタディ⑤】	産業空洞化への対応を中心に、雇用と生活を守る取り組みを説明してもらう。
9	【ケーススタディ⑥】	正社員と非正規社員間の処遇格差是正に向けた取り組みを説明してもらう。
10	【ケーススタディ⑦】	公務員の仕事内容と労働組合活動の特徴を説明してもらう。
11	【課題への対応①】	いままぜ、働き方の変革が求められているのかを説明してもらう。
12	【課題への対応②】	進行するグローバル化に労働組合がどのように対応しているかを説明してもらう。

- | | | |
|----|------------------------|---------------------------------------|
| 13 | ゲスト講義の振り返り | ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。 |
| 14 | 「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて | 連合がめざす社会像を説明してもらい、とともに、担当教員によるまとめを行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全 14 回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内記入のコメントシート（30 点）＋レポート（70 点）

【学生の意見等からの気づき】

労働用語を随時説明していきます。

【Outline and objectives】

This course is provided by RENGO, the Japanese Trade Union Confederation.

Every time, the guest lecturer who is active in a labor union will lecture on labor circumstances and the industry trend. This class will be the very valuable opportunity when students can understand the latest information about the work place.

CAR300MA

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：3~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を認識し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践の修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき7つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
 - ⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
 - ⇒ 社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
 - ⇒ データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキル
 - ⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
 - ⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
 - ⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
 - ⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
 - ⇒ 社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
 - ⇒ チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化するリーダーシップ
 - ⇒ モチベーション・マネジメント
 - ⇒ 4つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
 - ⇒ キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
 - ⇒ 自分自身の20代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
 - ⇒ 暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
 - ⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。

PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。

履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。

公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 各学部のアイデンティティ 就業力とは 学生と企業の認識差 社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とバラ認知の理解	グループディスカッション データの見方 討議の手法 ブレインストーミング
3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 作文と論文の違い ビジネス文書作成 エントリーシート解析

4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
5	商社事例研究－1 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力
6	商社事例研究－2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
7	社会人ケーススタディー 1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアに するには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界の優良 企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例 研究 モノづくりの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラー ニング（PBL）－1 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディー 2 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	社会で通用する人材 ・米国公認会計士講話 ・採用担当者の視点 ・求められる人材像 ・状況対応型キャリア
12	プロジェクトベースラー ニング（PBL）－2 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力
13	金融業界事例研究 地方創生事業の実践 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラー ニング（PBL）－3 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

※単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。

・統計学や社会調査の素養があると有効です。

*事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点

・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） ⇒ 30点

・グループワークでの貢献度 ⇒ 30点

・期末テスト ⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配布）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000～2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立つとのことでした。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。

レポート&プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。

PCは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。

CAR300MA

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取材力（但、百聞は一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーの「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行います。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 企業目線を理解する	社会が求める人材要件と大学で学ぶ力の比較検討 ・統計の見方と誤解 ・課題発見力
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどう いう意味か？ 組織を動かすには (ビデオ教材使用)	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究-1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ 21世紀の生き方へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	ライフスタイル研究-2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループ ワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
7	課題レポート&プレゼン テーション-1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデン ティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法

8	ライフスタイル研究-3 社会課題解決のキャリア モデル 夢を形にして社会課題に 取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人 取り組んだ人々
9	マーケティングスキルに よる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力 (ビデオ教材)	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラー ニング(PBL)-1 広告代理店の事例 大学をプロデュースする には	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラー ニング(PBL)-2 学生日線が採用担当者 を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	チームビルディング 企業研修型ワーク ショップ (一部英語で実施)	事例研究 ・女性総合職の問題 ・女性のキャリア事例 ・リーダーの役割
13	課題レポート&プレゼン テーション-2 法政大学の実践知とは 総長への提言	良いレポートの事例紹介 ・文学的表現力 ・社会的表現力 ・真の個性あるレポートとは
14	プロジェクトベースラー ニング(PBL)-3 課題発表 社会への発信	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
*春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点
・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） ⇒ 30点
・グループワークでの貢献度 ⇒ 30点
・期末テスト ⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。この他に、1000～2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。総合評価が60点以上を合格とします。（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立つとのことです。
*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。大学用意のPCを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。
*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

ECN200CA
社会経済学応用 A
原 伸子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

社会経済学応用 A は社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、20 世紀以降の現代資本主義のあらたな特質を明らかにする。19 世紀末から 20 世紀初めの景気循環の変容、独占的大資本の登場、国家の経済過程への介入、さらに金本位制度から管理通貨制度への移行は資本主義をどのように変化させたのかを、歴史的具体的事象をとおして理論的に理解できるように説明する。さらに 21 世紀に生活するわれわれが現在の社会経済構造を歴史的、理論的に広い視野をもち主体的に考察する視点を持つことの重要性を明らかにする。

【到達目標】

この講義では、資本主義の発展過程を歴史的かつ理論的に考える視点を身に着けることを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。20 世紀以降の歴史的事象を具体的に示して、資本主義の新たな段階を主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができますようにします。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会経済学応用 A の対象と課題	戦間期資本主義の概観。現代社会を理解するための視点
第 2 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学 (1)	オックスフォード理想主義
第 3 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学 (2)	ニューリベラリズム
第 4 回	金融資本の成立 (1)	イギリス、フランス
第 5 回	金融資本の成立 (2)	ドイツ、ロシア、アメリカ
第 6 回	大恐慌のアメリカ (1)	20 年代から 30 年代の産業構造と金融市場
第 7 回	大恐慌のアメリカ (2)	1929 年大恐慌のメカニズム
第 8 回	戦間期の経済理論 (1)	イギリス資本主義とケインズ
第 9 回	戦間期の経済理論 (2)	アメリカの新古典派経済学とマネタリスト論争
第 10 回	再建金本位制度	金本位制度再建への努力、日本における金本位制度復帰論争
第 11 回	管理通貨制度への動向	金本位制度崩壊の歴史的・理論的分析
第 12 回	戦間期の日本 (1)	恐慌下のマルクス主義とケインズ主義
第 13 回	戦間期の日本 (2)	経済思想の相克、世界の中の日本
第 14 回	復習	これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域で、なにが起きているのかを知る。2. 授業でその都度、指示する参考文献などは積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して、深く思索する。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。授業の進展に応じてレジュメを配布する。

【参考書】

- ・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学 [新版]』有斐閣、2007 年。
- ・長幸男『昭和恐慌』岩波現代文庫、2001 年版。
- ・レーニン『帝国主義』岩波文庫。
- ・ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論』岩波文庫。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（マークシート方式）80 %、平常点 20 %。成績評価基準については、最初の授業で具体的な説明を行う。なお、追試、再試は記述式問題である。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to investigate the relationship between the competitive capitalism, which is typical in 19th century in Britain, and the modern capitalism since the 1920-30s from the historical and theoretical point of view. The lecture focuses on the inter-war period, in which there are several features of transition from the competitive capitalism to the modern capitalism. They are the changing of monetary system, the appearance of the monopoly capital and the state intervention in the phased of industrial cycle.

ECN200CA
社会経済学応用 A
原 伸子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

社会経済学応用 A は社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、20 世紀以降の現代資本主義のあらたな特質を明らかにする。19 世紀末から 20 世紀初めの景気循環の変容、独占的大資本の登場、国家の経済過程への介入、さらに金本位制度から管理通貨制度への移行は資本主義をどのように変化させたのかを、歴史的具体的事象をとおして理論的に理解できるように説明する。さらに 21 世紀に生活するわれわれが現在の社会経済構造を歴史的、理論的に広い視野をもち主体的に考察する視点を持つことの重要性を明らかにする。

【到達目標】

この講義では、資本主義の発展過程を歴史的かつ理論的に考える視点を身に着けることを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。20 世紀以降の歴史的事象を具体的に示して、資本主義の新たな段階を主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができますようにします。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会経済学応用 A の対象と課題	戦間期資本主義の概観、現代社会を理解するための視点
第 2 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学 (1)	オックスフォード理想主義
第 3 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学 (2)	ニューリベラリズム
第 4 回	金融資本の成立 (1)	イギリス、フランス
第 5 回	金融資本の成立 (2)	ドイツ、ロシア、アメリカ
第 6 回	大恐慌のアメリカ (1)	20 年代から 30 年代の産業構造と金融市場
第 7 回	大恐慌のアメリカ (2)	1929 年大恐慌のメカニズム
第 8 回	戦間期の経済理論 (1)	イギリス資本主義とケインズ
第 9 回	戦間期の経済理論 (2)	アメリカの新古典派経済学とマネタリスト論争
第 10 回	再建金本位制度	金本位制度再建への努力、日本における金本位制度復帰論争
第 11 回	管理通貨制度への動向	金本位制度崩壊の歴史的・理論的分析
第 12 回	戦間期の日本 (1)	恐慌下のマルクス主義とケインズ主義
第 13 回	戦間期の日本 (2)	経済思想の相克、世界の中の日本
第 14 回	復習	これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域で、なにが起きているのかを知る。2. 授業でその都度支持する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

- ・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学 [新版]』有斐閣、2007 年。
- ・長幸男『昭和恐慌』岩波現代文庫、2001 年版。
- ・レーニン『帝国主義』岩波文庫。
- ・ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論』岩波文庫。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（マークシート方式）80%、平常点 20%。成績評価基準については、最初の授業で具体的に説明する。なお、追試、再試は記述式問題である。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to investigate the relationship between the competitive capitalism, which is typical in 19th century in Britain, and the modern capitalism since the 1920-30s from the historical and theoretical point of view. The lecture focuses on the inter-war period, in which there are several features of transition from the competitive capitalism to the modern capitalism. They are the changing of monetary system, the appearance of the monopoly capital and the state intervention in the phased of industrial cycle.

ECN200CA

社会経済学応用 B

原 伸子

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会経済学応用 B は社会経済学応用 A とともに、社会経済学基礎 A,B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、現代資本主義の社会経済構造を歴史的、理論的に分析する。社会経済学応用 A では現代資本主義の起点としての戦間期に焦点をあてた。それに対して社会経済学応用 B では、第二次大戦後をブレトンウッズ体制における高度経済成長期、70年代のスタグフレーション期、そして80年代以降の福祉国家の変容の時期の三つにわけて授業をおこなう。とくに、国家の変容、労働市場の動向、家族の変容の諸問題に焦点をあてる。

【到達目標】

この講義では、現代資本主義の諸問題を取りあげて理論的・歴史的に分析することを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。第二次大戦後から今日に至る日本経済に重点をおいて、統計資料なども用いながら、現実の社会を理解する。そして、私たちが生活する資本主義の経済のメカニズムを主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができますようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代資本主義の諸問題を取り上げる視点	国家、市場、家族の関係について
第2回	戦後福祉国家の論理	ベヴァリッジ報告とケインズの総需要管理政策
第3回	高度経済成長期の蓄積メカニズム	年代別に資料を見ながら歴史的展開を確認する
第4回	スタグフレーション（1）	ブレトンウッズ体制の崩壊（通貨危機）と石油危機
第5回	スタグフレーション（2）	戦後初の世界恐慌、二つのコクサイ化
第6回	福祉国家の変容（1）	小さな政府と新自由主義・新保守主義、民営化と市場化、規制緩和
第7回	福祉国家の変容（2）	サッチャーリズムとレーガノミックス、96年アメリカ福祉改革
第8回	労働市場の変容（1）	労働分配率の動向、非正規労働、副業
第9回	労働市場の動向（2）	労働時間の二分化、労働時間の二つの統計
第10回	家族の経済学（1）	ワークライフバランス。日本、ドイツ、スウェーデン。
第11回	家族の経済学（2）	保育と介護の政治経済学。ケア労働の意味を考える。
第12回	労働と生活の調和（1）	家族の経済学、家族の性別分業と男女賃金格差、ジェンダー
第13回	労働と生活の調和（2）	各国のワークライフバランスの比較と論理
第14回	復習	これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域でなにが起きているのかを知る。2. 授業で指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは用いない。

【参考書】

増田壽男・沢田幸治編『現代経済学と経済〔新版〕』有斐閣、2007年。
原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016年。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（マークシート方式）80%、平常点20%。成績評価基準については、最初の授業で具体的な説明を行う。なお、追試、再試は記述式問題である。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to investigate the features of contemporary capitalism after the post-World War II from the point of view of Marxian political economy. The lecture focuses on the accumulation pattern of the high level of economic growth in 1960s, the stagflation in 1970s and the retrenchment of welfare state since 1980s. It also examines particularly the changing features of labour market and family life.

ECN200CA

社会経済学応用 B

原 伸子

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会経済学応用 B は社会経済学応用 A とともに、社会経済学基礎 A,B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、現代資本主義の社会経済構造を歴史的、理論的に分析する。社会経済学応用 A では現代資本主義の起点としての戦間期に焦点をあてた。それに対して社会経済学応用 B では、第二次大戦後をプレトンウッズ体制における高度経済成長期、70 年代のスタグフレーション期、そして 80 年代以降の福祉国家の変容の時期の三つにわけて授業をおこなう。とくに、国家の変容、労働市場の動向、家族の変容の諸問題に焦点をあてる。

【到達目標】

この講義では、現代資本主義の諸問題を取りあげて、それを理論的・歴史的に分析することを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。第二次大戦後から今日に至る日本経済に重点をおいて、統計資料なども用いながら、現実の社会を理解する。そして、私たちが生活する資本主義的経済のメカニズムを主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代資本主義の諸問題を取り上げる視点	国家、市場、家族の関係について
第 2 回	戦後福祉国家の論理	ベヴァリッジ報告とケインズの総需要管理政策
第 3 回	高度経済成長期の蓄積メカニズム	年代別に資料を見ながら歴史的展開を確認する
第 4 回	スタグフレーション (1)	プレトンウッズ体制の崩壊（通貨危機）と石油危機
第 5 回	スタグフレーション (2)	戦後初の世界恐慌、二つのコクサイ化
第 6 回	福祉国家の変容 (1)	小さな政府と新自由主義・新保守主義、民営化と市場化、規制緩和
第 7 回	福祉国家の変容 (2)	サッチャーリズムとレーガノミックス、96 年アメリカ福祉改革
第 8 回	労働市場の変容 (1)	労働分配率の動向、非正規労働、副業
第 9 回	労働市場の動向 (2)	労働時間の二分化、労働時間の二つの統計
第 10 回	家族の経済学 (1)	「新家庭経済学」、家族の性別分業と男女賃金格差、ジェンダー
第 11 回	家族の経済学 (2)	ケアの経済学。保育と介護の社会化。アンパイドワーク評価
第 12 回	労働と生活の調和 (1)	ワークライフバランスをめぐる論争
第 13 回	労働と生活の調和 (2)	各国のワークライフバランスの比較と論理
第 14 回	復習	これまでの講義の内容を整理して理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域でなにか起きているのかを知る。2. 授業で指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは用いない。

【参考書】

増田壽男・沢田幸治編『現代経済学と経済 [新版]』有斐閣、2007 年。
原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016 年。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（マークシート方式）80 %、平常点 20 %。成績評価基準については、最初の授業で具体的な説明を行う。なお、追試、再試は記述式問題である。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to investigate the features of contemporary capitalism after the post-World War II from the point of view of Marxian political economy. The lecture focuses on the accumulation pattern of the high level of economic growth in 1960s, the stagflation in 1970s and the retrenchment of welfare state since 1980s. It also examines particularly the changing features of labour market and family life.

ECN200CA
日本経済論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(1)	マクロ経済学の基礎(マクロ経済の循環・GDP・名目と実質)
第3回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(2)	古典派モデル(1) 基本モデル
第4回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(3)	古典派モデル(2) 拡張モデル(恒常所得仮説、開放経済モデル)
第5回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(4)	古典派モデル(3) 貨幣数量説、失業と労働市場
第6回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(5)	ケインズ・モデル(1) 所得支出モデル
第7回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(6)	ケインズ・モデル(2) IS-LM モデルと財政金融政策の効果
第8回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(7)	ケインズ・モデル(3) IS-MP モデル、開放経済モデル
第9回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(8)	消費関数・投資関数の理論
第10回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(9)	財政赤字(ドーマーの命題・リカードの等価定理)
第11回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(10)	経済成長論
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政政策の効果と限界、成長戦略
第14回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校までに習う数学（特に関数の演算と微分）の復習、講義内容の復習

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】

マンキュー『マンキュー経済学 II マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学 I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese economy, by using the approaches of macroeconomics.

This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN200CA
日本経済論 A
牧野 文夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本の経済発展」を主題に、日本の経済の戦後から現在までのあゆみを講義する。ただし講義の順は現在から過去に遡る。受講者は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学んでいることが望ましい。また経済史、日本経済史なども受講していると理解が進むであろう。

【到達目標】

日本経済の現状と将来展望を理解し、新聞やニュースの経済記事を興味をもって読めるような基本的知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

作成した PPT 資料に基づき、講義形式ですすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、アベノミクス	講義の枠組み、これまでのアベノミクスの評価について
2	東日本大震災、ユーロ危機と日本経済	東日本大震災とユーロ圏の債務危機が日本経済に及ぼした影響と意味について
3	グローバル化の進展とリーマンショック	中国、インドなど新興経済の発展、リーマンショックの日本経済への影響について
4	不良債権処理と小泉構造改革	金融機関の不良債権処理と小泉内閣時の構造改革について
5	デフレと失われた 20 年	1990 年代後半から 2000 年代半ばへ平成不況について
6	バブル崩壊と不良債権問題	不良債権問題の発生とその処理、労働市場の需給悪化について
7	バブル経済下の日本経済	1980 年代後半の資産バブルについて
8	レーガノミクスと円切り上げ	アメリカ経済の政策転換と日本経済に及ぼした影響について
9	オイルショックと高度成長の終焉	1970 年代のスタグフレーション下の日本経済について
10	高度成長 1	1960 年代の高度成長の原因と帰結について
11	高度成長 2	高度成長時代の国民生活の変化について
12	戦後改革 1	農地改革、財閥解体等の制度改革について
13	戦後改革 2	日本経済の再建、インフレ対策について
14	戦時統制経済	戦後の経済的枠組みを決定したともいわれる 1940 年代の統制経済について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること。授業で使う資料に必ず目を通す。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回の講義内容は授業支援システム上にアップロードする。

【参考書】

- ①南亮進『日本の経済発展（第 3 版）』東洋経済新報社。
- ②深尾・中村・中林編『講座 日本経済の歴史』第 5、6 巻、岩波書店。
- ③内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）など。

その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験で評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の最後に質問用紙を配布し、相互対話を深めたい。

【その他の重要事項】

現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

【Outline and objectives】

Economic development of Japan after WWII

ECN200CA
日本経済論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するための公共経済学(1)	市場の失敗と政府の役割
第3回	日本経済を理解するための公共経済学(2)	財政、国債市場
第4回	日本経済を理解するための公共経済学(3)	公共財
第5回	日本経済を理解するための公共経済学(4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第6回	日本経済を理解するための公共経済学(5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第7回	日本経済を理解するための公共経済学(6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第8回	日本経済を理解するための公共経済学(7)	租税の理論、物品税の帰着
第9回	日本経済を理解するための公共経済学(8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第10回	日本経済を理解するための公共経済学(9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第11回	日本経済を理解するための公共経済学(10)	公債の負担
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政赤字、世代間格差
第14回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校までに習う数学（特に関数の演算と微分）の復習、講義内容の復習

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将寛『財政学 15講』新世社
配布資料

【参考書】

スティグリッツ『公共経済学上』東洋経済
スティグリッツ『公共経済学下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese economy, by using the approaches of public economics.

This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN200CA
日本経済論 B
牧野 文夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済論 A の受講を前提にテーマごとに現在の日本経済の特徴、問題、課題をテーマ別に講義する。

【到達目標】

個別の分野ごとに日本経済の抱える問題、解決への手段を考察するための基本知識、そして当然のことながら、新聞の経済記事等が理解できるような基本知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業支援システムにアップロードした PPT 資料を使用して、講義形式ですすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、産業構造 (1)	ガイダンスおよび農業問題特に食料自給率について
2	産業構造 (2)	農業の経営構造と規模拡大政策、補助政策について
3	産業構造 (3)	製造業、IT 産業、研究開発について
4	金融システム (1)	部門別資金バランス、家計貯蓄
5	金融システム (2)	銀行の貸出行動と企業の資金調達について
6	財政 (1)	増大する政府債務、歳入・歳出構造、税制について
7	財政 (2)	政府債務、特別会計、中央・地方の財政関係、社会保障について
8	労働市場 (1)	最近の雇用問題、非正規労働の増大について
9	労働市場 (2)	賃金水準、賃金格差について
10	少子高齢化	晩婚化、少子化、高齢化問題について
11	対外経済関係 (1)	貿易構造の変化について
12	対外経済関係 (2)	対外投資、国際収支、TPP/FTA について
13	所得分配、社会階層と教育	経済格差のもたらす社会的弊害について
14	地域格差問題	大都市と地方の格差について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマが広いのでできる限り経済に関する毎日の新聞記事、ニュースなどを読んだり、聞いたりすること。
講義資料は事前に目を通す。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義資料は事前に授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

関係省庁の発行する白書類。

【成績評価の方法と基準】

定期試験によって評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の後に質問用紙を配布し、相互対話の機会を増やしたい。

【Outline and objectives】

Structure and problems of the Japanese economy

ECN200CA
国際経済論 A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade.

【到達目標】

The aim of this course is to introduce students to the study of the causes and effects of international transactions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

We will discuss the basic issues in international trade. Why do countries trade with each other? What do we import and export? What are the effects of trade policy? This course develops a systematic framework that will help us analyze these issues. To foster an understanding of the basic models, we consider real world examples. The lectures will be in Japanese, but the course materials and exams will be in English. Students are expected to be familiar with introductory microeconomics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	What is the definition of "international" transactions? Why are people against or for globalization?
2	Why do we trade? I (Gains from trade)	Surplus analysis (Consumer Surplus)
3	Why do we trade? II	Producer Surplus
4	Why do we trade? III	Gains from Trade
5	Market Structure and gains from trade I	Monopoly Market
6	Market Structure and gains from trade II	Gains from Trade in a Monopoly market
7	Trade Policy	What happens if we restrict trade?
8	Effects of tariffs and subsidies I	The case of import tariff
9	Effects of tariffs and subsidies II	Effects of Export Subsidies
10	What do we trade? (Understanding international trade (trade pattern and trade volume))	Comparative Advantage
11	Trade and factor endowments	Heckscher-Ohlin-Samuelson (HOS) model
12	Monopolistic Competition and Scale Economies	Krugman model
13	Strategic Trade Policy I	Basic Game Theory (Nash Equilibrium)
14	Strategic Trade Policy II	Export Subsidy

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read handouts before the class.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook.

【参考書】

Recommended materials are:

石井他著、入門・国際経済学、有斐閣

石川・菊池・椋著、国際経済学をつかむ、有斐閣

Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

Your grade will be determined by your performance at the final examination (100%).

【学生の意見等からの気づき】

There will be several exercises, which are useful for understanding the content of the course.

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する (All course materials will be distributed through the course website.)

【Outline and objectives】

This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade.

ECN200CA
国際経済論 A
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際貿易論の基礎理論を勉強します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、FTAやEPAなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。実際の貿易データにより、理論の現実への妥当性を推論できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを自分で書き込む形の空白のある配布資料を配布します。授業支援システムを利用して、12回の練習問題を解いてもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第2回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第3回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第4回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第5回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーモデルの仮定
第6回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第7回	グローバル経済の企業	輸出の判断と多国籍企業
第8回	貿易政策の基礎理論①	輸入関税の効果、費用と便益
第9回	貿易政策の基礎理論②	輸出補助金の効果
第10回	貿易政策の基礎理論③	輸入割当と輸出自主規制の効果
第11回	貿易政策の政治経済学	自由貿易をめぐる議論
第12回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第13回	地域貿易協定の効果	FTAが与える影響
第14回	貿易政策をめぐる論争	戦略的貿易政策

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業支援システムで出される12回の練習問題を提出する。参考文献を授業前に読んで準備学習をし、授業後はパワーポイント配布資料をもとに復習をする。

【テキスト (教科書)】

なし。

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ (山形浩生、守岡校訳) 『クルグマン国際経済学 理論と政策 [原書第10版] 上:貿易編』丸善出版、2017年
清田耕造・神事直人著 『実証から学ぶ国際経済』有斐閣、2017年

【成績評価の方法と基準】

12回の練習問題 (30%) と、期末に行う定期試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイント進捗などを気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら、授業を進めるよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements or Economic Partnership Agreements.

ECN200CA
国際経済論 B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

【Outline and objectives】

This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics.

【到達目標】

We intend to study the fundamental concepts and basic models of international finance.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

We will discuss the balance of payments, determinants of foreign exchange rate, and the effects of economic policy and exchange rate regimes. The lectures will be in Japanese, but the course materials and exams will be in English.

Students are expected to be familiar with introductory macroeconomics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Essential elements of international transactions
2	Basic elements of international finance	Exchange rate and National Income Accounts
3	The link between national economy and international market	I-S Balance and Current Account
4	Balance of Payments	Current account and financial account
5	Current account	Current account surplus and deficit in Japan and the US
6	The relationship between current account and financial account	cause and effect of international flows
7	More on exchange rate	Prices and exchange rates: Big-mac parity
8	Price and exchange rate	Purchasing Power Parity (PPP)
9	PPP violation I	Why does PPP violate?
10	PPP violation II	How to assess the issue of PPP deviation
11	An asset approach	Covered interest parity and uncovered interest parity
12	The impact of domestic money market	Money market and macroeconomy
13	Exchange rate regimes	Fixed exchange rate regime and Gold Standard
14	Monetary and fiscal policy in an open economy	A Keynesian approach (Review of IS-LM model)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read handouts before each class.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook.

【参考書】

Recommended materials are:

石井他著、入門・国際経済学、有斐閣

高木信二著、入門国際金融、日本評論社

Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

Your grade will be determined by your performance at the final examination (100%).

【学生の意見等からの気づき】

There will be several exercises, which are useful for understanding the content of the course.

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する (All course materials will be distributed through the course website.)

ECN200CA
国際経済論 B
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。授業支援システムを利用して、12回の練習問題を解いてもらい、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	国際収支表の項目	日本の国際収支表の見方
第2回	国際収支の記入方法	国際収支表の記入例
第3回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第4回	外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第5回	外国為替取引の種類	さまざまな外国為替取引
第6回	短期為替レート決定①	外国為替市場における需給の一致
第7回	短期為替レート決定②	金融政策と為替レート
第8回	短期為替レート決定③	先渡為替レートとリスク要因
第9回	長期為替レート決定①	絶対的、相対的購買力平価
第10回	長期為替レート決定②	実質為替レートと貿易
第11回	外国為替介入	外国為替市場介入の効果
第12回	為替とマクロ経済	マクロ経済政策の効果
第13回	最適通貨圏の理論	固定為替レートの範囲
第14回	通貨危機のモデル	第1世代、第2世代モデル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで出される12回の練習問題を提出する。参考文献を授業前に読んで準備学習を行い、授業後に配布資料の基づき復習をして、授業の理解を深める。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第10版）下：金融編』丸善出版、2017年
高木信二著「入門国際金融（第4版）」日本評論社、2011年

【成績評価の方法と基準】

12回の練習問題（30％）と、期末に行う定期試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

ECN200CA
財政学 A
天利 浩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学では、政策や財源の選択がもたらす効果を経済分析します。政府は、公害対策、道路等のインフラ整備や国防、景気を安定化させるための公共事業などの政策を実施します。財源の選択としては、税か公債発行か、さらに、所得税や消費税などの税の選択があり、歳出と歳入の両面で所得再分配を行います。

市場の機能を補完する政府の機能を確認した後、日本の財政事情を学習し、個別の市場における政策の効果や租税の基礎理論を学びます。

【到達目標】

民間部門と公的部門が、どのような役割分担をしているのか指摘できる。日本の予算や財政制度の仕組みを理解し、政府が直面している課題を指摘できる。政府の活動が、個人や市場に与える影響を分析するために、簡単な経済分析をできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義を行い、理解度を確認するため練習問題を解いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	財政学とは	大きな政府と小さな政府
2	市場の機能	消費者余剰、生産者余剰
3	政府の3機能	資源配分（市場の失敗）、所得再分配、経済安定化
4	財政制度1	公共部門、政府予算
5	財政制度2	財政収支、政府債務
6	予算制度	予算原則、予算の形式、予算の種類、予算編成
7	財政投融资	政府の金融的活動、費用便益分析
8	公共財1	公共財の定義、公共財の最適供給、ナッシュ均衡
9	公共財2	リンダール均衡、中位投票者定理
10	外部性	ピグー税、コースの定理
11	租税の基礎理論	租税の種類、租税原則、税率と課税ベース
12	個別物品税の効果	租税の帰着、超過負担
13	所得課税と消費課税	労働所得課税と消費課税の等価性
14	労働所得税の仕組み	所得控除、税額控除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などを用いて予習し、講義の後にも財政学の本などで理解を確認し、宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

『財政学15講』麻生良文、小黒一正、鈴木将寛著 新世社、2018年 2350円+税

【参考書】

財政学や公共経済学の教科書
『図説日本の財政 最新年度版』東洋経済新報社（ただし昨年、最新年度版が出版されていない。）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（100％）

【学生の意見等からの気づき】

つまづきの原因になる箇所がどこか気をつけながら講義します。

【Outline and objectives】

The activities of the government are considered to correct market failures and complement the market activities. Environment policies, the supply of public infrastructure and national defense are among such activities. A brief overview of the current situations of the Japanese government serves as our starting point from which we reconsider our relationships with the government. The current economic situation of the Japanese economy also requires the government to consider the long-term consequences of the mounting government debt and the pay-as-you-go pension system.

Basic economic analysis of government activities would show us their effects and consequences and give us some clues for implementing better policies.

ECN200CA
財政学 A
天利 浩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学では、政策や財源の選択がもたらす効果を経済分析します。政府は、公害対策、道路等のインフラ整備や国防、景気を安定化させるための公共事業などの政策を実施します。財源の選択としては、税か公債発行か、さらに、所得税や消費税などの税の選択があり、歳出と歳入の両面で所得再分配を行います。

市場の機能を補完する政府の機能を確認した後、日本の財政事情を学習し、個別の市場における政策の効果や租税の基礎理論を学びます。

【到達目標】

民間部門と公的部門が、どのような役割分担をしているのか指摘できる。日本の予算や財政制度の仕組みを理解し、政府が直面している課題を指摘できる。政府の活動が、個人や市場に与える影響を分析するために、簡単な経済分析をできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義を行い、理解度を確認するため練習問題を解いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	財政学とは	大きな政府と小さな政府
2	市場の機能	消費者余剰、生産者余剰
3	政府の3機能	資源配分（市場の失敗）、所得再分配、経済安定化
4	財政制度1	公共部門、政府予算
5	財政制度2	財政収支、政府債務
6	予算制度	予算原則、予算の形式、予算の種類、予算編成
7	財政投融资	政府の金融的活動、費用便益分析
8	公共財1	公共財の定義、公共財の最適供給、ナッシュ均衡
9	公共財2	リンダール均衡、中位投票者定理
10	外部性	ビグー税、コースの定理
11	租税の基礎理論	租税の分類、租税原則、税率と課税ベース
12	個別物品税の効果	租税の帰着、超過負担
13	所得課税と消費課税	労働所得課税と消費課税の等価性
14	労働所得税の仕組み	所得控除、税額控除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などを用いて予習し、講義の後にも財政学の本などで理解を確認し、宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

『財政学15講』麻生良文、小黒一正、鈴木将覚著 新世社、2018年 2350円＋税

【参考書】

財政学や公共経済学の教科書

『図説日本の財政 最新年度版』東洋経済新報社（ただし昨年、最新年度版が出版されていない。）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（100％）

【学生の意見等からの気づき】

つまづきの原因になる箇所がどこか気をつけながら講義します。

【Outline and objectives】

The activities of the government are considered to correct market failures and complement the market activities. Environment policies, the supply of public infrastructure and national defense are among such activities. A brief overview of the current situations of the Japanese government serves as our starting point from which we reconsider our relationships with the government. The current economic situation of the Japanese economy also requires the government to consider the long-term consequences of the mounting government debt and the pay-as-you-go pension system.

Basic economic analysis of government activities would show us their effects and consequences and give us some clues for implementing better policies.

ECN200CA
財政学 B
天利 浩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学では、政策や財源の選択がもたらす効果を経済分析します。政府は、公害対策、道路等のインフラ整備や国防、景気を安定化させるための公共事業などの政策を実施します。財源の選択としては、税か公債発行か、さらに、所得税や消費税などの税の選択があります。老後の生活を保障する公的年金は、財源調達の方法によっては世代間の所得再分配をもたらします。財政学 B は財政学 A の履修を前提とし、マクロ経済政策の効果や、税制や年金制度が個人の労働供給や消費などに与える影響を簡単な経済モデルで分析します。

【到達目標】

民間部門と公的部門が、どのような役割分担をしているのか指摘できる。日本の予算や財政制度の仕組みを理解し、政府が直面している課題を指摘できる。政府の活動が、個人や市場に与える影響を分析するために、簡単な経済分析をできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義を行い、理解度を確認するため練習問題を解いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	最適消費	無差別曲線、予算線
2	所得効果と代替効果	超過負担
3	労働所得税の効果	労働供給、超過負担
4	資本所得税1	ロックイン効果、利子所得税
5	資本所得税2	投資理論、法人税
6	個別物品税の帰着	価格弾力性、ラムゼイ・ルール
7	付加価値税	付加価値税の仕組み、日本の消費税
8	税制改革	所得課税から消費課税へ、二元的所得税
9	財政政策の効果1	乗数理論
10	財政政策の効果2	IS-LM 分析
11	財政の持続可能性	ドーマー命題
12	公債の負担	等価定理
13	公的年金	賦課方式、積立方式、日本の年金
14	地方財政	国と地方の役割分担、地域間財政調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などを用いて予習し、講義の後にも財政学の本などで理解を確認し、宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

『財政学15講』麻生良文、小黒一正、鈴木将覚著 新世社、2018年 2350円＋税

【参考書】

財政学や公共経済学の教科書

『図説日本の財政 最新年度版』東洋経済新報社（ただし昨年、最新年度版が出版されていない。）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（100％）

【学生の意見等からの気づき】

理解度を確認しながら、分かりやすい講義を心がけます。

【Outline and objectives】

The activities of the government are considered to correct market failures and complement the market activities. Environment policies, the supply of public infrastructure and national defense are among such activities. A brief overview of the current situations of the Japanese government serves as our starting point from which we reconsider our relationships with the government. The current economic situation of the Japanese economy also requires the government to consider the long-term consequences of the mounting government debt and the pay-as-you-go pension system.

Basic economic analysis of government activities would show us their effects and consequences and give us some clues for implementing better policies.

ECN200CA
財政学 B
天利 浩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財政学では、政策や財源の選択がもたらす効果を経済分析します。政府は、公害対策、道路等のインフラ整備や国防、景気を安定化させるための公共事業などの政策を実施します。財源の選択としては、税か公債発行か、さらに、所得税や消費税などの税の選択があります。老後の生活を保障する公的年金は、財源調達の方法によっては世代間の所得再分配をもたらします。財政学 B は財政学 A の履修を前提とし、マクロ経済政策の効果や、税制や年金制度が個人の労働供給や消費などに与える影響を簡単な経済モデルで分析します。

【到達目標】

民間部門と公的部門が、どのような役割分担をしているのか指摘できる。日本の予算や財政制度の仕組みを理解し、政府が直面している課題を指摘できる。政府の活動が、個人や市場に与える影響を分析するために、簡単な経済分析をできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義を行い、理解度を確認するため練習問題を解いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	最適消費	無差別曲線、予算線
2	所得効果と代替効果	超過負担
3	労働所得税の効果	労働供給、超過負担
4	資本所得税 1	ロックイン効果、利子所得税
5	資本所得税 2	投資理論、法人税
6	個別物産税の帰着	価格弾力性、ラムゼイ・ルール
7	付加価値税	付加価値税の仕組み、日本の消費税
8	税制改革	所得課税から消費課税へ、二元的所得税
9	財政政策の効果 1	乗数理論
10	財政政策の効果 2	IS-LM 分析
11	財政の持続可能性	ドーマー命題
12	公債の負担	等価定理
13	公的年金	賦課方式、積立方式、日本の年金
14	地方財政	国と地方の役割分担、地域間財政調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などを用いて予習し、講義の後にも財政学の本などで理解を確認し、宿題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

『財政学 15 講』麻生良文、小黒一正、鈴木将覚著 新世社、2018年 2350円＋税

【参考書】

財政学や公共経済学の教科書
『図説日本の財政 最新年度版』東洋経済新報社（ただし昨年、最新年度版が出版されていない。）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（100%）

【学生の意見等からの気づき】

理解度を確認しながら、分かりやすい講義を心がけます。

【Outline and objectives】

The activities of the government are considered to correct market failures and complement the market activities. Environment policies, the supply of public infrastructure and national defense are among such activities. A brief overview of the current situations of the Japanese government serves as our starting point from which we reconsider our relationships with the government. The current economic situation of the Japanese economy also requires the government to consider the long-term consequences of the mounting government debt and the pay-as-you-go pension system.

Basic economic analysis of government activities would show us their effects and consequences and give us some clues for implementing better policies.

ECN200CA
金融論 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて金融を学ぶ人を対象として、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説することを通じて、まず金融に興味を持ってもらい、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

この講義では、「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように、日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて、少し前にあたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において、今動いている金融の実態に即した up-to-date な金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように、金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには、それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。講義はプロジェクターを使って行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：金融とは何か	金融とは何か
第 2 回	金融取引とリスク	金融取引に伴うリスク
第 3 回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第 4 回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味
第 5 回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第 6 回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について
第 7 回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について
第 8 回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第 9 回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第 10 回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第 11 回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第 12 回	貨幣供給と流動性のわな	貨幣供給について
第 13 回	マネーストック	マネーストックとは何か
第 14 回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。現代経済学入門や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第 4 版（有斐閣、2011 年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがわかりますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の閲覧用資料の配布に授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200CA
金融論 A
高橋 秀朋
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】

本講義の目標は秋期の金融システムにおける諸問題を経済学のツールを利用して理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようになることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらう。そのため、講義では Excel を利用し講義中に身につけた知識が実際に適用可能であることを示していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融取引	金融取引における経済主体
2	金融の役割 1	異時点間の所得移転
3	金融の役割 2	異状態間の所得（リスク）移転
4	貨幣の時間価値 1	将来価値・複利計算
5	貨幣の時間価値 2	現在価値・割引
6	問題演習 1	貨幣の時間価値
7	リスク評価 1	2 状態モデルにおける分散化 (1)
8	リスク評価 2	2 状態モデルにおける分散化 (2)
9	リスク評価 3	4 状態モデル
10	債券価格	金利リスクと債券評価
11	株式評価	配当割引モデル
12	状態証券	保険・状態価格による資産評価
13	デリバティブ	状態価格によるオプション評価
14	問題演習 2	リスク資産評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では電卓を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、電卓もしくはスマホの電卓機能を利用できる環境下にあることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

F. Mishkin 『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』(Pearson Education, 2009)
※当該テキストの Part 2 が学習の対象

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験 100% として行う。試験は記述式の試験による。また、講義中にされた質問に答える等で加点することもあるが、当該加点を含めて 100% を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義の最後に行われる問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

電卓もしくは電卓機能のついたスマートフォン

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. I also show what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems from the perspective of economics/finance.

ECN200CA
金融論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、金融の基本的な仕組みを紹介し、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つのかを解説します。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生に、まず金融の面白さに触れてもらい、さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥獣図を描くことが困難になりつつありますが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。講義はプロジェクターを使って行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第 2 回	金融市場	短期金融市場について
第 3 回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第 4 回	外国為替市場	外国為替市場について
第 5 回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第 6 回	資産証券化	資産証券化とは何か
第 7 回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第 8 回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第 9 回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルーデンス政策について
第 10 回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティーネットについて
第 11 回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第 12 回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第 13 回	企業金融	企業の資金調達について
第 14 回	金融政策	金融政策の目的、手段、およびメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義まで分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。現代経済学基礎や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。

【テキスト（教科書）】

・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第 4 版（有斐閣、2011 年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末の定期試験（参照不可）によって成績を評価します（100%）。振り替え試験やレポート等による個別評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の閲覧用資料の配布に授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200CA
金融論 B
鈴木 誠
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得することにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。金融論Aの知識に加え、情報の経済学を利用して、金融における諸問題をより現実的な形で分析する。

【到達目標】

本講義の目標は、金融論Aで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。また、金融論において重要な分野の一つである中央銀行の役割および金融政策の意義についても触れ、その概要を理解することも本講義の目的である。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようにすることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示していく。本講義で扱うテーマが金融論Aに比べて複雑になるため、電卓等を利用する頻度は下がる。金融論Bではミクロ経済学に基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融の機能	金融市場概要
2	金融仲介機関	金融仲介の機能
3	不確実性と市場	不確実性とリスク
4	情報の非対称性 1	逆選択問題
5	情報の非対称性 2	モラル・ハザード
6	情報の非対称性 3	自己選択メカニズム
7	情報の非対称性 4	インセンティブ・メカニズム
8	問題演習 1	情報の非対称性
9	契約の不完備性 1	不完備契約における諸問題
10	契約の不完備性 2	金融仲介機関による再交渉
11	金融市場への応用	情報の非対称性と金融市場
12	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
13	銀行・金融規制	銀行・金融規制の経済分析
14	問題演習 2	契約の不完備性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

村瀬英彰『新エコノミクス 金融論』（日本評論社、2006年）

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』（Pearson Education, 2009）

※当該テキストの Part 3 および Part 4 が対象。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験 100% として行う。試験は記述式の試験による。また、講義中にされた質問に答える等で加点することもあるが、当該加点を含めて 100% を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義中の問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

電卓もしくは電卓機能のついたスマートフォン。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to introduce some concepts and frame works for Finance.

Students will be expected to examine real financial activities with Economic view point. In this lecture, we will employ the information theory and fundamental knowledge of Finance to recognize the real world.

ECN200CA
計量経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、古典的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、EXCEL をもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課す。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布
6	計量経済学のための確率論	2つ以上の事柄の確率変数 連続確率分布
7	統計学による推論	計量経済学で使う代表的な確率分布 統計的推論とは？
8	統計学による推論	標本平均の性質 標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか？ 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か？
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散
14	重回帰分析の基本	回帰分析後の検定 大標本理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計学を受講していることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】

山本拓・竹内明香 (2013) 「入門計量経済学— Excel による実証分析へのガイド (経済学叢書 Introductory)」 新井社
中室牧子・津川友介 (2017) 「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社
伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

When you take a course, you can explain a classical regression theory, read an empirical paper, conduct an empirical analysis with EXCEL, and consider our society with an independent perspective.

ECN200CA
計量経済学 B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、現代的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、R をもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか
2	計量経済学のための確率論	データの扱い方 不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	タミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差
9	操作変数法	誤差項が均一かどうか調べる 内生性の問題と対応
10	操作変数法	操作変数のモデル 誤った操作変数法を用いたら？ 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータ
12	パネルデータ分析	差の差の推定量
13	マッチング法	二期間パネルデータ 変量効果モデル 実験的手法の導入
14	回帰不連続デザイン	傾向スコアマッチング 「制度」の特徴を利用する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期の計量経済学 A を受講していることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】

星野匡郎, 田中久稔 (2016) 「R による実証分析 — 回帰分析から因果分析へ」オーム社
中室牧子・津川友介 (2017) 「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社
伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている R を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

When you take a course, you can explain a modern regression theory, read an empirical paper, conduct an empirical analysis with R, and consider our society with an independent perspective.

ECN200CD
企業と経済・応用 A
檜野 智子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「銀行中心のシステム」と「市場中心のシステム」を比較することにより、望ましい金融システムが備えるべき要件を学び、望ましい金融システムとは何かを考察する。この講義を受講することにより、金融システム全体の機能や役割について理解でき、個々の金融機関（銀行・証券・損保など）が金融市場の中でどのような役割を担っているのか理解することができる。

【到達目標】

- ・ファイナンス理論の基礎を習得する。
- ・金融取引を阻害する要因とその解決策を理解する。
- ・「銀行中心のシステム」と「市場中心のシステム」を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融とは	金融が経済で果たす役割
2	金融取引の阻害要因	情報の非対称性、逆選択、モラルハザード
3	金融取引の阻害要因	情報開示、情報生産、担保、資金調達手段の選択
4	金融取引の阻害要因	契約の不完備性、コントロール権の配分と所有権の取引
5	金融取引の阻害要因	企業統治の構造、企業買収の仕組み（レバレッジド・バイアウト）
6	金融取引の阻害要因	企業統治における負債契約の活用、事後的な競争の創出
7	金融市場と金融機関	一次市場と二次市場、流動性、証券会社、投資銀行、格付け機関
8	金融市場と金融機関	保険会社、年金基金、銀行、金融システムの型
9	銀行中心のシステム	委託された「モニター・交渉者・保険提供者」としての銀行
10	銀行中心のシステム	流動性創出者としての銀行
11	銀行中心のシステム	「銀行中心のシステム」の特徴と課題
12	市場中心のシステム	情報開示制度、投資家保護、コントロール権市場の活性化
13	市場中心のシステム	証券価格の「情報集計・伝達」機能、分散投資とデリバティブ
14	市場中心のシステム	市場の流動性、市場中心のシステムの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の復習を行った上で次回の講義に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

「金融論 第2版」村瀬英彰、日本評論社、2016年

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

講義前に授業支援システムから講義資料をダウンロードし、印刷したものを持参すること。

【その他の重要事項】

秋学期の「企業と経済・応用B」を履修する場合、春学期に「企業と経済・応用A」を履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

With the comparison of "bank-centered financial system" and "market-centered system", we can consider what the desirable financial system is and its requirements in this lecture. You can understand the functions and roles of the financial system as a whole and the roles of individual financial institutions (banks, securities, non-life insurers etc.) in the financial market.

ECN200CD
企業と経済・応用 B
檜野 智子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、従来型の銀行を中心とした金融システム（銀行中心のシステム）から、市場メカニズムをより効果的に機能させる資本市場を中心とした金融システム（市場中心のシステム）への移行が進んでいる。この授業では、市場中心のシステムの中で、金融に関わるプレーヤーがどのような影響を受け、どのように金融システムに関わっていくのかを中心に、望ましい金融システム改革を考察する。

【到達目標】

- ・金融システム改革が必要な理由を理解する。
- ・金融システムが変化の中で、金融機関の果たす役割を理解する。
- ・株価の変動が経営者の意思決定に与える影響を理解する。
- ・資産運用と金融システムの関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融システムの改革	投資機会の質的变化
2	金融機関と市場	証券化
3	金融機関と市場	資金調達手段の多様化
4	企業経営と市場	評価指標としての株価
5	企業経営と市場	市場との対話
6	資産運用と市場	戦略的代替性・補完性
7	資産運用と市場	依頼人・代理人問題
8	バブル	サブプライム・ローン問題とバブル
9	バブル	バブルの生成原因
10	バブル	バブルが実体経済にもたらす影響
11	バブル	バブルに依存しない金融の構築
12	ルールの多様性と内生性	法と金融
13	ルールの多様性と内生性	投資家保護
14	システム改革をめざして	市場の公正化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・前回の復習を行った上で次回の講義に臨むこと。
- ・「企業と経済・応用A」の内容を前提とした講義を行う。履修していない場合は「金融論 第2版」の1章から6章を授業開始前に自習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「金融論 第2版」村瀬英彰、日本評論社、2016年

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

講義前に授業支援システムから講義資料をダウンロードし、印刷したものを持参すること。

【その他の重要事項】

「企業と経済・応用A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】

In recent years, the financial system is changing from the conventional "bank-centered financial system" to "market-centered system", which increase the function of the market mechanism more effectively. This lecture mainly deals with how financial players will be involved in the new financial system, and we will consider desirable financial system reforms.

ECN200CA
現代ファイナンス入門A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

株式会社について理解し、株式の理論価格を計算することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

春学期は、株式の理論価格を題材にして、リターンを中心に学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第3回	事業循環	材料仕入れ、製造、販売、決算
第4回	財務諸表・事業計画	損益計算書、貸借対照表、改善ポイント
第5回	財務諸表分析	有価証券報告書
第6回	収益性の分析	資本利益率
第7回	安定性の分析	株主資本比率
第8回	デュボン・システム	株価と財務比率
第9回	株価の分解	EPSとPER
第10回	配当利回り	株価とDPS
第11回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第12回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第13回	株主資本の増加と配当の成長	サステナブル成長率
第14回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「授業支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通してください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社。
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社。
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline and objectives】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

ECN200CA
現代ファイナンス入門B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

リターンとリスクについて理解し、両者を計算で求め、投資判断に用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

秋学期はリスクを扱います。リスク管理に必要な、リスク指標の計算方法や、リスク分散を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第2回	インデックス運用	市場ポートフォリオ
第3回	アクティブ運用	成功の条件
第4回	複利	最初の数字の賭け、割り算距離
第5回	複利計算の頻度	半年複利、連続複利
第6回	確定利付証券	元本、クーポン
第7回	金利期間構造	期間構造仮説
第8回	リスク管理	金融工学の機能
第9回	分布	離散型と連続型
第10回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第11回	標準偏差と VaR	正規分布
第12回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第13回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第14回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「授業支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通してください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline and objectives】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

ECN200CA
経済データ分析 A
明城 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学・計量経済学を応用した経済データの分析

【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、パソコン上で Excel を使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使って Excel を用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いてレポートとして提出するものとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excel と統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メジアン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の計量化 ・ローレンツ曲線
6	関係の記述	・散布図 ・偏相関、時差相関、自己相関 ・相関関係と因果関係
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定	・仮説検定と有意水準 ・母平均・母分散に関する検定・推定 ・2 群比較
10	平均に関する群間比較	・分散分析 ・1 元配置法と 2 元配置法
11	外れ値の処理	・外れ値の検出 ・外れ値の処理
12	クロス集計と関連分析	・クロス集計表 ・独立性の検定
13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワトソン統計量
14	重回帰分析	・重回帰分析 ・ダミー変数

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC を使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

統計学の参考書としては
・「統計学入門」、東京大学教養学部統計学教室編、東京大学出版会
EXCEL の使い方やデータ分析については
・滝川好夫・前田洋樹「経済学のための Excel 入門」日本評論社

【成績評価の方法と基準】

宿題 (20%) と課題レポート (80%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを利用します。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in the exercise using PC and statistical software (EXCEL).

ECN200CA
経済データ分析 B
明城 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計パッケージを利用したより高度な経済データ分析

【到達目標】

秋学期の授業では、統計パッケージ R を用いた演習を行います。R の特徴は Excel よりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量経済学的手法を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説します。その後で実際に端末を利用して演習を行います。春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・R について ・基本的な設定
3	R の設定 (2)	・基本コマンド ・統計量の計算
4	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
6	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
7	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
8	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 1)	・クロスセクション・データ ・K 変数線形回帰モデル ・一般化古典的仮定
9	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 2)	・R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析 (クロスセクション・データ 3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析 (パネルデータ 1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	線形回帰分析 (パネルデータ 2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル
13	線形回帰分析 (パネルデータ 3)	・Hausman 検定
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期の経済データ分析 A に加えて、統計学と計量経済学を復習しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

R の操作やデータ分析については

- ・「R による統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店
- ・「R による計量経済分析」福地純一郎、伊藤有希、朝倉書店

計量経済学については

- ・山本拓「計量経済学」新世社

統計学の参考書としては

- ・「統計学入門」、東京大学教養学部統計学教室編、東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

宿題 (20%) と課題レポート (80%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使います。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】

Objectives of this course is to master advanced econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.

ECN200CD
経済地理
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、都市・地域経済の基礎と応用、産業の立地論、経済の空間構造、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	人口と経済成長①	人口構造と人口転換
第3回	人口と経済成長②	経済成長と発展格差
第4回	都市経済の基礎①	都市化と都市発展
第5回	都市経済の基礎②	都市内部構造と都市システム
第6回	産業の立地①	立地論の系譜とアプローチ
第7回	産業の立地②	工業立地論の枠組と応用
第8回	経済の空間構造①	日本の地域構造
第9回	経済の空間構造②	地域構造の比較制度分析
第10回	都市・地域経済の応用①	地域成長と地域間交易
第11回	都市・地域経済の応用②	地域間格差と人口移動
第12回	国土計画と地域政策①	戦後の国土・地域政策と地域間格差
第13回	国土計画と地域政策②	都市・地域問題の現状と新たな政策
第14回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野 潤果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会
 デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン 桐原 松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
 山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣
 竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

期末レポートの評価（80%）が中心となる。授業時アクションペーパー（平常点10%）、任意提出のレポート課題（10%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN200CD
産業集積論
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、産業の歴史と地理に焦点をあて、産業集積の盛衰メカニズムに開する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、現代産業における集積の実態を概説する。

【到達目標】

現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の姿について集積論の視点から多角的に論ずる。産業のみならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の中の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、上記の目的を達したい。授業は配布資料と板書を基本とする。予習は必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第3回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第4回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第5回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第6回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第7回	織物からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第8回	工業から「ものづくり」へ	加工組立型製造業とものづくり基盤技術
第9回	自動車大国日本の行方①	製品アーキテクチャーと集積
第10回	自動車大国日本の行方②	日本の生産システムとグローバル戦略
第11回	電子立国興亡史①	日の九家電・半導体の栄枯盛衰
第12回	電子立国興亡史②	産学連携とシリコンバレーモデル
第13回	知識経済化とグローカル・マーケティング時代	商品連鎖、クラスター、ネットワーク、イノベーション
第14回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣
 伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社
 橋川武郎ほか編（2014）『日本の産業と企業』有斐閣
 アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
 松原宏編（2018）『産業集積地域の構造変化と立地政策』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

期末レポートの評価（80%）が中心となる。授業時アクションペーパー（平常点10%）、任意提出のレポート課題（10%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a comprehensive survey of geographical agglomeration in industrial geography. Key themes focus on historical and geographical change, localization and globalization, and changing geographies of industries.

MAN200CA
コーポレートガバナンス論A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーポレート・ガバナンス論Aのテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解する。

【到達目標】

コーポレート・ガバナンス論Aの学習目標は、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネット、ビジュアル資料を通じて、豊富なデータベースを利用して、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてわかりやすく説明し、グループ課題を通じてレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	長期的に利益を生み出すためにコーポレート・ガバナンスは重要	コーポレート・ガバナンスの基礎概念と用語を解説する
第2回	所有と経営の分離	コーポレート・ガバナンスの原点
第3回	株主の権限	ビジュアル資料を用いてわかりやすく説明する
第4回	株主総会	ビジュアル教材で使って解説する
第5回	議決権行使	法律と実務を交えながら解説する
第6回	日本版スチュワードシップ・コード	英国との比較で日本の制度の変遷を説明する
第7回	機関投資家の議決権行使の個別開示	公表されたデータに基づいて機関投資家の議決権行使の実態を把握する
第8回	取締役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第9回	監査役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第10回	敵対的買収対策	事例を交えながら説明する
第11回	敵対的買収防衛策導入議案	なぜ海外機関投資家が反対票を投じるかを理解する
第12回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第13回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する
第14回	グループ課題	今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、各自に収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で試してください。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みたい。

【テキスト（教科書）】

テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著) 『日本のM&A』、東洋経済新報社
宮島英昭編 [2011] 『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社、近刊

【成績評価の方法と基準】

平常点とグループ期末課題レポートで評価する。全体評価＝平常点（30%）＋期末グループ課題レポート（70%）で評価。なお、成績評価にはグループ課題参加が必須。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析

【Outline and objectives】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn systems such as general shareholders' meeting, exercise of voting rights, stewardship code, individual disclosure of the exercise of voting rights by institutional investors, understand the relationship between exercise of voting rights and corporate governance using data.

MAN200CA
コーポレートガバナンス論 B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

【Outline and objectives】

The theme of Corporate Governance Theory B is choice of a Board of Corporate Auditors, or a committee such as audit etc., or a nominating committee etc., the board of directors, outside directors, executive compensation, stock options, corporate governance code.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーポレート・ガバナンス論 B のテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】

コーポレート・ガバナンス論 B の学習目標は、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードなどを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第 2 回	取締役会	規模、構成と独立性
第 3 回	監査役	監査役は目付役
第 4 回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第 5 回	指名委員会等設置会社	監督と執行の分離、独立社外取締役：米国の影響
第 6 回	取締役会の規模と執行役員制度	スマート＝効率？
第 7 回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第 8 回	監査等委員である取締役	監査等委員である取締役とその他の取締役の相違
第 9 回	代表取締役の選任と解任	誰が社長のくびをとるのか：監査役と取締役の違い
第 10 回	取締役の多様性	女性取締役と女性の活躍推進
第 11 回	業績連動報酬	ストックオプション、譲渡制限株式などの株価などの企業経営業績と連動する役員報酬
第 12 回	1 億円以上役員報酬の開示	1 億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第 13 回	日本版コーポレート・ガバナンス・コード	コンプライ・オア・エクスプレイン
第 14 回	グループ課題	今までの勉強の理解を確かめるために、収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で試してください。各自に収集したコーポレートガバナンス報告書等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本の M&A』、東洋経済新報社
宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社、近刊
参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】

平常点と期末課題レポートで評価する。全体評価＝平常点 (30%) + 期末グループ課題レポート (70%) で評価。最初の 1 回目や 2 回目で受講者をグループ分けする。なお、成績評価にはグループ課題参加が必須。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

CAR200CA
企業実務研究 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最新の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらふ。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ 8 人の商社マン等を予定している。自らのビジネス体験に基づいて講義していく。本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

【到達目標】

本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、講師と受講生によるクロストークの時間を設けるので、積極的に発言しなければならない。その上で、質疑応答と小レポートも毎回提出しなければならない。実務研究という科目の性格上、積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、私語や授業態度の悪い学生は論外である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（出席必須）	企業実務研究 A・B の概要とサマーインターンシップ実習について
第 2 回	中国のビジネス事情	「中国の合併事情」
第 3 回	ブラジルのビジネス事情	「ブラジルの物流事情」
第 4 回	インドのビジネス事情	インドのビジネス事業に関する講義
第 5 回	アメリカのビジネス事情	「アメリカの IT ベンチャーと事業投資」
第 6 回	中東のビジネス事情	「中東ビジネスの特異性」
第 7 回	ヨーロッパのビジネス事情	「欧州通貨統合と金融市場」
第 8 回	ロシアのビジネス事情	「中国ビジネスとの比較など」
第 9 回	アセアンのビジネス事情	「アセアン経済共同体（AEC）と事業投資」
第 10 回	その他	中央省庁の仕事（例）
第 11 回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第 12 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（1）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第 13 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（2）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第 14 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（3）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師が用意した資料を「授業支援システム」上で事前にアップロードするので、各自予習してくること。

【テキスト（教科書）】

各講師が用意するレジュメ

【参考書】

各講師のレジュメが講義の中心になるので、特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（100%）。私語厳禁。授業態度の悪い学生も不可とする。

※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認めない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究 B」を履修できる。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業評価アンケートで、インターンシップに関してのガイダンスが分かりにくかったという指摘を受けたので、インターンシップのガイダンスをわかりやすく、丁寧なことを心がける。

【その他の重要事項】

履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第 1 回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。

【Outline and objectives】

This course provides opportunities for students to investigate knowledge and theories learned in the classroom in connection with the international business.

CAR200CA
企業実務研究 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間中に企業（官公庁、NPO 等を含む）でインターンシップ実習に参加し、現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。

【到達目標】

インターンシップの経験をより具体的にわかりやすくプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討議することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。

参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討議する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要説明・報告スケジュールの確認
第 2 回	受講者による報告、討議①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①
第 3 回	受講者による報告、討議②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②
第 4 回	受講者による報告、討議③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③
第 5 回	受講者による報告、討議④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第 6 回	受講者による報告、討議⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第 7 回	受講者による報告、討議⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第 8 回	受講者による報告、討議⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第 9 回	受講者による報告、討議⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第 10 回	受講者による報告、討議⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第 11 回	受講者による報告、討議⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第 12 回	受講者による報告、討議⑪	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑪
第 13 回	受講者による報告、討議⑫	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑫
第 14 回	受講者による報告、討議⑬	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑬

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座』日経 BP 社、2009 年

【成績評価の方法と基準】

- ①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
 - ②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000 字、A4）（25%）
 - ③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
 - ④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない。）（25%）
- 派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。未手続き者は不可とする。
また、当然ながら、サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可とする。
※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

同一企業のインターンシップ参加者がかなり多数の場合の各自のプレゼンの仕方を工夫したい。

【その他の重要事項】

履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1 回目の講義に必ず出席すること。

【Outline and objectives】

This course provides opportunities for students to investigate knowledge and theories learned in the classroom in connection with the international business. Students should officially register for the summer internship in which they are completing the internship requirements.

POL200CA
国際関係論 A
富永 靖敬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は教員が作成したスライド（PDF）を用いて進めます。授業で用いるスライド等の資料は、講義前日までに授業支援システムからダウンロードできる状態にしておきます。なお、授業計画は進捗状況に応じて変更する可能性があります。変更がある場合は、授業中にアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際関係論とは	ガイダングス、国際政治学の起源
第 2 回	国際システムの歴史的成り立ち I	主権国家の拡大、第一次・第二次大戦、冷戦と熱戦
第 3 回	国際システムの歴史的成り立ち II	脱植民地化と民族紛争、グローバリゼーション
第 4 回	伝統的国際政治学の視点	リアリズム/勢力均衡論、リベラリズム/国際制度と国際協調
第 5 回	紛争と強調 I	利益（Interests）・相互作用（Interactions）・制度（Institutions）
第 6 回	紛争と強調 II	なぜ戦争は発生するのか、交渉の失敗としての戦争
第 7 回	第一次湾岸戦争	私的情報、情報の非対称性
第 8 回	核拡散問題	抑止理論、弱小国の論理、核不拡散条約（NPT）
第 9 回	同盟・集団安全保障体制	同盟とは、同盟の種類、同盟と戦争
第 10 回	国際機関	国際連合の形成、発展、機能
第 11 回	民主的平和論	観衆費用、情報伝達の効率性（意図・能力）
第 12 回	独裁政治	陽動理論、政治システムと政治的コスト
第 13 回	日本の安全保障	東アジアの国際政治環境、伝統的安全保障枠組みの遺産
第 14 回	復習と試験	講義全体を概観した後、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。講義毎にレジメを配布します。

【参考書】

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6
 鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5
 村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2
 山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800 円）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

期末試験（選択式・記述式）によって 100% の評価をする。試験内容は全て講義内容・資料から出題する。なお、試験は持ち込み不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This course introduces the essence of the theory of international relations. The Spring semester course pays particular attention to security studies. We first review traditional theories of international relations such as realism and liberalism, and critically analyze how those theories explain war and peace. After discussing the pros and cons of those theories, we next introduce the bargaining theory of war. To be specific, we address the following questions: regardless of the fact that war is ex-post inefficient in that it causes huge economic and human cost, why might war still occur? In addressing this question, we illustrate the three essential concepts: asymmetric information (private information), commitment problem, and issue divisibility. We elaborate those concepts through the actual cases such as the Gulf war and Iraq war. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

POL200CA
国際関係論 B
富永 靖敬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に国際貿易・金融・通貨といった国際経済をめぐる国家間関係に加え、冷戦後に頻発する内戦やテロリズムといった非国家主体をめぐる国際関係まで幅広く学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係論を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は教員が作成したスライド（PDF）を用いて進めます。授業で用いるスライド等の資料は、講義前日までに授業支援システムからダウンロードできる状態にしておきます。なお、授業計画は進捗状況に応じて変更する可能性があります。変更がある場合は、授業中にアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス、国際関係論 A の復習
第 2 回	紛争と強調	国内政治過程と国際関係
第 3 回	国際貿易	自由貿易（比較優位）、貿易制限、国際制度（WTO・GATT・RTA）
第 4 回	国際金融	海外直接投資、国際金融制度（IMF）
第 5 回	国際通貨	為替レート（変動相場制・固定相場制）、通貨をめぐる政府間レジーム
第 6 回	国内紛争 I	内戦（民族・イデオロギー・宗教）、統計資料でみる内戦
第 7 回	国内紛争 II	テロリズム、統計資料でみるテロ、テロの歴史的発展
第 8 回	国連 PKO	国連 PKO の形成・発展、PKO の効果
第 9 回	貧困と開発	資源の呪い（統計資料でみる天然資源）、国連の持続可能な開発
第 10 回	人権	人権規定、国家による人権の蹂躪、人権をめぐる国際合意
第 11 回	国際規範	国際規範の生成と伝播、非国家主体の影響
第 12 回	環境問題	環境破壊、自然災害、環境問題をめぐる国際制度
第 13 回	国際関係論の未来	大国の対立、グローバル化、グローバル・ガバナンス
第 14 回	復習と試験	講義全体を概観した後、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。講義毎にレジュメを配布します。

【参考書】

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6
 鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5
 村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2
 山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800 円）ISBN 978-4-8188-1720-3

【成績評価の方法と基準】

期末試験（選択式・記述式）によって 100% の評価をする。試験内容は全て講義内容・資料から出題する。なお、試験は持ち込み不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は、「国際関係論 A」を履修していることを前提としています。

【Outline and objectives】

This course introduces the other topics of international relations that are not covered in the Spring semester. While the International Relations A covers the theories particularly focusing on war and peace between sovereign states, this course illustrates varieties of topics from international political economy, non-traditional security such as civil wars and terrorism, politics over an environmental problem and human rights. In common with the Spring semester, the course pays particular attention to the causal mechanism and we illustrate those theories through the actual cases in history as many as possible. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states and non-state actors, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

CUA200CA
経済人類学 A
山本 真鳥
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

貨幣や市場が発達した社会（非市場社会）の経済の研究を通して、経済とは何かということを考察する。そこで得た概念や理論を市場社会にも応用する。経済人類学 A では、3 つのサブシステム社会の暮らし方とその経済のあり方、ならびに経済人類学の基礎概念を実例の中で解説する授業を行う。

【到達目標】

1) 経済人類学の基礎知識を身につける。2) 経済人類学の基礎概念を自分で説明できる。3) 経済人類学の基礎概念を用いて社会事象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の 4 日以前にアップするので、必ずプリントアウトを持参して受講のこと。資料は未完成で、受講しながら完成する。未完成部分は授業でしか公開しない。他に映像や画像も見せる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経済人類学の考え方	貨幣と市場のない経済
第 2 回	サブシステム経済①	採集狩猟民の技術と食料獲得
第 3 回	サブシステム経済②	焼畑農耕民の技術と食料生産
第 4 回	サブシステム経済③	牧畜民の技術と食料生産
第 5 回	労働と生産組織	サブシステムのかたちに応じて異なる生産組織
第 6 回	ジェンダー役割分担	もともとも古い家族内分業のひとつ
第 7 回	生産財の所有と相続	土地制度と社会制度
第 8 回	贈与	贈り物の社会 = 経済学
第 9 回	互酬性	お互い様で作る社会関係、経済関係
第 10 回	経済システムと社会構造	互酬性、再分配、市場交換
第 11 回	未開人は合理的か？	経済人モデルの普遍性を問う
第 12 回	農民社会の経済	コモンズ、労働交換、つきあい等々を検討
第 13 回	モラル・エコノミー	友愛の経済活動
第 14 回	経済人類学の基礎	基礎概念の理解と持続的発展のために

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムの教材箇所にアップした教科書の関連部分を読む。それぞれの回に対応する予習復習資料（授業支援システムの教材）を読んで、予習ないしは復習を行う。

【テキスト（教科書）】

断片的ながら、基礎的概念の書かれている部分を授業支援システムの教材の教科書の箇所にアップするので、それをもってテキスト（教科書）とする。

【参考書】

授業支援システムの教材の箇所にアップした予習復習資料を利用して、予習復習に充てること。その他は授業内で毎回紹介。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 60%。学期の中間に出題するレポート（第 6 回に出題、締切厳守 2 週間半後）は 20%。随時行う授業内小テストで 20%（不定期に 4 回）。総計 60%以上を合格とする。小テストは、知識や概念の理解度を試すもの。レポートは概念を用いた思考力を試すもの。試験は知識・概念の理解度と概念を用いた思考力の両方を試すもの。レポートは授業支援システムでも出題し回収も同システムで行う。

【学生の意見等からの気づき】

開始時間に遅れないようにする。リラックスして授業をする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。同システムを通じて配布する授業資料を毎回プリントアウトして持参のこと。

【その他の重要事項】

授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。小試験のあるときは授業時間終了 30 分前にドアに鍵をかける。それ以後の出入は認めない。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to consider the question what is economy, examining economy of non-market societies where money and market are underdeveloped. The concepts and theories obtained will be utilized in the analyses of market societies. In Economic Anthropology A, students will learn the way of life and economy in subsistent societies and the basic terms and concepts.

CUA200CA
経済人類学 B
山本 真鳥
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

貨幣や市場が発達した社会（非市場社会）の経済の研究を通して、経済とは何かということを考察する。そこで得た概念や理論を市場社会にも応用する。経済人類学 B では、前半は歴史上の社会も含めて非市場経済の経済現象を春学期で学んだ基礎概念を用いて分析する授業を行い、後半には現代の事象に経済人類学の視角の応用を図る。

【到達目標】

1) 経済人類学のやや難度の高い知識を身につける。2) 経済人類学の概念を自分で説明できる。3) 経済人類学の概念を用いて、非市場社会や現代社会の事象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の 4 日以前にアップするので、必ずプリントアウトを持参して受講のこと。資料は未完成で、受講しながら完成する。未完成部分は授業でしか公開しない。他に映像や画像も見せる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	儀礼交換の諸形態①	西太平洋のクラ交換の VTR
第 2 回	儀礼交換の諸形態②	経済的に意味のない交換はなぜ？
第 3 回	再分配と首長制/王権	トンガ王国の構造
第 4 回	貨幣と交換財①	特定目的貨幣・全目的貨幣
第 5 回	貨幣と交換財②	コミュニティと通貨の資本主義
第 6 回	市場（いちば）の経済人類学	バザール経済論
第 7 回	長距離交易	市場交換の原初形態
第 8 回	植民地主義と開発	辺境社会の開発とその障がい
第 9 回	開発とジェンダー	貧困の女性化と女性の開発参加
第 10 回	資本主義経済と文化	企業文化と労働の組み立て
第 11 回	地域通貨と疑似通貨	コミュニティと通貨
第 12 回	移民コミュニティの経済①	アメリカ合衆国のエスニック集団形成史
第 13 回	移民コミュニティの経済②	エスニック・ビジネス
第 14 回	経済人類学の応用	経済人類学の視角と現代社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムの教材の箇所に教科書と各回に対応する予習復習資料をアップしてあるので、これらを用いて予習ないしは復習を行う。

【テキスト（教科書）】

断片的ながら、基礎的概念の書かれている部分を授業支援システムの教材にアップするので、それをもってテキスト（教科書）とする。

【参考書】

授業支援システムの教材の箇所にアップした予習復習資料を利用して、予習復習に充てること。その他は授業内で毎回紹介。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 60%。学期の中間に出題するレポート（第 6 回に出題、締切厳守 2 週間半後）は 20%。随時行う授業内小テストで 20%（不定期に 4 回）。総計 60%以上を合格とする。小テストは、知識や概念の理解度を試すもの。レポートは概念を用いた思考力を試すもの。試験は知識・概念の理解度と概念を用いた思考力の両方を試すもの。レポートは授業支援システムでも出題し回収も同システムで行う。

【学生の意見等からの気づき】

開始時間に遅れないようにする。リラックスして授業をする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを多用するので、必要場合は仮登録を行うこと。同システムを通じて配布する授業資料を毎回プリントアウトして持参のこと。

【その他の重要事項】

授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。小試験のあるときは授業時間終了 30 分前にドアに鍵をかける。それ以後の出入は認めない。

【Outline and objectives】

The purpose is to consider the question what is economy, examining economy of non-market societies where money and market are underdeveloped. The concepts and theories obtained will be utilized in the analyses of market societies, too. In Economic Anthropology B, economic phenomena of historical non-market societies will be analyzed with the basic concepts learned in A in the first half of the course and modern economy will be analyzed in the perspective of Economic Anthropology in the later half of the course.

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第2回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第3回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第4回	外部性②	課税政策。
第5回	外部性③	ビグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第6回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第7回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第8回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第9回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM、HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第14回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【参考書】

ターナー・ピアス・ペイトマン著（大沼あゆみ訳）『環境経済学』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %，期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第2回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第3回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第4回	外部性②	課税政策。
第5回	外部性③	ビッグ税政策とポーモル=オーツ税政策
第6回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第7回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第8回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第9回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM、HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第14回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【参考書】

ターナー・ピアス・バイトマン著（大沼あゆみ訳）『環境経済学』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類。「ごみ」の定義。経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ。廃棄物経済学の整備に向けて。最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生。廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等。個別リサイクル法。3 R の優先順位。2つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化。埋立税・産業廃棄物税、有害物質への税・課徴金。特定製品への税・課徴金。デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開。短期的政策、中長期的政策の位置づけ。地域特性に即したきめ細かい政策。環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済。経済成長と動脈部門・静脈部門。静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-
第9回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP。汚染者負担原則。ビッグ税と負担の帰着
第10回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担。EPR の物理的責任と金銭的責任
第11回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済。不法投棄と不適切処理の経済的動機
第12回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論。容器包装リサイクル法
第13回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法。PC リサイクル・システム。携帯電話リサイクル・システム。小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッズとバズの経済学 第2版』東洋経済新報社。

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, we will take up the "economics of waste and recycling" which is remarkable theoretical development and deepen the understanding of basic concepts and methods of standard environmental economics.

ECN200CA

環境経済論 B

松波 淳也

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類、「ごみ」の定義、経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ、廃棄物経済学の整備に向けて、最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生、廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等、個別リサイクル法、3 R の優先順位、2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化、埋立税・産業廃棄物税、有害物質への税・課徴金、特定製品への税・課徴金、デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開、短期的政策、中長期的政策の位置づけ、地域特性に即したきめ細かい政策、環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済、経済成長と動脈部門・静脈部門、静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想、逆工場の考え方、「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-	市場リサイクルの条件、動脈と静脈の相互関係、規制と公共関与、企業のインシヤティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP、汚染者負担原則、ピグー税と負担の帰着
第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担、EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済、不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論、容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法、PC リサイクル・システム、携帯電話リサイクル・システム、小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッズとバツズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社。

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, we will take up the "economics of waste and recycling" which is remarkable theoretical development and deepen the understanding of basic concepts and methods of standard environmental economics.

ECN200CD

経済地理 A

近藤 章夫

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、都市・地域経済の基礎と応用、産業の立地論、経済の空間構造、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	人口と経済成長①	人口構造と人口転換
第 3 回	人口と経済成長②	経済成長と発展格差
第 4 回	都市経済の基礎①	都市化と都市発展
第 5 回	都市経済の基礎②	都市内部構造と都市システム
第 6 回	産業の立地①	立地論の系譜とアプローチ
第 7 回	産業の立地②	工業立地論の枠組と応用
第 8 回	経済の空間構造①	日本の地域構造
第 9 回	経済の空間構造②	地域構造の比較制度分析
第 10 回	都市・地域経済の応用①	地域成長と地域間交易
第 11 回	都市・地域経済の応用②	地域間格差と人口移動
第 12 回	国土計画と地域政策①	戦後の国土・地域政策と地域間格差
第 13 回	国土計画と地域政策②	都市・地域問題の現状と新たな政策
第 14 回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野綱果（2000）『世界の人口（第 2 版）』東京大学出版会
 デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第 2 版）』ピアソン桐原
 松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
 山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第 3 版）』有斐閣
 竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポートの評価（80%）が中心となる。授業時リアクションペーパー（平常点 10%）、任意提出のレポート課題（10%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN200CD
経済地理 B
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	集積論の系譜①	A.Weber と A.Marshall の集積論
第3回	集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
第4回	現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリークラスタ理論とネットワーク論
第5回	現代の集積論②	経済成長と集積の関係
第6回	経済学と集積①	空間経済学と集積
第7回	経済学と集積②	産地と企業城下町
第8回	日本の都市・産業集積①	都市集積とネットワーク型集積
第9回	日本の都市・産業集積②	JIT 生産システムと近接性
第10回	自動車産業の集積①	日本的生産システムの海外展開
第11回	自動車産業の集積②	シリコンバレーモデルと産学連携
第12回	ハイテク産業の集積①	知識経済とイノベーション
第13回	ハイテク産業の集積②	経済学における集積論の現在
第14回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
山本健児（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポートの評価（80%）が中心となる。授業時リアクションペーパー（平常点 10%）、任意提出のレポート課題（10%）なども最終評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of industrial agglomeration in economic geography. Key themes focus on innovation, technological and managerial change, productivity, creativity, globalization, and changing geographies of spatial convergence.

ECN200CA
アメリカ経済論 A
河村 哲二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、A、B を通して、パックス・アメリカナの盛衰という長期的視点に立って、第二次大戦後、世界経済をリードしたアメリカ経済の発展構造の特質と問題点を解明し、そうした長期的・総合的な視点にたつて、2000 年代末のアメリカ発のグローバル金融危機・経済危機、さらに最近の「トランプ現象」など、日本経済・世界経済の動向の理解に不可欠なアメリカ経済の現状と課題について理解を深める。

【到達目標】

アメリカ経済論 A では、アメリカ経済の長期的な発展構造の変遷とその特質を学び、1970 年代を境にした戦後パックス・アメリカナ全盛期の構造からの大きな再編と転換がアメリカおよび世界にもつ意味を、長期・歴史的な視点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、スライドを掲示し、テキスト『現代アメリカ経済』と『アメリカ経済入門』を随時使用して進める。受講生は WEB 公開される講義スライド・その他の資料をダウンロードし、テキスト・参考書とともに、講義中および予習・復習を利用して学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	アメリカ経済論を学ぶ意義。
第2回	序論 アメリカの社会経済的特質と歴史過程	歴史的發展過程にみるアメリカの特質。
第3回	第1章 第一次大戦前の経済発展とその特徴	植民地期から独立革命・南北戦争に至る経済発展のプロセスと特徴。
第4回	1. 初期の経済発展 2. 国民経済の発展	南北戦争に至る経済発展の特徴（国土形成・産業革命・国民経済の形成）。
第5回	3. 工業・農業発展と「ビッグビジネス」の登場	南北戦争後の工業・農業発展と「ビッグビジネス」の登場。
第6回	第2章 戦間期	戦間期前半期の経済発展（「永遠の繁栄」と「大恐慌」）。
第7回	1. 第一次大戦と 1920 年代	2. 株主ブームの発展と世界経済的不均衡
第8回	3. 世界大恐慌とニュー・ディール	世界大恐慌の発生とニューディール政策の登場。
第9回	(1) ニュー・ディール (2) ニュー・ディールの限界と 1937 年恐慌	ニューディール政策の限界。
第10回	第3章 戦後パックス・アメリカナの形成	第二次大戦戦時経済と戦後パックス・アメリカナの形成。
第11回	1. 第二次大戦期戦時経済	戦時経済システムの概要とその特徴。
第12回	(1) 戦時経済システムによる経済発展と制度転換	戦時経済下の制度構造・システム転換。
第13回	2. 戦後パックス・アメリカナシステムの登場	戦後「持続的成長」のメカニズムの形成（国内体制）。
第14回	(1) 「持続的成長」の国内システムの登場 (2) 「持続的成長」の世界政治経済システムの形成	戦後「持続的成長」のメカニズムの形成（パックス・アメリカナの世界政治経済体制）。
	講義内容のまとめ	戦後パックス・アメリカナの確立の歴史的意義。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライド資料とテキストの当該箇所の予習・復習をする。そのなかでテキスト『現代アメリカ経済』の章末練習問題の解答を作成する。

【テキスト（教科書）】

河村哲二著『現代アメリカ経済』（有斐閣、2003 年）、河村哲二・弘兼憲史著『アメリカ経済入門』（幻冬舎、2009 年）。

【参考書】

テキスト『現代アメリカ経済』各章末の参考文献一覧から適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、主に期末筆記試験によって評価する（90%）。これに課題レポートの評価を加味する（10～20 点の範囲で筆記試験結果に加点）（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義スライド資料における各種の画像資料の提示や図式化が、大きく理解を助けるとして好評なため、引き続き拡充を図る。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

秋学期のアメリカ経済論 B とあわせて履修すること。

【担当教員の専門分野等】

理論経済学 アメリカ経済論・グローバル経済論

【Outline and objectives】

This lecture elucidates the specific futures of the U.S. post-war economy that lead the world economy, from a long-term perspective of its historical development. Through the whole lecture of A and B, it aims at deepening the understanding of the contemporary states and problems of the U.S. economy in the 2000s. It discusses the important topics of the current issues of the U.S. economy, including the global financial and economic crisis in the late 2000s and the "Trump phenomenon".

ECN200CA

アメリカ経済論 B

河村 哲二

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後バックス・アメリカナの衰退・転換とアメリカ経済の「グローバル資本主義化」という視角から、1980年代以降のアメリカ経済の現状と問題点を解明し、アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機の問題、さらに「トランプ現象」と関連したバックス・アメリカナの変容の行方を展望する。

【到達目標】

春学期のアメリカ経済論 A の講義を受けて、1970年代を境にグローバル化を通じた「グローバル成長連関」の出現によって新しい経済発展の構造が登場したアメリカ経済が、アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機によってさらに大きな変容を遂げようとしていることを、歴史的な背景とともに学び、アメリカおよび世界経済の現状と今後の行方を展望することを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、講義計画にそって、スライドを提示しながら進める。受講生は、アップロードされたスライド講義資料とその他参考文献を講義中および予習・復習に利用して学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論 戦後バックス・アメリカナの衰退と転換	戦後バックス・アメリカナの衰退と転換と経済グローバル化の意義。
第2回	第1章 戦後バックス・アメリカナ 1. 戦後「持続的成長」システムの特徴 (1) 戦後企業体制と政府機能	戦後バックス・アメリカナの「持続的成長」のシステムの特徴：戦後企業体制と政府機能/世界編成。
第3回	2. 戦後世界の政治経済システム	国際通貨体制・通商体制・軍事的枠組み。
第4回	3. 戦後バックス・アメリカナの衰退と転換	内在的問題の発展と衰退。
第5回	(1) 「レーガノミックス」	1980年代以降のアメリカ経済の変容と「レーガノミックス」。
第6回	(2) 金融の変容	金融革新・「ファイナンスチャリゼーション」の展開。
第7回	(3) 企業体制・労使関係の転換	戦後企業体制の転換とグローバル化。
第8回	3. 「グローバル成長連関」の発展 (1) グローバル・シティ	「グローバル・シティ」の重層的発展。
第9回	(2) 「新帝国循環」と金融的発展	アメリカを中心とする国際的資金循環と金融的発展の特徴。
第10回	4. 1990年代の長期好況 (1) IT革命とニューエコノミー	1990年代長期好況・「ITブーム」とその限界。
第11回	(2) アメリカ発のグローバル金融危機・経済危機 ① 「シャドウバンキング・システム」と住宅ブーム	「住宅ブーム」のメカニズムと「サブプライム問題」の発展。
第12回	② グローバル金融危機の展開	グローバル金融危機・経済危機のプロセスと影響。
第13回	③ 緊急景気対策	緊急景気対策の特徴と限界。
第14回	5. 経済回復過程の特徴と問題点 まとめと展望	アメリカ経済の回復過程の現状。講義の総括とバックス・アメリカナの行方の展望。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライド資料とテキストの当該箇所を用い、参考文献・Web検索なども活用して予習・復習をする。課題レポートで中間的なまとめを行う。

【テキスト（教科書）】

河村哲二著『現代アメリカ経済』（有斐閣、2003年）／河村哲二・弘兼憲史著『知識ゼロからのアメリカ経済入門』（幻冬舎、2009年）。

【参考書】

『現代経済の解説（第3版）』（御茶の水書房、2017年）、『グローバル金融危機の衝撃と新興経済の変貌』（ナカニシヤ出版、2018年）、および、テキスト『現代アメリカ経済』各章末の参考文献・その他から講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

主に期末筆記試験によって評価する(90%)。これに課題レポートの評価を加味する(10~20点の範囲で筆記試験結果に加点)(10%)。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料における各種画像資料の提示や図式化を引き続き拡充する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

春期開講のアメリカ経済論 A とあわせて履修する。

【Outline and objectives】

Following the discussions in the lecture of the U.S. Economy A, this lecture aims at elucidating specific features and the problems of the U.S. economy after the 1980s, from a perspective of the decline and transfiguration of the postwar Pax Americana system and its transformation into the "Global Capitalism", including the U.S. centered global financial and economic crisis and the "Trump Phenomenon", thereby giving a prospect of the future of the Pax Americana system.

ECN200CA

ヨーロッパ経済論 A

進藤 理香子

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

第二次大戦の敗戦後、東西分断という困難の下で復興を遂げたドイツは、1990年の再統一を経て今日欧州トップの経済大国へと成長した。本講は欧州経済統合の礎となる 1945 年から 80 年代半までのヨーロッパの社会経済的發展を東西ドイツの軌跡及び冷戦期の国際関係から考察することを目的とする。

【到達目標】

第二次大戦後の世界情勢、とりわけ米ソ冷戦体制とヨーロッパ経済統合の歴史のプロセスを理解する。また今日の欧州連合に受け継がれる西ドイツ社会的市場経済概念を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・一講義ごと主要テーマを設定し、必要に応じてレジュメを配布。
- ・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現代欧州社会におけるドイツの位置	ドイツ問題を中心に戦後ヨーロッパの発展を学ぶ意義について。
第 2 回	第二次大戦終結と連合占領政策	連合国によるドイツ四か国分割統治と占領政策(非軍事化、賠償、国境問題、ニュルンベルク裁判)を学ぶ。
第 3 回	マーシャルプランと西ヨーロッパの経済復興	アメリカ主導の復興支援、トルーマン・ドクトリンと東西陣営形成を見る。
第 4 回	通貨改革と東西ドイツ	東西占領地区相異なる通貨改革によるドイツの政治的、経済的分断の過程を見る。
第 5 回	ドイツ連邦共和国アデナウアー政権と冷戦体制	西ドイツ国際社会への復帰と安全保障問題、米ソ冷戦構造を把握する。
第 6 回	西ドイツ社会的市場経済と経済相エアハルト	社会的市場経済、その理論的背景と西ドイツにおける実践に関し学ぶ。
第 7 回	西ドイツ経済の奇跡	高度経済成長、大衆消費社会と生活水準の向上について見る。
第 8 回	石炭・鉄鋼問題と西ヨーロッパの協調	フランスとドイツの歩み寄り、欧州石炭鉄鋼共同体の結成について学ぶ。
第 9 回	ヨーロッパ市場統合の模索	独仏主導の欧州経済共同体と、英国・北欧諸国主導の欧州自由貿易連合について見る。
第 10 回	ヨーロッパ福祉国家の諸モデル	イギリス、スウェーデン、西ドイツを例に欧州福祉国家概念を学ぶ。
第 11 回	ドイツ民主共和国とベルリンの壁	ソ連・東欧社会主義体制、東ドイツを考察する。
第 12 回	西ドイツ・ブランド首相の東方政策	欧州東西対立における転機となった西ドイツ新東方外交、全欧安全保障協力会議への道を見る。
第 13 回	ブレトン・ウッズ体制の崩壊とオイルショック	高度経済成長の終焉、70 年代世界経済の停滞と西欧、東欧の状況を見る。
第 14 回	ケインズ主義から新自由主義へ	英国サッチャー政権の小さな政府に代表される 80 年代新自由主義的政策の潮流を見る。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・数回に一回、レポートの提出を求める。
- ・参考文献として挙げたテキストにとらわれず、独自に関連分野の書物を開拓し、戦後ヨーロッパの発展に関する学問的関心を高めることを希望する。

【テキスト(教科書)】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、あるいはプリントを配布する。

【参考書】

- ・W・アーベルスハウザー著、酒井昌美訳『現代ドイツ経済論：一九四五～八〇年代にいたる経済史的構造分析』朝日出版社、1994 年
- ・猪木武徳『戦後世界経済史：自由と平等の視点から』中央公論新社、2009 年
- ・戸原四郎、加藤栄一編『現代のドイツ経済：統一への経済過程』有斐閣、1992 年
- ・古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会、2007 年

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、レポート 50%。レポート未提出者は試験受験資格無し。

【学生の意見等からの気づき】

対象の理解、習熟度を高めるため、レポート、試験共に論述を重視。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to study the socio-economic and political developments in Europe from 1945 to the mid-1980s, mainly during the Cold War period, in an historical perspective. Particular interest will be paid to the development of Germany which was divided into two states, in the West and in the East, after the country's defeat in World War II.

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 B
進藤 理香子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1980年代末から90年代初頭、ソ連型社会主義は東欧全土へ拡大した大衆抗議運動を前に終わりを遂げた。本講は80年代から現在に至るヨーロッパ情勢に関し、東欧革命、冷戦の終結、ドイツ再統一からヨーロッパ連合の成立、EU東方拡大の流れにおいて跡付けつつ、今日なお変容を続けるEUの政策と実践に関し考察する。

【到達目標】

冷戦と東西陣営対立の終焉が世界経済に及ぼした影響を理解する。欧州連合(EU)の成立に関し、欧州単一市場形成・通貨統合、EU独自のガバナンスを理解する。EU諸国の均一性と多様性を把握し、域内のみならず域外に対し今後EUが担うべき課題を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・一講義ごと主要テーマを設定し、必要に応じてレジュメを配布。
- ・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会主義体制、停滞から改革へ	ソ連のグラスノスチとペレストロイカ。チェルノブイリ原発事故と東欧被災、体制への不信の高まりなどを見る。
第2回	1989年東欧革命	東欧社会主義諸国（ポーランド、ハンガリー、チェコスロバキア、バルト三国他）の民主化運動から冷戦終結まで。
第3回	東ドイツ平和革命	ベルリンの壁崩壊をもたらした東ドイツ民主化運動と社会状況について。
第4回	ドイツ再統一と国際関係	統一の前提条件となった連合国及び周辺国による承認問題（ドイツ最終規定条約、東部国境問題）。
第5回	ドイツ東西経済格差と統一の負担	移行期の負担、旧東独の政治的清算など統一に伴う諸問題を考察する。
第6回	ヨーロッパ共同体からヨーロッパ連合へ	単一市場形成、単一欧州議定書、マーストリヒト条約に関し学ぶ。
第7回	経済通貨統合と欧州中央銀行	欧州通貨統合、単一通貨ユーロ導入までの過程を学ぶ。
第8回	ヨーロッパ連合の機構と運営	欧州理事会、欧州議会など根幹となる組織とEU独自のガバナンスを学ぶ。
第9回	ヨーロッパ連合の東方拡大	東欧旧社会主義諸国の移行経済とEU加盟条件をめぐる議論に関し見る。
第10回	ヨーロッパ連合加盟諸国の経済・社会構造	EU各国の特色、経済力格差、社会の均一性と多様性について考える。
第11回	ヨーロッパ連合の通商と農業問題	共通通商政策（関税同盟）、共通農業政策（補助金政策）について見る。
第12回	ヨーロッパ連合のエネルギー・環境問題	EUエネルギー市場統合の模索を通商産業、環境政策との関連で見ると見る。
第13回	ヨーロッパ連合の共通外交、安全保障問題	国際紛争への対応、国連及びNATOとの協調に関し見る。
第14回	ヨーロッパ連合の労働市場と難民問題	労働者移動と域外からの流入、難民受け入れ大国ドイツの社会問題等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・数回に一回、レポートの提出を求める。
- ・参考文献として挙げたテキストにとらわれず、独自に関連分野の書物を開拓し、現代ヨーロッパの発展に関する学問的関心を高めることを希望する。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、あるいはプリントを配布する。

【参考書】

- ・遠藤乾『欧州複合危機』中央公論新社、2016年
- ・小川和男『東欧：再生への模索』岩波書店、1995年
- ・庄司克宏『欧州連合：統治の論理とゆくえ』岩波書店、2007年
- ・戸原四郎、加藤榮一、工藤章編『ドイツ経済：統一後の10年』有斐閣、2003年
- ・羽場久美子、溝端佐登史『ロシア・拡大EU』、ミネルヴァ書房、2011年
- ・田中・長部・久保・岩田『現代ヨーロッパ経済』第5版、有斐閣、2018年
- ・NHKスペシャル社会主義の20世紀』日本放送出版協会、全6巻、1990/91年

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、レポート 50%。レポート未提出者は試験受験資格無し。

【学生の意見等からの気づき】

対象の理解、習熟度を高めるため、レポート、試験共に論述を重視。

【Outline and objectives】

This course focuses on the socio-economic and political developments in Europe from the end of the Cold War period until today's European Union. Special consideration will be given to the historical events like the collapse of the Soviet Union, the peaceful revolution of 1989 in Eastern Europe, the reunification of the two German states, and the establishment of the European Union and its enlargement to the east.

ECN200CA
現代アジア経済論 A
馬場 敏幸
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドによる講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	経済発展と諸産業 1	産業発展とその諸段階 概要 産業構造と情報化
3	経済発展と諸産業 2	電気電子産業、自動車産業
4	経済発展と諸産業 3	工業化戦略、WTO 貿易構造の変遷、貿易協定
5	経済発展と諸産業 4	サポーティング産業
6	韓国 1	国講義 1：面積、人口、GDP、人口構成（統計資料）国（地域）の成立の概略（年表資料）宗教・政治体制・資源・主要産業・文化など
7	韓国 2	国講義 2：主要産業、貿易、投資、歴代主要人物、政策、発展の経緯、日本との関係など
8	シンガポール 1	国講義 1
9	シンガポール 2	国講義 2
10	台湾 1	国講義 1
11	台湾 2	国講義 2
12	香港 1	国講義 1
13	香港 2	国講義 2
14	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。また参考にあげた URL の使い方に習熟しておくこととアジアの様々な情勢のデータ収集に大いに役立つ。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013) 『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料は以下。外務省アジア (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asia.html>)、JETRO アジア (<https://www.jetro.go.jp/world/asia/>) 世界銀行オープンデータ (<https://data.worldbank.org/>)、国連データ (<http://data.un.org/>)、国連商品貿易統計データベース (<https://comtrade.un.org/>)、HS コード（輸出統計品目録 2018）：<http://www.customs.go.jp/yusyutu/2018/index.htm>、世界の統計 2017 (<http://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.htm>)

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって 70～80%の評価をする。また、授業中に数度練習問題を出し、この分の合計 20～30%を期末試験に加点し、100 %として最終的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

まわりの私語など集中力の妨げるとの意見がみられる。授業中に学習する環境作りのため、授業中の私語・スマホ使用は禁止とし、守れない場合は注意します。

【学生が準備すべき機器他】

講義でオンラインデータベースを紹介し、使用方法を学ぶ。PC 持参を推奨する。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B双方での履修を望む。

【Outline and objectives】

In this class, you learn economics and geography of ASIAN NIEs; South Korea, Singapore, Taiwan and Hong Kong, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries and area in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries and area.

ECN200CA
現代アジア経済論 B
馬場 敏幸
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ASEAN について ASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史的内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後にアジア NIEs に次いで高度経済成長を果たした ASEAN 諸国について ASEAN4 を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドによる講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	ASEAN の成立	ASEAN の成立とその経緯、加盟国情報、歴史など
3	為替制度の変容と経済への影響	ブレトンウッズ体制、ニクソンショック、ブラザ合意、アジア経済通貨危機など
4	世界に大きな影響を与えた出来事	アジア経済通貨危機、サブプライムローン問題、リーマンショック・世界同時不況、欧州通貨危機、東日本大震災、東電原発事故など
5	タイ 1	国講義 1：面積、人口、GDP、人口構成（統計資料）国（地域）の成立の概略（年表資料）宗教・政治体制・資源・主要産業・文化など
6	タイ 2	国講義 2：主要産業、貿易、投資、歴代主要人物、政策、発展の経緯、日本との関係など
7	マレーシア 1	国講義 1
8	マレーシア 2	国講義 2
9	インドネシア 1	国講義 1
10	インドネシア 2	国講義 2
11	フィリピン 1	国講義 1
12	フィリピン 2	国講義 2
13	まとめ	講義で行ったことを総括する
14	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸（2013）『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料は以下。外務省アジア、JETRO アジア、世界銀行オープンデータ、国連データ、国連商品貿易統計データベース、HS コード、世界の統計 2017（各 URL は現代アジア経済論 A を参照）

【成績評価の方法と基準】

期末試験によって 70～80% の評価をする。また、授業中に数度練習問題を出し、この分の合計 20～30% を期末試験に加点し、100 % として最終的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

まわりの私語など集中力の妨げるとの意見がみられる。授業中に学習する環境作りのため、授業中の私語・スマホ使用は禁止とし、守れない場合は注意します。

【学生が準備すべき機器他】

講義でオンラインデータベースを紹介し、使用方法を学ぶ。PC 持参を推奨する。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論 A の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B 双方での履修を望む。

【Outline and objectives】

In this class, you learn economics and geography of ASEAN4; Thailand, Malaysia, Indonesia and Philippines, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries.

ECN200CA
中国経済論 A
菊池 道樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国におけるマクロ経済の成長動向とその要因を理解したうえで、高度成長をもたらしてきた要因を、歴史、制度、政策の面から、日本や欧米諸国との比較において検討する

中国が計画経済体制から市場経済体制への移行を開始してから今年が 40 年目を迎える。この間、中国の GDP は年平均実質で 9 % を上回る高成長率を維持し、2010 年には日本を抜き世界第 2 位の規模に達した。今や世界経済の動向は中国をぬきにして語ることはできないと言っても過言ではない。こうした中国経済のマクロの動向、成長要因の分析と今後の課題を検討することが本講義の課題である。

【到達目標】

1978 年に市場経済体制への転換が開始されて以降の、中国におけるマクロ経済の動向と現状を正確に把握し、今後の中国経済の見通しについて、各自自らの見解を他の人々に説明ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パワーポイントを用いて各回ごとの要点を説明する。数回にわたり主なテーマについてレポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	世界のなかの中国経済	現代中国の経済、社会の現状と今後のみどころを紹介。
第 2 回	国際比較の観点からみた中国経済	日本やアジア諸国の経済成長との比較。
第 3 回	中国経済史の再検討-高成長との連続性の観点から	「中国停滞論」の見直し。マディソン仮説の意義を検討。
第 4 回	社会主義経済体制の形成、展開、挫折	毛沢東の目指した社会主義体制とは？ 国営企業と人民公社の実態と破綻の分析。
第 5 回	市場経済体制への移行のプロセスと現状	中国が選択した漸進主義、社会主義市場経済体制とは？
第 6 回	投資・輸出主導型成長の軌跡、特徴、問題点	30 年余にわたる成長要因について、高投資が可能となった背景、輸出拡大のプロセスに焦点をあてて分析。
第 7 回	「世界の工場 中国」の形成と展開	中国型 2 部門モデルから「世界の工場」へ。
第 8 回	「世界の工場」から「工業強国」へ	産業集積の発展。政府主導のイノベーションの動向、国際競争力の進展。
第 9 回	労働市場の変化-「過剰労働の世界」から「労働不足の世界」へ	経済体制改革に伴う都市、農村における労働市場の変化特に「労働不足」と大卒の就職難というミスマッチについて分析。
第 10 回	成長と格差 (1)	地域格差、都市・農村間の格差の実態—その背景と問題点。
第 11 回	成長と格差 (2)	所得格差、貧困問題を国際比較から検討。
第 12 回	成長モデルの転換-「中所得国の罅」の不安	中所得国の多くが共通して直面している、経済の停滞状況に陥らずに成長の持続が可能か否かを検討。
第 13 回	経済成長と政治体制 (1) - 「北京コンセンサス」をめぐって	中国型開発独裁体制の分析、「中国モデル」よばれるシステムについて議論を整理したうえでその普遍性について検討。
第 14 回	経済成長と政治体制 (2) - 民主主義体制の可能性	体制に批判的な様々な動きを紹介し、今後の展望を試みる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌、テレビの中国関連の報道（例えば、「NHK スペシャル」）にふれ、重要と思われる記事などはメモをとっておくことが望ましい。第 3、5、11、14 回の終了時にレポート提出を、またそれ以外の回においては、授業の感想文を提出してもらう予定。

【テキスト（教科書）】

市販の書物を教科書として指定しない。毎回パワーポイントで編集したレジュメ、統計・資料を配布し、これをもとに授業を進める。

【参考書】

ドナルド・コース、王寧、『中国共産党と資本主義』（日経 BP 社）

【成績評価の方法と基準】

定期試験 80 %
課題の提出 20 %

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイント、配布資料には要点をすべて書き込むのではなく、適当に空欄を設け、講義を聴きながら書き込むような工夫をしたい。

【Outline and objectives】

In this lesson, we will study the development trend and factors of China's macroeconomic economy under market economy system.

Among Chinese economists and policy officials, it is called economic system of socialism with Chinese character. We will consider its characteristics in comparison with the economic system with developed countries.

At the same time, analysis of the Chinese economy is essential from the viewpoint of development economics and transition economics theory.

Specifically, the following points will be the major issues to be examined — Market economy system under the socialist system, Transition to the Chinese economy, Macroeconomic control system, role of government, regional development and disparity, trap of middle income country, relation between economic growth and political system.

ECN200CA
中国経済論 B
菊池 道樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の高度経済成長のミクロ要因としての企業組織の改革、および今後の成長に影響を及ぼす、人口・労働、食糧・農業・農村、環境問題などについて具体的なデータを用いて明らかにし、今後の問題点を検討する。

【到達目標】

中国企業の組織上の特徴、人口・労働市場の動向、食糧と農業、環境問題について、経済学の基礎知識をもとに正確に理解したうえで、今後の見通しを自分なりの見解を述べることができるとを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

中国経済が高成長を持続させる、ミクロ的要因としての新たな企業組織の展開について検討したうえで、今後の成長を左右すると思われる課題としての、人口労働、食糧・農業、環境・資源、政治体制などのトピックスをとりあげ、全体を通じて、今後の世界経済のなかで中国が果たす役割を見通す手がかりを得ることをめざす。

数回にわたり、主なテーマについてレポートを提出してもらう。

パワーポイントを使用するほか、講義に関連する映像や写真を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	企業改革のプロセスと企業組織多様化の現状	経済制度改革に伴う、企業改革の動向と多様な企業組織の実情。
第 2 回	国有企業の成長の事例-「ハイアール企業集団」	国際的知名度が高い「ハイアール企業集団」をとりあげ、大規模企業における組織上の特徴を日本的経営と比較。
第 3 回	民間企業の成長の事例-「正泰企業集団」	代表的な民間企業、「正泰企業集団」を中心に、中国独特の家族経営の組織上の特徴を検討。
第 4 回	対外開放政策の展開	1979年以降の中国政府による外資導入、貿易拡大政策を検討。
第 5 回	貿易の拡大の動向と現状	品目、相手国別に貿易の動向を概観したうえで、経済成長に及ぼした影響と現状について検討。
第 6 回	海外企業による投資の展開と現状	分野毎に投資額の推移の概観、経済成長に及ぼした影響と最近の実情も検討。
第 7 回	人口問題 (1) - 「一人っ子政策」の背景	「一人っ子政策」をとるにいたった事情を人口動態、毛沢東など指導者の考えについて考察。
第 8 回	人口問題 (2) - 「一人っ子政策」の展開と転換	「一人っ子政策」が経済成長に及ぼしてきた影響、政策の転換を実行する背景について検討。
第 9 回	「人口ボーナス（紅利）」の終焉	経済成長を促進する要因であった生産年齢人口の減少傾向を論証したうえで、日本など他国との比較において今後の見通しについて検討。
第 10 回	「未富先老」（豊かになる前に老いる）時代の到来？	医療や年金など社会保障制度について検討。
第 11 回	農業問題 (1) - 農業生産の動向と農業政策	農業生産動向と問題点を概観。農業の産業化という新たな動向にも注目。
第 12 回	農業問題 (2) - 食糧問題の推移と現状	レスター・ブラウンの問題提起、中国の新たな食糧問題。
第 13 回	農業問題 (3) - 「三農」問題と中国農業の行方	農民の貧困、農業の低迷、農村と都市の間の格差問題を分析。
第 14 回	経済成長と環境-環境汚染と政府の対応	経済成長に伴う環境問題の発生と推移、政府の対応、政策の変遷について紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第3、6、10、13回の講義が終了後にレポートを、それ以外の回終了後には感想を提出。「中国経済論 A」同様、中国の企業や農業、政治動向などに関する新聞、テレビの報道に接しておくこと。

【テキスト（教科書）】

市販の書物をテキストとしては使わず、毎回、パワーポイントで編集したレジメ、資料を配布し、それに沿って授業を進める。

【参考書】

「海爾（ハイアール）集団」（王曙光、東洋経済新報社）、「中国低層訪談録」（廖亦武、中国書店）、「中国で環境問題にとりくむ」（定方正毅、岩波新書）など興味深い本がたくさんあるので親しんでほしい。また、ドナルド・コース、王寧『中国共産党と資本主義』（日経 BP 社）にはぜひ挑戦してほしい。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 80 %
課題の提出 20 %

【学生の意見等からの気づき】

「中国経済論 A」同様、パワーポイント、配布資料は工夫をしたい。また、双方向的な授業の進め方を取り入れる。

【Outline and objectives】

In this lesson, we will study the characteristics of China's micro economy under market economy system.

Specifically, it includes (1) Chinese enterprise organization - state enterprises, private enterprises, (2) external economic relations - trade, investment, Japan - China economic relations, (3) population and economy, (4) economic growth and environmental problems.

Both are considered in comparison with the process of economic growth in developed countries.

LANd200CA
ドイツ語セミナー A
新田 誠吾
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語既修者を対象に、ドイツ語で日常生活の基本的な意思疎通ができることを目指します。あわせてドイツ語圏の文化、社会について考察し、理解を深めます。

【到達目標】

1. 日常生活でよく用いられるドイツ語の表現を理解できる。
2. 日常の身近な事柄に関して、ドイツ語を使って情報交換ができる。
3. 自分自身のことや生活に必要な事柄について、簡単な言葉で説明できる。
4. ドイツ語圏の文化、社会の特定の話題について人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではできるだけ「ドイツ語を話す」ことに集中します。グループワークが中心で、映像も取り入れて、100 分間楽しく学べるようにします。授業の最後には、毎回リアクションペーパーの提出があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Wir suchen das Hotel Maritim (1)	授業の進め方と勉強方法について 道案内
2	Wir suchen das Hotel Maritim (2)	建物の位置関係（前置詞を使った表現）
3	Wie findest du Ottos Haus? (1)	感想を述べる（形容詞を使った表現）
4	Wie findest du Ottos Haus? (2)	住宅に関連する表現（広さ・家賃など） ドイツ人の住宅に関するこだわりとは
5	In Giesing wohnt das Leben! (1)	自分の好みを表現する。(gern, gefallen を使った表現)
6	In Giesing wohnt das Leben! (2)	テキスト読解
7	Landeskunde	ドイツの文化事情を映像で知る
8	Wir haben hier ein Problem (1)	故障に対処する。
9	Wir haben hier ein Problem (2)	修理を依頼する。
10	Wer will Popstar werden?	自分の意思を伝える。(助動詞を使った表現)
11	Geben Sie ihm doch diesen Tee! (1)	提案する。(命令法)
12	Geben Sie ihm doch diesen Tee! (2)	身体の調子を言う。(風邪や病気の表現)
13	Landeskunde	健康の維持 ドイツ人の健康へのこだわりとは
14	授業内試験	口頭試験と筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学習得には予習・復習が重要なため、毎回課題があります。勉強の手順がわかるように、授業で説明します。

【テキスト（教科書）】

Menschen Deutsch als Fremdsprache Kursbuch (A1.2), Hueber

【参考書】

参考書は特に必要ありません。ドイツ語 (a) の教科書と辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20 %), 口頭試験 (30 %), 筆記試験 (50 %) で、60 % 以上を合格とします。正当な理由がなく 5 回以上欠席した場合は、原則単位を認定しません。なお、遅刻は 30 分を 1 単位として、3 単位で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

文法の説明は、基本からでないに行います。進度をゆっくりにして無理なく学べるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン、タブレット等で、教科書の音声を聞く必要があります。

【その他の重要事項】

原則、ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

【Outline and objectives】

In class, participants will study in groups. "Listening" and "speaking" play a central role. While watching images of the German-speaking world, we will discuss about society, culture and customs.

LANd200CA
ドイツ語セミナー B
新田 誠吾
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語既修者を対象に、ドイツ語で日常生活の基本的な意思疎通ができることを目指します。あわせてドイツ語圏の文化、社会について考察し、理解を深めます。

【到達目標】

1. 日常生活でよく用いられるドイツ語の表現を理解できる。
2. 日常の身近な事柄に関して、ドイツ語を使って情報交換ができる。
3. 自分自身のことや生活に必要な事柄について、簡単な言葉で説明できる。
4. ドイツ語圏の文化、社会の特定の話題について人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではできるだけ「ドイツ語を話す」ことに集中します。グループワークが中心で、映像も取り入れて、100分間楽しく学べるようにします。授業の最後には、毎回アクションペーパーの提出があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Der hatte doch keinen Bauch (1)	授業の進め方と勉強方法について 過去の出来事を表現する。
2	Der hatte doch keinen Bauch (2)	現在完了形
3	Komm sofort runter! (1)	「～なさい」という命令表現を学ぶ。
4	Komm sofort runter! (2)	命令表現
5	Bei Rot musst du stehen, bei Grün darfst du gehen. (1)	「～しなければならない」（義務の表現）
6	Bei Rot musst du stehen, bei Grün darfst du gehen. (2)	「～してはいけない」（禁止の表現）
7	Landeskunde	ドイツの社会のルールを映像で知る
8	Am besten sind seine Schuhe!	衣類に関する表現
9	Ins Wasser gefallen (1)	気候の表現
10	Ins Wasser gefallen (2)	休暇の過ごし方 ドイツのワークライフバランス
11	Ich würde am liebsten jeden Tag feiern. (1)	ドイツのお祭り・行事
12	Ich würde am liebsten jeden Tag feiern. (2)	クリスマス・新年・カーニバル
13	Landeskunde	ドイツのお祭りを映像で見る
14	授業内試験	口頭試験と筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学習得には予習・復習が重要なため、毎回課題があります。勉強の手順がわかるように、授業で説明します。

【テキスト（教科書）】

Menschen Deutsch als Fremdsprache Kursbuch (A1.2), Hueber

【参考書】

参考書は特に必要ありません。ドイツ語 (a) の教科書と辞書は必要です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、口頭試験 (30%)、筆記試験 (50%) で、60%以上を合格とします。正当な理由がなく5回以上欠席した場合は、原則単位を認定しません。なお、遅刻は30分を1単位として、3単位で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

文法の説明は、基本からていねいに行います。進度をゆっくりにして無理なく学べるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン、タブレット等で、教科書の音声を聞く必要があります。

【その他の重要事項】

原則、ドイツ語を1年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

【Outline and objectives】

In class, participants will study in groups. "Listening" and "speaking" play a central role. While watching images of the German-speaking world, we will discuss about society, culture and customs.

LANf200CA
フランス語セミナー B
橋本 到
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・日常的な場面に設定されたフランス語のやりとりを聞き、概要をつかんだあと、背景にある日常習慣・文化的背景への理解を深め、文法を定着させる。以上を通して、日常表現を実感的により深く理解する。

【到達目標】

・フランス語の簡単な日常会話を、それが話されている状況、聴解などから、話されている事柄を断片的にでもつかめ、反応を考え、言えるようになる。
 ・1 年次に学んだフランス語文法を復習し、その理解を完成させる。
 ・フランス文化（社会・日常習慣）に関する知識を拓ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、発音する、練習問題を解き、いくらかの応用を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期	テーマ	内容
第 1 回	道路、道筋のやりとり	田舎で迷って道を尋ねる。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 2 回	第 1 回の復習、落とし物、探し物	落とし物をした場合の会話、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 3 回	第 2 回の復習、話に条件を交える（～だったら、なら）	前回の復習／条件を言う。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 4 回	第 3 回の練習と復習	前回の継続ならびに復習
第 5 回	挨拶、紹介するとき	挨拶・紹介する、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 6 回	第 5 回の復習、教す、弁解するとき	前回の復習／教す・詫げる。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 7 回	第 6 回の練習と復習	前回の継続ならびに復習
第 8 回	招待したり、受けたり、断るとき	招待をする／受ける／断る、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 9 回	第 8 回の復習、体調について述べ、薬を買い求める	前回の復習／（薬局で）健康状態について。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 10 回	第 9 回の練習と復習	前回の継続ならびに復習
第 11 回	意見を尋ねたり、述べる	意見を尋ねる、意見を述べる、文法的な知識・語彙の習得
第 12 回	第 11 回の復習、慰めたり、励ます	前回の復習／慰める、励ます。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 13 回	第 12 回の練習の復習	前回の継続ならびに復習
第 14 回	第 13 回の練習と復習、学期末まとめ試験 B	前回の継続ならびに復習／ふりかえりのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】

・新しい dialogue については、理解を早くするために、ざっと読んで、なるべく語句を調べておく
 ・場所、状況など習う関連することを 10 分程度ネットで調べておく（日本語でもよい）。

【復習】

・課題、練習問題 activités の見直し・Dialogue の読み方の練習。

【テキスト（教科書）】

Communication progressive du Français, 2e édition, Niveau débutant, ISBN-13: 978-2090384451

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。
 森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社
 東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 67 % 平常点 33 %、

【学生の意見等からの気づき】

テキストの音声はノーマルスピードで早いのが臨場感がある。テキストはすべてフランス語だが、設問の指示などは見て感覚的にわかるようになったという感想を聞かされている。

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

【Outline and objectives】

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANf200CA
フランス語セミナー A
橋本 到
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・日常的な場面に設定されたフランス語のやりとりを聞き、概要をつかんだあと、背景にある日常習慣・文化的背景への理解を深め、文法を定着させる。以上を通して、日常表現を実感的により深く理解する。

【到達目標】

・フランス語の簡単な日常会話を、それが話されている状況、聴解などから、話されている事柄を断片的にでもつかめ、反応を考え、言えるようになる。
・1 年次に学んだフランス語文法を復習し、その理解を完成させる。
・フランス文化（社会・日常習慣）に関する知識を拡げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、発音する、練習問題を解き、いくつかの応用を考える。一冊以上のフランスに關係する書籍について、レポートをまとめ学期末までに提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	パン屋と買い物表現	店舗（パン屋）での商品の求め方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得 前回の復習／マルシェで量を言う。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 2 回	第 1 回の復習、マルシェと数量表現。	前回の復習／マルシェで量を言う。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 3 回	第 2 回の練習と復習。	前回の復習／マルシェで量を言う。文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 4 回	カフェ（店）と、注文の表現	カフェでの注文の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 5 回	第 4 回の復習、駅とチケット予約の表現	前回の復習／駅での予約の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 6 回	第 5 回の練習と復習。	前回の復習／駅での予約の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 7 回	衣料品（店）と、商品選択の表現	衣料品店での買い物の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 8 回	第 7 回の復習、靴屋、商品非購入の表現	前回の復習／靴屋での買い物の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 9 回	第 8 回の練習と復習。	前回の復習／靴屋での買い物の仕方、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 10 回	診療所と診察申し込みの表現	医者との予約について、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 11 回	第 10 回の復習、歯医者との予約変更	前回の復習／歯医者との予約（の変更）について、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 12 回	第 11 回の練習と復習。	前回の復習／歯医者との予約（の変更）について、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 13 回	地下鉄、問い合わせの仕方	地下鉄での問い合わせ、文化背景、文法的な知識・語彙の習得
第 14 回	第 13 回の復習、学期末まとめ試験 A	前回の復習／問い合わせ、文化背景、文法的な知識・語彙の習得 前回の復習／ふりかえりのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】

・新しい dialogue については、理解を早くするために、ざっと読んで、なるべく語句を調べておく
・場所、状況など学習内容に関連することを 10 分程度ネットで調べておく（日本語でもよい）。

【復習】

・課題、練習問題 activités の見直し・Dialogue の読み方の練習。

【テキスト（教科書）】

Communication progressive du Français, 2e édition, Niveau débutant, ISBN-13: 978-2090384451

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。
森本英夫ほか『新・リュミエール フランス語文法参考書』駿河台出版社
東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 67 %、平常点（含むレポート）33 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の日安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

【Outline and objectives】

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANr200CB
ロシア語セミナー A
佐藤 裕子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を履修した学生のためのクラスです。ロシア語基礎文法の習得を完成し、辞書を引く様々なテキストを読解・和訳できる。ロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。リスニングやリーディング力を養い、実際に使える会話力を身につける。ロシアに関する映画など視聴覚教材を通じロシア語力とロシアに関する知識を深める。

【到達目標】

基礎文法を習得し、確実に自身のものとする。その文法を用いて、様々なテキストを辞書を引くように読解できるようにする。ロシア語のリスニング（検定3級試験過去問など）や、テキストを早く美しく音読できること、ロシア語の実践会話の習得、語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。毎年5月と10月に実施されるロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期はロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指し、基礎文法の習得を完成させる。対策過去問などを解く。また、生きたロシア語を身近なものとするために、CDやDVDでロシア語をリスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基礎文法の復習	既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	ロシア語能力検定試験対策（4級）1	発音、アクセント、名詞の性別と人称代名詞
第3回	ロシア語能力検定試験対策（4級）2	名詞の複数形、アクセントのついた文章の朗読（検定過去問）
第4回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）1	動詞の変化（現在人称変化、過去形、未来形）
第5回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）2	時制の副詞、疑問詞と返答、日常会話の中の命令形
第6回	自己紹介文の作成と実践会話	自己紹介（テキスト読解、作文、実践会話、暗唱）
第7回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）3	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第8回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）4	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
第9回	テキスト読解	テキスト読解（ロシアの市民生活やロシア民話など）
第10回	リスニングの練習	リスニングの練習（検定過去問、アニメーションや映画などの映像資料から）
第11回	ロシア語能力検定試験対策（3級）1	関係代名詞
第12回	ロシア語能力検定試験対策（3級）2	数詞（数詞と名詞の変化）
第13回	テキスト読解と視聴覚教材でのリスニング練習	テキスト読解と映像資料でのリスニングの練習
第14回	テキスト読解	テキスト読解、検定試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語能力検定試験に向けて、教科書で基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組む。授業での配布テキストの和訳を試みる。NHKロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシアのニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れる。

【テキスト（教科書）】

- ・『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2017年
- ・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3級・4級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005年、¥1620
- ・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）
- ・その他のテキストは、適時プリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利智一著、白水社、1970年、¥1404

【成績評価の方法と基準】

原則として、平常点（授業への参加度、質疑応答により判断される語学理解力、予習復習などの学習への取り組み姿勢を含む）70%、記憶を定着させるための暗唱や音読、ミニテストなどが30%で総合的に評価を行います。受講者数が多い場合は、学期末試験を予定します。この場合、平常点50%、ミニテスト等20%、学期末試験が30%の評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験合格のための勉強時間を増やす。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。

ロシア語能力検定試験を10月か翌年5月に受験してください。
春学期・秋学期合わせての通年で受講が学力向上に効果的です。
授業計画は授業の展開によって変更があり得ます。

【Outline and objectives】

This course is for students who finished basic Russian course

The aims of this course are: 1) to acquire basic Russian grammar rules; 2) to develop your ability to read and interpret various texts using a dictionary; 3) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level 3 and 4; 4) to acquire listening and reading skills along with conversation skills for everyday use. For enhancing our knowledge of the Russian language, we plan to use audiovisual materials such as movies on Russia.

LANr200CB
ロシア語セミナー B
佐藤 裕子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

10月のロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。試験後は中級文法を学習し、さらに幅広いジャンルのテキストを読解し、ロシアの歴史や文化への理解を深める。「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語力を伸ばしていく。実践的な会話力を身につける。

【到達目標】

・10月のロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。
・さらに中級文法（副動詞と形動詞）を学習し、ニュースや歴史、文学作品などを読み解いていく。同時に語彙数も増やし、和文露訳のレベルアップをはかる。映像資料（映画やニュース等）によるリスニングや、美しい発音での速いリーディング、ロシア語の実践会話の上達も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の初めは10月開催のロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。基礎文法の総復習、対策過去問題を解く。試験終了後はより高度な文章の読解と和訳のために中級文法を学ぶ。ロシアについてより深く知るために、ロシアの文化や歴史関連テキスト、雑誌や新聞の記事、ロシア文学作品の文章読解にも挑戦する。映画やニュースのリスニング、実践的な会話の練習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文法の復習 検定試験対策1	動詞の時制と命令形、格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第2回	文法の復習 検定試験対策2	形容詞・副詞の比較級、数詞
第3回	文法の復習 検定試験対策3	露文和訳、和文露訳（検定試験過去問、想定問題等）
第4回	中級文法（副動詞） テキスト読解	中級文法の学習（副動詞）とテキスト読解、検定試験対策
第5回	中級文法（能動形動詞） テキスト読解	中級文法の学習（能動形動詞）とテキスト読解
第6回	中級文法（被動形動詞1） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞1）、会話練習
第7回	中級文法（被動形動詞2） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞2）、会話練習
第8回	ニュースのリスニングと和訳	テキスト読解（ロシアの新聞や雑誌）、映像資料（ニュース）のリスニング
第9回	テキスト読解と和文露訳1	テキスト読解（ロシアでの生活と文化、旅行）とそのロシア語作文
第10回	テキスト読解と和文露訳2	テキスト読解と作文（日本の四季と習慣、手紙（ビジネスレターを含む））
第11回	テキスト読解とその映像資料のリスニング1	テキスト読解（ロシア文学作品；チャーホフ）、映像資料のリスニング（ロシア文学作品；プーシキン）、映像資料（映画）のリスニング
第12回	テキスト読解とその映像資料のリスニング2	（ロシア文学作品；ドストエフスキー）、映像資料（映画）のリスニング
第13回	テキスト読解とその映像資料のリスニング3	（ロシア文学作品；トルストイ）、映像資料（映画）のリスニング
第14回	テキスト読解とその映像資料のリスニング4	（ロシア文学作品；トルストイ）、映像資料（映画）のリスニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・5月と10月に開催されるロシア語能力検定試験に向けて、過去問題と対策問題に取り組む。・授業での配布テキストの和訳を試みる。ロシアに関して興味あるテーマを調べ振り下げる。

【テキスト（教科書）】

・『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3級・4級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005年、¥1620
・露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291が望ましい））
・その他のテキストは、適時プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）2013年
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404

【成績評価の方法と基準】

原則として、平常点（授業への参加度、質疑応答により判断される語学理解力、予習復習などの学習への取り組み姿勢を含む）70%、記憶を定着させるための暗唱や音読、ミニテストなどが30%で総合的に評価を行います。受講者数が多い場合は、学期末試験を予定します。この場合、平常点50%、ミニテスト等20%、学期末試験が30%の評価基準となります。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア文化や生活に触れる機会をつくりたいと思います。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。

ロシア語能力検定試験を10月か翌年5月に受験してください。

春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的です。

授業計画は授業の展開によって変更があり得ます。

【Outline and objectives】

First, we aim to pass the Russian Language Proficiency Test (of Japan) at Levels 3 and 4. After the examination, we plan to study intermediate grammar, read comprehensive genres of text, and gain in-depth understanding of Russian history and culture. We will expand our Russian language ability in all four skills of "reading, listening, speaking, and writing" and acquire practical conversational skills.

LANC200CA
中国語セミナー A
石 碩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方
第 2 回	第 1 課	読解
第 3 回	第 2 課	読解
第 4 回	1、2 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 3 課	読解
第 6 回	第 4 課	読解
第 7 回	3、4 課のまとめ、発表	発表
第 8 回	第 5 課	読解
第 9 回	第 6 課	読解
第 10 回	5、6 課のまとめ、発表	発表
第 11 回	第 7 課	読解
第 12 回	第 8 課	読解
第 13 回	7、8 課のまとめ、発表	発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2019 年度版』朝日出版社、2019 年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため特になし

【その他の重要事項】

2 年間中国語を学習した人を対象とします。ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、事前に面接が必要となります。

【Outline and objectives】

Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANC200CA
中国語セミナー B
石 碩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期のまとめ
第 2 回	第 9 課	読解
第 3 回	第 10 課	読解
第 4 回	9、10 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 11 課	読解
第 6 回	第 12 課	読解
第 7 回	11、12 課のまとめ、発表	発表
第 8 回	第 13 課	読解
第 9 回	第 14 課	読解
第 10 回	第 15 課	読解
第 11 回	13、14、15 課のまとめ、発表	発表
第 12 回	補助教材	読解、発表
第 13 回	補助教材	読解、発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2019 年度版』朝日出版社、2019 年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため特になし

【その他の重要事項】

2 年間中国語を学習した人を対象とします。ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、事前に面接が必要となります。

【Outline and objectives】

Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANs200CA
スペイン語セミナー A
芝田 幸一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界遺産、食文化、天然資源、好景気などで世界に注目されている南米ペルーについて、各自がテーマを選び、調べ、(可能な限りスペイン語で) 発表し、質疑応答する。その歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。一国の粗い全体像を得ることは、他国との比較を容易にし、ひいては広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりとなるだろう。

【到達目標】

- 1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
- 2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる(細かいミスを突き詰めていくことより、スペイン語に慣れて使えるようになることが重視される)。通年で履修する場合、現地新聞(El Comercio 紙等)のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

発表担当グループは、テキスト等を参考にしてテーマを決める。同テーマの短いスペイン語文をテキスト等から選出して和訳する。同テーマについて各種資料をまとめ、パワーポイント等を使って発表する。教員・学生からの質問・コメント等を踏まえ、次のグループは向上を心がけて発表スタイルや内容を工夫する。教員による概説的講義も適宜実施する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業運営について説明。発表グループ分け。アンケート。
第2回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第3回	基礎的知識①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。ラテンアメリカとペルーの概説講義①
第4回	基礎的知識②	ラテンアメリカとペルーの概説講義②
第5回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第6回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第7回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第8回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第9回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第10回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第11回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第12回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第13回	発表⑨、復習②	グループ発表と質疑応答⑨
第14回	期末試験	期末試験(口頭試験)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

準備学習1：該当スペイン語文の和訳(グループで10行～1ページ程度)

準備学習2：発表準備(リサーチ、パワーポイント資料作成等)

【テキスト(教科書)】

発表テーマ選定や和訳に使う資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための66章』明石書店(2012)

『ラテンアメリカを知る事典』平凡社(2013)

『ペルー(ARCレポート)経済、貿易、産業報告書』ARC 国別情勢研究会(2013)
"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru(2000)

ペルー国家統計情報局 (<https://www.inei.gob.pe/>)

その他の参考資料は授業内で示す。

【成績評価の方法と基準】

和訳と発表 50%、平常点 40%、期末口頭試験 10%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自己紹介を兼ねたスペイン語復習を取り入れた。教員による概説的講義を増やした。2019年度はミニ・フィールドワークを実験的に1回実施する予定(多摩キャンパス内を歩きながらスペイン語会話を実習する)

【学生が準備すべき機器他】

USB メモリー

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと(例：法政大学1年次にスペイン語を履修)。様々なスペイン語レベルの学生に対応したい。紙媒体・電子等を問わないので毎回スペイン語辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America.

LANs200CA
スペイン語セミナー B
芝田 幸一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界遺産、食文化、天然資源、好景気などで世界に注目されている南米ペルーについて、各自がテーマを選び、調べ、（可能な限りスペイン語で）発表し、質疑応答する。その歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。一国の粗い全体像を得ることは、他国との比較を容易にし、ひいては広かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりとなるだろう。

【到達目標】

- 1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。
- 2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞（El Comercio 紙等）のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

発表担当グループは、テキスト等を参考にしてテーマを決める。同テーマの短いスペイン語文をテキスト等（春学期より難易度の高いものを含む）から選出して和訳する。同テーマについて各種資料をまとめ、パワーポイント等を使って発表する。教員・学生からの質問・コメント等を踏まえ、次のグループは向上を心がけて発表スタイルや内容を工夫する。教員による概説的講義を適宜実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営について説明。発表グループ分け。アンケート。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語復習。発表グループ分け。
第 3 回	基礎的知識	ラテンアメリカとペルーの概説的講義
第 4 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 5 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 6 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 7 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 8 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 9 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 10 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 11 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 12 回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第 13 回	復習②	口頭試験の準備
第 14 回	期末試験	期末試験（口頭試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習 1：該当スペイン語文の和訳（グループで 10 行～数ページ程度）
準備学習 2：発表準備（リサーチ、パワーポイント資料作成、学生によってはスペイン語作文等）

【テキスト（教科書）】

発表テーマ選定や和訳に使う資料は配布する。

【参考書】

『ペルーを知るための 66 章』明石書店（2012）
『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）
『ペルー（ARC レポート）-経済・貿易・産業報告書』ARC 国別情勢研究会（2013）
"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru（2000）
ペルー国家統計情報局（<https://www.inei.gob.pe/>）
エル・コメルシオ紙（<http://elcomercio.pe/>）
その他の参考資料は授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

和訳と発表 50%、平常点 40 %、期末口頭試験 10%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自己紹介を兼ねたスペイン語復習を取り入れた。教員による概説的講義を増やした。2019 年度はミニ・フィールドワークを実験的に 1 回実施する予定（多摩キャンパス内を歩きながらスペイン語会話を実施する）

【その他の重要事項】

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学 1 年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応したい。紙媒体・電子等を問わないので毎回スペイン語辞書を持参すること。

【Outline and objectives】

This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America.

ECN200CA
開発経済入門A
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の前半では、経済成長、貧困、不平等などの指標を学び、統計資料などを見ながら、我が国と開発途上国の違いを概説します。この授業の後半では、伝統的な農業から工業化までの経済発展のプロセスを概説します。

【到達目標】

なぜ我が国では食があふれているのに、南アフリカを除く、サブサハラアフリカの国々ではたびたび飢餓が起きるのでしょうか？このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心になりますが、授業中に学生に演習問題を解いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	高校地歴の教育における本授業の意味。経済成長の指標	国民総生産、購買力平価
第 2 回	経済成長の理論	ソロー・モデル
第 3 回	産業構造	コーリン・クラークの法則、労働生産性
第 4 回	二重構造、労働移動	ルイス・モデル、ハリス＝トダロ・モデル
第 5 回	貧困と不平等	クズネツの逆U字仮説。ジニ係数。ローレンツ・カーブ
第 6 回	世界の人口と食料	人口と食料の国際比較
第 7 回	中間試験	前回までの内容を復習。試験。
第 8 回	経済発展と農業	農業部門の縮小、エンゲルの法則
第 9 回	農業の近代化	慣習的農業と近代農業の比較
第 10 回	企業と雇用	インフォーマル・セクター、競争力
第 11 回	産業集積	集積の利益、規模の経済
第 12 回	制度	植民地、所有権、ソーシャル・キャピタル
第 13 回	汚職	途上国における汚職の現状、要因、経済効果
第 14 回	期末試験	前回までの内容を復習。試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として事前に指定した箇所 20 ページほどを読んできてもらいたいと思います。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたいような授業を目指したいと思います。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しませんが、予習として読んできてもらう 20 ページほどの文章を事前に指定します。

【参考書】

戸堂康之 (2015)『開発経済学入門』新世社

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40 %、期末試験 40 %、平常点 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

試験よりもレポートを望む学生、平常点を成績評価に含めないことを望む学生もいますが、2018 年度の経験から上記の成績評価の方法と基準にします。

【Outline and objectives】

We will study measurements of economic development, poverty, and inequality and review the difference in statistics between developing countries and Japan. In the second half of this class, we will review economic development from traditional agriculture to industrialization.

ECN200CA
開発経済入門B
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門 B では、開発経済入門 A で扱った経済成長の指標、プロセスの理論を下に、貿易、金融、開発援助などの経済成長の要因を概説します。

【到達目標】

なぜ我が国を含む東アジアの国々は急速に経済発展したのに、南アフリカを除く、サブサハラアフリカの国々は急速に経済発展しなかったのか？このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心になりますが、授業中に学生に演習問題を解いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	高校地歴の教育における本授業の意味。貿易 1	国際生産ネットワーク
第 2 回	貿易 2	比較優位、絶対優位
第 3 回	貿易 3	2 財 1 時点モデル
第 4 回	貿易 4	輸入代替工業化
第 5 回	貿易 5	実証、実効保護率
第 6 回	中間試験	前回までの内容を復習。試験。
第 7 回	金融 1	金融仲介の便益、1 財 2 時点モデル
第 8 回	金融 2	貧困の罨と信用制約
第 9 回	金融 3	マクドゥーガル＝ケンプ・モデル
第 10 回	金融 4	実証、ルーカス・パラドックス
第 11 回	開発援助 1	ODA と経済成長。
第 12 回	開発援助 2	日本はどのように ODA を活用しているのでしょうか？途上国はもっと支援を求めべきでしょうか？
第 13 回	持続可能な発展	経済成長の及ぼす環境への影響。持続可能な発展とは何か、可能か。
第 14 回	期末試験	前回までの内容を復習。試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として事前に指定した箇所 20 ページほどを読んできてもらいたいと思います。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたいような授業を目指したいと思います。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しませんが、予習として読んできてもらう 20 ページほどの文章を事前に指定します。

【参考書】

戸堂康之 (2015)『開発経済学入門』新世社
澤田康幸 (2003)『基礎コース 国際経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40 %、期末試験 40 %、平常点 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

試験よりもレポートを望む学生、平常点を成績評価に含めないことを望む学生もいますが、2018 年度の経験から上記の成績評価の方法と基準にします。

【Outline and objectives】

Based on measurement and economic development studied in Introductory Development Economics A, we will study trade, finance, and development assistance as factors of economic development.

SES200CA
環境科学 A
藤田 貢崇
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、地球の環境が太陽系の中で、いかに特徴的であるかを学ぶとともに、地球の形成史の中でどのように環境が変化してきたかを理解します。かけがえない地球環境が汚染されている現状と、それをどう解決していくかの具体策を探りながら、環境に配慮した生活とはどのようなものであるかを考えます。

【到達目標】

地球環境の特殊性と、地球環境問題の理解ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、太陽系の成り立ちと惑星の環境、地球環境の形成、現在の環境汚染、環境負荷を低減する技術と生活への応用等の4つのサブテーマから構成され、前半では天体としての地球の理解、後半では地球規模にまで進んだ環境汚染のメカニズムを説明し、環境負荷低減のための技術の話題を提供します。太陽系の惑星や環境問題に興味のある学生の積極的参加を希望します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	天体としての地球	地球環境の特殊性・ハビタブルゾーン
第3回	太陽系(1)	太陽系の概観・形成史
第4回	太陽系(2)	地球型惑星の特徴・金星と地球の類似点と相違点
第5回	地球環境の変遷	地球環境の形成史・環境の変遷
第6回	地球温暖化	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第7回	酸性雨	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第8回	有害物質の越境移動	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染・放射性廃棄物
第9回	砂漠化と都市気候	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第10回	生物多様性の減少	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第11回	オゾン層の破壊	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第12回	宇宙の環境	宇宙開発・スペースデブリ
第13回	環境ビジネス	環境関連技術の進展
第14回	まとめ	全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュースなどで紹介される環境技術関連ニュースに注意しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

参考図書は授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験による100%の評価とし、60%以上の得点率で単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は、授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course tries to know how to make harmonious coexistence with the global environment and the specificity of Earth environment.

SES200CA
環境科学 B
藤田 貢崇
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代生活で重要な問題となっている環境関連の話題（海洋汚染の問題、原子力発電の問題、再生可能エネルギーの問題など）を取り上げ、それらの概要について学び、それらの問題についてジャーナリズムがどのように報じてきたかを理解する。

これらのことから、自らが環境問題について考える方法論を学び取り、今後さまざまな環境問題が発生する中で、どのように情報を取得し、どう評価するかを判断する能力を習得する。

【到達目標】

海洋汚染の問題、原子力発電の問題、再生可能エネルギーの問題などについて、何が課題になっているかを理解する。

それらの環境問題がどのように報じられているかを理解し、ジャーナリズムがすべての情報を示しているわけではないことを理解する。

自らが環境問題を考えるとき、そのような手法で情報を集め、それらをどのように評価するかを判断できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、配付された資料を読み、場合によってはさまざまな情報源にアクセスして理解を深める。必要に応じて、特定の課題について少人数で議論することもある。

環境問題は、すべての人々に関係する問題であるため、各自がさまざまな環境問題について、どのように考えるかを意識して授業に参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	環境問題とは何か	環境問題の成立要因や歴史について知る
第3回	環境問題の情報源	私たちが日常的に環境問題をどのように入手しているかを考え、問題点を探る
第4回	海洋汚染の事実	海洋汚染の事例を探る
第5回	海洋汚染の報道	海洋汚染がどのように報道されているかを知る
第6回	海洋汚染の改善	海洋汚染への対策の実例を探り、それらの効果を知る
第7回	原子力発電のしくみ	原子力発電やその他の発電のしくみについて理解する
第8回	原子力発電の利点と欠点	原子力発電の利点と欠点について理解する
第9回	原子力発電に関する報道	原子力発電がどのように報道されているかを知る
第10回	原子力発電の将来	原子力発電は今後、どのようにあるべきかを議論する
第11回	再生可能エネルギーのしくみ	さまざまな再生可能エネルギーのしくみについて理解する
第12回	再生可能エネルギーの利点・欠点と報道	再生可能エネルギーの利点・欠点について理解し、どのように報道されているかを理解する
第13回	環境問題とジャーナリズム	環境問題をジャーナリズムがどのように扱っているかを知り、またどうあるべきかを考える
第14回	まとめ	これまでの学習内容を整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュースなどで紹介される環境技術関連ニュースに注意しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

参考図書は授業内で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験による100%の評価とし、60%以上の得点率で単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は、授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course tries to know how to get information about global environment problems. Students consider responsibilities of journalism for environment problems more objectively.

ECN300CA
環境政策論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】

- ①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
- ②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

主にプロジェクターを使い、講義形式で行う。なお、現代経済学入門を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論 A または公共経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。くわえて、環境経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス&環境問題を考える
第 2 回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から 20 世紀末まで
第 3 回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第 4 回	地球温暖化対策①	エネルギー需給、エネルギー政策
第 5 回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第 6 回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第 7 回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第 8 回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第 9 回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第 10 回	環境税	ピグー税、ポーモル・オーツ税、汚染者負担原則、二重の配当
第 11 回	排出取引	仕組み、税との比較、EU の制度
第 12 回	環境補助金・デポジット制度	助成金、特別償却、長期の効率性、課税と補助金の組み合わせ
第 13 回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第 14 回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは使用しないが、内容をしっかり理解するために、下記の参考書のどちらかを通読してほしい。また、各回で紹介する参考書も参照のこと。授業は各回完結ではなく、それまでの内容を踏まえて進めていくので、前回までの内容をきちんと復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

栗山・馬奈木 (2016) 『環境経済学をつかむ 第 3 版』有斐閣
一方井誠治 (2018) 『コア・テキスト環境経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

私語がうるさいという苦情が寄せられている。私語をしないこと。

【その他の重要事項】

スマートフォンの使用は控えること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students consider environmental policies from the viewpoint of economic theory.

ECN300CA
環境政策論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策論 A につづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】

- ①日本の環境政策の実態について理解する。
- ②環境政策の形成過程を理解する。
- ③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

主にプロジェクターを使い、講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境政策の諸原則	6 つの原則
第 2 回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第 3 回	大気保全政策	大気汚染防止法、濃度規制と総量規制、アスベスト問題
第 4 回	交通と環境	自動車 NOx・PM 法、交通需要マネジメント
第 5 回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第 6 回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法、スーパーファンド法
第 7 回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第 8 回	自然環境保全 ①生物多様性の保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第 9 回	自然環境保全 ②自然保護地域の保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第 10 回	廃棄物対策	廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法
第 11 回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第 12 回	環境政策の政策過程②	環境税の政策過程、政策ネットワーク
第 13 回	企業と環境問題①	環境マネジメント、環境報告書
第 14 回	企業と環境問題②	環境会計、ESG 投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は特定のテキストに沿って行うわけではないが、内容をしっかり理解するために『環境白書』を読んでおくこと。環境省のホームページで閲覧できる。また、各回で紹介する参考書も参照してほしい。さらに、授業のあとは内容をきちんと復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】

西尾哲茂 (2017) 『わか～る 環境法』 信山社
神山智美 (2018) 『自然環境法を学ぶ』 文真堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

私語がうるさい苦情が寄せられている。私語をしないこと。

【その他の重要事項】

スマートフォンの使用は控えること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of current environmental law, politics, and policy in Japan.

ECN200CA
社会経済思想史 A
後藤 浩子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパにおける重商主義の形成」

本講義では、まず諸理論家の背景となる歴史的状况を押さえ、そこからどのような思想が生み出されたのかを見ていきます。17 世紀にイングランドは、ステュアート朝三王国体制、ピューリタン革命と共和政、王政復古、そして名誉革命といったように内政の激動を経験し、他方フランスは、マザランやゴルベールの財政政策に支えられたルイ 14 世の絶対王政を築いていました。両国は、商業的覇権を求めて経済的・軍事的な競争を展開することになります。このような時代背景の下、「国力とは何か」「商業的繁栄をもたらす国家体制はどのようなものか」といった問いが探究され、政治経済学の諸言説が生み出されることになりました。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17 世紀イングランドとフランスの政治・経済状況の中から、どのようにして経済学的なものの見方が生成してきたのか、その過程を理解し、ヨーロッパの地域的特色と認識を深め、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (1)	ヨーロッパはどのように原初の資本を蓄積したか。資本蓄積システムのプロトタイプと第 1 サイクル。以降 14 回までの本学期的講義内容は、高校世界史 A / B における「ヨーロッパの拡大と大西洋世界：16 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (2)	重商主義の実相
第 3 回	資本蓄積システムの第 2 サイクル	重商主義システムの雛形としてのオランダ
第 4 回	ポスト・オランダをめぐる競争：フランス対イングランド (1)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ①フランスの税制・国家収入・軍備
第 5 回	ポスト・オランダをめぐる競争：フランス対イングランド (2)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ②イングランドの税制・国家収入・軍備
第 6 回	政治算術の登場	フランシス・ベーコンの思想とベティへの影響
第 7 回	W・ベティ (1)	経歴とアイルランド測量
第 8 回	W・ベティ (2)	『租税貢納論』
第 9 回	W・ベティ (3)	『政治算術』
第 10 回	J・ロック	『政府二論』における労働と所有、植民地論
第 11 回	J・チャイルド	『新交易論』におけるオランダの国力の分析
第 12 回	C・ダヴナント	英国ウィック党の経済政策批判
第 13 回	D・デフォー	分業の密度と国力、『ロビンソン・クルーソー漂流記』の経済思想
第 14 回	資本蓄積システムの第 3 サイクル	大ブリテンを中核として形成された資本蓄積システムの特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、A4 のリアクション・ペーパーに講義の内容をまとめたレポートを作成し、次回の授業の際にそれを提出します。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）
ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）
米田昇平『欲求と秩序：18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40％）と春学期末の定期試験の成績（60％）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline and objectives】

"The formation of mercantilism in Europe"

To begin with, this lecture gives students basic knowledge about the economic development of sixteenth-and seventeenth-century Europe as historical context. Then, it provides an introduction to major theorists of social and economic thought of that time.

In the seventeenth century England underwent internal and external upheavals such as the Union of the Crowns, the Wars of the Three Kingdoms (the Puritan Revolution), the Restoration and the Glorious Revolution. On the other hand, France established an absolute monarchy under the reign of Louis XIV with the help of Mazarin and Colbert. These two kingdoms were to get into economic and military contest for commercial supremacy. Against this backdrop, questions such as "what is the strength of nation?" and "what regime brings economic prosperity?" were discussed among intellectuals, which was to form mercantilism.

ECN200CA

社会経済思想史 B

後藤 浩子

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「重商主義批判の流れと経済学の形成」

戦費調達のために迫られ、17世紀末イングランドでは公信用の制度的革新が生じました。しかし、フランスでは、17世紀末の Colbert 的工業重視政策と戦費増大で国家債務が膨らみ、絶対王政は自己破産の危機に瀕します。これに対処すべく、18世紀初頭には、フランス王立銀行が設立され、銀行券が発行されましたが、このいわゆる「ローのシステム」は1720年に破綻します。同時期にブリテンもまた「南海泡沫事件」で投資ブームとその破綻を経験します。このような歴史的状況の中で、まずはフランスで、そしてブリテンで、様々な処方箋が提出され、スミスによるそれらの批判的検討は『国富論』に結実します。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17世紀末「イングランド財政・金融革命」による公信用制度の普及と膨張する国家財政を背景に、18世紀に続々登場する重商主義政策批判の言説を介して、法学を補完する「立法者の科学」として経済学が誕生する過程を理解し、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、講義形式となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	重商主義批判の流れ	フランスとスコットランドにおける脱オランダ・モデルの探究。以降14回までの本学部の講義内容は、高校世界史A/Bにおける「産業社会と国民国家の形成：フランス革命と18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第2回	ジョン・ロー	国家債務処理システムのプランとその破綻
第3回	ボワギルベール (1)	欲求と富
第4回	ボワギルベール (2)	自然的自由の体制の希求
第5回	J・F・ムロン (1)	商業のための立法原理の探究：貿易と産業の連関
第6回	J・F・ムロン (2)	貨幣と信用
第7回	R・カンティロン (1)	商業の一般法則の分析
第8回	R・カンティロン (2)	市場価格と貨幣流通
第9回	F・ケネー (1)	「経済表」：国富の循環の分析
第10回	F・ケネー (2)	フィジオクラシーと合法的専制主義
第11回	A・スミス (1)	スミスによる基本概念の整理：資本・分業・交換
第12回	A・スミス (2)	「重商主義体系」批判
第13回	A・スミス (3)	経済発達の自然的過程と制度の影響
第14回	A・スミス (4)	公債批判と国家財政論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、A4のリアクション・ペーパーに講義の内容をまとめたレポートを作成し、次回の授業の際にそれを提出します。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009年）
 ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009年）
 米田昇平『欲求と秩序：18世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005年）
 ジャン＝フランソワ・ムロン著、米田昇平・後藤浩子訳『商業についての政治的試論』（京都大学学術出版会、2015年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40％）と秋学期末の定期試験の成績（60％）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline and objectives】

"Criticism of mercantilism and formation of political economy"

In need of procurement of war expenditure, institutional innovation of public credit occurred in England in the end of the seventeenth century. However, in France, the national debt had expanded due to Colbert's manufacture-oriented policy and increase of financial burden of war since the seventeenth century and absolute monarchy was on the verge of self-bankruptcy. To cope with this quagmire, the Banque royale was established in the beginning of the 18th century, and bank notes were issued, but this so-called "Law system" failed in 1720. At the same time, Britain also experienced the investment boom and its collapse, namely the South Sea Bubble. Amid such historical circumstances, various prescriptions for the ailing economies are made up first in France and then in Britain. Adam Smith examined thoroughly those critical reviews of mercantile policy and gave birth to The Wealth of Nations.

ECN300CA
経済政策論 A
濱秋 純哉
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、ミクロ経済学の余剰分析の手法に基づき考察を加える。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、ミクロ経済学の考え方に基づき、外部性の問題、望ましい公共財の供給、及び税制の設計について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	市場の働き	完全競争市場における需要曲線と供給曲線
3	市場の働き	消費者余剰と生産者余剰の概念、社会的余剰と市場の効率性
4	市場の働き	弾力性の概念、価格弾力性
5	企業行動と生産者余剰	様々な費用の概念
6	企業行動と生産者余剰	企業の利潤最大化行動と供給曲線
7	企業行動と生産者余剰	総収入と可変費用の差としての生産者余剰
8	外部性	外部性の概念
9	外部性	外部性の存在と市場の効率性
10	外部性	規制、ピグー税、及び排出権市場による外部性の問題の解決
11	公共財	排除可能性と消費の競合性、公共財の供給とフリーライダー問題
12	公共財	非競合財の価格設定、公共財の投資基準、共有地の悲劇の解決策
13	税制の設計	課税の死荷重
14	税制の設計	効率性と公平性から望ましい税制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

八田達夫、2008、『ミクロ経済学Ⅰ』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー、2013、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編【第3版】』東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森晃、2015、『公共経済学』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）と3回の宿題（40%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業内容に即した復習問題を行う。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline and objectives】

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

ECN300CA
経済政策論 B
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また、GDP、物価指数（消費者物価指数と GDP デフレーター）、失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討を行う。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直観的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済	物価指数の概念と作成方法
4	データで見る日本経済	失業率の概念と作成方法
5	雇用問題	摩擦的失業への政策的対処、最低賃金引き上げの影響
6	雇用問題	日本の失業の特徴
7	雇用問題	若年者の雇用問題、「世代効果」への政策的対処
8	IS-LM モデルの構築	古典派とケインジアン
9	IS-LM モデルの構築	ケインジアンの交差図、乗数効果、IS 曲線の導出
10	IS-LM モデルの構築	貨幣量の測定とコントロール、LM 曲線の導出
11	IS-LM モデルの応用	財政政策の効果とクラウディング・アウト
12	IS-LM モデルの応用	金融政策の効果
13	IS-LM モデルの応用	「流動性の罠」の下での財政政策と金融政策の効果
14	IS-LM モデルの応用	非伝統的金融政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みのことが望ましい。また、授業の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣
小林照義、2015、『金融政策』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）と 3 回の宿題（40%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業内容に即した復習問題を行う。

【Outline and objectives】

Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

ECN300CA
社会政策論 A
菅原 琢磨
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge of the issues of social policy in the field of employment, health care, pension, long-term care and welfare for the poor, elderly or children.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国が直面する社会政策上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、それへの制度対応、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ・社会政策論で扱われる対象を理解し、社会政策の歴史的経緯の概要を説明できる。
- ・現代日本の雇用問題、労働政策の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の社会福祉制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

「社会政策」が包摂する領域は広がりを見せているが、人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策を総称したものと捉えられる。本講義では、社会政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生じた社会的背景、原因についても概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会政策とは	社会政策の意義、対象領域
2	社会政策の歴史	社会政策の歴史的経過、概略史
3	雇用・労働にかかる保険制度	雇用保険制度と労働者災害保険
4	雇用・労働政策と社会変化	若年・女性労働市場の現状と対応
5	医療制度の歴史	医療保険制度の概要と歴史的経緯
6	医療制度の概要	医療費、診療報酬、医療提供体制
7	貧困・不平等と社会政策	貧困概念と社会的不平等
8	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
9	介護の歴史的展開	制度発足の歴史的経緯と理念
10	介護保険制度の現状と課題	制度と動向、今後の対応
11	年金制度の歴史的展開	年金制度の概要と歴史的経緯
12	年金制度の現状と課題	年金制度改革と今後の対応
13	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革
14	これからの日本と社会保障制度改革（全体総括）	少子高齢化、グローバル社会と今後の社会保障制度のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でも時事問題の背景などを解説するが、日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。講義資料は授業支援システムで配布する。

【参考書】

以下で示す以外にも、講義中に参考となる文献は適宜紹介する。

OECD 編著『図表でみる世界の社会問題 2 OECD 社会政策指標 貧困・不平等・社会的排除の国際比較』明石書店、2008 年
 国立社会保障・人口問題研究所編『社会保障制度改革 日本と諸外国の選択』東京大学出版会、2005 年
 椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第 15 版）』有斐閣、2018 年

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績（70%）、課題レポート（30%）による。
 定期試験、課題レポートはともに、講義内で扱ったトピックスのうち最も重要な点について基礎的理解が出来ているかどうかを問う内容である。

【学生の意見等からの気づき】

講義冒頭における新聞記事を用いた時事、社会問題の解説について要望が強い。今年度もこれらに配慮した講義構成とする。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験した担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。
 授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

ECN300CA
社会政策論 B
菅原 琢磨
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【Outline and objectives】

Based on the basic knowledge of Social Policy A, this lecture addresses real policy issues we are now facing and fosters the ability to think about the political solution.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期開講の「社会政策論 A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。単に知識の修得を目指すのではなく、現実の社会問題を「材料」として受講者自身の頭で検討、思考する能力の涵養を促す講義としたい。

【到達目標】

わが国が直面する主要な社会政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれを実現するための適切な政策、施策について、自らの見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

厳しい財政事情、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会政策上の問題が山積している。深刻な人手不足やワークライフバランスの実現、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉え考えるべきものである。本講義ではこれらのトピックスを進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。これらの「材料」を踏まえ、各々の問題の本質をどのように捉え、改善策を考えていくか、受講生自身の思考を促す講義としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義概要と課題	社会政策の意義、対象領域の復習
2	雇用・労働政策の今日的課題	労働基準、最低賃金、雇用形態、若年労働、女性労働、外国人労働
3	児童・高齢者・障害者の福祉	待機児童、成年後見、障害者自立支援
4	貧困・格差・不平等	現代日本の貧困・格差・不平等
5	生活保護の課題	制度の方向性（自立支援、就労支援）
6	医療提供体制と医療政策	医療提供制度、医師・看護師不足
7	医療財政と医療政策	医療財政と負担のあり方
8	医療の国際比較	医療制度、政策の国際比較
9	介護問題と介護提供体制	介護提供体制にかかる諸問題
10	介護の財政問題	介護財政にかかる諸問題
11	介護の国際比較	介護制度、政策の国際比較
12	年金問題の概要	年金問題の論点整理
13	年金制度改革	持続可能な年金制度と制度改革
14	これからの日本社会と社会政策（全体総括）	少子高齢化社会への対応、財政規律と制度の持続可能性、グローバル化への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会政策論Aで扱った内容の理解を前提として講義を実施する。日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。また講義資料を講義後に授業支援システムを通じてアップロードするので、各自、それを用いて十分講義内容を復習すること。

【テキスト（教科書）】

講義に必要な資料は授業支援システムで配布する。

【参考書】

駒村康平『福祉の総合政策』創生社、2011年
 島崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011年
 大竹文雄『格差と希望－誰が損をしているか？』筑摩書房、2008年

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績（70％）、課題レポート（30％）による。
 定期試験、課題レポートはともに、講義内で扱ったトピックスについて正確な基礎知識をベースに論理的に自分の考えを展開できるかどうかを問う内容である。

【学生の意見等からの気づき】

講義冒頭における新聞記事を用いた時事、社会問題の解説について要望が強い。今年度もこれらに配慮した講義構成とする。

【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験した担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。
 授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

ECN200CA
労働経済論 A
深井 太洋
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く。「人手不足」、「外国人労働力」、「教育費の無償化」といったトピックについても紹介する。

【到達目標】

まず、基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかり理解する。更に、統計分析の考え方を学んだうえで、働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

プロジェクター資料と板書を組み合わせて講義を進める。理解を助けるため小問題の演習等を行う。プロジェクター資料については、要約版のみを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学とは
2	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
3	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
6	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
7	市場均衡	競争均衡、買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル、シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特段の予習は必要ないが、復習は行うこと。特に、授業内で行う小問題は必ず復習すること。

講義は下記の参考書に沿って行う予定なので、参照することを推奨する。（受講者はミクロ経済学や統計学の最低限の知識を有することが望ましいが、講義内で用いる数学は最小限に留める予定である。）

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

川口大司『労働経済学 理論と実証をつなぐ』（有斐閣、2017年）
大森義明『労働経済学』（日本評論社、2008年）
Borjas, G『Labor Economics』（McGraw Hill Higher Education, 2012年）
Angrist, Pischke『Mastering Metrics: The Path from Cause to Effect』（Princeton University Press, 2014年）
川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（90%）+授業内演習（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

・コメント・ペーパー等によって、受講者の考えを把握するように心掛ける。
・試験問題は、選択式問題・計算問題・記述式問題から幅広く出題する。

【Outline and objectives】

In this course, we study labor economics with an emphasis on applied microeconomic theory and empirical analysis. We also study the statistics related to the labor economics, such as Labor force survey and so on. Topics to be covered include: labor supply and demand, taxes and transfers, minimum wages, immigration, human capital, education, and discrimination.

ECN200CA
労働経済論 B
深井 太洋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論 A で学んだことを踏まえ、労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する。特に、労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する。（取り上げるトピックの例、「介護離職」、「長時間労働」、「待機児童」等）

【到達目標】

働き方を巡る「論点」を知り、それを経済学的に考えることを通じて、労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

主にプロジェクター資料を用いた講義形式によって進める。講義内容の理解を確認するため、演習問題を行うことがある。プロジェクター資料については、要約版のみを配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	労働市場における差別	差別の経済理論、男女間賃金格差
5	失業（1）	日本の失業の概観
6	失業（2）	失業を説明する理論
7	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析、労働災害の現状
8	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
9	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因、仕事の二極化
10	若年就業	若年就業の現状と「世代効果」
11	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因、介護離職問題
12	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
13	両立支援制度	女性の就業と保育サービス
14	社会保険料事業主負担の帰着問題、その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で利用した資料をよく復習すること。授業内で提示する参考文献も理解の助けとなる。また、新聞等を読み、政策に関する議論を追うように心掛けてほしい。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

川口大司『労働経済学 理論と実証をつなぐ』（有斐閣、2017年）
大森義明『労働経済学』（日本評論社、2008年）
Borjas, G『Labor Economics』（McGraw Hill Higher Education, 2012年）
Angrist, Pischke『Mastering Metrics: The Path from Cause to Effect』（Princeton University Press, 2014年）
大湾秀雄『日本の人事を科学する 因果推論に基づくデータ活用』（日本経済新聞出版社、2017年）
川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017年）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（90%）+授業内演習（10%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

・コメント・ペーパーによって、授業で扱うトピックに関する受講者の考えを聞きたい。
・試験問題は、選択式問題・計算問題・記述式問題から幅広く出題する。

【Outline and objectives】

Using conceptual framework studied in the Labor economics A, we study the link between these framework and public policy in the real world. Topics to be covered include: unemployment insurance, personnel economics, parental leave, child care, elderly care and so on.

ECN300CA
社会保障論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】

社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第 3 回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDP と社会保障給付費、財源
第 4 回	年金制度 1	年金制度の仕組み
第 5 回	年金制度 2	年金制度の問題点
第 6 回	年金制度 3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第 7 回	医療保険制度 1	医療保険制度の仕組み
第 8 回	医療保険制度 2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第 9 回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第 10 回	生活保護制度 1	生活保護制度の仕組みと問題点
第 11 回	生活保護制度 2	諸外国の公的扶助制度
第 12 回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第 13 回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第 14 回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会保障に関する情報は、日々のニュースに溢れている。ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通してほしい。

【テキスト（教科書）】

小塩 隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社

【参考書】

厚生労働省『厚生労働白書』各年版
鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you understand the features and the issues of Japanese social security system, compared with the one of other developed countries.

This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN300CA
社会保障論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障論 A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論 B では、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第 3 回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第 4 回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第 5 回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第 6 回	所得再分配	所得格差の指標
第 7 回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第 8 回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第 9 回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第 10 回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第 11 回	世代間格差	世代会計
第 12 回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第 13 回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第 14 回	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会保障に関する情報は、日々のニュースに溢れている。ニュースに敏感になるよう、毎日の新聞に目を通してほしい。

【テキスト（教科書）】

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】

阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
小黒一正『アベノミクスでも消費税は 25 % を超える』PHP 研究所
小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社
川口洋行『医療の経済学（第 2 版）』日本評論社
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
『図説 日本の財政』各年度版 東洋経済新報社
『図説 日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of macroeconomics and public economics.

This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level.

MAN200CA
国際ビジネス論 A
山本 功
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスに関わる限り、国際的な関わりを避けることはできない。本講義は国際的ビジネスに関わる際に重要と考えられるテーマを取り上げて概括する。その際、思考の3原則（本質的に考える、総合的に考える、長期的に考える）を念頭に置く。

【到達目標】

本授業を通じて、受講生は、デジタル経済時代におけるビジネスに関わる際に有用なビジネス分析の思考の枠組みとスキルを身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業で使用する資料を PDF ファイルの形で提供する。簡単なリアクション・ペーパーを提出してもらう。現実の動きとして、いくつかの授業の冒頭で、日経新聞の記事を取り上げ、コメントしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ビジネスとは？	ビジネスとは何か。
2	ビジネスの担い手としての企業	ビジネスを担う主体である企業の本質とは何かを概観する。
3	経営とは？	企業には経営が必要だが、そもそも経営とは？
4	意思決定の基本	ロジカル思考、PDCA などビジネスにおける分析・意思決定アプローチを概観する。
5	企業分析①	事業戦略、企業戦略を考えるための分析ツールを概観する。
6	企業分析②	財務分析の基本となる財務諸表を概観する。
7	企業分析③	財務分析ツールを概観する。
8	企業分析④	Apple の企業分析。
9	企業分析⑤	日本企業の収益性分析。
10	企業分析⑥	株価の意味とは。
11	企業分析⑦	バリュエーション
12	企業分析⑧	ラクスルを分析する。
13	企業分析⑨	Google Amazon Apple Facebook などの台頭が意味することを考える。
14	企業分析⑩	日本企業の課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提供された PDF を授業前後に読む。各授業で紹介された参考書を読み、論点を整理してみる。

【テキスト（教科書）】

PDF を提供する。

【参考書】

授業の際に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期中レポート（30%）、期末試験（70%）で成績評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特にコメント等はない。

【Outline and objectives】

No business cannot avoid the international influences. This lecture will pick up the essential themes related to the international businesses. The themes are scrutinized based on “three principles of thinking” which are; thinking the core, thinking the big picture, and thinking in the long term.

MAN200CA
国際ビジネス論 B
山本 功
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本スタンスは国際ビジネス論 A と同じだが、本講義は、資本主義全体を概括し、企業と資本市場の在り方に検討を加え、新規事業開発の基本的アプローチを論ずる。最後に、キャリアパスの考え方に言及する。

【到達目標】

本授業を通じて、受講生は、資本主義の現在を俯瞰的に捉えることに加え、近年注目されているコーポレート・ガバナンスに関する理解を深め、日本企業・日本経済の再生戦略、資産運用戦略などを考えるための基本的知識を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業で使用する資料を PDF ファイルの形で提供する。簡単なリアクション・ペーパーを提出してもらう。授業の進捗状況及び受講生の要望により強調するテーマを適宜変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	資本主義とは①	資本主義の歴史の中で株式会社を位置づける。
2	資本主義とは②	資本主義の現状を考える。
3	コーポレート・ガバナンス①	企業ガバナンスの変遷を概観する。
4	コーポレート・ガバナンス②	株式会社のガバナンスに関する基本的論点を整理する。
5	コーポレート・ガバナンス③	投資家・株主によるガバナンスに関する主要論点を整理する。
6	コーポレート・ガバナンス④	日本の株式会社ガバナンスと投資家の関係を考える。
7	いい会社とは	いい会社とは。それを判断するために何を見るか。
8	資本主義とは③	資本主義の未来を考える。
9	日本企業の新陳代謝と資本市場①	効率経営を考える。
10	日本企業の新陳代謝と資本市場②	M&A の功罪を考える。
11	日本企業の新陳代謝と資本市場③	スピンオフの功罪を考える。
12	新規事業開発①	新規事業開発のアプローチを考える。
13	新規事業開発②	不と未、リボン・モデルの活用。
14	キャリア・パスを考える	WCM モデルの活用。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提供された PDF を授業前後に読む。各授業で紹介された参考書を読み、論点を整理してみる。

【テキスト（教科書）】

PDF を提供する。

【参考書】

授業の際に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期中レポート（30%）、期末試験（70%）で成績評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特にコメント等はない。

【Outline and objectives】

The basic approach is the same as that of International Business A. This lecture will touch upon the history of capitalism, the relationship between corporation and the capital market, and the basic approach to develop new businesses. The last theme will be career development.

SES300CA
地球環境論 A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解し、人間活動と自然環境との相互関係について理解を深める。そのために地球の成り立ち、自然環境の仕組みを総括的に学習する。

【到達目標】

諸資料を活用し、地理的条件とも関連づけながら、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

地球を取り巻く大気環境、地球の構造、環境の変遷に伴う生物・人類進化・国際社会の現状に至るまでを学習する。地球の成り立ち、生物から見た環境要素との関係（エコロジー）、地球環境の歴史的变化と生物との関係などについて触れる。授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	VTR と演習	参考となるビデオ観察、グラフを用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTR などによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性と意義
14	総復習と演習	春学期全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や課題は授業支援システムで配布する。

【テキスト（教科書）】

1 『地球環境学入門 第2版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】

1 『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、授業への取り組み（平常点と課題）を 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。（学部の評価基準のとおり）

【学生の意見等からの気づき】

理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】

学生は授業中にスマートフォンやタブレットを使用しないこと。
「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

【Outline and objectives】

In order to understand the mechanisms of the global environment, you will learn diversity, interrelationships and rules of the environment on our planet. Based on the natural history of the formation of the Earth, you will learn how human activities work for the environment.

SES300CA
地球環境論 B
山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。

【到達目標】

自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

公害の歴史や化学史を参照しながら、地球規模での人間と環境との関わりについて学習する。また環境汚染の発生メカニズムとその現状、環境汚染物質が自然環境にもたらす影響について、さらには環境保全の技術と社会との関わりについて理解する授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容、計画、評価方法、テキストの紹介。環境とは何か、エコとは何か
2	生態系	生態系と生物多様性、里地・里山の役割
3	資源とエネルギー	エネルギーとは何か。化石燃料を中心とした問題
4	非化石燃料と核燃料	発電および動力源としてのエネルギー資源
5	非金属資源と金属資源、生物資源	各種資源の地球規模、日本国内規模での問題
6	原子力発電	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
7	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
8	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
9	地球大気の変異	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
10	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
11	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
12	食品と環境	食品汚染、農業問題、毒とは何か
13	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
14	環境と経済・総復習	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。演習を交えた総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

1) 『地球環境学入門 第2版』 山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】

1) 『環境・エネルギー・健康 20 講』 今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2) 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』 Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

授業内でレポートや小試験 (40%) を行い、期末筆記試験 (60%) を行う。合計の 60 % 以上得点できた場合に単位を認める。

【学生の意見等からの気づき】

理科系科目の苦手な学生も理解できるように努める

【学生が準備すべき機器他】

授業の予習復習の際に授業支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】

学生は授業中にスマートフォンやタブレットを使用しないこと。

「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

【Outline and objectives】

The current situation of environmental problems are already very complicated. You will learn the relationship between human activities and environmental problems. The main theme of this semester is to discuss how we can conquer problems, such as climate change, disasters, exhaustion of resources, and so on.

ECN200CA
マクロ経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講すれば、初級レベルのマクロ経済学を説明でき、日経新聞がより深く理解でき、地方上級公務員のマクロ経済学の入試問題を解答できるようになる。

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	GDP(1)	国内総生産、三面等価の原則、国民総所得、名目と実質
3	GDP(2)	景気循環の考え方
4	消費と貯蓄の決定 (1)	ケインズ型の消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説
5	消費と貯蓄の決定 (2)	流動性制約と消費、日本の貯蓄率
6	設備投資と在庫投資 (1)	企業の設備投資、投資の決定要因、資本の限界生産性、資本の使用者費用、望ましい資本ストック
7	設備投資と在庫投資 (2)	新古典派の投資理論、ジョルゲンソンの投資理論、調整費用モデル、在庫投資
8	金融と株価 (1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択、株価の決定理論
9	金融と株価 (2)	トービンの q 理論、投資理論の実証分析、流動性制約と投資
10	貨幣の需要と供給 (1)	貨幣の機能、貨幣需要の動機、貨幣需要関数
11	貨幣の需要と供給 (2)	ハイパワードマネーと貨幣供給、貨幣量のコントロール方法、利率の決定理論、テーラー・ルール
12	乗数理論と IS-LM 分析 (1)	有効需要の原理、乗数理論、財市場と IS 曲線
13	乗数理論と IS-LM 分析 (2)	貨幣市場と LM 曲線、IS-LM 分析、財政・金融政策
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・前回の復習を行った上で次の講義に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【参考書】

「演習式マクロ経済学・入門 補訂版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学 B」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学 A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】

When you can take this course, you can explain basic macroeconomics.

ECN200CA
マクロ経済学 B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講すれば、初級レベルのマクロ経済学を説明でき、日経新聞がより深く理解でき、地方上級公務員のマクロ経済学の入試問題を解答できるようになる。

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	経済政策の有効性 (1)	景気循環と経済政策、トレンドの変動、経済政策の有効性
3	経済政策の有効性 (2)	マクロ計量モデル、マネタリズム、非伝統的金融政策
4	財政赤字と国債 (1)	財政政策、国債の役割と問題点、日本の財政赤字
5	財政赤字と国債 (2)	課税平準化の理論、日本の国債市場の動向
6	インフレとデフレ (1)	日本の物価水準の推移、ダイヤモンド・インフレ
7	インフレとデフレ (2)	コストプッシュ・インフレ、インフレのコスト、ハイパー・インフレ、デフレ
8	失業 (1)	労働市場と失業、フィリップス曲線
9	失業 (2)	自然失業率仮説、自然失業率の変動、日本の失業率
10	経済成長理論 (1)	経済成長理論、成長会計
11	経済成長理論 (2)	収束の概念、内生的経済成長理論、経済成長と所得分配
12	オープン・マクロ経済 (1)	国際収支表、為替レート、国際通貨制度
13	オープン・マクロ経済 (2)	為替レートの決定要因、経常収支の決定要因
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・前回の復習を行った上で次の講義に臨むこと。
・「マクロ経済学 A」の内容を前提とした講義を行う。履修していない場合は、授業開始前にテキストで自習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【参考書】

「演習式マクロ経済学・入門 補訂版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

「マクロ経済学 A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline and objectives】

When you can take this course, you can explain basic macroeconomics.

ECN200CA
ミクロ経済学 A
篠原 隆介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、現代社会の問題を、複数の主体間の相互依存関係でとらえるゲーム理論を学習する。特に、ミクロ経済学 A では、ゲーム理論の基本概念である完備情報ゲーム理論の学習と応用を行う。まず、戦略形ゲームとナッシュ均衡の概念を学習した上で、寡占市場の分析に応用し、不完全競争の弊害を理解する。次に、展開型ゲームと部分ゲーム完全均衡を学習し、時間を通じた企業の意思決定問題に応用する。最後に、繰り返しゲームにおけるフォーク定理を学習し、現代社会や国際社会の諸問題が、長期的な視点を持つプレイヤーの自発的な協調行動により、解決されることを理解する。

【到達目標】

本講義では、現代の社会における人と人、企業と人、国家と人などの主体間の相互依存関係を分析対象とするゲーム理論を習得し、相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを、主体的かつ客観的に考察できる力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

下記指定の教科書と練習問題集に基づき講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ゲーム理論とは	我々の経済社会とゲーム理論、ゲーム理論の歴史について
2	選択と意思決定	リスクと期待効用、不確実性と主観確率、確率論の基本知識について
3	戦略形ゲーム	戦略形ゲームとは、純粋戦略と混合戦略について
4	ナッシュ均衡	最適反応とナッシュ均衡、合理的均衡と集団均衡、均衡の計算について
5	同時手番の寡占市場分析（応用）	クールノー寡占市場とナッシュ均衡の導出について
6	その他の均衡概念	支配戦略均衡、ゼロサムゲームのマックスミニ戦略について
7	利害対立と協力	囚人のジレンマにおける個人合理性と集団合理性について
8	パレート最適性を用いた経済厚生分析	クールノー寡占市場と公共財供給への応用
9	ダイナミックなゲーム	逐次的なゲームとその例、ゲームの木、先読み推論について
10	展開型ゲーム	情報集合と情報構造、部分ゲーム完全均衡について
11	逐次手番の寡占市場	時間を通じた企業の意思決定とシュタケルベルグ競争について
12	繰り返しゲーム	完全情報の繰り返しゲーム、繰り返し囚人のジレンマについて
13	フォーク定理	個人合理的利得のベクトル、トリガー戦略、しっぺ返し戦略について
14	復習と練習問題演習	春学期の学習内容を復習し、練習問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前後で、講義資料や参考書を読み、練習問題を解いたりして、反復学習すること。この反復学習が、本講義の学習内容を理解するためには、重要である。疑問は、担当教員に質問するなどして、その都度解消しておくこと。ゲーム理論を概観したい者は、次の資料が便利である。

[a] 鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房、2016 年

[b] 武藤滋夫『ゲーム理論で身につける戦略思考』超教養講座 No.31、WAO コーポレーション (http://kyoyo.wao.ne.jp/kouza/details.php?contents_no=30032)

【テキスト（教科書）】

岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014 年

【参考書】

- 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015 年
- 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社、2000 年

【成績評価の方法と基準】

試験 100 % で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。

【その他の重要事項】

①「現代経済学入門（基礎）」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。

②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

【Outline and objectives】

This course deals with the economic application of game theory. Our focus is on the static game and dynamic games with complete information. Our questions are:

- what is the game theory? (basic concepts)
- how do we analyze the strategic situation? (strategic form games, extensive form games, Nash equilibria, subgame perfect equilibria)
- how is the theory applied to economic analyses? (oligopoly markets, the provision of public goods)

ECN200CA
ミクロ経済学B
篠原 隆介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学 A での学習内容を発展させ、不完備情報ゲーム理論、交渉理論、協力ゲーム理論、進化ゲーム理論について学習する。不完備情報ゲーム理論では、完全ベイジアン均衡を学習し、情報の不完備性が引き起こす逆選択やモラルハザード等の問題の解決策を考察する。交渉理論では、公理的アプローチと戦略的アプローチの 2 つの伝統的なアプローチの相互関係を学習する。協力ゲーム理論では、複数の経済主体の協調行動がもたらす帰結とその厚生経済学的視点からの望ましさについて学習する。進化ゲーム理論では、基本概念である進化的安定性を学習し、企業の規格競争の分析へ応用する。

【到達目標】

ミクロ経済学 A に引き続き、現代の社会における様々な主体間の相互依存関係を分析対象とするゲーム理論を習得し、主体間の相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを主体的かつ客観的に考察できる力を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

下記指定の教科書と練習問題集に基づき講義を行う。ミクロ経済学 A の講義内容を前提として、講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	講義内容の紹介と、春学期と秋学期の対応関係について
2	不完備情報ゲーム入門	情報の非対称性、プレイヤーの信念とベイズの定理について
3	完全ベイジアン均衡	分離均衡と一括均衡について
4	逆選択とシグナリング	情報の非対称性による問題、シグナリングゲームについて
5	モラルハザード	モラルハザードとは、プリンシパル・エージェント問題について
6	オークション	様々なオークション様式の紹介、収入同値定理について
7	繰り返しゲームへの応用	価格競争における談合と裏切りのシグナルについて
8	交渉理論	交渉問題とは、公理的アプローチとナッシュ交渉解について
9	交互提案交渉	戦略的アプローチとルービンシュタイン交渉ゲームについて
10	グループ形成と利得分配	提携とは、協力ゲームとは、パレート最適と個人合理性とは
11	協力ゲームのコア	コアの導出方法、コアの厚生評価（パレート最適性）について
12	協力ゲームのシャープレイ値	限界貢献度とシャープレイ値、導出方法について
13	進化ゲーム	進化的安定性とナッシュ均衡、企業の規格競争の分析への応用について
14	復習と練習問題演習	秋学期の学習内容を復習し、練習問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前夜、講義資料や参考書を読み、練習問題を解いたりして、反復学習すること。この反復学習が、本講義の学習内容を理解するためには、重要である。疑問は、担当教員に質問するなどして、その都度解消しておくこと。ゲーム理論を概観したい者は、次の資料が便利である。

[a] 鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房、2016 年

[b] 武藤滋夫「ゲーム理論で身につける戦略思考」超教養講座 No.31、WAO コーポレーション（http://kyoyo.wao.ne.jp/kouza/details.php?contents_no=30032）

【テキスト（教科書）】

岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014 年

【参考書】

- 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015 年
- 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社、2000 年

【成績評価の方法と基準】

試験 100 % で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。

【その他の重要事項】

①「現代経済学入門（基礎）」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。

②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

【Outline and objectives】

This course deals with several advanced topics on game theory and their applications. Our questions are:

(i) how do we analyze the long-term relation between players? (repeated games)

(ii) how do we analyze strategic situations in the presence of asymmetric information? (Bayesian games)

(iii) how do we analyze bargaining among players? (Nash bargaining, bargaining with alternating offers, cooperative games and their solutions)

(iv) what is the evolutionary game theory? (an introduction to the evolutionary game)

ECN200CA
マクロ経済学 A
森田 裕史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。マクロ経済モデルに関して、IS-LM モデル・AD-AS モデルといった短期・中期のモデルを取り上げる。経済統計とマクロ経済理論を学ぶことで、現実の経済事象を主観的に考察し、公正に判断できるようにすることが本講義の目的である。

【到達目標】

- 1：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
- 2：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はスライド及び板書を用いた講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	マクロ経済学とは
第 2 回	国民経済計算（1）	GDP とは
第 3 回	国民経済計算（2）	支出面から見た GDP
第 4 回	国民経済計算（3）	GDP デフレーター
第 5 回	消費者物価指数（1）	CPI の求め方
第 6 回	消費者物価指数（2）	最適な消費点の求め方
第 7 回	消費者物価指数（3）	CPI の上方バイアス
第 8 回	短期分析（1）	ケインジアンの変差図
第 9 回	短期分析（2）	乗数効果
第 10 回	短期分析（3）	IS-LM 曲線の導出
第 11 回	短期分析（4）	IS-LM 分析
第 12 回	短期分析（5）	期待インフレ率と IS-LM モデル
第 13 回	中期分析（1）	AD-AS 曲線の導出
第 14 回	中期分析（2）	金融財政政策の中期効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しない。
以下の参考書に基づき、授業を行う。

【参考書】

1. 齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久『New Liberal Arts Selection: マクロ経済学』, 有斐閣, 2010.
2. マンキュー, N.G.『マンキューマクロ経済学 I・II』, 東洋経済新報社, 2011.
3. 尾山大輔・安田洋祐『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（改訂版）』, 日本評論社, 2013.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）に基づいて成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, the students learn about the economic data related with macroeconomic analysis and the basic macro economic model. The macroeconomic models which the students study in this course are IS-LM, AD-AS models. The aim of this lecture is that, based on the macroeconomic models, the students can understand the macroeconomic events happened in the actual world.

ECN200CA
マクロ経済学 B
森田 裕史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。マクロ経済モデルに関して、長期モデルである経済成長モデルを取り上げる。また、最近のマクロ経済分析で主流になっているミクロ的基礎付けを持つマクロ経済モデルに関しても、その導入部分について解説を行う。経済統計とマクロ経済理論を学ぶことで、現実の経済事象を主観的に考察し、公正に判断できるようになることが本講義の目的である。

【到達目標】

- 1：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
- 2：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はスライド及び板書を用いた講義形式で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	マクロ経済モデルとは
第 2 回	流動性の罫（1）	流動性の罫とは
第 3 回	流動性の罫（2）	流動性の罫の下での LM 曲線
第 4 回	流動性の罫（3）	流動性の罫の下での金融政策
第 5 回	経済成長モデル（1）	イントロダクション
第 6 回	経済成長モデル（2）	定常状態
第 7 回	経済成長モデル（3）	資本の黄金律水準
第 8 回	経済成長モデル（4）	人口成長と技術進歩
第 9 回	経済成長モデル（5）	定常状態での経済成長
第 10 回	消費の最適化問題（1）	消費者理論の復習
第 11 回	消費の最適化問題（2）	異時点間の消費選択
第 12 回	消費の最適化問題（3）	消費と労働の選択
第 13 回	消費の最適化問題（4）	労働供給曲線
第 14 回	消費の最適化問題（5）	リカードの等価命題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しない。
以下の参考書に基づき、授業を行う。

【参考書】

1. 齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久『New Liberal Arts Selection: マクロ経済学』, 有斐閣, 2010.
2. マンキュー, N.G.『マンキューマクロ経済学 I・II』, 東洋経済新報社, 2011.
3. 尾山大輔・安田洋祐『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める（改訂版）』, 日本評論社, 2013.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）に基づいて、成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, the students learn about the economic data related with macroeconomic analysis and the basic macro economic model. The macroeconomic models which the students study in this course are Slow economic growth model and dynamic optimal consumption choice problem. The aim of this lecture is that, based on the macroeconomic models, the students can understand the macroeconomic events happened in the actual world.

ECN200CA
ミクロ経済学A
平井 俊行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Aでは特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・ミクロ経済学の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。適宜演習の時間も設ける。時間が足りなければ宿題を出す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概説と講義の進め方。
2	部分均衡分析 (1)	需要曲線・供給曲線と市場均衡。比較静学の考え方。
3	部分均衡分析 (2)	余剰分析の紹介。価格規制・数量規制の市場への影響。
4	部分均衡分析 (3)	課税の価格への転嫁とその帰着。それによる死荷重の発生。
5	消費者行動 (1)	選好と効用およびそれらの無差別曲線による表現。予算制約線の性質。
6	消費者行動 (2)	限界代替率の導入。それをを用いた需要の導出。
7	消費者行動 (3)	代替効果・所得効果の解説。上級財・下級財、代替財・補完財の紹介。
8	生産者行動 (1)	生産関数と等生産量曲線の関係・生産要素価格と等費用線の関係。
9	生産者行動 (2)	生産要素間の限界代替率。それをを用いた費用関数の導出。
10	生産者行動 (3)	短期・長期の供給関数の導出。
11	生産者行動 (4)	規模の(不)経済・範囲の(不)経済の紹介。
12	一般均衡分析 (1)	関連する2つの財の市場の間の影響。
13	一般均衡分析 (2)	エッジワースボックスの導入。契約曲線・パレート効率性・コアの解説。
14	一般均衡分析 (3)	厚生経済学の基本定理。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：講義資料や参考書を読んでおくこと。

事後学習：講義内容を復習すること。また配布資料や参考書についている演習問題を解く。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 伊藤元重「ミクロ経済学（第3版）」2018年、日本評論社、3000円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 基礎編」2017年、東洋経済新報社、3200円+税
- ③ レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017年、東洋経済新報社、3600円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 90%、演習・宿題 10%。

【学生の意見等からの気づき】

講義担当者が新任のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する予定。詳細は第1回目の講義で説明する。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline and objectives】

This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

ECN200CA
ミクロ経済学B
平井 俊行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
2010 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Bでは不完全競争市場・外部性・情報の非対称性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。ゲーム理論やミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
 ・実際の経済事象を必要に応じて不完全市場・外部性・情報の非対称性の問題と関連づけて捉えることができる。
 ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。適宜演習の時間も設ける。また、講義内で時間が足りなければ宿題を出す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概説・講義の進め方。
2	ゲーム理論 (1)	戦略形ゲームの導入。期待利得の解説。
3	ゲーム理論 (2)	最適反応戦略とナッシュ均衡。(弱)支配戦略。
4	不完全競争市場 (1)	独占市場における生産者の行動。
5	不完全競争市場 (2)	数量競争・価格競争による寡占(複占)市場。
6	ゲーム理論 (3)	展開形ゲームの導入。展開形ゲームの戦略形ゲーム表現。
7	ゲーム理論 (4)	部分ゲーム完全均衡。後向き帰納法による求め方。
8	ゲーム理論 (5)	繰り返しゲームと、カルテルとしての独占の発生。
9	外部性 (1)	外部(不)経済と市場の欠落。ピグー税・補助金。
10	外部性 (2)	公共財の紹介。自発的供給と効率的な供給の違い。
11	外部性 (3)	メカニズムデザインの紹介。VCGメカニズム。
12	ゲーム理論 (6)	情報不完備ゲームと(完全)ベイジアンナッシュ均衡。
13	情報の経済学 (1)	プリンシパル=エージェント問題とモラルハザード。
14	情報の経済学 (2)	学歴モデルとシグナリング。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：講義資料や参考書を読んでおくこと。

事後学習：講義内容を復習すること。また配布資料や参考書についている演習問題を解く。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 伊藤元重「ミクロ経済学(第3版)」2018年、日本評論社、3000円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C. [著], 安田洋祐 [監訳], 高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017年、東洋経済新報社、3600円+税
- ③ 岡田章「ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために - 新版」2014年、有斐閣アルマ、1900円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 90%、演習・宿題 10%。

【学生の意見等からの気づき】

講義担当が新任のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する予定。詳細は第1回目の講義で説明する。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline and objectives】

This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition, externalities, and asymmetric information. This course also introduces game theory that is essential for analyzing these situations. Students should surely acquire the contents of this course since game theory and microeconomic theory are essential foundations for advanced topic courses.

ECN300CA
特別講義（寄付講座 証券市場論）
大和証券株式会社
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の3点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。

- ①金融商品市場の機能と役割を理解する。
 - ②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
 - ③ M & A など、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
- 講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】

株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べる事が出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

日本の金融システムは、政府管理下での「秩序優先システム」から、市場という公平な場で評価を受ける「市場型システム」へと、大きくその姿を変えた。資金の調達・運用手法が高度化し、経営戦略としての M&A も目新しいものではない。また、投資対象の広がりとともに、多様な金融商品が開発され、そのリスク管理が問われている。

一方、金融商品取引法の施行にあるように、公正な「市場システム」の維持と投資家保護が金融に携わる者の大きな課題である。

本講義を通して、社会人予備軍でもある学生の皆様に、経済の根幹を支える金融システムとその重要性のみならず、経済を考えるヒントを伝えられれば幸いである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第2回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第3回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第4回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第5回	株式市場①	株式の種類
第6回	株式市場②	株価の形成要因
第7回	債券市場①	債券のキーワード
第8回	債券市場②	債券の利回り
第9回	投資信託	投資信託の特徴
第10回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第11回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第12回	M&A	最近の事例紹介
第13回	証券関連規制と証券会社	証券関連規制の枠組み
	総括	
第14回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の準備学習については特になし。講義で使用するレジюмеと小テストを復習することにより、金融知識が身につくはずであり、新聞、ニュースを自分なりの視点から読み解くよう意識する。

【テキスト（教科書）】

各回講義用のレジюмеを配布する。

【参考書】

必要に応じて参考文献を指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）

期末試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

予習復習をあまりしておらず、授業のみで完結しているという意見が多かったため、経済を読み解く上で参考となるような文献の案内を行ってみたい。

【その他の重要事項】

現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline and objectives】

This lecture is the basic course on financial products. Taking the following three points into consideration, we will analyze the upcoming role of the financial products on the market.

1.To understand the function and role of the financial products on the market.

2.To learn about main products such as equity, bond, and investment trust.

3.To understand the current trend of the market such as M&A.

We will invite experts who have understanding of financial market as instructors. The lecture will not only cover the key logics of financial market, but also deal with the realistic topics that you face every day.

ECN300CA
特別講義 (Basic Economics A)
KALENGA NGOY JOHN
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course provides an opportunity to acquire the introductory knowledge of economics.

【到達目標】

To understand and explain the behavior of the economic agents in the whole economy. To describe the basic economic theories of consumers and producers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, students-activity, and presentations.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction. What is economics?
2	How to think like an economist?	Introductory concepts.
3	Economic activity	Economic systems
4	Economic activity	Diagram of economic flows. Press release presentation 1
5	Introduction to Microeconomic analysis	Basics of Microeconomics. Group presentations 1
6	Introduction to Macroeconomic analysis	Basics of Macroeconomics. Group debate 1
7	Relationship between production and consumption	Demand and supply analysis. Group presentation 2
8	Who get to consume what is produced?	Demand of consumer. Press release presentation 2
9	How should companies combine their production factors?	Production possibilities of the firm. Group debate 2
10	Why wages do not increase?	Labor market and wages. Group presentations 3
11	Why the market is important?	The role of market. Group debate 3
12	Why the price is high or cheap?	How price of goods is determined? Press release presentation 3
13	Why money is important in economy?	Banking and money. Group debate 3
14	What are the world largest economies?	Future of global economy. Group presentations 4. Final report

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Reading materials and preparing group presentations

【テキスト (教科書)】

Tony Cleaver, Economics: The Basics, New York: Routledge, 2014
Thomas Sowell and Tom Weiner, Basic Economics 4th Ed: A Common Sense Guide to the Economy, Blackstone Audio, Inc., 2010.

The textbooks are not required because I will provide the handouts every week.

【参考書】

Cleaver, T. (2014), Economics: The Basics, New York: Routledge.
Hazlitt, H. (2010), Economics in One Lesson: The Shortest and Surest Way to Understand Basic Economics, Basic Books.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 20%; Press release assignments: 10%; Group activities and presentations in class: 30 %; Final report: 40%.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

Upon the completion of this course, students will be able to describe and analyze the rational behavior of households, firms, and government in economy.

ECN300CA
特別講義 (Basic Economics B)
KALENGA NGOY JOHN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course provides an opportunity to acquire the introductory knowledge of economics.

【到達目標】

To describe the basic economic theories of households and firms. To explain the rational behavior of consumers, producers, and government.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, student-activity, and presentations.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction. What is economics?
2	How to think like an economist?	Introductory concepts
3	Economic activity 1	Economic systems
4	Economic activity 2	Demand and supply analysis. Press release presentation 1
5	Efficiency of production factors	Elasticity of demand and supply. Group presentations 1
6	Market economy	The role of the market. Group debate 1
7	Relationship between countries	International trade. Group presentation 2
8	Relationship between countries	Income Inequality. Press release presentation 2
9	The role of government in economy	Negative and positive externalities. Group debate 2
10	Government intervention	Welfare and public goods. Group presentations 3
11	Government intervention	The tragedy of commons. Press release presentation 3
12	Types of markets	Perfect competition. Group debate 3
13	Types of market 2	Monopoly. Group presentations 4
14	Final evaluation	Concluding remarks. Final report

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Reading materials and preparation of group presentations

【テキスト (教科書)】

Tony Cleaver, Economics: The Basics, New York, Routledge, 2014
Thomas Sowell and Tom Weiner, Basic Economics 4th Ed: A Common Sense Guide to the Economy, Blackstone Audio, Inc., 2010.

【参考書】

Cleaver, T. (2014), Economics: The Basics, New York, Routledge, 2014.
Hazlitt, H. (2010), Economics in One Lesson: The Shortest and Surest Way to Understand Basic Economics, Basic Books.

I will provide the handouts every week in class.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 20%; Press release assignments: 10%; Group activities and presentations in class: 30 %; Final report: 40%.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline and objectives】

Upon the completion of this course, students will be able to describe the basic economic theories of households and firms. Also, to explain the rational behavior of consumers, producers, and government at both microeconomic and macroeconomic levels.

ECN300CA
特別講義（現代中国の経済政策）
サブタイトル：Chinese modern economic policy
Oliynyk Oleh
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Over 40 years of policy of reform and openness, China has achieved great success, has become the 2nd economy in the world, the largest producer of goods, and it occupies the second place in the world in terms of foreign trade. Over the years of reform, China has transformed from a country that copies technology into a leader in innovative development. The course will consider the success factors of economic development of China.

【到達目標】

- 1) To study the results of policy of reform and openness.
- 2) To identify the driving force of successful economic development of China.
- 3) To determine the new normal of current economic policy of China.
- 4) To acquire skills in analyzing the economic policy.
- 5) To enhance the ability to assess the economic policy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, presentation, quizzes, in-class activities, discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of course objectives and expectations of China modern economic policy.
2	Results of 40 years' economic reform of China	Study the results of 40 years' economic development of China
3	Foreign economic policy of China into foreign markets	The proactive foreign economic policy of China provides the accumulation of currency reserves and entrance into foreign markets.
4	Banking system of China	Reform of Banking system of China stipulated the economic development of the country.
5	Cross-border investments of China	Through cross-border investments China has strengthened its positions at outsidess markets.
6	Equality and Sustainability: China's main targets in modern economic model	The key for China in modern economic model is to put the issue of equal distribution at an outstanding position in its economic and social development.
7	The new normality of current China economic policy	China has changed its economic development from the export and investment-led growth to qualitative development and more moderate development.
8	Building a moderately prosperous society	Achieving "moderate prosperity" is China's goal in the 13th Five-year Plan.
9	Consumption-led growth in China	China transformed its economic model by expanding domestic demand, pulling up consumption towards a consumption-led growth.
10	Speeding up transition and reform in key field of public service	Speeding up the construction of basic public service system will push forward the consumption-led social transformation.
11	Government transition towards consumption-led growth	The main challenge in the economic transition towards consumption-led growth doctrine government.
12	"One belt, one road of China" Global initiatives of China	In 2013 China initiated the new initiative in order to intensify the win-win cooperation between the countries along the route of initiative.

13 Creating innovative, scientific and technical state
China plans to become a leading innovating state.

14 Presentation
Student presentations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly readings to be assigned before each class. Presentation.

【テキスト（教科書）】

Some Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【参考書】

To be supplied later.

【成績評価の方法と基準】

In-class activities 40%

Quizzes 30%

presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

n/a

【学生が準備すべき機器他】

Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentation.

【Outline and objectives】

Over 40 years of policy of reform and openness, China has achieved great success, has become the 2nd economy in the world, the largest producer of goods, and it occupies the second place in the world in terms of foreign trade. Over the years of reform, China has transformed from a country that copies technology into a leader in innovative development. The course will consider the success factors of economic development of China.

ECN300CA
特別講義（中国とアメリカの戦略比較分析）
サブタイトル：Comparative analysis of China-US strategies
Oliyntyk Oleh
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The importance of the role of the Asia-Pacific region has been evaluated and recognized by the leading countries of the world, the US and China, which have traditionally played an important role in the development of this region. Both countries have deep economic roots and interests in this region and they want to preserve their interest for a long period of time. Course is devoted to reveal the China-US strategy on integration processes in the Asia-Pacific region.

【到達目標】

- 1) To study the integration process in Asia-Pacific.
- 2) To identify the strategic interests of China and USA in Asia-Pacific.
- 3) To determine the USA approaches to Asia-Pacific.
- 4) To study China's vision and strategy towards Asia-Pacific.
- 5) To provide students with the tolls to analyses the China and USA policy in Asia-Pacific.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, presentation, quizzes, in-class activities, discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of course objectives and expectations of China modern economic policy.
2	Historic preconditions of integration process in Asia-Pacific	Study the preconditions and integration process in Asia-Pacific.
3	USA and ASIA-Pacific integration	Find out the approaches and vision of USA administration towards integration in Asia-Pacific.
4	ASEAN role in Asia-Pacific	After liberation Asia-Pacific countries determined to unite against communism and colonialism.
5	China policy toward ASEAN	China declared strategic interest to ASEAN and conduct policy on close cooperation with ASEAN.
6	“One belt, one road initiative” in South-East Asia	Consider China-Southeast Asia Infrastructure Connectivity and Construction.
7	USA and ASEAN	USA see ASEAN as sphere of its interest.
8	Regional Comprehensive Economic Partnership	China transformed its economic model by expanding domestic demand, pulling up consumption towards a consumption-led growth.
9	APEC as economic model of regional integration in Asia-Pacific	APEC, is the premier forum for facilitating economic growth, cooperation, trade and investment in the Asia-Pacific region.
10	APEC as platform of shared future for Asia-Pacific	APEC declaration for creating new opportunities.
11	Trans-Pacific Partnership	The Trans-Pacific Partnership is a free-trade agreement between the United States and 11 other countries that border the Pacific Ocean.
12	Indo-Pacific region	Trump initiated Indo-Pacific strategy to rejoin the TPP.
13	Japan approach and vision towards integration in Asia-Pacific region	Japan used to play important role in Asia-Pacific regions.
14	Presentations	Student presentations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly readings to be assigned before each class. Presentation.

【テキスト（教科書）】

Some Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【参考書】

To be supplied later.

【成績評価の方法と基準】

In-class activities 40%

Quizzes 30%

presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

n/a

【学生が準備すべき機器他】

Students need access to internet, also the projector and computer connected to projector for presentation.

【Outline and objectives】

The importance of the role of the Asia-Pacific region has been evaluated and recognized by the leading countries of the world, the US and China, which have traditionally played an important role in the development of this region. Both countries have deep economic roots and interests in this region and they want to preserve their interest for a long period of time. Course is devoted to reveal the China-US strategy on integration processes in the Asia-Pacific region.

ECN300CA
特別講義（映画とドラマの中の経済学）
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は、勉強すればすぐ気づくのですが、人間の行動についての学問です。日常生活の不思議を経済学で説明できるときの楽しさを学生に伝えようとしているのですが、なかなかうまくいきません。一つの理由に、学生は人生経験が相対的に乏しいからかもしれません。人生経験の乏しさを補うためには、読書は非常に有効です。読書によって、通常では体験できないことを体験できるようになります。また、映像の力を借りて漫画や映画も有効でしょう。この講義では、映画のなかで経済学の概念が用いられているシーンを紹介します。なお、受講生に予備知識をもとめませんので、これまで経済学の科目の受講を避け続けてきた方も歓迎します。

【到達目標】

この授業をとれば、日常生活の観察から経済学的な解釈ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な経済用語を解説し、それが映画やドラマでどのように使われているかを紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	サンクコスト	ロード・オブ・ザ・リング (2002) などをつかってサンクコストを説明する。
2	機会費用 1	天使のくれた時間 (2001) などをつかって機会費用を説明する。
3	機会費用 2	マッドマックス怒りのデスロード (2015) などをつかって機会費用を説明する。
4	比較優位	ベイブ (1996) などをつかって比較優位を説明する。
5	交易からの利得	ジョゼと虎と魚たち (2003) などをつかって交易からの利得を説明する。
6	限界効用逓減の法則	架空 OL 日記 (2017) などをつかって限界効用逓減の法則を説明する。
7	完全競争市場	未来は今 (1995) などをつかって完全競争市場を説明する。
8	不完全競争市場 1: 独占市場	フォレスト・ガンブ (1995) などをつかって独占市場を説明する。
9	不完全競争市場 2: 独占的競争市場	アメリカンギャングスター (2008) などをつかって独占的競争市場を説明する。
10	インセンティブ	レザボア・ドッグス (1993) などを使ってインセンティブを説明する。
11	モラルハザード	純喫茶磯辺 (2008) などをつかってモラルハザードを説明する。
12	アドバースセレクション	ディボース・ショウ (2004) などをつかってアドバースセレクションを説明する。
13	ゲーム理論	ダークナイト (2008) などをつかってゲーム理論を説明する。
14	環境経済学	エリン・プロコピッチ (2000) などをつかって環境経済学を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前か後で紹介した映画やドラマをレンタルするかストーリーミング視聴して観ておいてください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井堀利宏 (2018) 「大学 4 年間の経済学が 10 時間でざっと学べる」 角川文庫
吉本佳生 (2009) 「出版社が楽しい経済学」 NHK 出版

【成績評価の方法と基準】

出席 50 % ・ レポート 50 % で評価する。日常生活や映画や漫画や小説などのなかから経済学が用いられている箇所を見つけ出し解説するレポートを課す。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

社会人になると忙しくなるので卒業までにたくさんの映画を観てください。

【Outline and objectives】

When you take this course, you can use movie and TV dramas to explain basic Economics.

ECN300CA
特別講義（ハワイの歴史と文化）
山本 真鳥
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀終盤にクック船長に「発見」されたハワイ諸島は、ポリネシア系初期王朝の支配する世界であった。その後西欧世界の科学技術や経済社会制度、宗教をとりいれて先住民の国家を形成するものの、カメハメハ王国樹立からおおよそ100年後の19世紀末には、アメリカに併合されてしまう。ハワイの砂糖産業開発のために複数社会から導入した移民労働者集団の存在はハワイに多民族社会をもたらした。ハワイは植民地主義、人種差別主義、多文化主義、先住民問題など多くの世界史的課題を抱えると共に、砂糖産業の代替としての観光産業の隆盛をもって今日に至っているが、その歴史の筋道と共に文化の形成について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 異文化や異なる社会を知る。
- 2) 土着王国、植民地主義、プランテーション・システム、年季契約労働、人種差別、多文化主義、先住民運動、観光開発などのキーワードに沿ってハワイ史を学び、考察する。
- 3) 近代世界システムに18世紀以来組み込まれた世界の周辺領域の典型例としてハワイの歴史を学ぶことによって、近代の意味について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に基づいて講義を行い、授業毎にリアクション・ペーパーを書いてもらう。授業の最初に前に授業でのリアクションに対する回答・コメントを述べ、必要な場合はディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	近代世界システムと周辺地域
第2回	オーストロネシア語族の移住とポリネシア文化の形成	ポリネシアの基層文化
第3回	ハワイ人の移住とハワイ文化	言語、王権、カプー、神話と儀礼
第4回	キャプテン・クックのハワイ訪問	西欧との接触
第5回	カメハメハのハワイ征服	接触による社会変動と王国の樹立
第6回	王国の形成と経済開発	白檀交易、捕鯨船寄港地、砂糖産業
第7回	プランテーション経済と移民労働者	ハワイ社会の階層化
第8回	王国の篡奪と合衆国併合	アメリカ人市民とハワイ王族の対立
第9回	人種主義と労働組合運動	白人支配下のハワイ
第10回	観光開発とハワイのイメージ	戦後の観光開発
第11回	先住民運動	ハワイアン・ルネッサンス、文芸の復興
第12回	ハワイ社会の現在	多文化社会、カラーブラインド
第13回	ハワイ文化の現在	東洋と西洋の出会い、根付く多文化
第14回	授業内試験	詳細は後日指示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次の授業の内容と教科書の関連部分を予告するので、その部分を読んでくること。

【テキスト（教科書）】

山本真鳥・山田亨編『ハワイを知るための60章』明石書店

【参考書】

山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社。マーシャル・サーリンズ著山本真鳥訳『歴史の島々』法政大学出版局。山中速人『ハワイ』岩波新書。矢口祐人『ハワイ王国——カメハメハからクヒオまで』イカロス出版。後藤明他編『ハワイ研究への招待——フィールドワークから見える新しいハワイ像』関西学院大学出版会。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 30%、ディスカッション等の参加 20%、試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なのでなし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを通じて、資料などを配付する。

【Outline and objectives】

The Hawaiian Islands "discovered" by Captain Cook in the later half of the 18th century were the Polynesian stratified polities. After the contact, Kamehameha integrated the islands into an kingdom, although Hawaiian economy were so much dependent on sugar industry led by American settlers who later overthrew the native Kingdom and realized the Annexation of Hawaii to the US. There were other ethnic groups came to work in plantations and thus Hawaii became multi-racial and multi-ethnic society. Hawaii experienced worldly issues such as colonialism, racism, interethnic problems and indigenous people's movement in its its history. We will examine these issues in order to understand the present Hawaiian culture and society.

ECN300CA
特別講義 (Mathematics in Games A)
ROBERT M SINCLAIR
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Mathematics is not simply a collection of equations! It is a way of thinking. Clear mathematical thinking can help us to make good decisions. Many aspects of our working lives can be seen as games. If we can learn to use mathematical thinking in games, it can be very useful. We will play and analyse many types of games, including games of supply and demand.

【到達目標】

The goal is to learn about Mathematics without using equations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】

All students will be required to play games with other students, and to participate in class discussions. Class discussions will be held in a mixture of English and Japanese as appropriate.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Games of Strategy	A game with two heaps of tokens
2	Games of Strategy	Analysis of winning strategies
3	Games of Strategy	A game with three heaps of tokens
4	Games of Strategy	Methods of Analysis
5	Games of Strategy	Analysis of winning strategies
6	Games of Strategy	A linear board game
7	Games of Strategy	Reduction of one game into many
8	Games of Strategy	A game with many heaps of tokens
9	Games of Chance	Social structure and conflict
10	Games of Chance	Analysis of risks of conflict
11	Games of Chance	Discussion on the meaning of "winning"
12	Supply and Demand	A game with buyers and sellers
13	Supply and Demand	Analysis of possible outcomes
14	Supply and Demand	Final discussion

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

There will be regular homework assignments.

【テキスト (教科書)】

There is no textbook for this class.

【参考書】

References will be provided in class as appropriate.

【成績評価の方法と基準】

Participation in game playing and discussions: 20%

Homework assignments: 80%

【学生の意見等からの気づき】

This class will be entirely discussion-based. Students will always be able to express themselves and state their opinions. Also, students will be able to request changes to the direction or content of the course.

【学生が準備すべき機器他】

It would be useful if students could bring small objects (such as buttons) for use in playing games, although pencil and paper will also suffice.

【Outline and objectives】

Mathematics is not simply a collection of equations! It is a way of thinking. Clear mathematical thinking can help us to make good decisions. Many aspects of our working lives can be seen as games. If we can learn to use mathematical thinking in games, it can be very useful. We will play and analyse many types of games, including games of supply and demand.

ECN300CA
特別講義 (Mathematics in Games B)
ROBERT M SINCLAIR
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Games can teach us much about mathematics. We will investigate and discuss mathematical mysteries, including the meaning of numbers, by playing and analysing games their patterns.

【到達目標】

You will become able to understand some deep mathematical questions without using equations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will be based upon game-playing and discussions.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Mathematical Mysteries I	The hydra game
2	Mathematical Mysteries II	The game of life
3	Numbers in Games I	The game with three heaps of tokens
4	Numbers in Games II	A game of cutting red and blue lines
5	Numbers in Games III	A number for any position in the line-cutting game
6	Numbers in Games IV	Revisiting the game with three heaps of tokens
7	Chance and Numbers I	The meaning of probability
8	Chance and Numbers II	Probabilities as numbers from repeated trials
9	Chance and Numbers III	Probabilities as degrees of belief
10	Chance and Numbers IV	A game of quality control in a factory
11	Chance and Numbers V	Student essay writing
12	Mysterious Patterns I	Quasicrystals
13	Mysterious Patterns II	Penrose tilings
14	Surreal numbers	Games can create all numbers! Discussion.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

There will be regular homework assignments and an essay.

【テキスト (教科書)】

You do not need to buy a textbook.

【参考書】

References will be provided as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Homework assignments: 70%

Essay: 20%

Participation in class discussions: 10%

【学生の意見等からの気づき】

Student will at all times have a chance to express themselves and to ask for changes in the style or content of the course. Active learning is most effective when all students can enjoy participating in class!

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring paper and a pencil to all classes.

【Outline and objectives】

Games can teach us much about mathematics. We will investigate and discuss mathematical mysteries, including the meaning of numbers, by playing and analysing games their patterns.

ECN300CA
特別講義 (Big Data A)
ROBERT M SINCLAIR
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

We often hear about Big Data in the news, but it is not always clear what it is, or why it is important. The truth is that Big Data has the potential to change the way businesses and governments operate and even change our understanding of economics itself, but it also carries potential risks to our privacy. We will investigate these topics as well as the connection with A.I.

【到達目標】

To understand the benefits and risks of Big Data from the point of view of individuals in society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】

Active learning requires that all students participate in class in a very direct way. For this class, this will usually mean very open discussions. These discussions will be most enjoyable and valuable if all students take part, expressing their opinions and points of view. Students will be able to contribute in English or Japanese.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Big Data	What is "big" about Big Data?
2	Big Data	Some history of the use of Big Data
3	Privacy	Awareness of what data is collected about us
4	Privacy	How can Big Data be used to identify individuals?
5	Privacy	Student presentations on privacy issues
6	Patterns in Data	Patterns which are unavoidable
7	Patterns in Data	Benford's Law
8	Patterns in Data	The argument for A.I.
9	Impact on Business	Targeting of advertisements, support and rewards
10	Impact on Business	Prediction of demand for new products
11	Impact on Business	Company data privacy and secrecy concerns
12	Debate	Student debate preparation, including choice of topic
13	Debate	Student debate
14	Student report writing	What are the limits of Big Data?

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

There will be occasional homework assignments.

【テキスト (教科書)】

No textbook is required.

【参考書】

References will be distributed in class as appropriate.

【成績評価の方法と基準】

Participation in debates and discussions: 20%

Homework assignments: 50%

Final report: 30%

【学生の意見等からの気づき】

All classes will be based around open discussion. Students will always be able to express their opinions, and also ask for changes. Furthermore, Big Data often appears in the news. It will be possible to discuss these news stories when they appear, and students are encouraged to bring such stories to the attention of the class.

【学生が準備すべき機器他】

No equipment is required. We will not cover technical or programming issues relating to Big Data in this course.

【Outline and objectives】

We often hear about Big Data in the news, but it is not always clear what it is, or why it is important. The truth is that Big Data has the potential to change the way businesses and governments operate and even change our understanding of economics itself, but it also carries potential risks to our privacy. We will investigate these topics as well as the connection with A.I.

ECN300CA
特別講義 (Big Data B)
ROBERT M SINCLAIR
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The focus of this course will be Big Data in the near future. Topics will include medical uses of Big Data, biometric data, lifelogs and the problem of incorrect data.

【到達目標】

You will gain an understanding of the issues relating to Big Data in the world in which you will live and work after you have finished your studies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」「DP11」に関連

【授業の進め方と方法】

Active learning requires that all students participate in class in a very direct way. For this class, this will usually mean very open discussions. These discussions will be most enjoyable and valuable if all students take part, expressing their opinions and points of view.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Future I	Economic and legal reasons why we must consider the future of Big Data.
2	The Future II	Student essay writing.
3	Medical Data and DNA I	Introduction to medical data and genomic sequence data.
4	Medical Data and DNA II	Issues relating to ancestry and health.
5	Medical Data and DNA III	Use of Big Data in patient care.
6	False Data I	Sources and causes of false data.
7	False Data II	Consequences of false data for individuals.
8	False Data III	Erasure of false data.
9	Internet Data I	The concept of a lifelog. Identity theft.
10	Internet Data II	Storage or deletion of internet data.
11	Internet Data III	Ownership of internet data.
12	Biometric Data I	Measuring biometric data. The use of AI.
13	Biometric Data II	The use of biometric data for identification.
14	The Future of Big Data	Class discussion.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

There will be regular homework assignments and an essay to be written.

【テキスト (教科書)】

You do not need to buy a textbook.

【参考書】

References will be provided as required.

【成績評価の方法と基準】

Homework: 70%

Essay: 20%

Participation in class discussions: 10%

【学生の意見等からの気づき】

Every class will be discussion-based, and students will always have opportunities to express themselves. It is important that all students enjoy these discussions, so the course will be changed as necessary to ensure that everyone remains happily and actively involved. All students will be asked to write an essay in the second week. These essays will be used to make sure that topics of interest to the students will be included as much as possible in the course.

【Outline and objectives】

The focus of this course will be Big Data in the near future. Topics will include medical uses of Big Data, biometric data, lifelogs and the problem of incorrect data.

LAW200CA
日本国憲法 A
履 透
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは「憲法とは何のために存在するか」「日本国憲法に定められた国の仕組みとはどのようなものか」である。この授業では、まず、西欧の立憲主義思想や憲法規範の特徴を概観し、政治は憲法に基づき行われること、憲法は公権力を制限する法であることを講じる。ついで、日本国憲法の定める国民主権、民主政治の仕組み（国会、内閣、裁判所、地方自治等）、および平和主義について解説する。

この授業は、制度の単なる解説にとどまらず、法的な思考に基づく日本国憲法の特徴を説明し、それとともに、憲法やそれに基づく民主政治の手がかりに現代社会を主体的に考察するための素材を提示する。本科目の学習によって、主権者に必要な資質を身につけることができるようになる。

【到達目標】

- (1) 憲法とはどのような法であるかを理解し説明できる。
- (2) 日本国憲法の定める統治機構の特徴を正確に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	憲法とは何か (1) 国家の役割、法律の役割、憲法の役割	国家の役割、法律の役割、憲法の役割について学ぶ。また、社会・公民の教育における本授業の意味にふれる。
第2回	憲法とは何か (2) 憲法の内容と特質	立憲主義に基づく憲法にはどのような内容が盛り込まれるのか、また、その憲法の特質はどのようなものかを学ぶ。
第3回	日本憲法史	憲法の内容と特質を確認しつつ、日本憲法史を学ぶ。
第4回	統治のメカニズム総論	国民主権、権力分立、国民の政治参加・選挙の仕組みについて学ぶ。
第5回	国会の地位と役割	国会の地位、組織、権限について学ぶ。
第6回	内閣の役割	内閣の組織と権能について学ぶ。また、内閣総理大臣の権能について学ぶ。
第7回	裁判所の役割	裁判所の組織、司法権の概念と範囲、司法権の独立について学ぶ。
第8回	違憲審査制	違憲審査制の意義を理解し、その上で、抽象的違憲審査制と付随的違憲審査について学ぶ。
第9回	財政と地方自治	財政と地方自治について学ぶ。
第10回	天皇制	憲法の定める天皇制度について学ぶ。
第11回	平和主義	日本国憲法9条の解釈論を学ぶ。
第12回	憲法改正の仕組み	憲法改正の手続きと限界について学ぶ。
第13回	まとめ	これまでの内容を確認する。
第14回	総合	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布レジュメを読んで予習・復習する。特に授業で指示した事項については、念入りに復習し小テストに備える。
2. 日々のニュースの中に含まれる憲法的な論点を探して考える。

【テキスト（教科書）】

六法（『ポケット六法』など小型のものでよい）

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）
長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第6版）』（有斐閣、2013年）

【成績評価の方法と基準】

- ・ 期末試験を実施する（70％）。期末試験は、到達目標(1)(2)に対応して、憲法に関する知識・理解・思考・判断を測る問題を出題する。
- ・ 授業中に複数回小テストを実施する（30％）。小テストは、到達目標(1)(2)に対応して、憲法に関する基礎知識の理解を測る問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の資料の配布に授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

The theme of this class is "What is the Constitution?" and "What is the structure of the government defined in the Constitution of Japan?" In this class, we first outline the features of the Constitutionalism and the Constitutional law. We can understand that politics is done according to the Constitution, and that the Constitution is the law which restricts government. Next, we can understand the sovereignty of the people, the mechanism of democratic politics (the Diet, Cabinet, Courts, Local government), and pacifism, as stipulated by the Constitution of Japan.

In this class, we can understand not only the outline of the system but also the characteristics of the Japanese Constitution based on legal thinking. Also, in this class, we can acquire materials to consider contemporary society from a broad perspective. By learning this subject, we can acquire the necessary qualities as citizens in civil society.

LAW200CA
日本国憲法 B
履 透
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、「憲法の定める基本的人権とはどのようなものか」である。この授業では「憲法とはどのような法であるか」を常に意識しながら、日本国憲法の定める基本的人権について説明する。

この授業は、人権の内容を解説するだけでなく、法的な思考に基づく日本国憲法の定める基本的人権の特徴を説明し、現代社会について幅広い視野に立って考察できるようになるための素材を提示する。本科目の学習によって、市民社会における公民として必要な資質を身につけることができる。

【到達目標】

- (1) 憲法とはどのような法であるかを理解し説明できる。
- (2) 日本国憲法の定める人権について、その意義・内容を正確に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。また、適宜、グループディスカッション等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人権総論 (1) 基本的人権とは何か	憲法の定める人権と、世間で流通する「人権」との違いを学ぶ。
第2回	人権総論 (2) 個人の尊重と基本的人権の概要、人権の限界	人権の根底にある「個人の尊重」という考え方を学ぶ。その上で、自由権と社会権、人権の限界について学ぶ。
第3回	人権総論 (3) 教育現場における人権	グループディスカッションにより、校則と人権の問題を考える。
第4回	信教の自由	信教の自由と政教分離について学ぶ。
第5回	思想・良心の自由	思想および良心の自由について学ぶ。関連する事例を取り上げてグループディスカッションを行う。
第6回	表現の自由 (1) 意義、政治的言論、報道の自由	表現の自由の意義・重要性、特に民主主義社会における表現の重要性を学ぶ。
第7回	表現の自由 (2) わいせつ表現、ヘイトスピーチ	わいせつ表現、ヘイトスピーチを素材として、表現の自由を規制する意味や問題点を学び、議論する。
第8回	表現の自由 (3) 多様な表現方法と表現の自由	ネット、ピア配布、集会・結社など多様な表現行為が表現の自由で保障される意味を学ぶ。
第9回	経済的自由 (1) 職業の自由	経済活動に不可欠である、職業の自由について学ぶ。
第10回	経済的自由 (2) 財産権	経済活動に不可欠である、財産権について学ぶ。
第11回	社会権、参政権	社会権（特に生存権）、参政権について学ぶ。
第12回	法の下での平等	平等の理論を学び、関連する問題についてグループディスカッションを行う。
第13回	まとめ	これまでの内容を確認する。
第14回	総合	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布レジメを読んで予習・復習する。
2. 授業で指示した資料を読み、ディスカッション等とレポートに備える。
3. 日々のニュースの中に含まれる憲法的な論点を採って考える。

【テキスト（教科書）】

六法（『ポケット六法』など小型のものでよい）

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）
長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第6版）』（有斐閣、2013年）

【成績評価の方法と基準】

・期末試験を実施する（70％）。期末試験は、到達目標 (1)(2) に対応して、憲法に関する知識・理解・思考・判断を測る問題を出題する。
・グループディスカッション等を行い、それを踏まえたレポートを課す（30％）。到達目標 (1)(2) に対応して、それらを評価に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

受講生の資料の配布に授業支援システムを利用します。

【Outline and objectives】

The theme of this class is "What is constitutional human rights?" In this class, we can understand the characteristic of the constitutional law and human rights as stipulated by the Constitution of Japan. In particular, we study the equal under the law, suffrage, freedom of thought and conscience, freedom of religion, freedom of expression, freedom to choose his occupation, the right to own or to hold property and the right to maintain the minimum standards of wholesome and cultured living.

In this class, We can understand not only the contents of human rights but also the characteristics of fundamental human rights as defined by the Japanese Constitution. Also, in this class, we can acquire materials to consider contemporary society from a broad perspective. By learning this subject, we can acquire the necessary qualities as citizens in civil society.

LAW200CA
民法一部 A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、総則を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】

民法総則（民法第 1 編）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

民法総則について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、また、適宜、復習用に練習問題が用意されるため、受講者は解答を行いながら知識の定着を図る。教科書は、主に復習用に用いられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	民法総論	民法とは何か
第 2 回	総則①	契約の成立
第 3 回	総則②	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第 4 回	総則③	意思表示（2）錯誤
第 5 回	総則④	意思表示（3）詐欺、強迫
第 6 回	総則⑤	権利の主体：「人」
第 7 回	総則⑥	代理（1）代理権、代理行為、代理の効果
第 8 回	総則⑦	代理（2）無権代理
第 9 回	総則⑧	代理（3）表見代理
第 10 回	総則⑨	法人
第 11 回	総則⑩	契約の有効性
第 12 回	総則⑪	契約の効力発生時期、時効
第 13 回	総則⑫	時効制度
第 14 回	総合	総復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

道垣内弘人『リーガルベイス民法入門』（日本経済新聞社）
六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

池田真朗『スタートライン民法総論【第 2 版】』（日本評論社）
山野日章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第 2 版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

授業の進行に合わせて適宜行われる練習問題（平常点）（15%）と学期末試験による評価（85%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度同様、黒板の活用に心掛ける。

【その他の重要事項】

「法学 B」を履修済みか、履修中であることが望ましい。なお、使用教科書は同一である。

【Outline and objectives】

This course aims to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in Contract Law.

LAW200CA
民法一部 B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、物権法（担保物権を除く）を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

【到達目標】

物権（第 2 編第 1、2、3 章）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

物権法について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、また、適宜、復習用に練習問題が用意されるため、受講者は解答を行いながら知識の定着を図る。教科書は、主として復習用に用いられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	物権法序説	「物」の概念
第 2 回	物権①	所有権（1）所有権の内容、効力
第 3 回	物権②	所有権（2）所有権の取得
第 4 回	物権③	所有権（3）共同所有関係
第 5 回	物権④	占有権
第 6 回	物権⑤	物権変動（1）契約による不動産の物権変動
第 7 回	物権⑥	物権変動（2）対抗要件主義
第 8 回	物権⑦	物権変動（3）契約による動産物権変動の対抗要件
第 9 回	物権⑧	物権変動（4）公信の原則
第 10 回	物権⑨	問題演習（1）不動産物権変動
第 11 回	物権⑩	問題演習（2）動産物権変動
第 12 回	物権⑪	問題演習（3）所有権、建物の区分所有権
第 13 回	物権⑫	物権と債権の区別
第 14 回	総合	総復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

道垣内弘人『リーガルベイス民法入門』（日本経済新聞社）
六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

池田真朗『スタートライン民法総論【第 2 版】』（日本評論社）
山野日章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第 2 版】』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

授業の進行に合わせて適宜行われる練習問題（平常点）（15%）と学期末試験による評価（85%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度同様、黒板の活用に心掛ける。

【その他の重要事項】

「法学 B」を履修済みか、履修中であることが望ましい。なお、使用教科書は同一である。

【Outline and objectives】

This course aims to introduce you to Property Law. During the course, close attention to their functions in Contract Law should be paid.

LAW200CA
商法一部 A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。憲法、民法又は刑法と異なり、会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図解を駆使して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。なお、本授業の受講者は、是非とも、秋学期の「商法一部B」も受講してもらいたい。秋学期も受講することで会社法の全体を理解することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	会社法 総論	前提知識や用語等の解説
第 2 回	株式会社の設立 1	設立総論に関する解説
第 3 回	株式会社の設立 2	発起人・定款に関する解説
第 4 回	株式会社の設立 3	設立手続きに関する解説
第 5 回	株式会社の設立 4	発起人等の責任に関する解説
第 6 回	株式会社の設立 5	設立の瑕疵・仮装払込み等に関する解説
第 7 回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第 8 回	株式会社の機関 株主総会 1	株主総会の権限・種類・招集に関する解説
第 9 回	株式会社の機関 株主総会 2	株主総会の議事・議決権に関する解説
第 10 回	株式会社の機関 株主総会 3	株主総会の決議・決議の瑕疵等に関する解説
第 11 回	株式会社の機関 取締役 1	取締役の権限等に関する解説
第 12 回	株式会社の機関 取締役 2	取締役会の招集・決議等に関する解説
第 13 回	株式会社の機関 取締役 3	代表取締役・表見代表取締役に関する解説
第 14 回	株式会社の機関 取締役 4	取締役の義務及び責任に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』）を読むこと。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。

復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキスト（柴田和史『会社法詳解〔第 2 版〕』）を熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 2 版〕』（商事法務、2015）

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）

・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験 100%）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を持参すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW200CA
商法一部 B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
2016 年度以降入学者

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。
 受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
 ・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。憲法、民法又は刑法と異なり、会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図解を駆使して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。

本授業の受講者は、できれば春学期の「商法一部A」を受講しておいて頂きたい（もちろん秋学期から受講してもかまわない。）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	会社法 総論	会社法を学ぶための前提知識・用語等の解説、春学期の復習
第 2 回	株式会社の機関 株主と取締役の関係	株主による取締役の責任を迫する方法（株主代表訴訟等）に関する解説
第 3 回	株式会社の機関 監査役、会計監査人、会計参与	監査役・会計監査人・会計参与に関する解説
第 4 回	株式会社の機関 その他	指名委員会等設置会社及び監査等委員会設置会社に関する解説
第 5 回	株式 1	株主の権利・株主平等原則に関する解説
第 6 回	株式 2	株式の内容・種類に関する解説
第 7 回	株式 3	株主名簿・株券に関する解説
第 8 回	株式 4	株式譲渡・自己株取得に関する解説
第 9 回	株式 5	株式の併合・分割・株式の単位等に関する解説
第 10 回	募集株式 1	募集株式の概論・発行手続に関する解説
第 11 回	募集株式 2	募集株式の発行等の瑕疵等に関する解説
第 12 回	新株予約権 1	新株予約権に関する解説
第 13 回	新株予約権 2	新株予約権の発行等の瑕疵等に関する解説
第 14 回	組織再編	合併等の組織再編に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』）を読むこと。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。

復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキスト（柴田和史『会社法詳解〔第 2 版〕』）を熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 2 版〕』（商事法務、2015）

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）

・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験 100%）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を持参すること。

テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

MAN200CA
簿記Ⅱ A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中級程度の複式簿記（商業簿記）および決算書の作成過程，作成方法について学習します。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とします。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解します。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習します。
- (3) 上記の(1)，(2)を前提とした決算書の作成について学習します。
- (4) 全体を通じて日商2級商業簿記の合格水準の技能を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。テキストにそって講義した後，プリントによって補足説明を行い，演習問題に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	商品売買取引	分記法，売上原価対立法，三分法による会計処理と決算整理，値引・返品・割戻・割引の会計処理
第2回	商品の期末評価	棚卸減耗損と商品評価損の会計処理方法および損益計算書における表示方法
第3回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法，銀行勘定調整表の作成方法
第4回	債権・債務取引	手形の不渡りと更改，クレジット売掛金，電子記録債権債務，債務の保証
第5回	有価証券取引（1）	有価証券の種類と購入時における会計処理
第6回	有価証券取引（2）	有価証券の売却時の会計処理，期末評価
第7回	中間試験	第1回～第6回までの内容について中間試験および解答・解説を行います。
第8回	有形固定資産取引（1）	有形固定資産の取得，減価償却，売却に関する会計処理
第9回	有形固定資産取引（2）	有形固定資産の割賦購入，建設仮勘定，改良と修繕，除却と廃棄，買い換えに関する会計処理
第10回	リース取引	ファイナンス・リース取引，オペレーティング・リース取引の会計処理
第11回	無形固定資産取引	特許権，商標権，研究開発費の会計処理
第12回	引当金	貸倒引当金，修繕引当金，退職給付引当金，商品保証引当金，賞与引当金，役員賞与引当金，売上割戻引当金，返品調整引当金の会計処理
第13回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算，外貨建取引および為替予約の会計処理
第14回	企業会計における税金	企業会計に関する税金の種類，法人税の中告と納税，消費税の会計処理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）および期末試験（60%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

簿記Ⅰ（簿記入門）と比較して学習内容が質・量ともに多くなるので，ベース配分に留意して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁），プリントを綴じるための2穴のファイル

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand intermediate level of commercial bookkeeping.

MAN200CA
簿記Ⅱ B
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中級程度の複式簿記（商業簿記）および決算書の作成過程，作成方法について学習します。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とします。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解します。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習します。
- (3) 上記の(1)，(2)を前提とした決算書の作成について学習します。
- (4) 全体を通じて日商2級商業簿記の合格水準の技能を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。テキストにそって講義した後，プリントによって補足説明を行い，演習問題に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	株式の発行	株式会社における純資産の構成，株式の発行時における会計処理
第2回	剰余金の配当と処分	株式会社の決算手続，利益準備金の積立，株主資本等変動計算書の作成
第3回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上，サービス業における役員収益と役員原価の計上
第4回	製造業の決算処理	製造原価報告書の作成，製造原価と売上原価の関連性および会計処理
第5回	税効果会計（1）	課税所得の算定方法，一時差異と永久差異，税効果会計の基礎
第6回	税効果会計（2）	繰延税金資産と繰延税金負債の認識と計上，法人税等調整額の計上方法
第7回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併，パーチェス法による合併の会計処理，事業譲渡の会計処理
第8回	中間テスト	第1回～第7回までの内容について中間試験および解答・解説を行います。
第9回	本支店会計（1）	本支店会計の意義，本支店間取引，支店間取引に関する会計処理
第10回	本支店会計（2）	本支店会計における決算手続，本支店合併財務諸表の作成方法
第11回	連結会計（1）	連結財務諸表の意義と特徴，連結会計における連結修正仕訳の意義，支配獲得日の連結（資本連結）
第12回	連結会計（2）	資本と投資の相殺消去，支配獲得後の連結修正仕訳，開始仕訳と期中仕訳の意義，連結精算表の作成方法
第13回	連結会計（3）	成果連結と連結修正仕訳，内部取引と債権債務の相殺消去，未実現利益の消去（ダウンストリーム，アップストリーム）
第14回	期末試験	第13回までの内容について期末試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）および期末試験（60%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

検定試験の出題範囲の拡大により本講義の内容も増加したため，ベース配分に留意して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁），プリントを綴じるための2穴のファイル

【その他の重要事項】

この講義は簿記Ⅱ A で学習した内容を前提として展開します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand intermediate level of bookkeeping.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
飯野 厚
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的または質的リサーチ型英語論文を書くためのノウハウを学び実践する。事実や先行研究のまとめ、研究計画の立案と実施、結果の集約と考察から成る本格的な論文執筆を実践する。本学では研究課題の設定・リサーチプロポーザルの執筆、データ収集までを行う。

【到達目標】

Through the course, the students will be able to write a research paper based on analyzed data in previous semester.

受講者は、英語論文の書き方を学びながら、英語学習、英語教育をテーマとした研究論文を英語で執筆し、プレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) Learn and practice how to write a paper through presentation by students
- (2) Teacher's briefing about steps to put research into practice
- (3) Read papers and write research proposal with Google Docs
- (4) Plan data collection and compile collected data to give one's presentation

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	What is research	Purposes, types of research, steps to practice research
2	How to decide the theme of your research	Perspectives for better decision making: title and previous research
3	Making research questions	Summarizing previous research and create research questions
4	Finding previous research	Purposes of reading previous research
5	Method, Data collection procedure	Participants, materials, and procedure to collect data
6	Types of research	Quantitative; questionnaire, text data analysis
7	Types of research	Qualitative: case study, narrative inquiry, discourse analysis
8	Hypotheses and expected results	How to analyze qualitative / quantitative data
9	Data collection procedures	Interview procedures, question forming, finding and choosing participants
10	Writing Introduction part of research proposal	Preparing the data collection
11	Completing research proposal	Background, the issue, and purpose of the stud
12	Summarizing the results	Collecting and analyzing data
13	Presenting the results	categorization, compilation, tables, figures
14	Outcome sharing	Presentation of Intro, Lit Review, RQ and Results by individuals

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on reading and writing

【テキスト（教科書）】

Original reading packet

【参考書】

『やさしく書ける英語論文』松柏社（2012）

『はじめての英語教育研究』研究社（2016）

『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房（2012）

『APA 論文作成マニュアル 第2版』医学書院（2011）[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

50% In-class presentation

50% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses.

【学生が準備すべき機器他】

Since we use Microsoft Word 2013+, in the case that no CALL room is available, the students have to bring their own computer with the software installed every time.

【その他の重要事項】

Students should know what is "paragraph writing" and have experience in practicing paragraph writing.

【Outline and objectives】

This course aims to understand organization of a research paper and procedure to put research into practice. The students will create a research proposal and practice data collection.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
飯野 厚
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期中に作成した研究提案と収集したデータにもとづいて、英語で本格的な英語論文を執筆する

【到達目標】

Through the course, the students will be able to write a research paper based on analyzed data in previous semester.

本コースを通して受講者は春学期に分析したデータに基づいて、考察や結論を加え研究論文を英語で執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) Briefing the steps of writing a paper
- (2) Write a section of a paper
- (3) Individual based feedback and sharing common mistakes

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organization of a research paper
2	Introduction 1:	specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Introduction 2:	briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Review of literature in paragraph writing:	How to cite previous studies
5	Organized review of literature:	How to connect with research questions
6	Method 1:	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Method 2:	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary
9	Results 2:	Qualitative data summary and its citation
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and its results, limitation, further research
12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and Data tables
14	Presentation of reserach	to be individually done in class

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on writing

【テキスト（教科書）】

『英語研究論文の書き方』 ミネルヴァ書房 (2012)

【参考書】

『APA 論文作成マニュアル 第2版』 医学書院 (2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

50% In-class activities
50% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【学生が準備すべき機器他】

Since we use Microsoft Word 2013+, in the case that no CALL room is available, the students have to bring their own computer with the software installed every time.

【Outline and objectives】

This course aims to write a paper in English based on the research proposal and data summary made in the previous semester.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
山崎 達朗
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的な話題を通して、英語の実用的総合力を高めるのが狙いである（英検2級以上の能力があり、積極的な学生に適する）。ニュースに特徴的な語彙や表現に慣れ、聴解力や読解力を伸ばす。さらに、簡単な英語で自分の考えを表現する力も養う。

【到達目標】

時事的なテキストでリスニングを中心に行うが、ニュース内容の包括的把握ができ、メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。さらに新聞記事やビジネス文書の読解も行い、短時間にポイントを要領よく理解する力が養える。授業では英語の話し合いもあるので積極的に参加して、自分の意見を発表するように期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は英語と日本語で行うので、英語で話し合う機会がある。少人数であれば、学生の英語プレゼンを行う予定（自分の写真の説明、英語記事の内容・意見の発表）。

※ 受講希望者 15 名以上の場合、初回授業時に選抜試験実施予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概説	* 授業内容・評価方法の概略説明、問題演習
2	テキスト問題演習 1	* U1 SPROUTING NEW SUSHI IDEAS ("Before You Watch" ~"Understand the News")
3	テキスト問題演習 2	* U1 ("Discussion Questions <=DQs >"等) * 資格試験 (TOEIC 等)
4	テキスト問題演習 3	* U2 IN THE POLE POSITION ("Watch the News"等) * 新聞記事
5	テキスト問題演習 4	* U2 ("DQs"等) * 資格試験 (TOEIC 等)
6	テキスト問題演習 5	* U3 EASING OFF "Watch the News"等) * 新聞記事、プレゼン 1
7	テキスト問題演習 6	* U3 ("DQs"等) * 資格試験 (TOEIC 等) * プレゼン 2
8	テキスト問題演習 7	* U4 IN MEMORY OF MONTY ("Watch the News"等) * 新聞記事、プレゼン 3
9	テキスト問題演習 8	* U4 ("DQs"等) * 資格試験 (TOEIC 等)、プレゼン 4
10	テキスト問題演習 9	* U5 DATING THE AI WAY ("Watch the News"等) * 新聞記事、プレゼン 5
11	テキスト問題演習 10	* U5 ("DQs"等) * 資格試験 (TOEIC 等) * プレゼン 6
12	テキスト問題演習 11	* U6 FLOATING ON A DREAM ("Watch the News"等) * 新聞記事
13	テキスト問題演習 12	* U6 ("DQs"等) * 資格試験 (TOEIC 等)
14	テキスト問題演習 13	* 定期試験 (既習範囲、配布資料、応用問題)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆テキストの予習・復習 (= Online 映像 plus+Media の視聴, script の理解)。

【テキスト（教科書）】

◆ NHK NEWS LINE 2 (金星堂), 2019, ¥2,300+税。(初回必ず出席し履修が可能とわかってから購入のこと)

【参考書】

◆ VOA, ELLLO のウェブサイト, NHK 英語講座。

【成績評価の方法と基準】

◆ 定期試験 = 70%, 授業積極参加 (= 解答発表・意見発表など) = 30%。受験資格条件は初回時に話すので確実に出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

◆ 全員が参加できる授業を目指す。

【Outline and objectives】

Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their listening comprehension English abilities through watching news reports. We will also have discussions in English on current topics related to Japanese society, culture and events. Depending on class size, students may be asked to give presentations on selected topics.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
山崎 達朗
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【Outline and objectives】

Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their listening comprehension English abilities through watching news reports. We will also have discussions in English on current topics related to Japanese society, culture and events. Depending on class size, students may be asked to give presentations on selected topics.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的な話題を通して、英語の実用的総合力を高めるのが狙いである（英検2級以上の能力があり、積極的な学生に適する）。ニュースに特徴的な語彙や表現に慣れ、聴解力や読解力を伸ばす。さらに、簡単な英語で自分の考えを表現する力も養う。

【到達目標】

時事的なテキストでリスニングを中心に行うが、ニュース内容の包括的把握ができ、メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。さらに新聞記事やビジネス文書の読解も行い、短時間にポイントを要領よく理解する力が養える。授業では英語の話し合いもあるので積極的に参加して、自分の意見を発表するように期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は英語と日本語で行うので、英語で話し合う機会がある。少人数であれば、学生の英語プレゼンを行う予定（自分の写真の説明、英語記事の内容・意見の発表）。

※ 受講希望者 15 名以上の場合、初回授業時に選抜試験実施予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概説	* 授業内容の概略説明* U7 JAPAN ADVENTURER ("Before You Watch" ~ "Understand the News")
2	テキスト問題演習 1	* U7 ("Discussion Questions < =DQs > "等) * 資格試験 (TOEIC 等)
3	テキスト問題演習 2	* U8 SORTING IT OUT ("Watch the News"等) * 新聞記事
4	テキスト問題演習 3	* U8 ("DQs"等) * 資格試験 (TOEIC 等)
5	テキスト問題演習 4	* U9 HAIRCUTS FOR CHARITY ("Watch the News"等) * 新聞記事、プレゼン 1
6	テキスト問題演習 5	* U9 ("DQs"等) * 資格試験 (TOEIC 等) * プレゼン 2
7	テキスト問題演習 6	* U10 PEER GROUP ("Watch the News"等) * 新聞記事、プレゼン 3
8	テキスト問題演習 7	* U10 ("DQs"等) * 資格試験 (TOEIC 等)、プレゼン 4
9	テキスト問題演習 8	* U11 TASTE OF TEMPLE LIFE ("Watch the News"等) * 新聞記事、プレゼン 5
10	テキスト問題演習 9	* U11 ("DQs"等) * 資格試験 (TOEIC 等) * プレゼン 6
11	テキスト問題演習 10	* U12 NEW TAKE ON TATAMI ("Watch the News"等) * 新聞記事
12	テキスト問題演習 11	* U12 ("DQs"等) * 資格試験 (TOEIC 等)
13	テキスト問題演習 12	* U13 TRAVELING ("Watch the News"等) * 新聞記事
14	テキスト問題演習 13	* 定期試験 (既習範囲、配布資料、応用問題)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

◆ テキストの予習・復習 (= Online 映像 plus+Media の視聴, script の理解)。

【テキスト（教科書）】

◆ NHK NEWS LINE 2 (金星堂), 2019, ¥2,300+税。(秋学期のみの人は履修が可能とわかってから購入のこと)

【参考書】

◆ VOA, ELLLO のウェブサイト, NHK 英語講座。

【成績評価の方法と基準】

◆ 定期試験 = 70%, 授業積極参加 (= 解答発表・意見発表など) = 30%。受験資格条件は初回時に話すので確実に出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

◆ 全員が参加できる授業を目指す。

MAN200CA
原価計算 A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論的基礎について理解し、さらに進んで原価計算の今日の課題や、原価情報の使われ方についても知識を広めていきます。

【到達目標】

原価計算システムの理論構造を理解し、各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第 2 回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第 3 回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第 4 回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第 5 回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第 6 回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第 7 回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第 8 回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第 9 回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月制経費、測定経費、発生経費
第 10 回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第 11 回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第 12 回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第 13 回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算（ABC）の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第 14 回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算（ABC）の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。

【テキスト（教科書）】

小川洌・小澤康人編『原価会計の基礎』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 90 %、小テスト 10 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】

The focus of the course is on understanding the fundamental framework of cost accounting. Students learn the basic cost accounting systems and techniques, including an in-depth knowledge of cost concepts and behavior.

MAN200CA
原価計算 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であって、原価計算の仕組みを考察する意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論的基礎について理解し、さらに進んで原価計算の今日の課題や、原価情報の使われ方についても知識を広めていきます。

【到達目標】

原価計算システムの理論構造を理解し、各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第 2 回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第 3 回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第 4 回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第 5 回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第 6 回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第 7 回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第 8 回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第 9 回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第 10 回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価、連産品と副産物の区別
第 11 回	標準原価計算①	実際原価の問題点、標準原価計算の目的、標準原価の種類
第 12 回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第 13 回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第 14 回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。

【テキスト（教科書）】

小川洌・小澤康人編『原価会計の基礎』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 90 %、小テスト 10 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline and objectives】

The focus of the course is on understanding the fundamental framework of cost accounting. Students learn the basic cost accounting systems and techniques, including an in-depth knowledge of cost concepts and behavior.

MAN200CA
会計学入門 A
石田 惣平
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は会社を映す鏡であり、会計を理解することで会社を深く知ることができます。本講義では、財務諸表を読み解き、それをもとに会社を分析できるようになることを目標としています。

【到達目標】

財務諸表を読み解き、それをもとに会社を分析できるようになることが講義の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション形式で講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション
2	会計の種類と役割	会計の種類と役割
3	財務会計のシステムと原則	財務会計のシステムと原則
4	企業の設立と資金調達	企業の設立と資金調達
5	仕入・生産活動	仕入・生産活動
6	販売活動	販売活動
7	中間テスト	中間テスト
8	設備投資と研究開発	設備投資と研究開発
9	資金の管理と運用	資金の管理と運用
10	国際活動	国際活動
11	税金と配当	税金と配当
12	財務諸表の作成と公開	財務諸表の作成と公開
13	企業集団の財務報告	企業集団の財務報告
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習箇所については、授業において適宜、指示します。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

中間テストを 40 点、期末テストを 60 点の計 100 点満点で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12 桁）。

【その他の重要事項】

会計学入門 B も合わせて受講することを推奨します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary knowledge needed to understand and analyze financial statements.

MAN200CA
会計学入門 B
石田 惣平
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は会社を映す鏡であり、会計を理解することで会社を深く知ることができます。本講義では、財務諸表を読み解き、それをもとに会社を分析できるようになることを目標としています。

【到達目標】

財務諸表を読み解き、それをもとに会社を分析できるようになることが講義の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション形式で講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション
2	財務諸表分析の基礎	財務諸表分析の基礎
3	財務諸表の見方	財務会計のシステムと原則
4	貸借対照表データによる安全性分析	貸借対照表データによる安全性分析
5	損益計算書データによる収益性分析	損益計算書データによる収益性分析
6	相互関係比による収益性分析	相互関係比による収益性分析
7	中間テスト	中間テスト
8	効率性分析	効率性分析
9	キャッシュフロー・データによる分析	キャッシュフロー・データによる分析
10	損益分岐点分析	損益分岐点分析
11	キャッシュフローにもとづく株式価値評価	キャッシュフローにもとづく株式価値評価
12	会計利益にもとづく株式価値評価	会計利益にもとづく株式価値評価
13	利益マネジメントと財務諸表分析	利益マネジメントと財務諸表分析
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習箇所については、授業において適宜、指示します。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

中間テストを 40 点、期末テストを 60 点の計 100 点満点で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12 桁）。

【その他の重要事項】

会計学入門 A も合わせて受講することを推奨します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary knowledge needed to understand and analyze financial statements.

社会計画論 I

湯浅 陽一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【Outline and objectives】

Taking case studies of environmental and other social problems, this lecture aims to analyze key factors for resolution.

The relationship between Management and domination is a basic theoretical perspective for us.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 地域問題、環境問題の領域におけるさまざまな社会問題の解決をめぐる成功事例と失敗事例について学び、問題解決の成否の意味と、成否を左右した要因連関について検討する。2. 社会制御の過程を把握する社会学基礎理論としての「経営システムと支配システム」論を学ぶ。

【到達目標】

1. 社会計画が関与した社会問題の解決過程の事例についての知識を得る。
2. 社会制御過程についての社会学基礎理論としての「経営システムと支配システム」を理解する。
3. 社会計画についての規範理論の問題群について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営システムと支配システムという視点から、社会問題の解決過程を分析する。具体的事例の分析を通して理解を深め、問題解決の成否を規定する要因がどこにあるのかを探る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンスと導入	受講上の注意と授業の導入
2	地域問題・環境問題の解決過程の事例分析①	事例①：沼津市におけるゴミ問題
3	地域問題・環境問題の解決過程の事例分析②-1	事例②-1：名古屋新幹線公害問題
4	地域問題・環境問題の解決過程の事例分析②-2	事例②-2：名古屋新幹線公害問題（ビデオ）
5	地域問題・環境問題の解決過程③	事例③：東北・上越新幹線建設問題
6	地域問題・環境問題の解決過程④	事例④：フランスにおける新幹線の建設過程
7	地域問題・環境問題の解決過程⑤	事例⑤：静岡県コンビナート立地問題
8	地域問題・環境問題の解決過程⑥	事例⑥：東京ごみ戦争
9	地域問題・環境問題の解決過程⑦	事例⑦：高レベル放射性廃棄物問題
10	事例分析の整理と協働連関の両義性論	これまで取り上げてきた事例の整理を行い、協働連関の両義性論と結びつける
11	協働連関の両義性論①—経営システム・支配システムによる分析	協働連関の両義性と経営システム・支配システムについて解説する。
12	協働連関の両義性論②—2つのシステムの正運動と逆運動	経営システムと支配システムの正運動と逆運動について解説する
13	社会問題解決の成立条件と規範理論的検討	問題解決過程の基本サイクルと社会問題解決の基本的公準について解説する
14	講義のまとめと試験	講義のまとめと試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストと参考文献を読み込むこと。読書ノートを作成すること。

【テキスト（教科書）】

船橋晴俊、2012、『社会学をいかに学ぶか』弘文堂

【参考書】

船橋晴俊他編、1985、『新幹線公害—高速文明の社会問題』有斐閣
船橋晴俊他編、1988、『高速文明の地域問題—東北新幹線の建設・紛争と社会的影響』有斐閣
船橋晴俊、2010、『組織の存立構造論と両義性論—社会学理論の重層的探究』東信堂
船橋晴俊、2018、『社会制御過程の社会学』東信堂
他の文献については開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

読書ノート（25%）と、期末試験（75%）で総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論を組み合わせた講義内容により、深い理解を促すことができる。

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

社会計画論Ⅱ

湯浅 陽一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 地域問題、環境問題、エネルギー問題の領域に関して、さまざまな社会問題や政策的課題の解決努力の成功や失敗を規定している要因を検討する。2. 社会問題の解決過程を分析するための理論枠組みに対する理解を深める。

【到達目標】

1. 社会問題の解決過程について、事例の理解を通して知識を得る
2. 社会問題の解決過程を分析するための理論枠組みとしての社会制御システム論と公共圏の機能について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講義では、社会制御システムや公共圏の機能という視点から、社会問題の解決過程を分析する。具体的事例の分析を通して理解を深め、問題解決の成否を規定する要因がどこにあるのかを探る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の概要と導入	本講義の進め方、主題と導入
2	鉄道政策の事例分析①-1	事例①-1：整備新幹線建設- 問題の概要
3	鉄道政策の事例分析①-2	事例①-2：並行在来線問題
4	鉄道政策の事例分析①-3	事例①-3：ミニ新幹線
5	鉄道政策の事例分析②	事例②：旧国鉄長期債務問題
6	エネルギー政策の事例分析①	事例①：日本の電力システム
7	エネルギー政策の事例分析②	事例②：原子力エネルギーと地域社会
8	エネルギー政策の事例分析③	事例③：再生可能エネルギーと地域社会
9	エネルギー政策の事例分析④	事例④：再生可能エネルギーと市民活動
10	エネルギー政策の事例分析⑤	事例⑤：再生可能エネルギー導入の国際比較
11	エネルギー政策の事例分析⑥	事例⑥：核燃サイクル問題
12	事例の整理、社会制御システム論と公共圏の機能	事例の整理を行い、社会制御システム論と公共圏の機能の視点から解説する
13	社会問題の制御に向けて	公共圏の機能と民主主義、社会問題の解決について解説する
14	講義のまとめと試験	講義のまとめと試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストと参考文献を読み込むこと。読書ノートを作成すること。

【テキスト（教科書）】

船橋晴俊, 2012, 『社会学をいかに学ぶか』弘文堂
船橋晴俊他編, 2001, 『政府の失敗の社会学』ハーベスト社

【参考書】

船橋晴俊, 2010, 『組織の存立構造論と両義性論-社会学理論の重層的探究』東信堂
船橋晴俊, 2012, 『核燃料サイクル施設の社会学-青森県六ヶ所村』有斐閣
船橋晴俊・壽福真美編, 2013, 『公共圏と熟議民主主義-現代社会の問題解決』法政大学出版局
船橋晴俊, 2018, 『社会制御過程の社会学』東信堂

【成績評価の方法と基準】

読書ノート（25%）、期末テスト（75%）による総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

事例と関連づけることによる理論的説明は、理解を促進するので、その方法を基本とする。

【その他の重要事項】

この講義を単独で履修することも可能であるが、社会計画論Ⅰを受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】

In the field of environmental and energy problems, this lecture aims to analyze key factors for making good policy. The social control theory and public sphere are basic theoretical perspectives for us.

PHL200EB, PHL200EC, PHL200ED

環境倫理

島田 昭仁

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代科学の原点になっている「自由」を理解するためにキリスト教哲学まで遡り「倫理」とは何かを明らかにする。同時に「倫理」は深い悲しみや憤りを共感することから理解しうるものである。歴史的分析和様々な現実の事象を扱い、共感することを学ぶ。

【到達目標】

科学的合理性は「時」の概念から説明される。時を理解するうえで「自由」の概念を理解しなくてはならない。またそれを規制する目的で生まれた「公共」が、本来「自由」の中に包摂されるものであったことを理解しなくてはならない。今日の環境問題は、両者の分離に端を発していることに気づくことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回プロジェクターで解説を行い、講義の最後に質疑応答を行う。また毎回の講義でリアクション・ペーパーを配布する。中間まとめの講義で15分グループディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション -自由とは何か-	倫理学の原点、キリスト教哲学、ギリシャ哲学について
2	身近な環境と都市計画	都市計画は環境の敵か味方か
3	エネルギー政策と環境- ダム	ハツ場ダム建設を題材に公共政策とは何かを考える
4	エネルギー政策と環境- 原発	本学の「ゼロエネルギーキャンパスプロジェクト」を題材に
5	エネルギー政策と環境- ドイツの選択	ドイツの脱原発政策を題材にドイツ思想について考える
6	交通と騒音-新幹線公害	新幹線公害問題の社会学における意味
7	中間まとめ -自由と公共とは-	これまでのおさらいと、自由と公共の概念について解説。グループ討議。
8	交通と土壌汚染-豊洲市場問題	ふたたび「公共」とは何かについて考える。
9	軍事-沖縄の基地問題	「自由」とは何かについて考える。
10	軍事-辺野古移転問題	ゲストスピーカーによる講演
11	震災復興-阪神淡路大震災と東日本大震災の比較	区画整理事業を通して「住民主権」とは何か考える
12	エコロジーと社会学	エコフェミニズム・フェミニズム論争
13	倫理とは何か	キリスト教からエコフェミニズムまで
14	まとめ -時を超える-	科学的合理性を支えている「時」の概念と「自由」について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに毎回のスライドをアップロードするので、各自ダウンロードして予習・復習に役立ててもらいたい。

【テキスト（教科書）】

本講義は時事諸問題の真相に深く迫ることが目的であり、市販の教科書ではそれに対応できないため、テキストは独自に作成する。

【参考書】

・『なぜメルケルは「転向」したのか：ドイツ原子力四〇年戦争の真実』熊谷徹,2012年,日経BP社
・『境界線を破る!：エコ・フェミニズム社会主義に向かって』,メアリ・メラウ,壽福・後藤訳,1993,新評論

【成績評価の方法と基準】

①期末試験期間のレポート提出による。
②レポート課題は、第14回講義内で示す。
*講義で言及した主題から10項目程度を選び、それに関する講義内容を要約する(30%)、自分の意見とその論拠を記述する(50%)、課題論文についての感想を記述する(20%)の3点である。
③評価基準は、主題把握の的確さ、論述の論理一貫性、論拠の妥当性とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆっくと、とくに重要事項は何度も説明し、理解習得に努める。

【その他の重要事項】

国や地方自治体の都市計画業務に25年間携わった教員が、関連法規や施策の構想から実施までの流れに関する基本的知識を講義する。

【Outline and objectives】

What is the "freedom" which becomes the starting point of modern science? It has to be dated back from Christian philosophy and Greek philosophy to understand those, and then I will find out what is "ethics" clearly.

I deal with the historical investigation, and the practice philosophy which made the real environmental problem the subject. It will be analyzed multilaterally beyond the field scientifically for it. And I'll make it clear what is freedom and public, and "ethics".

LAW200EB, LAW200EC, LAW200ED

環境法

井上 秀典

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題解決のために環境法・政策がどのような役割を果たしているのかについて学ぶ。

【到達目標】

環境に関する国内外の基本的な法制度の理解を目指すとともに、問題点を理解する。国内環境法と国際環境法の密接な関係を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最近、有害化学物質、土壌汚染、廃棄物・リサイクル、環境影響評価、気候変動、

遺伝子組換え生物などの問題が話題となっている。講義では、このような環境問題に対する法が現在どのような状況にあるのか、さらに、法が問題解決のためにどのような役割を果たしているのかを考えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	受講ガイダンス	受講にあたってのガイダンスを行う。
第 2 回	環境法の歴史	足尾銅毒事件から現在に至るまでの環境法の歴史を概説する。
第 3 回	環境基本法と環境基本計画	環境基本法とそれに基づく環境基本計画の成立経緯および内容を説明し、問題点を指摘する。
第 4 回	大気汚染・水質汚濁	大気汚染および水質汚濁に関する国内法制度を検討する。
第 5 回	廃棄物問題と法	廃棄物問題に対し、廃棄物処理法、循環型社会形成推進基本法、各種リサイクル法について解説する。
第 6 回	有害廃棄物の越境移動	有害廃棄物の越境移動問題をめぐる国内法・国際法上の枠組みについて解説する。
第 7 回	環境影響評価	環境影響評価制度について説明し、その役割および問題点を探る。
第 8 回	土壌汚染・化学物質	土壌汚染対策法を中心に近年の土壌汚染問題を検討する。また、化学物質関連法にも触れる。
第 9 回	被害者救済制度、環境紛争の調停	被害者救済制度ならびに環境紛争の調停という面にスポットを当てて解説する。
第 10 回	環境訴訟と法（1）	環境分野の民事訴訟の判例を分析し、その果たす役割を解決する。
第 11 回	環境訴訟と法（2）	環境分野の行政訴訟の判例を分析し、その果たす役割を解説する。
第 12 回	地球規模の環境問題と法（総論）	地球規模の環境問題に対する国際法上の枠組みおよび特徴を検討する。
第 13 回	気候変動 1	気候変動に関して条約および国内法について検討する。京都議定書採択までを扱う。
第 14 回	気候変動 2	京都議定書採択以降、パリ協定採択から現在までを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事やインターネットを通じて環境法に関連する事項の学習をすること。環境法関連書籍を図書館等で学習すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は、井上秀典『持続可能な社会を考える法律学入門』八千代出版を使用し、さらに関連資料を配付する。

【参考書】

大塚直『環境法 Basic』有斐閣、北村喜宣『環境法』弘文堂、『環境白書』（環境省）、『環境法辞典』（有斐閣）、『環境法判例百選』第 3 版（有斐閣）、『ベーシック環境六法』（ぎょうせい）

【成績評価の方法と基準】

試験（80 %）および平常点（20 %）によって成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

板書について改善工夫をする。

【Outline and objectives】

Learning the role of environmental law and Policy to solve environmental Problems.

SOC200EB, SOC200EC

産業社会学 I

上林 千恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「仕事とキャリアを考える」がテーマ。それぞれの人が、仕事を持ち、職業を得るということは、本人にとって、また社会にとってどのような意味をもつのかを考えるための授業。

【到達目標】

職業の意味と、その客観的な位置づけ、企業の性格と企業内で経験するキャリアと職場生活の問題を専門用語を学ぶ中で把握することが目標。また日本社会の雇用に関する数値について、大雑把でもつかんで、将来社会の動向を予測できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」「社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。」「社会学の理論と方法を通して、より善い社会と人々の生き方を構想できる。」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、提出されたリアクションペーパーへの回答、テスト、などで構成する。

就職ができない若年者や高齢者が存在する一方、人手を確保できない企業が存在するという両者のミスマッチの背景を、企業の必要とする能力、企業の人事システム、非正規雇用者の実態、の中から探っていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	仕事とは何か？	仕事の役割と労働をめぐる思想
第 2 回	職業に貴賤はない？	職業と社会階層の問題
第 3 回	就業構造とは？	産業構造と職業構造との関係
第 4 回	職業能力とは？	企業が求める雇用されるための能力 (employability)
第 5 回	学歴は今でも重要か？	学歴とキャリアの関係
第 6 回	会社を辞めたい	失業と転職 有効求人倍率、失業率の算出方法
第 7 回	中間テスト	1～6 回の授業について産業社会学の専門用語、失業率の計算の方法などを出題
第 8 回	一生を同じ企業で過ごす？	人事管理と年功制度
第 9 回	働いている限りは勉強です	企業内教育訓練
第 10 回	偉くなってみたい	企業の昇進構造
第 11 回	お金が必要	賃金の種類とその配分メカニズム
第 12 回	非正社員も社員か？	非正社員の活用と人事管理
第 13 回	職場メンバーは家族と一緒？	職場コミュニティ
第 14 回	授業内試験	企業の人事管理を中心に試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

職場の変化に関するニュース、労使関係、非正規雇用者および高齢者にかかる法律の改正についての新聞記事をスクラップしておくこと。

【テキスト（教科書）】

上林千恵子編、2012『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房

【参考書】

教科書の各項目末に書かれた参考文献を参照すること。

【成績評価の方法と基準】

中間テストと期末テスト、各 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

受講者数にふさわしい教室を確保すること、後方の席からも板書がきちんと見えるように書くこと、などを要望されたので気をつけたい。

【Outline and objectives】

The purpose of the class is to understand various aspects of jobs and employments. Knowledge of jobs and understandings of each occupation are indispensable for any students who pursuit their own career.

産業社会学Ⅱ

上林 千恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「周辺労働者と産業社会学の歴史」がテーマ。

【到達目標】

産業社会学は、社会の周辺部に存在する人を対象とした歴史を持つ。春学期で対象とした日本型雇用システムに包摂された人は、日本社会からみると少数者であり、人数の上では、その外にいる人、女性、非正規労働者、高齢者、外国人労働者などの方が多数である。この人たちの実態と政策を考えるのが、今期の目標。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」「社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。」「社会学の理論と方法を通して、より善い社会と人々の生き方を構想できる。」に関連

【授業の進め方と方法】

企業と労働組合の役割を概観した後に、女性、高齢者、外国人労働者の各カテゴリーの実態を見る。併せて、そうした人々たちへの生活保障と社会保障の内容、産業社会学を成立させている主要概念を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	労働時間	長時間労働の原因を考える
第 2 回	企業の社会的役割	企業の社会的責任と地域社会との関連を冠 g 奏える
第 3 回	労働組合と労使関係	労働組合の役割と労使関係の性質
第 4 回	女性の働き方	日本および世界の女性の労働力率の変化
第 5 回	ワーク・ライフ・バランスの意義	WLB とは何のために主張されるのか？
第 6 回	日本の高齢社会の及ぼす影響と働き方改革	日本の高齢化が働き方に与える影響
第 7 回	定年制の意義	日本の外国人労働者の実態
第 8 回	中間テスト	専門用語の理解
第 9 回	外国人労働者問題の中身	外国人労働者の人数とその役割
第 10 回	外国人労働者受け入れ政策の検討	日系ブラジル人と技能実習制度
第 11 回	社会保障制度の目的	生活上の安全網
第 12 回	企業の福利厚生と社会保障制度	生活保障に果たす企業の役割と公的社会保障制度との関連
第 13 回	産業社会学の歴史	二重労働市場論と内部労働市場論
第 14 回	授業内試験	秋学期後半のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

雇用に関する新聞記事をクリップすること、半年間継続すると、最初には分からなかった記事も、理解できるようになる。

【テキスト（教科書）】

上林千恵子編、2012『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房

【参考書】

教科書に掲載された参考文献を参照。

【成績評価の方法と基準】

中間テストと期末テストで各 50 %。中間テストの代わりに、読書レポート提出で代替することも考慮中。

【学生の意見等からの気づき】

授業に対して提出されたりアクション・ペーパーについては、次回の授業でできるだけ答えるようにしています。

【Outline and objectives】

The purpose of the class is to understand what peripheral workers and to understand a brief history of industrial sociology. Although industrial sociology began with the time of industrialization, the present focus goes on to service works and intellectual works.

金融システム論

小川 健

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が「金融に起きつつある情報技術の革新を踏まえながら」「デジタルインノベーション」を利用した金融システムを理解できることを意義とする。文章とイメージ図を利用した理解・説明ができる事を講義の目的とする。

【到達目標】

<単位認定要件での到達目標は 1. と 2. の 2 項目、講義全体ではさらに 3. を加える。> 1. 学生が金融システムにおける基本事項を理解し、デジタルインノベーションがどう金融システムに影響しているか、基本的な小問を通して理解できる。2. 学生が金融システムにおけるデジタルインノベーションの果たす役割を、「情報技術の理解について恐れることなく」その役割の（主に文系的な）包括的理解を果たし、金融システムにおける政策提言や在り方の将来予測にまで繋げられる。3. 学生が金融システムとデジタルインノベーションとの関わりについて、個別の項目まで焦点を握り下げて論じられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」に関連

【授業の進め方と方法】

予復習用の「まとめレポート」として指定の語句及び自由記載の問題を記入し授業支援システムに提出した上で、PowerPoint ベースのスライドを利用した講義中心に行う。必要なら映像を利用した説明を行う。自由記載の問題は教室内でのグループディスカッションを数回取り入れる想定。その上で本講義全体を総括する「論述レポート」を単位認定要件の 1 つに課す。定期試験は単位認定者に対する（一般での秀〜可等の）成績振り分けに主に用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目:序章	前半:本講義の基本ルール 後半:デジタルインノベーションと金融システムのかかわり	講義の基本的なやり方等を説明した後、デジタルインノベーションと金融システムの関わりについて主に扱います。
2 回目: 1 章前半	経済社会と情報通信技術 ①:通貨と法制度の機能	通貨と法制度の機能を中心に扱います。
3 回目: 1 章後半	経済社会と情報通信技術 ②:情報処理の技術的基盤	情報処理の技術的基盤について、どの意味で金融システムに影響するかに焦点を当てながら説明します。
4 回目: 2 章前半	決済のオペレーションとブロックチェーン①:決済の情報セキュリティ	決済の情報セキュリティを中心にブロックチェーン (BC) の必要性をにじませながら扱います。
5 回目: 2 章後半	決済のオペレーションと BC ②:BC と分散型台帳技術	基盤技術である分散型台帳技術について、その核となる BC の概括的な仕組みを扱います。
6 回目: 3 章前半	決済と取引のインフラストラクチャー①:BC と決済システム	BC 技術等が決済システムに与える影響を主に扱います。
7 回目: 3 章後半	決済と取引のインフラストラクチャー②:スマートコントラクト (強制決済)	BC 技術の有用性を高めたイーサリアム以降のスマートコントラクト (強制決済) について主に扱います。
8 回目: 4 章前半	銀行と通貨のデジタルインノベーション①:商業銀行と中央銀行と政府	商業銀行・中央銀行・政府の役割について主に扱います。
9 回目: 4 章後半	銀行と通貨のデジタルインノベーション②:電子現金と仮想通貨 (暗号資産)	電子現金と仮想通貨 (暗号資産)、フィンテックについて主に扱います。
第 10 回: 5 章前半	金融市場と BC ①:金融商品と金融市場	金融商品と金融市場について主に扱います。
第 11 回: 5 章後半	金融市場と BC ②:金融商品の取引と BC	金融商品に BC がどう絡むかや、仮想通貨の取引と決済システムを扱います。
第 12 回: 第 6 章	政府の役割	政府の役割について主に扱います。
第 13 回: テキスト外の補充	リップル・ネットワークとビットコイン・キャッシュ (BCH-ABC) が金融システムに与えた影響	国際送金とリップル・ネットワーク、及び少額支払いと BCH-ABC 等、金融システムを揺るがしうる仮想通貨について内容補充を行う。
第 14 回: 進 度 調 整 ・ 内 容 補 充 回	順調に進めば国際金融のマネー・フレミング・モデル的な中央銀行の金融政策の効果を	順調なら国際金融のマネー・フレミング・モデル的な中央銀行の金融政策の効果に関し、マクロ経済学の IS-LM 分析的な効果を補足し説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：指定した予習用資料を閲覧し、該当するテキスト箇所を読んで予習した上で、指定したまとめレポート（概ね問題なく提出することは単位認定要件の1つ）を授業支援システムで各回提出する。

復習：講義内容として配付したスライド・関連資料及びテキストの該当箇所を読み返して復習し、講義時間内に提示された話し合い問題の解答を作り、まとめレポートとして提出する。分からない項目は講義担当者に質問する。

宿題：論述レポートの答えを作成するための下調べ・調査を（文献参照や検索等を通じて）行い、講義内容を踏まえ作成する（質問に答えずに用語関連のみでネット記載を切り貼りする事は求めない）。

【テキスト（教科書）】

木下信行「デジタルインノベーションと金融システム」きんざい 2018年 2,700円 ISBN:978-4-322-13407-0（用途）本科目はこの本に沿って講義を行い、その内容補充用及び（単位認定要件とする予定の）各回の提出物としての「まとめレポート」として主に提出すべき文章の抽出用にこの本を教科書指定する。この本を買わない場合にはその内容が閲覧できる状態を求める。

【参考書】

以下に指定しない項目については講義中に提示する。1. 酒井良清・鹿野嘉昭(2011)「金融システム(第4版)」有斐閣アルマ 2. 福田慎一【編集】(2017)「金融システムの制度設計」有斐閣 3. 星岳雄(著), Anil Kashyap(原著), 豊潤賢(翻訳)(2006)「日本金融システム進化論」日本経済新聞社 4. 四條寿彦(著), Giant Gox(監修)(2018)「仮想通貨リップルの衝撃 Ripple が実現する”価値のインターネット”」天夢人 5. <https://okanefuyasuzo.muragon.com/entry/18.html> (2019年1/25 接続) 6. 雨弓(著), ブロックちゃん(監修)(2018)「仮想通貨ビットコインキャッシュの革命 金融の世界を変える未来のお金」天夢人 7. 小川健(2018)「サーベイ論文：非技術/情報系の経済系に仮想通貨・ビットコイン・ブロックチェーンをいかに教えるか」専修経済学論集第52巻第3号 pp.167-182. <http://id.nii.ac.jp/1015/00011948/> (2019年1/25 接続)

【成績評価の方法と基準】

本講義では単位認定要件とその他の成績評価の部分とを切り離して扱う。

1. 単位認定には「まとめレポート」各回の「概ね問題ない」提出及び「論述レポート」によって単位の認定を行い、この2つを単位認定要件とする。
2. まとめレポートでは各回の内容を纏めた小問を出題する予定である。この項目には、小問に対する及第点ギリギリの解答として講義担当者が作成した「6割解答」を提示する「通常問題」、テキストである木下(2018)等の該当の箇所を抜き出して答える「テキスト問題」、YouTubeを始めとする映像や講義担当者がPowerPoint作成のスライドに音声吹き込んだものを視聴して答えを書き取る「映像・音声問題」までの予習用、そして自由な解答を求めるため解答者全員正解形式を想定したグループディスカッション等用の問題である「話し合い問題」の復習用等を中心に要求をする。なお、提出の期限に遅れた場合には追加で提示をする「オプション問題」を含めて提出を要求する。
3. 論述レポートはこの講義の内容を総合した問題について論述で答えさせる想定である。受講人数によっては添削・返却し再提出を要請する場合もある。
4. 欠席届を授業支援システムにて提出の者については、提出した該当回のまとめレポートのうち「話し合い問題」の解答を免除する。
5. 以上2つの単位認定要件を共に達成したら一律60%を与え単位を認定し、残り40%つまり成績の(一般での秀~可までの)振り分けを主に定期試験(参照可能物は講義内で提示)で決める。定期試験は単位認定者のみの採点とし、単位認定要件に届かなければ定期試験の点数に関わらず単位は認定しない。
6. 定期試験のうち論述部分で、出来が悪いときは「類題差し替えレポート」等の形でレポート提出により、上限を20%として差し替える。定期試験(上限40%)と類題差し替えレポート(上限20%)との出来の良い方を採用する。

【学生の意見等からの気づき】

本科目の内容は「本年度限りの」内容・担当者を想定している。学生からの意見・要望に関しては「その年度の講義に反映でき、かつ実行できるもの」に限り取り入れる。講義担当者に直接申し出、またはメール連絡すること。前年度のアンケートは引き継いでいない。その内容のフィードバック、及び今年度のアンケート結果を「来年度に」引き継ぐことは想定しない。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムのアカウントは必須。単位認定要件の中に授業支援システムの利用項目がある。QRコード等を読み取れる機器・PCは講義の理解に資する範囲で利用可。音声・動画資料を講義時間外に視聴可能にすること。

【その他の重要事項】

1. 資料 URL: <https://1drv.ms/f/s!AtGmz-yBQonWk0he73vZxIQIkXEq> 講義資料はこの資料 URL に入れることを授業支援システムより優先する。休んだ学生への過去資料の紙媒体配付は予定しない。
2. 講義の理解に資さない行為、例えばスマホで（講義資料等を見るのではなく）遊ぶ、寝る、他の学生に支障を来す程度のお喋りをする、等は禁止とする。
3. 本講義では欠席届は（定期試験を除き）授業支援システムを通じたオンラインでの提出のこと。欠席届を紙で講義担当者に持参されても対応困難。
4. 本講義では「情報関連技術」を絡めた講義を数多く取り入れる予定である。事前に強い予備知識を求めるものではないが、そうした事柄にアンテナを張り、金融システムやその政策的な理解につなげる事を重視してほしい。
5. 連絡先: [takeshi_ogawa_lecture\[at\]yahoo.co.jp](mailto:takeshi_ogawa_lecture[at]yahoo.co.jp) 講義時間前後以外の質問は電子メールにて。講義担当者のプライベートをえぐる質問は禁止とする。
6. 本講義で座席の指定は特に行わないが、講義スライドの文字が見えない位置に座るのは禁止とする。資料 URL に入れている講義スライドをスマホ・PC等で「ダウンロードして」閲覧の上、講義に臨むこと。

【Outline and objectives】

To understand present and recent (not traditional) finance systems, it is better for younger people to understand finance systems not only for traditional finance system (for example, traditional convoy system for each bank in Japan and traditional indirect financing) but also with digital innovations, fintech, and distributed ledger technology (like blockchain).

SES200EB

環境経済学 I

島本 美保子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学のマクロ分野の中心課題のひとつである「環境と貿易」をテーマとし、環境問題と経済との関わりについて自ら分析できるような力を醸成します。環境問題の対象領域として森林資源や農産物を取り上げ、これらの持続可能性と貿易の関係について学習します。

【到達目標】

最初に最低限必要な経済学の基礎知識を学習し、グローバルな資源管理問題についての知識を習得しつつ、経済学的に環境と貿易の関係を学びます。環境と貿易の関係について経済学的に論理的に考える能力を身につけることが目標となります。さらに環境と貿易に関する国際システムの現状について学びます。最後にこれらの知識を総動員し、持続可能な資源管理とはいかにあるべきか、という規範的な考察が行えるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行います。毎回アクションペーパーで理解度やわからない点について指摘してもらい、次回にそれを共有し解決しながら進んでいきます。

授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	エコロジー経済学からの経済社会と環境の関係
2	最低限の経済学知識—需要と供給、余剰分析	環境経済学 I で最低限必要な経済学の知識を習得
3	演習 1	演習問題をみんなで解く
4	環境問題と貿易の関係の実例—熱帯林破壊	世界の森林問題、特に天然林破壊の原因やその背景を学習する
5	なぜ貿易は推進されるのか（貿易論）	貿易はなぜ推進されるのか、を平易な貿易理論で解き明かす
6	環境問題と貿易の関係の実例—農業貿易（ビデオ）	地下水のくみ上げによる非持続的な農業と農産物貿易の関係
7	農産物貿易と農村・アグリビジネスについて	食料自給率や食料貿易、米国などの巨大なアグリビジネスの農産物流通の特徴
8	アグリビジネスのレントシーキング	公共選択論のレントシーキングとアグリビジネス
9	アグロエコロジーとバイオテクノロジー	遺伝子組み換え作物、近代農法、自然農法
10	環境と貿易の関係（比較静学）	生産段階で外部不経済性を発生させる財の貿易が各国の社会的厚生に与える影響
11	貿易と持続可能性、分配	食料貿易と林産物貿易が持続可能な資源管理所得分配に与える影響
12	論争—持続可能性と貿易	農林産物と自由貿易との関係を考える
13	演習 2	環境と貿易の理論の演習問題
14	まとめ	持続可能性と貿易を両立するにはどうすればよいのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題、特に食料問題、森林や生物多様性の問題、石油など鉱物資源の問題について幅広い知識を身につけておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。毎回詳細なレジメを配布して、これに基づいて、授業を進めます。

【参考書】

主な参考文献は島本美保子著『森林の持続可能性と国際貿易』、東京：岩波書店（2010）。その他授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

95%期末試験、5%平常点で評価します。授業内で適宜演習問題をみんなで解く時間を設けていますが、試験はその演習を理解していれば、ある程度解けるような問題を出題しています。

【学生の意見等からの気づき】

毎回アベを書いていたいただき、質問が出たことについて次回補足するなどして、理解度を確認しながら進めています。

【Outline and objectives】

The theme of "Environment and trade" which is one of the central issues in macroeconomics of environmental economics is to develop the ability to analyze about the relationship between environmental issues and the economy by yourself. We will take forest resources and agricultural products as target areas of environmental issues and learn about the relationship between sustainability of these resources and trade.

SES300EB

環境経済学Ⅱ

島本 美保子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な環境問題として気候変動を対象領域とし、前半に環境と経済成長の関係について、後半に環境の経済学的手法（環境税、排出権取引）を学習します。

【到達目標】

前半では環境クズネッツ曲線を実証的な環境と経済成長の関係をみた後、その構造を二重経済発展モデルから学び、経済成長と環境の関係を経済学的に論じることができるようになることを目標とします。

後半は環境の経済学的手法について学びます。まずこれらの手法の素材として地球温暖化問題について自然科学、社会科学の両方から学習します。その後経済的手段である、環境税や排出権取引の理論を理解し、地球温暖化を制御するために、どのような政策が適切か、主体的に判断できるようになることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式ですが、時に自分の考えをまとめ議論することも行います。また毎回授業の感想や質問などを記入するリアクションペーパーを利用し、難しい点や議論になる点などを明らかにし共有し解決しながら授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION、最低限の経済学知識－経済成長	最低限授業に必要な経済学の基礎の学習
2	経済成長と環境－環境クズネッツ曲線	経済成長と環境の関係を示す環境クズネッツ曲線をめぐる議論を紹介
3	経済成長と二重経済発展モデル	そもそも経済成長とはどのように起こるものなのか、という仕組みを学習
4	論争：経済成長と環境	二重経済発展モデルと現実の途上国経済、その環境問題について
5	演習 1	経済成長と環境についての演習問題を解く
6	気候変動問題その 1	IPCC 報告書に基づいて地球温暖化問題についての科学的知見について学習
7	気候変動問題その 2	気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定など国際交渉の動向
8	気候変動問題その 3	NHK スペシャル「激動する世界ビジネス」脱炭素革命の衝撃を観る
9	気候変動問題その 4	日本の再エネ政策
10	ビグー税の理論	環境税、排出権取引の理論ベースであるビグー税理論の復習
11	環境税	環境税の経済学的な説明、直接規制との関係、導入事例などを学ぶ
12	演習 2	環境税についての演習問題を解く
13	排出権取引	排出権取引の経済学的な説明、発展過程、地球温暖化問題への適用状況を紹介
14	地球温暖化問題と経済的政策手段	地球温暖化問題について経済学的手法が経済、環境に与えるインパクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地球温暖化や廃棄物問題といった環境問題や公害問題について幅広い知識を習得しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。毎回詳細なレジュメを配布し、それに基づいて授業を行います。

【参考書】

主な参考書は、渡辺利夫『開発経済学』、東京：日本評論社。速水佑次郎『開発経済学』（創文社）、植田和弘・岡敏弘・新澤秀則『環境政策の経済学』（日本評論社）。その他授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

95%期末の試験、5%はリアベなど平常点によって評価します。授業内で適宜演習問題をみんなで解く時間を設けていますが、試験はその演習を理解していれば、ある程度解けるような問題を出題しています。

【学生の意見等からの気づき】

パワポよりも板書のほうが分かりやすいという意見が多いので、レジュメ＋板書を充実させます。

【Outline and objectives】

We will study climate change as target environmental issues. Learning about the relationship between the environment and economic growth in the first half and the economic method of the environment (environment tax, emissions trading) in the second half.

SES200EB

環境政策論

田中 充

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済社会活動に起因する環境問題に対して、適切な環境政策を実施していくことが求められます。講義では、現代社会が直面する環境問題の基本的構造を学ぶとともに、具体的事例に即して環境問題の解決をめざす環境政策の体系と考え方を修得します。

【到達目標】

水俣病や地球温暖化問題等の環境問題に関する一般的知識を修得するとともに、環境問題を解決に導く環境政策の考え方を理解し、政策を体系的に実践できる「環境マインド」を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施します。受講生の理解度を確認するため、場合により受講生の発言や意見交換を求めるとともに、毎回リアクションペーパーの提出を求めます。問題状況に対する理解を深めるため、環境問題の映像を視聴します。進行状況により若干の予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール、環境政策の理念	講義の進め方とスケジュール、受講上の注意を紹介します。環境政策の理念を学びます。
2	人間活動と環境問題	環境負荷の発生と環境問題との係わり、環境問題による文明崩壊の事例を学びます。
3	環境問題の発生と政策の役割	複雑な環境問題を解決する環境政策の位置づけと役割を学びます。
4	環境政策における市民参加	環境問題の解決に向けた市民参加・協働の意義と、その事例（アサザ事業、市民風車）を学びます。
5	環境ガバナンスの視点	多様な主体が関わり新しい公共を担う環境ガバナンスの仕組みを学びます。
6	環境政策の基本原則（1）	環境政策の基本原則として持続性や環境負荷（エコロジカルフットプリント）の概念を学びます。
7	環境政策の基本原則（2）	汚染者負担原則、拡大生産者責任、予防原則など環境政策の基礎概念を学びます。
8	水俣病の発生と問題構造	最大の公害問題である水俣病について、地域社会との関わりなど問題構造を学びます。
9	水俣病の拡大防止策の失敗	水俣病の被害と患者の状況を学び、拡大防止の不備、失敗の要因を解明します。
10	水俣病への対応・行政の不作為	水俣病被害の拡大防止に向けた政策主体の行政の役割を学びます。水俣病裁判の経緯を理解します。
11	水俣病に学ぶ環境政策の教訓	多数の被害者を発生させた水俣病の特質を抽出し、今後の環境政策の教訓を学びます。
12	地球温暖化対策の実施	低炭素対策の枠組みと温暖化防止の国際社会の連携について学びます。
13	環境政策の手法	地球温暖化等の多様な環境問題を解決する環境政策手法（直接規制、経済的手法等）を学びます。
14	環境問題の解決に向けて（まとめ）	21世紀の環境文明社会の構築に向けて環境問題の解決のあり方を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。講義内容の理解を深めるため、期間中に 2 回の課題レポートを作成し、提出することが求められます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい、2008）、田中充編著『地域からはじまる 低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい 2014）ほか、授業時に適宜指示します。授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

・配分は、授業参加（平常点）30 %、課題レポート 20 %、期末試験 50 % とします。
 ・授業参加として、毎回リアクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーは記述内容に応じて採点（1 回につき 0～2 点）し、全回提出で満点 30 % とします。
 ・課題レポートは 2 回実施し、満点 20 % とします。
 ・授業のまとめとして満点 50 % の期末試験を行います。
 ・欠席の多い受講態度（授業回数のうち概ね 3 割以上の欠席）は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像視聴時の照明や空調の温度などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
 ・担当教員は、環境行政における政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等について事例を交えて解説します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>環境政策論
 <研究テーマ>自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This course deals with the basic structure of environmental issues and the system of environmental policies to solve those issues.

SES200EB

環境自治体論

田中 充

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

住民生活や事業活動の現場を抱える地域・自治体に注目し、廃棄物対策、地球温暖化防止等を事例として環境行政施策の条例・計画、環境マネジメント、住民参加等を学びます。

【到達目標】

廃棄物問題、温暖化問題等の具体的な環境問題の原因・経過・対策の構造について、自治体環境行政の視点に即して理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施します。受講生の理解度を確認するため、受講生の発言や意見交換の機会を設けるとともに、毎回リアクションペーパーの提出を求めます。問題状況に対する理解を深めるため、環境問題の映像を視聴します。進行状況により若干の予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール	講義の進め方とスケジュールを紹介します。
2	廃棄物問題の基礎	廃棄物の処理・処分の仕組みと現状、問題の所在について学びます。
3	廃棄物の再資源化・リサイクル	廃棄物の再資源化について日本の現状と課題を学びます。
4	資源循環型社会の構築：水俣市の循環型地域づくり	資源循環型社会の構築の事例として水俣市の資源循環型地域づくりを学びます。
5	環境基本条例・環境基本計画の体系	自治体環境行政の枠組みとして基本条例と基本計画の理念と体系を学びます。
6	公害克服とエコタウンの推進	川崎の公害問題の改善とまちづくり、環境と産業の調和を目指すエコタウン構想を学びます。
7	地球温暖化問題の要因と影響、構造	今日の経済社会に内在する温暖化問題の原因と影響、その構造を学びます。
8	気候変動対策－緩和と適応	地球温暖化対策の国際社会の経緯とともに、対策の柱である緩和策と適応策について学びます。
9	地域の温暖化対策：京都市温暖化条例	全国初の京都市の地球温暖化対策条例とその取り組みを学びます。
10	飯田市の地域環境マネジメント	地域の環境マネジメントシステムとして飯田市のマネジメントの取り組みを学びます。
11	自治体環境行政と市民参加	今日の自治体環境行政の柱となる市民参加の仕組みを学びます。
12	自治体のエネルギー政策	自治体エネルギー政策の枠組みと政策マトリックの概念を学びます。
13	庄内町のエネルギーコミュニティ	再生可能エネルギー政策の事例として風力発電を進める庄内町（旧立川町）を学びます。
14	環境自治体と持続可能な地域づくり（まとめ）	自治体環境政策の総合体系として環境自治体の概念、持続可能性のあり方を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。講義内容の理解を深めるため、期間中に 2 回の課題レポートを作成し、提出することが求められます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい 2008）、田中充編著『地域からはじまる低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい 2014）ほか、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

・配分は、授業参加（平常点）30 %、課題レポート 20 %、期末試験 50 % とします。
 ・授業参加として、毎回リアクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーは記述内容に応じて採点（1 回につき 0～2 点）し、全回提出で満点 30 % とします。
 ・課題レポートは 2 回（うち 1 回を小テストに代える場合がある）行い、満点 20 % とします。
 ・授業のまとめとして満点 50 % の期末試験を行います。
 ・欠席の多い受講態度（概ね 3 割以上の欠席）は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像上映時の照明や空調の温度などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
 ・担当教員は、環境行政における政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等について事例を交えて解説します。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>環境政策論

<研究テーマ>自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This course deals with local governmental policies on issues of waste disposal, global warming measures and environmental management system, etc.

LAW200EB

社会保障法 I

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。

【到達目標】

基本的な制度内容を理解し、政策的論点について考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」に関連

【授業の進め方と方法】

皆さん自身のライフサイクルやライフプランとの関わりで、日本の社会保障の基本的な仕組みを理解し、活用できるようになることを目指します。その上で政策的な論点や今後のあり方を検討します。時間が許す範囲で参加者との意見交換も行いつつ、質問やコメントに次の授業で答えるという双方向的な授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	保険とは何か、金融とは何か
2	総論① 人生とリスク	ライフサイクルと社会保障
3	総論② 民間保険	生命保険会社と損害保険会社
4	総論③ 社会保険	基本的な特徴、民間保険との比較
5	総論④ ファイナンス	いわゆる「税と保険」をめぐる
6	総論⑤ ガバナンス	社会保障は誰が担うのか
7	公的年金①	年金は何のためにあるのか
8	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるか
9	公的年金③	全国民共通の基礎年金
10	公的年金④	サラリーマンの厚生年金
11	公的年金⑤	障害年金・遺族年金、女性と年金
12	公的年金⑥	年金財政は大丈夫なのか
13	私的年金	企業年金・個人年金に頼れるか
14	補説	政策的な展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習を強く期待します。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。

【参考書】

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

期末定期試験により評価します（100%）。加えて授業への積極的な参画（発言応答）についても勘案します（プラスアルファとして）。

ボーダーライン層については、平常点を勘案する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすくなりました。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline and objectives】

This course deals with social security law.

LAW300EB

社会保障法 II

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。

【到達目標】

基本的な制度内容を理解し、政策的論点について考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」に関連

【授業の進め方と方法】

皆さん自身のライフサイクルやライフプランとの関わりで、日本の社会保障の基本的な仕組みを理解し、活用できるようになることを目指します。その上で政策的な論点や今後のあり方を検討します。時間が許す範囲で参加者との意見交換も行いつつ、質問やコメントに次の授業で答えるという双方向的な授業をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	保険の当事者関係
2	医療保険①	病気になったらどうするか
3	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
4	医療保険③	どういう医療を受けられるか
5	医療保険④	医療費の増加をどう考えるか
6	介護保険①	寝たきりや認知症になったら
7	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
8	労働保険（総論）	人は働かなければならないのか
9	雇用保険	失業したらどう対処できるのか
10	労災保険	仕事や通勤でケガや病気をしたら
11	生活保護	最後のセーフティネットとして
12	障害者福祉	意外に身近な身体・精神障害とは
13	児童福祉・児童手当	保育所・子育て支援、母子家庭
14	補説	政策的な展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習を強く期待します。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。

【参考書】

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

期末定期試験により評価します（100%）。加えて授業への積極的な参画（発言応答）についても勘案します（プラスアルファとして）。

ボーダーライン層については、平常点を勘案する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすくなりました。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline and objectives】

This course deals with social problems and social policies.

SOC200EB, SOC200EC

国際協力論

岡野内 正

サブタイトル：南北問題

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20 世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」「社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。」「社会学の理論と方法を通して、より善い社会と人々の生き方を構想できる。」に関連

【授業の進め方と方法】

国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生から毎回数名がテキストの要旨紹介とコメント、疑問点や論点の提起を、分担して行い、教員とともに議論していく。受講生は、毎回、「授業日誌」を作成して、それらを書きこんでいく。最終回では「授業日誌」をもとに総括討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による報告分担
2	問題提起—正義のために資本を使う	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
9	アラスカ・モデルの意義—遺産相続の論理と株式配当収益による無条件現金移転	受講生の報告と教員を交えた議論
10	全グローバル企業の90%を包摂する株式所有ネットワーク形成の意義	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカムの財源規模	受講生報告と教員を交えた議論
12	人類遺産相続基金の論理—全人類の相続回復による本源的蓄積暴力の匡正	受講生報告と教員を交えた議論
13	持ち分所有者全員による人類遺産の管理—透明性と熟識直接民主主義	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	持ち分所有者間紛争の非暴力的管理—歴史的正義回復審判所	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の2項目を含むこと。①各回のテキスト部分、質疑応答と討論の要約とコメント。②自分自身の日常生活や国際協力の現状に関するニュースなどから考えた、疑問点や論点（質問、議論、研究してみたいこと）。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2019年（9月刊行予定）。

【参考書】

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【成績評価の方法と基準】

提出された13回分の授業日誌の2項目について、50%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内 正

サブタイトル：地域研究（イスラーム）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】

①イスラーム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラーム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」「社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。」「社会学の理論と方法を通して、より善い社会と人々の生き方を構想できる。」に関連

【授業の進め方と方法】

中東・イスラーム世界研究の新著を受講生全員で検討する。受講生から毎回数名がテキストの要旨紹介とコメント、疑問点や論点の提起を、分担して行い、教員とともに議論していく。受講生は、毎回、「授業日誌」を作成して、それらを書きこんでいく。最終回では「授業日誌」をもとに総括討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明と、報告者の決定。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレンティア国家：レンティア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家=社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民	受講生報告と教員を交えた議論
9	トルコ—新自由主義・親イスラーム政党・外交	受講生報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉	受講生報告と教員を交えた議論
11	イランのイスラーム統治体制の現状	受講生報告と教員を交えた議論
12	イラク「政治体制を巡る迷路」	受講生報告と教員を交えた議論
13	イスラエルの国家安全保障とパレスチナ問題の変遷	受講生報告と教員を交えた議論
14	ヨルダン—紛争との共生	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の2項目を含むこと。①各回のテキスト部分、授業での質疑応答と討論についての要約とコメント。②各回の議論に関連して、イスラーム社会の現状に関する最近のニュースなどに関連して考えた、疑問点や論点（質問、議論、研究してみたいこと）。

【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年

【参考書】

長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。
岡野内 正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

提出された授業日誌について、各項目 50%ずつ 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援の NGO 活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

ARSe200EC

地域研究（中国）

大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古来、独自の文化的秩序観による一個の世界を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、グローバル化が進化する現代の国際社会の中でその独自性と普遍性とを分析、考察する。

【到達目標】

現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえ、的確に分析していく視座を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。」「社会学の理論と方法を通して、より善い社会と人々の生き方を構想できる。」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は教員による概観と問題提起、グループ討論。後半はテーマ別に小グループを編成し、発表、議論をおこなう。学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時間と空間としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「中国」という文明体	中華世界と中国的世界秩序
2	中国をめぐる経緯と緯	中国と「屈辱の近代」
3	現代中国への視座	「改革・開放」と現代中国
4	疑問と誤解（1）	中国を理解するキーワード
5	疑問と誤解（2）	中国共産党と社会主義
6	疑問と誤解（3）	伝統的政治思想と「民主化」
7	ひとつの中国、たくさんの中国（1）	多民族国家の諸問題
8	ひとつの中国、たくさんの中国（2）	香港、マカオ、台湾
9	発表と討論（1）	格差と「小康社会」の実現
10	発表と討論（2）	さまざまな社会問題から検証する現代中国
11	発表と討論（3）	「北京コンセンサス」と「ワシントンコンセンサス」
12	発表と討論（4）	日・中関係の過去と歴史認識問題
13	発表と討論（5）	日・中関係の現在・未来
14	発表と討論（6）	中国と世界のこれから

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 読書（参考図書）の渉猟
2. 関連する新聞やネットの記事のチェック
3. グループ発表、討論の準備

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はない。各回必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとにできるだけ多く紹介する。

【成績評価の方法と基準】

現代中国と東アジア地域の「通時的」理解にグローバルな「共時的」解析、検証を加えて獲得した新しい視座により具体的な考察（書評 15% + 小論文 50% = 65%）をおこなう。これに参加（教員と学生の書面の応答〔「交換日記」〕や発表 = 35%）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論による相互学習、基本的な事項の確認等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきたい。

【その他の重要事項】

北京駐在記者としての取材、報道の経験を踏まえ、現代中国に関する情報収集や分析の「リテラシー」を伝え、中国像の「歪み」と実像とを比較考察する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to contemporary China.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論 I

宇野 斉

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な社会状況を社会ネットワークとして捉え理解するプロセスを、社会ネットワークの体系的な見方とともに、学ぶ。

【到達目標】

1 社会現象のネットワーク的な見方の理解 2 企業や地域を社会ネットワークに捉える有効性の理解 3 スモールワールドの理解 4 社会の体系的な見方とネットワークの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」「メディアとそれを取り巻く環境を捉えるための関連諸科学の知識を身につけている。」に関連

【授業の進め方と方法】

1 社会におけるネットワーク現象を理解する。2 企業や地域等のネットワーク現象と運営を考察する。3 実験を通じスモールワールド等の社会現象を考察する。4 システム概念を確認した上で、個人と社会のネットワーク的な関わりを考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	授業内容を概観し、学生と教員で確認する。
02	社会におけるネットワーク現象 (1)	社会現象のネットワーク的分析を紹介する。
03	社会におけるネットワーク現象 (2)	社会現象を起こすネットワークの振る舞いを考察する。
04	ネットワーク、システム上の主体と関係	システム論的見方を提示した後、ネットワーク上の主体の役割と相互関係を状況確認する。
05	企業のネットワーク (1)	企業内の制度におけるネットワークを考察する。
06	企業のネットワーク (2)	企業内の制度外のネットワークを考察する。
07	地域のネットワーク (1)	地域を成立させているネットワークを考察する。
08	地域のネットワーク (2)	ネットワーク現象による地域変化を考察する。
09	スモールワールドの理論	スモールワールドの理論分析モデルを学ぶ。
10	スモールワールドの実験	スモールワールドの分析を感じる実験を行う。
11	スモールワールドの実験と理論	実験結果を分析し理論との接合を考察する。
12	ネットワークの中に生じる認知組織	ネットワーク内に認知される組織を論じる。
13	社会、コミュニティ、組織、個人	社会における多段階のネットワーク関係を系統的に考察する。
14	まとめと質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示する。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 25%、レポート 25%、期末試験 50%。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘された。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。電子メールが到達する様に設定すること。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえる。

【Outline and objectives】

Learn how to view society from a systematic view and network view.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論Ⅱ

宇野 斉

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に組織内ネットワークの分析を、社会ネットワークの観点から分析できる理論と方法を学ぶ。

【到達目標】

- 1 ネットワーク分析が自分で出来る能力の獲得
- 2 ネットワーク分析手法による組織分析方法の習得
- 3 組織の社会ネットワーク的な意味と振舞いの理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、「社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。」「問題解決の方法を構想することができる。」「社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。」「課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。」「メディアとそれを取り巻く環境を捉えるための関連諸科学の知識を身につけている。」に関連

【授業の進め方と方法】

個人間関係を基礎としミクロなネットワークで、誰がどのような役割を果たすかを分析する理論と手法の理解について、実験を交えて授業を進める。組織の中でのネットワークをどのように捉え、どう行動すべきかを扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション	概観内容を説明し、学生と教員間で確認する。
02	ネットワーク分析のための理論提示	この授業でのネットワーク分析の理論と背景を提示する。
03	ネットワークの理論的分析	実験モデル状況の理論分析を行う。
04	ネットワークの実験	グループを作り実験に参加し、観察し、データを得る。
05	実験結果の分析	データを理論との対比で分析する。
06	ネットワーク分析の代表値	ネットワーク分析における一般的な指標を説明する。
07	組織内公式関係分析	分析方法とケースで公式の関係状況の分析を考察する。
08	組織内非公式関係分析	同ケースで非公式な関係状況の分析を考察する。
09	組織内関係総合的分析	同ケースで公式と非公式の関係の同時状況分析を考察する。
10	組織内リンク追加の効果1	モデルでの関係追加の組織全体への効果を考察する。
11	組織内リンク追加の効果2	モデルでの関係追加の個人への効果を考察する。
12	組織内リンク追加の効果3	モデルでの関係追加の個人と組織への効果の差異を考察する。
13	クラスター、ネットワーク、組織、個人	4つの段階の様相相互の関係を考察する。
14	まとめと、質疑および議論	各授業に関する概観と、質疑、議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示する。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点等 30 %、レポート 25 %、期末試験 45 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘された。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。電子メールが到達する様に設定すること。

【その他の重要事項】

授業計画は、進行によって若干の変更がありえる。
社会ネットワーク論Ⅰに引き続いて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Learn the theory and method which can analyze the social networks in the organization.

TRS100JB

ホスピタリティ論

野口 洋平

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（人文系）

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ホスピタリティ」をめぐって、その語源や意味、サービス産業との関係、観光における重要性、サービスとの違いなどについて、主にサービス・マーケティング論の視点から考える。

【到達目標】

ホスピタリティについて、自らの言葉で議論し説明を試みるための知識と考え方を身に付ける。また、観光やサービス、福祉などにおけるホスピタリティのあり方について意見や姿勢を持ち、実際の事例について具体的な提案ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義はレジュメを中心に行う。ディスカッションは教員と学生のあいだ、または学生同士で行い、最後に議論の結果をまとめる。毎回授業後にリアクションペーパーを提出し、次回の授業冒頭で教員からフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・観光とホスピタリティ	ホスピタリティという用語が観光と関連づけられて使用されることが多いことなど事例に解説する。
2	ホスピタリティ・サービスの語源	ホスピタリティの語源、サービスとの比較からその特性について解説する。
3	ホスピタリティとサービス (1)	ホスピタリティについてサービスとの比較からその特性を検討する。
4	ホスピタリティとサービス (2)	ホスピタリティについてサービスとの比較からその特性を学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
5	ホスピタリティとサービスの現代的意味 (1)	ホスピタリティという用語が用いられる場面を想定して、現代的な意味について検討する。
6	ホスピタリティとサービスの現代的意味 (2)	ホスピタリティという用語が用いられる場面を想定して、現代的な意味について学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
7	ホスピタリティとサービスのマーケティング (1)	ホスピタリティをめぐるビジネスの戦略と課題について解説する。
8	ホスピタリティとサービスのマーケティング (2)	ホスピタリティをめぐるビジネスの戦略と課題について、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
9	消費者にとってのホスピタリティとサービス (1)	消費者にとってのホスピタリティについて、特にマーケティングやサービスとの比較から解説する。
10	消費者にとってのホスピタリティとサービス (2)	消費者にとってのホスピタリティについて、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
11	国際観光とホスピタリティとサービス (1)	増加するインバウンドにおけるホスピタリティの原状と展望について解説する。
12	国際観光とホスピタリティとサービス (2)	増加するインバウンドにおけるホスピタリティの原状と展望について、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
13	社会的サービスとホスピタリティとサービス	福祉など社会的サービスとホスピタリティの関係について解説した上で、学生同士のグループディスカッションを通じて議論する。
14	テストとまとめ	理解度を確認するテストの実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容に関連する新聞記事、ニュースなどに注目し、ディスカッションの際のヒントとするよう心がける。自身のサービス体験（サービス提供、サービス享受）について記録し、授業内容に沿って分析・検討する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。講義の際にはレジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポートまたは調査課題：40点

期末テスト：60点

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションに初めて取り組む学生もいるので、複数回の機会を設けて充実した議論を目指す。また、リアクションペーパーを通じた教員と履修者とのコミュニケーションを重視する学生が多いため、よりいっそう活発に行うことで授業の充実を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業の進行方法や評価方法は、極端に履修者数が多い場合や少ない場合には変更する可能性がある。教員への連絡方法は授業内で提示する。

【Outline and objectives】

This class discuss from a viewpoint of service marketing (1)etymology and meaning of hospitality, (2)relationship between hospitality and service industries, (3)importance of hospitality in tourism, (4)difference between hospitality and service.

CUA100JB

日本人の心理特性と文化

長山 恵一

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（人文系）

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の童話（「だれも知らない小さな国」佐藤さとる）を題材に、そこに見られる日本人の文化や心理行動特性を深層心理学的に読み解いていく。

【到達目標】

童話のストーリーや具体的な内容に、どんな風に日本的な文化や心理行動特性が表れているかを深層心理学的に理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、童話の内容を具体的に読み進みながら、そこにどんな風に日本人の文化や心理行動特性が表れているのかを講義し、考えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回目	講義の概要と童話「だれも知らない小さな国」の概説	童話の作られた時代背景や講義の概要について説明する。
第 2 回目	第 1 章「いずみ」	第 1 章のストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 3 回目	第 2 章「小さな黒いかげ」1～5 節	第 2 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 4 回目	第 2 章「小さな黒いかげ」6～10 節	第 2 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 5 回目	第 3 章「矢印の先っぽ」1～5 節	第 3 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 6 回目	第 3 章「矢印の先っぽ」6～10 節	第 3 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 7 回目	第 4 章「わるいゆめ」1～5 節	第 4 章 1-5 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 8 回目	第 4 章「わるいゆめ」6～10 節	第 4 章 6-10 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 9 回目	第 5 章「新しい味方」1-4 節	第 5 章 1-4 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 10 回目	第 5 章「新しい味方」5-8 節	第 5 章 5-8 節までのストーリーや内容を深層心理学的読み解いていく。
第 11 回目	童話全体のストーリーのまとめ	童話全体のストーリーにどんな風に日本的な心性が表れているかを読み解いていく。
第 12 回目	童話に込められたテーマについて	童話に込められたテーマにどんな風に日本的な心性が表れているかを読み解いていく。
第 13 回目	日本人の心理行動特性について	これまでの講義を踏まえて、日本人の心理特性全般について説明する。
第 14 回目	授業内テスト（期末テスト）	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の講義予定の童話の内容を事前に読んで、必ず理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「だれも知らない小さな国」コロボックル物語 1 佐藤さとる 著（講談社 青い鳥文庫）670 円

【参考書】

その都度、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（65%）と平常点（35%）を合計して最終的な成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

日本人の心理行動特性のまとめの講義部分では、教科書の童話だけに限定されることなく、もっと幅広く日本文化の特性全般を西洋文化と比較して講義をしていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。講義にはかならず「テキスト（童話）」を持参してこよう。

【Outline and objectives】

In this course, students will explore Japanese culture and psychological characteristics from a perspective of depth psychology using a Japanese fairy tale "A Little Country No One Knows (dare mo shiranai chiisana kuni)".

EDU100JB

教育学

藤本 典裕

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（人文系）

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講は、教育という事象について広範な視野から検討・考察するための基礎作業を行う。人間にとって教育はどのような意味をもつのか、現代の教育や教育制度の基礎にあるのはどのような考えなのか、現代の教育がもつ問題性は何か、などが検討の対象となる。

【到達目標】

下記の諸点を本講の到達目標に設定する。

1. 教育の概念について自分自身の考えを整理して発表できる。
2. 人間の文化の特性やその伝達の特殊性について理解できる。
3. 近大の教育を支える思想について理解するとともに、それが現代においてどのように変質しているのかを理解できる。
4. 現代社会における教育の問題点を指摘し、それについての見解を整理して発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とするが、受講者数などを勘案し、学生の意見発表と討論の時間を確保したい。

学期末に試験を実施するが、学期中に小レポートの提出も求める。

下記に授業計画を示すが若干の変更を行うこともありえます。変更の場合はその都度指示するので注意して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	何を学ぼうとするのか（講義概要の説明など）
第2回	「教育」についての一般的理解	「教育」という言葉がどのように理解され流通しているのかを確認する。
第3回	「教育」という営みの特性	「教育」が他の活動と区別される特性を検討する。
第4回	人間の文化とその伝達	教育の原点である「文化伝達」を理解するため、人間の文化の存在様式と伝達の特性について検討する。
第5回	子ども観・子育て観	子どもや子育てがどのように理解され実践されてきたのか、現代において子ども・子育てはどのようなものとなっているのかを検討する。
第6回	近代の教育思想	ルソーの教育についての考察を素材として、近代的教育思想の特徴を整理する。
第7回	学校の誕生と発展	教育機関としての学校が誕生する経緯とその後の発展について概観する。
第8回	戦前・戦中の教育と教師（1）	日本における学校教育制度の誕生と期待された機能について検討する。
第9回	戦前・戦中の教育と教師（2）	「教育勅語」を中心に、戦前・戦中の教育を支配した理念について検討する。
第10回	戦後教育改革と教育理念	戦後（現行）教育制度がめざした教育のあり方について、教育の権利・義務の視点から整理・考察する。
第11回	教育を受けること・学校に通うこと	学校に通い教育を受けることの意味を法制度の観点から検討する。
第12回	教育を受ける権利の保障	教育を受ける権利を保障するための制度の概要を整理・検討する。
第13回	教育費負担と教育機会	教育費負担のあり方と実態、それが子どもの人格形成や学力保障に及ぼす影響について検討する。
第14回	人間にとって教育とは何かであるのか	講義全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の終わりに次回の内容を予告し、準備学習について指示するので、その内容に従って準備すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、必要な資料を配布する。

【参考書】

堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989年
堀尾輝久『現代社会と教育』岩波新書、1997年
勝田守一『能力と発達と学習』国土社、1990年
ルソー『エミール』岩波文庫、1994年

橋本俊昭『日本の教育格差』岩波新書、2010年
藤本典裕・制度研編『学校から見える子どもの貧困』大月書店、2009年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（60%）、小レポート（20%）、平常点（20%）を総合的に評価する（配点は目安）。

【学生の意見等からの気づき】

科目の性格上、さまざまな事項について深く検討することは困難である。この点については参考文献の紹介などで補足したい。

昨年度は受講生が多く、大教室での講義となったため、グループ・ディスカッションなどを取り入れることが困難であった。授業支援システムの利用など、工夫したい。

【Outline and objectives】

We will learn about "education" as a necessary social function for human-beeing.

At first, basic educational concepts will be discussed through daily-life experiences. We will learn how and why we human-beeing have kept "education" as a basic social function.

Second, we will learn about the functions of schooling system.

Third, we will learn about the rights and duties on "education", who have the rights to education, and why so, who guarantee the rights.

SOC100JB

社会学特講

左古 輝人

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の構造、その過去、現在、未来の概要を学ぶ。

【到達目標】

社会学の基本的なキーワードを用いて現代社会の諸現象を考察できる能力を修得する。キーワードとは、社会構造、産業化、資本制、賃労働、コミュニティ、消費、などである。考察する現象の例としては、個人雇用、国民皆教育、マスメディア、恋愛結婚の盛衰、などである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式である。質問・感想は歓迎するが、専用の用紙を用いることが望ましい。優れた質問・感想については、可能な限り詳細な解説をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義の概要と進め方を説明する
2	産業社会の構造	産業を軸に構成された近代社会の構造を概観する
3	産業社会の形成	18・19 世紀における産業社会の歴史的な形成を概観する
4	社会問題の発生	産業化にともなって現れた諸問題を概観する
5	社会学という欲望	社会学と産業化の関係を概観する
6	群衆とマスメディア	産業化にともなって出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
7	大量生産システムの完成	産業社会の転換点となった 20 世紀初頭を概観する
8	消費社会の構造	20 世紀の産業社会を特徴付けた消費化の構造を概観する
9	消費社会の展開	消費社会の歴史的な形成を概観する
10	新中間層の登場	消費化とともに出現した新種の人間集団と、その統制を概観する
11	社会問題の変容	消費化とともに現れた新しい社会問題を概観する
12	脱工業化の進行	1970 年代以降、こんにちまで続く、産業社会の新しい傾向を概観する
13	新中間層の解体	脱工業化とともに進行した新中間層の解体を概観する
14	今後について	今後の産業社会の行方を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、事前にテキストの該当箇所を読了しておくことが、講義への理解を容易にする。

【テキスト（教科書）】

左古輝人『畏怖する近代』法大出版 2006 年。
佐伯啓思『欲望と資本主義』講談社現代新書 1992 年。
見田宗介『現代社会の理論』岩波新書 1998 年。
早川洋行ほか『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房 2011 年。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、平常点 30%。

【学生の意見等からの気づき】

授業運営の適切さを改めて確認できた。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設定していない。面談は歓迎するが、必ず事前に電子メールで問い合わせること。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the field of sociology. By surveying social theories, students acquire the ability to think beyond our personal lives and to connect the experiences of individuals with large social structures and their history.

MAN100JB

経営学

山藤 竜太郎

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）
配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学の基本的な考え方を理解する。
経営学の基本的な考え方を福祉の経営に応用する。

【到達目標】

受講生が経営に関するニュースを理解できるようになる。
受講生が福祉の経営について考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回小レポートの提出を求める。
授業の進め方は若干前後する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について
2	経営学の全体像	経営学という学問の位置づけについて
3	企業マネジメント	企業の経営の基本について
4	事業戦略のマネジメント	競争する市場の選定について
5	基本戦略のマネジメント	3 つの基本戦略について
6	多角化戦略のマネジメント	多角化企業の全社戦略について
7	経営戦略の映像資料	経営戦略の映像資料について
8	組織構造のマネジメント	組織構造の基本設計について
9	モチベーションのマネジメント	モチベーションとリーダーシップについて
10	キャリアのマネジメント	就職後のキャリア・パスについて
11	日本の雇用制度のマネジメント	日本の雇用制度の特徴について
12	福祉の戦略的マネジメント	福祉のマネジメントの戦略面について
13	福祉の組織的マネジメント	福祉のマネジメントの組織面について
14	経営組織の映像資料	経営組織の映像資料について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に事前の学習が必要ではないが、日頃からテレビやインターネットなどを通じて、自身の経営に対する関心を高めておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

加護野忠男、吉村典久『1 からの経営学 第 2 版』碩学舎、2012 年。

【成績評価の方法と基準】

小レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの内容に基づいて、単なるリアクション・ペーパーではなく、毎回小レポートを実施することで積極的な授業参加をうながす。

【Outline and objectives】

Understand the fundamental thinking of business administration.
Apply the basic thinking of business administration to the management of welfare.

SOC100JB

老年学

新名 正弥

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（社会系）

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

老年学は、生物が普遍的に経験する「加齢・老化」現象を人間の視点から学際的に捉えることを目的とする学問領域である。本講義では、老年学の生物学的、心理学的、社会心理学的、社会学的視点を網羅的に解説するとともに、特に社会老年学領域のテーマについて重点的に解説を行う。一方で、老年学の学際性故に老いに対する様々な見方があり、その見方によって「問題の所在とその社会的対応」が異なることも学ぶ。

【到達目標】

老年学の方法及び理論、人口論、身体、心・精神、社会、政治、環境、死などの各テーマにおける視座と現代的課題を学ぶ。加えて、老化に係わる課題に対応するための個人的適応及び社会政策による対応について海外の動向を関連させ学ぶ。これらの作業を通じて、人間の老いという現象を社会や文化、そして価値による影響を含めて多角的に理解する。加えて、学生が現実の政策課題について理論的な思考を応用的に展開できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主に講義を中心に進め、映像資料を多数用いる。各回の内容についてリアクションペーパーを記すことで理解を深めてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、講義の構成、スケジュール、成績評価
第2回	老年学とは	老化・加齢について、老年学・社会老年学のアプローチ
第3回	人口の高齢化	人口高齢化、少子化、地域差と社会変動の影響
第4回	老化と身体	高齢者の寿命 高齢者の疾病と障害
第5回	老いと心・精神	高齢者の心と知能、感情と欲求、パーソナリティ 心理的適応 老いと発達（生涯発達理論と老年的超越）
第6回	高齢期の健康問題と対応	老化と健康 認知症
第7回	老化の社会学理論①	活動理論、離脱理論、継続性理論等の老化に関する社会学理論
第8回	老化の社会学理論②	老いに対する態度、エイジズム 老化の政治経済学的アプローチ、ポストモダンアプローチ
第9回	高齢期の社会関係と社会参加①	高齢期の家族・社会関係
第10回	高齢期の社会関係と社会参加②	雇用、ボランティア、政治参加
第11回	高齢社会の問題と政策対応	社会問題の社会学アプローチと構造化された依存
第12回	老いと経済	経済格差と政策対応
第13回	老い、医療・介護、終末期	多死社会における医療・介護・終末の課題
第14回	高齢者を取り巻く環境変化と地域包括ケア	住宅、交通、商業施設、コミュニティの変化と包摂型ケアに向けての課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍、テレビ番組等から関連するテーマについて日頃から注意しておくこと。また、自身の高齢者との経験について振り返っておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

柴田博・長田久雄・杉澤秀博編（2007）「老年学要論-老いを理解する-」健吊社

【参考書】

東京大学高齢社会総合研究機構編（2017）「東大がつくった高齢社会の教科書：長寿時代の人生設計と社会創造」ベネッセコーポレーション（データ集として利用してください）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーによる各回の振り返り（20%）、中間レポート（20%）、期末試験（60%）によって総合的に判定する。

【学生の意見等からの気づき】

領域が広い教科であるが、標準的な体系が確立していない学問分野なので、一回その都度完結型の講義を心がける。

【その他の重要事項】

老年学は、高齢者福祉論、介護福祉論、介護保険制度論の基盤となる科目なので、高齢者に関して発展的学習を行う予定の学生に対して網羅的かつ基礎的な知識を提供することを心がけたい。

【Outline and objectives】

Gerontology is an interdisciplinary subject dealing with the ageing of a human and society surrounding the elderly. The lecture aims at comprehensively describe the biological, psychological, social psychological and sociological perspectives of gerontology, as well as explaining the themes especially in the area of social gerontology. On the other hand, because of the multidisciplinary nature of gerontology, the lecture aims to exemplify how values embedded in perspectives of gerontological theories differently affect the understanding of social issues surrounding ageing and its policy response.

HSS100JB

ヘルスプロモーション

熊坂 隆行

科目分類・科目群：総合教育科目 視野形成科目（自然・スポーツ系）

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1986 年のオタワ憲章の中でヘルスプロモーションは「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」と定義されています。

本講義では「健康」「教育」「医療」「地域」に注目し、人々の生活の質、QOL (Quality of Life) を高めるための取り組みや環境について学び、自らが考える健康づくりを作成いたします。

【到達目標】

- 1) ヘルスプロモーションの考え方について理解できる。
- 2) 健康教育について理解し、説明できる。
- 3) 保健と医療（健康増進、病気の予防、早期発見・早期治療、完全な治療、リハビリテーション）について理解できる。
- 4) 健康増進法について理解し、説明できる。
- 5) 自らが考える健康づくりを計画・作成、発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

ヘルスプロモーション・健康教育を理解するため、講義はレジュメ、配布資料を中心に Power Point を用いて進めていきます。また「健康づくり」についてグループワークを行いません。最新の情報について適宜講義に取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
第 2 回	ヘルスプロモーションとは何か	ヘルスプロモーションの基本的な考え方について
第 3 回	健康教育とは何か	「健康」「教育」について 健康教育の定義・理念・実際について
第 4 回	保健と医療 1	健康増進について
第 5 回	保健と医療 2	病気の予防について
第 6 回	保健と医療 3	早期発見・早期治療について
第 7 回	保健と医療 4	完全な治療について
第 8 回	保健と医療 5	リハビリテーションについて
第 9 回	健康増進法	健康増進法の目的、基本方針の概要と留意点について
第 10 回	私の考える健康づくり 1	自ら考える健康づくりを計画・作成 1
第 11 回	私の考える健康づくり 2	自ら考える健康づくりを計画・作成 2
第 12 回	私たちの考える健康づくり 1	少数グループで考える健康づくりを計画・作成 1
第 13 回	私たちの考える健康づくり 2	少数グループで考える健康づくりを計画・作成 2
第 14 回	私たちの考える健康づくり 3	作成した健康づくりの計画を発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義・グループワークに参加してください。また、講義後は、講義で配布される資料、参考文献を用いて復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。資料を配布します。

【参考書】

日本健康教育学会編：健康教育 ヘルスプロモーションの展開。株式会社保健同人社、東京、2006。
宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨：最新 保健学講座別巻 1 健康教育論。株式会社メヂカルフレンド社、東京、2015。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、グループワークへの取り組みと発表 40 %、課題レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを活用し、学生のみなさんの意見や要望を反映いたします。

【Outline and objectives】

This subject will pay attention to "health" "education" "medical treatment" "area", learn about the match to raise QOL and the environment and make the positive health one considers.

SOW200JB

福祉国家論

金 美珍

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

格差と貧困が拡大したもとで、福祉国家の存在意義が問われている。日本の社会保障制度の特徴を踏まえて、福祉国家が果たすべき役割と課題について学ぶ。

【到達目標】

福祉国家の日本の特徴を理解する。今後の方向性として、「インクルージョン」・「インクルーシブ」という考え方を自分なりに説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心だが、受講学生からの問題提起を受けながら、学生視点で理解が深められるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	福祉国家の課題（1）	優性思想、インテグレーションからインクルージョンへ
第 2 回	福祉国家の課題（2）	中間層安定のための課題
第 3 回	福祉国家の機能（1）	生活安定機能、所得再分配機能、経済社会安定機能
第 4 回	福祉国家の機能（2）	中間層安定のための機能
第 5 回	日本の福祉国家（1）	自助、共助、公助
第 6 回	日本の福祉国家（2）	社会保険、社会手当、社会扶助
第 7 回	社会保障の特徴（1）	皆保険・皆年金への道
第 8 回	社会保障の特徴（2）	職域保険と地域保険の分立
第 9 回	社会保険の課題（1）	国民年金と国民健康保険の実態
第 10 回	社会保険の課題（2）	低所得者・貧困対策の必要性
第 11 回	社会保険における低所得対策	保険料と自己負担の軽減・免除
第 12 回	社会保障の財源	税と社会保険料の交錯
第 13 回	基礎保障制度の提案	基礎保障年金、子ども手当、学校無償化
第 14 回	まとめ	インクルーシブな社会づくり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の單元ごとに、小レポートの提出を求めます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

参考書、参考資料については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小レポート：60 % 期末テスト：40 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は海外研修につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The expansion of disparity and poverty makes the role of the welfare state more important.

This lecture focuses on the characteristics of the social security system in Japan and aims to understand the roles and tasks of welfare state.

CUM300JB

地域文化政策論

須田 英一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域文化政策の実態とあり方を事例を通して学びます。この授業は地域社会に Well-being 社会を実現するための政策づくりの一環として学んでほしいと思います。

【到達目標】

文化活動が人間にとって根源的な欲求であり、Well-being 社会を実現する文化活動に対して、行政がどのように関わり、取り組みがなされているのかを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文化の捉え方や文化政策を実現させるためのシステム、文化に関わる法律・条令・行政組織などを述べ、広く文化行政の仕組みを講じます。また、文化政策の重要な一支柱をなす文化財政策に関して、文化財の概要及び文化財の保存と活用について具体例を論じます。さらに、近年における文化財政策の取り組みや新たな視点を論じ、心豊かな Well-being 社会を実現するための地域文化政策のあり方を具体的に学びます。授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法など
第 2 回	Well-being と文化政策	Well-being 実現のための文化と政策
第 3 回	文化政策実現のシステム	自治体の基本構想・基本計画策定
第 4 回	文化に関わる法と行政組織 (1)	人間の営為と基本的人権保障の規定
第 5 回	文化に関わる法と行政組織 (2)	文化関係法の体系と内容
第 6 回	文化に関わる法と行政組織 (3)	自治体の文化関係条例・行政組織
第 7 回	エコミュージアムの機能と地域遺産保護	博物館、エコミュージアム
第 8 回	文化財の累計と保護の歩み	明治期・大正期・昭和戦前期の文化財保護、文化財保護法の制定
第 9 回	文化財の保存と活用 (1)	史跡の保存と活用の実態
第 10 回	文化財の保存と活用 (2)	伝統的建造物群の保存と活用の実態
第 11 回	文化財の保存と活用 (3)	近代の文化遺産の保存と活用の実態
第 12 回	文化財の保存と活用 (4)	名勝・天然記念物・民俗文化財の保存と活用の実態
第 13 回	近年の文化財政策の同行	日本遺産事業、文化芸術基本法
第 14 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業はほぼテキストに沿って進めるので、授業計画に示されたテーマ・内容にもとづき予習・復習を行うこと。また、新聞・雑誌などに掲載される地域文化政策に関連する記事に関心を持ってほしい。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売、473 円）

【参考書】

馬場憲一（1998）『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著（2002）『文化財政策概論』（東海大学出版会、3500 円）を挙げておきますが、その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
・評価方法：平常点（出欠とリアクションペーパー）30%、課題レポート 70 % により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

専門展開科目の「文化環境創造論」は、本授業の「応用編」的な内容も含んでいますので、セットで受講することをお勧めします。特に公務員を目指す皆さんには必ず受講してほしいと思います。

【Outline and objectives】

This lecture learn about the actual state and the way of regional culture policy through case studies. I would like you to learn as part of policy making to realize Well-being Society in the community.

ENG300JB

都市住宅政策論

水野 雅男

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

[Outline and objectives]

Learn about housing policy deeply involved in daily life and important for regional landscape and social welfare. Learn through how domestic policies have been addressed, through comparing domestic and overseas and examples of citizen activity.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】

都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。授業の冒頭で、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめるとともに、いくつかの意見を紹介し合う。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第2回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第3回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第4回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第5回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第6回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第7回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第8回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第9回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第10回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第11回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策とNPO
第12回	海外の住宅政策②	英国の住宅政策とまちづくり事業体
第13回	海外の住宅政策③	ドイツ・スウェーデンの住宅政策
第14回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
授業支援システムに前週の教材を掲載しているので、充分に復習すること。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009年
「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009年
「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014年
「欧米の住宅政策—イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999年
「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009年
「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009年
「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK出版、2011年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70% ②レポート 30% ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2018年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に授業支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに24年間関わった中で、NPO法人金澤町家研究会、NPO法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

SOW300JB

国際協力論

佐野 竜平

サブタイトル：国際支援論 (2017 年度以前入学生)

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

グローバルな時代における現代福祉に関連した国際協力およびインクルーシブ開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

国連・政府・民間機関等の役割に触れつつ、広く現代福祉とインクルーシブ開発の関わりを考察する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	SDGs と現代福祉①	SDGs、国際協力と現代福祉①
第 3 回	SDGs と現代福祉②	SDGs、国際協力と現代福祉②
第 4 回	SDGs と現代福祉③	SDGs、国際協力と現代福祉③
第 5 回	人間の安全保障とは	人間の安全保障と現代福祉に関する理解を深める
第 6 回	国際機関と国際協力	主に国連による国際協力と現代福祉を理解する
第 7 回	日本政府と国際協力	主に日本政府による国際協力と現代福祉を理解する
第 8 回	NGO と国際協力	主に日本の国際 NGO による国際協力と現代福祉を理解する
第 9 回	民間企業と国際協力	主に日本の民間企業による国際協力と現代福祉を理解する
第 10 回	国際協力と実際の仕事	国際協力と現代福祉に関わる具体的な仕事・職種を議論する
第 11 回	国際協力課題発表①	現代福祉に関する発表・質疑①
第 12 回	国際協力課題発表②	現代福祉に関する発表・質疑②
第 13 回	国際協力課題発表③	現代福祉に関する発表・質疑③
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回講義で配布した資料等の復習。

【テキスト (教科書)】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

外務省 開発協力白書。その他、必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30%、プレゼン作成・発表：40%、課題レポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。講義は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている海外プロジェクトを元に展開。

【Outline and objectives】

With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.

SOW300JB

福祉の思想と歴史

白川 耕一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

題目「福祉国家—形成・展開・未来—」
どの国にあっても、福祉国家の改革が眉焦りの課題である。本講義では、とりわけドイツとイギリスの福祉国家の歴史分析をおこない、それを通じて福祉国家の未来を考えたい。

【到達目標】

・西ヨーロッパを事例に、福祉国家の展開を知る。
・現在の日本の状況を、世界的視野で考察し、位置づける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は口頭による説明と黒板書きを中心にすすめ、適宜資料プリントを配布する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要の説明
第 2 回	福祉国家への道	社会保険の導入
第 3 回	戦争と福祉国家	世界大戦のインパクト
第 4 回	戦後の再建	1940 年代の動向
第 5 回	50 年代の改革	社会保険改革
第 6 回	福祉国家の「頂点」	1970 年代の改革と停滞
第 7 回	新しい社会問題	貧困への意識
第 8 回	高齢者問題	高齢者の貧困
第 9 回	家族の危機?	80 年代の改革
第 10 回	外国人と福祉国家	外国人労働者
第 11 回	家族の変容と改革	1990 年代の改革
第 12 回	福祉国家改革	福祉から就労へ
第 13 回	難民と福祉	難民危機 (2015 年)
第 14 回	総括と展望	福祉国家の未来

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・講義内容に関係した文献目録を適宜配布するので、講義ペースに合わせて、文献を読むことが望ましい。
・山崎史郎『人口減少と社会保障』(中公新書 2017 年)は、講義受講前に読んでおくことが望ましい。

【テキスト (教科書)】

使用しない。

【参考書】

田中拓道『福祉政治史』(勁草書房 2017 年)
平岡公一『イギリスの社会福祉と政策研究』(ミネルヴァ書房 2003 年)
水島治郎『反転する福祉国家—オランダモデルの光と影』(岩波書店 2012 年)
山崎史郎『人口減少と社会保障』(中公新書 2017 年)

【成績評価の方法と基準】

1. 学期末に論述形式の筆記試験をおこなう。
2. 筆記試験の得点 (7 割)、平常点 (3 割) で成績評価を決定する。

【学生の意見等からの気づき】

板書があまりシステマチックではありませんが、板書自体が目的ではなく、口頭による説明の補助という位置づけですので、ご理解ください。

【Outline and objectives】

Welfare State- Past, Present, and Future-

The reform of welfare system is a problem of great urgency in all the developed countries because of big changes of economy, family, and employment. In this lecture the history of the European welfare state in the 20th century is treated. Through the survey we will have a view on the future of welfare state.

ENV300JB

環境政策論

藤澤 浩子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】

学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけていくこととする姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

環境政策はP D C Aサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史的経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。

前半は、基本的な事項や考え方、現在注目されているテーマを解説、多様な視角の存在、情報の収集や読み解き方などについて説明します。後半では、実践事例を学び、キャンパス周辺の環境に目を向け学習内容を実践してみましよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ガイダンス及び環境学習経験の確認
第2回	環境に関する基礎知識とミニワークショップ	「人間をとりまく環境のイメージ」とSDGs
第3回	環境政策・環境学習の理念	環境政策及び環境教育の基本的な考え方。目的、目標、法体系など
第4回	環境政策・環境学習の歴史的経緯	環境問題の発生と環境政策の生成過程、自然保護/公害教育から環境教育へ、など歴史的経緯を把握
第5回	身近な環境に関する基礎知識 1	持続可能性、循環型社会、
第6回	身近な環境に関する基礎知識 2	アメニティと生物多様性、センスオブワンダー
第7回	身近な環境に関する取組み（方法論）	野外体験、観察、調査等、実践的活動手法
第8回	後半のガイダンス	フィールドワークに関するガイダンス
第9回	ミニフィールドワーク「あるもの探し歩き」1	キャンパス周辺の身近な自然的環境にふれる
第10回	ミニフィールドワーク「あるもの探し歩き」2	キャンパス周辺の身近な歴史的環境にふれる
第11回	企業による取組み事例	身近な環境に関する企業の取組み事例
第12回	市民による取組み事例	身近な環境に関する市民の取組み事例（DVD視聴等）
第13回	グループワーク 1	※かるた制作（読みづくり）
第14回	グループワーク 2	※かるた制作（絵づくり）と試用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマやフィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。

【テキスト（教科書）】

講義時にプリントを配布します。

【参考書】

倉阪秀史（2014）『環境政策論（第3版）』、日本環境教育学会編（2013）『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著（2011）『自然保護分野の市民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2. 試験方法：中間に2回と期末に課題提出
3. 採点基準：平常点 40 %、課題 60 %

【学生の意見等からの気づき】

後半、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールドワークとグループワークを行っています。過去8年間のグループワークでは、かるた制作を行い大変好評でした。長年通学しているキャンパス周辺を改めて見つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつながるため、今年度も受講者数に応じた形式で実施する予定です。

【その他の重要事項】

受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。※印で示したグループワーク（第13～14回）の内容は昨年例です。

【Outline and objectives】

Citizen's independent participation and voluntary activity are indispensable for the environmental policy to settle a global environmental problem.

The purpose of this lecture is to bring the citizen who works on a solution of a close environmental issue voluntarily up.

As a basis of citizen's voluntary activity, it's very important to learn about environment/environmental problem in a close area.

In this lecture, students learn basic knowledge of the environment/environmental problem and policy, and then will experience a few activity by the campus.

CMF300JB

コミュニティアート

吉野 裕之

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことでなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】

まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義でいうアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指す。こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	まちづくりの意味	まちづくりの意味や意義についての説明。（授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同）
第3回	NPO・市民活動の意義	NPO・市民活動の意義の説明。
第4回	市民主体のまちづくりの事例（1）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（先進地域における活動の変遷の事例）の紹介と解説。
第5回	市民主体のまちづくりの事例（2）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（学生が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第6回	市民主体のまちづくりの事例（3）	NPO・市民活動によるまちづくりの事例（中高齢者が主体となった活動の事例）の紹介と解説。
第7回	アートの意味	アートの意味（意味の歴史の変遷や芸術家のことばなど）の説明。
第8回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第9回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート（パブリックアートやコミュニティアートなど）の変遷の説明。
第10回	コミュニティアートの事例（1）	コミュニティアートの事例（大都市／拠点型）の紹介と解説。
第11回	コミュニティアートの事例（2）	コミュニティアートの事例（大都市／まちなか展開型）の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例（3）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域密着型）の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例（4）	コミュニティアートの事例（地方都市／地域交流型）の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。（必要に応じて適宜配布する。）

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30点 中間レポート：20点 期末レポート：50点

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの回答が多かった。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline and objectives】

Through many cases, we will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

CUM300JB

地域遺産マネジメント論

須田 英一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で取り組まれています。そこには地域住民をはじめ NPO などが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福な暮らし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。

【到達目標】

さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第 3 回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第 4 回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第 5 回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第 6 回	地域遺産保護と専門家 (1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第 7 回	地域遺産保護と専門家 (2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割
第 8 回	さまざまな地域遺産、世界遺産	全国のさまざまな地域遺産の紹介、世界遺産
第 9 回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第 10 回	地域遺産の再生と活用 (1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第 11 回	地域遺産の再生と活用 (2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第 12 回	地域遺産の再生と活用 (3)	地域遺産としての名称・天然記念物、伝統的建造物群
第 13 回	映像鑑賞	地域遺産・民俗学・考古学の観点からの映像鑑賞
第 14 回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私達の生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きっとすぐ身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売、473 円）

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点：毎回アクションペーパーの提出を求めます。
 ・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
 ・評価方法：平常点（出欠とアクションペーパー）30%、課題レポート 70 % により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点：授業態度、学習への意欲、アクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【Outline and objectives】

This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area.

MAN300JB

地域経営論

松本 昭

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀社会の底流となる「人口減少社会」「少子高齢化社会」における地域社会の望ましい経営（マネジメント）について、自治、分権、コミュニティ、まちづくり、公共施設の維持更新、住宅政策等の観点から理解を深めるとともに、市民、NPO等の市民団体、民間事業者、行政等の多様な地域主体の連携、協働、協創のあり方について考察する。

【到達目標】

次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とする。

- ・地域経営に関する基本的な法制度及び代表的諸制度のあらましと特性
- ・地域経営に関する国と地方の関係、法律と条例の関係
- ・地域経営に関する市民（住民）、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
- ・地域空間の整序ルール、公共空間と私有施設の関係、公共施設の維持更新等に関する仕組みと課題
- ・既存の地域資源の活用した地域経営のあり方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体討議又はミニワークショップ等のワーク作業」により進める。授業は、各回のテーマの本質が何かということを中心に問いかけ、その問いに対して受講生が、具体的に思考できるような工夫を施して進めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営論の全体像	講義ガイダンス、「地域経営」の今日的意義と視点
第2回	自治・分権と地域経営	・「地方自治」「地方分権」の今日的課題 ・憲法、地方自治法、個別法に基づく公共の福祉と財産権
第3回	住民参加と地域経営	・参加、参画、協働、協創（共創）と地域経営 ・参加型まちづくりから協働・協創（共創）型地域経営へ
第4回	地域経営と合意形成	・まちづくり、地域経営における合意形成論
第5回	・まちづくり条例と地域経営①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の関係 ・まちづくり条例の系譜と展望
第6回	まちづくり条例と地域経営②	・まちづくり紛争の実態 ・まちづくり紛争の予防と調整
第7回	まちづくり条例と地域経営③	・まちづくりのルールと特性・協議調整型まちづくりとは
第8回	地域経営と公民連携まちづくり①	公共施設、公共空間の更新と魅力化（道路、公園、広場、河川等を魅力化する取り組み）
第9回	地域経営と公民連携まちづくり②	公共建築物整備の民間活用（PFI制度等の民間活用の施設整備）
第10回	地域経営と公民連携まちづくり③	まちづくり会社と地域経営（長浜、高松、紫波等のまちづくり会社を対象に）
第11回	住宅地経営とまちづくり①	・戸建て住宅地…高齢化社会における郊外住宅地のこれから ・マンション住宅地…管理組合と自治会
第12回	住宅地経営とまちづくり②	空き家、空き地問題と地域経営
第13回	人口減少時代の地域経営	・ストック活用のまちづくり ・リノベーションまちづくり
第14回	講義の総括	・レポートの提出と発表 ・講義の総括とコメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・人口減少社会、少子高齢化社会における都市や地方のまちづくりや地域経営に関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

講義において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①講義とその後の全体討議・ミニワークショップを踏まえたアクションペーパー50%

②選択課題に基づくレポートとプレゼンテーション50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年からの担当のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

The purpose of this course will understand the desirable management of local communities in "population declining society" and "declining birthrate and aging society" from the viewpoints of autonomy, decentralization, community, town planning, maintenance of public facilities, housing policy, etc.

TRS300JB

地域ツーリズム

野田 岳仁

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。本講義では、地域ツーリズムの典型として、“水辺空間の観光化”、“伝統文化の観光化”、“生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に伝えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】

大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

従来型の大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	観光開発の功罪	水辺空間の観光化①
第4回	生活保全としての観光開発	水辺空間の観光化②
第5回	スポーツツーリズムと地域社会の軋轢	水辺空間の観光化③
第6回	歴史的環境保全と地域開発	水辺空間の観光化④
第7回	ふるさと観光と民俗イメージ	伝統文化の観光化①
第8回	盆踊りと観光	伝統文化の観光化②
第9回	民俗舞踊の「保全」と「公開」	伝統文化の観光化③
第10回	アクアツーリズムとは？	生活空間の観光化①
第11回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化②
第12回	誰がアクアツーリズムを担うのか？	生活空間の観光化③
第13回	ローカル・ルールを守るアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第14回	地域ツーリズムの理論と実践	現場の役に立つ新しい観光論へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

毎回の配布資料に参考文献を記載しておく。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメント・ミニレポート（40%）、期末試験（60%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より新規担当のためアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

CUM300JB

文化環境創造論

須田 英一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Well-being（健康で幸福な暮らし）を実現するうえで重要な、豊かな文化環境を創造するための基礎的な知識や方法について幅広く解説します。

【到達目標】

文化環境創造に関わる法、文化遺産の保存・活用などの基礎的な知識をはじめ、文化環境創造に向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文化環境とは何か、地域社会（コミュニティ）の中に歴史的な文化環境を創造し継承していく環境を構築し、維持していくためのシステムや手法などについて、海外や日本国内で取り組まれている実践例などを画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	文化環境の概念 (1)	文化環境とは何か
第 3 回	文化環境の概念 (2)	Well-being と文化環境との関わり
第 4 回	世界における文化環境創造の取り組み (1)	世界遺産条約と文化環境の保存
第 5 回	世界における文化環境創造の取り組み (2)	ナショナル・トラストと文化環境
第 6 回	世界における文化環境創造の取り組み (3)	フランスの野外博物館活動と文化環境
第 7 回	日本における文化環境創造の取り組み (1)	文化環境創造の仕組み
第 8 回	日本における文化環境創造の取り組み (2)	伝統的建造物群の保存・活用
第 9 回	日本における文化環境創造の取り組み (3)	史跡の保存・活用
第 10 回	日本における文化環境創造の取り組み (4)	近代の文化遺産の保存・活用
第 11 回	日本における文化環境創造の取り組み (5)	自治体条例と文化環境創造事業
第 12 回	日本における文化環境創造の取り組み (6)	文化環境創造と文化財支援団体
第 13 回	映像鑑賞	文化環境創造、民俗学・考古学の観点からの映像鑑賞
第 14 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域で、歴史的な文化環境の創造のために実施されている事業や試みに目を向けてみましょう。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売、473 円）

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点:毎回アクションペーパーの提出を求めます。
 ・試験方法: 中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
 ・評価方法: 平常点 (出欠とアクションペーパー) 30%、課題レポート 70%により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点:授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
 ・レポート: 課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【Outline and objectives】

This lecture explain broadly the basic knowledge and method for creating a rich cultural environment which is important for realizing Well-being Society.

MAN300JB

ソーシャルイノベーション論

土肥 将敦

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが世界的に広まっている。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれている。本講義では、こうした事業がなぜ必要とされるのか、誰がどのように生み出したのか、そしてそれはどんなソーシャル・イノベーションなのかについて国内外の事例をもとに検討する。また講義後半では、企業の社会的責任（CSR）についても概観し、CSR の枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】

本講義では、以下の 3 点を履修者の到達目標とする。

①グローバル/ローカルなソーシャル・エンタプライズの動向を理解すること、②社会的企業家によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③企業の CSR 活動の本質を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・エンタプライズは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業家にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	ソーシャル・エンタプライズとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・エンタプライズを通して、3 つの要件、活動する事業領域を理解する。
第 3 回	ソーシャル・エンタプライズとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・エンタプライズを通して、多様な組織形態を理解する。
第 4 回	ソーシャル・エンタプライズとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第 5 回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタプライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 6 回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 7 回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第 8 回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第 9 回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の課題
第 10 回	大企業における CSR ①	企業と社会の関係を理解する。
第 11 回	大企業における CSR ②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第 12 回	コーズ・リレイティッド・マーケティングについて理解する①	各種事例を通して CRM について理解する（A 事例）。
第 13 回	CRM について理解する②	各種事例を通して CRM について理解する（B 事例）。
第 14 回	CRM について理解する③	各種事例を通して CRM について理解する（C 事例）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトを目を通し、講義中のディスカッションに備えて欲しい。

【テキスト（教科書）】

講義中に指示します。

【参考書】

鈴木良隆編（2014）『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣
谷本・大室・大平・土肥・古村著（2013）『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT 出版

【成績評価の方法と基準】

講義リアクションペーパーおよびミニレポート課題（30%）、期末試験（70%）を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にし、講義がより良いものとなるように努める。

【Outline and objectives】

This course goes far beyond the innovation theory and academic aspect of developing social businesses or social responsible business. The goal of this course is to understand the concept of SOCIAL INNOVATION, and the various aspects of Corporate Social Responsibilities in the MNC.

MAN300JB

ソーシャルマネジメント論

樋口 邦史

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考慮することが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】

本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に授業を行う予定である。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディ等を用いて紹介する。事前学習とグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要
2	ソーシャルマネジメントとは何か	ソーシャルマネジメントの本質と、企業・行政・研究コミュニティ、各組織の相互関係について
3	企業が目指す CSR 経営とは何か	CSR 経営とその実践
4	企業と社会の関わり	企業の社会の中での機能と役割
5	社会環境変化への対応① 企業と研究組織	企業と研究組織とマネジメント
6	同上② 行政組織	行政組織の特色とマネジメント
7	同上③ コミュニティ組織	コミュニティ組織の特色と事例研究
8	CSR と CSV	富士ゼロックスの CSV、その光と影
9	ソーシャルマネジメント 実践例研究	キリン(株)の CSV
10	コミュニケーション技術 について	コミュニケーション技術に関する理解と習得
11	演習①	ソーシャルマネジメントに関するグループワーク
12	演習②	SDGs を掲げた企業経営と行政政策
13	演習③	法政大生の SDGs 研究と発表
14	まとめと展望	講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では事前レポート（A4 1 枚程度）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。

【テキスト（教科書）】

遠野みらい創りカレッジ編著「学び合いの場が育てる地域創生」水曜社；まち創り叢書

【参考書】

講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、課題レポート 50 %、グループ討議等での発表 20 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の講義参加者からの要望に基づき、2 年生から 4 年生までの多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に、更に「実践型」の講義を実施します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's a available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.

MAN300JB

ソーシャルファイナンス論

徳永 洋子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく、NPO 法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦労しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】

ソーシャルファイナンスの概要を学ぶとともに、社会の課題解決に必要な資金の調達について、身近な事例をもとに具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式。適宜レジュメなどを印刷配布。理解度や関心を把握するために、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ	本講の概要、目的
第 2 回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第 3 回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代までの事例
第 4 回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第 5 回	ドナージャーニー	寄付者の行動と心理を可視化
第 6 回	ドナーピラミッド	団体寄付者の構造的把握
第 7 回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第 8 回	遺贈寄付	その定義と実態
第 9 回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第 10 回	会員拡大	新規会員拡大や継続率を高める手法
第 11 回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第 12 回	コミュニティ財団とコレクティブインパクト	地域コミュニティ財団の概要と、多様な主体が課題解決を目指すコレクティブインパクトの概念
第 13 回	社会的インパクト評価	説明責任と事業改善のために行う社会的インパクト評価の手法
第 14 回	エピローグ	まとめとテスト（ノートや参考書など持込可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外のタスク（宿題など）はありませんが、授業内で共有したソーシャルファイナンスに関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「非営利団体の資金調達ハンドブック」 徳永洋子著 時事通信社 2400 円

【成績評価の方法と基準】

平常点（1）アクションペーパー等と理解度確認テスト（ノート、参考書など持込可）の結果を各50%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues.

In general, “financing” refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds.

In this course, we will see how “charitable funding” can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.

MAN300JB

NPO論

渡真利 紘一

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
 配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPO の成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の社会資源（ボランティア、行政、民間企業（CSR）、助成財団など）との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

NPO による活動には、常に新たな価値観と対峙する局面があります。社会をより豊かにする実践であることの意味を理解し、NPO がよりよい社会を形成し続けるためには、どのような実践や関係機関との協働が必要かを認識することで、学生自らが NPO 活動に取り組んだり、NPO 活動に関わるための土台をつくることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は「社会と NPO」、後半は「関係機関と NPO」について学ぶことで NPO という主体を立体的に捉えていきます。授業形態は講義を主とし、後半にグループでの演習を行う予定。毎回の授業におけるアクションペーパーの提出及び中間と期末のレポートを実施する予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション / NPO のイメージ	講義の目的や目標、進め方を共有すると共に、NPO のイメージを把握する。
第 2 回	NPO の基礎知識	社会課題や歴史的背景から、NPO の基本的なことを理解する。
第 3 回	NPO の具体的事例	NPO の実態についての資料を利用し、その具体的な活動について理解する。
第 4 回	NPO の社会的役割	NPO の定義や他の組織との比較を通じ、NPO のもつ社会的な役割について理解する。
第 5 回	ボランティア活動の理解	NPO や市民活動におけるボランティアの位置づけやその意義について理解する。
第 6 回	NPO の組織と運営	NPO の組織運営について学び、その具体的な方法及び課題について理解する。
第 7 回	NPO と行政との協働	NPO と行政との関係のあり方を学ぶとともに、「協働」の具体的事例を紹介する。
第 8 回	CSR の考え方と展開	企業の社会貢献の歴史や、NPO の発展へどのように寄与したのか理解をする。
第 9 回	NPO と中間支援組織	中間支援組織の役割について学び、NPO の発展にとって持つ意味について理解する。
第 10 回	市民活動や NPO の現在	複雑さを増す社会課題に対応するための事業推進や新たな財源の特徴について学ぶ。
第 11 回	グループワーク	講義を踏まえてテーマを設定し、自由討論とグループワークにより理解を促進する。
第 12 回	NPO の具体的事例紹介 1	NPO 活動に携わる者をゲストとして招き、NPO 活動の具体的な実践事例を紹介する。
第 13 回	NPO の具体的事例紹介 2	NPO 活動に携わる者をゲストとして招き、NPO 活動の具体的な実践事例を紹介する。
第 14 回	今後の社会のあり方について/まとめ	授業の振り返りやまとめを行い、今後の社会のあり方について考える機会とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の振り返りの時間を取ってください。具体的にはノートを見返して書き加えたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを行うことを心がけてください。

また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心を寄せてインプットすることや、NPO 活動の現場や NPO の主催するイベントへ足を運んだり、継続的なボランティアなどを通じた積極的な関わりを持つなど、NPO 活動に主体的に関わることを期待します。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 点、中間レポート 20 点、期末レポート 50 点。
 平常点については、授業ごとのリアクションペーパーや小レポートによって評価・採点します。
 また、優れたものについては、いずれも加点を行います。
 （実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。）

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度新規担当のため、2018 年度はアンケートを実施しておりません。今後参考にします。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なお、授業の展開によって、若干の変更があり得ることを申し添えます。

【Outline and objectives】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

SOW300JB

居住福祉論

大原 一興

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】

居住福祉の諸理論および実践の理解。福祉住環境の理念と実際についての理解。国内外の実践例に関する知識の習得。福祉住環境コーディネーター検定3～2級レベルの知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の講義と簡単な演習。参考図書・資料の紹介による予習と復習。事例調査レポートの作成。

基本的に隔週、第2回目以降は2時間続きでおこなう。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。

第1回：4月9日 4時限
 第2・3回：4月24日 4・5時限
 第4・5回：5月7日 4・5時限
 第6・7回：5月28日 4・5時限
 第8・9回：6月4日 4・5時限
 第10・11回：6月18日 4・5時限
 第12・13回：7月2日 4・5時限
 第14回：7月16日 4時限

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第2回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念（居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理）
第3回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第4回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第5回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサル・デザインの基礎理念からみたICFの考え方
第6回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境
第7回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ
第8回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第9回	ハウスアダプテーション・住宅改造 福祉機器の活用	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第10回	高齢者福祉施設	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第11回	障害者福祉施設等	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第12回	コハウジング 共生の住まいの理念	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第13回	コハウジング 共生の住まいの実際	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第14回	くらしの先進国に学ぶ レポート提出・発表	北欧社会における福祉居住環境の実際と各自レポート内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配付資料や参考資料の予習
 常日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。
 レポート作成のために、学外の実例を見学調査することを課しています。

【テキスト（教科書）】

基本的に授業の際に資料を配付する。特定の教科書は使用しない。

【参考書】

野口定久、外山義、武川正吾 編『居住福祉』有斐閣

東京商工会議所 編『福祉住環境コーディネーター検定1、2、3級公式テキスト』東京商工会議所

住総研高齢期居住委員会 編『住みつなごのススメ』萌文社

【成績評価の方法と基準】

平常点と小レポート（70%）、レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

2時間続きの授業のため、講義のみ続けて行くと疲れてしまう。適宜演習や対話を含めて進めることとする。

【Outline and objectives】

Learning the theory and the practice for living environment and well-being concerning with social issues, welfare, health, housing, institution, community and social care system

PSY300JC

異文化心理学

奥山 今日子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するよう、例えば外国に代表されるような「文化」だけを異文化とするのではなく、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々と経験をしているわけですが、その経験は私たちが気づかないところでかたどられている部分が多くあります。私たちが現象にさらされる時、自動的に働くもの感じ方、知り方、解釈の仕方は、私たちのこれまでの経験によって規定されていると言えます。私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものが私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知っていただく機会になればと考えています。

【到達目標】

この授業の到達目標は、①自分自身の経験に基づいて、自分自身が考えられるようになり、それを他者に伝えることができるようになること、②他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義に参加される皆さんの理解の程度や要望に応じて、視聴素材が変更されることがあります。提供する各種の資料について、自分が何を感じ、考えるのかを言語的に明確に表現することが求められます。この能力を高め、他者を経験する機会としての、グループ・ディスカッションも多く行います。受講者の反応により、視聴する DVD 素材の内容・順序を変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第 2 回	人間の心的機能について	「ほくほくま」「タイプテスト」を通じ、個人差を経験的に理解する。
第 3 回	アサーション・トレーニング (1)	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第 4 回	アサーション・トレーニング (2)	具体的な例について、グループ・ワークで取り組む。
第 5 回	個人からマクロな文化への影響のあり方	映画「パッチ・アダムス」視聴（解説付き）。
第 6 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	映画「パッチ・アダムス」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 7 回	個人と文化の双方向的な影響のあり方、その可能性と限界	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴（解説付き）。
第 8 回	グループ・ワークを通じて、上述したテーマの理解を深める	ドキュメンタリー「やさしい医療を求めて」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 9 回	文化的態度	映画「パッチギ」視聴（解説付き）。
第 10 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「パッチギ」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 11 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の関係	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴（解説付き）。
第 12 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「グッド・ウィル・ハンティング」視聴の続きとディスカッション、後に発表。
第 13 回	自己/自文化理解と他者/異文化理解の可能性と限界	映画「普通の人々」視聴（解説付き）。
第 14 回	グループ・ワークを通じて、上述テーマの理解を深める	映画「普通の人々」視聴の続きとディスカッション、後に発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適時、自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを思い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『こころの処方箋』 河合隼雄 新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内の小レポート・授業への能動的参加）40 %

期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにこそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してほしいと思います。

【Outline and objectives】

The definition of "culture" is various. In this lecture, we focus on interactions between all individuals as intercultural exchanges, not just what is represented by foreign countries. Sometimes we eliminate things that are different to ourselves before we know it. I hope that this lecture will be an opportunity for you to know that they have the potential to enrich us.

LIT300LA

文章論－文章表現の実践

2016年度以前入学者

LIT300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：

藤村 耕治開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティブ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。

今セメスターで書いた作品は、秋セメスターで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。
第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。
第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。

第十三回 総括①

今セメスターにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
今セメスターにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

第十四回 総括②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50%、授業内討議への積極的な参加 30%、期末に課すレポート（自分以外の受講生の作品〔三作以上〕への批評文）20%。

【学生の意見等からの気づき】

教養ゼミとしては本年度スタートとなるため、なし。

【Outline and objectives】

Through practical writing of essays and novels, students acquire the ability to from there own worldview and imagination.

LIT300LA

文芸創作講座

2016年度以前入学者

LIT300LA

文芸創作講座 A

2017年度以降入学者

岩川 ありさ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸創作はこの世界を見る新しい視座をえることを可能にします。この授業では、自分の書きたい世界を明確にし、他者に向けて小説を書くための基礎について学びます。春学期のテーマは、「短編小説をつくる」です。春学期に完成させた短編小説を冊子にして、受講生の短編集を作成し、2019年11月1日(金)から4日(月)に行われる市ヶ谷キャンパス祭に参加します。

【到達目標】

- (1) 短編小説を分析的に読み、その構造を把握できるようになる。
- (2) 文芸作品の時代背景や著者についてまとめることができるようになる。
- (3) 構想を練り、原稿用紙 30-120 枚 (12,000 文字から 48,000 文字) 程度の短編小説の草稿を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・前半では、短編小説を読み、著者や作品の背景となる時代について整理したり、本文の分析的読解を行います。各作品につき、1名が発表し、コメントーター1名がコメントをし、クラスで議論を行います。
・後半には短編小説を書きます。個別面談を行い、各自の小説の草稿を完成させます。実際の完成原稿は夏休みを用いて秋学期までに行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	選抜試験	初回は選抜試験について説明を行います。選抜試験の内容は以下の通りですので、締め切りまでに提出できるように準備を進めてください。 1. 「さみしさ」をテーマに2,000文字程度のショート小説を作成してください。 2. この授業を受講したい理由を800文字程度で書いてください。 ・受講希望者は、2019年4月12日(金)23:59までに以上の内容を選抜説明会当日に指定したメールアドレスまでWordファイルにて提出してください。締め切りは厳守。締め切り以降の到着は受けつけません。選抜を行った後、2019年4月14日(日)23:59までに可否をお知らせします。 ・春学期の授業計画について説明を行います。 ・受講生の顔合わせをし、春学期のテーマ「短編小説をつくる」について説明します。 ・ゼミ進行係、書記係、冊子係、会計などの役割を決定します。 ・毎回短編小説2本程度を読みます。発表者は各1名 ・コメントーター1名 ・全員がコメントカードを書き、フィードバックを行う。
第2回	イントロダクション	(1)「世界観」を言語化する、(2)時間や場所の表現、(3)文法の大切さ、(4)アイデアの整理、メモのとり方、プロットを立てる？ 立てない？ etc.
第3回	創作とは何だろう	

第4回 短編小説を読む(1)

吉本ばなな「デッドエンドの思い出」(『デッドエンドの思い出』文春文庫、2006)
村上春樹「納屋を焼く」(『蝋・納屋を焼く・その他の短編』新潮文庫、1987)
*毎回のレジュメは、A4用紙4枚以内で作成し、人数分印刷してください。ただし、別途資料を提示しての発表の場合は、別紙資料を準備しても構いません。

第5回 短編小説を読む(2)

*発表者は発表が終わった後、発表翌日の23:55までに授業支援システムの「課題」に提出してください。
林京子「祭りの場」(『祭りの場 ギャマン ビードロ』講談社文芸文庫、1988)

第6回 短編小説を読む(3)

川上弘美「神様」(『神様 2011』講談社、2011)
多和田葉子「かかとを失くして」(『かかとを失くして 三人関係 文字移植』講談社文芸文庫、2014)
リービ英雄「千々にくだけて」(『千々にくだけて』講談社文庫、2008)

第7回 短編小説を読む(4)

川端康成「伊豆の踊子」(『伊豆の踊子』新潮文庫ほか)
大江健三郎「飼育」(『大江健三郎自選短編』岩波文庫、2014)

第8回 短編小説を書く(1)

アイデアを具体的に作品につなげるための演習を行います。

第9回 短編小説を書く(2)

草稿を書きます。まずは最後まで書くことが大事なので、そのための基本姿勢について学びます。

第10回 短編小説を書く(3)

実際に短編小説書き、個別相談を行います。→グループ1

第11回 短編小説を書く(4)

実際に短編小説書き、個別相談を行います。→グループ2

第12回 短編小説を書く(5)

実際に短編小説書き、個別相談を行います。→グループ3

第13回 短編小説を書く(6)

実際に短編小説書き、個別相談を行います。→グループ4

第14回 短編集作成についての相談

市ヶ谷キャンパス祭に参加するためのスケジュール調整や役割の確認、や冊子の表紙について相談します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 1週間に短編小説2作品を読み、発表者とコメントーターは発表の準備が必要です。
- (2) 2019年8月31日(土)に授業支援システムから完成原稿を提出。必要があれば個別面談を行います。9月中旬に、1度、講座で集まり、市ヶ谷祭に関しての企画や冊子の校正についての説明をします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

その都度、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表(40%)、学期末までに完成させた小説(60%)で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、順序を追って創作の過程を把握できるようになればよいという意見があったため、年間計画を詳細に立てた。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・受講希望者が多い場合、選抜試験で決定します。
- ・この講義は、文芸創作講座A(春学期)と文芸創作講座B(秋学期)、通年で受講することが必要で、秋学期のみ新規参加は不可とします。
- ・春学期の時点で登録した人のみ秋学期も受講することができます。
- ・初回講義に来られない場合は、受講できないので注意してください。
- ・冊子作成などに必要な実習費用は年間3,000円です。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about creative writings. By the end of this course, students will develop skills for writing novels. Coursework will include weekly writing and reading short novels.

ART300LA

日本芸能史論 2016年度以前入学者

ART300LA

日本芸能論 A 2017年度以降入学者

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時間：火 2/Tue.2
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

【参考】 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「能面について」「浄瑠璃・歌舞伎における『伊勢物語』享受」「香道について」「落語の演技」「和太鼓の今と昔」「YOSAKOI ソーラン」「日本における『第九』の受容と定着について」「初心者にも親しみやすい宝塚」「歌舞伎の見得とセーラムーン」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第2回	芸能とは何か(1)	日本の芸能に関する概説
第3回	芸能とは何か(2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第4回	伝統芸能概説(1)	雅楽について
第5回	伝統芸能概説(2)	伎楽について
第6回	伝統芸能概説(3)	能について
第7回	伝統芸能概説(4)	狂言について
第8回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第9回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第10回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第11回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第12回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第13回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第14回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70% (①②③) またはレポート 70% (①②④)、平常点および討論への参加状況 30% (③) という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収する出席調査票によります。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や出席調査票等のコメント等を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に出席調査票に記入されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

受講希望の人は必ず第1回授業に出席して下さい。やむをえず欠席する場合は、第1回授業までに、受講希望の旨をメールで担当教員に連絡してください。なお、メールは必ず件名を「受講希望」とし、maya@hosei.ac.jp宛に送ること。無題のメールは受け付けません。

春学期「日本芸能論 A」を履修せず、秋学期「日本芸能論 B」のみ受講する予定の人も、春学期第1回授業までに、上記の要領でその旨をメールで連絡してください。

第1回授業終了後、受講許可者を掲示します。受講許可者がこの授業の履修登録をしないことは可能ですが、受講許可者以外の人が履修登録することは不可としますので、注意して下さい。

なお、秋学期「日本芸能論 B」を受講せず、春学期「日本芸能論 A」のみを履修する場合は、必ず発表して下さい。春学期・秋学期連続して履修する場合は、どちらか一方で発表し、もう一方の学期ではレポートを提出するという形でもかまいません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

ART300LA

身体表現論（バレエの世界） 2016年度以前入学者

ART300LA

身体表現論A 2017年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、ストレート・プレイとは異なる身体運動の形態としてバレエにも着目する。通常、西洋演劇史とバレエの歴史は分けて記述されるが、本講義では出来るだけ関連付けながら捉えてみたい。

【到達目標】

- ・西洋演劇とバレエの歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇・バレエ作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇	原始社会から古代文明における演劇の発生について
3	中世演劇	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の舞踊への影響、「死の舞踊」のモチーフ、等について
4	エリザベス時代演劇	イギリス、エリザベス時代の演劇、特にシェイクスピアについて
5	フランス古典主義演劇とバレエの誕生	フランス古典主義演劇と、バレエ誕生の経緯について
6	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
7	ロマンティック・バレエ	バレエの依拠する物語や伝説、特に『ジゼル』、『 Coppélia 』について
8	クラシック・バレエの発生	バレエの技術的変容と定型化、特に『白鳥の湖』について
9	クラシック・バレエの展開	クラシック・バレエからモダン・バレエ、モダン・ダンスへの展開について
10	近代演劇	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チェーホフについて
11	現代演劇	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
12	モダン・ダンス（1）	バラシニン、カニンガム、ノイマイヤー等の実践について
13	モダン・ダンス（2）	ベジャール、パウシュ、フォーサイス等の実践について
14	試験	記述式の期末試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に舞台鑑賞するように努める。（映像を含む）

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇（1）～（4）』（ちくま文庫）
シェイクスピア（福田恆存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
日本演劇学会『ベスト・プレイズー西洋古典戯曲』（相田書房）
岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）
邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）
鈴木晶『バレエの魔力』（講談社現代新書）
長野由紀『バレエの見方』（新書館）
三浦雅士『バレエ入門』（新書館）
舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%：講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

小課題 30%：適宜課される小テストや小レポートを通し、それまでの授業の理解度を評価。

期末試験 40%：演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body that is embedded in daily life and reveals the possibility for new body movement. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. As well as straight play, we will also focus on ballet, another mode of theatrical performance. Although the histories of these two forms are usually described separately, this course will try to conceive the common elements, too.

ART300LA

美術論

2016年度以前入学者

ART300LA

美術論 A

2017年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術論 A では、近現代美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。

1. 美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
 2. より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
- これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

『西洋の近代美術』

18世紀以降の西洋近代美術史の思想や基本的な考え方について、具体的な作品例を中心に学んでいきます。

『現代美術』

第二次世界大戦から 21 世紀に至る現代美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について探ります。

『ワークショップ』

各単元で学んだ内容を基にディスカッション、作品制作や展覧会企画、美術批評にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

カリキュラムの前半は、現代の美術を理解するために重要と思われる西洋近代美術史がテーマとなります。また、後半はグローバル化した現代美術のアイデアや方法について学びます。

講義の中で、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明
2	『西洋の近代美術』 近代美術の誕生と印象派	近代とは/新古典主義/ロマン主義/写実主義
3	『西洋の近代美術』 近代美術の誕生と印象派 1	印象派の背景/印象派/新印象派/ポスト印象派
4	『西洋の近代美術』 ルネサンス美術 バロック・ロココ美術	ルネサンス/マニエリスム/バロック/ロココ
5	ワークショップ 1	プレゼンテーションとディスカッション
6	『西洋の近代美術』 前衛芸術運動 1	アバンギャルド/フォヴィスム/表現主義/キュビズム
7	『西洋の近代美術』 前衛芸術運動 2	未来派/ダダイズム/シュルレアリズム
8	『西洋の近代美術』 第二次大戦前	構成主義/デ・ステイル/バウハウス
9	ワークショップ 2	プレゼンテーションとディスカッション
10	『西洋の現代美術』 戦後からポップアートまで	抽象表現主義/ネオダダ/ポップアート
11	『西洋の現代美術』 1960年代のアート	ランドアート/ミニマリズム/コンセプチュアル・アート
12	『西洋の現代美術』 1980年から現代まで	ポストモダニズム/ニューベインティング/YBA/関係性の美術/ソーシャルプラクティス
13	ワークショップ 3	プレゼンテーションとディスカッション
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。展覧会などを数多く鑑賞してください。

【テキスト（教科書）】

毎回授業に関連したプリントを配布します。

参考図書、観ておきたい展覧会などについては授業中に紹介します。

【参考書】

高階秀爾『カラー版西洋美術史』美術出版社、2002年

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）
授業毎に行うレポートもしくは制作課題（25%）
試験（25%）

【学生の意見等からの気づき】

楽しく解りやすい授業をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使う可能性があります。

【その他の重要事項】

初回のガイダンスに必ず出席してください。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

We will learn about these in a step-by-step manner.

ART300LA

芸術と人間

2016 年度以前入学者

ART300LA

芸術と人間 A

2017 年度以降入学者

石原 陽一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ヴィジュアル・アートの代表的なモチーフである「風景」および「身体」が絵画、写真、映画においてどのように表現されてきたかをたどることによって、それぞれの表現メディアの特質ならびに表現メディア間の関係を理解する。

【到達目標】

ヨーロッパを中心とするヴィジュアル・アートの歴史を理解するとともに、ヴィジュアル・アートを分析・批評するためのツールとして役立つさまざまな理論を学び、鑑賞力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ヴィジュアル資料の鑑賞や関連する文章の講読を織り交ぜて講義を行う。ミニレポートを学期中に三回以上提出してもらう。また、授業中に小グループに分かれて意見を交換してもらい、その結果を簡単に報告してもらうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	フレーミングの発明
2	絵画と風景	風景画の変貌
3	写真と風景	人間の消滅？
4	古典映画と風景	サイレント映画、西部劇など
5	現代映画と風景（1）	アントニオニー、ストロープ＝ユイレらの作品
6	現代映画と風景（2）	タルコフスキー、テレンス・マリックらの作品
7	絵画と身体（1）	キリスト像など
8	絵画と身体（2）	ルネサンスとその周辺
9	絵画と身体（3）	近現代絵画
10	写真と身体	司法、精神病理学、芸術
11	映画と身体（1）	スラップスティック映画
12	映画と身体（2）	ロベール・ブレッソンの映画
13	映画と身体（3）	カサヴェテス、クロウネンバーグら
14	まとめ	講義の補足とまとめ 期末レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントを熟読する。指定した作品を各自で鑑賞する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況・参加度・ミニレポート 50%、期末レポート 50%（ただし期末レポート未提出の場合は E 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員を上回る場合は初回に選抜考査を行うので、必ずこれに出席すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of visual arts. By comparing painting, photography and film from the viewpoint of representations of landscape and human body, it will help students to acquire knowledge of the history of visual arts and the specificity of each medium as well as their relations.

PHL300LA

行為の理論

2016 年度以前入学者

PHL300LA

行為の理論 A

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4 年 ※定員制限なし**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米の合理主義は、自己創造的なライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで行為の自己創造性の根源への道を考察します。

【到達目標】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立て体的に組み合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立て体的に組み合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	スライド形式による授業内容紹介
第 2 回	序論	自己を創造する 21 世紀精神へ
第 3 回	I 行為の構造	合理主義的行為論
第 4 回	II 自己表現としての行為	ヘーゲルの自己表現論
第 5 回	III 行為の根源	《自己決定と不可避の行為とは両立するか？》
第 6 回	III 行為の根源	《善を知っているのに悪を行うとは？》
第 7 回	III 行為の根源	《行為は始める前に生ずる》
第 8 回	III 行為の根源	《行為には骨（こつ）がある》
第 9 回	III 行為の根源	《行為の失敗こそ大切である》
第 10 回	III 行為の根源	《体で動かずに心で動く》
第 11 回	III 行為の根源	《どうあってもよい行為とは？》
第 12 回	III 行為の根源	《意図を超えて因果はめぐる》
第 13 回	III 行為の根源	《運命とは自己自身である》
第 14 回	III 行為の根源	《自己を創造する行為とは？》

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで受講者に配布します。

【参考書】

毎回の授業で紹介します。山口誠一著『自己を創造する哲学—新行為論入門—』（弘文堂）など。

【成績評価の方法と基準】

Semester 末試験を基準（70%）として、小レポート（15%）と出席回数（15%）も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

PC接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with an essential understanding of selfcreation of our life style, with texts drawn from English, German and Japanese.

PHL300LA

人間存在論

2016年度以前入学者

PHL300LA

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

サブタイトル：他者に認められるとはどういうことか——「承認」の哲学

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
2～4年 ※定員制

アクセル・ホネット『正義の他者』法政大学出版局、2005年

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点 (50%) (質問を3点以上用意する)
- (2) 期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【受講上の注意】

本授業は、2018年度から「教養ゼミ」の一つとして、「現代思想A」という名のもとに新たに始まった科目である。本授業は、秋学期同一科目の「教養ゼミⅡ」「現代思想B」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては通年でひとつのテーマに基づいて、テーマに即したテキストをゆっくり精読しながら、思想家・哲学者の思考を学び、さらにそこから自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

【Outline and objectives】

In this class, we consider philosophically the question "What does it mean to be recognized by others?"

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、2018年度から「教養ゼミ」の一つとして、「現代思想A」という名のもとに新たに始まった科目である。本授業は、秋学期同一科目の「教養ゼミⅡ」「現代思想B」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては通年でひとつのテーマに基づいて、テーマに即したテキストをゆっくり精読しながら、思想家・哲学者の思考を学び、さらにそこから自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

2019年度は、春・秋共通のテーマとして「他人に認められるとはどういうことか」という問いを「承認」の問題として考察する。その際に、藤野寛先生〔國學院大学教授〕の『「承認」の哲学——他者から認められるとはどういうことか』（2015）を手引きとしながら、藤野先生が依拠する現代ドイツの哲学者アクセル・ホネット（Axel Honneth, 1949-）の哲学や、ホネットが参照する様々な哲学者のテキストを参照しながら、「承認の哲学」を学んでいく。

【到達目標】

- (1) 「承認」という問題について、自分の思想・哲学について説明することができる。
- (2) アクセル・ホネットの「承認の哲学」や「承認」をめぐる様々な哲学者の見解について説明することができる。
- (3) 「他者を認める／他者から認められる」という「承認」をめぐる問題について、自らの思想を鍛錬することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習（ゼミ）形式」の授業を行う。毎回、担当者を決めて、テキストの担当箇所を読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	①選抜試験（受講生が30名以上の場合） ②授業の概要・資料の配布 ③日程の確認 ④柄谷行人の思想解説
2	他者に認められるとはどういうことか？ (1)	・承認とは何か？
3	他者に認められるとはどういうことか？ (2)	・「認める」／「認められる」
4	承認されないとはいどういうことか？ (1)	・承認を拒まれるということ
5	承認されないとはいどういうことか？ (2)	・承認しないことの意味
6	承認が認識に優先するか (1)	・社会性の意味
7	承認が認識に優先するか (2)	・社会の中で認められること
8	承認の三つの類型 (1)	・愛という承認の形
9	承認の三つの類型 (2)	・人権の尊重
10	承認の三つの類型 (3)	・フェアな業績評価
11	差異と向き合う (1)	・差異と向き合うとはどういうことか
12	差異と向き合う (2)	・差異への寛容か、差異の承認か
13	差異と向き合う (3)	・マルチ・カルチュラルイズムと寛容の問題
14	まとめ	・「承認」の哲学の起源へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・担当者以外の受講者は、授業前には必ず該当箇所を読んで、質問を三点以上準備すること。

【テキスト（教科書）】

藤野寛『「承認」の哲学』（青土社、2015年）

※各自でテキストを用意すること。

【参考書】

アクセル・ホネット『承認をめぐる闘争〔増補版〕』法政大学出版局、2014年

HIS300LA

ギリシャの文化と社会

2016 年度以前入学者

HIS300LA

ギリシャの文化と社会 A

2017 年度以降入学者

中村 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アルキビアデス・ストーリー（1）」という副題を添えて、民主政の最盛期とされる紀元前 5 世紀のアテネで奔放な生き抜いたアルキビアデスという一政治家の生きた軌跡を、ツキディデスの叙述を検討することを通して吟味します。

【到達目標】

参加型の直接民主政という特徴を持つ古典期アテネの民主政のなかで、もって生まれた自己の資質を余すところなく開花させることを極限まで追求し、そのゆえに毀誉褒貶半ばすることの多かった一人のエリート市民の生涯を、ツキディデスという第一級の歴史家の著述を通して辿ることによって、厳密な史料批判の方法を身に着けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形態ですが、少なくとも 1 回は課題について受講生に発表してもらい、それについて議論してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要の説明
第 2 回	アルキビアデスって誰？	アルキビアデスという人物についての概括的説明
第 3 回	ツキディデスとアルキビアデス	春学期のテーマの主要な資料となるツキディデスの『戦史』について
第 4 回	ツキディデスのアルキビアデス評価：問題の所在	アルキビアデスの軍事的才能と私生活における問題点 受講生によるアルキビアデスについてのツキディデスの記述の紹介
第 5 回	アルキビアデスの軍事的才能（1）	マンティネアの戦いの戦略
第 6 回	アルキビアデスの軍事的才能（2）	マンティネアの戦いにおける戦略の評価
第 7 回	アルキビアデスの軍事的才能（3）	シチリア遠征
第 8 回	アルキビアデスの私的性癖（1）	ヘルメス像破損事件
第 9 回	アルキビアデスの私的性癖（2）	ツキディデスの回り道：アルキビアデスは僭主になろうとしたか？
第 10 回	アルキビアデスとアテネ民会	シチリア遠征を決める民会におけるアルキビアデスの演説の分析
第 11 回	ツキディデスのアルキビアデス評価 中間総括	軍事と政治に関係ないことをめったに記述しないツキディデスがなぜアルキビアデスの私的性癖にこだわったのか ツキディデスの描写とアリストテレスの記述：クロノロジーの問題
第 12 回	411年の政変：問題の提示	政体の変転、アルキビアデスをめぐる人間関係、戦況の変化、3 者の絡み合い
第 13 回	411年の政変：具体的検討	人間関係、戦況の変化、3 者の絡み合い
第 14 回	総括	ツキディデスはアルキビアデスをどのように評価したのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業についてある程度の子備知識は必要です。受講生の状況はそれぞれ違うでしょうから、下の参考書の中から自分が必要と思うものを選んで読んでおくとういでしょう。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

『西洋古代史研究入門』、伊藤貞夫、本村凌二編、東大出版会 1997。
『古典期アテネの政治と社会』、伊藤貞夫著、東大出版会 1982。
『民主主義の源流』、橋場弦著、講談社学術文庫 2016。
『アテネ民主政』、澤田典子著、講談社選書メチエ 2010。

【成績評価の方法と基準】

学期末に課すレポート 70 %、授業参加の積極性 30 %で評価します。出席が十分でなければ評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course will introduce students to the life of Alcibiades, examining closely the historical sources written by Thucydides.

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 2016年度以前入学者

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会A 2017年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

円仁の『入唐求法巡礼行記』を素材として、唐の仏教・道教の諸様相を読み取る。そして日本・中国の仏教受容や宗教政策の共通点・相違点を考える。

【到達目標】

古代日本の仏教は、律令制を基軸とした国家運営のなかに組み込まれ、僧尼の身分や行動、教団や寺院の運営も、国家の政策とは無関係には存在しえなかった。その淵源は中国にあるが、日中の相違点も少なくない。『入唐求法巡礼行記』に記された具体的な事象から、そのことを考え、得られた知見を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する
2	入唐僧の概要	7～9世紀の入唐僧を概観する
3	円仁の揚州での見聞	揚州の寺院、円仁の修学を解説する
4	円仁の赤山法華院での見聞	山東半島での新羅人の活動を考える
5	円仁の五台山での見聞	五台山の諸寺院と靈仙について解説する
6	円仁の長安での活動	円仁の密教受法、会昌の廃仏について解説する
7	円仁の日本への帰国	会昌の廃仏の影響を考える
8	道僧格と僧尼令	唐と日本の宗教法制の相違点を考える
9	中国宗教としての道教	道教の発達を政治との関係で考える
10	僧・尼と道士・女冠	唐の仏教政策・道教政策の相違を考える
11	長安の寺院	長安の諸寺院を概観する
12	日本の都城と寺院	藤原京・平城京の寺院と長安の寺院との関係を考える
13	隋唐の諸州寺院	大雲寺・開元寺と日本の国分寺との関係を考える
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料（漢文）を読解もしくは現代語訳してくる。予習内容を紙面で提出していただくことがある。また授業内容の理解を確認する試験を行い、解説を加え、次回に修正した答案を提出していただくことを予定している。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

佐伯有清『円仁』（吉川弘文館、1989年）
 佐伯有清『慈覚大師伝の研究』（吉川弘文館、1986年）
 足立喜六・塩入良道注『入唐求法巡礼行記』1・2（平凡社、1970、1985年）
 小野勝年『入唐求法巡礼行記の研究』1～4（鈴木学術財団、1964～69年）
 佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
 仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年）
 道端良秀『中国仏教史全集 第一巻 中国仏教通史』（書苑、1985年）
 鎌田茂雄『中国仏教史 第三巻 南北朝の仏教（上）』（東京大学出版会、1984年）
 鎌田茂雄『中国仏教史 第五巻 隋唐の仏教（上）』（東京大学出版会、1994年）
 山崎宏『隋唐仏教史の研究』（法蔵館、1967年）
 藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
 礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、19865年）
 塚本善隆訳注『魏書釈老志』（平凡社、1990年）

【成績評価の方法と基準】

①最終回の試験（50%）、②途中で実施する確認試験（30%）、③予習事項の紙面での提出（20%）。以上の3者を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。(3) ①探究心や向上心、②漢文読解の能力、③日本史・東洋史の基礎知識、④文章作成の能力。以上の4者が必要である。授業に出席するだけでなく、各自が積極的に取り組まなければならない。

【その他の重要事項】

「人ヲ害スル勿レ（人の人権を侵害しないこと）。ボアソナード博士はこんな言葉で法の精神を伝えました。教室ではお互いの学ぶ権利を尊重する、それが建学の精神です。私語はしない、それがルール 法政大学教育開発支援機構FD推進センター」
 学内に掲示してあるポスターから引用しました。

【Outline and objectives】

Comparing Tang and Japanese religion with Ennin's diary as a material

HIS300LA

アジア・太平洋国際関係史 2016年度以前入学者

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A 2017年度以降入学者

柳沢 遊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、20世紀の前半期を中心に、日本人の植民地支配へのかわり方、アジア及び太平洋島嶼各地域への進出の仕方、植民地経営の特質を考察するものです。過去に日本人や日本軍がおこなった植民地統治や勢力圏への企業進出、軍事行為などを明らかにすることで、21世紀に、東アジア及び太平洋島嶼各地域の人々が、文化・宗教・政治体制の違いをこえて「共生」しうるための条件を模索していきます。「未来志向」の関係構築のためには、逆説的ではありますが、戦前・戦時期の日本人が、どのように東アジアや東南アジア、太平洋島嶼にかかわりを持ち、「つまずいたか」を丁寧に正確に知る必要があるのです。本講義では、1900年から1920年代初頭までの時期を扱います。

【到達目標】

1. 日本と中国東北部の経済・社会との関係史を学び、戦前日本の「満洲権益」とは何であったか、と「進出された側の人びと」の立場を理解できるようになります。
2. 学生は、この講義を履修することで、近現代の日本史と東アジア史についての歴史的センスとアジア経済圏や人の移動についての空間的な視野の両方を身に付けることができます。とりわけ、戦争と植民地獲得の関係、植民地の中の日本人の役割など、これまでに考えることになかった問題を考察する素材を得ることができます。
3. 各回の授業を通じて、日本―東アジア関係史の知識力と理解力が身に付き、それに応じて成績がつけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式を主とします。毎回、教員が用意したレジュメを配布し、その内容にそって授業を進めます。90分たつと、授業を終えて、その日の講義に対する大小の質問を受け付けます。教員が質問に答えて、授業がおわります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の目的と進め方について	この科目の意義・目的と進め方を説明します。
2	日清戦争期の東アジアと世界経済の変動―帝国主义時代の幕開け	中華帝国秩序の動揺から、日本の工業化と日清戦争によって、「帝国主義」の台頭が見られるようになる過程を講義します。
3	日本の産業革命と東アジア市場―石炭・綿糸・雑貨―	日本の産業革命が、朝鮮・台湾・中国をどのように巻き込んだかを講義します。
4	日清戦後経営と日露戦争への道	日清戦争の結果、ロシアと日本の朝鮮での覇権争いがおこなわれ、ついに日露戦争に至る歴史過程を講義します。
5	朝鮮と中国の改革―大韓帝国の成立と洋務運動―	1897年の大韓帝国の成立と中国の洋務運動が、アジアにおける「近代の胎動」であった理由を説明します。
6	日露戦争と朝鮮民衆―鉄道・道路建設に徴発される人びと	日露戦争は、日本とロシアとの戦争でありながら、朝鮮の植民地化の重要なステップになったことを講義します。
7	世界史の中の日露戦争―帝国主义体制の仲間となった日本	日露戦争に「勝利」した日本は、アジアの植民地帝国を築き、「五大列強」の仲間入りを使用とするが、そこには、財政面、金融面でおおきな無理があったことを説明します。
8	日露戦争後の「満洲」経営―「満蒙経営悲観論」の台頭―	「満洲」に渡航した人びとは、どのような人々であったかを、具体例とともに説明し、彼らが、「満洲」で目指したものと現実の在満日本人社会の乖離を示します。
9	辛亥革命と韓国併合―変動する東アジアの中の日本―	日本の行った韓国併合と、孫文などによる辛亥革命をみることで、東アジアにおける2つの政治経済変動の深さと広さを学ぶことができます。

- | | | |
|----|----------------------------------|---|
| 10 | 第一次世界大戦と東南アジアへの経済進出 | 第一次大戦期の日本は、ドイツの海軍拠点である山東半島に攻撃するとともに、南洋群島にたいしても占領し、「委任統治」を行います。それぞれどのような課題が存在したか、既存の研究から説明します。 |
| 11 | 大戦期の経済好況と「満洲」日本人経済界 | 未曾有の「大戦好況」「戦後好況」の到来が、東アジア都市に何を生み出したか。満洲諸都市でも、不動産ブーム、企業ブームが、さかんとなったが、1920年4月にそれが崩壊する歴史をダイナミックに説明します。 |
| 12 | 「満洲バブル経済」の開花と投資に走る人びと | 株値と不動産価格の上昇は、人びとを経済活動にかりたてたが、気が付いたときに、多くの企業家は、借金と不良債権にまみれていました。それはなぜか？ |
| 13 | 「満洲バブル経済」の崩壊と1920年恐慌―株値と不動産価格の下落 | 1921年、大量の株式会社が倒産、合併、閉鎖に追い込まれていき、「大豆経済」も破綻をきたしました。「満洲」のバブル経済とは何だったのか、それを考えます。 |
| 14 | 春学期のまとめ | 学んできた20世紀前半、とりわけ日露戦争期から、1920年代初頭までの東アジアの歴史をふりかえり、総括します。学生からも、多くの質問を受け付けていきます。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際のレジュメをよく読み、関連文献に眼をとおしてください。講義の流れについていけないときには、いつでも教員に相談ください。

【テキスト（教科書）】

- ・柳沢遊『日本人の植民地経験―大連日本人商工業者の歴史―』青木書店、1999年。
- ・和田春樹ほか編『東アジア近現代通史3 世界戦争と改造』岩波書店、2010年。

【参考書】

- ・原朗『日清・日露戦争をどう見るか』NHK出版新書、2014年。
- ・大日方純夫他編『近代日本の戦争をどう見るか』大月書店、2004年。
- ・国立歴史民俗博物館編『韓国併合100年を問う』岩波書店、2011年。
- ・柳沢遊・木村健二・浅田進史編著『日本帝国勢力圏の東アジア都市経済』慶應義塾出版会、2013年。

【成績評価の方法と基準】

学期末に筆記試験を行います。それ以外に、予告のうえ「小テスト」を実施します。「質問票」の提出は、任意ですが、それも「平常点」に入れて成績に加味されます。「定期試験」7割、「小テスト」1割、「平常点」2割という割合で、成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めての担当であるため、情報はない。

【Outline and objectives】

This course examines Japanese aggression and colonization on Asia and Pacific Islands focusing on history from 1900s to 1920s. To make "future oriented" relationship in Asia and Pacific Islands, we need to know historically how Japanese civilians, companies and military had engaged with people in these areas and deteriorated their relationship. Understanding this history will be the first step for people of Asia and Pacific Islands to live together despite of our difference of culture, religion and political system in 21th century.

HIS300LA

在日朝鮮人の歴史

2016年度以前入学者

HIS300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：在日朝鮮人の歴史 I

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住み、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説①	世界のコリアンと在日コリアン
3	在日コリアン概説②	在日コリアンの法的地位
4	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの人口はどれくらいですか」
5	学生によるテキストの報告	「在日コリアンはいつ頃日本に来たのですか」
6	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの国籍はどうなっていますか」
7	まとめ①	映像 (1)
8	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの民族教育はどのように広がっていったのですか」
9	学生によるテキストの報告	「北朝鮮への帰国運動とはどういうものですか」
10	学生によるテキストの報告	「本名を名乗るとはどういうことですか」
11	まとめ②	映像 (2)
12	学生によるテキストの報告	「国民健康保険、国民年金には入れますか」
13	学生によるテキストの報告	「帰化をしないのはどうしてですか」
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

梁泰昊『新・在日韓国・朝鮮人読本』（緑風出版）2000円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50%、プレゼンテーション・期末レポート 50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「在日朝鮮人の歴史B」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline and objectives】

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

PHL300LA

キリスト教思想論

2016 年度以前入学者

PHL300LA

キリスト教思想史 A

2017 年度以降入学者

酒井 健開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

キリスト教の思想の変遷をその源であるユダヤ教から順次理解する。時代背景、歴史的背景をしっかりとおさえる。

【到達目標】

- ①キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。
- ②信仰への道を説くのが授業の狙いではない。あくまで一つの宗教として、その特徴を、問題点も含めて冷静に考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式。

毎回、授業の終わりの 20 分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述を書かせる。その意味でハードな授業になる。

定員の 35 名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教を学ぶことの意義を中心に。定員超過の場合は選抜を行う。
第 2 回	ユダヤ教から	一神教の成り立ち。キリスト教の源流であるユダヤ教に立ち返って考察する。
第 3 回	ユダヤ教の特色	ユダヤ教の独自性（一神教と多神教の違いなど）
第 4 回	イエスとその時代	イエスの時代のユダヤ教（1）（律法主義に対するイエスの批判）
第 5 回	イエスの活動の意義	イエスの時代のユダヤ教（2）（神殿主義に対するイエスの批判）
第 6 回	イエスの死	イエスの処刑（イエスが十字架刑に処された理由）
第 7 回	残された人々	イエスの死と使徒の考え方（1）（使徒とエルサレム初期共同体）
第 8 回	パウロの解釈	イエスの死と使徒の考え方（2）（パウロの「十字架の神学」）
第 9 回	古代ローマ帝国	古代ローマ帝国とキリスト教（1）（ユダヤ教改革派からキリスト教の誕生へ）
第 10 回	聖書はなぜ書かれたか	古代ローマ帝国とキリスト教（2）（聖書の誕生）
第 11 回	キリスト教徒はなぜ増えたのか	古代ローマ帝国とキリスト教（3）（信者の増加と迫害）
第 12 回	大帝の決断	古代ローマ帝国とキリスト教（4）（コンスタンティヌス大帝の政策）
第 13 回	国教化へ	古代ローマ帝国とキリスト教（5）（キリスト教の国教化とローマ教会の組織力）
第 14 回	試験、まとめ	今学期の授業内容の復習を兼ねて論述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キリスト教関係の入門書を読んでおくこと。たとえば『キリスト教の真実』（竹下節子著、ちくま新書）など。

【テキスト（教科書）】

毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】授業内で詳しく紹介する。
『一神教の誕生 ユダヤ教からキリスト教へ』加藤隆著、講談社現代新書**【成績評価の方法と基準】**

キリスト教の源からその初期の発展に関して、学問的に本質的な点を捉えられたかどうかを評価の基準にする。

期末の論述試験 50%と授業への積極的な貢献度 50%（毎回論述する課題の内容等）によって評価する。

《到達目標との関連》＝上記①と②に関して期末の論述試験において習熟度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評である。受講生からの要望には耳を傾けているので、いつでも気軽に語ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

1 年生のときに宗教論の授業を取っておくことが望ましいが、必要条件というわけではない。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn fundamental aspects of history and thoughts of christianism.Students must write in japanese their reaction after each lesson.

LAN300LA

異文化コミュニケーション論 2016年度以前入学者

LAN300LA

異文化コミュニケーション論A 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係しているのか。

この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
- ②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

・指定テキストの内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	・オリエンテーション ・日本と日本語の実像を考える	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・日本語はどんな言語か
第2回	・日本語の漢字使用について	・漢字の読みはなぜややこしいのか ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	・ラジオ型言語とテレビ型言語	(1) 文字言語としての日本語と他言語との比較。 (2) 音声言語としての日本語と他言語との比較
第4回	・文化によって異なる色彩認識について	・虹にはいくつ色があるのか。太陽は世界のどこでも赤いのか。
第5回	・カテゴリ分類の差異	・蛾と蝶が同じである理由
第6回	・文化によって異なる羞恥心	・「恥かしさ」の基準
第7回	・形容詞のかくれた基準 ・有標性と無標性 ・新語の話	・天狗の鼻は「長い」でなく「高い」 ・形容詞の中身はなに？ →形容詞のかくれた基準 ・江戸時代、「日本酒」はなかった
第8回	日本語の人称代名詞を巡る問題	身内の呼び方の方程式
第9回	指示語と自己中心語	「人稱」の本質は何か
第10回	言語政策	日本語に対する考えを改めよう ・日本語に対する認識 ・各国の言語政策 ・外国語教育の必要性
第11回	住まいと美意識	・住居、建築、都市計画
第12回	食文化	・日本の食べ物、世界の食べ物 ・日本の食べ方、世界の食べ方
第13回	宗教・迷信・タブー	・何を信じるか ・何を忌避するか
第14回	期末試験	第1回～第13回までの内容についての筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。

【テキスト（教科書）】

鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書 740円

【参考書】

鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
G. ドイツチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %
発表 30 %
期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

・グループワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【その他の重要事項】

・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜をします。
・2016年度以前の入学者は、秋学期開講の「異文化コミュニケーション論B」を合わせた通年科目となります。

【Outline and objectives】

In this course, students will read a book on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

POL300LA

現代政治学の基礎

2016 年度以前入学者

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：1960 年代の政治と音楽

木村 正俊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

1960 年代の政治について、そして政治と音楽の関係について考察する。文献やサウンド、映像を通して 1960 年代について知識を獲得するとともに、60 年代の「文化革命」がその後の時代にもたらしたことを考えることを目指す。

【到達目標】

基本的目標は次の通りである：

60 年代の政治を、主として USA を対象にして理解すること
カウンター・カルチャーの思想と運動の特徴について理解すること
USA の広義のフォーク・ミュージックから生み出されたボビュラー・ミュージックの中から、特にサイケデリック・ロックについて考察する
カウンター・カルチャーがもたらした（と思われる）現代への影響について考察する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

60 年代に関する文献を読み、サウンドを聴き、映像を観た上で参加者の間で意見を交換する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
# 1	イントロダクション	ゼミの概要の確認と参加者の決定
# 2	文献講読	文献の内容確認と議論
#3	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#4	映像視聴	映像の内容確認と議論
#5	文献講読	文献の内容確認と議論
#6	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#7	映像視聴	映像の内容確認と議論
#8	文献講読	文献の内容確認と議論
# 9	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#10	映像視聴	映像の内容確認と議論
#11	文献講読	文献の内容確認と議論
#12	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#13	映像視聴	映像の内容確認と議論
# 14	総括	ゼミのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献は必ず事前に読むこと
音楽聴取・映像視聴後、関連する文献を読んで理解を深めること

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

ゼミの課題にたいする対応度

【学生の意見等からの気づき】

アンケートなし

【その他の重要事項】

政治学 LA, 政治学 LB の履修（既履修）は必要ではありません。
ロック、特にサイケデリック・ロックの知識は必要ではありません。
ただし、なじみのない学生は気分が悪くなる等のことがあるかもしれません。

【Outline and objectives】

Theme: Politics and Popular Music in the 1960's

The fundamental aim of this seminar is to acquire a basic knowledge of politics in the 1960's and consider the interaction between politics and music of 60's.

HUG300LA

人文地理学セミナー

2016 年度以前入学者

HUG300LA

人文地理学セミナー A

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史資料を利用しながら学びます。テキスト『東京の歴史 地帯編』のなかから、主要区部の巻を中心に輪読し、各地域を説明するうえでの重要な史資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】

江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、『東京の歴史 地帯編』の分担部分を発表してもらい、利用されている史資料や記述内容について議論します。後半の回では、各地域に実際に赴いて、レポートして理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、テキストの分担の決定
第 2 回	江戸東京の地理の基礎	江戸時代から現代までの東京の変遷について講義します。
第 3 回	地帯編を読む	千代田区
第 4 回	地帯編を読む	新宿区
第 5 回	地帯編を読む	文京区
第 6 回	地帯編を読む	港区
第 7 回	地帯編を読む	中央区
第 8 回	地帯編を読む	台東区
第 9 回	地帯編を読む	墨田区
第 10 回	地帯編を読む	江東区
第 11 回	現地調査	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認する
第 12 回	現地調査	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認する
第 13 回	現地調査	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認する
第 14 回	まとめ	江戸東京の各地域についての学習内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史資料を探すこと、現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史第 4 巻地帯編 1 千代田区・港区・新宿区・文京区』吉川弘文館、2018 年

『東京の歴史第 5 巻地帯編 2 中央区・台東区・墨田区・江東区』吉川弘文館、2019 年

B T 12 階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、出席 50 %、発表やレポート 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため、ありません。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents.

CUA300LA

文化人類学方法論 2016年度以前入学者

CUA300LA

文化人類学方法論 A 2017年度以降入学者

中島 成久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アジアのアグリビジネス研究」というテーマで授業を行う。アブラヤシ、コーヒーと茶、チョコレートを中心としたアグリビジネスについて詳細に検討する。

【到達目標】

- ①アグリビジネスの世界支配の実態を理解する
- ②マレーシア、インドネシアのアブラヤシ開発の実態を理解する
- ③アグリビジネスにおける労働者の位置を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式と受講者の発表形式で進める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容説明、登録者確定
第2回	アブラヤシ関連アグリビジネス①	映画「森の慟哭」
第3回	アブラヤシ関連アグリビジネス②	インドネシアのアグリビジネス
第4回	アブラヤシ関連アグリビジネス③	マレーシアのアグリビジネス
第5回	チョコレートの歴史①	映画「バレンタイン〜掬」
第6回	チョコレートの歴史②	『チョコレートの世界史』①
第7回	チョコレートの歴史③	『チョコレートの世界史』②
第8回	チョコレートの歴史④	『チョコレートの世界史』③
第9回	チョコレートの歴史⑤	『チョコレートの世界史』④
第10回	アグリビジネスの世界支配①	『現代の食とアグリビジネス』講読①
第11回	アグリビジネスの世界支配②	『現代の食とアグリビジネス』講読②
第12回	アグリビジネスの世界支配③	『現代の食とアグリビジネス』講読③
第13回	アグリビジネスの世界支配④	『現代の食とアグリビジネス』講読④
第14回	アグリビジネスの世界支配⑤	『現代の食とアグリビジネス』講読⑤

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 テキストの予習、復習
- 2 図書館等で関連する文献を調べる
- 3 プレゼンに慣れること

【テキスト（教科書）】

頼 俊輔『インドネシアのアグリビジネス改革』日本経済評論社
 岩佐和幸『マレーシアにおける農業開発とアグリビジネス』法律文化社
 武田尚子『チョコレートの世界史』中公新書、2010年
 大塚 茂・松原豊彦『現代の食とアグリビジネス』有斐閣選書、2004年

【参考書】

随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点(50%) + 学期末レポート(50%)

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を引き出すような工夫を凝らす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The topic of this class is Agribusiness in Asia. Case studies of oil palm plantation, coffee and chocolate are examined in detail.

PSY300LA

人間行動学 2016年度以前入学者

PSY300LA

人間行動学 A 2017年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基盤科目の「心理学Ⅰ/Ⅱ」などでアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を学び、リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」などで、より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし、総合科目の「人間行動学」では、「行動」として表現される「心」を考えます。

【到達目標】

心理学の領域は広くも深くも展開可能です。心の操作（マインドコントロール）や洗脳まがいのことに使われる反面、ストレスへの対処や強いメンタル、ポジティブな生き方のためにも活用できます。

「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か。AI（人工知能）やロボット、サイボーグ、アンドロイド、あるいはクローン等々と比べることで、ヒトの「命」や「心」の意味が分かるのか。ヒトは何故（why）・どのように（how）生きているのか。生きているということは、「命」や「心」というのと同じなのか異なるのか。さて、「心」とは何か、「心」はどこにあるのか。改めて考えることが目標です。

その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度、との立場で、相互に对话・議論を積み上げて検討し、参加者各々が感じ思い考え、それぞれが、そのときどきの答えを見出していけるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

参加者自らが設定したテーマについて（単独でも共同でも）調査や研究を進め、順次、報告・発表し、ディスカッションします。

これまでの担当科目では、しばしばマンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画、SNS や動画サイトその他ソーシャルメディア、メディア情報リテラシーのあり方など、さまざまな側面・角度から「心」を考えてきました。今日の社会・文化が「心」に及ぼす影響が、「行動」となって顕著に表現されているからです。

どうかすると、私（or 貴方）は幾らか狂っていたり、少なくとも狂いたかったりするのかもしれない。この世間・社会の文化だの常識だのが不可思議で疑わしすぎるとしたら、私（or 貴方）の「心」は、何かへんなのでしょう。良くも悪くもサロンのイメージで、それぞれが、それぞれに、言い放ち、切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。

さわめて自由ですが、それだけ難しくなります。【難度=自由度：☆☆☆☆】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者各々の興味・関心を持ち寄り、討論の素材（教材）について全体で協議
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
13	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション

14 まとめ 学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分担した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前回は、参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。報告・発表担当でない場合、これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。報告・発表担当であるかないかを問わず、報告・発表時のディスカッションを踏まえ、さらに吟味します。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）：報告・発表とともに、（担当であるかないかを問わず）報告・発表時のディスカッションなどを総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

参加者相互に議論するのは難しかったものの、その都度の発言やアクションペーパー記述の紹介によって、各々が多種多様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など、相談しながら一緒に進めていきます。

【その他の重要事項】

- (1) 人間行動学 A（春学期）と人間行動学 B（秋学期）は連動するので、一体としての履修を望みます。
- (2) 必須ではありませんが、海部が担当した「心理学 I/II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。
- (3) 上記科目で小論文などに取り組んだ方は、そのとき執筆したものを報告・発表の素材にできます。
- (4) 多くても 30 名前後、少なければ 1 名の参加で実施します。
- (5) 履修希望者が多い場合は、春学期初回の参加者から選抜します（2018 年度は 70 名超のなかで 35 名ほどを選抜）。
- (6) 「臨床心理士」として関わってきたことの反映が多いかもしれません。
- (7) オフィスアワー（Q&A タイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各 6 限に設ける予定です。
- (8) 2018 年度の報告・発表テーマは、次のとおりでした。

#01 SNS と自己顕示欲：健全な自己顕示欲とは？ また、その付き合い方

#02 「炎上」はなぜ起こるのか

#03 フェティシズムと犯罪者予備軍

#04 うつ病への理解

#05 なぜ人は周りからよく見られようとするのか

#06 優生思想について

#07 返報性について

#08 安楽死からみる自己決定権について

#09 自己欺瞞

#10 「心の監禁」からの脱出

#11 バーナム効果とは

#12 「君の NO は。」：世界の歪みは誰のせい？ 認知バイアスと認知の歪み

#13 犠牲と正義：報復は正義になり得るのか

#14 承認欲求

#15 パーソナルスペース

#16 「ネタばれ」は悪くない？

#17 「装う」ということ：アイデンティティと自己実現

#18 認知的不協和：自分自身から逃げない勇気

#19 自己成就予言効果

#20 ツァイガルニク効果

#21 ロボットに心はあるか

【Outline and objectives】

This subject is premised on the foundation course "Psychology I/II" and the advanced applied course "Psychology LA/LB".

In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

PSY300LA

人間発達学

2016 年度以前入学者

PSY300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：心理的ウェルビーイングを考える A

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、臨床心理学（カウンセリング）に関する文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考えていく。

【到達目標】

臨床心理学（カウンセリング）の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけてもらいたいと考えている。また、本授業がめざす目標をさらに深化させるために、教養ゼミ II「心理的ウェルビーイングを考える B」を連続履修することを期待する。

最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式（学生発表と討論）で行う。指定された箇所について担当学生が発表を行い、それについてクラス全体で討論する。

受講希望者が多い場合は、第 1 回目の授業で実施する簡単な試験により選抜を行う（定員 30 名）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明し、受講者が多い場合に選抜の参考とする簡単な試験を実施する。
第 2 回	試験の解説および今後の予定について	第 1 回の授業で実施した試験の解説をする。また、学生発表の順番を決定する。
第 3 回	『カウンセリングを考える・上』第 1 章「現代社会とカウンセリング」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 4 回	『カウンセリングを考える・上』第 2 章「カウンセリングにおける家族の問題」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 5 回	『カウンセリングを考える・上』第 3 章「不登校カウンセリング」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 6 回	『カウンセリングを考える・上』第 4 章「いじめとカウンセリング」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 7 回	『カウンセリングを考える・上』第 5 章「事例研究の大切さ」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 8 回	『カウンセリングを考える・上』第 6 章「カウンセラーの資格と責任」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 9 回	『カウンセリングを考える・下』第 1 章「新しい家族関係」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 10 回	『カウンセリングを考える・下』第 2 章「ユング心理学から見た禅体験」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 11 回	『カウンセリングを考える・下』第 3 章「カウンセリングにおける男性と女性」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。

- 第12回 『カウンセリングを考える・下』第4章「カウンセラーのための児童文学」を読む 学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
- 第13回 『カウンセリングを考える・下』第5章「『生きる』ということ」を読む 学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
- 第14回 授業の総括 学期を通してのまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備しておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。また、授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら、日常生活を送ること。

【テキスト（教科書）】

河合隼雄著『カウンセリングを考える・上・下』（創元社、1996年）。また、発表担当者の作成するレジュメを使用する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分で評価する。
 授業への取り組み（50%）+ 期末レポート（50%）
 レポートの字数はクラスで発表した学生は2,000字以上、発表しなかった学生は3,500字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に討論に参加できるような、できるだけ身近で、具体的なテーマで授業を展開していく。

【Outline and objectives】

Psychological well-being is a concept which is defined as lives going well. It is the combination of feeling good and functioning effectively as a member of society. In this seminar, students will read books and articles about counselling and discuss issues about children's refusal to go to schools, domestic abuse and violence, bullying (called "Ijime"), etc., which have been witnessed in recent Japanese society. Through such readings and discussions, students will learn what psychological well-being means and how we can attain it.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌

2016年度以前入学者

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌A

2017年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
 2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による気候とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
- ・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
- ・自然環境の変化による異常気象を把握する。
- ・自然環境変化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は2部構成とし、第1に、地球規模から日本列島スケール、小規模までの自然環境変化を取り上げる。第2に、加速する様々な異常気象について説明する。

授業の方法は、気象学、気候学により自然環境に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは課題論文のまとめを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、リアクションペーパーの質問には、必ず回答するとともに、記載された事項により授業内容を変更することがある。

また、第1回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないとその後の受講は認めないので、受講希望者は必ず第1回目の授業に出席し、試験を受けること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。
2	東日本大震災と自然環境問題	甚大な被害をもたらした東日本大震災と自然環境問題の相互作用について考察する。
3	オゾンホール	成層圏の気候からオゾン層の役割について説明し、オゾンホール生成のメカニズムと今後の対策について検討する。
4	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。
5	越境汚染1（酸性雨）	酸性雨の成因、影響について説明する。
6	越境汚染2（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策について説明する。
7	人為による気候の改変1（ヒートアイランド）	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明し、その対応について議論する。
8	人為による気候の改変2（光化学スモッグ）	大気汚染物質が影響する光化学スモッグの原因と予測について説明する。
9	人為による気候の改変3（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。
10	異常気象1（エルニーニョ現象の成因）	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
11	異常気象2（エルニーニョ・ラニーニャ現象の影響と予測）	エルニーニョ・ラニーニャ現象が及ぼす影響と予測について解説する。
12	異常気象3（副振動）	急激な気圧変化によって発生するとされる潮位の変動について解説し、その原因を考察する。
13	異常気象4（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷について説明し、近年の状況について解説する。

14	南極の環境保全 まとめ	地球環境のバロメーターである南極を説明し、環境保全対策を解説する。 また、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。
----	----------------	---

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・異常気象を知りつくす本 佐藤典人著、インデックス・コミュニケーションズ
- ・異常気象と人類の選択 江守正多著、角川SSC新書
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－ 吉野正敏著、古今書院
- ・新百万人の天気教室 白木正規著、成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

試験は実施しない。評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：30%
- ・小テスト・課題論文・作図：70%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、昨年度は学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は自然環境のしくみを理解し、その上で人間活動が与えた自然環境の変化について検討することを目的とする。そのため、春学期では自然環境変化と異常気象について説明し、秋学期では地球温暖化について考察する。人間活動による環境変化において、これらは密接に関連したため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとに、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】

Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions. Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities.

MAT300LA

論理って何だ？

2016年度以前入学者

MAT300LA

数理論理学A

2017年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理とは何か ～～ まずは最小限の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること（理論が複数あるという事実とは別のこと）を知るための第一歩として、どの論理にも共通する最小論理について学ぶ。それは後に論理を広げて次のような例を考えるとときの準備となる。

～～～
ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた（あるいは、いる）ことが、**論理的に証明**できる。（クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。）
～～～

クシャミ大王の存在証明が可能な論理をつくるためには、この授業で扱う最小論理に何らかのものを付け加える必要がある。最小論理を直観主義論（人の論理）、さらには古典論理（神の論理）まで広げるのである。その付加するものの役割を理解するため、まずは論理の共通部分とは何かについて学んでゆく。

【到達目標】

最小論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	クシャミ大王	授業概要の説明
第2回	「かつ」を壊す	連言の除去
第3回	「かつ」を作る	連言の導入
第4回	「または」を壊す	選言の除去
第5回	「または」を作る	選言の導入
第6回	「ならば」を壊す	含意の除去
第7回	「ならば」を作る	含意の導入
第8回	「でない」を壊す	否定の除去
第9回	「でない」を作る	否定の導入
第10回	「すべて」を壊す	全称量化の除去
第11回	「すべて」を作る	全称量化の導入
第12回	「ある」を壊す	存在量化の除去
第13回	「ある」を作る	存在量化の導入
第14回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門 [新装版]』(日本評論社) 2005年(初版 1967)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験(60%)において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート(40%)において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

(1) 秋期科目「数理論理学B」の予備知識となる内容を含む。

(2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理2 (数理論理学 A)」。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in minimal logic.

MAT300LA

コンピュータの裏側

2016 年度以前入学者

MAT300LA

計算と言語のしくみ

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景を踏まえて、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組みに焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようなになっているか?」「そうした機械的な仕組みの上で、形式言語で書かれた命令が問題なく動作するのは何故か?」など解説する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの装置とその上で言語が処理される仕組みの本質を大雑把に理解すること」を目標としている。(例えば、電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時、皆さんは直ちに説明できるでしょうか?) 処理系の違いに依存しない普遍的な動作原理を理解することは、実際にコンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらすこととなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、より簡単な方向に修正する可能性がある。また「具体的な問題を通して内容を確認する時間」を十分とりたいと考えているので、授業は講義形式と実験・実習形式の割合が半々となる予定である。(特に、終盤では、アセンブリ言語と呼ばれるプログラミング言語を使用して、各種装置の状態を意識しながら簡単な計算を組み立てる体験をする。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	PC 上でプログラミングが動作する様子を観察する。
第 02 回	計算機の歴史	汎用コンピュータの開発の歴史を解説する。
第 03 回	計算機と形式言語 (1)	正規言語を処理する機械的な仕組みについて解説する。
第 04 回	計算機と形式言語 (2)	文書編集で正規言語の選択構文が活用される事例を学ぶ。
第 05 回	計算機と形式言語 (3)	文書編集で正規言語の繰り返し構文が活用される事例を学ぶ。
第 06 回	計算機と形式言語 (4)	チューリング機械の仕組みと形式言語との関係を解説する。
第 07 回	計算機と自然言語	機械学習を利用した自然言語の解析手法を観察する。
第 08 回	現代計算機の構造 (1)	コンピュータの演算装置等の構造を説明する。
第 09 回	現代計算機の構造 (2)	2 進数, 10 進数, 16 進数による正整数の表現方法を説明する。
第 10 回	現代計算機の構造 (3)	2 の補数表現による負整数の表現方法を説明する。
第 11 回	アセンブリ言語 (1)	アセンブリ言語の実習環境について基本的な操作を説明する。
第 12 回	アセンブリ言語 (2)	コンピュータのメモリの構造を実験で確認する。
第 13 回	アセンブリ言語 (3)	ジャンプ命令を利用したプログラムの動作を実験で確認する。
第 14 回	試験	これまでの内容を確認する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

解説した内容は練習問題を通して確認するため、終わらなかった部分については授業時間外の学習で完成させる必要がある。また実習については、作業が円滑に進むように事前の予習が望まれる。

【テキスト (教科書)】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%), 練習問題 (30%), 計算機実習 (30%), 試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

的を得た質問・要望を多く頂いて、少しずつ内容・難易度の調整に反映していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

プログラミングなどの実習では情報実習室の PC を利用し、資料等の配布には授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「PC の使用経験」は特に必要ない。(工学的に高度で細かな内容までは踏み込まずに、文系の学生にとって負担なく理解できる概要の理解を目指す。実験についても、PC の電源を入れるところから確認しながら進める。)

【Outline and objectives】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation for computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers such as embedded systems into various electric devices, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers originated from Charles Babbage's analytical engine. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

MAT300LA

確率・統計

2016 年度以前入学者

MAT300LA

確率の世界 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

様々な例でイメージを作りながら定理の内容を理解するという方法で授業を進めていく。また演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	確率の基礎 1	確率とは
第 3 回	確率の基礎 2	確率の性質
第 4 回	確率の基礎 3	確率空間とは
第 5 回	確率の基礎 4	事象の独立性
第 6 回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第 7 回	確率の基礎 6	期待値とは
第 8 回	確率の基礎 7	期待値の性質
第 9 回	確率の基礎 8	分散とは
第 10 回	確率分布 1	分散の性質
第 11 回	確率分布 2	二項分布とは
第 12 回	確率分布 3	二項分布の性質
第 13 回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして (紙に書いて) 考えること。

【テキスト (教科書)】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験 (80%) において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出 (20%) において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and methods in probability.

PHY300LA

現代の錬金術

2016 年度以前入学者

PHY300LA

現代の錬金術 A

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
2～4 年 ※定員制**【Outline and objectives】**

This course deals with the basis of the fundamental modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain attempts of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・ Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・ Discuss the evidences that indicates the existence of atoms in scientific laws
- ・ Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・ Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・ 自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・ 我々を構成している物質の成り立ちについて科学的な理解を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。難しい数式はできるだけ避け、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。講義では主にスライドを使用するが、ビデオなどを用いて視覚的に理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第2回	古代の物質観	四元素説を中心とした古代の物質観・自然観や、中世の錬金術の試みについて
第3回	原子は存在するのか？ (1)	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第4回	原子は存在するのか？ (2)	気体の法則と分子運動論について
第5回	原子は存在するのか？ (3)	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第6回	原子は構造を持つのか？ (1)	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第7回	原子は構造を持つのか？ (2)	第6回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する
第8回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第9回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第10回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第11回	原子構造 (1)	主にボーアの原子模型について
第12回	原子構造 (2)	主に電子配置について
第13回	原子核と放射線	原子核の性質や放射線について
第14回	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、各回の学習内容の復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験の成績（計 80 %）と平常点（20 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

PHY300LA

原子核と素粒子ーミクロの世界ー 2016年度以前入学者

PHY300LA

原子核と素粒子A 2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には（最近命名された原子番号113番ニホニウムなどを含めて）どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、「原子核と素粒子B」での原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、配付プリントを使用した講義形式で行う。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義の全体的な紹介する。
第2回	元素の周期律表	周期律表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第3回	元素の存在比（地球）	地球上の生物は、どのような元素からできているのか。
第4回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体は、どのような元素からできているのか（最新研究も含めて）
第5回	結晶構造	物体は3次元的に規則正しい立体構造をもっている。それはなぜなのか。
第6回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について、解説する。
第7回	原子のスペクトル	原子からはどのような光（電磁波）が放出されるのか、解説する。
第8回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、紹介する。
第9回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について、紹介する。
第10回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について、紹介する。
第11回	原子の構造（電子配置）	第5回の内容に関して、物体が立体構造をもつメカニズムについて、解説する。
第12回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について解説する。
第13回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第14回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験 80%と授業への積極的な貢献度 20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline and objectives】

This course teaches the elementary particle physics, such as the abundance ratio of elements in the universe and the structure of atom and so on. It is the aim of this course to help students understand the element and atom.

BIO300LA

バイオイメーキングの世界 2016年度以前入学者

BIO300LA

教養ゼミⅠ 2017年度以降入学者

サブタイトル：バイオイメーキング

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法文営国環キ 2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、一言で言うと、「アマチュア科学者養成講座」です。授業では、生き物のしくみを実際に生き物を使って実験・観察しながら研究し、それを発表するまでの生物学的研究法を1から学びます。そのために使う生き物は、粘菌・ソバ・プラナリア・テントウムシ・ダンゴムシ・アリ等です。基礎知識は必要ありませんが、これらの生き物の名前を聞いただけで萎縮するようなタイプの方はご遠慮下さい。作業は全て班単位で行いますので、グループとしての問題解決法を学んで頂けます。

【到達目標】

1. 基本操作技術の修得（デジカメを用いた、マクロ撮影法、インターバル撮影法、高速撮影法、スタジオ作製法、画像解析法など）
2. 規定課題（ソバの発芽、粘菌の成長、アリの歩行、ダンゴムシの歩行パターン、テントウムシの飛翔、プラナリアの再生 など）を通じた問題解決手順の修得
3. ノートの取り方の修得（授業中に行った事をどれだけ判りやすくノートに要約できるかを学びます）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

全ての班が同じ規定課題を行います。規定課題は、ソバの発芽、粘菌の成長、アリの歩行、ダンゴムシの歩行パターン、テントウムシの飛翔などを、材料調達のタイミングを見ながら約2週間単位で実施します。各課題のまとめでは、班ごとの結果発表と全体ディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	バイオイメーキングの基礎	授業の概略を説明します。
②	ソバの発芽の観察①	インターバル撮影の基礎を学びます。
③	ソバの発芽の観察②	撮影データの回収法と、画像ハンドリングを学びます。
④	粘菌の成長①	粘菌の成長と移動の関係を、様々な条件で観察します。
⑤	粘菌の成長②	観察結果の解析をします。
⑥	アリの歩行①	ハイスピードカメラを使って、動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。
⑦	アリの歩行②	昆虫の6本足歩行について、画像解析をします。
⑧	ダンゴムシの歩行パターン①	ダンゴムシのレーストラックを作成します。
⑨	ダンゴムシの歩行パターン②	作成したレーストラックを使って、実際のダンゴムシの歩行パターンを解析をします。
⑩	テントウムシの飛翔①	高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
⑪	テントウムシの飛翔②	アリの6本足歩行の様子をハイスピード記録して解析をします。
⑫	プラナリアの再生①	プラナリアを様々な条件で切断して、再生を試みます。
⑬	プラナリアの再生②	プラナリアの再生結果の解析を行います。
⑭	班活動の総括・発表	班活動について、総括反省をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間には、実験・観察を中心に行います。調べ物、プレゼン準備などは全て自宅で行う事になります。ゼミですから、必ず予め授業の準備を行ってから参加してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。成績は、授業内の活動と、最後に授業ノートを提出して頂いて採点します。評価の基準は、授業内の活動の評価が50%、ノートの充実度が50%になります。

単なる板書の写しを提出されても成績に計算されませんので、授業の説明に従った作業記録ノートを作成して下さい。

なお、ルーズリーフのノートは認めません。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評を得ているようです。パソコンについての不満が何件かありましたが、現在使っているMacintoshは画像解析には必須なので、慣れるようにして下さい。プレゼン等は、個人・大学貸し出しのパソコンを使って頂いてかまいません。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。パソコンの機種に対する要望が有りますが、当面は画像解析ソフトを使う目的でマッキントッシュを利用します。プレゼンなどは、ご自分の或いは、大学貸与のパソコンを利用して頂いて構いません。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフのノートは認めません。

【Outline and objectives】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomena. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

CHM300LA

光と色の科学

2016年度以前入学者

CHM300LA

光と色の科学 A

2017年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理解は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。
ろうそくの炎、電球、蛍光灯が光る仕組みと違いを学ぶ。
自然界にある色、あるいは人工的に作り出された色と光の関係を科学的に理解する。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は主に視覚の仕組みと光に関する現象を取り上げ、基本的には講義主体で解説を行います。ただし、いくつか小道具を使って実際に目で確かめたり、簡単な実験も行います。講義の最後に、毎回、簡単な小テストを行い、理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	1年間（A・B）の講義内容の説明を行います。
第2回	光と色の混色	光を混ぜ合わせた時と色素を混ぜ合わせた時の違いについて学びます。
第3回	視覚と色覚	目の構造と色覚についてその仕組みを学びます。
第4回	色覚異常、昆虫の色覚	色覚異常の仕組みについて解説します。
第5回	光の種類とその利用	光は電磁波の一種です。大きな範囲の電磁波について学びます。
第6回	電波の利用	身の回りにおける電波の利用について解説します。
第7回	光源の種類と発光の仕組み (熱放射、星の光)	固体を加熱するとその温度に応じた光が放出される様子を観察するとともにその原理を学びます。
第8回	光源の種類と発光の仕組み (放電と蛍光)	ネオンサインや蛍光灯の発行原理を学びます。
第9回	光源の種類と発光の仕組み (LEDとLASER)	LEDやLASERの発光原理とこれらを利用した事例を紹介いたします。
第10回	オーロラ	オーロラの発光原理を学びます。
第11回	生物発光と化学発光	ホタルやケミカルライトの発光原理とその応用を学びます。
第12回	屈折と散乱	屈折や散乱の仕組みを学び、虹や空の色を理解する。
第13回	干渉と偏光	干渉や偏光の仕組みを学び関連する身の回りの現象や応用例を理解する。
第14回	まとめ	春学期の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」、培風館、1999。
安藤幸司著「光と光の記録 光編」、産業開発機構、2004。
江森康文他著「色 その科学と文化」、朝倉書店、1984。

【成績評価の方法と基準】

毎回、講義の最後に小テストを実施し、その結果（30%）と期末試験の結果（70%）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返し説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員（30名）を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。AとB、両方の受講が望ましいので、秋学期のBについても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “A” deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception.

CHM300LA

物質科学

2016年度以前入学者

CHM300LA

物質の科学 A

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われる。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各テーマごとに実験を取り入れた授業を行います。一つのテーマが複数回にわたるときは、講義や演習だけの日もあります。実験日は、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。ノートをきちんとまとめることは重要です。漫然と板書や実験結果をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	化学実験入門 (1)	安全に化学実験を行うための注意事項やノートの取り方について講義します。
第3回	化学実験入門 (2)	実験器具や試薬類の取り扱い方法を学習します。
第4回	レジンアートの解説	レジンアートに関連する化学について学習し、実際の作成に備えます。
第5回	ドライフラワーの作成	シリカゲルを使用してドライフラワーを作成し、シリカゲルの構造や性質について理解します。
第6回	シリコン樹脂の合成	二液混合型の透明シリコン樹脂を合成します。その際、第5回で作成したドライフラワーの入った型に樹脂を流し込み、レジンアートを作成します。
第7回	化学基本事項の説明 (1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第8回	化学基本事項の説明 (2)	分子の立体的な構造がどのように決まるのかを学習します。
第9回	化学基本事項の説明 (3)	簡単な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第10回	化学基本事項の説明 (4)	石けんなどの複雑な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第11回	香料の精製と分析	水蒸気蒸留およびクロマトグラフィーについて原理を学習します。
第12回	香料(ラベンダー)の精製	水蒸気蒸留によってラベンダーのつぼみから精油を取り出します。
第13回	香料(ラベンダー)の分析 (1)	薄層クロマトグラフィーの原理を学習し、薄層プレートやキャピラリの準備を行います。
第14回	香料(ラベンダー)の分析 (2)	ラベンダー精油について薄層クロマトグラフィーを行い、成分の分析を行います。なお、残ったラベンダー精油は、物質の科学B(秋学期開講)で合成する石鹸の香料として使用します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行ってレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席(25%)、各テーマ毎に提出するレポート(25%)、および、平常点(50%)によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員(30名)を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は第1回目の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and its technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we experience chemical analyses as well as syntheses. Understanding chemical substances in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture.

ARSe300LA

総合講座～沖縄を考える～

2016年度以前入学者

ARSe300LA

沖縄を考えるA

2017年度以降入学者

中俣 均

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

歴史的・文化的に異邦と言ってもよい沖縄を、日本（ヤマト）国民はどのように考えればよいのか。まず、かつての異邦としての沖縄の、歴史と実態を知ることが先決である。そして、沖縄との関わりを知ることで見えてくる日本の姿を考えなければならない。だから、沖縄を知ること、実はそれだけにとどまらず、日本を知ることにつながるのである。本総合講座においては、かつての琉球王国の最大版図である奄美諸島から与那国島・波照間島までを「沖縄」地域に含めて、考察する。

【到達目標】

毎回、授業内容に対する感想文（ミニ・レポート）を書き、理解を形にして残り、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化の在り方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。時には舞踊、音楽の実演も行う。一般の社会人も参加する講義である。現時点では講師と授業回がすべては確定していないが、決定したところから研究所 HP<http://www.hosei.ac.jp/fujimi/okiken/frame-main.html>で公開するので、そちらを参照してほしい。今年度は、「沖縄の日本復帰の意味」という問題意識を共有する講義を複数準備する。「沖縄独立論」などについても関心をもって学習してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：中俣均）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についての地理的知識など。
2	沖縄を知るための基礎知識のまとめ（担当：大里知子）	沖縄の歴史と現代についての概説
3	未定	未定
4	未定	未定
5	未定	未定
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定
11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定
14	未定	未定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 毎回ミニ・レポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講師と講義テーマについて調べておくことが望ましい。
2. 図書館、沖縄文化研究所開架閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（90％）と、毎回のミニ・レポート（10％）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマで、みずから文献を読み理解を深めて、自分のアタマで考え自分の手で書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

大教室での大人数の講義であるためか、例年一部学生の、緊張感のない受講態度が目につくので、これは改めてほしい。例年、信頼性に欠ける web 上の諸情報などを切り貼りして形式的にレポートを書き提出しさえすれば、単位取得がかなうなどと甘く考えてもらっては困る。そうした希望は各学期末に打ち砕かれることになろう。

【Outline and objectives】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

HIS300LA

中国の民族と文化 2016年度以前入学者

HIS300LA

中国の民族と文化A 2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を行っていく。なお、秋学期の「中国の民族と文化B」は春学期の学習を前提に授業をお進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎(1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎(2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎(3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎(4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎(5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史(1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史(2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史(3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史(4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史(5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史(6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史(7)	『三国志』の描く蜀
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ漢文句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満宇二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100%

試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講読する漢文の量を増やしていければと思います。

【Outline and objectives】

Outline: Studying ancient Chinese language and reading ancient Chinese texts

Objectives: Understanding the history and the culture of China

PHL300LA

仏教思想論 2016年度以前入学者

PHL300LA

仏教思想論A 2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教思想・仏教史
釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。
・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解を試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主とするが、演習形式を採ることもあります。また、課題を出すこともあります。課題の担当者には、調べたことを授業中に発表してもらいます。毎回の授業の終わりには、授業内容に対するリアクションペーパーを提出してもらいます。発表内容・リアクションペーパーの内容について、可能な限り、学生間の意見交換や討議も行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	仏教成立の経緯(1)	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第2回	仏教成立の経緯(2)	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第3回	仏教の成立	仏陀の生涯
第4回	仏教の教育指導法(説法)	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第5回	仏教の基本思想(1)	五蘊・十二処・十八界 三つの真理(三法印) 「諸行無常」(1)
第6回	仏教の基本思想(2)	「諸行無常」(2) 西洋の真理観との比較
第7回	仏教の基本思想(3)	「諸行無常」(3) 西洋の真理観との比較(続き)
第8回	仏教の基本思想(4)	「一切皆苦」(1) 苦と苦の因 十二支縁起
第9回	仏教の基本思想(5)	「一切皆苦」(2) 苦の滅と苦の滅に至る方法 八支聖道・中道
第10回	仏教の基本思想(6)	「一切皆苦」(3) 苦からの解放と生の充実
第11回	仏教の基本思想(7)	「諸法無我」 非我と無我 人無我と法無我 人無我論証
第12回	初期仏典講読(1)	『ダンマパダ』
第13回	初期仏典講読(2)	『スッタニパータ』
第14回	まとめと授業内試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前学習：プリント資料の精読、発表の準備（課題担当者）

授業後学習：参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

資料はプリントで配布する。

【参考書】

中村元著『原始仏教 その思想と生活』、NHK ブックス、1970年

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK 出版新書、2013年
その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内筆記試験の成績（70%）、授業での発表内容・質疑応答（15%）、平常点（15%）

学期末筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解をためす問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、などによる。

【学生の意見等からの気づき】

仏教思想を学ぶのが初めての学生がほとんどであるから、出来るだけ丁寧な指導・解説を心掛けたいと思います。

【Outline and objectives】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

PRI300LA

I T リテラシー

2016年度以前入学者

PRI300LA

I T リテラシー

2017年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、コンピュータ科学に関する話題について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第3回	2進数、8進数、16進数(1)	2進数について基礎的な概念を学び、応用である8進数、16進数について学ぶ。
第4回	2進数、8進数、16進数(2)	2進数の計算から、8進数、16進数の計算について学ぶ。
第5回	2進数、8進数、16進数(3)	2進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第6回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第7回	情報システム(1)	CMS (Contents Management System) を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第8回	情報システム(2)	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第9回	情報セキュリティ(1)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第10回	情報セキュリティ(2)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第11回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第12回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第13回	インダストリー 4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期期末試験（レポート）と平常点において合計が50%、出席点が50%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧にを行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】
特になし。

PHY300LA

現代科学の新しい目

2016 年度以前入学者

PHY300LA

現代科学の新しい目 A

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の自然科学の急速な発展の一因は、これまで“見る”ことのできなかった現象を、最新の技術革新のもとにいろいろな方法で“見る”ことが可能になってきたことにある。本授業では、現代自然科学のいろいろな場面のうち、ミクロの世界や地球内部などの“見えない”対象を“見る”手段の基礎知識と、その成果について学ぶ。

学生は、現代科学の種々の最先端の成果を無批判に受け入れることなく正しく理解できるための基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

- ・科学の発展の基礎がどこにあるのか理解する。
- ・色々な科学成果が、“何故そのようなになるのか”、自分で理解でき、人に説明できる能力を身につける。
- ・データ解析の初歩を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、適時、実験および実習を行う。
受講希望者が多い場合は、第 1 回目の授業で選抜を行う。（定員：30 名）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	講義内容の解説
2	“見る”ことの基礎 (1)	ものを“見る”技術の発展と科学の進歩
3	“見る”ことの基礎 (2)	波動の性質（屈折、分散、干渉、分光器）
4	測定とデータ解析	測定・データ解析に関する基礎事項
5	ミクロ世界を見る (1)	顕微鏡の仕組み
6	ミクロ世界を見る (2)	屈折率の測定実験
7	ミクロ世界を見る (3)	放射光
8	ミクロ世界を見る (4)	回折と干渉実験
9	ミクロ世界を見る (5)	原子の世界を覗く
10	ミクロ世界を見る (6)	素粒子・原子核の世界を覗く
11	地球を見る (1)	地球という惑星の概要
12	地球を見る (2)	重力の測定
13	地球を見る (3)	地震波と地球内部構造（地殻）
14	地球を見る (4)	地震波と地球内部構造（地球深部）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布される資料、参考文献を用いて講義内容の復習、実験結果の整理・解析を行うこと。更に、新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

・「宇宙創成」上・下、サイモン・シン著、青木薫訳、新潮文庫
（その他必要に応じて、授業内で紹介する）

【成績評価の方法と基準】

適時出題するレポート課題（実験レポート、簡単な発表を含む。配分は約 8 割）と平常点（約 2 割）で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

実験・実習・解析のための時間をもう少し増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（スマホ等のアプリで可）、PC（実験のデータ解析に用いる）

【その他の重要事項】

・入門物理学 A、入門物理学 B、サイエンス・ラボ A、サイエンス・ラボ B、のいずれかを履修していることが望ましい。
・Word、Excel、Power Point の基本的な使い方を身につけていることが望ましい。

【Outline and objectives】

This class introduces some recent achievements of natural science, focusing on understanding of microscopic phenomena and inner structure of our earth.

Students will learn how these achievements become possible by "seeing" the phenomenon which we could not "see" in various ways under the latest innovation.

LAW300LA

法哲学

2016 年度以前入学者

LAW300LA

法哲学 A

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどのような社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。

具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。

秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。履修人数は 25 人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的な課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関する自説を合理的根拠を通じて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、格差社会や死刑制度の是非といった現代社会の具体的な問題・課題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講者には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第 2 回	法哲学を学ぶにあたって 1	法哲学とはどのような学問か、その特徴は何かの概説
第 3 回	法哲学を学ぶにあたって 2	「もしも法がなかったら？」を考える
第 4 回	法哲学を学ぶにあたって 3	「もしも法がなかったら？」に関する討論
第 5 回	格差・不平等問題 1	基礎知識と論点の解説
第 6 回	格差・不平等問題 2	論点と問題点の検討・討論
第 7 回	格差・不平等問題 3	理論的立場の整理
第 8 回	法と道徳 1	基礎知識と論点の解説
第 9 回	法と道徳 2	具体的事例の検討
第 10 回	復興増税 1	基礎知識と論点の解説
第 11 回	復興増税 2	論点と問題点の検討・討論
第 12 回	人工妊娠中絶 1	基礎知識と論点の解説
第 13 回	人工妊娠中絶 2	論点と問題点の検討・討論
第 14 回	人工妊娠中絶 3	出生前診断に関連する論点と問題点について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容をよく復習し、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。レジュメや資料を配布する。

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007 年）
竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010 年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014 年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015 年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016 年刊行予定）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010 年）

内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007年）
 内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009年）
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を中心に（評価割合 80 %程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合 20 %程度を予定）、上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は 25 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。（春学期の「法哲学 A」受講者には、秋学期の「法哲学 B」の履修を優先的に認める。）あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

ARSh300LA

アラブの言語と文化

2016 年度以前入学者

ARSh300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：アラビア語への招待 I

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
 2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アフロアジア世界で 1 億人以上の話し手により使用されており、また国連の 6 番目の公用語である「アラビア語」にチャレンジしてもらいます。

【到達目標】

1 年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めたいける素地を身に付けてもらいたいと希望します。

文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画に沿って、発音・文字（母音・子音）、綴り方、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 発音と文字 1	テキストの紹介、アラビア語に関する解説の後、発音と文字について学ぶ。発音にはあまりこだわらないが、音韻の区別は理解すること。
2	発音と文字 2	アルファベットの前半の文字を学ぶ。
3	発音と文字 3	アルファベットの後半の文字を学ぶ。
4	テキストの紹介 第 1 章	テキストのつくりについて解説する。文字と発音のまとめ
5	第 2 章	名詞、形容詞と定冠詞
6	第 3 章	名詞の性、および指示詞と否定文
7	第 4 章	名詞、形容詞の格変化
8	第 5 章	名詞の数
9	第 6 章	指示詞（単数、双数、複数）
10	第 7 章	人称代名詞
11	第 8 章	否定動詞
12	第 9 章	前置詞
13	第 1 1 章	形容詞
14	授業内試験	「あいさつ」「名詞文」「形容詞文」についてアラビア語の作文を課す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5 月の連休終了までに文字を覚えること。授業の予習としては、最低限どういう文法事項を学ぶことになっているのかは確認しておくこと。復習は必ず行い、疑問点等のないようにしておくこと。少しでもわからないところがあるとついていくのは不可能になります。

【テキスト（教科書）】

テキストとしては、榮谷温子『はじめましてアラビア語』第三書館 を予定しています。
 辞書については、授業中に指示します。

【参考書】

英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期は、平常点 4 0 点、試験の得点 6 0 点、合計 1 0 0 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

【Outline and objectives】

You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is a official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Culture of it.

BIO300LA

自然史

2016 年度以前入学者

BIO300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：～沖縄本島北部ヤンバル地域の自然と文化～

島野 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ、とびきりの自然に触れ、実際に様々な調査、実習を通して、自然と私達の関係を見つめ直す。生物としての人間の生活も考える。地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か。生命とは何か。自然と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついている。現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える。

【到達目標】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

事前に討議、授業およびゼミ形式で行う。夏休みに沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域の現地に訪れ、3泊4日での現地調査、あるいは実習、ディスカッション等をおこなう。再び、事後には討議、授業およびゼミ形式で論文形式にまとめる。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」にまとめ、論文集を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域で行うフィールドワークについて： パソコンの使い方： 調査の進め方
第 2 回	南西諸島の自然	南西諸島の自然について
第 3 回	南西諸島の歴史	南西諸島の歴史について
第 4 回	生物地理学とは	生物地理学概論
第 5 回	博物学・学名	博物学について、生物の名前の付け方。
第 6 回	グループワーク (1)	沖縄県の抱える問題 (1)
第 7 回	グループワーク (2)	沖縄県の抱える問題 (2)
第 8 回	グループワーク (3)	沖縄県の抱える問題 (2)
第 9 回	グループ調査 (1)	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第 10 回	グループ調査 (2)	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第 11 回	グループ調査 (3)	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第 12 回	発表 (1)	事前調査の発表 (1)
第 13 回	発表 (2)	事前調査の発表 (2)
第 14 回	まとめ	各自の発表に基づいたまとめ、フィールドワークのガイダンス。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う実験についてのレポートおよび授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）を主たる評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます。適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】

- 1) 現地調査のための、交通費宿泊代が必要です(約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料 金額は前後することがあります。)、ガイダンスに必ず出席して下さい。
- 2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員(最大 20 名程度)を超えた場合にも、再度、選抜を行います。
- 3) 2017 年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミ I」]、「教養ゼミ II」として履修する学生] 半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミ I「自然史」と教養ゼミ II「自然史」を両方も履修すること。 ※どちらか一方だけの授業は履修できません。
- 4) 2016 年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学 4 (自然史)」として履修する方。年間科目として履修する方は、9 月または 2 月のフィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行う
- 5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。
- 6) 9 月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年 2 月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】

We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

ARSk300LA

グローバル社会の地域研究

2016 年度以前入学者

ARSk300LA

グローバル社会の地域研究 A

2017 年度以降入学者

片岡 義晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「グローバル化」とはそもそも「何」を意味する現象なのでしょうか。わかっているようで、内容不明な用語です。一見「明らか」であるように見えながら、実は「明確」でない「グローバル化」、それに伴う地域変化について、地域に即してその内実を多面的に考えていきたいと思います。

【到達目標】

「グローバル化」に伴う地域変容をとらえようとすることによって、現代の地域社会、現代世界のトータルな理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

テキストを決め、それを読み、要約する作業から始めて行きます。

【授業の方法】

参加者を 4~5 名程度に班編制します。毎回、順番に担当班に報告してもらいます。その際はプリントを用意して全員に配布します。それを踏まえて全員で議論していきます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方 テキスト案
第 2 回	グローバル化、グローバル社会の理解	「グローバル化」、「グローバル社会」の基礎的概念の整理
第 3 回	輪読と討論	ディスカッション
第 4 回	輪読と討論	ディスカッション
第 5 回	輪読と討論	ディスカッション
第 6 回	輪読と討論	ディスカッション
第 7 回	輪読と討論	ディスカッション
第 8 回	輪読と討論	ディスカッション
第 9 回	輪読と討論	ディスカッション
第 10 回	輪読と討論	ディスカッション
第 11 回	輪読と討論	ディスカッション
第 12 回	輪読と討論	ディスカッション
第 13 回	輪読と討論	ディスカッション
第 14 回	輪読と討論	ディスカッション

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

まずは、決めたテキストを読むこと、それをまとめることです。授業に来て、座っているだけではこの授業は成立しません。自ら手足を動かし、議論し、発表することが必要です。

【テキスト(教科書)】

授業の最初にテキスト案を示します。

【参考書】

鶴見良行(1982)『バナナと日本人』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表、議論、まとめ等、総合的に判断します。平常点は評価基準の重要な部分です。

【学生の意見等からの気づき】

「批判が多すぎる」とか「具体案がない」とか、他の授業では言われているようです。とはいえ、それを素直に受け入れようなどとは思っていません。「具体案」を示し、それを実行できるくらいなら、この社会はもっと変革されているはずです。安易な「解決策」など示さず、試行錯誤しつつ考えていこうと思います。

【Outline and objectives】

The dark side of Globalization and regional problems.

BIO300LA

人間と地球環境

2016年度以前入学者

BIO300LA

人間と地球環境

2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、私たちは「危機の時代」を生きていると言われていています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワード、人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎だけでなく、社会的要素も含め、広い視野から学習していきます。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1) 種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2) 環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3) 各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題の全体像を把握すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本講座では「持続可能性」の観点から様々な話題にふれますが、大まかに二部に分けられます。第一に、私たちの暮らしの場をつくり様々な資源の供給源となる自然環境について、生態系・生物多様性の基本的特徴について学習します。第二に、私たちの生活に欠かせない食糧供給や自然資源の利用に目を向け、農業や資源管理に関連する環境問題や社会的問題について学習します。基本的には講義形式で解説していきますが、映像資料やグループワークも取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第2回	生態系における「安定性」	安定した生態系とはどのようなものかを、破壊と再生のプロセスから考えてみます。
第3回	生物がつくるコミュニティ	生態系を構成する複数種類の生物同士の関係によって構成される生物のコミュニティがどのようなものかについて学びます。
第4回	生物多様性はなぜ重要か？	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第5回	持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決へ応用を目的としたグループワークを行います。
第6回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第7回	なぜ食糧問題はおきるのか？	食糧供給の現状と「食糧不足」が起きる原因について考察します。
第8回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第9回	南諸国から見た世界	経済的グローバリゼーションは発展途上国に何をもたらしたのかを考えてみます。
第10回	資源開発は持続可能か？	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第11回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第12回	多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第13回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第14回	地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義内容の復習、配布資料の通読。
欠席時には授業支援システム掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

授業中に適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト = 40%、授業参加（授業内活動や映画鑑賞の感想共有など） = 20%、期末レポート = 40%を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の資料やグループワークは、好評でもあり、学生同士での意見交換など参加型の授業形態についてさらに工夫をかせねたい。

【Outline and objectives】

There is a recognition that we are living in the age of crises. This is an indication that the human society is currently facing various environmental problems, as well as social problems such as hunger and poverty. In consideration of such human conditions, this course focuses on the concept of "sustainability" to learn and consider the human-nature relationship as well the human-human relationships. In order to do so, students will learn the basic aspects of environmental and social problems.

CHM300LA

イオンの科学 2016年度以前入学者

CHM300LA

イオンの科学 A 2017年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義と実験を行います。授業ごとに簡単な実験を行い、ミニレポートを課します。高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第2回	原子の構造	原子の構造と性質
第3回	砂糖と塩	イオンと有機化合物の違いについて
第4回	塩の溶解	水に溶けやすい塩と溶けにくい塩について
第5回	電子の配置	イオンになりやすい原子について
第6回	炎色反応	各種原子固有の光について
第7回	ホウ砂球反応	各種イオンを含む水溶液の色について
第8回	3d 遷移金属	電子の軌道について
第9回	水と酸塩基	水中のイオンの構造について
第10回	イオンの化学反応	イオンと化学物質の結びつきについて
第11回	金属イオンの分離 1	イオンの沈殿反応について
第12回	金属イオンの分離 2	沈殿生成によるイオンの分離
第13回	金属イオンの定性分析	未知試料に含まれる金属イオンの検出
第14回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポート（配分 70%）と学期末試験（配分 30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。

受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。2017、2018 年度は抽選を実施しました。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

ECN300LA

グローバル経済論 2016年度以前入学者

ECN300LA

教養ゼミ I 2017年度以降入学者

サブタイトル：グローバル経済の課題と展望 A

水野 和夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀末以降、日本をはじめ世界はこれまでにない事態に直面している。日本はデフレ、ゼロインフレの定着、ゼロ金利の長期化で、近代=成長という常識が通用しなくなっている。米国でもトランプ大統領が2018年9月に反グローバリズム宣言をし、米中貿易摩擦が激化し、「米中新冷戦」と言われる。いわば、これまでの「常態」が隠れ、「例外状況」が顕在化するようになった。「正常は何物をも証明せず、例外がいっさいを証明する」背景を理解することができる。

【到達目標】

春学期の具体的な到達目標は、次の二つのテーマを通じて、現代社会が抱える問題点を探る。

テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」

テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション、プレゼンを組み合わせることで、質疑応答を通じて自らの考えを深め、プレゼンテーション能力を高めていく。各個人（ないし各グループ）で1ないし2回程度のプレゼンを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業（演習）の概要と進め方の説明
第2回	基礎概念の説明Ⅰ	経常収支と貯蓄・投資バランス、家計、企業、政府、海外の貯蓄投資バランスの関係
第3回	基礎概念の説明Ⅱ	資本収支と資金過不足、家計、企業、政府、海外の資金過不足の関係
第4回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」①	「利子とはなにか」（利子説の紹介）
第5回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」②	「利子生活者の安楽死」とは
第6回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」③	2030年、「わが孫たちの経済的可能性」（ケインズ、1930）、「例外」と「常態」
第7回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」④	13世紀、利子誕生の経緯
第8回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」⑤	テーマⅠのまとめと質疑応答
第9回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」①	支配と被支配の正当性基準は何か、その変遷
第10回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」②	国際収支の発展段階説-中国は債権国か債務国か
第11回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」③	帝国とは何か—マイケル・ドイルの「帝国」論、カフカ「皇帝の論旨」
第12回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」④	テーマⅡのまとめと質疑応答
第13回	プレゼンテーションⅠ	テーマⅠについて発表
第14回	プレゼンテーションⅡ	テーマⅡについて発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに掲載した資料をよく読むこと。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回、レジュメを授業支援システムに掲載。

【参考書】

『新版 グローバリゼーション』（マンフレッド・B. スティーガー、櫻井純理訳、岩波書店、2010年）

<https://www.iwanami.co.jp/book/b256795.html>

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 40% + プレゼン内容 60%

【学生の意見等からの気づき】

演習形式なので、毎回学生の意見を聞いて、次回の授業に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジュメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces a cause of zero interest rate and US-China New Cold War to students taking this course. Students can understand that exceptions prove anything.

POL300LA

政治思想

2016 年度以前入学者

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ポスト冷戦期の日本と世界 A

大井 赤亥

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

冷戦が終焉して 30 年が経ち、「ポスト冷戦期」が歴史や学問の対象になり始めている。1989 年は東西対立の終結、55 年体制やバブル経済の崩壊など、多くの出来事が重なった時期であり、その後 30 年間の日本の政治経済の変化の起点となった。このゼミでは、ポスト冷戦期の日本を、さしあたり、(1) 政治における「右傾化」、(2) 経済における「改革(化)」という二つの視点から振り返り、その時代の特徴と性格を把握したい。

【到達目標】

- ① 55 年体制下の日本政治とポスト冷戦期の日本政治との違いを理解できるようになる。
- ② ポスト冷戦期 = 平成年間の日本の政治と経済の特徴的出来事を説明できるようになる。
- ③ これからの日本の政治と経済のあるべき方向性について自分なりの考えを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に演習形式で行い、毎回授業の前半は学生による報告、後半は参加者全員による討論にあてる。授業参加者には少なくとも 1 回の発表をしてもらう。また、3 回程度は教員による講義を行ない、ポスト冷戦期の出来事の基本的知識や大まかな認識枠組を提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の狙いと進め方、発表者の割り当て
2	ポスト冷戦期の日本の政治	【講義】 日本政治の対立軸の変化
3	ポスト冷戦期の日本社会の変化	【発表】 政治の変化をもたらした社会と産業の変化
4	『右傾化する日本政治』	【発表】 55 年体制の「保革対立」と支持基盤
5	『右傾化する日本政治』	【発表】 冷戦の終焉と 1990 年代の政界再編
6	『右傾化する日本政治』	【発表】 安倍政権下の「改憲」と「改革」
7	ポスト冷戦期の日本の経済	【講義】 経済成長の鈍化と政治の反応
8	『平成はなぜ失敗したのか』	【発表】 バブル崩壊と製造業の変容
9	『平成はなぜ失敗したのか』	【発表】 1990 年代の経済危機
10	『平成はなぜ失敗したのか』	【発表】 リーマンショックと日本経済
11	『平成はなぜ失敗したのか』	【発表】 民主党政権からアベノミクスへ
12	追加教材	発表と議論
13	追加教材	発表と議論
14	追加教材	発表と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在、政治や経済に関する情報源は、インターネットと活字（新聞、雑誌、書籍など）に二分化されている。インターネットと活字の双方に強みと弱みがあるため、さしあたり、ネット上のニュースと新聞との双方に日常的に触れ、バランスよく情報を摂取するようにしてほしい。

【テキスト（教科書）】

中野見一『右傾化する日本政治』岩波新書、2015 年
野口悠紀雄『平成はなぜ失敗したのか』幻冬舎、2019 年

【参考書】

小熊英二編『平成史（増補新版）』河出書房新社、2014 年
中北浩爾『自民党「一強」の実像』中公新書、2017 年
脇田成『日本経済論 15 講』新世社、2019 年

【成績評価の方法と基準】

発表内容（60 %）、レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide a basic framework to understand the Japanese politics and economy since 1989, and to discuss the past and future of the contemporary Japanese politics. In doing so, this course focuses (1) "tilt toward right" in politics and (2) trend of "reform" in economic agenda as two important perspectives to analyze Japan after the end of the Cold War.

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で週 1 回、半期にわたって開講される。学科を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム I	さまざまなボールゲームを行う（講義と実習）。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える（講義）。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う（講義と実習）。
5	ネットスポーツ I	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う（講義と実習）。
6	ネットスポーツ II	ネットスポーツとしてバドミントンを行う（講義と実習）。
7	ネットスポーツ III	ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う（講義と実習）。
8	ネットスポーツ IV	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う（講義と実習）。
9	ボールゲーム II	バスケットボールを行う（講義と実習）。
10	ボールゲーム III	フットサルを行う（講義と実習）。
11	ネットスポーツ V	ネットスポーツとして簡易ルールにてバレーボールを行う（講義と実習）。
12	ネットスポーツ VI	ネットスポーツとしてバレーボールを行う（講義と実習）。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う（講義と実習）。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析についての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたいうで授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を確認し十分な出席がされていれば以下のように評価する。

授業の取組み平常点 40 点

授業内課題 40 点

レポート課題 20 点

以上 100 点満点で、総合的に判断して授業担当教員が評価する。

またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016 年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を醸成および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で週 1 回、半期にわたって開講される。学科を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲームⅠ	さまざまなボールゲームを行う（講義と実習）。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える（講義）。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う（講義と実習）。
5	ネットスポーツⅠ	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う（講義と実習）。
6	ネットスポーツⅡ	ネットスポーツとしてバドミントンを行う（講義と実習）。
7	ネットスポーツⅢ	ネットスポーツとして卓球のシングルスを行う（講義と実習）。
8	ネットスポーツⅣ	ネットスポーツとして卓球のダブルスを行う（講義と実習）。
9	ボールゲームⅡ	バスケットボールを行う（講義と実習）。
10	ボールゲームⅢ	フットサルを行う（講義と実習）。
11	ネットスポーツⅤ	ネットスポーツとして簡易ルールにてバレーボールを行う（講義と実習）。
12	ネットスポーツⅥ	ネットスポーツとしてバレーボールを行う（講義と実習）。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行う（講義と実習）。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析についての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えたくて授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を確認し十分な出席がされていれば以下のように評価する。

授業の取組み平常点 40 点

授業内課題 40 点

レポート課題 20 点

以上 100 点満点で、総合的に判断して授業担当教員が評価する。

またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

therefore,students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students future of life.Concretely,we will educate to maintain and promote their own health,to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】

本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくきとする。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期・・・基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講希望理由を記入し決定する。
2	歴史とルール	バドミントンの概要（講義&実技）
3	基本技術	フットワーク・ラケットワークの説明と使い方（講義・実技）
4	基本技術	シャトルを使つてのストローク（講義・実技）
5	基本ストローク	ドライブ技術習得（講義・実技）
6	基本ストローク	クリア技術習得（講義・実技）
7	基本ストローク	ドロップ&レシーブ技術習得（講義・実技）
8	基本ストローク	プッシュ&レシーブ技術習得（講義・実技）
9	基本ストローク	スマッシュ&レシーブ&ネット技術習得（講義・実技）
10	審判	ダブルスでの審判・線審の仕方（講義・実技）
11	ゲーム	半面シングルス
12	ゲーム	半面シングルの結果により、実力別による
13	ゲーム	ダブルス
14	実技試験	基本ストローク実技試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

資料はその都度配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

個人競技であるため春学期は平均点（60点）と技術習得点（20点）とジャッジメント習得点（20点）の実技試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特になし

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴。

【その他の重要事項】

怪我の内容に、各自でトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】

本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくめてきとする。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる6種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどをDVDを観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期・・・基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる6種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどをDVDを観戦させながら知識としても理解を深めていく。

バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基本技術	各ストロークの復習（講義&実技）
2	基本技術	各ストロークの確認（講義&実技）
3	シングルの組み立て	DVD等による学習（講義）
4	シングルの組み立て	シングルのフットワーク・ラケットワーク技術（講義&実技）
5	シングルの組み立て	シングルのポジショニング（講義&実技）
6	ダブルスゲームの組み立て	DVD等による学習（講義）
7	ダブルスゲームの組み立て	ダブルスのフォーメーション（講義&実技）
8	ダブルスゲームの組み立て	フォーメーション（トップ&バック）（講義&実技）
9	ダブルスゲームの組み立て	フォーメーション（サイド by サイド）（講義&実技）
10	ダブルスゲームの組み立て	ローテーション技術（講義&実技）
11	ダブルスゲーム	トランプによるペア決め
12	トリプルス	ルール等の説明とやり方
13	トリプルスゲーム展開	トリプルスゲーム（講義&実技）
14	実技試験	各競技の技術試験（ジャッジメント含む）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけでなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

その都度配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

個人競技であるため春学期は平均点（60点）と技術習得点（20点）とジャッジメント習得点（20点）の実技試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装、運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、各自でトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

磯部 薫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身に付け、自立的にスポーツを自分のライフワークに取り入れる一つのきっかけになる様心がける。
講義と体験的学習を通じて各種目に関する理解を深めていく。

【到達目標】

自己の体力レベルを把握することができる。
心身の健康増進を図ることができる。
生涯にわたる運動習慣を身に付けることができる。
コミュニケーション能力といった社会性を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は数種目のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、レポート課題や毎回のリアクションペーパーの評価を総合的に判断して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定等
2	マシントレーニング講習	目的に応じた効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ
3	講義	筋肉のしくみを学ぶ
4	講義	運動と食事の関係性を学ぶ
5	バドミントン I	バドミンントンの競技特性・ルールを理解、ゲーム
6	バドミントン II	バドミンントンの基本的技術の習得、ゲーム
7	卓球 I	卓球の競技特性・ルールを理解、ゲーム
8	卓球 II	卓球の基本的技術の習得、ゲーム
9	バレーボール I	バレーボールの競技特性・ルールを理解、ゲーム
10	バレーボール II	バレーボールの基本的技術の習得、ゲーム
11	講義	メンタルトレーニングを学ぶ
12	講義	オリンピック競技を学ぶ
13	インディアカ	インディアカの競技特性・ルールを理解、ゲーム
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各種目 2020 オリンピック・パラリンピック種目でもあるので、日常のテレビや新聞、雑誌等で扱われるニュースに関心を持ち、各々の番組等で提起される課題について考えることが（予習）につながる。
また実習するにあたり、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します

【参考書】

必要に応じて資料を配布します

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 50 %：各授業で取り組みリアクションペーパー及び最終授業時に課すレポート課題 50 %
授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、授業に対する主体的・積極的な取り組み状況を評価の対象とするという意味である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。
スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出しはありません。

【その他の重要事項】

初回授業時に受講者を決定する。その際、教場の関係から受講者数は 35 名程度とする。

第一回目の授業に必ず出席のこと。

春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Pay attention to how to enjoy according to your skills and try to become a trigger to incorporate sports autonomously into your own life work.

We will deepen our understanding of various eyes through lectures and experiential learning.

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016 年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

磯部 薫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身に付け、自立的にスポーツを自分のライフワークに取り入れる一つのきっかけになる様心がける。
講義と体験的学習を通じて各種目に関する理解を深めていく。

【到達目標】

自己の体力レベルを把握し、向上させることができる
心身の健康増進を図ることができる
生涯にわたる運動習慣を身に付けることができる
コミュニケーション能力といった社会性を習得することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は数種目のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、レポート課題や毎回のリアクションペーパーの評価を総合的に判断して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定等
2	マシントレーニング講習	トレーニング機器の使用方法和効果を学ぶ
3	講義	筋肉のしくみを学ぶ
4	講義	運動と食事の関係性を学ぶ
5	バドミントンⅠ	バドミントンの競技特性・ルールの理解、ゲーム
6	バドミントンⅡ	バドミントンの基本的技術の習得、ゲーム
7	卓球Ⅰ	卓球の競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	卓球Ⅱ	卓球の基本的技術の取得、ゲーム
9	バレーボールⅠ	バレーボールの競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バレーボールⅡ	バレーボールの基本的技術の習得、ゲーム
11	講義	メンタルトレーニングを学ぶ
12	講義	オリンピック競技を学ぶ
13	インディアカ	インディアカの競技特性・ルールの理解、ゲーム
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各種目 2020 オリンピック・パラリンピック種目でもあるので、日常のテレビや新聞、雑誌等で扱われるニュースに関心を持ち、各々の番組等で提起される課題について考えることが（予習）につながる。
また実習するにあたり、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します

【参考書】

必要に応じて資料を配布します

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 50 %：各授業で取り組みアクションペーパー及び最終授業時に課すレポート課題 50 %
授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、授業に対する主体的・積極的な取り組み状況を評価の対象とするという意味である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。
スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出しはありません。

【その他の重要事項】

初回授業時に受講者を決定する。その際、教場の関係から受講者数は 35 名程度とする。

第 1 回目の授業に必ず出席のこと。

春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Pay attention to how to enjoy according to your skills and try to become a trigger to incorporate sports autonomously into your own life work.

We will deepen our understanding of various eyes through lectures and experiential learning.

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016 年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ウォーキング・ヨガストレッチ

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツ・ウォーキングは、携帯アプリケーションを活用して授業を展開する。いくつかのグループに分け、大学周辺をコースとして実践する。雨天の場合は室内で実施する場合もある。

ヨガは、筋肉の解剖を意識して、ヨガのポーズを実践する。また呼吸を意識しながら瞑想状態に近づく様、心身のリラクゼーションを図る。教室で行う講義は、DVD やプロジェクターを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	スポーツ・ウォーキング I (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングについて概説し、身体における効用について説明し、大学周辺を実践する。
5	スポーツ・ウォーキング II (講義および実習)	基本技術を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨガ I (講義および実習)	ヨガについて概説し、基本のポーズと解剖学を説明する。
7	ヨガ II (講義および実習)	基本ポーズとその解剖学について説明し、実践する。
8	スポーツ・ウォーキング III (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら実践する。特に走り型にならないように注意する。
9	スポーツ・ウォーキング IV (講義および実習)	バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
10	ヨガ III (講義および実習)	基本ポーズとその解剖学について説明し実践する。
11	スポーツ・ウォーキング V (講義および実習)	呼吸法について説明し実践する。 携帯アプリケーションを活用して、移動距離数から身体活動に関わるエネルギー消費を検討する。

1 2	ヨガⅣ (講義および実習)	基本ポーズとその解剖学について説明し実践する。
1 3	ヨガⅤ (講義および実習)	呼吸法について説明し実践する。 基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨガとして実践する。 Meditation (瞑想) の方法を説明する。
1 4	まとめ	スポーツ・ウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。

心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 % 2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるように配慮する。

【その他の重要事項】

1. 本講義は活動に対する参画状況を重視する。
2. 体力測定に関するレポートおよび授業時に課したレポートの提出を単位認定条件とする。
3. 受講者数、男女比、天候などにより授業計画の変更もある。

【Outline and objectives】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

HSS300LA

スポーツ科学Ⅰ

2016年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン	歴史と道具の説明、ラケットとシャトルになれる。(講義&実技)
4	バドミントン	基本ストロークの練習とシングルスゲーム(講義&実技)
5	バドミントン	基本ストロークの練習とダブルスゲーム(講義&実技)
6	ユニホック	歴史と道具とルールの説明、スティックとボールになれる。(講義&実技)
7	ユニホック	ゲーム
8	バスケットボール	歴史と道具とルールの説明、基本練習(講義&実技)
9	バスケットボール	ゲーム
10	バレーボール	歴史と道具とルールの説明、基本練習(講義&実技)
11	バレーボール	ゲーム
12	フットサル	歴史と道具とルールの説明、基本練習(講義&実技)
13	フットサル	ゲーム
14	レポート	反省と感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。」

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我防止のため、トレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業説明
2	バドミントン	基本ストロークと基本練習
3	バドミントン	全面シングルス
4	バドミントン	ダブルスゲーム
5	バスケットボール	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
6	バスケットボール	リーグ戦
7	バレーボール	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
8	バレーボール	リーグ戦
9	ユニホック	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
10	ユニホック	リーグ戦
11	フットサル	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
12	フットサル	リーグ戦
13	卓球	リーグ戦
14	レポート	レポートと反省・感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えたうえで授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。」

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特になし。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、トレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】
Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めることで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は 2 年生以上を対象としており、A・B 連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、ルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習&講義）	コートの位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術・レシーブのフォーメーションについて（実習&講義）	レシーブのフォーメーションについて理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	集団的技術・ゲーム①（実習&講義）	チーム分けをし、各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第 11 回	集団的技術・ゲーム②（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術・ゲーム③（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 13 回	集団的技術・ゲーム④（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 14 回	筆記試験	筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習にあたっては、運動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また、基本的なルールや技術に必要な要点など、各自で行った内容を理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（60%）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は2年生から4年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現Vリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めることで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、春学期Aで習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業（B）は2年生以上を対象としており、Aを受講した学生の連続受講が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	バレーボールのトレーニングについて（実習&講義）	バレーボールに必要な体力要素を理解し、トレーニング実習を行う。
第2回	ビーチバレーの紹介（講義）	ビーチバレーのルールやインドアバレーとの違いについて理解する。
第3回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	Aで行った基本的技術や集団的技術を復習する。
第4回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第5回	集団的技術・ゲーム①（実習&講義）	Aとは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第6回	集団的技術・ゲーム②（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。Aよりも質の高いプレーを目指し、ゲームでの反省点も理解する。
第7回	集団的技術・ゲーム③（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第8回	集団的技術・ゲーム④（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第9回	集団的技術・ゲーム⑤（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第10回	集団的技術・ゲーム⑥（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第11回	集団的技術・ゲーム⑦（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第12回	集団的技術・ゲーム⑧（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第13回	実技試験（実習&講義）	授業で行ってきた各技術の要点を振り返り、実技試験を行う。
第14回	レポート作成、提出	レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習にあたっては、運動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（70%）を主な基準として、レポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は2年生から4年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現Vリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：バスケットボール

小谷 究

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、バスケットボール競技の基本技能を学び、理解を深めることにより、バスケットボール競技を生涯スポーツの一つに位置付けるきっかけをつくることをねらう。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自ら技能を高めるために、自主的に取り組む姿勢を身につける（関心・意欲・態度）。 2. 自主的に、自分自身および周囲の安全性に配慮して、バスケットボール競技の練習ができる（関心・意欲・態度）。 3. バスケットボール競技の安全に関するルールについて説明することができる（知識・理解）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実技では、鬼ごっこ等を活用したウォームアップから始まり、前半は技術ドリルを行い、後半はドリルをもとにゲームを行う。最後にスタティックストレッチによるクールダウンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	全体の概要説明、安全に関するルールについての説明
第2回	ボールコントロールに関する技能の練習①	ボールハンドリング
第3回	ボールコントロールに関する技能の練習②	ドリブル
第4回	ボールコントロールに関する技能の練習③	パス
第5回	ボールコントロールに関する技能の練習④	セットショット
第6回	トレーニング理論	バスケットボール競技に特異的なトレーニング
第7回	チームビルディング（コンセンサス）	コンセンサスゲームを用いて、チームスポーツ及びチームにおける合意の重要性を理解し、後に続くスポーツ実技への展開を考察する。
第8回	卓球	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
第9回	卓球	1 卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。 2
第10回	ボールコントロールに関する技能の練習⑤	ゴール下ジャンプショット
第11回	ボールコントロールに関する技能の練習⑥	レイアップショット
第12回	知識確認①	バスケットボール競技の安全性に関するルールの確認 1
第13回	知識確認②	バスケットボール競技の安全性に関するルールの確認 2
第14回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動等に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料はその都度配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

開講授業回数の 2/3 以上の出席がなければ、単位は認定されない。
 到達目標 1 の「興味・関心」および「自主的に取り組む姿勢」については、出席状況と観察により評価する（60%）。
 到達目標 2 の「安全性への配慮」に関しては、授業時に危険な行動を取った場合に減点する（20%）。
 到達目標 3 の「ルール」については、レポートもしくは小テストにより評価する（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

意欲的な学生が多いのでルールを覚える事とともに継続的に健康・体力維持するために必要なことを指導していきたい。

【Outline and objectives】

In this lesson, by learning the basic skills of basketball competition and deepening their understanding, we aim to create a chance to position basketball competition as one of lifelong sports.

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016 年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バスケットボール

小谷 究

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、バスケットボール競技の基本技能を学び、理解を深めることにより、バスケットボール競技を生涯スポーツの一つに位置付けるきっかけをつくることをねらう。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自ら技能を高めるために、自主的に取り組む姿勢を身につける（関心・意欲・態度）。 2. 自主的に、自分自身および周囲の安全性に配慮して、バスケットボール競技の練習ができる（関心・意欲・態度）。 3. バスケットボール競技の安全に関するルールについて説明することができる（知識・理解）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実技では、鬼ごっこ等を活用したウォームアップから始まり、前半は技術ドリルを行い、後半はドリルをもとにゲームを行う。最後にスタティックストレッチによるクールダウンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の概要説明、安全に関するルールについての説明
第 2 回	ボールコントロールに関する技能の練習①	ボールハンドリング
第 3 回	ボールコントロールに関する技能の練習②	ドリブル
第 4 回	ボールコントロールに関する技能の練習③	パス
第 5 回	ボールコントロールに関する技能の練習④	セットショット
第 6 回	トレーニング理論	バスケットボール競技に特異的なトレーニング
第 7 回	チームビルディング（コンセンサス）	コンセンサスゲームを用いて、チームスポーツ及びチームにおける合意の重要性を理解し、後に続くスポーツ実技への展開を考察する。
第 8 回	卓球	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
第 9 回	卓球	1 卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。 2
第 10 回	ボールコントロールに関する技能の練習⑤	ゴール下ジャンプショット
第 11 回	ボールコントロールに関する技能の練習⑥	レイアップショット
第 12 回	知識確認①	バスケットボール競技の安全性に関するルールの確認 1
第 13 回	知識確認②	バスケットボール競技の安全性に関するルールの確認 2
第 14 回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動等に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料はその都度配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

開講授業回数の 2/3 以上の出席がなければ、単位は認定されない。
 到達目標 1 の「興味・関心」および「自主的に取り組む姿勢」については、出席状況と観察により評価する（60%）。
 到達目標 2 の「安全性への配慮」に関しては、授業時に危険な行動を取った場合に減点する（20%）。
 到達目標 3 の「ルール」については、レポートもしくは小テストにより評価する（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

意欲的な学生が多いのでルールを覚える事とともに継続的に健康・体力維持するために必要なことを指導していきたい。

【Outline and objectives】

In this lesson, by learning the basic skills of basketball competition and deepening their understanding, we aim to create a chance to position basketball competition as one of lifelong sports.

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニング

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった個々の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 個々の目標達成に資する独自のトレーニングプログラムを考案する。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義と体験的学習を通じてトレーニングに関する理解を深めていく。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、個々が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングメニューの幅を広げる。各授業では、個々が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況及び成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、独自のトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定、トレーニング目標の設定（講義）
2	トレーニング入門	安全講習及び各種機器の使用方法について学ぶ（講義及び実習）
3	トレーニングの理論 1	トレーニングの原理・原則について学ぶ（講義）
4	トレーニングの理論 2	体幹トレーニングの理論と実践（講義及び実習）
5	自己理解の促進	グループワークを通じて自己理解、他者理解を促進する（講義及び実習）
6	トレーニングの進め方	リカバリーレートと超回復について学ぶ（講義及び実習）
7	トレーニングと体組成	トレーニングと体組成の関係について学ぶ（講義及び実習）
8	トレーニングと栄養	トレーニング効果を高める食事・サプリメントの摂取の仕方について学ぶ（講義及び実習）
9	トレーニングと睡眠	トレーニング効果を高める睡眠のとり方について学ぶ（講義及び実習）
10	無酸素運動	無酸素運動について学ぶ（講義及び実習）
11	有酸素運動	有酸素運動について学ぶ（講義及び実習）
12	上肢のトレーニング	上肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下肢のトレーニング	下肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	総括	トレーニングプログラムに関するレポートの作成・提出、授業のまとめ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニング効果促進のため、食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

特定の参考書は使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパーおよび授業への参画状況（50%）、レポート課題（50%）による総合評価。
2. 原則として欠席3回までを評価の対象とするため、初回授業から出席すること。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味である。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 講義中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30名程度）を決定する。なお、継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となる。そのため、スポーツ科学A・Bの通年履修が望ましい。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館1階・会議室の予定である。
3. 上記の授業計画は、受講者数等によって変更される場合がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles and methods of physical training. It also enhances the development of student's skill in an original training program.

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：トレーニング

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ科学Aでの学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった個々の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 個々の目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案する。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義と体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について理解を深めていく。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、個々が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学Aにおいて考案したトレーニングプログラムをブラッシュアップする。各授業では、個々が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況及び成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、独自のトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定、トレーニングプログラムの再考（講義及び実習）
2	トレーニング再入門	安全講習及び各種機器の効果的な使用方法に関する情報共有（講義及び実習）
3	自己理解の促進	グループワークを通じて自己理解、他者理解を促進する（講義及び実習）
4	トレーニングと姿勢	トレーニングと姿勢について学ぶ（講義及び実習）
5	ストレッチ	ストレッチの理論と実践（講義及び実習）
6	有酸素運動と無酸素運動	有酸素運動と無酸素運動の効果について学ぶ（講義及び実習）
7	胸部のトレーニング	胸部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
8	肩部のトレーニング	肩部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
9	背部のトレーニング	背部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
10	腹部のトレーニング	腹部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
11	腕部のトレーニング	腕部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
12	大腿のトレーニング	大腿のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下腿のトレーニング	下腿のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	総括	トレーニングプログラムに関するレポートの作成・提出、授業のまとめ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニング効果促進のため、食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

特定の参考書は使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパーおよび授業への参画状況（50％）、レポート課題（50％）による総合評価。
2. 原則として欠席3回までを評価の対象とするため、初回授業から出席すること。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味である。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 講義中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30名程度）を決定する。その際、スポーツ科学A・Bの通年履修を推奨する観点から、春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用する。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館1階・会議室または地下トレーニングセンターの予定である。
3. 上記の授業計画は、受講者数等によって変更される場合がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the applied principles and methods of physical training. It also enhances the development of students' skill in an original training program.

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③卒業後の実社会において活躍する上で、重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず2年生以上が履修可能であるが、受講者数に制限があるため、第1回目のガイダンスにおいて履修可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についてのガイダンス及び履修者確定
2	ウォーミングアップ	ウォーミングアップの重要性について講義及び実習
3	リーダーシップとボールゲーム1	リーダーシップについて講義及び実習1
4	リーダーシップとボールゲーム2	リーダーシップについて講義及び実習2
5	チームワークとボールゲーム	チームワークについて講義及び実習
6	コミュニケーションと身体活動	コミュニケーションについて講義及び実習
7	筋力トレーニング	トレーニングについて講義及び実習
8	トレーニングと健康	トレーニングと健康について講義
9	チームワークと身体活動	チームワークについて講義及び実習
10	フィットネス	フィットネスについて講義及び実習
11	コミュニケーションとボールゲーム	コミュニケーションについて講義及び実習
12	レクリエーションと身体活動	レクリエーションと身体活動について講義及び実習
13	レクリエーションとボールゲーム1	レクリエーションとボールゲームについて講義及び実習 レポート課題
14	レクリエーションとボールゲーム2	授業の総括及びレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、その都度指示をする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業の活動に対する参画状況60%
 - ②課題・レポート40%の配分として総合評価する。
- この成績評価は原則的なものであり、特別な理由がある場合、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の主体性を考慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

教場等、場合により変更の可能性もあります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合、授業1回目のガイダンス時に決定する。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容等についてのガイダンス 受講者確定
2	ウォーミングアップ	ウォーミングアップの講義及び実践
3	体力測定	体力測定の意義及び実践
4	バドミントン	スポーツと健康について講義 バドミンントンの基礎技術の習得及びゲーム
5	バレーボール	スポーツと健康について講義 バレーボールの基礎技術の習得及びゲーム
6	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
7	トレーニング演習	トレーニング理論の講義及び実践
8	運動と健康	運動の効果について講義
9	卓球	スポーツと健康について講義 卓球の基礎技術の習得及びゲーム
10	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
11	筋力トレーニング	筋力トレーニングについて講義及び実践
12	バスケットボール	スポーツと健康について講義 バスケットボールの基礎技術習得及びゲーム
13	フットサル	スポーツと健康について講義フットサルの基礎技術習得及びゲーム レポート課題
14	総括	授業の総括 健康についてのディスカッション レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況(60%)、2) 課題・レポート(40%)の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

自分の健康管理を十分に行い、常に良好な状態で履修することが望ましい。
教場等、計画通りに進行できないこともある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore,students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical,mental and social health necessary throughout the students'future of life.

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フィットネス

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について理解を深める。

豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、希望者多数の場合、1 回目の授業ガイダンスにおいて履修者を決定する。

授業はトレーニング実習が主となる他、幾つかのスポーツも実践する。

PDCA 理論ののっとり、各自のトレーニング計画を立て、それに沿った内容で実習を行う。毎回トレーニング内容とリアクションペーパーを作成し提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容についてガイダンスを行う 履修者を決定する
2	ウォーミングアップの意義	ウォーミングアップの意義についての講義及び実践
3	トレーニングの基礎	トレーニングの基礎理論について講義
4	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
5	講義及び卓球	スポーツと健康について講義 卓球の基礎技術の習得及びゲーム
6	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
7	トレーニング演習 1	PDCA 理論に沿ったトレーニングの実践 講義及び実習
8	トレーニング演習 2	PDCA 理論に沿ったトレーニングの実践 講義及び実習
9	トレーニング演習 3	PDCA 理論に沿ったトレーニングの実践 講義及び実習
10	トレーニング演習 4	PDCA 理論に沿ったトレーニングの実践 講義及び実習
11	トレーニング演習のチェック	PDCA 理論に沿ったトレーニングのチェック 講義及び実習
12	トレーニング演習 5	PDCA 理論に沿ったトレーニングの実践 講義及び実習
13	ディスカッション	トレーニング内容についてディスカッションを実施 レポート課題
14	授業総括	授業を総括する レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で臨むこと。

授業後の課題や次の授業への準備等は、その都度の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価は方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに即した内容の提供を心がけた。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

日頃より各自の健康状態をチェックし、常に良好な状態での履修が望ましい教場等、計画通りに進行しない場合もある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this cour are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：フィットネス

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたりって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合1回日のガイダンス時に履修者決定を行う

各自の計画に基づくトレーニング及び数種目のスポーツ実践を行う。

PDCA理論に沿ったトレーニングの立案、実施、評価、見直しを行う。毎時間トレーニング内容及び反省を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容のガイダンス 受講者の決定
2	PDCA理論	PDCA理論について講義する
3	トレーニング理論	トレーニング理論について講義する
4	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
5	講義及び卓球	スポーツと健康について講義。卓球の基礎技術習得及びゲーム 講義及び実習
6	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
7	トレーニング演習1	トレーニング計画に沿った内容の実践 講義及び実習
8	トレーニング演習2	トレーニング計画に沿った内容の実践 講義及び実習
9	トレーニング演習3	トレーニング計画に沿った内容の実践 講義及び実習
10	トレーニング演習4	トレーニング計画に沿った内容の実践 講義及び実習
11	トレーニング内容のチェック	トレーニング内容をチェックし、必要に応じて見直しをする。 講義
12	トレーニング演習5	トレーニング計画に沿った内容の実践 講義及び実習
13	ディスカッション	トレーニング内夜についてディスカッションを行う 講義及び実習
14	授業の総括	レポート課題 授業の総括を行う レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

各自の健康管理を十分行い、常に良好な状態で参加することが望ましい。教場等、計画通りに施行しない場合もある。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングを科学する・Basic course

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

この授業は2年生以上が対象です。

トレーニング理論を包括したコンディショニングの一環であるストレングス（筋力）トレーニングについて、自主的かつ多角的な学修を通じて独自のトレーニングプログラムを作成し、その効果を検証するアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニング器材を安全に使用できる
- 2：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる
- 3：測定結果からトレーニング効果を評価できる
- 4：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 5：トレーニングの結果を正しく記録できる
- 6：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の1回目はガイダンス（教室）です。

ガイダンス後に 15 名までの履修者を確定します。

授業の2回目から以下の4期（目標、計画、実行・評価、反省・改善）に分けてゼミを進めていきます。主な教場は体育館 B 1 F トレーニングセンター（以下、トレセン）です。

1. 課題を検討し決める期間

自分自身の筋力を把握するための測定と分析・評価を通じて、このゼミで取り組む課題（自分自身の身体や体力について改善したいこと）を明確にする期間です。

2. 計画を立案する期間

改善したい課題と段階的な目標を決める期間です。効果が期待できる適切なトレーニング方法を実践を通じて決めていく（実行可能なデザイン）期間です。

3. 実行の期間

計画したトレーニングを積極的に実行する期間です。実施した内容を正確に記録する方法を学習し、随時その結果を自己分析し、評価した結果をゼミ内で共有します。

4. 反省・改善の期間

トレーニング効果を検証し、ゼミ内で共有する期間です。春学期に取り組んだ過程を発表し、秋学期の課題を検討しより良い方法を見出していきます。

以上のように、本ゼミは教員からの一方的な講義を受けるのではなく、履修者が自主的・能動的にゼミ活動に取り組むことを重視した双方向性・相互啓発性の高い授業を目指し、その過程で専門的なトレーニングの理論と実践方法を学び取り、自身の課題解決につなげることをねらいとしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	課題検討期 I	<トレセン> ①筋力を把握するための測定と分析・評価を行う ②ゼミで取り組む課題を検討する
3	課題検討期 II	<トレセン> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う ②ゼミで取り組む課題を検討する
4	課題検討期 III	<教室> ①食事調査からカロリー計算による食事（摂取）・運動（消費）のバランスを考える ②ゼミで取り組む課題を検討する

発行日：2019/5/1

5	課題決定期	<教室> ①ゼミで取り組む課題を明確にする ②トレーニング記録方法を確認する
6	計画立案期Ⅰ	<トレセン> ①効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ②検討したトレーニング方法を記録する
7	計画立案期Ⅱ	<トレセン> ①効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に小さな筋を刺激する種目）を検討する ②決定したトレーニング方法を記録する
8	計画実行期Ⅰ	③トレーニングプログラムを作成する <トレセン> ①決定したトレーニング種目のプログラム一覧を提出 ②作成したトレーニングプログラムの実践と見直し（主に運動種目の配置・組み合わせ） ③実施したトレーニングを記録する
9	計画実行期Ⅱ	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する
10	計画実行期Ⅲ	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する
11	計画実行期Ⅳ	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
12	計画実行期Ⅳ	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（ピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
13	計画実行・効果検証期	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・発表・総括	<教室> ①春学期に取り組んだ学修過程を発表する ②秋学期の課題を検討する ③春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した**6項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. ゼミ活動前の測定評価に関するレポート： **20%**
2. トレーニングプログラム： **20%**
3. ゼミ活動後の測定評価を検証したレポート： **20%**
4. 成果発表（作成した資料、発表態度など）： **40%**

【学生の意見等からの気づき】

小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になったようです。履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したようで、**2017年度**および**2018年度**の履修者は**25名以上**となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。

そこで、**2019年度**の授業においては、小人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしていく予定です。そのため、もし、ガイダンスにおいて履修受入れ予定の**15人**を超えてた場合は、「その他の重要事項」に書かれた方法などによって履修制限を行うことを理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウエアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が**15名**を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. **1**を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

5. 授業を担当する教員はJOC医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must create their own training programs and verify their effectiveness.

Students have to take active acts in class.

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングを科学する・Advanced course

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・トレーニングを科学する（Basic course）」：月曜日3限の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である教養ゼミⅠの単位取得者が履修できます。

基本的な授業形式は教養ゼミⅠと同様ですが、教養ゼミⅠよりも体験や実習に多くの時間を割くことで、「よくわかっていること」を「できること」に変えていくという応用的な実践力を養うことを目的にします。

【到達目標】

- 1：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 2：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
- 3：段階的な計画を実行できる
- 4：一定期間実践したトレーニング効果を検証できる
- 5：検証したトレーニング効果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ゼミ活動の1回目は体育館B1Fトレーニングセンター（以下、トレセン）です。

教養ゼミⅡでは、教養ゼミⅠの反省改善期に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（履修者は授業に自主的・能動的に参加）ことを目指します。そのため、ゼミの1回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように3期に分けて進めていきます。

1. 課題・計画を決める期間

自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏季休暇前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。

2. 実行と検証の期間

計画したトレーニングを実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次回のゼミ活動に活かします。

3. 発表・共有の期間

トレーニング効果を総括した結果を発表し、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期Ⅰ	<トレセン> ①授業概要と目標の説明 ②筋力を把握するための測定と分析を行う
2	課題・計画の検討期Ⅱ	<トレセン> 測定結果を「夏季休暇前後」で比較し、新たなトレーニングプログラムを模索する
3	課題・計画の検討期Ⅲ	<教室> ①教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ②トレーニングプログラムを試作する
4	課題・計画の決定期Ⅰ	<教室> 「夏季休暇前後」で比較した測定結果を分析・評価したレポートを作成する
5	課題・計画の決定期Ⅱ	<教室> ①取り組む課題を決定する ②トレーニングプログラムを作成する
6	実行期Ⅰ	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムを実行し種目を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する
7	実行期Ⅱ	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムを実行し運動強度を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する

8	実行期Ⅲ	<トレセン> ①トレーニング法を決め、プログラムを確定する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する
9	実行期Ⅳ	<トレセン> ①トレーニングプログラムを実行し運動強度を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する
10	実行期Ⅴ	<トレセン> ①トレーニングプログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する
11	実行期Ⅵ	<トレセン> ①トレーニングプログラムを実行するとともに効果を検証する方法を検討する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する
12	実行期Ⅶ	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理と反省を行う ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
13	発表・共有期Ⅰ	<教室> 秋学期に取り組んだ学修過程とトレーニング効果の検証結果を発表する
14	発表・共有期Ⅱ、総括	<教室> ①秋学期に取り組んだ学修過程とトレーニング効果の検証結果を発表する ②秋学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した5項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業で提示した課題のレポート：30%
2. 授業におけるアクションペーパー：30%
3. 成果発表（作成した資料、発表態度など）：40%

【学生の意見等からの気づき】

小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になったようです。履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したようで、2017年度および2018年度の履修者は25名以上となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。

そこで、2019年度の授業においては、少人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしていく予定です。そのため、もし、ガイダンスにおいて履修受入れ予定の15人を超えた場合は、「その他の重要事項」に書かれた方法などによって履修制限を行う場合があることを理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。
2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester. In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training. Students must to make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.

Students have to take active acts in class.

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：シェイプアップの実践と検証

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は2年生以上が対象です。
隠れ肥満や運動不足によって低下した身体機能を健康づくりの3本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレングス）でシェイプアップしていくことを目的としたアクティブラーニング型の授業です。本授業を通じて、心身のコンディショニングを整えるために必要な知識と実践力を身につけます。

【到達目標】

- 1：トレーニングの原理・原則を理解している
- 2：スマートホンのアプリケーションを使用して必要な測定ができる
- 3：ストレッチングを正しく行える
- 4：ジョギングまたはウォーキングを正しく行える
- 5：ストレングストレーニングを安全に行える
- 6：実践した運動の結果を正しく記録できる
- 7：スポーツや運動の功罪を説明できる
- 8：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- 以下に示した内容を授業のルーチンとして行います。
- 1) シェイプアップにかかわる運動科学の知識と実践に関するショートレクチャーを行う
 - 2) ウォームアップ時にセルフコンディショニングチェックを行う
 - 3) 授業のテーマに取り組む
 - 4) ウォームダウンを行う
 - 5) リアクションペーパーを提出する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	身体組成と柔軟性の測定	<教室> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ②柔軟性の測定と評価
3	筋力の測定	<トレセン> ストレングスマシンを利用した筋力測定と評価を行う
4	有酸素能力の測定	<大学周辺> ①ウォーキングまたはジョギングによる活動量を調べるための測定を行う ②測定結果を運動強度から分析し評価を行う
5	シェイプアップ・トレーニング I	<大学周辺> ①ウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
6	シェイプアップ・トレーニング II	<トレセン> ①ストレッチングを主としたコンディショニングを実践する ②実施した運動を記録する
7	シェイプアップ・トレーニング III	<トレセン> ①ストレングスマシンを主としたトレーニングの実践（大きな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する
8	シェイプアップ・トレーニング IV	<大学周辺> ①カルボネン法による運動強度にしたがったウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する

9	シェイプアップ・トレーニングV	<トレセン> ①メディシンボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
10	シェイプアップ・トレーニングVI	<トレセン> ①バランスボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
11	シェイプアップ・トレーニングVII	<大学周辺> ①ボルグ指数を意識したウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
12	シェイプアップ・トレーニングVIII	<トレセン> ①ストレンスマシンを主としたトレーニングの実践（小さな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する
13	シェイプアップ・トレーニングIX	<トレセン> ①ストレンスマシンを主としたトレーニングの実践（ピラミッド法を用いる） ②実施した運動を記録する
14	総括・レポート作成	<トレセン> ①春学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではシェイプアップを目的としたトレーニングを実践していくため、各自で体調を整え授業に参加してください。そのためにも、トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行った前後のバイタルチェックを行ったり、授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりて巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した8項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業中のトレーニングへの参画状況：30%
2. リアクションペーパー：30%
3. 春学期の学修過程をまとめたレポート：40%

※ 以上の成績評価基準は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により本授業におけるトレーニングが困難である履修者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019年度からの新設開講した授業のため記述することがない。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能なスマートフォン

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が30名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。
2. 1を踏まえ、スポーツ科学Bまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。
3. スポーツ科学Aの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期のスポーツ科学Bの受講を認めません。
4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。
5. 授業を担当する教員はJOC医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

This class is active learning type.

In this class we practice stretching, jogging and strength training.

Your body that has decayed will be shape up if you participate in this class.

Through this class, you can acquire the necessary knowledge and practical skills to prepare the mind and body condition.

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：シェイプアップの実践と検証

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は2年生以上でのスポーツ科学Aからの継続履修者を対象にしています。

本授業では、隠れ肥満や運動不足によって低下した身体機能を健康づくりの3本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレンクス）でシェイプアップしていくことを目的としたアクティブラーニング型の授業です。本授業を通じて、心身のコンディショニングを整えるために必要な知識と実践力を身につけます。

【到達目標】

- 1：ストレンスマシンを用いた筋力測定ができる
- 2：運動強度を意識したウォーキングまたはジョギングができる
- 3：ストレッチングを効果的に説明できる
- 4：ジョギングまたはウォーキングの注意点を述べる事ができる
- 5：ストレンクストレーニングの負荷を適切に設定できる
- 6：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

以下に示した内容を授業のルーチンとして行います。

- 1) シェイプアップにかかわる運動科学の知識と実践に関するショートレクチャーを行う
- 2) ウォームアップ時にセルフコンディショニングチェックを行う
- 3) 授業のテーマに取り組む
- 4) ウォームダウンを行う
- 5) リアクションペーパーを提出する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	身体組成と柔軟性の測定	<教室> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ②柔軟性の測定と評価 ③春学期の結果と比較する
3	筋力の測定	<トレセン> ①ストレンスマシンを利用した筋力測定と評価を行う ②春学期の結果と比較する
4	有酸素能力の測定	<大学周辺> ①ウォーキングまたはジョギングによる活動量を調べるための測定を行う ②春学期の結果と比較する
5	シェイプアップ・トレーニングI	<大学周辺> ①カルボネン法またはボルグ指数による運動強度でジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
6	シェイプアップ・トレーニングII	<トレセン> ①パートナーストレッチングを主としたコンディショニングを実践する ②実施した運動を記録する
7	シェイプアップ・トレーニングIII	<トレセン> ①サーキットトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
8	シェイプアップ・トレーニングIV	<大学周辺> ①ジョギングを行い、走行時間および距離から運動量を検討する ②身体組成、活動量を測定し評価する
9	シェイプアップ・トレーニングV	<トレセン> ①メディシンボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する

10	シェイプアップ・トレーニングⅥ	<トレセン> ①バランスディスクを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
11	シェイプアップ・トレーニングⅦ	<大学周辺> ①ジョギングを実践し運動強度を算出する ②身体組成、活動量を測定し評価する
12	シェイプアップ・トレーニングⅧ	<トレセン> ①ストレンスマシンを主としたトレーニングの実践（遅筋繊維刺激する運動負荷で筋持久力を向上させる） ②実施した運動を記録する
13	シェイプアップ・トレーニングⅨ	<トレセン> ①ストレンスマシンを用いたトレーニングの実践（パワーを向上させる方法） ②実施した運動を記録する
14	総括・レポート作成	<トレセン> ①秋学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②秋学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではシェイプアップを目的としたトレーニングを実践していくため、各自で体調を整え授業に参加してください。そのためにも、トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行った前後のバイタルチェックを行ったり、授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著, 若さを伸ばすストレッチ, 平凡社新書
2. 伊藤マモル監, ひとりで巻けるテーピング, 日本文芸社
3. 伊藤マモル監, 基本のストレッチ, 主婦の友社
4. 斎藤真嗣著, 体温を上げると健康になる, サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著, 仕事ができる人はなぜ筋トレをするか, 幻冬舎新書
6. 山本利春著, 疲れたときは、からだを動かす, 岩波書店
7. 吉江和彦著, エグゼクティブが身体を鍛えるワケ, グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した8項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業中のトレーニングへの参画状況：30%
2. リアクションペーパー：30%
3. 秋学期の学修過程をまとめたレポート：40%

※ 以上の成績評価基準は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により本授業におけるトレーニングが困難である履修者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019年度から新設開講の授業であるため記述することがない。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能なスマートフォン

【その他の重要事項】

1. スポーツ科学Aを履修せずに、スポーツ科学Bのみを履修することは認めません。

基本的にスポーツ科学Aの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、スポーツ科学Aの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。

2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester. This class is active learning type.

In this class we practice stretching, jogging and strength training.

Your body that has decayed will be shape up if you participate in this class.

Through this class, you can acquire the necessary knowledge and practical skills to prepare the mind and body condition.

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016年度以前入学者

HSS300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：脱運動不足と健康づくり・Basic course

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

この授業は2年生以上が対象です。運動不足で衰えた身体機能を健康づくりの3本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレンクス）で改善していくためのゼミナールです。健康の保持増進に必要な運動プログラムを作成し、その効果を検証するアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニングの原理・原則を理解している
- 2：スマートホンのアプリケーションを使用して必要な測定ができる
- 3：ストレッチングを正しく行える
- 4：ジョギングまたはウォーキングを正しく行える
- 5：ストレンクストレーニングを安全に行える
- 6：実践した運動の結果を正しく記録できる
- 7：スポーツや運動の功罪を説明できる
- 8：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の1回目はガイダンス（教室）です。ガイダンス後に最大20名までの履修者を確定します。授業の2回目から以下の4期（目標、計画、実行・評価、反省・改善）にかけてゼミを進めていきます。主な教場は体育館B1Fトレーニングセンター（以下、トレセン）および大学周辺の歩道です。

1. 課題を検討し決める期間

自分自身の体力を把握するための測定と分析・評価を通じて、このゼミで取り組む課題（自分自身の身体や体力について改善したいこと）を明確にする期間です。

2. 計画を立案する期間

改善したい課題と段階的な目標を決める期間です。効果が期待できる適切な運動方法を実践を通じて決めていく（実行可能なデザイン作成）期間です。

3. 実行の期間

計画した運動を積極的に実行する期間です。実施した内容を正確に記録する方法を学習し、随時その結果を自己分析し、評価した結果をゼミ内で共有します。

4. 反省・改善の期間

運動の効果を検証し、ゼミ内で共有する期間です。春学期に取り組んだ過程をレポートにまとめ、秋学期に向けたより良い課題を見出します。

以上のように、本ゼミは教員からの一方的な講義を受けるのではなく、履修者が自主的・能動的にゼミ活動に取り組むことを重視した双方向性・相互啓発性の高い授業を目指し、その過程で運動不足の解消に役立つ実践的な健康づくりを学び、自身の課題解決につなげることをねらいとしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	課題検討期 I	<教室> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ②ゼミで取り組む運動課題を検討する
3	課題検討期 II	<大学周辺> ①ウォーキングまたはジョギングによる活動量を調べるための測定を行う ②測定結果を運動強度から分析し評価を行う ③ゼミで取り組む課題を検討する
4	課題検討期 III	<トレセン> ①柔軟性の測定と評価を行う ②ストレッチングの概説と実践

5	課題検討期Ⅳ	<教室> ①食事調査からカロリー計算による食事（摂取）・運動（消費）のバランスを考える ②ゼミで取り組む運動課題を検討する
6	課題検討期Ⅴ	<トレセン> ①ストレッチマシンを利用した筋力測定と評価を行う ②運動課題の記録方法を確認する
7	計画立案期Ⅰ	<トレセン> ①効果が期待でき、継続的に実践できる運動方法を決める
8	計画立案期Ⅱ	<教室> ①運動プログラムを試作する ②姿勢の評価を行う ③座位姿勢のストレッチングを実践する
9	計画実行期Ⅰ	<トレセン> ①試作した運動プログラムの実践と確認および改修を行う ②実施した運動を記録する
10	計画実行期Ⅱ	<トレセン> ①作成した運動プログラムの運動強度とセット数を修正する ②実施した運動を記録する
11	計画実行期Ⅲ	<大学周辺> ①適切な運動強度を意識したウォーキングまたはジョギングを実践する ②実践した運動を記録する
12	計画実行期Ⅳ	<トレセン> ①運動プログラムの実践 ②実施した運動を記録する
13	計画実行・効果検証期	<トレセン> ①実践してきた運動の効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・総括	<トレセン> ①春学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した8項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. ゼミ活動前の測定評価に関するレポート：20%
2. 運動プログラム：20%
3. ゼミ活動後の測定評価を検証したレポート：20%
4. 春学期の学修過程をまとめたレポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

2019年度から開講するゼミのため記述することがない。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションがダウンロードできるスマートフォン

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が20名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

5. 授業を担当する教員はJOC医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

In this class we practice stretching, jogging and strength training.

It is an active learning type to realize the effect of exercise to solve the lack of exercise.

Students must create their own training programs and verify their effectiveness.

Students have to act positively in class.

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：脱運動不足と健康づくり・Advanced course

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・脱運動不足と健康づくり（Basic course）」：木曜日2限」の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である**教養ゼミⅠの単位取得者が履修**できます。

基本的な授業形式は教養ゼミⅠと同様ですが、教養ゼミⅠよりも**体験や実習に多くの時間を割く**ことで、「よくわかっていること」を「できること」に変えていくという応用的な実践力を養うことを目的にします。

【到達目標】

- 1：目的に応じた運動方法を実践できる
- 2：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
- 3：段階的な計画を実行できる
- 4：一定期間実践した運動の効果を検証できる
- 5：検証した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ゼミ活動の1回目は体育館B1Fトレーニングセンター（以下、トレセン）です。

教養ゼミⅡでは、**教養ゼミⅠの反省改善期**に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（履修者は**授業に自主的・能動的に参加**）ことを目指します。そのため、ゼミの1回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように**3期に分けて**進めていきます。

1. 課題・計画を決める期間

自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏季休暇前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。

2. 実行と検証の期間

計画した運動を実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次回のゼミ活動に活かします。

3. 総括・共有の期間

運動の効果を総括した結果をレポートにまとめ、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期Ⅰ	<トレセン> ①授業概要と目標の説明 ②健康づくりに必要な体力測定を行い評価する <教室> 測定結果を「夏季休暇前後」で比較し、新たな運動プログラムを模索する
2	課題・計画の検討期Ⅱ	<トレセン> ①教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ②運動プログラムを試作する
3	課題・計画の検討期Ⅲ	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムを確認し見直す ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
4	課題・計画の決定期Ⅰ	<トレセン> ①試作した運動プログラムを実践する ②実施した内容を正確に記録する <大学周辺または教室> ①取り組む課題を決定する ②運動プログラムを作成する
5	課題・計画の決定期Ⅱ	<トレセン> ①作成した運動プログラムの強度とセット数を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
6	実行期Ⅰ	<トレセン> ①作成した運動プログラムの強度とセット数を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
7	実行期Ⅱ	<トレセン> ①作成した運動プログラムの強度とセット数を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する

8	実行期Ⅲ	<大学周辺またはトレセン> ①運動プログラムを実行し、強度とセット数を決定する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
9	実行期Ⅳ	<トレセン> ①運動プログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
10	実行期Ⅴ	<トレセン> ①運動プログラムの種目を見直し入れ替える ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
11	実行期Ⅵ	<大学周辺またはトレセン> ①種目を入れ替えた運動プログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
12	実行期Ⅶ	<トレセン> ①運動プログラムの効果を検証するための測定方法を決める ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する
13	総括・共有期Ⅰ	<トレセン> ①実践してきた運動の効果を検証するための測定を行う ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	総括・共有期Ⅱ	<トレセン> ①秋学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②秋学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は**到達目標**に示した**5項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業で提示した課題のレポート： **30%**
2. 授業におけるリアクションペーパー： **30%**
3. 秋学期の学修過程をまとめたレポート： **40%**

【学生の意見等からの気づき】

2019年度から開講するゼミのため記述することがない。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションがダウンロードできるスマートフォン

【その他の重要事項】

1. 教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。
2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester. In this class we practice stretching, jogging and strength training.

It is an active learning type to realize the effect of exercise to solve the lack of exercise.

Students must to make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.

Students have to act positively in class.

LANd300LA

ドイツ語初級 I

2016 年度以前入学者

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 A

2017 年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。発音の基礎から始め、ドイツ語の表現の基本を学んでゆきます。ドイツ語は単語や仕組みが英語とも近く、学びやすい言語です。簡単な練習をとおして一步一步確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜お伝えしてゆきます。

【到達目標】

ドイツ語による表現のための基礎的な文法事項を習得し、ドイツ語の基礎的な表現と語彙を身につける。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

アルファベット・発音の基礎から始め、ドイツ語の基本的な、しかし必要十分な文法と基本的表現を学びます。初めて学ぶ言語なので、わかりやすい、丁寧な説明をしていきます。受講者の理解によって進度も適宜、対応させていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス アルファベット	授業の進め方。 ドイツ語の基本的な特徴とアルファベット。以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	Lektion1 ドイツ語の発音	前回の復習。 ドイツ語の発音の仕方を学びます。
第 3 回	Lektion2 人称代名詞と動詞の現在 人称変化 (1)	ドイツ語の人称代名詞と現在人称変化の基本を学びます。
第 4 回	Lektion2 人称代名詞と動詞の現在 人称変化 (2)	ドイツ語の人称代名詞と現在人称変化の基本を復習します。
第 5 回	Lektion3 名詞の性と格 (1)	ドイツ語の名詞の性と格を学びます。
第 6 回	Lektion3 名詞の性と格 (2)	ドイツ語の名詞の性と格の復習をします。
第 7 回	Lektion4 定冠詞類と不定冠詞類 (1)	ドイツ語の定冠詞類と不定冠詞類の基本を学びます。
第 8 回	Lektion4 定冠詞類と不定冠詞類 (2)	ドイツ語の定冠詞類と不定冠詞類の基本を復習します。
第 9 回	Lektion5 人称代名詞 (1)	ドイツ語の人称代名詞の基本を学びます。
第 10 回	Lektion5 人称代名詞 (2)	ドイツ語の人称代名詞の基本を復習します。
第 11 回	Lektion6 不規則動詞・命令形 (1)	ドイツ語の不規則動詞と命令形の基本を学びます。
第 12 回	Lektion6 不規則動詞・命令形 (2)	ドイツ語の不規則動詞と命令形の基本を復習します。
第 13 回	Lektion7 前置詞 (1)	ドイツ語の前置詞の基本を学びます。
第 14 回	Lektion7 前置詞 (2)	前置詞の基本の復習。 春学期のまとめとして基礎の確認の試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を確実に身につけるために復習は必要です。また、課題にもかならず取り組みましょう。

【テキスト（教科書）】

萩原耕平・山崎泰孝『プロムナード やさしいドイツ語文法』白水社。

【参考書】

とくに必要ありません。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と参加を重視します。春学期の終わりにまとめの試験をします。平常点、課題への取り組み 50 %、まとめの試験 50 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明、学習内容の復習と進度とのバランスを取りながら進めてゆく。

【その他の重要事項】

ドイツ語を選択し、履修している学生、すでに選択履修をした学生は受講できません。

【Outline and objectives】

German as third foreign language. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic speaking and vocabulary; basic knowledge of Germany and Europe today.

LANd300LA

ドイツ語初級Ⅱ

2016年度以前入学者

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語B

2017年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。春学期に学んだことを復習しながら、後半の基礎的な文法事項を学び、ドイツ語の基本的な表現を身につけます。簡単な練習をとおして一步一步確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜お伝えしてゆきます。

【到達目標】

春学期に学んだことを復習しながら、ドイツ語の基本的な文法と表現の仕方の習得を目指す。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期に引き続いて、ドイツ語の仕組みや表現をわかりやすく、丁寧に説明していきます。練習問題も丁寧に学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Lektion8 分離動詞・接続詞（1）	春学期の内容の復習。 ドイツ語の接続詞、分離動詞、非分離動詞の基本を学びます。 以下の進度はおおよその目安です。
第2回	Lektion8 分離動詞・接続詞（2）	接続詞、分離動詞、非分離動詞の基本を復習します。
第3回	Lektion9 話法の助動詞（1）	ドイツ語の話法の助動詞の基本を学びます。
第4回	Lektion9 話法の助動詞（2）	話法の助動詞の使い方の復習をします。
第5回	Lektion10 動詞の3基本形・過去形（1）	ドイツ語の動詞の3基本形を学び、過去形の使い方の基本を学びます。
第6回	Lektion10 動詞の3基本形・過去形（2）	動詞の3基本形と過去形の基礎を復習します。
第7回	Lektion11 現在完了形・受動文（1）	ドイツ語の現在完了形と受動文の基礎を学びます。
第8回	Lektion11 現在完了形・受動文（2）	現在完了形と受動文の基礎を復習します。
第9回	Lektion12 形容詞・比較表現（1）	ドイツ語の形容詞の用法の特徴と形容詞を使った比較表現を学びます。
第10回	Lektion12 形容詞・比較表現（2）	形容詞と比較表現の復習をします。
第11回	Lektion13 再帰代名詞・zu不定詞（1）	ドイツ語の再帰代名詞とzu不定詞の用法の基礎を学びます。
第12回	Lektion13 再帰代名詞・zu不定詞（2）	再帰代名詞とzu不定詞の用法の基礎を復習します。
第13回	Lektion14 関係代名詞・接続法（1）	ドイツ語の関係代名詞と接続法の基礎を学びます。
第14回	Lektion14 関係代名詞・接続法（2） まとめの試験	関係代名詞と接続法の基礎を復習します。秋学期のまとめとして確認の試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を確実に身につけるために復習は必要です。また、課題にもかかわらず取り組みましょう。

【テキスト（教科書）】

萩原耕平・山崎泰孝『プロムナード やさしいドイツ語文法』白水社。

【参考書】

とくに必要ありません。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と参加を重視します。春学期の終わりにまとめの試験をします。平常点、課題への取り組み50%、まとめの試験50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明、学習内容の復習と進度とのバランスを取りながら進めてゆく。

【その他の重要事項】

ドイツ語の既修者、および1年次にドイツ語を選択必修言語として学んでいる学生は履修できません。

【Outline and objectives】

German as third foreign language. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic speaking and vocabulary; basic knowledge of Germany and Europe today.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーションⅢ 2016年度以前入学者

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級
A 2017年度以降入学者

アネッテ・グルーパー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	erste kommunikative Phrasen
2	Begrueßung, Befinden	sich begrüßen/verabschieden
3	Begrueßung, Befinden	nach dem Befinden fragen, sich und andere vorstellen
4	Angaben zur Person	ueber den Beruf und Persoenliches sprechen
5	Berufe	Verbkonjugation Singular/Plural Negation
6	Familie 1	Ja/Nein-Fragen Possessivartikel
7	Familie 2	Verben mit Vokalwechsel
8	Einkaufen	Beratungsgespraech, Hilfe anbieten
9	Moebel	Artikel, Personalpronomen
10	Gegenstaende, Produkte 1	um Wiederholung bitten, etwas beschreiben
11	Gegenstaende, Produkte 2	sich bedanken, ein Formular ausfuellen
12	Buero	Telefongespraech
13	Technik 1	Singular/ Plural
14	Technik 2	E-Mail/ SMS

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。

【テキスト（教科書）】

Menschen. Deutsch als Fremdsprache A1.1. Kursbuch
Menschen. Deutsch als Fremdsprache A1.1. Arbeitsbuch

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可

【成績評価の方法と基準】

各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60%
この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40%
遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】

CD/DVD player

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーションⅣ 2016年度以前入学者

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級
B 2017年度以降入学者

アネッテ・グルーパー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることで、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Wiederholung
2	Freizeit 1	ueber Hobbys, Faehigkeiten sprechen
3	Freizeit 2	Modalverb koennen
4	Komplimente	Komplimente machen, um etwas bitten, sich bedanken
5	Verabredungen 1	einen Vorschlag machen und darauf reagieren
6	Verabredungen 2	temporale Praepositionen: am, um
7	Essen 1	ueber Essgewohnheiten sprechen
8	Essen 2	Konversationen beim Essen
9	Einladung zu Hause	Konjugation moegen, Wortbildung Nomen + Nomen
10	Reisen	sich informieren, ein Telefonat beenden
11	Verkehrsmittel	trennbare Verben
12	Tagesablauf	temporale Praepositionen von ... bis, ab
13	Vergangenes	Perfekt mit haben
14	Feste, Vergangenes	Perfekt mit sein temporale Praeposition im

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。

【テキスト（教科書）】

Menschen. Deutsch als Fremdsprache A1.1. Kursbuch
Menschen. Deutsch als Fremdsprache A1.1. Arbeitsbuch

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60%
この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40%
遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】

CD/DVD player

LANd300LA

ドイツ語講読 I

2016年度以前入学者

LANd300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：ドイツ語講読：『グリム童話』をドイツ語で読む

山下 敦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

『グリム童話』の代表的な作品を、ドイツ語原文と日本語訳で読みます。ドイツ語の原文を正確に読み解くことによって、物語の中に表れたドイツ語圏の文化的特性を把握し、物語本来の表現力に迫ります。同時に、ドイツ語文法の基礎知識の復習を心掛けます。春学期は、イメージはよく知られている白雪姫の物語の実像を、文法的な説明とともに読みとります。

【到達目標】

ドイツ語の原文を読みながら、ドイツ語文法の基礎を復習し、語学力のさらなる向上を目標とします。また、『グリム童話』の成立過程に見られる社会的背景を学びながら、物語のヨーロッパの規模の広がりや改稿の課程に読みとれる市民社会の成立について理解する。ドイツ語の原文を題材として、語学的知識の向上と作品世界の理解という二つの目標の到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキストブック及び授業時に配布するプリントによって、ドイツ語原文を詳しく読解する。その際に、日本語訳を参照することは構わない。各授業時に扱う部分の読解を学生が担当して、担当部分の説明と解釈をし、必要に応じて教員が文法的な説明を補う。その後、作品をめぐる背景の説明を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロタクシオン	授業の進め方 テキストの紹介
2	グリム童話とは？	作品と編者の紹介
3	「白雪姫 (Sneewittchen)」1	物語の発端：白・赤・黒
4	「白雪姫 (Sneewittchen)」2	物語の展開：森の住人
5	「白雪姫 (Sneewittchen)」3	物語の結末：王子の愛したもの
6	「白雪姫 (Sneewittchen)」初版 1	実母か継母か？
7	「白雪姫 (Sneewittchen)」初版 2	鏡よ鏡！ 悪女の末路
8	「赤ずきん (Rotkäppchen)」1	森の奥の意味
9	「赤ずきん (Rotkäppchen)」2	女の子のエプロン
10	「赤ずきん (Rotkäppchen)」初版	ここで終り？
11	ペロー「赤ずきん」	**はみんなオオカミよ
12	『グリム童話』序文を読む 1	物語の伝えるもの
13	『グリム童話』序文を読む 2	収集の背景
14	春学期の学習のまとめ	独力でグリム童話原文を読んでみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業で扱うドイツ語の原文を、毎回必ずテキストの文法構造の確認を含めて理解し、授業中の解釈の試みに備えること。課題が与えられた場合には、翌週までに学習して提出すること。独和辞典を持参すること。

【テキスト（教科書）】

富山芳正編：白雪姫 第三書房 ¥900

その他、授業時にプリントを配布する。

【参考書】

野村滋訳『完訳グリム童話集1～7』筑摩書房 各巻 ¥1,900

吉原高志・吉原素子『初版グリム童話集1～4』白水社 各巻 ¥1,600

吉原高志・吉原素子『グリム〈初版〉を読む』白水社 ¥1,600

野村滋『グリム童話 子供に聞かせてよいか？』ちくまライブラリー ¥1,030

小澤俊夫『グリム童話の誕生』朝日選書 ¥1,350

シャルル・ペロー『ペローの昔ばなし』白水社 ¥2,000

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と期末の試験・レポート (70%) による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典を持参すること。

【Outline and objectives】

Class of German intensive reading. Students read the original german text and the Japanese translation of Grimm's Fairy Tales comparing with its first edition, and study the knowledge about the Grimm's Fairy Tales and the cultural background. Also learn the advanced grammar of German.

LANd300LA

ドイツ語講読Ⅱ

2016年度以前入学者

LANd300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：ドイツ語講読：『グリム童話』をドイツ語で読む

山下 敦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『グリム童話』の代表的な作品を、ドイツ語原文と日本語訳で読みます。ドイツ語の原文を正確に読み解くことによって、物語の中に表れたドイツ語圏の文化的特性を把握し、物語本来の表現力に迫ります。同時に、ドイツ語文法の基礎知識の復習を心掛けます。秋学期は、シンデレラ、眠れる森の美女、ラプンツェルという3人のプリンセスの物語の原像を求めます。

【到達目標】

ドイツ語の原文を読みながら、ドイツ語文法の基礎を復習し、語学力のさらなる向上を目標とします。また、『グリム童話』の成立過程に見られる社会的背景を学びながら、物語のヨーロッパ的規模の広がりや改稿の課程に読みとれる市民社会の成立について理解する。ドイツ語の原文を題材として、語学的知識の向上と作品世界の理解という二つの目標の到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキストブック及び授業時に配布するプリントによって、ドイツ語原文を詳しく読解する。その際に、日本語訳を参照することは構わない。各授業時に扱う部分の読解を学生が担当して、担当部分の説明と解釈をし、必要に応じて教員が文法的な説明を補う。その後、作品をめぐる背景の説明を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロタクシオン	授業の進め方 テキストの紹介
2	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」1	物語の発端：家族の関係
3	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」2	物語の展開：魔法の力
4	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」3	物語の結末：ガラスの靴はどこに？
5	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」初版 1	イメージの落差
6	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」初版 2	異なる結末
7	「いばら姫 (Dornröschen)」1	物語の発端：森の意味するもの
8	「いばら姫 (Dornröschen)」2	物語の結末：眠りの意味
9	「いばら姫 (Dornröschen)」初版	読み比べ
10	ペロー「眠れる森の女王」&バジール「ターリア」	物語のルーツを辿る
11	「ラプンツェル (Rapunzel)」	どんな植物？
12	「ラプンツェル (Rapunzel)」初版	読み比べ
13	バジール「ペトロシネッタ」	イタリア版ラプンツェル
14	秋学期の学習のまとめ	独力でグリム童話原文を読んでみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業で扱うドイツ語の原文を、毎回必ずテキストの文法構造の確認を含めて理解し、授業中の解釈の試みに備えること。課題が与えられた場合には、翌週までに学習して提出すること。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

野村法訳『完訳グリム童話集1～7』筑摩書房 各巻 ¥1,900
 吉原高志・吉原素子『初版グリム童話集1～4』白水社 各巻 ¥1,600
 吉原高志・吉原素子『グリム〈初版〉を読む』白水社 ¥1,600
 野村法『グリム童話 子供に聞かせてよいか?』ちくまライブラリー ¥1,030
 小澤俊夫『グリム童話の誕生』朝日選書 ¥1,350

シャルル・ペロー『ペローの昔ばなし』白水社 ¥2,000
 バジール『ペンタメローネ』大修館書店 ¥4,738

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と期末の試験・レポート (70%) による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典を持参すること。

【Outline and objectives】

Class of German intensive reading. Students read the original german text and the Japanese translation of Grimm's Fairy Tales comparing with its first edition, and study the knowledge about the Grimm's Fairy Tales and the cultural background. Also learn the advanced grammar of German.

LANF300LA

フランス語初級 I 2016 年度以前入学者

LANF300LA

第三外国語としてのフランス語 A 2017 年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎に加えて、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字 1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER 動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞 avoir ・否定の de ・疑問文 ・数字 11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	中間試験	筆記試験または課題提出
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞 (aller, venir, vouloir)
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞 pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞 prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞 devoir
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『Vas-y! : 初級フランス語 会話・文法そして文化』、駿河台出版社、2014 年。

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのもので「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。

宮原信他著、『デイクロ仏和辞典』、白水社、2003 年。

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 %、中間試験 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

LANF300LA

フランス語初級Ⅱ

2016年度以前入学者

LANF300LA

第三外国語としてのフランス語B

2017年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期のフランス語初級Ⅰと継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎だけでなく、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6 つづき Leçon 7	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・命令形 ・時の表現 人・ものを描写する ・IR 動詞（つづき） ・形容詞
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・数量表現 ・名詞 + à + 不定詞 ・動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う ・目的補語人称代名詞 ・非人称構文 ・動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う ・数字 21～69 ・動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞 ・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・日常の活動を表す表現（つづき）
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・直説法単純未来 ・形容詞・副詞の比較級
8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・形容詞・副詞の最上級 ・特殊な優等比較級・優等最上級 ・指示代名詞
9	中間試験	筆記試験
10	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・数字 70～100 ・直説法複合過去 ・目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・代名動詞を含む複合過去 ・中性代名詞 en
12	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・直説法半過去 ・直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・直接法大過去 ・中性代名詞 y と le ・様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『Vas-y!：初級フランス語 会話・文法そして文化』、駿河台出版社、2014年。

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『デイク仏和辞典』、白水社、2003年

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10%、中間試験 30%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

LANF300LA

フランス語中級Ⅰ 2016年度以前入学者

LANF300LA

上級フランス語A 2017年度以降入学者

ニコラ・ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目標は、受講生がより高度なフランス語運用能力を獲得することです。そのために、口頭・筆記に関わる様々な練習をします。できるだけ実践的に言語を学びます。フランス文化や現代フランス社会に関する様々なテーマを取り上げる授業です。中～上級の学生向けの授業です。

【到達目標】

学生は教員の解説を聞き、クラスの仲間と意見交換したり、資料に出ている語彙と今まで勉強したフランス語の知識を活かして文章を書きます。ビデオなどの資料を用いてフランス人の生活について知識を深めます。学生はフランス文化の知識を深めるだけでなく、筆記・口頭表現の強化を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

クラスディスカッション、グループディスカッション、書き取り、作文。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Les stéréotypes sur la France et les Français	フランスとフランス人についてのステレオタイプ
2	À la boulangerie	フランスのパン屋で。品揃いなど
3	À la boulangerie	フランスのパン屋で。店員と客の会話
4	Chez le boucher	肉屋で。品揃いなど
5	Chez le boucher	肉屋で。店員と客の会話
6	Au café	カフェで。フランスと日本の違い。
7	Au restaurant	レストランで。
8	Les plats préférés des Français	フランス人の好きな料理
9	Le repas des Français	フランスの食事
10	La délinquance en France	フランスの治安
11	Être en retard et s'excuser	時刻して謝る
12	Dans le métro	地下鉄で
13	Les Français et les vacances	フランス人とバカンス
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各授業後、復習が必要です。

【テキスト（教科書）】

教科書は利用しません。

【参考書】

辞書が必要です。

【成績評価の方法と基準】

－平常点（授業参加）：33%

－期末試験：33%

－小テスト：33%

この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意をすること。

【学生の意見等からの気づき】

対象外

【Outline and objectives】

In this class, intermediate and advanced students will study French at a higher level. They will put in practice their skills to understand different type of documents (video, infography, articles...). They will also write and speak to comment on different aspects of French culture and French people. Active participation is required.

LANF300LA

フランス語中級Ⅱ 2016年度以前入学者

LANF300LA

上級フランス語B 2017年度以降入学者

ニコラ・ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目標は、受講生がより高度なフランス語運用能力を獲得することです。そのために、口頭・筆記に関わる様々な練習をします。できるだけ実践的に言語を学びます。フランス文化や現代フランス社会に関する様々なテーマを取り上げる授業です。中～上級の学生向けの授業です。

【到達目標】

学生は教員の解説を聞き、クラスの仲間と意見交換をしたり、資料に出ている語彙と今まで勉強したフランス語の知識を活かして文章を書きます。ビデオなどの資料を用いてフランス人の生活について知識を深めます。学生はフランス文化の知識を深めるだけでなく、筆記・口頭表現の強化を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

クラスディスカッション、グループディスカッション、書き取り、作文。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Les sports les plus populaires en France	フランスでの人気なスポーツ
2	Les Français et le football	フランス人とサッカー
3	Au marché	市場で
4	À l'opéra, les Français et la musique	オペラ座で、フランス人と音楽
5	« Qu'est-ce qu'on fait ce week-end ? »	外出先を決める
6	Les Français et le travail	フランス人と仕事 (1)
7	Les Français et le travail	フランス人と仕事 (2)
8	Le logement des Français	フランス人の住まい
9	Le logement des Français	フランス人の住まい
10	La population française, l'immigration	フランスの人口・移民
11	Publicité française	フランスのコマーシャル
12	Noël et le nouvel an	クリスマスと年末年始
13	復習	復習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各授業後復習します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。

【参考書】

辞書が必要です。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加）：33%

期末試験：34%

小テスト：33% この授業は5回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化をもっと紹介します。

【Outline and objectives】

In this class, intermediate and advanced students will study French at a higher level. They will put in practice their skills to understand different types of documents (video, infography, articles...). They will also write and speak to comment on different aspects of French culture and French people. Active participation is required.

LANF300LA

フランス語コミュニケーションⅢ 2016年度以前入学者

LANF300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) A 2017年度以降入学者

ジョルディ・フィリップ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

Dans ce cours, nous étudierons quelques textes de la littérature française ou francophone des XXe et XXIe siècles. Avec le plaisir de leur lecture, nous découvrirons leurs auteurs et le contexte culturel de leur production (histoire, localisation, genre et effets littéraires).

【到達目標】

Ce cours s'adresse à des étudiants relativement confirmés (niveau A2-B1), notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Il prépare aussi aux examens de type DELF ou "Kentei-shiken". Le plaisir de la lecture se doublera d'une meilleure compréhension et production de l'écrit, sans oublier l'oral.

(この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

L'étude porte sur la lecture, la compréhension et la reproduction de textes écrits. Divers exercices, faciles d'accès et gradués, seront proposés. Périodiquement, un ou plusieurs élèves présenteront un travail plus important (fiche et compte-rendu de lecture, explication de texte, résumé-analyse, exposé). Des activités orales souvent ludiques (jeu de rôle, théâtre) compléteront ce travail sur l'écrit.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours et de la méthode.
②	Le Petit Prince, d'Antoine de Saint-Exupéry	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
③	L'oeuvre de Saint-Exupéry	Critique du Petit Prince. Présentation d'autres oeuvres de Saint-Exupéry.
④	Désert, de J-M-G Le Clézio	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑤	L'oeuvre de Le Clézio	Critique de Désert. Présentation d'autres oeuvres de Le Clézio.
⑥	Les Soleils des indépendances, d'Ahmadou Kourouma	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑦	Les écrivains francophones d'Afrique	Critique des Soleils des indépendances. Présentation d'autres oeuvres de la littérature africaine francophone.
⑧	Une enfance créole, de Patrick Chamoiseau	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑨	Les écrivains francophones de la Caraïbe.	Critique d'une Enfance créole. Présentation d'autres oeuvres francophones des Amériques.
⑩	L'Amant, de Marguerite Duras	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑪	L'oeuvre de Marguerite Duras	Critique de L'Amant. Présentation d'autres oeuvres de Duras.
⑫	La Condition humaine, d'André Malraux	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑬	L'oeuvre d'André Malraux. Les écrivains "engagés".	Critique de La Condition humaine. Panorama de quelques auteurs engagés.
⑭	Cannibale, de Didier Daeninckx	L'oeuvre de Didier Daeninckx. L'essor de la littérature policière en France.

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Des exercices sont donnés en fin de cours, qui seront corrigés au début du cours suivant.

(予習・復習・積極性厳守)

【テキスト(教科書)】

Pas de manuel, mais des photocopiés souvent distribués. (プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant doit déjà posséder.

(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

50% = participation (prise de parole, exercices, résumés, jeux de rôles, etc.) (積極性)

50% = exposé et compte-rendu (口頭発表・作文)

【学生の意見等からの気づき】

L'accent sera mis sur les techniques de présentation à l'oral (débats et exposés) comme à l'écrit (compte-rendu, résumé, technique de plan, dissertation).

【学生が準備すべき機器他】

Dans ce labo de langues (LL 教室), les étudiants peuvent enregistrer le son du cours et des supports de cours (録音機の持ち込み可)。

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

We will study, through some extracts, texts of French or French literature of the 20th and 21st centuries. French Intermediate Level (A2/B1).

LANF300LA

フランス語コミュニケーションⅣ 2016年度以前入学者

LANF300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) B 2017年度以降入学者

ジョルディ・フィリップ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

Dans ce second semestre, les étudiants, individuellement ou en petit groupe, présentent un film francophone, dont ils analysent quelques scènes en détail. Chaque film choisi appartient à un genre cinématographique particulier.

D'autres types d'œuvres pourront aussi être étudiés (chansons, textes, bandes dessinées, etc.)

【到達目標】

Ce cours continue, au second semestre, de s'adresser à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller.

Il prépare aussi aux examens de type DELF (niveau A2, B1...) ou "kentei-shiken". (この授業は中上級者向きです)

Par ailleurs, les étudiants donneront eux-mêmes leurs objectifs au premier cours d'orientation. Le programme de ce cours pourra alors être modifié selon leurs besoins.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

Après la présentation d'un film francophone par quelques étudiants, 3 scènes importantes de ce film seront choisies pour le travail de toute la classe. L'étude de ces scènes sélectionnées permettra d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites. Puis des exercices seront effectués en relation avec les scènes étudiées : technique du résumé écrit ou oral, substitution de dialogues, jeux de rôles, analyse stylistique ou cinématographique, révision des points de grammaire, expression des nuances, etc.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le second semestre - attribution des premiers exposés (présentation d'un film)
②	FILM 1 (1)	Présentation critique du film 1, travail sur une première scène
③	FILM 1 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
④	FILM 1 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales
⑤	FILM 2 (1)	Mini-test sur film 1. Présentation critique du film 2, travail sur une première scène
⑥	FILM 2 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑦	FILM 2 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales
⑧	FILM 3 (1)	Mini-test sur film 2. Présentation critique du film 3, travail sur une première scène
⑨	FILM 3 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑩	FILM 3 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales
⑪	FILM 4 (1)	Mini-test sur film 3. Présentation critique du film 4, travail sur une première scène
⑫	FILM 4 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑬	FILM 4 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales
⑭	Récapitulatif du cours	Mini-test sur film 4. Discussion sur les caractéristiques des films présentés : la notion de genre cinématographique...

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

Ce cours demande une préparation et une participation très régulières. Des exercices sont donnés en fin de cours, qui seront corrigés au début du cours suivant.

(予習・復習・積極性厳守)

【テキスト(教科書)】

Pas de manuel mais des photocopiés, souvent distribués.

(プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.

(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

60% = participation (prise de parole, exercices, résumés, jeux de rôles, mini-tests) (積極性)

40% = exposé(s) personnel(s) de présentation (発表)

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre et réemployer expressions ou mots nouveaux (mini-tests après l'étude de chaque film).

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son (pas de l'image).

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

Students, either individually or in small groups, present and analyse a French-language film. Each selected film belongs to a particular genre. A few scenes are then selected to be studied in depth by all the class. Intermediate level in French (A2/B1).

LANF300LA

フランス語表現法 I 2016 年度以前入学者

LANF300LA

フランス語表現法 A 2017 年度以降入学者

ヴァリエンス コリンヌ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。

Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

【到達目標】

目標は辞書や新しい表現を習得し、文化的な話題を議論することです。

L'objectif est d'acquérir du lexique et des expressions nouvelles ainsi que de pouvoir discuter de sujets culturels.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ビデオが提示され、授業で発表されたテーマの表現や語彙を発見するために、筆者が書き写しに取り組みます。

Une vidéo est présentée et nous travaillerons sur la transcription afin de découvrir les expressions et le vocabulaire du thème présenté en classe.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ビデオ 1a 読書/発音。 Vidéo 1a Lecture/ prononciation.	博物館 Un Musée
2 回目	ビデオ 1b 語彙と文法 Vidéo 1b Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
3 回目	ビデオ 1c 学生の発表 Video 1c Présentation des étudiants	博物館の会話する Discussion sur le musée
4 回目	ビデオ 2 a 読書/発音。 Video 2a Lecture/ prononciation.	仕事 Un métier
5 回目	ビデオ 2b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
6 回目	ビデオ 2c 学生の発表 Présentation des étudiants	仕事の会話する Discussion sur le métier
7 回目	ビデオ 3a 読書/発音。 Lecture/ prononciation.	レストラン Un restaurant
8 回目	ビデオ 3b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
9 回目	ビデオ 3c 学生の発表 Présentation des étudiants	レストランの会話する Discussion sur le restaurant
10 回目	ビデオ 4a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	モニュメント Un monument
11 回目	ビデオ 4b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
12 回目	ビデオ 4c 学生の発表 Présentation des étudiants	モニュメントの会話する discussion sur le monument
13 回目	ビデオ 5a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	店 Un magasin

14 回目	Video 5b 語彙と文法 Lexique et Grammaire 学生の発表 Présentation des étudiants	理解の問題の修正と会話する Correction des questions de compréhension et discussion
-------	--	--

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語彙や表現を学んで

Apprendre le vocabulaire et les expressions

【テキスト（教科書）】

なし Pas de manuel

【参考書】

辞書

dictionnaire

【成績評価の方法と基準】

存在と参加 La présence et la participation en classe : 60%.

最終試験 L'examen final : 40 %

【学生の意見等からの気づき】

devoirs

【Outline and objectives】

このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。

Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

LANF300LA

フランス語表現法Ⅱ

2016年度以前入学者

LANF300LA

フランス語表現法B

2017年度以降入学者

ヴァリエンス コリンヌ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

【到達目標】

目標は辞書や新しい表現を習得し、文化的な話題を議論することです。L'objectif est d'acquérir du lexique et des expressions nouvelles ainsi que de pouvoir discuter de sujets culturels.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ビデオが呈示され、授業で発表されたテーマの表現や語彙を発見するために、筆者が書き写しに取り組みます。Une vidéo est présentée et nous travaillerons sur la transcription afin de découvrir les expressions et le vocabulaire du thème présenté en classe.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回目	Video 6a 読書/発音。Lecture/ prononciation.	有名な場所 Un lieu célèbre
2回目	Video 6b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
3回目	Video 6c 学生の発表 Présentation des étudiants	有名な場所での議論 Discussion sur un lieu célèbre
4回目	Video 7a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	料理 La cuisine
5回目	Video 7b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
6回目	Video 7c 学生の発表 Présentation des étudiants	料理の会話する Discussion sur la cuisine
7回目	Video 8a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	映画 Un film
8回目	Video 8b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
9回目	Video 8c 学生の発表 Présentation des étudiants	映画の会話する Discussion sur le film
10回目	Video 9a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	学校 Une école
11回目	Video 9b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
12回目	Video 9c 学生の発表 Présentation des étudiants	学校の会話する discussion sur une école
13回目	Video 10a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	パリ Paris

14回目 Video 10b

語彙と文法と学生の発表
Lexique et Grammaire
et Présentation des
étudiants

理解の問題の修正と会話する
Correction des questions de
compréhension et discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語彙や表現を学んで

Apprendre le vocabulaire et les expressions

【テキスト（教科書）】

なし

pas de manuel

【参考書】

辞書

dictionnaire

【成績評価の方法と基準】

存在感とクラスへの参加：60%。

最終試験：40%

La présence et la participation en classe : 60%.

L'examen final : 40%

【学生の意見等からの気づき】

devoirs

【Outline and objectives】

このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

LANr300LA

ロシア語初級Ⅰ 2016年度以前入学者

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語A 2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ロシア語入門（前編）。文字と発音、名詞の性と数、動詞の現在形など。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**【授業の進め方と方法】**

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。「第三外国語としてのロシア語B」とセットになっています。二つを合わせた授業全体のポイントは以下の4点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。「ロシア語初級Ⅰ」では、文字と発音の練習に十分時間をかけます。第1回から第5回までがこれにあてられますが、その後も継続します。春学期はほぼこれにつきると言ってもよいでしょう。加えて最も初歩的な文法事項のみ（名詞の性・数、動詞の現在形など）を学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文字と発音1	硬母音字、子音字、アクセント
第2回	文字と発音2	軟母音字、半母音字、子音字、
第3回	文字と発音3	硬子音と軟子音、軟音記号
第4回	文字と発音4	発音の規則、子音字
第5回	文字と発音5	無声子音と有声子音子音字、発音の規則、硬音記号
第6回	「これは誰ですか」	疑問文と平叙文、名詞の性
第7回	「彼はロシア人です」	名詞の性と形容詞の変化
第8回	「私の家族」	名詞の性と所有代名詞の変化
第9回	「私の両親」	名詞の複数形と所有代名詞の変化
第10回	「私は散歩しています」	人称代名詞、動詞の現在形（第1変化）
第11回	「私は話します」	動詞の現在形（第2変化）
第12回	「私は好きです」	動詞の現在形（不規則変化）
第13回	「私は魚が好きです」	名詞の対格
第14回	期末試験	文法問題、露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要としませんが、単語や例文の暗記には積極的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布する予定。教科書も辞書も急ぎ購入する必要はないので、とりあえず授業に出席の上、オリエンテーションを聞くこと。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社。2009年、東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。ロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするよう努める。

【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 1. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the present tense of verbs, etc.)

LANr300LA

ロシア語初級Ⅱ 2016年度以前入学者

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語B 2017年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ロシア語入門（後編）。名詞の格、動詞の未来形と過去形、移動の動詞、動詞の体など。

【到達目標】

簡単な会話をロシア語で行える。必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またロシア語で伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**【授業の進め方と方法】**

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。「第三外国語としてのロシア語A」とセットになっています。二つを合わせた授業全体のポイントは以下の4点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。秋学期は、やや進んだ文法（名詞の格、動詞の未来形と過去形、動詞の完了体と完了体）を学びます。学期の最後には、ロシア語の全体像が見えることとなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「教えてください」	動詞の命令形
第2回	「私は話したいです」	動詞の現在形（不規則変化）
第3回	「どこへ行くのですか」	移動の動詞
第4回	「モスクワの地図」	名詞の生格
第5回	「私は持っています」	所有の表現
第6回	「何曜日ですか」	曜日の表現、数詞
第7回	「私は散歩するつもりです」	動詞の未来形
第8回	「モスクワで」	名詞の前置格と場所の表現
第9回	「あなたは何をしましたか」	動詞の過去形
第10回	「誰に書きますか」	名詞の与格
第11回	「アントンと」	名詞の造格
第12回	「あなたは解いてしまいましたか」	動詞の体と動詞の過去形
第13回	「私は解いてしまいます」	動詞の体と動詞の現在形および未来形
第14回	期末試験	文法問題、露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要としませんが、単語や例文の暗記には積極的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布の予定。教科書も辞書も急ぎ購入する必要はないので、とりあえず授業に出席の上、オリエンテーションを聞くこと。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社。2009年、東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。ロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするよう努める。

【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 2. The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, the future and past tenses of verbs, verbs of motion, verb aspects, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.

LANr300LA

ロシア語中級Ⅰ 2016年度以前入学者

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級
A 2017年度以降入学者

三神 エレーナ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関するテキストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。

この授業はロシア語能力検定試験3級、ロシア語能力試験（ТРКИ）A2-B1レベルの受験勉強にお役に立ちます。

【到達目標】

社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ロシア文化や歴史についてのテキストや現代文学のテキストの読解し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「出身」(1)	文法復習。「出身」テキストの読解、質疑応答
2	「出身」(2)	「出身」テキストの読解、質疑応答、文法練習
3	「外国語」(1)	「母国語と外国語」テキストの読解、質疑応答、文法練習
4	「外国語」(2)	「母国語と外国語」の読解、質疑応答、文法練習
5	「家族」(1)	「私の家族」テキストの読解、質疑応答、文法練習
6	「家族」(2)	「私の家族」テキストの読解、質疑応答、文法練習
7	「学習」(1)	「私は学生」テキストの読解、質疑応答、文法練習
8	「学習」(2)	「私は学生」テキストの読解、質疑応答、文法練習
9	接続詞がある複文 (1)	接続詞の練習
10	接続詞がある複文 (2)	「劇場」テキストの聴解、読解、質疑応答
11	動詞の体 (1)	不完了・完了動詞の練習
12	動詞の体 (2)	「ルティーナ」テキストの聴解、読解、質疑応答
13	動詞の体 (3)	不完了・完了動詞の復習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、出席および宿題・授業への取り組み 40%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲をはっきりします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに接続できるスマートフォン又はPC。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変更することができます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing and listening skills in Russian language.

LANr300LA

ロシア語中級Ⅱ 2016年度以前入学者

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級
B 2017年度以降入学者

三神 エレーナ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続きロシア語の読解と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。

この授業はロシア語能力検定試験3級、ロシア語能力試験（ТРКИ）A2-B1レベルの受験勉強にも役立ちます。

【到達目標】

授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ロシア文化や歴史についてのテキストや現代文学のテキストを読解し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「どこから来ましたか」-1	文法の復習
2	「どこから来ましたか」-2	テキストの読解、会話練習
3	関節発語の構文	文法練習
4	運動動詞-1	文法練習
5	運動動詞-2	「友達」テキストの聴解、読解、会話練習
6	不規則動詞-1	文法練習
7	不規則動詞-2	「変な男」テキストの読解、聴解、会話練習
8	который 構文	文法練習
9	「хочу, могу, должен」の活用-1	文法練習、会話練習
10	「хочу, могу, должен」の活用-2	「すべてはあるべきと違う」テキストの読解、聴解、会話練習
11	学習動詞-1	文法練習、会話練習
12	学習動詞-2	「習い方を習う」テキストの読解、聴解、会話練習
13	学習動詞-3	復習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、出席および宿題・授業への取り組み 40%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲をはっきりします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに接続できるスマートフォンまたはPC。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変更することができます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing / listening skills in Russian language.

LANr300LA

ロシア語コミュニケーションⅠ 2016年度以前入学者

LANr300LA

実用ロシア語A 2017年度以降入学者

三神 エレーナ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
3～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力を伸ばします。

ロシア留学またはロシア語能力試験（T P K I B2）1級を目指す方におすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話ができること。ロシア語能力試験（T P K I）B1-B2レベルの文章を聞き取りができること。同レベルのロシア語能力試験（T P K I）会話試験（Диалогическая речь）に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストを使って主な会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、実際にその表現を使った会話練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは授業支援システムにて使用できます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介	自己紹介、学生のプロフィール
2	留学-1	入学手続き、学生課に相談
3	留学-2	大学の時間割、授業で使う表現
4	学生寮-1	入寮申請、入寮手続き
5	学生寮-2	寮でのトラブル
6	街を歩く	道の尋ね方、道の案内
7	交通手段-1	モスクワ地下鉄の乗り方、ルートの案
8	交通手段-2	バスや路面電車で使う表
9	買い物-1	食料品の買い方
10	買い物-2	市場で使う表現
11	病院-1	予約、病院の受付にて
12	病院-2	診察で使う表現
13	総合復習	1～13の復習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声データを使った聴解の宿題があります。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

和久利智一著「入門ロシア語文法」改訂版、白水社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50%、出席率・宿題・授業への取り組み 50%

【学生の意見等からの気づき】

期末試験の難易度を調整しました。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにアクセスできる PC 又はスマートフォン。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容は多少変更されます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

ロシア語コミュニケーションⅡ 2016年度以前入学者

LANr300LA

実用ロシア語B 2017年度以降入学者

三神 エレーナ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
3～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続きロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、ヒアリングの訓練を通じて、ロシア語コミュニケーション能力を伸ばします。

ロシア留学またはロシア語能力試験（T P K I B2）・ロシア語能力検定試験 3級の受験を目指す方におすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話ができること。ロシア語能力試験（T P K I）B1～B2レベルの文章を聞き取りができること。同レベルのロシア語能力試験（T P K I）会話試験（Диалогическая речь）に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストを使って主な会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、実際にその表現を使う会話練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	郵便局-1	手紙、小包を送る
2	郵便局-2	書留、ファックスなどを送る
3	電話-1	電話をかける、電話にでる表現
4	電話-2	必要な情報を電話で聞く、チケットを予約する；電話で打ち合わせをする
5	天気予報	天気予報をラジオで聞く；国の気候の話をする
6	暇な時間	友達が開いたのホームパーティーに行く
7	劇所や映画	劇所等のチケットの買い方や劇・映画の種類；映画の話をする
8	美術館	美術展に誘う、チケットを買う；美術展に関する印象を述べる
9	人の外見	人の特徴を伝える
10	洋服	洋服に関する表現
11	インターネット-1	パソコン・インターネット利用に関する表現
12	インターネット-2	コンピューターゲーム、ソーシャルネットワークに関する表現
13	総合復習	1～12の復習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声データを使った宿題があります。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

和久利智一著「入門ロシア語文法」改訂版、白水社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50%、出席率・宿題・授業への取り組み 50%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の難易度を調整しました。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにアクセスできる PC 又はスマートフォン。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容は多少変更されます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

ロシア語講読Ⅰ 2016年度以前入学者

LANr300LA

ロシア語講読A 2017年度以降入学者

土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
3～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。様々な文章を読んでいくことで、ロシア語の文章に慣れることを目的とします。本学期は、長文を読んでいく上で必要となる読解の基礎を学びます。基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。ロシア語による内容理解の練習や付随する文法の練習問題も行います。

【到達目標】

辞書を用いてロシア語の文章を日本語に訳すことができる、ロシア語での質問を理解し、的確にロシア語で答えることができる。読解した内容を自分の言葉（ロシア語、日本語）で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストの音読、日本語への訳出、文法事項の説明と練習を中心に授業を行います。テキストの内容に関してロシア語での言い換えの練習なども行います。

なお、授業の進度と取り扱うテーマは状況に応じて変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	既習文法事項の確認	既習文法事項の復習
2	ロシア語構文の特徴	ロシア語構文の説明と練習
3	複文講読(1)	関係代名詞を含む文を読む
4	複文講読(2)	副動詞を含む文を読む
5	複文講読(3)	能動形動詞を含む文を読む
6	複文講読(4)	被動形動詞を含む文を読む
7	文章講読(1)	文学作品に触れる
8	文章講読(2)	歴史を読む(数詞を含む表現)
9	文章講読(3)	歴史を読む(年月日の表現)
10	文章講読(4)	文化を読む(再帰動詞)
11	文章講読(5)	社会を読む(運動動詞)
12	文章講読(6)	社会を読む(様々な慣用表現)
13	文章講読(7)	昔話を読む(音読練習)
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語を調べ、テキストを日本語に訳してみる。格変化形は何度も復習をして自分のものにする。

【テキスト（教科書）】

適宜ロシア語テキストのプリントを配布します。
辞書、『入門ロシア語文法（改訂版）』は持参すること。

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習、授業参加態度、課題提出などを含む）50%、学期末試験 50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

受講生全員が同じレベルではないため、学生ひとりひとりに対する指導を心がけたいと考えています。

【Outline and objectives】

This is an intermediate course for students who want to improve their reading skills. Students will read texts written with various themes. Basically texts will be translated from Russian to Japanese, but sometimes from Japanese to Russian.

LANr300LA

ロシア語講読Ⅱ 2016年度以前入学者

LANr300LA

ロシア語講読B 2017年度以降入学者

土岐 康子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
3～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの文章を読むことで読解力を養い、視聴覚教材（映画）を用いることでリスニングを含むロシア語会話に慣れることを目的とします。また、授業を積み重ねることでロシアの歴史やロシア社会に対する理解を深め、さまざまな角度からロシアをとらえることも、この授業の大きな目的となります。

【到達目標】

辞書を使ってロシア語の文章を読解することができる、ロシア語の質問を理解し、的確に答えることができる。ロシア語の会話を理解し、的確に応えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキストの音読、日本語への訳出、内容に関する質疑応答が授業の基本となります。ロシアを多角的に理解できるように視聴覚教材（映画など）を用いることもあります。授業の予定やテーマは状況に応じて変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文章講読(1)	歴史を読む(現代①)
2	文章講読(2)	歴史を読む(現代②)
3	文章講読(3)	政治を読む
4	ロシア映画(1)	リスニング・会話練習
5	ロシア映画(2)	一場面の音読練習
6	文学作品(1)	昔話を読む
7	文学作品(2)	文学作品を読む
8	ロシア映画(3)	内容を文章にする試み
9	ロシア映画(4)	内容を言葉にする試み
10	文章講読(4)	政治家の演説を読む①
11	文章講読(5)	政治家の演説を読む②
12	文章講読(6)	政治家の演説を読む③
13	文章講読(7)	新年に関する文章を読む
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で確認し、わからないことはまず自分で調べる習慣をつける。格変化形、動詞の活用は覚える努力をすること。

【テキスト（教科書）】

適宜ロシア語テキストのプリントを配布します。
辞書と『入門ロシア語文法（改訂版）』は持参すること。

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習、授業参加態度、課題提出などを含む）50%、学期末試験 50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

受講生ひとりひとりにあわせた指導を心がけたいと考えています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand those texts written in Russian on various themes. It also enhances listening and conversation skills of students using materials such as movies. Ultimately cultivate the ability to see Russia diversified.

LANr300LA

時事ロシア語 I 2016 年度以前入学者

LANr300LA

時事ロシア語 A 2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
3~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語の文章や映像に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

(1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。(2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的な文章の訳読・要約に主眼を置く。必要に応じて映像・音声の視聴も取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	政治	文章の講読と語彙・文法事項の確認
3	経済	文章の講読と語彙・文法事項の確認
4	外交	文章の講読と語彙・文法事項の確認
5	軍事	文章の講読と語彙・文法事項の確認
6	司法	文章の講読と語彙・文法事項の確認
7	社会	文章の講読と語彙・文法事項の確認
8	文化	文章の講読と語彙・文法事項の確認
9	スポーツ	文章の講読と語彙・文法事項の確認
10	自由テーマ①	受講者のテーマ選択による記事の講読
11	自由テーマ②	受講者のテーマ選択による記事の講読
12	自由テーマ③	受講者のテーマ選択による記事の講読
13	自由テーマ④	受講者のテーマ選択による記事の講読
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の文章については授業の前に和訳もしくは要約を準備する。また、文法事項の復習や重要語彙の確認も必須である。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、期末試験（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian. The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

LANr300LA

時事ロシア語 II 2016 年度以前入学者

LANr300LA

時事ロシア語 B 2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
3~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事など、「生」のロシア語の文章や映像に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済・ビジネス、外交・国際関係、社会について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

(1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。(2) 現在のロシアにおける政治・経済・外交に関わる様々なテーマについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的な文章の訳読・要約に主眼を置く。必要に応じて映像・音声の視聴も取り入れる。読む文章は受講者の関心に合わせて選択する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	政治①	ロシアの内政に関する記事の講読
3	政治②	ロシアの内政に関する記事の講読
4	小括	記事の要約の発表
5	経済・ビジネス①	ロシアの経済・ビジネスに関する記事の講読
6	経済・ビジネス②	ロシアの経済・ビジネスに関する記事の講読
7	小括	記事の要約の発表
8	外交・国際関係①	ロシア外交・国際関係に関する記事の講読
9	外交・国際関係②	ロシア外交・国際関係に関する記事の講読
10	小括	記事の要約の発表
11	社会①	ロシア社会に関する記事の講読
12	社会②	ロシア社会に関する記事の講読
13	小括	記事の要約の発表
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の文章については授業の前に和訳もしくは要約を準備する。また、文法事項の復習や重要語彙の確認も必須である。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、期末試験（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian. The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, and society in present Russia.

LANc300LA

中国語初級 I

2016 年度以前入学者

LANc300LA

第三外国語としての中国語 A

2017 年度以降入学者

廣野 行雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

すでに第一、第二外国語を履修した学生が、それ以外に中国語を学ぶためのクラスです。中国語を母語としない人が、中国語を学習するために必要な知識を学び、学習を継続し発展させていくための学力を養成を目指します。

【到達目標】

まず中国語の漢字音を正しく発音し聞き取れるようにピンインというローマ字字母を習得します。中国語は、声調によって語の意味を識別をするという独特な性格があります。正しく声調を発音し聞き分けられるようになることを目指します。次に基本的な語彙と文型を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキストの課をおって講義を進めていきます。しかし、いうまでもないことですが、語学学習、特に初習の語学には、学習者の主体的な実践が欠かせません。練習問題による予習など積極的な取り組みが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容、到達目標の確認などを行う。
第2回	第1課～第3課	単母音、二重母音、三重母音の発音、人称代詞
第3回	第4課～第6課	母音学習のまとめ、尾音 n,ng をもつ複合母音、さまざまな述語
第4回	第7課～第9課	声調、捲舌母音、子音、疑問文
第5回	第10課～第12課	子音、声調変化、軽声、判断文
第6回	第13課、14課	発音のまとめ
第7回	第15課、16課	数詞、量詞
第8回	第17課、18課	存現文、持続態
第9回	第18課、19課	持続態、方位詞
第10回	第20課、21課	合成方位詞、完了態
第11回	第21課、22課	完了態、形容詞・数量詞の重ね型
第12回	第23課、24課	介詞構文、状態補語、結果補語
第13回	第24課、Aのまとめ	状態補語、結果補語、Aにおける重要学習事項の確認
第14回	学期末試験	学力検測のための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習にとって予習復習は必要不可欠なものです。週に一回しかない授業ですので、授業が復習の場になるような十分な予習を期待します。「学習のポイント」で取りあげられているのは、必ずおぼえましょう。

【テキスト（教科書）】

興水 優著「中国語ステップ I」東方書店刊

【参考書】

「中日辞典」小学館などの辞書。紙の辞書には及ばないが電子辞書も可。辞書をもつことは、単に学習に役立つだけでなく、自分自身に学習を続ける自覚を促す意味もある。

【成績評価の方法と基準】

学習態度（授業への参加度、予習復習、積極的な質問）50%。期末試験50%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義にならないように、双方向的な授業を目指す。

【その他の重要事項】

A（前期）においては、発音の習得が主なテーマになりますので、主要な文法的知識の習得はBにおいてなされるので、できうるかぎりABを通じての履修が望ましい。

学ぶこと、特に語学学習は、履修者の主体的・実践的な授業参加が欠かせません。その自覚を高めるためにも、途中の休憩時間以外に飲食は遠慮してください。但し、熱中症その他の発症時は、この限りではありません。

【Outline and objectives】

This course is for students who want to study Chinese as a third foreign language. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

中国語初級Ⅱ 2016年度以前入学者

LANc300LA

第三外国語としての中国語B 2017年度以降入学者

廣野 行雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前学期のAに引き続き、中国語の基礎的な語彙、文法等を学ぶ。

【到達目標】

正確な発音の定着と必須語彙、文法事項を身につけ、中国語の学習を続けていく力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

前期にひきつづいて、テキストの記述にしたがって、内容の説明を講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	前期Aのふりかえり 第2・5課	前期試験問題の解説 動詞の重ね形
第2回	第2・5課、2・6課	経験態、使役の表現、処置文
第3回	第2・6課	条件節、助動詞「会」、動作用
第4回	第2・7課	方向補語、可能補語
第5回	第2・8課	複合方向補語、受動態
第6回	第2・9課、3・0課	介詞の結果補語、複文の接続
第7回	第3・1課	助動詞「要」、時量補語、使役の表現
第8回	第3・2課	接続詞、呼応表現、助動詞「可能」
第9回	第3・3課	将来態、連用修飾語
第10回	第3・4課	助動詞「要」の多様表現、呼応表現
第11回	第3・5課	介詞「給」、金銭単位
第12回	第3・6課	助動詞「可以」、動作の対象を示す介詞
第13回	まとめ	重要文法事項再確認
第14回	期末試験	学力検測のために試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前期A同様、予習に重点を置き、授業で疑問点を解消するよう努める。自分の学力の向上を確認するため、テレビ、ラジオの中国語講座を利用したり、図書館などで中国語の新聞、雑誌の読解に挑戦してみる。

【テキスト（教科書）】

奥水 優著「中国語ステップⅠ」東方書店刊

【参考書】

「中日辞典」小学館などを購入することを強く勧める。

【成績評価の方法と基準】

受講態度（授業参加姿勢、予復習、質問）50%と期末試験50%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義にならぬよう、質問のやりとりを通じて双方向的な授業を目指す。

【その他の重要事項】

読解力、会話力いずれにせよ文法的知識がなければ、その効果的な向上は望めません。A、Bを通した通年履修を強く勧めます。

A同様、途中に設ける休憩時間を除いて、飲食は遠慮してください。但し、熱中症その他の発症時は、この限りではありません。

【Outline and objectives】

This course is for students who want to study Chinese as a third foreign language. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅢ 2016年度以前入学者

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、発音を綺麗にする。
- 3、日常会話をできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

文法を踏まえたと、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	ピンイン	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	日常用語	あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	会話（1）	自己紹介
第5回	授業内発表（1）	自己紹介を各自に発表する
第6回	文法（1）	中国語の基本構文と品詞
第7回	文法（2）	連体修飾語と連用修飾語
第8回	文法（3）	補語
第9回	文法（4）	「着」「了」「過」
第10回	読解（1）	文法の問題を解く
第11回	読解（2）	長文読解をする
第12回	会話（2）	買い物する時の会話パターンを作る
第13回	授業内発表（2）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ	全体の復習及び総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習する。
オリジナルの会話パターンを作る。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100点）を基本とする。
授業内発表の出来や学習態度も平常点として加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSKや中国語検定の受験も推奨される。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅣ 2016年度以前入学者

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、作文能力を高める。
- 3、日常会話をできるようにする。
- 4、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	復習	春学期の授業内容を復習する
第2回	文法（5）	接続詞と複文
第3回	作文（1）	長文作文のイロハ
第4回	作文（2）	作文を添削する
第5回	会話（3）	レストランでの会話パターン
第6回	授業内発表（3）	レストランにて
第7回	会話（4）	道を尋ねる/教える
第8回	授業内発表（4）	道を尋ねる/教える
第9回	会話（5）	スピーチ/ものを語る
第10回	授業内発表（5）	スピーチ/ものを語る
第11回	ヒアリング（1）	映像教材を使って聞き取りをする
第12回	ヒアリング（2）	映像教材の聞き取り
第13回	復習	文法と作文の復習
第14回	まとめ	口頭発表と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習する。
オリジナルの会話パターンを作る。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（50点）と口述試験（50点）を併せて評価する。学習態度や授業内発表の出来も平常点として加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

検定中国語Ⅲ 2016年度以前入学者

LANc300LA

資格中国語中級A 2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の3級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである3級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK3級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約20分]
- ②リスニング問題の解説[約50分]
- ③各種練習問題、コミュニケーショントレーニング[約30分]

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3級リスニング対策①	HSK3級リスニング問題の第一部分(1-5)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK3級リスニング対策②	HSK3級リスニング問題の第一部分(6-10)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK3級リスニング対策③	HSK3級リスニング問題の第二部分(11-15)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK3級リスニング対策④	HSK3級リスニング問題の第二部分(16-20)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK3級リスニング対策⑤	HSK3級リスニング問題の第三部分(21-25)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK3級リスニング対策⑥	HSK3級リスニング問題の第三部分(26-30)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK3級リスニング対策⑦	HSK3級リスニング問題の第四部分(31-35)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK3級リスニング対策⑧	HSK3級リスニング問題の第四部分(36-40)の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK3級読解対策①	HSK3級読解問題の第一部分(41-50)及び第二部分(51-55)の解説
11	HSK3級読解対策②	HSK3級読解問題の第二部分(56-60)及び第三部分(61-70)の解説
12	HSK3級作文対策	HSK3級作文問題(71-80)の解説
13	HSK3級模擬試験と解説	HSK3級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

①パソコンまたはスマートフォンを使い、**HSK** リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。

②前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2001『実用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館
- ・守屋宏則 1995『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東京：東方書店
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同人社

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の基準によって行う。

- ①毎回授業の初めに行う小テストの平均点。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる事前学習の実施状況とする。[80 %]
 - ②各種トレーニングの内容（練習問題への取り組み状況、コミュニケーショントレーニングの出来具合などを総合して判断）。[20 %]
- 以上の①と②を総合して 100 % とし、60 % 以上の得点を取った者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 3rd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANc300LA

検定中国語Ⅳ

2016 年度以前入学者

LANc300LA

資格中国語中級 B

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の 4 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 4 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK4 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK4 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]
- ②リスニング問題の解説 [約 50 分]
- ③各種練習問題、コミュニケーショントレーニング [約 30 分]

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4 級リスニング対策①	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK4 級リスニング対策②	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK4 級リスニング対策③	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (11-15) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK4 級リスニング対策④	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (16-20) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK4 級リスニング対策⑤	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (21-25) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK4 級リスニング対策⑥	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (26-30) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK4 級リスニング対策⑦	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (31-35) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK4 級リスニング対策⑧	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (36-40) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK4 級リスニング対策⑨	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (41-45) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
11	HSK4 級読解対策	HSK4 級読解問題 (46-85) の解説
12	HSK4 級作文対策	HSK4 級作文問題 (86-100) の解説
13	HSK4 級模擬試験と解説	HSK4 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

①パソコンまたはスマートフォンを使い、**HSK** リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。

②前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華（他）2001『実用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館
・守屋宏則 1995『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東京：東方書店
・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の基準によって行う。

①毎回授業の初めに行う小テストの平均点。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる事前学習の実施状況とする。[80 %]
②各種トレーニングの内容（練習問題への取り組み状況、コミュニケーショントレーニングの出来具合などを総合して判断）。[20 %]
以上の①と②を総合して 100 %とし、60 %以上の得点を取った者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANs300LA

スペイン語初級 I

2016 年度以前入学者

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 A 2017 年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講師が文法事項を説明する。履修生は CD を聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴、スペイン語圏諸国
2	挨拶	アルファベット、発音、アクセント、数詞 0~10
3	人物紹介	主格人称代名詞、動詞 ser、数詞 11~20
4	スペイン語圏の名前	冠詞、名詞、数詞 21~100
5	勉強	国名、国籍、ar 動詞、er 動詞、ir 動詞
6	言語	動詞 hacer, tener
7	所在	動詞 estar, hay、指示詞（中性）
8	移動・交通手段	動詞 ir、接続詞
9	食事	動詞 gustar、目的格人称代名詞
10	食生活	レストラン・バルでの会話
11	家族	指示詞（性数）
12	職業	所有形容詞前置形、動詞 tener の用法
13	復習	応用練習
14	期末試験	春学期に学習した内容を確認するための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語は必ずあらかじめ辞書で調べて授業に臨む。音声を何度も聴いて発音練習したり、テレビ・ラジオのスペイン語講座を視聴したり、授業以外にもスペイン語に触れ積極的に学ぶ。

【テキスト（教科書）】

坂東省二、泉水浩隆、アレハンドロ・コントラス『ディアロゴス 対話で学ぶスペイン語（改定版）』三修社、2017 年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %）、小テスト・期末試験（40 %）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな言語を学習している学生が集まるので、スペイン語特有の発音に慣れてもらうため、会話練習に力をいれたいと思います。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお薦めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

スペイン語初級Ⅱ 2016年度以前入学者

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語B 2017年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

動詞の現在時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようになる。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講師が文法事項を説明する。履修生はCDを聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	持ち物	形容詞、色
2	買い物	動詞 <i>querer, costar</i>
3	住居	位置関係の語句、前置詞
4	間取り	動詞 <i>medir</i> 、数詞 100～1000
5	時刻	動詞 <i>jugar, volver</i>
6	日付、曜日	再帰動詞
7	大学	序数 1～10、無人称の <i>se</i>
8	スケジュール	肯定命令
9	過去の出来事	過去分詞、現在完了
10	観光地	手紙の書き方
11	休暇の予定	動詞 <i>ir</i> の用法
12	願望	前置詞句、過去未来
13	クリスマスと新年	お祝いのメッセージ
14	期末試験	秋学期に学習した内容を確認するための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語は必ずあらかじめ辞書で調べて授業に臨む。音声を何度も聴いて発音練習したり、テレビ・ラジオのスペイン語講座を視聴したり、授業以外でもスペイン語に触れ積極的に学ぶ。

【テキスト（教科書）】

坂東省二、泉水浩隆、アレハンドロ・コントレラス『ディアログス 対話で学ぶスペイン語（改訂版）』三修社、2017年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、小テスト・期末試験（40%）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな言語を学習している学生が集まるので、スペイン語特有の発音に慣れてもらうため、会話練習に力を入れたいと思います。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお勧めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーションⅢ 2016年度以前入学者

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
3～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

En esta clase daremos importancia al estudio equilibrado de las cuatro destrezas: leer, escribir, escuchar y hablar,

【到達目標】

Aprender el idioma español avanzado del nivel de DELE B2.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Haremos ejercicios para facilitar la comprensión de las cuatro destrezas (expresión lectora, expresión escrita, comprensión auditiva y expresión oral) requeridas en el examen del Diploma de Español (DELE) del nivel B2, utilizando modelos de exámenes completos similares a los reales.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Examen1 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1)
2	Examen1 (2)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
3	Examen1 (3)	Comprensión de Lectura(Tarea2)
4	Examen1 (4)	Comprensión auditiva(Tarea4)
5	Examen1 (5)	Comprensión de lectura(Tarea3)
6	Examen1 (6)	Comprensión auditiva (Tarea5)
7	Examen1 (7)	Comprensión de lectura(Tarea4)
8	Examen1 (8)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
9	Examen1 (9)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
10	Examen2 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1)
11	Examen2 (2)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
12	Examen2 (3)	Lectura(Tarea2)
13	Examen2 (4)	Comprensión auditiva(Tarea4)
14	Examen2 (5)	Comprensión de lectura(Tarea3)
15	Examen2 (6)	Comprensión auditiva(Tarea5)
16	Examen2 (7)	Comprensión de lectura(Tarea4)
17	Examen2 (8)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
18	Examen2 (9)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
19	Examen2 (10)	Comprensión de lectura(Tarea1)
20	Examen2 (11)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
21	Examen2 (12)	Lectura(Tarea2)
22	Examen2 (13)	Comprensión auditiva(Tarea4)
23	Examen2 (14)	Comprensión de lectura(Tarea3)
24	Examen2 (15)	Comprensión auditiva(Tarea5)
25	Examen2 (16)	Comprensión de lectura(Tarea4)
26	Examen2 (17)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
27	Examen2 (18)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
28	Examen2 (19)	Comprensión de lectura(Tarea1)
29	Examen2 (20)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
30	Examen2 (21)	Lectura(Tarea2)
31	Examen2 (22)	Comprensión auditiva(Tarea4)
32	Examen2 (23)	Comprensión de lectura(Tarea3)
33	Examen2 (24)	Comprensión auditiva(Tarea5)
34	Examen2 (25)	Comprensión de lectura(Tarea4)
35	Examen2 (26)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
36	Examen2 (27)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
37	Examen2 (28)	Comprensión de lectura(Tarea1)
38	Examen2 (29)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
39	Examen2 (30)	Lectura(Tarea2)
40	Examen2 (31)	Comprensión auditiva(Tarea4)
41	Examen2 (32)	Comprensión de lectura(Tarea3)
42	Examen2 (33)	Comprensión auditiva(Tarea5)
43	Examen2 (34)	Comprensión de lectura(Tarea4)
44	Examen2 (35)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
45	Examen2 (36)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
46	Examen2 (37)	Comprensión de lectura(Tarea1)
47	Examen2 (38)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
48	Examen2 (39)	Lectura(Tarea2)
49	Examen2 (40)	Comprensión auditiva(Tarea4)
50	Examen2 (41)	Comprensión de lectura(Tarea3)
51	Examen2 (42)	Comprensión auditiva(Tarea5)
52	Examen2 (43)	Comprensión de lectura(Tarea4)
53	Examen2 (44)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
54	Examen2 (45)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
55	Examen2 (46)	Comprensión de lectura(Tarea1)
56	Examen2 (47)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
57	Examen2 (48)	Lectura(Tarea2)
58	Examen2 (49)	Comprensión auditiva(Tarea4)
59	Examen2 (50)	Comprensión de lectura(Tarea3)
60	Examen2 (51)	Comprensión auditiva(Tarea5)
61	Examen2 (52)	Comprensión de lectura(Tarea4)
62	Examen2 (53)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
63	Examen2 (54)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
64	Examen2 (55)	Comprensión de lectura(Tarea1)
65	Examen2 (56)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
66	Examen2 (57)	Lectura(Tarea2)
67	Examen2 (58)	Comprensión auditiva(Tarea4)
68	Examen2 (59)	Comprensión de lectura(Tarea3)
69	Examen2 (60)	Comprensión auditiva(Tarea5)
70	Examen2 (61)	Comprensión de lectura(Tarea4)
71	Examen2 (62)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
72	Examen2 (63)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
73	Examen2 (64)	Comprensión de lectura(Tarea1)
74	Examen2 (65)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
75	Examen2 (66)	Lectura(Tarea2)
76	Examen2 (67)	Comprensión auditiva(Tarea4)
77	Examen2 (68)	Comprensión de lectura(Tarea3)
78	Examen2 (69)	Comprensión auditiva(Tarea5)
79	Examen2 (70)	Comprensión de lectura(Tarea4)
80	Examen2 (71)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
81	Examen2 (72)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
82	Examen2 (73)	Comprensión de lectura(Tarea1)
83	Examen2 (74)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
84	Examen2 (75)	Lectura(Tarea2)
85	Examen2 (76)	Comprensión auditiva(Tarea4)
86	Examen2 (77)	Comprensión de lectura(Tarea3)
87	Examen2 (78)	Comprensión auditiva(Tarea5)
88	Examen2 (79)	Comprensión de lectura(Tarea4)
89	Examen2 (80)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
90	Examen2 (81)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
91	Examen2 (82)	Comprensión de lectura(Tarea1)
92	Examen2 (83)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
93	Examen2 (84)	Lectura(Tarea2)
94	Examen2 (85)	Comprensión auditiva(Tarea4)
95	Examen2 (86)	Comprensión de lectura(Tarea3)
96	Examen2 (87)	Comprensión auditiva(Tarea5)
97	Examen2 (88)	Comprensión de lectura(Tarea4)
98	Examen2 (89)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
99	Examen2 (90)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
100	Examen2 (91)	Comprensión de lectura(Tarea1)
101	Examen2 (92)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
102	Examen2 (93)	Lectura(Tarea2)
103	Examen2 (94)	Comprensión auditiva(Tarea4)
104	Examen2 (95)	Comprensión de lectura(Tarea3)
105	Examen2 (96)	Comprensión auditiva(Tarea5)
106	Examen2 (97)	Comprensión de lectura(Tarea4)
107	Examen2 (98)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
108	Examen2 (99)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
109	Examen2 (100)	Comprensión de lectura(Tarea1)
110	Examen2 (101)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
111	Examen2 (102)	Lectura(Tarea2)
112	Examen2 (103)	Comprensión auditiva(Tarea4)
113	Examen2 (104)	Comprensión de lectura(Tarea3)
114	Examen2 (105)	Comprensión auditiva(Tarea5)
115	Examen2 (106)	Comprensión de lectura(Tarea4)
116	Examen2 (107)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
117	Examen2 (108)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
118	Examen2 (109)	Comprensión de lectura(Tarea1)
119	Examen2 (110)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
120	Examen2 (111)	Lectura(Tarea2)
121	Examen2 (112)	Comprensión auditiva(Tarea4)
122	Examen2 (113)	Comprensión de lectura(Tarea3)
123	Examen2 (114)	Comprensión auditiva(Tarea5)
124	Examen2 (115)	Comprensión de lectura(Tarea4)
125	Examen2 (116)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
126	Examen2 (117)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
127	Examen2 (118)	Comprensión de lectura(Tarea1)
128	Examen2 (119)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
129	Examen2 (120)	Lectura(Tarea2)
130	Examen2 (121)	Comprensión auditiva(Tarea4)
131	Examen2 (122)	Comprensión de lectura(Tarea3)
132	Examen2 (123)	Comprensión auditiva(Tarea5)
133	Examen2 (124)	Comprensión de lectura(Tarea4)
134	Examen2 (125)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
135	Examen2 (126)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
136	Examen2 (127)	Comprensión de lectura(Tarea1)
137	Examen2 (128)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
138	Examen2 (129)	Lectura(Tarea2)
139	Examen2 (130)	Comprensión auditiva(Tarea4)
140	Examen2 (131)	Comprensión de lectura(Tarea3)
141	Examen2 (132)	Comprensión auditiva(Tarea5)
142	Examen2 (133)	Comprensión de lectura(Tarea4)
143	Examen2 (134)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
144	Examen2 (135)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
145	Examen2 (136)	Comprensión de lectura(Tarea1)
146	Examen2 (137)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
147	Examen2 (138)	Lectura(Tarea2)
148	Examen2 (139)	Comprensión auditiva(Tarea4)
149	Examen2 (140)	Comprensión de lectura(Tarea3)
150	Examen2 (141)	Comprensión auditiva(Tarea5)
151	Examen2 (142)	Comprensión de lectura(Tarea4)
152	Examen2 (143)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
153	Examen2 (144)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
154	Examen2 (145)	Comprensión de lectura(Tarea1)
155	Examen2 (146)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
156	Examen2 (147)	Lectura(Tarea2)
157	Examen2 (148)	Comprensión auditiva(Tarea4)
158	Examen2 (149)	Comprensión de lectura(Tarea3)
159	Examen2 (150)	Comprensión auditiva(Tarea5)
160	Examen2 (151)	Comprensión de lectura(Tarea4)
161	Examen2 (152)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
162	Examen2 (153)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
163	Examen2 (154)	Comprensión de lectura(Tarea1)
164	Examen2 (155)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
165	Examen2 (156)	Lectura(Tarea2)
166	Examen2 (157)	Comprensión auditiva(Tarea4)
167	Examen2 (158)	Comprensión de lectura(Tarea3)
168	Examen2 (159)	Comprensión auditiva(Tarea5)
169	Examen2 (160)	Comprensión de lectura(Tarea4)
170	Examen2 (161)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
171	Examen2 (162)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
172	Examen2 (163)	Comprensión de lectura(Tarea1)
173	Examen2 (164)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
174	Examen2 (165)	Lectura(Tarea2)
175	Examen2 (166)	Comprensión auditiva(Tarea4)
176	Examen2 (167)	Comprensión de lectura(Tarea3)
177	Examen2 (168)	Comprensión auditiva(Tarea5)
178	Examen2 (169)	Comprensión de lectura(Tarea4)
179	Examen2 (170)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
180	Examen2 (171)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
181	Examen2 (172)	Comprensión de lectura(Tarea1)
182	Examen2 (173)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
183	Examen2 (174)	Lectura(Tarea2)
184	Examen2 (175)	Comprensión auditiva(Tarea4)
185	Examen2 (176)	Comprensión de lectura(Tarea3)
186	Examen2 (177)	Comprensión auditiva(Tarea5)
187	Examen2 (178)	Comprensión de lectura(Tarea4)
188	Examen2 (179)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
189	Examen2 (180)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
190	Examen2 (181)	Comprensión de lectura(Tarea1)
191	Examen2 (182)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
192	Examen2 (183)	Lectura(Tarea2)
193	Examen2 (184)	Comprensión auditiva(Tarea4)
194	Examen2 (185)	Comprensión de lectura(Tarea3)
195	Examen2 (186)	Comprensión auditiva(Tarea5)
196	Examen2 (187)	Comprensión de lectura(Tarea4)
197	Examen2 (188)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
198	Examen2 (189)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
199	Examen2 (190)	Comprensión de lectura(Tarea1)
200	Examen2 (191)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
201	Examen2 (192)	Lectura(Tarea2)
202	Examen2 (193)	Comprensión auditiva(Tarea4)
203	Examen2 (194)	Comprensión de lectura(Tarea3)
204	Examen2 (195)	Comprensión auditiva(Tarea5)
205	Examen2 (196)	Comprensión de lectura(Tarea4)
206	Examen2 (197)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
207	Examen2 (198)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
208	Examen2 (199)	Comprensión de lectura(Tarea1)
209	Examen2 (200)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
210	Examen2 (201)	Lectura(Tarea2)
211	Examen2 (202)	Comprensión auditiva(Tarea4)
212	Examen2 (203)	Comprensión de lectura(Tarea3)
213	Examen2 (204)	Comprensión auditiva(Tarea5)
214	Examen2 (205)	Comprensión de lectura(Tarea4)
215	Examen2 (206)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
216	Examen2 (207)	Expresión e inter

Respecto a la expresión lectora y a la comprensión auditiva, aclararemos las dudas en la clase. La expresión escrita será devuelta a cada estudiante tras su corrección.

Se espera que sea una clase dinámica y con alto grado de participación.

[Outline and objectives]

We will do exercises to facilitate the comprehension of the four skills (reading expression, written expression, listening comprehension and oral expression) required in the examination of the Diploma of Spanish (DELE) of level B2, using models of complete exams similar to real ones.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーションⅣ 2016年度以前入学者

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
3～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

En esta clase daremos importancia al estudio equilibrado de las cuatro destrezas: leer, escribir, escuchar y hablar,

【到達目標】

Aprender el idioma español avanzado del nivel de DELE B2.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Haremos ejercicios para facilitar la comprensión de las cuatro destrezas (expresión lectora, expresión escrita, comprensión auditiva y expresión oral) requeridas en el examen del Diploma de Español (DELE) del nivel B2, utilizando modelos de exámenes completos similares a los reales.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Examen3 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1)
2	Examen3 (2)	Comprensión auditiva (Tarea1)
3	Examen3 (3)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
4	Examen3 (4)	Comprensión de Lectura(Tarea2)
5	Examen3 (5)	Comprensión de lectura(Tarea3)
6	Examen3 (6)	Comprensión auditiva (Tarea5)
7	Examen3 (7)	Comprensión de lectura(Tarea4)
8	Examen4 (1)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
9	Examen4 (2)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
10	Examen4 (3)	Comprensión de lectura(Tarea1)
11	Examen4 (4)	Comprensión auditiva(Tarea1)
12	Examen4 (5)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
13	Examen4 (6)	Lectura(Tarea2)
14	Tiempo de ajuste	Comprensión auditiva(Tarea4)
		Comprensión de lectura(Tarea3)
		Comprensión auditiva(Tarea5)
		Comprensión de lectura(Tarea4)
		Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
		Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
		Aclaración dudas.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

En principio, sólo habrá que preparar en casa la comprensión lectora. El resto de las pruebas intentaremos hacerlas en la clase ciñéndonos al tiempo del examen real

【テキスト（教科書）】

Destino DELE, B2

Cristina M. Alegre Palazón

Cideb

En caso de uno tener el libro de texto se repartirán fotocopias en la clase.

【参考書】

Si hubiera alguna referencia se daría la información en la clase.

【成績評価の方法と基準】

Se calificará de acuerdo con el trabajo realizado cada semana por el estudiante y el examen semestral que constará de una lectura con preguntas y una o dos pruebas auditivas.

Examen 70%

Actitud en clase 30%

Se penalizarán las faltas de asistencia. Pasando de tres no se conseguirá el aprobado.

【学生の意見等からの気づき】

Ninguno en especial.

【その他の重要事項】

Para participar en esta clase se requieren un conocimiento del español avanzado y muchas ganas de trabajar.

Respecto a la expresión lectora y a la comprensión auditiva, aclararemos las dudas en la clase. La expresión escrita será de vuelta a cada estudiante tras su corrección.

Se espera que sea una clase dinámica y con alto grado de participación.

[Outline and objectives]

We will do exercises to facilitate the comprehension of the four skills (reading expression, written expression, listening comprehension and oral expression) required in the examination of the Diploma of Spanish (DELE) of level B2, using models of complete exams similar to real ones.

LANk300LA

朝鮮語初級Ⅱ

2016年度以前入学者

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語B

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語A」を終了したレベルのかた向けの講座です。具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、現在形のハムニダ形、ヘヨ形ができ、テキストの8課程度までの内容を理解していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・変則用言を理解し、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第9課（1）	何か好きですか？
2	第9課（2）	変則用言を学ぶ
3	第10課（1）	週末に何をしましたか？
4	第10課（2）	過去形の作り方
5	第10課（3）	一日の日課
6	第11課（1）	明日は何をするつもりですか？
7	第11課（2）	買い物をしてみましょう。
8	第12課（1）	スープが冷たくておいしいです。
9	第12課（2）	ペアで覚える形容詞
10	第12課（3）	自分の気持ちや周りの様子を表現する
11	第13課（1）	一度遊びに来てください
12	第13課（2）	もっとチャレンジしてみよう
13	第13課（3）	副詞をものにしよう
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
- ・わからないことを放置しないようにしてください。
- ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。

【テキスト（教科書）】

『最新チャレンジ！韓国語』金順玉・阪堂千津子著、白水社、2014年、2300円＋税

【参考書】

朝鮮語辞典

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%
- ・期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

CDの活用

【Outline and objectives】

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 8 of the text book.

LANk300LA

朝鮮語中級 I 2016 年度以前入学者

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語中級 2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標にします。ある程度朝鮮語の会話にも挑戦していきます。

【到達目標】

基本会話ができることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などについてと簡単な復習	授業の進め方について説明します
第二回	今日も友達に会いますか 1	読む練習と否定形について
第三回	今日も友達に会いますか 2	発音について
第四回	今、何時ですか 1	会話の練習
第五回	今、何時ですか 2	数詞について
第六回	ここはデパートですか 1	発音練習と読む練習について
第七回	ここはデパートですか 2	連体形について
第八回	私の家族です 1	推量について
第九回	私の家族です 2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか 1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか 2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート、課題を調べてくること。

【テキスト（教科書）】

教室用テキスト「朝鮮語中級」（梁禮先）

【参考書】

朝鮮語辞書

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト、課題など 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

発音をもっとやりたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業の内容は少々変わることがあります。

【Outline and objectives】

Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

PHI300LA

ドイツの思想 I 2016 年度以前入学者

PHI300LA

ドイツの思想 A 2017 年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
3~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェ入門をテーマとする授業です。
不確実な現代を生き、考えてゆくうえで見落とすことのできない思想家ニーチェを取り上げ、基礎的な知識を押さえながら、彼の思想世界をとらえてゆきます。また、現代思想・哲学、芸術に与えた影響にもふれてゆきます。

毎回、導入的なレクチャーをおこなった後、ニーチェの作品から読みやすい箇所を選んで、その言葉に直接ふれながら進めます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

春学期の内容は、初期のニーチェを中心としますが、中期・後期ニーチェも視野に入れます。

授業を通して、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点にふれ、捉えることを目指します。

【到達目標】

初期ニーチェを中心として、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテキストにふれることによって、ニーチェ思想に対する理解を深める。現代思想・哲学、芸術に与えた影響を捉える。概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれながら進めてゆきます。一方通行にならないよう、質問やリアクション・ペーパーに示された感想や見方に応答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー 50%、言葉にふれること 40%、質疑応答 10%の割合で進めてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方。授業のねらい。ニーチェはどのような哲学者か。以下の進捗はおおよその目安です。
第 2 回	ニーチェの生涯と思想。	ニーチェの生涯と代表作について、導入的なレクチャーをおこないます。
第 3 回	『悲劇の誕生』(1)	初期ニーチェの代表作『悲劇の誕生』について、基本的な事柄をとらえます。
第 4 回	『悲劇の誕生』(2)	『悲劇の誕生』の中心概念である「ディオニュソス的なもの」と「アポロ的なもの」をとらえます。
第 5 回	『悲劇の誕生』(3)	ギリシア悲劇とはどのようなものか、その特徴をとらえ、ニーチェとの関係を考えます。
第 6 回	『悲劇の誕生』(4)	ワーグナーとの関係で『悲劇の誕生』をとらえ、若きニーチェがなぜワーグナーに傾倒したのかをワーグナーの作品にふれながら考えます。
第 7 回	『悲劇の誕生』(5)	ショーペンハウアーとの関係で『悲劇の誕生』をとらえ、ニーチェとショーペンハウアーの接点と違いについて考えます。
第 8 回	『悲劇の誕生』(6)	『悲劇の誕生』の背景にあるニーチェの芸術論と音楽論をとらえ、その意義を考えます。
第 9 回	『悲劇の誕生』(7)	『悲劇の誕生』におけるソクラテス批判をとらえ、その意義を考えます。
第 10 回	『反時代的考察』	『悲劇の誕生』とならぶ初期ニーチェの代表作である『反時代的考察』をとりあげ、基本的な論点と特徴を考えます。
第 11 回	初期ニーチェと現代哲学・思想	初期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響をドイツ系の哲学者・思想家を中心にして要点をとらえます。

- 第12回 初期ニーチェから中期・後期のニーチェへ ニーチェがワグナーとショーペンハウアーを批判するに至る経緯をたどり、中期・後期ニーチェ思想の展開の方向性を展望します。
- 第13回 まとめ 春学期の授業の内容をまとめ、質疑応答をおこないます。
- 第14回 春学期の試験 春学期のまとめの試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントとノートによって授業内容の整理と復習をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

プリントでそのつと配布します。

【参考書】

『ニーチェ全集』、ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』、世界思想社。柏原啓一『総合人間学』、日本放送出版協会。高辻知義『ワグナー』、岩波新書。ビヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』、法政大学出版局。

【成績評価の方法と基準】

出席を重視します。授業最終日に内容確認の試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点と試験を総合して評価します（平常点 40%、試験 60%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを正確にとってほしい。リアクション・ペーパーへの記入を心掛けてほしい。

【Outline and objectives】

Introduction to philosophy of the early Nietzsche. Key words: The Birth of Tragedy, Nietzsche as classical philologist, the composite art of Richard Wagner, Schopenhauer's philosophy, Nietzsche's confrontation with the Platonic tradition, Nietzsche's influence to contemporary thoughts.

PHI300LA

ドイツの思想Ⅱ

2016年度以前入学者

PHI300LA

ドイツの思想B

2017年度以降入学者

笠原 賢介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
3~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェ入門をテーマとする授業です。ニーチェの中期・後期思想を中心としますが、春学期に取り上げた初期のニーチェ思想も視野に入れてゆきます。

毎回、テーマに関連したレクチャーをおこない、ニーチェの作品から重要な箇所を選んで、ニーチェの言葉に直接ふれてゆきます。ニーチェが現代哲学・思想、芸術に与えた影響についてもふれてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

授業を通して、図式的、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を取り出し、考えることを目指します。

【到達目標】

中期および後期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテキストにふれることによって、ニーチェ思想への理解を深める。現代哲学・思想、芸術への影響をとらえる。ニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれてゆきます。一方通行にならないよう、質問やリアクション・ペーパーに示された意見や感想に回答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー 50%、言葉にふれること 40%、質疑応答 10%の割合で進めてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、ねらい。ニーチェはどのような哲学者か。以下の進度はおおよその目安です。
第2回	初期ニーチェ思想と中期・後期ニーチェ思想の違いと連続性	春学期の内容と中・後期ニーチェの著作を概観しながら、初期ニーチェ思想と中・後期ニーチェ思想の違いと連続性を捉え、全体的な見通しを立てます。
第3回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』—アフォリズム的思考	中期の作品『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』によってニーチェのアフォリズム的思考の特徴をとらえます。
第4回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』—〈形而上学〉への批判	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』によって〈形而上学（従来の哲学）〉へのニーチェの批判の意味を考えます。
第5回	『悦ばしき知恵』—〈神の死〉	『悦ばしき知恵』によって〈神の死〉をめぐるニーチェの思索を取り出します。
第6回	『ツァラトゥストラ』(1)—〈身体〉と〈心〉をめぐって	『ツァラトゥストラ』によって〈身体〉と〈心〉をめぐるニーチェの思索を捉え、考えます。
第7回	『ツァラトゥストラ』(2)—〈力への意志〉をめぐって	『ツァラトゥストラ』とニーチェの遺稿によって〈力への意志〉をめぐるニーチェの思索をとらえ、考えます。
第8回	『ツァラトゥストラ』(3)—〈時間〉をめぐる思索	『ツァラトゥストラ』によってニーチェの「永遠回帰」の思想を捉え、考えます。
第9回	『道徳の系譜』—〈道徳〉への批判	『道徳の系譜』によって、ニーチェがなぜ道徳を批判したのか、その論点を解きほぐして考えます。
第10回	ニーチェと西洋哲学の伝統	これまでの授業の内容を踏まえて、ニーチェと彼以前の哲学者との違いと接点をとらえます。
第11回	ニーチェと現代の哲学・思想、芸術 (1)	中・後期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響について、ドイツ系の哲学者・思想家を中心にして要点をとらえます。

- 第12回 ニーチェと現代の哲学・思想、芸術 (2) ニーチェの現代芸術への影響をヨーロッパの世紀末芸術について、絵画・音楽を中心に紹介します。
- 第13回 まとめ 秋学期の授業の内容をまとめ、質疑応答をおこないます。
- 第14回 秋学期の試験 秋学期のまとめの試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントとノートによって授業内容の整理と復習をおこなうこと。

【テキスト（教科書）】

プリントでそのつど配布します。

【参考書】

『ニーチェ全集』ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。柏原啓一『総合人間学』、日本放送出版協会。渡邊二郎他編『ニーチェを知る事典』ちくま学芸文庫。ピヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。

【成績評価の方法と基準】

出席を重視します。授業最終日に内容確認の試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点と試験を総合して評価をおこないます（平常点 40 %、試験 60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

正確にノートを取ってほしい。リアクション・ペーパーへの記入を心掛けてほしい。

【Outline and objectives】

Introduction to Nietzsche's philosophy. Key words: Human- all too Human, Daybreak, The Gay Science, Thus Spoke Zarathustra, On the Genealogy of Morals, Nietzsche's confrontation with the western philosophical tradition, Nietzsche and the art of fin de siècle, Nietzsche's influence to contemporary thoughts.

LIT300LA

ドイツの文学 I

2016 年度以前入学者

LIT300LA

ドイツ語圏の文学 A

2017 年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【「私」探しの源流を求めて】

近代ドイツ語圏は、明治期以降の日本に「(他とは違う)私自身」という思考の枠組みを与えました。中でもドイツ語で書かれた文学は、日本の近代化とその人材育成に非常に大きな影響を与えています。現在の日本を見回しても、カフカがいなければ「作家・村上春樹」はいなかったでしょうし、Th.・マンほか数々のドイツ語圏発の文学や文化現象がなければ、「スタジオ・ジブリ（宮崎駿）」は今とは似ても似つかぬものだったかもしれません。あるいは明治期の日本が「ドイツ」とどのように深く付き合わなければ、日本では王道の「青春もの」「学園もの」のマンガはここまで当たり前のものではなく（Bildung 概念の形成）、ついでに、みなさんに「私の個性」や「私が大学時代に達成したこと」を語らせる日本の「就活」も、今とはちょっと違っていたかもしれませんね。

この授業では、ドイツ語圏文学の魅力の一片を、王道と王道じゃないものを取り混ぜつつ、皆さんと楽しみたいと思っています。なぜフィクションが真実を表現しうるのか（しえないのか）、言語テキストが表現できること、さらにはそこから浮かび上がる人間社会の困難や喜びについて、ご一緒に考えていきましょう。

【到達目標】

履修する学生の皆さんが到達すべきは、以下の通りです。第一の目標は、テキストの意味を捉える読解能力と、反省的思考能力の獲得です。テキストを読み、「内容が理解できた」「自分が何かを考えている」と感じられる経験こそが、真の「コミュニケーション能力」の訓練であることをしっかり認識してください。

第二の目標は、自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得です。意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正（＝ありえない大人や組織）や自己疎外（＝「自分は必要とされていない」と思う気持ち）と向かい合う手立てにもなってくれるでしょう。

最後の目標は、社会に対する批判的な眼差しを獲得し、遠く離れた場所の出来事を、自身の問題として理解する感受性を磨くことです。19～20 世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突（＝「苦手」と感じる状況）を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

主に 19 世紀～20 世紀のドイツ語圏文学を、時系列的に扱います。

授業では毎回、担当者が講義形式で、作品や作家の概要の説明を行ったあと、テキストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。授業の終わりには、各自が一定量の小レポート（リアクションペーパー）を記述し提出します。

授業3回目以降は、各回授業の最初に、みなさんからの前回授業コメントのフィードバックも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏文学って？「ドイツ語圏」ってどこ？
2	「カッコいい俺」の生き方？	ゲーテ『若きヴェルターへの悩み』（1774 年、ドイツ）
3	この世界の片隅で	ゲオルク・ビューヒナー『ヴォイツェック』（1835 年、ドイツ）その 1
4	僕にはあの人しかいないのに	ゲオルク・ビューヒナー『ヴォイツェック』（1835 年、ドイツ）その 2
5	先生って何であんなに怖い？	ゴットフリート・ケラー『緑のハイブリヒ（第二版）』（1879-80 年、スイス）
6	身分違いの恋ってわかってるけど…	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888 年、ドイツ）その 1
7	社会の変化についていけない気がする	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』（1888 年、ドイツ）その 2
8	元祖 BL？満たされない空虚な気持ち	ローベルト・ムージル『寄生生テルレスの混乱』（1906 年、オーストリア／ハンガリー）

9	「私」はもういない	フランツ・カフカ『掟の前で』 (1914/15年)『家父の気がかり』 (1917/19年)(オーストリア/チェコ)
10	私はあなたのことを決して 忘れない	シュテファン・ツヴァイク『書痴メン デル』(1929年、オーストリア)
11	都会の「キラキラ」に憧 れる女の子	イルムガルト・コイン『人工シルクの 女の子』(1932年、ドイツ) その1
12	本当の私を好きになって ほしい	イルムガルト・コイン『人工シルクの 女の子』(1932年、ドイツ) その2
13	どこでだって今を楽しく 生きていける	トーマス・ブルスイヒ『太陽通り』 (1999年、ドイツ)
14	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・活字に触れる作業は全て、予習・復習に該当すると思います。あらゆる大学の授業に関わることはそうですし、スマホや SNS をいじりながら考えること、思わず眩してしまうこともそうです。
・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。
・人と会って話す時間はすべて人文学の基本です。大学の中で、サークルや部活、バイト、家族や友人と過ごすひとときの言葉を、しっかり振り返ることができれば一番いいですね。

【テキスト（教科書）】

毎授業、コピーを配布します。

【参考書】

・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）
・手塚富雄・神品芳夫（著）『(増補)ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）
その他は講義内資料などで指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と貢献（25%）、リアクションペーパー（25%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当します。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具を必ず用意してください
(携帯電話等をメモがわりに利用することは認めません)

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識は必須ではありません。
・扱う作品・内容や順序は変更される場合もあります。

【Outline and objectives】

This course introduces literature from the era of german "Strum und Drang"/Weimar classicism to the german modernism (Berliner Moderne/Wiener Moderne). In the course, we also focus on the sense of "self-identity" and "Bildung" that was developed intensively by Germany or German speaking areas like Habsburg Monarchy as well as by entire German modern literature and culture influences modernization of Japan since Meiji-era definitely. We combine texts of German-language literature with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

LIT300LA

ドイツの文学Ⅱ

2016年度以前入学者

LIT300LA

ドイツ語圏の文学B

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【「私」の源流・子どもの頃の思い出】

この授業が着目するのは、ドイツ語圏発の子ども向け・児童文学作品です。ドイツ語圏のメルヒェンやファンタジーの古典には、今もディズニーやハリウッド、あるいは「スタジオ・ジブリ」の着想源となるような作品があります。あんな昔のドイツ語圏発のフィクションに、どんなアクチュアリティーがあるのでしょうか？

この授業では、「子ども向け」「ヤングアダルト向け」の作品を通して、ドイツ語圏文学の魅力の一片を楽しみたいと思っています。授業で扱うのは全て、今なお読み継がれる世界的なベストセラーや、その映画化やアニメーション化が日本で大ヒットした作品です。「私と家族」「親」「学校」「友だち」…を通して見える真実、そこから浮かび上がる人間社会の困難や喜びについて、一緒に考えていきましょう。

担当者の私には、若い学生の皆さんが「大人になりかけの人たち」のように思えます。もちろん「私はもう大人だ!」という方、今改めて大学で学んでいるという方も、文学作品を通じて自分の子ども時代を少し振り返ってみませんか。今の自分次第で過去も変わります。今の皆さんだから見えること、わかることがあるはずです。

【到達目標】

履修する学生の皆さんが到達すべきは、以下の通りです。第一の目標は、テキストの意味を捉える読解能力と、反省的思考能力の獲得です。テキストを読み、「内容が理解できた」「自分が何かを考えている」と感じられる経験こそが、真の「コミュニケーション能力」の訓練であることをしっかり認識してください。

第二の目標は、自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得です。意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正（=ありえない大人や組織）や自己疎外（=「自分が必要とされていない」と思う気持ち）と向かい合う手立てにもなってくれるでしょう。

最後の目標は、社会に対する批判的な眼差しを獲得し、遠く離れた場所の出来事を、自身の問題として理解する感受性を磨くことです。19～21世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突（=「苦手」と感じる状況）を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

19世紀以降のドイツ・ロマン派、モダニズムから現代までのドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）文学を扱います。

授業では、原作の小説と、一部その二次創作（映画、パレエ）の映像を扱います。毎回、担当者が講義形式で、作品や作家の概要の説明を行った後、テキストを読み、または映像の抜粋を確認します。

その後、参加者同士でお互いの理解を確認する作業を行います。

授業の終わりには、各自が一定量の小レポート（リアクションペーパー）を記述し提出します。

授業3回目以降は、各回授業の最初に、みなさんからの前回授業コメントのフィードバックも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏文学って？「ドイツ語圏」ってどこ？
2	美しい自然・大好きなお母さん	フェーリクス・ザルテン『パンビ』（1923年）その1
3	いじわるな人はいるけど、きっと大丈夫	フェーリクス・ザルテン『パンビ』（1923年）その2
4	貧しくも美しいアルプスの麓で	ヨハナ・シュピリ『アルプスの少女ハイジ』（1880-1881）その1
5	豊かで不幸せな都会・成長したのはどっち？	ヨハナ・シュピリ『アルプスの少女ハイジ』（1880-1881）その2
6	こっちの世界へようこそ	ミヒャエル・エンデ『はてしない物語』（1979年）その1
7	ひとりひとりが選ばれた「あなた」だから	ミヒャエル・エンデ『はてしない物語』（1979年）その2
8	自分も親も初恋も全部イケてない	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その1

9	大切な友だちの悲しみ・忘れられない日々	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』(2010年)その2
10	みんなが何と言おうと私はこれがいいの!	E.T.A. ホフマン『くるみ割り人形とねずみの王様』(1814年)その1
11	お姫様になれたらどうしちゃおう?	E.T.A. ホフマン『くるみ割り人形とねずみの王様』(1814年)その2
12	子どもは親を選べないから	エーリヒ・ケストナー『飛ぶ教室』(1933年)その1
13	「正義」の真実?	エーリヒ・ケストナー『飛ぶ教室』(1933年)その2
14	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・活字に触れる作業は全て、予習・復習に該当すると思います。あらゆる大学の授業に関わることはそうですし、スマホや SNS をいじりながら考えること、思わず呟いてしまうこともそうです。

・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。

・人と会って話す時間はすべて人文系の基本です。大学の中で、サークルや部活、バイト、家族や友人と過ごすひとときの言葉を、しっかり振り返ることができれば一番いいですね。

【テキスト（教科書）】

毎授業、コピーを配布します。

【参考書】

・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）

・手塚富雄・神品芳夫（著）『増補』ドイツ文学案内（岩波書店、1993年）

その他は講義内資料などで指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と貢献（25%）、リアクションペーパー（25%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当します。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具を必ず用意してください

（携帯電話等をメモがわりに利用することは認めません）

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識は必須ではありません。

・扱う作品・内容や順序は変更される場合もあります。

【Outline and objectives】

This course introduces german-language children's and juvenile literature: It deals with exclusively the worldwide best seller of all-times as well as highly estimated works from Germany and german-speaking areas like Austria or Switzerland, those derivative works from all over the world has proved to be also mega hits in Japan.

In the course, we also focus on "childhood" as a concept. What is the real actuality of children's and juvenile literature that are still adapted by the Hollywood, the Disney or the Studio Ghibli? What are we thinking about from the stories of "me"/"my self", "family", "school" or "friends"? Our works in this course would lead us also remembrance and reconsideration about our own childhood that bring us generous and definite differences.

ARSk300LA

比較文化 I

2016年度以前入学者

ARSk300LA

比較文化 A

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
3~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画の食卓から見る比較文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスでは映画とその他のメディアに描かれた料理と食卓シーンを比較し、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化理解力を高める。

【到達目標】

・異文化理解を深めること。

・固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。

・形式的にも丁寧なレポートを書くこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

短いシーンを選んで分析し、鑑賞後は、ディスカッションまたは課題の提出を求めることもあります。補足的に様々なテキストを読むこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の内容と進め方の説明
②	孤食と軽食（1）	軽食店のシーンなど
③	孤食と軽食（2）	課題、ディスカッション
④	Dinner for two（1）	初デートのシーンなど
⑤	Dinner for two（2）	課題、ディスカッション
⑥	家族の会食と祝宴（1）	クリスマスの食卓シーンなど
⑦	家族の会食と祝宴（2）	課題、ディスカッション
⑧	飢えと暴飲暴食（1）	メルヘンから戦前戦後など貧しい時代の食卓シーン
⑨	飢えと暴飲暴食（2）	課題、ディスカッション
⑩	過剰消費社会と風刺（1）	伊丹十三『タンポポ』などについて
⑪	過剰消費社会と風刺（2）	課題、ディスカッション
⑫	古代と宗教上のモチーフ（1）	キリスト教の「晩餐会」と古代ギリシャの「饗宴」などについて
⑬	古代と宗教上のモチーフ（2）	課題、ディスカッション
⑭	学生の発表	レポートのフィードバックなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するのに適さない長文テキストは自分でダウンロードし、授業の前に読むという宿題があります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出も含む）： 50%

レポート提出と発表： 50%

受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業中にスマホ操作不可。

【Outline and objectives】

Food, Media, and Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will analyse the representations of food in films and other media.

ARSk300LA

比較文化Ⅱ

2016年度以前入学者

ARSk300LA

比較文化B

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
3~4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

シンボル動物から見る比較文化

諸文化間の動物観とそれらのシンボリック的意味を題材に、類似点と相違点を探求する。この授業では、主に神話、宗教や文学の視点から人間と動物の関係学ぶ。

【到達目標】

- ・人間と動物の関係についての理解、異文化の理解を深めること。
- ・固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- ・形式的にも丁寧なレポートを書くこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

入門的な講義、テキスト講読（和訳、全頁で）の討議、五回の課題とフィードバックによって授業を構成する。補足的に様々なメディアを鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	日本の狐と西欧の狐（1）	女性のイメージ対悪魔のイメージ
③	日本の狐と西欧の狐（2）	民話『狐ラインケ』からゲーテ『きつねのライネッケ』へ、課題、ディスカッション
④	日本の変身童話と西欧の変身童話（1）	『日本の昔ばなし』と『グリム童話』の比較
⑤	日本の変身童話と西欧の変身童話（2）	課題、ディスカッション
⑥	宗教と動物（1）	キリスト教のシンボル動物について
⑦	宗教と動物（2）	仏教のシンボル動物について、課題、ディスカッション
⑧	ギリシャ・ローマ神話と動物（1）	イルカ、馬について動物の犠牲について
⑨	ギリシャ・ローマ神話と動物（2）	課題、ディスカッション
⑩	北欧神話と動物（1）	カラス、オオカミについて
⑪	北欧神話と動物（2）	課題、ディスカッション
⑫	詩人と白鳥（1）	「レダと白鳥」について
⑬	詩人と白鳥（2）	ワグナー『ローエングリン』について
⑭	学生の発表	レポートのフィードバックなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するのに適さない長文テキストは自分でダウンロードし、授業の前に読むという宿題があります。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】平常点（課題提出も含む）：50%、レポート提出と発表：50%
受講者数によって評価方法が変化する可能性がある。**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

【その他の重要事項】

授業中にスマホ操作不可。

【Outline and objectives】

What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

LANs300LA

スペイン語上級Ⅰ

2016年度以前入学者

LANs300LA

スペイン語上級A

2017年度以降入学者

佐々木 直美開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
3~4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スペインSA修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】

DELEのB2からC1レベルを目指す。
具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

読解：当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を当てて解答を要求する。教師はそれについてアドバイスを、コメントをする。
また、テーマに応じたディスカッションも行う。授業は基本的にスペイン語で行い、スペイン語による「話す力」も鍛錬する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。 教員によるモデル授業。 スペイン語によるディスカッション。
2	講読1 ディスカッション (時事問題)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
3	講読2 ディスカッション (スポーツ)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
4	講読3 ディスカッション (映画)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
5	講読4 ディスカッション (音楽)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
6	講読5 ディスカッション (食文化)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
7	講読6 ディスカッション (時事問題)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
8	講読7 ディスカッション (ファッション)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
9	講読8 ディスカッション (習慣)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
10	講読9 ディスカッション (文学)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
11	講読10 ディスカッション (テクノロジー)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
12	講読11 ディスカッション (移民)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
13	講読12 ディスカッション (世界遺産)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
14	講読13 ディスカッション (自由テーマ)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。
自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 % を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

LANs300LA

スペイン語上級Ⅱ

2016 年度以前入学者

LANs300LA

スペイン語上級B

2017 年度以降入学者

佐々木 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
3～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン S A 修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】

DELE の B2 から C1 レベルを目指す。

具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を当てて解答を要求する。教師はそれについてアドバイス、コメントをする。また、テーマに応じたスペイン語によるディスカッションを行う。
基本的に授業はスペイン語で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員によるモデル授業。 スペイン語によるディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
10	講読 9 ディスカッション (文学)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
11	講読 10 ディスカッション (自由テーマ)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
12	講読 11 ディスカッション (時事問題)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。
自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 % を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.
Conducted in Spanish.

ART300LA

ドイツの芸術 I

2016 年度以前入学者

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 A

2017 年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏の芸術」と聞いて、何が思い浮かびますか？「ドイツ語圏」っぽい芸術ってどういうことでしょうか？ というか、ドイツ語圏ってどこでしたっけ？

18 世紀から 19 世紀にかけて、中部ヨーロッパ（当時のドイツ、オーストリアとその周辺）には、「ドイツっばい（deutsch）」や「ドイツ人（Deutsche）」の正体を、他でもない芸術を通じて追究しようとする人々が現れました。この授業では、秋学期開講の「ドイツ語圏の芸術 B」と併せて、近代ドイツ語圏の造形芸術（建築、デザイン）、音楽を概観することで、「ドイツ語圏の芸術」とカテゴライズされるものさまざまな内実に取り入ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

【到達目標】

第一の目標は、近代のドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする）の文化・芸術に関する理解を深め、概念を通じた知識を習得するとともに、芸術に対する知的なアプローチの方法を学ぶことです。「芸術＝天才・エキセントリックなもの」という今日の世間一般に流布するイメージの成立には、19 世紀の欧州、とりわけドイツ語圏の芸術が決定的に影響したと言っても過言ではありません。

二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析を通じ、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21 世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。三つめの目標は、「ドイツっばい」というナショナルな表象（とそれに対する抵抗）を概観することで、アイデンティティの実体や困難について思考することです。「ドイツっばい」の不確かさと同程度には、「日本ならではの…」という言い方もあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

造形芸術、舞台芸術、建築、デザイン、音楽などの諸芸術のうち、今学期は 18 世紀末～ 20 世紀初頭の音楽と造形芸術を時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、作り手（芸術家）や時代背景、作品受容とその影響について確認する作業が中心です。

各回は、基本的に担当者による解説やテキストの講読を中心とする講義形式で行いますが、適宜ペアワーク、グループワークによる議論の時間を設け、「ここまでの内容・解説についてどう理解しどう思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深められる機会とします。各授業後には、一定量のコメント（リアクションペーパー）を書き提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業について（オリエンテーション）、 「ドイツ語圏」ってどこ？
第 2 回	ルネサンスから北方ルネサンスへーアルプス山脈を超えてみました	デューラー『野うさぎ』（1502 年）、 『メランコリア I』（1514 年）ほか
第 3 回	仕事が欲しい音楽家ー「音楽の国ドイツ」の誕生？！	モーツァルト『弦楽四重奏曲第 1 番ト長調 K.80 (73f)「ローディ」』（1770-1773 年）ほか
第 4 回	ドイツ語で歌うオペラを作りたいー言語と芸術の優劣？	モーツァルト『後宮からの誘拐』（1782 年）『ドン・ジョヴァンニ』（1787 年）『魔笛』（1791 年）
第 5 回	ナポレオン後の世界と 1824 年の衝撃ー真理を「聴く」ための交響曲	ベートーヴェン『交響曲第五番ハ短調作品 67「運命」』（1808 年）『交響曲第九番ニ短調作品 125「合唱付」』（1824 年）
第 6 回	若者たちの憂いー「ドイツリート」の誕生	シューベルト『糸を紡ぐグレートヒェン』（1814 年）とゲーテの『ファウスト（悲劇第一部）』（1808 年）
第 7 回	反動と啓蒙の時代ー合唱と「ドイツ」を讃える歌	「フィルハーモニー」の誕生、「ジング・アカデミー」とゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』（1829 年）

第 8 回	「国歌」を歌ってみたい？ — 「ドイツ人としての誇り」	ハイデン『弦楽四重奏曲第 77 番ハ長調「皇帝」』／「神よ、皇帝フランスを守り給え」(1797 年)／H. v. ファーラーズレーベン「ドイツの歌」(1841 年)
第 9 回	歴史を伝える絵画 — 都市化するベルリンとドイツ帝国の誕生	メンツェル『ベルリン～ポツダム鉄道』(1947 年)『サンサージ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』(1850 年)『鉄匠延機工場』(1872-1875 年)
第 10 回	戦うオーストリア — ヴィーンのワルツ・ビジネス	J. シュトラウスとその息子との確執、J. シュトラウス 2 世『青き美しきドナウ』(1867 年)『ウィーン気質』(1873 年) ほか
第 11 回	終わりの始まり — 権威への思慕と反動のせめぎ合い	ウィーン工房とウィーン分離派 (O. ヴァーグナー、J. ホフマンなど)
第 12 回	オワコンなブルジョワの本音 — ヴィーン世紀末の光と影	クリムト『アデーレ・ブロッホ=パウアーの肖像』(1907 年) ほか
第 13 回	「新たな時代の生き方」 — 「ブリュッケ」(表現主義)	O. ミュラー『水浴する風景』(1906 年)、キルヒナー『ノレンドルフ広場』(1912 年)『ポツダム広場』(1914 年)
第 14 回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内に配布されたプリント資料に、次授業までに再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品のカatalogを見る、音楽を聴くなどできればなお良いです。
・コンサート・ライブの体験や観劇は素晴らしいと思います。首都圏近郊の美術館へもぜひ「キャンパス・メンバーズ」などを活用し足を運んでください。

【テキスト（教科書）】

各回プリントを配布します。

【参考書】

宮田真治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）
石多正男『歌曲と絵画で学ぶドイツ文化史 中世・ルネサンスから現代まで』（慶応義塾大学出版会、2014 年）
神林恒道編『ドイツ表現主義の世界 美術と音楽をめぐって』（法律文化社、1995 年）
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と貢献（25%）、リアクションペーパー（25%）、学期末レポート（50%）

*「クラシック音楽」の範疇のコンサート、ヨーロッパの古典演劇や舞踊（バレエ）、西洋美術や造形芸術の展覧会などの鑑賞に関し、学期末レポートと同水準でおかつ「ドイツ」との関連が明確に論じられたレポートであれば、「授業への積極的な参加と貢献（25%）」ないし「リアクションペーパー（25%）」の評価に組み入れます。全てプロと認知される演者や作家の公演・展覧会であることが条件です。レポートの提出は一回限り、展覧会等の半券ないし日付の入った入場券購入記録の提出を義務とします（以上「フィールドワーク」に該当）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具を必ず用意してください
(携帯電話等をメモがわりに利用することは認めません)

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the Renaissance to the end of 19. century: It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design) and music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. Our works in this course would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

ART300LA

ドイツの芸術Ⅱ

2016 年度以前入学者

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 B

2017 年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏の芸術」と聞いて、何が思い浮かびますか？「ドイツ語圏」っぽい芸術ってどんな感じなんだろう？ というか、ドイツ語圏ってどこでしたっけ？

20 世紀、「ドイツ語圏」と呼ばれる地域は、二度の大戦を通じて国境線を幾度となく書きかえていきます。芸術家たちがいかに歴史に翻弄され、またそれに抗おうとしたのか？ この授業では、春学期開講の「ドイツ語圏の芸術 A」と併せて、近代ドイツ語圏の芸術（造形芸術、身体・舞台芸術）、建築（デザイン）、音楽を概観することで、「ドイツ語圏の芸術」とカテゴライズされるものささまざまな内実に迫ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

【到達目標】

第一の目標は、近現代のドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする）の文化・芸術に関する理解を深め、概念を通じた知識を習得するとともに、芸術への知的なアプローチの仕方を学ぶことです。

二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析等を通じて、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21 世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

三つめの目標は、「ドイツっぽい」というナショナルな表象（とそれに対する抵抗）を概観することで、アイデンティティの実体や困難について思考することです。「ドイツっぽい」ものの不確かさと同程度には、「日本ならではの…」という言い方もあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

今学期は、20 世紀のドイツ語圏から発信された造形芸術、舞台芸術、建築、デザイン、音楽などの諸芸術を幅広く、おおよそ時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、作り手（芸術家）や時代背景、作品受容とその影響について確認する作業が中心です。

各回は、基本的に担当者による解説やテキストの講読を中心とする講義形式で行いますが、適宜ペアワーク、グループワークによる議論の時間を設け、「ここまでの内容・解説についてどう理解しどう思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深められる機会とします。各授業後には一定量のコメント（リアクションペーパー）を書き提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業について（オリエンテーション）、春学期の復習、第一次世界大戦が社会・芸術にもたらした変化
第 2 回	永世中立国スイスと「反芸術」 — 言葉と音の大胆な融合	H. バル『ダダ宣言』(1916 年)、チュウリヒ・ダダと T・ツァラの「キャバレー・ヴォルテールの夕べ」ほか
第 3 回	混乱と不条理を愛する — 「コラージュ」こそがモダニズムのパラダイム	ベルリン・ダダ (R. ハウスマン、H. ヘーヒほか)、K. シュヴィッターズ『メルツ絵画』(1919 年～) ほか
第 4 回	美と労働と生活の結合 — 田園都市ヘレラウの実験	「デザイン」の時代の到来、ドイツ工作連盟とドイツ工芸工房、教育と芸術の融合、第一次世界大戦と生活改革運動の限界
第 5 回	身体にリズムを取り戻す — モダンダンスの革命・女性の時代	ヘレラウ生まれのリトミック、R. ラバンの身体教育構想、M. ヴィグマンの舞踊教育施設ほか
第 6 回	「全ては建築に収束する」 — パウハウスの誕生	W. グロピウス『パウハウス宣言』(1919 年)、表現主義と機能主義の混合、O. シュレンマーの舞台工房と「トリアディック・バレエ」(1922 年) ほか
第 7 回	審美的な芸術から機能主義へ — マイアーと M・v・d・ローエのパウハウス	W・グロピウスによるデッサウのパウハウス校舎 (1925 年)、タイボグラフィとデザインの融合

第 8 回	ハイパーインフレと虚無の後でー機械の時代の芸術	W. グロピウス『大都会』(1927/28年)、C. シャート『ソーニャ』(1929年)、A. ザンダー『20世紀の人々1892-1952』(1962年)
第 9 回	ナチスの権力掌握と芸術ー「大ドイツ芸術展」と「退廃芸術展」	ナチスによるバウハウスの駆逐、ナチスの権力掌握と焚書(1933年)
第 10 回	ベルリン・フィルの運命ー追われるユダヤ系芸術家	フルトヴェングラーとベルリン・フィル、近衛秀麿の見たベルリン・フィル
第 11 回	「アウシュヴィッツの後、詩を書くことは野蛮である」ー「ドクメンタ」の誕生	ドイツにモダニズム芸術を取り戻す(第一回ドクメンタ)、冷戦に翻弄される東西ドイツ、芸術の意味の多様化
第 12 回	社会主義リアリズムー観てはいけない映画、聴いてはいけない音楽	映画『善き人のためのソナタ』(2006年)、Th. プルスイヒ『太陽通り』(1999年)を例に
第 13 回	電子音楽・ロック・クラポルチャチャーーミュージック・コンクレートからテクノまで	クラフトワーク『アウトバーン』(1974年)、ベルリンの「ラブ・パレード」
第 14 回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

・授業内に配布されたプリント資料に、次授業までに再度目を通すこと。
 ・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品のカatalogを見る、音楽を聴くなどでできればなお良いです。
 ・コンサート・ライブの体験や観劇は素晴らしいと思います。首都圏近郊の美術館へもぜひ「キャンパス・メンバーズ」などを活用し足を運んでください。

【テキスト(教科書)】

毎回こちらからプリントを配布します。

【参考書】

宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』(ミネルヴァ書房、2015年)
 W. ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など(浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション(1)(2)』ちくま学芸文庫、1995年/1996年所収)
 その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加): 33%
 期末試験: 34%
 小テスト: 33%
 この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので、注意をすること。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具を必ず用意してください
 (携帯電話等をメモがわりに利用することは認めません)

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識(ドイツ語学習歴)の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
 ・扱われる作品や順序は変更される場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the end of 19. century(modernism) to the present era(contemporary art): It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design), theatrical arts as well as classical and popular music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. The works in the classes would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

LANd300LA

留学ドイツ語 I

2016年度以前入学者

LANd300LA

留学ドイツ語 A

2017年度以降入学者

平松 英人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
 2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

主に SA や派遣留学等で海外の大学で学ぶ準備として、あるいは、初級ドイツ語を終え中級ドイツ語の習得を目指す学生は、より実践的なドイツ語を身につけることのできる授業となる。通常のクラス授業で学んだ文法、表現を復習しながら、会話力、作文力、リスニング力、読解力を向上させていく。

【到達目標】

ドイツ語圏での生活、文化、教育、社会など多様なテーマに関する理解を深め、留学で特に重要になるリスニング力と自らの考えを「発信」する力を身につけることを到達目標とする。初級ドイツ語を終え、さらにドイツ語学習を続けたい学生は、独検三級以上合格を目指す語学力の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業では、マルチメディア教材も活用しながら、できるだけ多くドイツ語に触れる機会を持つ。まずはドイツ語圏での生活に必要な基礎的なリスニング、会話練習を多く行ないつつ、徐々に具体的なテーマについての知見を深め、最終的には個々のテーマに関し、自らの意見を発信できる訓練を行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書、授業の進め方について
2	初対面、お互いを知ろう1	Kennen lernen, sich vorstellen
3	初対面、お互いを知ろう2	Verhalten beschreiben
4	様々な場所で1	Leben in der Stadt, Leben auf dem Lande
5	様々な場所で2	Wohnen und Wohnung
6	余暇とスポーツ1	Trends im Sport
7	余暇とスポーツ2	Freizeitbeschaeftigung
8	日常生活1	Ueber Gewohnheiten sprechen
9	日常生活2	Sich verabreden, jemanden einladen
10	教育と仕事1	Verschiedene Berufe und Ausbildung
11	教育と仕事2	Bewerbung, Lebenslauf
12	学び	Schule, Lehrer, Klassentreffen
13	まとめ	Studieren an der Universtitaet
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

復習に重点を置いて学習すること。毎回復習のための宿題を出す。留学生活ではドイツ語の聞き取りが要となるので、なるべく多くのドイツ語を聞き、また自らも声に出して発音することで、ドイツ語の語感を身につけていってほしい。

【テキスト(教科書)】

初回授業時において指示する。

【参考書】

必要に応じて配布、指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加が期待される。期末試験(30%)・宿題(10%)に加え、授業への参加度を平常点(60%)で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの提案を反映する。

【Outline and objectives】

This course is intended for those who want to prepare for Study abroad or want to continue learning German after finishing an elementary course. This course aims to let the participants acquire practical communication skills by reviewing the basic grammar and expressions.

LANd300LA

留学ドイツ語Ⅱ

2016年度以前入学者

LANd300LA

留学ドイツ語B

2017年度以降入学者

平松 英人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「留学ドイツ語A」に引き続き、派遣留学等で海外の大学で学ぶための準備として、あるいは、初級ドイツ語を終え中級ドイツ語の習得を目指す学生は、より実践的なドイツ語を身につけることのできる授業となる。今までに学習した文法、表現を復習しながら、会話力、作文力、リスニング力、読解力を向上させていく。

【到達目標】

ドイツ語圏での生活、文化、教育、社会など多様なテーマに関する理解をより深く、それについて自らの考えを発信し、ドイツ語での議論ができるようになる。留学先での授業を想定し、レポートを書く、あるいはプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

マルチメディア教材も多く用い、個々の教材で扱われているテーマを理解し、議論につなげていく。受講生によるドイツ語での短いプレゼンテーションと議論の機会も設けたい。「留学ドイツ語A」の履修は必ずしも必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書、授業の進め方について、先学期学習内容の確認
2	人間関係1	Ratschlaege geben, Auffordern
3	人間関係2	Streiten, Konsens finden
4	消費生活1	Einkaufen, Verkaufsgespraech
5	消費生活2	Werbeanzeigen, Auktion im Netz
6	メディアと現代社会1	Neue Medien, Kommunikationsspannen
7	メディアと現代社会2	Diskussion ueber neue Medien
8	旅行と移動1	Mobilitaet
9	旅行と移動2	Reise, Urlaub
10	プレゼンテーションとディスカッション1	参加学生による発表と討論1
11	プレゼンテーションとディスカッション2	参加学生による発表と討論2
12	プレゼンテーションとディスカッション3	参加学生による発表と討論3
13	まとめ	まとめ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に重点を置いて学習すること。毎回復習のための宿題を出す。留学生活ではドイツ語の聞き取りが要となるので、なるべく多くのドイツ語を聞き、また自らも声に出して発音することで、ドイツ語の語感を身につけていってほしい。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

必要に応じて配布、指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加が期待される。期末試験（30%）・宿題（10%）に加え、授業への参加度を平常点（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの提案を反映する。

【Outline and objectives】

This course is intended for those who want to prepare for Study abroad or want to continue learning German after finishing an elementary course. This course aims to let the participants acquire practical communication skills by reviewing the basic grammar and expressions.

LANc300LA

中国語講読Ⅰ

2016年度以前入学者

LANc300LA

中国語講読A

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

中国で出版された児童向けの物語、小学国語教材、新聞・雑誌記事など、難易度の低いものから高いものまで、幅広いジャンルの文章を少しずつ読み進めます。文章を読み解く作業を通じて、語彙力を高め、文法事項をしっかりと理解し、読解力を深めます。

【到達目標】

中国語運用能力を向上させる基盤となるのが、語彙力と語法理解です。本授業では、各ジャンルの文章を読みながら、HSK1～4級程度の語彙力を身につけ、語法理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業で配布する教材を輪読します。中国語の基礎を復習しながら、一文一文を丁寧に読み進め、時間があれば関連する映像資料も鑑賞し、耳から中国語に慣れる練習もする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明
第2回	物語を読む	昔話・童話講読（1）
第3回	物語を読む	昔話・童話講読（2）
第4回	物語を読む	成語故事講読（1）
第5回	物語を読む	成語故事講読（2）
第6回	国語教材を読む	小学国語教材講読（1）
第7回	国語教材を読む	小学国語教材講読（2）
第8回	雑誌記事を読む	雑誌記事講読（1）
第9回	雑誌記事を読む	雑誌記事講読（2）
第10回	ニュースを読む	「日経中文網」講読（1）
第11回	ニュースを読む	「日経中文網」講読（2）
第12回	ニュースを読む	「人民日報」講読（1）
第13回	ニュースを読む	「人民日報」講読（2）
第14回	授業内試験	定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に単語の意味を調べ、自分なりの日本語訳を考えて授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜配布します。

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（日本語訳の発表）50%、期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This is the Chinese reading comprehension course for intermediate learners. The aim of this course is to improve comprehension skill through reading stories, newspapers and magazine articles.

LANc300LA

中国語講読Ⅱ 2016年度以前入学者

LANc300LA

中国語講読B 2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国で出版された児童向けの物語、小学国語教材、新聞・雑誌記事など、難易度の低いものから高いものまで、幅広いジャンルの文章を少しずつ読み進めます。文章を読み解く作業を通じて、語彙力を高め、文法事項をしっかりと理解し、読解力を深めます。

【到達目標】

中国語運用能力を向上させる基盤となるのが、語彙力と語法理解です。本授業では、各ジャンルの文章を読みながら、HSK1～4級程度の語彙力を身につけ、語法理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業で配布する教材を輪読します。中国語の基礎を復習しながら、一文一文を丁寧に読み進め、時間があれば関連する映像資料も鑑賞し、耳から中国語に慣れる練習もする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明
第2回	物語を読む	昔話・童話講読（1）
第3回	物語を読む	昔話・童話講読（2）
第4回	物語を読む	成語故事講読（1）
第5回	物語を読む	成語故事講読（2）
第6回	国語教材を読む	小学国語教材講読（1）
第7回	国語教材を読む	小学国語教材講読（2）
第8回	雑誌記事を読む	雑誌記事講読（1）
第9回	雑誌記事を読む	雑誌記事講読（2）
第10回	ニュースを読む	「日経中文網」講読（1）
第11回	ニュースを読む	「日経中文網」講読（2）
第12回	ニュースを読む	「人民日報」講読（1）
第13回	ニュースを読む	「人民日報」講読（2）
第14回	授業内試験	定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に単語の意味を調べ、自分なりの日本語訳を考えて授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜配布します。

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（日本語訳の発表）50%、期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This is the Chinese reading comprehension course for intermediate learners. The aim of this course is to improve comprehension skill through reading stories, newspapers and magazine articles.

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅢ 2016年度以前入学者

LANc300LA

中国語翻訳・通訳A 2017年度以降入学者

葉 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけさせることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】

簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面での日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面での通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明
2	図書館の紹介	翻訳・通訳練習
3	バイト先の紹介	翻訳・通訳練習
4	食堂の紹介	翻訳・通訳練習
5	交通案内	翻訳・通訳練習
6	高速道路の紹介	翻訳・通訳練習
7	お正月の紹介	翻訳・通訳練習
8	空港と航空会社	翻訳・通訳練習
9	ネット事情の紹介	翻訳・通訳練習
10	携帯電話の紹介	翻訳・通訳練習
11	法政大学の紹介	翻訳・通訳練習
12	音楽の紹介	翻訳・通訳練習
13	日本の温泉の紹介	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接しましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。プリント配布。

【参考書】

辞書類

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、下記基準で行う。期末試験70%、小テスト20%、平常点10%（授業への参加度10%）

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】

This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅣ 2016年度以前入学者

LANc300LA

中国語翻訳・通訳B 2017年度以降入学者

薬 進

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけさせることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】

簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面の日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面の通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンビニの紹介	翻訳・通訳練習
2	スーパーと百貨店の紹介	翻訳・通訳練習
3	新聞とテレビの紹介	翻訳・通訳練習
4	東京の名所の紹介	翻訳・通訳練習
5	京都の名所の紹介	翻訳・通訳練習
6	家電製品の話	翻訳・通訳練習
7	留学生との交流	翻訳・通訳練習
8	日本の会社について	翻訳・通訳練習
9	和食の紹介	翻訳・通訳練習
10	居酒屋の紹介	翻訳・通訳練習
11	日本の政治について	翻訳・通訳練習
12	日本の経済状況について	翻訳・通訳練習
13	日中関係について	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接しましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。プリント配布。

【参考書】

辞書類

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、下記基準で行う。期末試験 70%、小テスト 20%、平常点 10%（授業への参加度 10%）

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】

This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語表現法Ⅲ 2016年度以前入学者

LANc300LA

中国語翻訳・通訳C 2017年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーワードのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳1 慣用句・略語・ 背景知識の重要性を学ぶ	L 1 北京案内 リプロダクション サイトトランスレーション 音読確認
3	翻訳1 同形語 難訳単語・四字成語・慣用句	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳2 役職名、敬称、 ビジネスシーンの通訳心得	L 1 逐次通訳演習 L 3 企業内通訳 リプロダクション サイトトランスレーション テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
5	翻訳2 省略するスキル	L 3 逐次通訳演習 L 4 宴会挨拶 リプロダクション サイトトランスレーション テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳3 フォーマルな表現、定型文	L 3 逐次通訳演習 L 4 宴会挨拶 リプロダクション サイトトランスレーション テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
7	翻訳3 文章記号と表記 ルール	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
8	通訳3 数字、固有名詞、 リサーチ	L 4 逐次通訳演習 L 5 中国事情 リプロダクション サイトトランスレーション テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
9	翻訳3 通訳の選択 補って訳すスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
10	通訳4 スピードを求められる通訳、 報道の表現、専門用語	L 5 逐次通訳演習 L 7 気象 リプロダクション サイトトランスレーション 最新時事関連の応用翻訳（社会一般 テーマ）
11	翻訳4 時事翻訳1	L 7 逐次通訳演習
12	通訳5 講演の定型表現、 現場での対応	最新時事関連の応用翻訳（経済関連 テーマ）
13	翻訳5 時事翻訳2	総復習 既習内容に関する総まとめと確認
14	翻訳・通訳	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。

通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材

通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % 期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳のルール説明と文法説明をより詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

In translation learning, we aim to master translation theory and translation technique.

To acquire knowledge about history and culture and society during the day and verification related to comparison languages.

In interpreting learning, lecture based on interpretation theory, interpreter training and exercises.

LANc300LA

中国語表現法Ⅳ

2016 年度以前入学者

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 D

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳1 日中間の制度の違い、教育関連用語	L 8 教育 リプロダクション サイトトランスレーション
3	翻訳1 日本語表現の工夫 コロケーション	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳2 パブリックス ピーキング、敬語	L 8 逐次通訳演習 L 9 友好都市交流 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳2 訳す順序	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳3 目的語の省略、 外来語	L 9 逐次通訳演習 L 10 ファッション リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳3 時事翻訳1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般 テーマ～1）
8	通訳4 要点の把握、聞き手への対応	L 10 逐次通訳演習 L 13 対中投資 リプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳4 時事翻訳2	最新時事関連の応用翻訳（社会一般 テーマ～2）
10	通訳5 司会進行、文語的表現	L 13 逐次通訳演習 L 14 環境問題（1） リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳5 時事翻訳3	最新時事関連の応用翻訳（経済関連～ 1）
12	通訳6 ディスカッションの通訳	L 14 環境問題（2）逐次通訳演習
13	翻訳6 時事翻訳4	最新時事関連の応用翻訳（経済関連～ 2）
14	翻訳・通訳	総復習既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。

通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材
通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % 期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳のルール説明や文法説明をより詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

In translation learning, we aim to master translation theory and translation technique.

To acquire knowledge about history and culture and society during the day and verification related to comparison languages.

In interpreting learning, lecture based on interpretation theory, interpreter training and exercises.

LANc300LA

検定中国語Ⅲ

2016年度以前入学者

LANc300LA

資格中国語上級A

2017年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

【到達目標】

学校生活や日常生活で必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

プリントを基本にして読解力、翻訳力を高めます。そして作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	レベルチェック HSK合格の基準 HSK 5・6級に到達する概要
第2回	HSK5級の練習	「的」の使い方のまとめ
第3回	HSK5級の練習	文章記号と原稿用紙の使い方 方向補語など
第4回	作文の基礎	作文の練習（400字） 練習問題など
第5回	HSK5級の練習	作文の問題点など
第6回	HSK5級の練習	結果補語など
第7回	HSK5級の練習	比較の表現など
第8回	HSK5級の練習	逆接の表現など
第9回	HSK5級の練習	二重目的語
第10回	HSK5級の練習	動詞述語文のまとめ
第11回	HSK5級の練習	目的語になる動詞句と主述句など
第12回	HSK5級の練習	作文の練習（400字）
第13回	HSK5級の練習	作文の問題点など
第14回	HSK5級の練習	練習問題
第15回	HSK5級の練習	連用修飾語 前置詞など
第16回	HSK5級の練習	主語になる動詞句 慣用形など
第17回	HSK5級の練習	絵を見て作文練習（400字）
第18回	HSK5級の練習	作文の問題点
第19回	HSK5級の練習	翻訳の練習
第20回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回のプリントをちゃんと準備すること。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生に高く評価されました。続けてこのやり方でやります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

LANc300LA

検定中国語Ⅳ 2016年度以前入学者

LANc300LA

資格中国語上級B 2017年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

翻訳の練習。訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	資格関連の問題 翻訳	形容詞など 練習指導
2回	資格関連の問題 翻訳	助動詞など
3回	資格関連の問題 翻訳	伝聞、条件、選択など
4回	作文など	作文練習（400字）
5回	作文など	作文指導など
6回	資格関連の練習 翻訳	予定・計画、願望・意志など
7回	資格関連の練習 翻訳	推測、仮定、因果関係など
8回	作文など	作文練習（400字）
9回	作文、翻訳など	作文指導、問題チェック
10回	資格関連の練習 翻訳	問題チェック
11回	HSK 6級	HSK 6級の練習
12回	HSK 6級	HSK 6級の練習
13回	資格関連の練習 翻訳	問題指導
14回	総復習	総まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次のプリントをちゃんと用意すること。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合評価します

【学生の意見等からの気づき】

学生が高く評価してくれました。続けてこのやり方でやります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語B 2017年度以降入学者

LANk300LA

朝鮮語初級Ⅱ 2016年度以前入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語A」を終了したレベルのかた向けの講座です。具体的には、ハングルの読み書きの基礎を理解し、現在形のハムニダ形、ヘヨ形ができ、テキストの8課程度までの内容を理解していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・変則用言を理解し、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・前回学んだことについて毎回小テストをおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第9課（1）	何か好きですか？
2	第9課（2）	変則用言を学ぶ
3	第10課（1）	週末に何をしましたか？
4	第10課（2）	過去形の作り方
5	第10課（3）	一日の日課
6	第11課（1）	明日は何をするつもりですか？
7	第11課（2）	買い物をしてみましょう。
8	第12課（1）	スープが冷たくておいしいです。
9	第12課（2）	ペアで覚える形容詞
10	第12課（3）	自分の気持ちや周りの様子を表現する
11	第13課（1）	一度遊びに来てください
12	第13課（2）	もっとチャレンジしてみよう
13	第13課（3）	副詞をものにしよう
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回おこなわれる小テストの準備（復習）を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。
- ・わからないことを放置しないようにしてください。
- ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。

【テキスト（教科書）】

『最新チャレンジ！韓国語』金順玉・阪堂千津子著、白水社、2014年、2300円＋税

【参考書】

朝鮮語辞典

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 30%
- ・期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

CDの活用

【Outline and objectives】

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 8 of the text book.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語中級 2017年度以降入学者

LANk300LA

朝鮮語中級 I 2016年度以前入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標にします。ある程度朝鮮語の会話にも挑戦していきます。

【到達目標】

基本会話ができることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などについてと簡単な復習	授業の進め方について説明します
第二回	今日も友達に会いますか 1	読む練習と否定形について
第三回	今日も友達に会いますか 2	発音について
第四回	今、何時ですか 1	会話の練習
第五回	今、何時ですか 2	数詞について
第六回	ここはデパートですか 1	発音練習と読む練習について
第七回	ここはデパートですか 2	連体形について
第八回	私の家族です 1	推量について
第九回	私の家族です 2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか 1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか 2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート、課題を調べてくること。

【テキスト（教科書）】

教室用テキスト『朝鮮語中級』（梁禮先）

【参考書】

朝鮮語辞書

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト、課題など 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

発音をもっとやりたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業の内容は少々変わることがあります。

【Outline and objectives】

Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

LANJ300LA

日本語コミュニケーション A 2017年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
法文営国 2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

来日してからしばらくたち、自分では日本語がだいぶ上達したと思っても、いざ実際に日本人を目の前にしてみると、自分が話しているのは正しい日本語のはずなのに、自分が期待しているようには日本人に伝わっていない、誤解されている、といった経験はなかったでしょうか。

この講義では、ことばが通じる、通じないというときには、どのような要素が絡んでくるのか、コミュニケーションする上で、誤解を可能な限り少なくするには、どういうことに気をつけなければならないのか、等々について、理論的な枠組みを提示し、実際にあった例を参照しながら、外国人が日本人とつきあっていく方法について見直してみたいと思います。

【到達目標】

文化の異なりについて理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに「文化」と「言語」をテーマにして講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ヒト・グループ・個人といった基本的な発想から、ヒトについて概観します
2	「食べる」について	「文化」の例として「食べる」を取り上げます
3	「装う（着る）」について	「文化」の例として「装う（着る）」を取り上げます
4	「文化」の定義	「文化」とは何かを考える際に考慮すべき諸項目について紹介します
5	「コード・モデル」について	コード・モデルを紹介します
6	「言語」について	コード・モデルのもとになった言語のとらえ方を紹介します
7	文献購読	ことばと文化について、復習を兼ねて文献を読みます
8	「音」の単位（単音）について i	コードの単位の一つである「音」の単位（単音）について紹介します
9	「音」の単位（音素）について ii	コードの単位の一つである「音」の単位（音素）について紹介します
10	「意味」の単位（形態素）について	コードの単位の一つである「意味」の単位について紹介します
11	「文の構造」について	「文の構造」について解説します
12	「文法カテゴリー」について i	数・人称・クラス等の「文法カテゴリー」について紹介します
13	「文法カテゴリー」について ii	数・人称・クラス等の「文法カテゴリー」について紹介します
14	春学期試験	以上で紹介・解説した内容について、理解度を判定するために試験をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「文化」なり「言語」なりの説明に、具体的な実例をあげますが、その個々の例を覚える必要はありませんが、講義をよく聴いて自分なりに真剣に考えてみてください。そのときに深刻に考えないように注意してください。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40点、試験の得点 60点、合計 100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な枠組みは設定していますが、具体例等について受講者の個人的な情報をさらに活用していきたいと考えています。

【その他の重要事項】

日本文化の体現者として、また討論への参加者として、外国人留学生と日本人学生を歓迎します。また、「文化人類学」「言語学」「社会学」等の知識があったほうが望ましいですが、必須の条件ではありません。

【Outline and objectives】

In this class, we will treat following issues;

- 1 What is Culture.
- 2 What is Language.
- 3 What is Communication.

There is those who think that mastering Language can lead to the way of communication. But this is not true. There are so many cultural components for communication. It is cultural items that make communication possible.

In this class, You are able to understand what is communication, and can use the needs that are for how to communicate with those who has different cultures.

LANJ300LA

日本語コミュニケーションB

2017年度以降入学者

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法文営国 2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

来日してからしばらくたち、自分では日本語がだいぶ上達したと思っ
ても、いざ実際に日本人を目の前にしてみると、自分が話しているのは正しい日本語のはずなのに、自分が期待しているようには日本人に伝わっていない、誤解されている、といった経験はなかったでしょうか。

この講義では、ことばが通じる、通じないというときには、どのような要素が絡んでくるのか、コミュニケーションする上で、誤解を可能な限り少なくするには、どういうことに気をつけないといけないのか、等々について、理論的な枠組みを提示し、実際の例を参照しながら、外国人が日本人とつきあっていく方法について見直してみたいと思います。

【到達目標】

この授業で培った知識と技能によってより日本人とよりスムーズなコミュニケーションができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに「言語」と「コミュニケーション」をテーマにして講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	試験解説・春学期のまとめ・「ことば」について	春学期の内容と試験について解説し、一般に「ことば」について解説します
2	「音声コミュニケーション」の特徴	ヒトの言語は動物のコトバとどこが異なるのか、について解説します
3	「意味」について	「意味」とは何かについて、総括的に概観します
4	「構造」について	「構造」とは何かについて、総括的に概観します
5	日本語の諸問題 i	外国人にとって問題となる日本語の問題を取り扱います
6	日本語の諸問題 ii	外国人にとって問題となる日本語の問題を取り扱います
7	「宗教」について i	「言語」のまとめとして「宗教」を取り上げます
8	「宗教」について ii	「言語」のまとめとして「宗教」を取り上げます
9	「コミュニケーション」の定義	「コミュニケーション」とはなにかについて解説します
10	「言語」と「ことば」について	「言語」と「ことば」の相違について解説します
11	「コミュニケーション」の要素 i	「コミュニケーション」の要素について解説します
12	「コミュニケーション」の要素 ii	「コミュニケーション」の要素について解説します
13	「コミュニケーション」の制約	「コミュニケーション」における制約について解説します
14	期末試験	講義の内容に関して試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語という言語によるコミュニケーションについて、について、日本での言語生活を反省して、誤解した、誤解された等の具体例を発表できるように準備してもらいたいと思います。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、基本的なものとして平凡社の『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点30点、試験の得点30点、レポートの得点40点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションは双方向であり、問題がおこるのは、どちらか一方だけの問題ではないという点を確認しておきたいと思います。

【その他の重要事項】

日本文化の体現者として、また討論への参加者として、外国人留学生と日本人学生を歓迎します。また、「文化人類学」「言語学」「社会学」等の知識があったほうが望ましいですが、必須の条件ではありません。

【Outline and objectives】

In this class, we will treat following issues;

- 1 What is Culture.
- 2 What is Language.
- 3 What is Communication.

There is many students think that mastering Language can lead to the way of communication. But this is not true. There are so many components for communication. It is cultural items that make communication possible.

In this class, You are able to understand What is communication, and can use the needs that are for communication with those who has different culture.

LIT300LA

漢字・漢文学 A

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけでなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・中国史の概要紹介
第 2 回	漢字のなりたち	・「六書」の紹介 ・漢字の起源と歴史 ・「字謎」の紹介
第 3 回	権力者と文字による予言	・予言の種類 ・歴史書に見える予言 ・「拆字」の紹介
第 4 回	文字が左右した運命①	・「志怪」と「伝奇」 ・文字が動かした寿命 ・読めない文字
第 5 回	文字が左右した運命②	・三つの予言 ・詩を用いた予言
第 6 回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・近代諸国での流行 ・中国の「扶鸞」信仰
第 7 回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・「扶鸞」の方法と来歴 ・「扶鸞」の流行と評価
第 8 回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・宋代知識人の体験 ・明代のオカルト趣味 ・近代中国と「扶鸞」信仰
第 9 回	恋愛作品と文字	・「詩経」と「楽府」 ・恋のうたと言葉遊び
第 10 回	知識人の頓智と奇想	・外交における機知 ・知識人の応酬
第 11 回	伝統的「姓名」観	・避諱の制 ・姓名が左右した運命
第 12 回	創作活動と文字①	・「推敲」 ・現実と表現の衝突
第 13 回	創作活動と文字②	・詩が招いた幸運と悲運 ・「詩識」の説
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題は、よく復習して着実に理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜成績評価＞

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

＜基準＞

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

LIT300LA

漢字・漢文学 B

2017 年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・「ゆめ」の多義性 ・中国の夢分類
第 2 回	古代中国の吉夢	・誕生の予言 ・優れた人材を教示 ・栄達の予言
第 3 回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第 4 回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第 5 回	知識人たちが得たお告げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第 6 回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第 7 回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え
第 8 回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生
第 9 回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み
第 10 回	夢と恋愛文学	・夢での逢瀬 ・恋愛成就の神 ・夫婦の別離と再会
第 11 回	夢の世界の冒険	・怪異との接触 ・儂い栄達 ・動物への変身
第 12 回	他人と共有された夢	・「二人同夢」 ・危機の通達 ・夢での邂逅
第 13 回	日本における夢	・他人が見る夢 ・日本文学における夢
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題は、よく復習して着実に理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intends to talk about the stories of Japanese dreams.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

LIT300LA

文章論—文章表現の実践

2016年度以前入学者

サブタイトル：文芸創作の実践 A

藤村 耕治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティブ・ライティング）における基礎的な要素を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。

今semesterで書いた作品は、秋semesterで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。
第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。
第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。

第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今semesterにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今semesterにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50 %、授業内討議への積極的な参加 30 %、期末に課すレポート（自分以外の受講生の作品〔三作以上〕への批評文） 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

教養ゼミとしては本年度スタートとなるため、なし。

【Outline and objectives】

Through practical writing of essays and novels, students acquire the ability to from there own worldview and imagination.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：文芸創作の実践 B

藤村 耕治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（ディテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。

今semesterでは、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。
第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらったこともあります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35 %、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35 %、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品〔三作以上〕への批評文） 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

教養ゼミとしては本年度スタートとなるため、なし。

【Outline and objectives】

Through practical writing of essays and novels, student acquire the ability to from there own world view and imagination.

In addition, learning the basic skills of proofreading and editing by creating a collection works.

LIT300LA

文芸創作講座 A

2017 年度以降入学者

LIT300LA

文芸創作講座

2016 年度以前入学者

岩川 ありさ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸創作はこの世界を見る新しい視座をえることを可能にします。この授業では、自分の書きたい世界を明確にし、他者に向けて小説を書くための基礎について学びます。春学期のテーマは、「短編小説をつくる」です。春学期に完成させた短編小説を冊子にして、受講生の短編集を作成し、2019 年 11 月 1 日（金）から 4 日（月）に行われる市ヶ谷キャンパス祭に参加します。

【到達目標】

- (1) 短編小説を分析的に読み、その構造を把握できるようになる。
- (2) 文芸作品の時代背景や著者についてまとめることができるようになる。
- (3) 構想を練り、原稿用紙 30-120 枚 (12,000 文字から 48,000 文字) 程度の短編小説の草稿を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・前半では、短編小説を読み、著者や作品の背景となる時代について整理したり、本文の分析的読解を行います。各作品につき、1 名が発表し、コメンテーター 1 名がコメントをし、クラスで議論を行います。

・後半には短編小説を書きます。個別面談を行い、各自の小説の草稿を完成させます。実際の完成原稿は夏休みを用いて秋学期までに行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	選抜試験	初回は選抜試験について説明を行います。選抜試験の内容は以下の通りですので、締め切りまでに提出できるように準備を進めてください。 1. 「さみしさ」をテーマに 2,000 文字程度のショート小説を作成してください。 2. この授業を受講したい理由を 800 文字程度で書いてください。 ・受講希望者は、2019 年 4 月 12 日（金）23:59 までに以上の内容を選抜説明会当日に指定したメールアドレスまで Word ファイルにて提出してください。締め切りは厳守。締め切り以降の到着は受け付けません。選抜を行った後、2019 年 4 月 14 日（日）23:59 までに合否をお知らせします。
第 2 回	イントロダクション	・春学期の授業計画について説明を行います。 ・受講生の顔合わせをし、春学期のテーマ「短編小説をつくる」について説明します。 ・ゼミ進行係、書記係、冊子係、会計などの役割を決定します。 ・毎回短編小説 2 本程度を読みます。発表者は各 1 名 ・コメンテーター 1 名 ・全員がコメントカードを書き、フィードバックを行う。
第 3 回	創作とは何だろう	(1)「世界観」を言語化する、(2) 時間や場所の表現、(3) 文法の大切さ、(4) アイデアの整理、メモのとり方、プロットを立てる？ 立てない？ etc.

第4回	短編小説を読む(1)	吉本ばなな「デッドエンドの思い出」(『デッドエンドの思い出』文春文庫、2006) 村上春樹「納屋を焼く」(『蝸・納屋を焼く・その他の短編』新潮文庫、1987) *毎回のレジュメは、A4用紙4枚以内で作成し、人数分印刷してください。ただし、別途資料を提示しての発表の場合は、別紙資料を準備しても構いません。 *発表者は発表が終わった後、発表翌日の23:55までに授業支援システムの「課題」に提出してください。
第5回	短編小説を読む(2)	林京子「祭りの場」(『祭りの場 ギヤマン ビードロ』講談社文芸文庫、1988) 川上弘美「神様」(『神様 2011』(『神様 2011』講談社、2011)
第6回	短編小説を読む(3)	多和田葉子「かかとを失くして」(『かかとを失くして 三人関係 文字移植』講談社文芸文庫、2014) リービ英雄「千々にくくく」(『千々にくくく』講談社文庫、2008)
第7回	短編小説を読む(4)	川端康成「伊豆の踊子」(『伊豆の踊子』新潮文庫ほか) 大江健三郎「飼育」(『大江健三郎自選短編』岩波文庫、2014)
第8回	短編小説を書く(1)	アイデアを具体的に作品につなげるための演習を行います。
第9回	短編小説を書く(2)	草稿を書きます。まずは最後まで書くことが大事なので、そのための基本姿勢について学びます。
第10回	短編小説を書く(3)	実際に短編小説書き、個別相談を行います。→グループ1
第11回	短編小説を書く(4)	実際に短編小説書き、個別相談を行います。→グループ2
第12回	短編小説を書く(5)	実際に短編小説書き、個別相談を行います。→グループ3
第13回	短編小説を書く(6)	実際に短編小説書き、個別相談を行います。→グループ4
第14回	短編集作成についての相談	市ヶ谷キャンパス祭に参加するためのスケジュール調整や役割の確認、や冊子の表紙について相談します。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

(1) 1週間に短編小説2作品を読み、発表者とコメントーターは発表の準備が必要です。

(2) 2019年8月31日(土)に授業支援システムから完成原稿を提出。必要があれば個別面談を行います。9月中旬に、1度、講座で集まり、市ヶ谷祭に關しての企画や冊子の校正についての説明をします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

その都度、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表(40%)、学期末までに完成させた小説(60%)で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、順序を追って創作の過程を把握できるようになればよいという意見があったため、年間計画を詳細に立てた。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・受講希望者が多い場合、選抜試験で決定します。
- ・この講義は、文芸創作講座A(春学期)と文芸創作講座B(秋学期)、通年で受講することが必要で、秋学期のみの新規参加は不可とします。
- ・春学期の時点で登録した人のみ秋学期も受講することができます。
- ・初回講義に來られない場合は、受講できないので注意してください。
- ・冊子作成などに必要な実習費用は年間3,000円です。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about creative writings. By the end of this course, students will develop skills for writing novels. Coursework will include weekly writing and reading short novels.

LIT300LA

文芸創作講座B

2017年度以降入学者

岩川 ありさ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

秋学期のテーマは、「短編集をつくる、批評を行う」です。春学期に書きはじめた短編小説を完成させ、短編集を作成し、2019年11月1日(金)から4日(月)に行われる市ヶ谷キャンパス祭に出展、参加します。秋学期後半では、文芸批評や合評を通して、自分が書いた小説を客観的に見て、さらに精緻な小説にするための方法を身につけます。

【到達目標】

- (1) 自分の作品を客観的に見、改善することができる。
- (2) グループワークを行い、冊子を編集することができる。
- (3) 合評や文芸批評を通して、相互に意見を交換することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・秋学期前半では、春学期から夏休みを通じて作成した短編小説を校正し、冊子にします。その後、2019年11月1日(金)から4日(月)に行われる市ヶ谷キャンパス祭に出展、参加します。

・11月半ばから、合評会を行い、それをもとにリライトを行い、さらに作品を洗練させます。毎回、受講者の短編小説3作を読みます。それぞれの作品について発表者1名が10分ほど講評を行い、著者リプライを5分、全体での合評を15分を行います。全員がコメントカードを書き、著者にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	(1) 秋学期の計画の説明、(2) 市ヶ谷キャンパス祭に向けて、(3) 校正の仕方について。 *校正は、自分以外の2名の原稿の誤字脱字をチェック。9月23日(月)23:55までに著者に戻してください。その後、2名の指摘を受けて修正した原稿を9月27日(金)23:55までに授業支援システムにアップロードしてください。
第2回	冊子の校正	冊子の校正を完了させます。印刷会社に依頼するので、メット厳守です。
第3回	合評や批評について	合評や批評とは何かについてまとめます。
第4回	再校	10月11日に校正ゲラ(初稿)が戻ってくるので、再度、誤字脱字がないか確認をし、10月15日(火)に校正を印刷会社に戻します。
第5回	市ヶ谷キャンパス祭の準備(1)	ブースの配置や備品、役割分担などを決めます。
第6回	市ヶ谷キャンパス祭の準備(2)	市ヶ谷キャンパス祭のための準備を行います。冊子の完成見本ができあがります。
第7回	合評会(1)	作成した冊子をもとに、合評会を行います。毎回、受講者の短編小説3作を読みます。それぞれの作品について発表者1名が10分ほど講評(要レジュメ・A4・1枚程度)を行い、著者リプライを5分、全体での合評を15分を行います。全員がコメントカードを書き、著者にフィードバックを行います。→グループ1 *発表翌日23:55までに、講評発表者は、授業支援システムの「課題」からレジュメを提出してください。

第 8 回	合評会 (2)	作成した冊子をもとに、合評会を行います。毎回、受講者の短編小説 3 作を読みます。それぞれの作品について発表者 1 名が 10 分ほど講評 (要レジュメ・A4・1 枚程度) を行い、著者リプライを 5 分、全体での合評を 15 分を行います。全員がコメントカードを書き、著者にフィードバックを行います。→ グループ 2 *発表翌日 23:55 までに、講評発表者は、授業支援システムの「課題」からレジュメを提出してください。
第 9 回	合評会 (3)	作成した冊子をもとに、合評会を行います。毎回、受講者の短編小説 3 作を読みます。それぞれの作品について発表者 1 名が 10 分ほど講評 (要レジュメ・A4・1 枚程度) を行い、著者リプライを 5 分、全体での合評を 15 分を行います。全員がコメントカードを書き、著者にフィードバックを行います。→ グループ 3 *発表翌日 23:55 までに、講評発表者は、授業支援システムの「課題」からレジュメを提出してください。
第 10 回	合評会 (4)	作成した冊子をもとに、合評会を行います。毎回、受講者の短編小説 3 作を読みます。それぞれの作品について発表者 1 名が 10 分ほど講評 (要レジュメ・A4・1 枚程度) を行い、著者リプライを 5 分、全体での合評を 15 分を行います。全員がコメントカードを書き、著者にフィードバックを行います。→ グループ 4 *発表翌日 23:55 までに、講評発表者は、授業支援システムの「課題」からレジュメを提出してください。
第 11 回	合評会 (5)	作成した冊子をもとに、合評会を行います。毎回、受講者の短編小説 3 作を読みます。それぞれの作品について発表者 1 名が 10 分ほど講評 (要レジュメ・A4・1 枚程度) を行い、著者リプライを 5 分、全体での合評を 15 分を行います。全員がコメントカードを書き、著者にフィードバックを行います。→ グループ 5 *発表翌日 23:55 までに、講評発表者は、授業支援システムの「課題」からレジュメを提出してください。
第 12 回	合評会 (6)	作成した冊子をもとに、合評会を行います。毎回、受講者の短編小説 3 作を読みます。それぞれの作品について発表者 1 名が 10 分ほど講評 (要レジュメ・A4・1 枚程度) を行い、著者リプライを 5 分、全体での合評を 15 分を行います。全員がコメントカードを書き、著者にフィードバックを行います。→ グループ 6 *発表翌日 23:55 までに、講評発表者は、授業支援システムの「課題」からレジュメを提出してください。 *批評の内容を受けて、自分の作品をリライトします。その場合も、原稿用紙 30-120 枚 (12,000 文字から 48,000 文字) を越えないようにしてください。
第 13 回	リライトに関する個別面談	リライトに関する個別面談を行います。
第 14 回	まとめ	授業全体のまとめを行います。 * 2020 年 1 月 23 日 (水)23:55 までに、完成した小説を授業支援システムから提出してください。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- (1)2019 年 11 月 1 日 (金) から 4 日 (月) に行われる市ヶ谷キャンパス祭に参加します。
(2) 後半は、1 週間に短編小説 3 作品を読み、合評の準備が必要です。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

その都度、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

市ヶ谷祭への参加度 (20%)、合評での発表 (30%)、学期末までに完成させた小説 (50%) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、順序を追って創作の過程を把握できるようになればよいという意見があったため、年間計画を詳細に立てた。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要です。

【その他の重要事項】

- ・この講義は、文芸創作講座 A(春学期) と文芸創作講座 B(秋学期)、通年で受講することが必要で、秋学期のみの新規参加は不可とします。
- ・春学期の時点で登録した人のみ秋学期も受講することができます。
- ・冊子作成などに必要な実習費用は年間 3,000 円です。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about creative writings. By the end of this course, students will develop skills for writing novels. Coursework will include weekly writing and reading short novels. We will participate in the Hosei university school festival.

ART300LA

日本芸能論 A 2017 年度以降入学者

ART300LA

日本芸能史論 2016 年度以前入学者

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時間：火 2/Tue.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多様な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ① 芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ② 研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③ プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④ 論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

【参考】 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「能面について」「浄瑠璃・歌舞伎における『伊勢物語』享受」「香道について」「落語の演技」「和太鼓の今と昔」「YOSAKOI ソーラン」「日本における『第九』の受容と定着について」「初心者にも親しみやすい宝塚」「歌舞伎の見方とセーラムーン」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	雅楽について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	伎楽について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	能について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	狂言について
第 8 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 9 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 10 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 11 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 12 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 13 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 14 回	まとめ	春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70 % (①②③) またはレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収する出席調査票によります。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や出席調査票等のコメント等を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に出席調査票に記入されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めています。

【その他の重要事項】

受講希望の人は必ず第 1 回授業に出席して下さい。やむをえず欠席する場合は、第 1 回授業までに、受講希望の旨をメールで担当教員に連絡してください。なお、メールは必ず件名を「受講希望」とし、maya@hosei.ac.jp宛に送ること。無題のメールは受け付けません。

春学期「日本芸能論 A」を履修せず、秋学期「日本芸能論 B」のみ受講する予定の人も、春学期第 1 回授業までに、上記の要領でその旨をメールで連絡してください。

第 1 回授業終了後、受講許可者を掲示します。受講許可者がこの授業の履修登録をしないことは可能ですが、受講許可者以外の方が履修登録することは不可としますので、注意して下さい。

なお、秋学期「日本芸能論 B」を受講せず、春学期「日本芸能論 A」のみを履修する場合は、必ず発表して下さい。春学期・秋学期連続して履修する場合は、どちらか一方で発表し、もう一方の学期ではレポートを提出するという形でもかまいません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

ART300LA

日本芸能論 B

2017 年度以降入学者

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

【参考】これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「能面について」「浄瑠璃・歌舞伎における『伊勢物語』享受」「香道について」「落語の演技」「和太鼓の今と昔」「YOSAKOI ソーラン」「日本における『第九』の受容と定着について」「初心者にも親しみやすい宝塚」「歌舞伎の見得とセーラムーン」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	人形浄瑠璃の成立について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	人形浄瑠璃の様相について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	歌舞伎の成立について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	歌舞伎の様相について
第 8 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 9 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 10 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 11 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 12 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 13 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 14 回	まとめ	秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70 % (①②③) またはレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。なお平常点は、毎回配布・回収する出席調査票によります。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や出席調査票等のコメント等を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に出席調査票に記入されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めています。

【その他の重要事項】

春学期「日本芸能論 A」を履修せず、秋学期「日本芸能論 B」のみ履修する予定の人は、必ず、春学期第 1 回授業までに、受講希望の旨をメールで担当教員に連絡してください。なお、メールは件名を「受講希望」とし、maya@hosei.ac.jp宛に送ること。無題のメールは受け付けません。なお、メールで受講希望の連絡をしなかった人は、秋学期授業に出席しても、履修者数に余裕がない場合、受講を許可しないこともありますので、注意してください。

秋学期「日本芸能論 B」のみ履修することもできますが、理解度を高めるために「日本芸能論 A」の受講をおすすめします。「日本芸能論 B」のみを履修する場合は、必ず発表してください。春学期・秋学期連続して履修する場合は、どちらか一方で発表し、もう一方の学期ではレポートを提出するという形でもかまいません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

ART300LA

身体表現論 A

2017 年度以降入学者

ART300LA

身体表現論（バレエの世界）

2016 年度以前入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、ストレート・プレイとは異なる身体運動の形態としてバレエにも着目する。通常、西洋演劇史とバレエの歴史は分けて記述されるが、本講義では出来るだけ関連付けながら捉えてみたい。

【到達目標】

- ・西洋演劇とバレエの歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇・バレエ作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇	原始社会から古代文明における演劇の発生について
3	中世演劇	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の舞踊への影響、「死の舞踊」のモチーフ、等について
4	エリザベス時代演劇	イギリス、エリザベス時代の演劇、特にシェイクスピアについて
5	フランス古典主義演劇とバレエの誕生	フランス古典主義演劇と、バレエ誕生の経緯について
6	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
7	ロマンティック・バレエ	バレエの依拠する物語や伝説、特に『ジゼル』、『 Coppélia 』について
8	クラシック・バレエの発生	バレエの技術的変容と定型化、特に『白鳥の湖』について
9	クラシック・バレエの展開	クラシック・バレエからモダン・バレエ、モダン・ダンスへの展開について
10	近代演劇	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チェーホフについて
11	現代演劇	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
12	モダン・ダンス（1）	バランシン、カニンガム、ノイマイヤー等の実践について
13	モダン・ダンス（2）	ベジャール、パウシュ、フォーサイス等の実践について
14	試験	記述式の期末試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に舞台鑑賞するように努める。（映像を含む）

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇（1）～（4）』（ちくま文庫）
シェイクスピア（福田恆存訳）『ハムレット』（新潮文庫）
シェイクスピア（安西徹雄訳）『リア王』（光文社古典新訳文庫）
日本演劇学会『ベスト・プレイズー西洋古典戯曲』（相田書房）
岩瀬孝『フランス演劇史序説』（早稲田大学出版部）
邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）
鈴木晶『バレエの魔力』（講談社現代新書）
長野由紀『バレエの見方』（新書館）

三浦雅士『バレエ入門』（新書館）
舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

小課題 30 % : 適宜課される小テストや小レポートを通し、それまでの授業の理解度を評価。

期末試験 40 % : 演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body that is embedded in daily life and reveals the possibility for new body movement. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. As well as straight play, we will also focus on ballet, another mode of theatrical performance. Although the histories of these two forms are usually described separately, this course will try to conceive the common elements, too.

ART300LA

身体表現論 B

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀以降拡大する大衆文化に見られる身体表現のあり方を概観する。このことにより、身体表現が生活のなかで孕む問題点や文化的意義を浮き彫りにする。大衆文化はメディア産業と強く関連するため、受講生のメディア・リテラシーへの意識づけも考慮しながら講義する。

【到達目標】

- ・大衆文化における各種の身体表現について考察し、記述できる。
- ・身体運動を、社会生活を営む視点から考える認識枠組を身につける。
- ・大衆文化の身体性について評価する批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆し、提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考文献等の紹介
2	演芸と身体	イギリスのミュージック・ホール、チャップリン、キートン等コメディアンの身体表現について
3	レビューと身体	フランスのキャバレー、フレンチ・カンカン、レビュー、日本の「歌劇団」について
4	ミュージカルと身体（1）	ミュージカルとオペラとの差異、ミュージカルにおける身体表現等について
5	ミュージカルと身体（2）	ミュージカルにおける身体表現について（事例紹介）
6	リアリズム演劇と身体	20 世紀のアメリカ演劇、代表的な演出家の身体表現について
7	反リアリズム演劇と身体	20 世紀日本のアンクラ演劇、代表的な演出家の身体表現について
8	ダンスと身体	ジャズ・ダンス、タップ・ダンス等の各種ダンスの身体表現について
9	映画と身体（1）	アクション映画におけるの身体表現（ヒーロー像他）について
10	映画と身体（2）	シンデレラのストーリーにおける女性像：『マイ・フェア・レディ』、他
11	事例研究（1）	宝塚版『Me and My Girl』（仮）
12	事例研究（2）	『ポーの一族』：原作との比較（仮）
13	事例研究（3）	『Cabin in the Sky』（仮）
14	試験	記述式の期末試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から舞台鑑賞をするように努める。（映像を含む）

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

井野瀬久美恵『大英帝国はミュージック・ホールから』（朝日選書）
岩崎昶『チャーリー・チャップリン』（講談社現代新書）
ビートたけし『浅草キッド』（新潮文庫）
リサ・アピニャネジ『キャバレー ヨーロッパ世紀末の飲食文化（上）（下）』（サントリ）
小山内伸『ミュージカル史』（中央公論新社）
本橋哲也『深読みミュージカル』（青土社）
西脇英夫『日本のアクション映画』（現代教養文庫）
四方田犬彦・鴛谷花編『戦う女たち—日本映画の女性アクション』（作品社）
スタニスラフスキー（山田肇訳）『俳優修業』（未来社）
マイケル・チャーホフ（ゼンヒラノ訳）『演技者へ！』（晩成書房）
テネシー・ウィリアムズ（小田島雄志訳）『欲望という名の電車』（新潮文庫）
アーサー・ミラー（倉橋健訳）『るつぽ』（ハヤカワ文庫）
鈴木忠志『演劇とは何か』（岩波新書）
蜷川幸雄・長谷部浩『演出術』（ちくま文庫）
浅利慶太『劇団四季メソッド「美しい日本語の話し方」』（文春新書）

油井正一『ジャズの歴史物語』（角川ソフィア文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

小課題 30%：適宜課される小テスト、小レポートを通して、それまでの講義の理解度を評価。

試験 40%：大衆文化における身体表現の意義を論じることができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

This course will offer a survey of body movement in popular culture that has been expanding since the nineteenth century, so that students will be aware of specific issues or cultural values seen in contemporary life. The course will also take the media industry into consideration, since it is closely linked to popular culture, which will enhance their level of media literacy.

ART300LA

美術論 A

2017 年度以降入学者

ART300LA

美術論

2016 年度以前入学者

稲垣 立男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術論 A では、近現代美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。

1. 美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
 2. より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
- これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

『西洋の近代美術』

18 世紀以降の西洋近代美術史の思想や基本的な考え方について、具体的な作品例を中心に学んでいきます。

『現代美術』

第二次世界大戦から 21 世紀に至る現代美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について探ります。

『ワークショップ』

各単元で学んだ内容を基にディスカッション、作品制作や展覧会企画、美術批評にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

カリキュラムの前半は、現代の美術を理解するために重要と思われる西洋近代美術史がテーマとなります。また、後半はグローバル化した現代美術のアイデアや方法について学びます。

講義の中で、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明
2	『西洋の近代美術』 近代美術の誕生と印象派	近代とは/新古典主義/ロマン主義/写実主義
3	『西洋の近代美術』 近代美術の誕生と印象派 1	印象派の背景/印象派/新印象派/ポスト印象派
4	『西洋の近代美術』 ルネサンス美術 バロック・ロココ美術	ルネサンス/マニエリスム/バロック/ロココ
5	ワークショップ 1	プレゼンテーションとディスカッション
6	『西洋の近代美術』 前衛芸術運動 1	アバンギャルド/フォヴィスム/表現主義/キュビズム
7	『西洋の近代美術』 前衛芸術運動 2	未来派/ダダイズム/シュルレアリズム
8	『西洋の近代美術』 第二次大戦前	構成主義/デ・スタイル/バウハウス
9	ワークショップ 2	プレゼンテーションとディスカッション
10	『西洋の現代美術』 戦後からポップアートまで	抽象表現主義/ネオダダ/ポップアート
11	『西洋の現代美術』 1960 年代のアート	ランドアート/ミニマリズム/コンセプチュアル・アート
12	『西洋の現代美術』 1980 年から現代まで	ポストモダニズム/ニューバインティング/YBA/関係性の美術/ソーシャルプラクティス
13	ワークショップ 3	プレゼンテーションとディスカッション
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。展覧会などを数多く鑑賞してください。

【テキスト（教科書）】

毎回授業に関連したプリントを配布します。参考図書、観ておきたい展覧会などについては授業中に紹介します。

【参考書】

高階秀爾『カラー版西洋美術史』美術出版社、2002 年

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）
授業毎に行うレポートもしくは制作課題（25%）
試験（25%）

【学生の意見等からの気づき】

楽しく解りやすい授業をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使う可能性があります。

【その他の重要事項】

初回のガイダンスに必ず出席してください。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

We will learn about these in a step-by-step manner.

ART300LA

美術論B

2017年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術Bでは日本の美術史および近現代美術の基本的な内容を、俯瞰的、実践的に学びます。

1. 美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
2. より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

【到達目標】

『日本の美術』

古代から近代までの日本美術の思想や基本的な考え方について、具体的な作品例を中心に学んでいきます。

『現代美術』

現代美術に関するいくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について探ります。

『ワークショップ』

各単元で学んだ内容を基にディスカッション、作品制作や展覧会企画、美術批評にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

カリキュラムの前半は、現代の美術を理解するために重要と思われる日本美術史がテーマとなります。また、後半は現代美術の制作や美術館、美術批評の現場について学びます。

講義の中で、作品例などの映像やスライドを多く使用します。制作や企画、批評をテーマとしたプレゼンテーション、ディスカッションを行い、双方向の授業を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業内容の説明
2	『日本の美術』 古代美術	飛鳥・奈良時代/白鳳時代/奈良・平安時代
3	『日本の美術』 中世美術	鎌倉・室町時代/桃山・江戸時代
4	ワークショップ（1）	プレゼンテーションとディスカッション
5	『日本の近代美術』 近代美術のはじまり 大正から戦前	明治時代・西洋画と日本画 /大正デモクラシー/戦争画
6	『日本の近代美術』 戦後美術	アンデパンダン/ネオダダ/ハイレッド センター/実験工房/もの派/
7	ワークショップ（2）	プレゼンテーションとディスカッション
8	『日本の現代美術』 1979-1980	もの派以降/ インスタレーション・パフォーマンス
9	『日本の現代美術』 1990-2019	関係性の美術 ソーシャル・プラクティス
10	ワークショップ（3）	プレゼンテーションとディスカッション
11	『現代美術のコンテクスト』	美術館・ギャラリー・オルタナティブ スペース
12	『現代美術のコンテクスト』	美術批評
13	ワークショップ（4）	プレゼンテーションとディスカッション
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。展覧会などを数多く鑑賞してください。

【テキスト（教科書）】

毎回授業に関連したプリントを配布します。

参考図書、観ておきたい展覧会などについては授業中に紹介します。

【参考書】

辻惟雄『カラー版 日本美術史』美術出版社、2002年

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）

授業毎に行うレポートもしくは制作課題（25%）

試験（25%）

【学生の意見等からの気づき】

楽しく解りやすい授業をしていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使う可能性があります。

【その他の重要事項】

初回のガイダンスに必ず出席してください。

【Outline and objectives】

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content・ Planning of art exhibitions・ Art criticism

I will learn a wide range of them step by step.

ART300LA

芸術と人間 A

2017 年度以降入学者

ART300LA

芸術と人間

2016 年度以前入学者

石原 陽一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ヴィジュアル・アートの代表的なモチーフである〈風景〉および〈身体〉が絵画、写真、映画においてどのように表現されてきたかをたどることによって、それぞれの表現メディアの特質ならびに表現メディア間の関係を理解する。

【到達目標】

ヨーロッパを中心とするヴィジュアル・アートの歴史を理解するとともに、ヴィジュアル・アートを分析・批評するためのツールとして役立つさまざまな理論を学び、鑑賞力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ヴィジュアル資料の鑑賞や関連する文章の講読を織り交ぜて講義を行う。ミニレポートを学期中に三回以上提出してもらう。また、授業中に小グループに分かれて意見を交換してもらい、その結果を簡単に報告してもらうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	フレーミングの発明
2	絵画と風景	風景画の変貌
3	写真と風景	人間の消滅？
4	古典映画と風景	サイレント映画、西部劇など
5	現代映画と風景（1）	アントニオニーニ、ストロープ＝ユイレらの作品
6	現代映画と風景（2）	タルコフスキー、テレンス・マリックらの作品
7	絵画と身体（1）	キリスト像など
8	絵画と身体（2）	ルネサンスとその周辺
9	絵画と身体（3）	近現代絵画
10	写真と身体	司法、精神病理学、芸術
11	映画と身体（1）	スラップスティック映画
12	映画と身体（2）	ロベール・ブレッソンの映画
13	映画と身体（3）	カサヴェテス、クローネンバーグら
14	まとめ	講義の補足とまとめ 期末レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントを熟読する。指定した作品を各自で鑑賞する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況・参加度・ミニレポート 50 %、期末レポート 50 %（ただし期末レポート未提出の場合は E 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員を上回る場合は初回に選抜考査を行うので、必ずこれに出席すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of visual arts. By comparing painting, photography and film from the viewpoint of representations of landscape and human body, it will help students to acquire knowledge of the history of visual arts and the specificity of each medium as well as their relations.

ART300LA

芸術と人間 B

2017 年度以降入学者

石原 陽一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「芸術と人間 A」で扱ったテーマを掘り下げ、映画における身体表現という観点から映画俳優の演技について学ぶ。演技者であると同時に被写体でもあるという映画俳優の特異な存在様式、および日常生活では潜在的なままにとどまっている人間の身体さまざまな可能性を映画という表現メディアがどのように引き出してきたかを理解する。エポックメイカーとなってきた名優たちのケーススタディーを軸に、アメリカとヨーロッパを中心とする映画史におけるアクティング・スタイルの変遷をたどることによって、映画俳優とは誰か、映画における演技とは何かを考える。

【到達目標】

演技という観点から映画という表現メディアを考えることで、映画史の流れをつかむとともに映画表現の特性を理解する。あわせて映画や演技についてのさまざまな理論を知り、分析・批評のコツを体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ヴィジュアル資料の鑑賞および関連文献の講読を交えて講義を行う。ミニレポートを学期中に三回以上提出してもらう。また、授業中に小グループに分かれて意見を交換してもらい、その結果を簡単に報告してもらうことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	映画俳優とは誰か？
2	サイレント映画	リリアン・ギッシュら
3	ディーヴァ女優	グレタ・ガルボ、マルレーネ・ディートリッヒ
4	演技派とは？	ベティ・デイヴィス
5	ミュージカル映画	フレッド・アステアとジーン・ケリー
6	フィルム・ノワールとその周辺	ジョン・ガーフィールド、ジェームズ・キャグニー
7	スクリーンボール・コメディとその周辺	ケイリー・グラントら
8	フランス映画の黄金期	ジャン・ギャバン、ミシェル・シモン
9	アクターズ・スタジオとメソッド演技	マーロン・ブランド
10	非職業俳優と即興演技	ネオレアリズモ、ヌーヴェル・ヴァーグ、ニューヨーク派
11	アメリカン・ニューウェーブ	ジャック・ニコルソン、アル・パチーノ、ロバート・デ・ニロ
12	同時代の俳優（1）	フランスの女優を中心に
13	同時代の俳優（2）	ハリウッドを中心に
14	まとめ	講義の補足とまとめ 期末レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示された作品を DVD などで鑑賞する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況・参加度・ミニレポート 50 %、期末レポート 50 %（ただし期末レポート未提出の場合は E 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員を上回る場合は初回に選抜考査を行うので、必ずこれに出席すること。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of visual arts. By making a survey of the history of acting style, it will help students acquire knowledge of film history and theories on acting. The aim of this course is to help students appreciate film acting from the viewpoint of representation of human body.

PHL300LA

仏教思想論 A

2017 年度以降入学者

PHL300LA

仏教思想論

2016 年度以前入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。
・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解を試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主とするが、演習形式を採ることもあります。また、課題を出すこともあります。課題の担当者には、調べたことを授業中に発表してもらいます。毎回の授業の終わりには、授業内容に対するリアクションペーパーを提出してもらいます。発表内容・リアクションペーパーの内容について、可能な限り、学生間の意見交換や討議も行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第2回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第3回	仏教の成立	仏陀の生涯
第4回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法
第5回	仏教の基本思想（1）	仏教思想の多様性・段階性 五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印）
第6回	仏教の基本思想（2）	「諸行無常」（1）
第7回	仏教の基本思想（3）	「諸行無常」（2） 西洋の真理観との比較 「諸行無常」（3）
第8回	仏教の基本思想（4）	西洋の真理観との比較（続き） 「一切皆苦」（1） 苦と苦の因
第9回	仏教の基本思想（5）	十二支縁起 「一切皆苦」（2） 苦の滅と苦の滅に至る方法 八支聖道・中道
第10回	仏教の基本思想（6）	「一切皆苦」（3） 苦からの解放と生の充実
第11回	仏教の基本思想（7）	「諸法無我」 非我と無我 人無我と法無我 人無我論証
第12回	初期仏典講読（1）	『ダンマバダ』
第13回	初期仏典講読（2）	『スッタニパータ』
第14回	まとめと授業内試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前学習：プリント資料の精読、発表の準備（課題担当者）

授業後学習：参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

資料はプリントで配布する。

【参考書】

中村元著『原始仏教 その思想と生活』、NHK ブックス、1970年
佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK 出版新書、2013年
その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内筆記試験の成績（70%）、授業での発表内容・質疑応答（15%）、平常点（15%）

学期末筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解をためす問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、などによる。

【学生の意見等からの気づき】

仏教思想を学ぶのが初めての学生がほとんどであるから、出来るだけ丁寧な指導・解説を心掛けたいと思います。

【Outline and objectives】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy. The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

PHL300LA

仏教思想論 B

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化したのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。

【到達目標】

・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
 ・仏教思想はどのように多様化したのか、その理由を理解する。
 ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
 ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義と演習の両形態を採ります。演習では、担当者を決め、授業内に発表してもらいます。また、課題を出すこともあります。課題の担当者にも、調べたことを授業内で発表してもらいます。
 毎回の授業の終わりには、授業内容に対するリアクションペーパーを提出してもらいます。発表内容・リアクションペーパーの内容について、可能な限り、学生間の意見交換や討議も行っていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論	この授業について なぜ仏教思想は多様化したのか？
第2回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	諸部派成立から大乘仏教へ 有部・経量部・『俱舍論』 ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第3回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第4回	部派仏教（説一切有部）の思想（3）	物質論 原子（極微）論
第5回	部派仏教（説一切有部）の思想（4）	仏教がとらえる内的世界（心・心作用） 心作用の区分け（6心所）
第6回	仏教の世界観	『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第7回	大乘仏教（1）	大乘仏教の教理的特徴 大乘諸経典 『般若経』の空思想
第8回	大乘仏教（2）	ナーガールジュナの哲学 二真理説 空・仮・中
第9回	大乘仏教（3）	縁起の思想（1） 外縁起・内縁起 『入楞伽経』『稲苜経』
第10回	大乘仏教（4）	縁起の思想（2） 縁起二種観察法 『稲苜経』
第11回	大乘仏教（5）	空思想と経文解釈 瑜伽行唯識派の解釈 中観派の解釈
第12回	大乘仏教（6）	後期中観思想 修道階梯 哲学思想の序列化 一乗思想
第13回	大乘仏教（7）	大乘仏教（後期中観派）の人生観
第14回	まとめ・授業内試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前学習：テキスト・プリント資料の精読、発表の準備（演習・課題担当者）
 授業後学習：参考文献の熟読

【テキスト（教科書）】

テキスト・資料はプリントで配布する。

【参考書】

佐々木剛著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的世界観』、Dojin選書、2013年
 桜部健・上山春平著『仏教の思想2 存在の分析<アビダルマ>』、角川ソフィア文庫、1996年
 その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内筆記試験の成績（70%）、授業での発表内容・質疑応答（15%）、平常点（15%）
 学期末筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解をためす問題を出す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的に偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによる。

【学生の意見等からの気づき】

「少し難しかったけど、仏教思想を詳しく知ることができて良かった」という感想をもらいました。本年度は、少し難易度を下げ、より丁寧な分かり易い解説・指導を心掛けたいと思います。

【Outline and objectives】

This is a course to learn Indian Hinayana (ZrAvakayAna) Buddhism and Mahayana (BodhisattvayAna) Buddhism.

The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

PHL300LA

行為の理論 A

2017 年度以降入学者

PHL300LA

行為の理論

2016 年度以前入学者

山口 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2~4 年 ※定員制限なし**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米的合理主義は、自己創造的なライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで行為の自己創造性の根源への道を考察します。

【到達目標】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立て的に組み合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立て的に組み合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	スライド形式による授業内容紹介
第 2 回	序論	自己をクリエートする 21 世紀精神へ
第 3 回	I 行為の構造	合理主義的行為論
第 4 回	II 自己表現としての行為	ヘーゲルの自己表現論
第 5 回	III 行為の根源	《自己決定と不可避の行為とは両立するか?》
第 6 回	III 行為の根源	《善を知っているのに悪を行うとは?》
第 7 回	III 行為の根源	《行為は始める前に生ずる》
第 8 回	III 行為の根源	《行為には骨（こつ）がある》
第 9 回	III 行為の根源	《行為の失敗こそ大切である》
第 10 回	III 行為の根源	《体で動かずに心で動く》
第 11 回	III 行為の根源	《どうあってもよい行為とは?》
第 12 回	III 行為の根源	《意図を超えて因果はめぐる》
第 13 回	III 行為の根源	《運命とは自己自身である》
第 14 回	III 行為の根源	《自己を創造する行為とは?》

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで受講者に配布します。

【参考書】

毎回の授業で紹介します。山口誠一著『クリエートする哲学—新行為論入門—』（弘文堂）など。

【成績評価の方法と基準】

Semester末試験を基準（70%）として、小レポート（15%）と出席回数（15%）も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

PC接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with an essential understanding of selfcreation of our life style, with texts drawn from English, German and Japanese.

PHL300LA

行為の理論 B

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2~4 年 ※定員制限なし**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代日本文明の課題は、クリエイティブなライフスタイルを実現することです。ところが、これからも国際化の名のもとに、日本人が本格的に導入しようとしている欧米的合理主義は、クリエイティブなライフスタイルを、そのまま実現するものではありません。そこで科学技術によってますます高度化する現代情報消費社会で追究されるべき行為の創造性を主にニーチェの行為論を手がかりに考察します。

【到達目標】

合理主義的行為を再検討し、<クリエイティブな行為>を解明できます。なお、その際、米国のネオプラグマティズム最新動向も検討します。また、現代文明の預言者ニーチェの思想をてがかりにしながら、広い視野から深く考察できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すためにマルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立て的に組み合わせながら、講義を行ないます。また、高画質のDVD動画の投射も実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ニーチェの行為論	スライド形式による授業内容紹介
第 2 回	自己をクリエートする行為とは?	ヘーゲルからニーチェへの展開を通して自己創造を解明する。
第 3 回	動機なき行為とは	フランスの思想家カミュの『異邦人』を映画で鑑賞しながら行為の動機を相対化する。
第 4 回	行為の意図・動機への疑念	ニーチェによる合理主義的行為批判を紹介する。
第 5 回	身体自己と目的意識との関係	権力への意志としての身体自己を解明する。
第 6 回	しくじり行為	フロイトの精神分析を手がかりに行為の身体自己の無意識性を解明する。
第 7 回	「大きな理性」としての身体自己	身体自己が意識に命令して行為が現実化することを解明する。
第 8 回	目的論の相対化	作用原因としての身体自己を解明する。
第 9 回	道徳的責任からの解放	無垢な人間のライフスタイルを解明する。
第 10 回	自己創造としての行為	作用原因としての身体自己による創造的行為を解明する。
第 11 回	自己創造としての弁証法的対話	対話を通して対話者の新たな自己が創造されてゆくメカニズムを解明する。
第 12 回	幻影・仮象に生きる	幻影・仮象による自己創造がネーミングに到ることを解明する。
第 13 回	自己創造としての変身	ネーミングによる変身が自己創造であることを解明する。
第 14 回	まとめ	行為論 B の総括・授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

毎回の授業で紹介します。拙著『ニーチェとヘーゲル』（法政大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

Semester末試験を基準（70%）として、小レポート（15%）と出席回数（15%）も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の鮮明化と新鮮な教材準備

【学生が準備すべき機器他】

PC接続液晶プロジェクターによる映像とテキストの投射

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide students with an essential understanding of Nietzsche's selfcreation of our life style, with texts drawn from English, German and Japanese.

PHL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

PHL300LA

人間存在論

2016 年度以前入学者

サブタイトル：他者に認められるとはどういうことか——「承認」の哲学 (1)

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、2018 年度から「教養ゼミ」の一つとして、「現代思想 A」という名のもとに新たに始まった科目である。本授業は、秋学期同一科目の「教養ゼミ II」「現代思想 B」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては通年でひとつのテーマに基づいて、テーマに即したテキストをゆっくりに精読しながら、思想家・哲学者の思考を学び、さらにそこから自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

2019 年度は、春・秋共通のテーマとして「他人に認められるとはどういうことか」という問いを「承認」の問題として考察する。その際に、藤野寛先生〔國學院大学教授〕の『「承認」の哲学——他者から認められるとはどういうことか』（2015）を手引きとしながら、藤野先生が依拠する現代ドイツの哲学者アクセル・ホネット（Axel Honneth, 1949-）の哲学や、ホネットが参照する様々な哲学者のテキストを参照しながら、「承認の哲学」を学んでいく。

【到達目標】

- (1) 「承認」という問題について、自分の思想・哲学について説明することができる。
- (2) アクセル・ホネットの「承認の哲学」や「承認」をめぐる様々な哲学者の見解について説明することができる。
- (3) 「他者を認める／他者から認められる」という「承認」をめぐる問題について、自らの思想を鍛錬することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習（ゼミ）形式」の授業を行う。毎回、担当者を決めて、テキストの担当箇所を読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	①選抜試験（受講生が 30 名以上の場合） ②授業の概要・資料の配布 ③日程の確認 ④柄谷行人の思想解説
2	他者に認められるとはどういうことか？ (1)	・承認とは何か？
3	他者に認められるとはどういうことか？ (2)	・「認める」／「認められる」
4	承認されないとはどういうことか？ (1)	・承認を拒まれるということ
5	承認されないとはどういうことか？ (2)	・承認しないことの意味
6	承認が認識に優先するか (1)	・社会性の意味
7	承認が認識に優先するか (2)	・社会の中で認められること
8	承認の三つの類型 (1)	・愛という承認の形
9	承認の三つの類型 (2)	・人権の尊重
10	承認の三つの類型 (3)	・フェアな業績評価
11	差異と向き合う (1)	・差異と向き合うとはどういうことか
12	差異と向き合う (2)	・差異への寛容か、差異の承認か
13	差異と向き合う (3)	・マルチ・カルチュラリズムと寛容の問題 ・「承認」の哲学の起源へ
14	まとめ	・「承認」の哲学の起源へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・担当者以外の受講者は、授業前には必ず該当箇所を読んで、質問を三点以上準備すること。

【テキスト（教科書）】

藤野寛 『「承認」の哲学』（青土社、2015 年）

※ 各自でテキストを用意すること。

【参考書】

アクセル・ホネット『承認をめぐる闘争〔増補版〕』法政大学出版局、2014年
 アクセル・ホネット『正義の他者』法政大学出版局、2005年

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点 (50%) (質問を3点以上用意する)
- (2) 期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【受講上の注意】

本授業は、定員(30名)が決めている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline and objectives】

In this class, we consider philosophically the question "What does it mean to be recognized by others?"

PHL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：他者から認められるとはどういうことか？——「承認」の哲学

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
 2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、2018年度から「教養ゼミ」の一つとして、「現代思想A」という名のもとに新たに始まった科目である。本授業は、秋学期同一科目の「教養ゼミⅡ」「現代思想B」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては通年でひとつのテーマに基づいて、テーマに即したテキストをゆっくり精読しながら、思想家・哲学者の思考を学び、さらにそこから自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

2019年度は、春・秋共通のテーマとして「他人に認められるとはどういうことか」という問いを「承認」の問題として考察する。その際に、藤野寛先生（國學院大学教授）の『「承認」の哲学——他者から認められるとはどういうことか』（2015）を手引きとしながら、藤野先生が依拠する現代ドイツの哲学者アクセル・ホネット（Axel Honneth, 1949-）の哲学や、ホネットが参照する様々な哲学者のテキストを参照しながら、「承認の哲学」を学んでいく。

【到達目標】

- (1) 「承認」という問題について、自分の思想・哲学について説明することができる。
- (2) アクセル・ホネットの「承認の哲学」や「承認」をめぐる様々な哲学者の見解について説明することができる。
- (3) 「他者を認める／他者から認められる」という「承認」をめぐる問題について、自らの思想を鍛錬することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習（ゼミ）形式」の授業を行う。毎回、担当者を決めて、テキストの担当箇所を読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	①授業の概要・資料の配布 ②「承認の哲学」解説 ・ルソー『不平等起源論』をよむ
2	・「他者から認められたい」ってことは、要するに「人目を気にする」ってことでしょ？——「承認の哲学」の思想(1)	
3	・「他者を等しく尊重する」ってことは、要するに「みんなの個性を認めない」ってことでしょ？ (1) ——「承認の哲学」の思想史(2)	・カント『人倫の形而上学の基礎づけ』を読み直す
4	・「他者を等しく尊重する」ってことは、要するに「みんなの個性を認めない」ってことでしょ？ (2) ——「承認の哲学」の思想史(3)	・トゥーゲントハット『倫理学講義』のカント解釈を読む
5	・「他者を等しく尊重する」ってことは、要するに「みんなの個性を認めない」ってことでしょ？ (3) ——「承認の哲学」の思想史(4)	・テイラー『マルチ・カルチャリズム』を読む
6	・「異なる他者を広い心で受け入れる」ってことは、要するに「互いに打算で生きる」ってことでしょ？(1)——「承認の哲学」の思想史(5)	・ウォルツァー『寛容について』を読む(1)

- 7 ・「異なる他者を広い心で受け入れる」ってことは、要するに「互いに打算で生きる」ってことでしょ？ (2) —— 「承認の哲学」の思想史 (6)
- 8 ・「コミュニケーションすれば、仲良くなる」って本当かよ？ —— 「承認の哲学」の思想史 (7)
- 9 ・「コミュニケーションすれば、仲良くなる」って本当かよ？ —— 「承認の哲学」の思想史 (8)
- 10 ・「社会的に承認される」ってことは、要するに「みんなに妥協する」ってことでしょ？ (1)
- 11 ・「社会的に承認される」ってことは、要するに「みんなに妥協する」ってことでしょ？ (2)
- 12 ・「他者に承認される」ってけっこう大変だ
- 13 ・「異性の他者に承認される」のはもっと大変だ
- 1 4 まとめ
- ・ウォルツァー『寛容について』を読む (2) —— 「寛容」のパラドクス
- ・ハーバーマス『討議倫理』を読む
- ・デリダ『友愛のポリティクス』を読む
- ・承認は卑屈な人間を生み出すか？ —— ホネット『私たちのなかの私』を読む (1) 「イデオロギーとしての承認」
- ・承認は胡散臭いか？ —— ホネット『私たちのなかの私』を読む (2) 「イデオロギーとしての承認」 (20)
- ・「承認をめぐる闘争」 —— ホネット『承認をめぐる闘争』を読む
- ・「承認か、再分配か」は問題か —— フレイザー&ホネット『再分配か、承認か？』を読む
- ・「承認の哲学」はどこに向かうか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・担当者以外の受講者は、授業前には必ず該当箇所を読んで、質問を三点以上準備すること。

【テキスト（教科書）】

藤野寛『承認の哲学』（青土社、2015年）

※各自でテキストを用意すること。

【参考書】

アクセル・ホネット『承認をめぐる闘争（増補版）』法政大学出版局、2003年/増補版 2014年

アクセル・ホネット『正義の他者』法政大学出版局、2005年

アクセル・ホネット『物象化』法政大学出版局、2011年

ナンシー・フレイザー&アクセル・ホネット『再分配か承認か？』法政大学出版局、2012年

アクセル・ホネット『私たちのなかの私』法政大学出版局、2017年

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点 (50%) (質問を3点以上用意する)

(2) 期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【受講上の注意】

本授業は、定員 (30名) が決められている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline and objectives】

In this class, we consider philosophically the question "What does it mean to be recognized by others?"

HIS300LA

中国の民族と文化 A

2017年度以降入学者

HIS300LA

中国の民族と文化

2016年度以前入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を行っていく。なお、秋学期の「中国の民族と文化 B」は春学期の学習を前提に授業をお進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎 (1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎 (2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎 (3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎 (4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎 (5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史 (1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史 (2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史 (3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史 (4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史 (5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史 (6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史 (7)	『三国志』の描く蜀
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）

佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）

天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）

円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100%

試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講読する漢文の量を増やしていければと思います。

【Outline and objectives】

Outline: Studying ancient Chinese language and reading ancient Chinese texts

Objectives: Understanding the history and the culture of China

HIS300LA

中国の民族と文化 B

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

各学部に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。なお、秋学期には比較的古い文章の読解を行っていくが、春学期の「中国の民族と文化 A」の履修を前提として授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	漢民族の思想(1)	『論語』と儒家
第2回	漢民族の思想(2)	『論語』と政治
第3回	漢民族の思想(3)	『孟子』と国家
第4回	漢民族の思想(4)	『孟子』と性善説
第5回	漢民族の思想(5)	『荀子』と性悪説
第6回	漢民族の思想(6)	『荀子』と学問
第7回	漢民族の思想(7)	『韓非子』と法家
第8回	漢民族の思想(8)	『韓非子』と秦
第9回	儒家思想と政治の展開(1)	唐の太宗と『貞観政要』
第10回	儒家思想と政治の展開(2)	王安石と宋学
第11回	儒家思想と民族・学問(1)	朱子学と歴史学
第12回	儒家思想と民族・学問(2)	顧炎武の人生と明清交替
第13回	儒家思想と民族・学問(3)	顧炎武の学問と国家観
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008 年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000 年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999 年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講読する漢文の量を増やしていければと思います。

【Outline and objectives】

Outline: Studying ancient Chinese language and reading ancient Chinese texts

Objectives: Understanding the history and the culture of China

HIS300LA

ギリシャの文化と社会 A

2017 年度以降入学者

HIS300LA

ギリシャの文化と社会

2016 年度以前入学者

中村 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アルキビアデス・ストーリー (1)」という副題を添えて、民主政の最盛期とされる紀元前 5 世紀のアテネで奔放な生き抜いたアルキビアデスという一政治家の生きた軌跡を、ツキディデスの叙述を検討することを通して吟味します。

【到達目標】

参加型の直接民主政という特徴を持つ古典期アテネの民主政のなかで、もって生まれた自己の資質を余すところなく開花させることを極限まで追求し、そのゆえに毀誉褒貶半ばすることの多かった一人のエリート市民の生涯を、ツキディデスという第一級の歴史家の著述を通して辿ることによって、厳密な史料批判の方法を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形態ですが、少なくとも 1 回は課題について受講生に発表してもらい、それについて議論してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要の説明
第2回	アルキビアデスって誰？	アルキビアデスという人物についての概括的説明
第3回	ツキディデスとアルキビアデス	春学期のテーマの主要な資料となるツキディデスの『戦史』について
第4回	ツキディデスのアルキビアデス評価：問題の所在	アルキビアデスの軍事的才能と私生活における問題点 受講生によるアルキビアデスについてのツキディデスの記述の紹介 マンティネアの戦いの戦略
第5回	アルキビアデスの軍事的才能(1)	マンティネアの戦いにおける戦略の評価
第6回	アルキビアデスの軍事的才能(2)	シチリア遠征
第7回	アルキビアデスの軍事的才能(3)	ヘルメス像破損事件
第8回	アルキビアデスの私的性癖(1)	ツキディデスの回り道：アルキビアデスは僧主になろうとしたか？
第9回	アルキビアデスの私的性癖(2)	シチリア遠征を決める民会におけるアルキビアデスの演説の分析
第10回	アルキビアデスとアテネ民会	軍事と政治に関係ないことをめったに記述しないツキディデスがなぜアルキビアデスの私的性癖にこだわったのか
第11回	ツキディデスのアルキビアデス評価 中間総括	ツキディデスの描写とアリストテレスの記述；クローンローの問題
第12回	4 1 1 年の政変；問題の提示	政体の変転、アルキビアデスをめぐる人間関係、戦況の変化、3 者の絡み合い
第13回	4 1 1 年の政変；具体的検討	ツキディデスはアルキビアデスをどのように評価したのか
第14回	総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業についてある程度の予備知識は必要です。受講生の状況はそれぞれ違うでしょうから、下の参考書の中から自分が必要と思うものを選んで読んでおくとういでしょう。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

『西洋古代史研究入門』、伊藤貞夫、本村凌二編、東大出版会 1997。
『古典期アテネの政治と社会』、伊藤貞夫著、東大出版会 1982。
『民主主義の源流』、橋場弦著、講談社学術文庫 2016。
『アテネ民主政』、澤田典子著、講談社選書メチエ 2010。

【成績評価の方法と基準】

学期末に課すレポート 70 %、授業参加の積極性 30 % で評価します。
出席が十分でなければ評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline and objectives】

This course will introduce students to the life of Alcibiades, examining closely the historical sources written by Thucydides.

HIS300LA

ギリシャの文化と社会 B

2017 年度以降入学者

中村 純

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アルキビアデス・ストーリー (2)」という副題を添えて、民主政の最盛期とされる紀元前 5 世紀のアテネで奔放な生き抜いたアルキビアデスという政治家の生きた軌跡を、主としてプルタルコス、プラトンの叙述を検討することを通して吟味します。

【到達目標】

アルキビアデスという人物が、なぜ多くのすぐれた古典古代の著作家たちの注目を引いたのかを検討することを通して、古典期アテネの文化の特徴の一端を明らかにし、若者が一人の人間として成長するためには教養（パイドリア）を身につけねばならないという考え方が、アルキビアデスに注目が集まる原因の一つであったということの持つ意味をかみしめることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形態ですが、少なくとも 1 回は課題について受講生に発表してもらい、それについて議論してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体の概要についての説明
第 2 回	プルタルコスとその時代	プルタルコスの生きた時代とその著作物
第 3 回	プルタルコスとアルキビアデス	アルキビアデス伝について
第 4 回	プルタルコスの「アルキビアデス伝」：受講生による紹介と検討	「アルキビアデス伝」の内容について受講生に発表してもらって、全員でその内容について議論する。
第 5 回	プルタルコスが用いた史料の検討	アルキビアデスよりざっと半世紀ほど後の時代に生きたプルタルコスはどのような史料を用いたか。
第 6 回	プラトンの描くアルキビアデス	アルキビアデスより 1 世紀後の人プラトンの見解。
第 7 回	プラトンとその学園アカデメイア	プラトンの立ち位置
第 8 回	『饗宴』をめぐって	アルキビアデスとソクラテスの関係
第 9 回	Greek Homosexuality	アルキビアデスはどのようにソクラテスに愛されたのか
第 10 回	プラトンの描くアルキビアデス、再び：小括	プラトンはアルキビアデスのどこに心をひかれたのか
第 11 回	ペロポネソス戦争期のアテネにおける Generation Gap	420年代のアテネは若者の時代だったのか
第 12 回	アルキビアデスの「若さ」について	B. ストロースの見解
第 13 回	「若さ」とギリシア文化	藤縄謙三の所論をめぐって
第 14 回	総括	古代の多くの著名な著作家の関心を引いたアルキビアデスの魅力はどこにあったのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業についてある程度の予備知識は必要です。受講生の状況はそれぞれ違うでしょうから、下の参考文献の中から、自分が必要と思うものを選んで読んでおくとよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

『西洋古代史研究入門』、伊藤貞夫、本村凌二編、東大出版会 1997。
『古典期アテネの政治と社会』、伊藤貞夫著、東大出版会 1982。
『民主主義の源流』、橋場弦著、講談社学術文庫 2016。
『アテネ民主政』、澤田典子著、講談社選書メチエ 2010。

【成績評価の方法と基準】

学期末に課すレポート 70 %、授業参加の積極性 30 % で評価します。
出席が十分でなければ評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【Outline and objectives】
This course will introduce students to the life of Alcibiades, examining closely the historical sources written by Plutarchos and Platon..

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 A 2017 年度以降入学者

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 2016 年度以前入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

円仁の『入唐求法巡礼行記』を素材として、唐の仏教・道教の諸様相を読み取る。そして日本・中国の仏教受容や宗教政策の共通点・相違点を考える。

【到達目標】

古代日本の仏教は、律令制を基軸とした国家運営のなかに組み込まれ、僧尼の身分や行動、教団や寺院の運営も、国家の政策とは無関係には存在しえなかった。その淵源は中国にあるが、日中の相違点も少なくない。『入唐求法巡礼行記』に記された具体的な事象から、そのことを考え、得られた知見を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する
2	入唐僧の概要	7～9世紀の入唐僧を概観する
3	円仁の揚州での見聞	揚州の寺院、円仁の修学を解説する
4	円仁の赤山法華院での見聞	山東半島での新羅人の活動を考える
5	円仁の五台山での見聞	五台山の諸寺院と靈仙について解説する
6	円仁の長安での活動	円仁の密教受法、会昌の廃仏について解説する
7	円仁の日本への帰国	会昌の廃仏の影響を考える
8	道僧格と僧尼令	唐と日本の宗教法制の相違点を考える
9	中国宗教としての道教	道教の発達を政治との関係で考える
10	僧・尼と道士・女冠	唐の仏教政策・道教政策の相違を考える
11	長安の寺院	長安の諸寺院を概観する
12	日本の都城と寺院	藤原京・平城京の寺院と長安の寺院との関係を考える
13	隋唐の諸州寺院	大雲寺・開元寺と日本の国分寺との関係を考える
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料（漢文）を読解もしくは現代語訳してくる。予習内容を紙面で提出していただくことがある。また授業内容の理解を確認する試験を行い、解説を加え、次回に修正した答案を提出していただくことを予定している。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

佐伯有清『円仁』（吉川弘文館、1989年）
佐伯有清『慈覚大師伝の研究』（吉川弘文館、1986年）
足立喜六・塩入良道注『入唐求法巡礼行記』1・2（平凡社、1970、1985年）
小野勝年『入唐求法巡礼行記の研究』1～4（鈴木学術財団、1964～69年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年）
道端良秀『中国仏教史全集 第一巻 中国仏教通史』（書苑、1985年）
鎌田茂雄『中国仏教史 第三巻 南北朝の仏教（上）』（東京大学出版会、1984年）
鎌田茂雄『中国仏教史 第五巻 隋唐の仏教（上）』（東京大学出版会、1994年）
山崎宏『隋唐仏教史の研究』（法蔵館、1967年）
藤善眞澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、19865年）
塚本善隆訳注『魏書釈老志』（平凡社、1990年）

【成績評価の方法と基準】

①最終回の試験（50%）、②途中で実施する確認試験（30%）、③予習事項の紙面での提出（20%）。以上の3者を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。(3) ①探究心や向上心、②漢文読解の能力、③日本史・東洋史の基礎知識、④文章作成の能力。以上の4者が必要である。授業に出席するだけでなく、各自が積極的に取り組まなければならない。

【その他の重要事項】

「人ヲ害スル勿レ（人の人権を侵害しないこと）。ボアソナード博士はこんな言葉で法の精神を伝えました。教室ではお互いの学ぶ権利を尊重する、それが建学の精神です。私語はしない、それがルール 法政大学教育開発支援機構 FD 推進センター」
学内に掲示してあるポスターから引用しました。

【Outline and objectives】

Comparing Tang and Japanese religion with Ennin's diary as a material

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会B

2017年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

円珍の入唐関係史料（『行歴抄』『天台宗延暦寺座主円珍伝』『園城寺文書』）を素材として、入唐僧の処遇や活動環境を探る。そして、僧侶の社会的地位、学問内容、布教活動のありかたなどを、日中で比較する。

【到達目標】

7～9世紀の入唐僧は一律ではなく、その目的、処遇、留学・巡礼の場所、成果はそれぞれ異なる。円珍を素材として、その実情を理解する。また世俗権力と僧侶社会との関係を示す記事に着目し、政治と宗教との関係を日本と中国とで比較する。そして得られた内容を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する
2	入唐僧の概要	7～9世紀の入唐僧を概観する
3	円珍の入唐	円珍の入唐事情を解説する
4	円珍の天台山での活動	円珍の天台教学の受学、円載との関係を確認する
5	円珍の長安での活動	円珍の密教受学について確認する
6	円珍の天台山への帰山	円珍の天台山での動向と日本への帰国を解説する
7	帰朝後の円珍と唐の関係	円珍と唐僧・貿易商との交流を確認する
8	身分証と通行証	僧尼の身分把握、交通政策を日唐で比較する
9	台州刺史と太政官の公験	入唐僧の事績を俗官が証明する意味を考える
10	仏典目録・円珍疑問	仏典の請求、教学の探求について確認する
11	円珍・円載と智聡	入唐僧に従った弟子の活動を紹介する
12	天台山僧正としての清観	僧正（僧界の代表、僧官）を日唐で比較する
13	円仁・円珍が見聞した俗講	都城での布教を日唐で比較する
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料（漢文）を読解もしくは現代語訳してくる。予習内容を紙面で提出していただくことがある。また授業内容の理解を確認する試験を行い、解説を加え、次回に修正した答案を提出していただくことを予定している。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

佐伯有清『円珍』（吉川弘文館、1990年）
佐伯有清『智証大師伝の研究』（吉川弘文館、1989年）
小野勝年『入唐求法行歴の研究』上下（法蔵館、1982・83年）
園城寺編『園城寺文書 第一巻』（講談社、1998年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017年）
道端良秀『中国仏教史全集 第一巻 中国仏教通史』（書苑、1985年）
鎌田茂雄『中国仏教史 第三巻 南北朝の仏教（上）』（東京大学出版会、1984年）
鎌田茂雄『中国仏教史 第五巻 隋唐の仏教（上）』（東京大学出版会、1994年）
山崎宏『隋唐仏教史の研究』（法蔵館、1967年）
藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、19865年）
塚本善隆訳注『魏書積老志』（平凡社、1990年）

【成績評価の方法と基準】

①最終回の試験（50%）、②途中で実施する確認試験（30%）、③予習事項の紙面での提出（20%）。以上の3者を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。(3) ①探究心や向上心、②漢文読解の能力、③日本史・東洋史の基礎知識、④文章作成の能力。以上の4者が必要である。授業に出席するだけでなく、各自が積極的に取り組まなければならない。

【その他の重要事項】

「人ヲ害スル勿レ (人の人権を侵害しないこと)。ボアソナード博士はこんな言葉で法の精神を伝えました。教室ではお互いの学ぶ権利を尊重する、それが建学の精神です。私語はしない、それがルール 法政大学教育開発支援機構 FD 推進センター」
学内に掲示してあるポスターから引用しました。

【Outline and objectives】

Exploring the treatment and activity environment of the priest who visited Tang from Japan from the historical materials of "Enchin"

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A 2017 年度以降入学者

HIS300LA

アジア・太平洋国際関係史 2016 年度以前入学者

柳沢 遊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、20 世紀の前半期を中心にして、日本人の植民地支配へのかわり方、アジア及び太平洋島嶼各地域への進出の仕方、植民地経営の特質を考察するものです。過去に日本人や日本軍がおこなった植民地統治や勢力圏への企業進出、軍事行為などを明らかにすることで、21 世紀に、東アジア及び太平洋島嶼各地域の人々が、文化・宗教・政治体制の違いをこえて「共生」しうるための条件を模索していきます。「未来志向」の関係構築のためには、逆説的ではありますが、戦前・戦時期の日本人が、どのように東アジアや東南アジア、太平洋島嶼にかかわりを持ち、「つまずいたか」を丁寧に正確に知る必要があるのです。本講義では、1900 年から 1920 年代初頭までの時期を扱います。

【到達目標】

- 1, 日本と中国東北部の経済・社会との関係史を学び、戦前日本の「満洲権益」とは何であったか、と「進出された側の人びと」の立場を理解できるようになります。
- 2、学生は、この講義を履修することで、近現代の日本史と東アジア史についての歴史的センスとアジア経済圏や人の移動についての空間的な視野の両方を身に付けることができます。とりわけ、戦争と植民地獲得の関係、植民地の中の日本人の役割など、これまでに考えることのなかった問題を考察する素材を得ることができます。
- 3、各回の授業を通じて、日本—東アジア関係史の知識力と理解力が身に付き、それに応じて成績がつけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を主とします。毎回、教員が用意したレジュメを配布し、その内容によって授業を進めます。90 分たつと、授業を終えて、その日の講義に対する大小の質問を受け付けます。教員が質問に答えて、授業がおわります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の目的と進め方について	この科目の意義・目的と進め方を説明します。
2	日清戦争期の東アジアと世界経済の変動—帝国主义時代の幕開け	中華帝国秩序の動揺から、日本の工業化と日清戦争によって、「帝国主義」の台頭が見られるようになる過程を講義します。
3	日本の産業革命と東アジア市場—石炭・綿糸・雑貨—	日本の産業革命が、朝鮮・台湾・中国をどのように巻き込んだかを講義します。
4	日清戦後経営と日露戦争への道	日清戦争の結果、ロシアと日本の朝鮮での覇権争いがおこなわれ、ついに日露戦争に至る歴史過程を講義します。
5	朝鮮と中国の改革—大韓帝国の成立と洋務運動—	1897 年の大韓帝国の成立と中国の洋務運動が、アジアにおける「近代の胎動」であった理由を説明します。
6	日露戦争と朝鮮民衆—鉄道・道路建設に徴発される人びと	日露戦争は、日本とロシアとの戦争でありながら、朝鮮の植民地化の重要なステップになったことを講義します。
7	世界史の中の日露戦争—帝国主义体制の仲間となった日本	日露戦争に「勝利」した日本は、アジアの植民地帝国を築き、「五大列強」の仲間入りを使用とするが、そこには、財政面、金融面でおおきな無理があったことを説明します。
8	日露戦争後の「満洲」経営—「満蒙経営悲観論」の台頭—	「満洲」に渡航した人びとは、どのような人々であったかを、具体例とともに説明し、彼らが、「満洲」で目指したものと現実の在満日本社会の乖離を示します。
9	辛亥革命と韓国併合—変動する東アジアの中の日本—	日本の行った韓国併合と、孫文などによる辛亥革命をみることで、東アジアにおける 2 つの政治経済変動の深さと広さを学ぶことができます。

- 10 第一次世界大戦と東南アジアへの経済進出 第一次大戦期の日本は、ドイツの海軍拠点である山東半島に攻撃するとともに、南洋群島にたいしても占領し、「委任統治」を行います。それぞれどのような課題が存在したか、既存の研究から説明します。
- 11 大戦期の経済好況と「満州」日本人経済界 未曾有の「大戦好況」「戦後好況」の到来が、東アジア都市に何を生み出したか。満洲諸都市でも、不動産ブーム、企業ブームが、さかんとなったが、1920年4月にそれが崩壊する歴史をダイナミックに説明します。
- 12 「満州バブル経済」の開花と投資に走る人びと 株価と不動産価格の上昇は、人びとを経済活動にかりたてたが、気が付いたときに、多くの企業家は、借金と不良債権にまみれていました。それはなぜか？
- 13 「満州バブル経済」の崩壊と1920年恐慌—株価と不動産価格の下落 1921年、大量の株式会社が倒産、合併、閉鎖に追い込まれていき、「大豆経済」も破綻をきたしました。「満州」のバブル経済とは何だったのか、それを考えます。
- 14 春学期のまとめ 学んできた20世紀前半、とりわけ日露戦争期から、1920年代初頭までの東アジアの歴史をふりかえり、総括します。学生からも、多くの質問を受け付けていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際のレジュメをよく読み、関連文献に眼をとしておください。講義の流れについていけないときには、いつでも教員に相談ください。

【テキスト（教科書）】

- ・柳沢遊『日本人の植民地経験—大連日本人商工業者の歴史—』青木書店、1999年。
- ・和田春樹ほか編『東アジア近現代通史3 世界戦争と改造』岩波書店、2010年。

【参考書】

- ・原朗『日清・日露戦争をどう見るか』NHK出版新書、2014年。
- ・大日方純夫他編『近代日本の戦争をどう見るか』大月書店、2004年。
- ・国立歴史民俗博物館編『韓国併合』100年を問う』岩波書店、2011年。
- ・柳沢遊・木村健二・浅田進史編著『日本帝国勢力圏の東アジア都市経済』慶應義塾出版会、2013年。

【成績評価の方法と基準】

学期末に筆記試験を行います。それ以外に、予告のうへ「小テスト」を実施します。「質問票」の提出は、任意ですが、それも「平常点」に入れて成績に加味されます。「定期試験」7割、「小テスト」1割、「平常点」2割という割合で、成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めての担当であるため、情報はない。

【Outline and objectives】

This course examines Japanese aggression and colonization on Asia and Pacific Islands focusing on history from 1900s to 1920s. To make "future oriented" relationship in Asia and Pacific Islands, we need to know historically how Japanese civilians, companies and military had engaged with people in these areas and deteriorated their relationship. Understanding this history will be the first step for people of Asia and Pacific Islands to live together despite of our difference of culture, religion and political system in 21st century.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017年度以降入学者

柳沢 遊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、20世紀の前半期を中心にして、日本人の植民地支配へのかかり方、アジア及び太平洋島嶼各地域への進出の仕方、植民地経営の特質を考察するものです。授業の目的は、過去に日本人や日本軍がおこなった植民地統治や勢力圏への企業進出、軍事行為などを明らかにすることによって、21世紀に、東アジア及び太平洋島嶼各地域の人々が、文化・宗教・政治体制の違いをこえて共生しうするための歴史的条件を考える第一歩にすることです。「未来志向」の関係構築のためには、戦前・戦時期の日本人が、どのように東アジアや東南アジア、太平洋島嶼にかかわりを持ち、「つまずいたか」を丁寧に正確に知る必要があるのです。本講義では、1920年代から1940年代前半までの時期を扱います。主な内容としては、日本が、アジア及び太平洋島嶼地域に軍事的膨張を試みたが、なぜその試みが失敗したか、を学びます。

【到達目標】

- 1, 日本と中国東北部の経済・社会との関係史を学び、日本の「満洲権益」を名目に行われた中国大陸への軍事侵略が、なぜ止められず、多くのアジア民衆に犠牲を強いるようになったかについて、ミクロの歴史、地域の歴史から学びます。
- 2、学生は、この講義を履修することで、近現代の日本史と東アジア史についての歴史的センスとアジア経済圏や人の移動についての空間的な視野の両方を身に付けることができます。とりわけ、戦争と植民地・占領地拡大との関係、植民地・占領地の中の日本人の役割など、これまでに考えることのなかった問題を考察する素材を得ることができます。
- 3、各回の授業を通じて、日本—東アジア関係史の知識力と理解力が身に付き、それに応じて成績がつかます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を主とします。毎回、教員が用意したレジュメを配布し、その内容にそって授業を進めます。90分たつと、授業を終えて、その日の講義に対する大小の質問を受け付けます。教員が質問に答えて、授業がおわります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「鮮満一体化」政策の展開とその矛盾—山県伊三郎の野望と挫折	日露戦争後にさかのぼり、陸軍に生まれたこの構想が、1917年以降現実となり、第一次大戦期に、シベリアから華北にいたる広域的な経済進出がなされた過程とその政策的矛盾を明らかにします。
2	「満洲」金融不祥事の続発と中国人経済への影響	1920年恐慌後、在満日本人経済界では、日系金融機関の破綻と合併があいつぎ、それは、日本人と中国人との商取引にも、大きな支障となりました。なぜ、そういうことが起きたのかを学びます。
3	山東省・青島経済の不振と低利資金問題—山東出兵の歴史的背景—	「山東還付」に伴い、在青島日本人に貸し付けられた低利資金が、居留民社会の混乱により、返済不可に陥るものが続出します。山東出兵直前の外務省は、どう対応したのでしょうか。
4	満州事変への道—中国国民革命・張学良政権・満蒙権益の危機—	満洲における経済界の疲弊、蒋介石による国民革命の中国全土統一、張学良政権の自律的経済政策は、次第に、在満日本人社会に危機意識をうみだしていきます。
5	昭和恐慌下の満洲侵略—関東軍の野望と民衆の大陸願望—	独自の中国侵略構想を以て準備を進めていた関東軍が、日本本国の昭和恐慌を契機に、一挙に満洲国建国に軍事行動を拡大し、国際的孤立化の道を歩むことを説明します。
6	中国華北進出と「日満ブロック」経済論—資源開発への夢—	満州事変は、塘沽停戦協定をえて、華北資源調査にエスカレートしていきまます。この軍事拡大を許容した経済的利害と、国内政治について説明します。

7	「満洲国」経済の変遷と満洲産業開発五ヶ年計画	満洲国という傀儡国家は、どのような経済建設を行ったのでしょうか。それが挫折し、「満洲産業開発五ヶ年計画」に至る道のりを説明します。
8	日中戦争期の日本と東アジア	短期間での解決をもくろんだ日本の構想と裏腹に長期化する日中戦争。そこで、歴史にのこる深刻な軍事作戦や虐殺がおこなわれていきます。
9	「大東亜共栄圏」の形成へ	「日満ブロック」から「日満支ブロック」への道が行き詰まり、アジア太平洋戦争に入っていく日本の姿を、同時代的意識と今日的観点から説明します。
10	「大東亜共栄圏」の経済的実態	資源獲得のための戦争であったはずの太平洋戦争は、逆に物資不足、輸入の不能で深刻な国民生活の低下をもたらします。その時、アジア地域の民衆は？
11	大東亜経済圏の軍事的膨張と崩壊	太平洋の多くの地域を占拠したかに見えた日本軍は、ミッドウェイの海戦を転機に連合軍の反撃にあい、各地で敗退や「玉砕」がおこなわれた。1942年を転換点とする日本軍の敗北を規定した経済力をみていきます。
12	日本帝国の敗北と、「引き揚げ」問題	1945年から1948年にかけて、日本の占領地、植民地から多くの「日本人」が引き揚げられます。彼らは、どのように帰還し、戦後日本社会に何を残したのでしょうか。
13	戦後アジアの解放と日本の「民主化」	戦後日本は、焼け跡の都市とモノ不足の農村に、600万人の復員者、引揚者をかかえて再出発します。帝国主義支配に屈していたアジア諸地域でも、民族の解放の動きが加速してきます。それから73年たった今、何が求められるかを考えましょう。
14	秋学期のまとめ	日本のアジアへのかかわり方を総括し、その「傷跡」の一つひとつに戦後日本はどのように向き合ってきたか(こなかったか)を、授業のまとめとして問題提起します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際のレジュメをよく読み、関連文献に眼をとしてください。講義の流れについていけないときには、教員に相談ください。

【テキスト（教科書）】

・大日方純夫他編『近代日本の戦争をどう見るか』大月書店、2004年。
・今泉裕美子ほか編『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究』日本経済評論社、2016年。

【参考書】

・木村健二ほか編『近代朝鮮の境界を越えた人びと』日本経済評論社、2019年。
・国立歴史民俗博物館編『韓国併合』100年を問う』岩波書店、2011年
・柳沢遊・木村健二・浅田進史編著『日本帝国勢力圏の東アジア都市経済』慶應義塾大学出版会、2013年。

【成績評価の方法と基準】

学期末に筆記試験を行います。それ以外に、予告のうへ「小テスト」を実施します。「質問票」の提出は任意ですが、それも「平常点」にいて成績に加点されます。「定期試験」7割、「小テスト」1割、「平常点」2割という割合で、成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

今年度が初めての担当であるため、情報はない。

【Outline and objectives】

This course examines Japanese aggression and colonization on Asia and Pacific Islands focusing on history from 1920s to 1940s. To make "future oriented" relationship in Asia and Pacific Islands, we need to know historically how Japanese civilians, companies and military had engaged with people in these areas and deteriorated their relationship. Understanding this history will be the first step for people of Asia and Pacific Islands to live together despite of our difference of culture, religion and political system in 21st century.

HIS300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

HIS300LA

在日朝鮮人の歴史

2016年度以前入学者

サブタイトル：在日朝鮮人の歴史 I

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住み、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説①	世界のコリアンと在日コリアン
3	在日コリアン概説②	在日コリアンの法的地位
4	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの人口はどれくらいですか」
5	学生によるテキストの報告	「在日コリアンはいつ頃日本に来たのですか」
6	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの国籍はどうなっていますか」
7	まとめ①	映像 (1)
8	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの民族教育はどのように広がっていったのですか」
9	学生によるテキストの報告	「北朝鮮への帰国運動とはどういうものですか」
10	学生によるテキストの報告	「本名を名乗るとはどういうことですか」
11	まとめ②	映像 (2)
12	学生によるテキストの報告	「国民健康保険、国民年金には入れますか」
13	学生によるテキストの報告	「帰化をしないのはどうしてですか」
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

梁泰昊『新・在日韓国・朝鮮人読本』（緑風出版）2000円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50%、プレゼンテーション・期末レポート 50%。理由のある場合を除き、原則的に全出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「在日朝鮮人の歴史B」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活かされて、理解が深く広がります。

【Outline and objectives】

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

HIS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：在日朝鮮人の歴史Ⅱ

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々や、国籍は日本だがルーツを朝鮮半島に持つ人々が多数住み、現代日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。春学期開講の「在日朝鮮人の歴史A」を履修していることが望ましい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。総合科目なので、受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在、ひいては地球規模で展開するさまざまなコリアンの姿について、春学期に学習した基礎事項をもとに、テキストの内容をレポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。グローバル時代のコリアン活躍と苦悩は、日本を照らす鏡でもある。春学期よりも、さらに掘り下げた内容の報告と討論を行っていく。理解を補う補助資料として、随時、映像資料も視聴しながら進める。参加型授業である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	学生によるテキストの報告	在日コリアンと芸能界、スポーツ界のニューヒーローたち
3	学生によるテキストの報告	在日コリアンと焼き肉文化
4	学生によるテキストの報告	在日コリアンの民族教育
5	まとめ①	映像（1）
6	学生によるテキストの報告	在日コリアンとパチンコ産業
7	学生によるテキストの報告	在米コリアンの社会史
8	学生によるテキストの報告	ベトナム戦争とコリアン
9	まとめ②	映像（2）
10	学生によるテキストの報告	済州島と在日コリアン
11	学生によるテキストの報告	大震災と在日コリアン
12	学生によるテキストの報告	Jリーグと在日コリアンサッカー選手
13	まとめ③	映像（3）
14	まとめの討論	在日コリアンの将来と日本社会の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナをよく張ってこくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

野村進『コリアン世界の旅』（講談社文庫）885円。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50%、プレゼンテーション・期末レポート 50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「在日朝鮮人の歴史A」とともに履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の濁集に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline and objectives】

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved. The aim of this course is to learn them and understand their existence deeply.

GDR300LA

クィア・スタディーズA

2017年度以降入学者

岩川 ありさ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、性、身体、欲望の規範的なあり方を問うクィア・スタディーズの基礎的な知識について学び、普段の生活の中で「あたりまえ」のようにして触れているジェンダー、セクシュアリティをめぐる様々な事象を批判的に分析するための視座を身につけます。各回では、フェミニズムやレズビアン／ゲイ・スタディーズとクィア・スタディーズの繋がりについてまとめ、ヘテロセクシズム、性暴力、オルタナティヴな家族といった重要なトピックを歴史的・社会的な文脈の中で考える力を培います。

【到達目標】

- 1、クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
- 2、普段から何気なく触れている社会現象や表象を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。小レポートによって問題解決型の学習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ジェンダー、セクシュアリティと人権の関係について学びます。
第2回	フェミニズムの歴史(1)	第1波フェミニズムと選挙権、ウーマンリブの展開、第2波フェミニズムの展開について学びます。
第3回	フェミニズムの歴史(2)	セックスとジェンダー概念、本質主義と構築主義、フェミニズムの多様性、トランスジェンダーとフェミニズムについて学びます。
第4回	「Suffragette」	サラ・ガヴロン監督「Suffragette」(2015、邦訳「未来を花束にして」)を中心に、現在までに達成されたことと今後の課題について考えます。→小レポート(1)
第5回	ホモセクシュアル／ヘテロセクシュアル	「ホモセクシュアル」概念と病理化の繋がりについて説明し、ホモファイル運動からレズビアン、ゲイの解放運動の歴史についてまとめます。
第6回	エイズ・アクティヴィズムの展開	1980年代のエイズ危機とアクティヴィズムの展開について説明し、「クィア(queer)」という言葉がどのような歴史的な文脈で用いられたのかについてまとめます。
第7回	ネオリベリズムとホモノーマティビティ	1990年代、2000年代を中心にセクシュアル・マイノリティの脱政治化、クィアの「主流化」について考えます。
第8回	表象の政治性	日本のメディアにおける「オネエ」という表象を批判的に読みます。また、LGBT／SOGIという概念についてまとめます。→小レポート(2)
第9回	トランスジェンダーと性同一性障害	トランスジェンダーと性同一性障害の概念について整理し、歴史的な経緯についてまとめます。
第10回	トランスジェンダーとシスジェンダー	トランスジェンダーとシスジェンダーという概念を中心に性別二元論やジェンダー規範について問う視座について紹介します。
第11回	ヘテロセクシズム	いくつかのニュースや映像を通して、日常の中にある「普通」を問う批評的実践を紹介します。→小レポート(3)
第12回	性暴力とトラウマ	性暴力とトラウマについて学びます。また、刑法改正と未だに残る課題について考えます。
第13回	オルタナティヴな家族／家族のオルタナティヴ	「誰とともに生きてゆきたいか」という視座から、家族について考えます。
第14回	まとめ	全体のまとめを行います。学生による授業改善アンケートを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムから全3回の小レポート（800文字以上）の提出が必要です。(1)よく調べ、十分な分量で書くこと、(2)感想ではなく、論理的な記述を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。

【参考書】

河口和也『クィア・スタディーズ』岩波書店、2003。
 ベル・フックス『フェミニズムはみんなのもの 情熱の政治学』堀田碧訳、新水社、2003。
 竹村和子編『ポスト・フェミニズム』作品社、2003。
 高橋準『ジェンダー学への道案内 四訂版』北樹出版、2014〔2006〕。
 森山至貴『LGBTを読みとくクィア・スタディーズ入門』ちくま新書、2017。
 河口和也・風間孝編著『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社、2018。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート70%、小レポート30%で総合的に評価します。

・学期末レポートでは、以下の点を基準とします。

- (1) 必ず、「法政大学学習支援ハンドブック」(2018年度版ではpp.32-49)を参照してください。この書き方に合致していない場合、レポートを構成できていないと判断せざるをえないのでくれぐれも気を付けてください。
- (2) wikipedia やまとめサイトなどの記述ではなく、書籍や論文などを十分に調べることが必要です。
- (3) 感想ではなく、社会的事象や表象作品についての分析的、論理的な記述を求めます。

【学生の意見等からの気づき】

はじめて学ぶ事柄が多いという指摘があったので、段階を追って学べるスケジュールにした。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからコメントを打ち込んでもらうので、パソコンやタブレットなどの端末があると便利かもしれません。

【その他の重要事項】

授業中の私語は他の学生が学ぶ機会を奪うこととなります。くれぐれも注意してください。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of knowledge about Feminism and Queer studies. By the end of this course, students will develop a deeper understanding of important issues pertaining to gender and sexuality. They will examine social and historical problems of gender and sexuality independently. Coursework will include writing comments on various topics 5 times during the semester.

GDR300LA

クィア・スタディーズB

2017年度以降入学者

岩川 ありさ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期のクィア・スタディーズAで学んだ内容を復習しながら、映画、ドラマ、マンガ、アニメーション、ボーイズラブ(BL)、2.5次元ミュージカルなど幅広い領域の表象文化作品をジェンダーやセクシュアリティと繋いで読み解くための分析方法や理論を学びます。各回では、ジェンダー、セクシュアリティをめぐる様々なトピックをとりあげ、映像作品を読み解きながら、先行研究や歴史的な展開について概観します。それらと並行して、表象文化を受信したり発信したりするときの倫理について自ら考えることを目指します。

【到達目標】

- 1、クィア・スタディーズの理論や分析方法について学ぶ。
- 2、クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行いますが、具体的な表象分析を行いますので、積極的な参加が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	クィア・スタディーズの基礎について復習し、映像作品を読み解く視座についてまとめます。
第2回	生命をめぐる倫理(1)	優生思想、優生保護法の歴史について学びます。
第3回	生命をめぐる倫理(2)	映画「ガタカ」(1997)を通して、生命をめぐる倫理について考えます。→小レポート(1)
第4回	エイズ危機と病の表象	エイズ危機における病の表象や言説の問題について考えます。
第5回	1980年代：広範囲にわたる連帯	マシュー・ウォーチャス監督「パレードへようこそ」(2014)を通して、広範囲にわたる連帯の可能性について考えます。
第6回	1980、1990、2000年代：保守化と新自由主義	1980年代の政治的な保守化と新自由主義的な政治経済体制について考えます。→小レポート(2)
第7回	クィア理論の展開(1)	テレサ・ド・ローレティス「クィア・セオリー」を中心にして初期のクィア理論の問題意識について学びます。
第8回	クィア理論の展開(2)	ジュディス・バトラーの議論を中心に、志村貴子「放浪息子」、「プリキュア」第7話「彼女がデビューする日」などのアニメーションをとりあげます。
第9回	クィア理論の展開(3)	イヴ・コソフスキー・セジウィックの議論を中心に、カミングアウトとクローゼット、ホモソーシャルについてなどの概念について学びます。
第10回	トランスジェンダーをめぐる状況(1)	「彼らが本気で編むときは、」(2017)、「女子的生活」(2018)などの映像を通して、トランスジェンダーをめぐる近年の状況についてまとめます。
第11回	トランスジェンダーをめぐる状況(2)	セバスティアン・レリオ監督「ナチュラル・ウーマン」(2017)を取り上げ、世界におけるトランスジェンダーをめぐる状況についてまとめます。→小レポート(3)
第12回	少女マンガ/BLスタディーズ	少女マンガ研究、BLスタディーズの成果について学びます。
第13回	ファンダムの成熟とクィア・リーディング	2.5次元ミュージカル、『HUG っと!プリキュア』(2018)のキュアアンフィニ(若宮アンリ)登場回、二次創作「悲嘆可能性」と前未来形という概念について学びます。
第14回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムから全3回の小レポート（800文字以上）の提出が必要です。(1)よく調べ、十分な分量で書くこと、(2)感想ではなく、論理的な記述を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。

【参考書】

河口和也『クイア・スタディーズ』岩波書店、2003。
 森山至貴『LGBTを読みとくクイア・スタディーズ入門』ちくま新書、2017。
 竹村和子『彼女は何を視ているのか』作品社、2012。
 中央大学人文科学研究所（編）『愛の技法—クイア・リーディングとは何か』中央大学出版部、2013。
 黒岩裕市『ゲイの可視化を読む—現代文学に描かれる<性の多様性?>』見洋書房、2016。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート 70%、小レポート 30%で総合的に評価します。
 ・学期末レポートでは、以下の点を基準とします。

- 必ず、「法政大学学習支援ハンドブック」(2018年度版では pp.32-49)を参照してください。この書き方に合致していない場合、レポートを構成できていないと判断せざるをえませんのでくれぐれも気を付けてください。
- wikipedia やまとめサイトなどの記述ではなく、書籍や論文などを十分に調べる必要があります。
- 感想ではなく、社会的事象や表象作品についての分析的、論理的な記述を求めます。

【学生の意見等からの気づき】

はじめて学ぶ事柄が多いという指摘があったので、段階を追って学べるスケジュールにした。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからコメントを打ち込んでもらうので、パソコンやタブレットなどの端末があると便利かもしれません。

【その他の重要事項】

授業中の私語は他の学生が学ぶ機会を奪うことになります。くれぐれも注意してください。

【Outline and objectives】

This course aims at enabling students to acquire an advanced understanding about Feminism and Queer studies. By the end of this course, students will examine social and historical issues of gender and sexuality independently. In this semester we will analyze some stereotypes of the representation of gender and sexuality. Coursework will include writing comments on various topics 5 times during the semester.

PHL300LA

キリスト教思想史 A

2017年度以降入学者

PHL300LA

キリスト教思想論

2016年度以前入学者

酒井 健

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教の思想の変遷をその源であるユダヤ教から順次理解する。時代背景、歴史的背景をしっかりとおさえる。

【到達目標】

- ①キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。
- ②信仰への道を説くのが授業の狙いではない。あくまで一つの宗教として、その特徴を、問題点も含めて冷静に考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

毎回、授業の終わりの20分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述を書かせる。その意味でハードな授業になる。

定員の35名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教を学ぶことの意義を中心に。定員超過の場合は選抜を行う。
第2回	ユダヤ教から	一神教の成り立ち。キリスト教の源流であるユダヤ教に立ち返って考察する。
第3回	ユダヤ教の特色	ユダヤ教の独自性（一神教と多神教の違いなど）
第4回	イエスとその時代	イエスの時代のユダヤ教（1）（律法主義に対するイエスの批判）
第5回	イエスの活動の意義	イエスの時代のユダヤ教（2）（神殿主義に対するイエスの批判）
第6回	イエスの死	イエスの処刑（イエスが十字架刑に処された理由）
第7回	残された人々	イエスの死と使徒の考え方（1）（使徒とエルサレム初期共同体）
第8回	パウロの解釈	イエスの死と使徒の考え方（2）（パウロの「十字架の神学」）
第9回	古代ローマ帝国	古代ローマ帝国とキリスト教（1）（ユダヤ教改革派からキリスト教の誕生へ）
第10回	聖書はなぜ書かれたか	古代ローマ帝国とキリスト教（2）（聖書の誕生）
第11回	キリスト教徒はなぜ増えたのか	古代ローマ帝国とキリスト教（3）（信者の増加と迫害）
第12回	大帝の決断	古代ローマ帝国とキリスト教（4）（コンスタンティヌス大帝の政策）
第13回	国教化へ	古代ローマ帝国とキリスト教（5）（キリスト教の国教化とローマ教会の組織力）
第14回	試験、まとめ	今学期の授業内容の復習を兼ねて論述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キリスト教関係の入門書を読んでおくこと。
 たとえば『キリスト教の真実』（竹下節子著、ちくま新書）など。

【テキスト（教科書）】

毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】

授業内で詳しく紹介する。
 『一神教の誕生 ユダヤ教からキリスト教へ』加藤隆著、講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

キリスト教の源からその初期の発展に関して、学問的に本質的な点を捉えられたかどうかを評価の基準にする。

期末の論述試験 50%と授業への積極的な貢献度 50%（毎回論述する課題の内容等）によって評価する。

《到達目標との関連》＝上記①と②に関して期末の論述試験において習熟度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評である。受講生からの要望には耳を傾けているので、いつでも気軽に語ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

1年生のときに宗教論の授業を取っておくことが望ましいが、必要条件というわけではない。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn fundamental aspects of history and thoughts of christianism. Students must write in Japanese their reaction after each lesson.

PHL300LA

キリスト教思想史 B

2017 年度以降入学者

酒井 健

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教思想の変遷を中世西欧社会から順次理解する。歴史的背景をしっかりとらえる。

【到達目標】

①キリスト教を学問の対象に据えて、客観的かつ公平な視点からキリスト教思想の重要な点を年代をおって考察する。
②中世西欧社会からイタリア・ルネサンス社会がとくに対象になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

毎回、授業の終わりの 20 分を使って、その日の授業内容に関してかなりの分量の論述を書かせる。その意味でハードな授業になる。

定員の 35 名を超えた場合は選抜を行うので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介と選抜	今学期の授業の概要の説明。キリスト教思想を学ぶことの意義を中心に。
第 2 回	中世西欧とは何か	中世西欧に対する基本的な考え方。
第 3 回	根源的な変化と表面的な変化	古代ローマ社会から初期の中世社会への移行。
第 4 回	キリスト教と修道院	修道士の活躍 (1) (禁欲主義の問題)
第 5 回	新たなキリスト教へ	修道士の活躍 (2) (アイルランド系修道院と修道士の特徴)
第 6 回	政治からの変化	カロリング・ルネサンス (シャルルマーニュ大帝のキリスト教政策)
第 7 回	イスラムとの関係	イスラム世界との接触 (1) (西ゴート王国の滅亡とイベリア半島のキリスト教)
第 8 回	十字軍とは何か	イスラム世界との接触 (2) (十字軍の問題)
第 9 回	開花する中世西欧文化	ロマネスク文化 (1) (西欧の地方へのキリスト教の伝播)
第 10 回	修道院の拡大	ロマネスク文化 (2) (クリュニー会とシトー会)
第 11 回	ゴシックとは何か	ゴシック文化 (1) (新都市住民の感性と新たな大聖堂建築)
第 12 回	中世神学の本質	ゴシック文化 (2) (光の神学)
第 13 回	イタリアから	イタリア・ルネサンスの文化 (キリスト教と芸術家)
第 14 回	試験、まとめ	今学期の内容の復習をかねて論述試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的な入門書を読んでおいてほしい。

たとえば

『世界の歴史 (9)、ヨーロッパ中世』 鯖田豊之著、河出文庫など

【テキスト（教科書）】

毎回配布する担当教員作成のレジュメ。

【参考書】

授業のなかで詳しく紹介する。

『ゴシックとは何か』 酒井健著、ちくま学芸文庫など。

【成績評価の方法と基準】

中世におけるキリスト教の発展を学問的にどれだけ捉えたかを基準にする。学期末の論述試験 50%と平素の授業態度（毎回提出の論述の内容など）が具体的なデータになる。

《到達目標との関係》＝上記①と②に関して習熟度を期末の論述試験において判定する。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評である。要望があれば気軽に伝えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

とくにない。

【その他の重要事項】

春学期のこの授業の履修を勧めたい。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to continue to learn fundamental aspects of history and thoughts of christianism. Students must write in Japanese their reaction after each lesson.

ARSh300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

ARSh300LA

アラブの言語と文化

2016年度以前入学者

サブタイトル：アラビア語への招待 I

江村 裕文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アフロアジア世界で1億人以上の話し手により使用されており、また国連の6番目の公用語である「アラビア語」にチャレンジしてもらいます。

【到達目標】

1年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に付けてもらいたいと希望します。

文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画に沿って、発音・文字（母音・子音）、綴り方、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入 発音と文字 1	テキストの紹介、アラビア語に関する解説の後、発音と文字について学ぶ。発音にはあまりこだわらないが、音韻の区別は理解すること。
2	発音と文字 2	アルファベットの前半の文字を学ぶ。
3	発音と文字 3	アルファベットの後半の文字を学ぶ。
4	テキストの紹介 第1章	テキストの作りについて解説する。文字と発音のまとめ
5	第2章	名詞、形容詞と定冠詞
6	第3章	名詞の性、および指示詞と否定文
7	第4章	名詞、形容詞の格変化
8	第5章	名詞の数
9	第6章	指示詞（単数、双数、複数）
10	第7章	人称代名詞
11	第8章	否定動詞
12	第9章	前置詞
13	第11章	形容詞
14	授業内試験	「あいさつ」「名詞文」「形容詞文」についてアラビア語の作文を課す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5月の連休終了までに文字を覚えること。授業の予習としては、最低限どのような文法事項を学ぶことになっているのかは確認しておくこと。復習は必ず行い、疑問点等のないようにしておくこと。少しでもわからないところがあるとついていくのは不可能になります。

【テキスト（教科書）】

テキストとしては、榮谷温子『はじめましてアラビア語』第三書館を予定しています。

辞書については、授業中に指示します。

【参考書】

英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期は、平常点40点、試験の得点60点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

【Outline and objectives】

You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is an official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Culture of it.

ARSh300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：アラビア語への招待Ⅱ

江村 裕文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アフロアジア世界で1億人以上の話し手により使用されており、また国連の6番目の公用語である「アラビア語」にチャレンジしてもらいます。

【到達目標】

1年間で、なんとか基本的な文法をマスターし、自力で先に勉強を進めていける素地を身に付けてもらいたいと希望します。

文法が理解できていないと辞書も引くことができないのがアラビア語の持つ困難点です。文の構造を踏まえて、辞書が引けるようになること、これが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下の授業計画に沿って、発音・文字（母音・子音）、綴り方、単語（名詞・形容詞・動詞）、その変化形（つまり曲用と活用）、文を読むまでを、懇切丁寧に解説し、訓練していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	辞書 1	辞書の引き方を紹介する
2	辞書 2	辞書の引き方を訓練する
3	第1 2章	動詞の完了形と副詞、疑問詞
4	第1 3章	動詞の未完了直説形
5	第1 4章	アラビア語の be 動詞
6	第1 5章	動詞の未完了接続形
7	第1 6章	inna とその姉妹
8	第1 7章	動詞の未完了短形および命令形
9	第1 8章	受動態と分詞、動名詞
10	第1 9章	関係代名詞
11	第2 0章、第2 1章	ハムザ動詞、第一語根 waw 動詞、重語根動詞
12	第2 2章、第2 3章	第二語根弱動詞、第三語根弱動詞
13	第2 4章、第2 5章	4語根動詞と二重弱動詞、動詞の派生形
14	まとめとレポート提出	アラビア語の動詞のまとめとレポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

秋学期からは、動詞の変化形に入ります。単純な形の間には、基本的な動詞の活用形を覚えておけば、応用の仕方がわかりますが、覚えておかないと、どんどん迷路に迷い込むことになっていきます。

【テキスト（教科書）】

テキストとしては、榮谷温子『はじめましてアラビア語』第三書館 を予定しています。

辞書については、授業中に指示します。

【参考書】

英語・フランス語・ドイツ語で書かれたアラビア語の文法書が多くあるので、各自の興味に応じて適切なものを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、平常点40点、レポートの得点60点、合計100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際にできるだけ学習者全員にとっての既習の言語、おもに英語の文法等を例にあげますが、その知識が整理できていないために無用の混乱・困難をきたすことがあります。たとえば英語に名詞の格はいくつあるか、人称とは何か、といった基本的なことがわかっていないがために、説明が通じないことがあります。理解できないことがあったらその都度質問をすることが肝要です。

【Outline and objectives】

You can challenge to master one of the international languages, Arabic. Arabic language is a official language of U.N. It is necessary to understand Arabic to approach to the world of Islam, and Culture of it.

LAN300LA

異文化コミュニケーション論 A 2017 年度以降入学者

LAN300LA

異文化コミュニケーション論 2016 年度以前入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。

この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①言葉と文化の問題がいかにかに人の認識に関わるか理解する。
- ②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・指定テキストの内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	・オリエンテーション ・日本と日本語の実像を考える	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・日本語はどんな言語か
第 2 回	・日本語の漢字使用について	・漢字の読みはなぜややこしいのか ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第 3 回	・ラジオ型言語とテレビ型言語	(1) 文字言語としての日本語と他言語との比較。 (2) 音声言語としての日本語と他言語との比較
第 4 回	・文化によって異なる色彩認識について	・虹にはいくつの色があるのか。太陽は世界のどこでも赤いのか。
第 5 回	・カテゴリー分類の差異	・蛾と蝶が同じである理由
第 6 回	・文化によって異なる羞恥心	・「恥かしさ」の基準
第 7 回	・形容詞のかくれた基準 ・有標性と無標性 ・新語の話	・天狗の鼻は「長い」でなく「高い」 ・形容詞の中身はなに？ - 形容詞のかくれた基準 ・江戸時代、「日本酒」はなかった 身内の呼び方の方程式
第 8 回	日本語の人称代名詞を巡る問題	
第 9 回	指示語と自己中心語	「人称」の本質は何か 日本語に対する考えを改めよう
第 10 回	言語政策	・日本語に対する認識 ・各国の言語政策 ・外国語教育の必要性
第 11 回	住まいと美意識	・住居、建築、都市計画
第 12 回	食文化	・日本の食べ物、世界の食べ物 ・日本の食べ方、世界の食べ方
第 13 回	宗教・迷信・タブー	・何を信じるか ・何を忌避するか
第 14 回	期末試験	第 1 回～第 13 回までの内容についての筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。

【テキスト（教科書）】

鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書 740円

【参考書】

鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書

鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書

今井むつみ『ことばと思考』岩波新書

G. ドイツチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』

R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社

その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30%

発表 30%

期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

・グループワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【その他の重要事項】

・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜をします。

・2016年度以前の入学者は、秋学期開講の「異文化コミュニケーション論B」を合わせた通年科目となります。

【Outline and objectives】

In this course, students will read a book on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

LAN300LA

異文化コミュニケーション論B 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化している。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②「異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第1・2・4回目は講義と教室内活動中心。
- ・第3回・第5～13回は、指定テキストの内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	・オリエンテーション ・文化と異文化間コミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第2回	自分を知る	・対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	ステレオタイプ①	・ステレオタイプとは ・ステレオタイプの生成、功罪について (学生発表と質疑応答。)
第4回	ステレオタイプ②	・ステレオタイプの真偽 ・ステレオタイプの流布と強化
第5回	コミュニケーション・スタイル①	・コンテクスト (学生発表と質疑応答。以下13回まで)
第6回	コミュニケーション・スタイル②	・ターンテークキング ・パラ言語
第7回	言語コミュニケーション①	・ほめ方 ・しかり方 ・謝り方
第8回	言語コミュニケーション②	・自己紹介と自己開示 ・誘い方と断り方
第9回	非言語コミュニケーション①	・表情 ・アイコンタクト
第10回	非言語コミュニケーション②	・しぐさとジェスチャー ・タッチング
第11回	非言語コミュニケーション③	空間と対人距離
第12回	非言語コミュニケーション④	時間感覚

- 第 13 回 価値観
・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観
・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
- 第 14 回 期末試験
第 1 回～第 13 回までの内容についての筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・「自由討論」前は、テーマの設定、およびそのテーマに関する情報収集など。

【テキスト（教科書）】

八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

【参考書】

R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
 鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
 池田理知子 E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
 八代京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
 吉田暁・石井敏 他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
 E. ホール『沈黙のことば-文化・行動・思考』南雲堂
 その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 30 %
 発表 30 %
 期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・一昨年に続き、グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。
- ・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・受講希望者数によっては、第 1 回目の授業時に行うアンケートで選抜をします。
- ・2016 年以前の入学者にとっては通年科目「異文化コミュニケーション論」となりますので、秋学期のみの履修はできません。

【Outline and objectives】

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：思想と文学

川鍋 義一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学と周辺領域の学問を学びます。
 現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題を考えるために、一端そこから離れて、日本近現代文学と周辺領域の学問から捉え直し、新たな視点を得ます。
 春学期のテーマは他者論です。わたしにとって他者とはなにかについて学びます。

【到達目標】

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題について、新たな視点を得ます。
 春学期は他者とはなにかについての新たな視点を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習形式。

ただし初めの 4～5 回程度は教員が講義します。
 また、下記授業計画で「導入」とある回は、教員の講義が中心になります。その他は学生の発表（レジュメ）、議論が中心になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期の授業計画の詳細 および予備知識	ガイダンス
2	他者と自己	【探究 1】
3	他者とはなにか	【探究 1】
4	柄谷行人のモチーフを探る	【探究 1】
5	「大導寺伸介の半生」導入 ——芥川龍之介の生涯	「大導寺伸介の半生」
6	他者へのまなざし	「大導寺伸介の半生」
7	人工の翼と失墜	「大導寺伸介の半生」
8	芥川龍之介から太宰治へ	【人間失格】
9	他者へのまなざし	【人間失格】
10	自意識と他者	【人間失格】
11	吉本隆明について——導入	【転位のための十篇】
12	他者へのまなざし	【転位のための十篇】
13	近代文学を貫く、他者への恐怖	【転位のための十篇】
14	他者論のアクチュアリー——他者と自己をどうとらえるか	半期の総ざらい・結論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは事前に熟読しなければなりません。
 また、3 回程度、発表のためのレジュメを書きます。

【テキスト（教科書）】

柄谷行人『探究 1』（「1」はローマ数字）講談社学術文庫
 芥川龍之介『大導寺伸介の半生』（『大導寺信輔の半生・手巾・湖南の扇 他十二篇』岩波文庫 など当該作品の収録されているもの）
 太宰治『人間失格』新潮文庫ほか
 吉本隆明『転位のための十篇』（『吉本隆明初期詩集』講談社文芸文庫 など当該作品の収録されているもの）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメなど）50%、期末レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

春学期の他者論と、秋学期のテロリズム論とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course deals with Japanese modern literature and other studies.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：思想と文学

川鍋 義一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学と周辺領域の学問を学びます。
現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題を考えるために、一端そこから離れて、日本近現代文学と周辺領域の学問から捉え直し、新たな視点を得ます。
秋学期のテーマはテロリズム論です。テロリズムの原型、根底にあるものについて学びます。

【到達目標】

現代を生きる我々にとっての大変アクチュアルな諸問題について、新たな視点を得ます。
秋学期はテロリズムの原型、根底にあるものについての新たな視点を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

演習形式。

ただし初めの4回程度は教員が講義します。

また、下記授業計画で「導入」とある回は、教員の講義が中心になります。その他は学生の発表（レジュメ）、議論が中心になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期の授業計画の詳細および予備知識	ガイダンス
2	導入	【供犠】
3	供犠とはなにか	【供犠】
4	放棄と交換	【供犠】
5	贈与とはなにか	【贈与論】
6	贈与と放棄と交換	【贈与論】
7	供犠とテロリズム	【贈与論】
8	宮澤賢治について——導入1	「グスコブドリの伝記」「度十公園林」「気のいい火山弾」
9	宮澤賢治について——導入2	「グスコブドリの伝記」「度十公園林」「気のいい火山弾」
10	常不軽菩薩と賢治	「グスコブドリの伝記」「度十公園林」「気のいい火山弾」
11	賢治におけるデクノボーの意味	「グスコブドリの伝記」「度十公園林」「気のいい火山弾」
12	〈ほんたうのさいはひ〉とはなにか	「グスコブドリの伝記」「度十公園林」「気のいい火山弾」
13	他者論とテロリズム論	「グスコブドリの伝記」「度十公園林」「気のいい火山弾」
14	【供犠】のアクチュアリー——他者と自己をどうとらえるか	年間の総ざらい・結論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストは事前に熟読しなければなりません。
また、3回程度、発表のためのレジュメを書きます。

【テキスト（教科書）】

モース/ユベール『供犠』法政大学出版局
モース『贈与論 他二篇』岩波文庫
宮澤賢治
「グスコブドリの伝記」「度十公園林」「気のいい火山弾」
『童話集 風の又三郎 他十八篇』岩波文庫 ほか

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメなど）50%、期末レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

春学期の他者論と、秋学期のテロリズム論とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】

This course deals with Japanese modern literature and other studies.

LAW300LA

法哲学A

2017年度以降入学者

LAW300LA

法哲学

2016年度以前入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどういう社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。

具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。

秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。履修人数は25人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
②法哲学的な視点と考え方を身に付け、現代社会の具体的な課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関する自説を合理的根拠を通じて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、格差社会や死刑制度の是非といった現代社会の具体的な問題・課題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講生には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第2回	法哲学を学ぶにあたって1	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何かの概説
第3回	法哲学を学ぶにあたって2	「もしも法がなかったら？」を考える
第4回	法哲学を学ぶにあたって3	「もしも法がなかったら？」に関する討論
第5回	格差・不平等問題1	基礎知識と論点の解説
第6回	格差・不平等問題2	論点と問題点の検討・討論
第7回	格差・不平等問題3	理論的立場の整理
第8回	法と道徳1	基礎知識と論点の解説
第9回	法と道徳2	具体的事例の検討
第10回	復興増税1	基礎知識と論点の解説
第11回	復興増税2	論点と問題点の検討・討論
第12回	人工妊娠中絶1	基礎知識と論点の解説
第13回	人工妊娠中絶2	論点と問題点の検討・討論
第14回	人工妊娠中絶3	出生前診断に関連する論点と問題点について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容をよく復習し、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。レジュメや資料を配布する。

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）
瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）
 森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年刊行予定）
 マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
 内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007年）
 内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009年）
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を中心に（評価割合 80 %程度を予定）、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して（評価割合 20 %程度を予定）、上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は 25 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法哲学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学 B」も続けて履修すること。（春学期の「法哲学 A」受講者には、秋学期の「法哲学 B」の履修を優先的に認める。）

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

LAW300LA

法哲学 B

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
 2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「法とは何か」「正しい社会とはどのような社会か」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。具体的事例・課題の検討や主要理論の分析を通じて、法哲学の基礎知識や視点を学びながら、（単に知識を覚えるだけでなく）受講生の思考力・問題分析力を鍛錬することがねらいである。春学期開講の「法哲学 A」と連続した内容で授業を行うので、履修希望者は、春学期初回の授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス後出「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

①法哲学の基礎的な理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
 ②法哲学的な視点と考え方を身につけ、現代社会の具体的課題・問題に対して（表層にとどまらない）根源的観点からの検討と議論ができるようになる。
 ③上記①②を踏まえて、個々の社会的問題に関する自説を合理的根拠を通じて論じられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の「法哲学 A」からの継続で、法哲学の基礎知識・主要理論の解説をしながら、格差社会や死刑制度の是非といった現代社会の具体的問題・課題を対象に、法哲学的観点から論点の検討と議論を行う。講義と並行して、受講生にコメント提示やレポート・小論文提出を課しながら論点の抽出と検討（討論）を行うので、受講者には、授業内外での十分な学習と討論への積極的な参加、レポート・小論文作成等を求める。

受講にあたって法学の予備知識は求めないが、授業を受ける中で必要な知識を各自復習し身に付けていくこと。

授業計画は以下の予定だが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明
第 2 回	死刑制度の是非 1	基礎知識と論点の解説
第 3 回	死刑制度の是非 2	論点と問題点の検討・討論
第 4 回	裁判員制度と死刑 1	基礎知識と論点の解説
第 5 回	裁判員制度と死刑 2	論点と問題点の検討・討論
第 6 回	一夫一婦制と契約婚 1	基礎知識と論点の解説
第 7 回	一夫一婦制と契約婚 2	論点と問題点の検討・討論
第 8 回	一夫一婦制と契約婚 3	婚姻制度の意義の検討
第 9 回	代理出産と親子関係 1	基礎知識と論点の解説
第 10 回	代理出産と親子関係 2	論点と問題点の検討・討論
第 11 回	代理出産規制の是非 1	基礎知識と論点の解説
第 12 回	代理出産規制の是非 2	論点と問題点の検討・討論
第 13 回	代理出産規制の是非 3	議論のまとめ
第 14 回	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容をよく復習し、紹介された参考書を読むなどして自分の意見や疑問点を整理する。レポート・小論文の作成にあたっては、授業で取り上げた論点やその解説・検討を十分踏まえながら内容を整理して書くこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使わない。レジュメや資料を配布する。

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
 竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年刊行予定）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）

内藤淳『自然主義の人権論』（勁草書房、2007年）

内藤淳『進化倫理学入門』（光文社新書、2009年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文(レポート)の点数を中心に(評価割合 80 %程度を予定)、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して(評価割合 20 %程度を予定)上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

春学期開講の「法哲学 A」と連続した内容で授業を行う。そのため、履修人数は 25 人を上限とし、原則として春学期の「法哲学 A」受講者を履修対象者とする。ただし、受講人数に余裕がある場合には、過去に「法哲学 A」を履修済みの学生に関して個別事情を勘案した上で(4 年生なので次年度以降の履修機会がないなど)、初回授業にて選抜を行い、例外的に履修を認める。(受講人数に余裕があっても、状況により、そうした例外措置をとらない場合がある。)

いずれにしろ、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、春学期の「法哲学 A」受講者を含めて、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと。

人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of legal philosophy. The main aim of this course is to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, participants are expected to have their own opinions on social and legal issues and explain them rationally.

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

POL300LA

現代政治学の基礎

2016 年度以前入学者

サブタイトル：1960 年代の政治と音楽

木村 正俊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

1960 年代の政治について、そして政治と音楽の関係について考察する。文献やサウンド、映像を通して 1960 年代について知識を獲得するとともに、60 年代の「文化革命」がその後の時代にもたらしたことを考えることを目指す。

【到達目標】

基本的目標は次の通りである：

60 年代の政治を、主として USA を対象にして理解すること
カウンター・カルチャーの思想と運動の特徴について理解すること
USA の広義のフォーク・ミュージックから生み出されたボビュラー・ミュージックの中から、特にサイケデリック・ロックについて考察する
カウンター・カルチャーがもたらした(と思われる)現代への影響について考察する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

60 年代に関する文献を読み、サウンドを聴き、映像を観た上で参加者の間で意見を交換する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
# 1	イントロダクション	ゼミの概要の確認と参加者の決定
# 2	文献講読	文献の内容確認と議論
#3	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#4	映像視聴	映像の内容確認と議論
#5	文献講読	文献の内容確認と議論
#6	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#7	映像視聴	映像の内容確認と議論
#8	文献講読	文献の内容確認と議論
# 9	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#10	映像視聴	映像の内容確認と議論
#11	文献講読	文献の内容確認と議論
#12	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#13	映像視聴	映像の内容確認と議論
# 14	総括	ゼミのまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

文献は必ず事前に読むこと
音楽聴取・映像視聴後、関連する文献を読んで理解を深めること

【テキスト(教科書)】

開講時に指定する

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

ゼミの課題にたいする対応度

【学生の意見等からの気づき】

アンケートなし

【その他の重要事項】

政治学 LA、政治学 LB の履修(既履修)は必要ではありません。
ロック、特にサイケデリック・ロックの知識は必要ではありません。
ただし、なじみのない学生は気分が悪くなる等のあることがあるかもしれません。

【Outline and objectives】

Theme: Politics and Popular Music in the 1960's
The fundamental aim of this seminar is to acquire a basic knowledge of politics in the 1960's and consider the interaction between politics and music of 60's.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：新自由主義の時代の政治と音楽

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新自由主義の特徴と新自由主義の時代の政治と音楽について理解・考察する

【到達目標】

基本的目標は次の通りである：
 新自由主義を統治の様式として理解する
 サッチャー政権の政治とその後の UK 政治について理解する
 UK の政治と音楽について考察する
 マンチェスター発の音楽の意味について考察する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テーマに関する文献を読み、サウンドを聴き、映像を観た上で参加者との意見を交換する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
#1	イントロダクション	ゼミの概要の確認
#2	文献講読	文献の内容確認と議論
#3	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#4	映像視聴	映像の内容確認と議論
#5	文献講読	文献の内容確認と議論
#6	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#7	映像視聴	映像の内容確認と議論
#8	文献講読	文献の内容確認と議論
#9	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#10	映像の視聴	映像の内容確認と議論
#11	文献講読	文献の内容確認と議論
#12	音楽聴取	音楽の内容確認と議論
#13	映像視聴	映像の内容確認と議論
#14	総括	ゼミのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献は必ず事前に読むこと
 音楽聴取・映像視聴後、関連する文献を読んで理解を深めること

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する

【参考書】

必要に応じてゼミのときに紹介する

【成績評価の方法と基準】

ゼミの課題にたいする対応度

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

政治学 LA, 政治学 LB の履修（既履修）は必要ではありません。
 ロックの知識は必要ではありません。
 ただし、なじみのない学生は気分が悪くなる等のことがあるかもしれません。
 同年度の教養ゼミⅠの履修者は受講する権利があります。
 教養ゼミⅡの未履修者は、教室などの条件が許せば履修できます。関心がある学生は初回に教室に来てください。

【Outline and objectives】

Theme: Politics and Popular Music in the age of neo-liberalism
 The fundamental aim of this seminar is to acquire a basic knowledge of neo-liberalism
 and to consider the interaction between politics and music of Manchester.

ECN300LA

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

ECN300LA

グローバル経済論

2016年度以前入学者

サブタイトル：グローバル経済の課題と展望A

水野 和夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀末以降、日本をはじめ世界はこれまでにない事態に直面している。日本はデフレ、ゼロインフレの定着、ゼロ金利の長期化で、近代=成長という常識が通用しなくなっている。米国でもトランプ大統領が2018年9月に反グローバリズム宣言をし、米中貿易摩擦が激化し、「米中新冷戦」と言われる。いわば、これまでの「常態」が隠れ、「例外状況」が顕在化するようになった。「正常は何物をも証明せず、例外がいっさいを証明する」背景を理解することができる。

【到達目標】

春学期の具体的な到達目標は、次の二つのテーマを通じて、現代社会が抱える問題点を探る。

テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」

テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション、プレゼンを組み合わせることで、質疑応答を通じて自らの考えを深め、プレゼンテーション能力を高めていく。各個人（ないし各グループ）で1ないし2回程度のプレゼンを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業（演習）の概要と進め方の説明
第2回	基礎的概念の説明Ⅰ	經常収支と貯蓄・投資バランス、家計、企業、政府、海外の貯蓄投資バランスの関係
第3回	基礎概念の説明Ⅱ	資本収支と資金過不足、家計、企業、政府、海外の資金過不足の関係
第4回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」①	「利子とはなにか」（利子説の紹介）
第5回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」②	「利子生活者の安楽死」とは
第6回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」③	2030年、「わが孫たちの経済的可能性」（ケインズ、1930）、「例外」と「常態」
第7回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」④	13世紀、利子誕生の経緯
第8回	テーマⅠ「ゼロ金利の背景を考える」⑤	テーマⅠのまとめと質疑応答
第9回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」①	支配と被支配の正当性基準は何か、その変遷
第10回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」②	国際収支の発展段階説-中国は債権国か債務国か
第11回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」③	帝国とは何か—マイケル・ドイルの「帝国」論、カフカ「皇帝の論旨」
第12回	テーマⅡ「米中新冷戦の背景を考える」④	テーマⅡのまとめと質疑応答
第13回	プレゼンテーションⅠ	テーマⅠについて発表
第14回	プレゼンテーションⅡ	テーマⅡについて発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに掲載した資料をよく読むこと。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回、レジメを授業支援システムに掲載。

【参考書】

『新版 グローバリゼーション』（マンフレッド・B. スティーター、櫻井純理訳、岩波書店、2010年）

<https://www.iwanami.co.jp/book/b256795.html>

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 40 % + プレゼン内容 60 %

【学生の意見等からの気づき】

演習形式なので、毎回学生の意見を聞いて、次回の授業に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces a cause of zero interest rate and US-China New Cold War to students taking this course. Students can understand that exceptions prove anything.

ECN300LA

教養ゼミⅡ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：グローバル経済の課題と展望 B

水野 和夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバリゼーションは近代的現象か、ポスト近代を招来させるのか、いわゆるグローバリゼーション論争を学ぶことで、グローバリゼーションの本質、およびグローバル資本主義が抱える課題を理解することができる。

【到達目標】

秋学期の具体的な到達目標は、次の 2 つのテーマを学び、グローバリゼーションが何をもたらすかを理解できるようになることである。

テーマⅠ「インターナショナル化とグローバリゼーション」

テーマⅡ「資本主義の課題」

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義、ディスカッション、プレゼンを組み合わせることで、質疑応答を通じて自らの考えを深め、プレゼンテーション能力を高めていく。各個人（ないし各グループ）で 1 ないし 2 回程度のプレゼンを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期、この演習の目的と進め方を説明
第 2 回	テーマⅠ「インターナショナル化とグローバリゼーション」①	インターナショナル化とグローバリゼーションの定義と歴史ーどちらが先か
第 3 回	テーマⅠ「インターナショナル化とグローバリゼーション」②	国民国家 VS. 帝国ーマイケル・ドイルの『帝国論』
第 4 回	テーマⅠ「インターナショナル化とグローバリゼーション」③	グローバリゼーションのイデオロギー性
第 5 回	テーマⅠ「インターナショナル化とグローバリゼーション」④	グローバリゼーションの論争、グローバリゼーションは近代的現象か、ポスト近代か
第 6 回	テーマⅠ「インターナショナル化とグローバリゼーション」⑤	主権国家システムと資本主義を超えてー新中世主義
第 7 回	テーマⅡ「資本主義の課題」①	富の集中と貧困問題ーオックスファムレポート
第 8 回	テーマⅡ「資本主義の課題」②	「過剰・飽満・過多」
第 9 回	テーマⅡ「資本主義の課題」③	「蒐集」の歴史と「歴史の危機」（ブルクハルト）
第 10 回	テーマⅡ「資本主義の課題」④	資本主義と国民国家の関係
第 11 回	テーマⅡ「資本主義の課題」⑤	主権国家システムと資本主義を超えてー新中世主義
第 12 回	テーマⅡ「資本主義の課題」⑥	テーマⅡのまとめと質疑応答
第 13 回	プレゼンテーション①	テーマⅠの発表
第 14 回	プレゼンテーション②	テーマⅡの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに掲載した資料をよく読むこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。毎回、レジメを授業支援システムに掲載。

【参考書】

『変容する民主主義』（マッグルー、アントニー・G. 編、松下列監訳、日本経済評論社、2003 年）

<http://www.nikkeihyo.co.jp/books/view/1562>

『陸と海とー世界史の一考察』（カール・シュミット、生松敬三・前野光弘訳、慈学社出版、2006 年）

<http://www.jigaku.jp/mokuroku13.htm>

『国際社会論ーアナキカル・ソサイエティ』（ヘドリー・ブル、白杵英一訳、岩波書店、2000 年）

<https://www.iwanami.co.jp/book/b265180.html>
『帝国の研究』（山本有造、名古屋大学出版会、2003年）
<http://www.unp.or.jp/ISBN/ISBN4-8158-0473-7.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 40% + プレゼン内容 60%

【学生の意見等からの気づき】

演習形式なので、毎回学生の意見を聞いて、次の授業に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジュメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course introduces a nature of globalizaitin and internatinalization to students taking this course. Students can uenderstand the defference between internatinalization and golobalizaitin and a issues of capital-ism.

SOC300LA

福祉社会論 B

2017年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書および授業時に配布するレジュメや文献などを用いて、社会福祉の基本的な考え方を学ぶとともに福祉の領域とされている社会問題を取り上げつつ、主に講義形式で学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、リアクションペーパーを作成する。提出されたリアクションペーパーは、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会福祉の概念を理解し、福祉的な社会とは何かを構想するとともに、社会による福祉とはどういったものなのか、政府以外の福祉の供給源、具体的には家族や企業などに目配りをしながら考察し、最終的には社会福祉をメタ的な視点から捉える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

主として講義形式。毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	福祉とは何か
2	必要の考え方と必要に基づく社会政策	必要と需要、貢献原則と必要原則
3	必要の基準と主体	必要判定、客観的な必要と主観的な必要
4	資源の供給と再分配	資源供給モデル、普遍主義と選別主義
5	官僚制と専門主義	官僚制の機能と逆機能、専門家の理念系
6	社会政策とその体系	公共政策の3分類
7	福祉の社会的分業	税制、企業の役割、福祉多元主義
8	福祉国家と社会変動	都市化、家族の失敗、高齢化
9	福祉国家の発展と展開	市民権の発達、福祉国家レジーム
10	ジェンダー主流化と社会政策	ジェンダー視点とジェンダー平等
11	子ども・家庭と社会福祉	児童福祉、児童虐待
12	「障碍観」の転換と社会福祉	優生思想、自立生活運動
13	貧困と社会的排除	絶対的貧困と相対的貧困
14	社会的包摂に向けて	ノーマライゼーション、アクティベーション、福祉国家と福祉社会の連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに書かれている次回の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。

【テキスト（教科書）】

『福祉社会 包摂の社会政策（新版）』武川正吾 有斐閣アルマ（2011年）2,300円+税

【参考書】

『福祉社会学ハンドブック 現代を読み解く 98の論点』福祉社会学会編集 中央法規（2013年）、『社会福祉学』平岡絏一・杉野昭博・所道彦・鎮目真人 有斐閣（2011年）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 70%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

100分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたりリアリティのある授業内容にしていけることが重要だと感じた。

【Outline and objectives】

We will learn basic ideas of social welfare by using textbooks and resume distributed at the time of class, and pick up the social issue which is regarded as the area of welfare. Learning mainly takes place in lecture form. Also, for the purpose of aquisition the learning contents and applying it, prepare a reaction paper. The submitted reaction paper is fed back to the class as appropriate after paying attention to personal information.

HUG300LA

人文地理学セミナー A 2017 年度以降入学者

HUG300LA

人文地理学セミナー 2016 年度以前入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「江戸東京」の各地域について、地図・写真・記録などの史料資料を利用しながら学びます。テキスト『東京の歴史 地帯編』のなかから、主要区部の巻を中心に輪読し、各地域を説明するうえでの重要な史料資料についても取り扱っていきます。

【到達目標】

江戸東京を構成する基本的な地理的事象を理解し、江戸東京の地理を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、『東京の歴史 地帯編』の分担部分を発表してもらい、利用されている史料資料や記述内容について議論します。後半の回では、各地域に実際に赴いて、レポートして理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、テキストの分担の決定
第 2 回	江戸東京の地理の基礎	江戸時代から現代までの東京の変遷について講義します。
第 3 回	地帯編を読む	千代田区
第 4 回	地帯編を読む	新宿区
第 5 回	地帯編を読む	文京区
第 6 回	地帯編を読む	港区
第 7 回	地帯編を読む	中央区
第 8 回	地帯編を読む	台東区
第 9 回	地帯編を読む	墨田区
第 10 回	地帯編を読む	江東区
第 11 回	現地調査	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認する
第 12 回	現地調査	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認する
第 13 回	現地調査	テキストで読んだ地域を実際に訪れて確認する
第 14 回	まとめ	江戸東京の各地域についての学習内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介するテキストの分担部分を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめること、必要に応じて様々な史料資料を探すこと、現地調査の結果をレポートにまとめること、など。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史第 4 巻地帯編 1 千代田区・港区・新宿区・文京区』吉川弘文館、2018 年
『東京の歴史第 5 巻地帯編 2 中央区・台東区・墨田区・江東区』吉川弘文館、2019 年
B T 12 階の地理学科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、出席 50 %、発表やレポート 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため、ありません。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This course examines geographies of Edo-Tokyo areas by historical maps, pictures, documents.

HUG300LA

人文地理学セミナー B 2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

江戸東京の各地域の歴史地理について、明治 30 年～40 年代に出版された日本初のグラフィック雑誌『風俗画報』別冊のなかから『新撰東京名所図会』の各区部の記述をもとに学びます。

【到達目標】

江戸東京の歴史地理について、明治期の資料をもとに深く理解し、現在に生きる歴史景観、失われてしまった景観とはなにか、過去から現在の地理を考えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式です。履修者が多い場合はグループワークとします。資料を丹念に読みながら地図上で確認し、江戸東京を構成する地域の歴史地理（主に法政大学周辺から旧東京 15 区の中心部）を理解するため、議論しながらすすめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、グループ分け、担当の分担
第 2 回	名所図会とは？	江戸名所図会から東京名所図会へ概要を講義
第 3 回	新撰東京名所図会を読む	麹町区・神田区
第 4 回	新撰東京名所図会を読む	牛込区・四谷区
第 5 回	新撰東京名所図会を読む	赤坂区・芝区
第 6 回	新撰東京名所図会を読む	小石川区・本郷区
第 7 回	新撰東京名所図会を読む	京橋区・日本橋区
第 8 回	新撰東京名所図会を読む	浅草区・下谷区
第 9 回	新撰東京名所図会を読む	上野公園・後楽園など
第 10 回	新撰東京名所図会を読む	隅田川・吉原など
第 11 回	現地調査	名所図会で読んだ地域に実際に行き確認する
第 12 回	現地調査	名所図会で読んだ地域に実際に行き確認する
第 13 回	現地調査	名所図会で読んだ地域に実際に行き確認する
第 14 回	まとめ	授業内容の復習・まとめ・今後の課題など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の担当箇所を熟読し、レジュメとパワーポイントにまとめてください。現地調査後のレポートも作成してください。

【テキスト（教科書）】

『風俗画報別冊 新撰東京名所図会』
12 階の地理学科事務室に備えておきますので、必要な部分を適宜、コピーしてください。なお、デジタル版は法政大学図書館のデータベースからダウンロードもしくは印刷できます。

【参考書】

授業のなかで、他の名所図会などの史料資料を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、出席 50 %、発表やレポート 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため、ありません。

【その他の重要事項】

ゼミ形式のため、履修希望者多数の場合、授業初回に選抜を実施いたします。初回には必ず出席してください。

【Outline and objectives】

This course examines historical geographies of Edo-Tokyo areas.

CUA300LA

文化人類学方法論 A

2017 年度以降入学者

CUA300LA

文化人類学方法論

2016 年度以前入学者

中島 成久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アジアのアグリビジネス研究」というテーマで授業を行う。アブラヤシ、コーヒーと茶、チョコレートを中心としたアグリビジネスについて詳細に検討する。

【到達目標】

- ①アグリビジネスの世界支配の実態を理解する
- ②マレーシア、インドネシアのアブラヤシ開発の実態を理解する
- ③アグリビジネスにおける労働者の位置を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式と受講者の発表形式で進める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容説明、登録者確定
第 2 回	アブラヤシ関連アグリビジネス①	映画「森の慟哭」
第 3 回	アブラヤシ関連アグリビジネス②	インドネシアのアグリビジネス
第 4 回	アブラヤシ関連アグリビジネス③	マレーシアのアグリビジネス
第 5 回	チョコレートの歴史①	映画「バレンタイン〜掬」
第 6 回	チョコレートの歴史②	『チョコレートの世界史』①
第 7 回	チョコレートの歴史③	『チョコレートの世界史』②
第 8 回	チョコレートの歴史④	『チョコレートの世界史』③
第 9 回	チョコレートの歴史⑤	『チョコレートの世界史』④
第 10 回	アグリビジネスの世界支配①	『現代の食とアグリビジネス』講読①
第 11 回	アグリビジネスの世界支配②	『現代の食とアグリビジネス』講読②
第 12 回	アグリビジネスの世界支配③	『現代の食とアグリビジネス』講読③
第 13 回	アグリビジネスの世界支配④	『現代の食とアグリビジネス』講読④
第 14 回	アグリビジネスの世界支配⑤	『現代の食とアグリビジネス』講読⑤

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 テキストの予習、復習
- 2 図書館等で関連する文献を調べる
- 3 プレゼンに慣れること

【テキスト（教科書）】

頼 俊輔『インドネシアのアグリビジネス改革』日本経済評論社
 岩佐和幸『マレーシアにおける農業開発とアグリビジネス』法律文化社
 武田尚子『チョコレートの世界史』中公新書、2010年
 大塚 茂・松原豊彦『現代の食とアグリビジネス』有斐閣選書、2004年

【参考書】

随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) + 学期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を引き出すような工夫を凝らす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The topic of this class is Agribusiness in Asia. Case studies of oil palm plantation, coffee and chocolate are examined in detail.

CUA300LA

文化人類学方法論 B

2017 年度以降入学者

中島 成久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アジアにおける国家と民族」というテーマで授業を行う。アジアの先住民社会をめぐる民族誌研究というテーマで関連文献を読み、理解を深める。

【到達目標】

- 1 アジア、特に東南アジアにおける国家建設と開発主義について理解する
- 2 開発主義により熱帯林が破壊されている状況を理解する
- 3 開発主義が先住民社会に及ぼしている影響を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と受講者による発表で授業を進める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明、受講者の確定
第 2 回	開発の人類学①	『東南アジア・南アジア開発の人類学』講読①
第 3 回	開発の人類学②	『東南アジア・南アジア開発の人類学』講読②
第 4 回	開発の人類学③	『東南アジア・南アジア開発の人類学』講読③
第 5 回	開発の人類学④	『東南アジア・南アジア開発の人類学』講読④
第 6 回	森の先住民①	『熱帯アジアの森の民』講読①
第 7 回	森の先住民②	『熱帯アジアの森の民』講読②
第 8 回	森の先住民③	『熱帯アジアの森の民』講読③
第 9 回	森の先住民④	『熱帯アジアの森の民』講読④
第 10 回	伝統と開発①	『森と人のアジア』講読①
第 11 回	伝統と開発②	『森と人のアジア』講読②
第 12 回	伝統と開発③	『森と人のアジア』講読③
第 13 回	伝統と開発④	『森と人のアジア』講読④
第 14 回	伝統と開発⑤	『森と人のアジア』講読⑤

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 テキストの予習、復習
- 2 図書館等で関連文献を探す
- 3 プレゼンに慣れる

【テキスト（教科書）】

信田敏宏・真崎克彦『東南アジア・南アジア 開発の人類学』明石書店
 池谷和信『熱帯アジアの森の民』人文書院
 山田 勇『森と人のアジア』昭和堂

【参考書】

随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) + 学期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を引き出しやすい環境を整えること

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The topic of this class is Nation and Ethnic Groups in Asia. Especially indigenous peoples in Asia are discussed in the context of nation building and development.

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

POL300LA

政治思想

2016 年度以前入学者

サブタイトル：ポスト冷戦期の日本と世界 A

大井 赤亥

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5
2～4 年 ※定員制

脇田成『日本経済論 15 講』新世社、2019 年

【成績評価の方法と基準】

発表内容 (60%)、レポート (40%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide a basic framework to understand the Japanese politics and economy since 1989, and to discuss the past and future of the contemporary Japanese politics. In doing so, this course focuses (1) "tilt toward right" in politics and (2) trend of "reform" in economic agenda as two important perspectives to analyze Japan after the end of the Cold War.

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

冷戦が終焉して 30 年が経ち、「ポスト冷戦期」が歴史や学問の対象になり始めている。1989 年は東西対立の終結、55 年体制やバブル経済の崩壊など、多くの出来事が重なった時期であり、その後 30 年間の日本の政治経済の変化の起点となった。このゼミでは、ポスト冷戦期の日本を、さしあたり、(1) 政治における「右傾化」、(2) 経済における「改革 (化)」という二つの視点から振り返り、その時代の特徴と性格を把握したい。

【到達目標】

- ① 55 年体制下の日本政治とポスト冷戦期の日本政治との違いを理解できるようになる。
- ② ポスト冷戦期 = 平成年間の日本の政治と経済の特徴的出来事を説明できるようになる。
- ③ これからの日本の政治と経済のあるべき方向性について自分なりの考えを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に演習形式で行い、毎回授業の前半は学生による報告、後半は参加者全員による討論にあてる。授業参加者には少なくとも 1 回の発表をしてもらう。また、3 回程度は教員による講義を行ない、ポスト冷戦期の出来事の基本的知識や大まかな認識枠組を提供する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の狙いと進め方、発表者の割り当て
2	ポスト冷戦期の日本の政治	【講義】 日本政治の対立軸の変化
3	ポスト冷戦期の日本社会の変化	【発表】 政治の変化をもたらした社会と産業の変化
4	『右傾化する日本政治』	【発表】 55 年体制の「保革対立」と支持基盤
5	『右傾化する日本政治』	【発表】 冷戦の終焉と 1990 年代の政界再編
6	『右傾化する日本政治』	【発表】 安倍政権下の「改憲」と「改革」
7	ポスト冷戦期の日本の経済	【講義】 経済成長の鈍化と政治の反応
8	『平成はなぜ失敗したのか』	【発表】 バブル崩壊と製造業の変容
9	『平成はなぜ失敗したのか』	【発表】 1990 年代の経済危機
10	『平成はなぜ失敗したのか』	【発表】 リーマンショックと日本経済
11	『平成はなぜ失敗したのか』	【発表】 民主党政権からアベノミクスへ
12	追加教材	発表と議論
13	追加教材	発表と議論
14	追加教材	発表と議論

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

現在、政治や経済に関する情報源は、インターネットと活字 (新聞、雑誌、書籍など) に二分化されている。インターネットと活字の双方に強みと弱みがあるため、さしあたり、ネット上のニュースと新聞との双方に日常的に触れ、バランスよく情報を摂取するようにしてほしい。

【テキスト (教科書)】

中野晃一『右傾化する日本政治』岩波新書、2015 年
野口悠紀雄『平成はなぜ失敗したのか』幻冬舎、2019 年

【参考書】

小熊英二編『平成史 (増補新版)』河出書房新社、2014 年
中北浩爾『自民党—「一強」の実像』中公新書、2017 年

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：ポスト冷戦期の日本と世界 B

大井 赤亥

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

冷戦が終焉して 30 年が経ち、「ポスト冷戦期」が歴史や学問の対象になり始めている。1990 年代以降の世界はいわゆる「新自由主義グローバリズム」の拡大と浸透に重なってきたが、2016 年の英国の Brexit やアメリカのトランプ大統領の登場によってその趨勢は曲がり角を迎えている。このゼミでは、ポスト冷戦期の世界秩序を、(1)「新自由主義グローバリズム」の席卷、(2) 2000 年代の欧米における右派排外主義や保護主義の高揚、(3) 2010 年代後半に現れた左派ポピュリズムという三つの流れから捉え返し、その時代の特徴と性格を把握したい。

【到達目標】

- ①「新自由主義グローバリズム」の特徴について理解できるようになる。
- ②右派排外主義や左派ポピュリズムについてその主張内容を説明できるようになる。
- ③これからの世界秩序のあるべき方向性について自分なりの考えを持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に演習形式で行い、毎回授業の前半は学生による報告、後半は参加者全員による討論にあてる。授業参加者には少なくとも 1 回の発表をしてもらう。また、3 回程度は教員による講義を行ない、ポスト冷戦期の出来事の基本的知識や大まかな認識枠組を提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の狙いと進め方、発表者の割り当て
2	ポスト冷戦期の世界秩序	【講義】「新自由主義」の席卷と斜陽化
3	『新自由主義』	【発表】1980 年代における自由の再定義
4	『新自由主義』	【発表】英米における「保守革命」
5	『新自由主義』	【発表】「新自由主義コンセンサス」の形成
6	極右排外主義の興隆	【発表】右からの反グローバリズム
7	『ポピュリズムとは何か』	【発表】抑圧の論理としてのポピュリズム
8	『ポピュリズムとは何か』	【発表】極右排外主義勢力の台頭
9	『ポピュリズムとは何か』	【発表】英国の Brexit とアメリカでのトランプ登場
10	新しい左派の動き？	【講義】反緊縮や社会保障を掲げる社会運動
11	『左派ポピュリズムのために』	【発表】左派ポピュリズムと民主シーの活性化
12	『左派ポピュリズムのために』	【発表】英米におけるコービンやサンダースの登場
13	『左派ポピュリズムのために』	【発表】ありうべきオルタナティブ？
14	追加教材	発表と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現在、政治や経済に関する情報源は、インターネットと活字（新聞、雑誌、書籍など）に二分化されている。インターネットと活字の双方に強みと弱みがあるため、さしあたり、ネット上のニュースと新聞との双方に日常的に触れ、バランスよく情報を摂取するようにしてほしい。

【テキスト（教科書）】

D・ハーヴェイ『新自由主義』作品社、2007 年
水島治郎『ポピュリズムとは何か』中公新書、2016 年
C・ムフ『左派ポピュリズムのために』明石書店、2019 年
場合によってはプリントを配布する。

【参考書】

三宅芳夫・菊池恵介編『近代世界システムと新自由主義グローバリズム』作品社、2014 年

【成績評価の方法と基準】

発表内容（60%）、レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to provide a basic framework to understand the international politics after the end of the Cold War. In doing so, this course focuses (1) the rise and alleged fall of "neo-liberal globalization", (2) the emergence of chauvinism and protectionism in Europe and (3) the eruption of so called "Left Populism" in the 2010s.

PSY300LA

人間行動学 A 2017 年度以降入学者

PSY300LA

人間行動学 2016 年度以前入学者

海部 紀行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基盤科目の「心理学 I/II」などでアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を学び、リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」などで、より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし、総合科目の「人間行動学」では、「行動」として表現される「心」を考えます。

【到達目標】

心理学の領域は広くも深くも展開可能です。心の操作（マインドコントロール）や洗脳まがいのことに使われる反面、ストレスへの対処や強いメンタル、ポジティブな生き方のためにも活用できます。「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じることは何か。AI（人工知能）やロボット、サイボーグ、アンドロイド、あるいはクローン等々と比べることで、ヒトの「命」や「心」の意味が分かるのか。ヒトは何故（why）・どのように（how）生きているのか。生きているということは、「命」や「心」というのと同じなのか異なるのか。さて、「心」とは何か、「心」はどこにあるのか。改めて考えることが目標です。

その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度、との立場で、相互に対話・議論を積み上げて検討し、参加者各々が感じ思い考え、それぞれが、そのときどきの答えを見出し出しているようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加者自らが設定したテーマについて（単独でも共同でも）調査や研究を進め、順次、報告・発表し、ディスカッションします。

これまでの担当科目では、しばしばマンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画、SNS や動画サイトその他ソーシャルメディア、メディア情報リテラシーのあり方など、さまざまな側面・角度から「心」を考えてきました。今日の社会・文化が「心」に及ぼす影響が、「行動」となって顕著に表現されているからです。

どうかすると、私（or 貴方）は幾らか狂っていたり、少なくとも狂いたかったりするのかもしれませんが。この世間・社会の文化だの常識だのが不思議で疑わしすぎるとしたら、私（or 貴方）の「心」は、何かへんなのでしょうか。良くも悪くもサロンのイメージで、それぞれが、それぞれに、言い放ち、切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。

きわめて自由ですが、それだけ難しくなります。[難度=自由度：☆☆☆☆★]

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者各々の興味・関心を持ち寄り、討論の素材（教材）について全体で協議
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション

13	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
14	まとめ	学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分担した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前の回には、参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。報告・発表担当でない場合、これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。報告・発表担当であるかないかを問わず、報告・発表時のディスカッションを踏まえ、さらに吟味します。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：報告・発表とともに、（担当であるかないかを問わず）報告・発表時のディスカッションなどを総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

参加者相互に議論するのは難しかったものの、その都度の発言やリアクションペーパー記述の紹介によって、各々が多種多様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など、相談しながら一緒に進めていきます。

【その他の重要事項】

- 人間行動学 A（春学期）と人間行動学 B（秋学期）は連動するので、一体としての履修を望みます。
- 必須ではありませんが、海部が担当した「心理学 I/II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。
- 上記科目で小論文などに取り組んだ方は、そのとき執筆したものを報告・発表の素材にできます。
- 多くても 30 名前後、少なれば 1 名の参加で実施します。
- 履修希望者が多い場合は、春学期初回の参加者から選抜します（2018 年度は 70 名超のなかで 35 名ほどを選抜）。
- 「臨床心理士」として関わってきたことの反映が多いかもしれません。
- オフィスアワー（Q&A タイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各 6 限に設ける予定です。
- 同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。
- 2018 年度の報告・発表テーマは、次のとおりでした。

- SNS と自己顕示欲：健全な自己顕示欲とは？ また、その付き合い方
- 「炎上」はなぜ起こるのか
- フェティシズムと犯罪者予備軍
- うつ病への理解
- なぜ人は周りからよく見られようとするのか
- 優生思想について
- 返報性について
- 安楽死からみる自己決定権について
- 自己欺瞞
- 「心の監禁」からの脱出
- バーナム効果とは
- 「君の NO は。」：世界の歪みは誰のせい？ 認知バイアスと認知の歪み
- 犠牲と正義：報復は正義になり得るのか
- 承認欲求
- パーソナルスペース
- 「ネタばれ」は悪くない？
- 「装う」ということ：アイデンティティと自己実現
- 認知的不協和：自分自身から逃げない勇気
- 自己成就予言効果
- ツァイガルニック効果
- ロボットに心はあるか

【Outline and objectives】

This subject is premised on the foundation course "Psychology I/II" and the advanced applied course "Psychology LA/LB". In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

PSY300LA

人間行動学 B

2017 年度以降入学者

海部 紀行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基盤科目の「心理学 I/II」などでアカデミックな心理学の基礎（ベーシック）を学び、リベラルアーツ科目の「心理学 LA/LB」などで、より発展・応用的な心理学を学ぶことを前提とし、総合科目の「人間行動学」では、「行動」として表現される「心」を考えます。

【到達目標】

心理学の領域は広くも深くも展開可能です。心の操作（マインドコントロール）や洗脳まがいのことに使われる反面、ストレスへの対処や強いメンタル、ポジティブな生き方のためにも活用できます。

「心の性」や「心の病」とは何か。家族や友人その他さまざまな人たちとの交わり・もつれから生じるのは何か。AI（人工知能）やロボット、サイボーグ、アンドロイド、あるいはクローン等々と比べることで、ヒトの「命」や「心」の意味が分かるのか。ヒトは何故（why）・どのように（how）生きているのか。生きているということは、「命」や「心」というのと同じなのか異なるのか。さて、「心」とは何か、「心」はどこにあるのか。改めて考えることが目標です。

その都度の相対的な真理の追究こそが科学的な態度、との立場で、相互に討論・議論を積み上げて検討し、参加者各々が感じ思い考え、それぞれが、そのときどきの答えを見出しついでになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加者自らが設定したテーマについて（単独でも共同でも）調査や研究を進め、順次、報告・発表し、ディスカッションします。

これまでの担当科目では、しばしばマンガやアニメ、ゲーム、ラノベを含む文芸、アート、音楽、映画、SNS や動画サイトその他ソーシャルメディア、メディア情報リテラシーのあり方など、さまざまな側面・角度から「心」を考えてきました。今日の社会・文化が「心」に及ぼす影響が、「行動」となって顕著に表現されているからです。

どうかすると、私（or 貴方）は幾らか狂っていたり、少なくとも狂いたかったりするのかもしれない。この世間・社会の文化だの常識だのが不可思議で疑わしすぎるとしたら、私（or 貴方）の「心」は、何かへんなのでしょうか。良くも悪くもサロンのイメージで、それぞれが、それぞれに、言い放ち、切り返し…と連鎖を愉しめる協働を試みます。

きわめて自由ですが、それだけ難しくなります。[難度=自由度：☆☆☆☆★]

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	参加者各々の興味・関心を持ち寄り、討論の素材（教材）について全体で協議
2	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
3	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
4	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
5	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
6	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
7	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
8	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
9	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
10	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
11	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
12	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
13	報告・発表と討論	単独または共同での調査・研究を踏まえた報告・発表、ディスカッション
14	まとめ	学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

分担した報告・発表に向けて準備します。報告・発表の前の回には、参加者全員分の素材や資料が行き渡るようにします。

報告・発表担当でない場合、これらの素材や資料に前もって目を通しておきます。

報告・発表担当であるかないかを問わず、報告・発表時のディスカッションを踏まえ、さらに吟味します。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料がテキストとなります。

【参考書】

とくに指定しません。報告・発表担当が用意する素材や資料が参考書となります。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：報告・発表とともに、（担当であるかないかを問わず）報告・発表時のディスカッションなどを総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

参加者相互に議論するのは難しかったものの、その都度の発言やリアクションペーパー記述の紹介によって、各々が多種多様に理解を深めていく過程が明瞭でした。報告・発表やディスカッションのあり方など、相談しながら一緒に進めていきます。

【その他の重要事項】

(1) 人間行動学 A（春学期）と人間行動学 B（秋学期）は連動するので、一体としての履修を望みます。

(2) 必須ではありませんが、海部が担当した「心理学 I/II」や「心理学 LA/LB」を履修した方の参加を見込みます。

(3) 上記科目で小論文などに取り組んだ方は、そのとき執筆したものを報告・発表の素材にできます。

(4) 多くても 30 名前後、少なれば 1 名の参加で実施します。

(5) 履修希望者が多い場合は、春学期初回の参加者から選抜します（2018 年度は 70 名超のなかで 35 名ほどを選抜）。

(6) 「臨床心理士」として関わってきたことの反映が多いかもしれません。

(7) オフィスアワー（Q&A タイム？ なんでもお喋りタイム？）は原則として水曜・木曜の各 6 限に設ける予定です。

同予約その他のリクエストは、口頭またはリアクションペーパーで伝えてください。もしくは、kikoh.kaihu.65@hosei.ac.jp へ。

(8) 2018 年度の報告・発表テーマは、次のとおりでした。

#01 SNS と自己顕示欲：健全な自己顕示欲とは？ また、その付き合い方

#02 「炎上」はなぜ起こるのか

#03 フェティシズムと犯罪者予備軍

#04 うつ病への理解

#05 なぜ人は周りからよく見られようとするのか

#06 優生思想について

#07 返報性について

#08 安楽死からみる自己決定権について

#09 自己欺瞞

#10 「心の監禁」からの脱出

#11 パーナム効果とは

#12 「君の NO は。」：世界の歪みは誰のせい？ 認知バイアスと認知の歪み

#13 犠牲と正義：報復は正義になり得るのか

#14 承認欲求

#15 パーソナルスペース

#16 「ネタばれ」は悪くない？

#17 「装う」ということ：アイデンティティと自己実現

#18 認知的不協和：自分自身から逃げない勇気

#19 自己成就予言効果

#20 ツァイガルニック効果

#21 ロボットに心はあるか

【Outline and objectives】

This subject is premised on the foundation course "Psychology I/II" and the advanced applied course "Psychology LA/LB".

In the general course "Human behavior", we make a study of action as the mind is expressed.

PSY300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

PSY300LA

人間発達学

2016 年度以前入学者

サブタイトル：心理的ウェルビーイングを考える A

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、臨床心理学（カウンセリング）に関する文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考えていく。

【到達目標】

臨床心理学（カウンセリング）の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけてもらいたいと考えている。また、本授業がめざす目標をさらに深化させるために、教養ゼミ II「心理的ウェルビーイングを考える B」を連続履修することを期待する。

最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式（学生発表と討論）で行う。指定された箇所について担当学生が発表を行い、それについてクラス全体で討論する。

受講希望者が多い場合は、第 1 回目の授業で実施する簡単な試験により選抜を行う（定員 30 名）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明し、受講者が多い場合に選抜の参考とする簡単な試験を実施する。
第 2 回	試験の解説および今後の予定について	第 1 回の授業で実施した試験の解説をする。また、学生発表の順番を決定する。
第 3 回	『カウンセリングを考える・上』第 1 章「現代社会とカウンセリング」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 4 回	『カウンセリングを考える・上』第 2 章「カウンセリングにおける家族の問題」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 5 回	『カウンセリングを考える・上』第 3 章「不登校カウンセリング」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 6 回	『カウンセリングを考える・上』第 4 章「いじめとカウンセリング」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 7 回	『カウンセリングを考える・上』第 5 章「事例研究の大切さ」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 8 回	『カウンセリングを考える・上』第 6 章「カウンセラーの資格と責任」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 9 回	『カウンセリングを考える・下』第 1 章「新しい家族関係」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 10 回	『カウンセリングを考える・下』第 2 章「ユング心理学から見た禅体験」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。

第 11 回	『カウンセリングを考える・下』第 3 章「カウンセリングにおける男性と女性」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 12 回	『カウンセリングを考える・下』第 4 章「カウンセラーのための児童文学」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 13 回	『カウンセリングを考える・下』第 5 章「『生きる』ということ」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第 14 回	授業の総括	学期を通してのまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備しておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。また、授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら、日常生活を送ること。

【テキスト（教科書）】

河合準雄著『カウンセリングを考える・上・下』（創元社、1996 年）。また、発表担当者の作成するレジュメを使用する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分で評価する。
授業への取り組み（50%）+ 期末レポート（50%）
レポートの字数はクラスで発表した学生は 2,000 字以上、発表しなかった学生は 3,500 字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に討論に参加できるような、できるだけ身近で、具体的なテーマで授業を展開していく。

【Outline and objectives】

Psychological well-being is a concept which is defined as lives going well. It is the combination of feeling good and functioning effectively as a member of society. In this seminar, students will read books and articles about counselling and discuss issues about children's refusal to go to schools, domestic abuse and violence, bullying (called "Ijime"), etc., which have been witnessed in recent Japanese society. Through such readings and discussions, students will learn what psychological well-being means and how we can attain it.

PSY300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：心理的ウェルビーイングを考える B

浅川 希洋志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理的ウェルビーイングとは、人が心理・社会的に最適な状態で機能していること、言い換えれば、精神的に健康で、社会の一員として、やるべきことをし、健全に生きていることを意味する。本授業では、文化心理学、ポジティブ心理学の文献の輪読を通して、こころの健康、こころの健全な発達、心理的ウェルビーイングについて、考えていく。

【到達目標】

文化心理学、ポジティブ心理学の文献を輪読し討論を行うなかで、人間の心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけてもらいたいと考えている。特に、文化心理学の観点からは心の働きと文化の関係について学んでいく。また、ポジティブ心理学の分野で注目されるフロー理論、ポジティブ感情の拡張—形成理論を紹介しながら、人間の最適な発達、精神的健康、充実した人生といったことにも焦点を当てていきたい。

本授業がめざす目標を深化させるために、教養ゼミⅠ「心理的ウェルビーイングを考える A」からの連続履修を期待する。

最終的には、この授業が日常のさまざまな経験に対する受講者自身の考察を深め、自分自身をよりよく理解するための「場」になればと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はゼミ形式（学生発表と討論）で行う。指定された箇所について担当学生が発表を行い、それについてクラス全体で討論する。

受講希望者が多い場合は、第1回目の授業で実施する簡単な試験により選抜を行う（定員30名）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明し、受講者が多い場合に選抜の参考とする簡単な試験を実施する。
第2回	試験の解説および今後の予定について	第1回の授業で実施した試験の解説をする。また、学生発表の順番を決定する。
第3回	『日本人のしつけと教育』第1章「意欲の構造」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第4回	『日本人のしつけと教育』第2章「役割社会と受容的勤勉性」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第5回	『日本人のしつけと教育』第3章「内在モデルとしてのいい子」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第6回	『日本人のしつけと教育』第4章「『気持ち』への関心」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第7回	『日本人のしつけと教育』第5章「滲み込み型のしつけと教育」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第8回	『日本人のしつけと教育』第6章「道徳意識と道徳判断」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第9回	『日本文化のゆくえ』第1章「『私』さがし」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第10回	『日本文化のゆくえ』第7章「異文化体験の軌跡」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第11回	『ひきこもり文化論』第4章「『甘え文化』と『ひきこもり』—比較文化的考察」を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第12回	ポジティブ感情の機能に関する文献を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。
第13回	フロー理論に関する文献を読む	学生による報告にもとづき、クラス討論を行う。

第14回 授業の総括

学期を通してのまとめを行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告者は担当箇所のレジュメを作り、議論をリードできるよう準備しておく。その他の受講生も授業日の文献を熟読し、討論に参加できるよう準備しておく。また、授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら、日常生活を送ること。

【テキスト（教科書）】

①東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994年）、②河合隼雄著『日本文化のゆくえ』（岩波現代文庫、2013年）、③斎藤環著『ひきこもり文化論』（ちくま学芸文庫、2016年）。また、ポジティブ心理学に関する文献は授業支援システムにアップする。

授業では、発表担当者の作成するレジュメを使用する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

下記の配分で評価する。

授業への取り組み（50%）＋ 期末レポート（50%）

レポートの字数はクラスで発表した学生は2,000字以上、発表しなかった学生は3,500字以上とする。出席は当然の義務であり、受講者は指定された文献を必ず読んで授業に出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に討論に参加できるような、できるだけ身近で、具体的なテーマで授業を展開していく。

【Outline and objectives】

This is a continuation of the seminar from the spring semester. Psychological well-being is a concept which is defined as lives going well. It is the combination of feeling good and functioning effectively as a member of society. In this autumn seminar, students will read books and articles about cultural and positive psychologies and discuss how we can attain psychological well-being from different psychological perspectives from those we discuss in the spring term. Through these learning experiences, this course hopes students to obtain abilities to capture human beings from different perspectives and angles.

ARSe300LA

沖縄を考える A

2017 年度以降入学者

ARSe300LA

総合講座～沖縄を考える～

2016 年度以前入学者

中俣 均

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

歴史的・文化的に異邦と言ってもよい沖縄を、日本（ヤマト）国民はどのように考えればよいのか。まず、かつての異邦としての沖縄の、歴史と実態を知ることが先決である。そして、沖縄との関わりを知ることで見えてくる日本の姿を考えなければならない。だから、沖縄を知ることは、実はそれだけにとどまらず、日本を知ることにつながるのである。本総合講座においては、かつての琉球王国の最大版図である奄美諸島から与那国島・波照間島までを「沖縄」地域に含めて、考察する。

【到達目標】

毎回、授業内容に対する感想文（ミニ・レポート）を書き、理解を形にして残り、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化の在り方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。時には舞踊、音楽の実演も行う。一般の社会人も参加する講義である。現時点では講師と授業回がすべては確定していないが、決定したところから研究所 HP<http://www.hosei.ac.jp/fujimi/okiken/frame.html> で公開するので、そちらを参照してほしい。

今年度は、「沖縄の日本復帰の意味」という問題意識を共有する講義を複数準備する。「沖縄独立論」などについても関心をもって学習してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：中俣均）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についての地理的知識など。
2	沖縄を知るための基礎知識のまとめ（担当：大里知子）	沖縄の歴史と現代についての概説
3	未定	未定
4	未定	未定
5	未定	未定
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定
11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定
14	未定	未定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 毎回ミニ・レポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講師と講義テーマについて調べておくことが望ましい。
2. 図書館、沖縄文化研究所開架閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（90％）と、毎回のミニ・レポート（10％）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマで、みずから文献を読み理解を深めて、自分のアタマで考え自分の手で書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

大教室での大人数の講義であるためか、例年一部学生の、緊張感のない受講態度が目につくので、これは改めてほしい。例年、信頼性に欠ける web 上の諸情報などを切り貼りして形式的にレポートを書き提出しさえすれば、単位取得がかなうなどと甘く考えてもらっては困る。そうした希望は各学期末に打ち砕かれることになろう。

【Outline and objectives】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

ARSe300LA

沖縄を考える B

2017 年度以降入学者

中俣 均

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史的・文化的に異邦と言ってもよい沖縄を、日本（ヤマト）国民はどのように考えればよいのか。まず、かつての異邦としての沖縄の、歴史と実態を知ることが先決である。そして、沖縄との関わりを知ることで見えてくる日本の姿を考えなければならぬ。だから、沖縄を知ること、実はそれだけにとどまらず、日本を知ることにつながるのである。本総合講座においては、かつての琉球王国の最大版図である奄美諸島から与那国島・波照間島までを「沖縄」地域に含めて、考察する。

【到達目標】

毎回、授業内容に対する感想文（ミニ・レポート）を書き、理解を形にして残り、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化の在り方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。時には舞踊、音楽の実演も行う。一般の社会人も参加する講義である。現時点では講師と授業回がすべては確定していないが、決定したところから研究所 [HPhttp://www.hosei.ac.jp/fujimi/okiken/frame.html](http://www.hosei.ac.jp/fujimi/okiken/frame.html) で公開するので、そちらを参照してほしい。今年度は、「沖縄の日本復帰の意味」という問題意識を共有する講義を複数準備する。「沖縄独立論」などについても関心をもって学習してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：中俣均）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についての地理的知識など。
2	沖縄を知るための基礎知識のまとめ（担当：大里知子）	沖縄の歴史と現代についての概説
3	未定	未定
4	未定	未定
5	未定	未定
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定
11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定
14	未定	未定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 毎回ミニ・レポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講師と講義テーマについて調べておくことが望ましい。
2. 図書館、沖縄文化研究所開架閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（90%）と、毎回のミニ・レポート（10%）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマで、みずから文献を読み理解を深めて、自分のアタマで考え自分の手で書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

大教室での大人数の講義であるためか、例年一部学生の、緊張感のない受講態度が目につくので、これは改めてほしい。例年、信頼性に欠ける web 上の諸情報などを切り貼りして形式的にレポートを書き提出しさえすれば、単位取得がかなうなどと甘く考えてもっては困る。そうした希望は各学期末に打ち砕かれることになろう

【Outline and objectives】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

ARSk300LA

グローバル社会の地域研究 A 2017 年度以降入学者

ARSk300LA

グローバル社会の地域研究 2016 年度以前入学者

片岡 義晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「グローバル化」とはそもそも「何」を意味する現象なのでしょうか。わかっているようで、内容不明な用語です。一見「明らか」であるように見えながら、実は「明確」でない「グローバル化」、それに伴う地域変化について、地域に即してその内実を多面的に考えていきたいと思えます。

【到達目標】

「グローバル化」に伴う地域変容をとらえようとするによって、現代の地域社会、現代世界のトータルな理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

テキストを決め、それを読み、要約する作業から始めて行きます。

【授業の方法】

参加者を 4~5 名程度に班編制します。毎回、順番に担当班に報告してもらいます。その際はプリントを用意して全員に配布します。それを踏まえて全員で議論して行きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方 テキスト案
第 2 回	グローバル化、グローバル社会の理解	「グローバル化」、「グローバル社会」の基礎的概念の整理
第 3 回	輪読と討論	ディスカッション
第 4 回	輪読と討論	ディスカッション
第 5 回	輪読と討論	ディスカッション
第 6 回	輪読と討論	ディスカッション
第 7 回	輪読と討論	ディスカッション
第 8 回	輪読と討論	ディスカッション
第 9 回	輪読と討論	ディスカッション
第 10 回	輪読と討論	ディスカッション
第 11 回	輪読と討論	ディスカッション
第 12 回	輪読と討論	ディスカッション
第 13 回	輪読と討論	ディスカッション
第 14 回	輪読と討論	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まずは、決めたテキストを読むこと、それをまとめることです。授業に来て、座っているだけではこの授業は成立しません。自ら手足を動かし、議論し、発表することが必要です。

【テキスト（教科書）】

授業の最初にテキスト案を示します。

【参考書】

鶴見良行（1982）『バナナと日本人』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表、議論、まとめ等、総合的に判断します。平常点は評価基準の重要な部分です。

【学生の意見等からの気づき】

「批判が多すぎる」とか「具体案がない」とか、他の授業では言われているようです。とはいえ、それを素直に受け入れようなどとは思っていません。「具体案」を示し、それを実行できるくらいなら、この社会はもっと変革されているはず。安易な「解決策」など示さず、試行錯誤しつつ考えていこうと思えます。

【Outline and objectives】

The dark side of Globalization and regional problems.

ARSk300LA

グローバル社会の地域研究 B 2017 年度以降入学者

片岡 義晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「グローバル化」とはそもそも「何」を意味する現象なのでしょうか。わかっているようで、内容不明な用語です。一見「明らか」であるように見えながら、実は「明確」でない「グローバル化」、それに伴う地域変化について、地域に即してその内実を多面的に考えていきたいと思えます。

【到達目標】

「グローバル化」に伴う地域変容をとらえようとするによって、現代の地域社会、現代世界のトータルな理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

テキストを決め、それを読み、要約する作業から始めて行きます。

【授業の方法】

参加者を 4~5 名程度に班編制します。毎回、順番に担当班に報告してもらいます。その際はプリントを用意して全員に配布します。それを踏まえて全員で議論して行きます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方 テキスト案
第 2 回	輪読と討論	ディスカッション
第 3 回	輪読と討論	ディスカッション
第 4 回	輪読と討論	ディスカッション
第 5 回	輪読と討論	ディスカッション
第 6 回	輪読と討論	ディスカッション
第 7 回	輪読と討論	ディスカッション
第 8 回	輪読と討論	ディスカッション
第 9 回	輪読と討論	ディスカッション
第 10 回	輪読と討論	ディスカッション
第 11 回	輪読と討論	ディスカッション
第 12 回	輪読と討論	ディスカッション
第 13 回	輪読と討論	ディスカッション
第 14 回	輪読と討論	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まずは、決めたテキストを読むこと、それをまとめることです。授業に来て、座っているだけではこの授業は成立しません。自ら手足を動かし、議論し、発表することが必要です。

【テキスト（教科書）】

最初の授業時にテキスト案を示します。

【参考書】

塩川伸明（2008）『民族とネーション－ナショナリズムという難問』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表、議論、まとめ等、総合的に判断します。平常点は評価基準の重要な部分です。

【学生の意見等からの気づき】

「批判が多すぎる」とか「具体案がない」とか、他の授業では言われているようです。とはいえ、それを素直に受け入れようなどとは思っていません。「具体案」を示し、それを実行できるくらいなら、この社会はもっと変革されているはずです。安易な「解決策」など示さず、試行錯誤しつつ考えていこうと思えます。

【Outline and objectives】

The dark side of Globalization and regional problems.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌B 2017年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
- ・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
- ・地球温暖化の予測を考察する。
- ・人為によって変化した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講者全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。

授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは作図を実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、リアクションペーパーの質問には、必ず回答するとともに、記載された事項により授業内容を変更することがある。

第1回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないと受講は認めないので、受講希望者は必ず第1回目の授業に出席し、試験を受けること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに 地球温暖化の概要	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。また、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。
2	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
3	地球温暖化のしくみと気温・温室効果ガスの実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。
4	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。
5	地球温暖化の実態（降水・積雪・氷河・海水）	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海水の減少について説明する。
6	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇について説明する。
7	生態系への影響	地球温暖化により動物、植物がどのような影響を受けているかを説明する。
8	緩和策の現状1（国際的な取り組み）	IPCC、COPなどによる国際的な取り組みを説明する。
9	緩和策の現状2（日本の取り組み）	国際情勢にかんがみ、日本の取り組みを説明する。
10	懐疑論への対応	地球温暖化懐疑論に対する説明と対応策を検討する。
11	地球温暖化の予測1（気温、CO2）	気温、CO2の予測と課題を説明する。
12	地球温暖化の予測2（生態系へのリスク）	生態系の変化とリスク、人間への影響を説明する。
13	適応策の現状	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。
14	地球温暖化への対応（地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論）とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、全員が発表して意見交換を行う。更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。なお、自然環境変化への対応における発表では、報告者は発表内容のレジュメを作成し、事前に提出すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・地球温暖化時代の異常気象。吉野正敏著。成山堂書店
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－。吉野正敏著。古今書院
- ・異常気象と地球温暖化。鬼頭昭雄著。岩波新書
- ・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－。日本気象学会 地球環境問題委員会編。朝倉書店
- ・新百万人の天気教室。白木正規著。成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：30%
- ・小テスト・作図：20%
- ・レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、昨年度は学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせて履修を推奨する。なお講義では、気象庁での実務経験をもととして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

MAT300LA

数理論理学 A

2017 年度以降入学者

MAT300LA

論理って何だ？

2016 年度以前入学者

安東 祐希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】****論理とは何か ～～ まずは最小限の論理**

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること（理論が複数あるという事実とは別のこと）を知るための第一歩として、どの論理にも共通する最小論理について学ぶ。それは後に論理を広げて次のような例を考えるときの準備となる。

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた（あるいは、いる）ことが、**論理的に証明**できる。（クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。）

クシャミ大王の存在証明が可能な論理をつくるためには、この授業で扱う最小論理に何らかのものを付け加える必要がある。最小論理を直観主義論（人の論理）、さらには古典論理（神の論理）まで広げるのである。その付加するものの役割を理解するため、まずは論理の共通部分とは何かについて学んでゆく。

【到達目標】

最小論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	クシャミ大王	授業概要の説明
第 2 回	「かつ」を壊す	連言の除去
第 3 回	「かつ」を作る	連言の導入
第 4 回	「または」を壊す	選言の除去
第 5 回	「または」を作る	選言の導入
第 6 回	「ならば」を壊す	含意の除去
第 7 回	「ならば」を作る	含意の導入
第 8 回	「でない」を壊す	否定の除去
第 9 回	「でない」を作る	否定の導入
第 10 回	「すべて」を壊す	全称量化の除去
第 11 回	「すべて」を作る	全称量化の導入
第 12 回	「ある」を壊す	存在量化の除去
第 13 回	「ある」を作る	存在量化の導入
第 14 回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門 [新装版]』(日本評論社) 2005 年 (初版 1967)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験 (60%) において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート (40%) において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

- (1) 秋期科目「数理論理学 B」の予備知識となる内容を含む。
- (2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理 2 (数理論理学 A)」。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in minimal logic.

MAT300LA

数理論理学 B

2017 年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理とは何か ～～～ 人の論理、さらには神の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること（理論が複数あるという事実とは別のこと）を知り、その中でも古典論理（神の論理）と直観主義論理（人の論理）について学ぶ。次のような例を考えたと、二つの論理に違いが現れてくる。

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた（あるいは、いる）ことが、論理的に証明できる。（クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。）

ここでいう論理的な証明は、「神の論理」における証明である。われわれは実は何の疑問もなく「神の論理」を用いることがある。一方、「神の論理」の無制限な使用を自省することにより得られた「人の論理」においては、クシャミ大王の存在を一般には示すことができない。春期授業の最小論理に何を加えたとこれらの論理ができるのかについて学んでゆく。

【到達目標】

直観主義論理および古典論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	今できること	最小論理
第 2 回	万能業	量子子の順序
第 3 回	矛盾がどうした	否定と含意
第 4 回	矛盾が生み出す	矛盾の推論
第 5 回	人の論理	直観主義論理
第 6 回	どちらかだ	排中律
第 7 回	神の論理	古典論理
第 8 回	クシャミ大王再考	古典論理の応用
第 9 回	別の顔	背理法
第 10 回	得意分野	古典論理の表現
第 11 回	真か偽か	古典論理の意味論
第 12 回	まだわからない	可能世界
第 13 回	人の論理とは	直観主義の意味論
第 14 回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門 [新装版]』（日本評論社）2005 年（初版 1967）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

(1) 春期科目「数理論理学 A」で扱う内容を既知として授業を進める。

(2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理 2（数理論理学 B）」。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in intuitionistic and classical logic.

MAT300LA

計算と言語のしくみ

2017 年度以降入学者

MAT300LA

コンピュータの裏側

2016 年度以前入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景を踏まえて、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組に焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようなようになっているか?」「そうした機械的な仕組の上で、形式言語で書かれた命令が問題なく動作するのは何故か?」など解説する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの装置とその上で言語が処理される仕組の本質を大雑把に理解すること」を目標としている。(例えば、電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時、皆さんは直ちに説明できるでしょうか?) 処理系の違いに依存しない普遍的な動作原理を理解することは、実際にコンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらすこととなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、より簡単な方向に修正する可能性がある。また「具体的な問題を通して内容を確認する時間」を十分とりたいと考えているので、授業は講義形式と実験・実習形式の割合が半々となる予定である。(特に、終盤では、アセンブリ言語と呼ばれるプログラミング言語を使用して、各種装置の状態を意識しながら簡単な計算を組み立てる体験をする。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	PC 上でプログラミングが動作する様子を観察する。
第 02 回	計算機の歴史	汎用コンピュータの開発の歴史を解説する。
第 03 回	計算機と形式言語 (1)	正規言語を処理する機械的な仕組について解説する。
第 04 回	計算機と形式言語 (2)	文書編集で正規言語の選択構文が活用される事例を学ぶ。
第 05 回	計算機と形式言語 (3)	文書編集で正規言語の繰り返し構文が活用される事例を学ぶ。
第 06 回	計算機と形式言語 (4)	チューリング機械の仕組と形式言語との関係を解説する。
第 07 回	計算機と自然言語	機械学習を利用した自然言語の解析手法を観察する。
第 08 回	現代計算機の構造 (1)	コンピュータの演算装置等の構造を説明する。
第 09 回	現代計算機の構造 (2)	2 進数、10 進数、16 進数による正整数の表現方法を説明する。
第 10 回	現代計算機の構造 (3)	2 の補数表現による負整数の表現方法を説明する。
第 11 回	アセンブリ言語 (1)	アセンブリ言語の実習環境について基本的な操作を説明する。
第 12 回	アセンブリ言語 (2)	コンピュータのメモリの構造を実験で確認する。
第 13 回	アセンブリ言語 (3)	ジャンプ命令を利用したプログラムの動作を実験で確認する。
第 14 回	試験	これまでの内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

解説した内容は練習問題を通して確認するため、終わらなかった部分については授業時間外の学習で完成させる必要がある。また実習については、作業が円滑に進むように事前の予習が望まれる。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)、練習問題 (30%)、計算機実習 (30%)、試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

的を得た質問・要望を多く頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

プログラミングなどの実習では情報実習室の PC を利用し、資料等の配布には授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「PC の使用経験」は特に必要ない。(工学的に高度で細かな内容までは踏み込まずに、文系の学生にとって負担なく理解できる概要の理解を目指す。実験についても、PC の電源を入れるところから確認しながら進める。)

【Outline and objectives】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation for computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers such as embedded systems into various electric devices, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers originated from Charles Babbage's analytical engine. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

MAT300LA

コンピュータと数理の活用 2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学で習得する様々な計算の原理自体は万能なものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかるので小さな演習問題で済まされることが多い。（例えば、平均値を計算する方法自体は分かっているが、1000人分のデータの平均値を手で計算する機会はない。）その一方で、身の回りにある問題はむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたい現状がある。

こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める技術は重要であり、講義では、様々な分野の中で「数学の原理」と「コンピュータの計算力」を同時に活用する経験を積むことを主な目的としている。

【到達目標】

講義では「プログラムの全てを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「出来るだけ多くの事例に基づいて、コンピュータと数理の活用の勘を養うこと」を目標としている。そのため、各々の課題で扱う数学やアルゴリズムの内容は独立していて、利用するシステムも様々なものがある。（このことは、1つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないという利点もある。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子などに応じて柔軟に対応し、状況によっては、扱う事例数を少なくする可能性がある。また「具体的な問題を通して内容を確認する時間」「個別に質問・相談を受ける時間」を十分とりたいと考えているので、授業は実験・実習の割合が6～7割程になる予定である。（特に、Java言語で記述されたプログラムによるデータ処理の機会が多くなると思われる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第01回	導入と準備	理論的背景と共にプログラムの実行方法を確認する。
第02回	計算機による数学(1)	整数の理論を利用して、素数の分布を計算してみる。
第03回	計算機による数学(2)	級数などを利用して、円周率を計算してみる。
第04回	計算機による数学(3)	コンピュータを利用した統計的解析の応用事例を学ぶ。
第05回	シミュレーション(1)	基礎となる数学として、行列の掛算を学ぶ。
第06回	シミュレーション(2)	ランダムウォークに基づくシミュレーションを行う。
第07回	シミュレーション(3)	ディープラーニングへの応用事例を学ぶ。
第08回	線形計画法(1)	線形計画法の例と図形的な解法を学ぶ。
第09回	線形計画法(2)	シンプレックス法と呼ばれる解法とそのプログラムを紹介する。
第10回	線形計画法(3)	プログラムを利用して経営計画の最適化を行う。
第11回	暗号の数理(1)	基礎となる数学として、ユークリッド互除法などの計算を学ぶ。
第12回	暗号の数理(2)	公開鍵暗号の特徴とその計算原理を学ぶ。
第13回	暗号の数理(3)	実際にプログラムを通して暗号通信の実験を行う。
第14回	試験	講義内容の基本部分を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

解説した内容は練習問題を通して確認するため、終わらなかった部分については授業時間外の学習で完成させる必要がある。また実習については、作業が円滑に進むように事前の予習が望まれる。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

平常点(10%)、実験(60%)、試験(30%)

【学生の意見等からの気づき】

的を得た質問・要望を多く頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

実習では情報実習室のPCを利用する。資料等の配布には授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「PCの使用経験」は特に必要ない。（工学的に高度で細かな内容までは踏み込まずに、文系の学生にとって負担なく理解できる概要の理解を目指す。実験についても、PCの電源を入れるところから確認しながら進める。）

【Outline and objectives】

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, this course explains a method to use computer programs according to some typical examples. More precisely, the effectiveness of programs in Java or Python is confirmed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes and machine learning, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.

MAT300LA

確率の世界 A

2017 年度以降入学者

MAT300LA

確率・統計

2016 年度以前入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例でイメージを作りながら定理の内容を理解するという方法で授業を進めていく。また演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	確率の基礎 1	確率とは
第 3 回	確率の基礎 2	確率の性質
第 4 回	確率の基礎 3	確率空間とは
第 5 回	確率の基礎 4	事象の独立性
第 6 回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第 7 回	確率の基礎 6	期待値とは
第 8 回	確率の基礎 7	期待値の性質
第 9 回	確率の基礎 8	分散とは
第 10 回	確率分布 1	分散の性質
第 11 回	確率分布 2	二項分布とは
第 12 回	確率分布 3	二項分布の性質
第 13 回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and methods in probability.

MAT300LA

確率の世界 B

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思い込んでいる人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学ぶ。現在、高校では統計をまったくやらないか、その「さわり」を教えるくらいである。この授業ではもう少し本格的な統計を扱いたい。興味のもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例でイメージを作りながら定理の内容を理解するという方法で授業を進めていく。また演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	様々な分布 1	離散分布とは
第 3 回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第 4 回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第 5 回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第 6 回	様々な分布 5	正規分布とは
第 7 回	様々な分布 6	正規分布の性質
第 8 回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第 9 回	推定と検定 1	標本の定義
第 10 回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第 11 回	推定と検定 3	点推定
第 12 回	推定と検定 4	区間推定
第 13 回	推定と検定 5	仮説と棄却
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「確率の世界 A」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course deals with basic concepts and methods in statistics.

PHY300LA

現代の錬金術 A

2017 年度以降入学者

PHY300LA

現代の錬金術

2016 年度以前入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質の成り立ちについて科学的な理解を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。難しい数式はできるだけ避け、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。講義では主にスライドを使用するが、ビデオなどを用いて視覚的に理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第2回	古代の物質観	四元素説を中心とした古代の物質観・自然観や、中世の錬金術の試みについて
第3回	原子は存在するのか？ (1)	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第4回	原子は存在するのか？ (2)	気体の法則と分子運動論について
第5回	原子は存在するのか？ (3)	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第6回	原子は構造を持つのか？ (1)	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第7回	原子は構造を持つのか？ (2)	第6回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する
第8回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第9回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子核の理解について
第10回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第11回	原子構造 (1)	主にボーアの原子模型について
第12回	原子構造 (2)	主に電子配置について
第13回	原子核と放射線	原子核の性質や放射線について
第14回	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、各回の学習内容の復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験の成績（計 80 %）と平常点（20 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain attempts of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・ Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・ Discuss the evidences that indicates the existence of atoms in scientific laws
- ・ Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・ Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

PHY300LA

現代の錬金術 B

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金（元素）を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。

本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素と、元素の歴史や宇宙の歴史などの最先端の現代物理学のテーマとがどのように関連するのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質の成り立ちについて科学的な理解を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。難しい数式はできるだけ避け、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に講義を行う。講義では主にスライドを使用するが、ビデオなどを用いて視覚的に理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	20世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第2回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第3回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第4回	原子核の崩壊	原子核の崩壊について
第5回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第6回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第7回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する
第8回	標準模型	第7回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第9回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験について解説する
第10回	宇宙における元素合成（1）	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。
第11回	宇宙における元素合成（2）	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第12回	宇宙における元素合成（3）	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第13回	現代の錬金術	人工的に元素を生成する方法について
第14回	期末試験	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、各回の学習内容の復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験の成績（計 80 %）と平常点（20 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course deals with the basis of the fundamental modern physics. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter. By the end of the course, participants should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in modern physics
- ・ Explain the nucleosynthesis in the universe
- ・ Discuss the method to produce gold from the other elements based on the knowledge of the modern physics

PHY300LA

原子核と素粒子 A

2017 年度以降入学者

PHY300LA

原子核と素粒子—ミクロの世界— 2016 年度以前入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4 年 ※定員制**【学生の意見等からの気づき】**

高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline and objectives】

This course teaches the elementary particle physics, such as the abundance ratio of elements in the universe and the structure of atom and so on. It is the aim of this course to help students understand the element and atom.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には（最近命名された原子番号 113 番ニホニウムなどを含めて）どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、「原子核と素粒子 B」での原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、配付プリントを使用した講義形式で行う。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義の全体的な紹介する。
第 2 回	元素の周期律表	周期律表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第 3 回	元素の存在比（地球）	地球上の生物は、どのような元素からできているのか。
第 4 回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体は、どのような元素からできているのか（最新研究も含めて）
第 5 回	結晶構造	物体は 3 次元的に規則正しい立体構造をもっている。それはなぜなのか。
第 6 回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について、解説する。
第 7 回	原子のスペクトル	原子からはどのような光（電磁波）が放出されるのか、解説する。
第 8 回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、紹介する。
第 9 回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について、紹介する。
第 10 回	原子の構造（前期量子論）	ボーアによる原子構造研究について、紹介する。
第 11 回	原子の構造（電子配置）	第 5 回の内容に関して、物体が立体構造をもつメカニズムについて、解説する。
第 12 回	ミクロの世界の不思議	ミクロの世界における不思議な現象について解説する。
第 13 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 14 回	まとめ	まとめを行う。更に「原子核と素粒子 B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験 80%と授業への積極的な貢献度 20%で評価する。

PHY300LA

原子核と素粒子B

2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前4世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）”というものが考えられていた。その探求は1911年に原子核が発見されてから約100年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はといったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、配付プリントを使用した講義形式で行う。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序章	講義全体の説明と共に、20世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第2回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第3回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて、解説する。
第4回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について解説する。
第5回	核分裂反応の応用	原子炉等について紹介する。
第6回	核融合反応の応用	熱核融合炉等について紹介する。
第7回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について、解説する。
第8回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて、解説する。
第9回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデ等で行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第10回	素粒子（クォークとレプトン）	現在までに判明している素粒子の種類や分類について、紹介する。
第11回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について、紹介する。
第12回	宇宙の進化	ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について、解説する。
第13回	宇宙の大規模構造と宇宙論	最新の研究について紹介する。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験 80%と授業への積極的な貢献度 20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline and objectives】

This course teaches the elementary particle physics, such as the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the evolution of star, the elementary particle and the universe and so on. It is the aim of this course to help students understand not only elementary particle and the universe but also the nucleosynthesis in the universe.

BIO300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

BIO300LA

自然史

2016 年度以前入学者

サブタイトル：～沖縄本島北部ヤンバル地域の自然と文化～

島野 智之開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ、とびきりの自然に触れ、実際に様々な調査、実習を通して、自然と私達の関係を見つめ直す。生物としての人間の生活も考える。地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か。生命とは何か。自然と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついている。現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える。

【到達目標】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に討議、授業およびゼミ形式で行う。夏休みに沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域の現地に訪れ、3泊4日での現地調査、あるいは実習、ディスカッション等をおこなう。再び、事後には討議、授業およびゼミ形式で論文形式にまとめる。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を「論文」にまとめ、論文集を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域で行うフィールドワークについて： パソコンの使い方： 調査の進め方
第 2 回	南西諸島の自然	南西諸島の自然について
第 3 回	南西諸島の歴史	南西諸島の歴史について
第 4 回	生物地理学とは	生物地理学概論
第 5 回	博物学・学名	博物学について、生物の名前の付け方。
第 6 回	グループワーク (1)	沖縄県の抱える問題 (1)
第 7 回	グループワーク (2)	沖縄県の抱える問題 (2)
第 8 回	グループワーク (3)	沖縄県の抱える問題 (2)
第 9 回	グループ調査 (1)	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第 10 回	グループ調査 (2)	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第 11 回	グループ調査 (3)	討議、調査、事前調査に基づく、発表準備
第 12 回	発表 (1)	事前調査の発表 (1)
第 13 回	発表 (2)	事前調査の発表 (2)
第 14 回	まとめ	各自の発表に基づいたまとめ、フィールドワークのガイダンス。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにして下さい。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う実験についてのレポートおよび授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）を主たる評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます。適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】

- 1) 現地調査のための、交通費宿泊代が必要です（約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料 金額は前後することがあります）。ガイダンスに必ず出席して下さい。
- 2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。
- 3) 2017 年度以降入学者：[半期科目「教養ゼミ I」、「教養ゼミ II」として履修する学生]半期のみ履修登録が可能となる方。教養ゼミ I「自然史」と教養ゼミ II「自然史」を両方とも履修すること。 ※どちらか一方だけの授業は履修できません。
- 4) 2016 年度以前入学者：年間科目「自然史」または哲学専攻科目「人間学 4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9 月または 2 月のフィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行う
- 5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。
- 6) 9 月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年 2 月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】

We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：～沖縄本島北部ヤンバル地域の自然と文化～

島野 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域を訪れ、とびきりの自然に触れ、実際に様々な調査、実習を通して、自然と私達の関係を見つめ直す。生物としての人間の生活も考える。地球における自然と、それを知るための考え方や方法とは何か。生命とは何か。自然と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついている。現在、地球上に見られる生物の多様性と、その相互の関係はどのようなものなのか、人間は他の生物とどのように異なる存在であるのかといった問題を考える。

【到達目標】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、フィールドワーク（1）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域で行うフィールドワークについて；
第2回	ガイダンス、フィールドワーク（2）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域概説
第3回	ガイダンス、フィールドワーク（3）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域概説
第4回	ガイダンス、フィールドワーク（4）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー。森林の生物多様性
第5回	ガイダンス、フィールドワーク（5）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー。湿地の生物多様性
第6回	ガイダンス、フィールドワーク（6）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	森林ツアー。夜の森林の生物多様性
第7回	ガイダンス、フィールドワーク（7）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	奥集落での共同体とは
第8回	ガイダンス、フィールドワーク（8）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	奥集落での共同体とは

第9回	ガイダンス、フィールドワーク（9）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	イノリの生物多様性
第10回	ガイダンス、フィールドワーク（10）（沖縄県沖縄島（沖縄本島北部）ヤンバル地域）【現地フィールドワーク】	ヤンバルの森林保護
第11回	討議（1）【現地フィールドワーク】	世界遺産指定について。
第12回	討議（2）【現地フィールドワーク】	エコツーリズムについて
第13回	発表【現地フィールドワーク】	各自で調べたテーマについて発表と討議をおこなう。
第14回	まとめとガイダンス【現地フィールドワーク】	発表のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます（その方法などお知らせします）。また、レポートを課すので、授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能です。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、必要な資料はプリントして配布します。

【参考書】

必要に応じて、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う実験についてのレポートおよび授業への積極的な貢献度（出席状況を含む）を主たる評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

言われたことだけを行うのではなく、積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント資料の作成をおこなってもらいます。適宜パソコンを使用できるようにしておいて下さい。

【その他の重要事項】

- 1) 現地調査のための、交通費宿泊代が必要です（約 70,000 円ガイド料宿泊料交通量など+保険料 金額は前後することがあります。）。ガイダンスに必ず出席して下さい。
- 2) 受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合には、選抜を行いますので、最初の授業には必ず出席して下さい。
- 3) [半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」として履修する学生] 半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。※どちらか一方だけの授業は履修できません。
- 4) 年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月または2月のフィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行う
- 5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。
- 6) 9月の初・中旬に沖縄でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、翌年2月に再スケジュールとする。

【Outline and objectives】

We consider the relationship between the biodiversity and culture of human being in Okinawa region, Southern Japan.

BIO300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

BIO300LA

バイオイメーシングの世界

2016 年度以前入学者

サブタイトル：バイオイメーシング

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法文営国環キ 2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、一言で言うと、「アマチュア科学者養成講座」です。授業では、生き物のしくみを実際に生き物を使って実験・観察しながら研究し、それを発表するまでの生物学的研究法を1から学びます。そのために使う生き物は、粘菌・ソバ・プラナリア・テントウムシ・ダンゴムシ・アリ等です。基礎知識は必要ありませんが、これらの生き物の名前を聞いただけで萎縮するようなタイプの方はご遠慮下さい。作業は全て班単位で行いますので、グループとしての問題解決法を学んで頂けます。

【到達目標】

1. 基本操作技術の修得（デジカメを用いた、マクロ撮影法、インターバル撮影法、高速撮影法、スタジオ作製法、画像解析法など）
2. 規定課題（ソバの発芽、粘菌の成長、アリの歩行、ダンゴムシの歩行パターン、テントウムシの飛翔、プラナリアの再生 など）を通じた問題解決手順の修得
3. ノートの取り方の修得（授業中に行った事をどれだけ判りやすくノートに要約できるかを学びます）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

全ての班が同じ規定課題を行います。規定課題は、ソバの発芽、粘菌の成長、アリの歩行、ダンゴムシの歩行パターン、テントウムシの飛翔などを、材料調達のタイミングを見ながら約2週間単位で実施します。各課題のまとめでは、班ごとの結果発表と全体ディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	バイオイメーシングの基礎	授業の概略を説明します。
②	ソバの発芽の観察①	インターバル撮影の基礎を学びます。
③	ソバの発芽の観察②	撮影データの回収法と、画像ハンドリングを学びます。
④	粘菌の成長①	粘菌の成長と移動の関係を、様々な条件で観察します。
⑤	粘菌の成長②	観察結果の解析をします。
⑥	アリの歩行①	ハイスピードカメラを使って、動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。
⑦	アリの歩行②	昆虫の6本足歩行について、画像解析をします。
⑧	ダンゴムシの歩行パターン①	ダンゴムシのレーストラックを作成します。
⑨	ダンゴムシの歩行パターン②	作成したレーストラックを使って、実際のダンゴムシの歩行パターンを解析します。
⑩	テントウムシの飛翔①	高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
⑪	テントウムシの飛翔②	アリの6本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。
⑫	プラナリアの再生①	プラナリアを様々な条件で切断して、再生を試みます。
⑬	プラナリアの再生②	プラナリアの再生結果の解析を行います。
⑭	班活動の総括・発表	班活動について、総括反省します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間には、実験・観察を中心に行います。調べ物、プレゼン準備などは全て自宅で行う事になります。ゼミですから、必ず予め授業の準備を行ってから参加してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。成績は、授業内の活動と、最後に授業ノートを提出して頂いて採点します。評価の基準は、授業内の活動の評価が 50 %、ノートの充実度が 50 % になります。単なる板書の写しを提出されても成績に加算されませんので、授業の説明に従った作業記録ノートを作成して下さい。なお、ルーズリーフのノートは認めません。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評を得ているようです。パソコンについての不満が何件ありました。現在使っている Macintosh は画像解析には必須なので、慣れるようにして下さい。プレゼン等は、個人・大学貸し出しのパソコンを使って頂いてかまいません。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。パソコンの機種に対する要望が有りますが、当面は画像解析ソフトを使う目的でマッキントッシュを利用します。プレゼンなどは、ご自分の或いは、大学貸与のパソコンを利用して頂いて構いません。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフのノートは認めません。

【Outline and objectives】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomena. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

BIO300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：バイオイメージング

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

法文営国環キ 2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、一言で言うと、「アマチュア科学者養成講座」です。授業では、教養ゼミⅠ「バイオイメージング」で学んだ知識を元に、生き物のしくみを実験・観察しながら研究し、それを発表するまでの生物学的研究法を学びます。教養ゼミⅠ「バイオイメージング」を履修していないと授業に参加できませんので、注意して下さい。

本授業では、班ごとに独自のテーマを設定して、その問題を解決するための計画立案、実験観察、データ解析、結果発表までの全ての研究過程を体験し学んで頂きます。

【これまでの実績】

メダカの体色変化の観察、ダンゴムシの交替性転向反応、様々な液体による植物の発芽、夜行性のダンゴムシ、光・温度がプラナリアに及ぼす影響及び刺激に対する反応、プラナリアの成長 <奇形プラナリアの作成>、プラナリアの行動解析、アリとダンゴムシの歩行から見る規則性について、植物の根はどのように伸びるのか、ダンゴムシの壁認識実験、光の色による光屈性の有無等

【到達目標】

生き物の不思議を、体験的に学ぶと同時に、以下の能力を取得することを目標とします。

1. 実験の計画立案とその企画書の作成能力
2. 計画実施能力
3. 完遂力
4. プレゼン・発表力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

班ごとに独自のテーマで、計画立案・実験実施・データ解析・結果発表までを行います。

全体討論では、①計画立案の妥当性、②中間発表、③最終発表 についてそれぞれプレゼンとディスカッションを行います。

最後に、研究結果を示すポスターを作成して廊下に展示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	テーマ設定	班ごとにテーマを何にするか話し合い、複数の候補を挙げて発表します。
②	テーマの実施可能性の検討	テーマを更に具体的に絞り込んで、何を、どの様に、どこまで明らかにするかを検討します。
③	実験準備	実験に必要な機材や生物試料、その他材料を調達します。
④	実験日①	班ごとに、実験観察を行います。
⑤	実験日②	班ごとに、実験観察を行います。
⑥	実験日③	班ごとに、実験観察を行います。
⑦	データ整理・中間発表準備	ここまでのデータをまとめ、中間発表のプレゼンを作成します。
⑧	中間発表	各班による中間発表と討論を行います。
⑨	実験日④	班ごとに、実験観察を行います。
⑩	実験日⑤	班ごとに、実験観察を行います。
⑪	データ整理・画像処理	主として画像関係のデータの解析を行います。
⑫	ポスター作成	研究結果をポスターとして発表します。
⑬	プレゼン準備	最終プレゼンの準備をします。
⑭	班活動の総括・発表	最終プレゼンを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間には、実験・観察を中心に行います。調べ物、プレゼン準備などは全て自宅で行う事になります。ゼミですから、必ず授業の準備を行ってから参加してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

出席は当然ですが、遅刻は他の班員に迷惑をかけるので、厳しく対応します。成績は、授業内の活動（50%）と、最後に提出するレポート（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

概ね好評を得ているようです。パソコンについての不満が何件かありましたが、現在使っている Macintosh は画像解析には必須なので、慣れるようにして下さい。プレゼン等は、個人・大学貸し出しのパソコンを使って頂いてかまいません。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。パソコンの機種に対する要望が有りますが、当面は画像解析ソフトを使う目的でマッキントッシュを利用します。プレゼンなどは、ご自分の或いは、大学貸与のパソコンを利用して頂いて構いません。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline and objectives】

In this class, students will work on their own subject, which they have found in the previous class. The lecture starts from the basic outline of scientific research work, then detail instructions of each research step from the planing to the final presentation. In those process, students will learn how to accomplish the scientific project from the beginning.

CHM300LA

イオンの科学 A 2017 年度以降入学者

CHM300LA

イオンの科学 2016 年度以前入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義と実験を行います。授業ごとに簡単な実験を行い、ミニレポートを課します。高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 3 回	砂糖と塩	イオンと有機化合物の違いについて
第 4 回	塩の溶解	水に溶けやすい塩と溶けにくい塩について
第 5 回	電子の配置	イオンになりやすい原子について
第 6 回	炎色反応	各種原子固有の光について
第 7 回	ホウ砂球反応	各種イオンを含む水溶液の色について
第 8 回	3d 遷移金属	電子の軌道について
第 9 回	水と酸塩基	水中のイオンの構造について
第 10 回	イオンの化学反応	イオンと化学物質の結びつきについて
第 11 回	金属イオンの分離 1	イオンの沈殿反応について
第 12 回	金属イオンの分離 2	沈殿生成によるイオンの分離
第 13 回	金属イオンの定性分析	未知試料に含まれる金属イオンの検出
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポート（配分 70%）と学期末試験（配分 30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。2017、2018 年度は抽選を実施しました。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM300LA

イオンの科学 B 2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義と実験を行います。授業ごとに簡単な実験を行い、ミニレポートを課します。高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数について
第 3 回	中和反応と pH の変化	中和反応における pH 変化の測定
第 4 回	弱酸と解離定数	物質としての酸、塩基の強弱を表す指標について
第 5 回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて
第 6 回	ボルタの電池と標準電位	電池における電解質の役割について
第 7 回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験
第 8 回	亜鉛めっきと合金	金属銅への亜鉛めっきとその合金の作成
第 9 回	無電解めっき	めっきの歴史と電気を使わないめっきについて
第 10 回	自己触媒型無電解めっき	めっきされた金属が触媒となって進行するめっき反応について
第 11 回	フォトレジスト	光化学反応による構造変化によって溶解度が変わる仕組みについて
第 12 回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止するための方法について
第 13 回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポート（配分 70%）と学期末試験（配分 30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行います。席に限りがあることや、安全への配慮のため受講者数を 20 名程度に制限しています。受講希望者が 20 名以上の場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行います。ただし、「イオンの科学 A,B」通年履修者を優先しているため、抽選を行わず、履修を受け付けられない場合があります。2018 年度秋学期の「イオンの科学 B」は新規履修者を受け付けませんでした。

【Outline and objectives】

This course introduces the fundamental principles of ions. The aim of the course is to improve students' science literacy.

CHM300LA

光と色の科学 A

2017 年度以降入学者

CHM300LA

光と色の科学

2016 年度以前入学者

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理解は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。
ろうそくの炎、電球、蛍光灯が光る仕組みと違いを学ぶ。
自然界にある色、あるいは人工的に作り出された色と光の関係を科学的に理解する。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期は主に視覚の仕組みと光に関する現象を取り上げ、基本的には講義主体で解説を行います。ただし、いくつか小道具を使って実際に目で確かめたり、簡単な実験も行います。講義の最後に、毎回、簡単な小テストを行い、理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	1 年間（A・B）の講義内容の説明を行います。
第 2 回	光と色の混色	光を混ぜ合わせた時と色素を混ぜ合わせた時の違いについて学びます。
第 3 回	視覚と色覚	目の構造と色覚についてその仕組みを学びます。
第 4 回	色覚異常、昆虫の色覚	色覚異常の仕組みについて解説します。
第 5 回	光の種類とその利用	光は電磁波の一種です。大きな範囲の電磁波について学びます。
第 6 回	電波の利用	身の回りにおける電波の利用について解説します。
第 7 回	光源の種類と発光の仕組み (熱輻射、星の光)	固体を加熱するとその温度に応じた光が放出される様子を観察するとともにその原理を学びます。
第 8 回	光源の種類と発光の仕組み (放電と蛍光)	ネオンサインや蛍光灯の発行原理を学びます。
第 9 回	光源の種類と発光の仕組み (LED と LASER)	LED や LASER の発光原理とこれらを利用した事例を紹介します。
第 10 回	オーロラ	オーロラの発光原理を学びます。
第 11 回	生物発光と化学発光	ホタルやケミカルライトの発光原理とその応用を学びます。
第 12 回	屈折と散乱	屈折や散乱の仕組みを学び、虹や空の色を理解する。
第 13 回	干渉と偏光	干渉や偏光の仕組みを学び関連する身の回りの現象や応用例を理解する。
第 14 回	まとめ	春学期の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.
安藤幸司著「光と光の記録 光編」, 産業開発機構, 2004.
江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回、講義の最後に小テストを実施し、その結果（30 %）と期末試験の結果（70 %）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返し説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員（30名）を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。AとB、両方の受講が望ましいので、秋学期のBについても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “A” deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception.

CHM300LA

光と色の科学B

2017年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。ろうそくの炎、電球、蛍光灯が光る仕組みと違いを学ぶ。自然界にある色、あるいは人工的に作り出された色と光の関係を科学的に理解する。分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期のこの科目では色に関する内容を基本的に講義主体で解説を行います。ただし、いくつか小道具を使って実際に目で確かめたり、簡単な実験も行います。講義の最後に、毎回、簡単な小テストを行い、理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	光と色の関係	光の3原色と色素の3原色の関係を人間の視覚と関係して解説します。
第2回	古代の色素	高松塚古墳の壁画や、古代に使用された染色材料など、古代の人々が利用した色材について解説します。
第3回	顔料と染料	顔料と染料の違いを学びます。
第4回	遷移金属イオンの色	電子配置と色の関係を金属イオンをもとに解説します。
第5回	宝石の色	宝石を題材に、顔料が光を吸収する仕組みを学びます。
第6回	染料分子の構造	化学結合の仕組みを解説した後、染料分子の光吸収の仕組みを解説します。
第7回	植物の色	植物が利用する色素の種類と構造を学びます。
第8回	色覚の仕組み	オプシントパクの違いで吸収波長に違いが出る仕組みを学びます。
第9回	伝統色名と表色系	基本色や伝統色名の語源や、色を伝える方法を学びます。
第10回	染色の方法と種類	伝統的な染色の技法を学びます。
第11回	染色実験	草木染を実際に行います。
第12回	染色	食品などにみられる発酵や酸化による色の変化について学びます。
第13回	身の回りの色	銀塩写真やボラロイド、温度で色が変わるグッズの仕組みについて学びます。
第14回	まとめ	授業の内容の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心を持ち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.
安藤幸司著「光と光の記録 光編」, 産業開発機構, 2004.
江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回、講義の最後に小テストを実施し、その結果（30 %）と期末試験の結果（70 %）を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっており、理科が不得手な人にはちょっと難しい内容となっているようです。基本的なところから解説していますが、同じことを繰り返し説明する時間的余裕はありません。欠席しがちな人は履修しても理解できずに終わるものと思いますので、確実に出席できる方の履修を希望します。できるだけ授業内容に関するプリントを配布したいと思っています。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員（30名）を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず春学期の「光と色の科学 A」の初回の授業に出席してください。定員を超えた場合はその中から選抜を行います。AとB、両方の受講が望ましいので、秋学期のBについても春学期の初回で選抜を行います。

【Outline and objectives】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course “B” deals with characteristic of pigment and dye, correlation between color and molecular structure, how to dye cloth, and color coordination system.

CHM300LA

物質の科学 A

2017年度以降入学者

CHM300LA

物質科学

2016年度以前入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各テーマごとに実験を取り入れた授業を行います。一つのテーマが複数回にわたるときは、講義や演習だけの日もあります。実験日は、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。

ノートをきちんとまとめることは重要です。漫然と板書や実験結果をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	化学実験入門 (1)	安全に化学実験を行うための注意事項やノートの取り方について講義します。
第3回	化学実験入門 (2)	実験器具や試薬類の取り扱い方法を学習します。
第4回	レジンアートの解説	レジンアートに関連する化学について学習し、実際の作成に備えます。
第5回	ドライフラワーの作成	シリカゲルを使用してドライフラワーを作成し、シリカゲルの構造や性質について理解します。
第6回	シリコン樹脂の合成	二液混合型の透明シリコン樹脂を合成します。その際、第5回で作成したドライフラワーの入った型に樹脂を流し込み、レジンアートを作成します。
第7回	化学基本事項の説明 (1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第8回	化学基本事項の説明 (2)	分子の立体的な構造がどのように決まるのかを学習します。
第9回	化学基本事項の説明 (3)	簡単な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第10回	化学基本事項の説明 (4)	石けんなどの複雑な分子について分子模型を組立て、分子構造を明らかにします。
第11回	香料の精製と分析	水蒸気蒸留およびクロマトグラフィーについて原理を学習します。
第12回	香料（ラベンダー）の精製	水蒸気蒸留によってラベンダーのつぼみから精油を取り出します。
第13回	香料（ラベンダー）の分析 (1)	薄層クロマトグラフィーの原理を学習し、薄層プレートやキャピラリの準備を行います。

第14回 香料(ラベンダー)の分析 (2) ラベンダー精油について薄層クロマトグラフィーを行い、成分の分析を行います。なお、残ったラベンダー精油は、物質の科学B(秋学期開講)で合成する石鹸の香料として使用します。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行ってレポート作成をおこなってください。

【テキスト(教科書)】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席(25%)、各テーマ毎に提出するレポート(25%)、および、平常点(50%)によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員(30名)を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は第1回目の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and its technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we experience chemical analyses as well as syntheses. Understanding chemical substances in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture.

CHM300LA

物質の科学B

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

有史以来、人類は多くの有用な化学物質をつくりだして生活に利用してきました。近年、化学の著しい進歩によって化学製品の性能は飛躍的に上がり、高度な現代文明の一翼を担っています。しかし、同時に耐久性も増したことで、人々が物質に関心をもつ機会が減少してきたように思えます。本授業では、いろいろな物質の合成や分析を体験し、「物質」に関する基礎的な理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

本授業では、石けんからエッセンシャルオイルまで、我々に身近な物質を幅広く取りあげます。化学実験を取り入れた授業を行い、各テーマに現れる物質の性質や反応について基礎的に理解することを目標とします。作成したものの一部は持ち帰ることが出来るので、授業に対する興味が増すと思われます。また、これまで化学を履修したことがなくても授業を理解できるように配慮いたします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各テーマごとに実験を取り入れた授業を行います。一つのテーマが複数回にわたるときは、講義や演習だけの日もあります。実験日は、最初に各実験に関する注意事項の説明を受けた後、各自または各班で実験を行います。注意事項には実験器具の操作や危険な薬品に関する情報が含まれます。注意を聴かずに実験にのぞむと火災や失明などの重大な事故を招く恐れがあるので遅刻はしないで下さい。

ノートをきちんとまとめることは重要です。漫然と板書や実験結果をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめていただきます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と概要を説明します。また、受講希望者が定員を超過した場合には抽選を行います。
第2回	水の硬度	石けんの泡立ちに関係する水の硬度について概要と測定方法を解説します。
第3回	定量分析(1)	水道水や天然水のカルシウムイオン濃度を測定します。
第4回	定量分析(2)	水道水や天然水の硬度を測定します。
第5回	油脂の構造と種類	石けんの原料である油脂について分子構造と種類を学習します。
第6回	けん化価(1)	中和滴定によりけん化価を測定します。2回にわたって測定し精度を確保します。(第1回)
第7回	けん化価の測定(1)	物質の基本単位である分子について概要を講義します。
第8回	けん化価の測定(2)	中和滴定によりけん化価を測定します。2回にわたって測定し精度を確保します。(第2回)
第9回	けん化価(2)	測定したけん化価から、石けんを合成する際に必要な水酸化ナトリウムの量がどのように計算されるか学習します。
第10回	オリーブ油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、オリーブ油石けんを合成します。
第11回	やし油石けんの合成	測定したけん化価を利用して、やし油石けんを合成します。
第12回	透明石けんの合成	測定したけん化価を利用して、透明石けんを合成します。
第13回	蒸留・比重	蒸留・比重など物質に関する基本概念を学習し実験方法を解説します。
第14回	アルコール濃度の測定	蒸留前・蒸留後の酒類のアルコール濃度を比重測定を通して決定します。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

できるだけ早い段階で、プリント教材を通読して授業に臨んでください。各テーマ終了後は、データ整理や発展的な読書を行ってレポート作成をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

授業ではプリント教材を配布して使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験は実施しません。成績は、出席（25%）、各テーマ毎に提出するレポート（25%）、および、平常点（50%）によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

実験を体験できる授業は非常に楽しく有意義であるとのことですので、引き続きそのような授業形式で進めてまいります。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員（30名）を超える場合は抽選を行うので、受講を希望する学生は第1回目の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】

Since the dawn of history, human beings have synthesized a variety of useful chemical substances to utilize them in daily lives. In recent years, performances of chemical products have exponentially improved with the rapid progress of chemistry and its technology, which play a part of advanced modern civilization. On the other hand, our interests on such chemical substances have unfortunately decreased with the increase of their durability. In this lecture, we experience chemical analyses as well as syntheses. Understanding chemical substances in the fundamental viewpoint through experiments is the purpose of this lecture.

PRI300LA

I T リテラシー

2017年度以降入学者

PRI300LA

I T リテラシー

2016年度以前入学者

児玉 靖司

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、コンピュータ科学に関する話題について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第3回	2進数、8進数、16進数(1)	2進数について基礎的な概念を学び、応用である8進数、16進数について学ぶ。
第4回	2進数、8進数、16進数(2)	2進数の計算から、8進数、16進数の計算について学ぶ。
第5回	2進数、8進数、16進数(3)	2進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第6回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第7回	情報システム(1)	CMS (Contents Management System) を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第8回	情報システム(2)	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第9回	情報セキュリティ(1)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第10回	情報セキュリティ(2)	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第11回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第12回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第13回	インダストリー 4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第14回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期期末試験（レポート）と平常点において合計が50%、出席点が50%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

PRI300LA

コンピュータ科学

2017 年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用事例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第 3 回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第 4 回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第 5 回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 6 回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 7 回	データベース	データベースについて学ぶ。
第 8 回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第 9 回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第 10 回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第 11 回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第 12 回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第 13 回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末試験と平常点の合計が 60%、出席点が 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

PHY300LA

現代科学の新しい目 A

2017 年度以降入学者

PHY300LA

現代科学の新しい目

2016 年度以前入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

近年の自然科学の急速な発展の要因は、これまで“見る”ことのできなかった現象を、最新の技術革新のもとにいろいろな方法で“見る”ことが可能になってきたことにある。本授業では、現代自然科学のいろいろな場面のうち、ミクロの世界や地球内部などの“見えない”対象を“見る”手段の基礎知識と、その成果について学ぶ。

学生は、現代科学の種々の最先端の成果を無批判に受け入れることなく正しく理解できるための基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

- ・科学の発展の基礎がどこにあるのか理解する。
- ・色々な科学成果が、“何故そのようなものか”、自分で理解でき、人に説明できる能力を身につける。
- ・データ解析の初歩を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、適時、実験および実習を行う。受講希望者が多い場合は、第 1 回目の授業で選抜を行う。（定員：30 名）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	講義内容の解説
2	“見る”ことの基礎 (1)	ものを“見る”技術の発展と科学の進歩
3	“見る”ことの基礎 (2)	波動の性質（屈折、分散、干渉、分光器）
4	測定とデータ解析	測定・データ解析に関する基礎事項
5	ミクロ世界を見る (1)	顕微鏡の仕組み
6	ミクロ世界を見る (2)	屈折率の測定実験
7	ミクロ世界を見る (3)	放射光
8	ミクロ世界を見る (4)	回折と干渉実験
9	ミクロ世界を見る (5)	原子の世界を覗く
10	ミクロ世界を見る (6)	素粒子・原子核の世界を覗く
11	地球を見る (1)	地球という惑星の概要
12	地球を見る (2)	重力の測定
13	地球を見る (3)	地震波と地球内部構造（地殻）
14	地球を見る (4)	地震波と地球内部構造（地球深部）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布される資料、参考文献を用いて講義内容の復習、実験結果の整理・解析を行うこと。更に、新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けませんが、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

・「宇宙創成」上・下、サイモン・シン著、青木薫訳、新潮文庫（その他必要に応じて、授業内で紹介する）

【成績評価の方法と基準】

適時出題するレポート課題（実験レポート、簡単な発表を含む。配分は約 8 割）と平常点（約 2 割）で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

実験・実習・解析のための時間をもう少し増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（スマホ等のアプリで可）、PC（実験のデータ解析に用いる）

【その他の重要事項】

- ・入門物理学 A、入門物理学 B、サイエンス・ラボ A、サイエンス・ラボ B、のいずれかを履修していることが望ましい。
- ・Word、Excel、Power Point の基本的な使い方を身につけていることが望ましい。

【Outline and objectives】

This class introduces some recent achievements of natural science, focusing on understanding of microscopic phenomena and inner structure of our earth.

Students will learn how these achievements become possible by "seeing" the phenomenon which we could not "see" in various ways under the latest innovation.

PHY300LA

現代科学の新しい目 B

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の自然科学の急速な発展の一因は、これまで“見る”ことのできなかった現象を、最新の技術革新のもとにいろいろな方法で“見る”ことが可能になってきたことにある。本授業では、現代自然科学のいろいろな場面のうち、望遠鏡を中心とした宇宙を観測する手段の発展と宇宙観・自然観の理解の変遷について学ぶ。

学生は、現代科学の種々の最先端の成果を無批判に受け入れることなく正しく理解できるための基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

- ・科学の発展の基礎がどこにあるのか理解する。
- ・色々な科学成果が、“何故そのようになるのか”、自分で理解でき、人に説明できる能力を身につける。
- ・データ解析の初歩を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、適時、実験および実習を行う。春学期では、ミクロの世界、地球内部などの“見えない”対象を“見る”手段と、その成果について学ぶ。秋学期では、望遠鏡を中心とした宇宙を観測する手段の発展と宇宙観・自然観の理解の変遷について学ぶ。受講希望者が多い場合は、第 1 回目の授業で選抜を行う。（定員：30 名）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	序論	講義内容の解説
2	天体の観測と宇宙観の変遷 (1)	天体望遠鏡の歴史と宇宙観の広がり
3	天体の観測と宇宙観の変遷 (2)	古代、中世の地球観：天動説と地動説
4	天体の観測と宇宙観の変遷 (3)	太陽系世界
5	天体の観測と宇宙観の変遷 (4)	天の川銀河と宇宙
6	天体の観測と宇宙観の変遷 (5)	現代の宇宙論
7	光のスペクトル (1)	熱放射と原子スペクトル
8	光のスペクトル (2)	原子スペクトルの観察と波長の測定
9	光のスペクトル (3)	原子スペクトル実験の解析
10	色々な光による宇宙の観測 (1)	赤外線で見える宇宙
11	色々な光による宇宙の観測 (2)	X 線や電波で見える宇宙
12	色々な光による宇宙の観測 (3)	ニュートリノで見える宇宙
13	系外惑星の探索	もう一つの地球を探す
14	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布される資料、参考文献を用いて講義内容の復習、実験結果の整理・解析を行うこと。更に、新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けませんが、必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

・「宇宙創成」上・下、サイモン・シン著、青木薫訳、新潮文庫
（その他必要に応じて、授業内で紹介する）

【成績評価の方法と基準】

適時出題するレポート課題（実験レポート、簡単な発表を含む。配分は約 8 割）と平常点（約 2 割）で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

実験・実習・解析のための時間をもう少し増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（スマホ等のアプリで可）、PC（実験のデータ解析に用いる）

【その他の重要事項】

・入門物理学 A、入門物理学 B、サイエンス・ラボ A、サイエンス・ラボ B、のいずれかを履修していることが望ましい。
・Word、Excel、Power Point の基本的な使い方を身につけていることが望ましい

【Outline and objectives】

This class introduces some recent achievements of natural science, focusing on understanding of the universe.

Students will learn how these achievements become possible by "seeing" the phenomenon which we could not "see" in various ways under the latest innovation.

BIO300LA

人間と地球環境

2017年度以降入学者

BIO300LA

人間と地球環境

2016年度以前入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、私たちは「危機の時代」を生きていると言われています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワード、人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎だけでなく、社会的要素も含め、広い視野から学習していきます。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1) 種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2) 環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3) 各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題の全体像を把握すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講座では「持続可能性」の観点から様々な話題にふれますが、大まかに二部に分けられます。第一に、私たちの暮らしの場をつくり様々な資源の供給源となる自然環境について、生態系・生物多様性の基本的特徴について学習します。第二に、私たちの生活に欠かせない食糧供給や自然資源の利用に目を向け、農業や資源管理に関連する環境問題や社会的問題について学習します。基本的には講義形式で解説していきますが、映像資料やグループワークも取り入れていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第2回	生態系における「安定性」	安定した生態系とはどのようなものかを、破壊と再生のプロセスから考えてみます。
第3回	生物がつくるコミュニティ	生態系を構成する複数種類の生物同士の関係によって構成される生物のコミュニティがどのようなものかについて学びます。
第4回	生物多様性はなぜ重要か？	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第5回	持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決へ応用を目的としたグループワークを行います。
第6回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第7回	なぜ食糧問題はおきるのか？	食糧供給の現状と「食糧不足」が起きる原因について考察します。
第8回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第9回	南諸国から見た世界	経済的グローバリゼーションは発展途上国に何をもたらしたのかを考えてみます。
第10回	資源開発は持続可能か？	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第11回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第12回	多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第13回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。

第14回 地球環境の現状とこれから
学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義内容の復習、配布資料の通読。

欠席時には授業支援システム掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

授業中に適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト＝40%、授業参加（授業内活動や映画鑑賞の感想共有など）＝20%、期末レポート＝40%を基本とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像の資料やグループワークは、好評でもあり、学生同士での意見交換など参加型の授業形態についてさらに工夫をかせねたい。

【Outline and objectives】

There is a recognition that we are living in the age of crises. This is an indication that the human society is currently facing various environmental problems, as well as social problems such as hunger and poverty. In consideration of such human conditions, this course focuses on the concept of "sustainability" to learn and consider the human-nature relationship as well the human-human relationships. In order to do so, students will learn the basic aspects of environmental and social problems.

BIO300LA

Natural Science A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Human society is faced with not only various environmental problems but also equally important social problems. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of the environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】

Although this course is taught in an English language environment, "teaching English" is NOT its primary objective. This course is designed to teach about ecological and social issues using the English language. Therefore, the course objectives are 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems, 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course, and 3) to understand interrelated nature of these problems to grasp the big picture of the current state of human society. Then, as a fourth objective, students should be able to express their thoughts about the course material in English both in writing and speech.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is structured roughly in two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, natural world that surrounds us and provides us with various essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues.

The course will be taught entirely in English, and, although the course material will be presented in a series of lectures, videos, group activities, and discussions will also be utilized in combination when appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	What does a stable ecosystem look like?	The question of stability will be addressed in relation to human activities and their impacts on ecosystem.
Week 3	Species interactions and biological community	Different types of relationships among organisms and the complexity of biological community will be discussed.
Week 4	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 5	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 6	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 7	What is a food crisis and why does it occur?	The current state of global food security and causes of food shortage will be described.
Week 8	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.

Week 9	Viewing the world from the South	Consequences of economic globalization will be discussed by drawing examples from the "developing" world.
Week 10	Is resource development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system as needed.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), in-class participation (20 %), and writing assignments (40 %).

【学生の意見等からの気づき】

Students of varying background are taking this course, and, as such, there is an increasing need to cope with such differences among students, including their English skills. It seems effective to provide students with opportunities to interact with each other through group discussion, etc., Doing so seems to naturally provide opportunities to help each other.

BIO300LA

Human Impact on the Global Environment 2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Human society is faced with not only various environmental problems but also equally important social problems. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of the environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a view from a wider perspective.

【到達目標】

Although this course is taught in an English language environment, "teaching English" is NOT its primary objective. This course is designed to teach about ecological and social issues using the English language. Therefore, the course objectives are 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems, 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course, and 3) to understand interrelated nature of these problems to grasp the big picture of the current state of human society. Then, as a fourth objective, students should be able to express their thoughts about the course material in English both in writing and speech.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Although this course deals with various topics from the perspective of "sustainability", the course is structured roughly in two parts. In the first part, students will learn about the basic features of ecosystem and biodiversity, that is to say, natural world that surrounds us and provides us with various essential resources. The second part will focus on environmental and social problems related to agriculture (food production) and use of other natural resources in order to explore our personal involvement in these issues.

The course will be taught entirely in English, and, although the course material will be presented in a series of lectures, videos, group activities, and discussions will also be utilized in combination when appropriate.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	What does a stable ecosystem look like?	The question of stability will be addressed in relation to human activities and their impacts on ecosystem.
Week 3	Species interactions and biological community	Different types of relationships among organisms and the complexity of biological community will be discussed.
Week 4	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 5	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 6	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 7	What is a food crisis and why does it occur?	The current state of global food security and causes of food shortage will be described.
Week 8	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.

Week 9	Viewing the world from the South	Consequences of economic globalization will be discussed by drawing examples from the "developing" world.
Week 10	Is resource development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system as needed.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40%), in-class participation (20%), and writing assignments (40%).

【学生の意見等からの気づき】

Students of varying background are taking this course, and, as such, there is an increasing need to cope with such differences among students, including their English skills. It seems effective to provide students with opportunities to interact with each other through group discussion, etc., Doing so seems to naturally provide opportunities to help each other.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 A 2017 年度以降入学者

LANd300LA

ドイツ語初級 I 2016 年度以前入学者**笠原 賢介**開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。発音の基礎から始め、ドイツ語の表現の基本を学んでゆきます。ドイツ語は単語や仕組みが英語とも近く、学びやすい言語です。簡単な練習をとおして一步一步確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜お伝えしてゆきます。

【到達目標】

ドイツ語による表現のための基礎的な文法事項を習得し、ドイツ語の基礎的な表現と語彙を身につける。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

アルファベット・発音の基礎から始め、ドイツ語の基本的な、しかし必要十分な文法と基本的表現を学びます。初めて学ぶ言語なので、わかりやすい、丁寧な説明をしていきます。受講者の理解によって進度も適宜、対応させていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス アルファベット	授業の進め方。 ドイツ語の基本的な特徴とアルファベット。以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	Lektion1 ドイツ語の発音	前回の復習。 ドイツ語の発音の仕方を学びます。
第 3 回	Lektion2 人称代名詞と動詞の現在 人称変化 (1)	ドイツ語の人称代名詞と現在人称変化の基本を学びます。
第 4 回	Lektion2 人称代名詞と動詞の現在 人称変化 (2)	ドイツ語の人称代名詞と現在人称変化の基本を復習します。
第 5 回	Lektion3 名詞の性と格 (1)	ドイツ語の名詞の性と格を学びます。
第 6 回	Lektion3 名詞の性と格 (2)	ドイツ語の名詞の性と格の復習をします。
第 7 回	Lektion4 定冠詞類と不定冠詞類 (1)	ドイツ語の定冠詞類と不定冠詞類の基本を学びます。
第 8 回	Lektion4 定冠詞類と不定冠詞類 (2)	ドイツ語の定冠詞類と不定冠詞類の基本を復習します。
第 9 回	Lektion5 人称代名詞 (1)	ドイツ語の人称代名詞の基本を学びます。
第 10 回	Lektion5 人称代名詞 (2)	ドイツ語の人称代名詞の基本を復習します。
第 11 回	Lektion6 不規則動詞・命令形 (1)	ドイツ語の不規則動詞と命令形の基本を学びます。
第 12 回	Lektion6 不規則動詞・命令形 (2)	ドイツ語の不規則動詞と命令形の基本を復習します。
第 13 回	Lektion7 前置詞 (1)	ドイツ語の前置詞の基本を学びます。
第 14 回	Lektion7 前置詞 (2)	前置詞の基本の復習。 春学期のまとめとして基礎の確認の試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を確実に身につけるために復習は必要です。また、課題にもかならず取り組みましょう。

【テキスト（教科書）】

萩原耕平・山崎泰孝『プロムナード やさしいドイツ語文法』白水社。

【参考書】

とくに必要ありません。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と参加を重視します。春学期の終わりにまとめの試験をします。平常点、課題への取り組み 50 %、まとめの試験 50 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明、学習内容の復習と進度とのバランスを取りながら進めてゆく。

【その他の重要事項】

ドイツ語を選択し、履修している学生、すでに選択履修をした学生は受講できません。

【Outline and objectives】

German as third foreign language. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic speaking and vocabulary; basic knowledge of Germany and Europe today.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 B 2017 年度以降入学者

LANd300LA

ドイツ語初級Ⅱ 2016 年度以前入学者

笠原 賢介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象とした授業です。春学期に学んだことを復習しながら、後半の基礎的な文法事項を学び、ドイツ語の基本的な表現を身につけます。簡単な練習をとおして一步一步確認しながら進めます。ドイツとヨーロッパについての基礎的な情報も適宜お伝えしてゆきます。

【到達目標】

春学期に学んだことを復習しながら、ドイツ語の基本的な文法と表現の仕方の習得を目指す。ドイツとヨーロッパの現在についての基礎的な情報をえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期に引き続いて、ドイツ語の仕組みや表現をわかりやすく、丁寧に説明していきます。練習問題も丁寧に学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion8 分離動詞・接続詞 (1)	春学期の内容の復習。 ドイツ語の接続詞、分離動詞、非分離動詞の基本を学びます。 以下の進度はおおその目安です。
第 2 回	Lektion8 分離動詞・接続詞 (2)	接続詞、分離動詞、非分離動詞の基本を復習します。
第 3 回	Lektion9 話法の助動詞 (1)	ドイツ語の話法の助動詞の基本を学びます。
第 4 回	Lektion9 話法の助動詞 (2)	話法の助動詞の使い方の復習をします。
第 5 回	Lektion10 動詞の 3 基本形・過去形 (1)	ドイツ語の動詞の 3 基本形を学び、過去形の使い方の基本を学びます。
第 6 回	Lektion10 動詞の 3 基本形・過去形 (2)	動詞の 3 基本形と過去形の基礎を復習します。
第 7 回	Lektion11 現在完了形・受動文 (1)	ドイツ語の現在完了形と受動文の基礎を学びます。
第 8 回	Lektion11 現在完了形・受動文 (2)	現在完了形と受動文の基礎を復習します。
第 9 回	Lektion12 形容詞・比較表現 (1)	ドイツ語の形容詞の用法の特徴と形容詞を使った比較表現を学びます。
第 10 回	Lektion12 形容詞・比較表現 (2)	形容詞と比較表現の復習をします。
第 11 回	Lektion13 再帰代名詞・zu 不定詞 (1)	ドイツ語の再帰代名詞と zu 不定詞の用法の基礎を学びます。
第 12 回	Lektion13 再帰代名詞・zu 不定詞 (2)	再帰代名詞と zu 不定詞の用法の基礎を復習します。
第 13 回	Lektion14 関係代名詞・接続法 (1)	ドイツ語の関係代名詞と接続法の基礎を学びます。
第 14 回	Lektion14 関係代名詞・接続法 (2) まとめの試験	関係代名詞と接続法の基礎を復習します。秋学期のまとめとして確認の試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を確実に身につけるために復習は必要です。また、課題にもかならず取り組みましょう。

【テキスト（教科書）】

荻原耕平・山崎泰孝『プロムナード やさしいドイツ語文法』白水社。

【参考書】

とくに必要ありません。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と参加を重視します。春学期の終わりにまとめの試験をします。平常点、課題への取り組み 50 %、まとめの試験 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な説明、学習内容の復習と進度とのバランスを取りながら進めてゆく。

【その他の重要事項】

ドイツ語の既修者、および 1 年次にドイツ語を選択必修言語として学んでいる学生は履修できません。

【Outline and objectives】

German as third foreign language. Key words: grasping grammatical structure of the German language; basic speaking and vocabulary; basic knowledge of Germany and Europe today.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 A 2017年度以降入学者

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーションⅢ 2016年度以前入学者

アネッテ・グルーパー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【学生が準備すべき機器他】

CD/DVD player

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	erste kommunikative Phrasen
2	Begrueßung, Befinden 1	sich begrüßen/verabschieden
3	Begrueßung, Befinden 2	nach dem Befinden fragen, sich und andere vorstellen
4	Angaben zur Person	ueber den Beruf und Persoenliches sprechen
5	Berufe	Verbkonjugation Singular/Plural Negation
6	Familie 1	Ja/Nein-Fragen Possessivartikel
7	Familie 2	Verben mit Vokalwechsel
8	Einkaufen	Beratungsgespraechе, Hilfe anbieten
9	Moebel	Artikel, Personalpronomen
10	Gegenstaende, Produkte 1	um Wiederholung bitten, etwas beschreiben
11	Gegenstaende, Produkte 2	sich bedanken, ein Formular ausfuellen
12	Buero	Telefongespraechе
13	Technik 1	Singular/ Plural
14	Technik 2	E-Mail/ SMS

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。

【テキスト（教科書）】

Menschen. Deutsch als Fremdsprache A1.1. Kursbuch

Menschen. Deutsch als Fremdsprache A1.1. Arbeitsbuch

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可

【成績評価の方法と基準】

各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60%

この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。

40%

遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 B 2017年度以降入学者

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーションⅣ 2016年度以前入学者

アネッテ・グルーパー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当講座はドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。コミュニケーション能力とは音声面の正確さ、文法面の正確さ、場面に応じた適切さ、をもって運用される言語能力を意味する。それらの三つの要素の習得を目指す。

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Wiederholung
2	Freizeit 1	ueber Hobbys, Faehigkeiten sprechen
3	Freizeit 2	Modalverb koennen
4	Komplimente	Komplimente machen, um etwas bitten, sich bedanken
5	Verabredungen 1	einen Vorschlag machen und darauf reagieren
6	Verabredungen 2	temporale Praepositionen: am, um
7	Essen 1	ueber Essgewohnheiten sprechen
8	Essen 2	Konversationen beim Essen
9	Einladung zu Hause	Konjugation moegen, Wortbildung Nomen + Nomen
10	Reisen	sich informieren, ein Telefonat beenden
11	Verkehrsmittel	trennbare Verben
12	Tagesablauf	temporale Praepositionen von ... bis, ab
13	Vergangenes	Perfekt mit haben
14	Feste, Vergangenes	Perfekt mit sein temporale Praeposition im

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習を必ず行う。宿題を行うこと。

【テキスト（教科書）】

Menschen. Deutsch als Fremdsprache A1.1. Kursbuch
Menschen. Deutsch als Fremdsprache A1.1. Arbeitsbuch

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

各章の終わりに小テストを実施する。これらの結果が評価の重要な部分を占める。60%

この講座は演習的要素が強いため、授業への積極的な参加が評価の対象となる。40%

遅刻はしないこと。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【学生が準備すべき機器他】

CD/DVD player

【Outline and objectives】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

LANd300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

LANd300LA

ドイツ語講読 I

2016年度以前入学者

サブタイトル：ドイツ語講読：『グリム童話』をドイツ語で読む

山下 敦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

『グリム童話』の代表的な作品を、ドイツ語原文と日本語訳で読みます。ドイツ語の原文を正確に読み解くことによって、物語の中に表れたドイツ語圏の文化的特性を把握し、物語本来の表現力に迫ります。同時に、ドイツ語文法の基礎知識の復習を心掛けます。春学期は、イメージはよく知られている白雪姫の物語の実像を、文法的な説明とともに読みとります。

【到達目標】

ドイツ語の原文を読みながら、ドイツ語文法の基礎を復習し、語学力のさらなる向上を目標とします。また、『グリム童話』の成立過程に見られる社会的背景を学びながら、物語のヨーロッパの規模の広がりや改稿の課程に読みとれる市民社会の成立について理解する。ドイツ語の原文を題材として、語学的知識の向上と作品世界の理解という二つの目標の到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストブック及び授業時に配布するプリントによって、ドイツ語原文を詳しく読解する。その際に、日本語訳を参照することは構わない。各授業時に扱う部分の読解を学生が担当して、担当部分の説明と解釈をし、必要に応じて教員が文法的な説明を補う。その後、作品をめぐる背景の説明を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロタクシオン	授業の進め方 テキストの紹介
2	グリム童話とは？	作品と編者の紹介
3	「白雪姫 (Sneewittchen)」1	物語の発端：白・赤・黒
4	「白雪姫 (Sneewittchen)」2	物語の展開：森の住人
5	「白雪姫 (Sneewittchen)」3	物語の結末：王子の愛したもの
6	「白雪姫 (Sneewittchen)」初版 1	実母か継母か？
7	「白雪姫 (Sneewittchen)」初版 2	鏡よ鏡！ 悪女の末路
8	「赤ずきん (Rotkäppchen)」1	森の奥の意味
9	「赤ずきん (Rotkäppchen)」2	女の子のエプロン
10	「赤ずきん (Rotkäppchen)」初版	ここで終り？
11	ペロー「赤ずきん」	**はみんなオオカミよ
12	『グリム童話』序文を読む 1	物語の伝えるもの
13	『グリム童話』序文を読む 2	収集の背景
14	春学期の学習のまとめ	独力でグリム童話原文を読んでみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業で扱うドイツ語の原文を、毎回必ずテキストの文法構造の確認を含めて理解し、授業中の解釈の試みに備えること。課題が与えられた場合には、翌週までに学習して提出すること。独和辞典を持参すること。

【テキスト（教科書）】

富山芳正編：白雪姫 第三書房 ¥900

その他、授業時にプリントを配布する。

【参考書】

野村法訳『完訳グリム童話集1～7』筑摩書房 各巻 ¥1,900

吉原高志・吉原素子『初版グリム童話集1～4』白水社 各巻 ¥1,600

吉原高志・吉原素子『グリム〈初版〉を読む』白水社 ¥1,600

野村法『グリム童話 子供に聞かせてよいか?』ちくまライブラリー ¥1,030

小澤俊夫『グリム童話の誕生』朝日選書 ¥1,350

シャルル・ペロー『ペローの昔ばなし』白水社 ¥2,000

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と期末の試験・レポート (70%) による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典を持参すること。

【Outline and objectives】

Class of German intensive reading. Students read the original german text and the Japanese translation of Grimm's Fairy Tales comparing with its first edition, and study the knowledge about the Grimm's Fairy Tales and the cultural background. Also learn the advanced grammar of German.

LANd300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

LANd300LA

ドイツ語講読Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：ドイツ語講読：『グリム童話』をドイツ語で読む

山下 敦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『グリム童話』の代表的な作品を、ドイツ語原文と日本語訳で読みます。ドイツ語の原文を正確に読み解くことによって、物語の中に表れたドイツ語圏の文化的特性を把握し、物語本来の表現力に迫ります。同時に、ドイツ語文法の基礎知識の復習を心掛けます。秋学期は、シンデレラ、眠れる森の美女、ラプンツェルという3人のプリンセスの物語の原像を求めます。

【到達目標】

ドイツ語の原文を読みながら、ドイツ語文法の基礎を復習し、語学力のさらなる向上を目標とします。また、『グリム童話』の成立過程に見られる社会的背景を学びながら、物語のヨーロッパ的規模の広がりや改稿の課程に読みとれる市民社会の成立について理解する。ドイツ語の原文を題材として、語学的知識の向上と作品世界の理解という二つの目標の到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストブック及び授業時に配布するプリントによって、ドイツ語原文を詳しく読解する。その際に、日本語訳を参照することは構わない。各授業時に扱う部分の読解を学生が担当して、担当部分の説明と解釈をし、必要に応じて教員が文法的な説明を補う。その後、作品をめぐる背景の説明を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロタクシオン	授業の進め方 テキストの紹介
2	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」1	物語の発端：家族の関係
3	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」2	物語の展開：魔法の力
4	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」3	物語の結末：ガラスの靴はどこに？
5	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」初版 1	イメージの落差
6	「灰かぶり姫 (Aschenputtel)」初版 2	異なる結末
7	「いばら姫 (Dornröschen)」1	物語の発端：森の意味するもの
8	「いばら姫 (Dornröschen)」2	物語の結末：眠りの意味
9	「いばら姫 (Dornröschen)」初版	読み比べ
10	ペロー「眠れる森の王女」&バジール「ターリア」	物語のルーツを辿る
11	「ラプンツェル (Rapunzel)」	どんな植物？
12	「ラプンツェル (Rapunzel)」初版	読み比べ
13	バジール「ペトロシネッラ」	イタリア版ラプンツェル
14	秋学期の学習のまとめ	独力でグリム童話原文を読んでみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業で扱うドイツ語の原文を、毎回必ずテキストの文法構造の確認を含めて理解し、授業中の解釈の試みに備えること。課題が与えられた場合には、翌週までに学習して提出すること。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

【参考書】

野村法訳『完訳グリム童話集1～7』筑摩書房 各巻 ¥1,900

吉原高志・吉原素子『初版グリム童話集1～4』白水社 各巻 ¥1,600

吉原高志・吉原素子『グリム〈初版〉を読む』白水社 ¥1,600

野村法『グリム童話 子供に聞かせてよいか?』ちくまライブラリー ¥1,030

小澤俊夫『グリム童話の誕生』朝日選書 ¥1,350

シャルル・ペロー『ペローの昔ばなし』白水社 ¥2,000

バジール『パンタメローネ』大修館書店 ¥4,738

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) と期末の試験・レポート (70%) による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典を持参すること。

【Outline and objectives】

Class of German intensive reading. Students read the original german text and the Japanese translation of Grimm's Fairy Tales comparing with its first edition, and study the knowledge about the Grimm's Fairy Tales and the cultural background. Also learn the advanced grammar of German.

PHI300LA

ドイツの思想 A

2017 年度以降入学者

PHI300LA

ドイツの思想 I

2016 年度以前入学者

笠原 賢介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェ入門をテーマとする授業です。
不確実な現代を生き、考えてゆくうえで見落とすことのできない思想家ニーチェを取り上げ、基礎的な知識を押さえながら、彼の思想世界をとらえてゆきます。また、現代思想・哲学、芸術に与えた影響にもふれてゆきます。
毎回、導入的なレクチャーをおこなった後、ニーチェの作品から読みやすい箇所を選んで、その言葉に直接ふれながら進めます。
受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。
春学期の内容は、初期のニーチェを中心としますが、中期・後期ニーチェも視野に入れます。
授業を通して、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点にふれ、捉えることを目指します。

【到達目標】

初期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテキストにふれることによって、ニーチェ思想に対する理解を深める。現代思想・哲学、芸術に与えた影響を捉える。概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれながら進めてゆきます。一方通行にならないよう、質問やリアクション・ペーパーに示された感想や見方に応答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー 50%、言葉にふれること 40%、質疑応答 10%の割合で進めてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方。授業のねらい。ニーチェはどのような哲学者か。 以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	ニーチェの生涯と思想。	ニーチェの生涯と代表作について、導入的なレクチャーをおこないます。
第 3 回	『悲劇の誕生』(1)	初期ニーチェの代表作『悲劇の誕生』について、基本的な事柄をとらえます。
第 4 回	『悲劇の誕生』(2)	『悲劇の誕生』の中心概念である「ディオニュソスのもの」と「アポロロ的なもの」をとらえます。
第 5 回	『悲劇の誕生』(3)	ギリシア悲劇とはどのようなものか、その特徴をとらえ、ニーチェとの関係を考えます。
第 6 回	『悲劇の誕生』(4)	ワグナーとの関係で『悲劇の誕生』をとらえ、若きニーチェがなぜワグナーに傾倒したのかをワグナーの作品にふれながら考えます。
第 7 回	『悲劇の誕生』(5)	ショーペンハウアーとの関係で『悲劇の誕生』をとらえ、ニーチェとショーペンハウアーの接点と違いについて考えます。
第 8 回	『悲劇の誕生』(6)	『悲劇の誕生』の背景にあるニーチェの芸術論と音楽論をとらえ、その意義を考えます。
第 9 回	『悲劇の誕生』(7)	『悲劇の誕生』におけるソクラテス批判をとらえ、その意義を考えます。
第 10 回	『反時代的考察』	『悲劇の誕生』とならぶ初期ニーチェの代表作である『反時代的考察』をとりあげ、基本的な論点と特徴を考えます。

第 11 回	初期ニーチェと現代哲学・思想	初期ニーチェ思想の現代哲学・思想家への影響をドイツ系の哲学者・思想家を中心にして要点をとらえます。
第 12 回	初期ニーチェから中期・後期のニーチェへ	ニーチェがワグナーとショーペンハウアーを批判するに至る経緯をたどり、中期・後期ニーチェ思想の展開の方向性を展望します。
第 13 回	まとめ	春学期の授業の内容をまとめ、質疑応答をおこないます。
第 14 回	春学期の試験	春学期のまとめの試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントとノートによって授業内容の整理と復習をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

プリントでそのつと配布します。

【参考書】

『ニーチェ全集』、ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』、世界思想社。柏原啓一『総合人間学』、日本放送出版協会。高辻知義『ワグナー』、岩波新書。ビヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』、法政大学出版局。

【成績評価の方法と基準】

出席を重視します。授業最終日に内容確認の試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点と試験を総合して評価します（平常点 40%、試験 60%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを正確にとってほしい。リアクション・ペーパーへの記入を心掛けてほしい。

【Outline and objectives】

Introduction to philosophy of the early Nietzsche. Key words: The Birth of Tragedy, Nietzsche as classical philologist, the composite art of Richard Wagner, Schopenhauer's philosophy, Nietzsche's confrontation with the Platonic tradition, Nietzsche's influence to contemporary thoughts.

PHI300LA

ドイツの思想 B

2017 年度以降入学者

PHI300LA

ドイツの思想 II

2016 年度以前入学者

笠原 賢介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニーチェ入門をテーマとする授業です。
ニーチェの中期・後期思想を中心としますが、春学期に取り上げた初期のニーチェ思想も視野に入れてゆきます。

毎回、テーマに関連したレクチャーをおこない、ニーチェの作品から重要な箇所を選んで、ニーチェの言葉に直接ふれてゆきます。ニーチェが現代哲学・思想、芸術に与えた影響についてもふれてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

授業を通して、図式的、概説書的なニーチェ像に還元できないニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を取り出し、考えることを目指します。

【到達目標】

中期および後期ニーチェを中心にして、ニーチェ思想の基本特徴をとらえる。ニーチェのテキストにふれることによって、ニーチェ思想への理解を深める。現代哲学・思想、芸術への影響をとらえる。ニーチェ思想の豊かさ、現代的意義、問題点を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

導入的な話の後、ニーチェの言葉にふれてゆきます。一方通行にならないよう、質問やリアクション・ペーパーに示された意見や感想に回答しながら進めます。毎時間、テーマごとのレクチャー 50%、言葉にふれること 40%、質疑応答 10% の割合で進めてゆきます。

受講にあたっては、哲学や文学・芸術、ドイツ語についての知識は前提としません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、ねらい。ニーチェはどのような哲学者か。以下の進度はおおよその目安です。
第 2 回	初期ニーチェ思想と中期・後期ニーチェ思想の違いと連続性	春学期の内容と中・後期ニーチェの著作を概観しながら、初期ニーチェ思想と中・後期ニーチェ思想の違いと連続性を捉え、全体的な見通しを立てます。
第 3 回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』—アフォリズムの思考	中期の作品『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』によってニーチェのアフォリズム的な思考の特徴をとらえます。
第 4 回	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』—〈形而上学〉への批判	『人間的な、あまりに人間的な』、『曙光』によって〈形而上学（従来の哲学）〉へのニーチェの批判の意味を考えます。
第 5 回	『悦ばしき知恵』—〈神の死〉	『悦ばしき知恵』によって〈神の死〉をめぐるニーチェの思索を取り出します。
第 6 回	『ツァラトゥストラ』(1)—〈身体〉と〈心〉をめぐる	『ツァラトゥストラ』によって〈身体〉と〈心〉をめぐるニーチェの思索を捉え、考えます。
第 7 回	『ツァラトゥストラ』(2)—〈力への意志〉をめぐる	『ツァラトゥストラ』とニーチェの遺稿によって〈力への意志〉をめぐるニーチェの思索をとらえ、考えます。
第 8 回	『ツァラトゥストラ』(3)—〈時間〉をめぐる思索	『ツァラトゥストラ』によってニーチェの「永遠回帰」の思想を捉え、考えます。
第 9 回	『道徳の系譜』—〈道徳〉への批判	『道徳の系譜』によって、ニーチェがなぜ道徳を批判したのか、その論点を解きほぐして考えます。
第 10 回	ニーチェと西洋哲学の伝統	これまでの授業の内容を踏まえて、ニーチェと彼以前の哲学者との違いと接点をとらえます。

第 11 回 ニーチェと現代の哲学・思想、芸術 (1) 中・後期ニーチェ思想の現代哲学・思想への影響について、ドイツ系の哲学者・思想家を中心にして要点をとらえます。

第 12 回 ニーチェと現代の哲学・思想、芸術 (2) ニーチェの現代芸術への影響をヨーロッパの世紀末芸術について、絵画・音楽を中心に紹介します。

第 13 回 まとめ 秋学期の授業の内容をまとめ、質疑応答をおこないます。

第 14 回 秋学期の試験 秋学期のまとめの試験をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントとノートによって授業内容の整理と復習をおこなうこと。

【テキスト（教科書）】

プリントでそのつと配布します。

【参考書】

『ニーチェ全集』ちくま学芸文庫。青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。柏原啓一『総合人間学』、日本放送出版協会。渡邊二郎他編『ニーチェを知る事典』ちくま学芸文庫。ビヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。

【成績評価の方法と基準】

出席を重視します。授業最終日に内容確認の試験をおこないます。到達目標を基準にして、平常点と試験を総合して評価をおこないます（平常点 40%、試験 60%）。

【学生の意見等からの気づき】

正確にノートを取ってほしい。リアクション・ペーパーへの記入を心掛けてほしい。

【Outline and objectives】

Introduction to Nietzsche' philosophy. Key words: Human- all too Human, Daybreak, The Gay Science, Thus Spoke Zarathustra, On the Genealogy of Morals, Nietzsche's confrontation with the western philosophical tradition, Nietzsche and the art of fin de siecle, Nietzsche's influence to contemporary thoughts.

LIT300LA

ドイツ語圏の文学 A 2017 年度以降入学者

LIT300LA

ドイツの文学 I 2016 年度以前入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【「私」探しの源流を求めて】

近代ドイツ語圏は、明治期以降の日本に「(他とは違う) 私自身」という思考の枠組みを与えました。中でもドイツ語で書かれた文学は、日本の近代化とその人材育成に非常に大きな影響を与えています。現在の日本を見回しても、カフカがいなければ「作家・村上春樹」はいなかったでしょうし、Th. マンほか数々のドイツ語圏発の文学や文化現象がなければ、「スタジオ・ジブリ」(宮崎駿)は今とは似ても似つかぬものだったかもしれません。あるいは明治期の日本が「ドイツ」とあのように深く付き合わなければ、日本では王道の「青春もの」「学園もの」のマンガはここまで当たり前のものではなく (Bildung 概念の形成)、ついでに、みなさんに「私の個性」や「私が大学時代に達成したこと」を語らせる日本の「就活」も、今とはちょっと違っていたかもしれませんね。

この授業では、ドイツ語圏文学の魅力の一片を、王道と王道じゃないものを取り混ぜつつ、皆さんと楽しみたいと思っています。なぜフィクションが真実を表現しうのか (しえないのか)、言語テキストが表現できること、さらにはそこから浮かび上がる人間社会の困難や喜びについて、ご一緒に考えていきましょう。

【到達目標】

履修する学生の皆さんが到達すべきは、以下の通りです。第一の目標は、テキストの意味を捉える読解能力と、反省的思考能力の獲得です。テキストを読み、「内容が理解できた」「自分が何かを考えている」と感じられる経験こそが、真の「コミュニケーション能力」の訓練であることをしっかり認識してください。

第二の目標は、自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得です。意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正 (= ありえない大人や組織) や自己疎外 (= 「自分は必要とされていない」と思う気持ち) と向かい合う手立てにもなってくれるでしょう。

最後の目標は、社会に対する批判的な眼差しを獲得し、遠く離れた場所の出来事を、自身の問題として理解する感受性を磨くことです。19 ~ 20 世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突 (= 「苦手」と感じる状況) を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

主に 19 世紀 ~ 20 世紀のドイツ語圏文学を、時系列的に扱います。授業では毎回、担当者が講義形式で、作品や作家の概要の説明を行ったあと、テキストの抜粋を読みます。その後は参加者同士でお互いの理解を確認する作業です。授業の終わりには、各自が一定量の小レポート (リアクションペーパー) を記述し提出します。授業 3 回目以降は、各回授業の最初に、みなさんからの前回授業コメントのフィードバックも行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏文学って? 「ドイツ語圏」ってどこ??
2	「カッコいい俺」の生き方?	ゲーテ『若きヴェルターへの悩み』(1774 年、ドイツ)
3	この世界の片隅で	ゲオルク・ビューヒナー『ヴォイツェック』(1835 年、ドイツ) その 1
4	僕にはあの人しかいないのに	ゲオルク・ビューヒナー『ヴォイツェック』(1835 年、ドイツ) その 2
5	先生って何であんなに怖いのか?	ゴットフリート・ケラー『緑のハイブリヒ (第二版)』(1879-80 年、スイス)
6	身分違いの恋ってわかってるけど...	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』(1888 年、ドイツ) その 1
7	社会の変化についていけない気がする	テオドーア・フォンターネ『迷誤あれば』(1888 年、ドイツ) その 2

8	元祖 BL? 満たされない空虚な気持ち	ローベルト・ムーゼル『寄宿生テルレスの混乱』(1906 年、オーストリア/ハンガリー)
9	「私」はもういない	フランツ・カフカ『掟の前で』(1914/15 年)『家父の気がかり』(1917/19 年) (オーストリア/チェコ) シュテファン・ツヴァイク『書痴メンデル』(1929 年、オーストリア)
10	私はあなたのことを決して忘れない	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』(1932 年、ドイツ) その 1
11	都会の「キラキラ」に憧れる女の子	イルムガルト・コイン『人工シルクの女の子』(1932 年、ドイツ) その 2
12	本当の私を好きになってほしい	トーマス・ブルスィヒ『太陽通り』(1999 年、ドイツ)
13	どこでだって今を楽しく生きていける	今学期のまとめ
14	まとめ	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・活字に触れる作業は全て、予習・復習に該当すると思います。あらゆる大学の授業に関わることはそうですし、スマホや SNS をいじりながら考えること、思わず呟いてしまうこともそうです。
・新聞 (日刊紙) を読む習慣があればなお良いです。
・人と会って話す時間はすべて人文学の基本です。大学の中で、サークルや部活、バイト、家族や友人と過ごすときの言葉を、しっかり振り返ることができれば一番いいですね。

【テキスト (教科書)】

毎授業、コピーを配布します。

【参考書】

・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』(ミネルヴァ書房、2003 年)
・手塚富雄・神品芳夫 (著)『増補』ドイツ文学案内 (岩波書店、1993 年) その他は講義内資料などで指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と貢献 (25%)、リアクションペーパー (25%)、学期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当します。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具を必ず用意してください (携帯電話等をメモがわりに利用することは認めません)

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識は必須ではありません。
・扱う作品・内容や順序は変更される場合もあります。

【Outline and objectives】

This course introduces literature from the era of german "Strum und Drang"/Weimar classicism to the german modernism (Berliner Moderne/Wiener Moderne). In the course, we also focus on the sense of "self-identity" and "Bildung" that was developed intensively by Germany or German speaking areas like Habsburg Monarchy as well as by entire German modern literature and culture influences modernization of Japan since Meiji-era definitely. We combine texts of German-language literature with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

LIT300LA

ドイツ語圏の文学B

2017年度以降入学者

LIT300LA

ドイツの文学Ⅱ

2016年度以前入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【「私」の源流・子どもの頃の思い出】

この授業が着目するのは、ドイツ語圏発の子ども向け・児童文学作品です。ドイツ語圏のメルヒェンやファンタジーの古典には、今もディズニーやハリウッド、あるいは「スタジオ・ジブリ」の着想源となるような作品があります。あんな昔のドイツ語圏発のフィクションに、どんなアクトリアリティーがあるのでしょうか？

この授業では、「子ども向け」「ヤングアダルト向け」の作品を通して、ドイツ語圏文学の魅力の一片を楽しみたいと思っています。授業で扱うのは全て、今なお読み継がれる世界的なベストセラーや、その映画化やアニメーション化が日本で大ヒットした作品です。「私と家族」「親」「学校」「友だち」…を通して見える真実、そこから浮かび上がる人間社会の困難や喜びについて、一緒に考えていきましょう。

担当者の私には、若い学生の皆さんが「大人になりかけの人たち」のように思えます。もちろん「私はもう大人だ！」という方、今改めて大学で学んでいるという方も、文学作品を通じて自分の子ども時代を少し振り返ってみませんか。今の自分次第で過去も変わります。今の皆さんだから見えること、わかることがあるはずですよ。

【到達目標】

履修する学生の皆さんが到達すべきは、以下の通りです。第一の目標は、テキストの意味を捉える読解能力と、反省的思考能力の獲得です。テキストを読み、「内容が理解できた」「自分が何かを考えている」と感じられる経験こそが、真の「コミュニケーション能力」の訓練であることをしっかり認識してください。

第二の目標は、自分の思考を、他人に伝わるレベルで言語化する能力の獲得です。意図を損なわず、言語で情報伝達できる能力は、グローバル化社会のニーズであるばかりでなく、社会の不正（＝ありえない大人や組織）や自己疎外（＝「自分が必要とされていない」と思う気持ち）と向かい合う手立てにもなってくれるでしょう。

最後の目標は、社会に対する批判的な眼差しを獲得し、遠く離れた場所の出来事を、自身の問題として理解する感受性を磨くことです。19～21世紀のドイツ語圏の話が、現代の日本に生きる自分の日常とどうつながっているのかを考えようとする態度は、あなたに異文化との衝突（＝「苦手」と感じる状況）を生き抜く豊かな知恵を授けてくれるはずですよ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

19世紀以降のドイツ・ロマン派、モダニズムから現代までのドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）文学を扱います。

授業では、原作の小説と、一部その二次創作（映画、パレエ）の映像を扱います。毎回、担当者が講義形式で、作品や作家の概要の説明を行った後、テキストを読み、または映像の抜粋を確認します。

その後、参加者同士でお互いの理解を確認する作業を行います。

授業の終わりには、各自が一定量の小レポート（リアクションペーパー）を記述し提出します。

授業3回目以降は、各回授業の最初に、みなさんからの前回授業コメントのフィードバックも行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入・オリエンテーション	ドイツ語圏文学って？「ドイツ語圏」ってどこ？
2	美しい自然・大好きなお母さん	フェーリクス・ザルテン『パンピ』（1923年）その1
3	いじわるな人はいるけど、きっと大丈夫	フェーリクス・ザルテン『パンピ』（1923年）その2
4	貧しくも美しいアルプスの麓で	ヨハナ・シュピリ『アルプスの少女ハイジ』（1880-1881）その1
5	豊かで不幸せな都会・成長したのはどっち？	ヨハナ・シュピリ『アルプスの少女ハイジ』（1880-1881）その2
6	こっちの世界へようこそ	ミヒャエル・エンデ『はてしない物語』（1979年）その1

7	ひとりひとりが選ばれた「あなた」だから	ミヒャエル・エンデ『はてしない物語』（1979年）その2
8	自分も親も初恋も全部イケてない	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その1
9	大切な友だちの悲しみ・忘れられない日々	ヴォルフガング・ヘルンドルフ『14歳、ぼくらの疾走』（2010年）その2
10	みんなが何と言おうと私はこれがいいの！	E.T.A. ホフマン『くるみ割り人形とねずみの王様』（1814年）その1
11	お姫様になれたらどうしちゃう？	E.T.A. ホフマン『くるみ割り人形とねずみの王様』（1814年）その2
12	子どもは親を選べないから	エーリヒ・ケストナー『飛ぶ教室』（1933年）その1
13	「正義」の真実？	エーリヒ・ケストナー『飛ぶ教室』（1933年）その2
14	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・活字に触れる作業は全て、予習・復習に該当すると思います。あらゆる大学の授業に関わることはそうですし、スマホや SNS をいじりながら考えること、思わず呟いてしまうこともそうです。

・新聞（日刊紙）を読む習慣があればなお良いです。

・人と会って話す時間はすべて人文学の基本です。大学の中で、サークルや部活、バイト、家族や友人と過ごすひとときの言葉を、しっかり振り返ることができれば一番いいですね。

【テキスト（教科書）】

毎授業、コピーを配布します。

【参考書】

・柴田翔『はじめて学ぶドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）

・手塚富雄・神品芳夫（著）『（増補）ドイツ文学案内』（岩波書店、1993年）

その他は講義内資料などで指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と貢献（25%）、リアクションペーパー（25%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当します。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具を必ず用意してください

（携帯電話等をメモがわりに利用することは認めません）

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識は必須ではありません。

・扱う作品・内容や順序は変更される場合もあります。

【Outline and objectives】

This course introduces german-language children's and juvenile literature: It deals with exclusively the worldwide best seller of all-times as well as highly estimated works from Germany and german-speaking areas like Austria or Switzerland, those derivative works from all over the world has proved to be also mega hits in Japan.

In the course, we also focus on "childhood" as a concept. What is the real actuality of children's and juvenile literature that are still adapted by the Hollywood, the Disney or the Studio Ghibli? What are we thinking about from the stories of "me"/"my self", "family", "school" or "friends"? Our works in this course would lead us also remembrance and reconsideration about our own childhood that bring us generous and definite differences.

ARSk300LA

比較文化 A 2017 年度以降入学者

ARSk300LA

比較文化 I 2016 年度以前入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画の食卓から見る比較文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスでは映画とその他のメディアに描かれた料理と食卓シーンを比較し、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化理解力を高める。

【到達目標】

- 異文化理解を深めること。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 形式的にも丁寧なレポートを書くこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

短いシーンを選んで分析し、鑑賞後は、ディスカッションまたは課題の提出を求めることもあります。補足的に様々なテキストを読むこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の内容と進め方の説明
②	孤食と軽食（1）	軽食店のシーンなど
③	孤食と軽食（2）	課題、ディスカッション
④	Dinner for two（1）	初アートのシーンなど
⑤	Dinner for two（2）	課題、ディスカッション
⑥	家族の会食と祝宴（1）	クリスマス、感謝祭の食卓シーンなど
⑦	家族の会食と祝宴（2）	課題、ディスカッション
⑧	飢えと暴飲暴食（1）	メルヘンから戦前戦後など貧しい時代の食卓シーン
⑨	飢えと暴飲暴食（2）	課題、ディスカッション
⑩	過剰消費社会と風刺（1）	伊丹十三『タンポポ』などについて
⑪	過剰消費社会と風刺（2）	課題、ディスカッション
⑫	古代と宗教上のモチーフ（1）	キリスト教の「晩餐会」と古代ギリシャの「饗宴」などについて
⑬	古代と宗教上のモチーフ（2）	課題、ディスカッション
⑭	学生の発表	レポートのフィードバックなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するのに適さない長文テキストは自分でダウンロードし、授業の前に読むという宿題があります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出も含む）： 50%

レポート提出と発表： 50%

受講者数によって評価方法が変わる可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業中にスマホ操作不可。

【Outline and objectives】

Food, Media, and Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will analyse the representations of food in films and other media.

ARSk300LA

比較文化 B 2017 年度以降入学者

ARSk300LA

比較文化 II 2016 年度以前入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

シンボル動物から見る比較文化

諸文化間の動物観とそれらのシンボルの意味を題材に、類似点と相違点を探求する。この授業では、主に神話、宗教や文学の視点から人間と動物の関係を学ぶ。

【到達目標】

- 人間と動物の関係についての理解、異文化の理解を深めること。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 形式的にも丁寧なレポートを書くこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

入門的な講義、テキスト購読（和訳）、全員で^ての討議、五回の課題とフィードバックによって授業を構成する。補足的に様々なメディアを鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	日本の狐と西欧の狐（1）	女性のイメージ対悪魔のイメージ
③	日本の狐と西欧の狐（2）	民話『狐ラインケ』からゲーテ『きつねのライネッケ』へ、課題、ディスカッション
④	日本の変身童話と西欧の変身童話（1）	『日本の昔ばなし』と『グリム童話』の比較
⑤	日本の変身童話と西欧の変身童話（2）	課題、ディスカッション
⑥	宗教と動物（1）	キリスト教のシンボル動物について
⑦	宗教と動物（2）	仏教のシンボル動物について、課題、ディスカッション
⑧	ギリシャ・ローマ神話と動物（1）	イルカ、馬について
⑨	ギリシャ・ローマ神話と動物（2）	動物の犠牲について
⑩	北欧神話と動物（1）	課題、ディスカッション
⑪	北欧神話と動物（2）	カラス、オオカミについて
⑫	詩人と白鳥（1）	課題、ディスカッション
⑬	詩人と白鳥（2）	「レダと白鳥」について
⑭	学生の発表	ワグナー『ローエングリン』について レポートのフィードバックなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するのに適さない長文テキストは自分でダウンロードし、授業の前に読むという宿題があります。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出も含む）： 50%、レポート提出と発表： 50%

受講者数によって評価方法が 変わる可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業中にスマホ操作不可。

【Outline and objectives】

What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 A 2017 年度以降入学者

ART300LA

ドイツの芸術 I 2016 年度以前入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏の芸術」と聞いて、何が思い浮かびますか？「ドイツ語圏」っほい芸術ってどういうことでしょうか？ というか、ドイツ語圏ってどこでしたっけ？

18 世紀から 19 世紀にかけて、中部ヨーロッパ（当時のドイツ、オーストリアとその周辺）には、「ドイツっほい (deutsch)」や「ドイツ人 (Deutsche)」の正体を、他でもない芸術を通じて追究しようとする人々が現われました。この授業では、秋学期開講の「ドイツ語圏の芸術 B」と併せて、近代ドイツ語圏の造形芸術（建築、デザイン）、音楽を概観することで、「ドイツ語圏の芸術」とカテゴライズされるものさまたげを内実に迫ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

【到達目標】

第一の目標は、近代のドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする）の文化・芸術に関する理解を深め、概念を通じた知識を習得するとともに、芸術に対する知的なアプローチの方法を学ぶことです。「芸術＝天才・エキセントリックなもの」という今日の世間一般に流布するイメージの成立には、19 世紀の欧州、とりわけドイツ語圏の芸術が決定的に影響したと言っても過言ではありません。

二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析を通じ、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21 世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。三つめの目標は、「ドイツっほい」というナショナルな表象（とそれに対する抵抗）を概観することで、アイデンティティの実体や困難について思考することです。「ドイツっほい」の不確かさと同程度には、「日本ならでは…」という言い方もあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

造形芸術、舞台芸術、建築、デザイン、音楽などの諸芸術のうち、今学期は 18 世紀末～20 世紀初頭の音楽と造形芸術を時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、作り手（芸術家）や時代背景、作品受容とその影響について確認する作業が中心です。

各回は、基本的に担当者による解説やテキストの講読を中心とする講義形式で行いますが、適宜ペアワーク、グループワークによる議論の時間を設け、「ここまでの内容・解説についてどう理解しようと思ったか」を授業参加者同士で互いに確かめ、理解を深められる機会とします。各授業後には、一定量のコメント（リアクションペーパー）を書き提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業について（オリエンテーション）、「ドイツ語圏」ってどこ？
第 2 回	ルネサンスから北方ルネサンスへーアルプス山脈を超えてみました	デューラー『野うさぎ』（1502 年）、『メランコリア I』（1514 年）ほか
第 3 回	仕事が欲しい音楽家ー「音楽の国ドイツ」の誕生？！	モーツァルト『弦楽四重奏曲第 1 番 長調 K.80 (73f) 「ローディ」』（1770-1773 年）ほか
第 4 回	ドイツ語で歌うオペラを作りたいー言語と芸術の優劣？	モーツァルト『後宮からの誘拐』（1782 年）『ドン・ジョヴァンニ』（1787 年）『魔笛』（1791 年）
第 5 回	ナポレオン後の世界と 1824 年の衝撃ー真理を「聴く」ための交響曲	ベートーヴェン『交響曲第五番ハ短調 作品 67 「運命」』（1808 年）『交響曲第九番ニ短調 作品 125 「合唱付」』（1824 年）
第 6 回	若者たちの憂いー「ドイツリート」の誕生	シューベルト『糸を紡ぐグレートヒェン』（1814 年）とゲーテの『ファウスト（悲劇第一部）』（1808 年）

第 7 回	反動と啓蒙の時代ー合唱と「ドイツ」を讃える歌	「フィルハーモニー」の誕生、「ジング・アカデミー」とゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』（1829 年）
第 8 回	「国歌」を歌ってみたい？ー「ドイツ人としての誇り」	ハイドン『弦楽四重奏曲第 77 番ハ長調「皇帝」』／「神よ、皇帝フランツを守り給え」（1797 年）／H. v. ファーラーズレーベン「ドイツの歌」（1841 年）
第 9 回	歴史を伝える絵画ー都市化するベルリンとドイツ帝国の誕生	メンツェル『ベルリン～ポツダム鉄道』（1947 年）『サンサーシ宮殿でのフリードリヒ大王のフルートコンサート』（1872-1875 年）
第 10 回	戦うオーストリアーヴィーンのワルツ・ビジネス	J. シュトラウスとその息子との確執、J. シュトラウス 2 世『青き美しきドナウ』（1867 年）『ウィーン気質』（1873 年）ほか
第 11 回	終わりの始まりー権威への思慕と反動のせめぎ合い	ウィーン工房とウィーン分離派（O. ヴァーグナー、J・ホフマンなど）
第 12 回	オワコンなブルジョワの光と影	クリムト『アデーレ・プロッホ＝パウアーの肖像』（1907 年）ほか
第 13 回	「新たな時代の生き方」ー「ブリュッケ」（表現主義）	O. ミュラー『水浴する風景』（1906 年）、キルヒナー『ノレンドルフ広場』（1912 年）『ポツダム広場』（1914 年）
第 14 回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内に配布されたプリント資料に、次授業までに再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品のカタログを見る、音楽を聴くなどでできればなお良いです。
・コンサート・ライブの体験や観劇は素晴らしいと思います。首都圏近郊の美術館へもぜひ「キャンパス・メンバーズ」などを活用し足を運んでください。

【テキスト（教科書）】

各回プリントを配布します。

【参考書】

宮田真治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）石多正男『歌曲と絵画で学ぶドイツ文化史 中世・ルネサンスから現代まで』（慶応義塾大学出版会、2014 年）
神林恒道編『ドイツ表現主義の世界 美術と音楽をめぐって』（法律文化社、1995 年）
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と貢献（25%）、リアクションペーパー（25%）、学期末レポート（50%）

*「クラシック音楽」の範疇のコンサート、ヨーロッパの古典演劇や舞踊（バレエ）、西洋美術や造形芸術の展覧会などの鑑賞に関し、学期末レポートと同水準でなおかつ「ドイツ」との関連が明確に論じられたレポートであれば、「授業への積極的な参加と貢献（25%）」ないし「リアクションペーパー（25%）」の評価に組み入れます。全てプロと認知される演者や作家の公演・展覧会であることが条件です。レポートの提出は一回限り、展覧会等の半券ないし日付の入った入場券購入記録の提出を義務とします（以上「フィールドワーク」に該当）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具を必ず用意してください
(携帯電話等をメモがわりに利用することは認めません)

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the Renaissance to the end of 19. century: It deals with mainly fine arts (including architecture and handcrafts-design) and music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. Our works in this course would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

ART300LA

ドイツ語圏の芸術 B 2017 年度以降入学者

ART300LA

ドイツの芸術 II 2016 年度以前入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏の芸術」と聞いて、何が思い浮かびますか？「ドイツ語圏」っぽい芸術ってどんな感じなんだろう？ というか、ドイツ語圏ってどこでしたっけ？

20 世紀、「ドイツ語圏」と呼ばれる地域は、二度の大戦を通じて国境線を幾度となく書きかえていきます。芸術家たちがいかに歴史に翻弄され、またそれに抗おうとしたのか？ この授業では、春学期開講の「ドイツ語圏の芸術 A」と併せて、近代ドイツ語圏の芸術（造形芸術、身体・舞台芸術）、建築（デザイン）、音楽を概観することで、「ドイツ語圏の芸術」とカテゴライズされるものささまざまな内実に向ります。願わくばこの授業が、みなさんの一生の友となりうる魅力的な創造力との出会いとなりますように。

【到達目標】

第一の目標は、近現代のドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスを中心とする）の文化・芸術に関する理解を深め、概念を通じた知識を習得するとともに、芸術への知的なアプローチの仕方を学ぶことです。

二つめの目標は、造形芸術や音楽の形式分析等を通じて、抽象的な議論に慣れることです。芸術を知的に理解し楽しめる能力は、わたしたちの人生を楽しく豊かに彩るだけではなく、21 世紀の「グローバルな人」に求められる資質です。

三つめの目標は、「ドイツっぽい」というナショナルな表象（とそれに対する抵抗）を概観することで、アイデンティティの実体や困難について思考することです。「ドイツっぽい」ものの不確かさと同程度には、「日本ならではの…」という言い方もあやしいものかもしれません。当たり前を疑うことの面白さを、ドイツ語圏の芸術の話題を通じて楽しく味わうとともに、その価値について自ら考えてみて欲しいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

今学期は、20 世紀のドイツ語圏から発信された造形芸術、舞台芸術、建築、デザイン、音楽などの諸芸術を幅広く、おおよそ時系列に沿って扱います。個別の作品分析とともに、作り手（芸術家）や時代背景、作品受容とその影響について確認する作業が中心です。

各回は、基本的に担当者による解説やテキストの講読を中心とする講義形式で行いますが、適宜ペアワーク、グループワークによる議論の時間を設け、「ここまでの内容・解説についてどう理解しようと思ったか」を授業参加者同士でお互いに確かめ、理解を深められる機会とします。各授業後には一定量のコメント（リアクションペーパー）を書き提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業について（オリエンテーション）、春学期の復習、第一次世界大戦が社会・芸術にもたらした変化
第 2 回	永世中立国スイスと「反芸術」— 言葉と音の大胆な融合	H. バル『ダダ宣言』（1916 年）、チューリヒ・ダダと T・ツァラの「キャバレー・ヴォルテールの夕べ」ほか
第 3 回	混乱と不条理を愛する— 「コラージュ」こそがモダニズムのパラダイム	ベルリン・ダダ（R. ハウスマン、H. ヘーヒほか）、K. シュヴィッターズ『メルツ絵画』（1919 年〜）ほか
第 4 回	美と労働と生活の結合— 田園都市ヘレラウの実験	「デザイン」の時代の到来、ドイツ工作連盟とドイツ工芸工房、教育と芸術の融合、第一次世界大戦と生活改革運動の限界
第 5 回	身体にリズムを取り戻す— モダンダンスの革命・女性の時代	ヘレラウ生まれのリトミック、R. ラバンの身体教育構想、M. ヴィグマンの舞踊教育施設ほか
第 6 回	「全ては建築に収束する」— バウハウスの誕生	W. グロピウス『バウハウス宣言』（1919 年）、表現主義と機能主義の混合、O. シュレンマーの舞台工房と『トリアディック・バレエ』（1922 年）ほか

第 7 回	審美的な芸術から機能主義へ— マイアーと M・v・d・ローエのバウハウス	W・グロピウスによるデッサウのバウハウス校舎（1925 年）、タイポグラフィとデザインの融合
第 8 回	ハイパーインフレと虚無の後で— 機械の時代の芸術	W. グロピウス『大都会』（1927/28 年）、C. シャート『ソーニャ』（1929 年）、A. ザンダー『20 世紀の人々 1892-1952』（1962 年）
第 9 回	ナチスの権力掌握と芸術— 「大ドイツ芸術展」と「退廃芸術展」	ナチスによるバウハウスの駆逐、ナチスの権力掌握と焚書（1933 年）
第 10 回	ベルリン・フィルの運命— 追われるユダヤ系芸術家	フルトヴェングラーとベルリン・フィル、近衛秀麿の見たベルリン・フィル
第 11 回	「アウシュヴィッツの後、詩を書くことは野蛮である」— 「ドクメンタ」の誕生	ドイツにモダニズム芸術を取り戻す（第一回ドクメンタ）、冷戦に翻弄される東西ドイツ、芸術の意味の多様化
第 12 回	社会主義リアリズム— 観てはいけない映画、聴いてはいけない音楽	映画『善き人のためのソナタ』（2006 年）、Th. プルスィヒ『太陽通り』（1999 年）を例に
第 13 回	電子音楽・ロック・クラブカルチャー— ミュジック・コンクレートからテクノまで	クラフトワーク『アウトバーン』（1974 年）、ベルリンの「ラブ・パレード」
第 14 回	まとめ	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内に配布されたプリント資料に、次授業までに再度目を通すこと。
・資料に記載の参考文献を読んだり、扱われた作品のカタログを見る、音楽を聴くなどでできればなお良いです。
・コンサート・ライブの体験や観劇は素晴らしいと思います。首都圏近郊の美術館へもぜひ「キャンパス・メンバーズ」などを活用し足を運んでください。

【テキスト（教科書）】

各回こちらからプリントを配布します。

【参考書】

宮田真治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）
W. ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『一方通行路』など（浅井健二郎ほか訳『ベンヤミン・コレクション（1）（2）』ちくま学芸文庫、1995 年/1996 年所収）
その他、適宜授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加）：33%
期末試験：34%
小テスト：33%
この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象外になりますので 注意をすること。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具を必ず用意してください
（携帯電話等をメモがわりに利用することは認めません）

【その他の重要事項】

・ドイツ語の知識（ドイツ語学習歴）の有無は問いません。ドイツ語のテキストを用いる場合は日本語訳を用意します。
・扱われる作品や順序は変更される場合があります。

【Outline and objectives】

This course introduces art scene in German speaking areas and countries from the end of 19. century(modernism) to the present era(contemporary art): It deals with mainly fine arts (including architecture and handicrafts-design), theatrical arts as well as classical and popular music. In the course, we also focus on "Deutsche (German)" or "deutsch (german-like)" as concepts that we might to feel got understand but actually could hardly understand without reflection. The works in the classes would lead us also reconsideration about general ideas or way of categorical thinking like "Japanese" "Japan" or "like Japanese".

LANd300LA

留学ドイツ語 A 2017 年度以降入学者

LANd300LA

留学ドイツ語 I 2016 年度以前入学者

平松 英人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

主に SA や派遣留学等で海外の大学で学ぶ準備として、あるいは、初級ドイツ語を終え中級ドイツ語の習得を目指す学生は、より実践的なドイツ語を身につけることのできる授業となる。通常のクラス授業で学んだ文法、表現を復習しながら、会話力、作文力、リスニング力、読解力を向上させていく。

【到達目標】

ドイツ語圏での生活、文化、教育、社会など多様なテーマに関する理解を深め、留学で特に重要になるリスニング力と自らの考えを「発信」する力を身につけることを到達目標とする。初級ドイツ語を終え、さらにドイツ語学習を続けたい学生は、独検三級以上合格を目指す語学力の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、マルチメディア教材も活用しながら、できるだけ多くドイツ語に触れる機会を持つ。まずはドイツ語圏での生活に必要な基礎的なリスニング、会話練習を多く行ないつつ、徐々に具体的なテーマについての知見を深め、最終的には個々のテーマに関し、自らの意見を発信できる訓練を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書、授業の進め方について
2	初対面、お互いを知ろう1	Kennen lernen, sich vorstellen
3	初対面、お互いを知ろう2	Verhalten beschreiben
4	様々な場所で1	Leben in der Stadt, Leben auf dem Lande
5	様々な場所で2	Wohnen und Wohnung
6	余暇とスポーツ1	Trends im Sport
7	余暇とスポーツ2	Freizeitbeschaeftigung
8	日常生活1	Ueber Gewohnheiten sprechen
9	日常生活2	Sich verabreden, jemanden einladen
10	教育と仕事1	Verschiedene Berufe und Ausbildung
11	教育と仕事2	Bewerbung, Lebenslauf
12	学び	Schule, Lehrer, Klassentreffen
13	まとめ	Studieren an der Universtitaat
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に重点を置いて学習すること。毎回復習のための宿題を出す。留学生活ではドイツ語の聞き取りが要となるので、なるべく多くのドイツ語を聞き、また自らも声に出して発音することで、ドイツ語の語感を身につけていってほしい。

【テキスト（教科書）】

初回授業時において指示する。

【参考書】

必要に応じて配布、指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加が期待される。期末試験（30%）・宿題（10%）に加え、授業への参加度を平常点（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの提案を反映する。

【Outline and objectives】

This course is intended for those who want to prepare for Study abroad or want to continue learning German after finishing an elementary course. This course aims to let the participants acquire practical communication skills by reviewing the basic grammar and expressions.

LANd300LA

留学ドイツ語 B 2017 年度以降入学者

LANd300LA

留学ドイツ語 II 2016 年度以前入学者

平松 英人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「留学ドイツ語 A」に引き続き、派遣留学等で海外の大学で学ぶための準備として、あるいは、初級ドイツ語を終え中級ドイツ語の習得を目指す学生は、より実践的なドイツ語を身につけることのできる授業となる。今までに学習した文法、表現を復習しながら、会話力、作文力、リスニング力、読解力を向上させていく。

【到達目標】

ドイツ語圏での生活、文化、教育、社会など多様なテーマに関する理解をより深め、それについて自らの考えを発信し、ドイツ語での議論ができるようになる。留学先での授業を想定し、レポートを書く、あるいはプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

マルチメディア教材も多く用い、個々の教材で扱われているテーマを理解し、議論につなげていく。受講生によるドイツ語での短いプレゼンテーションと議論の機会も設けたい。「留学ドイツ語 A」の履修は必ずしも必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書、授業の進め方について、先学期学習内容の確認
2	人間関係1	Ratschlaege geben, Auffordern
3	人間関係2	Streiten, Konsens finden
4	消費生活1	Einkaufen, Verkaufsgespraech
5	消費生活2	Werbeanzeigen, Auktion im Netz
6	メディアと現代社会1	Neue Medien, Kommunikationsspannen
7	メディアと現代社会2	Diskussion ueber neue Medien
8	旅行と移動1	Mobilitaet
9	旅行と移動2	Reise, Urlaub
10	プレゼンテーションとディスカッション1	参加学生による発表と討論1
11	プレゼンテーションとディスカッション2	参加学生による発表と討論2
12	プレゼンテーションとディスカッション3	参加学生による発表と討論3
13	まとめ	まとめ
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に重点を置いて学習すること。毎回復習のための宿題を出す。留学生活ではドイツ語の聞き取りが要となるので、なるべく多くのドイツ語を聞き、また自らも声に出して発音することで、ドイツ語の語感を身につけていってほしい。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

必要に応じて配布、指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加が期待される。期末試験（30%）・宿題（10%）に加え、授業への参加度を平常点（60%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの提案を反映する。

【Outline and objectives】

This course is intended for those who want to prepare for Study abroad or want to continue learning German after finishing an elementary course. This course aims to let the participants acquire practical communication skills by reviewing the basic grammar and expressions.

HSS300LA

スポーツ科学 A 2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I 2016 年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2~4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で週 1 回、半期にわたって開講される。学科を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム I	さまざまなボールゲームを行う（講義と実習）。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える（講義）。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う（講義と実習）。
5	ネットスポーツ I	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う（講義と実習）。
6	ネットスポーツ II	ネットスポーツとしてバドミントンを 行う（講義と実習）。
7	ネットスポーツ III	ネットスポーツとして卓球のシングルス を行う（講義と実習）。
8	ネットスポーツ IV	ネットスポーツとして卓球のダブルス を行う（講義と実習）。
9	ボールゲーム II	バスケットボールを行う（講義と実 習）。
10	ボールゲーム III	フットサルを行う（講義と実習）。
11	ネットスポーツ V	ネットスポーツとして簡易ルールにて バレーボールを行う（講義と実習）。
12	ネットスポーツ VI	ネットスポーツとしてバレーボールを 行う（講義と実習）。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行 う（講義と実習）。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析につい ての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えようとして授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を確認し十分な出席がされていれば以下のように評価する。

授業の取組み平常点 40 点

授業内課題 40 点

レポート課題 20 点

以上 100 点満点で、総合的に判断して授業担当教員が評価する。

またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

therefore, students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割についての理解を深め、生涯を通じて身体的・肉体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通して育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍するうえで、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で週 1 回、半期にわたって開講される。学科を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修可能者が決定される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明。 健康の概念についての講義を行う。
2	ボールゲーム I	さまざまなボールゲームを行う（講義と実習）。
3	生涯スポーツについて	自身のスポーツ歴から生涯スポーツを考える（講義）。
4	フィットネス	フィットネス機器を用いた運動を行う（講義と実習）。
5	ネットスポーツ I	ネットスポーツとしてインディアカとソフトバレーボールを行う（講義と実習）。
6	ネットスポーツ II	ネットスポーツとしてバドミントンを 行う（講義と実習）。
7	ネットスポーツ III	ネットスポーツとして卓球のシングルス を行う（講義と実習）。
8	ネットスポーツ IV	ネットスポーツとして卓球のダブルス を行う（講義と実習）。
9	ボールゲーム II	バスケットボールを行う（講義と実 習）。
10	ボールゲーム III	フットサルを行う（講義と実習）。
11	ネットスポーツ V	ネットスポーツとして簡易ルールにて バレーボールを行う（講義と実習）。
12	ネットスポーツ VI	ネットスポーツとしてバレーボールを 行う（講義と実習）。
13	体作り運動	コーディネーショントレーニングを行 う（講義と実習）。
14	スポーツ分析	スポーツを数字から見る分析につい ての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えようとして授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を確認し十分な出席がされていれば以下のように評価する。

授業の取組み平常点 40 点

授業内課題 40 点

レポート課題 20 点

以上 100 点満点で、総合的に判断して授業担当教員が評価する。

またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

使用教場の状況により授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

therefore,students who make this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students future of life.Concretely,we will educate to maintain and promote their own health,to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 A 2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I 2016 年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】

本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくめてきとする。

実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期・・・基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミンントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	受講希望理由を記入し決定する。
2	歴史とルール	バドミンントンの概要（講義&実技）
3	基本技術	フットワーク・ラケットワークの説明と使い方（講義・実技）
4	基本技術	シャトルを使つてのストローク（講義・実技）
5	基本ストローク	ドライブ技術習得（講義・実技）
6	基本ストローク	クリア技術習得（講義・実技）
7	基本ストローク	ドロップ&レシーブ技術習得（講義・実技）
8	基本ストローク	プッシュ&レシーブ技術習得（講義・実技）
9	基本ストローク	スマッシュ&レシーブ&ネット技術習得（講義・実技）
10	審判	ダブルスでの審判・線審の仕方（講義・実技）
11	ゲーム	半面シングルス
12	ゲーム	半面シングルスの結果により、実力別による
13	ゲーム	ダブルス
14	実技試験	基本ストローク実技試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

資料はその都度配布します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

個人競技であるため春学期は平均点（60点）と技術習得点（20点）とジャッジメント習得点（20点）の実技試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特になし

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴。

【その他の重要事項】

怪我の内容に、各自でトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

落合 久夫開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スポーツは、身体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・連帯感などの充実に加え豊かな人生の基盤となる健康の維持増進、体力向上、青少年の人間形成などに計り知れない大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。

【到達目標】

本科目は、バドミントンを通してこれらの事柄と共に運動の喜びや楽しさを知ることをもくめてきとする。

実技においては、最終的に歴史とルールを理解して、ダブルス・シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークを習得していく、同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期・・・基本となるフットワーク・ストローク技術の習得を中心にバドミントンの概要を学ぶ。同時にルールやゲーム方法も学んでいく。

実技においては、最終的にダブルス、シングルのゲームが基本ストロークを用いて出来るように基本となる 6 種類の種類のストロークをしっかりと習得していく。同時にゲームの組み立てなどを DVD を観戦させながら知識としても理解を深めていく。

バドミントン経験者は勿論のこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。なお春学期・秋学期連続受講が望ましく、秋学期の授業に関しては、春学期の授業を受講した者のみ受講を認めることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	基本技術	各ストロークの復習（講義&実技）
2	基本技術	各ストロークの確認（講義&実技）
3	シングルの組み立て	DVD 等による学習（講義）
4	シングルの組み立て	シングルのフットワーク・ラケットワーク技術（講義&実技）
5	シングルの組み立て	シングルのポジショニング（講義&実技）
6	ダブルスゲームの組み立て	DVD 等による学習（講義）
7	ダブルスゲームの組み立て	ダブルスのフォーメーション（講義&実技）
8	ダブルスゲームの組み立て	フォーメーション（トップ&バック）（講義&実技）
9	ダブルスゲームの組み立て	フォーメーション（サイド by サイド）（講義&実技）
10	ダブルスゲームの組み立て	ローテーション技術（講義&実技）
11	ダブルスゲーム	トランプによるペア決め
12	トリプル	ルール等の説明とやり方
13	トリプルゲーム展開	トリプルゲーム（講義&実技）
14	実技試験	各競技の技術試験（ジャッジメント含む）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントン技術習得方法として重要な、予習と復習の反復練習は大切な要素です。授業内だけではなく、授業外で地域のスポーツセンター等を活用して、予習・復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
その都度配布します。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】

個人競技であるため春学期は平均点（60点）と技術習得点（20点）とジャッジメント習得点（20点）の実技試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装、運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、各自でトレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】**Outline and Objectives**

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

磯部 薫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。
スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出しはありません。

【その他の重要事項】

初回授業時に受講者を決定する。その際、教場の関係から受講者数は 35 名程度とする。
第一回目の授業に必ず出席のこと。
春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Pay attention to how to enjoy according to your skills and try to become a trigger to incorporate sports autonomously into your own life work.
We will deepen our understanding of various eyes through lectures and experiential learning.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身に付け、自律的にスポーツを自分のライフワークに取り入れる一つのきっかけになる様心がける。
講義と体験的学習を通じて各種目に関する理解を深めていく。

【到達目標】

自己の体力レベルを把握することができる。
心身の健康増進を図ることができる。
生涯にわたる運動習慣を身に付けることができる。
コミュニケーション能力といった社会性を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は数種目のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、レポート課題や毎回のリアクションペーパーの評価を総合的に判断して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定等
2	マシントレーニング講習	目的に応じた効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ
3	講義	筋肉のしくみを学ぶ
4	講義	運動と食事の関係性を学ぶ
5	バドミントン I	バドミントンの競技特性・ルールの理解、ゲーム
6	バドミントン II	バドミントンの基本的技術の習得、ゲーム
7	卓球 I	卓球の競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	卓球 II	卓球の基本的技術の習得、ゲーム
9	バレーボール I	バレーボールの競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バレーボール II	バレーボールの基本的技術の習得、ゲーム
11	講義	メンタルトレーニングを学ぶ
12	講義	オリンピック競技を学ぶ
13	インディアカ	インディアカの競技特性・ルールの理解、ゲーム
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各種目 2020 オリンピック・パラリンピック種目でもあるので、日常のテレビや新聞、雑誌等で扱われるニュースに関心を持ち、各々の番組等で提起される課題について考えることが（予習）につながる。
また実習するにあたり、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します

【参考書】

必要に応じて資料を配布します

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 50 %：各授業で取り組むリアクションペーパー及び最終授業時に課すレポート課題 50 %
授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、授業に対する主体的・積極的な取り組み状況を評価の対象とするという意味である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

磯部 薫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身に付け、自立的にスポーツを自分のライフワークに取り入れる一つのきっかけになる様心がける。
講義と体験的学習を通じて各種目に関する理解を深めていく。

【到達目標】

自己の体力レベルを把握し、向上させることができる
心身の健康増進を図ることができる
生涯にわたる運動習慣を身に付けることができる
コミュニケーション能力といった社会性を習得することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は数種目のスポーツ実技や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、レポート課題や毎回のリアクションペーパーの評価を総合的に判断して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定等
2	マシントレーニング講習	トレーニング機器の使用方法和効果を学ぶ
3	講義	筋肉のしくみを学ぶ
4	講義	運動と食事の関係性を学ぶ
5	バドミントンⅠ	バドミントンの競技特性・ルールの理解、ゲーム
6	バドミントンⅡ	バドミントンの基本的技術の習得、ゲーム
7	卓球Ⅰ	卓球の競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	卓球Ⅱ	卓球の基本的技術の取得、ゲーム
9	バレーボールⅠ	バレーボールの競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バレーボールⅡ	バレーボールの基本的技術の習得、ゲーム
11	講義	メンタルトレーニングを学ぶ
12	講義	オリンピック競技を学ぶ
13	インディアカ	インディアカの競技特性・ルールの理解、ゲーム
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各種目 2020 オリンピック・パラリンピック種目でもあるので、日常のテレビや新聞、雑誌等で扱われるニュースに関心を持ち、各々の番組等で提起される課題について考えることが（予習）につながる。

また実習するにあたり、授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します

【参考書】

必要に応じて資料を配布します

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 50 %：各授業で取り組むリアクションペーパー及び最終授業時に課すレポート課題 50 %

授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、授業に対する主体的・積極的な取り組み状況を評価の対象とするという意味である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。
スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出しはありません。

【その他の重要事項】

初回授業時に受講者を決定する。その際、教場の関係から受講者数は 35 名程度とする。

第 1 回目の授業に必ず出席のこと。
春学期、秋学期を通じて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

Pay attention to how to enjoy according to your skills and try to become a trigger to incorporate sports autonomously into your own life work.

We will deepen our understanding of various eyes through lectures and experiential learning.

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：ウォーキング・ヨガストレッチ

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツ・ウォーキングについて説明できる。
3. スポーツ・ウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツ・ウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概要し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スポーツ・ウォーキングは、携帯アプリケーションを活用して授業を展開する。いくつかのグループに分け、大学周辺をコースとして実践する。雨天の場合は室内で実施する場合もある。

ヨガは、筋肉の解剖を意識して、ヨガのポーズを実践する。また呼吸を意識しながら瞑想状態に近づく様、心身のリラクゼーションを図る。

教室で行う講義は、DVD やプロジェクターを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	スポーツ・ウォーキングⅠ (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングについて概説し、身体における効用について説明し、大学周辺を実践する。
5	スポーツ・ウォーキングⅡ (講義および実習)	基本技術を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
6	ヨガⅠ (講義および実習)	ヨガについて概説し、基本のポーズと解剖学を説明する。
7	ヨガⅡ (講義および実習)	基本ポーズとその解剖学について説明し、実践する。
8	スポーツ・ウォーキングⅢ (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら実践する。特に走り型にならないように注意する。
9	スポーツ・ウォーキングⅣ (講義および実習)	バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
10	ヨガⅢ (講義および実習)	基本ポーズとその解剖学について説明し実践する。 呼吸法について説明し実践する。

1 1	スポーツ・ウォーキングⅤ (講義および実習)	携帯アプリケーションを活用して、移動距離数から身体活動に関わるエネルギー消費を検討する。
1 2	ヨガⅣ (講義および実習)	基本ポーズとその解剖学について説明し実践する。 呼吸法について説明し実践する。
1 3	ヨガⅤ (講義および実習)	基本ポーズを組み合わせて、連続した一連のヨガとして実践する。 Meditation（瞑想）の方法を説明する。
1 4	まとめ	スポーツ・ウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。
心身の健康への気付きを高めるため食事、栄養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 % 2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるように配慮する。

【その他の重要事項】

1. 本講義は活動に対する参画状況を重視する。
2. 体力測定に関するレポートおよび授業時に課したレポートの提出を単位認定条件とする。
3. 受講者数、男女比、天候などにより授業計画の変更もある。

【Outline and objectives】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期授業の場所・内容・注意事項の説明
2	体力測定	身長・体重・座高・胸囲・垂直跳び・握力・背筋力・反復横跳び・肺活量等
3	バドミントン	歴史と道具の説明、ラケットとシャトルになれる。(講義&実技)
4	バドミントン	基本ストロークの練習とシングルゲーム (講義&実技)
5	バドミントン	基本ストロークの練習とダブルゲーム (講義&実技)
6	ユニホック	歴史と道具とルールの説明、スティックとボールになれる。(講義&実技)
7	ユニホック	ゲーム
8	バスケットボール	歴史と道具とルールの説明、基本練習 (講義&実技)
9	バスケットボール	ゲーム
10	バレーボール	歴史と道具とルールの説明、基本練習 (講義&実技)
11	バレーボール	ゲーム
12	フットサル	歴史と道具とルールの説明、基本練習 (講義&実技)
13	フットサル	ゲーム
14	レポート	反省と感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整えうえて授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。」

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況 60%。

「2」課題・レポート 40%の配分として総合評価する。
この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我防止のため、トレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】**Outline and Objectives**

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学B 2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：バドミントン

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を確定する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに必修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週1回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業説明
2	バドミントン	基本ストロークと基本練習
3	バドミントン	全面シングルス
4	バドミントン	ダブルスゲーム
5	バスケットボール	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
6	バスケットボール	リーグ戦
7	バレーボール	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
8	バレーボール	リーグ戦
9	ユニホック	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
10	ユニホック	リーグ戦
11	フットサル	チームを決め、戦術・練習方法を考え練習をする
12	フットサル	リーグ戦
13	卓球	リーグ戦
14	レポート	レポートと反省・感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実習するにあたっては、授業の身体活動時に心身の不備がないように、各自が体調を整え、授業に臨むこと。また、授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。」

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

「1」授業中の活動に対する参画状況60%。

「2」課題・レポート40%の配分として総合評価する。

この総合評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

初めての授業なので特になし。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装・運動靴

【その他の重要事項】

怪我予防のために、トレーニングをしておくこと。

【Outline and objectives】

Outline and Objectives

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：バレーボール

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向（歴史）やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めしていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は 2 年生以上を対象としており、A・B 連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、ルールについて（講義）	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得（実習&講義）	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得（実習&講義）	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得（実習&講義）	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて（実習&講義）	コート上の位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割（実習&講義）	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術・レシーブのフォーメーションについて（実習&講義）	レシーブのフォーメーションについて理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 10 回	集団的技術・ゲーム①（実習&講義）	チーム分けをし、各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。
第 11 回	集団的技術・ゲーム②（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術・ゲーム③（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 13 回	集団的技術・ゲーム④（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。
第 14 回	筆記試験	筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習にあたっては、運動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また、基本的なルールや技術に必要な要点など、各自で行った内容を理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（60 %）を主な基準として、筆記試験（40%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

HSS300LA

スポーツ科学B 2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：バレーボール

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

2年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチバレー（アウトドア）バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃（レシーブ・トス・スパイク）を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めしていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、春学期Aで習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業（B）は2年生以上を対象としており、Aを受講した学生の連続受講が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	バレーボールのトレーニングについて（実習&講義）	バレーボールに必要な体力要素を理解し、トレーニング実習を行う。
第2回	ビーチバレーの紹介（講義）	ビーチバレーのルールやインドアバレーとの違いについて理解する。
第3回	基本技術、集団技術の復習（実習&講義）	Aで行った基本的技術や集団的技術を復習する。
第4回	各技術の応用（実習&講義）	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第5回	集団的技術・ゲーム①（実習&講義）	Aとは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第6回	集団的技術・ゲーム②（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。Aよりも質の高いプレーを目指し、ゲームでの反省点も理解する。
第7回	集団的技術・ゲーム③（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第8回	集団的技術・ゲーム④（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第9回	集団的技術・ゲーム⑤（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第10回	集団的技術・ゲーム⑥（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第11回	集団的技術・ゲーム⑦（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第12回	集団的技術・ゲーム⑧（実習&講義）	チームごとに戦略を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第13回	実技試験（実習&講義）	授業で行ってきた各技術の要点を振り返り、実技試験を行う。
第14回	レポート作成、提出	レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習にあたっては、運動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況（70%）を主な基準として、レポート（30%）を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目（バレーボール）の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は2年生から4年生（法・文・営・国）ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現Vリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline and objectives】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：バスケットボール

小谷 究

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業では、バスケットボール競技の基本技能を学び、理解を深めることにより、バスケットボール競技を生涯スポーツの一つに位置付けるきっかけをつくることをねらう。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自ら技能を高めるために、自主的に取り組む姿勢を身につける（関心・意欲・態度）。 2. 自主的に、自分自身および周囲の安全性に配慮して、バスケットボール競技の練習ができる（関心・意欲・態度）。 3. バスケットボール競技の安全に関するルールについて説明することができる（知識・理解）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実技では、鬼ごっこ等を活用したウォームアップから始まり、前半は技術ドリルを行い、後半はドリルをもとにゲームを行う。最後にスタティックストレッチによるクールダウンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の概要説明、安全に関するルールについての説明
第 2 回	ボールコントロールに関する技能の練習①	ボールハンドリング
第 3 回	ボールコントロールに関する技能の練習②	ドリブル
第 4 回	ボールコントロールに関する技能の練習③	パス
第 5 回	ボールコントロールに関する技能の練習④	セットショット
第 6 回	トレーニング理論	バスケットボール競技に特異的なトレーニング
第 7 回	チームビルディング（コンセンサス）	コンセンサスゲームを用いて、チームスポーツ及びチームにおける合意の重要性を理解し、後に続くスポーツ実技への展開を考察する。
第 8 回	卓球	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
第 9 回	卓球	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
第 10 回	ボールコントロールに関する技能の練習⑤	ゴール下ジャンプショット
第 11 回	ボールコントロールに関する技能の練習⑥	レイアップショット
第 12 回	知識確認①	バスケットボール競技の安全性に関するルールの確認 1
第 13 回	知識確認②	バスケットボール競技の安全性に関するルールの確認 2
第 14 回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動等に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料はその都度配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

開講授業回数の 2/3 以上の出席がなければ、単位は認定されない。到達目標 1 の「興味・関心」および「自主的に取り組む姿勢」については、出席状況と観察により評価する（60%）。到達目標 2 の「安全性への配慮」に関しては、授業時に危険な行動を取った場合に減点する（20%）。到達目標 3 の「ルール」については、レポートもしくは小テストにより評価する（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

意欲的な学生が多いのでルールを覚える事とともに継続的に健康・体力維持するために必要なことを指導していきたい。

【Outline and objectives】

In this lesson, by learning the basic skills of basketball competition and deepening their understanding, we aim to create a chance to position basketball competition as one of lifelong sports.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：バスケットボール

小谷 究

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、バスケットボール競技の基本技能を学び、理解を深めることにより、バスケットボール競技を生涯スポーツの一つに位置付けるきっかけをつくることをねらう。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自ら技能を高めるために、自主的に取り組む姿勢を身につける（関心・意欲・態度）。 2. 自主的に、自分自身および周囲の安全性に配慮して、バスケットボール競技の練習ができる（関心・意欲・態度）。 3. バスケットボール競技の安全に関するルールについて説明することができる（知識・理解）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実技では、鬼ごっこ等を活用したウォームアップから始まり、前半は技術ドリルを行い、後半はドリルをもとにゲームを行う。最後にスタティックストレッチによるクールダウンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の概要説明、安全に関するルールについての説明
第 2 回	ボールコントロールに関する技能の練習①	ボールハンドリング
第 3 回	ボールコントロールに関する技能の練習②	ドリブル
第 4 回	ボールコントロールに関する技能の練習③	パス
第 5 回	ボールコントロールに関する技能の練習④	セットショット
第 6 回	トレーニング理論	バスケットボール競技に特異的なトレーニング
第 7 回	チームビルディング（コンセンサス）	コンセンサスゲームを用いて、チームスポーツ及びチームにおける合意の重要性を理解し、後に続くスポーツ実技への展開を考察する。
第 8 回	卓球	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
第 9 回	卓球	卓球の競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、シングルス及びダブルスのゲームを行う。
第 10 回	ボールコントロールに関する技能の練習⑤	ゴール下ジャンプショット
第 11 回	ボールコントロールに関する技能の練習⑥	レイアップショット
第 12 回	知識確認①	バスケットボール競技の安全性に関するルールの確認 1
第 13 回	知識確認②	バスケットボール競技の安全性に関するルールの確認 2
第 14 回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動等に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料はその都度配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

開講授業回数の 2/3 以上の出席がなければ、単位は認定されない。到達目標 1 の「興味・関心」および「自主的に取り組む姿勢」については、出席状況と観察により評価する（60%）。到達目標 2 の「安全性への配慮」に関しては、授業時に危険な行動を取った場合に減点する（20%）。到達目標 3 の「ルール」については、レポートもしくは小テストにより評価する（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

意欲的な学生が多いのでルールを覚える事とともに継続的に健康・体力維持するために必要なことを指導していきたい。

【Outline and objectives】

In this lesson, by learning the basic skills of basketball competition and deepening their understanding, we aim to create a chance to position basketball competition as one of lifelong sports.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：トレーニング

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった個々の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 個々の目標達成に資する独自のトレーニングプログラムを考案する。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義と体験的学習を通じてトレーニングに関する理解を深めていく。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、個々が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングメニューの幅を広げる。各授業では、個々が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況及び成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、独自のトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定、トレーニング目標の設定（講義）
2	トレーニング入門	安全講習及び各種機器の使用方法について学ぶ（講義及び実習）
3	トレーニングの理論 1	トレーニングの原理・原則について学ぶ（講義）
4	トレーニングの理論 2	体幹トレーニングの理論と実践（講義及び実習）
5	自己理解の促進	グループワークを通じて自己理解、他者理解を促進する（講義及び実習）
6	トレーニングの進め方	リカバリーレートと超回復について学ぶ（講義及び実習）
7	トレーニングと体組成	トレーニングと体組成の関係について学ぶ（講義及び実習）
8	トレーニングと栄養	トレーニング効果を高める食事・サプリメントの摂取の仕方について学ぶ（講義及び実習）
9	トレーニングと睡眠	トレーニング効果を高める睡眠のとり方について学ぶ（講義及び実習）
10	無酸素運動	無酸素運動について学ぶ（講義及び実習）
11	有酸素運動	有酸素運動について学ぶ（講義及び実習）
12	上肢のトレーニング	上肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下肢のトレーニング	下肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	総括	トレーニングプログラムに関するレポートの作成・提出、授業のまとめ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニング効果促進のため、食事、栄養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

特定の参考書は使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパーおよび授業への参画状況（50%）、レポート課題（50%）による総合評価。
2. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とするため、初回授業から出席すること。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味である。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 講義中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30 名程度）を決定する。なお、継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となる。そのため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましい。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館 1 階・会議室の予定である。
3. 上記の授業計画は、受講者数等によって変更される場合がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles and methods of physical training. It also enhances the development of student's skill in an original training program.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：トレーニング

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ科学 A での学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった個々の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 個々の目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案する。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義と体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について理解を深めていく。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、個々が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学 A において考案したトレーニングプログラムをブラッシュアップする。各授業では、個々が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況及び成果をまとめたりアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、独自のトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定、トレーニングプログラムの再考（講義及び実習）
2	トレーニング再入門	安全講習及び各種機器の効果的な使用方法に関する情報共有（講義及び実習）
3	自己理解の促進	グループワークを通じて自己理解、他者理解を促進する（講義及び実習）
4	トレーニングと姿勢	トレーニングと姿勢について学ぶ（講義及び実習）
5	ストレッチ	ストレッチの理論と実践（講義及び実習）
6	有酸素運動と無酸素運動	有酸素運動と無酸素運動の効果について学ぶ（講義及び実習）
7	胸部のトレーニング	胸部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
8	肩部のトレーニング	肩部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
9	背部のトレーニング	背部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
10	腹部のトレーニング	腹部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
11	腕部のトレーニング	腕部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
12	大腿のトレーニング	大腿のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下腿のトレーニング	下腿のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	総括	トレーニングプログラムに関するレポートの作成・提出、授業のまとめ（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニング効果促進のため、食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

特定の参考書は使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパーおよび授業への参画状況（50%）、レポート課題（50%）による総合評価。
2. 原則として欠席 3 回までを評価の対象とするため、初回授業から出席すること。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味である。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 講義中の私語等、他の受講生の不利益となる行為は厳禁とする。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に受講者（30 名程度）を決定する。その際、スポーツ科学 A・B の通年履修を推奨する観点から、春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用する。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館 1 階・会議室または地下トレーニングセンターの予定である。
3. 上記の授業計画は、受講者数等によって変更される場合がある。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the applied principles and methods of physical training. It also enhances the development of students' skill in an original training program.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4 年 ※定員制

この成績評価は原則的なものであり、特別な理由がある場合、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の主体性を考慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

教場等、場合により変更の可能性もあります。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③卒業後の実社会において活躍する上で、重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず2年生以上が履修可能であるが、受講者数に制限があるため、第1回目のガイダンスにおいて履修可能者が決定される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についてのガイダンス及び履修者確定
2	ウォーミングアップ	ウォーミングアップの重要性について講義及び実習
3	リーダーシップとボールゲーム 1	リーダーシップについて講義及び実習 1
4	リーダーシップとボールゲーム 2	リーダーシップについて講義及び実習 2
5	チームワークとボールゲーム	チームワークについて講義及び実習
6	コミュニケーションと身体活動	コミュニケーションについて講義及び実習
7	筋力トレーニング	トレーニングについて講義及び実習
8	トレーニングと健康	トレーニングと健康について講義
9	チームワークと身体活動	チームワークについて講義及び実習
10	フィットネス	フィットネスについて講義及び実習
11	コミュニケーションとボールゲーム	コミュニケーションについて講義及び実習
12	レクリエーションと身体活動	レクリエーションと身体活動について講義及び実習
13	レクリエーションとボールゲーム 1	レクリエーションとボールゲームについて講義及び実習 レポート課題
14	レクリエーションとボールゲーム 2	授業の総括及びレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、その都度指示をする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業の活動に対する参画状況 60%
- ②課題・レポート 40%の配分として総合評価する。

HSS300LA

スポーツ科学B

2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合、授業1回目のガイダンス時に決定する。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**
あり/Yes**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容等についてのガイダンス 受講者確定
2	ウォーミングアップ	ウォーミングアップの講義及び実践
3	体力測定	体力測定の意義及び実践
4	バドミントン	スポーツと健康について講義 バドミントンの基礎技術の習得及びゲーム
5	バレーボール	スポーツと健康について講義 バレーボールの基礎技術の習得及びゲーム
6	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
7	トレーニング演習	トレーニング理論の講義及び実践
8	運動と健康	運動の効果について講義
9	卓球	スポーツと健康について講義 卓球の基礎技術の習得及びゲーム
10	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
11	筋力トレーニング	筋力トレーニングについて講義及び実践
12	バスケットボール	スポーツと健康について講義 バスケットボールの基礎技術習得及びゲーム
13	フットサル	スポーツと健康について講義フットサルの基礎技術習得及びゲーム
14	総括	レポート課題 授業の総括 健康についてのディスカッション レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

自分の健康管理を十分に行い、常に良好な状態で履修することが望ましい。教場等、計画通りに進行できないこともある。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：フィットネス

笠井 淳開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について理解を深める。
豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、希望者多数の場合、1回目の授業ガイダンスにおいて履修者を決定する。

授業はトレーニング実習が主となる他、幾つかのスポーツも実践する。
PDCA 理論にのっとり、各自のトレーニング計画を立て、それに沿った内容で実習を行う。毎回トレーニング内容とリアクションペーパーを作成し提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容についてガイダンスを行う 履修者を決定する
2	ウォーミングアップの意義	ウォーミングアップの意義についての 講義及び実践
3	トレーニングの基礎	トレーニングの基礎理論について講義
4	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
5	講義及び卓球	スポーツと健康について講義 卓球の基礎技術の習得及びゲーム
6	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
7	トレーニング演習 1	PDCA 理論に沿ったトレーニングの 実践 講義及び実習
8	トレーニング演習 2	PDCA 理論に沿ったトレーニングの 実践 講義及び実習
9	トレーニング演習 3	PDCA 理論に沿ったトレーニングの 実践 講義及び実習
10	トレーニング演習 4	PDCA 理論に沿ったトレーニングの 実践 講義及び実習
11	トレーニング演習の チェック	PDCA 理論に沿ったトレーニングの チェック 講義及び実習
12	トレーニング演習 5	PDCA 理論に沿ったトレーニングの 実践 講義及び実習
13	ディスカッション	トレーニング内容についてディスカ ッションを実施 レポート課題
14	授業総括	授業を総括する レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備がないよう、各自が体調を整えた上で臨むこと。
授業後の課題や次の授業への準備等は、その都度の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40% の配分として総合評価する。この成績評価は方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに即した内容の提供を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

日頃より各自の健康状態をチェックし、常に良好な状態での履修が望ましい
教場等、計画通りに進行しない場合もある。

【Outline and objectives】

This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this cour are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

スポーツ科学B 2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ 2016年度以前入学者

サブタイトル：フィットネス

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週1回、半期にわたりって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合1回目のガイダンス時に履修者決定を行う

各自の計画に基づくトレーニング及び数種目のスポーツ実践を行う。
PDCA理論に沿ったトレーニングの立案、実施、評価、見直しを行う。毎時間トレーニング内容及び反省を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容のガイダンス 受講者の決定
2	PDCA理論	PDCA理論について講義する
3	トレーニング理論	トレーニング理論について講義する
4	コアトレーニング	コアトレーニングについて講義及び実践
5	講義及び卓球	スポーツと健康について講義。卓球の基礎技術習得及びゲーム 講義及び実習
6	有酸素運動	有酸素運動について講義及び実践
7	トレーニング演習1	トレーニング計画に沿った内容の実践 講義及び実習
8	トレーニング演習2	トレーニング計画に沿った内容の実践 講義及び実習
9	トレーニング演習3	トレーニング計画に沿った内容の実践 講義及び実習
10	トレーニング演習4	トレーニング計画に沿った内容の実践 講義及び実習
11	トレーニング内容のチェック	トレーニング内容をチェックし、必要に応じて見直しをする。 講義
12	トレーニング演習5	トレーニング計画に沿った内容の実践 講義及び実習
13	ディスカッション	トレーニング内夜についてディスカッションを行う 講義及び実習
14	授業の総括	レポート課題 授業の総括を行う レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況60%、2) 課題・レポート40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

各自の健康管理を十分行い、常に良好な状態で参加することが望ましい。教場等、計画通りに施行しない場合もある。

【Outline and objectives】

This course will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016 年度以前入学者

サブタイトル：トレーニングを科学する・Basic course

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

この授業は 2 年生以上が対象です。

トレーニング理論を包括したコンディショニングの一環であるストレングス（筋力）トレーニングについて、自主的かつ多角的な学修を通じて独自のトレーニングプログラムを作成し、その効果を検証するアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニング器材を安全に使用できる
- 2：トレーニング器材を応用した各種測定方法を利用できる
- 3：測定結果からトレーニング効果を評価できる
- 4：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 5：トレーニングの結果を正しく記録できる
- 6：トレーニング効果を検証した学修過程を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の 1 回目はガイダンス（教室）です。

ガイダンス後に 15 名までの履修者を確定します。

授業の 2 回目から以下の 4 期（目標、計画、実行・評価、反省・改善）に分けてゼミを進めていきます。主な教場は体育館 B1F トレーニングセンター（以下、トレセン）です。

1. 課題を検討し決める期間

自分自身の筋力を把握するための測定と分析・評価を通じて、このゼミで取り組む課題（自分自身の身体や体力について改善したいこと）を明確にする期間です。

2. 計画を立案する期間

改善したい課題と段階的な目標を決める期間です。効果が期待できる適切なトレーニング方法を実践を通じて決めていく（実行可能なデザイン）期間です。

3. 実行の期間

計画したトレーニングを積極的に実行する期間です。実施した内容を正確に記録する方法を学習し、随時その結果を自己分析し、評価した結果をゼミ内で共有します。

4. 反省・改善の期間

トレーニング効果を検証し、ゼミ内で共有する期間です。春学期に取り組んだ過程を発表し、秋学期の課題を検討しより良い方法を見出していきます。以上のように、本ゼミは教員からの一方的な講義を受けるのではなく、履修者が自主的・能動的にゼミ活動に取り組むことを重視した双方向性・相互啓発性の高い授業を目指し、その過程で専門的なトレーニングの理論と実践方法を学び取り、自身の課題解決につなげることをねらいとしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	課題検討期 I	<トレセン> ①筋力を把握するための測定と分析・評価を行う
3	課題検討期 II	<トレセン> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定し、その分析・評価を行う ②ゼミで取り組む課題を検討する

4	課題検討期 III	<教室> ①食事調査からカロリー計算による食事（摂取）・運動（消費）のバランスを考える ②ゼミで取り組む課題を検討する
5	課題決定期	<教室> ①ゼミで取り組む課題を明確にする ②トレーニング記録方法を確認する
6	計画立案期 I	<トレセン> ①効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に大きな筋を刺激する種目）を検討する ②検討したトレーニング方法を記録する
7	計画立案期 II	<トレセン> ①効果が期待でき、継続的に実践できるトレーニング方法（主に小さな筋を刺激する種目）を検討する ②決定したトレーニング方法を記録する ③トレーニングプログラムを作成する
8	計画実行期 I	<トレセン> ①決定したトレーニング種目のプログラム一覧を提出 ②作成したトレーニングプログラムの実践と見直し（主に運動種目の配置・組み合わせ） ③実施したトレーニングを記録する
9	計画実行期 II	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（時間内に達成できる種目の順序を考える） ②実施したトレーニングを記録する
10	計画実行期 III	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（適切な運動強度の決定） ②実施したトレーニングを記録する
11	計画実行期 IV	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（セット法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
12	計画実行期 IV	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの実践（ピラミッド法の検討） ②実施したトレーニングを記録する
13	計画実行・効果検証期	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・発表・総括	<教室> ①春学期に取り組んだ学修過程を発表する ②秋学期の課題を検討する ③春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した 6 項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. ゼミ活動前の測定評価に関するレポート：20%
2. トレーニングプログラム：20%
3. ゼミ活動後の測定評価を検証したレポート：20%
4. 成果発表（作成した資料、発表態度など）：40%

【学生の意見等からの気づき】

小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になったようです。履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したようで、2017 年度および 2018 年度の履修者は 25 名以上となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。

そこで、2019年度の授業においては、少人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしてい予定です。そのため、もし、ガイダンスにおいて履修受入れ予定の15人を超えてた場合は、「その他の重要事項」に書かれた方法などによって履修制限を行うことを理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が15名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. 1を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

5. 授業を担当する教員はJOC医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must create their own training programs and verify their effectiveness.

Students have to take active acts in class.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：トレーニングを科学する・Advanced course

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・トレーニングを科学する（Basic course）：月曜日3限」の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である教養ゼミⅠの単位取得者が履修できます。

基本的な授業形式は教養ゼミⅠと同様ですが、教養ゼミⅠよりも体験や実習に多くの時間を割くことで、「よくわかっていること」を「できること」に変えていくという応用的な実践力を養うことを目的にします。

【到達目標】

- 1：目的に応じたトレーニング方法を実践できる
- 2：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
- 3：段階的な計画を実行できる
- 4：一定期間実践したトレーニング効果を検証できる
- 5：検証したトレーニング効果を発表できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ活動の1回目は体育館B1Fトレーニングセンター（以下、トレセン）です。

教養ゼミⅡでは、教養ゼミⅠの反省改善期に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（履修者は授業に自主的・能動的に参加）ことを目指します。そのため、ゼミの1回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように3期に分けて進めていきます。

1. 課題・計画を決める期間

自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏季休暇前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。

2. 実行と検証の期間

計画したトレーニングを実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次回ゼミ活動に活かします。

3. 発表・共有の期間

トレーニング効果を総括した結果を発表し、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期Ⅰ	<トレセン> ①授業概要と目標の説明 ②筋力を把握するための測定と分析を行う
2	課題・計画の検討期Ⅱ	<トレセン> 測定結果を「夏季休暇前後」で比較し、新たなトレーニングプログラムを模索する
3	課題・計画の検討期Ⅲ	<教室> ①教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ②トレーニングプログラムを試作する
4	課題・計画の決定期Ⅰ	<教室> 「夏季休暇前後」で比較した測定結果を分析・評価したレポートを作成する
5	課題・計画の決定期Ⅱ	<教室> ①取り組む課題を決定する ②トレーニングプログラムを作成する
6	実行期Ⅰ	<トレセン> ①作成したトレーニングプログラムを実行し種目を見直し適宜修正する ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しリアクションペーパーを提出する

7	実行期Ⅱ	<p><トレセン></p> <p>①作成したトレーニングプログラムを実行し運動強度を見直し適宜修正する</p> <p>②実施した内容を正確に記録する</p> <p>③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する</p>
8	実行期Ⅲ	<p><トレセン></p> <p>①トレーニング法を決め、プログラムを確定する</p> <p>②実施した内容を正確に記録する</p> <p>③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する</p>
9	実行期Ⅳ	<p><トレセン></p> <p>①トレーニングプログラムを実行し運動強度を調整する</p> <p>②実施した内容を正確に記録する</p> <p>③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する</p>
10	実行期Ⅴ	<p><トレセン></p> <p>①トレーニングプログラムを実行する</p> <p>②実施した内容を正確に記録する</p> <p>③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する</p>
11	実行期Ⅵ	<p><トレセン></p> <p>①トレーニングプログラムを実行するとともに効果を検証する方法を検討する</p> <p>②実施した内容を正確に記録する</p> <p>③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する</p>
12	実行期Ⅶ	<p><トレセン></p> <p>①作成したトレーニングプログラムの効果を検証するための測定</p> <p>②測定結果を分析・評価する</p> <p>③これまでの学修過程の整理と反省を行う</p> <p>④考察した測定結果をゼミ内で共有する</p>
13	発表・共有期Ⅰ	<p><教室></p> <p>秋学期に取り組んだ学修過程とトレーニング効果の検証結果を発表する</p>
14	発表・共有期Ⅱ、総括	<p><教室></p> <p>①秋学期に取り組んだ学修過程とトレーニング効果の検証結果を発表する</p> <p>②秋学期を総括する</p>

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニングセンターや自宅で実践可能なトレーニングを行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した5項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業で提示した課題のレポート：30%
2. 授業におけるアクションペーパー：30%
3. 成果発表（作成した資料、発表態度など）：40%

【学生の意見等からの気づき】

小人数制の授業であるため、個々の履修者に対して目配りができ、効率的で実践的な授業になったようです。履修者の多くが先輩や知人から紹介されて受講したようで、2017年度および2018年度の履修者は25名以上となり、授業中にきめ細やかな配慮が行き届かない状況となりました。

そこで、2019年度の授業においては、小人数制を維持し、シラバスに沿ったより実践的な授業にしていく予定です。そのため、もし、ガイダンスにおいて履修受入れ予定の15人を超えた場合は、「その他の重要事項」に書かれた方法などによって履修制限を行う場合があることを理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

トレーニングを安全で効率的に実践できるトレーニングウェアやシューズ

【その他の重要事項】

1. 教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。
2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester. In the class, it is an active learning type that practices and verifies for strength training.

Students must to make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.

Students have to take active acts in class.

HSS300LA

スポーツ科学A

2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学I

2016年度以前入学者

サブタイトル：シェイプアップの実践と検証

伊藤 マモル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は2年生以上が対象です。
隠れ肥満や運動不足によって低下した身体機能を健康づくりの3本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレンクス）でシェイプアップしていくことを目的としたアクティブラーニング型の授業です。本授業を通じて、心身のコンディションを整えるために必要な知識と実践力を身につけます。

【到達目標】

- 1：トレーニングの原理・原則を理解している
- 2：スマートホンのアプリケーションを使用して必要な測定ができる
- 3：ストレッチングを正しく行える
- 4：ジョギングまたはウォーキングを正しく行える
- 5：ストレンクストレーニングを安全に行える
- 6：実践した運動の結果を正しく記録できる
- 7：スポーツや運動の功罪を説明できる
- 8：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下に示した内容を授業のルーチンとして行います。

- 1) シェイプアップにかかわる運動科学の知識と実践に関するショートレクチャーを行う
- 2) ウォームアップ時にセルフコンディションチェックを行う
- 3) 授業のテーマに取り組む
- 4) ウォームダウンを行う
- 5) リアクションペーパーを提出する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	身体組成と柔軟性の測定	<教室> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ②柔軟性の測定と評価
3	筋力の測定	<トレセン> ストレンクスマシンを利用した筋力測定と評価を行う
4	有酸素能力の測定	<大学周辺> ①ウォーキングまたはジョギングによる活動量を調べるための測定を行う ②測定結果を運動強度から分析し評価を行う
5	シェイプアップ・トレーニングI	<大学周辺> ①ウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
6	シェイプアップ・トレーニングII	<トレセン> ①ストレッチングを主としたコンディショニングを実践する ②実施した運動を記録する
7	シェイプアップ・トレーニングIII	<トレセン> ①ストレンクスマシンを主としたトレーニングの実践（大きな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する

8	シェイプアップ・トレーニングIV	<大学周辺> ①カルボーネン法による運動強度にしたがったウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
9	シェイプアップ・トレーニングV	<トレセン> ①メディシンボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
10	シェイプアップ・トレーニングVI	<トレセン> ①バランスボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
11	シェイプアップ・トレーニングVII	<大学周辺> ①ボルグ指数を意識したウォーキングまたはジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
12	シェイプアップ・トレーニングVIII	<トレセン> ①ストレンクスマシンを主としたトレーニングの実践（小さな筋を刺激する種目） ②実施した運動を記録する
13	シェイプアップ・トレーニングIX	<トレセン> ①ストレンクスマシンを主としたトレーニングの実践（ピラミッド法を用いる） ②実施した運動を記録する
14	総括・レポート作成	<トレセン> ①春学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②春学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではシェイプアップを目的としたトレーニングを実践していくため、各自で体調を整え授業に参加してください。そのためにも、トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行った前後のバイタルチェックを行ったり、授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した8項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業中のトレーニングへの参画状況：30%
2. リアクションペーパー：30%
3. 春学期の学修過程をまとめたレポート：40%

※ 以上の成績評価基準は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により本授業におけるトレーニングが困難である履修者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019年度からの新設開講した授業のため記述することがない。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能なスマートフォン

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が30名を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。
2. 1を踏まえ、スポーツ科学Bまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。
3. スポーツ科学Aの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期のスポーツ科学Bの受講を認めません。
4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。
5. 授業を担当する教員はJOC医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

This class is active learning type.

In this class we practice stretching, jogging and strength training. Your body that has decayed will be shape up if you participate in this class.

Through this class, you can acquire the necessary knowledge and practical skills to prepare the mind and body condition.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 II

2016 年度以前入学者

サブタイトル：シェイプアップの実践と検証

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は2年生以上のスポーツ科学 A からの継続履修者を対象にしています。

本授業では、隠れ肥満や運動不足によって低下した身体機能を健康づくりの3本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレンクス）でシェイプアップしていくことを目的としたアクティブラーニング型の授業です。本授業を通じて、心身のコンディションを整えるために必要な知識と実践力を身につけます。

【到達目標】

- 1：ストレンクスマシンを用いた筋力測定ができる
- 2：運動強度を意識したウォーキングまたはジョギングができる
- 3：ストレッチングを効果を説明できる
- 4：ジョギングまたはウォーキングの注意点を述べるができる
- 5：ストレンクストレーニングの負荷を適切に設定できる
- 6：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

以下に示した内容を授業のルーチンとして行います。

- 1) シェイプアップにかかわる運動科学の知識と実践に関するショートレクチャーを行う
- 2) ウォームアップ時にセルフコンディションチェックを行う
- 3) 授業のテーマに取り組む
- 4) ウォームダウンを行う
- 5) リアクションペーパーを提出する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	身体組成と柔軟性の測定	<教室> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ②柔軟性の測定と評価 ③春学期の結果と比較する
3	筋力の測定	<トレセン> ①ストレンクスマシンを利用した筋力測定と評価を行う ②春学期の結果と比較する
4	有酸素能力の測定	<大学周辺> ①ウォーキングまたはジョギングによる活動量を調べるための測定を行う ②春学期の結果と比較する
5	シェイプアップ・トレーニング I	<大学周辺> ①カルボネン法またはボルグ指数による運動強度でジョギングを行う ②身体組成、活動量を測定し評価する
6	シェイプアップ・トレーニング II	<トレセン> ①パートナーストレッチングを主としたコンディショニングを実践する ②実施した運動を記録する
7	シェイプアップ・トレーニング III	<トレセン> ①サーキットトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
8	シェイプアップ・トレーニング IV	<大学周辺> ①ジョギングを行い、走行時間および距離から運動量を検討する ②身体組成、活動量を測定し評価する

9	シェイプアップ・トレーニングV	<トレセン> ①メディシンボールを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
10	シェイプアップ・トレーニングVI	<トレセン> ①バランスディスクを主としたトレーニングの実践 ②実施した運動を記録する
11	シェイプアップ・トレーニングVII	<大学周辺> ①ジョギングを実践し運動強度を算出する ②身体組成、活動量を測定し評価する
12	シェイプアップ・トレーニングVIII	<トレセン> ①ストレンスマシンを主としたトレーニングの実践（遅筋繊維刺激する運動負荷で筋持久力を向上させる） ②実施した運動を記録する
13	シェイプアップ・トレーニングIX	<トレセン> ①ストレンスマシンを用いたトレーニングの実践（パワーを向上させる方法） ②実施した運動を記録する
14	総括・レポート作成	<トレセン> ①秋学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②秋学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではシェイプアップを目的としたトレーニングを実践していくため、各自で体調を整え授業に参加してください。そのためにも、トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行った前後のバイタルチェックを行ったり、授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも自分自身の変化を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した8項目に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業中のトレーニングへの参画状況： **30%**
2. リアクションペーパー： **30%**
3. 秋学期の学修過程をまとめたレポート： **40%**

※ 以上の成績評価基準は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により本授業におけるトレーニングが困難である履修者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019年度から新設開講の授業であるため記述することがない。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションが利用可能なスマートフォン

【その他の重要事項】

1. **スポーツ科学A**を履修せずに、**スポーツ科学B**のみを履修することは認めません。

基本的に**スポーツ科学A**の単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、**スポーツ科学A**の単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。

2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester. This class is active learning type. In this class we practice stretching, jogging and strength training. Your body that has decayed will be shape up if you participate in this class. Through this class, you can acquire the necessary knowledge and practical skills to prepare the mind and body condition.

HSS300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学 I

2016年度以前入学者

サブタイトル：**脱運動不足と健康づくり・Basic course**

伊藤 マモル

開講時期：**春学期授業/Spring** | 曜日・時限：**木 2/Thu.2**
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【概要】

この授業は2年生以上が対象です。運動不足で衰えた身体機能を健康づくりの3本柱（ストレッチング・ジョギング・ストレンクス）で改善していくためのゼミナールです。健康の保持増進に必要な運動プログラムを作成し、その効果を検証するアクティブラーニング型の授業であり、履修者が主体となり能動的に進めます。

【到達目標】

- 1：トレーニングの原理・原則を理解している
- 2：スマートホンのアプリケーションを使用して必要な測定ができる
- 3：ストレッチングを正しく行える
- 4：ジョギングまたはウォーキングを正しく行える
- 5：ストレンクストレーニングを安全に行える
- 6：実践した運動の結果を正しく記録できる
- 7：スポーツや運動の功罪を説明できる
- 8：実践した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の1回目はガイダンス（教室）です。ガイダンス後に**最大20名までの履修者**を確定します。授業の2回目から以下の**4期（目標、計画、実行・評価、反省・改善）**に分けてゼミを進めていきます。主な教場は**体育館B1Fトレーニングセンター（以下、トレセン）**および**大学周辺の歩道**です。

1. 課題を検討し決める期間

自分自身の体力を把握するための測定と分析・評価を通じて、このゼミで取り組む課題（自分自身の身体や体力について改善したいこと）を明確にする期間です。

2. 計画を立案する期間

改善したい課題と段階的な目標を決める期間です。効果が期待できる適切な運動方法を実践を通じて決めていく（実行可能なデザイン作成）期間です。

3. 実行の期間

計画した運動を積極的に実行する期間です。実施した内容を正確に記録する方法を学習し、随時その結果を自己分析し、評価した結果をゼミ内で共有します。

4. 反省・改善の期間

運動の効果を検証し、ゼミ内で共有する期間です。春学期に取り組んだ過程をレポートにまとめ、秋学期に向けたより良い課題を見出します。

以上のように、本ゼミは教員からの一方的な講義を受けるのではなく、**履修者が自主的・能動的にゼミ活動に取り組むことを重視した双方向性・相互啓発性の高い授業**を目指し、その過程で運動不足の解消に役立つ実践的な健康づくりを学び、**自身の課題解決につなげる**ことをねらいとしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	<教室> ①授業概要と到達目標の説明 ②受講者の決定 ③使用する施設・器材についての解説
2	課題検討期 I	<教室> ① Inbody を用いて、基礎代謝と身体組成を測定と評価を行う ②ゼミで取り組む運動課題を検討する <大学周辺> ①ウォーキングまたはジョギングによる活動量を調べるための測定を行う ②測定結果を運動強度から分析し評価を行う ③ゼミで取り組む課題を検討する
3	課題検討期 II	

4	課題検討期Ⅲ	<トレセン> ①柔軟性の測定と評価を行う ②ストレッチングの概説と実践
5	課題検討期Ⅳ	<教室> ①食事調査からカロリー計算による食事(摂取)・運動(消費)のバランスを考える ②ゼミで取り組む運動課題を検討する
6	課題検討期Ⅴ	<トレセン> ①ストレッチングマシンを利用した筋力測定と評価を行う ②運動課題の記録方法を確認する
7	計画立案期Ⅰ	<トレセン> ①効果が期待でき、継続的に実践できる運動方法を決める
8	計画立案期Ⅱ	<教室> ①運動プログラムを試作する ②姿勢の評価を行う ③座位姿勢のストレッチングを実践する
9	計画実行期Ⅰ	<トレセン> ①試作した運動プログラムの実践と確認および改修を行う ②実施した運動を記録する
10	計画実行期Ⅱ	<トレセン> ①作成した運動プログラムの運動強度とセット数を修正する ②実施した運動を記録する
11	計画実行期Ⅲ	<大学周辺> ①適切な運動強度を意識したウォーキングまたはジョギングを実践する ②実践した運動を記録する
12	計画実行期Ⅳ	<トレセン> ①運動プログラムの実践 ②実施した運動を記録する
13	計画実行・効果検証期	<トレセン> ①実践してきた運動の効果を検証するための測定 ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する
14	反省改善期・総括	<トレセン> ①春学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②春学期を総括する

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量・質、水分摂取量、睡眠の量・質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著, 若さを伸ばすストレッチ, 平凡社新書
2. 伊藤マモル監, ひとりで巻けるテーピング, 日本文芸社
3. 伊藤マモル監, 基本のストレッチ, 主婦の友社
4. 斎藤真嗣著, 体温を上げると健康になる, サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著, 仕事ができる人はなぜ筋トレをするか, 幻冬舎新書
6. 山本利春著, 疲れたときは、からだを動かす, 岩波書店
7. 吉江和彦著, エグゼクティブが身体を鍛えるワケ, グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は到達目標に示した**8項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. ゼミ活動前の測定評価に関するレポート： **20%**
2. 運動プログラム： **20%**
3. ゼミ活動後の測定評価を検証したレポート： **20%**
4. 春学期の学修過程をまとめたレポート： **40%**

【学生の意見等からの気づき】

2019年度から開講するゼミのため記述することがない。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションがダウンロードできるスマートフォン

【その他の重要事項】

1. 授業1回目のガイダンスにおいて、履修希望者が**20名**を超えた場合は任意の人数制限を行います。履修者を選定する条件は、授業概要と目標を理解し、積極的に授業に参加し、自らの問題解決に取り組めることです。

具体的には、授業に対する意欲を授業内容に関連した問題意識や課題などの観点から小論文形式で記述してもらい、原則として欠席せずに全回出席可能な者で、より具体的な目標を持った者を確定します。

2. **1**を踏まえ、教養ゼミⅡまでの継続履修を希望した者を優先的に選定します。

3. 教養ゼミⅠの単位が取得できなかった時は、必然的に秋学期の教養ゼミⅡの受講を認めません。

4. 履修者の決定に関する通知の詳細はガイダンス時に説明します。

5. 授業を担当する教員はJOC医科学スタッフであるため、国際大会への帯同などの出張によって授業計画が変更される場合があります。ただし、その場合はトレセンでの自主的なゼミ活動または補講などによって休講になった授業を補うなどの対応をします。

【Outline and objectives】

The subject is over 2nd grade.

In this class we practice stretching, jogging and strength training.

It is an active learning type to realize the effect of exercise to solve the lack of exercise.

Students must create their own training programs and verify their effectiveness.

Students have to act positively in class.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

HSS300LA

スポーツ科学Ⅱ

2016年度以前入学者

サブタイトル：脱運動不足と健康づくり・Advanced course

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教養ゼミⅡは、「教養ゼミⅠ・脱運動不足と健康づくり（Basic course）」：木曜日2限」の応用科目です。そのため、本ゼミの基礎科目である**教養ゼミⅠの単位取得者が履修**できます。

基本的な授業形式は教養ゼミⅠと同様ですが、教養ゼミⅠよりも**体験や実習に多くの時間を割く**ことで、「よくわかっていること」を「できること」に変えていくという応用的な実践力を養うことを目的にします。

【到達目標】

- 1：目的に応じた運動方法を実践できる
- 2：目標達成に資する段階的な計画表を作成できる
- 3：段階的な計画を実行できる
- 4：一定期間実践した運動の効果を検証できる
- 5：検証した運動の効果をレポートにまとめられる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ活動の1回目は体育館B1Fトレーニングセンター（以下、トレセン）です。

教養ゼミⅡでは、**教養ゼミⅠの反省改善期**に検討した課題を解決するためのトレーニングプログラムを作成し、トレーニングを積極的に行う（**履修者は授業に自主的・能動的に参加**）ことを目指します。そのため、ゼミの1回目からトレセンを使用し、秋学期を以下のように**3期**に分けて進めていきます。

1. 課題・計画を決める期間

自分自身の筋力測定と分析・評価を通じて、「夏季休暇前後の比較」を行った上で、教養ゼミⅡで取り組む課題を明確にします。

2. 実行と検証の期間

計画した運動を実行する期間であり、実施した内容を正確に記録するとともに、随時その結果を自己分析し次回のゼミ活動に活かします。

3. 総括・共有の期間

運動の効果を総括した結果をレポートにまとめ、ゼミ内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 課題・計画の検討期Ⅰ	<トレセン> ①授業概要と目標の説明 ②健康づくりに必要な体力測定を行い評価する <教室>
2	課題・計画の検討期Ⅱ	測定結果を「夏季休暇前後」で比較し、新たな運動プログラムを模索する <トレセン>
3	課題・計画の検討期Ⅲ	①教養ゼミⅡで取り組む課題を検討する ②運動プログラムを試作する <トレセン>
4	課題・計画の決定期Ⅰ	①試作した運動プログラムを実践する ②実施した内容を正確に記録する <大学周辺または教室>
5	課題・計画の決定期Ⅱ	①取り組む課題を決定する ②運動プログラムを作成する <トレセン>
6	実行期Ⅰ	①作成したトレーニングプログラムを確認し見直す ②実施した内容を正確に記録する ③トレーニングの結果を自己分析しアクションペーパーを提出する

7	実行期Ⅱ	<トレセン> ①作成した運動プログラムの強度とセット数を調整する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しアクションペーパーを提出する <大学周辺またはトレセン>
8	実行期Ⅲ	①運動プログラムを実行し、強度とセット数を決定する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しアクションペーパーを提出する <トレセン>
9	実行期Ⅳ	①運動プログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しアクションペーパーを提出する <トレセン>
10	実行期Ⅴ	①運動プログラムの種目を見直し入れ替える ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しアクションペーパーを提出する <大学周辺またはトレセン>
11	実行期Ⅵ	①種目を入れ替えた運動プログラムを実行する ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しアクションペーパーを提出する <トレセン>
12	実行期Ⅶ	①運動プログラムの効果を検証するための測定方法を決める ②実施した内容を正確に記録する ③運動の結果を自己分析しアクションペーパーを提出する <トレセン>
13	総括・共有期Ⅰ	①実践してきた運動の効果を検証するための測定を行う ②測定結果を分析・評価する ③これまでの学修過程の整理 ④考察した測定結果をゼミ内で共有する <トレセン>
14	総括・共有期Ⅱ	①秋学期に取り組んだ学修過程をまとめたレポートを提出する ②秋学期を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

トレーニングセンターや自宅で実践可能な運動を行い、その記録を作成する過程で授業で扱った課題を再学修してください。

特に、体重、体脂肪率、体温などの測定や食事の量と質、水分摂取量、睡眠の量と質、排便などからも**自分自身の変化**を知ることができることに着目して、授業での学びを継続的に実践してください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料等を配布するが、以下の図書を推薦します。

1. 伊藤マモル著、若さを伸ばすストレッチ、平凡社新書
2. 伊藤マモル監、ひとりで巻けるテーピング、日本文芸社
3. 伊藤マモル監、基本のストレッチ、主婦の友社
4. 斎藤真嗣著、体温を上げると健康になる、サンマーク出版
5. 山本ケイイチ著、仕事ができる人はなぜ筋トレをするか、幻冬舎新書
6. 山本利春著、疲れたときは、からだを動かす、岩波書店
7. 吉江和彦著、エグゼクティブが身体を鍛えるワケ、グラフ社

【成績評価の方法と基準】

単位認定は**到達目標**に示した**5項目**に対して、次の基準にしたがって総合的に評価します。

1. 授業で提示した課題のレポート： **30%**
2. 授業におけるリアクションペーパー： **30%**
3. 秋学期の学修過程をまとめたレポート： **40%**

【学生の意見等からの気づき】

2019年度から開講するゼミのため記述することがない。

【学生が準備すべき機器他】

- 1) 運動を安全で効率的に実践できるウエアやシューズ
- 2) 活動量や心拍数を計測できるアプリケーションがダウンロードできるスマートホン

【その他の重要事項】

1. 教養ゼミⅠを履修せずに、教養ゼミⅡのみを履修することは認めません。基本的に教養ゼミⅠの単位取得者が対象です。ただし、定員を下回った場合は、教養ゼミⅠの単位取得者と同等以上の素養を有していると判断された学生については履修を認める場合があります。
2. 授業計画を変更する場合は事前に連絡します。

【Outline and objectives】

The subject is a students who got the unit of class 1 in spring semester.
In this class we practice stretching, jogging and strength training.

It is an active learning type to realize the effect of exercise to solve the lack of exercise.

Students must to make a more sophisticated training program compared with class 1 and verify the effect.

Students have to act positively in class.

LANf300LA

第三外国語としてのフランス語 A 2017 年度以降入学者

LANf300LA

フランス語初級 I 2016 年度以前入学者

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を著実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎に加えて、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字 1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER 動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞 avoir ・否定の de ・疑問文 ・数字 11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方
8	中間試験	筆記試験または課題提出
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞 (aller, venir, vouloir)
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞 pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞 prendre, attendre

- 13 Leçon 6 たずねる (いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令する
・疑問副詞
・前置詞と定冠詞の縮約
・動詞 **devoir**
- 14 期末試験 筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『Vas-y! : 初級フランス語 会話・文法そして文化』、駿河台出版社、2014年。

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。

宮原信他著、『デイクロ仏和辞典』、白水社、2003年。

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 %、中間試験 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

LANf300LA

第三外国語としてのフランス語 B 2017年度以降入学者

LANf300LA

フランス語初級Ⅱ 2016年度以前入学者

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期のフランス語初級Ⅰと継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4級~5級レベル到達を目指す。フランス語文法の基礎だけでなく、現代フランス語圏社会の状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明、練習、解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6 つづき Leçon 7	たずねる (いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ)、命令する ・命令形 ・時の表現 人・ものを描写する ・IR 動詞 (つづき) ・形容詞 ・動詞 savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・数量表現 ・名詞 + à + 不定詞 ・動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気を言う ・目的補語人称代名詞 ・非人称構文 ・動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気を言う ・数字 21~69 ・動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞 ・日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動を言う ・代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・日常の活動を表す表現 (つづき)
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・直説法単純未来 ・形容詞・副詞の比較級
8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・形容詞・副詞の最上級 ・特殊な優等比較級・優等最上級 ・指示代名詞
9	中間試験	筆記試験
10	Leçon 11	過去のことを言う (1) ・数字 70~100 ・直説法複合過去 ・目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う (1) ・代名動詞を含む複合過去 ・中性代名詞 en
12	Leçon 12	過去のことを言う (2)、否定する ・直説法半過去 ・直説法複合過去と直説法半過去の違い

- 13 Leçon 12 過去のことを言う (2)、否定する
・直接法大過去
・中性代名詞 y と le
・様々な否定表現
- 14 期末試験 筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『Vas-y! : 初級フランス語 会話・文法そして文化』。駿河台出版社、2014年。

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズのものでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003年

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10%、中間試験 30%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline and objectives】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

LANF300LA

上級フランス語 A

2017年度以降入学者

LANF300LA

フランス語中級 I

2016年度以前入学者

ニコラ・ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目標は、受講生がより高度なフランス語運用能力を獲得することです。そのために、口頭・筆記に関わる様々な練習をします。できるだけ実践的に言語を学びます。フランス文化や現代フランス社会に関する様々なテーマを取り上げる授業です。中～上級の学生向けの授業です。

【到達目標】

学生は教員の解説を聞き、クラスの仲間と意見交換したり、資料に出ている語彙と今まで勉強したフランス語の知識を活かして文章を書きます。ビデオなどの資料を用いてフランス人の生活について知識を深めます。学生はフランス文化の知識を深めるだけではなく、筆記・口頭表現の強化を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

クラスディスカッション、グループディスカッション、書き取り、作文。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Les stéréotypes sur la France et les Français	フランスとフランス人についてのステレオタイプ
2	À la boulangerie	フランスのパン屋で。品揃いなど
3	À la boulangerie	フランスのパン屋で。店員と客の会話
4	Chez le boucher	肉屋で。品揃いなど
5	Chez le boucher	肉屋で。店員と客の会話
6	Au café	カフェで。フランスと日本の違い。
7	Au restaurant	レストランで。
8	Les plats préférés des Français	フランス人の好きな料理
9	Le repas des Français	フランスの食事
10	La délinquance en France	フランスの治安
11	Être en retard et s'excuser	時刻して謝る
12	Dans le métro	地下鉄で
13	Les Français et les vacances	フランス人とバカンス
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各授業後、復習が必要です。

【テキスト（教科書）】

教科書は利用しなさい。

【参考書】

辞書が必要です。

【成績評価の方法と基準】

一平常点（授業参加）：33%

一期末試験：33%

一小テスト：33%

この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意をすること。

【学生の意見等からの気づき】

対象外

【Outline and objectives】

In this class, intermediate and advanced students will study French at a higher level. They will put in practice their skills to understand different type of documents (video, infography, articles...). They will also write and speak to comment on different aspects of French culture and French people. Active participation is required.

LANF300LA

上級フランス語 B

2017 年度以降入学者

LANF300LA

フランス語中級 II

2016 年度以前入学者

ニコラ・ガイヤール開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業の目標は、受講生がより高度なフランス語運用能力を獲得することです。そのために、口頭・筆記に関わる様々な練習をします。できるだけ実践的に言語を学びます。フランス文化や現代フランス社会に関する様々なテーマを取り上げる授業です。中～上級の学生向けの授業です。

【到達目標】

学生は教員の解説を聞き、クラスの仲間と意見交換をしたり、資料に出ている語彙と今まで勉強したフランス語の知識を活かして文章を書きます。ビデオなどの資料を用いてフランス人の生活について知識を深めます。学生はフランス文化の知識を深めるだけではなく、筆記・口頭表現の強化を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

クラスディスカッション、グループディスカッション、書き取り、作文。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Les sports les plus populaires en France	フランスでの人気なスポーツ
2	Les Français et le football	フランス人とサッカー
3	Au marché	市場で
4	À l'opéra, les Français et la musique	オペラ座で、フランス人と音楽
5	« Qu'est-ce qu'on fait ce week-end ? »	外出先を決める
6	Les Français et le travail	フランス人と仕事 (1)
7	Les Français et le travail	フランス人と仕事 (2)
8	Le logement des Français	フランス人の住まい
9	Le logement des Français	フランス人の住まい
10	La population française, l'immigration	フランスの人口・移民
11	Publicité française	フランスのコマーシャル
12	Noël et le nouvel an	クリスマスと年末年始
13	復習	復習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各授業後復習します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。

【参考書】

辞書が必要です。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加): 33%

期末試験: 34%

小テスト: 33% この授業は 5 回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化をもっと紹介します。

【Outline and objectives】

In this class, intermediate and advanced students will study French at a higher level. They will put in practice their skills to understand different types of documents (video, infography, articles...). They will also write and speak to comment on different aspects of French culture and French people. Active participation is required.

ARs300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：フランス語圏文化への招待①

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

比較的少数の受講者で、担当教員とおしゃべりしながらフランス語圏の文化について学びます。各学部における専攻分野（ディシプリン）に沿った学びとは異なる、専攻が異なる人が共存する自由な学び（リベラルアーツ）の場です。

【到達目標】

1. フランスの地理、季節感、教育制度、食文化、政治制度、経済、余暇（ヴァカンス）の過ごし方、宗教、男女間の関係、フランス式のマナーなど、フランス社会で生活していく上での基礎知識を、（専門家としてではなく教養として）ある程度身に付けている。
2. 就職活動での面接などに際して、フランスについて語り得るテーマを何か一つもっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 教科書の輪読
2. 授業内での発表
3. 校外学習（授業内で相談のうえ、場所を決定し、学生が各自、授業外で行う）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	今学期のフランス関連イベントについての情報収集	各自のイベントに参加するか、複数のアイデアを考えた上で、担当講師や他の学生の意見も聞いて決める。
3	パリはなんと行って花の都	教科書 4-8 頁の講読、学生による発表
4	まとまりのよい国土	教科書 8-11 頁の講読、学生による発表
5	義務教育普及は日仏とも	教科書 12-18 頁の講読、学生による発表
6	第1回成果報告会	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】(エ)について報告する。
7	家庭ではフランス語を話さない地方がある	教科書 18-21 頁の講読、学生による発表
8	時代を逆に眺めるとだんだん減る国土	教科書 22-30 頁の講読、学生による発表
9	「国引き」の凄い話を一つ	教科書 30-34 頁の講読、学生による発表
10	第2回成果報告会	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】(エ)について報告する。
11	フランス人の頭に入っている古代史の要点	教科書 34-38 頁の講読、学生による発表
12	他の地方ではわからない地方の心	教科書 38-41 頁の講読、学生による発表
13	ケルト暮らしの長さは縄文暮らしに匹敵	教科書 42-46 頁の講読、学生による発表
14	第3回成果報告会	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】(エ)について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(ア) このゼミ1回あたりの毎週の授業外学修時間が少なくとも90分になるようにすること。具体的には、(イ)以下のことを行ってください。
(イ) 教科書の次回発表の範囲を読んできること。
(ウ) NHKBS に加入している人は、ワールドニュースの枠内で日仏同時通訳付きで毎日放映されている、公共放送 France2（フランス・ドゥー）のニュースを、録画するなどして観る。NHKBS に加入していない人は、他の方法を考えなくてはなりませんので、講師に相談してください。

(エ) 学生が各自授業内で行う校外学習：2019年4月から7月の間に開催される、つぎの行事に1度は参加して下さい：フランスに関連する美術展や映画の上映、日仏会館（恵比寿）やアンステティエ・フランセ（飯田橋）で開催される講演会やイベント、在日フランス商工会議所が開催する企業フォーラムやインターンシップなど。授業内で概要や成果を報告していただきます【単位を修得する上で、授業内での成果報告が必須です。「成績評価の方法と基準」の項目(カ)を参照】。

【テキスト（教科書）】

篠沢秀夫『フランス三昧』中公新書、2006年。

【参考書】

鹿島茂編『バースデイ・セイント』飛鳥新社、2000年。

【成績評価の方法と基準】

- (ア) 期末試験：実施しない (0%)
(イ) 期末レポート：実施しない (0%)
(ウ) 授業での教科書講読への参加の質および量 (20%)
(エ) (ウ) に関する授業内での発表の質および量 (20%)
(オ) 「授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）」への取り組みの質および量 (20%)
(カ) (オ) に関する授業内での発表の質および量 (30%) ※必須です。
(キ) その他（運営協力や講師のミスの指摘）(10%)

【学生の意見等からの気づき】

いわゆる「滑舌」が悪いので、学生の皆さんが聞きやすいように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

報告原稿の提出やさまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（授業支援システム）で行なう。学外からの法政大学図書館のオンラインデータベースの利用ができるよう、VPN接続の使い方をマスターすることパソコン、タブレット等を用いたプレゼンを歓迎しています。

【その他の重要事項】

- ①法政大学の学部に所属する2～4年生ならば、学部やキャンパスに関係なく、この授業で単位履修できます。詳しくは所属学部の事務窓口までお問合せ下さい。
- ②フランス語学習を含めたフランスの政治や社会に関する初中級の授業としては、「時事フランス語Ⅰ・Ⅱ」を履修してください。
- ③語学の授業ではないフランス文化に関する特色ある授業としては「フランス生活文化論 LA/LB（服飾史）」(ILAC学部の1～4年生向け、法政大学内他学部は2～4年生向け)がお勧めです。
- ④学外の方でこの科目のみの聴講を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学各学部の事務窓口までお問合せ下さい。
- ⑤履修希望者が多数となった場合には、人数を制限することがあります。
- ⑥教科書となっている篠沢教授の文章は、初学者にわかりやすく、また人柄がしのばれて面白いですが、講師とは意見が異なる場合があります。

【Outline and objectives】

This interdepartmental seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.

ARSa300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：フランス語圏文化への招待①

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

比較的少数の受講者で、担当教員とおしゃべりしながらフランス語圏の文化について学びます。各学部における専攻分野（ディシプリン）に沿った学びとは異なる、専攻が異なる人が共存する自由な学び（リベラルアーツ）の場です。

【到達目標】

1. フランスの地理、季節感、教育制度、食文化、政治制度、経済、余暇（ヴァカンス）の過ごし方、宗教、男女間の関係、フランス式のマナーなど、フランス社会で生活していく上での基礎知識を、（専門家としてではなく教養として）ある程度身に付けている。
2. 就職活動での面接などに際して、フランスについて語り得るテーマを何か一つもっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 教科書の輪読
2. 授業内での発表
3. 校外学習（授業内で相談のうえ、場所を決定し、学生が各自、授業外で行う）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	今学期のフランス関連イベントについての情報収集	各自のイベントに参加するか、複数のアイデアを考えた上で、担当講師や他の学生の意見も聞いて決める。
3	ローマ支配下の「ガロ＝ロマン」文明	教科書 46-50 頁の講読、学生による発表
4	フランク族のガロ＝ロマン化	教科書 50-55 頁の講読、学生による発表
5	ブルトン人がらみで仏英関係を見る	教科書 55-60 頁の講読、学生による発表
6	第1回成果報告会	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】（エ）について報告する。
7	ノルマン人がらみで仏英関係を見る	教科書 60-63 頁の講読、学生による発表
8	国家観念の芽生えは百年戦争	教科書 64-71 頁の講読、学生による発表
9	ルネッサンスは神に人間の尊厳を主張	教科書 71-75 頁の講読、学生による発表
10	第2回成果報告会	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】（エ）について報告する。
11	ナントの勅令は関が原の二年前	教科書 75-78 頁の講読、学生による発表
12	ブルボン王朝による国勢の得失	教科書 78-83 頁の講読、学生による発表
13	大革命によるキリスト教の否定	教科書 83-90 頁の講読、学生による発表
14	第3回成果報告会	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】（エ）について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（ア）このゼミ1回あたりの毎週の授業外学修時間が少なくとも90分になるようにすること。具体的には、（イ）以下のことを行ってください。
（イ）教科書の次回発表の範囲を読んできること。
（ウ）NHKBSに加入している人は、ワールドニュースの枠内で日仏同時通訳付きで毎日放映されている、公共放送 France2（フランス・ドゥー）のニュースを、録画するなどして観る。NHKBSに加入していない人は、他の方法を考えなくてはなりませんので、講師に相談してください。

（エ）学生が各自授業内で行う校外学習：2019年9月から2020年1月の間に開催される、つぎの行事に1度は参加して下さい：フランスに関連する美術展や映画の上映、日仏会館（恵比寿）やアンステイテュ・フランセ（飯田橋）で開催される講演会やイベント、在日フランス商工会議所が開催する企業フォーラムやインターンシップなど。授業内で概要や成果を報告していただきます【単位を修得する上で、授業内での成果報告が必須です。「成績評価の方法と基準」の項目（カ）を参照】。

【テキスト（教科書）】

篠沢秀夫『フランス三昧』中公新書、2006年。

【参考書】

池上俊一『お菓子でたどるフランス史』岩波ジュニア新書、2013年。

【成績評価の方法と基準】

- （ア）定期試験：実施しない（0%）
（イ）期末レポート：実施しない（0%）
（ウ）授業での教科書講読への参加の質および量（20%）
（エ）（ウ）に関する授業内での発表の質および量（20%）
（オ）「授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）」への取り組みの質および量（20%）
（カ）（オ）に関する授業内での発表の質および量（30%）※必須です。
（キ）その他（運営協力や講師のミスの指摘）（10%）

【学生の意見等からの気づき】

いわゆる「滑舌」が悪いので、学生の皆さんが聞きやすいように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

報告原稿の提出やさまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（授業支援システム）で行なう。学外からの法政大学図書館のオンラインデータベースの利用ができるよう、VPN接続の使い方をマスターすること
パソコン、タブレット等を用いたプレゼンを歓迎しています。

【その他の重要事項】

- ①法政大学の学部に所属する2～4年生ならば、学部やキャンパスに関係なく、この授業で単位履修できます。詳しくは所属学部の事務窓口までお問合せ下さい。
- ②フランス語学習を含めたフランスの政治や社会に関する初中級の授業としては、「時事フランス語Ⅰ・Ⅱ」を履修してください。
- ③語学の授業ではないフランス文化に関する特色ある授業としては「フランス生活文化論 LA/LB（服飾史）」（ILAC 学部の1～4年生向け、法政大学内他学部は2～4年生向け）がお勧めです。
- ④学外の方でこの科目のみの聴講を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学各学部の事務窓口までお問合せ下さい。
- ⑤履修希望者が多数となった場合には、人数を制限することがあります。
- ⑥教科書となっている篠沢教授の文章は、初学者にわかりやすく、また人柄がしのばれて面白いですが、講師とは意見が異なる場合があります。

【Outline and objectives】

This interdepartmental seminar is an introduction to the multiple facets of French culture, history, and society. Open to students with little or no previous instruction in French, this seminar will enable students to attain a basic understanding of Mainland France and its terroirs.

ARSa300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの現代社会問題

ジョルディ・フィリップ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Pendant ce premier semestre, les étudiants, en petit groupe, présentent un thème social ou historique sur la France. Chaque thème continue ensuite d'être étudié pendant plusieurs séances pour permettre une recherche commune et un débat constructif entre TOUS les étudiants. Voici quelques exemples de thèmes : la crise sociale (mouvement des Gilets Jaunes); histoire de la Ve République ; l'immigration ; la France dans l'Union Européenne ; les difficultés de la jeunesse ; les atouts de la France ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Ce cours prépare directement à un séjour en université francophone (cf. la méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau A2/B1+) ou "kentei-shiken"(à partir du niveau 2). (この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si, parfois, le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis. Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue ensuite l'étude de ce thème pendant deux ou trois séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites, grâce à la pratique des moyens de recherche suivants :

- résumé écrit ou oral.
- compte-rendu de lecture ou de débat.
- commentaire de texte.
- dissertation (technique de plan, développement, rédaction), etc.

Nous pourrions aussi prolonger la discussion en dehors du cours : événements culturels divers (film, exposition, concert), visite ou excursion...

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes - attribution des premiers exposés
②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales

⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	- dissertation individuelle rendue en cours - courte note de recherche personnelle rédigée en classe
---	---	---

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.
(予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】

Des photocopies seront distribués (プリント配布). Mais une liste d'ouvrages, adaptés aux thèmes retenus, sera distribuée pour une lecture fortement recommandée.

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou compte-rendu de lecture) (レポート)

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre et réemployer les expressions et mots nouveaux (mini-tests fréquents).

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【none】
none

【Outline and objectives】

Students, individually or in small groups, present a social or historical theme on contemporary France. This is a seminar aimed at developing academic skills. Intermediate and advanced level in French.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：フランス語圏文化への招待

ジョルディ・フィリップ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Pendant ce semestre, les étudiants, en petit groupe, présentent un thème social ou historique sur un ou plusieurs pays de la francophonie. Chaque thème continue ensuite d'être étudié pendant quelques séances pour permettre une recherche commune et un débat constructif entre TOUS les étudiants.

Voici quelques exemples de thèmes possibles : aires francophones (Europe francophone, Amérique francophone, Afrique francophone, France d'outre-mer...); colonisation ; immigration ; identité nationale et langue ; cultures populaires francophones ; cinéma francophone ; littératures francophones ; etc.

【到達目標】

Ce cours, de type séminaire général, s'adresse à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Il prépare directement à un séjour en université francophone (méthodologie de recherche) mais aussi aux examens de type DELF (niveau A2/B1+) ou DAPF ("kentei-shiken": 2 kyû+). (この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Ce séminaire se déroule en français même si, parfois, le japonais ou l'anglais peuvent être utilisés pour une analyse ou des documents précis. Après la présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants, toute la classe continue l'étude de ce thème pendant deux ou trois séances (lectures et comptes-rendus, débat, approfondissement de questions, résumé-synthèse). Ce travail de recherche en commun permet d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orale ou écrite, grâce à la pratique des moyens de recherche et d'analyse suivants :

- résumé écrit ou oral.
 - note de lecture ou de compte-rendu.
 - commentaire de texte.
 - dissertation (technique de plan, développement, rédaction), etc.
- Nous pourrions aussi prolonger la discussion en dehors du cours : événements culturels divers (film, exposition, concert), visite voire excursion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le premier semestre - choix des thèmes - attribution des premiers exposés
②	Thème 1 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
③	Thème 1 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
④	Thème 1 (3)	Discussion et synthèse générales
⑤	Thème 2 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑥	Thème 2 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑦	Thème 2 (3)	Discussion et synthèse générales
⑧	Thème 3 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑨	Thème 3 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème
⑩	Thème 3 (3)	Discussion et synthèse générales
⑪	Thème 4 (1)	Présentation détaillée d'un thème par un ou plusieurs étudiants
⑫	Thème 4 (2)	Travail collectif d'analyse et de recherche sur ce thème

⑬	Thème 4 (3)	Discussion et synthèse générales
⑭	Récapitulatif des thèmes vus en cours ; ouverture à de nouvelles problématiques	- dissertation individuelle rendue en cours - courte note de recherche personnelle rédigée en classe

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Chaque étudiant doit se préparer à intervenir, à l'oral comme à l'écrit, à chaque séance.

(予習・復習・積極性厳守)

【テキスト（教科書）】

Il n'y a pas, en principe, de manuel mais des photocopiés, souvent distribués.

(プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.

(仏辞典の持参が望ましい)

Des ouvrages de référence pourront être proposés selon les thèmes abordés.

【成績評価の方法と基準】

40% = participation (prise de parole, résumés, mini-tests, etc.) (積極性)

30% = exposé personnel de présentation (個人発表)

30% = devoir final (dissertation ou commentaire) (レポート)

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre, retenir et réemployer les expressions et mots nouveaux (mini-tests fréquents).

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline and objectives】

Students, individually or in small groups, present a social or historical theme on one or more countries of the francophonie (french-speaking community). This is a seminar aimed at developing academic skills. Intermediate and advanced level in French.

LANF300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) A 2017年度以降入学者

LANF300LA

フランス語コミュニケーションⅢ 2016年度以前入学者

ジョルディ・フィリップ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

Dans ce cours, nous étudierons quelques textes de la littérature française ou francophone des XXe et XXIe siècles. Avec le plaisir de leur lecture, nous découvrirons leurs auteurs et le contexte culturel de leur production (histoire, localisation, genre et effets littéraires).

【到達目標】

Ce cours s'adresse à des étudiants relativement confirmés (niveau A2-B1), notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller. Il prépare aussi aux examens de type DELF ou "Kentei-shiken". Le plaisir de la lecture se doublera d'une meilleure compréhension et production de l'écrit, sans oublier l'oral.

(この授業は中上級者向きです)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

L'étude porte sur la lecture, la compréhension et la reproduction de textes écrits. Divers exercices, faciles d'accès et gradués, seront proposés. Périodiquement, un ou plusieurs élèves présenteront un travail plus important (fiche et compte-rendu de lecture, explication de texte, résumé-analyse, exposé). Des activités orales souvent ludiques (jeu de rôle, théâtre) compléteront ce travail sur l'écrit.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours et de la méthode.
②	Le Petit Prince, d'Antoine de Saint-Exupéry	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
③	L'oeuvre de Saint-Exupéry	Critique du Petit Prince. Présentation d'autres oeuvres de Saint-Exupéry.
④	Désert, de J-M-G Le Clézio	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑤	L'oeuvre de Le Clézio	Critique de Désert. Présentation d'autres oeuvres de Le Clézio.
⑥	Les Soleils des indépendances, d'Ahmadou Kourouma	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑦	Les écrivains francophones d'Afrique	Critique des Soleils des indépendances. Présentation d'autres oeuvres de la littérature africaine francophone.
⑧	Une enfance créole, de Patrick Chamoiseau	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑨	Les écrivains francophones de la Caraïbe.	Critique d'une Enfance créole. Présentation d'autres oeuvres francophones des Amériques.
⑩	L'Amant, de Marguerite Duras	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑪	L'oeuvre de Marguerite Duras	Critique de L'Amant. Présentation d'autres oeuvres de Duras.
⑫	La Condition humaine, d'André Malraux	Lecture d'extraits et exercices oraux et écrits.
⑬	L'oeuvre d'André Malraux. Les écrivains "engagés".	Critique de La Condition humaine. Panorama de quelques auteurs engagés.

- ⑭ Cannibale, de Didier Daeninckx L'oeuvre de Didier Daeninckx. L'essor de la littérature policière en France.

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

Ce cours demande une présence, une préparation et une participation très régulières. Des exercices sont donnés en fin de cours, qui seront corrigés au début du cours suivant.

(予習・復習・積極性厳守)

【テキスト(教科書)】

Pas de manuel, mais des photocopiés souvent distribués. (プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant doit déjà posséder.

(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

50% = participation (prise de parole, exercices, résumés, jeux de rôles, etc.) (積極性)

50% = exposé et compte-rendu (口頭発表・作文)

【学生の意見等からの気づき】

L'accent sera mis sur les techniques de présentation à l'oral (débats et exposés) comme à l'écrit (compte-rendu, résumé, technique de plan, dissertation).

【学生が準備すべき機器他】

Dans ce labo de langues (LL 教室), les étudiants peuvent enregistrer le son du cours et des supports de cours (録音機の持ち込み可)。

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

【Outline and objectives】

We will study, through some extracts, texts of French or French literature of the 20th and 21st centuries. French Intermediate Level (A2/B1).

LANF300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) B 2017年度以降入学者

LANF300LA

フランス語コミュニケーションⅣ 2016年度以前入学者

ジョルディ・フィリップ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

Dans ce second semestre, les étudiants, individuellement ou en petit groupe, présentent un film francophone, dont ils analysent quelques scènes en détail. Chaque film choisi appartient à un genre cinématographique particulier.

D'autres types d'oeuvres pourront aussi être étudiés (chansons, textes, bandes dessinées, etc.)

【到達目標】

Ce cours continue, au second semestre, de s'adresser à des étudiants confirmés, notamment à ceux qui reviennent de France ou à ceux qui vont y aller.

Il prépare aussi aux examens de type DELF (niveau A2, B1...) ou "kentei-shiken". (この授業は中上級者向きです)

Par ailleurs, les étudiants donneront eux-mêmes leurs objectifs au premier cours d'orientation. Le programme de ce cours pourra alors être modifié selon leurs besoins.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Après la présentation d'un film francophone par quelques étudiants, 3 scènes importantes de ce film seront choisies pour le travail de toute la classe. L'étude de ces scènes sélectionnées permettra d'accroître le vocabulaire, la compréhension et l'expression orales ou écrites. Puis des exercices seront effectués en relation avec les scènes étudiées : technique du résumé écrit ou oral, substitution de dialogues, jeux de rôles, analyse stylistique ou cinématographique, révision des points de grammaire, expression des nuances, etc.

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Orientation	Présentation du cours pour le second semestre - attribution des premiers exposés (présentation d'un film)
②	FILM 1 (1)	Présentation critique du film 1, travail sur une première scène
③	FILM 1 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
④	FILM 1 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales
⑤	FILM 2 (1)	Mini-test sur film 1. Présentation critique du film 2, travail sur une première scène
⑥	FILM 2 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑦	FILM 2 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales
⑧	FILM 3 (1)	Mini-test sur film 2. Présentation critique du film 3, travail sur une première scène
⑨	FILM 3 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑩	FILM 3 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales
⑪	FILM 4 (1)	Mini-test sur film 3. Présentation critique du film 4, travail sur une première scène
⑫	FILM 4 (2)	Travail sur une ou plusieurs scènes intermédiaires
⑬	FILM 4 (3)	Travail sur une ou plusieurs scènes finales

- ⑭ Récapitulatif du cours Mini-test sur film 4.
Discussion sur les caractéristiques des films présentés : la notion de genre cinématographique...

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

Ce cours demande une préparation et une participation très régulières. Des exercices sont donnés en fin de cours, qui seront corrigés au début du cours suivant.

(予習・復習・積極性厳守)

【テキスト(教科書)】

Pas de manuel mais des photocopiés, souvent distribués.
(プリント配布)

【参考書】

Un dictionnaire français - français (ex. Le Robert Micro) est recommandé, en plus du dictionnaire français-japonais que tout étudiant possède déjà.

(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】

60% = participation (prise de parole, exercices, résumés, jeux de rôles, mini-tests) (積極性)

40% = exposé(s) personnel(s) de présentation (発表)

【学生の意見等からの気づき】

Avant et après chaque séance, il faudra apprendre et réemployer expressions ou mots nouveaux (mini-tests après l'étude de chaque film).

【学生が準備すべき機器他】

Le cours a lieu en salle LL mais les étudiants peuvent y amener tout instrument d'enregistrement du son (pas de l'image).

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

[none]

none

【Outline and objectives】

Students, either individually or in small groups, present and analyse a French-language film. Each selected film belongs to a particular genre. A few scenes are then selected to be studied in depth by all the class. Intermediate level in French (A2/B1).

LANF300LA

フランス語表現法 A

2017 年度以降入学者

LANF300LA

フランス語表現法 I

2016 年度以前入学者

ヴァリエンス コリンヌ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。

Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

【到達目標】

目標は辞書や新しい表現を習得し、文化的な話題を議論することです。

L'objectif est d'acquérir du lexique et des expressions nouvelles ainsi que de pouvoir discuter de sujets culturels.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ビデオが呈示され、授業で発表されたテーマの表現や語彙を発見するために、筆者が書き写しに取り組みます。

Une vidéo est présentée et nous travaillerons sur la transcription afin de découvrir les expressions et le vocabulaire du thème présenté en classe.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	ビデオ 1a 読書/発音。 Vidéo 1a Lecture/ prononciation.	博物館 Un Musée
2 回目	ビデオ 1b 語彙と文法 Vidéo 1b Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
3 回目	ビデオ 1c 学生の発表 Video 1c Présentation des étudiants	博物館の会話する Discussion sur le musée
4 回目	ビデオ 2 a 読書/発音。 Video 2a Lecture/ prononciation.	仕事 Un métier
5 回目	Video 2b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
6 回目	Video 2c 学生の発表 Présentation des étudiants	仕事の会話する Discussion sur le métier
7 回目	Video 3a 読書/発音。 Lecture/ prononciation.	レストラン Un restaurant
8 回目	Video 3b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
9 回目	Video 3c 学生の発表 Présentation des étudiants	レストランの会話する Discussion sur le restaurant
10 回目	Video 4a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	モニュメント Un monument
11 回目	Video 4b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
12 回目	Video 4c 学生の発表 Présentation des étudiants	モニュメントの会話する discussion sur le monument

13 回目	Video 5a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	店 Un magasin
14 回目	Video 5b 語彙と文法 Lexique et Grammaire 学生の発表 Présentation des étudiants	理解の問題の修正と会話する Correction des questions de compréhension et discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語彙や表現を学んで
Apprendre le vocabulaire et les expressions

【テキスト（教科書）】

なし Pas de manuel

【参考書】

辞書
dictionnaire

【成績評価の方法と基準】

存在と参加 La présence et la participation en classe : 60%.
最終試験 L'examen final : 40 %

【学生の意見等からの気づき】

devoirs

【Outline and objectives】

このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。

Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

LANF300LA

フランス語表現法 B 2017 年度以降入学者

LANF300LA

フランス語表現法 II 2016 年度以前入学者

ヴァリエンス コリンヌ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

【到達目標】

目標は辞書や新しい表現を習得し、文化的な話題を議論することです。L'objectif est d'acquérir du lexique et des expressions nouvelles ainsi que de pouvoir discuter de sujets culturels.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ビデオが呈示され、授業で発表されたテーマの表現や語彙を発見するために、筆者が書き写しに取り組みます。Une vidéo est présentée et nous travaillerons sur la transcription afin de découvrir les expressions et le vocabulaire du thème présenté en classe.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Vidéo 6a 読書/発音。Lecture/ prononciation.	有名な場所 Un lieu célèbre
2 回目	Vidéo 6b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
3 回目	Video 6c 学生の発表 Présentation des étudiants	有名な場所での議論 Discussion sur un lieu célèbre
4 回目	Video 7a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	料理 La cuisine
5 回目	Video 7b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
6 回目	Video 7c 学生の発表 Présentation des étudiants	料理の会話する Discussion sur la cuisine
7 回目	Video 8a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	映画 Un film
8 回目	Video 8b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
9 回目	Video 8c 学生の発表 Présentation des étudiants	映画の会話する Discussion sur le film
10 回目	Video 9a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	学校 Une école
11 回目	Video 9b 語彙と文法 Lexique et Grammaire	理解の問題の修正 Correction des questions de compréhension
12 回目	Video 9c 学生の発表 Présentation des étudiants	学校の会話する discussion sur une école
13 回目	Video 10a 読書/発音 Lecture/ prononciation.	パリ Paris

14 回目 Video 10b
語彙と文法と学生の発表
Lexique et Grammaire
et Présentation des
étudiants

理解の問題の修正と会話する
Correction des questions de
compréhension et discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語彙や表現を学んで

Apprendre le vocabulaire et les expressions

【テキスト（教科書）】

なし

pas de manuel

【参考書】

辞書

dictionnaire

【成績評価の方法と基準】

存在感とクラスへの参加：60%。

最終試験：40%

La présence et la participation en classe：60%.

L'examen final：40%

【学生の意見等からの気づき】

devoirs

【Outline and objectives】

このコースは、すでにフランス語を学んだことがあり、フランスの文化をビデオレポートで発見したい学生のために用意されています。Ce cours est réservé aux étudiants qui ont déjà appris le français et qui souhaitent découvrir la culture française à travers des reportages vidéo.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 A 2017 年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語初級 I 2016 年度以前入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前編）。文字と発音、名詞の性と数、動詞の現在形など。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。「第三外国語としてのロシア語 B」とセットになっています。二つを合わせた授業全体のポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。「ロシア語初級 I」では、文字と発音の練習に十分時間をかけます。第 1 回から第 5 回までがこれにあてられますが、その後も続きます。春学期はほぼこれにつきると言ってもよいでしょう。加えて最も初歩的な文法事項のみ（名詞の性・数、動詞の現在形など）を学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	硬母音字、子音字、アクセント
第 2 回	文字と発音 2	軟母音字、半母音字、子音字、
第 3 回	文字と発音 3	硬子音と軟子音、軟音記号
第 4 回	文字と発音 4	発音の規則、子音字
第 5 回	文字と発音 5	無声子音と有声子音子音字、発音の規則、硬音記号
第 6 回	「これは誰ですか」	疑問文と平叙文、名詞の性
第 7 回	「彼はロシア人です」	名詞の性と形容詞の変化
第 8 回	「私の家族」	名詞の性と所有代名詞の変化
第 9 回	「私の両親」	名詞の複数形と所有代名詞の変化
第 10 回	「私は散歩しています」	人称代名詞、動詞の現在形（第 1 変化）
第 11 回	「私は話します」	動詞の現在形（第 2 変化）
第 12 回	「私は好きです」	動詞の現在形（不規則変化）
第 13 回	「私は魚が好きです」	名詞の対格
第 14 回	期末試験	文法問題、露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要としませんが、単語や例文の暗記には積極的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布する予定。教科書も辞書も急ぎ購入する必要はないので、とりあえず授業に出席の上、オリエンテーションを聞くこと。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社。2009 年、東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。ロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするよう努める。

【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 1. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the present tense of verbs, etc.)

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 B 2017 年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語初級 II 2016 年度以前入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（後編）。名詞の格、動詞の未来形と過去形、移動の動詞、動詞の体など。

【到達目標】

簡単な会話をロシア語で行える。必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またロシア語で伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。「第三外国語としてのロシア語 A」とセットになっています。二つを合わせた授業全体のポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。秋学期は、やや進んだ文法（名詞の格、動詞の未来形と過去形、動詞の完了体と完了体）を学びます。学期の最後には、ロシア語の全体像が見えることになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「教えてください」	動詞の命令形
第 2 回	「私は話したいです」	動詞の現在形（不規則変化）
第 3 回	「どこへ行くのですか」	移動の動詞
第 4 回	「モスクワの地図」	名詞の生格
第 5 回	「私は持っています」	所有の表現
第 6 回	「何曜日ですか」	曜日の表現、数詞
第 7 回	「私は散歩するつもりです」	動詞の未来形
第 8 回	「モスクワで」	名詞の前置格と場所の表現
第 9 回	「あなたは何をしましたか」	動詞の過去形
第 10 回	「誰に書きますか」	名詞の与格
第 11 回	「アントンと」	名詞の造格
第 12 回	「あなたは解いてしまいましたか」	動詞の体と動詞の過去形
第 13 回	「私は解いてしまいます」	動詞の体と動詞の現在形および未来形
第 14 回	期末試験	文法問題、露文和訳

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要としませんが、単語や例文の暗記には積極的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布の予定。教科書も辞書も急ぎ購入する必要はないので、とりあえず授業に出席の上、オリエンテーションを聞くこと。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社。2009 年、東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。ロシア語は、学習の積み上げが大事な言語です。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするよう努める。

【Outline and objectives】

Elementary Russian Part 2. The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, the future and past tenses of verbs, verbs of motion, verb aspects, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 A 2017年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語中級 I 2016年度以前入学者

三神 エレーナ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関するテキストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。
この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験（ТРКИ）A2-B1 レベルの受験勉強にお役に立ちます。

【到達目標】

社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア文化や歴史についてのテキストや現代文学のテキストの読解し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「出身」(1)	文法復習。「出身」テキストの読解、質疑応答
2	「出身」(2)	「出身」テキストの読解、質疑応答、文法練習
3	「外国語」(1)	「母国語と外国語」テキストの読解、質疑応答、文法練習
4	「外国語」(2)	「母国語と外国語」の読解、質疑応答、文法練習
5	「家族」(1)	「私の家族」テキストの読解、質疑応答、文法練習
6	「家族」(2)	「私の家族」テキストの読解、質疑応答、文法練習
7	「学習」(1)	「私は学生」テキストの読解、質疑応答、文法練習
8	「学習」(2)	「私は学生」テキストの読解、質疑応答、文法練習
9	接続詞がある複文 (1)	接続詞の練習
10	接続詞がある複文 (2)	「劇場」テキストの聴解、読解、質疑応答
11	動詞の体 (1)	不完了・完了動詞の練習
12	動詞の体 (2)	「ルティーナ」テキストの聴解、読解、質疑応答
13	動詞の体 (3)	不完了・完了動詞の復習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、出席および宿題・授業への取り組み 40%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲をはっきりします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに接続できるスマートフォン又は PC。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing and listening skills in Russian language.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 B 2017年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語中級Ⅱ 2016年度以前入学者

三神 エレーナ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期に引き続きロシア語の解説と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。この授業はロシア語能力検定試験 3級、ロシア語能力試験（ТРКИ）A2-B1レベルの受験勉強にも役立ちます。

【到達目標】

授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア文化や歴史についてのテキストや現代文学のテキストを解説し、単語・文法練習、文章作成の練習、会話練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「どこから来ましたか」-1	文法の復習
2	「どこから来ましたか」-2	テキストの読解、会話練習
3	関節発話の構文	文法練習
4	運動動詞-1	文法練習
5	運動動詞-2	「友達」テキストの聴解、読解、会話練習
6	不規則動詞-1	文法練習
7	不規則動詞-2	「変な男」テキストの読解、聴解、会話練習
8	который 構文	文法練習
9	「хочу, могу, должен」の活用-1	文法練習、会話練習
10	「хочу, могу, должен」の活用-2	「すべてはあるべきと違う」テキストの読解、聴解、会話練習
11	学習動詞-1	文法練習、会話練習
12	学習動詞-2	「習い方を習う」テキストの読解、聴解、会話練習
13	学習動詞-3	復習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、出席および宿題・授業への取り組み 40%

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲をはっきりします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに接続できるスマートフォンまたはPC。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変更することができます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing / listening skills in Russian language.

LANr300LA

実用ロシア語 A 2017年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語コミュニケーションⅠ 2016年度以前入学者

三神 エレーナ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力を伸ばします。ロシア留学またはロシア語能力試験（ТРКИ B2）1級を目指す方におすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話ができること。ロシア語能力試験（ТРКИ）B1-B2レベルの文章を聞き取りできること。同レベルのロシア語能力試験（ТРКИ）会話試験（Диалогическая речь）に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストを使って主な会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、実際にその表現を使った会話練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。音声データは授業支援システムにて使用できます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介	自己紹介、学生のプロフィール
2	留学-1	入学手続き、学生課に相談
3	留学-2	大学の時間割、授業で使う表現
4	学生寮-1	入寮申請、入寮手続き
5	学生寮-2	寮でのトラブル
6	街を歩く	道の尋ね方、道の案内
7	交通手段-1	モスクワ地下鉄の乗り方、ルートの案内
8	交通手段-2	バスや路面電車を使う表
9	買い物-1	食料品の買い方
10	買い物-2	市場で使う表現
11	病院-1	予約、病院の受付にて
12	病院-2	診察で使う表現
13	総合復習	1～13の復習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声データを使った聴解の宿題があります。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

和久利智一著「入門ロシア語文法」改訂版、白水社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50%、出席率・宿題・授業への取り組み 50%

【学生の意見等からの気づき】

期末試験の難易度を調整しました。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにアクセスできるPC又はスマートフォン。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容は多少変更されます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

実用ロシア語 B

2017 年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語コミュニケーション II

2016 年度以前入学者

三神 エレーナ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期に引き続きロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、ヒアリングの訓練を通じて、ロシア語コミュニケーション能力を伸ばします。
ロシア留学またはロシア語能力試験（ТРКИ B2）・ロシア語能力検定試験 3 級の受験を目指す方におすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話ができること。ロシア語能力試験（ТРКИ B1～B2）レベルの文章を聞き取りができること。同レベルのロシア語能力試験（ТРКИ）会話試験（Диалогическая речь）に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストを使って主な会話表現を学び、それらの使用例をヒアリングして、実際にその表現を使う会話練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	郵便局-1	手紙、小包を送る
2	郵便局-2	書留、ファックスなどを送る
3	電話-1	電話をかける、電話にでる表現
4	電話-2	必要な情報を電話で聞く、チケットを予約する；電話で打ち合わせをする
5	天気予報	天気予報をラジオで聞く；国の気候の話をする
6	暇な時間	友達が開いたのホームパーティーに行く
7	劇所や映画	劇所等のチケットの買い方や劇・映画の種類；映画の話をする
8	美術館	美術館に誘う、チケットを買う；美術展に関する印象を述べる
9	人の外見	人の特徴を伝える
10	洋服	洋服に関する表現
11	インターネット-1	パソコン・インターネット利用に関する表現
12	インターネット-2	コンピューターゲーム、ソーシャルネットワークに関する表現
13	総合復習	1～12 の復習
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声データを使った宿題があります。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

和久利誓一著「入門ロシア語文法」改訂版、白水社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 %、出席率・宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の難易度を調整しました。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにアクセスできる PC 又はスマートフォン。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容は多少変更されます。

【Outline and objectives】

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

LANr300LA

ロシア語講読 A 2017 年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語講読 I 2016 年度以前入学者

土岐 康子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。様々な文章を読んでいくことで、ロシア語の文章に慣れることを目的とします。本学は、長文を読んでいく上で必要となる読解の基礎を学びます。基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。ロシア語による内容理解の練習や付随する文法の練習問題も行います。

【到達目標】

辞書を用いてロシア語の文章を日本語に訳すことができる、ロシア語での質問を理解し、的確にロシア語で答えることができる。読解した内容を自分の言葉（ロシア語、日本語）で表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストの音読、日本語への訳出、文法事項の説明と練習を中心に授業を行います。テキストの内容に関してロシア語での言い換えの練習なども行います。

なお、授業の進度と取り扱うテーマは状況に応じて変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	既習文法事項の確認	既習文法事項の復習
2	ロシア語構文の特徴	ロシア語構文の説明と練習
3	複文講読(1)	関係代名詞を含む文を読む
4	複文講読(2)	副動詞を含む文を読む
5	複文講読(3)	能動形動詞を含む文を読む
6	複文講読(4)	被動形動詞を含む文を読む
7	文章講読(1)	文学作品に触れる
8	文章講読(2)	歴史を読む(数詞を含む表現)
9	文章講読(3)	歴史を読む(年月日の表現)
10	文章講読(4)	文化を読む(再帰動詞)
11	文章講読(5)	社会を読む(運動動詞)
12	文章講読(6)	社会を読む(様々な慣用表現)
13	文章講読(7)	昔話を読む(音読練習)
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語を調べ、テキストを日本語に訳してみる。格変化形は何度も復習をして自分のものにする。

【テキスト（教科書）】

適宜ロシア語テキストのプリントを配布します。
辞書、『入門ロシア語文法（改訂版）』は持参すること。

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利智一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習、授業参加態度、課題提出などを含む）50%、学期末試験 50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

受講生全員が同じレベルではないため、学生ひとりひとりに対する指導を心がけたいと考えています。

【Outline and objectives】

This is an intermediate course for students who want to improve their reading skills. Students will read texts written with various themes. Basically texts will be translated from Russian to Japanese, but sometimes from Japanese to Russian.

LANr300LA

ロシア語講読 B 2017 年度以降入学者

LANr300LA

ロシア語講読 II 2016 年度以前入学者

土岐 康子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの文章を読むことで読解力を養い、視聴覚教材（映画）を用いることでリスニングを含むロシア語会話に慣れることを目的とします。また、授業を積み重ねることでロシアの歴史やロシア社会に対する理解を深め、さまざまな角度からロシアをとらえることも、この授業の大きな目的となります。

【到達目標】

辞書を使ってロシア語の文章を読解することができる、ロシア語の質問を理解し、的確に答えることができる。ロシア語の会話を理解し、的確に応えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの音読、日本語への訳出、内容に関する質疑応答が授業の基本となります。ロシアを多角的に理解できるような視聴覚教材（映画など）を用いることもあります。授業の予定やテーマは状況に応じて変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文章講読(1)	歴史を読む(現代①)
2	文章講読(2)	歴史を読む(現代②)
3	文章講読(3)	政治を読む
4	ロシア映画(1)	リスニング・会話練習
5	ロシア映画(2)	一場面の音読練習
6	文学作品(1)	昔話を読む
7	文学作品(2)	文学作品を読む
8	ロシア映画(3)	内容を文章にする試み
9	ロシア映画(4)	内容を言葉にする試み
10	文章講読(4)	政治家の演説を読む①
11	文章講読(5)	政治家の演説を読む②
12	文章講読(6)	政治家の演説を読む③
13	文章講読(7)	新年に関する文章を読む
14	まとめと確認	既習事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で確認し、わからないことはまず自分で調べる習慣をつける。格変化形、動詞の活用は覚える努力をすること。

【テキスト（教科書）】

適宜ロシア語テキストのプリントを配布します。
辞書と『入門ロシア語文法（改訂版）』は持参すること。

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利智一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習、授業参加態度、課題提出などを含む）50%、学期末試験 50%の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

受講生ひとりひとりにあわせた指導を心がけたいと考えています。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand those texts written in Russian on various themes. It also enhances listening and conversation skills of students using materials such as movies. Ultimately cultivate the ability to see Russia diversified.

LANr300LA

時事ロシア語 A 2017 年度以降入学者

LANr300LA

時事ロシア語 I 2016 年度以前入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事、テレビニュースなど、「生」のロシア語の文章や映像に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済、外交、社会、文化等について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

(1) ロシア語の時事的文章を辞書を用いながら読むことができる。(2) 現在のロシアにおける重要なニュースについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的文章の訳読・要約に主眼を置く。必要に応じて映像・音声の視聴も取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	政治	文章の講読と語彙・文法事項の確認
3	経済	文章の講読と語彙・文法事項の確認
4	外交	文章の講読と語彙・文法事項の確認
5	軍事	文章の講読と語彙・文法事項の確認
6	司法	文章の講読と語彙・文法事項の確認
7	社会	文章の講読と語彙・文法事項の確認
8	文化	文章の講読と語彙・文法事項の確認
9	スポーツ	文章の講読と語彙・文法事項の確認
10	自由テーマ①	受講者のテーマ選択による記事の講読
11	自由テーマ②	受講者のテーマ選択による記事の講読
12	自由テーマ③	受講者のテーマ選択による記事の講読
13	自由テーマ④	受講者のテーマ選択による記事の講読
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の文章については授業の前に和訳もしくは要約を準備する。また、文法事項の復習や重要語彙の確認も必須である。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、期末試験（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian. The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

LANr300LA

時事ロシア語 B 2017 年度以降入学者

LANr300LA

時事ロシア語 II 2016 年度以前入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、ロシア語圏の新聞・雑誌・インターネット記事など、「生」のロシア語の文章や映像に触れることにより、これまで学んできたロシア語の文法・語彙を実際に用いるための訓練を行う。それに加えて、本授業では、受講者の関心に合わせて、今現在のロシアにおける政治、経済・ビジネス、外交・国際関係、社会について新たな知識を獲得することも目指す。

【到達目標】

(1) ロシア語の時事的文章を辞書を用いながら読むことができる。(2) 現在のロシアにおける政治・経済・外交に関わる様々なテーマについて自分の言葉で説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語の時事的文章の訳読・要約に主眼を置く。必要に応じて映像・音声の視聴も取り入れる。読む文章は受講者の関心に合わせて選択する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について
2	政治①	ロシアの内政に関する記事の講読
3	政治②	ロシアの内政に関する記事の講読
4	小括	記事の要約の発表
5	経済・ビジネス①	ロシアの経済・ビジネスに関する記事の講読
6	経済・ビジネス②	ロシアの経済・ビジネスに関する記事の講読
7	小括	記事の要約の発表
8	外交・国際関係①	ロシア外交・国際関係に関する記事の講読
9	外交・国際関係②	ロシア外交・国際関係に関する記事の講読
10	小括	記事の要約の発表
11	社会①	ロシア社会に関する記事の講読
12	社会②	ロシア社会に関する記事の講読
13	小括	記事の要約の発表
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の文章については授業の前に和訳もしくは要約を準備する。また、文法事項の復習や重要語彙の確認も必須である。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、期末試験（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

【Outline and objectives】

This course will focus on reading Russian newspapers, journal articles, and various Internet materials. It will be mainly offered to students who have already studied elementary Russian. The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, and society in present Russia.

LANc300LA

第三外国語としての中国語 A 2017年度以降入学者

LANc300LA

中国語初級 I 2016年度以前入学者

廣野 行雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

すでに第一、第二外国語を履修した学生が、それ以外に中国語を学ぶためのクラスです。中国語を母語としない人が、中国語を学習するために必要な知識を学び、学習を継続し発展させていくための学力を養成を目指します。

【到達目標】

まず中国語の漢字音を正しく発音し聞き取れるようにピンインというローマ文字母を習得します。中国語は、声調によって語の意味を識別するという独特な性格があります。正しく声調を発音し聞き分けられるようになることを目指します。次に基本的な語彙と文型を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストの課をおって講義を進めていきます。しかし、いうまでもないことですが、語学学習、特に初習の語学には、学習者の主体的な実践が欠かせません。練習問題による予習など積極的な取り組みが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容、到達目標の確認などを行う。
第2回	第1課～第3課	単母音、二重母音、三重母音の発音、人称代詞
第3回	第4課～第6課	母音学習のまとめ、尾音 n,ng をもつ複合母音、さまざまな述語
第4回	第7課～第9課	声調、捲舌母音、子音、疑問文
第5回	第10課～第12課	子音、声調変化、軽声、判断文
第6回	第13課、14課	発音のまとめ
第7回	第15課、16課	数詞、量詞
第8回	第17課、18課	存現文、持続態
第9回	第18課、19課	持続態、方位詞
第10回	第20課、21課	合成方位詞、完了態
第11回	第21課、22課	完了態、形容詞・数量詞の重ね型
第12回	第23課、24課	介詞構文、状態補語、結果補語
第13回	第24課、Aのまとめ	状態補語、結果補語、Aにおける重要学習事項の確認
第14回	学期末試験	学力検測のための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習にとって予習復習は必要不可欠なものです。週に一回しかない授業ですので、授業が復習の場になるような十分な予習を期待します。「学習のポイント」で取りあげられているのは、必ずおぼえましょう。

【テキスト（教科書）】

興水 優著「中国語ステップⅠ」東方書店刊

【参考書】

「中日辞典」小学館などの辞書。紙の辞書には及ばないが電子辞書も可。辞書をもつことは、単に学習に役立つだけでなく、自分自身に学習を続ける自覚を促す意味もある。

【成績評価の方法と基準】

学習態度（授業への参加度、予習復習、積極的な質問）50%。期末試験50%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義にならないように、双方向的な授業を目指す。

【その他の重要事項】

A（前期）においては、発音の習得が主なテーマになりますので、主要な文法的知識の習得はBにおいてなされるので、できうるかぎりABを通じての履修が望ましい。

学ぶこと、特に語学学習は、履修者の主体的・実践的な授業参加が欠かせません。その自覚を高めるためにも、途中の休憩時間以外に飲食は遠慮してください。但し、熱中症その他の発症時は、この限りではありません。

【Outline and objectives】

This course is for students who want to study Chinese as a third foreign language. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

第三外国語としての中国語 B 2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語初級Ⅱ 2016 年度以前入学者

廣野 行雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前学期の A に引き続き、中国語の基礎的な語彙、文法等を学ぶ。

【到達目標】

正確な発音の定着と必須語彙、文法事項を身につけ、中国語の学習を続けていく力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前期にひきつづいて、テキストの記述にしたがって、内容の説明を講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	前期Aのふりかえり	前期試験問題の解説
	第25課	動詞の重ね形
第2回	第25課、26課	経験態、使役の表現、処置文
第3回	第26課	条件節、助動詞「会」、動作量
第4回	第27課	方向補語、可能補語
第5回	第28課	複合方向補語、受動態
第6回	第29課、30課	介詞の結果補語、複文の接続
第7回	第31課	助動詞「要」、時量補語、使役の表現
第8回	第32課	接続詞、呼応表現、助動詞「可能」
第9回	第33課	将来態、連用修飾語
第10回	第34課	助動詞「要」の多様表現、呼応表現
第11回	第35課	介詞「給」、金銭単位
第12回	第36課	助動詞「可以」、動作の対象を示す介詞
第13回	まとめ	重要文法事項再確認
第14回	期末試験	学力検測のために試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前期 A 同様、予習に重点を置き、授業で疑問点を解消するよう努める。自分の学力の向上を確認するため、テレビ、ラジオの中国語講座を利用したり、図書館などで中国語の新聞、雑誌の解説に挑戦してみる。

【テキスト（教科書）】

奥水 優著「中国語ステップⅠ」東方書店刊

【参考書】

「中日辞典」小学館などを購入することを強く勧める。

【成績評価の方法と基準】

受講態度（授業参加姿勢、予復習、質問）50%と期末試験 50%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義にならぬよう、質問のやりとりを通じて双方向的な授業を目指す。

【その他の重要事項】

読解力、会話力いずれにせよ文法的知識がなければ、その効果的な向上は望めません。A、B を通した通年履修を強く勧めます。

A 同様、途中に設ける休憩時間を除いて、飲食は遠慮してください。但し、熱中症その他の発症時は、この限りではありません。

【Outline and objectives】

This course is for students who want to study Chinese as a third foreign language. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc300LA

中国語視聴覚中級 A 2017 年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

語学教材用に録音されている音声教材を用いて、リスニング練習をするとともに、語彙と文法の確認を行う。同時に、中国文化への理解も深めます。中検 3 級、HSK3・4 級のレベルに相当する。

【到達目標】

2 年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。正確な標準語の発音を身につけて、より自然な中国語を身につけることを目標とする。中検 2 級を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

リスニング練習をするとともに、語彙と文法の確認を行う。

正確な標準語を話すための発音指導も行う。

DVD 教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

中国語作文・会話練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第1回	文法理解と会話①
3	第2回	映像と質疑応答①
4	第3回	文法理解と会話②
5	第4回	映像と質疑応答②
6	第5回	文法理解と会話③
7	第6回	映像と質疑応答③
8	第7回	文法理解と会話④
9	第8回	映像と質疑応答④
10	第9回	文法理解と会話⑤
11	第10回	映像と質疑応答⑤
12	第11回	文法理解と会話⑥
13	第12回	映像と質疑応答⑥
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習すること。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。

【参考書】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVD で学ぶ中国文化～』金星堂授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

In this course, we will use the intermediate audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

LANc300LA

中国語視聴覚中級B

2017年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

語学教材用に録音されている音声教材を用いて、リスニング練習をすることにも、語彙と文法の確認を行う。同時に、中国文化への理解も深めます。中検3級、HSK3・4級のレベルに相当する。

【到達目標】

2年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。正確な標準語の発音を身につけて、より自然な中国語を身につけることを目標とする。中検2級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

リスニング練習をするとともに、語彙と文法の確認を行う。

正確な標準語を話すための発音指導も行う。

DVD教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

中国語作文・会話練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第1回	リスニングと質疑応答①
3	第2回	リスニングと質疑応答②
4	第3回	リスニングと質疑応答③
5	第4回	リスニングと質疑応答④
6	第5回	リスニングと質疑応答⑤
7	第6回	リスニングと質疑応答⑥
8	第7回	リスニングと質疑応答⑦
9	第8回	リスニングと質疑応答⑧
10	第9回	リスニングと質疑応答⑨
11	第10回	グループディスカッション①
12	第11回	グループディスカッション②
13	第12回	グループディスカッション③
14	試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習すること。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline and objectives】

In this course, we will use the intermediate audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅢ 2016年度以前入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、発音を綺麗にする。
- 3、日常会話をできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	ピンイン	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	日常用語	あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	会話（1）	自己紹介
第5回	授業内発表（1）	自己紹介を各自に発表する
第6回	文法（1）	中国語の基本構文と品詞
第7回	文法（2）	連体修飾語と連用修飾語
第8回	文法（3）	補語
第9回	文法（4）	「着」「了」「過」
第10回	読解（1）	文法の問題を解く
第11回	読解（2）	長文読解をする
第12回	会話（2）	買い物する時の会話パターンを作る
第13回	授業内発表（2）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ	全体の復習及び総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習する。

オリジナルの会話パターンを作る。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100点）を基本とする。

授業内発表の出来や学習態度も平常点として加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅣ 2016年度以前入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、作文能力を高める。
- 3、日常会話をできるようにする。
- 4、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	復習	春学期の授業内容を復習する
第2回	文法（5）	接続詞と複文
第3回	作文（1）	長文作文のイロハ
第4回	作文（2）	作文を添削する
第5回	会話（3）	レストランでの会話パターン
第6回	授業内発表（3）	レストランにて
第7回	会話（4）	道を尋ねる/教える
第8回	授業内発表（4）	道を尋ねる/教える
第9回	会話（5）	スピーチ/ものを語る
第10回	授業内発表（5）	スピーチ/ものを語る
第11回	ヒアリング（1）	映像教材を使って聞き取りをする
第12回	ヒアリング（2）	映像教材の聞き取り
第13回	復習	文法と作文の復習
第14回	まとめ	口頭発表と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習する。
オリジナルの会話パターンを作る。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（50点）と口述試験（50点）を併せて評価する。学習態度や授業内発表の出来も平常点として加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline and objectives】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳A 2017年度以降入学者

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅢ 2016年度以前入学者

葉 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけさせることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】

簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面で日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面で通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明
2	図書館の紹介	翻訳・通訳練習
3	バイト先の紹介	翻訳・通訳練習
4	食堂の紹介	翻訳・通訳練習
5	交通案内	翻訳・通訳練習
6	高速道路の紹介	翻訳・通訳練習
7	お正月の紹介	翻訳・通訳練習
8	空港と航空会社	翻訳・通訳練習
9	ネット事情の紹介	翻訳・通訳練習
10	携帯電話の紹介	翻訳・通訳練習
11	法政大学の紹介	翻訳・通訳練習
12	音楽の紹介	翻訳・通訳練習
13	日本の温泉の紹介	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接しましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。プリント配布。

【参考書】

辞書類

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、下記基準で行う。期末試験 70%、小テスト 20%、平常点 10%（授業への参加度 10%）

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】

This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 B 2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語コミュニケーションⅣ 2016 年度以前入学者

薬 進

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、中国語の基礎的な翻訳、通訳のトレーニングを行うことにより、観光やビジネス及び日常生活に関わる場面で、日本人と中国人の簡単な交流を仲介する初歩的な翻訳・通訳能力を身につけさせることです。特に日本語から中国語への訳に重点が置かれます。

【到達目標】

簡単なメール文、ニュース、観光案内、ビジネス文書の初歩的な翻訳能力、観光、買い物、交通、キャンパスライフなど日常生活の場面の日本語表現を比較的流暢に通訳できるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ネットで取得可能なニュース、観光案内、ビジネス文書の翻訳練習、テーマ別に設定した、日常生活の場面での通訳練習を行い、簡単な内容から入り、次第に深化していくようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンビニの紹介	翻訳・通訳練習
2	スーパーと百貨店の紹介	翻訳・通訳練習
3	新聞とテレビの紹介	翻訳・通訳練習
4	東京の名所の紹介	翻訳・通訳練習
5	京都の名所の紹介	翻訳・通訳練習
6	家電製品の話	翻訳・通訳練習
7	留学生との交流	翻訳・通訳練習
8	日本の会社について	翻訳・通訳練習
9	和食の紹介	翻訳・通訳練習
10	居酒屋の紹介	翻訳・通訳練習
11	日本の政治について	翻訳・通訳練習
12	日本の経済状況について	翻訳・通訳練習
13	日中関係について	翻訳・通訳練習
14	主な翻訳・通訳技法の定着と応用	総合練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々起こる出来事に注目し、中国文化への関心を持つことが、「訳す力」の基礎になりますので、とにかく日常的に意欲的に中国情報に接しましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。プリント配布。

【参考書】

辞書類

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、下記基準で行う。期末試験 70 %、小テスト 20 %、平常点 10 %（授業への参加度 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な作文練習をより多く取り入れます。

【Outline and objectives】

This lesson will conduct basic translation of Chinese and interpretation training. The aim is to acquire elementary translation and interpreting abilities corresponding to scenes related to sightseeing, business and everyday life. Especially emphasis is placed on translation from Japanese to Chinese.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 C 2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語表現法Ⅲ 2016 年度以前入学者

高田 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳1 慣用句・略語・ 背景知識の重要性を学ぶ	L 1 北京案内 リプロダクション サイトトランスレーション 音読確認
3	翻訳1 同形語 難訳単語・ 四字成語・慣用句	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳2 役職名、敬称、 ビジネスシーンの通訳心得	L 1 逐次通訳演習 L 3 企業内通訳 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳2 省略するスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳3 フォーマルな表現、 定型文	L 3 逐次通訳演習 L 4 宴会挨拶 リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳3 文章記号と表記 ルール	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
8	通訳3 数字、固有名詞、 リサーチ	L 4 逐次通訳演習 L 5 中国事情 リプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳3 通訳の選択 補って訳すスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
10	通訳4 スピードを求められる 通訳、報道の表現、 専門用語	L 5 逐次通訳演習 L 7 気象 リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳4 時事翻訳1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般 テーマ）
12	通訳5 講演の定型表現、 現場での対応	L 7 逐次通訳演習
13	翻訳5 時事翻訳2	最新時事関連の応用翻訳（経済関連 テーマ）
14	翻訳・通訳	総復習 既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。
通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリアプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材
通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % 期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳のルール説明と文法説明をより詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

In translation learning, we aim to master translation theory and translation technique.

To acquire knowledge about history and culture and society during the day and verification related to comparison languages.

In interpreting learning, lecture based on interpretation theory, interpreter training and exercises.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳D

2017年度以降入学者

LANc300LA

中国語表現法IV

2016年度以前入学者

高田 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリアプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳1 日中間の制度の違い、教育関連用語	L 8 教育 リアプロダクション サイトトランスレーション
3	翻訳1 日本語表現の工夫 コロケーション	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳2 パブリックス ビーキング、敬語	L 8 逐次通訳演習 L 9 友好都市交流 リアプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳2 訳す順序	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳3 目的語の省略、 外来語	L 9 逐次通訳演習 L 10 ファッション リアプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳3 時事翻訳1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般 テーマ～1）
8	通訳4 要点の把握、聞き手への対応	L 10 逐次通訳演習 L 13 対中投資 リアプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳4 時事翻訳2	最新時事関連の応用翻訳（社会一般 テーマ～2）
10	通訳5 司会進行、文語的表現	L 13 逐次通訳演習 L 14 環境問題（1） リアプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳5 時事翻訳3	最新時事関連の応用翻訳（経済関連～ 1）
12	通訳6 ディスカッションの通訳	L 14 環境問題（2）逐次通訳演習
13	翻訳6 時事翻訳4	最新時事関連の応用翻訳（経済関連～ 2）
14	翻訳・通訳	総復習既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。
通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリアクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材
通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % 期末テスト 50 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳のルール説明や文法説明をより詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書（スマートフォンの辞書アプリも可）

【その他の重要事項】

春学期と秋学期を合せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

In translation learning, we aim to master translation theory and translation technique.

To acquire knowledge about history and culture and society during the day and verification related to comparison languages.

In interpreting learning, lecture based on interpretation theory, interpreter training and exercises.

LANc300LA

中国語講読 A

2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語講読 I

2016 年度以前入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国で出版された児童向けの物語、小学国語教材、新聞・雑誌記事など、難易度の低いものから高いものまで、幅広いジャンルの文章を少しずつ読み進めます。文章を読み解く作業を通じて、語彙力を高め、文法事項をしっかりと理解し、読解力を深めます。

【到達目標】

中国語運用能力を向上させる基盤となるのが、語彙力と語法理解です。本授業では、各ジャンルの文章を読みながら、HSK1～4 級程度の語彙力を身につけ、語法理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業で配布する教材を輪読します。中国語の基礎を復習しながら、一文一文を丁寧に読み進め、時間があれば関連する映像資料も鑑賞し、耳から中国語に慣れる練習もする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明
第 2 回	物語を読む	昔話・童話講読（1）
第 3 回	物語を読む	昔話・童話講読（2）
第 4 回	物語を読む	成語故事講読（1）
第 5 回	物語を読む	成語故事講読（2）
第 6 回	国語教材を読む	小学国語教材講読（1）
第 7 回	国語教材を読む	小学国語教材講読（2）
第 8 回	雑誌記事を読む	雑誌記事講読（1）
第 9 回	雑誌記事を読む	雑誌記事講読（2）
第 10 回	ニュースを読む	「日経中文網」講読（1）
第 11 回	ニュースを読む	「日経中文網」講読（2）
第 12 回	ニュースを読む	「人民日報」講読（1）
第 13 回	ニュースを読む	「人民日報」講読（2）
第 14 回	授業内試験	定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に単語の意味を調べ、自分なりの日本語訳を考えて授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜配布します。

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（日本語訳の発表）50 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This is the Chinese reading comprehension course for intermediate learners. The aim of this course is to improve comprehension skill through reading stories, newspapers and magazine articles.

LANc300LA

中国語講読 B 2017 年度以降入学者

LANc300LA

中国語講読 II 2016 年度以前入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国で出版された児童向けの物語、小学国語教材、新聞・雑誌記事など、難易度の低いものから高いものまで、幅広いジャンルの文章を少しずつ読み進めます。文章を読み解く作業を通じて、語彙力を高め、文法事項をしっかりと理解し、読解力を深めます。

【到達目標】

中国語運用能力を向上させる基盤となるのが、語彙力と語法理解です。本授業では、各ジャンルの文章を読みながら、HSK1~4 級程度の語彙力を身につけ、語法理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業で配布する教材を輪読します。中国語の基礎を復習しながら、一文一文を丁寧に読み進め、時間があれば関連する映像資料も鑑賞し、耳から中国語に慣れる練習もする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方などに関する説明
第 2 回	物語を読む	昔話・童話講読 (1)
第 3 回	物語を読む	昔話・童話講読 (2)
第 4 回	物語を読む	成語故事講読 (1)
第 5 回	物語を読む	成語故事講読 (2)
第 6 回	国語教材を読む	小学国語教材講読 (1)
第 7 回	国語教材を読む	小学国語教材講読 (2)
第 8 回	雑誌記事を読む	雑誌記事講読 (1)
第 9 回	雑誌記事を読む	雑誌記事講読 (2)
第 10 回	ニュースを読む	「日経中文網」講読 (1)
第 11 回	ニュースを読む	「日経中文網」講読 (2)
第 12 回	ニュースを読む	「人民日報」講読 (1)
第 13 回	ニュースを読む	「人民日報」講読 (2)
第 14 回	授業内試験	定着度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に単語の意味を調べ、自分なりの日本語訳を考えて授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜配布します。

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（日本語訳の発表）50%、期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

This is the Chinese reading comprehension course for intermediate learners. The aim of this course is to improve comprehension skill through reading stories, newspapers and magazine articles.

LANc300LA

資格中国語中級 A 2017 年度以降入学者

LANc300LA

検定中国語 III 2016 年度以前入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の 3 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 3 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3 級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK3 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]
- ②リスニング問題の解説 [約 50 分]
- ③各種練習問題、コミュニケーショントレーニング [約 30 分]

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3 級リスニング対策①	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK3 級リスニング対策②	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK3 級リスニング対策③	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (11-15) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK3 級リスニング対策④	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (16-20) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK3 級リスニング対策⑤	HSK3 級リスニング問題の第三部分 (21-25) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK3 級リスニング対策⑥	HSK3 級リスニング問題の第三部分 (26-30) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK3 級リスニング対策⑦	HSK3 級リスニング問題の第四部分 (31-35) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK3 級リスニング対策⑧	HSK3 級リスニング問題の第四部分 (36-40) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK3 級読解対策①	HSK3 級読解問題の第一部分 (41-50) 及び第二部分 (51-55) の解説
11	HSK3 級読解対策②	HSK3 級読解問題の第二部分 (56-60) 及び第三部分 (61-70) の解説
12	HSK3 級作文対策	HSK3 級作文問題 (71-80) の解説
13	HSK3 級模擬試験と解説	HSK3 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

①パソコンまたはスマートフォンを使い、**HSK** リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。

②前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあけておく。

・劉月華（他）2001『实用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館
 ・守屋宏則 1995『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東京：東方書店
 ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の基準によって行う。

①毎回授業の初めに行う小テストの平均点。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる事前学習の実施状況とする。[80 %]

②各種トレーニングの内容（練習問題への取り組み状況、コミュニケーショントレーニングの出来具合などを総合して判断）。[20 %]

以上の①と②を総合して 100 % とし、60 % 以上の得点を取った者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。

・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。

・**HSK** 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。

・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書提出するなど、各自で然るべき対応を取ることを。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 3rd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANc300LA

資格中国語中級B

2017 年度以降入学者

LANc300LA

検定中国語Ⅳ

2016 年度以前入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、**HSK**（漢語水平考査）の 4 級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。**HSK**（漢語水平考査）とは、中国語版 **TOEFL** と呼ばれる中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである 4 級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、**HSK4** 級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

(1) 過去問題のディクテーションを通じて、**HSK4** 級合格に必要なリスニング力を身につける。

(2) 過去問題を解き、**HSK4** 級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、自宅での e ラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、**HSK3** 級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]

②リスニング問題の解説 [約 50 分]

③各種練習問題、コミュニケーショントレーニング [約 30 分]

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4 級リスニング対策 ①	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK4 級リスニング対策 ②	HSK4 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK4 級リスニング対策 ③	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (11-15) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK4 級リスニング対策 ④	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (16-20) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK4 級リスニング対策 ⑤	HSK4 級リスニング問題の第二部分 (21-25) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK4 級リスニング対策 ⑥	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (26-30) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK4 級リスニング対策 ⑦	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (31-35) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK4 級リスニング対策 ⑧	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (36-40) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK4 級リスニング対策 ⑨	HSK4 級リスニング問題の第三部分 (41-45) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
11	HSK4 級読解対策	HSK4 級読解問題 (46-85) の解説
12	HSK4 級作文対策	HSK4 級作文問題 (86-100) の解説
13	HSK4 級模擬試験と解説	HSK4 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ①パソコンまたはスマートフォンを使い、**HSK** リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ②前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあけておく。
 ・劉月華（他）2001『実用現代漢語語法（増訂本）』北京：商務印書館
 ・守屋宏則 1995『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東京：東方書店
 ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社

【成績評価の方法と基準】

成績評価は以下の基準によって行う。

- ①毎回授業の初めに行う小テストの平均点。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる事前学習の実施状況とする。[80 %]
 - ②各種トレーニングの内容（練習問題への取り組み状況、コミュニケーショントレーニングの出来具合などを総合して判断）。[20 %]
- 以上の①と②を総合して 100 % とし、60 % 以上の得点を取った者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

LANc300LA

資格中国語上級 A

2017 年度以降入学者

LANc300LA

検定中国語Ⅲ

2016 年度以前入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

【到達目標】

学校生活や日常生活で必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6 級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを基本にして読解力、翻訳力を高めます。そして作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	レベルチェック HSK 合格の基準 HSK 5・6 級に到達する概要
第 2 回	HSK5 級の練習	「的」の使い方のみ
第 3 回	HSK5 級の練習	文章記号と原稿用紙の使い方 方向補語など
第 4 回	作文の基礎	作文の練習（400 字） 練習問題など
第 5 回	HSK5 級の練習	作文の問題点など
第 6 回	HSK5 級の練習	結果補語など
第 7 回	HSK5 級の練習	比較の表現 逆接の表現など
第 8 回	HSK5 級の練習	二重目的語 動詞述語文のみ
第 9 回	HSK5 級の練習	目的語になる動詞句と主述句など 作文の練習（400 字）
第 10 回	HSK5 級の練習	作文の問題点など 練習問題
第 11 回	HSK5 級の練習	連用修飾語 前置詞など
第 12 回	HSK5 級の練習	主語になる動詞句 慣用形など
第 13 回	HSK5 級の練習	絵を見て作文練習（400 字） 作文の問題点
第 14 回	総復習	翻訳の練習 補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次のプリントをちゃんと準備すること。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生に高く評価されてました。続けてこのやり方でやります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

LANc300LA

資格中国語上級B

2017年度以降入学者

LANc300LA

検定中国語Ⅳ

2016年度以前入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3
2~4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なこと、自分自身のことなどを中国語で書いて表現する能力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳の練習。訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。事前に用意してもらい、授業中みなさんの作文をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	資格関連の問題 翻訳	形容詞など 練習指導
2回	資格関連の問題 翻訳	助動詞など
3回	資格関連の問題 翻訳	伝聞、条件、選択など
4回	作文など	作文練習（400字）
5回	作文など	作文指導など
6回	資格関連の練習 翻訳	予定・計画、願望・意志など
7回	資格関連の練習 翻訳	推測、仮定、因果関係など
8回	作文など	作文練習（400字）
9回	作文、翻訳など	作文指導、問題チェック
10回	資格関連の練習 翻訳	問題チェック
11回	HSK 6級	HSK 6級の練習
12回	HSK 6級	HSK 6級の練習
13回	資格関連の練習 翻訳	問題指導
14回	総復習	総まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次のプリントをちゃんと用意すること。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合評価します

【学生の意見等からの気づき】

学生が高く評価してくれました。続けてこのやり方でやります。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

ARSe300LA

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において、地理的な条件、気候風土、生活習慣などが、人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国 第二季』を見ながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

映像資料の鑑賞・文献の講読や、中国の地理、地域の特色、料理、調理方法、年中行事などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ドキュメンタリー番組『舌尖上的中国 第二季』の中国語テキストを日本語に翻訳する作業を行います。中国語未習者も歓迎しますので、とくに読解と解説に重点を置いて進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明
第2回	中国各地の家庭料理（1）	山西の「 <input type="checkbox"/> 面」(1)
第3回	中国各地の家庭料理（2）	山西の「 <input type="checkbox"/> 面」(2)
第4回	中国各地の家庭料理（3）	上海の「 <input type="checkbox"/> 肉」(1)
第5回	中国各地の家庭料理（4）	上海の「 <input type="checkbox"/> 肉」(2)
第6回	中国各地の家庭料理（5）	四川の「泡菜」
第7回	中国各地の家庭料理（6）	山東の「西瓜」
第8回	中国各地の家庭料理（7）	江蘇の「蒲菜水」(1)
第9回	中国各地の家庭料理（8）	江蘇の「蒲菜水」(2)
第10回	中国各地の家庭料理（9）	澳門の「甜食」(1)
第11回	中国各地の家庭料理（10）	澳門の「甜食」(2)
第12回	中国各地の家庭料理（11）	広東の「金菜南北杏蜜 <input type="checkbox"/> 白肺」(1)
第13回	中国各地の家庭料理（12）	広東の「金菜南北杏蜜 <input type="checkbox"/> 白肺」(2)
第14回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中華料理店を訪れ、地域の特色あるメニューを調査することをおすすめします。

【テキスト（教科書）】

『舌尖上的中国 第二季』中央電視台紀錄頻道編、中国广播電視出版社、2014年6月

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（日本語訳・発表）70%、レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

ARSe300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国の食文化

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国において、地理的な条件、気候風土、生活習慣などが、人々の「食」にどのような影響を与えてきたのか。中国中央電視台（CCTV）で放送された「食」に関するドキュメンタリー番組『舌尖上的中国 第二季』を見ながら、地域の伝統的な食文化の伝承について理解を深めます。

【到達目標】

映像資料の鑑賞・文献の講読や、中国の地理、地域の特色、料理、調理方法、年中行事などへの調査を通して、多角的に食文化への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ドキュメンタリー番組『舌尖上的中国 第二季』の中国語テキストを日本語に翻訳する作業を行います。中国語未習者も歓迎しますので、とくに読解と解説に重点を置いて進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方についての説明
第2回	中国各地の三食（1）	天津の「煎 <input type="checkbox"/> 菓子」 重慶の朝食
第3回	中国各地の三食（2）	蘇州の「 <input type="checkbox"/> 大肉面」、武漢の「 <input type="checkbox"/> 」 「 <input type="checkbox"/> 豆皮」「 <input type="checkbox"/> 干面」(1)
第4回	中国各地の三食（3）	蘇州の「 <input type="checkbox"/> 大肉面」、武漢の「 <input type="checkbox"/> 」 「 <input type="checkbox"/> 豆皮」「 <input type="checkbox"/> 干面」(2)
第5回	中国各地の三食（4）	重慶の「牛肉面」
第6回	中国各地の三食（5）	広州の「花式早茶」
第7回	中国各地の三食（6）	深圳のある工場の社食と、ある家族の食事
第8回	中国各地の三食（7）	湖南省湘郷の「咸 <input type="checkbox"/> 蛋」
第9回	中国各地の三食（8）	四川省涼山のある家族の食事
第10回	中国各地の三食（9）	安徽のある家族の食事
第11回	中国各地の三食（10）	香港の「屯内追月夜宴」での食事
第12回	中国各地の三食（11）	四川省古蘭のある家族の食事
第13回	中国各地の三食（12）	雲南省大理のある家族の食事
第14回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中華料理店を訪れ、地域の特色あるメニューを調査することをおすすめします。

【テキスト（教科書）】

『舌尖上的中国 第二季』中央電視台紀錄頻道編、中国广播電視出版社、2014年6月

【参考書】

授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（日本語訳・発表）70%、レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 A 2017 年度以降入学者

LANs300LA

スペイン語初級 I 2016 年度以前入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語が話されている国の概要を理解する。**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講師が文法事項を説明する。履修生はCDを聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴、スペイン語圏諸国
2	挨拶	アルファベット、発音、アクセント、数詞 0～10
3	人物紹介	主格人称代名詞、動詞 ser、数詞 11～20
4	スペイン語圏の名前	冠詞、名詞、数詞 21～100
5	勉強	国名、国籍、ar 動詞、er 動詞、ir 動詞
6	言語	動詞 hacer, tener
7	所在	動詞 estar, hay、指示詞（中性）
8	移動・交通手段	動詞 ir、接続詞
9	食事	動詞 gustar、目的格人称代名詞
10	食生活	レストラン・バルでの会話
11	家族	指示詞（性数）
12	職業	所有形容詞前置形、動詞 tener の用法
13	復習	応用練習
14	期末試験	春学期に学習した内容を確認するための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語は必ずあらかじめ辞書で調べて授業に臨む。音声を何度も聴いて発音練習したり、テレビ・ラジオのスペイン語講座を視聴したり、授業以外でもスペイン語に触れ積極的に学ぶ。

【テキスト（教科書）】

坂東省二、泉水浩隆、アレハンドロ・コントララス『ディアロゴス 対話で学ぶスペイン語（改訂版）』三修社、2017 年

【参考書】岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同人社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同人社
その他、授業中に適宜紹介。**【成績評価の方法と基準】**

平常点（60％）、小テスト・期末試験（40％）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな言語を学習している学生が集まるので、スペイン語特有の発音に慣れてもらうため、会話練習に力を入れたいと思います。

【その他の重要事項】授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお勧めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。**【Outline and objectives】**

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 B 2017 年度以降入学者

LANs300LA

スペイン語初級 II 2016 年度以前入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
2～4 年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】動詞の現在時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講師が文法事項を説明する。履修生はCDを聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	持ち物	形容詞、色
2	買い物	動詞 querer, costar
3	住居	位置関係の語句、前置詞
4	間取り	動詞 medir、数詞 100～1000
5	時刻	動詞 jugar, volver
6	日付、曜日	再帰動詞
7	大学	序数 1～10、無人称の se
8	スケジュール	肯定命令
9	過去の出来事	過去分詞、現在完了
10	観光地	手紙の書き方
11	休暇の予定	動詞 ir の用法
12	願望	前置詞句、過去未来
13	クリスマスと新年	お祝いのメッセージ
14	期末試験	秋学期に学習した内容を確認するための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語は必ずあらかじめ辞書で調べて授業に臨む。音声を何度も聴いて発音練習したり、テレビ・ラジオのスペイン語講座を視聴したり、授業以外でもスペイン語に触れ積極的に学ぶ。

【テキスト（教科書）】

坂東省二、泉水浩隆、アレハンドロ・コントララス『ディアロゴス 対話で学ぶスペイン語（改訂版）』三修社、2017 年

【参考書】岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋覚二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同人社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同人社
その他、授業中に適宜紹介。**【成績評価の方法と基準】**

平常点（60％）、小テスト・期末試験（40％）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな言語を学習している学生が集まるので、スペイン語特有の発音に慣れてもらうため、会話練習に力を入れたいと思います。

【その他の重要事項】授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお勧めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、西和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和西辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。**【Outline and objectives】**

This course introduces the basic of Spanish to beginners.

LANs300LA

スペイン語上級 A

2017 年度以降入学者

LANs300LA

スペイン語上級 I

2016 年度以前入学者

佐々木 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン S A 修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】

DELE の B2 から C1 レベルを目指す。

具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

読解：当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を当てて解答を要求する。教師はそれについてアドバイス、コメントをする。

また、テーマに応じたディスカッションも行う。授業は基本的にスペイン語で行い、スペイン語による「話す力」も鍛錬する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員によるモデル授業。 スペイン語によるディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
10	講読 9 ディスカッション (文学)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
11	講読 10 ディスカッション (テクノロジー)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
12	講読 11 ディスカッション (移民)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。
自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

LANs300LA

スペイン語上級B

2017年度以降入学者

LANs300LA

スペイン語上級II

2016年度以前入学者

佐々木 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スペインSA修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。

【到達目標】

DELE の B2 から C1 レベルを目指す。

具体的な目標は二つ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を当てて解答を要求する。教師はそれについてアドバイス、コメントをする。また、テーマに応じたスペイン語によるディスカッションを行う。

基本的に授業はスペイン語で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。 受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。 教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員によるモデル授業。 教員によるめでの授業。 スペイン語によるディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
10	講読 9 ディスカッション (文学)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
11	講読 10 ディスカッション (自由テーマ)	学生による講読の授業。教員のコメント。
12	講読 11 ディスカッション (時事問題)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	学生による講読の授業。教員のコメント。 スペイン語によるディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。
自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他学生の発表の時の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline and objectives】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Conducted in Spanish.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

LANs300LA

スペイン語コミュニケーションⅢ 2016年度以前入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

En esta clase daremos importancia al estudio equilibrado de las cuatro destrezas: leer, escribir, escuchar y hablar,

【到達目標】

Aprender el idioma español avanzado del nivel de DELE B2.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Haremos ejercicios para facilitar la comprensión de las cuatro destrezas (expresión lectora, expresión escrita, comprensión auditiva y expresión oral) requeridas en el examen del Diploma de Español (DELE) del nivel B2, utilizando modelos de exámenes completos similares a los reales.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Examen1 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1)
2	Examen1 (2)	Comprensión auditiva(Tareas2y3)
3	Examen1 (3)	Comprensión de Lectura(Tarea2) Comprensión auditiva(Tarea4)
4	Examen1 (4)	Comprensión auditiva (Tarea5)
5	Examen1 (5)	Comprensión de lectura(Tarea4)
6	Examen1 (6)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
7	Examen1 (7)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
8	Examen2 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1)
9	Examen2 (2)	Comprensión auditiva(Tareas2y3) Lectura(Tarea2)
10	Examen2 (3)	Comprensión auditiva(Tarea4) Comprensión de lectura(Tarea3)
11	Examen2 (4)Examen2 (5)	Comprensión auditiva(Tarea5) Comprensión de lectura(Tarea4)
12	Examen2 (6)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2)
13	Examen2 (7)	Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
14	Tiempo de ajuste	Aclaración dudas

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

En principio, sólo habrá que preparar en casa la comprensión lectora.El resto de las pruebas intentaremos hacerlas en la clase ciñéndonos al tiempo del examen real

【テキスト（教科書）】

Destino DELE, B2
Cristina M.Alegre Palazón
Cideb

En caso de no tener el libro se repartirán fotocopias.

【参考書】

Si hubiera alguna referencia se daría la información en la clase.

【成績評価の方法と基準】

Se calificará de acuerdo con el trabajo realizado cada semana por el estudiante y el examen semestral que constará de una lectura con preguntas y una o dos pruebas auditivas.

Examen 70%

Actitud en clase 30%

Se penalizarán las faltas de asistencia. Pasando de tres no se conseguirá el aprobado.

【学生の意見等からの気づき】

Ninguno en especial.

【その他の重要事項】

Para participar en esta clase se requieren un conocimiento del español avanzado y muchas ganas de trabajar.

Respecto a la expresión lectora y a la comprensión auditiva, aclararemos las dudas en la clase.La expresión escrita será devuelta a cada estudiante tras su corrección.

Se espera que sea una clase dinámica y con alto grado de participación.

【Outline and objectives】

We will do exercises to facilitate the comprehension of the four skills (reading expression, written expression, listening comprehension and oral expression) required in the examination of the Diploma of Spanish (DELE) of level B2, using models of complete exams similar to real ones.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

LANs300LA

スペイン語コミュニケーションIV 2016年度以前入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

En esta clase daremos importancia al estudio equilibrado de las cuatro destrezas: leer, escribir, escuchar y hablar.

【到達目標】

Aprender el idioma español avanzado del nivel de DELE B2.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Haremos ejercicios para facilitar la comprensión de las cuatro destrezas (expresión lectora, expresión escrita, comprensión auditiva y expresión oral) requeridas en el examen del Diploma de Español (DELE) del nivel B2, utilizando modelos de exámenes completos similares a los reales.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Examen3 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1)
2	Examen3 (2)	Comprensión auditiva (Tarea1)
3	Examen3 (3)	Comprensión auditiva(Tareas2y3) Comprensión de Lectura(Tarea2)
4	Examen3 (4)	Comprensión auditiva(Tarea4) Comprensión de lectura(Tarea3)
5	Examen3 (5)	Comprensión auditiva (Tarea5)
6	Examen3 (6)	Comprensión de lectura(Tarea4)
7	Examen3 (7)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2) Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
8	Examen4 (1)	Comprensión de lectura(Tarea1)
9	Examen4 (2)	Comprensión auditiva (Tarea1)
10	Examen4 (3)	Comprensión auditiva(Tareas2y3) Lectura(Tarea2)
11	Examen4 (4)	Comprensión auditiva(Tarea4) Comprensión de lectura(Tarea3)
12	Examen4 (5)	Comprensión auditiva(Tarea5) Comprensión de lectura(Tarea4)
13	Examen4 (6)	Expresión e interacción escritas(Tareas1y2) Expresión e interacción orales (Tareas1,2y3)
14	Tiempo de ajuste	Aclaración dudas.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

En principio, sólo habrá que preparar en casa la comprensión lectora. El resto de las pruebas intentaremos hacerlas en la clase ciñéndonos al tiempo del examen real

【テキスト（教科書）】

Destino DELE, B2

Cristina M.Alegre Palazón

Cideb

En caso de uno tener el libro de texto se repartirán fotocopias en la clase.

【参考書】

Si hubiera alguna referencia se daría la información en la clase.

【成績評価の方法と基準】

Se calificará de acuerdo con el trabajo realizado cada semana por el estudiante y el examen semestral que constará de una lectura con preguntas y una o dos pruebas auditivas.

Examen 70%

Actitud en clase 30%

Se penalizarán las faltas de asistencia. Pasando de tres no se conseguirá el aprobado.

【学生の意見等からの気づき】

Ninguno en especial.

【その他の重要事項】

Para participar en esta clase se requieren un conocimiento del español avanzado y muchas ganas de trabajar.

Respecto a la expresión lectora y a la comprensión auditiva, aclararemos las dudas en la clase. La expresión escrita será de vuelta a cada estudiante tras su corrección.

Se espera que sea una clase dinámica y con alto grado de participación.

【Outline and objectives】

We will do exercises to facilitate the comprehension of the four skills (reading expression, written expression, listening comprehension and oral expression) required in the examination of the Diploma of Spanish (DELE) of level B2, using models of complete exams similar to real ones.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

サブタイトル：スペイン語圏の文化と社会を読み解く

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
2～4年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スペイン語圏の文化と社会について、映画やドキュメンタリー作品を中心とする映像資料を用いながら学ぶことを目的とする。スペイン語圏に関する話題の多くは、ヨーロッパやアメリカをはじめとするその他の地域との密接な関係性のなかに位置づけられるものである。スペイン語圏の話題を切り口に、そこから世界を眺めてみるとどのような光景が立ち現れてくるのか。そんなことも意識しながら、人間社会のさまざまなありようを浮き彫りしていきたい。

【到達目標】

この授業を通して、以下の能力を身につけることを目標とする。

- ①スペイン語圏の文化と社会についての基本的な知識を身につける。
- ②①で得た知識をもとに、それぞれ関心のあるテーマを見つけ、それを論理的に追究する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は「ゼミ形式」で進められる。少人数（20名以下）の受講生を対象とするため、初回の授業にはかならず出席すること。受講希望者が多い場合は選抜を行なう。各回の授業では、教員が「スペイン語圏の文化と社会」にかかわるテーマをピックアップし、それについての概論的な説明を行なう。その後、関連映像を見ながら理解を深め、それに関するディスカッションや質疑応答を行なう。最後に、その日のテーマについてコメントシートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明する
2	スペインにおけるローマ文化の影響とその歴史	「スペインにおけるローマ文化の影響とその歴史」について、関連映像を見ながら理解を深める。
3	スペインにおけるイスラム支配の歴史	「スペインにおけるイスラム支配の歴史」について、関連映像を見ながら理解を深める。
4	スペインにおけるイスラム文化の影響	「スペインにおけるイスラム文化の影響」について、関連映像を見ながら理解を深める。
5	スペインにおけるユダヤ教の影響	「スペインにおけるユダヤ教の影響」について、関連映像を見ながら理解を深める。
6	スペインにおけるレコンキスタの歴史	「スペインにおけるレコンキスタの歴史」について、関連映像を見ながら理解を深める。
7	スペインにおける三文化共存の歴史	「スペインにおける三文化共存の歴史」について、関連映像を見ながら理解を深める。
8	スペインの国家統一にむけての歴史	「スペインの国家統一にむけての歴史」について、関連映像を見ながら理解を深める。
9	大航海時代のスペイン	「大航海時代のスペイン」について、関連映像を見ながら理解を深める。
10	スペインによる植民地経営の歴史	「スペインによる植民地経営の歴史」について、関連映像を見ながら理解を深める。
11	スペインにおける異端審問および「血の純潔」思想の歴史	スペインにおける異端審問および「血の純潔」思想の歴史について、関連映像を見ながら理解を深める。
12	スペイン没落の歴史	「スペイン没落の歴史」について、関連映像を見ながら理解を深める。
13	春学期のまとめ	春学期の授業で学んだことについて補足説明およびまとめを行なう。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことについて自分なりに調べる作業が求められる。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内のディスカッションや毎回提出してもらうコメントシートの内容等を考慮した平常点（60%）、期末試験の結果（40%）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を展開する。

【その他の重要事項】

・受講希望者が多い場合、選抜試験を行うので、初回の授業には必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students become more aware of several aspects of culture and society in Spanish-speaking countries. Students will discover various facts and reality through sundry materials, mainly concentrating on cinemas and documentary films. Such problems are mostly related to Europe, America and other countries with which Spanish-speaking nations have close contact. In cinema-scenes, students will find out unexpected life-styles and values in the world. The goal of this seminar is to explore various reality and truth in our human society.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：スペイン語圏の文化と社会を読み解く

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
2～4年 ※定員制**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、春学期にひきつづき、スペイン語圏の文化と社会について、映画やドキュメンタリー作品を中心とする映像資料を用いながら学ぶことを目的とする。スペイン語圏に関する話題の多くは、ヨーロッパやアメリカをはじめとするその他の地域との密接な関係性のなかに位置づけられるものである。スペイン語圏の話題を切り口に、そこから世界を眺めてみるとどのような光景が立ち現れてくるのか。そんなことも意識しながら、人間社会のさまざまなありようを浮き彫りしていきたい。

【到達目標】

この授業を通して、以下の能力を身につけることを目標とする。

- ①スペイン語圏の文化と社会についての基本的な知識を身につける。
- ②①で得た知識をもとに、それぞれ関心のあるテーマを見つけ、それを論理的に追究する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期にひきつづき、この授業は「ゼミ形式」で進められる。少人数（20名以下）の受講生を対象とするため、初回の授業にはかならず出席すること。受講希望者が多い場合は選抜を行なう。各回の授業では、教員が「スペイン語圏の文化と社会」にかかわるテーマをピックアップし、それについての概論的な説明を行なう。その後、関連映像を見ながら理解を深め、それに関するディスカッションや質疑応答を行なう。最後に、その日のテーマについてコメントシートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明する
2	スペイン内戦	スペイン内戦について、関連映像を見ながら理解を深める。
3	フランコ独裁政権下のスペイン①	フランコ独裁政権下のスペインについて、関連映像を見ながら理解を深める。
4	フランコ独裁政権下のスペイン②	フランコ独裁政権下のスペインにおける文化と社会について、関連映像を見ながら理解を深める。
5	ピカソとゲルニカ	ピカソとゲルニカについて、関連映像を見ながら理解を深める。
6	ベラスケスとスペイン宮廷	ベラスケスとスペイン宮廷について、関連映像を見ながら理解を深める。
7	『ドン・キホーテ』とスペイン社会	『ドン・キホーテ』とスペイン社会について、関連映像を見ながら理解を深める。
8	民主化時代の到来とスペイン	民主化時代の到来とスペインについて、関連映像を見ながら理解を深める。
9	民主化時代のスペインにおける新しい文化の誕生	民主化時代のスペインにおける新しい文化の誕生について、関連映像を見ながら理解を深める。
10	90年代のスペイン社会と文化	90年代のスペイン社会と文化について、関連映像を見ながら理解を深める。
11	バスクの伝統と文化	バスク地方の伝統と文化について、関連映像を見ながら理解を深める。
12	カタルーニャの歴史と文化	カタルーニャの歴史と文化について、関連映像を見ながら理解を深める。
13	秋学期のまとめ	秋学期の授業で学んだことについて補足説明およびまとめを行なう。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことについて自分なりに調べる作業が求められる。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内のディスカッションや毎回提出してもらうコメントシートの内容等を考慮した平常点（60%）、期末試験の結果（40%）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を展開する。

【その他の重要事項】

・受講希望者が多い場合、選抜試験を行うので、初回の授業には必ず出席すること。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students become more aware of several aspects of culture and society in Spanish-speaking countries. Students will discover various facts and reality through sundry materials, mainly concentrating on cinemas and documentary films. Such problems are mostly related to Europe, America and other countries with which Spanish-speaking nations have close contact. In cinema-scenes, students will find out unexpected life-styles and values in the world. The goal of this seminar is to explore various reality and truth in our human society.

LANs300LA

スペイン語講読 A

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。スペイン語初級の授業をすでに受講したことがある学生が対象となる。新聞記事や小説など、さまざまなジャンルのスペイン語の文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【到達目標】

新聞記事や小説など、さまざまなジャンルのスペイン語の文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際にスペイン語の文章を読みながら、基本的な文法事項の復習を織りまぜ、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につける。毎回、授業冒頭で、その日のレッスンで扱うテーマについての概略的な説明を教員が行なう。その後、順番に指名された受講生が訳読を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	ar 動詞、er 動詞、ir 動詞の現在形を用いた文章の読解	ar 動詞、er 動詞、ir 動詞の用法に注意しながら文章を読む。
3	ser 動詞を用いた文章の読解	ser 動詞の用法に注意しながら文章を読む。
4	estar 動詞を用いた文章の読解	estar 動詞の用法に注意しながら文章を読む。
5	再帰動詞を用いた文章の読解	再帰動詞の用法に注意しながら文章を読む。
6	再帰動詞を用いた文章の読解	再帰動詞の用法に注意しながら文章を読む。
7	関係代名詞 que を用いた文章の読解	関係代名詞 que の用法に注意しながら文章を読む。
8	関係代名詞 el que、la que 等々を用いた文章の読解	関係代名詞 el que、la que 等々の用法に注意しながら文章を読む。
9	関係副詞 donde を用いた文章の読解	関係代名詞 donde の用法に注意しながら文章を読む。
10	関係形容詞 cuyo を用いた文章の読解	関係形容詞 cuyo の用法に注意しながら文章を読む。
11	直接目的格代名詞を用いた文章の読解	直接目的格代名詞の用法に注意しながら文章を読む。
12	間接目的格代名詞を用いた文章の読解	間接目的格代名詞の用法に注意しながら文章を読む。
13	前期のまとめ	前期に学んだ文法事項の復習。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必須である。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline and objectives】

This course is intended for students who have completed elementary Spanish class. Through the use of their basic knowledge of Spanish grammar, this course is designed to improve students' reading ability by enjoying rather long miscellaneous Spanish sentences, such as newspaper items, novels etc. Consulting dictionaries, students will be able to explore further aspects of Spanish culture in various fields.

LANs300LA

スペイン語講読 B

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2
2~4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期にひきつづき、初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。スペイン語初級の授業をすでに受講したことがある学生が対象となる。新聞記事や小説など、さまざまなジャンルのスペイン語の文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【到達目標】

春学期にひきつづき、新聞記事や小説など、さまざまなジャンルのスペイン語の文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期にひきつづき、実際にスペイン語の文章を読みながら、基本的な文法事項の復習を織りまぜ、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につける。毎回、授業冒頭で、その日のレッスンで扱うテーマについての概略的な説明を教員が行なう。その後、順番に指名された受講生が訳読を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現在完了形を用いた文章の読解	現在完了形の用法に留意しながら文章を読む
2	動詞の点過去を用いた文章の読解	動詞の点過去の用法に留意しながら文章を読む
3	動詞の点過去（不規則形）を用いた文章の読解	動詞の点過去（不規則形）の用法に留意しながら文章を読む
4	動詞の線過去を用いた文章の読解	動詞の線過去の用法に留意しながら文章を読む
5	動詞の線過去（不規則形）を用いた文章の読解	動詞の線過去（不規則形）の用法に留意しながら文章を読む
6	gustar 型の動詞を用いた文章の読解	gustar 型の動詞の用法に留意しながら文章を読む
7	動詞の未来形を用いた文章の読解	動詞の未来形の用法に留意しながら文章を読む
8	動詞の過去未来形を用いた文章の読解	動詞の過去未来形の用法に留意しながら文章を読む
9	動詞の過去完了形を用いた文章の読解	動詞の過去完了形の用法に留意しながら文章を読む
10	動詞の未来完了形を用いた文章の読解	動詞の未来完了形の用法に留意しながら文章を読む
11	動詞の過去未来完了形を用いた文章の読解	動詞の過去未来完了形の用法に留意しながら文章を読む
12	動詞の接続法現在形を用いた文章の読解	動詞の接続法現在形の用法に留意しながら文章を読む
13	総まとめ	春学期・秋学期を通じて学んだ文法事項の復習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必須である。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline and objectives】

This course is intended for students who have completed elementary Spanish class. Through the use of their basic knowledge of Spanish grammar, this course is designed to improve students' reading ability by enjoying rather long miscellaneous Spanish sentences, such as newspaper items, novels etc. Consulting dictionaries, students will be able to explore further aspects of Spanish culture in various fields.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：近世フランス服飾文化論

内村 理奈

開講時期：オースタムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、服飾を通して、アンシャン・レジーム期フランスの社会や文化を読み解く。服飾は、着用者の美意識、感性、身体感覚、思想、経済状況など、個人の内側や、個人を取り巻くあらゆる事柄を反映し、その時代の社会構造や文化を表している。一見小さく思える服飾の世界から、近世フランスの文化はもちろん、この時代に生きた人々の精神世界や感性の深淵に迫ることになった。講義期間中に服飾関連の展覧会があるので、学外授業として見学も行う。

【到達目標】

様々な文献資料や画像資料にみられる服飾描写や服飾表現から、フランス文化を洞察し、服飾に託された人間の感情や感性、そして、服飾の表象を読み解くことができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。パワーポイントにて画像資料を紹介する。また、一部、学外の美術館で開催されている服飾展の見学も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方などイントロダクションと、服飾文化を学ぶ意義。
第 2 回	服飾と清潔感①白い下着	17 世紀の白いリネン類の流行と清潔の関係について
第 3 回	服飾と清潔感②肌の白さのアピール	肌の白さのアピールによる清潔感の表現
第 4 回	服飾と清潔感③漂白技法	白いリネン類はどのように漂白され、洗濯されていたのか
第 5 回	服飾と清潔感④清潔のヒエラルキー	白いリネン類およびレースによる身分表象
第 6 回	服飾とふるまい①帽子に見られるジェンダー	中世から 17 世紀に至る帽子(chapeau)にみられる男性性の表象
第 7 回	服飾とふるまい②脱帽、帽子の喜劇	17 世紀の帽子のエチケット
第 8 回	服飾とふるまい③帽子の挨拶	バレーの教本に見られた帽子の挨拶の所作
第 9 回	学外授業、展覧会見学、事前解説	服飾に関する展覧会の見学を予定
第 10 回	学外授業、展覧会見学、見学後ディスカッション	服飾に関する展覧会の見学を予定
第 11 回	服飾と文学①ツヴァイク『マリー・アントワネット』前半	伝記作家ツヴァイクの『マリー・アントワネット』を服飾から読み解く
第 12 回	服飾と文学②ツヴァイク『マリー・アントワネット』後半	伝記作家ツヴァイクの『マリー・アントワネット』にみられる白いドレスと指輪の表象
第 13 回	映像資料の鑑賞	講義に関連する映像資料の鑑賞
第 14 回	まとめ	講義を総括し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

内村理奈『ヨーロッパ服飾物語』北樹出版、2016 年

【参考書】

内村理奈『モードの身体史—近世フランスの服飾にみる清潔・ふるまい・逸脱の文化』悠書館、2013 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 点、レポートあるいは試験 70 点による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更につきフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Histoire de la mode et de l'apparence en france sous l'ancien regime.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：近代フランス服飾文化論

内村 理奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、服飾を通して、主に 19 世紀フランスの社会と文化を読み解く。絵画や、ファッション・プレートと呼ばれる服飾版画などの画像資料や、19 世紀に多く出版されたモード雑誌などを資料にして、アートとメディア、ビジュアルと言説の観点から、服飾文化を論じる。フランス生活文化論 LA と同様、服飾を通して、この時代に生きた人々の精神世界や感性にまで肉薄していきたい。

【到達目標】

様々な画像資料や文献資料から服飾文化を読み解くことができること。美術、文学、服飾の連関を理解することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。パワーポイントにて画像資料を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方などのイントロダクションと、服飾文化を学ぶ意義について
第 2 回	モードの意味	mode の言葉の意味の変遷について
第 3 回	ギャラントリーのリボン	17 世紀パリに流行った男性のリボンの文化について
第 4 回	雅宴画のリボン	ギャラントリーのリボンのその後の展開を雅宴画や文学作品から読み解く
第 5 回	印象派絵画とモード	印象派の絵画とファッションプレートの関係について
第 6 回	ルノワールの描いたモード	印象派の巨匠ルノワールの作品とモード雑誌の関係について
第 7 回	ネオ・ロココのモード	19 世紀後半にみられた一種の懐古趣味であるネオ・ロココとモードの関係
第 8 回	第 2 帝政期のマリー・アントワネット好み	第 2 帝政期にみられたマリー・アントワネットに關するモードの懐古趣味
第 9 回	モード雑誌と礼儀作法書	モード雑誌と礼儀作法書の歴史を概観する
第 10 回	モードになった花嫁衣裳	モード雑誌と礼儀作法書に記された花嫁衣裳の記事と画像の比較
第 11 回	喪服にみられるジェンダー	17 世紀から 19 世紀の寡婦の喪服について
第 12 回	モードになった喪服	モード雑誌と礼儀作法書に記された喪服の記事と画像の比較
第 13 回	映像資料の鑑賞	講義に関連する映像資料の鑑賞
第 14 回	まとめ	講義を総括し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習と復習をしてください。

【テキスト（教科書）】

内村理奈『ヨーロッパ服飾物語Ⅱ』北樹出版、2019 年出版予定。

【参考書】

徳井淑子、朝倉三枝、内村理奈、新實五穂、角田奈歩、原口碧『フランス・モード史への招待』悠書館、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 点、試験あるいはレポート 70 点による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

Histoire de la mode en france moderne.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Culture française フランス文化。ファッションと料理

ヴァリエンス コリンヌ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、ファッションと料理にフランス文化を発見するでしょう。

【到達目標】

ファッションと料理の語彙や表現を発見。学生は、ファッションと料理のテーマについての会話を作ることができるようになります

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

フランスのファッションとグルメの文化についてのテキストとビデオを制作します。

Nous travaillerons sur des textes et des vidéo concernant la culture française de la mode et de la gastronomie.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーション	クラスとプログラムのプレゼンテーション
第 2 回	ファッション	あなたのファッションのイメージ。文化的、言語的知識の評価
第 3 回	料理	あなたの料理のイメージ。文化的、言語的知識の評価
第 4 回	ファッション	有名なスタイリスト 2 - 有名な " グランド メゾン 歴史
第 5 回	ファッション	シャネル - テキストとビデオ - 2 衣服、形状、色を記述する - 語彙や文法
第 6 回	ファッション	サンローラン - テキスト - 2 語彙や文法
第 7 回	料理	有名なレストラン 2 - 郷土料理
第 8 回	料理	アルザス - テキストとビデオ - 2 メニュー、メインコースを記述する、
第 9 回	料理	ロヴァンス テキストとビデオ - 2 レストランで注文をする
第 10 回	ファッション	映画の料理のイメージイメージ - 2
第 11 回	ファッション	クリスチアン ディオール - テキストとビデオ - 2 衣服、形状、色を記述する - 語彙や文法
第 12 回	ファッション	ジャン=ポール・ゴルチエ - 2 衣服、形状、色を記述する - 語彙や文法
第 13 回	復習	料理とファッションの復習
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、テキスト・演習問題の予習・復習、授業内で示される課題（レポート、演習問題）対応など、準備学習・復習・宿題等の内容を具体的に記述します。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

dictionnaire

【成績評価の方法と基準】

出席と参加 La présence et la participation en classe : 60%.

最終試験 L'examen final : 40 %

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業改善アンケートを踏まえた授業改善のための取り組みや工夫の内容を示します。

【Outline and objectives】

このクラスでは、ファッションと料理にフランス文化を発見するでしょう。あなたは、店舗やレストランでの会話を持っている基本的

ARSA200LA

フランス生活文化論 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

ヴァリエンス コリンヌ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2
法文営国環キ 1~4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、ファッションと料理にフランス文化を発見するでしょう。

【到達目標】

ファッションと料理の語彙や表現を発見。学生は、ファッションと料理のテーマについての会話を作ることができるようになります

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

フランスのファッションとグルメの文化についてのテキストとビデオを制作します。

Nous travaillerons sur des textes et des vidéo concernant la culture française de la mode et de la gastronomie.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーション	クラスとプログラムのプレゼンテーション
第 2 回	ファッション	Yves Saint-Laurent. 文化的、言語的知識の評価
第 3 回	料理	Les cafés célèbres de Paris、言語的知識の評価
第 4 回	ファッション	ファッションショー 有名な
第 5 回	料理	ブルゴーニュ spécialités et histoire 1
第 6 回	料理	ブルゴーニュ spécialités et histoire 2
第 7 回	料理	Les macarons - texte
第 8 回	料理	Les macarons - texte
第 9 回	料理	ロヴァンス テキストとビデオ - 2 レストランで注文をする
第 10 回	ファッション	Les parfums 1
第 11 回	ファッション	Les parfums 2
第 12 回	ファッション	17 世紀と 18 世紀のヴェルサイユのファッション La mode à Versailles aux XVIIe et XVIIIe siècles
第 13 回	復習	料理とファッションの復習
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、テキスト・演習問題の予習・復習、授業内で示される課題（レポート、演習問題）対応など、準備学習・復習・宿題等の内容を具体的に記述します。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

dictionnaire

【成績評価の方法と基準】

出席と参加 La présence et la participation en classe : 60%.

最終試験 L'examen final : 40 %

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業改善アンケートを踏まえた授業改善のための取り組みや工夫の内容を示します。

【Outline and objectives】

このクラスでは、ファッションと料理にフランス文化を発見するでしょう。あなたは、店舗やレストランでの会話を持っている基本的

